西横野東部地区遺跡群

人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡
人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡
人見向原遺跡・人見東中原遺跡
人見西中原遺跡・人見西向原遺跡
人見本村遺跡・上人見遺跡

－県営農地整備事業松義東部地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書－

＜第１分冊＞

２０１４

群馬県安中市教育委員会

口絵１

人見枝谷津遺跡Ｄ区　古代道路状遺構

人見西中原遺跡　古代道路状遺構

口絵２

東部地区古代道路

人見西中原遺跡　古代道路状遺構

人見西中原遺跡　古代道路状遺構側溝底面（Ｍ－２号溝）

人見西中原遺跡　古代道路状遺構側溝底面（Ｍ－２号溝）

人見向原遺跡Ａ区　Ｍ－１号溝

人見向原遺跡　Ｍ－１号溝土層断面（中央に浅間Ｂ軽石）

口絵４

人見向原遺跡　Ｈ－28号住居址（古墳時代中期、須恵器出土）

人見枝谷津・東向原遺跡　古墳時代石製模造品と製作関連遺物

上人見遺跡　全景（左：大桁山　右：妙義山）

上人見遺跡　弥生時代の土器・石器

口絵６

人見東中原遺跡　縄文時代弧状列石と住居址群

人見東中原遺跡　Ｊ－11号住居址（縄文時代中期）

人見東中原遺跡　縄文時代中期後半の土器群

人見枝谷津遺跡　Ｊ－８号住居址黒曜石製石器と石核・素材（縄文時代中期後半）

口絵８

人見西向原遺跡　旧石器時代　遺物出土状況

人見西向原遺跡　旧石器時代の遺物

序

安中市の南部に位置する西横野地区は、群馬県の名産であるコンニャクを中心とした畑地が広がる妙義山を正面に望む景観豊かな農業地帯にあります。本地区のある横野台地には、縄文時代から古代に至るまでの遺跡が濃密に分布する地域で知られています。

このたび、安中市と富岡市との境界をまたいだ一帯で群馬県による県営農地整備事業が松義東部・松義中部・松義西部の３地区に分かれて、平成18年度から実施されことになり、両市教育委員会では、この事業実施に先立つ発掘調査による記録保存を行うことになりました。

本書は、平成18年度から平成24年度まで安中市教育委員会が発掘調査を実施した西横野東部地区遺跡群の調査の成果をまとめたものです。

本遺跡群では、横野台地では数少ない後期旧石器時代の石器と礫群、柄鏡形住居址を含む縄文時代中期後半の集落跡、弥生時代前期の再葬墓遺跡として知られる昭和36年に発見された上人見遺跡、これまで集落の存在が知られていなかった古墳時代中期前半の集落、そして、横野台地一帯に広がる牧関連遺構を特徴付ける大溝、さらに、東山道駅路から分岐する「伝路」と推定される道路状遺構が約1.5㎞にわたって発見されました。特に道路の発見は、古代交通史をはじめ中央と地方との関係を考える上で重要な遺構として注目されています。今後、中部・西部地区を含め、広大な面積が調査対象となるため、市内はもとより県内の原始古代の解明に欠かせない遺跡を数多く発見される可能性が予想されます。

本報告が、学術分野に寄与するだけではなく、地域を学ぶ郷土資料として活用されることを願ってやみません。

最後に、調査にご協力いただいた地権者の方々、過酷な気象条件の下で発掘調査に従事していただいた方々、松義台地土地改良区をはじめとする各関係機関の皆様には感謝申し上げる次第です。

平成26年３月

安中市教育委員会
教育長　中澤　四郎

例言

1　本書は、群馬県西部県民局西部農業事務所が計画した（地域）県営農地整備事業（畑地帯担い手育成型）松義東部地区事業に伴う工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書である。なお、発掘調査成果については、年度ごとに概要報告書を６冊刊行したが、本報告の内容をもって正式報告とする。

2　本書は、本文編（第１分冊：遺構本文編、第２分冊：遺物本文、写真図版編）とデータ編（ＤＶＤ版）で構成される。データ編所収内容については、データ内の「目次」を参照されたい。

3　遺跡群の地区名は、事業名である「松義東部地区」とせず、地区名を優先して「西横野東部地区」とした。ただし、富岡市では、遺跡群名を「松義東部地区遺跡群」としている。

4　調査した遺跡の所在地は下記のとおりである。

人見東原Ⅱ遺跡（遺跡略称Ｎ－１）　安中市松井田町人見字東原　地内
人見西下原遺跡（遺跡略称Ｎ－２）　安中市松井田町人見字西下原　地内
人見枝谷津遺跡（遺跡略称Ｎ－３）　安中市松井田町人見字枝谷津・榎戸・向原　地内
人見東向原遺跡（遺跡略称Ｎ－４）　安中市松井田町人見字東向原　地内
人見向原遺跡（遺跡略称Ｎ－５）　安中市松井田町人見字向原　地内
人見東中原遺跡（遺跡略称Ｎ－７）　安中市松井田町人見字東中原　地内
人見西向原遺跡（遺跡略称Ｎ－８）　安中市松井田町人見字西向原・向原　地内
人見西中原遺跡（遺跡略称Ｎ－９）　安中市松井田町字西中原　地内
人見本村遺跡（遺跡略称Ｎ－15）　安中市松井田町字本村・西中原　地内
上人見遺跡（遺跡略称Ｎ－11）　安中市松井田町字西向原　地内

5　発掘調査及び資料整理は、西部農業事務所からの委託金と農家負担分については、国宝重要文化財等保存整備費補助金（文化庁補助金）、群馬県文化財保存整備費補助金並びに安中市費により実施した。

6　発掘調査は、平成18～24年度に実施した。

平成18年度：人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡（平成18年12月１日～平成19年３月26日）
平成19年度：人見東原Ⅱ遺跡（平成19年８月１日～10月４日）
　　人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡（平成19年12月３日～平成20年３月19日）
平成20年度：人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡（平成20年５月１日～10月14日）
　　人見枝谷津遺跡（平成20年12月１日～平成21年3月19日）
平成21年度：人見枝谷津遺跡（平成21年５月１日～９月11日）
　　人見向原遺跡・人見東中原遺跡（平成21年12月１日～平成22年３月19日）
平成22年度：人見枝谷津遺跡・人見向原遺跡・人見東中原遺跡（平成22年５月１日～９月30日）
　　人見西向原遺跡・人見西中原遺跡・上人見遺跡（平成22年11月18日～平成23年３月18日）
平成23年度：人見西向原遺跡・人見西中原遺跡・人見本村遺跡（平成23年５月16日～９月27日）
　　人見西向原遺跡（平成23年11月24日～平成24年３月19日）
平成24年度：人見西向原遺跡・上人見遺跡（平成24年４月16日～９月14日）

7　資料整理は、発掘調査と並行して平成19～25年度、報告書作成は平成24・25年度に実施した。

8　発掘調査及び資料調査は、安中市教育委員会が直営で実施し、学習の森発掘調査係（平成24年度までは文化財係）主査（文化財保護主事）井上慎也が担当し、壁　伸明（平成20年度）、同主事（文化財保護主事）菅原龍彦（平成22年度）、同主査瀧川仲男（平成23年度）が補佐した。なお、上人見遺跡は梅澤重昭氏、松澤亜生氏、道路状遺構は、木本雅康氏、川原秀夫氏、坂爪久純氏に調査指導をいただいた。

9　資料整理全般の総括は井上が行った。作業分担は以下のとおりである。

図面整理及び報告書作成、データ編集：大月圭子、町田千明、大手啓子、吉澤栄子、菅生陽子、小林美絵、田島幹子

遺物整理：井上、菅原、萩原静夫、田川真知、染谷綾子、高澤はつ江、多胡茂子、成願八千代、村井田加世子、野積一美、（株）甲セオリツ（弥生土器整理）、淺間　陽氏（弥生土器の一部）

遺物実測・観察表他（委託分）：（有）毛野考古学研究所（縄文土器、弥生土器）、（株）アルカ（縄文石器）、（株）甲セオリツ（縄文土器、弥生土器、古墳・古代土器）、（有）前橋文化財研究所（古墳・古代土器）、（株）測研（古墳・古代土器）、淺間　陽氏（弥生土器観察表）

遺物実測・観察表他：井上（旧石器～古墳石器・石製品他）、菅原（鉄製品）、壁　伸明（縄文土器観察表の校正）、田川、萩原、大手、田島、成願、多胡、高澤（縄文土器破片、古代土器等、大形石器・石製品他実測）

遺物写真撮影（委託分）：写真家小川忠博氏（縄文土器、弥生土器、石器・石製品等口絵・集合写真）、（有）前橋文化財研究所・（株）甲セオリツ・（株）測研

遺物写真撮影：井上（土器、石器等の補遺分）

写真整理：染谷、田川、大手、（株）甲セオリツ（遺構写真図版編集）

鉄製品保存処理：山梨文化財研究所（安中市費）

10　本書の編集は、井上が行った。本文の執筆は、Ⅰ～Ⅵ、Ⅶ－１、Ⅷの分担執筆以外を井上が行った。分担執筆では、高橋清文氏（(有）毛野考古学研究所）がⅦ－１（１）、淺間　陽氏（(有）毛野考古学研究所）がⅥ－２（１）とⅧ－２（１）、梅澤重昭氏がⅦ－２（３）、三浦京子氏（(株）甲セオリツ）がⅦ－３（１）とⅦ－４（１）、（株）火山灰考古学研究所がⅦ－２～４とデータ編の自然科学分析の一部、パリノ・サーヴェイ（株）がデータ編の自然科学分析の一部、建石　徹氏（文化庁）・二宮修治氏（東京学芸大学）がⅦ－５をそれぞれ行った。

11　遺構写真の撮影は、井上、菅原、瀧川が行った。遺跡の航空写真撮影及び遺構実測用デジタル撮影は、（株）テクノプラニング、スナガ環境測設（株）、（株）シン技術コンサルに委託した。遺構実測用写真撮影は、スナガ環境測設（株）、（株）大成測量に委託した。

12　基準杭測量、グリッドの設定、調査区平面図作成は（株）大成測量に委託して行った。

13　自然科学分析は、（株）火山灰考古学研究所、パリノ・サーヴェイ（株）に委託して行った。なお、黒曜石産地分析では、建石・二宮両氏に依頼した。

14　発掘調査の記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

15　発掘調査及び遺物整理の期間中に次の方々からご指導、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します（敬称略・順不同）。

永井尚寿　腰塚徳司　片野雄介　横田大輔　水田雅美　三浦京子　坂爪久純　木下雅康　川原秀夫

鈴木靖民　佐藤　信　早川　泉　武部健一　近江俊秀　小宮俊久　佐藤明人　佐々木虔一　藤森健太郎　高島英之　右島和夫　林部　均　山路直充　武藤ふみ子　黒済玉恵　苅谷俊介　永井智教　藤野一之　深澤敦仁　出浦　崇　早田　勉　日沖剛史　長井正欣　石丸敦史　淺間　陽　有山経世　宮田忠洋　宮本久子　桜岡正信　神谷佳明　坂口　一　井上昌美　笹澤泰史　外山政子　小菅将夫　勢藤　力　国武貞克　櫻井美枝　津島秀章　角田真也　梅澤重昭　松澤亜生　設楽博己　石川日出志　小林青樹　外山和夫　若狭　徹　神戸聖吾　飯島義雄　小倉淳一　高橋清文　建石　徹　二宮修治　山口逸弘　鈴木徳男　富田孝彦　洞口正史　高井佳弘　下岡順直　横尾好之　須田　茂　千葉博俊　佐野亨介　幾島　審　早川麗司　綿田弘実　福島邦男　松義台地土地改良区　富岡市教育委員会　群馬県立歴史博物館

凡　例

1　遺構の実測図は、住居址1/80・1/40（拡大図）、掘立柱建物址1/80、ピット列1/100、道路状遺構1/200（平面）・1/100（断面）、大溝1/200（平面）・1/100（断面）、溝1/250又は1/500（平面）・1/100（断面）、中世道路状遺構1/800を基本とした。なお、一部の図面については、任意のスケールとしているところがある。

2　遺構図中の北マークは座標北である。なお、座標は世界測地系を使用した。
なお、本文中で使用した地図は国土地理院発行の地形図「富岡」（1/50000）、旧松井田町都市計画地図（1/5000）、西部農業事務所作成の工事用図面（1/5000）である。

3　遺物実測図の縮尺は次のとおりである。
土器：１／４（●は還元焔の須恵器、甕内外のトーンは煤等付着範囲を示す）、１／３（弥生土器）
土製品：１／２旧石器：２／３　小形石器：１／１、１／２、２／３　中・大形石器：１／４、１／６、１／８古墳石製品・石製模造品：１／１、１／２　鉄製品：１／２、１／３　玉類：１／１

4　土層説明中での記号、略称は次のとおりである。
土層名称及び量の基準：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）による。
色調＜：より明るい方向を示す（暗＜明）
しまり、粘性　◎：あり　○：ややあり　△：あまりない　×：なし
混入物の量　◎：大量（30～50％）　○：多量（15～25％）　△：少量（５～10％）
※：若干（１～３％）
混入物　ＲＰ：ローム粒子（溶け込んだ状態）　ＲＢ：ロームブロック（固まりの状態）
ＹＰ：板鼻黄色軽石（Ａｓ－ＹＰ）

5　本文・図面で示す火山灰の名称は、以下の記号を用いた。
浅間Ａ軽石＝Ａｓ－Ａ　浅間Ｂ軽石＝Ａｓ－Ｂ　浅間Ｃ軽石＝Ａｓ－Ｃ

6　遺構略称
Ｊ：縄文住居、Ｙ：弥生住居、Ｈ：古墳・古代住居、Ｄ：土坑、Ｓ：集石・配石、Ｍ：溝、Ｐ：ピット、Ｔ：竪穴状遺構、ＨＴ：掘立柱建物、ＵＳ：湧水、Ｋ：古墳　ＫＭ：炭焼窯

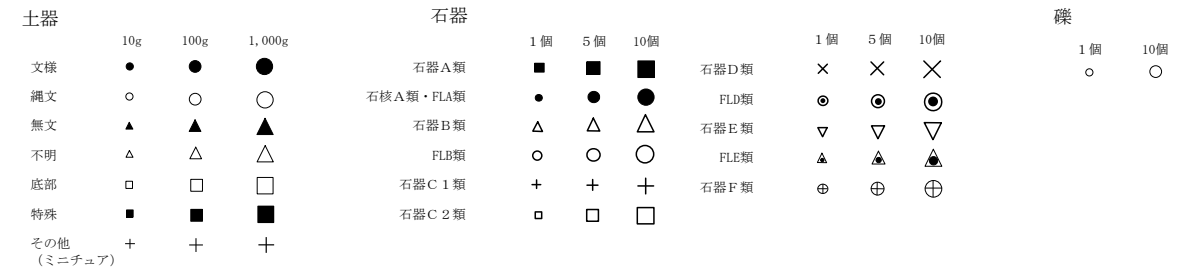
7　遺物写真については▲が市教委、●が小川氏、無印が（株）甲セオリツ、（株）測研として撮影者

を区別した。写真の大きさは任意である。

8　遺構主軸は、住居址の長辺方向を基本としたが、竈、炉の位置によって短辺方向としたものもある。また、主軸方位は北を基準として、住居の方向を示した。

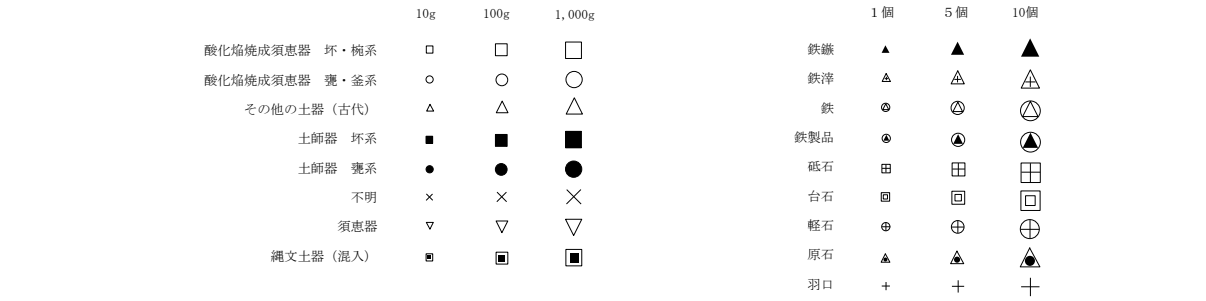
9　遺構の遺物重量分布及び遺物分布図マーク

遺物重量分布及び遺物分布図マーク



遺物重量分布及び遺物分布図マーク

遺物重量分布及び遺物分布図マーク



10　時代・時期区分

旧石器時代：群馬の旧石器編年Ⅰ～Ⅴ期の５期区分（小菅2003・2004、関口2010他）

縄文時代：集落、遺構等の時期として前半・後半に大別し、土器型式では、前葉、中葉、後葉に３細分し、両時期区分を併用した。

弥生時代：Ⅰ期からⅤ期の５期区分を使用した（若狭1999他）。前期末（Ⅰ期）、中期前葉（Ⅱ期）中期中葉（Ⅲ期）、中期後半（Ⅳ期）、後期（Ⅴ期）とした。

古墳時代：時期区分は、出土土器の分析によって土器編年に対比させてⅠ期（４世紀後半）、Ⅱ期（５世紀第１四半期）、Ⅲ期（５世紀第２四半期）、Ⅳ期（第３四半期）に区分した。時期が判断つかない場合は前半、後半とした。

奈良・平安時代：両時代を一括する場合、または、遺構時期が判然とせず、時間に幅をもたせる場合は、「古代」の用語を使用した。時期区分は、出土土器の分析によって土器編年に対比させてⅠ・Ⅱ期（８世紀前半）、Ⅲ・Ⅳ期（９世紀前半）、Ⅴ期（10世紀後半～11世紀初頭）に区分した。

目　次

＜第 1 分冊＞

口絵
序
例言
凡例
目次

Ⅰ　調査の経緯…… 1
　1．調査に至る経緯…… 1
　2．調査の経過…… 1

Ⅱ　調査の方法…… 4
　1．調査の方針…… 4
　2．発掘調査の方法…… 4
　3．資料整理の方法…… 14

Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境…… 20
　1．地理的環境…… 20
　2．歴史的環境…… 21
　3．層序…… 24

Ⅳ　遺跡群の概要…… 25

Ⅴ　遺構の調査…… 27
　1．人見東原Ⅱ遺跡…… 27
　　⑴　概要…… 27
　　⑵　縄文時代の遺構…… 27
　　⑶　その他の遺構…… 28
　2．人見西下原遺跡…… 50
　　⑴　概要…… 50
　　⑵　縄文時代の遺構…… 50
　3．人見枝谷津遺跡…… 56
　　⑴　概要…… 56
　　⑵　縄文時代の遺構…… 61
　　⑶　古墳時代の遺構…… 79
　　⑷　古代の遺構…… 184
　　⑸　中世の遺構…… 187
　4．人見東向原遺跡…… 212
　　⑴　概要…… 212
　　⑵　縄文時代の遺構…… 212
　　⑶　古墳時代の遺構…… 215
　　⑷　古代の遺構…… 216
　　⑸　Ｂ区の調査…… 217
　5．人見向原遺跡…… 258
　　⑴　概要…… 258
　　⑵　縄文時代の遺構…… 258
　　⑶　古墳時代の遺構…… 262
　　⑷　古代の遺構…… 263
　6．人見東中原遺跡…… 298
　　⑴　概要…… 298
　　⑵　縄文時代の遺構…… 298
　　⑶　古代の遺構…… 301
　7．人見西中原遺跡…… 337
　　⑴　概要…… 337
　　⑵　縄文時代の遺構…… 340
　　⑶　弥生時代の遺構…… 349
　　⑷　古墳時代の遺構…… 349
　　⑸　古代の遺構…… 361
　8．人見西向原遺跡…… 365
　　⑴　概要…… 365
　　⑵　旧石器時代の遺構…… 366
　　⑶　縄文時代の遺構…… 380
　　⑷　古墳時代の遺構…… 380
　　⑸　古代の遺構…… 382
　　⑹　中世の遺構…… 382
　9．人見本村遺跡…… 393
　　⑴　概要…… 393

⑵　古墳時代の遺構……393
⑶　古代の遺構……395
⑷　中世の遺構……395
10．上人見遺跡……402
⑴　概要……402
⑵　縄文時代の遺構……406
⑶　弥生時代の遺構……406
⑷　古墳時代の遺構……426
⑸　古代の遺構……431
11．道路状遺構……433
⑴　平成 20 年度調査地点…… 433
⑵　平成 21 年度調査地点…… 433
⑶　平成 22 年度調査地点…… 434
⑷　平成 22・23 年度調査地点…… 434
⑸　Ｍ－１・２号溝……435
12．古代大溝……470
⑴　平成 21 年度調査地点…… 470
⑵　平成 22 年度調査地点…… 470
⑶　平成 23 年度調査地点…… 471
⑷　富岡市調査区……471
⑸　Ｍ－１号溝……472
13．各遺構観察表……497

＜第２分冊＞

Ⅵ　出土遺物……521
１．旧石器時代の遺物……521
２．縄文時代の遺物……529
⑴　縄文土器……529
⑵　縄文土製品……530
⑶　縄文石器……578
３．弥生時代の遺物……632
⑴　弥生土器……632
⑵　弥生土製品……645
⑶　弥生石器……646
４．古墳時代の遺物……657
⑴　土師器・須恵器……657
⑵　古墳土製品……657
⑶　石製品・石製模造品・石器類……727
⑷　鉄製品……763
⑸　玉類……763
５．古代の遺物……767
⑴　土師器・須恵器……767
⑵　その他の遺物……767
６．中世の遺物……767
７．遺物観察表……779

Ⅶ　自然科学分析……847
１．分析の概要……847
２．人見向原遺跡のローム層分析……849
３．人見西向原遺跡のローム層分析……854
４．人見西向原遺跡の植物珪酸体分析……860
５．黒曜石産地分析……864

Ⅷ　成果と問題点……867
１．縄文時代の成果と問題点……867
⑴　中期後葉の土器群について……867
⑵　中期後半の集落について……873
２．弥生時代の成果と問題点……874
⑴　前期末～中期前半の土器群について…874
⑵　上人見遺跡の遺構について……877
⑶　上人見遺跡について……879
３．古墳時代の成果と問題点……881
⑴　中期の土器について……881
⑵　中期集落の分布について……892
４．古代の成果と問題点……895
⑴　古代の土器について……895
⑵　道路・牧・集落について……899

写真図版　図版１～24
抄録

＜データ編（添付ＤＶＤ）＞

Ⅰ　調査の経緯

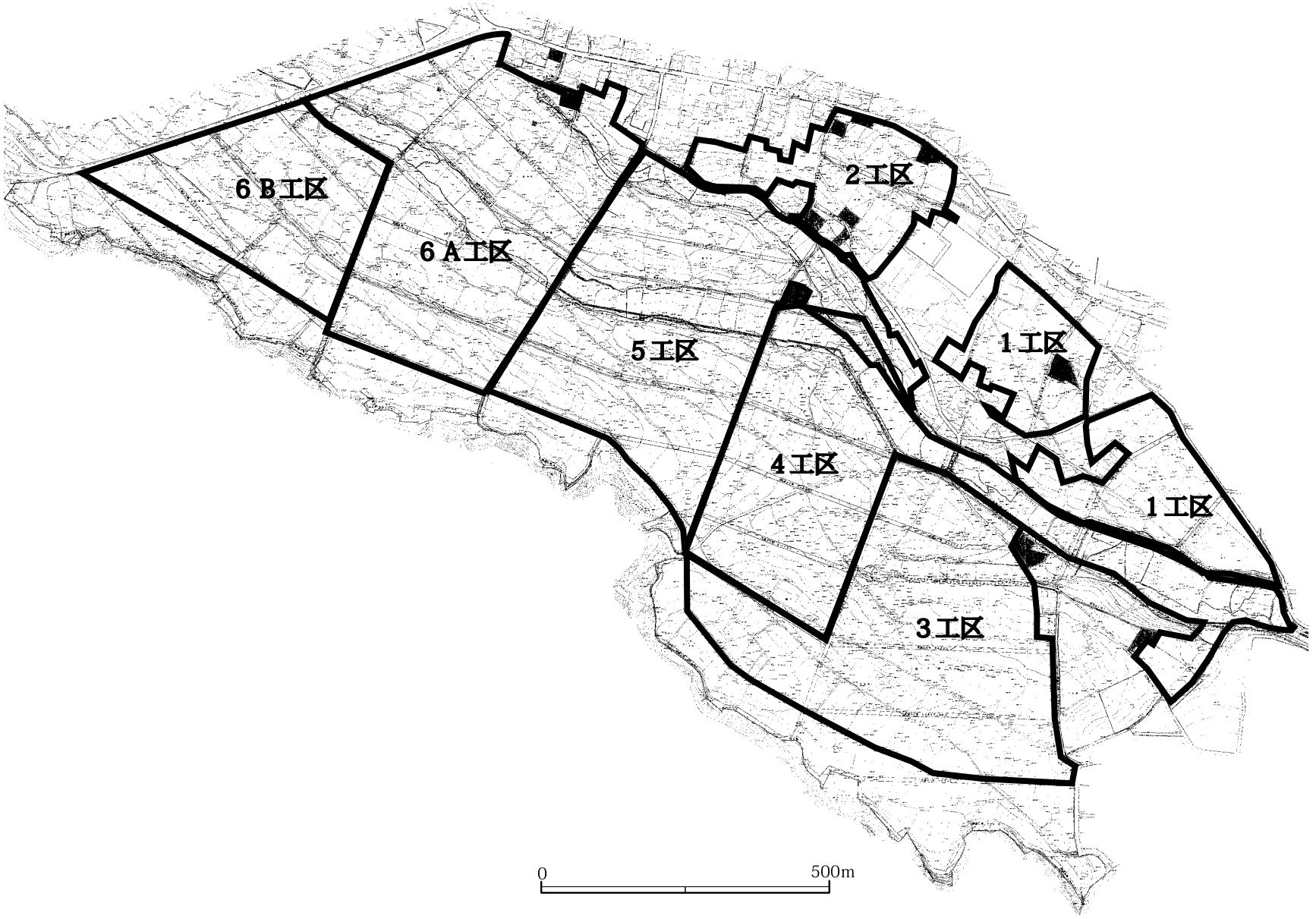
1　調査に至る経緯

安中市松井田町人見及び富岡市妙義町にまたがる西横野地区及び高田地区の一部で計画された県営農地整備事業は、「松義台地」を対象とした総事業面積250ｈａ以上に及ぶ大規模土地改良事業である。本事業は、東部（中野谷地区との境から東で県道まで）・中部（東部との境界から高速道路を超えて県道まで）・西部（中部との境界から妙義山麓まで）の３地区に分けて実施することになり、平成17年度から東部地区対象地域（約100 ha）における埋蔵文化財の取り扱いについて、事業主体である群馬県西部県民局西部農業事務所と安中市及び富岡市の文化財担当部局と協議を重ねてきた。協議の結果、事業区域における埋蔵文化財は、事前の分布調査及び発掘調査の成果によって遺跡が多数存在すると予想された地域であったが、事業計画の変更が不可能であることから、工事によって遺跡への影響が避けられない場所を中心とした記録保存の措置を講ずることになった。なお、発掘調査の対応については、対象面積が広く、両市とも調査体制が万全でない状況であったため、群馬県教育委員会との協議を行ったが、両市の文化財担当部局が対応して工事前までに発掘調査を完了させることになった。こうした状況に対処するため、調査期間を十分に確保する必要性から、地権者の協力のもと工区ごとに対象区域全域を１年間休耕してもらい、工事実施の前年度に予備調査と一部本調査、工事年度に本調査を行うことで西部農業事務所と合意に至った。埋蔵文化財の調査については、西部農業事務所から委託を受け、両市が直営で実施することになった。なお、両市の境界付近にある遺跡については、遺構・遺物の分布状況に応じて両市協議の上、調査の範囲、対応を決定することになった。また、事業に用いる遺跡名称については、工事事業名に「松義台地地区」とあるが、安中市では「西横野地区」に該当するするため、各地区を付して「西横野東部地区遺跡群」と一括し、調査地点毎に遺跡名を付けることにした。

埋蔵文化財の調査計画は、当初、７カ年の予定であったが平成22年度に事業変更があり、発掘調査が７年（平成18年度後半～平成24年度前半）、資料整理が発掘調査・報告書作成と並行して７年（平成19年度～平成25年度）、報告書作成が発掘調査終了後１年（平成25年度）の８カ年となった。調査については、単年度毎に安中市長と西部農業事務所長との間で委託契約を締結し、調査費の農家負担分（５％）については、文化庁の国庫補助事業とした。発掘通知（文化財保護法第94条関係）については、西部農業事務所から工区毎で工事着手前年度に提出してもらい、群馬県教育委員会へ進達し、「発掘調査」の指示を受けた（各年度の調査経緯については、『西横野地区遺跡群発掘調査概報』１～６を参照）。

2　調査の経過

本事業に係わる工区割り及び経過は、第１図、第１表の通りである。発掘調査は、次年度工区範囲に対して、農作物の収穫を待って順次、トレンチによる予備調査を11～12月頃から開始し、翌年の３月まで一部本調査までを行った。工事年度は、受託契約締結後、５月頃から９月までを予定として本調査を行った。こうして、調査対象となる地域では、年度をまたいで前半と後半の２回にわたって発掘調査を行ってきた。なお、調査期間及び調査範囲の変更は、工事計画の状況に応じて適宜、事業者あるいは工事関係者と調査と並行して調整を行った。平成18年度は、事業の初年度であることから、事務調整がやや遅れ、12月からの開始となった。人見東原Ⅱ遺跡、人見西下原遺跡のそれぞれで縄文時代中期



第１図　工区位置図

後半の集落を調査した。平成19年度は、前半に人見東原Ⅱ遺跡の未調査部分の本調査、後半に人見枝谷津遺跡、人見東向原遺跡を対象とした予備調査と古墳時代中期の集落等を調査した。平成20年度は、前半に人見枝谷津遺跡、人見東向原遺跡の未調査部分と縄文時代中期後半、古代道路の本調査、後半に人見枝谷津遺跡を対象とした予備調査と古代溝群等を調査した。平成21年度は、前半に人見枝谷津遺跡の未調査部分と縄文時代中期後半の集落、古代道路の本調査、後半に人見向原遺跡、人見東中原遺跡の予備調査と区画溝（大溝）を調査した。平成22年度は、前半に人見向原遺跡の古墳、人見東中原遺跡の縄文時代の集落と古代道路、人見枝谷津遺跡の古代道路の本調査、後半に人見西向原遺跡、人見西中原遺跡、上人見遺跡の予備調査と区画溝（大溝）を調査した。平成23年度は、前半に人見西中原遺跡の古墳時代中期の集落、人見西中原遺跡の縄文時代中期の集落と古代道路及び溝群、人見本村遺跡の古墳時代・古代の集落等の本調査、後半に人見西向原遺跡の予備調査と区画溝（大溝）を調査した。平成24年度は、人見西向原遺跡の旧石器時代遺物包含層、上人見遺跡の弥生時代前期末～中期初頭の土坑群の本調査を行った（第２～６図）。

資料整理は、平成19年度から開始し、各年度、契約締結後から翌年の３月まで行った。膨大な出土遺物と図面、写真が見込まれたため、一定の方針の下に時代、遺構・遺物の種類に応じて計画を立て、遺構・遺物量及び難易度に応じて一部委託を併用して整理を行った。また、古代については先行して整理を行い、重要遺跡または遺構と合わせて概報としてまとめた。報告書作成は、資料整理と並行して行い、平成24・25年度の２カ年計画で刊行した。

第１表　調査工程表

年度	工区	調査遺跡	調査面積（㎡）	発掘調査期間	調査内容	整理期間	報告
18	1･2	人見東原Ⅱ	2,000	H18.12.1 ～ H19.3.26	確認、A・B区本調査	－	概報１
	1･2	人見西下原	4,300		確認、A～C区本調査		概報１
19	1･2	人見東原Ⅱ	2,000	H19.8.1 ～ 10.4	C区本調査	H19.4.1 ～ H20.3.31	概報１
	3	人見枝谷津	5,000	H19.12.3 ～ H20.3.19	確認、A区本調査		概報２
	3	人見東向原	3,000		確認、A区本調査		概報２
20	3	人見枝谷津	17,000	H20.5.1 ～ 10.14	A・B区本調査	H20.4.1 ～ H21.3.31	概報２
	3	人見東向原	20,000		A・B区本調査		概報２
	4	人見枝谷津	3,000	H20.12.3 ～ H21.3.19	確認、C区本調査		概報３
21	4	人見枝谷津	20,000	H21.5.1 ～ 9.11	C・D区本調査	H21.4.1 ～ H22.3.31	概報３
	5	人見枝谷津	0	H21.12.1 ～ H22.3.19	次年度本調査		概報４
	5	人見向原	3,000		確認、A区本調査		概報４
	5	人見東中原	1,000		確認、A区本調査		概報４
22	5	人見枝谷津	4,500	H22.5.1 ～ 9.30	E区本調査	H22.4.1 ～ H23.3.31	概報４
	5	人見向原	15,600		A・B区本調査		概報４
	5	人見東中原	17,000		A～C区本調査		概報４
	6A	人見西向原	6,000	H22.11.18 ～ H23.3.18	確認、A・C区本調査		概報５
	6A	人見西中原	3,000		確認、A区本調査		概報５
	6A	人見本村	0		次年度確認・本調査		概報５
	6B	上人見	1,000		道路部分先行調査		概報５
23	6A	人見西向原	9,000	H23.5.16 ～ 9.27	A・D区本調査	H23.4.1 ～ H24.3.19	概報５
	6A	人見西中原	21,000		A～C区本調査		概報５
	6A	人見本村	1,600		A・B区本調査		概報５
	6B	人見西向原	5,000	H23.11.24 ～ H24.3.13	確認、B・E区本調査		概報６
	6B	上人見	0		次年度本調査		概報６
24	6B	人見西向原	3,000	H24.4.24 ～ 9.14	E区・旧石器本調査	H24.4.16 ～ H25.3.19	概報６
	6B	上人見	10,000		確認、本調査		概報６
25		10遺跡	177,000	－	報告書作成	H25.4.15 ～ H26.3.20	本報告

注：調査面積には、トレンチ部分を含む

Ⅱ　調査の方法

1　調査の方針

西横野地区は、事業実施前の分布調査及び周辺における発掘調査の成果等によって、遺跡が濃密に分布する遺跡群であることが判明していた。そこで、広大な工事区域を対象とした発掘調査を継続的に調査することが予想されたため、遺跡間で齟齬が生じないよう、一定の調査基準を設定する必要があった。

本遺跡群の発掘調査は、全遺跡を安中市の調査方法で統一した（市刊行の報告書参照）。

発見された遺跡については、「人見○○遺跡」として大字小字を並記した。また、同一遺構（大溝と道路状遺構等）、遺構・集落が遺跡内では完結せず、遺跡間にまたがることもあるため、本遺跡群の遺跡名の扱いは、調査場所を指す「調査区」に近い意味を持たせた。

発掘調査は、面的調査とトレンチ調査を併用して可能な限り遺跡全体を把握する方針をとった。この方針を達成するため、調査方法の効率化を図った。これにより、本遺跡群の特徴となった広範囲で確認された古代道路・古代牧に関連する大溝等の施設を中心として、上人見遺跡の弥生時代遺構、各時代の集落等の全体を明らかにすることができた。

2　発掘調査の方法

（1）調査の基本的な流れ

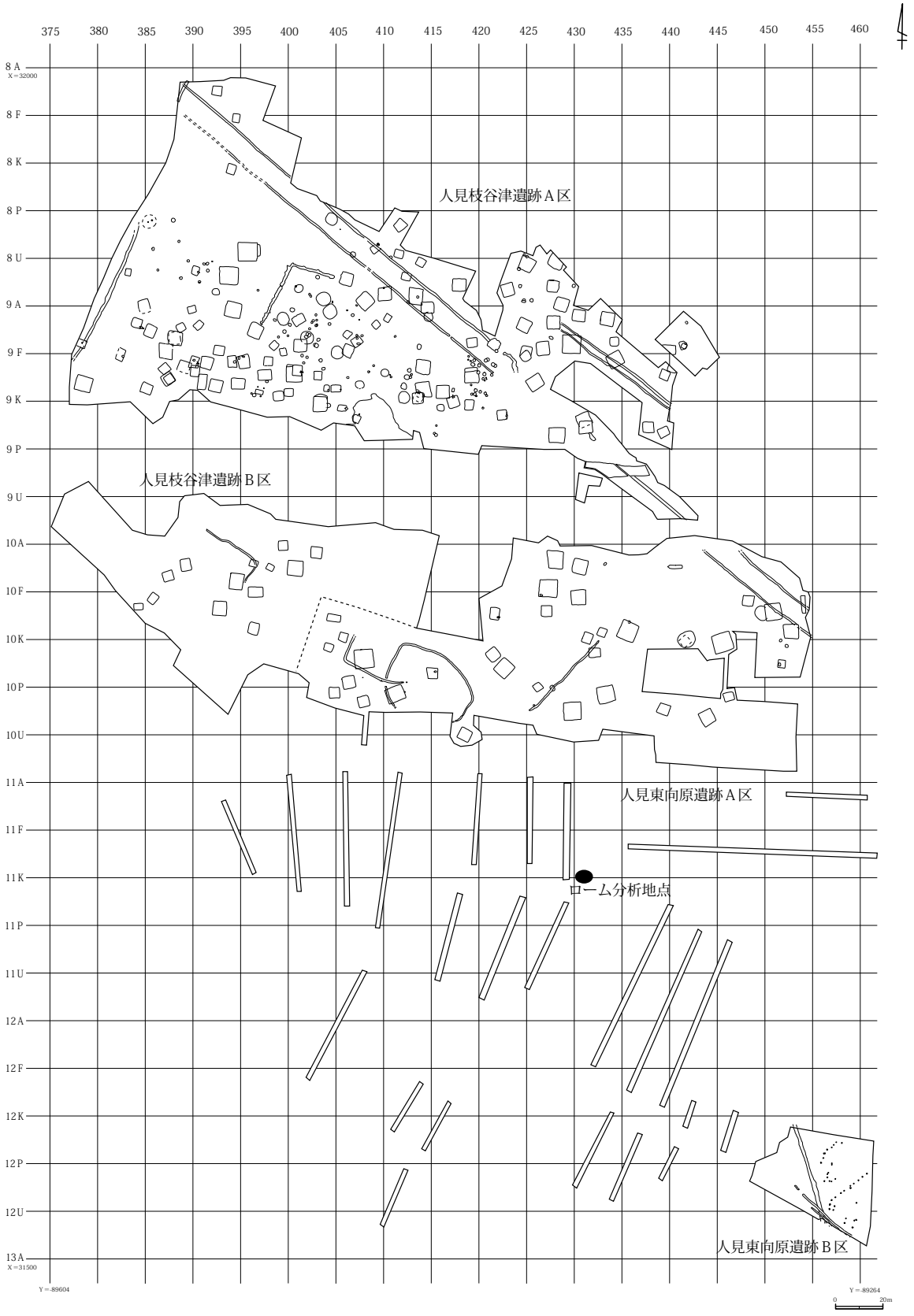
発掘調査は、道路・水路等の構造物、造成による削平といった工事によって遺跡への影響が被る部分を中心にトレンチ調査を実施し、遺跡の範囲及び状況に応じて可能な限り本調査の範囲を拡大して遺跡全体の把握に努めた調査を実施する方針をとった。

発掘調査は各年度とも、調査対象区域にトレンチを設定し、遺跡の有無と遺跡の広がりを確認した。調査区を確定した後、バックホー（0.6m3及び0.7m3）で遺構確認面（Ⅲ層下部からⅣ層上面）まで掘削し、人力でジョレンを用いて遺構確認を行った。遺構番号は、各遺跡で遺構毎に通し番号を付けた。なお、遺跡間を超えて分布がまとまる遺構群（住居、溝等）は、遺跡に関係なく同一番号または通し番号とした。

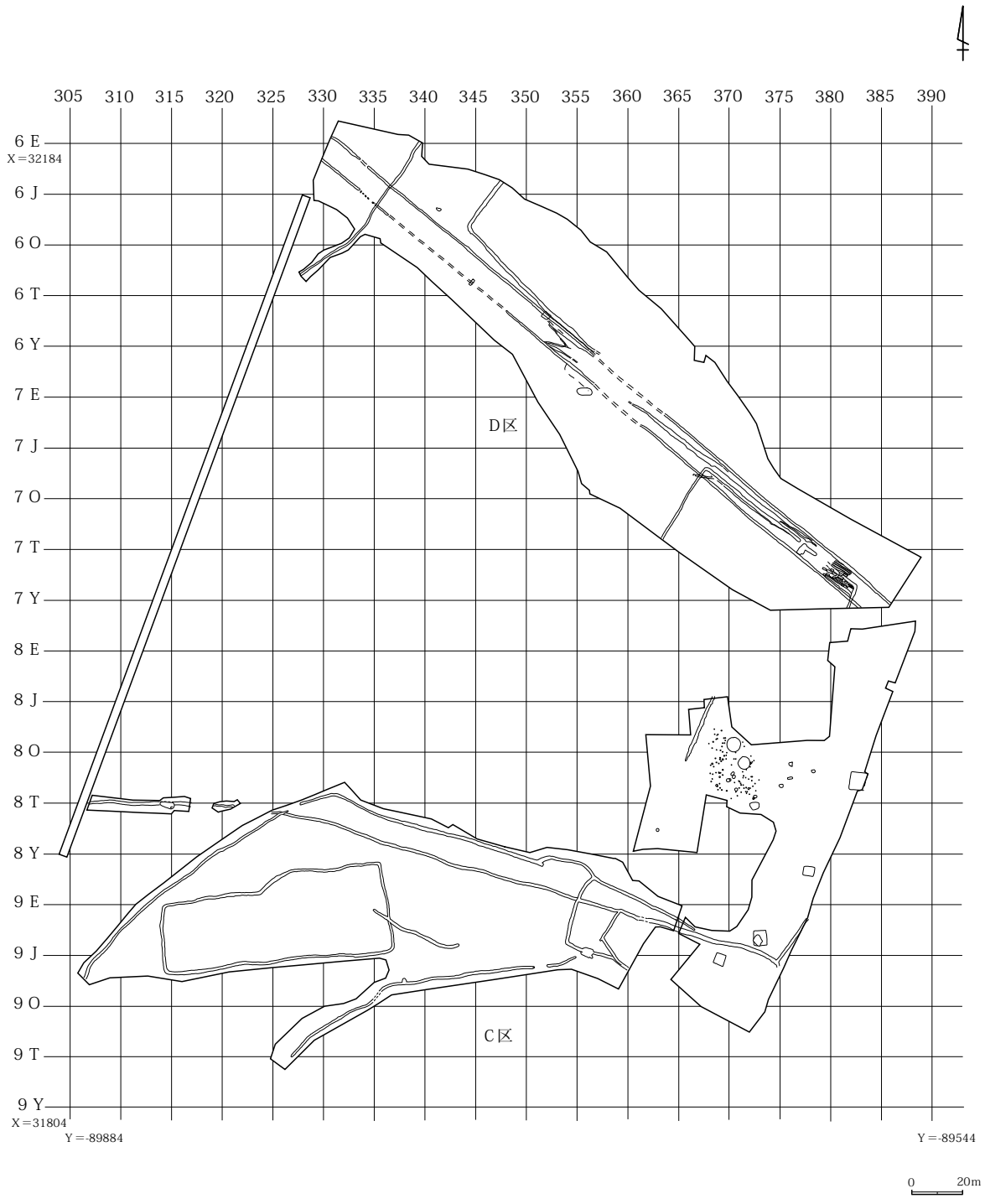
検出された遺構については、遺構毎に遺構略称と番号を付け、遺構の内容に応じた精査・「ビニール転写法」を用いて土層堆積図及び微細図作成を行った。土層断面状況及び完掘した遺構は、リバーサルフィルム、白黒フィルム（各35 mm）で写真撮影を行った。遺構の測量は、遺構精査終了後、無線操縦ヘリコプターで遺跡の全景写真と遺構測量用のデジタル撮影を行い、遺構実測用に出力した画像をもとに現地で遺構図を作成し、遺構の高さを記録した。

グリッドについては、事業区域全域に対して100m×100mの大グリッドと４m×４m小グリッドを併用して設定した。グリッドの呼称は、北西隅を座標値とすることとし、北から南へアルファベットでＡ、Ｂ、Ｃ・・・Ｙ（100mでアルファベットが一巡する）、西から東へ算用数字で１、２、３・・・と４m進法で呼ぶことにした。これらの座標値には国家座標（世界測地系）に取り付けた。

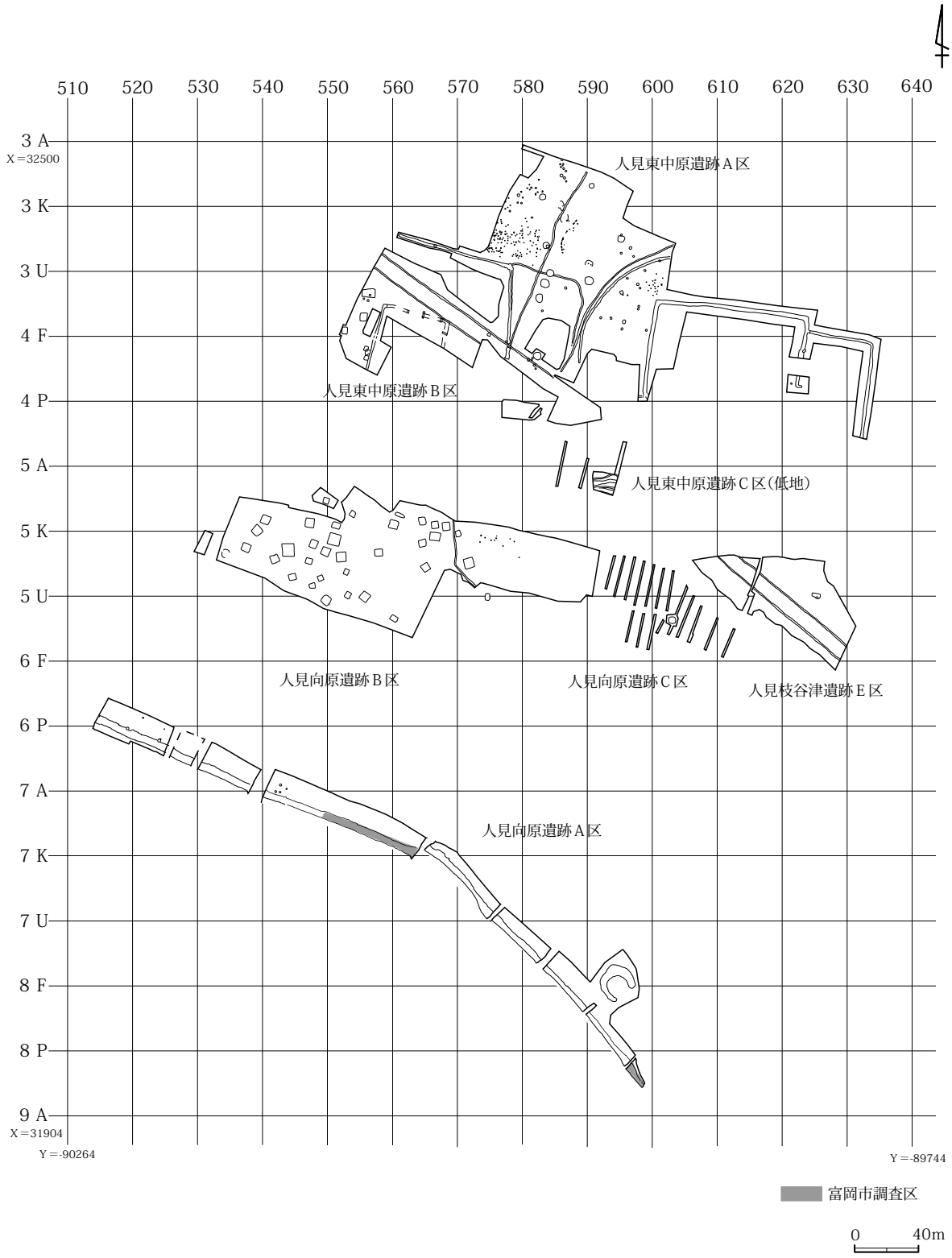
なお、グリッドの呼称については、各年度南北方向は共通するが、東西方向は平成21年度の人見向



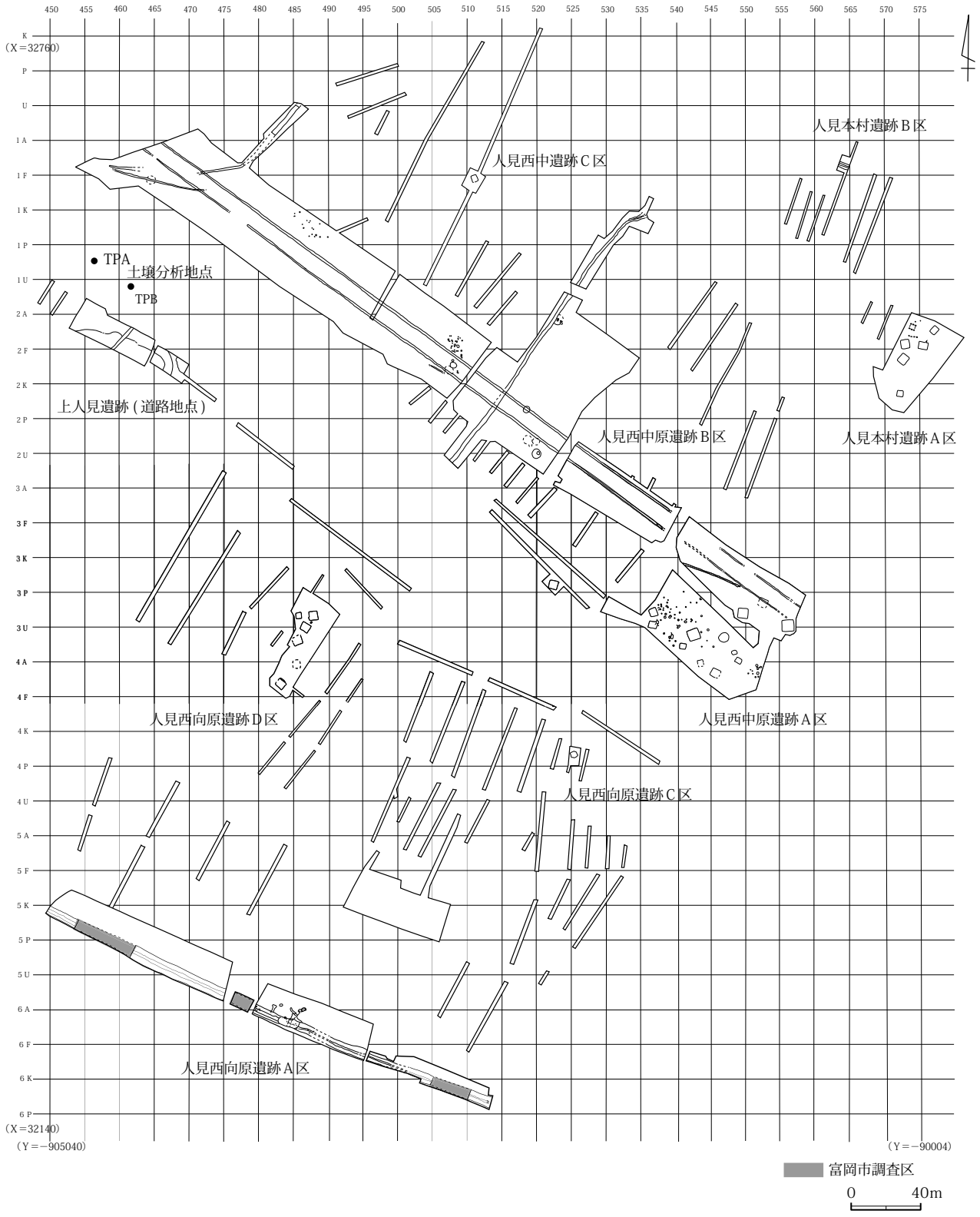
第２図　平成19・20年度調査区全体図（人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡）



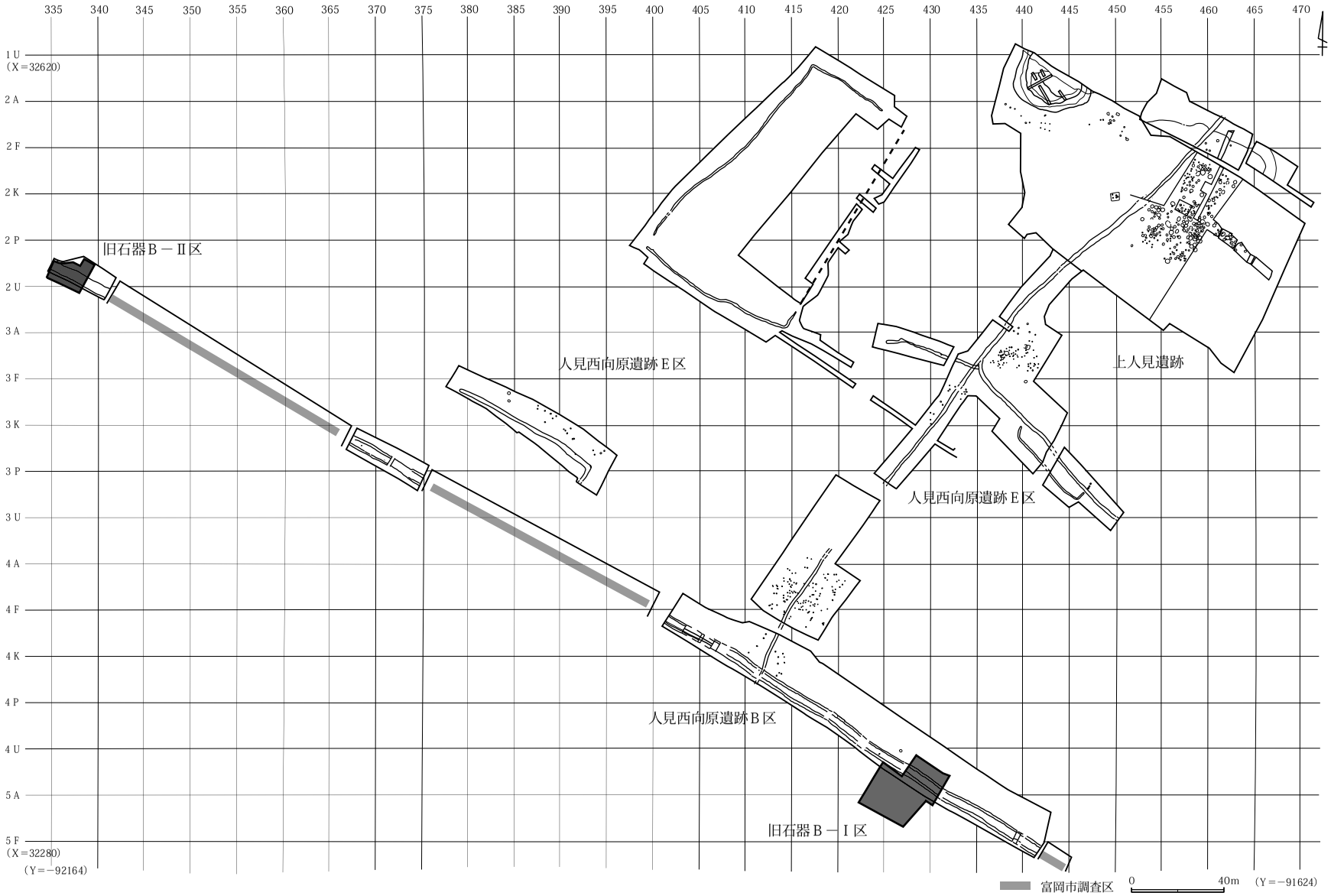
第３図　平成20・21年度調査区全体図（人見枝谷津遺跡）



第４図　平成21・22年度調査区全体図（人見向原遺跡・人見東中原遺跡）



第５図　平成22・23年度調査区全体図（人見西向原遺跡・人見西中原遺跡・人見本村遺跡）



第６図　平成23・24年度調査区全体図（人見西向原遺跡・上人見遺跡）

原遺跡の調査以降、調査の都合で新たに300を足した名称で付け直している。そのため、遺跡によってはグリッド名称が同一となっている場合もあるが、現地調査での名称を優先させているため、報告では、あえて呼称の修正はしていない。

区画溝については、調査区が細長く、遺構が座標に対して斜めであるため、通常のグリッド設定が困難であるため、溝の方向にメッシュを組み、南北方向に３点（溝両側と底面でＡ・Ｂ・Ｃ、間隔は４ｍ）、東西方向に溝と並行させた基準点（算用数字）を設定した。人見向原遺跡では、調査区西を起点として東へ16m毎に１区から23区とした。しかし、区画溝の調査が東から西へとなることが明らかとなったため、グリッドを見直し、基準点及び調査区の名称を東から西へと変更した。人見西向原遺跡では、調査区東を起点として西へ20m毎に１区から45区とした。

（２）遺構調査の方法

住居址の調査

住居址の調査は、安中市で採用している「分層16分割法」を採用した。住居の時期に関係なく、範囲確認後、住居の南北方向に幅50㎝のサブトレンチを設定し、土層の堆積状況及び深さを確認しながら床面、壁面の検出を行った。サブトレンチ調査によって範囲が確定した後、東西南北の幅20㎝のベルト、16分割ポイントの設定を行った。セクションポイントは「赤」、分割ポイントは「黄」の各標識ポイントを使用した。土層断面は、常に陰となるように北面、西日が当たらないよう東面とした。住居址の掘削は、土層の厚さを基準（概ね１～３層に分層）にして、上層から全体を下層及び床面付近の遺物は残して床面まで掘り下げた。上層遺物については、層と区を記録して取り上げ、下層遺物とは区別した。下層の遺物及びベルトとして残した土層堆積（セクション）状況については、写真撮影後、区毎に記録して遺物の取り上げた。土層については、農業用ビニールを使用して原寸大で記録する「ビニール転写法」で行った。その後、層位毎にベルトを崩し、床面を精査し、柱穴、貯蔵穴等のピット及び土坑、周溝、炉といった住居付帯遺構の確認作業を行った。検出された遺構（炉、竈、貯蔵穴等）については、半裁（半分にして東側あるいは北側を掘削）により土層堆積を確認して、遺物を残して精査、写真撮影を基本とした。遺物は層位毎16分割で記録して取り上げ、遺構と関連のある遺物（埋設土器、土坑内、台石・礫等）または重要遺物等については、平面図に位置を記録して取り上げた。柱穴については、底面まで完掘した。竈については、残存部まで掘り下げ、半裁して精査した。各遺構の土層断面及び遺構・遺物微細図については、その都度、デジタルカメラで垂直撮影あるいは「ビニール転写法」を用いて記録した。床面精査、完掘後、全体写真及び各遺構の写真撮影を行った。縄文時代の住居址は「Ｊ」、弥生時代の住居址は「Ｙ」、古墳時代～古代の住居址は「Ｈ」とし、遺構毎に通し番号を付けた。住居内の遺構は、遺構名、番号を付けた。ピットの番号は、遺物出土がある場合に限って番号を付けた。

道路状遺構の調査

今回の事業区域内には、人見大谷津遺跡で発見された道路状遺構が存在すると予想されていたため、遺構の延長線上となる地域に対してトレンチ調査を実施し、発見された場合は、可能な限り調査範囲を拡大する方針をとった。平成19年度の予備調査では、遺構の確認はできなかったが、平成20年度の人

見枝谷津遺跡の調査で、道路状遺構と推定される２本が並行する溝を確認した。発掘調査は、並行する２本の溝に対して土層観察用及び調査区設定用のベルトを設定し、精査範囲を割り当てながら、東から西へ向かって２本を同時に調査した。基本的調査は、溝の精査に準じている。人見西中原遺跡では、表土の堆積が厚く、一部の範囲で浅間Ｂ軽石に覆われていたため、Ⅲ層での遺構確認が可能な場所については、ジョレンによる道路内外の遺構確認、精査を行った。人見枝谷津遺跡及び人見東中原遺跡での低地部分については、トレンチ調査を実施し、低地での遺構の有無を確認した。なお、道路覆土について埋没時の植生を把握するため、プラント・オパール分析を行った。遺構名については、２本の側溝で構成される道路状遺構とした。側溝については、遺構の性格により、それぞれＭ－１号溝（北側側溝）、Ｍ－２号溝（南側側溝）として遺跡群を通じて統一番号とした。

大溝の調査

大溝については、安中市と富岡市の境界に沿って東から西へと延びていることが予想されたため、年度ごとに対象となる範囲を両市の調査状況によって溝調査区の割り当てをおこなった。なお、東向原地区・榎戸調査で確認された大溝は、安中市での対応が困難であるため、富岡市が調査を担当した（下高田原上原遺跡）。また、両市で調査を担当したため、若干の調査方法、土層区分に差異が生じたが、極力、現地において各担当者の意見を尊重しつつ、共通認識を計ることに努めた。発掘調査は、バックホーにより表土を掘削し、Ⅲ層下部からⅣ層上面あるいは浅間Ｂ軽石が検出されたところを遺構確認面として、溝の方向に沿って調査範囲を拡大していった。作業員による遺構確認後、溝調査区を設定し、サブトレンチによって溝の範囲及び底面までを把握する精査を行った。溝の範囲が確認したところで、再度、バックホーにより溝内に堆積する浅間Ｂ軽石層までを掘削した。ただし、作業の進捗状況、時間的制約によって、バックホーを使用して溝確認と溝内の浅間Ｂ軽石層掘削を同時並行におこなった場所もある。精査は、断面形状・土層に従ってスコップで底面付近まで掘削し、後を追うようにして移植ゴテ等で溝の形状あるいはピットを精査した。出土した遺物は、出土位置を記録して取り上げた。土層断面図は、「ビニール転写法」を用いた。人見西向原遺跡では、溝方向の土層堆積を堆積するための断面図を作成した。なお、大溝の遺構番号については、各遺跡共通番号として「Ｍ－１号溝」とした。

竪穴状遺構、土坑、集石、溝、埋設土器、その他遺構の調査

竪穴状遺構は、大形の土坑で炉のない遺構とした。竪穴住居址との区別が判然としない遺構も含めた。調査は、２分割あるいは４分割し、土層観察用のベルトを残しながら掘り下げた。土坑は、掘り込みのある遺構で、大きさ50㎝を目安とした（50㎝以下はピット）。名称は、特定の機能を示さないで用いる「土坑」の用語で統一した。土坑は、半裁して北側もしくは東側を精査し、土層断面図を作成した後、残りを完掘した。遺物は出土状況によって覆土一括で取り上げた遺物とそのままの状態にして残す遺物に分けた。集石は、礫の出土状況と掘り込み（掘方）の有無を確認しながら精査した。集石は、「ビニール転写法」によって微細図を作成し、構成される礫については、礫番号を付すものと一括して取り上げるものと分け、石材、重量、破損、被熱等の属性を台帳に記録した。溝は、任意（小規模）または調査区単位で土層観察表のベルトを設定し、精査した。埋設土器は、地面に土器が埋め込まれた遺構とし、縄文時代の「埋甕」を含む。半裁して土器の内側を精査し、外側の掘方、土坑の有無を確認した。平面・断面図ともに「ビニール転写法」を用いた。

その他、性格不明の遺構が検出された場合、範囲確認後、半裁して遺構の状況を精査して、完掘する方法を採った。

古墳の調査

人見向原遺跡では、古墳１基が調査対象となった。この古墳は、旧松井田町との境界にある「下高田原５号墳」として旧妙義町の遺跡台帳に記載されていた。確認調査の結果、現況の遺構は、単に石室石材を寄せたものであり、古墳ではないことが判明した。実際の古墳は、現地点から北へ約20ｍの畑のところに位置し、地表下で確認された（人見向原遺跡Ｋ－１号古墳）。発掘調査は、表土を掘削後、作業員による遺構範囲確認を行い、石室主軸方向を基準に十字のサブトレンチを設定し、分層しながら地山（Ⅳ層下部～Ⅴ層上部）まで掘り下げた。周溝からは大形礫が多数出土したため、現位置のままとした。石室は予想以上に撹乱されていたため、残存部のみを残すことにして、原位置を遊離した礫は全て取り上げることにした。石室実測図は、現況測量のみとして、必要に応じて断面図を復元できるよう、高さを記録した。周溝底面は、掘方上面と掘方の二回に分けて掘り下げた。石室及び周溝内の遺物については、空撮による真上写真を使用して、番号を付け、出土位置、高さを記録した。

旧石器時代の調査

平成23年度の後半の調査で、人見西向原遺跡において大溝（Ｍ－１号溝）の精査中に、ローム層掘り込みの底面から礫の露出が認められた。調査時期が冬場であり土層の状態が良くないため、一端精査は中断して、再度、平成24年度に確認調査を行うことにした。確認調査は、遺物の分布範囲を予想して調査区を設定し、礫検出場所を中心にバックホーにより、ＹＰ層（Ⅵ層）を除去、遺物が検出されたⅦ層上面まで掘削した。Ⅶ層上面から人力による遺物確認調査を行った結果、最初に発見された地点で層位的に石器と礫が出土した。掘り下げはⅦ層上部までスコップを使用し、Ⅶ層中位から移植ゴテ、三角鎌等の小道具に切り替え、遺物の検出を行った。遺物の出土状況から当初の調査範囲から西へ延びていると予想されることから、再度、バックホーにより、西側と南側部分を拡張して掘削した。拡張部分の精査によって、石器ブロックの存在が明らかとなり、旧石器時代の遺物の分布範囲が確定した。出土遺物は、石器、礫、炭化材に分け、平板測量により出土位置を記録した。個々の遺物は、層位、器種、石材、高さを台帳に記載して取り上げた。土層断面図、礫群微細図は、「ビニール転写法」を用いた。遺物の出土層位及び当時の環境を復元するために深掘りを１か所掘削し、ローム層の分析を行った。また、現地を見学された地質・地学に関係する専門家（群馬大学等）の所見を調査の参考とした。

上人見遺跡の弥生時代の調査

上人見遺跡は、昭和36年に発見され、昭和40年に群馬県立博物館（当時）と東京大学文化人類学研究室の合同調査が行われた弥生時代前期末～中期初頭の再葬墓が確認された遺跡である。今回の調査では、当時発見された再葬墓に関連する遺構が発見されることが予想された。そこで、発掘調査は、遺構の状態が気候に左右される冬場を避け、平成24年度前半の春から実施することにした。調査は、遺跡の中心となる部分を除き、遺跡の範囲確認と遺構面までの状態を並行して、バックホーによるトレンチ調査を行い、本調査区の範囲を設定した。耕作による撹乱・削平による調査不可能な範囲は、本調査から除外した。確認面はⅢ層上部を基本としたが、遺構、遺物が確認されない場合は、Ⅳ層上部までやや

深めの掘削を行った。ただし、遺跡の中心地については、浅間Ｂ軽石層を除去した後、Ⅲ層上面を人力で遺構・遺物確認を行った。１次調査の調査区を基準としたトレンチ（２ｍ×４ｍ）を26か所設定し、移植ゴテ等で土層の堆積状況、遺物・遺構の検出状況を目的とした確認調査を行った。トレンチ調査の結果、遺物はⅢ層から出土し、遺物包含層の存在と面的に広がる数カ所の遺物分布（ブロック）を確認した。遺物の出土はⅢ層中位までで、Ⅳ層になると遺物は全く出土しなかった。また、Ⅲ層下部～Ⅳ層上面で地山を掘り込んだと推定される黒味の強い範囲を確認した。遺物・遺構の分布状況をもとに本調査範囲を確定した。本調査は、全て移植ゴテ、三角鎌等を使用して、Ⅲ層中部まで遺物の検出を目的に面的掘り下げを行った。遺物出土状況の写真撮影後、遺物はグリッド（４細分割）を基準として記録して取り上げた。遺物取り上げ後、人力による遺構確認を行った。遺物分布と遺構分布の重複があり、この範囲を掘り下げると遺物出土に高低差が認められた。これを手掛かりにして確認遺構を精査すると、浅い窪みが多数検出され、土坑の存在が明らかとなった。覆土はⅢ層を基本とした黒色土の自然層である。土坑の調査は、範囲確認後、半裁し、写真撮影、土層断面図を作成してから完掘した。基本的に遺物は、全点残して土坑単位で出土位置（通し番号を付す）と高さを記録した。土坑微細図は「ビニール転写法」あるいはデジタルカメラによる垂直写真撮影を併用した。

谷地の調査は、バックホーによる表土掘削後、人力で遺構面を精査した。谷部分に幅１ｍのトレンチを設定し、土層堆積状況と地形を確認した。トレンチは湧水による冠水、排水処理が不可能のため、水面下の状況確認は途中で断念した。各トレンチの土層断面図は、「ビニール転写法」を用いた。

遺構測量、遺物記録の方法

遺構平面図：遺構平面図は、遺構完掘後、無線操縦ヘリコプターでデジタルカメラによる空撮をし、撮影した画像をパソコンに取り込んで画像の歪み補正等を行い、1/40を基本にして出力したものを現地で遺構の細部を確認、修正しながら、マイラーベースにトレース（遺構ライン：青、遺物：赤）する方法で作成した。平面図には、レベル値を記録し、ベンチマークとレベルの眼高から遺構の標高を算出できるようにした。遺構の断面図を作成するために必要に応じてレベルを記録し、数値から断面図が復元できるようにした。なお、作業の進行状況に応じて、空撮に間に合わない遺構の測量の測量については、平板測量を併用し、集石、土坑、埋設土器等の小さな遺構は、デジタルカメラ撮影による垂直（真上）写真を使用した。道路状遺構と大溝は、1/80を基本とした全体図を作成した。

全体図：各遺構図をグリッドで貼り合わせて、全体図を作成し、パソコンに取り込んでトレースした。また、調査区範囲の一部は、委託して作成した。この全体図を使用して、グリッド単位あるいは地形をもとにして、等高線用の高さを記録した。

土層断面図・遺構微細図・遺物分布図：幅２ｍの農業用ビニールを遺構の断面及び平面にあて、マジックで原寸大に転写する方法で行った（「ビニール転写法」）。転写した図面は、図面台帳を作成し、遺構単位でデジタルカメラによる写真撮影を行い、画像をパソコンに取り込み1/40を基本としたデータに変換した。

遺物の出土記録：遺構出土の遺物は、遺構単位、層別、分割区毎に取り上げた。遺構外の遺物は、４ｍグリッドを４再分割（ａ～ｄ）して取り上げた。また、小規模な遺構の遺物は「覆土一括」として取り上げた。遺物出土量は、収納袋の大きさで相対的量（大量：◎、多量：○、少量：△、若干：※）に置き換え、遺物分布状況カードに記録した。

3　資料整理の方法

（1）整理方針と作業の流れ

本遺跡群では、10か所の発掘調査を実施した。発掘調査は、遺跡・遺構の範囲を把握する目的のため、可能な限り面的調査を実施する方針であったため、遺構数、遺物量は年々増加することとなった。そこで、競りが長期にわたるため、遺構整理、遺物整理、写真整理を柱としてデータ整理、その他整理に作業を分けて計画を立てることにした。調査年度の資料について、遺物は調査終了後に基礎整理を完了させ、次年度に遺物台帳作成、遺物実測を行うことにした。遺構は、図面修正、土層台帳の入力を最初に行い、遺構図ファイルを作成した。パソコンを使用することで遺構図修正と報告書挿図作成を同時に行うことが可能となり、遺跡単位で編集可能な遺構から順次図面の作成を行った。他の整理、報告書作成・編集においても、作業の効率化を図るためパソコンを駆使した。本遺跡群の特徴である古代の遺構・遺物については、他の作業に優先して単年度で整理完了を目指し、概報としてまとめた。

本報告は、遺構については、遺跡群の10遺跡で確認された遺構を時代→種類の順で報告した。なお、道路状遺構と大溝は、同一遺構が遺跡を越えての調査であったため、あえて遺跡名で区別せず、一括して報告した。遺物については、各遺跡の出土遺物を同一基準で報告する方針として、遺跡群全体で時代、種類（器種）を優先させた遺物を集成した。

（2）遺構図面整理の方法

各遺跡の遺構配置全体図を作成し、複合遺跡の場合は時代別遺構配置全体図を付図（ＤＶＤデータ）を作成した。遺跡単位で、縄文時代・弥生時代（住居址、集石、竪穴状遺構、土坑、埋設土器）、古墳時代（住居址、竪穴状遺構、土坑）、古代以降（住居址、土坑、炭焼窯、溝）、道路状遺構、大溝（区画溝）に分けて遺構挿図、各遺構観察表を作成した。

遺構図：旧石器時代は、遺物分布全体図、石器器種別・母岩別分布図（全体、ブロック別）、礫群分布図（全体、重量）を作成した。縄文時代以降は各遺構の平面図（住居址の場合、柱穴等ピットの深さを示す）、土層断面図、遺構断面図（土層断面図が無いものを含む）、遺物分布図（廃棄・遺棄の状況、層位毎の遺物質量を把握するため）、遺構付帯施設（炉、竈、埋設土器等）平面微細図、土層説明表、遺構観察表を作成した。特徴ある遺構（炉・竈内、埋設土器等）については、出土状況の参考に遺物実測を付けた。

住居址：時期は、覆土下層遺物または床面遺構（炉・竈内土器、埋設土器、土坑内等）の遺物によって決定した。覆土遺物の分布図は、層位毎（堆積の変わり目を基準、層厚は目安）に16分割したもので、重量分布（土器）、点数分布（石器、礫、その他遺物）、床面または炉・竈、貯蔵穴等の遺構内遺物出土状況（微細・ドット）のそれぞれを作成した。各遺跡同一基準で縄文時代中期後半、古墳時代の住居分類を行った。

土坑：各遺跡同一基準で平面、断面、覆土から形態分類を行った。上人見遺跡の土坑は、出土遺物の平面・垂直分布図を作成した。

集石：遺構図の他に礫集計を行い、重量グラフを作成した。一部、検出状況と掘方の図面を付けた。

埋設土器：検出状況（平面微細図）と埋設状況（掘方図、土器実測図）を示した。

大溝（M－１号溝）・道路状遺構：両遺構は、細長く広範囲に分布するため、遺跡名で区別せず、遺跡群にある同一遺構として報告した（遺跡名は調査範囲を示す意味合いをもつ）。大溝は２遺跡、23の挿図に分割した。富岡市の調査分については、別報告となるため位置のみを示した。土層断面図は、覆土を浅間Ｂ軽石と下層のローム混入土層を塗りつぶして堆積状況を示した。また、時期の分かる土器は、出土位置と遺構断面図に入れた。を道路状遺構は、４遺跡、29に挿図を分割した。道路面には任意に標高を入れ、道路の傾きを示した。

（３）遺物整理の方法

出土遺物の整理は、洗浄、選別した後、インクジェットプリンター等を使用して出土位置を注記し、器種分類及び計測・計量を行い、各種遺物観察表及び台帳を作成した。その後、遺物の実測・トレース、遺物写真撮影を行った。土器の復元は、完形個体を優先して行い、セメント系の材料で修復した。

土器：土器は縄文土器と土師器・須恵器（古墳時代、古代）に大別し、器種毎に分類した。土器は「量」を把握するために重量を区、層毎に記録し、16分割を基本とした分布図のデータとした。

遺構出土のものは、覆土中（１、２層出土遺物）と時期の決め手となる床面直上・下層に区別して、それぞれの一括性のある土器群として捉え、組成を検討した。土器の分類は、破片と復元できる個体に分け、破片については器種毎に重量を記録した。復元できる個体については重量を記録した後、復元率によってランク付け（Ａ～Ｄ）を行い、個体台帳を作成し、器種、接合状態、重量を記録した。これによって遺物の出土量を記録することで、破片の情報も活用でき、遺構全体での遺物の出土傾向が把握できる点で有効性をもつと判断した。土器の実測は、遺構を優先し、遺構の時期が判断でき、一括性のある型式を中心に選別した。遺構外出土の遺物については、遺構出土重複が少ない土器、時期に限定した。実測した土器は、観察表を作成し、本文では、土器群特徴について所見を掲載した。遺跡群の特徴である縄文時代中期後葉、古墳時代中期、古代の土器群については、専門家による考察を掲載した。

石器：石器は時代毎に分けて石器台帳を作成した。旧石器時代の石器は、器種分類、母岩別分類、接合作業を行い、全点台帳に記録した。礫は石材、重量、欠損、被熱（赤化）、付着物（スス等）等の観察、接合作業を行い、全点台帳に記録した。また、礫の大きさ、接合状況を把握するため、完形・接合資料の実測図を作成した。

縄文時代と弥生時代の石器は、安中市の分類基準に準じ、石器系列、器種系列、石材系列に分けて分類した（第２・３表）。器種が特定できないもの、転用石器等は、別の器種名を備考に並記した。石器集計は、「器種」を優先したため、挿図にある器種と一部異なるものがある。石鏃、打製石斧・スクレイパー、磨製石斧等の器種で、石器製作にかかわる資料は、完成品、未成品、素材、（調整）剥片のそれぞれの大きさを把握する目的のため長幅グラフを作成した。黒曜石製石器は、石鏃製作を意識した器種分類を行った。石材分類は、肉眼観察によって、石材の特徴、石器と石材の関係によって考古学分類を行い、岩石学的細分は行わなかった。なお、本来、学術用語として呼称されるべき「黒曜岩」については、「黒曜石」とした。

古墳時代の石製品・石器：形態と製作方法で器種を分類し、製作にかかわる遺物（素材剥片、破片等）についても全点観察表を作成した。石製模造品については、加賀塚遺跡の報告での分類基準（井上2007）に準じ、本来の機能をもたない二次的（祭祀的）機能をもつ石製品を「模造」して製作されるもの、

第２表　石器・石材分類表

石器種別	器種	技術的特徴
A類	石鏃 石錐 スクレイパー A類 リタッチドフレイクA類（RFA） 楔形石器 石匙A類	押圧剥離を多用
B類	打製石斧・石鍬 スクレイパー B類・横刃形石器 石匙B類 リタッチドフレイクB類（RFB）	直接打撃を多用
C１類	磨石 ミガキ石 凹石 石皿 球石	使用痕跡により 石器と認識される
C２類	敲石 台石 砥石	
D類	石棒　多孔石 棒状礫　丸石	直接打撃・敲打・研磨 を複合的に用いる
E類	磨製石斧 磨製石器（弥生）	直接打撃・敲打・研磨 を複合的に用いる
F類	石製品 垂飾	直接打撃・敲打・研磨 を複合的に用いる

石材種別	石材	石材の特徴
I類	黒曜石(Ob) チャート(Ch) 硬質頁岩(HSh) 黒色安山岩(BAn) めのう 流紋岩	硬質で粘度が少ない 剥片剥離にもっとも適し鋭利
Ⅱ類	頁岩(Sh) （泥岩）	多少軟質でやや粘度がある 剥離に適する鋭利さは劣る
Ⅲa類	安山岩(An)	軟質で粘度がある 剥離に不適で剥離麺は粗面 耐久性に富む
Ⅲb類	(牛伏)砂岩(SS)	軟質で粘度がない 剥離に不適でボロボロと崩れる
Ⅳ類	結晶片岩(Sc)	節理が発達している
Ⅴ類	緑色岩類(GrR)	重量があり比較的硬質で粘度がある 剥離にあまり適さず剥離面は粗面
Ⅵ類	その他	多種多用な希少石材

第３表　石器器種分類表

種別	器種	形態	分類基準・特徴
A類	石槍		
	石鏃	Ⅰ	凹基無茎
		Ⅱ	平基無茎
	石錐	Ⅰａ	摘み無し・小形
		Ⅱａ	摘み有り・小形
		Ⅱｂ	摘み有り・大形
		Ⅱｃ	先端部作出・大形
	石匙Ａ類	Ⅰａ	縦形・押圧剥離による精緻な調整
		Ⅱａ	横形・押圧剥離による精緻な調整
	スクレイパーＡ類	Ⅰａ	押圧剥離による精緻な調整
		Ⅰｂ	押圧剥離と直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による粗雑な調整
		Ⅲ	縁辺微細剥離(一辺の１／２以上)
	リタッチドフレイクＡ類		縁辺微細剥離(一辺の１／２以下)
	楔形石器		両極技法により両端部が潰れている
B類	打製石斧	Ⅰ	撥形・急角度調整・断面蒲鉾形・片刃 (細部の違いによりさらにａ～ｈ形態に細分)
		Ⅱ	撥形～短冊形・両面調整・断面レンズ状・両刃 (細部の違いによりさらにｉ～ｑ形態に細分)
	スクレイパーＢ類	Ⅰａ	押圧剥離を主体とした精緻な調整
		Ⅰｂ	粗雑な押圧剥離と細かい直接打撃による調整
		Ⅱ	直接打撃による調整
		Ⅲ	縁辺微細剥離(一辺の１／２以上)
	石匙Ｂ類	Ⅰａ	縦形・押圧剥離と直接打撃を併用した調整
		Ⅱａ	横形・押圧剥離と直接打撃を併用した調整
		Ⅱｂ	横形・大形で直接打撃による調整
	リタッチドフレイクＢ類		縁辺微細剥離(一辺の１／２以下)
C１類	磨石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	球石		
	石皿	Ⅰａ	円形・作業面は凹面
		Ⅰｂ	円形・作業面は平面
		Ⅱａ	楕円形・作業面は凹面

種別	器種	形態	分類基準・特徴
C１類		Ⅱｂ	楕円形・作業面は平坦
		Ⅲｂ	不定形・作業面は平坦
	凹石	Ⅰａ	円形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅰｂ	円形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅰｃ	円形・凹のみ
		Ⅱａ	惰円形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅱｂ	惰円形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅱｃ	惰円形・凹のみ
		Ⅲａ	棒状・切り合い関係は磨→凹
		Ⅲｂ	棒状・切り合い関係は凹→磨
		Ⅲｃ	棒状・凹のみ
		Ⅳａ	四角形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅳｂ	四角形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅴａ	不定形・切り合い関係は磨→凹
		Ⅴｂ	不定形・切り合い関係は凹→磨
		Ⅴｃ	不定形・凹のみ
C２類	台石		
	敲石	Ⅰ	円形
		Ⅱ	楕円形
		Ⅲ	棒状
		Ⅳ	四角形
		Ⅴ	不定形
	砥石	Ⅰ	荒砥
		Ⅱ	中砥
		Ⅲ	仕上砥
D類	石棒		加工痕有り
	棒状礫		加工痕無し
	多孔石		凹有り
	丸石		凹無し
E類	磨製石斧	Ⅰａ	小形・断面楕円形
		Ⅰｂ	小形・定角式
		Ⅱａ	中形・断面楕円形
		Ⅱｂ	中形・定角式
		Ⅲａ	大形・断面楕円形
		Ⅲｂ	大形・定角式

滑石を石材とするものを「石製模造品（滑石製模造品）」とし、玉類、紡錘車、特殊形態等を「石製品」として区別した。なお、古墳時代の「石器」は、実用的な機能・用途をもつ器種（台石、砥石等）に限定した。各石器は遺構毎に器種別「点数」で分布図を作成した。報告書には時代毎に器種別、製作工程に係わる遺物の一部を掲載した。また、各時代の石器については、器種組成、石材組成、器種別各種表を作成し、主要器種、編物石については遺跡毎に計測・重量グラフを掲載した。

古墳時代の石器分類（『加賀塚遺跡１』の分類基準を一部修正）

Ａ類（石製品）：玉類（勾玉、管玉、小玉等、臼玉除く）、特殊遺物
原石・石核、未成品、剥片類（素材、調整剥片、砕片）

Ｂ類（石製模造品）：勾玉形、剣形、刀子形、円板・方板（有孔）、臼玉
原石・石核、未成品、剥片類（素材、調整剥片、砕片）

Ｃ類（広義の石製品）：紡錘車、未成品

Ｄ類：その他の石製品（石製模造品以外の不明器種）

Ｅ類（石器）：砥石、砥石、敲石、磨石等
１類：石製品・石製模造品製作工具、２類：それ以外の工具

Ｆ類（石器）：編物石

その他遺物：鉄製品は、農具と工具、その他器種に大別した。錆による腐食によってクリーニングしても形態が判別できないものは、器種不明の「鉄製品」として一括し、分類は行わなかった。

上人見遺跡、人見西中原遺跡出土の弥生土器分類：弥生土器は、器種毎に全点分類して台帳を作成した。土器については、器種分類、接合作業・復元、個体別分類を行い、台帳に記録した（別添データ参照）。その中から実測個体を選び出し、実測、観察表を作成した。

土器破片の分類：大きさを把握するため円スケールを使用して１㎝単位で破片サイズを記録した。

Ａ：０～２㎝、Ｂ：２～４㎝、Ｃ：４～６㎝、Ｄ：６～８㎝、Ｅ：８～10㎝、Ｆ：10～12㎝、Ｇ：12～14㎝、Ｈ：14～16㎝　Ｚ：完形（直径の大きさで、以上～未満）

土器の条痕地文分類：土器台帳では２分類に大別し、実測個体については、５細分に細分した。

土器台帳での条痕地文の分類　Ａ：細かいもの、Ｂ：太いもの

土器観察表での条痕地文の分類

条痕Ａ：細かく密な条痕

条痕Ｂ：ハケメ状のものや工具の断面がＵ字状の櫛歯工具を使用した原体とするもの

条痕Ｃ：工具の断面がＵ字状でＢよりも一本が太く棒状工具を束ねた原体と推定されるもの

条痕Ｄ：断面「コ」の字状の角張った原体。貝殻条痕状を含む

条痕Ｅ：茎束や半截竹管と推定される原体で条痕間の密度が薄いもの

（４）遺構分類の基準

本遺跡群の報告では、主な遺構について遺跡間で比較検討を可能とするため、分類基準を統一した。

縄文時代の住居址分類

中期後半を中心として、同一確認面（Ⅳ層上面）で深さと構造が異なる竪穴住居（Ａ・Ｂ形態）、敷石・柄鏡形住居（Ｃ形態）、確認面で検出された掘り込みが薄い平地住居・掘立柱建物遺構（Ｄ形態）、

構造不明（Ｅ形態）に大別し、個々の属性を観察表にまとめた。

Ａ形態：掘り込みが深い壁のある竪穴住居。

　Ａ１：周溝、炉、柱穴が規則的に配置され、炉、周溝、埋設土器等の付帯施設がある（構造が規格的）。

　Ａ２：Ａ１に準じるが周溝がない。

Ｂ形態：掘り込みが浅く壁が明確ではない竪穴住居。

　Ｂ１：炉、柱穴が規則的に配置される。一部に周溝有り。Ａ１とは壁の有無の差。

　Ｂ２：柱穴が不規則に配置される。炉が無いもの有り。構造が規格的ではない（竪穴状遺構の一部）。

Ｃ形態：敷石住居

　Ｃ１：柄鏡形。全面あるいは柄部に敷石。

　Ｃ２：構造が規格的ではなく、ピットが不規則に並ぶ。部分敷石。埋設土器を伴うものがある。

Ｄ形態：平地住居、掘立柱建物

　Ｄ１：柱穴が円形ないし規則的に並ぶ。炉、埋設土器があるものもある。

　Ｄ２：ピットが不規則に分布。炉はない。柱穴不明。

Ｅ形態：分類不明

弥生・古墳時代、古代の住居址分類（『加賀塚遺跡』の基準を修正した）

平面　小形（４ｍ以下）、中形（４～６ｍ）、大形（６ｍ以上）

主軸　炉の方向を基準。

覆土　土層堆積状況、覆土混入物によって、埋没過程を以下に分類した。

　Ａ：住居上屋崩落あるいは埋め戻された後、窪みに自然堆積（Ⅲ層流れ込み→浅間Ｂ軽石堆積）

　　Ａ１：ローム混入土

　　Ａ２：焼土と炭化物（材）が混入（火災住居）

　Ｂ：人為的埋め戻し（完全）

　　Ｂ１：ローム混入土で埋没

　　Ｂ２：焼土と炭化物（材）が混入（火災住居）

　Ｃ：自然堆積が主体（レンズ状堆積）

炉　Ａ（地床炉＋枕石）、Ｂ１（地床炉のみで掘り込み有り）、Ｂ２（地床炉のみで掘り込み無し）

竈形態　Ｂ：ローム＋黒色土＋袖芯河床礫　Ｄ：地山削りだし＋ローム＋袖芯河床礫

　　Ｃ：ローム＋黒色土＋河原石　Ｅ：地山削りだし＋ローム＋袖粘土

遺物出土量　土器類　※：0～1000g　△：1000～5000g　○：5000～10000g　◎：10000g以上

　　石器類　※5点以下　△10点以下　○20点以下　◎21点以上

土坑の分類

　通時代的に同一遺構として平面・断面、覆土形態で分類した。

平面　Ａ：円形、Ｂ：楕円形、Ｃ：方形、Ｄ：不整形

断面　１：逆台形（鍋底形・碗状で深い。壁面がある）、２：皿形（鍋底形・碗状で浅い。壁面がない）、３：袋状（フラスコ状）

覆土　Ⅰ：自然堆積、Ⅱ：人為的堆積、Ⅲ：浅間Ｂ軽石あるいは混入土堆積

土器重量　※100ｇ以下、△100ｇ以上 、○500ｇ以上、◎1kg以上（上人見遺跡では点数）

石器　器種点数

礫　小100ｇ以下、中100ｇ以上、大1㎏以上、特大10㎏以上

弥生時代の土坑分類　土坑内の遺物出土状況を分類し、用途・機能を推定。

Ⅰ形態：副葬的状態（Ⅰａ：大形礫と遺物６点以上、Ⅰｂ：大形礫と遺物５点以下）

Ⅱ形態：土坑内に遺物散布状態（Ⅱａ：遺物６点以上、Ⅱｂ：遺物５点以下）

Ⅲ形態：遺物なし

その他遺構の分類

大溝の断面形態　Ａ：両方の法面が上場と下場の途中で屈曲し、底面までほぼ垂直となる（対称）

Ｂ：上場から底面までの法面が一定（箱堀状）

Ｃ：片側の法面が途中で屈曲し、断面が非対称となるもの

大溝の覆土形態　Ａ：底面付近にローム混入土が厚く堆積する（流入、人為）

Ｂ：自然堆積（流入）、壁崩落土の堆積

大溝の底面　Ａ：浅い溝状（底面から一段下がる）

Ｂ：平坦（フラット）

埋設土器の堀方状態　Ⅰ：堀方のみ（土器の大きさと同一、埋め込み）　Ⅱ：土坑内　Ⅲ：堀方無し

土器重量、石器、礫の出土量は、土坑に準じる。

（５）写真整理の方法

現地で撮影した写真については、リバーサル（カラー）、白黒、ネガ（カラー）別にファイルし、アルバムを作成した。また、カラー写真はフォトＣＤに記録し、その後の保管（保存）・活用を考慮し、デジタル化した。遺構写真図版は、画像を全てデジタル化し、遺構毎のフォルダを作成した。使用カットは遺構全景、遺構土層堆積状況（セクション）、遺物出土状況を基本とし、必要に応じてカットを追加した。デジタル画像は全てカラーとした。遺物写真は、全てデジタルカメラによって撮影（委託）し、遺構写真と同様、画像をデジタル化した。遺物写真図版は、単体及び集合写真とし、土器については実測した個体は全て単体で撮影し、一括遺物は集合写真とした。石器については器種別の集合写真とした。写真は、データ化（コダックフォトＣＤ・ＤＶＤ）して、必要な写真を選別し、画像を編集した。

（６）報告の方法

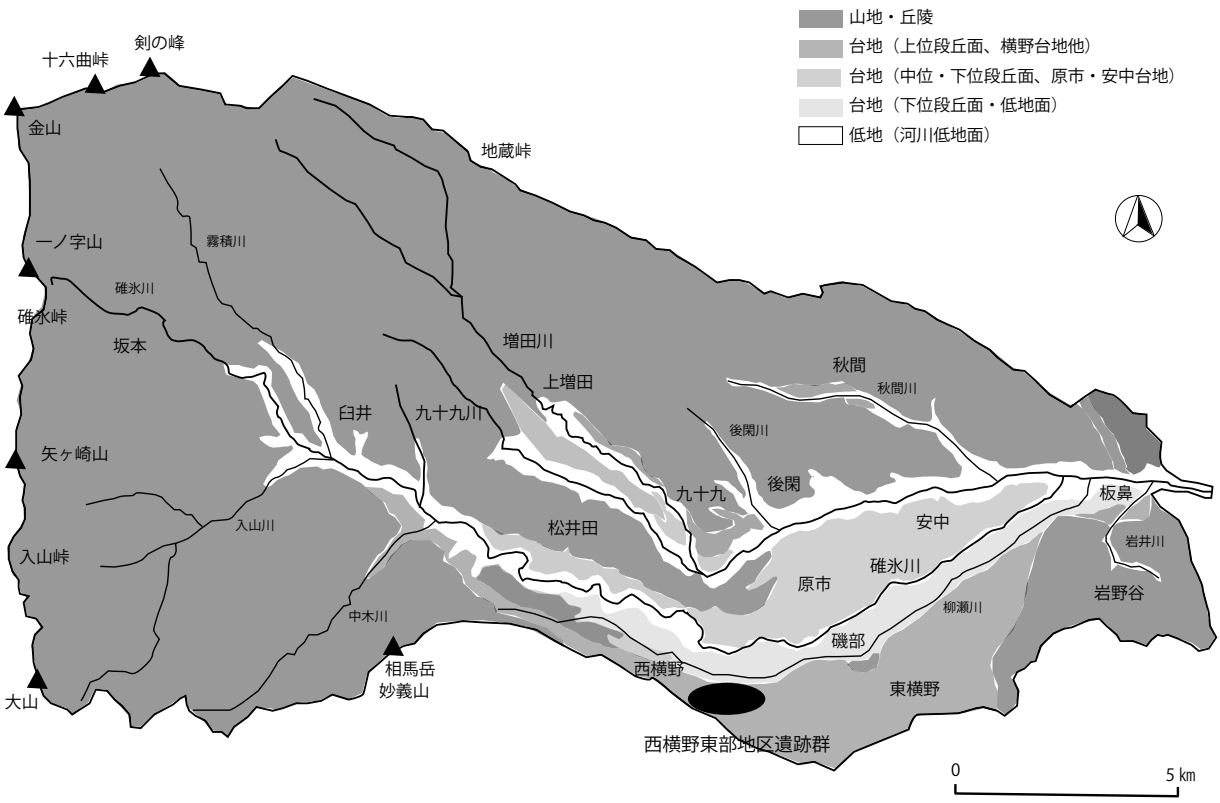
報告書の体裁は、全遺跡を一括しての報告であるため、本文編とデータ編に報告内容を振り分けることにした。報告遺構については、各遺跡における発掘調査での確認状況を中心に掲載し、各遺構の属性は表にまとめた。また、報告遺物については、各時代、遺物の種類毎に遺跡全体を一括して、遺物の特徴を掲載した。旧石器、土器は本文中に遺物観察表を付けた。土器以外の遺物観察表は、データとした。写真図版は、各遺跡代表的な遺構、遺物を掲載し、他は画像データとした。報告書の構成は、第１分冊に序章、遺構図版の本文、第２分冊に遺物挿図、まとめ、写真図版を掲載した。ＤＶＤ版には、本文編の一部（自然科学分析本文）の他、データの情報量と活用性を考え、各遺跡全体図、遺物観察表・台帳、写真図版（遺構・遺物）、概報１～６（各年度の調査経緯、経過等の参考資料）を収録した。

Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境

1　地理的環境

安中市は関東平野の周縁部である群馬県西部（西毛地域）に位置する。平成18年の合併により総面積274.42ｋ㎡となった。安中市の地形は、発達した河岸段丘の種類により、碓氷川及び九十九川流域等の下位段丘、九十九川と碓氷川に挟まれた中位段丘、碓氷川南の中野谷・西横野地区の上位段丘に分けられる。本市の西・北及び南東には山地及び丘陵地が広がる（第７図）。

本遺跡群のある西横野地区は、旧松井田町の南東部に位置し、人見、二軒在家、八城、行田地区に分けられる。この地域は、行田地区付近を源流とする下位段丘を流れる柳瀬川と妙義地区を流れる高田川に挟まれた妙義山へと続く上位段丘にあり、「横野台地（西横野丘陵）」の西側に位置する。横野台地の東側は、最も平地部が広がる中野谷地区で、これまでの大規模調査で調査された「中野谷地区遺跡群」として知られる。横野台地は、丘陵の南北両側は急峻な崖となり、幾筋もの東西方向に延びる細長い台地とそれに付随する低地で形成された地形で、低地部分には、湧水が存在する。人見地区では湧水を起点とする猫沢川の源流が存在し、柳瀬川と下流付近で合流するが、猫沢川以外に際だつ小河川は少ない。遺跡地の現在は、台地部がコンニャク、ゴボウを中心とした畑地が一面に広がり、低地部の一部は水田となっている。この地域の標高は、263～286m（比高差約23m）である。



第７図　安中市の地形

2　歴史的環境

横野台地では、本事業に伴う発掘調査を含め、土地改良事業を中心とした道路建設、工業団地造成等の大規模開発事業によって台地のほぼ全域を対象とした面的発掘調査を実施してきた。西横野地区では、上信越自動車道建設工事に伴う発掘調査で、縄文時代を主体とする遺跡が多数発見された。また工業団地造成による発掘調査で、古代の「磯部郷」に関係する大規模集落が確認された。中野谷地区では、縄文時代の拠点的大規模遺跡を含めた遺跡の分布と古代の「牧」に関連する遺構群を中心とした遺跡の分布が確認された。これまでの発掘調査で横野台地における遺跡分布の状況が次第に明らかとなり、この地域における人々の営みが歴史的に解明されつつある。ここでは、西横野地区を中心に横野台地の遺跡分布傾向について概観する（第８図）。

旧石器時代

横野台地では、浅間山を給源とするローム層及び軽石層が厚く堆積するため、発掘調査の対象とする範囲が限られていることもあり、発見される遺構、遺物は他の時代に比べて少ない。西横野地区では、人見西向原遺跡で群馬Ⅳ期の石器ブロック、礫群を確認し、行田大道北遺跡で黒曜石製の円錐形細石刃核、新堀東源ヶ原遺跡で槍先形尖頭器が出土している。

縄文時代

草創期の遺跡は、石器が単独で出土する遺跡が多いため、遺跡分布は不明である。早期は、前半の押型文系土器期を中心した小規模遺跡が少数点在し、前後の時期との空白が認められる。前期は、花積下層式期の小規模遺跡が、少数点在する。関山式期では大規模遺跡が単独で分布するが、遺跡は少数である。有尾・黒浜式期以降、遺跡は増加し、諸磯式期まで継続する遺跡が多数を占め、一定の範囲内で大規模遺跡が点在し、その周辺に小規模遺跡が分布する傾向がある。集落は、２～３軒が単独で列状に並ぶ小規模のムラから、多数の住居、土坑、掘立柱建物等の遺構が環状に配置される大中規模が混在した拠点的なムラへと変化する時期である。また、前期終末以降、中期五領ヶ台式期まで遺跡は減少し、土坑のみの構成を主体とした小規模遺跡が少数点在する。中期前半の阿玉台・勝坂式期から加曽利Ｅ式期あるいは後期まで継続する遺跡は、一定の間隔をもって点在するが、単独の時期は少ない。この時期の遺跡は、拠点的大規模な「環状集落」が中心となる。加曽利Ｅ式期以降、環状集落は減少し、小中規模遺跡が台地単位で点在して集落群を形成している。なお、前期と中期の大規模遺跡の分布が同一地点で重複しない傾向が認められる。遺跡数の減少は堀之内式期まで続く。加曽利Ｂ式期以降、遺跡は小規模となり、さらに減少する。中期後半以降、集落と分離した配石遺構を主体とした祭祀・墓の遺跡が新たに加わるようになる。晩期前半は遺構を伴う遺跡は極端に少なくなるり、遺物のみの分布が中心となる。なお、「天神原式」土器は、当地域に分布する天神原遺跡の出土土器を標識とした型式名である。晩期後半から終末にかけては、遺構は確認されず、遺物のみの分布のため遺跡の存在は不明である。

弥生時代

前期末～中期前半では、土器棺墓（再葬墓）、土坑墓で構成された墓群を確認した上人見遺跡、八城二本杉東遺跡、単独土器棺墓を検出した行田梅木平遺跡、土坑群を確認した新堀東源ヶ原遺跡、住居址、土坑等で構成された集落を確認した注連引原遺跡群、大上遺跡、中野谷原遺跡が分布する。横野台地では、この時期の遺跡が他地域に比べ多数分布することから、農耕開始期の中心地域と考えられる。中期

後半は、栗林式期の集落である西横野地区の二軒在家原田頭遺跡、富岡市上高田社宮子原遺跡、長谷津遺跡、加賀塚遺跡が分布し、これまで調査の入らなかった地域にこの時期の遺跡が分布する可能性が明らかとなった。横野台地南側の高田川流域及び右岸丘陵地では、同時期の集落である小塚遺跡、阿曽岡・権現堂遺跡（ともに環濠集落）、古立東山遺跡等で同時期の集落が確認されており、この地域一帯が分布の中心となっている。後期の遺跡は、少ない傾向となる。磨製石鏃の製作が認められた前半期の集落である上北原遺跡、後半期の集落である人見西中原遺跡、人見谷津遺跡、長谷津遺跡が分布するが小規模である。

古墳時代

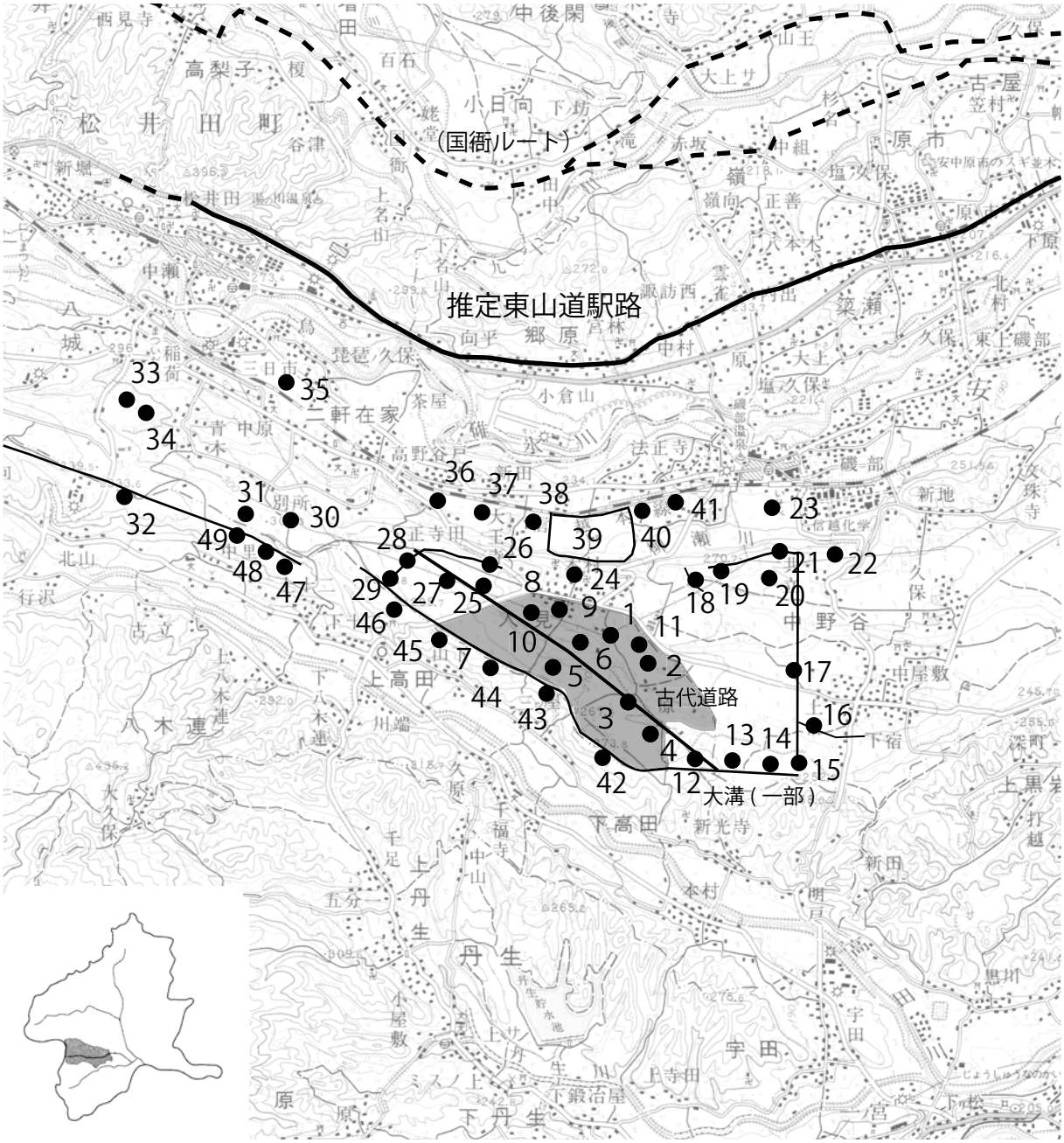
弥生時代終末期から古墳時代初頭は、弥生系土器群（樽系、赤井戸・吉ヶ谷系）と古式土師系土器群（S字口縁台付甕）の小規模遺跡が台地広範囲に人見大谷津遺跡、行田二本杉遺跡等が少数分布する。中期の西横野地区では、東部地区を中心として前半期の大規模遺跡を拠点として人見枝谷津遺跡、人見東向原遺跡、人見西原遺跡等が分布し、その周辺に小規模遺跡である人見西向原遺跡等が点在する。ただし、各遺跡における集落存続時期は、前半に限定され、後半以降の遺跡は急激に減少し、中野野地区の加賀塚遺跡周辺に分布する「集落の移動」が認められる。後期は、集落としての遺跡はさらに減少する。終末期古墳は、横野台地南側縁辺部の富岡市側で群集墳を形成せず、広範囲で散在している。

奈良・平安時代

西横野地区は、古代碓氷郡の「磯部郷」の一部に含まれる。碓氷川右岸下位段丘面には、新寺・大王寺地区遺跡群が存在し、約500軒以上の住居址、官衙的遺構等が確認されている。集落は古墳時代から継続し、平安時代９世紀後半にピークを迎える。横野台地では、中野野地区及び西横野地区において牧関連施設（区画溝）と付随する鍛冶関連遺構（工房集落、炭焼土坑群等）、溜井（灌漑施設）、道路状遺構が広範囲で分布する。牧は台地の平坦部で低地部、崖端を取り込むように溝で区画されている。道路状遺構は、東部では東山道駅路から分岐して古代甘楽郡へと向かう「伝路」の可能性がある。また、発掘調査で、古代末期の切り通し状の道路、区画溝を横断する道路等の道路状遺構が随所で確認されている。東部地区では、台地南側の「牧」の区画外と推定される富岡市側に多数分布するが、区画の内側では、集落分布は低調である。集落の時期は、奈良時代８世紀代と平安時代10世紀後半～11世紀前半の時期差をもって２時期のピークが認められる。横野台地で確認された「集落、道路、牧」は、それぞれ関連して同時期に建設、機能した可能性が考えられる。なお、低地部分では浅間Ｂ軽石層下の稲作が推定されている。

中近世

中世の人見村は人見氏の氏名が村名となった。人見城（存続時期：1225～1394年頃）は、記録として「城主人見四郎恩和」の名が残るが、詳しい記録はない。人見氏に関係する遺構は、鶯井戸、昌見寺、人見城の土居、堀等を残すのみである。戦国時代の人見村には堀込氏の名が残り、天佑寺建立にかかわったとされている。近世になると人見村は天領、旗本領、藩領に分かれ、上人見地区は小幡領となったが、詳細な記録はない。近世では、西横野地区で妙義神社参詣へ向かうための「妙義道」が存在し、人見北原遺跡では、両側側溝をもつ道路状遺構が検出された。新光寺地区から大谷津地区を通過して北西方向へ向かう道は、旧鎌倉街道あるいは近世妙義山への参詣の道として富岡一ノ宮町から中山道松井田宿を結ぶ連絡道と推定されている。各遺跡の調査では、浅間Ａ軽石の復旧溝、水路、区画溝が確認されている。



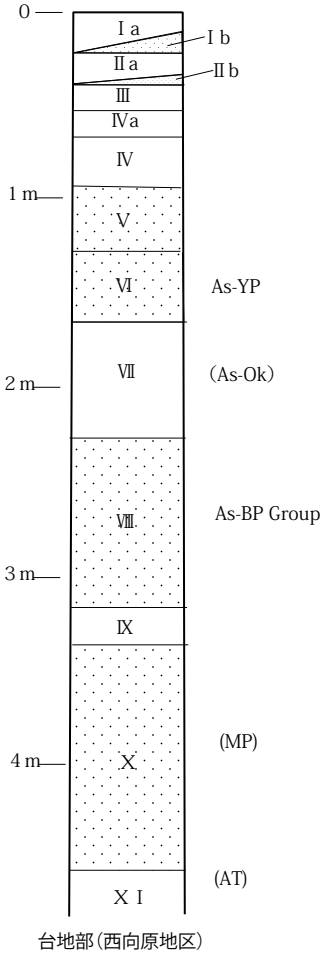
1 人見東原Ⅱ遺跡（縄文中期集落）
2 人見西下原遺跡（縄文中期集落）
3 人見枝谷津遺跡
（縄文中期・古墳～古代集落・古代道路）
4 人見東向原遺跡（古墳～古代集落・古代道路）
5 人見向原遺跡（古墳中期・古代集落・古代牧）
6 人見東中原遺跡（縄文中期集落・古代道路）
7 人見西向原遺跡（古墳中期集落･古代牧）
8 人見西中原遺跡（縄文中期集落・古代道路）
9 人見本村遺跡（古墳・古代集落・中世道路）
10 上人見遺跡（弥生前中期墳墓）
11 人見東原遺跡（古墳初頭集落）
12 人見大谷津遺跡
（縄文前期・古墳初頭集落・古代道路）
13 西向原遺跡（縄文前期集落・古代牧）
14 真光寺原遺跡（古代牧）
15 向原Ⅲ遺跡（古代集落・牧）
16 上宿南遺跡（古代牧）
17 砂押遺跡（縄文中期集落・古代牧）
18 上北原遺跡（弥生・古代集落・古代牧）
19 原遺跡（弥生中期・古墳後期集落・古代牧）
20 加賀塚遺跡（古墳集落・古墳）
21 磯部２・３号墳（古墳中期）
22 長谷津遺跡（弥生・古墳集落）
23 田中田・久保田遺跡（古墳中期墳墓）
24 人見城・人見谷津遺跡（弥生集落・中世城）
25 人見西原遺跡（古墳中期集落）
26 人見坂ノ上遺跡（縄文中期集落・古代牧）
27 人見三本松遺跡（古墳中期・古代集落・古代牧・道路）
28 人見上ノ原遺跡（古代集落）
29 人見上西原遺跡（古代集落・牧）
30 二軒在家原田遺跡（縄文前・中期集落）
31 別所遺跡（縄文散布地）
32 行田二本杉遺跡（古墳初頭集落）
33 八城二本杉東遺跡（縄文前期集落・弥生中期墳墓）
34 二軒在家二本杉遺跡（縄文後期・古代集落）
35 二軒在家東光寺遺跡（縄文中期・古代集落）
36 人見正寺田遺跡（古代集落）
37 人見中の條遺跡（古代集落）
38 人見大王寺遺跡（古代集落・中世城）
39 松井田工業団地遺跡（大王寺地区遺跡群）
（弥生中期・古墳～古代集落）
40 人見北原・西裏遺跡（古墳～古代集落・近世道路）
41 新寺地区遺跡群（西裏･下新井･諏訪辺遺跡）
（縄文中期・古墳～古代集落・中世館）
42 下高田上原遺跡（富岡市：古代集落・牧）
43 下高田原Ⅳ遺跡（富岡市：古代牧）
44 上高田筑前上遺跡（富岡市：古代牧）
45 上高田稲葉上遺跡（富岡市：古代集落・牧）
46 上高田熊野上遺跡（富岡市：古代集落・牧・道路）
47 上高田社宮子原遺跡
（富岡市：縄文中期・弥生中期・古代集落・牧）
48 中里下原遺跡（富岡市：縄文中後期集落）
49 中里中原遺跡（富岡市：縄文中後期集落）

第８図　西横野東部地区遺跡群と周辺遺跡

3　層序

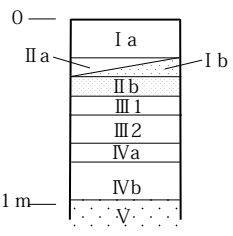
横野台地における基本層位は第９図のとおりである。本台地のローム層より上位では、Ⅲ層上部に浅間Ｃ軽石が混入し、Ⅲ層上面を覆うようにして浅間Ｂ軽石が堆積する。浅間Ｂ軽石が混入するⅡａ層上部には、浅間Ａ軽石が純層が堆積する。また、耕作あるいは人為的撹乱によって浅間Ａ・Ｂ軽石が混在する土層が認められる場所も随所に存在する。

Ⅳ層は縄文時代の遺物包含層で、確認面は２面存在する。Ⅳ層下部～Ⅴ層上面が前期、Ⅳ層上部が中期以降である。Ⅲ層は、浅間Ｃ軽石混入土より下部が弥生時代、上部が古墳時代以降の遺物包含層となるが、色調、遺構覆土等で層位を区分することは難しい。上人見遺跡では、Ⅲ層をⅢ１層（浅間Ｃ軽石混入土）とⅢ２層（弥生時代遺物包含層）に区分できる堆積状況であった。弥生時代以降の遺構確認は、通常、Ⅳ層上面を遺構確認面とする。低地部では、現在の水田下で浅間Ａ軽石と浅間Ｂ軽石の堆積が認められ、湧水による水成作用による土層堆積を確認した。なお、低地部分については、台地部との比較のため、土層堆積状況、植生環境の復元を目的とした土壌分析を行った（自然科学分析参照）。

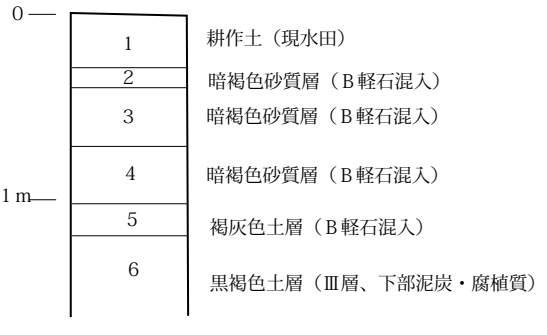


台地部（西向原地区）

層名	色調	しまり	粘性	混合物						備考
				ＲＰ	ＲＢ	As-YP	As-A	As-C	As-Ok	
Ⅰａ　黒褐色土層		△	△				○			耕作土
Ⅰｂ　灰白色軽石層	Ⅰａ＜Ⅰｂ	×	×				◎			Ａ純層
Ⅱａ　黒色土層	Ⅰｂ＜Ⅱａ	△	△					○		
Ⅱｂ　灰褐色軽石層	Ⅱａ＜Ⅱｂ	×	×					◎		Ｂ純層
Ⅲ　黒色土層	Ⅱｂ＜Ⅲ	△	○					※		
Ⅲ１　黒色土層	－	△	○					※		
Ⅲ２　黒色土層	Ⅲ１＝Ⅲ２	△	△							
Ⅳ　暗褐色土層	Ⅳａ＜Ⅳ	○	○	※						上部にⅣａ
Ⅳａ　暗褐色土層	Ⅳ＜Ⅳａ		○	※						淡色黒ﾎﾞｸ土に対応
Ⅴ　暗黄褐色土層	Ⅳ＜Ⅴ	◎	◎	◎	◎					上部にｽﾘｯｺ
Ⅵ　黄色軽石層	Ⅴ＜Ⅵ	×	×			◎				YP純層
Ⅶ　黄褐色ローム層	Ⅶ＜Ⅵ	◎	◎			※			△	
Ⅷ　橙色軽石層	Ⅶ＜Ⅷ	◎	×							ＢＰ純層
Ⅸ　褐色粘土層	Ⅸ＜Ⅷ	×	◎	◎						暗色帯
Ⅹ　橙色軽石層	Ⅸ＜Ⅹ	◎	×							MP純層
ⅩⅠ　褐色粘土層	ⅩⅠ＜Ⅹ	×	◎							黒色帯（上部にＡＴ）



台地部（上人見遺跡周辺）



低地部（枝谷津地区）

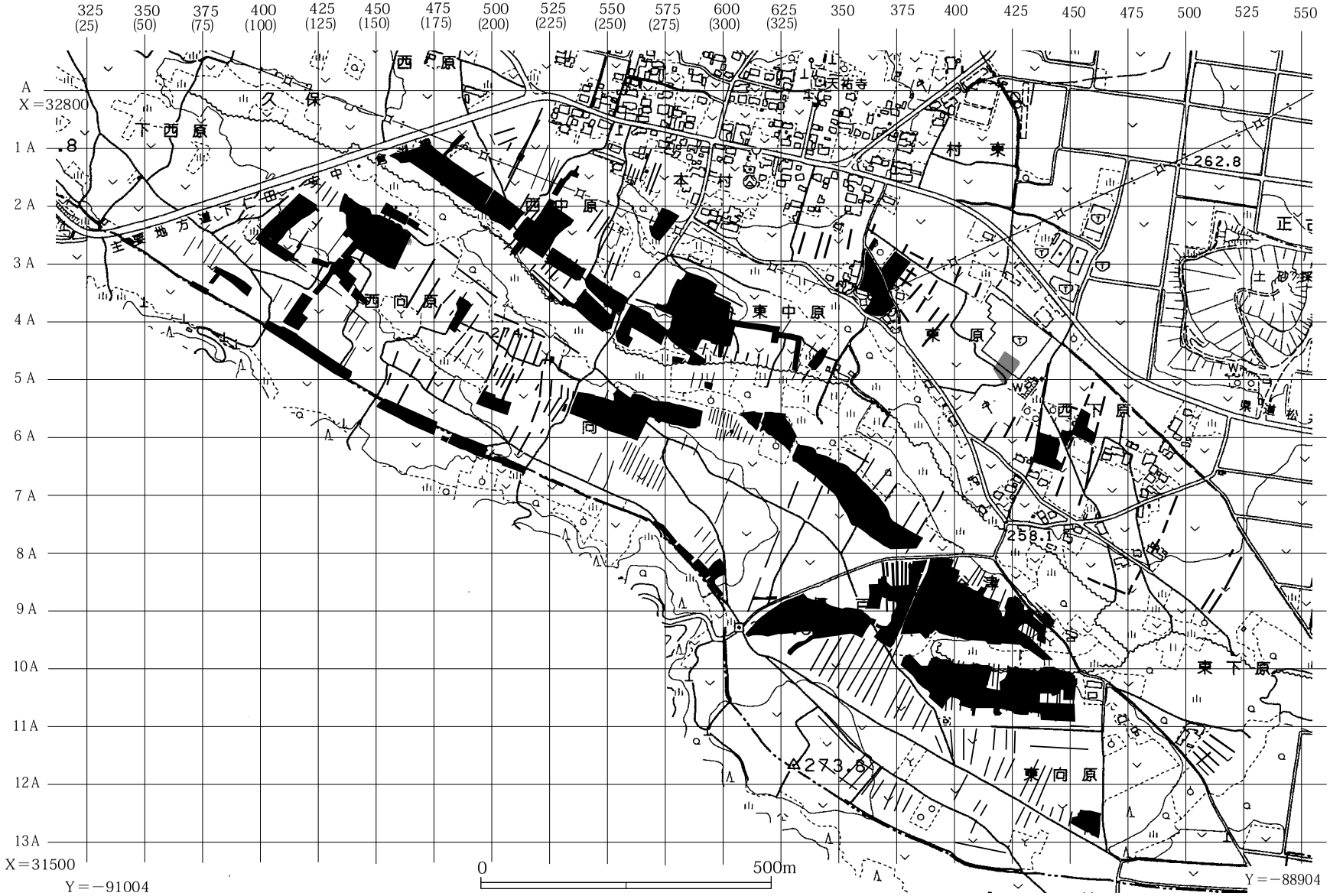
第９図　基本層位

Ⅳ　遺跡群の概要

西横野東部地区遺跡群の発掘調査では、10遺跡を発見した（富岡市は台地南側縁辺部で４遺跡）。遺跡の分布は、台地中央の猫沢川源流に繋がる大きな谷とこれに接続する浅い谷が交差する部分を境にして台地北側（Ａ群）、台地南側（Ｂ群）、Ａ群とＢ群に挟まれた台地中央（Ｃ群）にそれぞれ立地する。遺跡立地を細かくみるとＡ群はＣ群を望む南斜面に縄文時代中期、古代の遺跡（人見東原Ⅱ遺跡、人見西下原遺跡、人見本村遺跡）が分布する。しかし、遺跡群の東側、中野野地区との隣接部分では、遺跡の密度が低い。Ｂ群は、北側に猫沢川、南側が急峻な崖となる東西細長い台地で３か所に遺跡集中が認められる。Ｂ群東側では、縄文時代中期、古墳時代中期、古代の遺跡（人見枝谷津遺跡、人見東向原遺跡）が分布する。Ｂ群中央では古墳時代中期の集落遺跡（人見向原遺跡）が分布する。Ｂ群西側では、後期旧石器時代後半、弥生時代前期末～中期初頭、古代の遺跡（人見西向原遺跡、上人見遺跡）が分布する。Ｂ群全域には大溝（区画溝）と溝による小区画の遺跡（人見向原遺跡、人見西向原遺跡、下高田上原遺跡、下高田原Ⅳ遺跡、上高田筑前上遺跡、上高田稲葉上遺跡）が分布する。Ｂ群とＣ群には、台地を斜めに横切る古代の道路状遺構が延びる（人見東向原遺跡、人見枝谷津遺跡、人見東中原遺跡、人見西中原遺跡）。Ｃ群は馬の背状台地で南側斜面に２か所の遺跡分布集中が認められる。Ｃ群東側には、縄文時代中期、古墳時代中期、古代の遺跡（人見東中原遺跡）が分布する、Ｃ群西側には、縄文時代中期、古代の遺跡（人見西中原遺跡）が分布する。県道西側の中部地区では、縄文時代前期から後期にかけての遺跡、古墳時代中期、古代の遺跡（人見西原遺跡、二軒在家原田遺跡他）が分布する。また、低地部の広範囲で、浅間Ｂ軽石直下層とその上部で稲作の痕跡が認められた（第10図、付図１、第４表）。

第４表　西横野東部地区遺跡群　遺跡別遺構集計表

遺跡名／遺構名	人見東原Ⅱ	人見西下原	人見枝谷津	人見東向原	人見向原	人見東中原	人見西向原	人見西中原	人見本村	上人見	小計
旧石器遺構							1				1
縄文住居	9		14	2	1	11		9			46
縄文土坑	101	48	20	2	4	35	3	8		2	223
縄文埋設			9	1							10
縄文集石		2	1			5	1				9
縄文竪穴	1	2				1		1			5
縄文他遺構											0
古墳住居			100	33	28	3	6	11	4	1	186
古墳土坑			59	7	3		1	2		7	79
古墳溝					1						1
古墳竪穴			8								8
古墳他遺構			水場１	1	1						3
											0
古代住居			13	2	4				1		20
古代大溝					1		1				2
古代溝			14	5		9	6	3			37
古代土坑			27			1				1	29
古代他遺構			1			3			1		5
古代道路遺構			1	1	1	2		1			6
											0
時期不明遺構	32										32
時期不明炭焼窯	2		4	1	1						8
弥生遺構								2		土坑 119	121
中世遺構							1		1		2



第10図　事業区域内における調査区全体図

Ⅴ　遺構の調査

1　人見東原Ⅱ遺跡（第11～31図）

（1）概要

本遺跡は、平成８年に調査された人見東原遺跡（古墳時代初頭の集落）の西に位置する。対象地区に対するトレンチ確認調査を行ったが、古墳時代初頭の集落は確認されず、縄文時代の遺構、遺物が検出される範囲を確認した。調査区を設定し、本調査を実施した結果、縄文時代中期の集落であることが判明し、集落の範囲と集落が斜面に対して弧状に分布することが明らかとなった。中期に特徴的な環状集落が崩れた配置状況である。発掘調査は、平成18年度にＡ区とＢ区、平成19年度にＣ区とＤ区で実施した。

主な検出遺構は、縄文時代中期後半の住居址９軒、竪穴状遺構１基、土坑101基（うち縄文15基、陥穴１基、風倒木痕３基、他は不明）、ピット多数、中世以降の炭焼窯２基、近世以降の耕作溝等を調査した。

遺物の分布は、Ｂ、Ｃ区の住居址等の遺構周辺で特に集中するが、集落内部では、全体的に出土は少ない状況であった。また、黒曜石の分布も広範囲に認められた。Ａ区の北側傾斜部では、大量に土器が廃棄された遺物包含層が確認された（付図13～18）。

（2）縄文時代の遺構

住居址（第12～23図、第５表）

住居址は９軒確認した。住居址は出土遺物から全て中期後半の加曽利ＥⅢ式期に帰属する。

同一確認面において深さの異なる住居が確認された。住居址の形態は、掘り込みのないＪ－２号住居址以外は、全て竪穴住居址である。さらに掘り込みが深いタイプと浅いタイプに分けられ、掘削の深さに違いがあることが判明した。平面は、全て円形を呈するものが多い。なお、Ｊ－８号住居址には周溝が途切れ、外側に膨らむ張り出し部が認められた。柱穴は、４本を基本とするが、不規則となるもの、円形に並ぶものがある。炉は、Ｊ－４号を除き住居址床面中央にあり、石囲、埋設土器を伴うもの、地床に分けられる。Ｊ－２号では、礫と石棒を組み込んだ石囲炉が検出された。炉の脇には埋設土器がある。周溝のある住居址は３軒で認められた。出入口は、主軸及び床面の状況から判断して、南側であった可能性が高い。埋設土器は、壁際、床面で複数存在するものも認められた。埋設土器は深鉢の下半部が欠落したものが多用されている。埋設は、逆位より正位となるものが多い。住居址の拡張（建て替え）はＪ－１号、Ｊ－２号、Ｊ－９号住居址で確認されたが、回数は１回程度である。

遺物出土状況　各住居とも、覆土中から大量の遺物が出土した。土器は、破片が主体であったが、中には完形個体が横倒しで出土する例も認められた（Ｊ－４号、Ｊ－８号等）。Ｊ－１号では、覆土中に直立する砂岩製の石皿とそれを押さえる礫、その石皿下で磨石が出土した。出土状況から推測して人為的であることから、住居覆土内での祭祀痕跡等が考えられる。Ｊ－５号では、Ｕ－２号内で軽石製石製品が出土した。Ｊ－７号では、床面で多孔石類が出土した。また、Ｕ－１号覆土上面で黒曜石の原石が出土した。Ｊ－８号とＪ－９号は、互いの間隔は狭く、接しているが、出土遺物による時期差はなく、前

後関係が注目される。この２軒では、スタンプ形土製品の住居間接合が確認された。また両住居址では、黒曜石製の石鏃製作にかかわる剥片類の廃棄が認められた。Ｊ－９号の２層中からは、埋設された逆位の深鉢と集石（Ｓ－１号）が検出された。

竪穴状遺構（第24図・第22表）

１基確認した。平面円形で掘り込みは浅い。土器片が少数出土したが、性格は不明である。出土遺物から加曽利ＥⅢ式期と思われる。

土坑（第24～29図、第34表）

土坑は調査区全域で、101基確認した（時期不明含む）。時期・用途不明のものがほとんどで、自然の落ち込みや木の根等の自然のものを誤認したものも含まれる。縄文時代の土坑は、15基認識した。覆土は自然堆積で混入遺物は少ない。廃棄された土坑と推定される。土坑の平面形態は円形、楕円形が主体である。時期は住居址と同時期（加曽利ＥⅢ式期）であると思われる。Ｄ－20号は、底面が尖る。覆土上部にⅣ層が二次堆積する陥穴と推定される。Ｄ－30号は、掘り込みが深く、底面にピットがある。一般的な土坑とは構造が異なり注意が必要である。Ｄ－33号は、覆土上部に大形礫が出土した。Ｄ－88号、Ｄ－93号、Ｄ－94号は、断面袋状であり、中期に多い形態である。遺物の出土は少ない。風倒木痕は、浅間Ｂ軽石を混入しない黒色土を巻き込んでいるため、古代以降の所産である。覆土の状況から北東の風によるものと推定される。

ピット

時期不明のピット（小穴）を多数確認した。土坑と同様、自然のものと誤認したものも含まれる可能性がある。

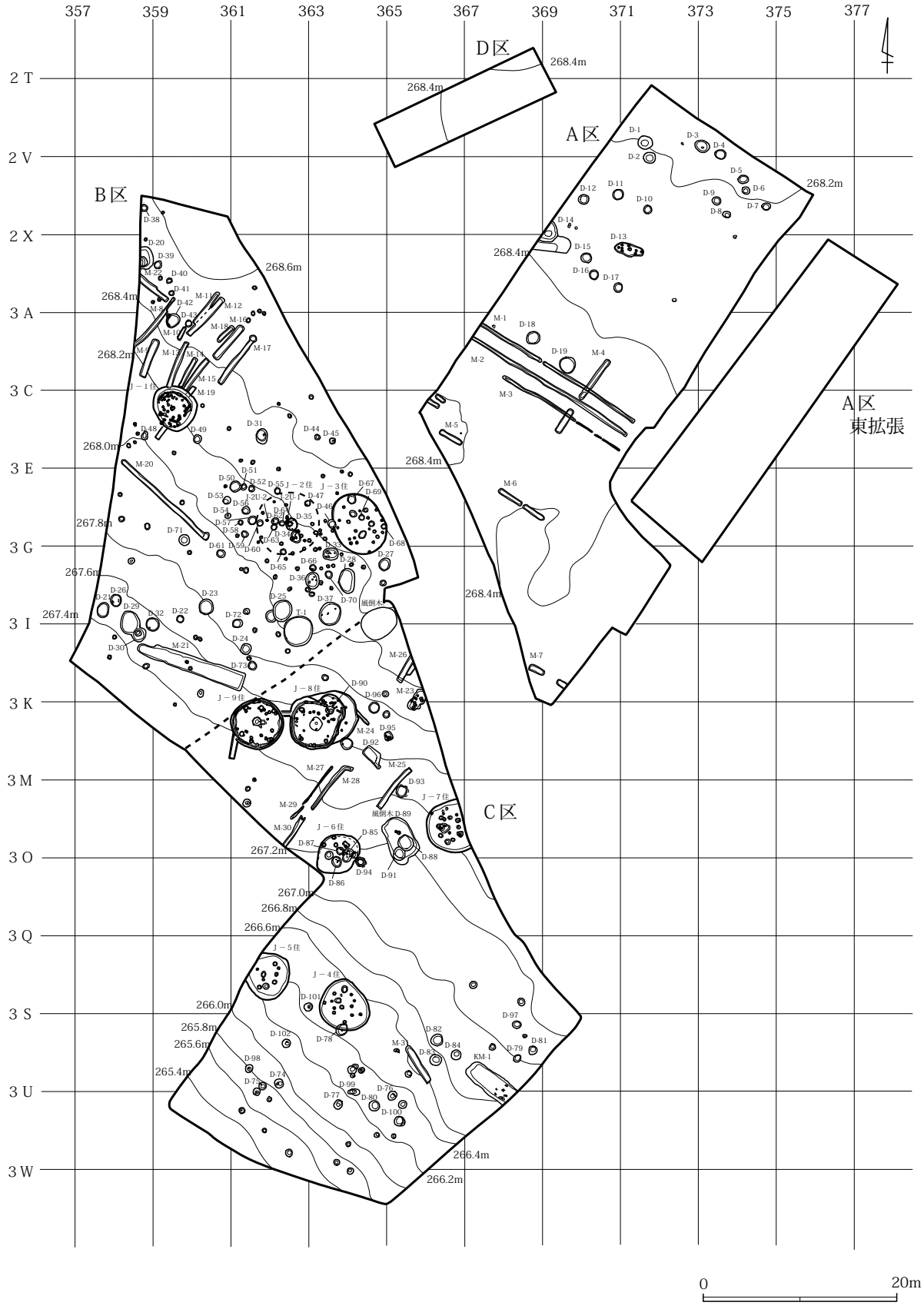
（３）その他の遺構

溝（第30・31図、第22表）

調査区の全域において等間隔に並ぶ溝を多数確認した。これらの溝は断面箱形で覆土全体が浅間Ａ軽石となるもので、軽石の捨て場として掘られた復旧溝あるいは耕作物を保存しておくための穴（耕作溝）と考えられる。

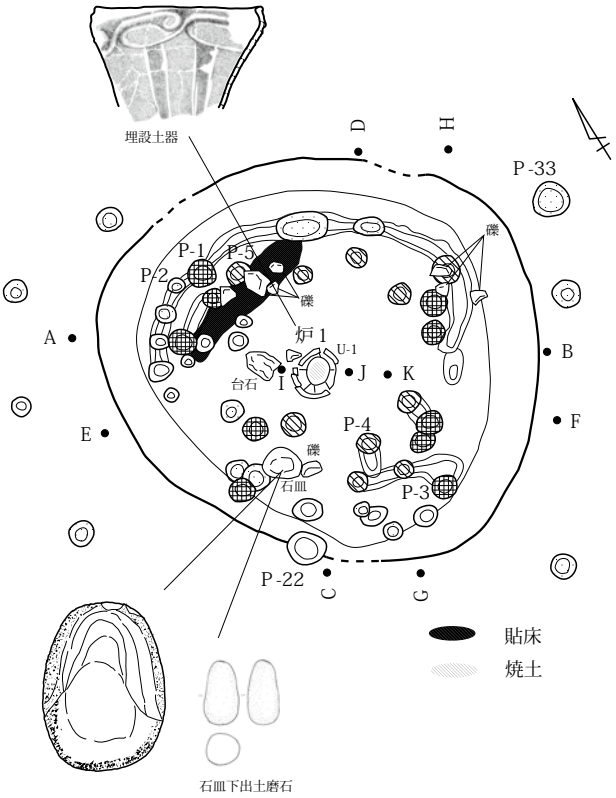
炭焼窯（第31図、第22表）

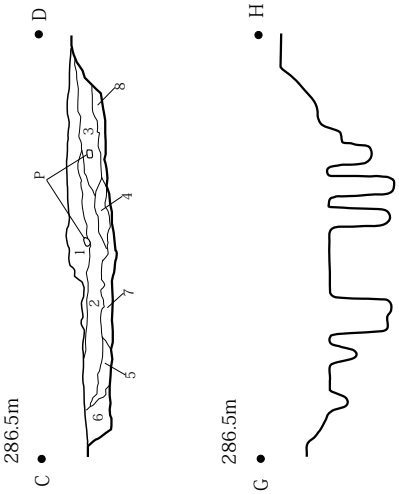
Ａ区で１基（Ｄ－13号）、Ｃ区東で１基確認した。ＫＭ－１号は遺構の一部が調査区外にあるため、全体は不明であるがほぼ東西方向に長軸をもつ楕円形である。炭化材の小破片が大量に出土した。



第11図　人見東原Ⅱ遺跡　遺構配置図

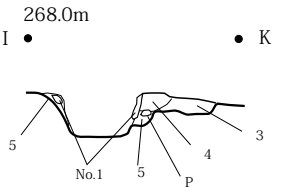
Ｊ－１号住

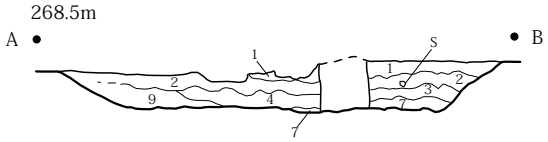




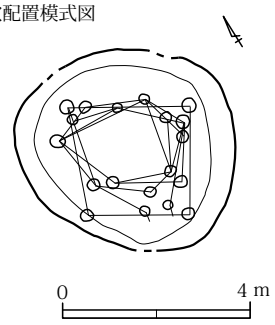
Ｊ－１　炉

Ｊ－１　炉掘り方（拡大）





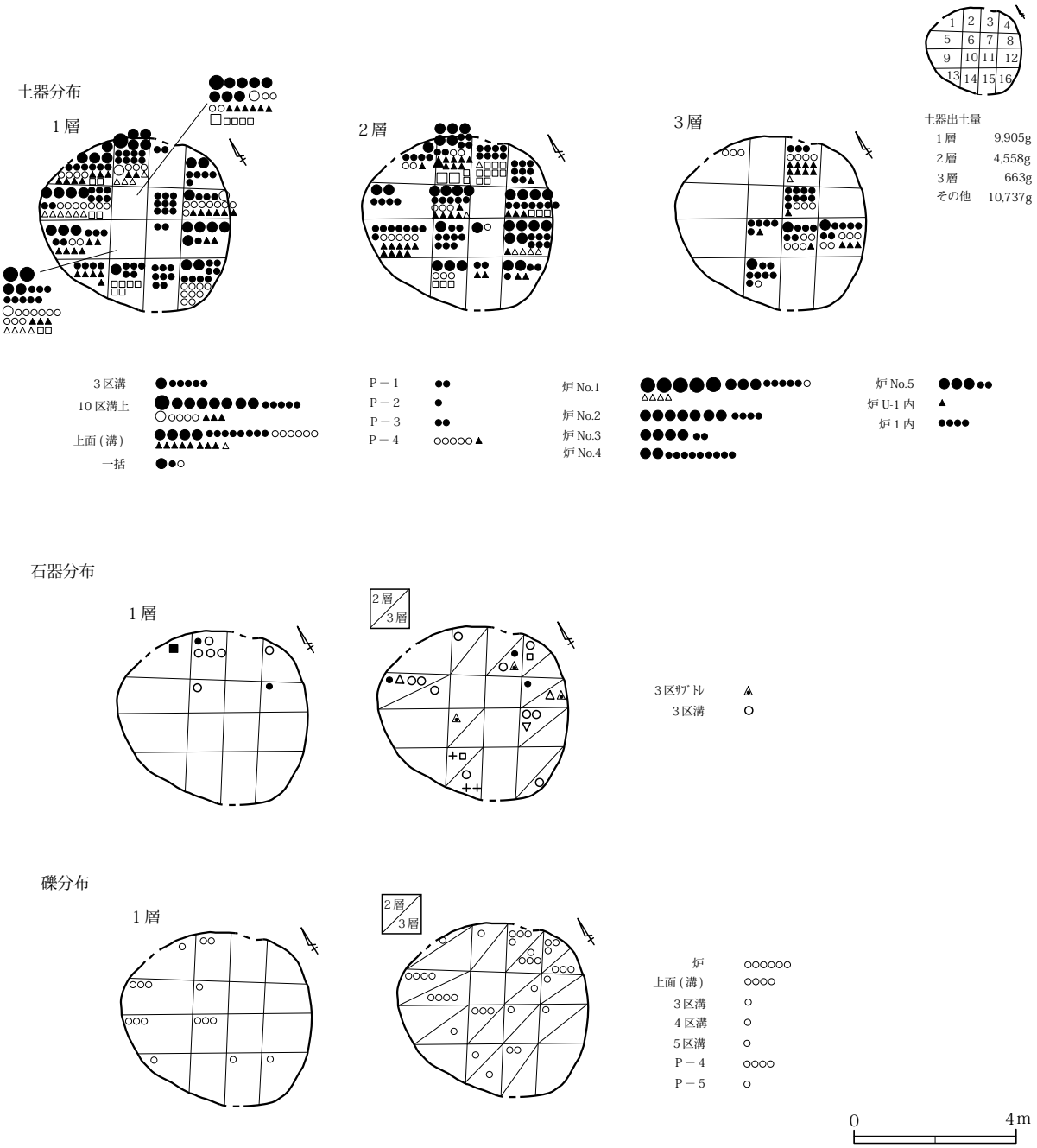
柱穴配置模式図



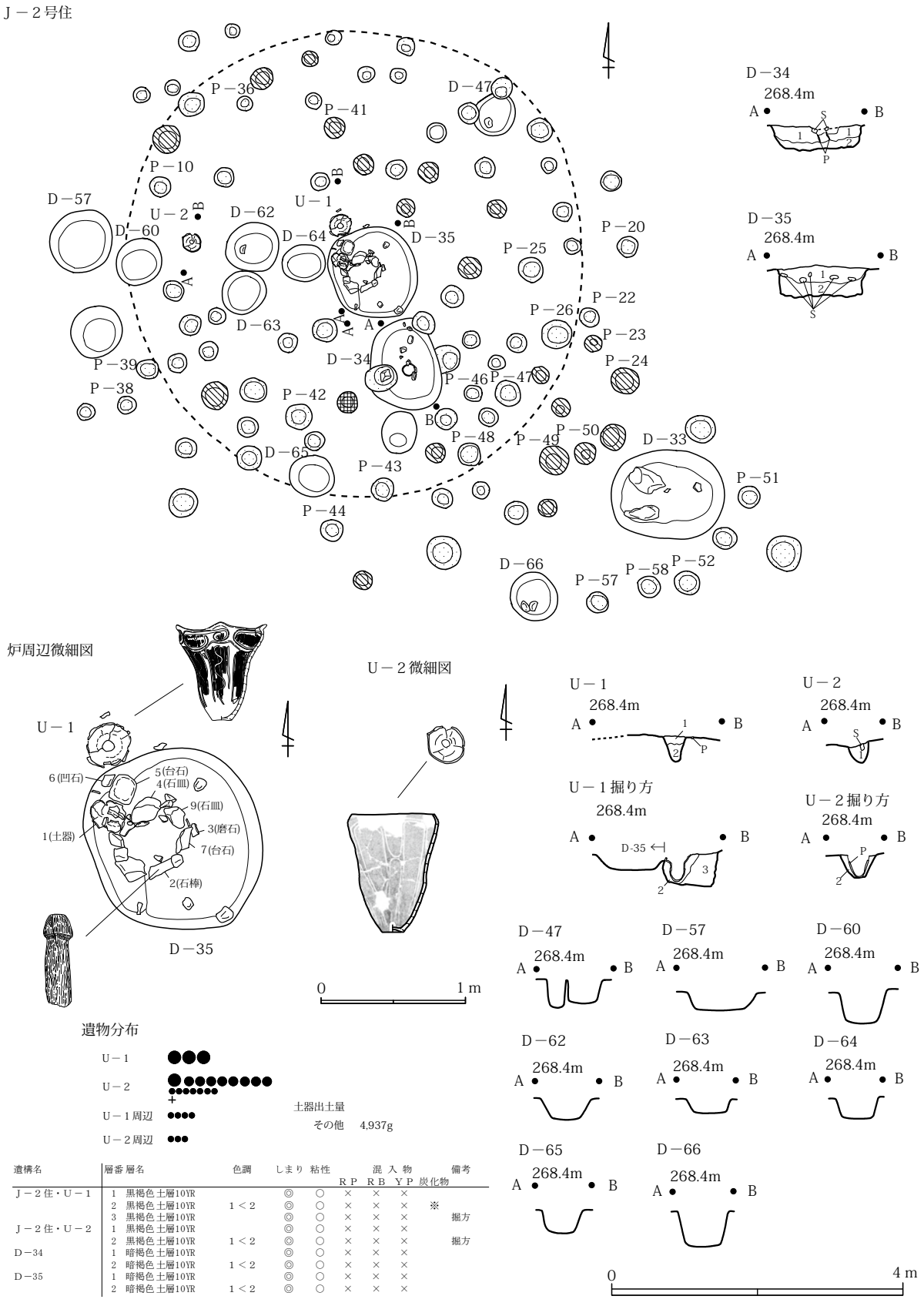
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭化物	焼土	備考
Ｊ－１住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	※	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	※	※		
	4	黒褐色土層10YR	4＜3	◎	○	※	×	△	△		
	5	黒褐色土層10YR	5＜2	◎	○	※	×	※	×		
	6	暗褐色土層10YR	2＜6	◎	○	※	×	×	×		
	7	黒褐色土層10YR	7＜2	◎	○	※	×	△	△		
	8	黒褐色土層10YR	8＜3	◎	○	×	×	※	△		
	9	黒褐色土層10YR	9＜4	◎	○	×	×	※	×		
Ｊ－１住・炉１	1	黒褐色土層10YR		◎	○	※	×	△	△	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	○	△	※	
	3	褐色土層7.5YR	2＜3	◎	△	※	×	×	※	※	
	4	黒褐色土層10YR	4＜3	◎	○	×	×	×	※	×	
	5	黒褐色土層10YR	4＜5	◎	○	×	×	×	×	×	（埋土）

第12図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－1号住居址実測図（１）

Ｊ－１号住

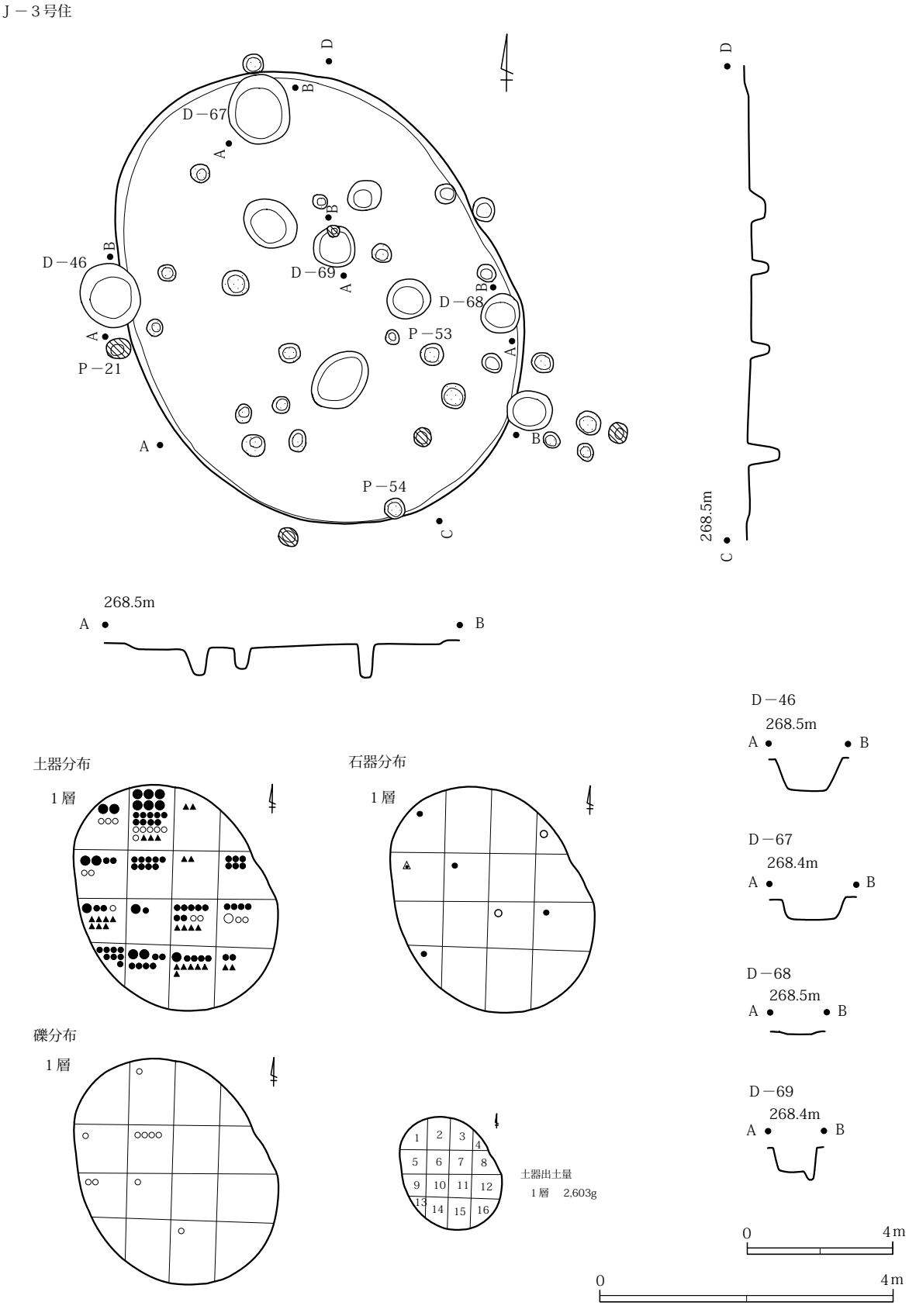


第13図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－1号住居址実測図（２）

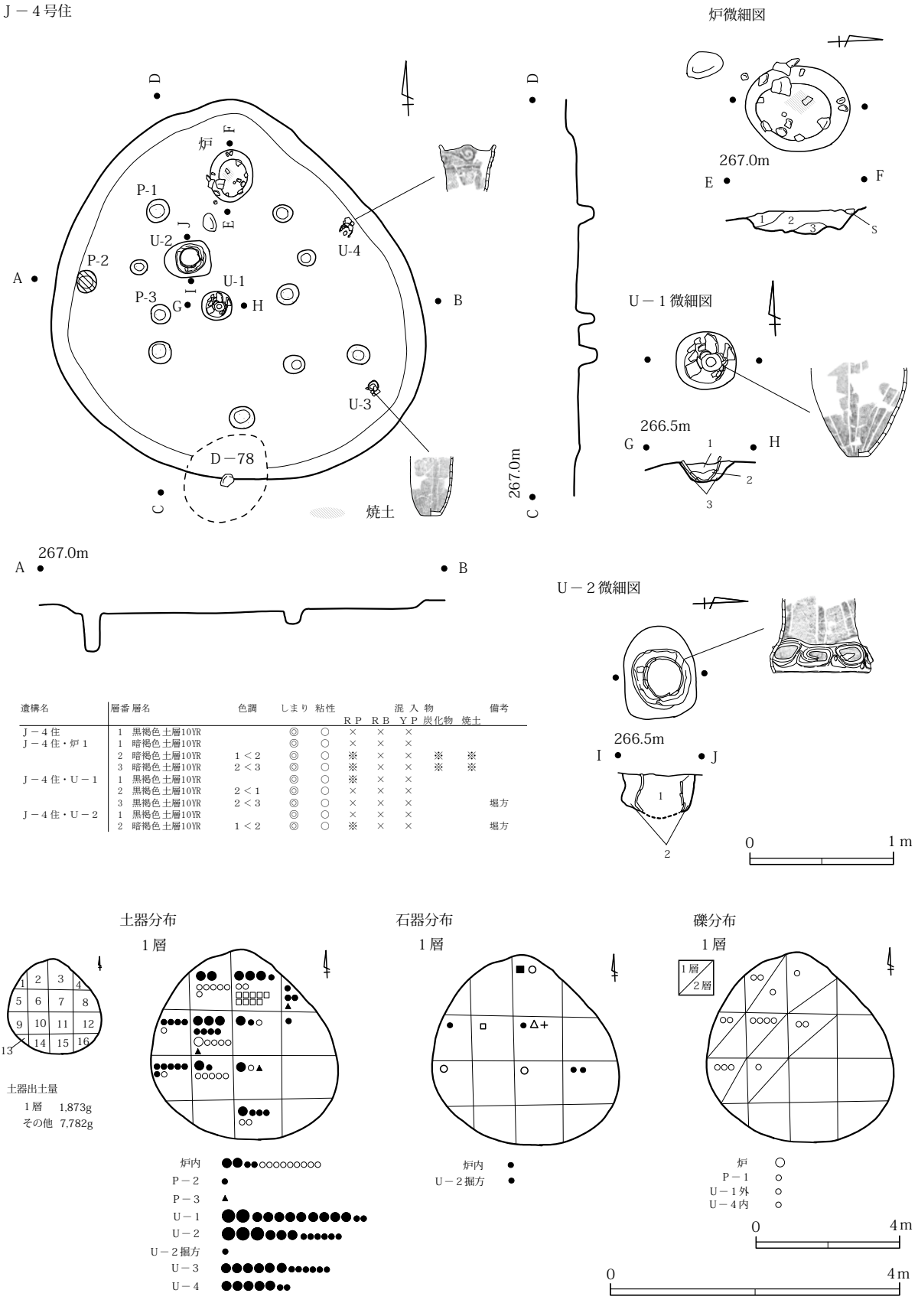


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭化物	備考
Ｊ－２住・U－１	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	※	
	3	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		掘方
Ｊ－２住・U－２	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		掘方
D－34	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		
D－35	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		

第14図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－２号住居址実測図

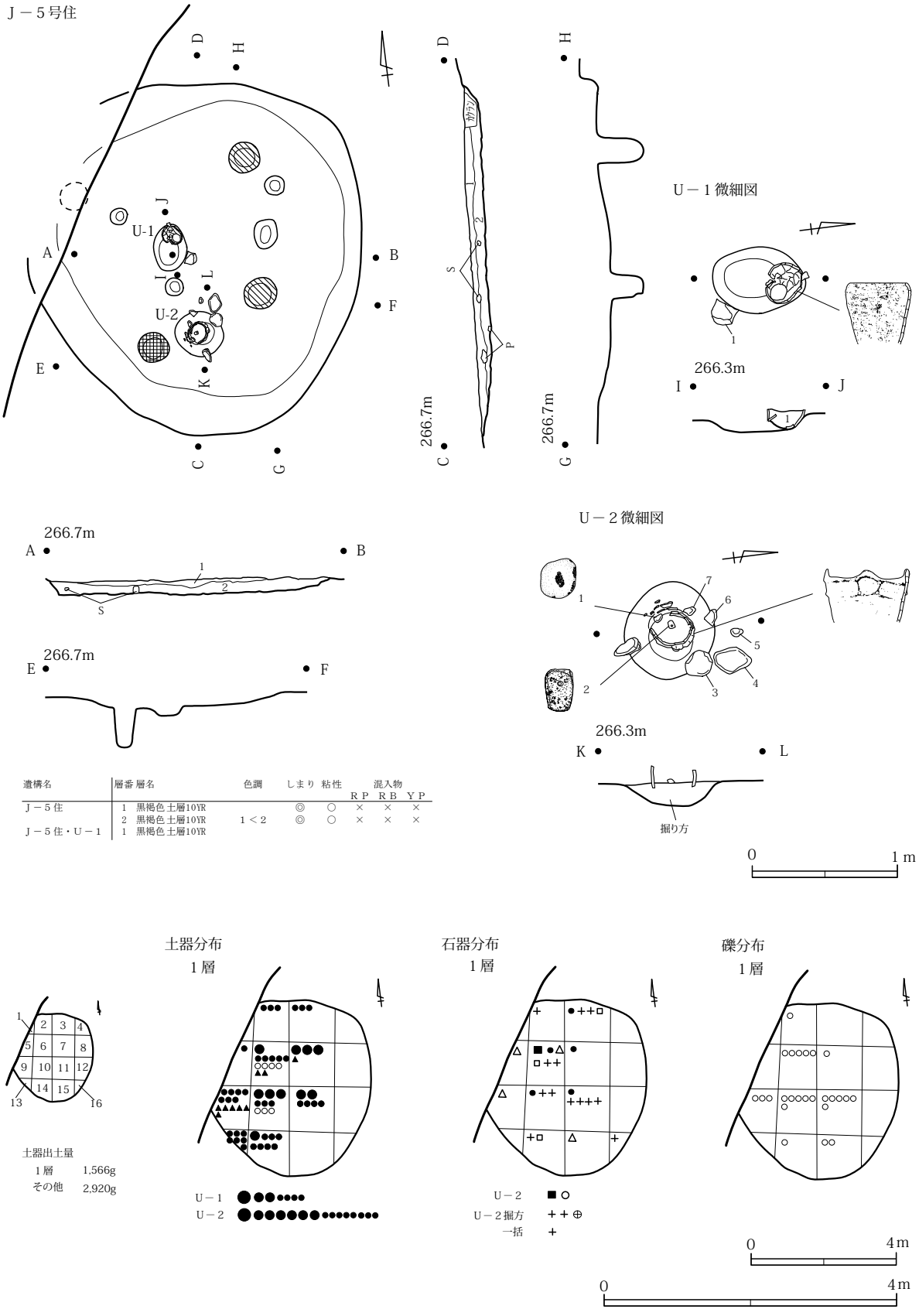


第15図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－３号住居址実測図



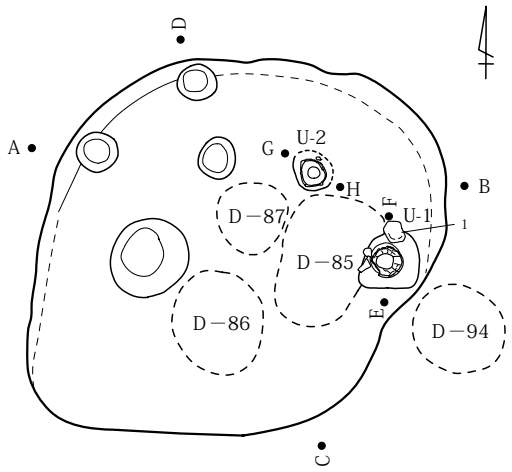
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭化物	焼土	備考
Ｊ－４住	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×			
Ｊ－４住・炉１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	※	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	※	※	
Ｊ－４住・Ｕ－１	1	黒褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×			
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	◎	○	×	×	×			堀方
Ｊ－４住・Ｕ－２	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×			堀方

第16図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－４号住居址実測図

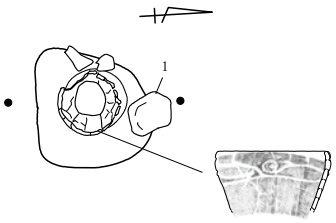


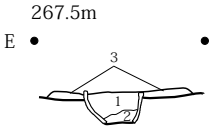
第17図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－５号住居址実測図

Ｊ－６号住

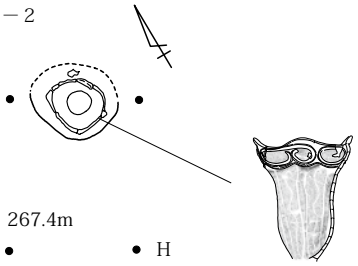


Ｕ－１微細図

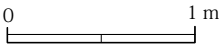


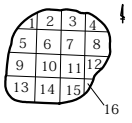


Ｕ－２



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RＰ	RＢ	ＹＰ	炭化物
Ｊ－６住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	×	×	×	
Ｊ－６住・Ｕ－１	1	黒褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	×
	3	黒褐色土層10YR	3＜1	◎	○	×	×	×	×

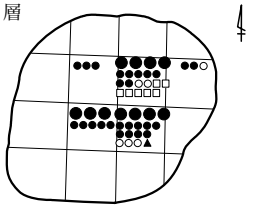


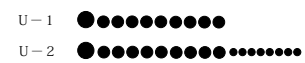


土器出土量

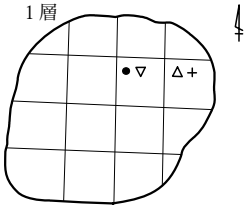
1層	1,492g
その他	3,880g

土器分布
1層



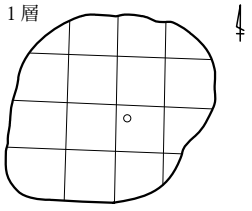


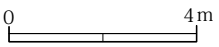
石器分布
1層

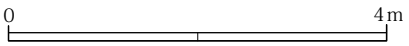


U－2

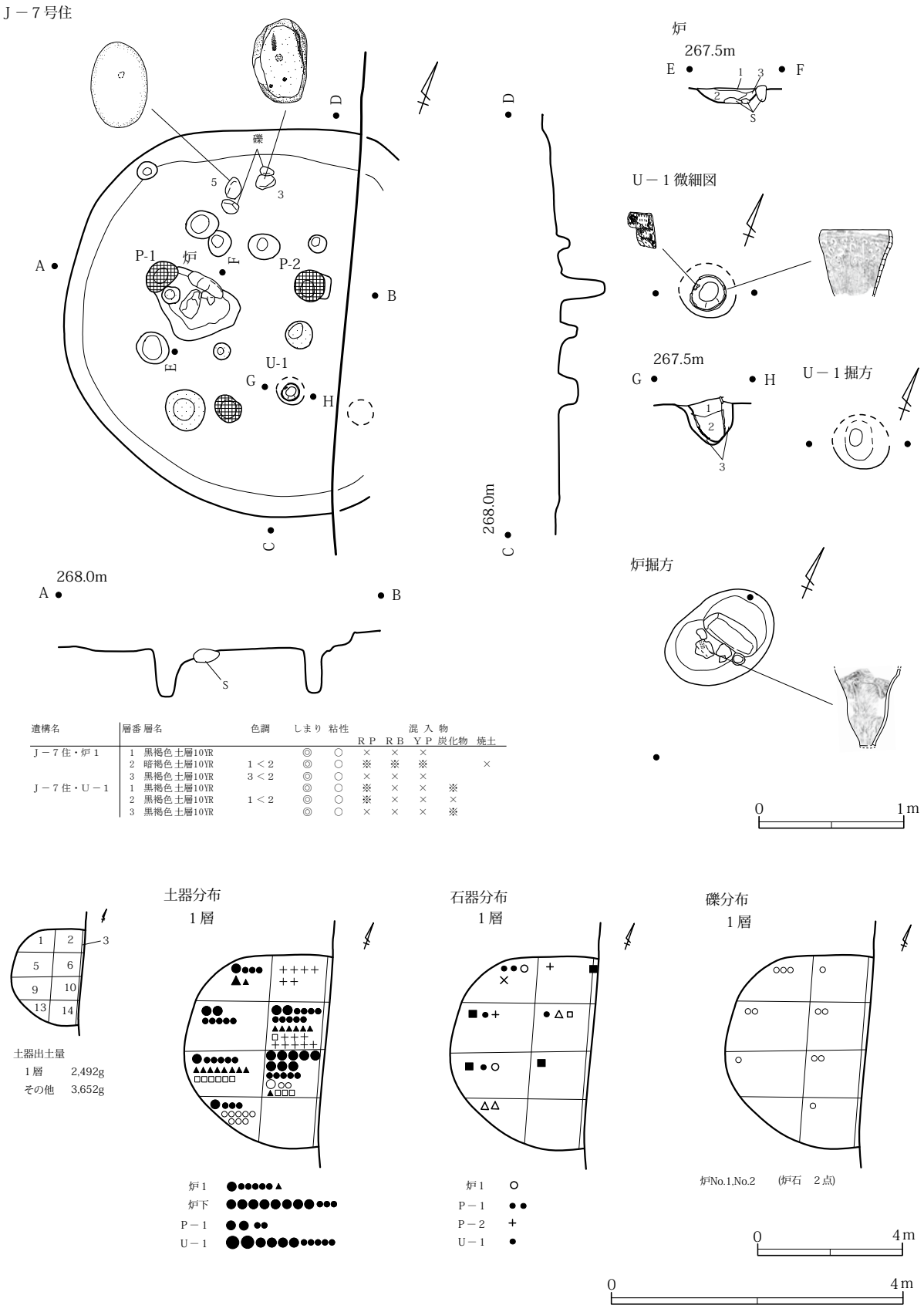
礫分布
1層



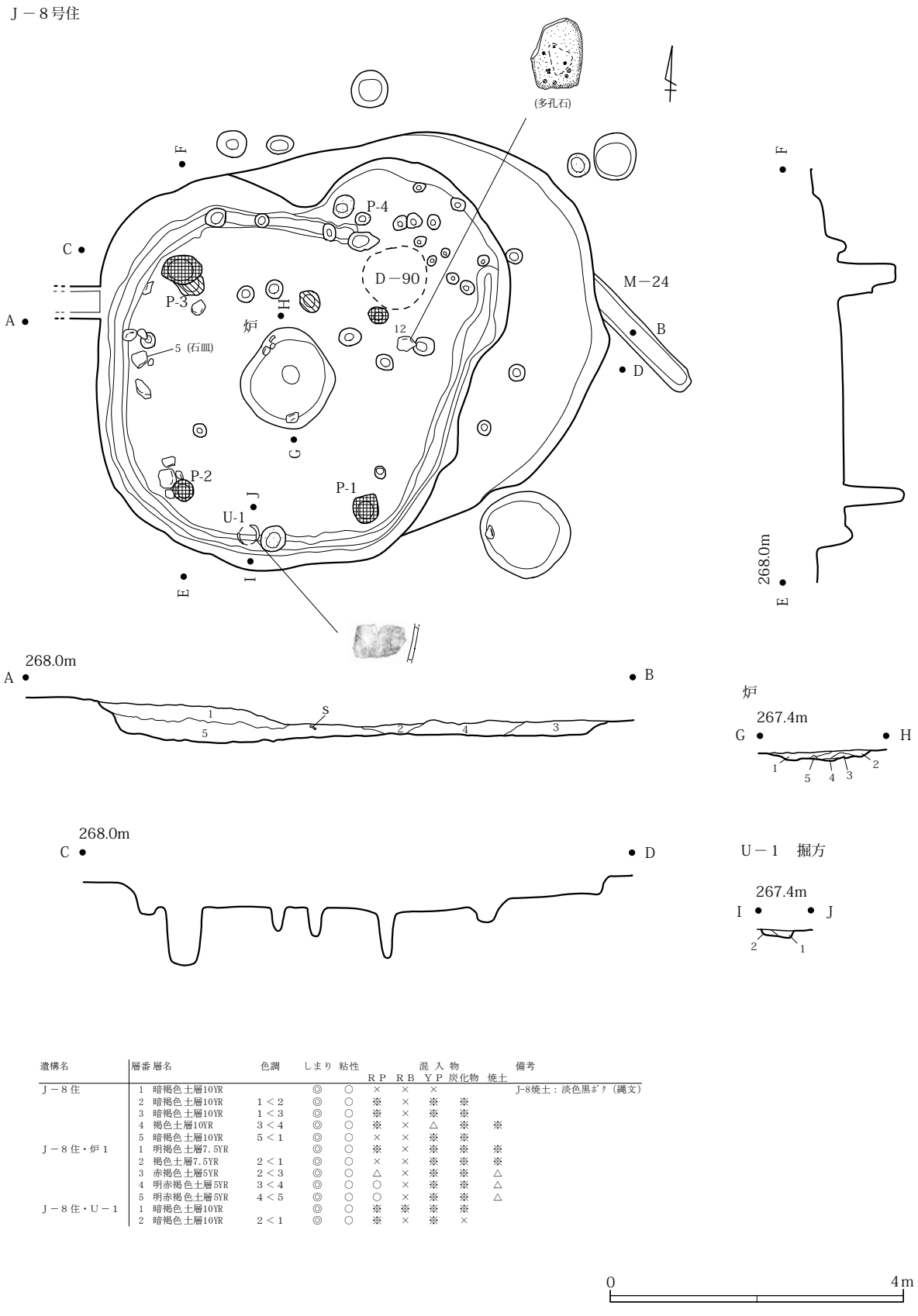




第18図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－６号住居址実測図

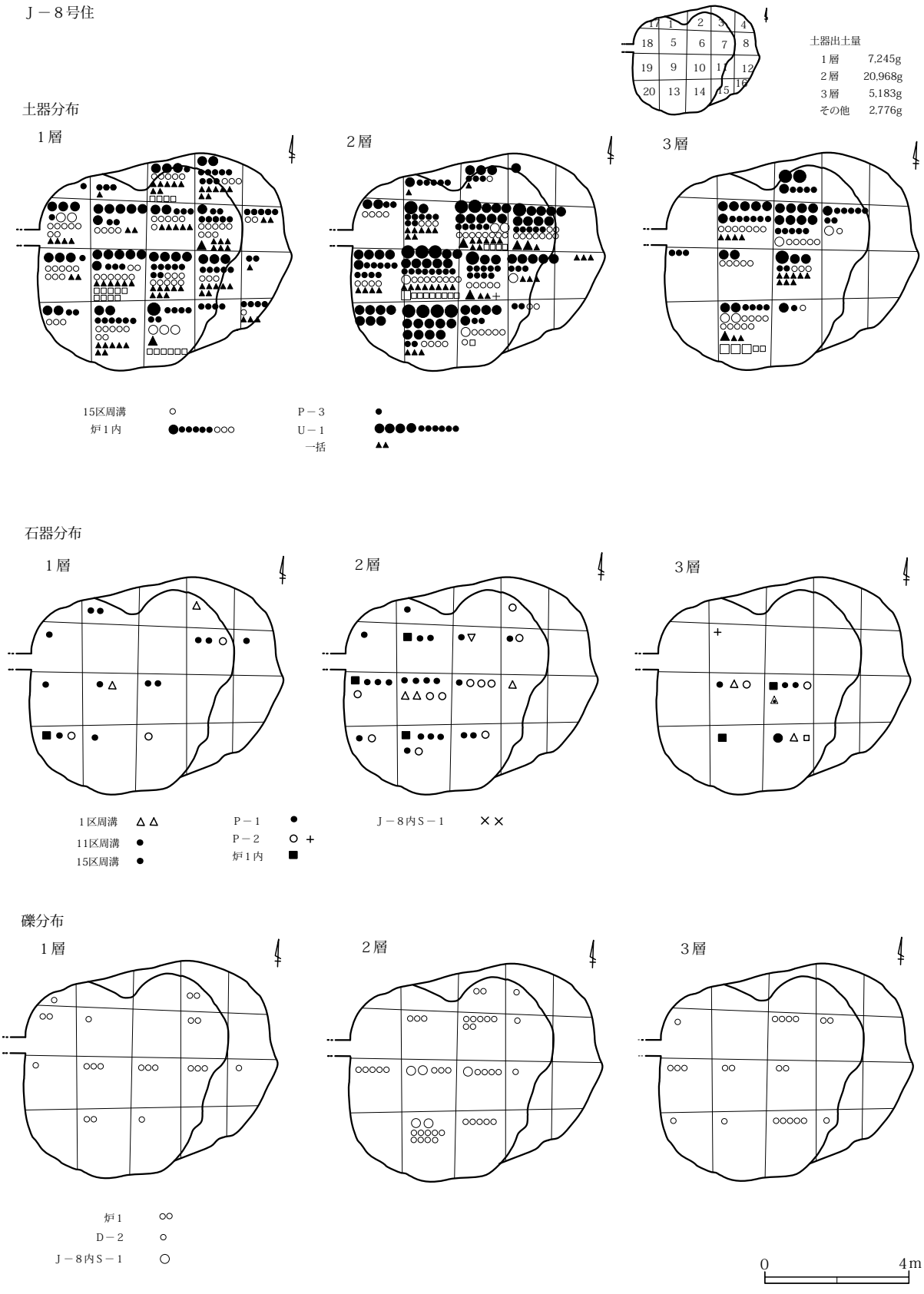


第19図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－７号住居址実測図



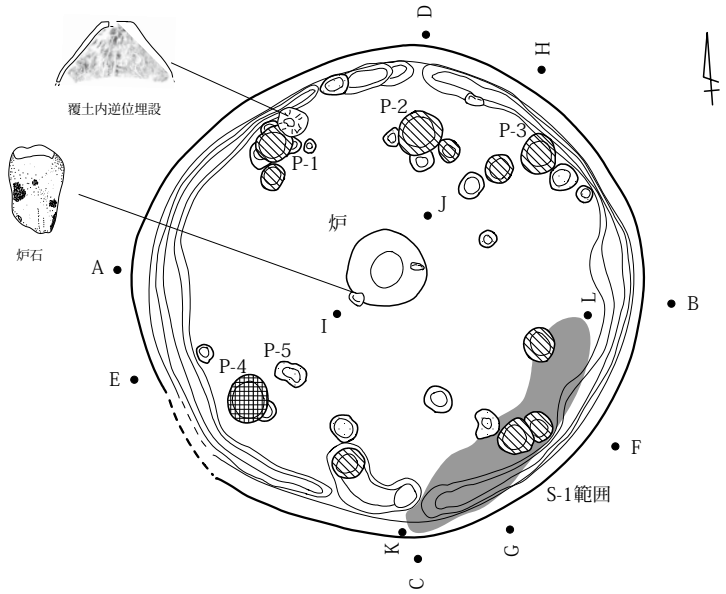
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭化物	焼土	備考
Ｊ－８住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×			J-8焼土：淡色黒ﾎﾟｸ（縄文）
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※	※		
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	※	※		
	4	褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	△	※	※	
	5	暗褐色土層10YR	5＜1	◎	○	×	×	※	※		
Ｊ－８住・炉１	1	明褐色土層7.5YR		◎	○	※	×	※	※	※	
	2	褐色土層7.5YR	2＜1	◎	○	×	×	※	※	※	
	3	赤褐色土層5YR	2＜3	◎	○	△	×	※	※	△	
	4	明赤褐色土層5YR	3＜4	◎	○	○	×	※	※	△	
	5	明赤褐色土層5YR	4＜5	◎	○	○	×	※	※	△	
Ｊ－８住・Ｕ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	※	※	※		
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	※	×		

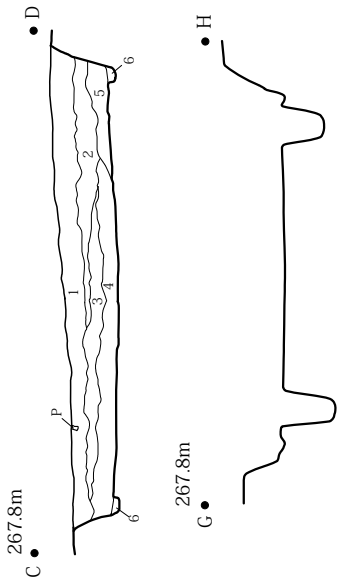
第20図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－８号住居址実測図（１）

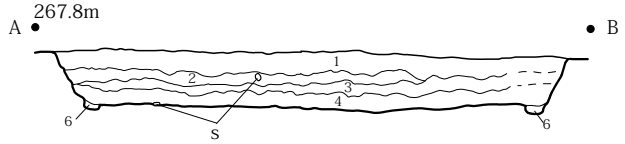


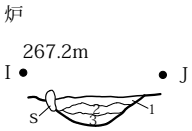
第21図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－８号住居址実測図（２）

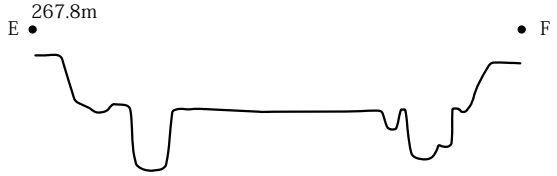
Ｊ－９号住



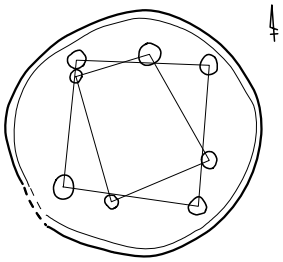




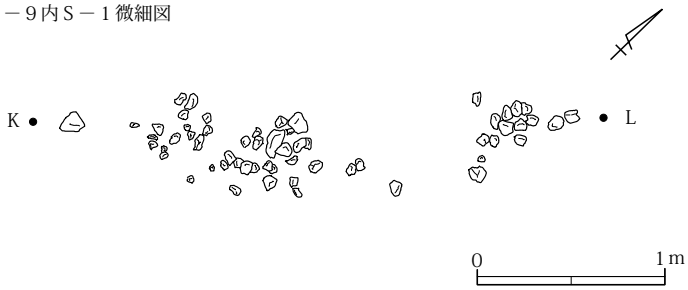




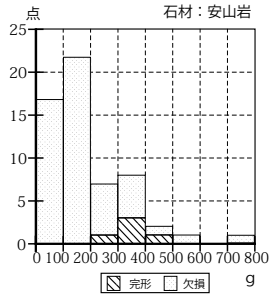
柱穴配置模式図

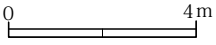


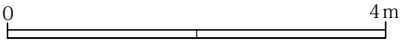
Ｊ－９内Ｓ－１微細図



Ｓ－１号集石礫重量度数分布



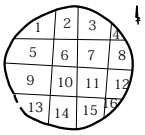




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭化物	焼土	備考
Ｊ－９住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	×	×	※	×	×	
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	×	×	※	※	※	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎ (堅い)	○	×	×	※	※	※	周溝
	6	褐色土層10YR	4＜6	◎	○	※	×	△	×	×	
Ｊ－９住・炉１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	※	※	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	△	※	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	×	×	△	×	×	

第22図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－９号住居址実測図（１）

Ｊ－９号住

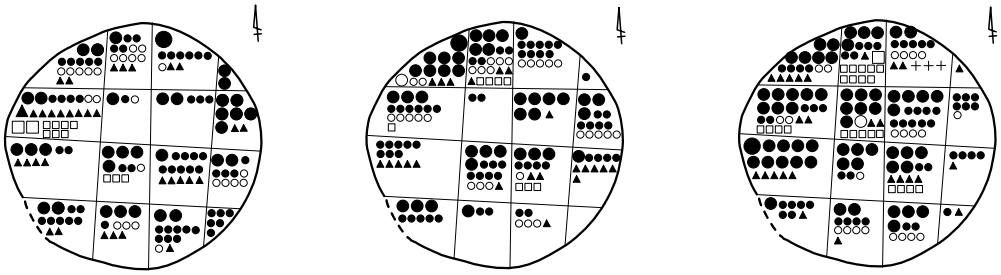


土器出土量

１層	5,271g
２層	5,618g
３層	8,001g
その他	1,734g

土器分布

１層　　２層　　３層

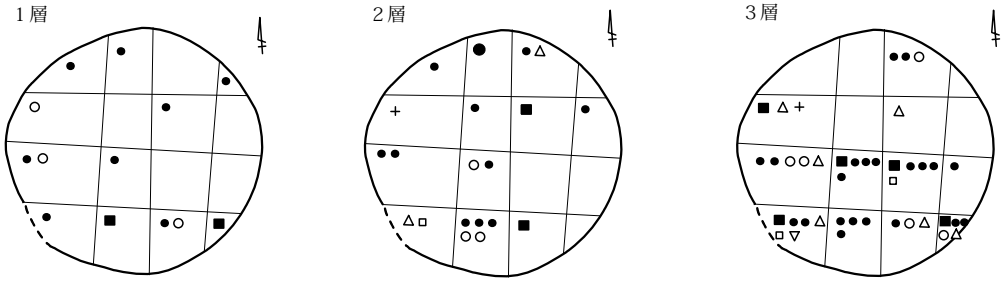


炉１内
炉１
15区周溝

P－１
P－２
P－３
P－４
P－５

石器分布

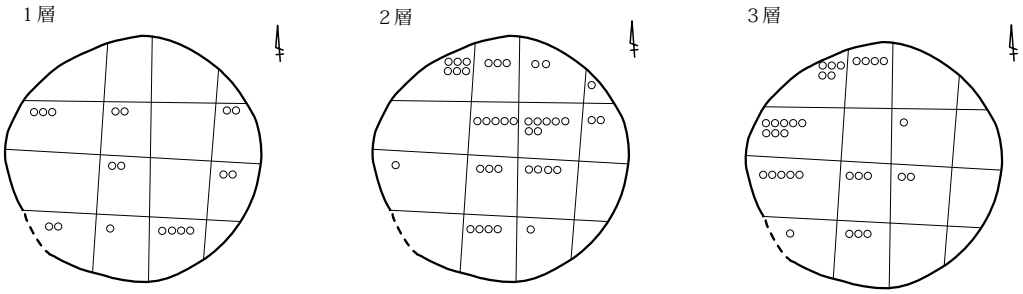
１層　　２層　　３層



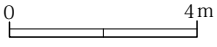
炉１
３区周溝
14区周溝
P－２
P－４
Ｊ－９内Ｓ－１
(No.1.No.3)

礫分布

１層　　２層　　３層

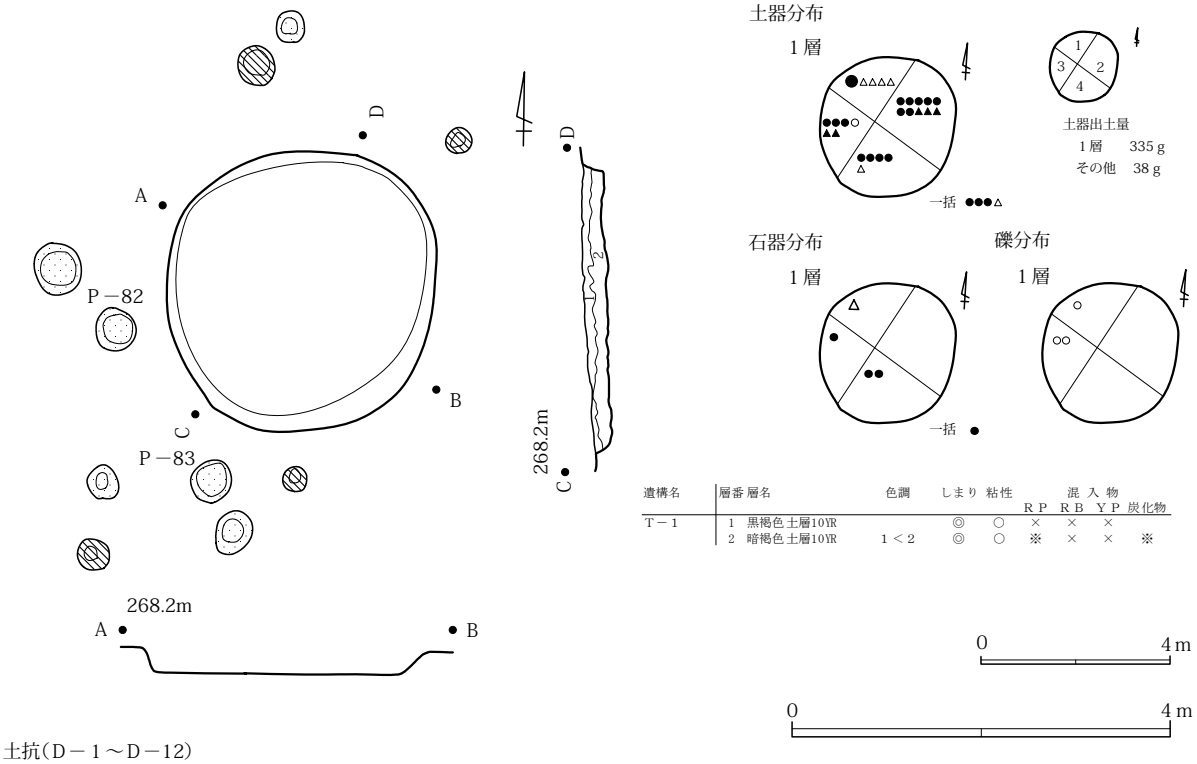


炉１
P－４
Ｊ－９内Ｓ－１
(レキ58点)



第23図　人見東原Ⅱ遺跡（縄文）Ｊ－９号住居址実測図（２）

T－1

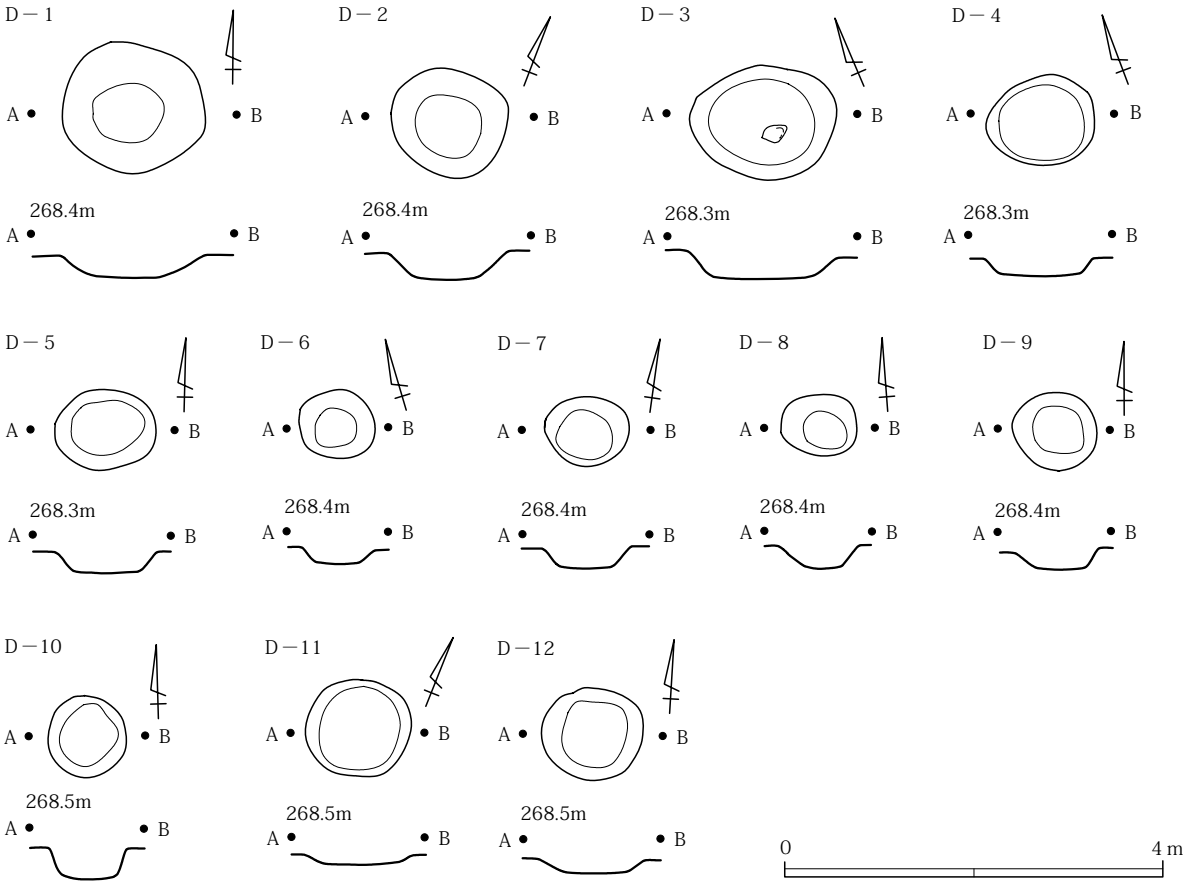


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭化物
T－1	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※

0　4m

0　4m

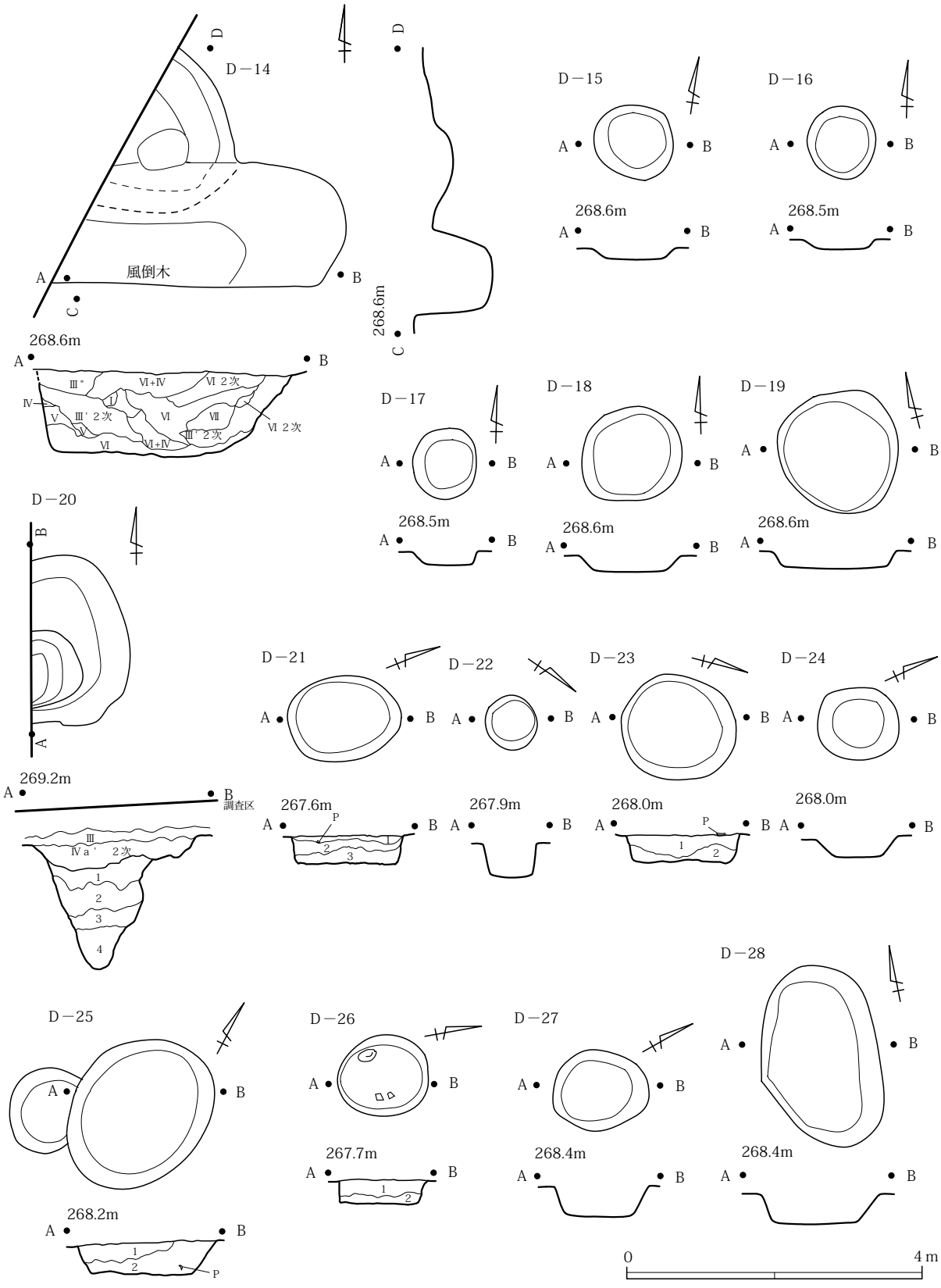
土抗(D－1～D－12)



0　4m

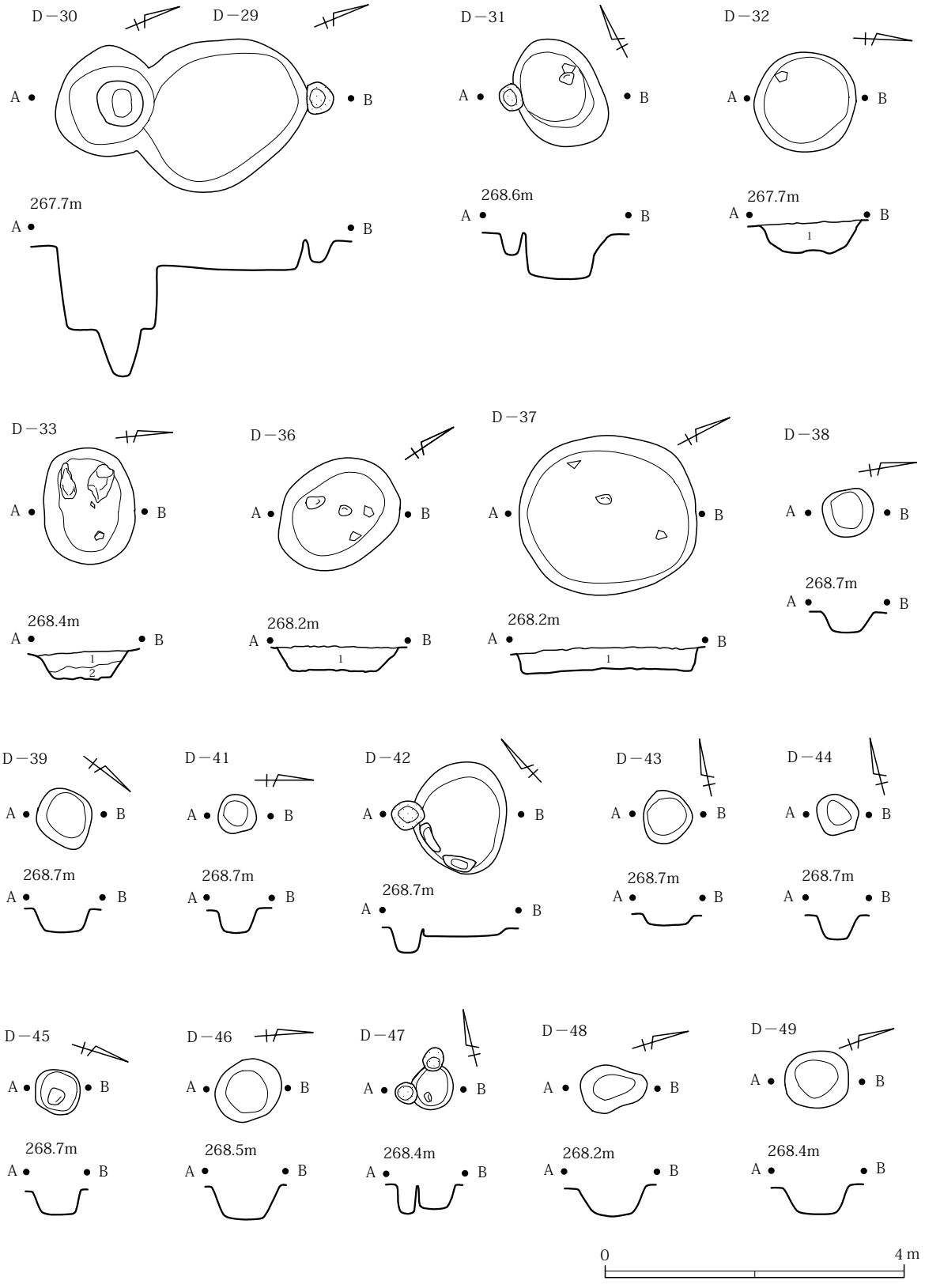
第24図　人見東原Ⅱ遺跡　竪穴状遺構実測図・土坑実測図（1）

土坑（D－14～D－28）

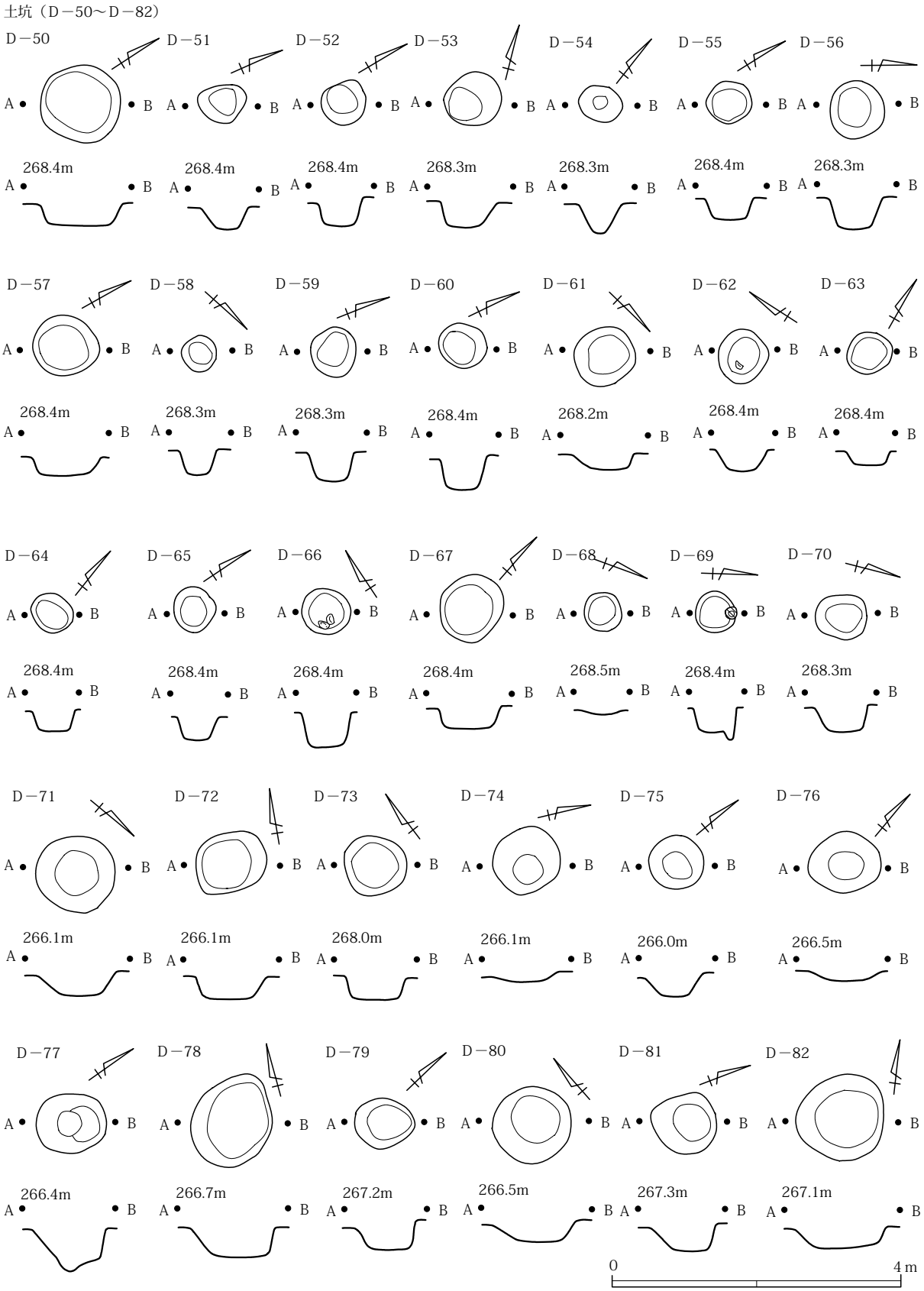


第25図　人見東原Ⅱ遺跡　土坑実測図（2）

土坑（D－29～D－49）

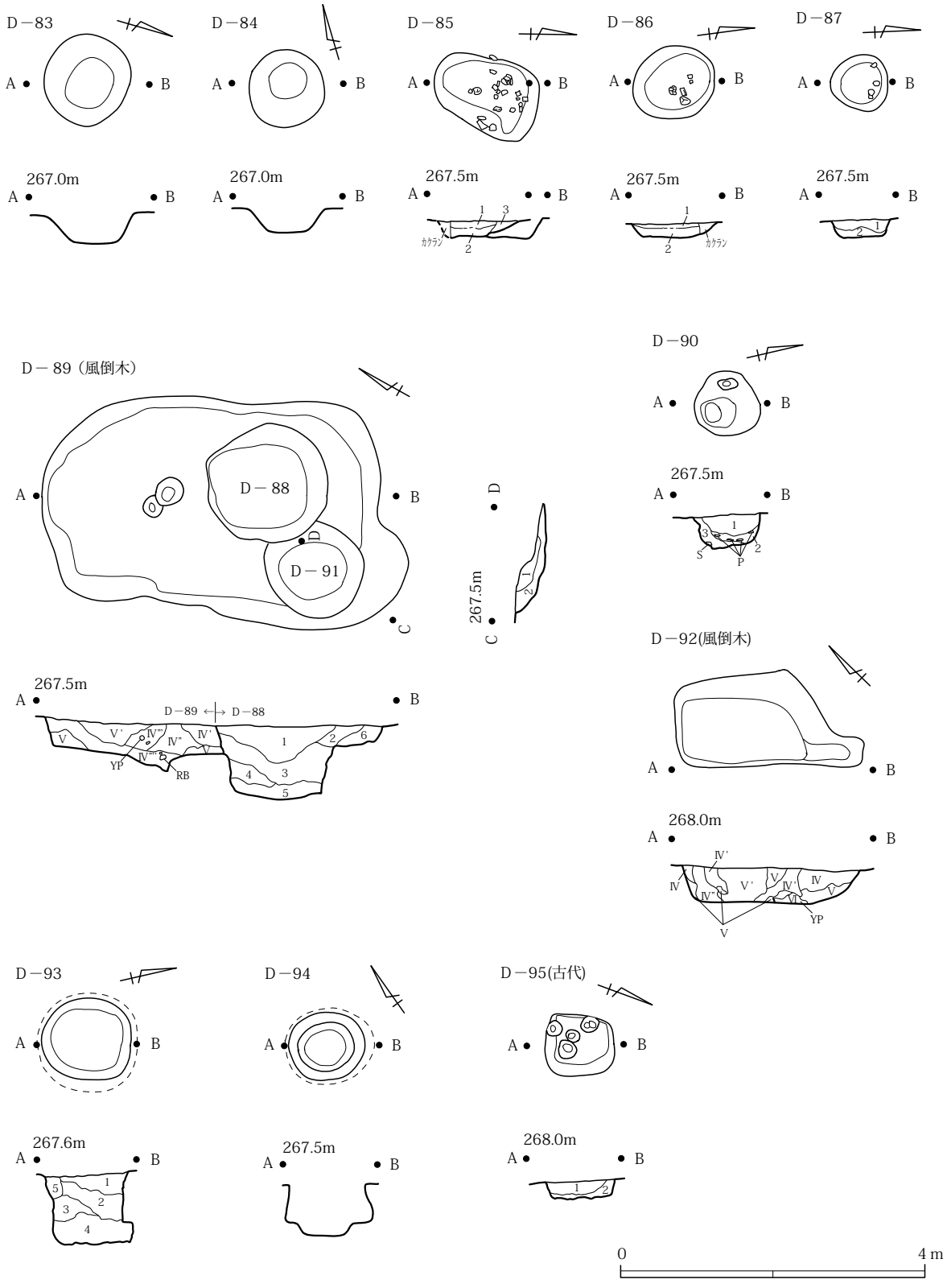


第26図　人見東原Ⅱ遺跡　土坑実測図（3）



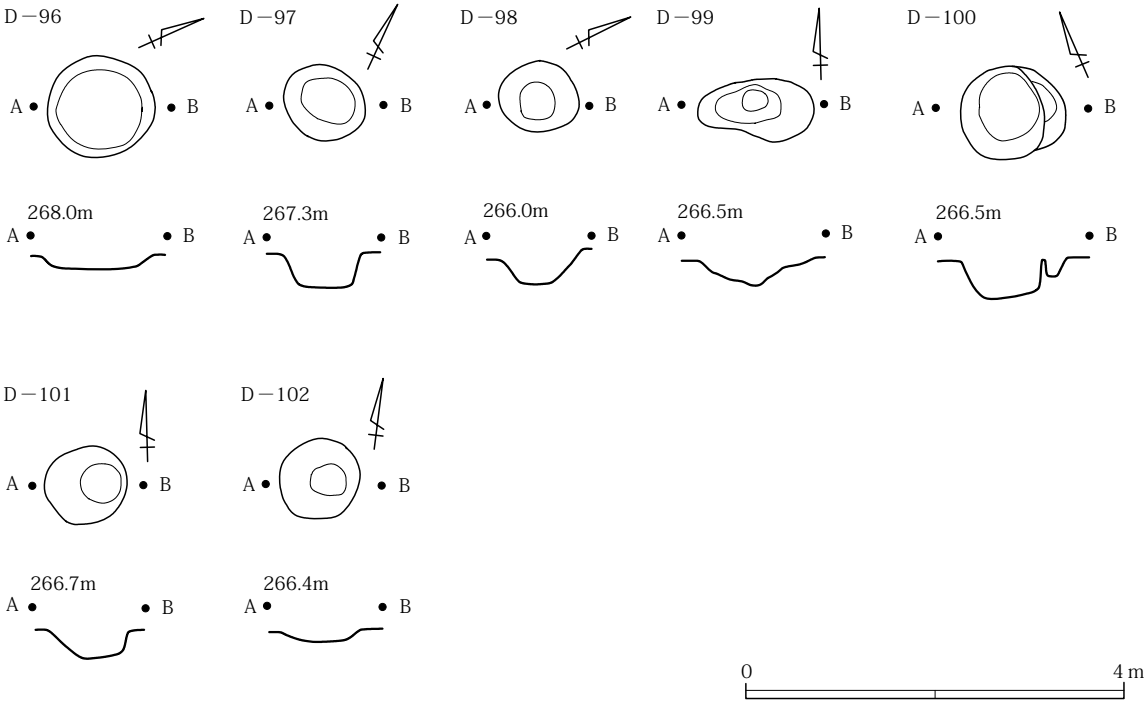
第27図　人見東原Ⅱ遺跡　土坑実測図（４）

土坑（D－83～D－95）



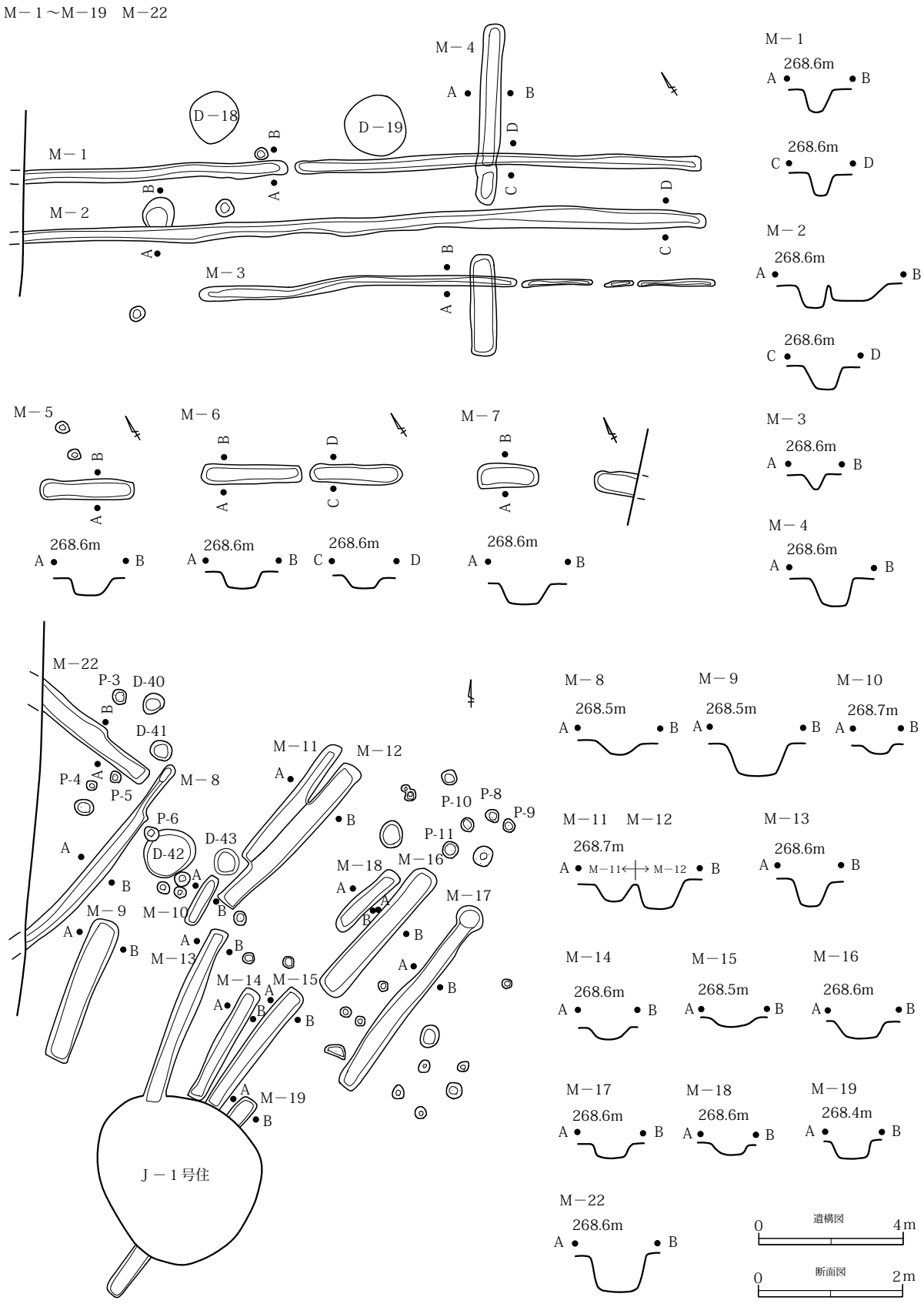
第28図　人見東原Ⅱ遺跡　土坑実測図（５）

土坑（D－96～D－102）

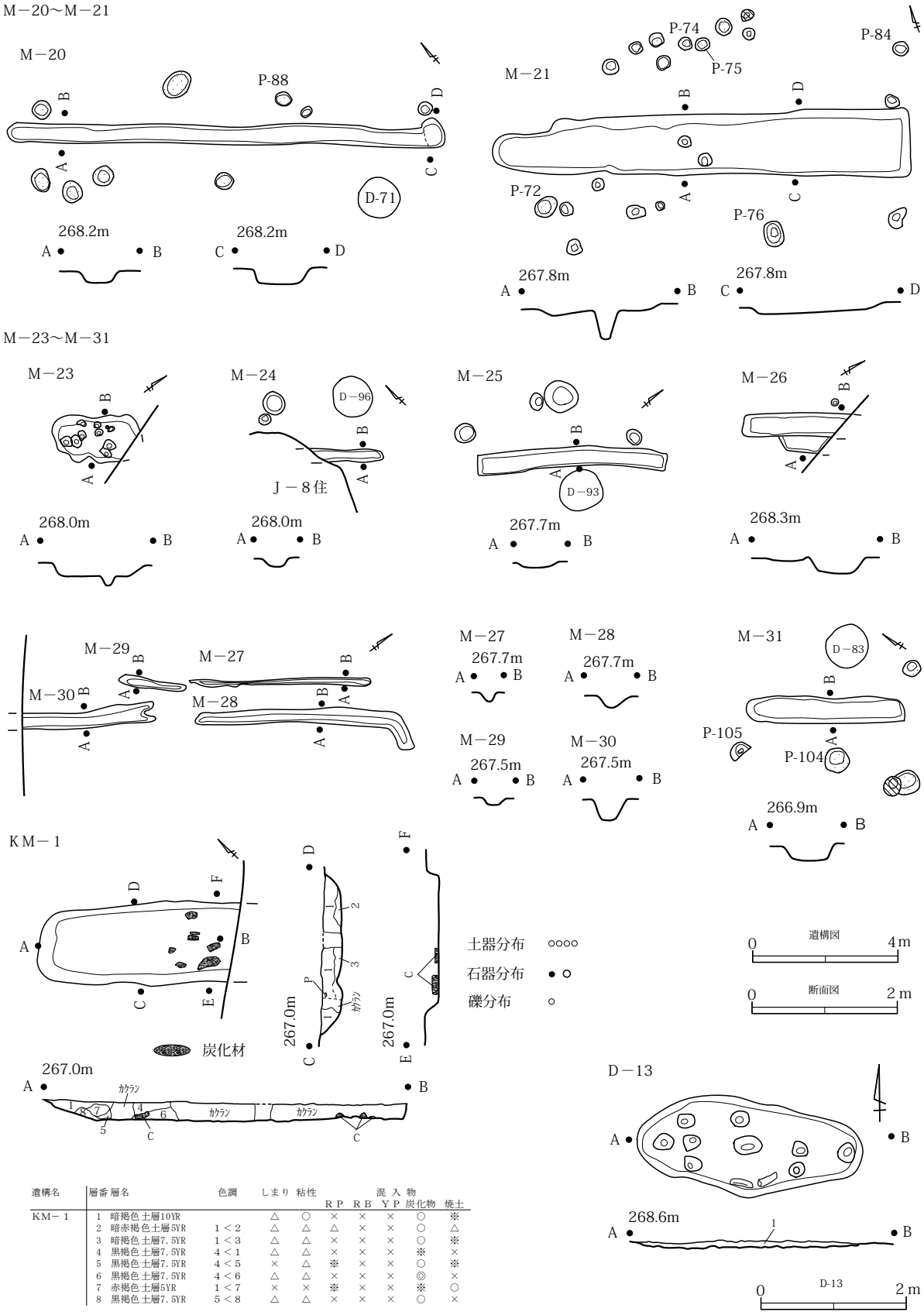


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭化物	備考
D－20	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	△		
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	○		
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	○		
	4	にぶい黄褐色土層10YR	3＜4	◎	○	○	×	○		
D－21	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	×	×	×		
D－23	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		
D－25	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		
D－26	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×		
D－27	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		
D－32	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
D－33	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		
D－36	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
D－37	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
D－85	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	※	
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	◎	○	×	×	×	※	別土坑
D－86	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		
D－87	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	※	
D－88	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	○	※	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	※		
	3	褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	◎	※	
	4	褐色土層10YR	4＜3	◎	○	※	×	○	※	
	5	褐色土層10YR	3＜5	◎	○	○	×	◎		
	6	暗褐色土層10YR	2＜6	◎	○	※	×	※	×	
D－89		自然層								風倒木
D－90	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	△	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	△	※	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	△	※	
D－91	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		
D－93	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	×	埋め戻し　中期
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	△	×	〃
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	※	×	〃
	4	黄褐色土層10YR	3＜4	◎	○	△	×	○	×	〃
	5	褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	V層地山ﾌﾞﾛｯｸ
D－95	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	×	焼土：Ⅳ層ﾌﾞﾛｯｸ※

第29図　人見東原Ⅱ遺跡　土坑実測図（6）



第30図　人見東原Ⅱ遺跡　溝実測図（1）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭化物	焼土
KM－1	1	暗褐色土層10YR		△	○	×	×	×	○	※
	2	暗赤褐色土層5YR	1＜2	△	△	△	×	×	○	△
	3	暗褐色土層7.5YR	1＜3	△	△	×	×	×	○	※
	4	黒褐色土層7.5YR	4＜1	△	△	×	×	×	※	×
	5	黒褐色土層7.5YR	4＜5	×	△	※	×	×	○	※
	6	黒褐色土層7.5YR	4＜6	△	△	×	×	×	◎	×
	7	赤褐色土層5YR	1＜7	×	×	※	×	×	※	○
	8	黒褐色土層7.5YR	5＜8	△	△	×	×	×	○	×

第31図　人見東原Ⅱ遺跡　溝（2）・炭焼窯実測図

2　人見西下原遺跡（第32～36図）

（1）概要

本遺跡は人見東原遺跡（古墳時代初頭集落）の東に位置し、南に緩く傾斜する平坦部に立地する。人見東原遺跡に隣接するため、集落の存在を予想していたが、トレンチによる確認調査では発見されず、縄文時代中期の遺構、遺物の存在を確認した。これをもとに本調査区を設定し、遺跡の範囲確認と包含層精査を実施したが、遺構、遺物ともに密度は薄いものの２か所（６Ｇ～６Ｏ、434～440と５Ｒ～６Ｂ、450～459のグリッドライン）の小規模な集中範囲を確認した。今回の人見西下原遺跡の調査によって遺構の広がりが、Ｂ区の南側の調査区外（工区外）へと伸びているものと推定される。

主な検出遺構は、縄文時代中期後半の加曽利ＥⅢ式期を主体とする竪穴状遺構２基、土坑48基（時期不明含む）、ピット群である。住居址は確認されなかった。確認面はⅣ層上面までバックホーで掘削し、人力により遺物出土が認められなくなるまで掘り下げを行った。土坑はＡ区とＢ区で集中が認められた。Ａ区の土坑群は、環状に分布する。Ｂ区の土坑群は、調査区南寄りに位置することから、集落は南に存在するものと推定される。Ａ区では、墓坑と考えられる竪穴状遺構を確認した。この遺構からは、赤色塗彩のある浅鉢が出土した。遺物は、調査区全域で出土した。特にＢ区南側において集中し、北へと徐々に薄くなる傾向が認められ、Ａ区とＢ区の間には、遺構及び遺物の空白地（Ｃ区）が存在することが判明した。遺物の種類は、遺構出土を除き、ほとんどが土器片であったが、完形個体も確認面で少数出土した。その他の遺構では、風倒木痕が数カ所確認された。人見東原Ⅱ遺跡と同様、北東のあるいは南東方向からの風によるものと思われる。時期は、土層の状況から古代以降と推定される。耕作溝あるいは復旧溝が数カ所検出された。覆土に浅間Ａ軽石を大量に含んでいるため、18世紀後半以降の所産と推定される。

（2）縄文時代の遺構

竪穴状遺構（第33図、第23表）

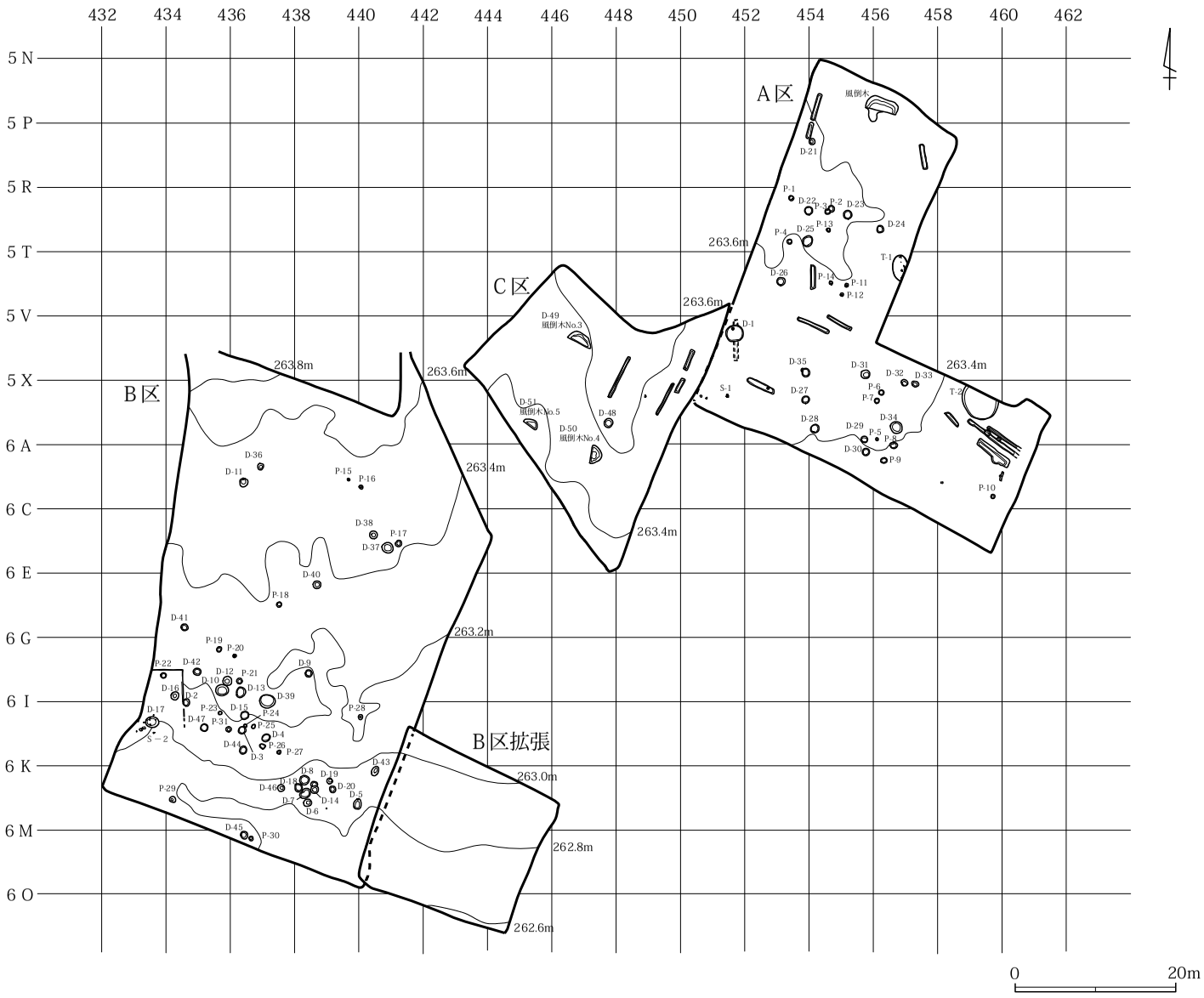
２基確認した。Ｔ－１号は赤色塗彩のある浅鉢を含む土器片、黒曜石、大形礫が覆土上部から出土した。出土状況から墓坑の可能性がある。Ｔ－２号は遺構の性格を特定づけるものはなく性格不明である。

集石（第33図、第23表）

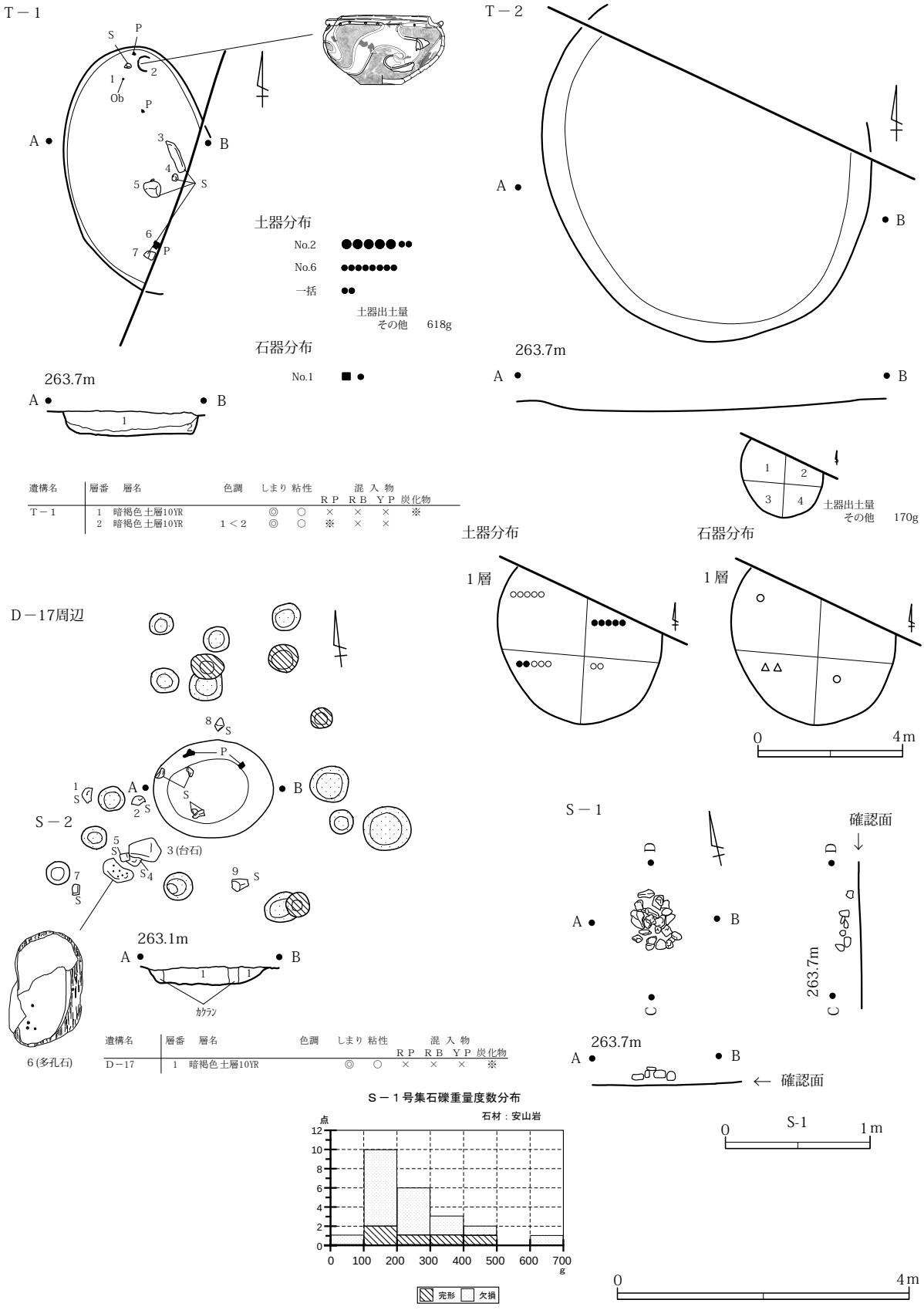
２基確認した。Ｓ－１号はⅣ層上部で検出され、掘り込みは確認されなかった。欠損した礫で構成されるが被熱はない。Ｓ－２号はＤ－17号とその周辺ピットで構成される住居の可能性がある遺構で、台石、多孔石、礫が分布する。Ｄ－17号の覆土中から炭化物が検出され、炉の可能性がある。

土坑（第33～36図、第35表）

48基確認した。ほとんどが時期・用途不明である。覆土は自然堆積によるものである。平面円形、断面鍋底形が主体である。Ｄ－１、13、15号等は、掘り込みが深く貯蔵穴の可能性がある。Ｄ－48号は覆土状況から、古代の可能性がある。

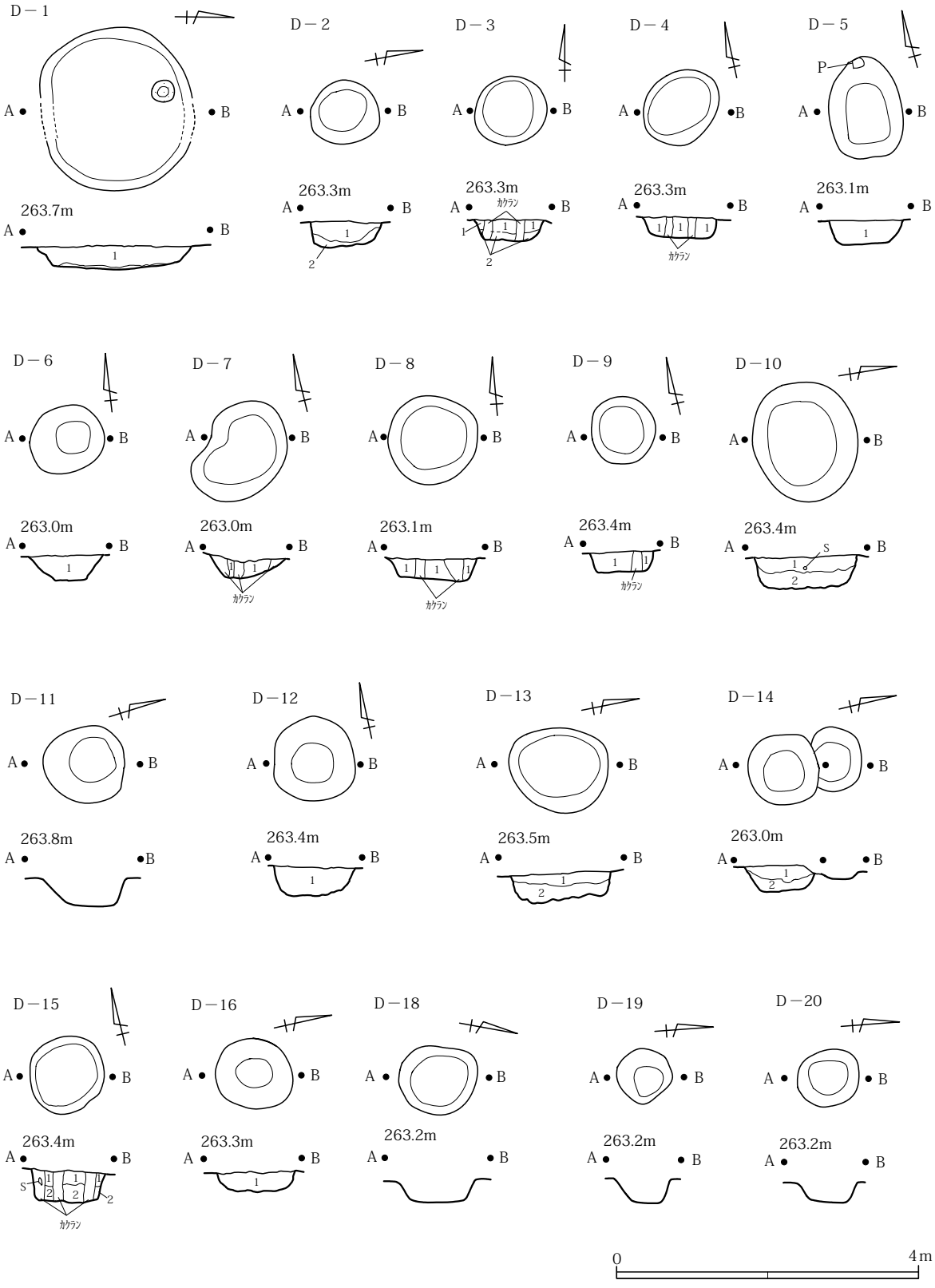


第32図　人見西下原遺跡　遺構配置図



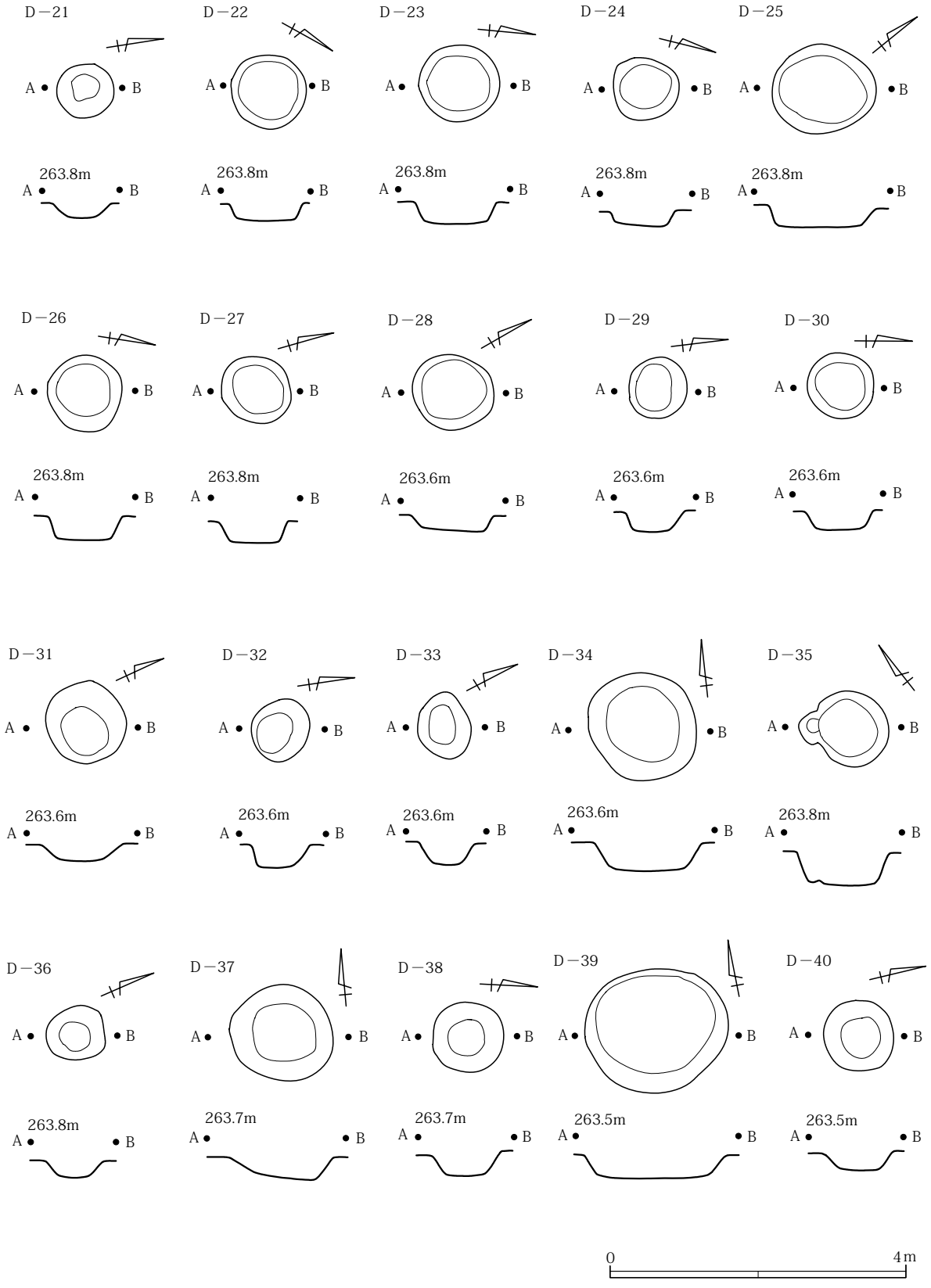
第33図　人見西下原遺跡（縄文）竪穴状遺構実測図・集石実測図

土坑(D－1～D－20)



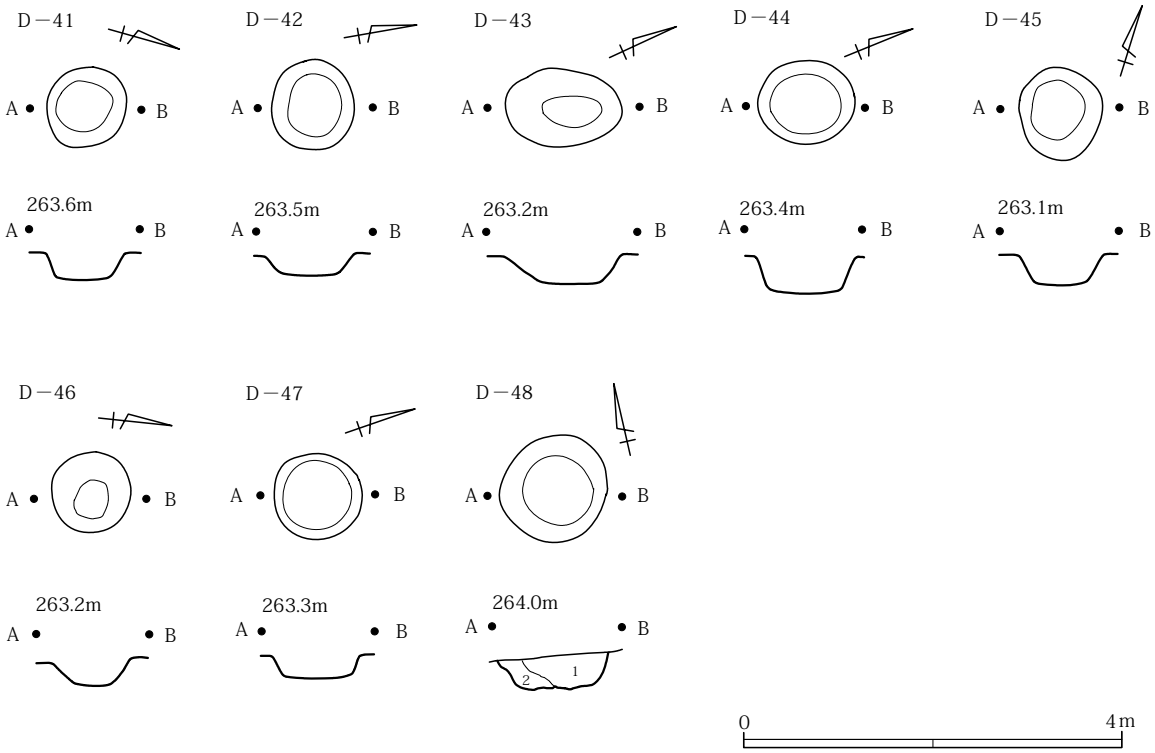
第34図　人見西下原遺跡　土坑実測図（1）

土坑(D－21～D－40)



第35図　人見西下原遺跡　土坑実測図（2）

土坑(D－41～D－48)



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭化物
D－1	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－2	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	
D－3	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	
D－4	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－5	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－6	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－7	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－8	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－9	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－10	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－12	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－13	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	
D－14	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	
D－15	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	
D－16	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－17	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※
D－48	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×	

第36図　人見西下原遺跡　土坑実測図（3）

3　人見枝谷津遺跡（第37～184図）

（1）概要

本遺跡群で最大規模となる遺跡である。遺跡は、東西に細長く延びる筋状の低地に挟まれた馬の背状台地に立地する。谷の深さは場所によって異なる。低地を挟んだ南にある台地には、人見東向原遺跡が存在する。両遺跡の間にある谷は、低地奥部は浅くなり、低地を囲む地形となる。谷の低地部は、随所で湧水が認められ、細い湿地となっている。一方、本遺跡の北側低地部分は、猫沢川の源流部まで延びており、南側低地より低地面が幅広で大きな谷を形成している。こうした地形が、「枝谷津」という地名に由来するものと考えられる。対象地区のほぼ全域に対するトレンチによる確認調査の結果、広範囲にわたって古墳時代の集落が存在する可能性が判明した。そこで、可能な限り集落の全面調査を目的とするため、トレンチによる集落の範囲確認を併用して、集落の全面調査に踏み切った。発掘調査では、古墳時代の集落以外に、縄文時代と古代の集落、古代の道路状遺構の存在が明らかとなった。

発掘調査は、平成19年度は、Ａ区の古墳時代の集落について調査を行った。平成20年度前半はＡ区の２次調査として全時期の遺構（集落と道路）について調査を行った。平成20年度後半は、Ｃ区の溝群について調査を行った。平成21年度前半は、Ｃ区の２次調査とＤ区の道路状遺構の調査を行った。平成22年度前半は、Ｄ区の道路状遺構の調査を行った。

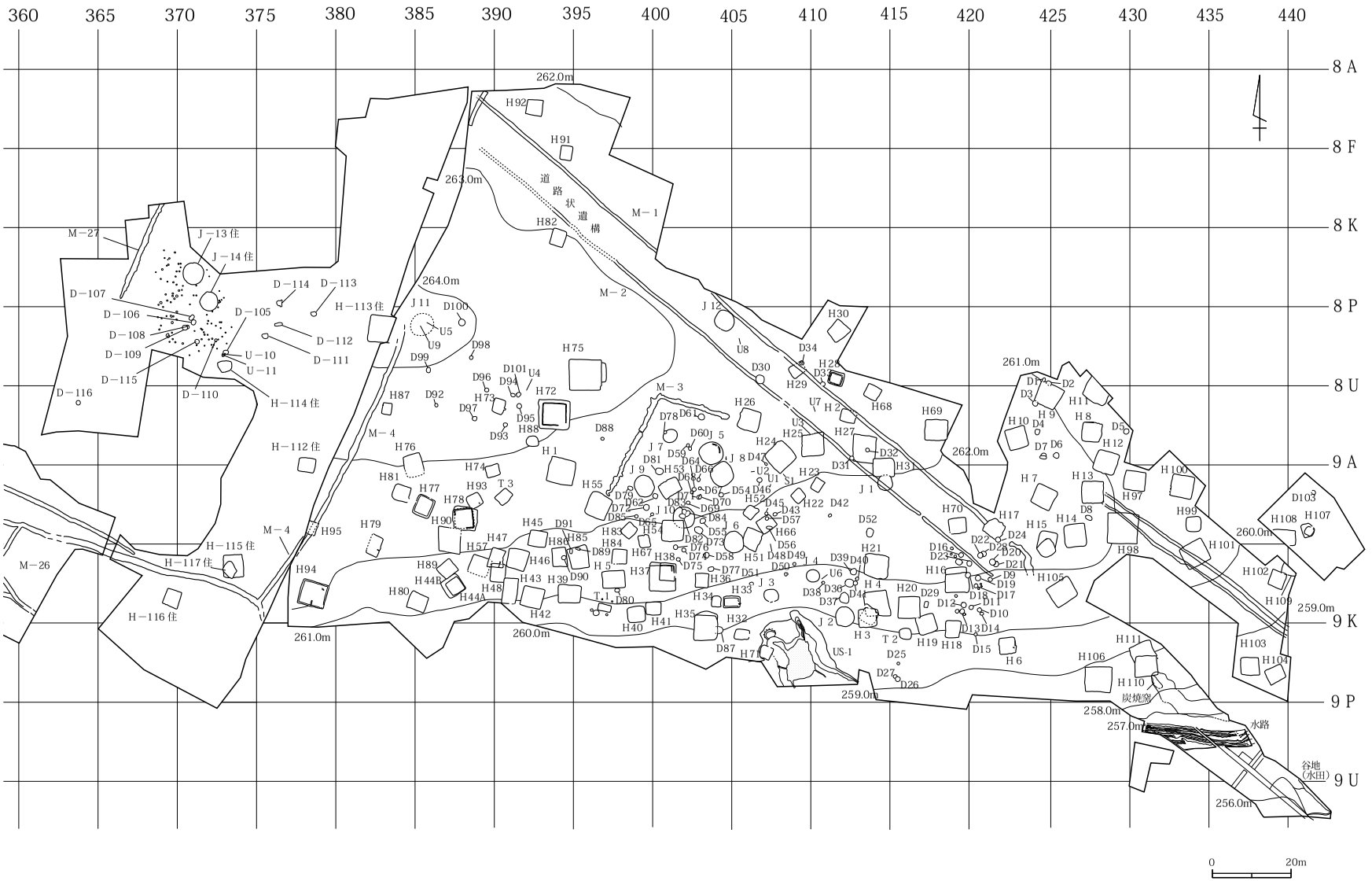
縄文時代では、中期後半加曽利ＥⅢ式期を主体とする集落が確認された。主な検出遺構は、住居址14軒、集石１基、土坑20基、埋設土器９基（住居内除く）である。出土遺物は、中期集落の内と遺構周辺で出土したが、特に目立った集中範囲は認められなかった。遺構外では、広範囲で少数分布がみられた。また、縄文集落と重複する他時期の住居址等の遺構覆土内では、遺物の混入がみられた。

縄文集落は、Ａ区、Ｃ区においてＡ群（350～415グリッドライン）、Ｂ群（385～390グリッドライン）、Ｃ群（370～375グリッドライン）で、それぞれの群の周辺において遺構が少数分布するものの、概ねこの３群で完結する分布状況であった。遺跡全体では、環状集落の形成まで至らず、Ａ群のように数軒の住居址が狭い範囲で不規則的に分布することが明らかとなった。また、Ｃ群では深さと構造が異なる住居址が、それぞれで２軒一対となっていた可能性が確認された。集落の時期は、人見東原Ⅱ遺跡とほぼ同時期であり、集落形態も類似する。

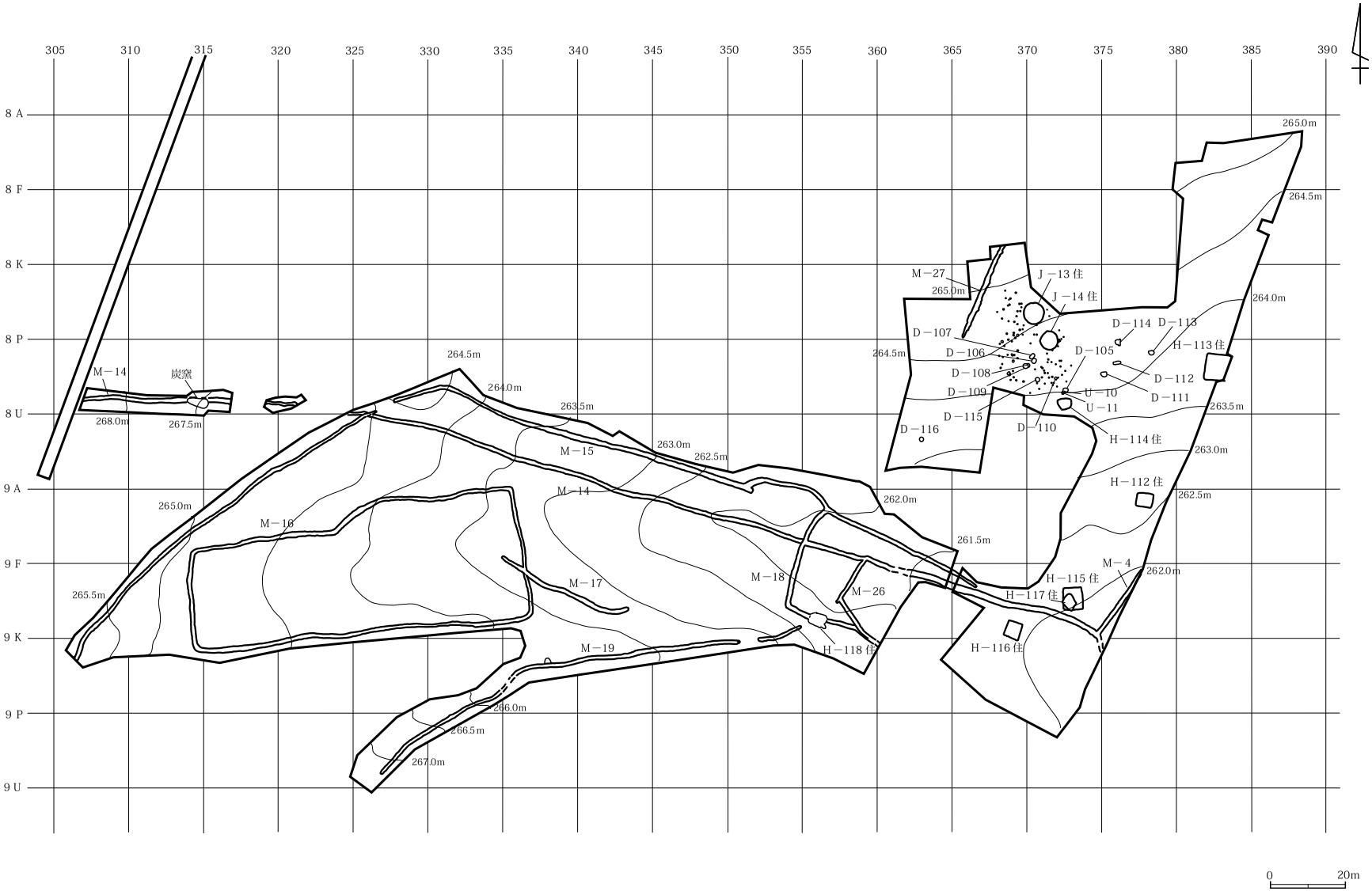
古墳時代では、前期後半から中期後半に掛けて継続する集落と断絶後に形成される後期前半の集落を確認した。また、低地を挟んで存在する人見東向原遺跡では、多数の同時期遺構群が確認され、南側谷地を囲んで大規模な集落が形成されていたことが判明した。主な検出遺構は、前期後半～中期前半の住居址97軒、後期の住居址３軒、竪穴状遺構８基、土坑59基、水場遺構１か所である。この時期にしては、土坑の多さが目立つのが特徴である。住居数では、中期後半以降、極端な住居址の減少がみられた。

調査当初、この時期とした溝については、その後の継続調査によって、古代に帰属し、時期を変更した。

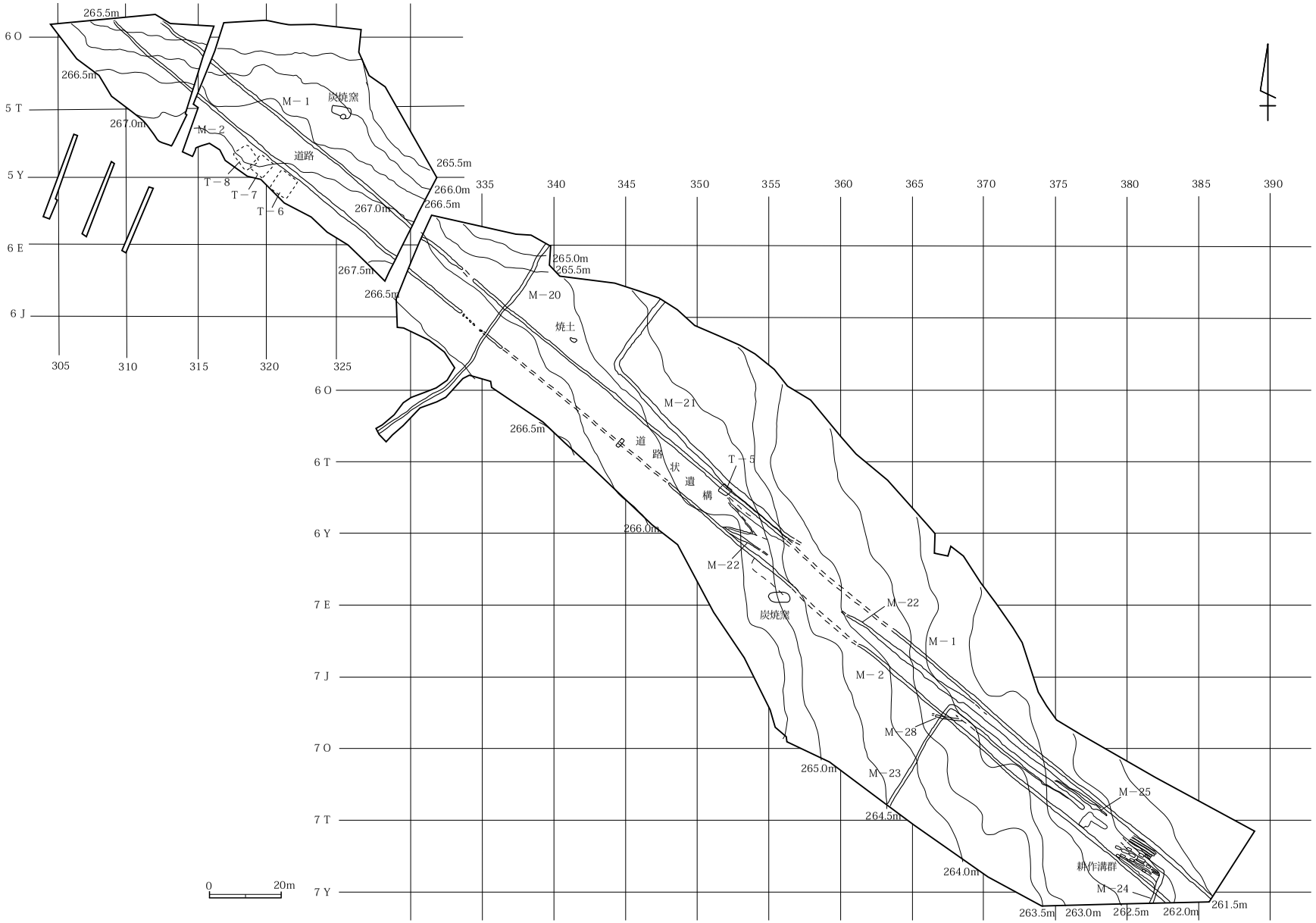
古代では、道路状遺構と集落を確認した。道路状遺構は、人見大谷津遺跡で確認した遺構と同一のもので、台地、低地を横切って斜めに延びていることが明らかとなった。この道路状遺構は、その後の発掘調査によって、枝谷津地区からさらに北西方向へと延び、中部地区を通過して崖端まで確認されている。集落の時期は、８世紀前半と10世紀後半から11世紀前半の二時期に限定される。両時期とも住居



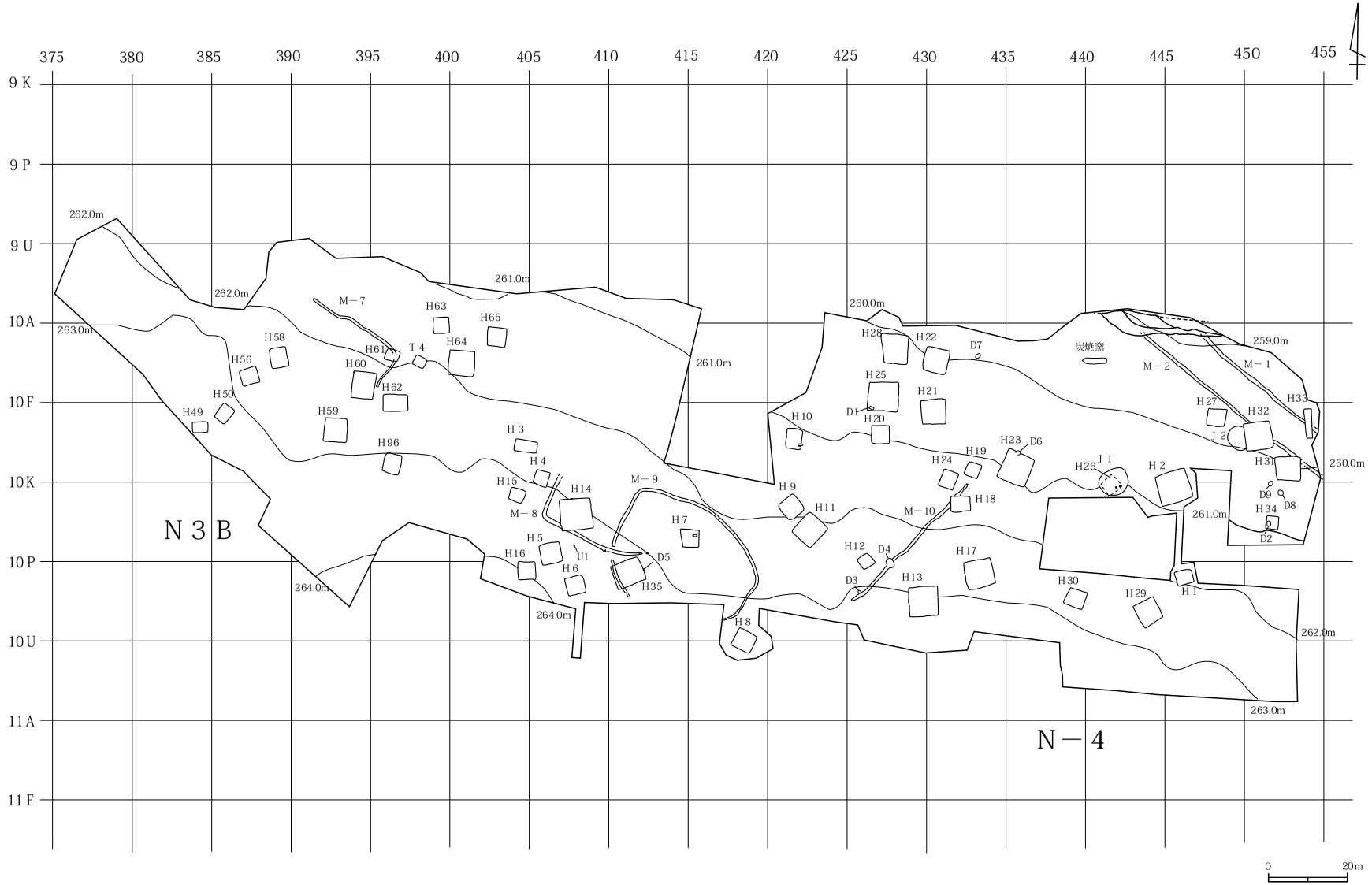
第37図　人見枝谷津遺跡Ａ・Ｃ区　遺構配置図



第38図　人見枝谷津遺跡Ｃ区　遺構配置図



第39図　人見枝谷津遺跡Ｄ・Ｅ区　遺構配置図



第40図　人見枝谷津遺跡Ｂ区・人見東向原遺跡　遺構配置図

址が広範囲に分散して形成されており、小規模集落であった可能性が確認された。古代の集落は、道路状遺構から離れて確認されており、住居の一部が同時期に相当する可能性があることから、この配置が意図的によるものか今後の検討が必要である。

（２）縄文時代の遺構

住居址（第41～54図、第６表）

14軒確認した。台地頂部はⅣ層上部まで削平され、住居の一部も影響を受けていたが、斜面部では、Ⅳ層上部からの確認であった。時期は、全軒中期後半の加曽利ＥⅢ式期である。住居址は、３つの形態に大別され、深さによって構造が異なるが、円形で竪穴が基本である。炉は、床中央に石囲炉が設けられるのが主体で、Ｊ－４、13号では底面に小礫が多数敷き詰められた構造である。埋設土器は、炉あるいは壁面、周溝にある。Ｊ－８号では、床面２か所に埋設土器が存在する。両基とも掘方は土器の大きさに合わせて狭く、逆位（曽利系）と正位（加曽利Ｅ系）に分けられ、土器の系統で差がある。覆土内に埋設された土器がＪ－13号で認められた。土器は潰れたていたが、大形礫が数個土器上部にあることから、墓の可能性が考えられる。Ｊ－７号は、掘り込みが浅く、プランが明確ではないタイプで、中央部に礫が平面的に多数集中する。脇には埋設土器が存在し、浅いピットが周辺に分布することにより、住居状の遺構とした。同様な形態は、Ｊ－11号で床面に小礫が散布し、埋設土器が２か所存在する。Ｊ－13、14号は、異なる形態の住居が同時併存した事例として重要である。

土坑（第55・56図、第36表）

20基確認した。古墳時代の土坑と分布が重なるが、覆土の色調、硬度で区別した。土坑は、住居址に近接するものが多いが、土坑群を形成するほどの規模ではない。平面円形、断面鍋底が主体だが、掘り込みが深いのは少ない。覆土からは土器小破片、石器、礫等が少数出土したのみで、機能を推定できる状況のものは少ない。

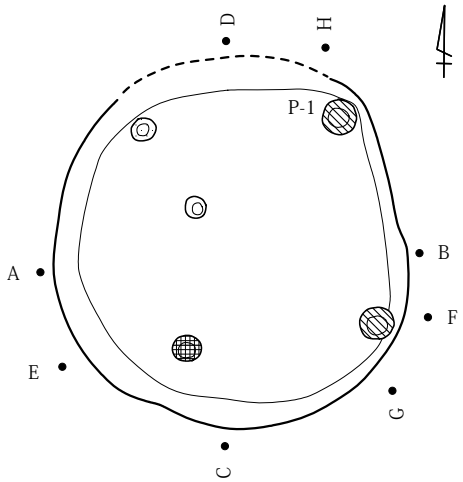
集石（第56図、第24表）

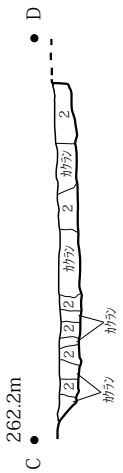
１基確認した。縄文遺構確認面で検出された。掘り込みはほとんど無い。小礫が平面的に密集して分布する。礫の被熱、周辺炭化物は認められなかった。確認状況により中期後半の所産と推定される。

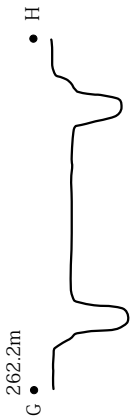
埋設土器（第57図、第24表）

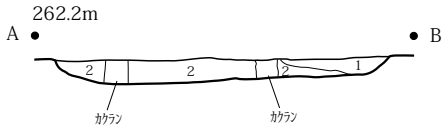
11基確認した。通常の土坑あるいは堀方をもつ遺構に土器が埋設されたものが主体である。土器の下半部あるいは上半部が欠失する。埋設土器内は、用途を推定できる状況はなかった。Ｕ－２号は、２個体の深鉢が重なり、その内側に器台が入っていた。Ｕ－３号は逆位の深鉢を直接地面に置くタイプで、同様な検出状況は、大下原遺跡、野村遺跡で認められる。Ｕ－６号は土坑内に置かれたものである。Ｕ－10・11号は、土坑内に2個体の土器が並んで出土した。本遺跡では、埋設土器の単独検出が多い。

Ｊ－１号住

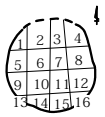








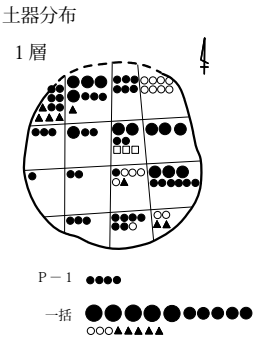
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	白色パラス
Ｊ－１号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	※	△

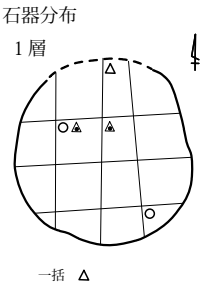


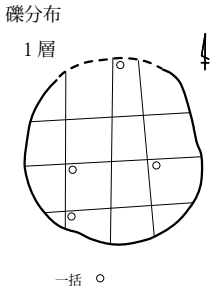
土器出土量

1層　1,935g

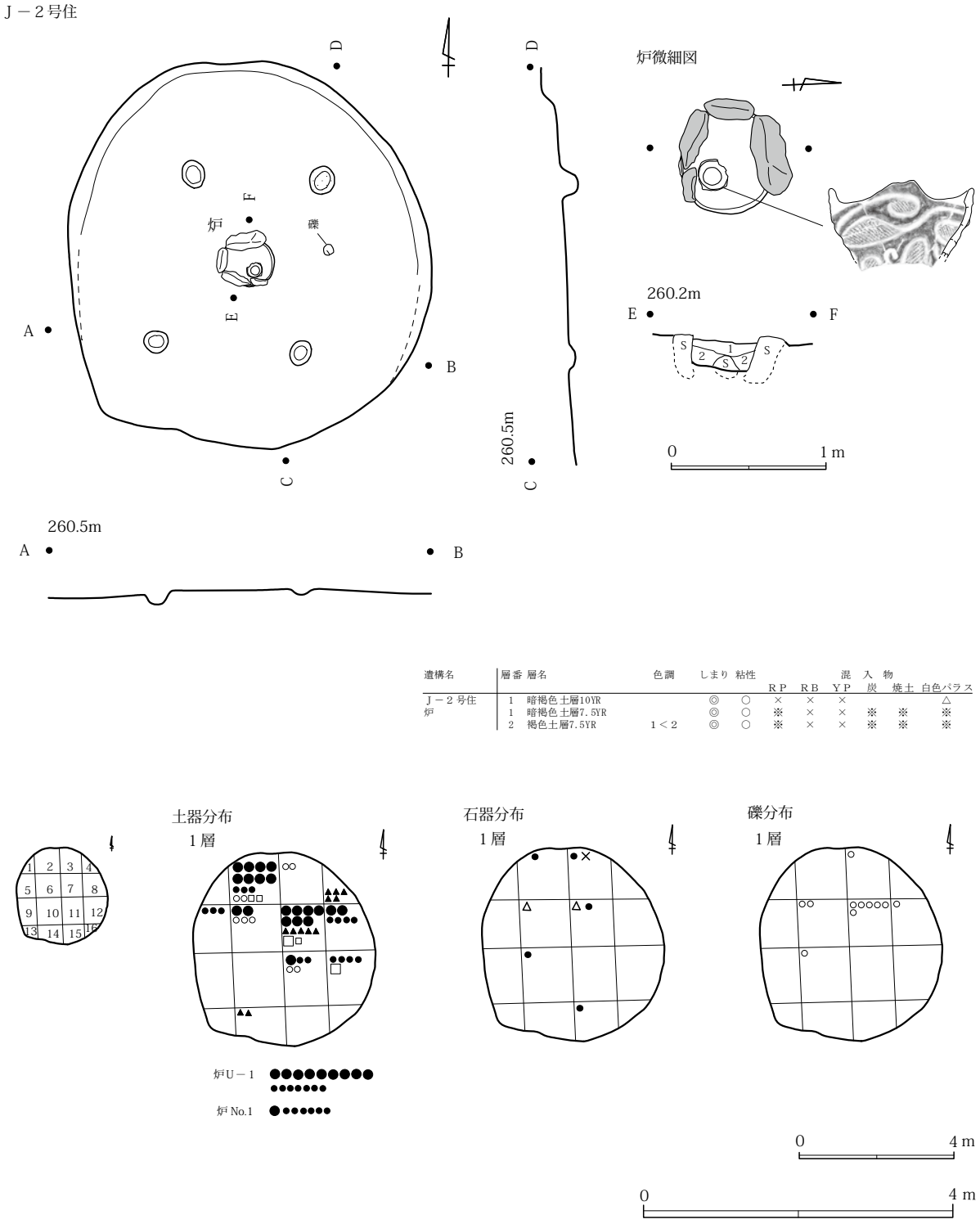
その他　668g





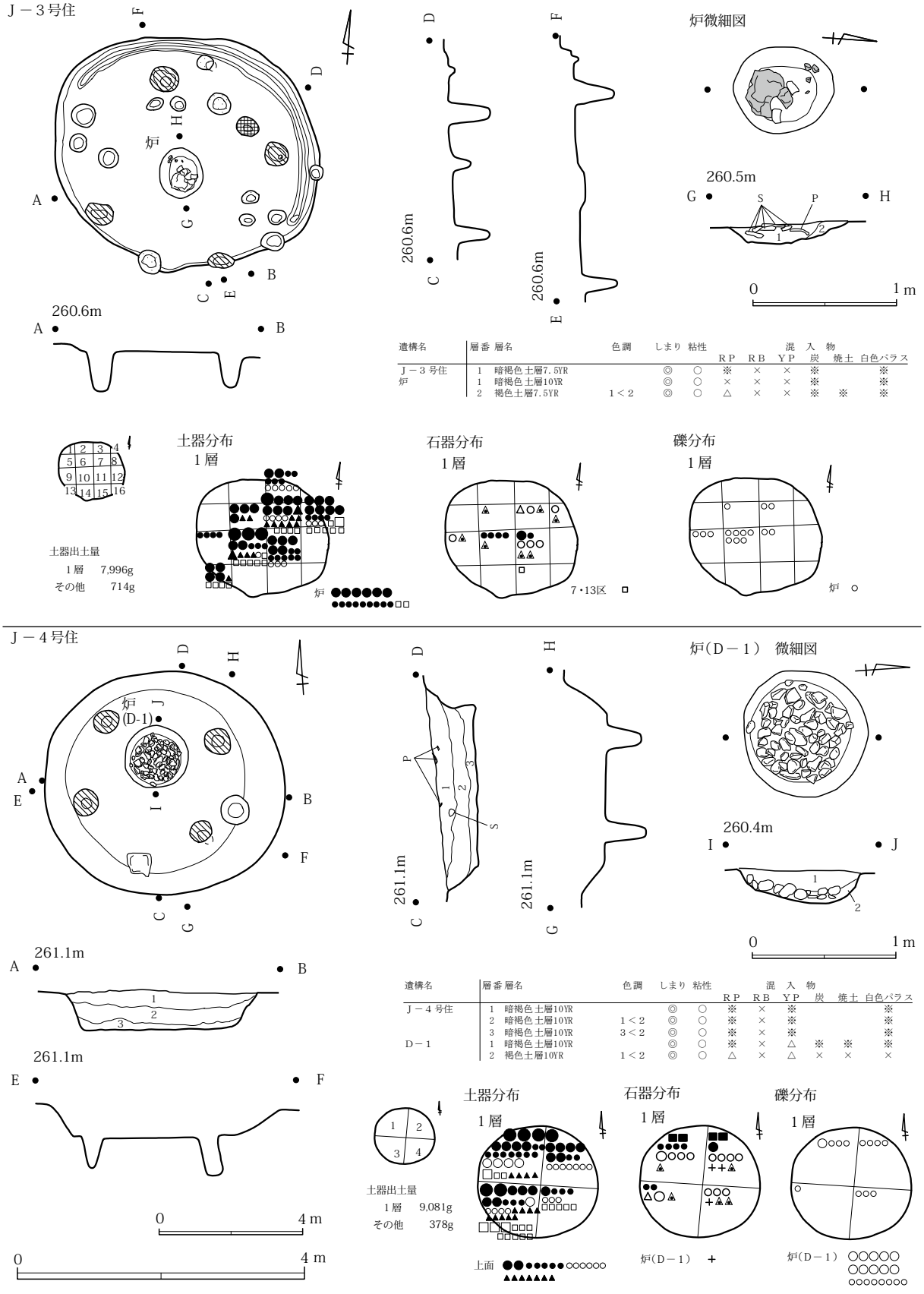


第41図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－１号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色パラス
Ｊ－２号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×			△
炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	※	×	×	※	※	※
	2	褐色土層7.5YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	※	※

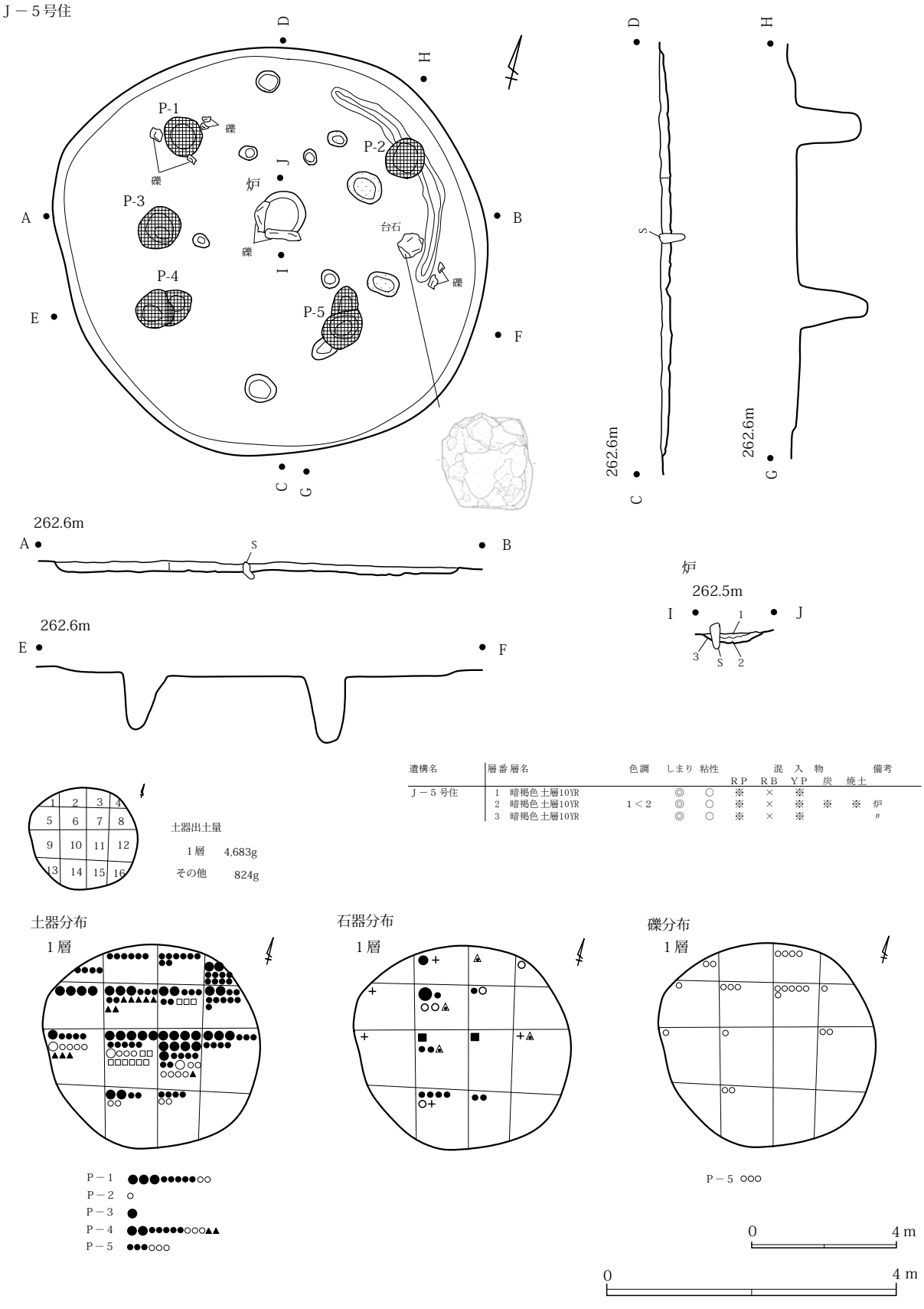
第42図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－２号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色パラス
Ｊ－３号住	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	※	×	×	※		※
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※		※
	2	褐色土層7.5YR	1＜2	◎	○	△	×	×	※	※	※

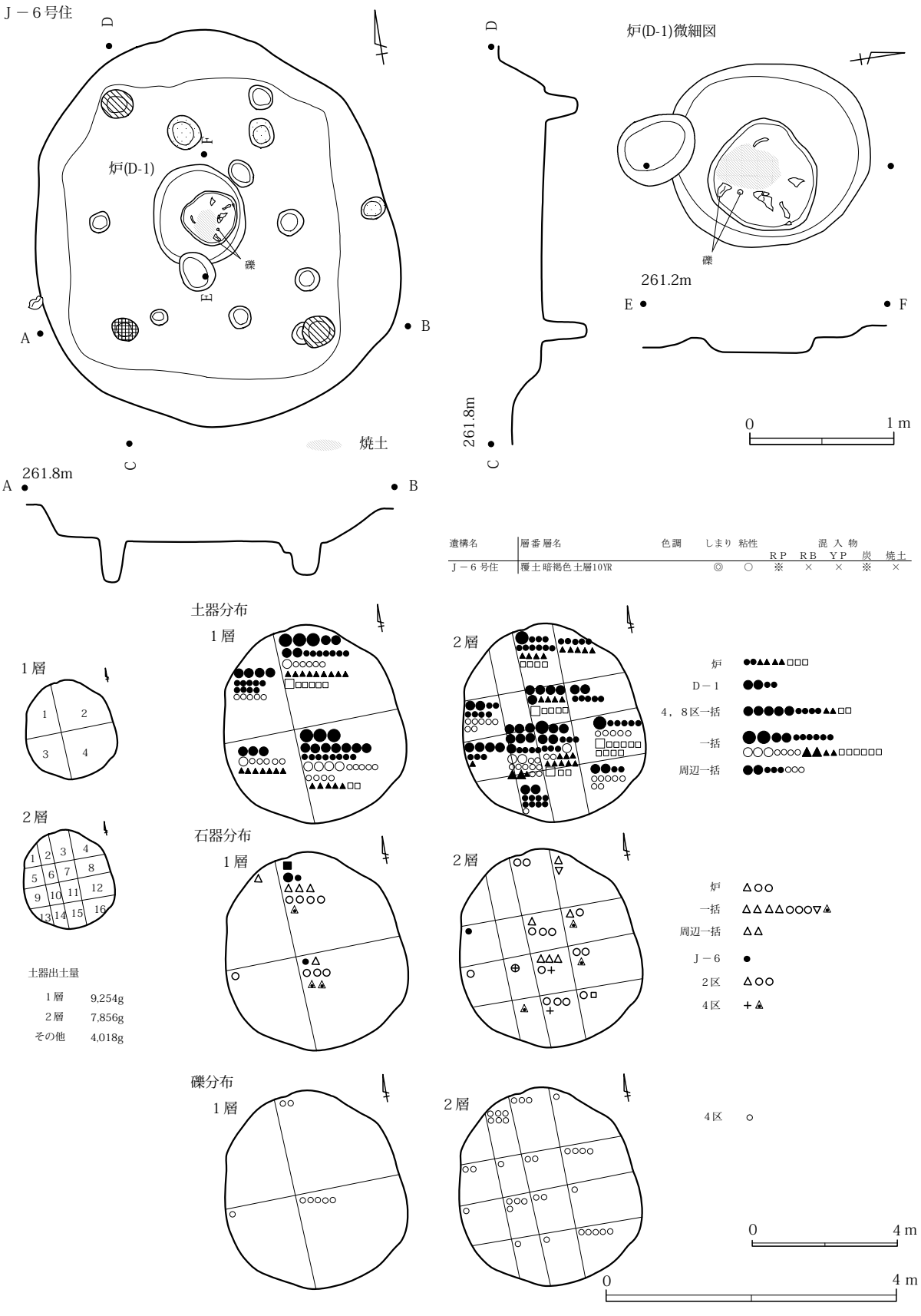
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色パラス
Ｊ－４号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※			※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※			※
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	※	×	※			※
Ｄ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	△	※	※	※
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	△	×	×	×

第43図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－３・４号住居址実測図



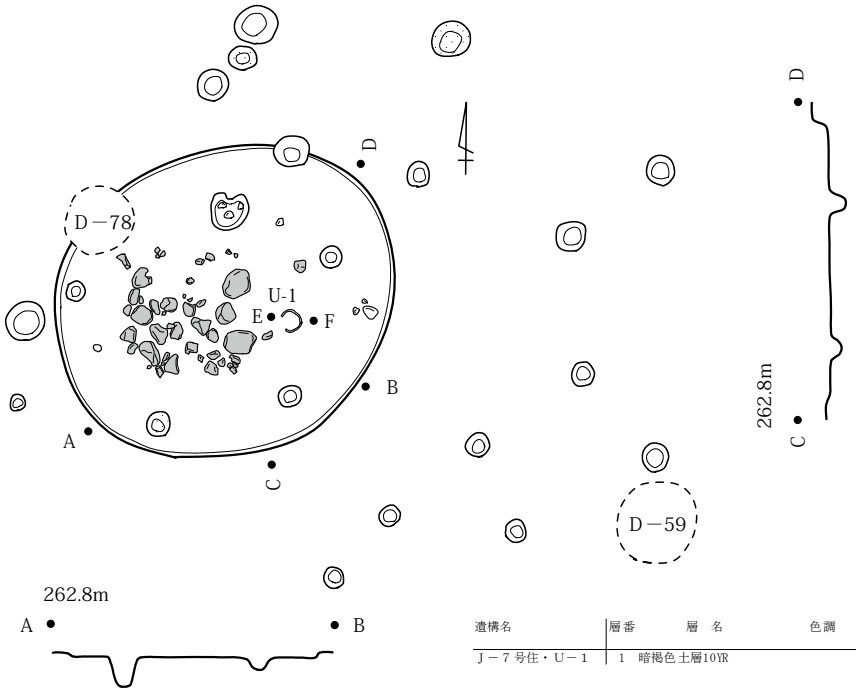
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
Ｊ－５号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※	※	※	炉
	3	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※			〃

第44図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－５号住居址実測図



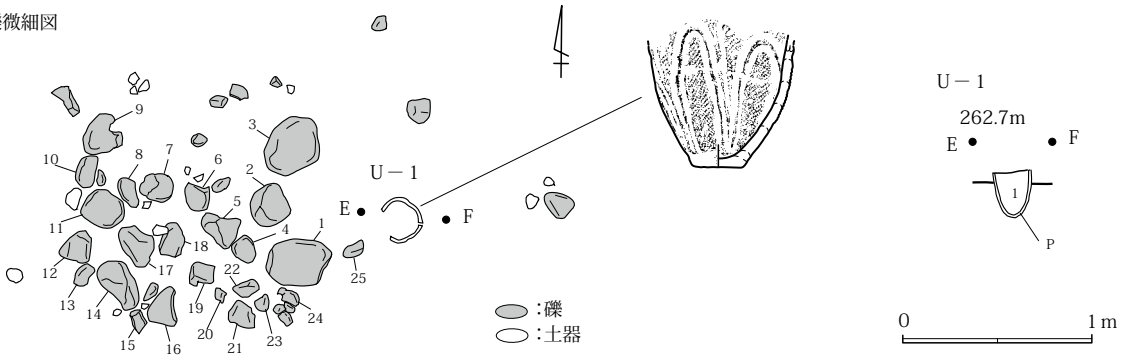
第45図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－６号住居址実測図

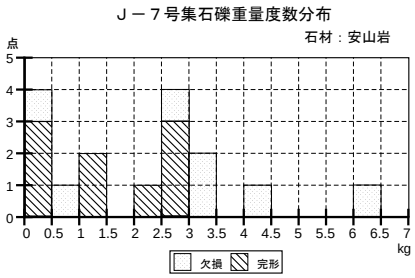
Ｊ－７号住

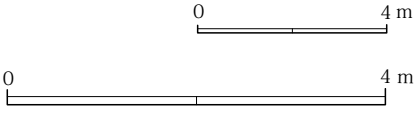


遺構名	層番	層　名	色調	しまり	粘性	混　入　物		
						RP	RB	YP
Ｊ－７号住・Ｕ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×

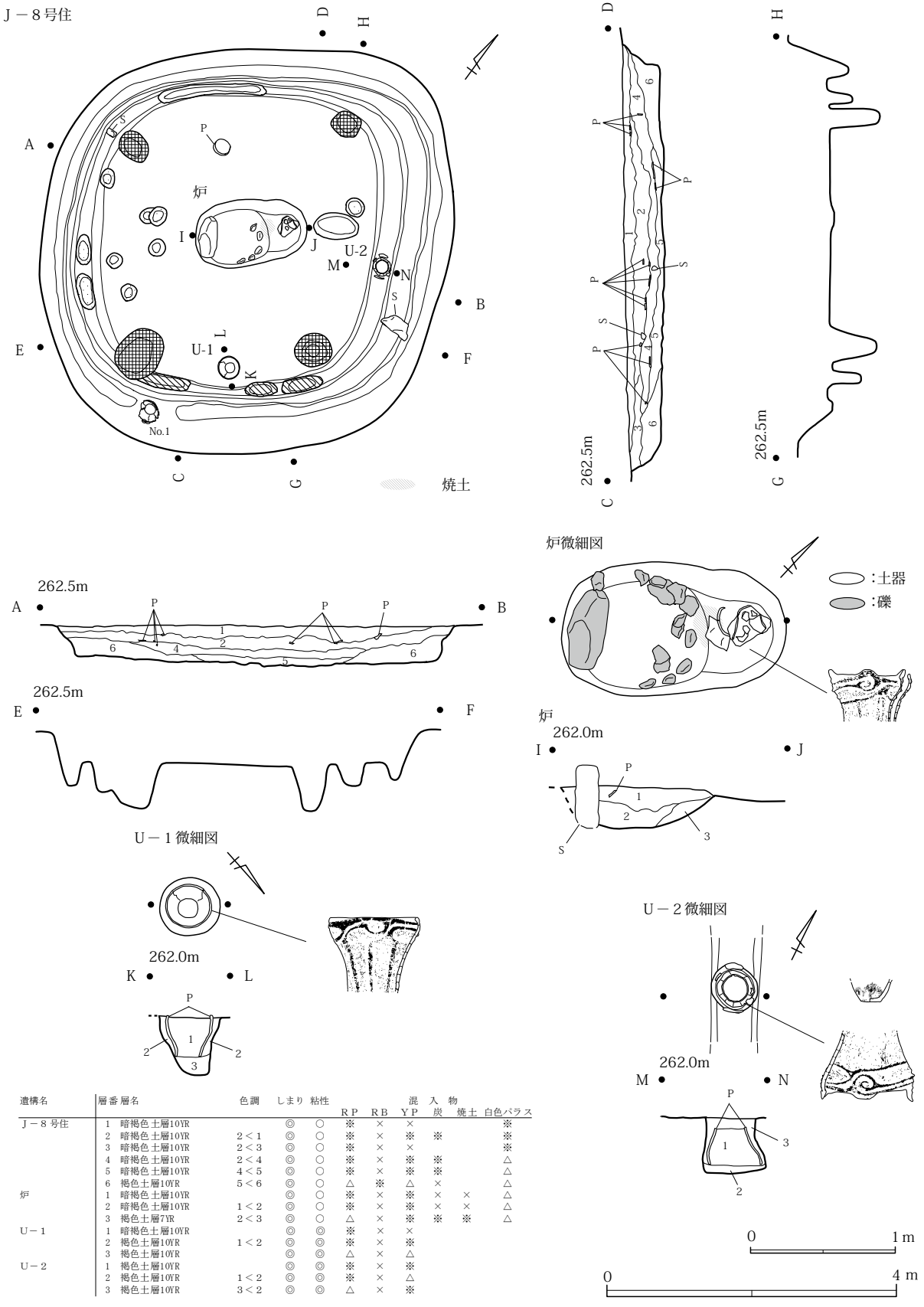
礫微細図







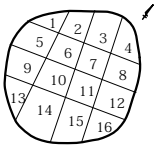
第46図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－７号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色パラス
Ｊ－８号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			※
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	※	※		※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×			※
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	○	※	×	※	※		△
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	○	※	×	※	※		△
	6	褐色土層10YR	5＜6	◎	○	△	※	△	×		△
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	×	×	△
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※	×	×	△
	3	褐色土層7YR	2＜3	◎	○	△	×	※	※	※	△
U－１	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	※	×	×			
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	※			
	3	褐色土層10YR		◎	◎	△	×	△			
U－２	1	褐色土層10YR		◎	◎	※	×	※			
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	△			
	3	褐色土層10YR	3＜2	◎	◎	△	×	※			

第47図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－８号住居址実測図（１）

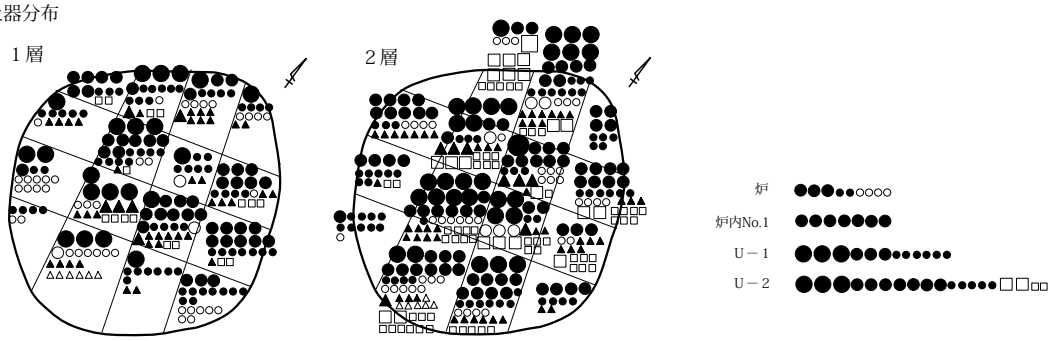
Ｊ－８号住



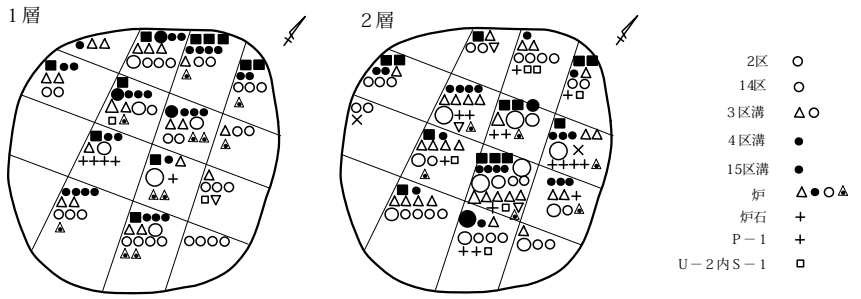
土器出土量

１層	28,244g
２層	54,277g
その他	8,387g

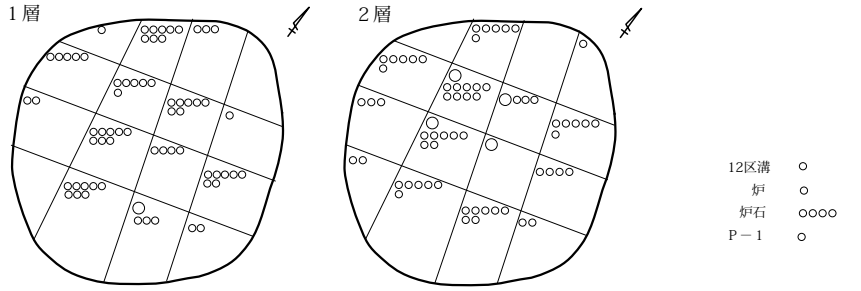
土器分布



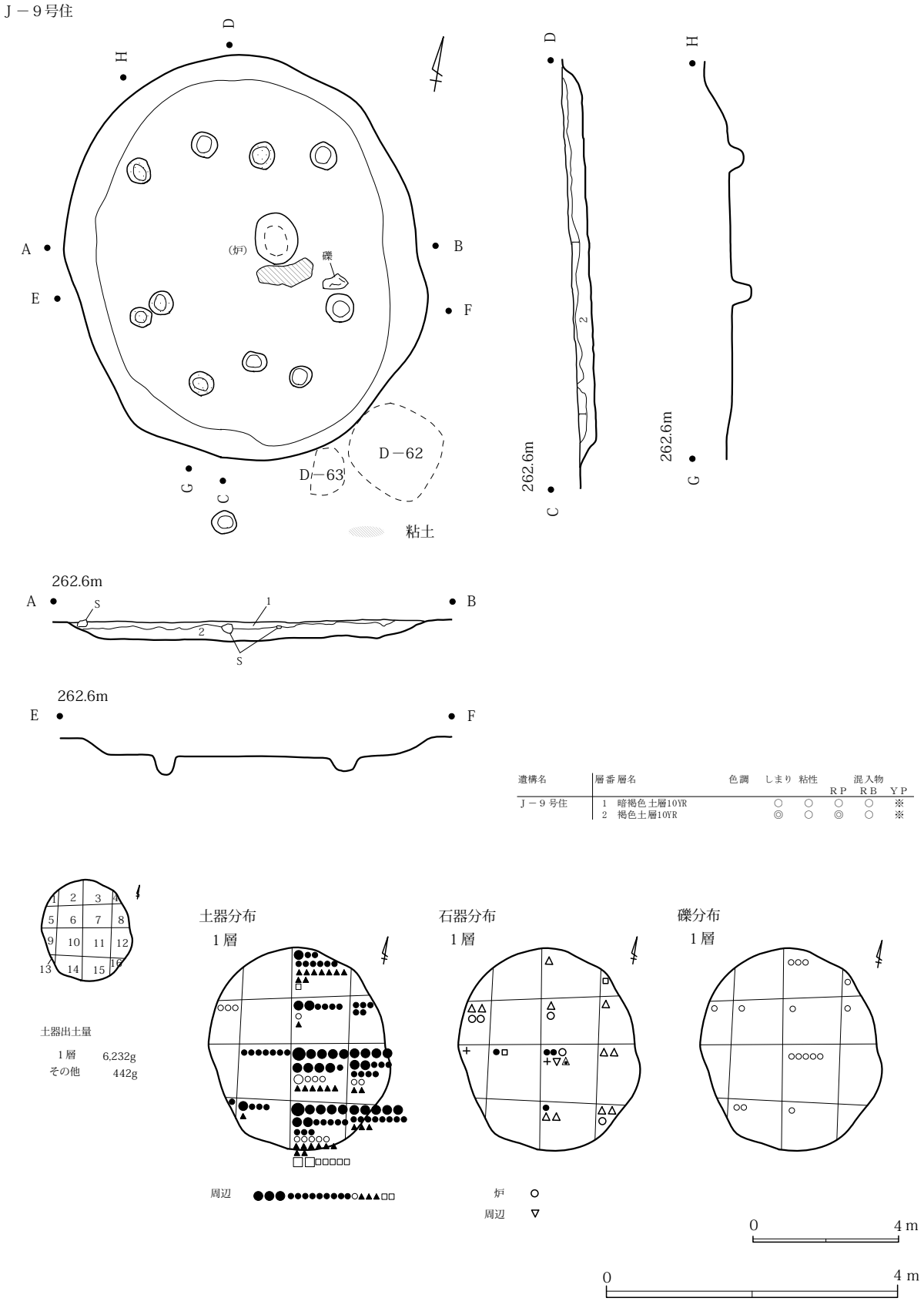
石器分布



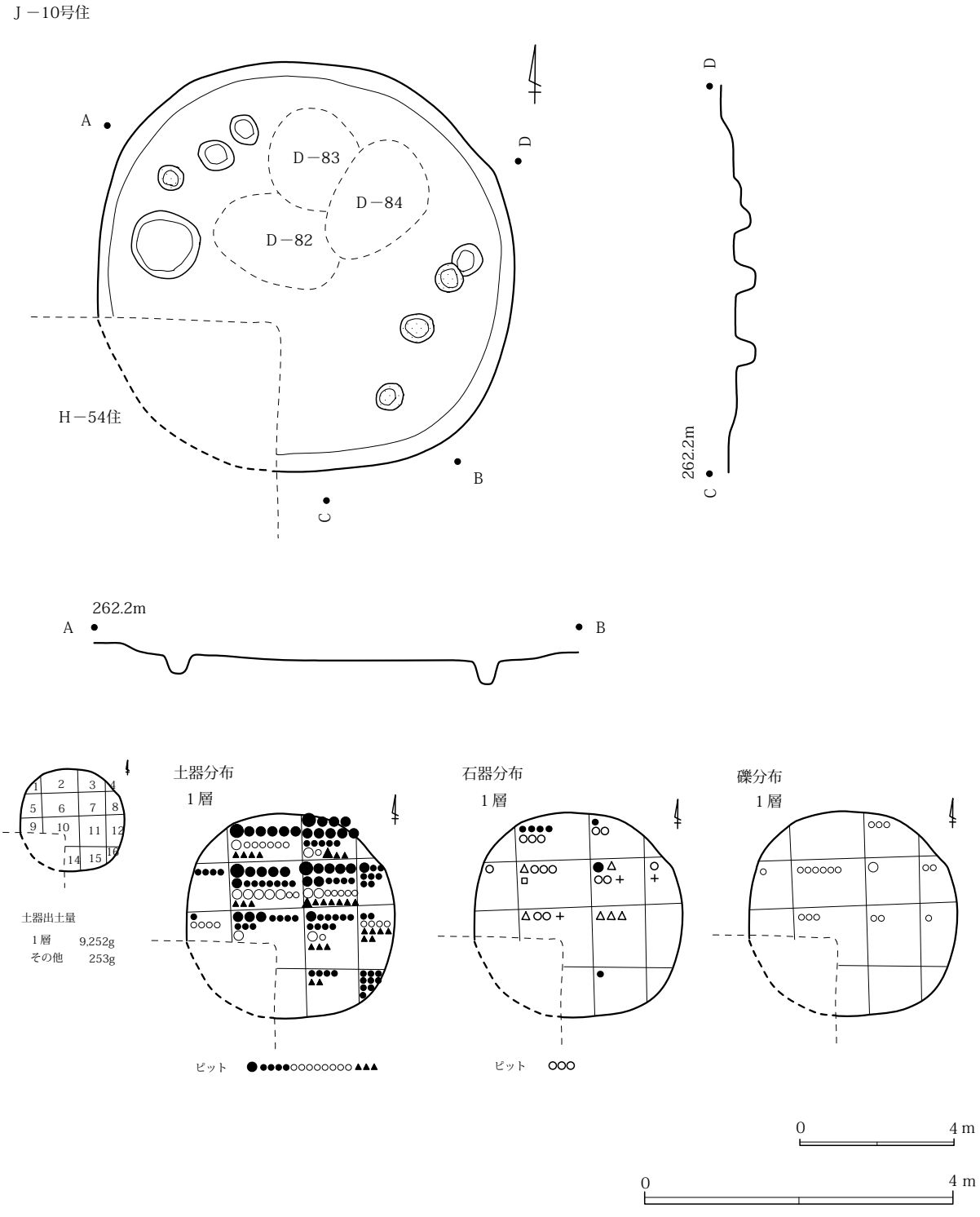
礫分布



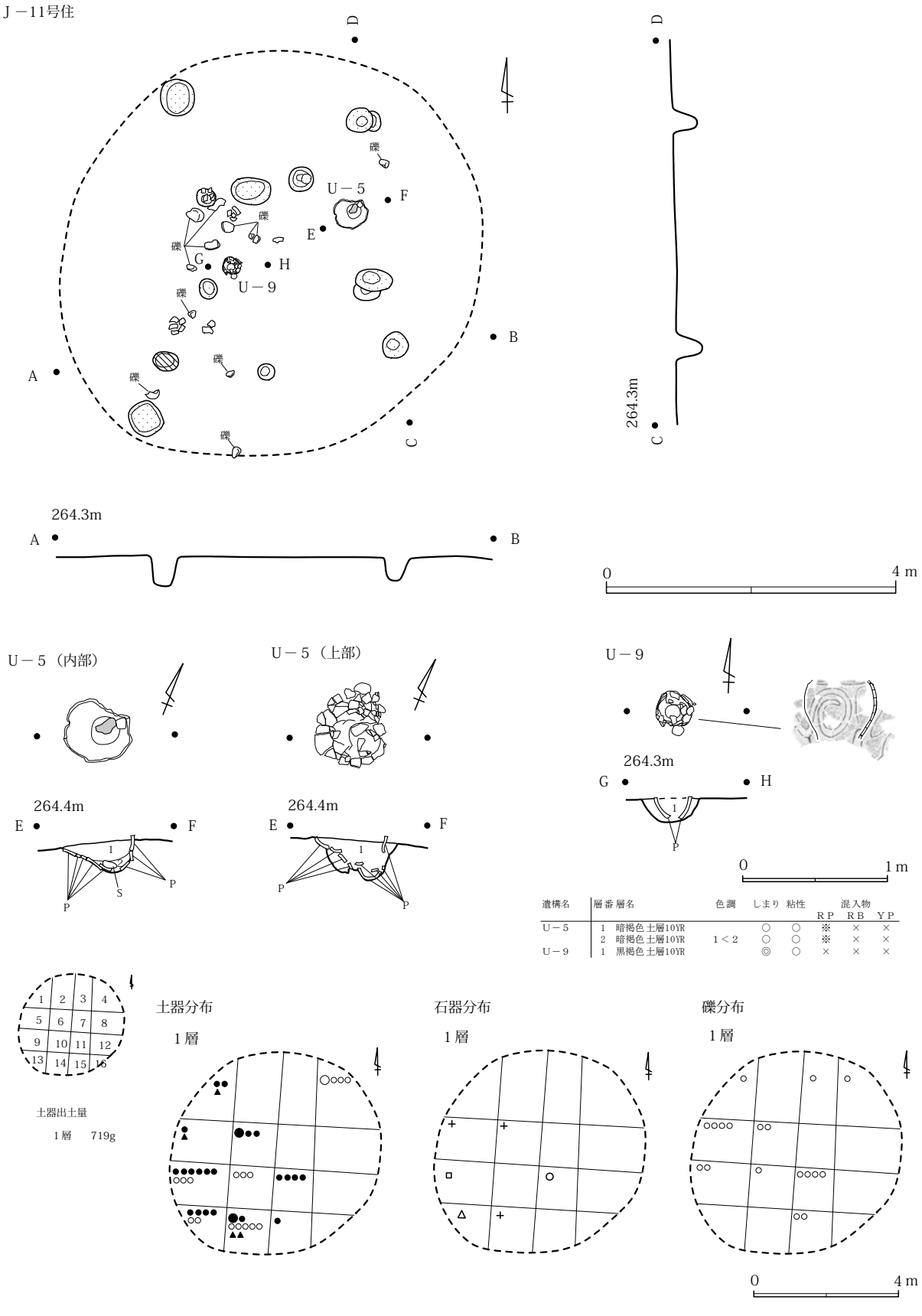
第48図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－８号住居址実測図（２）



第49図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－９号住居址実測図

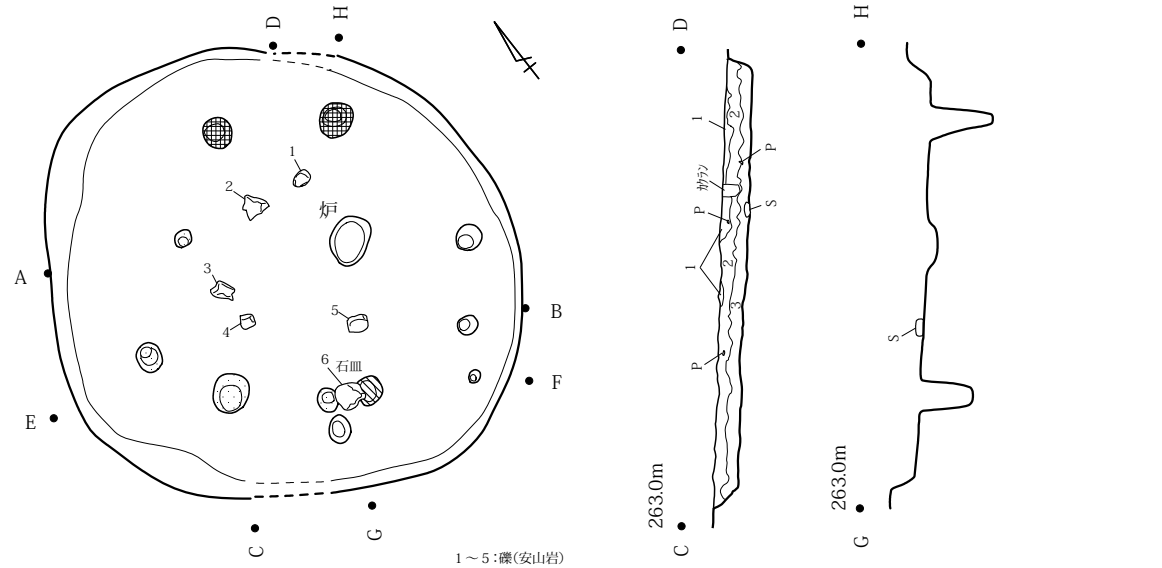


第50図　人見枝谷津遺跡（縄文）J－10号住居址実測図

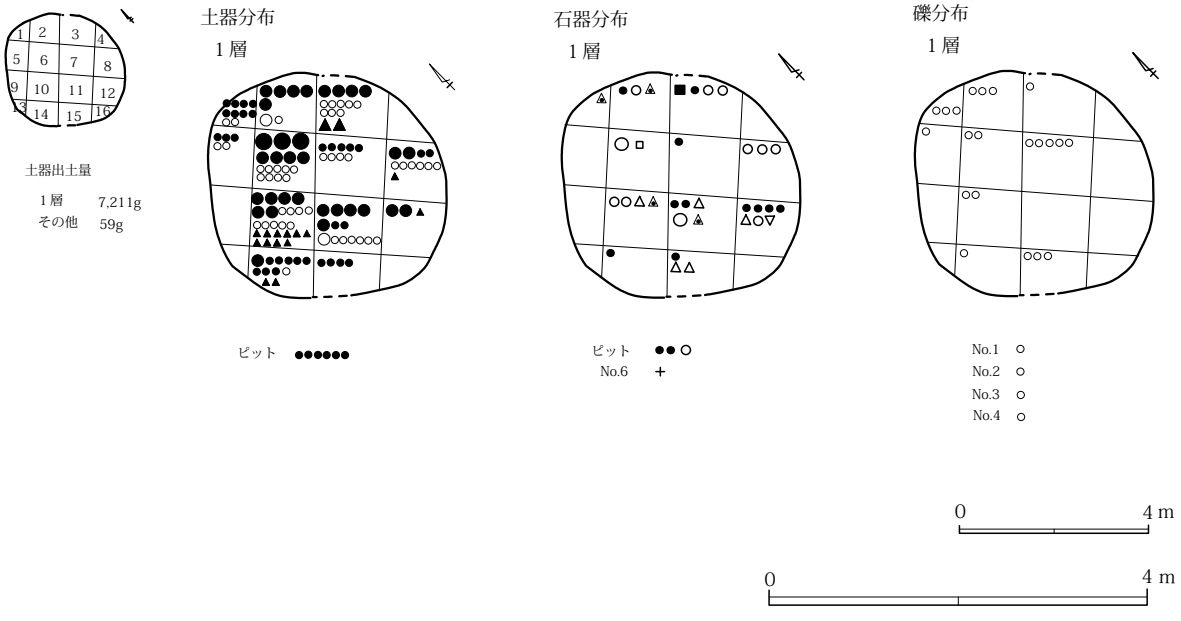


第51図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－11号住居址実測図

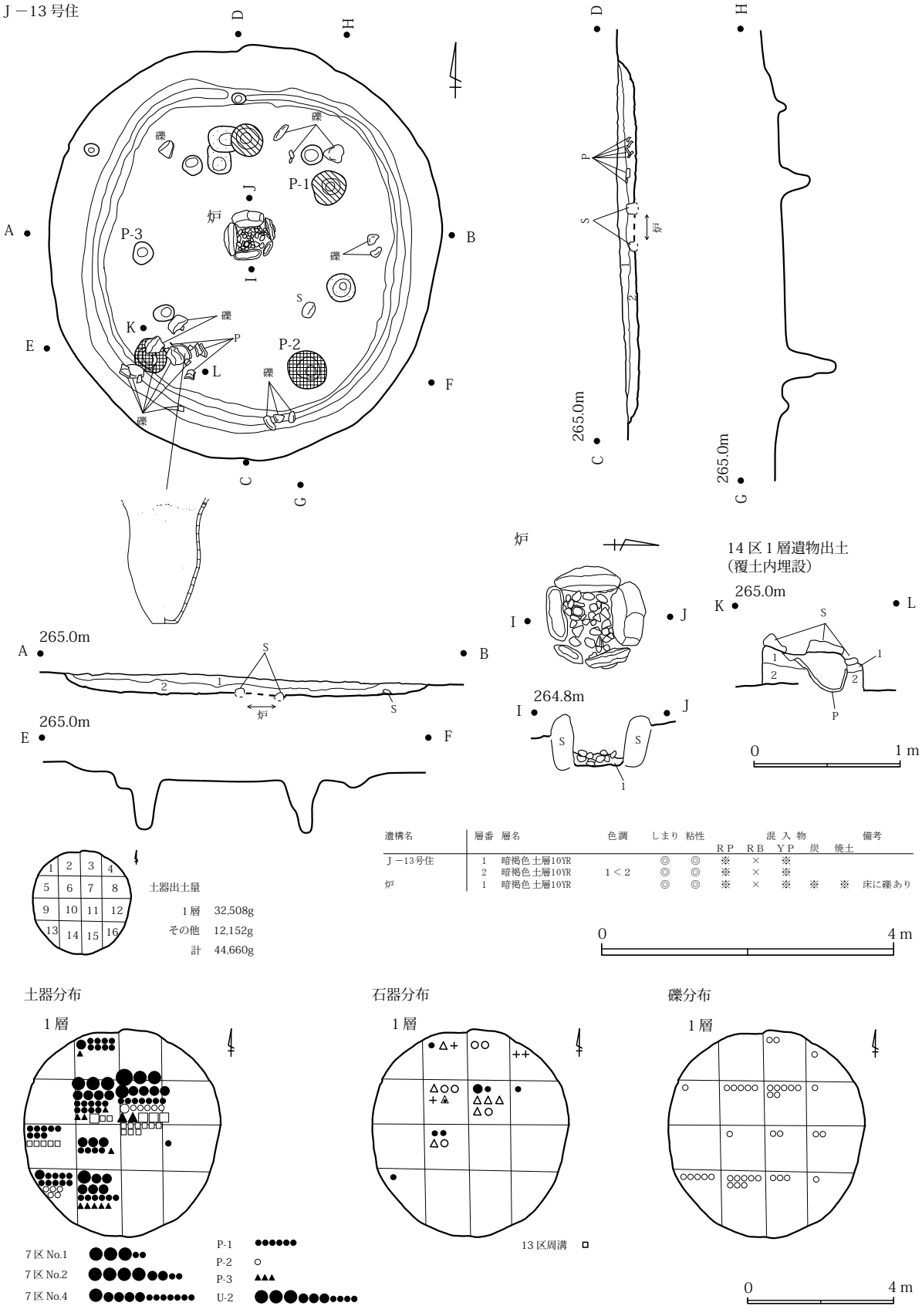
Ｊ－12号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－12号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×		

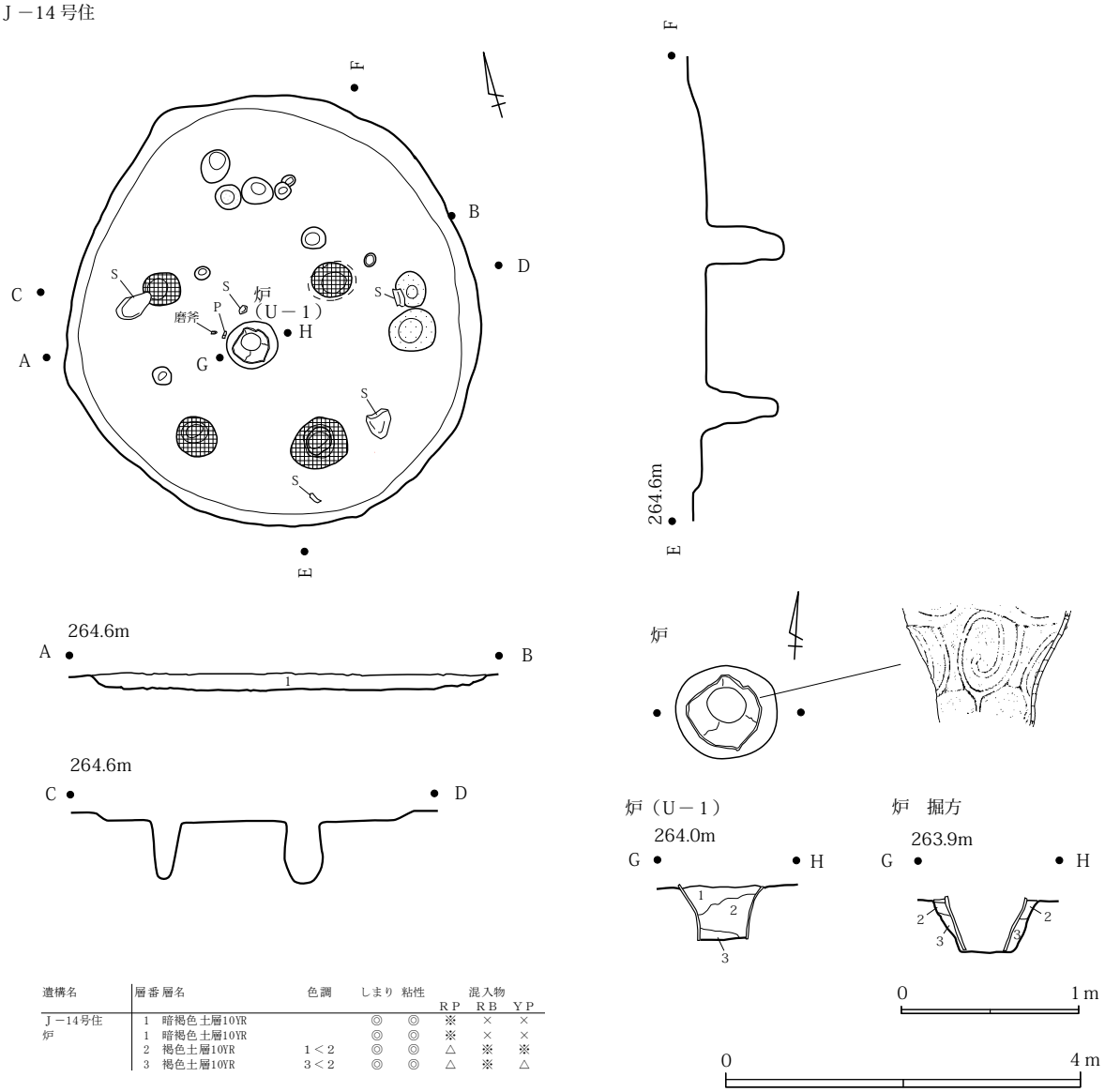


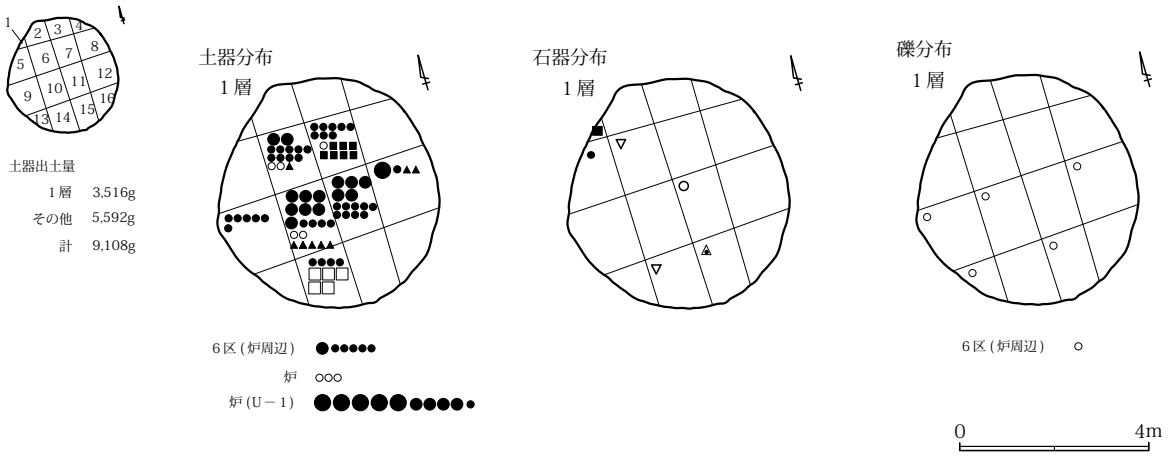
第52図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－12号住居址実測図



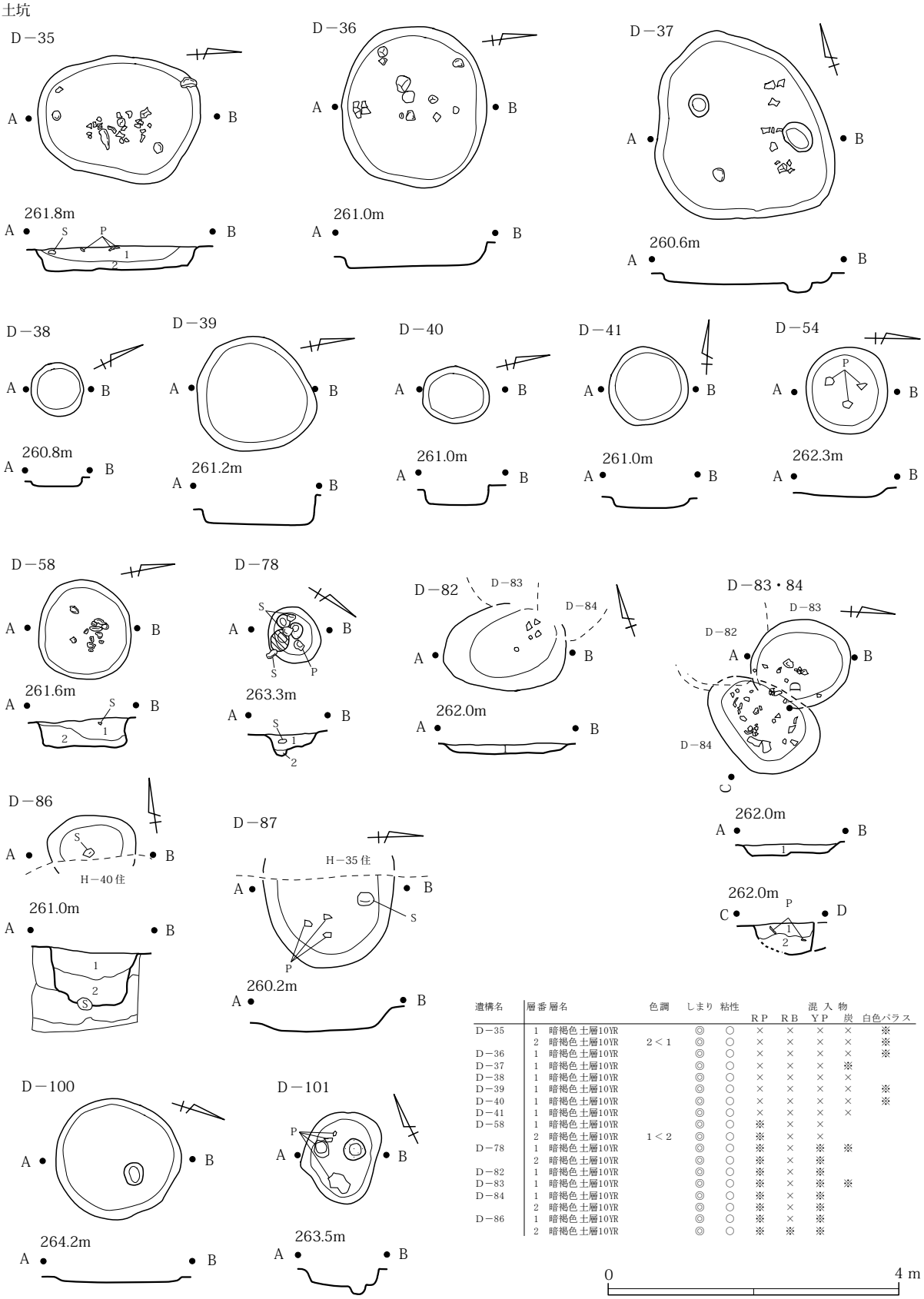
第53図　人見枝谷津遺跡（縄文）J－13号住居址実測図

Ｊ－14 号住





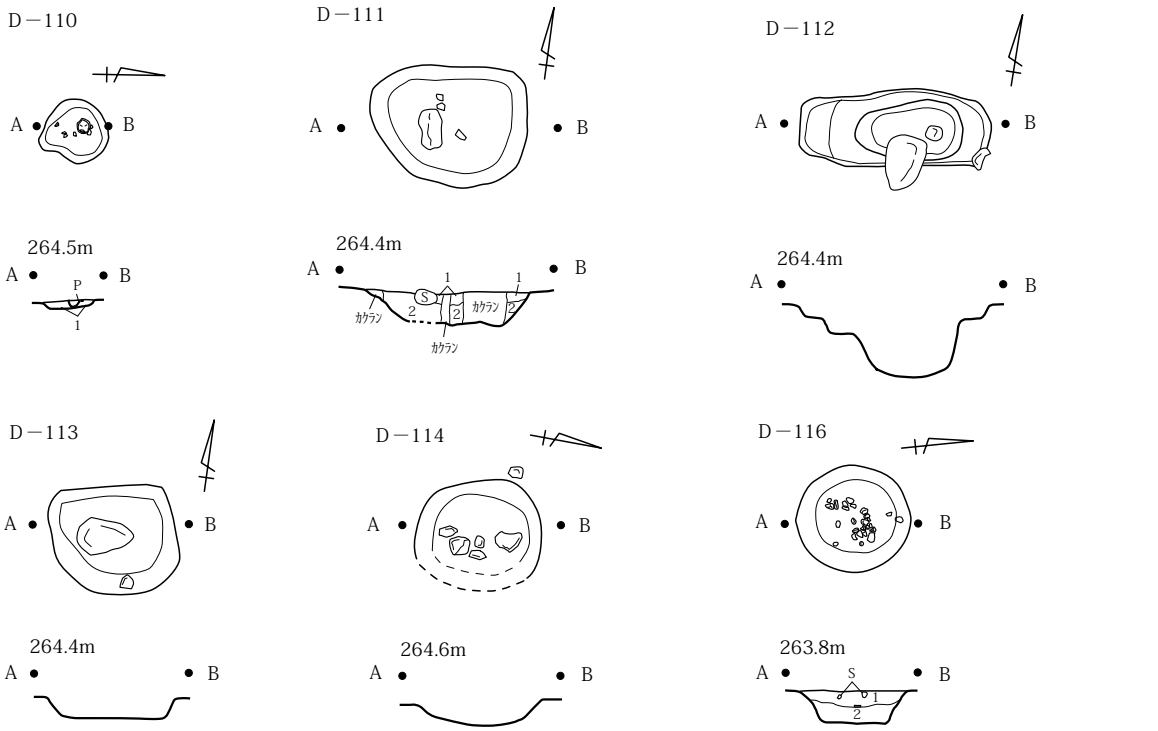
第54図　人見枝谷津遺跡（縄文）Ｊ－14号住居址実測図



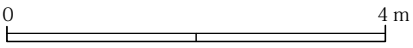
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	白色パラス
D－35	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×	※
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×	×	※
D－36	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×	※
D－37	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※	
D－38	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×	
D－39	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×	※
D－40	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×	※
D－41	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	×	
D－58	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		
D－78	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	※	
	2	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		
D－82	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		
D－83	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	※	
D－84	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		
D－86	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR		◎	○	※	※	※		

第55図　人見枝谷津遺跡（縄文）土坑実測図（1）

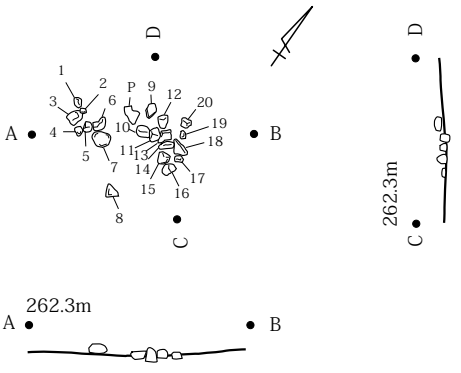
土坑

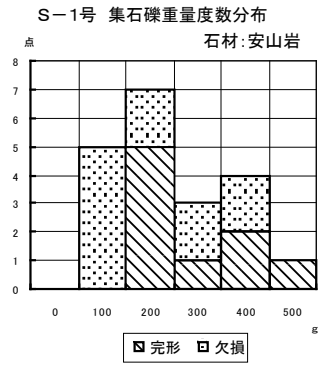


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
D－110	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	掘込みあり
D－111	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×	
D－112	覆土	褐色土層10YR		◎	○	△	※	△	
D－113	覆土	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
D－114	覆土	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	

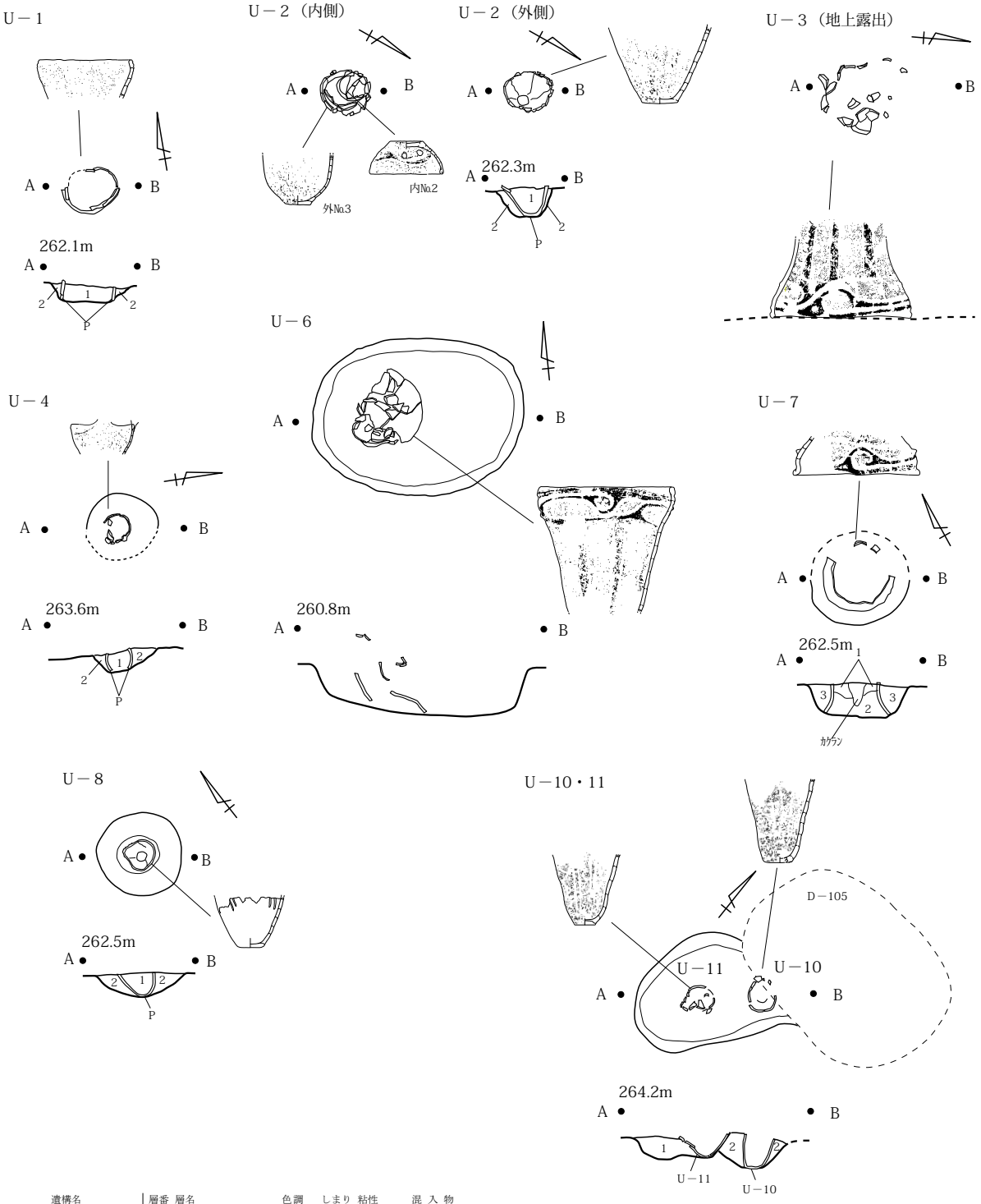


S－1





第56図　人見枝谷津遺跡（縄文）土坑実測図（２）・集石器実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
U－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×
U－2	覆土	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×
U－4	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×
U－7	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×
U－8	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×
U－10・11掘り方	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×

第57図　人見枝谷津遺跡（縄文）埋設土器実測図

（3）古墳時代の遺構

住居址（第58～153図、第12表）

Ａ区で86軒、人見東向原遺跡に隣接するＢ区で12軒、Ａ区西側のＣ区で５軒、合計103軒を確認した。時期の内訳は、前期後半14軒（Ⅰ期）、前期５軒、中期前半51軒（Ⅱ期18軒、Ⅲ期33軒）、中期30軒、中期後半以降３軒（Ⅳ期２軒、６世紀後半１軒）である。中期前半が主体である。

＜平面形態＞

小形楕円形１軒（中期）、小形正方形10軒（Ⅰ期４軒、前期１軒、Ⅲ期１軒、中期４軒）、小形長方形12軒（Ⅰ期３軒、前期２軒、Ⅲ期１軒、中期６軒）、中形正方形29軒（Ⅰ期２軒、前期１軒、Ⅱ期６軒、Ⅲ期14軒、中期３軒、中期後半以降３軒）、中形不整形１軒（中期）、中形台形２軒（Ⅱ期１軒、中期１軒）、中形長方形24軒（Ⅰ期３軒、前期１軒、Ⅱ期６軒、Ⅲ期６軒、中期７軒）、大形正方形13軒（Ⅰ期２軒、Ⅱ期３軒、Ⅲ期７軒、中期２軒）、大形長方形11軒（Ⅱ期２軒、Ⅲ期４軒、中期６軒）である。前期では、小形が多い。中期では、中～大形の正方形が長方形に比べやや多い。

前期の住居は、小形で中期以降、大形化する。方形プランが基本であり、次第に長方形プランが多くなる傾向が認められた。掘り込みが浅い平地式はⅢ期２軒、中期９軒である。

＜壁溝＞

前期には認められず、中期以降で一部の住居址のみに認められる（全周４軒、北側１軒、半分１軒、ほぼ全周１軒、二重１軒）。

＜主軸方向＞

ほぼ真北（10°以内）が49軒（前期３軒、Ⅱ期11軒、Ⅲ期18軒、中期15軒、Ⅳ期１軒、後期後半１軒）、北から北東向きとなるのが31軒（前期７軒、Ⅱ期３軒、Ⅲ期11軒、中期10軒）、北から北西向きとなるのが14軒（前期５軒、Ⅱ期４軒、Ⅲ期３軒、中期１軒、中期後半１軒）、北西から西向きとなるのが８軒（前期５軒、Ⅲ期１軒、中期２軒）、不明１軒である。主軸方向には一定の規則性が認められる。前期では、真北と北東、北西向きにばらつきがあるが、中期では、ほぼ真北となる住居が圧倒的を占める。北東方向に向く住居址が北西に比べやや多い傾向がある。軒数は少ないが西方向に向く住居址もある。南斜面に対して住居址は直交し、高い方へ向いているのが分かる。

＜土坑（貯蔵穴）＞

土坑は、１基が最も多く、２基以上は少ない。位置は住居址南東隅が多く、南西隅にも少数が認められた。形状は、平面方形ないし楕円形で、断面は箱形となる。土坑覆土の観察から、埋め戻しが行われ、遺物廃棄が行われていた。

＜柱穴＞

基本的には炉を軸として柱穴が対称的に配置される４本柱が多数を占めた。柱穴の無いものも多数認められた。柱穴脇に補助柱的なピットをもつ住居も数軒認められた。拡張による柱穴の抜き替えは少数である。

＜炉・竈＞

炉は、前期、中期の両時期で認められた。Ａは前期６軒、Ⅱ期９軒、Ⅲ期16軒、中期４軒、Ｂ１は前期２軒、Ⅱ期４軒、Ⅲ期９軒、中期２軒、Ｂ２は前期４軒、Ⅱ期４軒、Ⅲ期５軒、中期８軒、不明はⅡ期１軒、Ⅲ期３基、中期５軒、無しはⅢ期１軒、中期13軒である。炉の位置は、床中央または中央

北寄りが最も多い。

竈は３軒で認められた。構造は簡易で、全て潰された状態であった。

＜覆土＞

Ａ１は前期１軒、Ⅱ期２軒、Ⅲ期５軒、中期２軒、中期後半２軒　Ａ２は前期５軒、Ⅱ期８軒、Ⅲ期12軒、中期３軒、Ｂ１は前期１軒、Ⅱ期１軒、Ⅲ期２軒、中期３軒、Ⅳ期１軒、Ｂ２は前期２軒、Ⅱ期４軒、Ⅲ期３軒、中期１軒、Ｃは前期７軒、Ⅱ期３軒、Ⅲ期11軒、中期23軒、不明は中期１軒である。

焼失住居と考えられるの前期５軒、Ⅱ期11軒、Ⅲ期15軒、中期３軒である。

＜遺物出土状況＞

浅い住居（１層のみ）では、床面直上まで遺物が出土した。２層以上に分層される深さのある住居址では、上層から下層まで遺物が出土した。ただし、上層の遺物は、廃棄によるもので土器では破片がほとんどであった。下層の遺物は、床面に遺棄されたものが中心で、土器が潰れた状態やそのままの状態で出土した。上層下層の遺物は、時期差が少ないことから、住居使用から短期間で遺物が廃棄されたと考えられる。

中期の住居址では、石製模造品が出土した。単独あるいは数点以内が最も多く、１軒から大量に出土したものは少ない。Ｈ－113号では臼玉が69点出土した。編物石は、大小の規格をもつ58軒で出土した。石器は住居址で台石が出土した。土器はほぼ無傷の完形品、同一個体が潰れた状態の欠損品は、床面で出土し、壊れた土器、土器破片は覆土中といった遺棄と廃棄が覆土中で確認できた。Ｈ－46号住居址では、特殊形態として底面が長方形となる篭状の土師器甕が出土した。鉄製品は、Ｂ区の住居址から、中期前半の方形・Ｕ字形の鏃・鋤先が出土した。

竪穴状遺構（第154～156図、第24表）

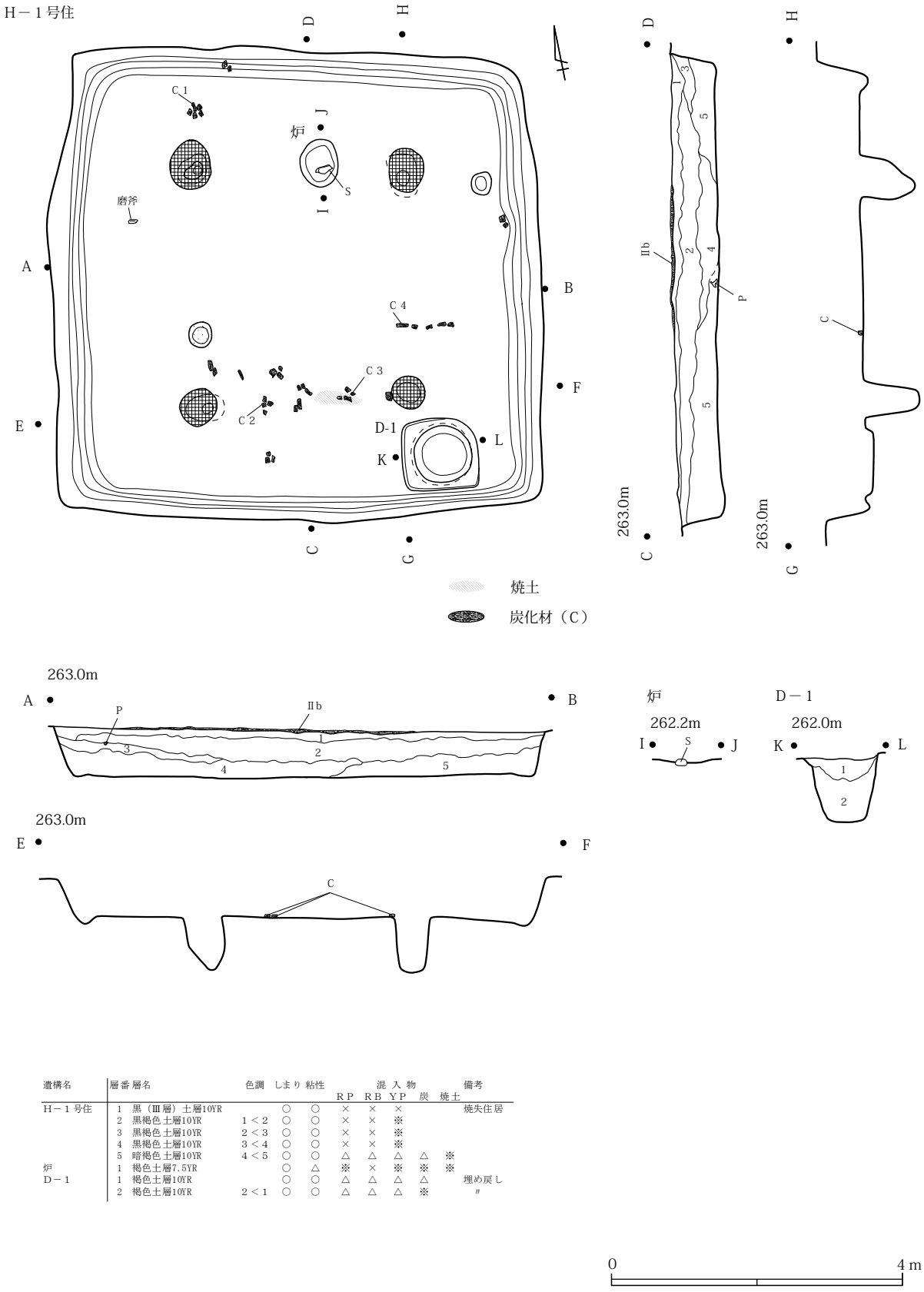
８基確認した。平面方形で浅い掘り込みがあり、住居と構造が類似する遺構である。炉の有無で住居址と区別される。床面にはピットが確認されるものの、柱穴としては配置が不規則で本数が足りない。覆土から遺物が出土することから、何らかの構造物（建物）であった可能性がある。Ｔ－２号の床面には、焼土痕が観察された。時期は出土遺物、他遺構との配置状況から住居址と同時期であると考えられる。

土坑（第157～159図、第36表）

59基確認した。土坑は住居址に近接するものもあるが、調査区中央に集中している。平面円形あるいは隅丸方形、断面が鍋底形で深いのが特徴である。覆土は黒褐色の自然堆積を基本とし、一部で炭化物、焼土が混入するもの、土器、礫等の遺物が廃棄された状況、遺物量の差が認められた。Ｄ－73号では、甕が複数個体出土した。

水場（湧水地）遺構（第160図）

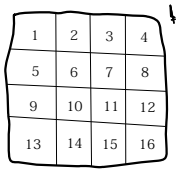
低地面に面して谷を約16ｍの範囲で人工的に掘削した範囲を確認した。湧水点（３か所）から筋状の溝が溜め池に注ぎ込んでいる。東側斜面には、廃棄された土師器の小破片が集中して出土したが、溜め池内（水中）からの遺物出土は少数であった。水場遺構周辺では、遺構の空白地が存在する。水場遺



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－1号住	1	黒（Ⅲ層）土層10YR		○	○	×	×	×			焼失住居
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	※			
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	※			
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	×	×	※			
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	△	△	△	※	
炉	1	褐色土層7.5YR		○	△	※	×	※	※	※	
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	△	△	△		埋め戻し
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	△	△	※		〃

第58図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－1号住居址実測図（1）

H－1号住



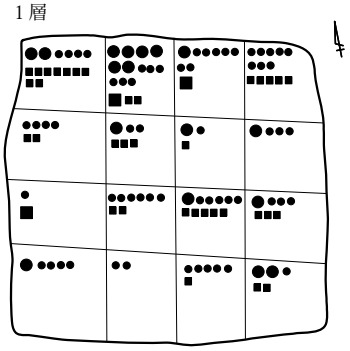
1層 ： 15～20㎝
2層 ： 20㎝
3層 ： 0～20㎝

土師器

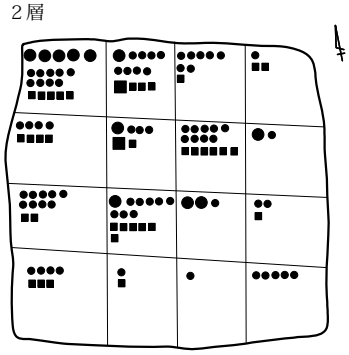
坏	4,164g
甕	19,335g
計	23,499g

土器分布

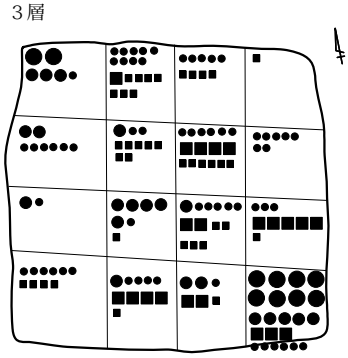
1層



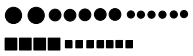
2層



3層

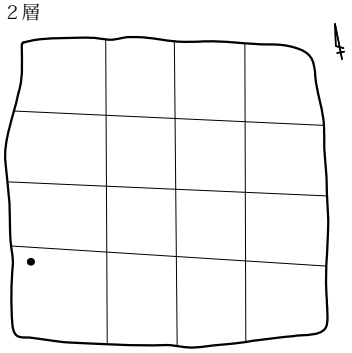


D－1

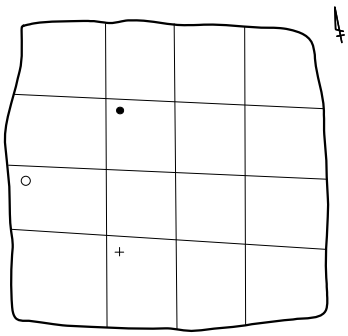


石器分布

2層



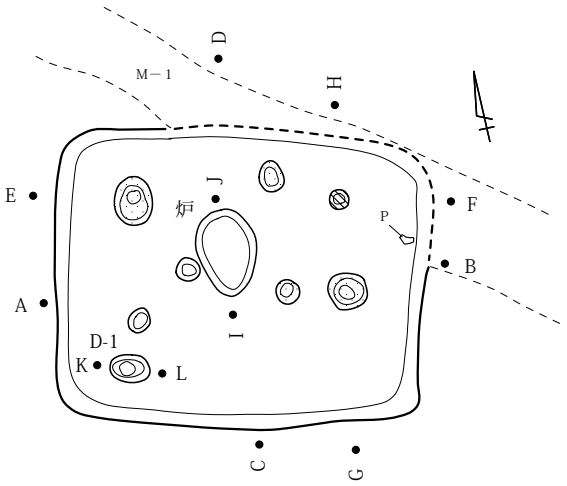
3層

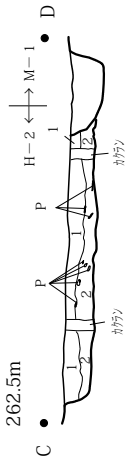


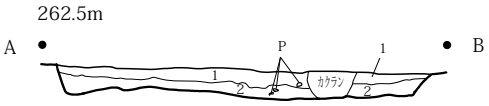
0　　4m

第59図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－1号住居址実測図（2）

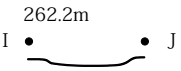
H－２号住



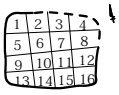




炉



D－1



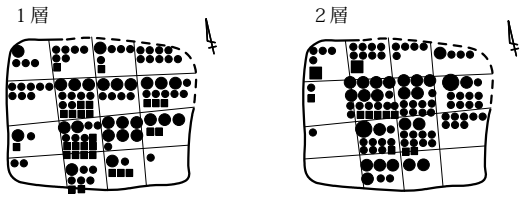
1層：15㎝
2層：0～15㎝

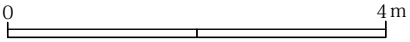
土師器

坏	568g
甕	8,942g
計	9,510g

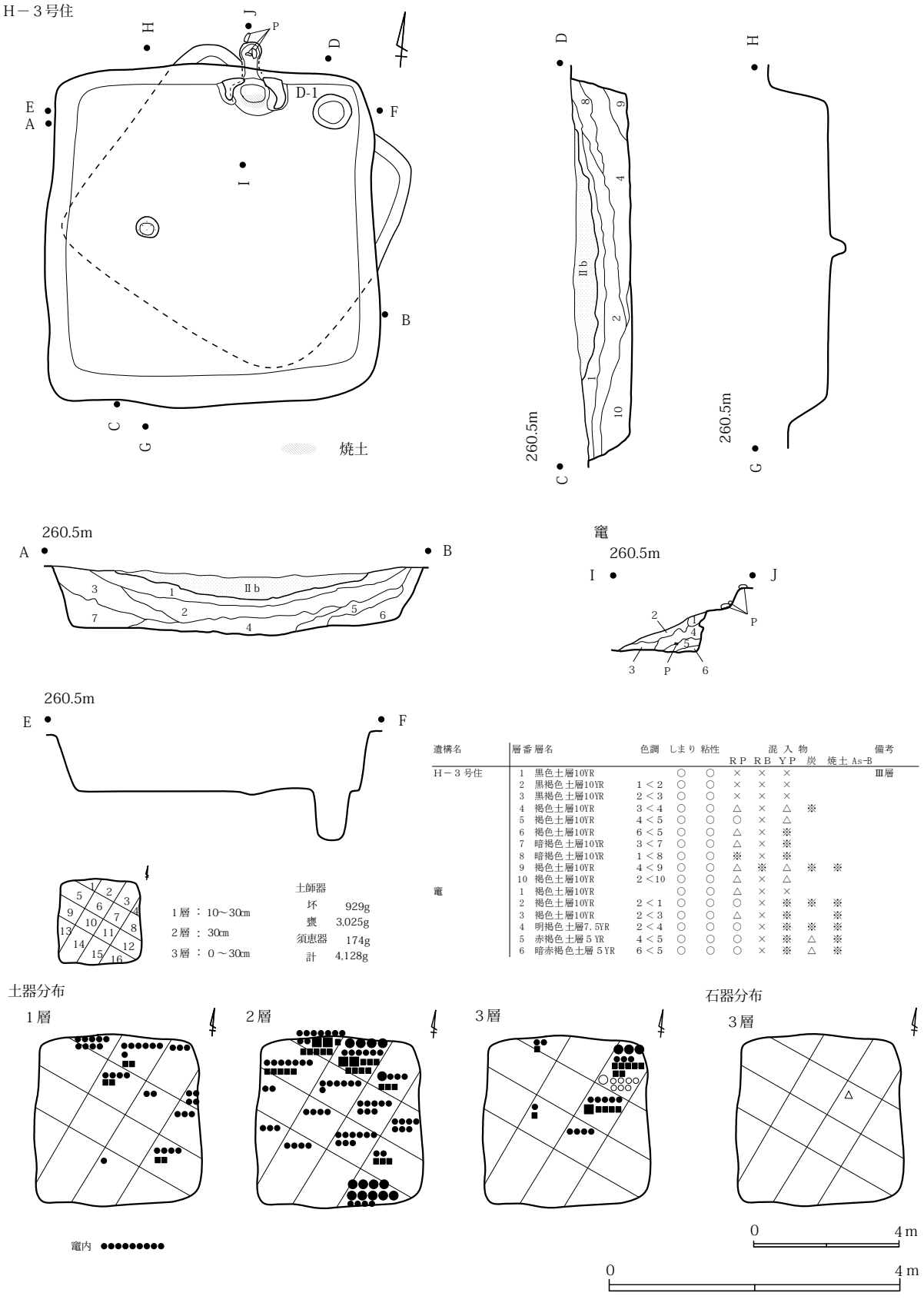
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－２号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
炉	1	暗褐色土層7.5YR		○	△	※	×	※	※	※
D－１	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×		

土器分布



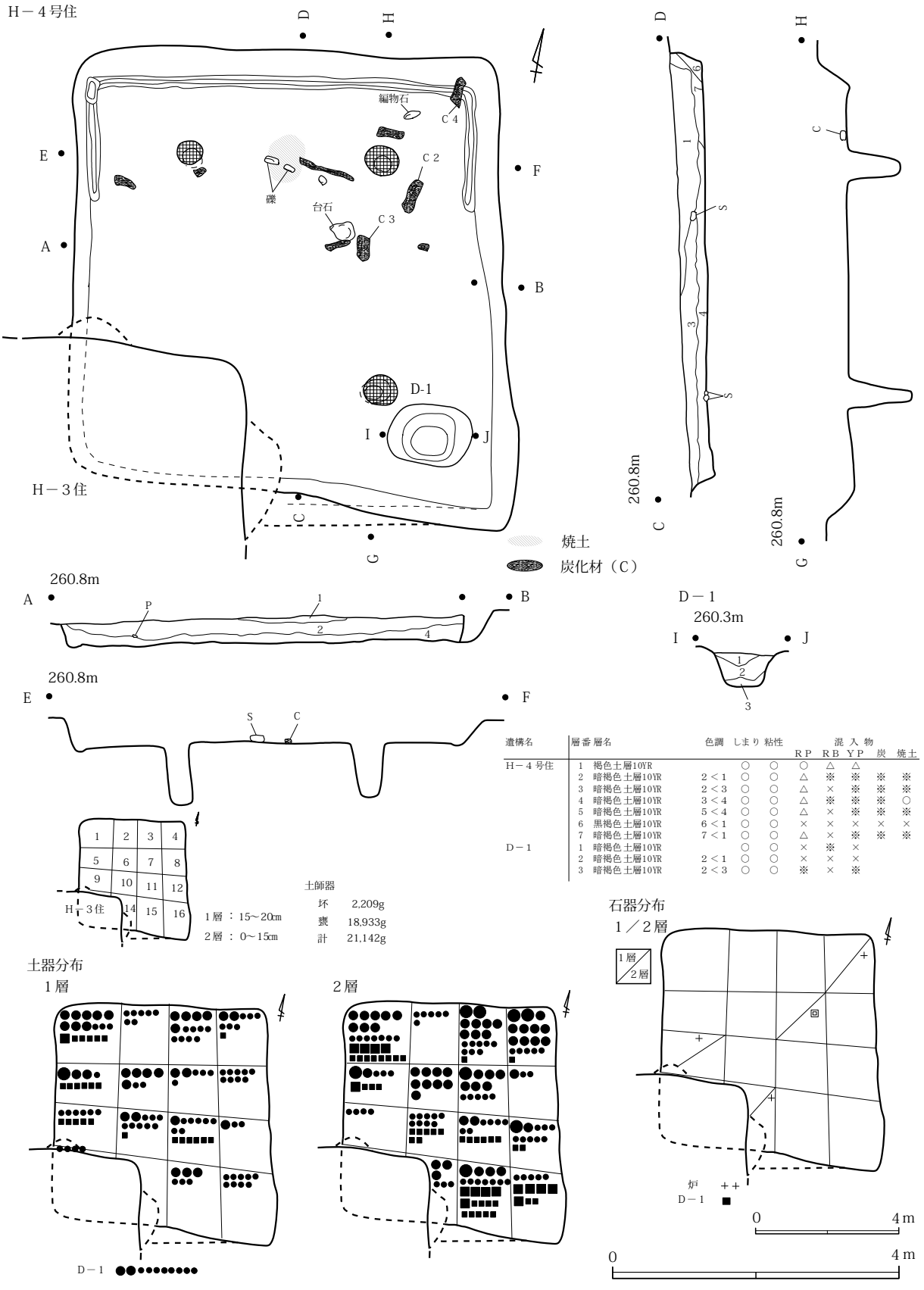


第60図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－２号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B	備考
H－３号住	1	黒色土層10YR		○	○	×	×	×				Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×				
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×				
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	△	※			
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	○	×	△				
	6	褐色土層10YR	6＜5	○	○	△	×	※				
	7	暗褐色土層10YR	3＜7	○	○	△	×	※				
	8	暗褐色土層10YR	1＜8	○	○	※	×	※				
	9	褐色土層10YR	4＜9	○	○	△	※	△	※	※		
	10	褐色土層10YR	2＜10	○	○	△	×	△				
竈	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	×				
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	○	×	※	※	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※		※		
	4	明褐色土層7.5YR	2＜4	○	○	○	×	※	※	※		
	5	赤褐色土層５YR	4＜5	○	○	○	×	※	△	※		
	6	暗赤褐色土層５YR	6＜5	○	○	○	×	※	△	※		

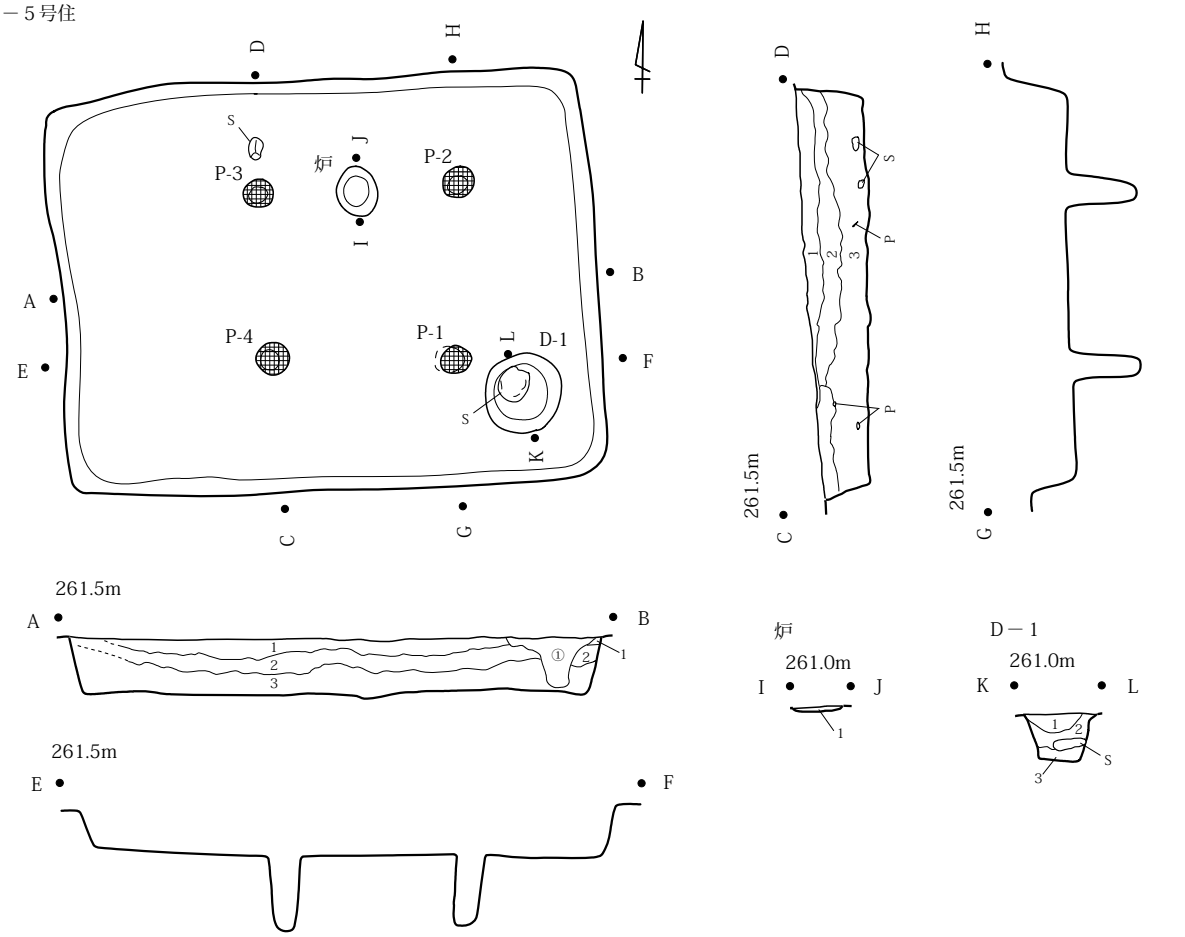
第61図　人見枝谷津遺跡（古墳）Ｈ－３号住居址実測図

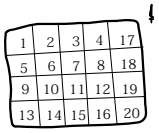


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－4号住	1	褐色土層10YR		○	○	○	△	△		
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	※	※	※	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※	※	※
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	※	※	※	○
	5	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	△	×	※	※	※
	6	黒褐色土層10YR	6＜1	○	○	×	×	×	×	×
	7	暗褐色土層10YR	7＜1	○	○	△	×	※	※	※
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	※	×		
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		

第62図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－4号住居址実測図

H－５号住



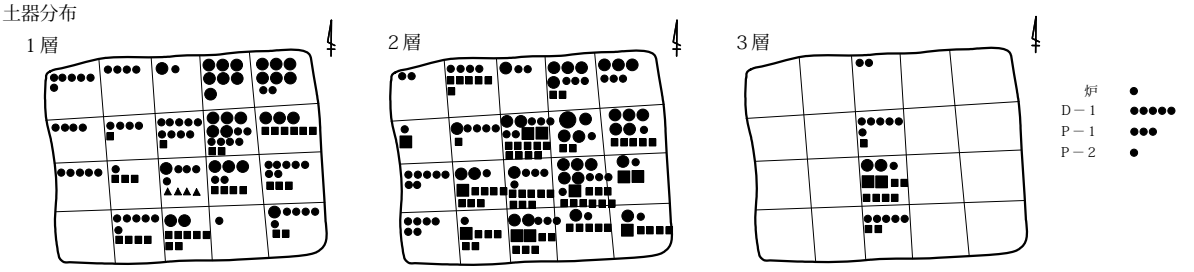


1層:15～25cm
2層:15～20cm
3層:０～15cm

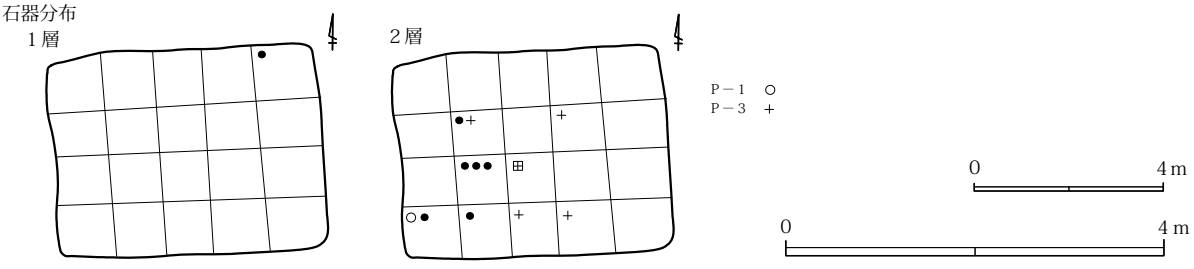
土師器	
坏	2,385g
甕	8,734g
他	43g
計	11,162g

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	As-B	備考
H－５号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※			
	①	黒褐色土層10YR	1＜①	△	△	×	×	×		◎	
炉	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	※		
D－１	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※			

土器分布

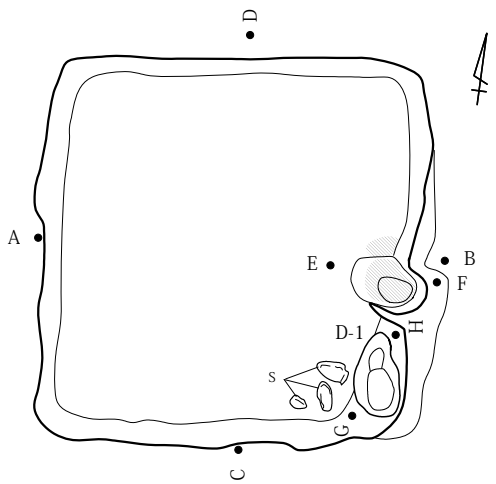


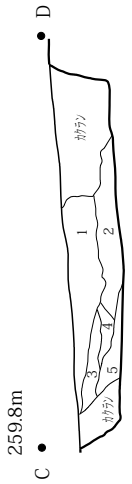
石器分布



第63図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－５号住居址実測図

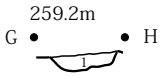
H－６号住



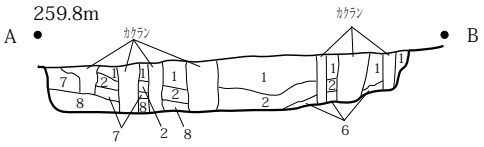


竈

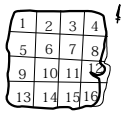
D－１



焼土



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｈ－６号住	1	褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	褐色土層10YR	1＜3	○	○	△	×	※		
	4	褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	△		
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	※	△		
	6	暗褐色土層10YR	3＜6	○	○	※	×	×		
	7	黒褐色土層10YR	7＜6	○	○	×	×	※		
	8	暗褐色土層10YR	7＜8	○	○	×	※	※		
竈	1	明褐色土層7.5YR		○	○	○	×	※	※	※
	2	鈍い褐色土層7.5YR	2＜1	○	○	○	×	※	※	※
	3	鈍い褐色土層7.5YR	2＜3	○	○	○	×	※	※	※
	4	鈍い赤褐色土層５YR	3＜4	○	○	○	×	※	△	※
	5	明赤褐色土層５YR	5＜4	○	○	○	×	※	△	※
Ｄ－１	1	褐色土層10YR		○	○	○	×	※	×	×



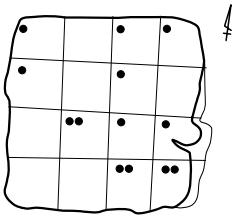
１層：15～25㎝
２層：０～20㎝

土師器

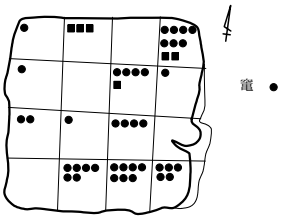
坏	56g
甕	480g
計	536g

土器分布

１層

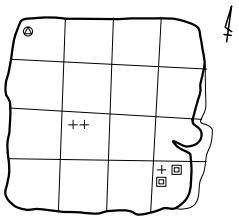


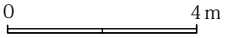
２層

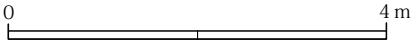


石器分布

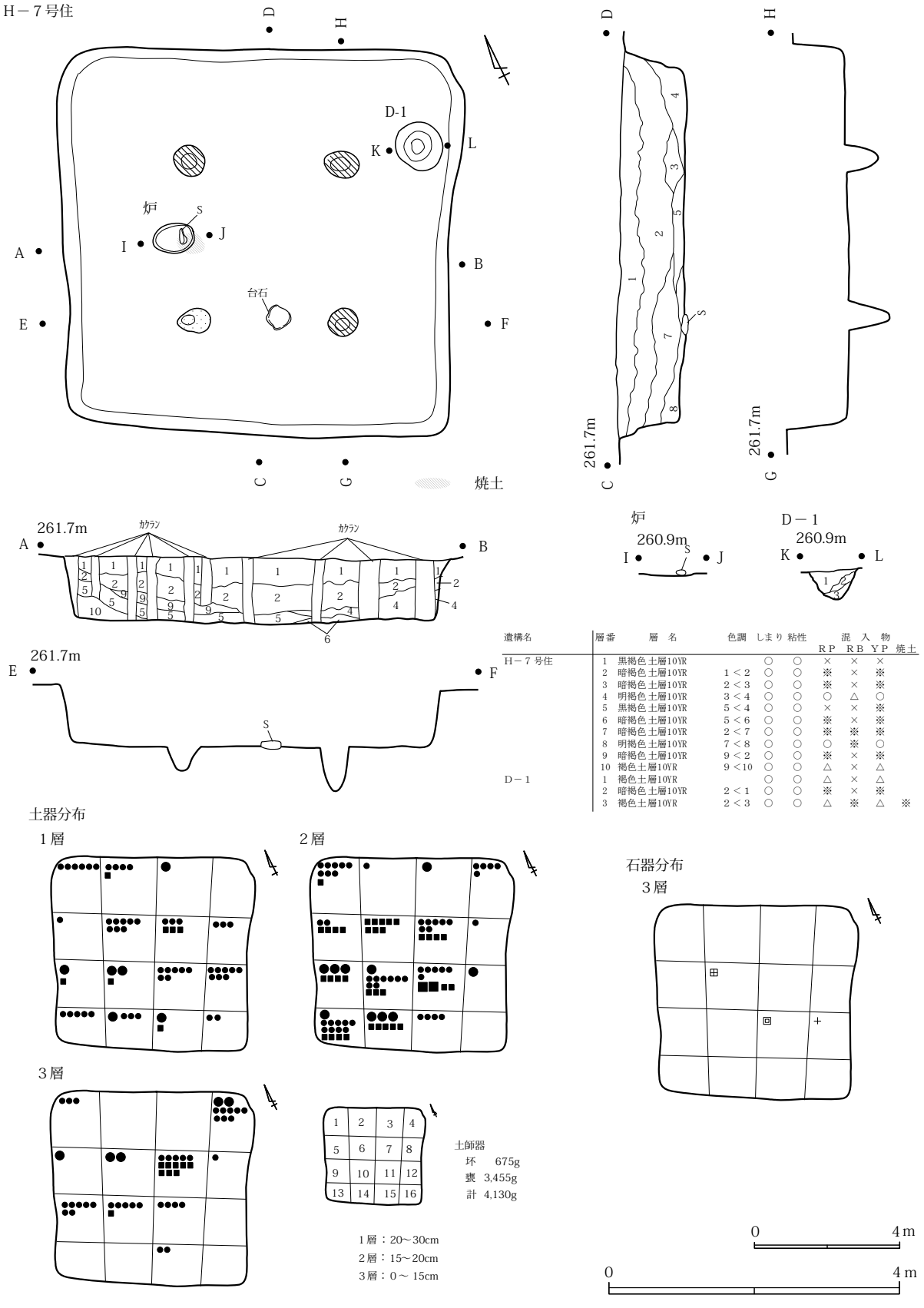
２層





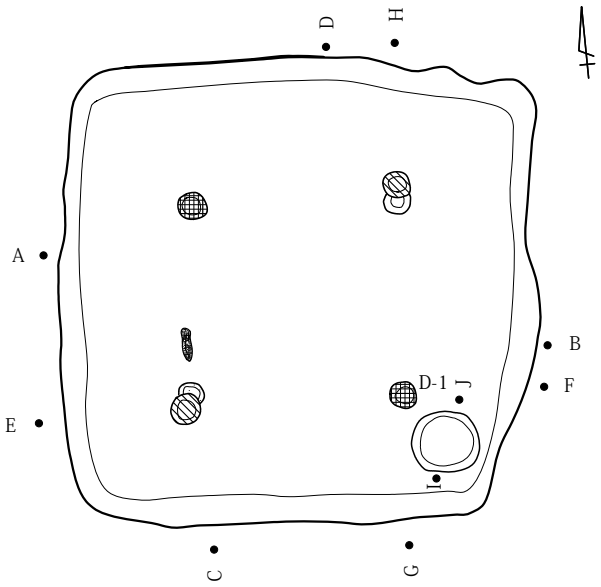


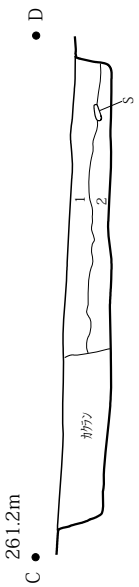
第64図　人見枝谷津遺跡（古墳）Ｈ－６号住居址実測図

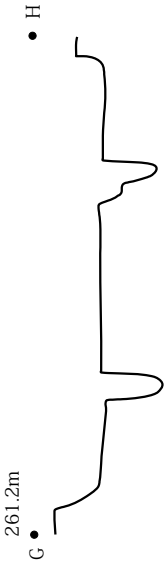


第65図　人見枝谷津遺跡（古墳）Ｈ－７号住居址実測図

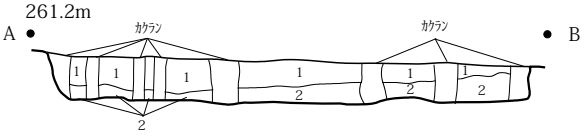
H－８号住

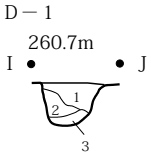




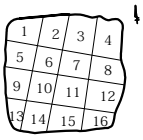


炭化材





遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	備考
H－８号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	※		埋め戻し
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	×		〃
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※		

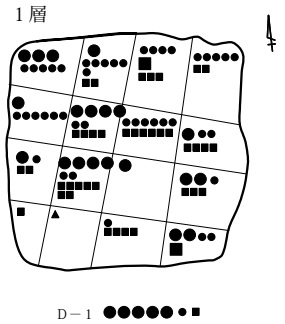


1層：15～20cm
2層：0～15cm

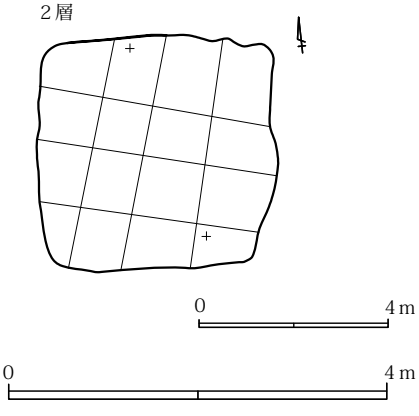
土師器

坏	2,137g
甕	6,447g
他	14g
計	8,598g

土器分布

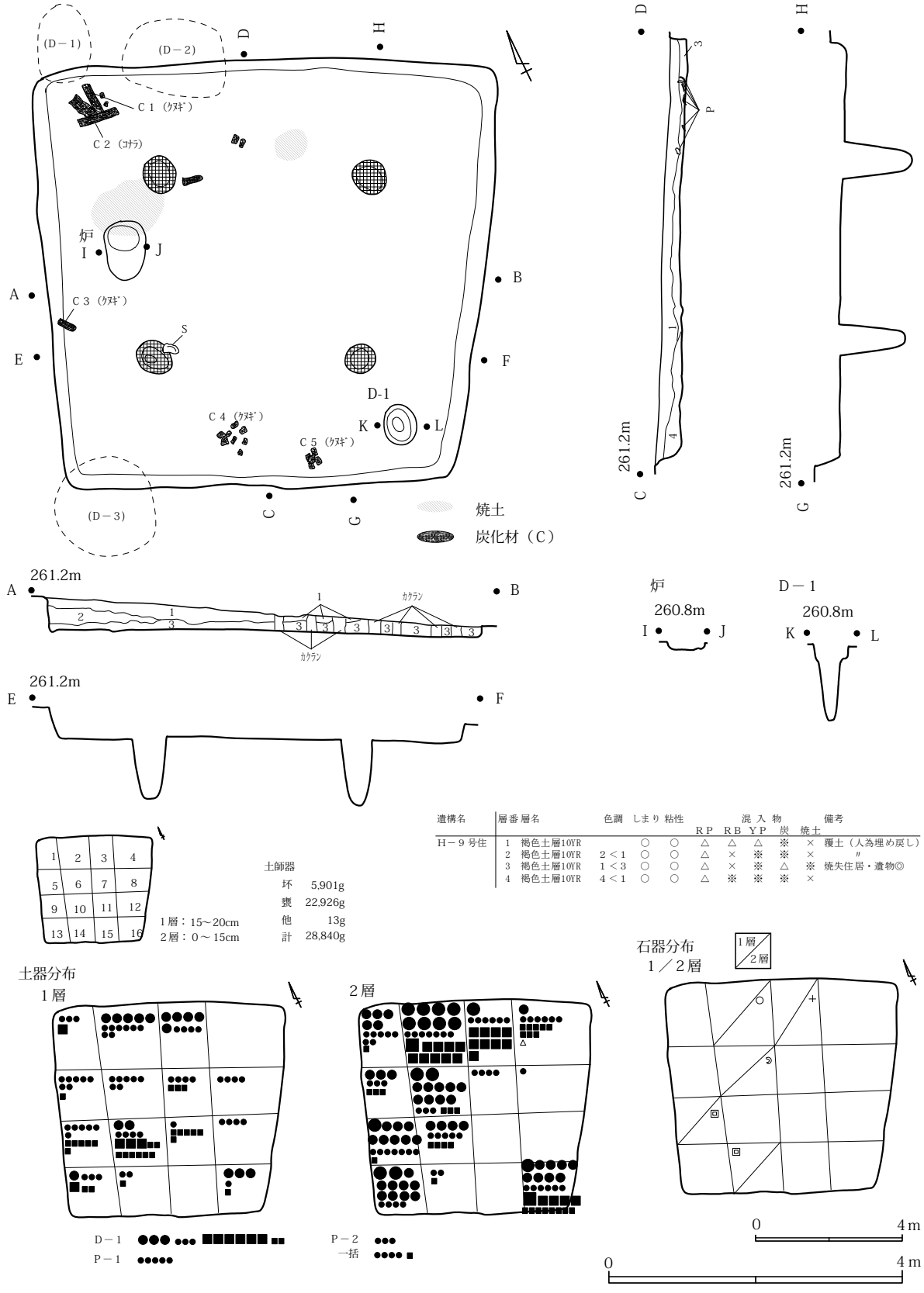


石器分布



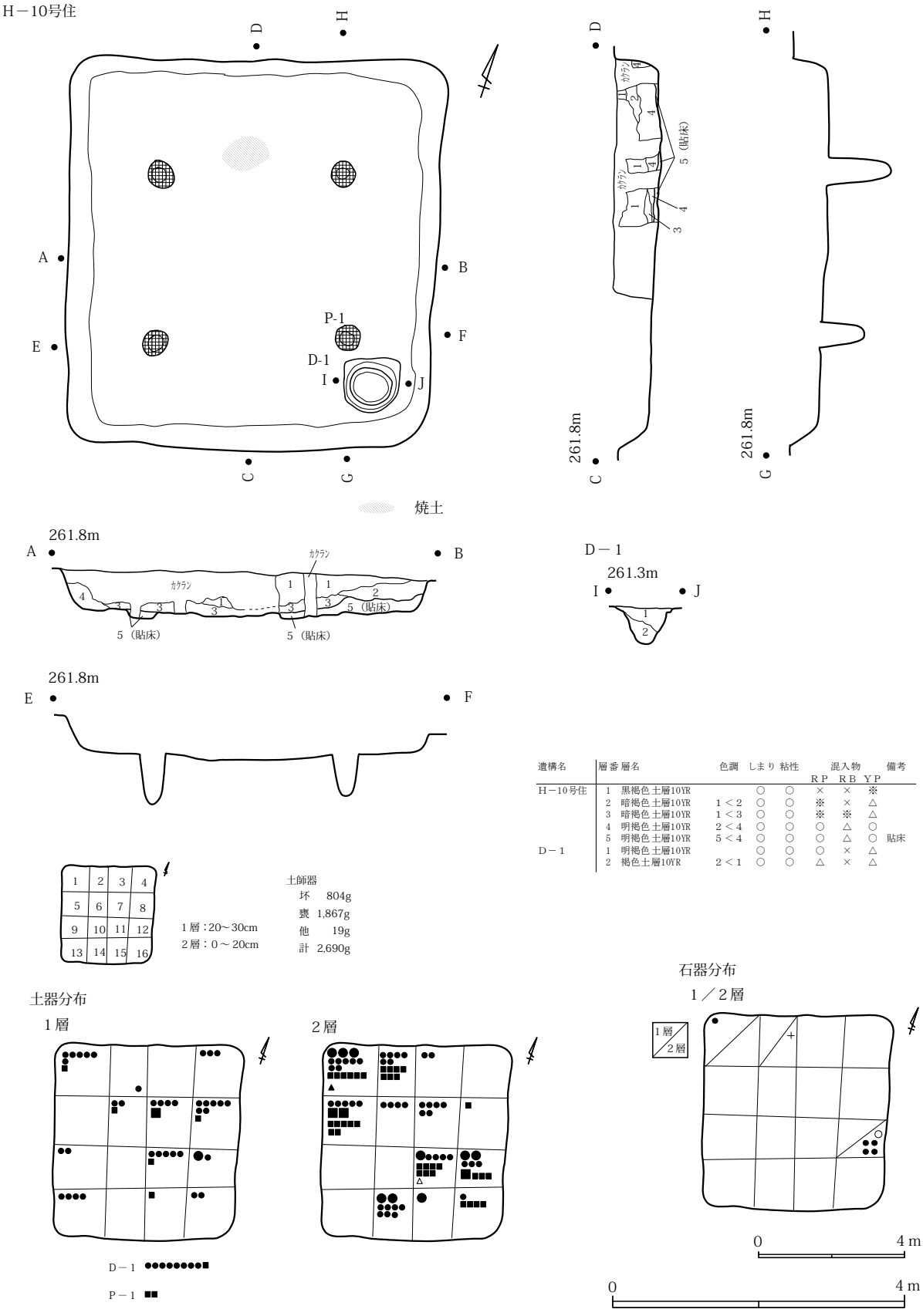
第66図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－８号住居址実測図

H－９号住



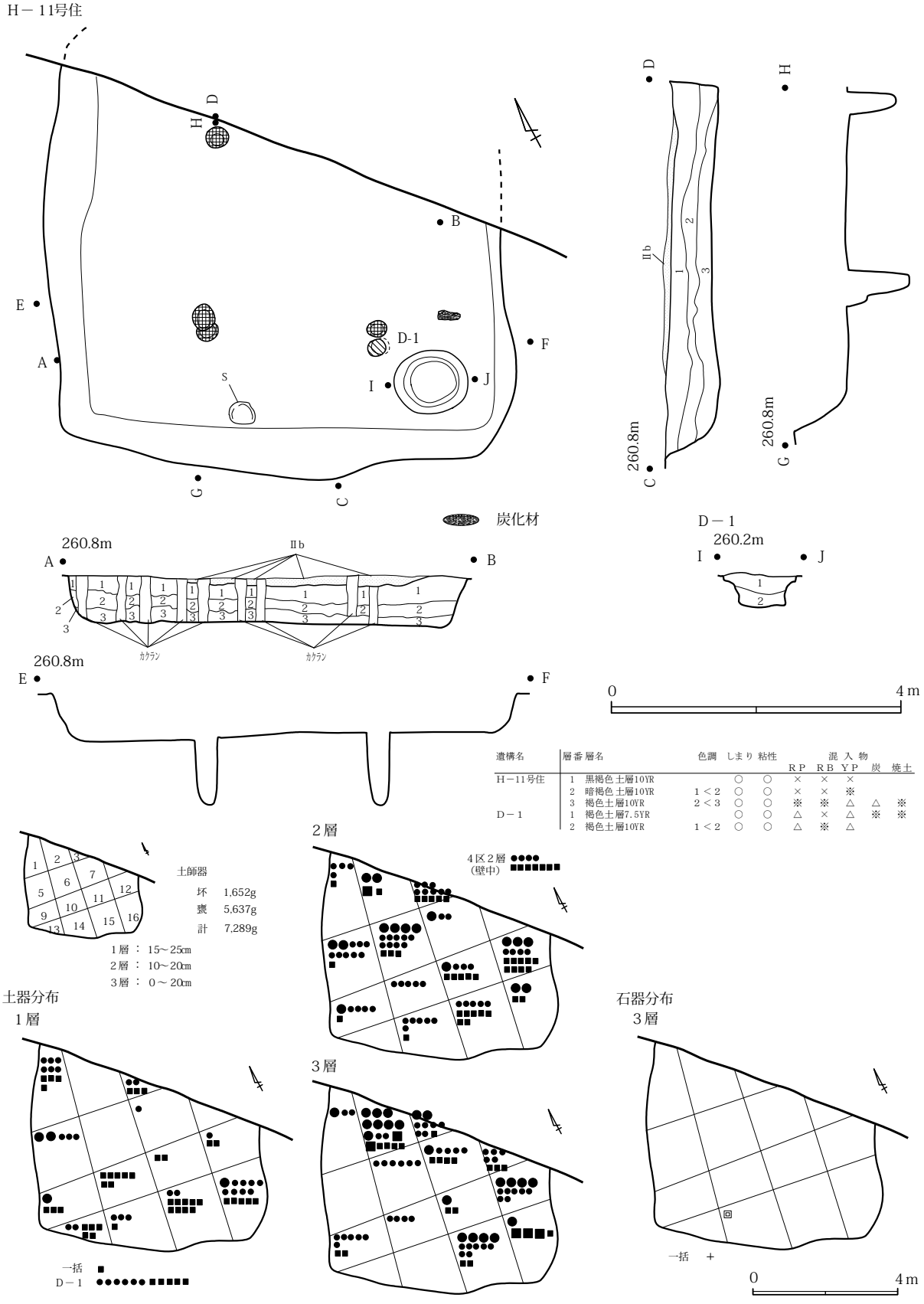
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－９号住	1	褐色土層10YR		○	○	△	△	△	※	×	覆土（人為埋め戻し）
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	×	※	※	×	〃
	3	褐色土層10YR	1＜3	○	○	△	×	※	△	※	焼失住居・遺物◎
	4	褐色土層10YR	4＜1	○	○	△	※	※	※	×	

第67図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－９号住居址実測図

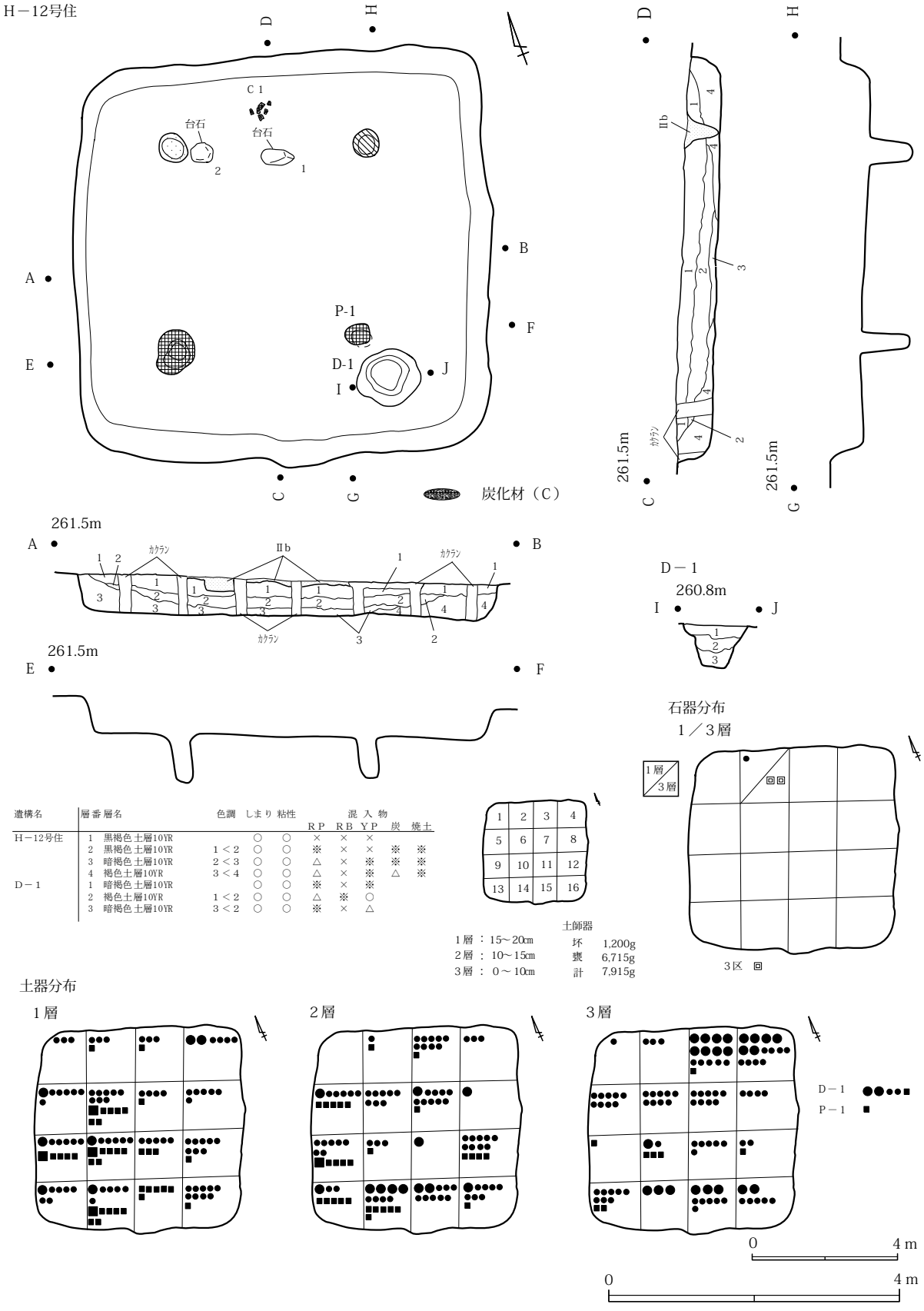


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－10号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	△	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	※	△	
	4	明褐色土層10YR	2＜4	○	○	○	△	○	
	5	明褐色土層10YR	5＜4	○	○	○	△	○	貼床
D－1	1	明褐色土層10YR		○	○	○	×	△	
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	×	△	

第68図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－10号住居址実測図



第69図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－11号住居址実測図

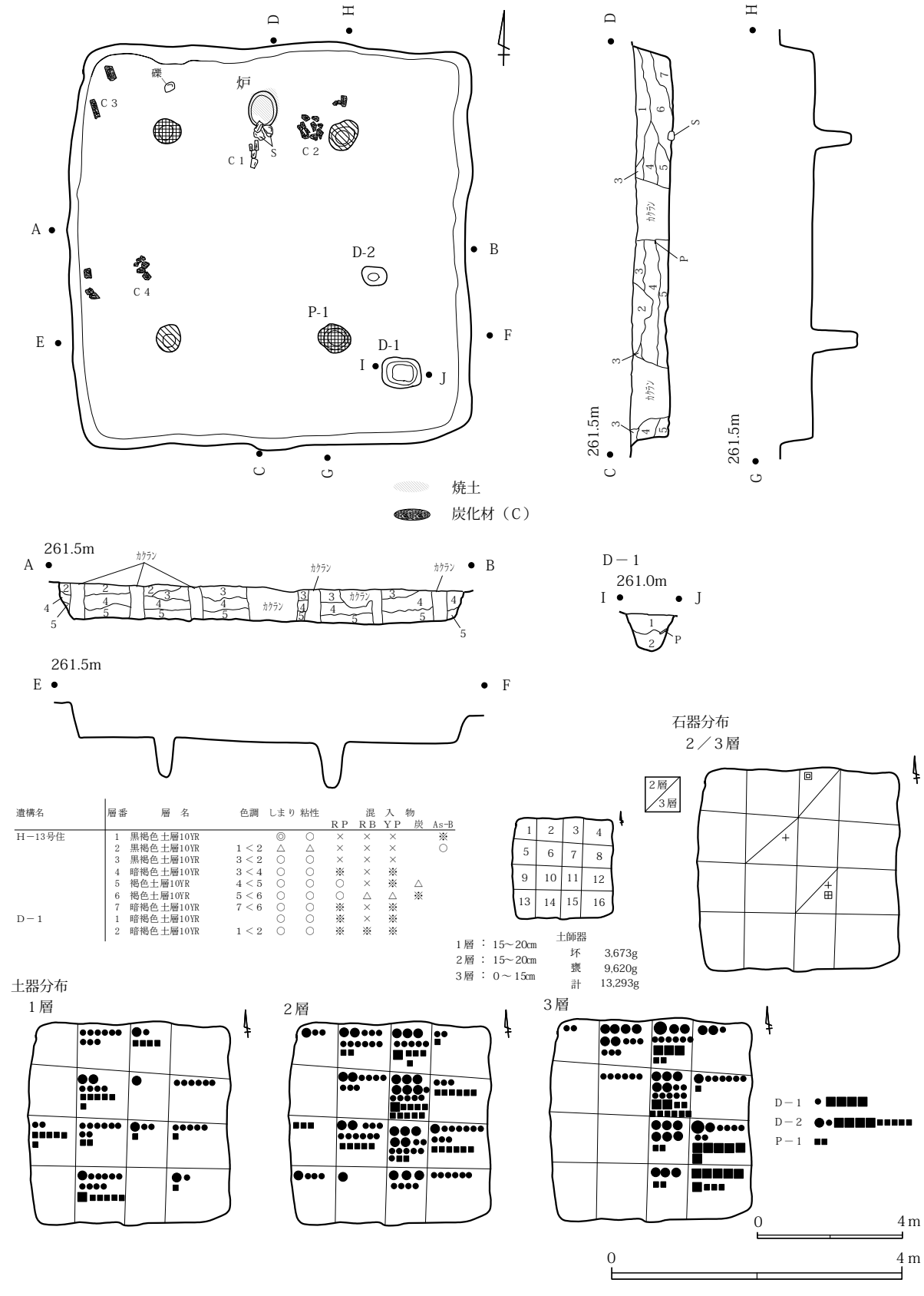


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－12号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	※	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※	※	※
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	※	△	※
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	○		
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	△		

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

第70図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－12号住居址実測図

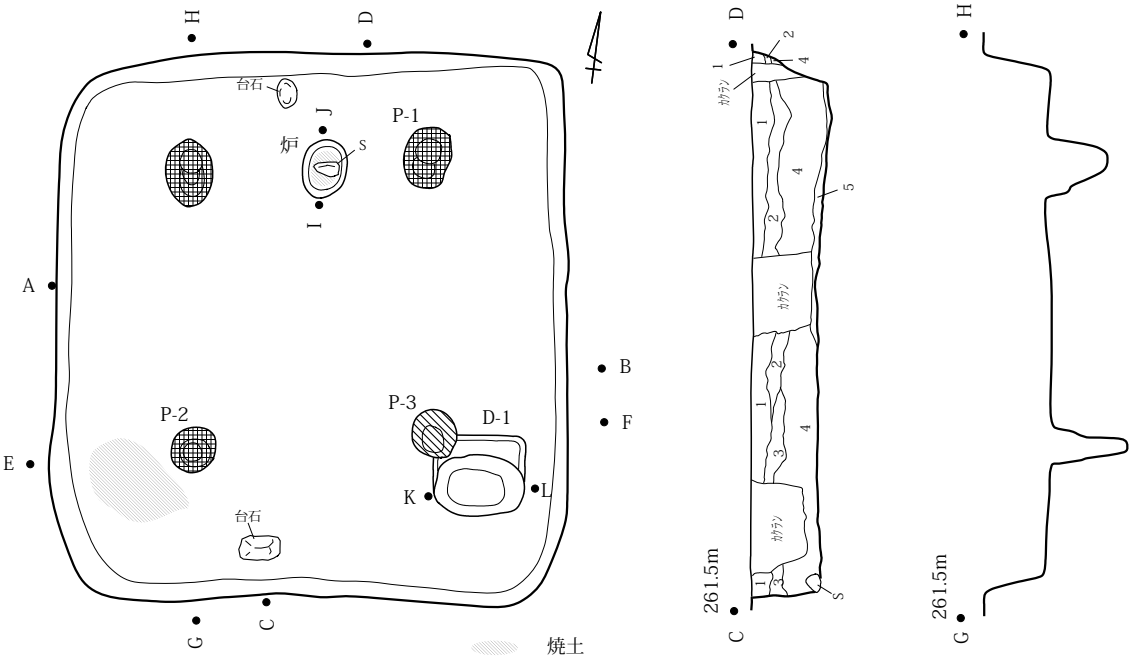
H－13号住



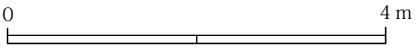
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-B
H－13号住	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		※
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×		○
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	×	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※		
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	○	×	※	△	
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	○	△	△	※	
	7	暗褐色土層10YR	7＜6	○	○	※	×	※		
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		

第71図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－13号住居址実測図

H－14号住

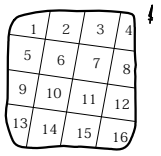


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－14号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※		
	4	明褐色土層10YR	3＜4	○	○	○	△	○	※	※
	5	褐色土層10YR	5＜4	○	○	△	※	△	△	※
炉	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	※	※	※
	2	暗褐色土層7.5YR	1＜2	○	○	※	×	※	※	※
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	△		
	4	にぶい褐色土層10YR	3＜4	○	○	○	△	○		



第72図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－14号住居址実測図（1）

H－14号住

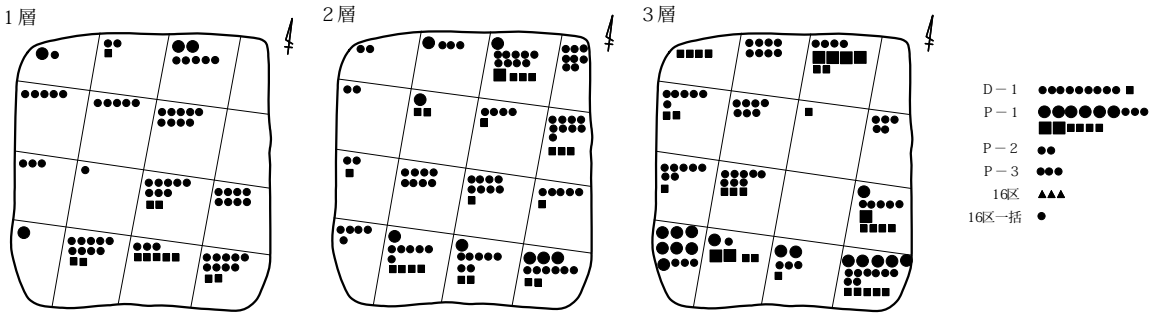


1層：15～20cm
2層：15～20cm
3層：0～10cm

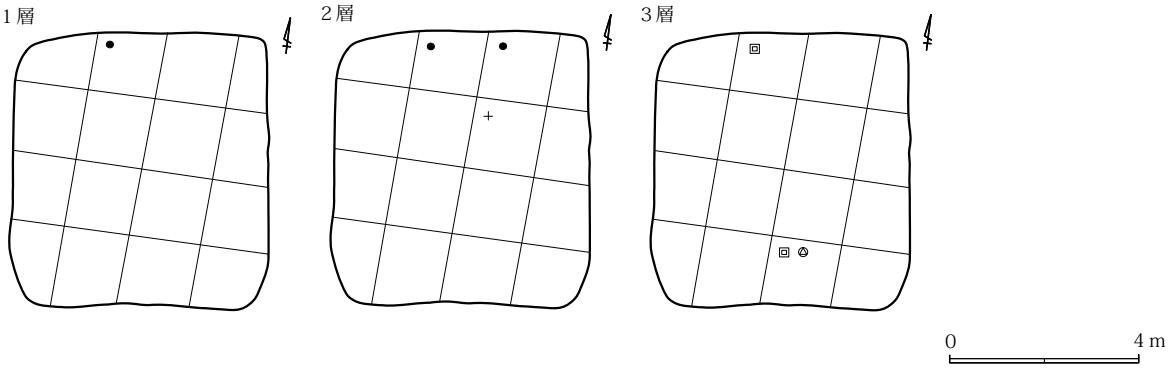
土師器

坏	1,579g
甕	5,701g
他	28g
計	7,308g

土器分布

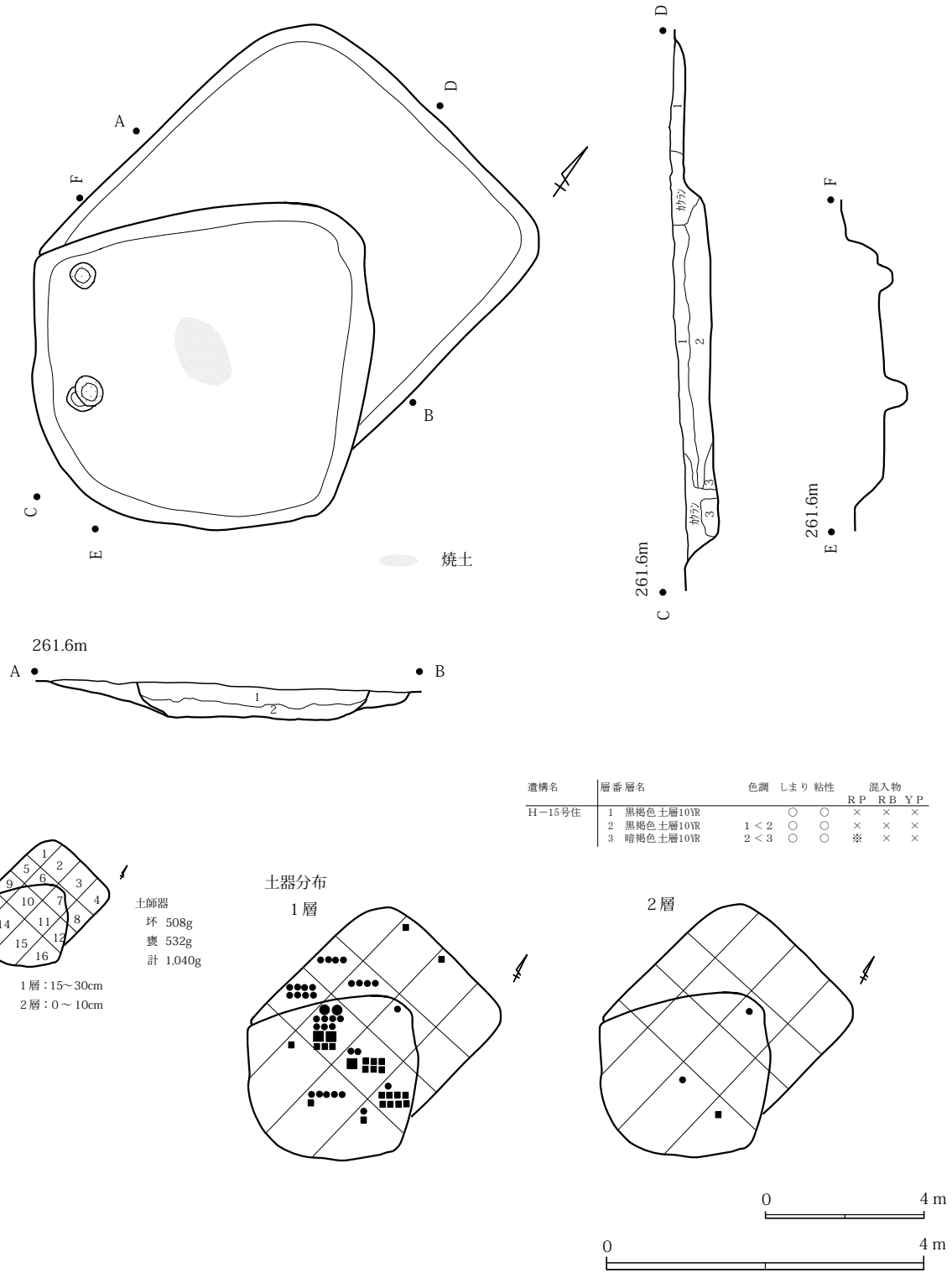


石器分布

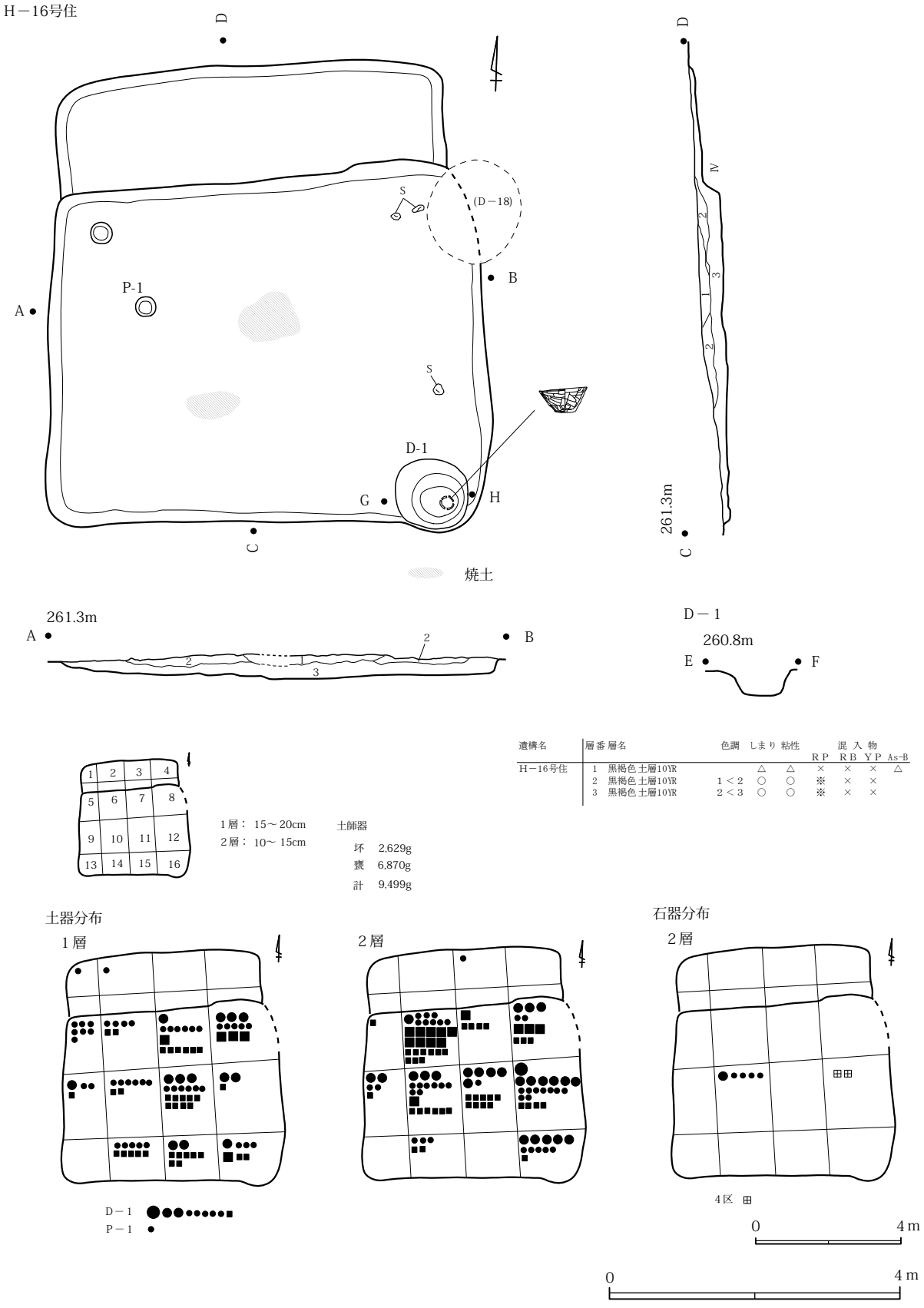


第73図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－14号住居址実測図（2）

H－15号住

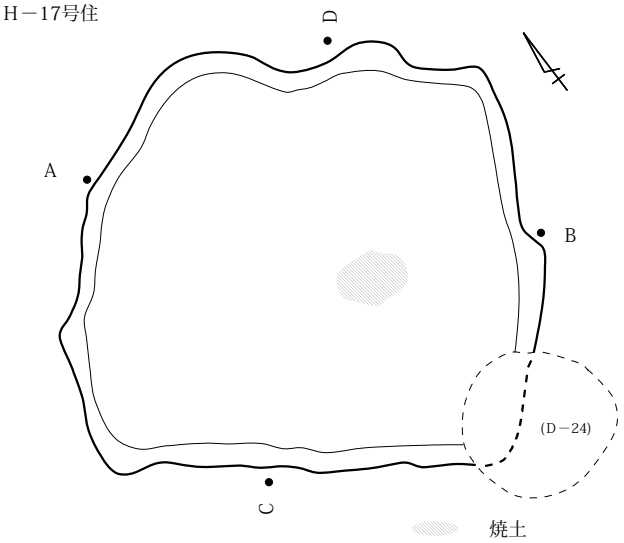


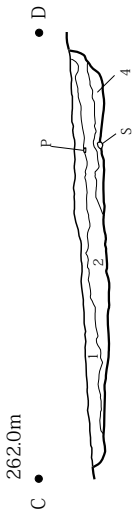
第74図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－15号住居址実測図

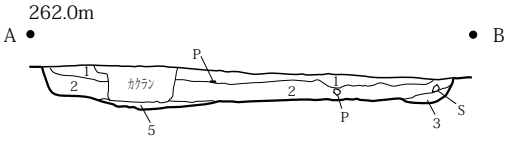


第75図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－16号住居址実測図

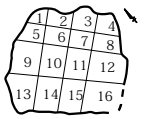
H－17号住







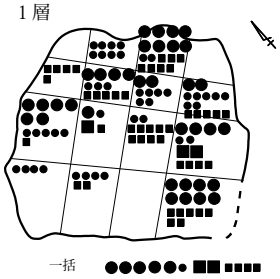
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－17号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
	4	暗赤褐色土層５YR	2＜4	○	○	△	×	×	※	△
	5	黒褐色土層10YR	5＜2	△	○	×	※	×		



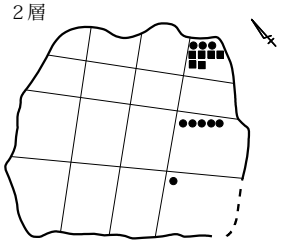
土師器
坏　1,044g
甕　4,523g
計　5,567g

1層：20～30cm
2層：0～5cm

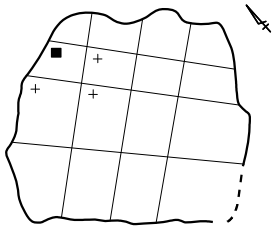
土器分布
1層



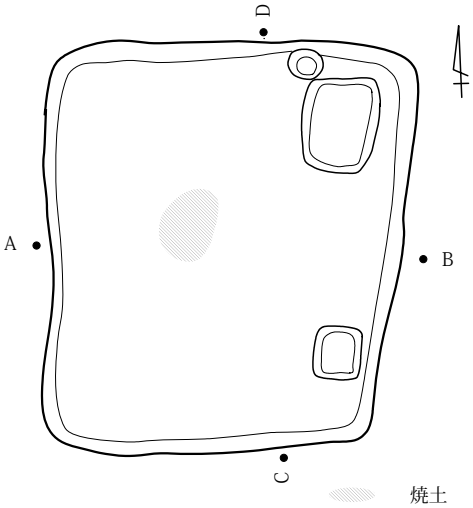
2層

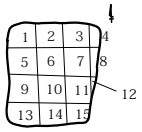


石器分布
1層



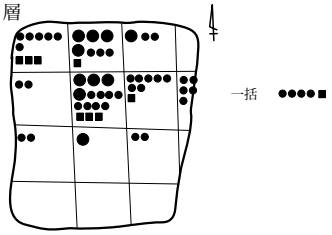
H－18号住



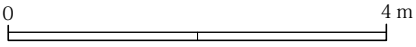


土師器
坏　99g
甕　1,404g
計　1,503g

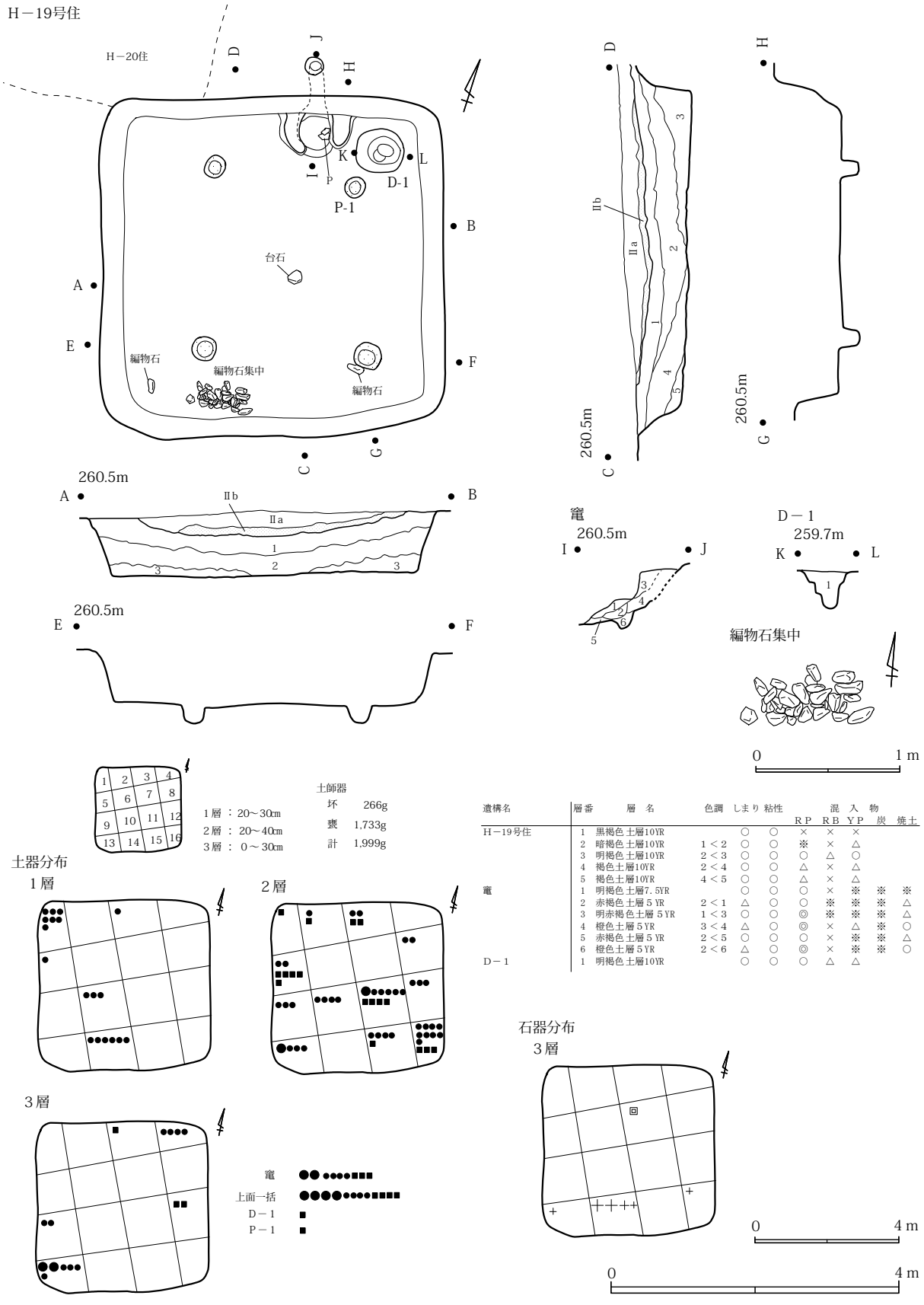
土器分布
1層



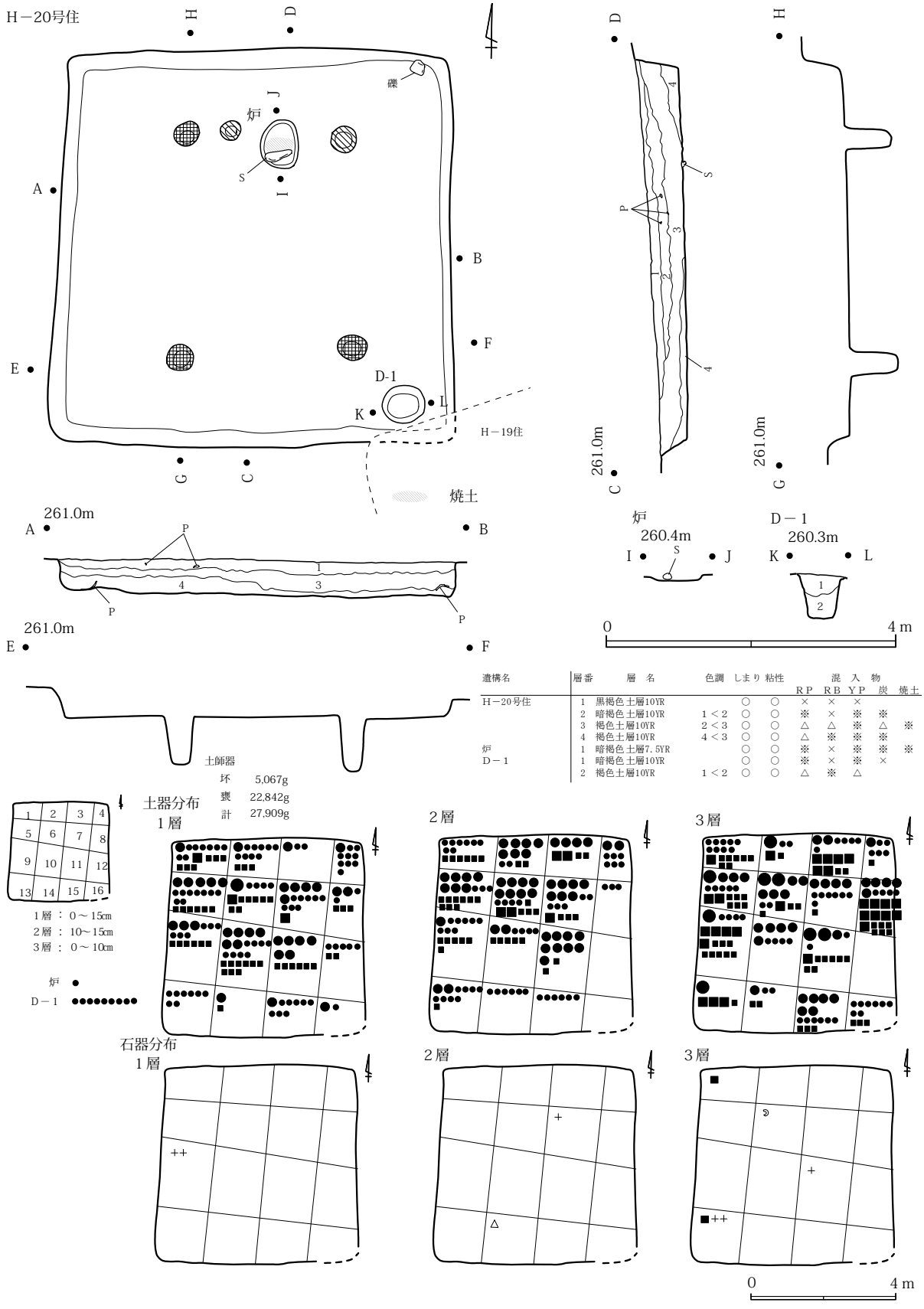
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－18号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×



第76図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－17・18号住居址実測図

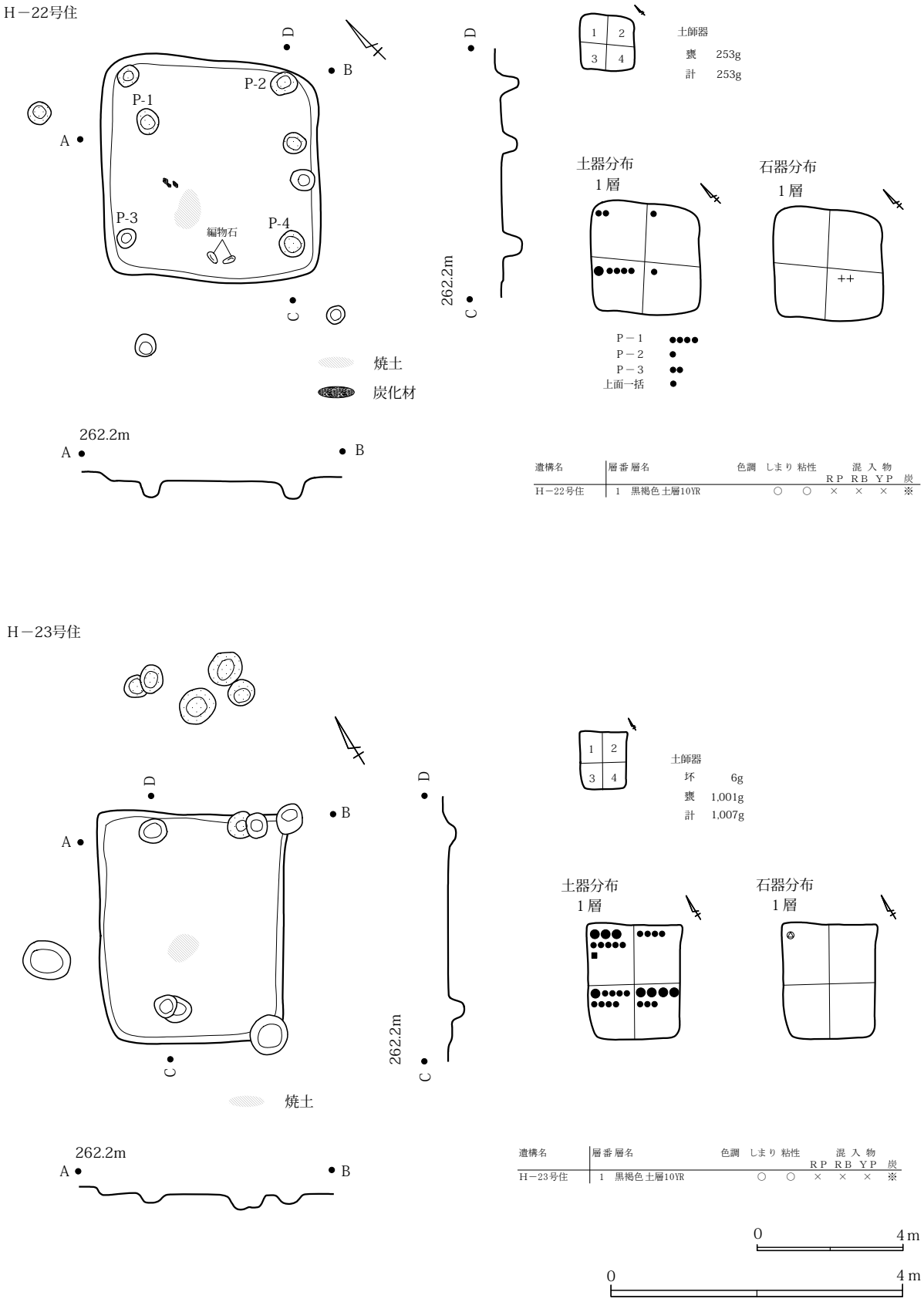


第77図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－19号住居址実測図



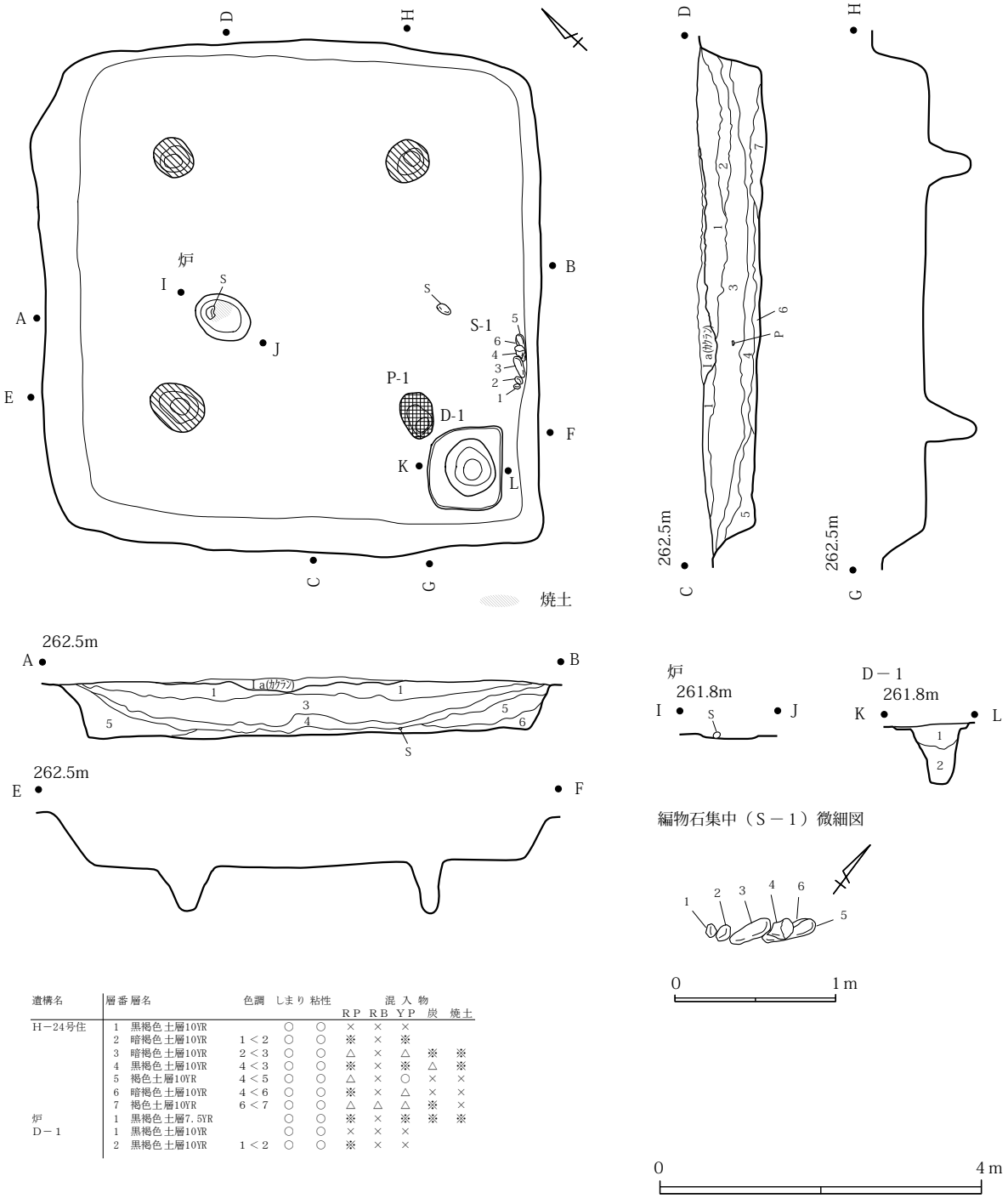
第78図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－20号住居址実測図

第 79 図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－ 21 号住居址実測図



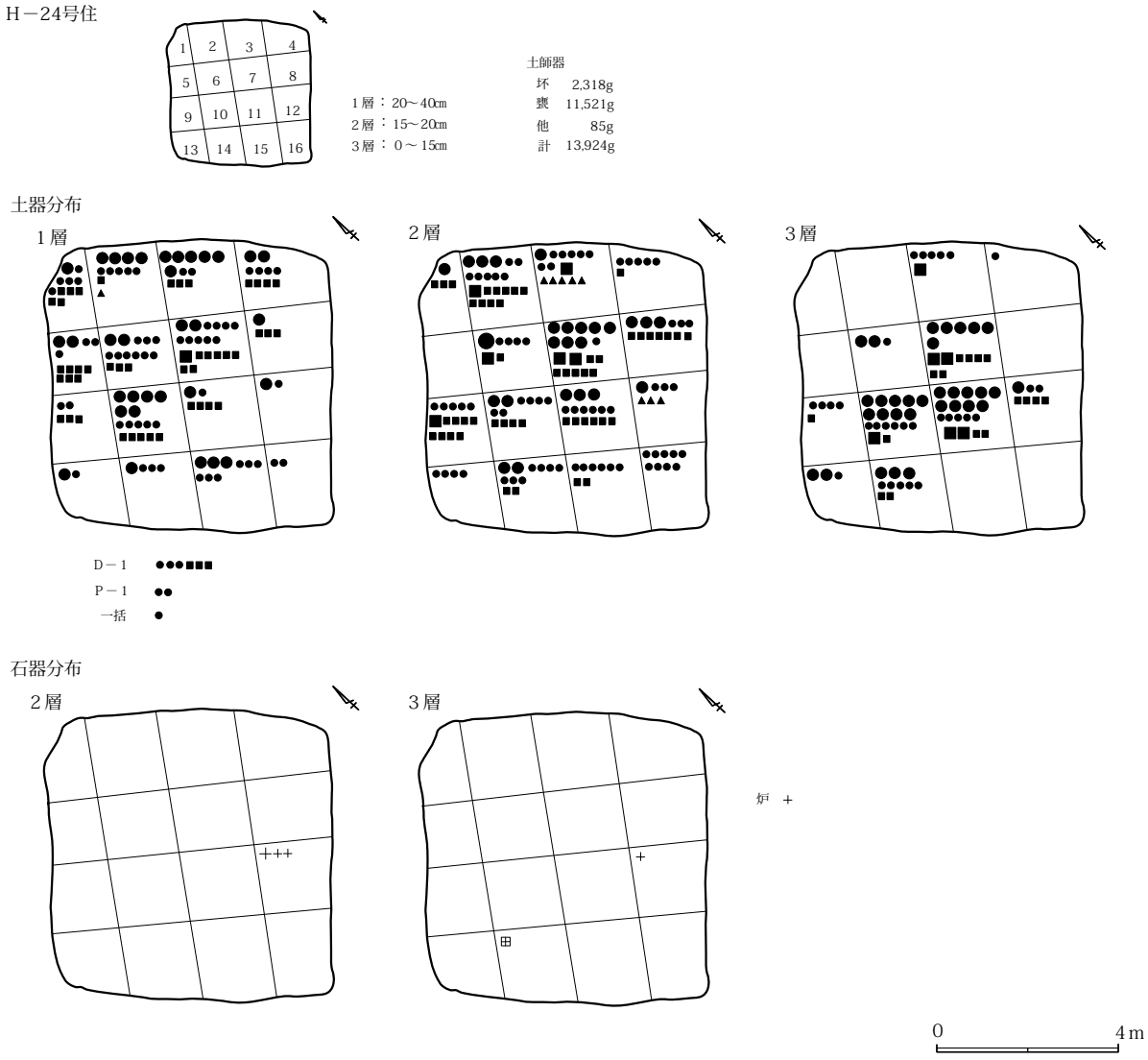
第80図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－22・23号住居址実測図

H－24号住

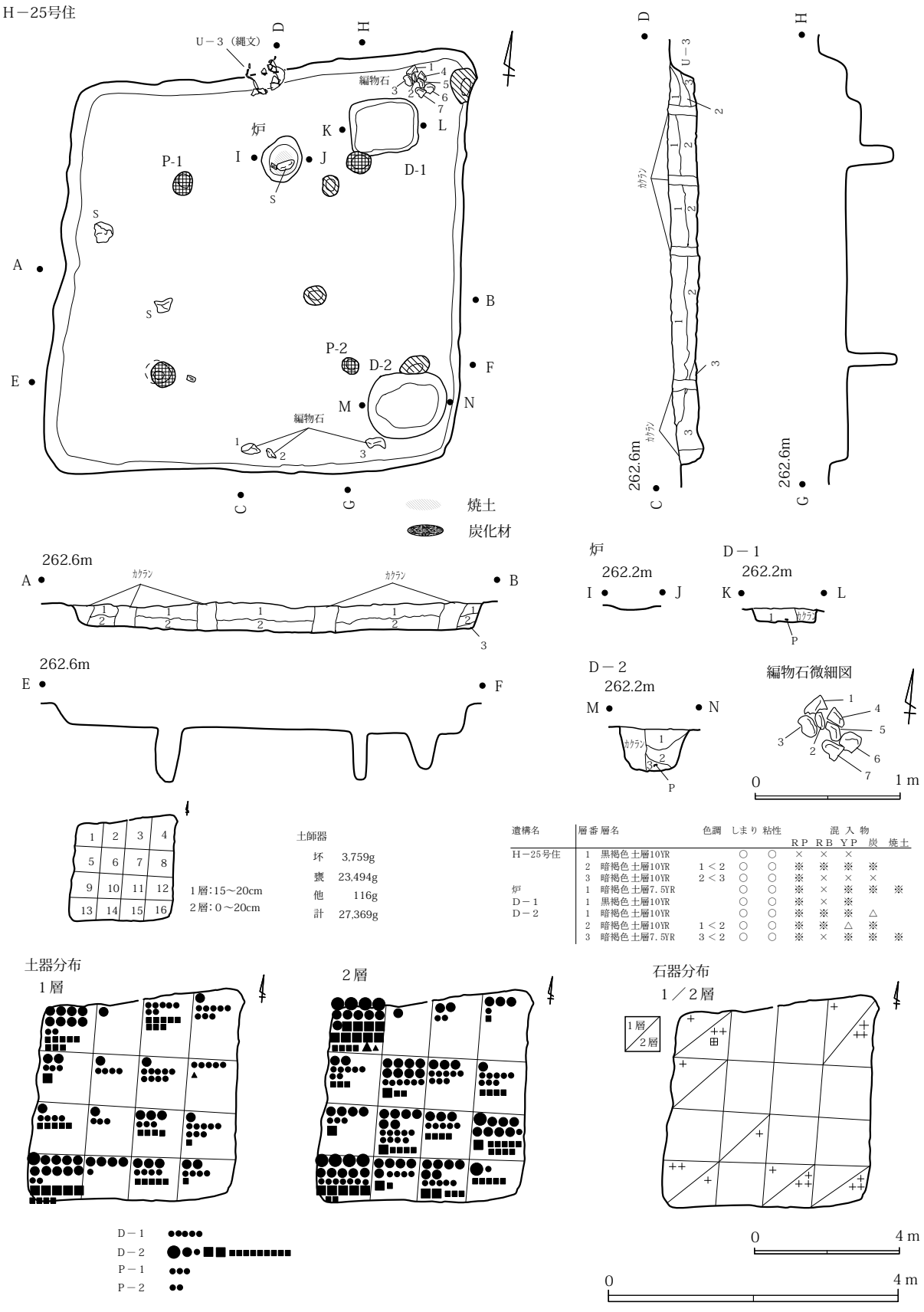


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－24号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	△	※	※
	4	黒褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	※	△	※
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	×	○	×	×
	6	暗褐色土層10YR	4＜6	○	○	※	×	△	×	×
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	△	△	※	×
炉	1	黒褐色土層7.5YR		○	○	※	×	※	※	※
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		

第81図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－24号住居址実測図（1）



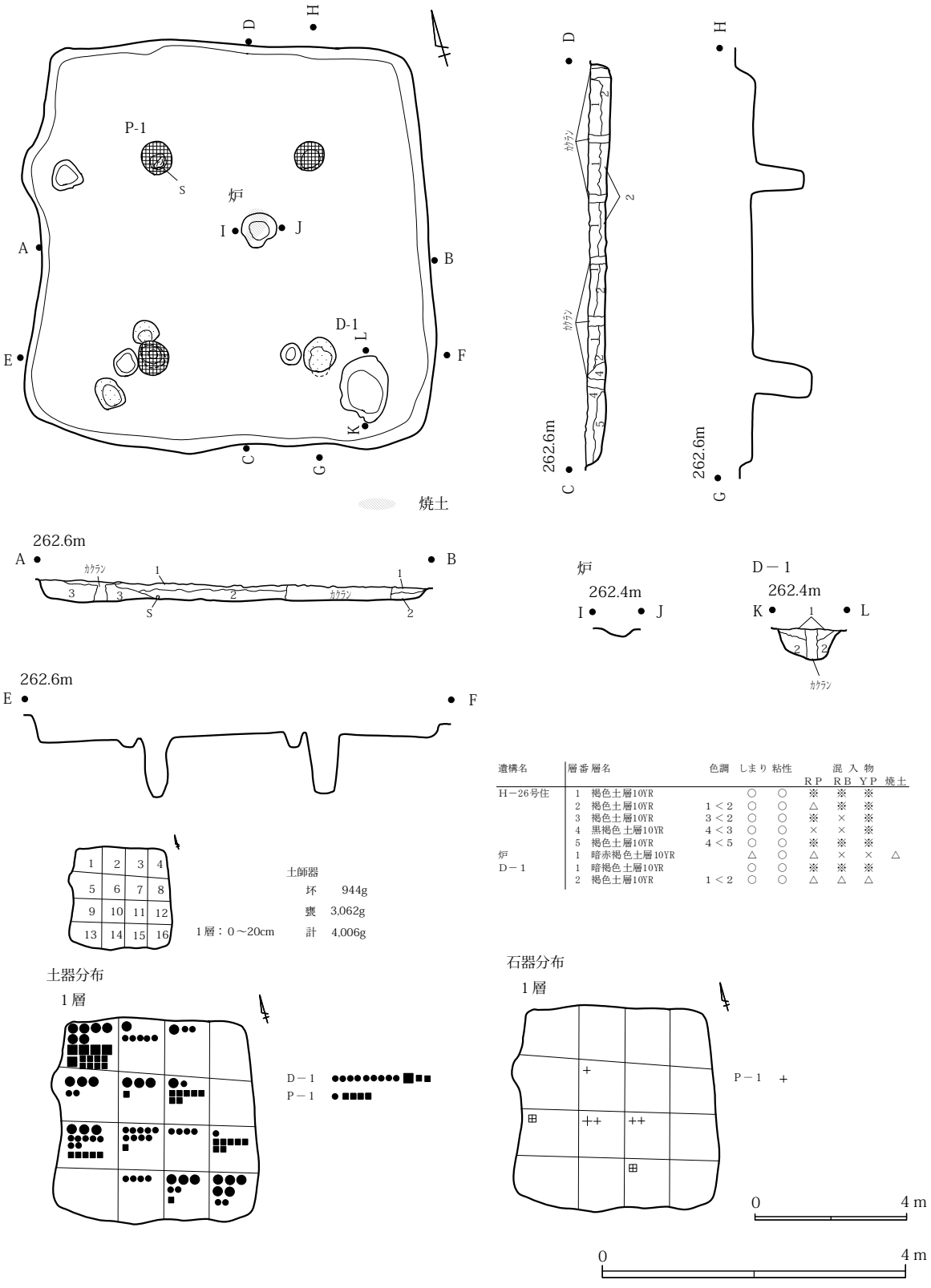
第82図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－24号住居址実測図（2）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－25号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※	※	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	×	
炉	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	※	※	※
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
D－2	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	△	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	△	※	
	3	暗褐色土層7.5YR	3＜2	○	○	※	×	※	※	※

第83図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－25号住居址実測図

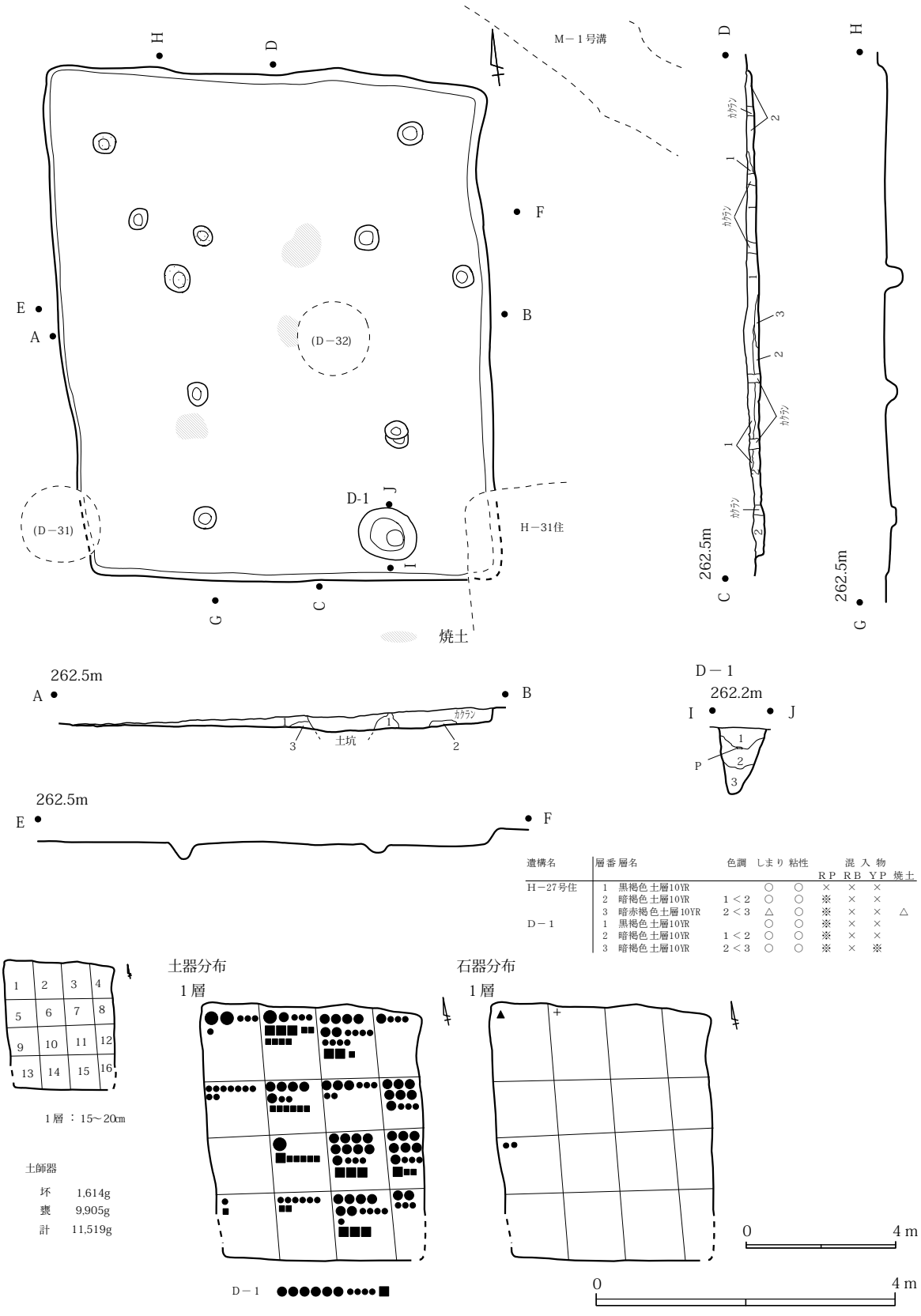
H－26号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土
H－26号住	1	褐色土層10YR		○	○	※	※	※	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※	
	3	褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※	
	4	黒褐色土層10YR	4＜3	○	○	×	×	※	
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	※	※	
炉	1	暗赤褐色土層10YR		△	○	△	×	×	△
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	△	

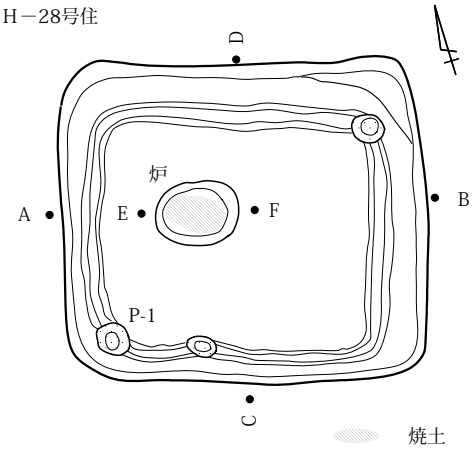
第84図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－26号住居址実測図

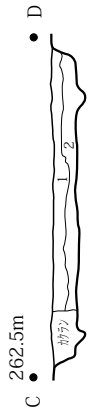
H－27号住

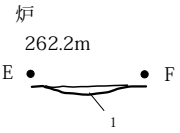


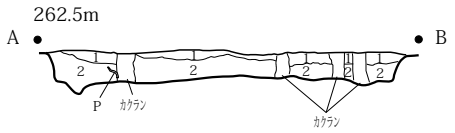
第85図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－27号住居址実測図

H－28号住

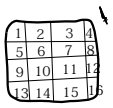








遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－28号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
炉	1	赤褐色土層５YR		△	△	△	×	※	△	※



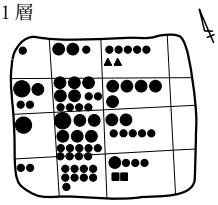
1層：20cm

土師器

坏	18g
甕	5,590g
他	22g
計	5,630g

土器分布

1層

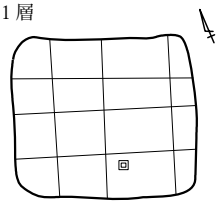


炉 ●●●●●

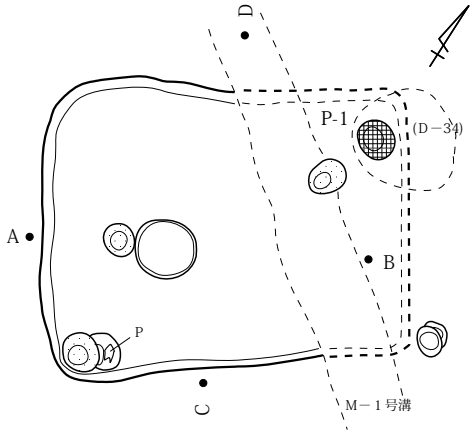
P－1 ●●

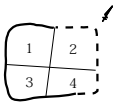
石器分布

1層



H－29号住





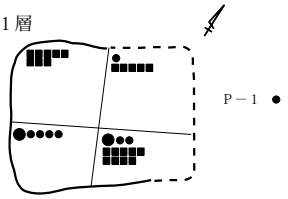
1層：20cm

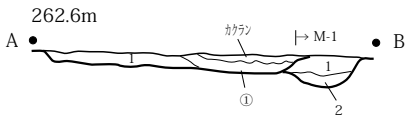
土師器

坏	218g
甕	283g
計	501g

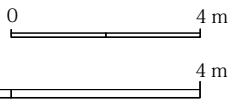
土器分布

1層



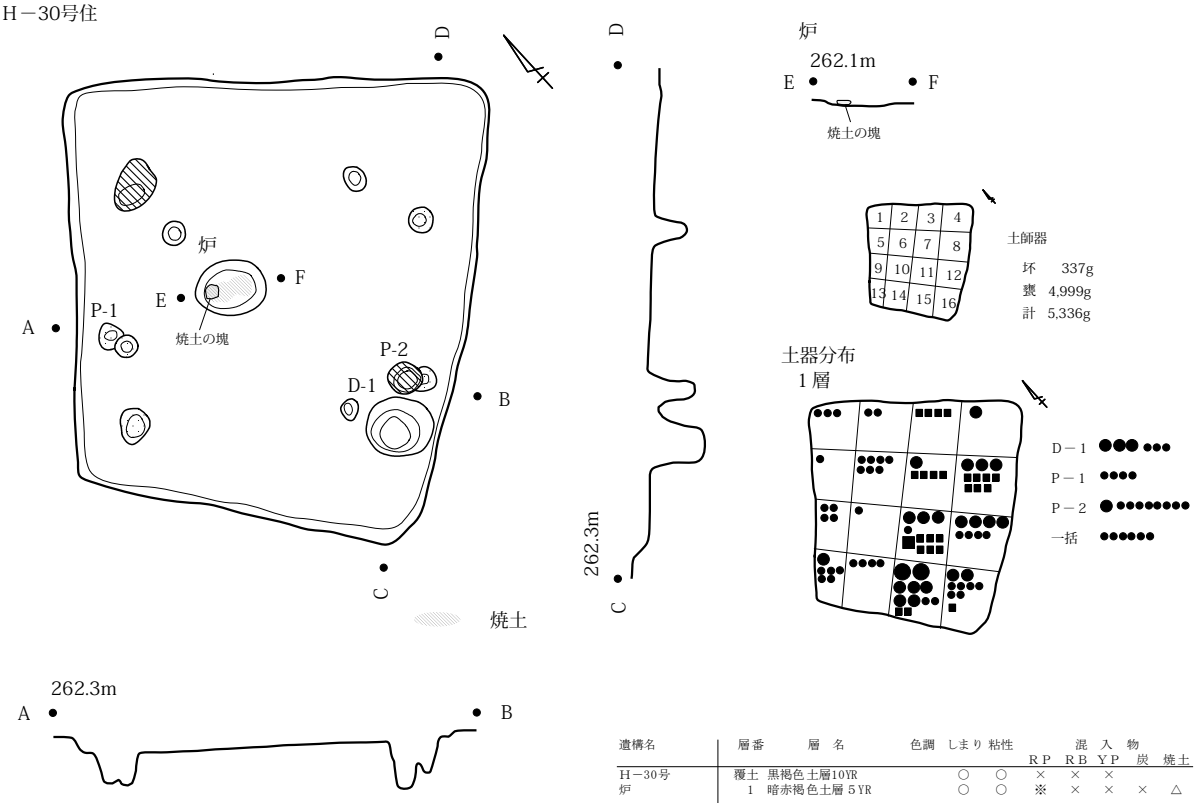


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	備考
H－29号住	①	黒褐色土層10YR		△	△	※	△	※	
	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	△	M－１覆土
	3	黒色土層10YR		○	○	×	×	×	M－１床覆土



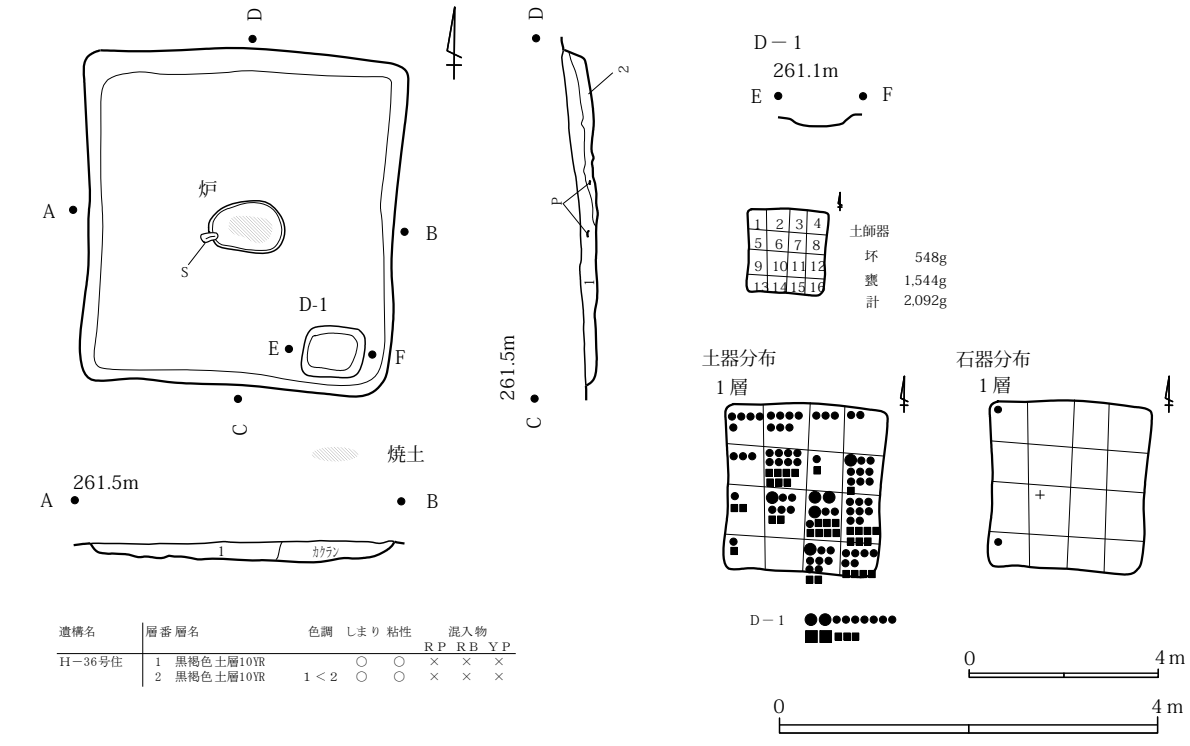
第86図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－28・29号住居址実測図

H－30号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－30号	覆土	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
炉	1	暗赤褐色土層 5YR		○	○	※	×	×	×	△

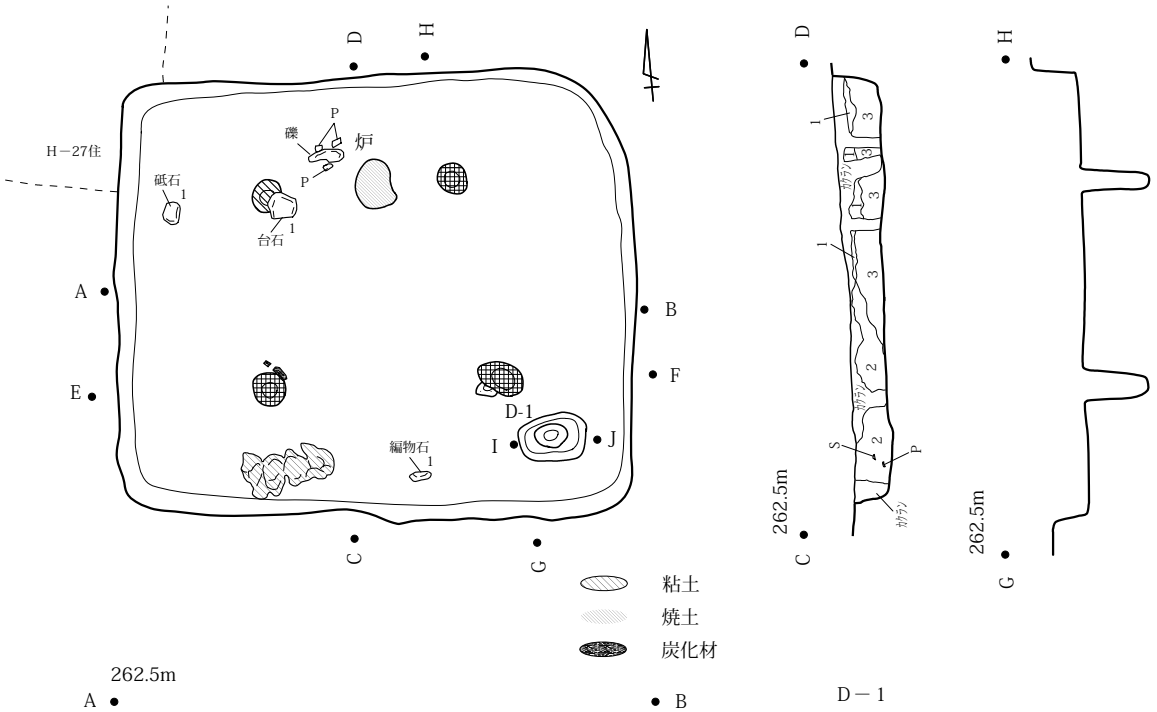
H－36号住

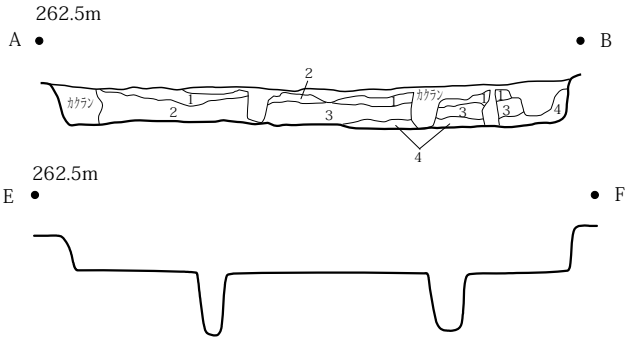


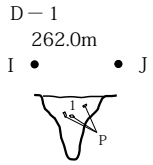
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－36号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×

第87図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－30・36号住居址実測図

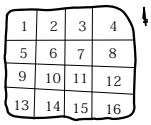
H－31号住







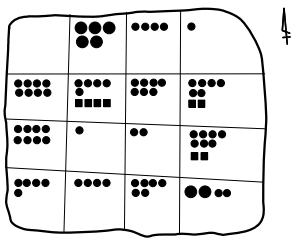
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
H－31号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	△	※	埋め戻し
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※	※	
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	×	※	
D－1	1	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	△	△		白粘土△



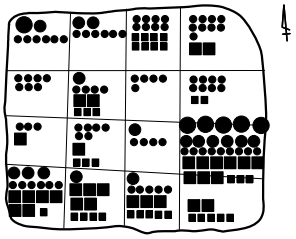
1層： 15cm
2層： 20～30cm

土師器
坏 3,645g
甕 9,868g
計 13,513g

土器分布
1層

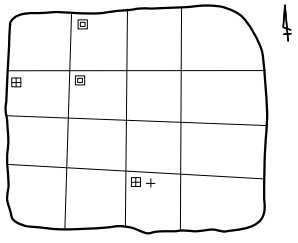


2層

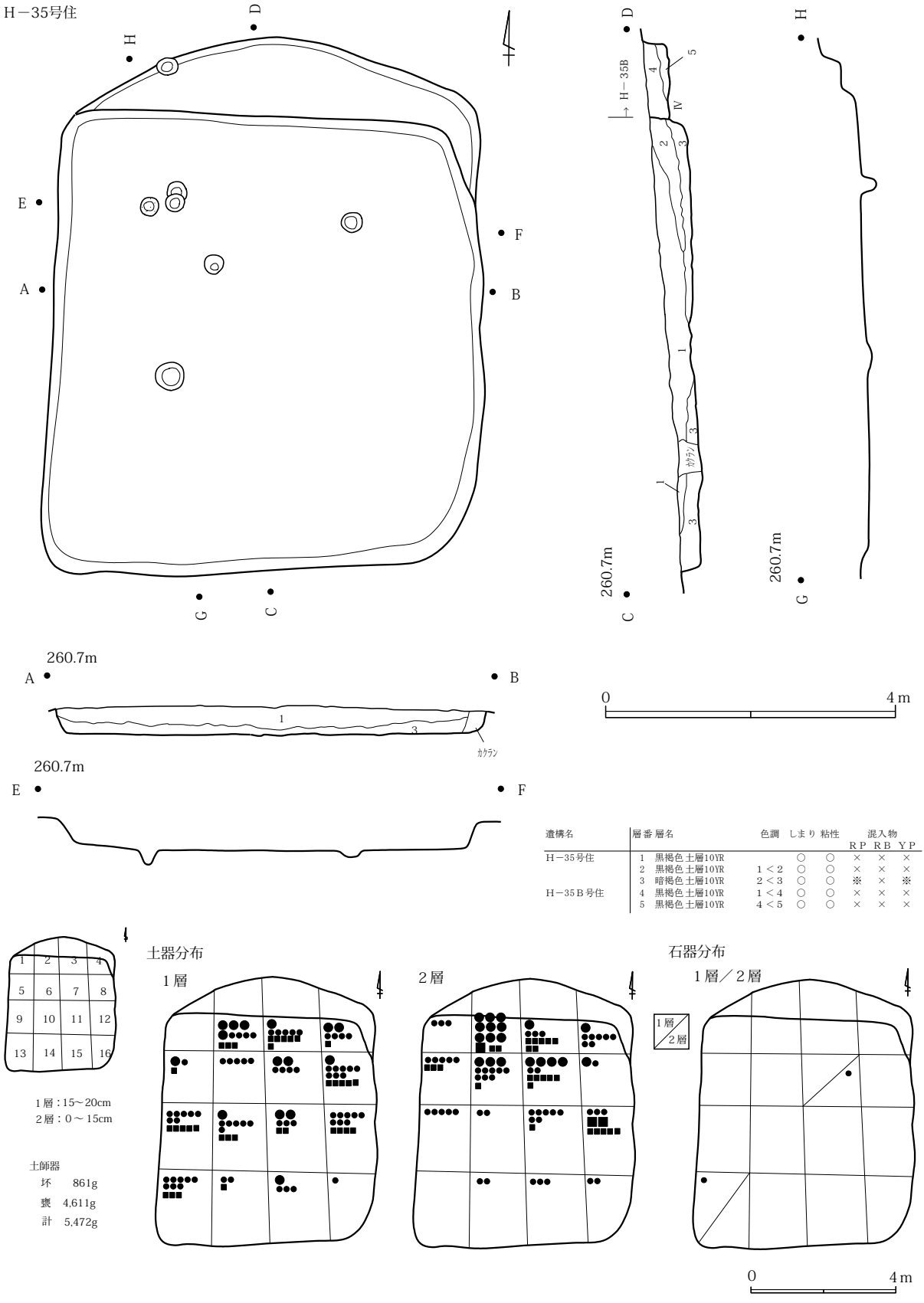


D－1
P－1

石器分布
2層

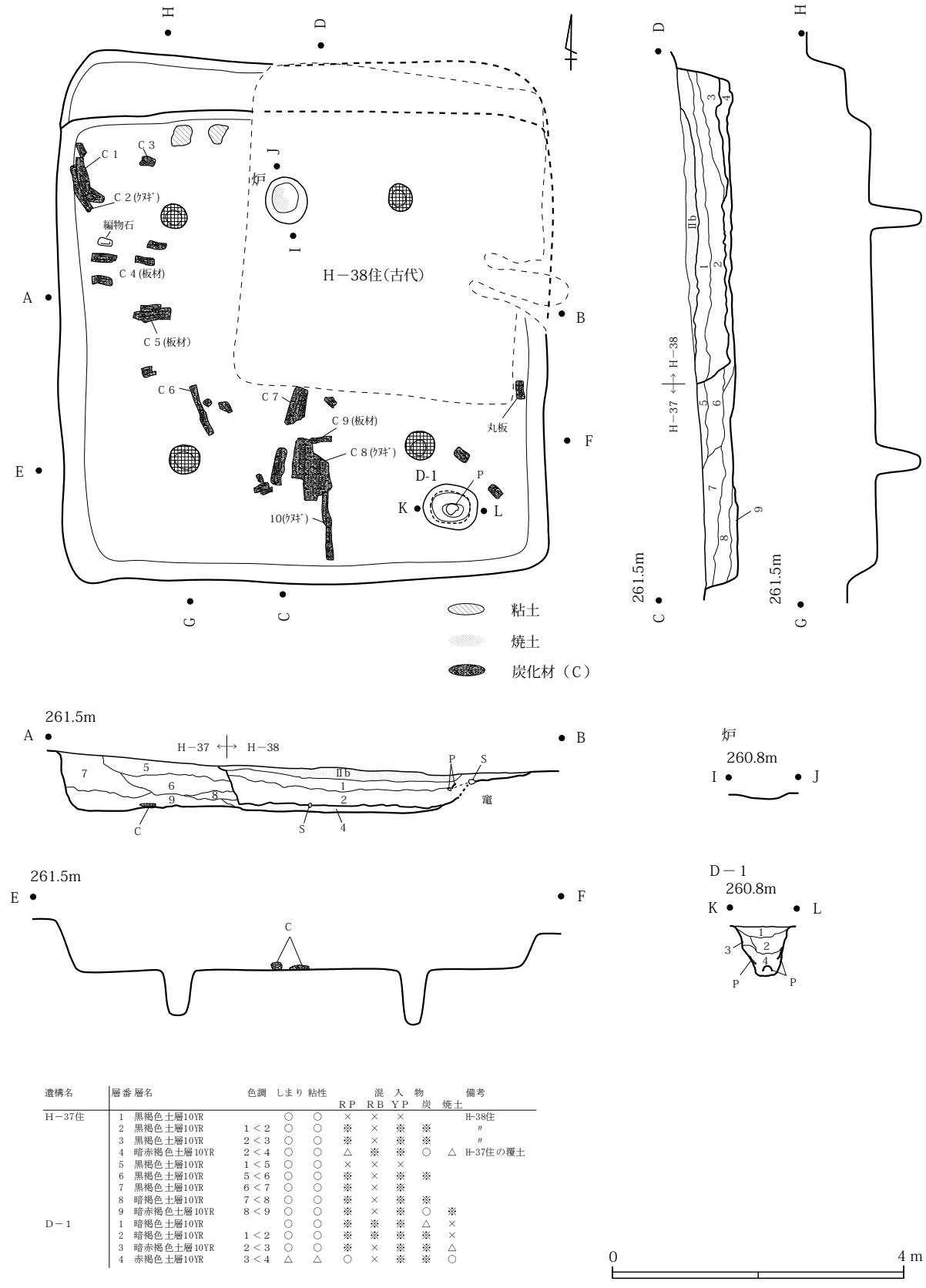


第88図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－31号住居址実測図



第89図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－35号住居址実測図

H－37号住

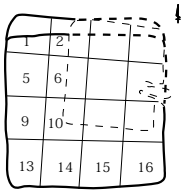


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－37住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			H-38住
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※		〃
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	※		〃
	4	暗赤褐色土層10YR	2＜4	○	○	△	※	※	○	△	H-37住の覆土
	5	黒褐色土層10YR	1＜5	○	○	×	×	×			
	6	黒褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	※	※		
	7	黒褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	※			
	8	暗褐色土層10YR	7＜8	○	○	※	×	※	※		
	9	暗赤褐色土層10YR	8＜9	○	○	※	×	※	○	※	
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	△	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※	※	×	
	3	暗赤褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	※	△	
	4	赤褐色土層10YR	3＜4	△	△	○	×	※	※	○	

0　4 m

第90図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－37号住居址実測図（1）

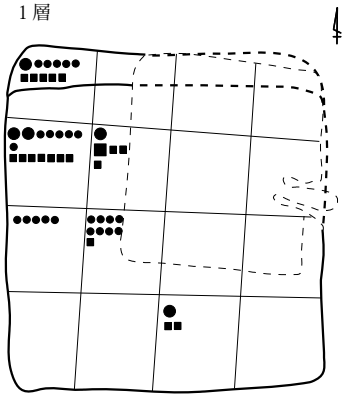
Ｈ－37号住



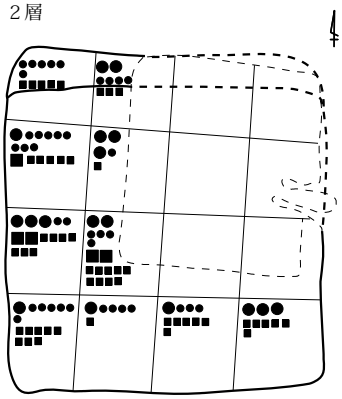
1層 ： 15～25㎝
2層 ： 20㎝
3層 ： 0～20㎝

土師器
坏　3,302g
甕　13,146g
計　16,448g

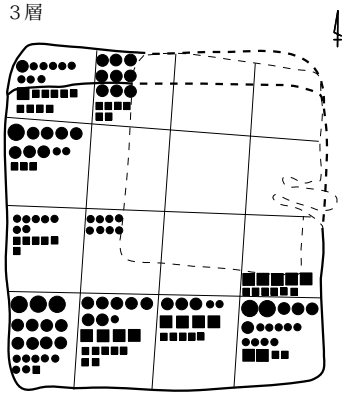
土器分布
1層



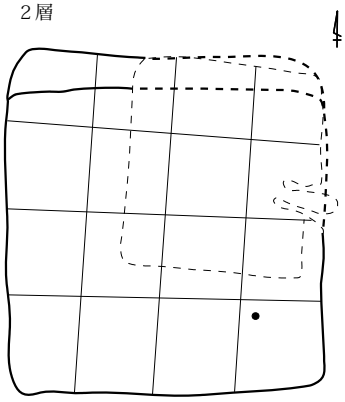
2層



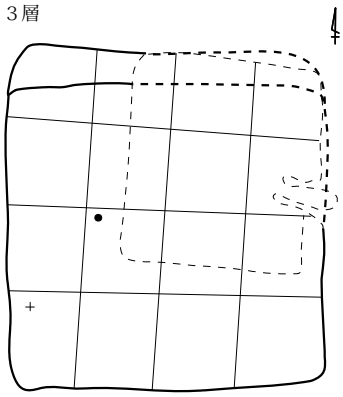
3層

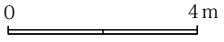


石器分布
2層



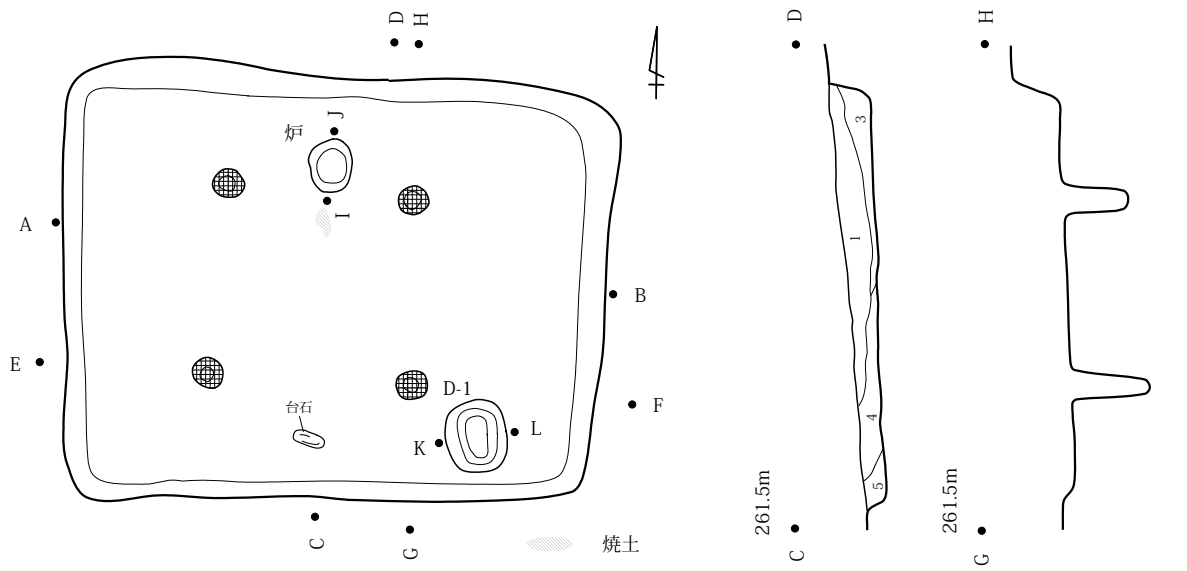
3層

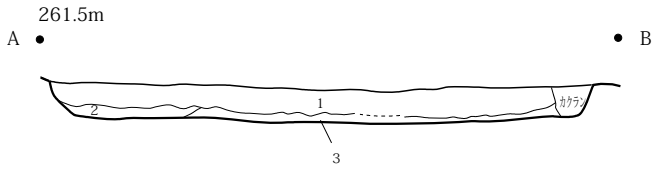


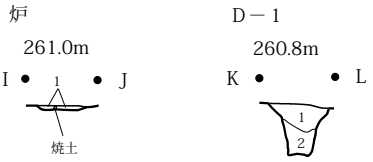


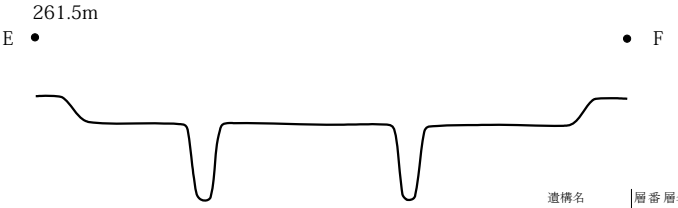
第91図　人見枝谷津遺跡（古墳）Ｈ－37号住居址実測図（２）

H－39号住

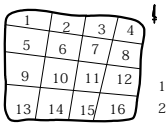








遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－39号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×			
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×			
	5	黒褐色土層10YR	5＜4	○	○	×	×	×			
炉	1	赤褐色土層５YR		○	△	※	×	※	△	※	
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			白色粘土※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			

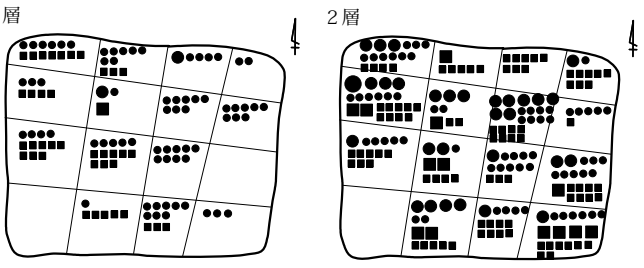


1層：15～30cm
2層：0～15cm

土師器

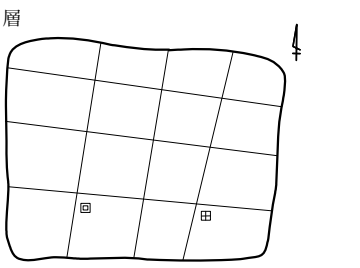
坏	2,913g
甕	6,189g
計	9,102g

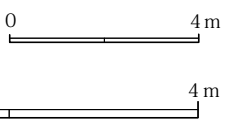
土器分布



3区サブトレ
7区サブトレ
11区サブトレ
15区サブトレ
D－1
一括

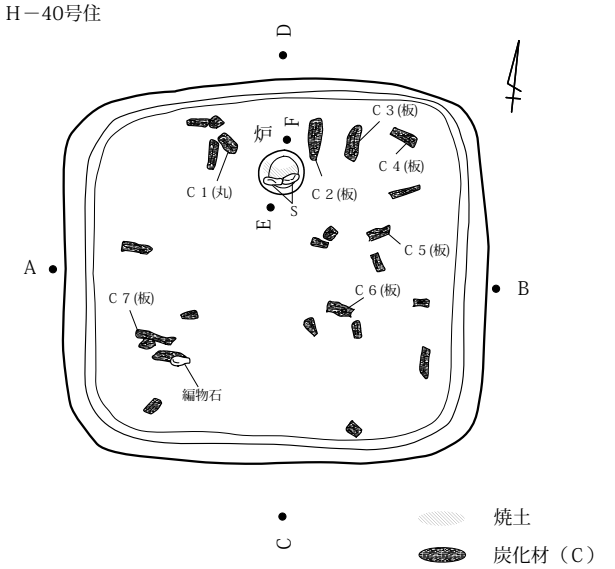
石器分布

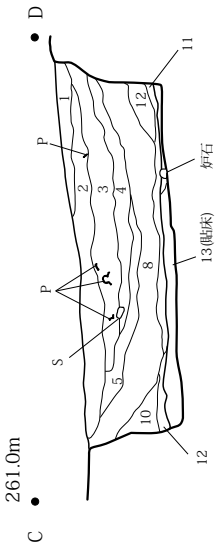


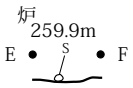


第92図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－39号住居址実測図

H－40号住



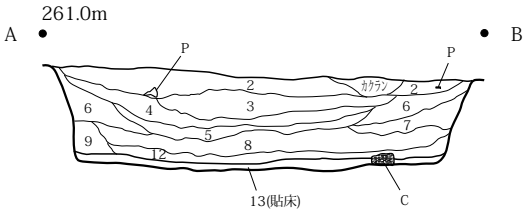


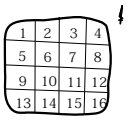


焼土

炭化材（C）

炭化材１～７:ｸﾇｷﾞ



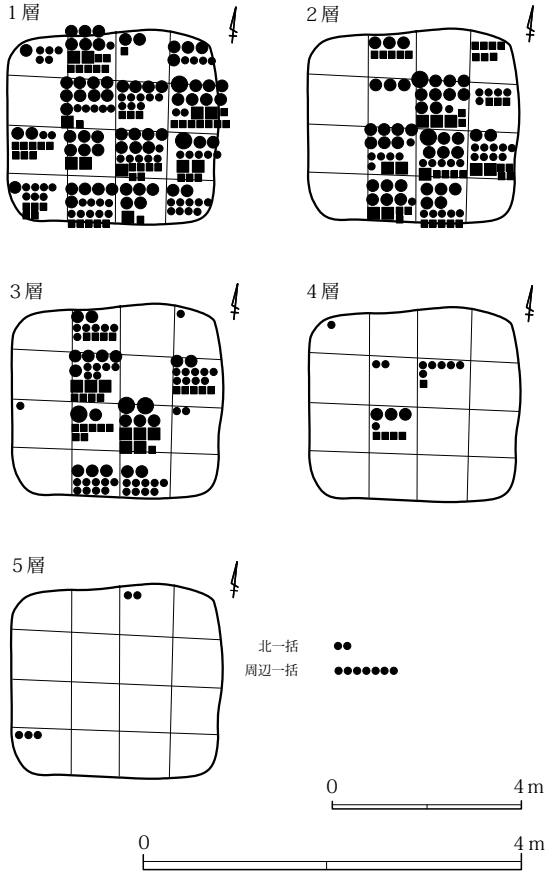


1層：15～30cm
2層：20cm
3層：15～20cm
4層：20～30cm
5層：15～20cm

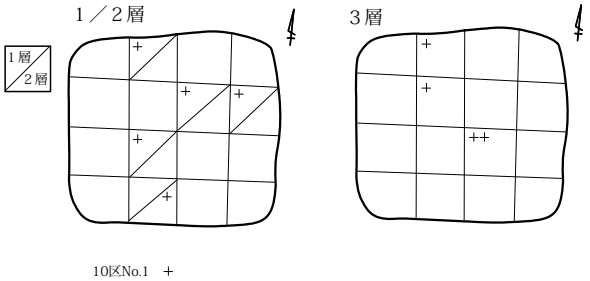
土師器
坏　3,943g
甕　20,829g
計　24,772g

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－40号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×			1層・2層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			1層・2層
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※	※		1層・2層
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	※	※	※	3層
	5	黒褐色土層10YR	5＜4	○	○	×	×	△	※		3層
	6	暗褐色土層10YR	3＜6	○	○	※	×	※	※		3層
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	※	※		
	8	褐色土層10YR	4＜8	○	○	△	※	△	※		
	9	褐色土層10YR	9＜8	○	○	△	×	△	※		
	10	暗褐色土層10YR	10＜8	○	○	※	×	※			
	11	黄褐色土層10YR	8＜12	○	○	○	○	△			
	12	暗褐色土層10YR	11＜8	○	○	△	×	※	○	※	
	13	明褐色土層10YR	12＜13	◎	○	○	※	○			

土器分布

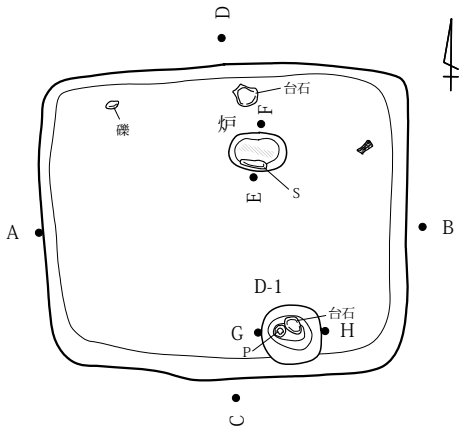


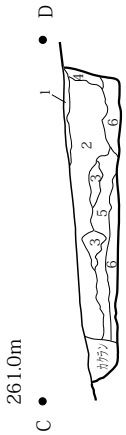
石器分布

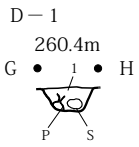


第93図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－40号住居址実測図

H－41号住

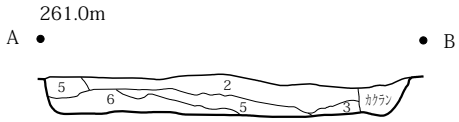




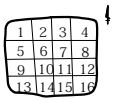


焼土

炭化材



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－41号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			
	2	黄褐色土層10YR	1＜2	○	△	◎	◎	○			1から3まで埋め戻し
	3	鈍い黄褐色土層10YR	3＜2	○	△	○	○	○			Ⅵ層ﾌﾞﾛｯｸ、Ⅴ～Ⅵ層のﾌﾞﾛｯｸ
	4	暗褐色土層10YR	4＜2	○	○	※	×	※			
	5	褐色土層10YR	5＜3	○	○	△	※	※			
	6	暗褐色土層10YR	6＜5	○	○	※	×	※	※		
炉	1	褐色土層7.5YR		○	△	△	※	△	※	×	
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×			



1層：0～20cm

土師器

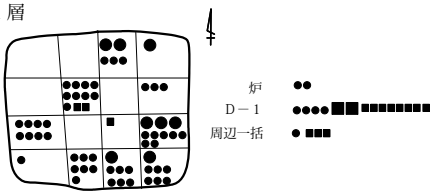
坏　335g

甕　1,354g

計　1,689g

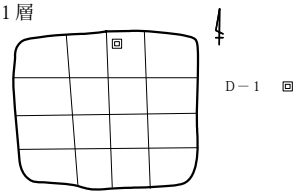
土器分布

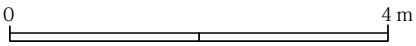
1層



石器分布

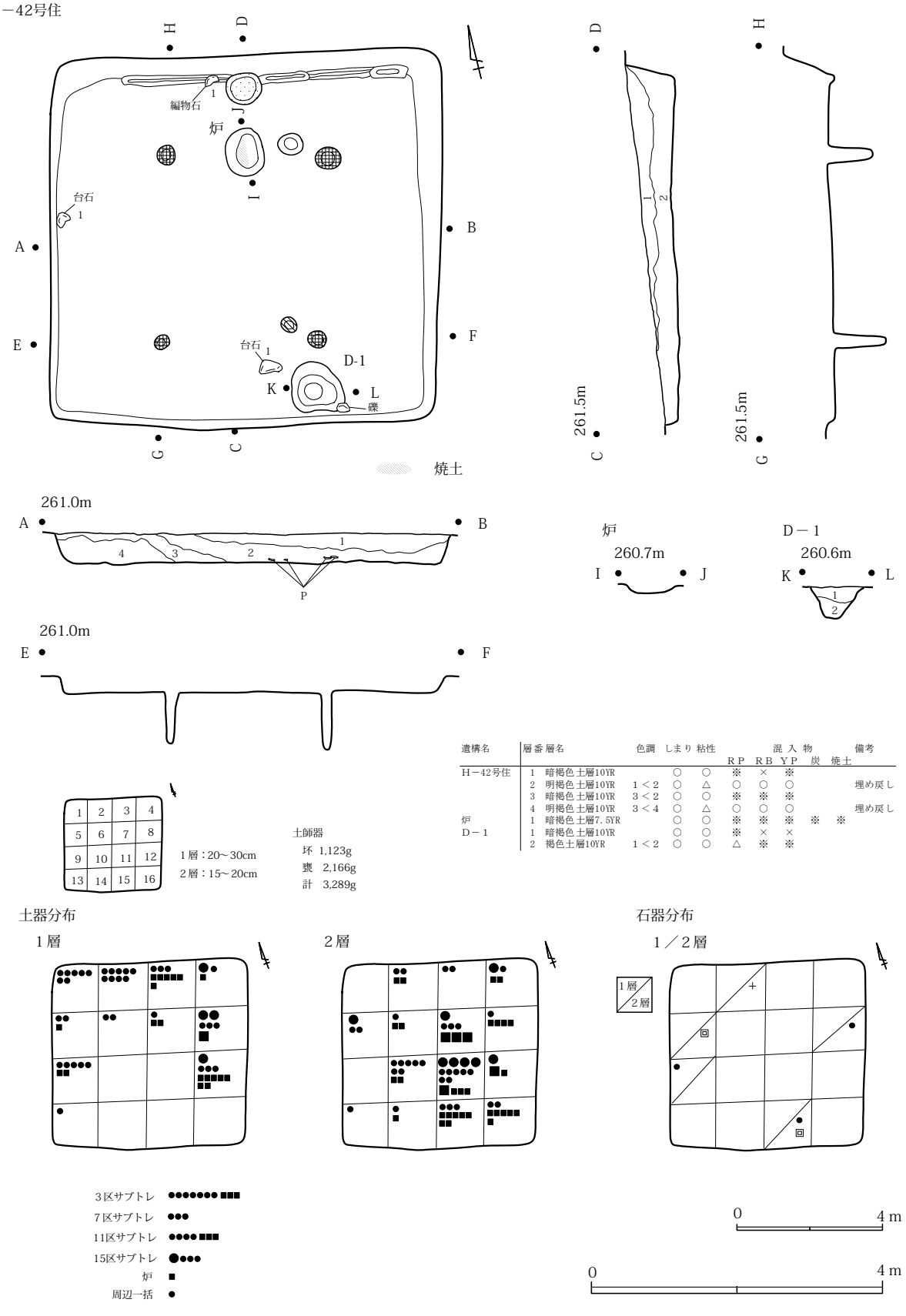
1層





第94図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－41号住居址実測図

H－42号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－42号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			
	2	明褐色土層10YR	1＜2	○	△	○	○	○			埋め戻し
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	※	※			
	4	明褐色土層10YR	3＜4	○	△	○	○	○			埋め戻し
炉	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	※	※	※	※	
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※			

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

1層：20～30cm
2層：15～20cm

土師器
坏 1,123g
甕 2,166g
計 3,289g

土器分布
1層

2層

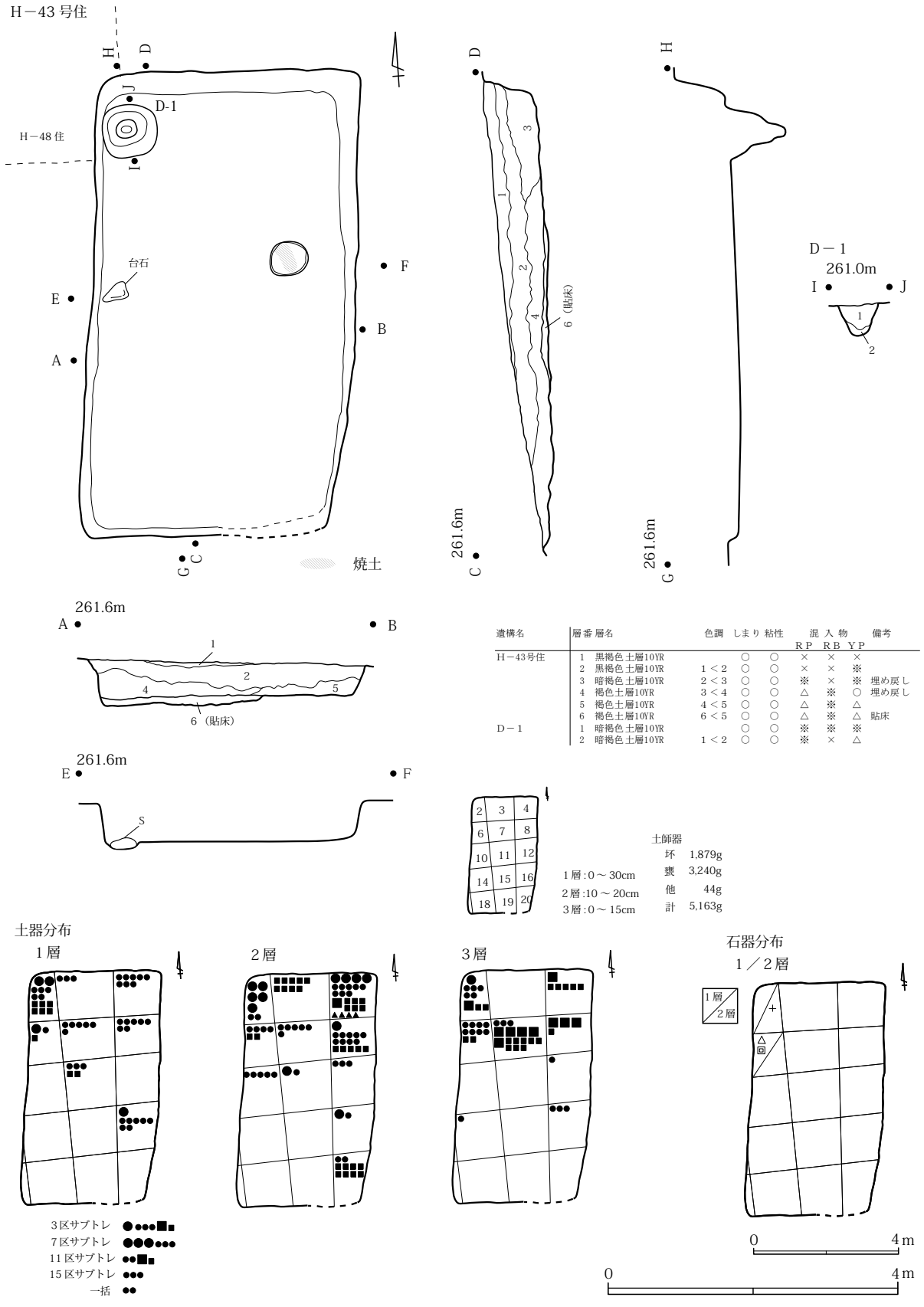
石器分布
1／2層

3区サブトレ ●●●●●●● ■■■
7区サブトレ ●●●
11区サブトレ ●●●● ■■■
15区サブトレ ●●●●
炉 ■
周辺一括 ●

0 4 m

0 4 m

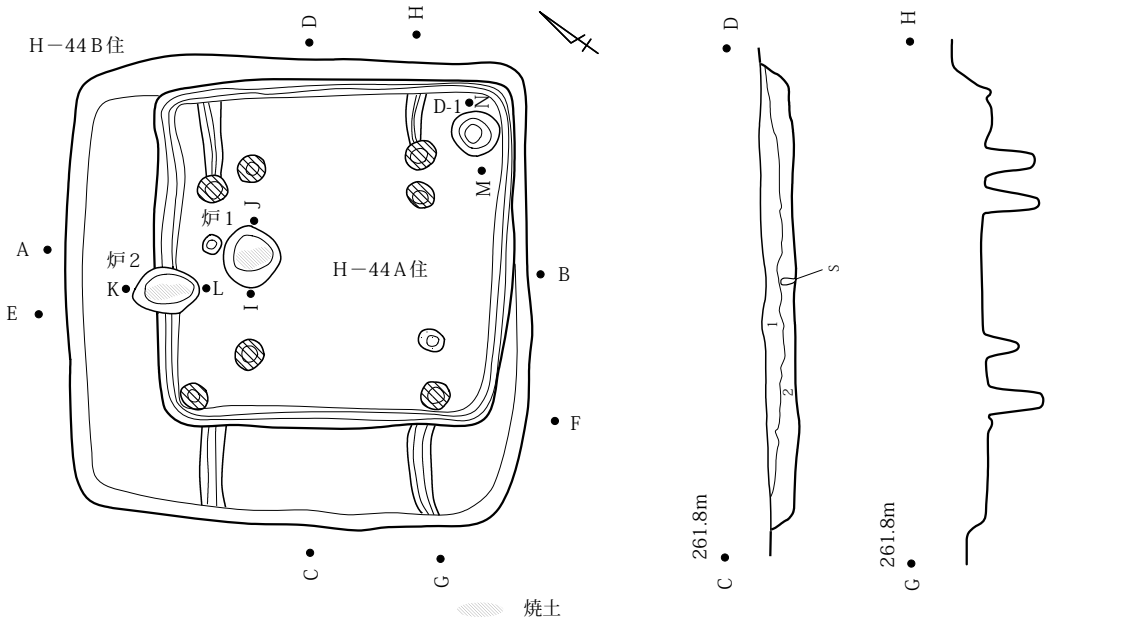
第95図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－42号住居址実測図



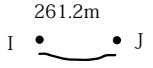
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－43号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	※	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	埋め戻し
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	※	○	埋め戻し
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	※	△	
	6	褐色土層10YR	6＜5	○	○	△	※	△	貼床
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	△	

第96図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－43号住居址実測図

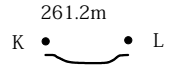
H－44号住



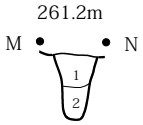
H－44A　炉1



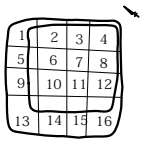
H－44B　炉2



D－1



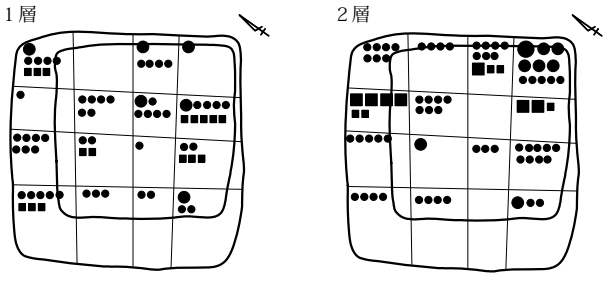
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－44号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			Ⅲ層流れ込み
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
炉1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×		※	H－44A
炉2	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	※	※	H－44B
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
	2	褐色土層10YR	1＜2	△	○	△	※	△			



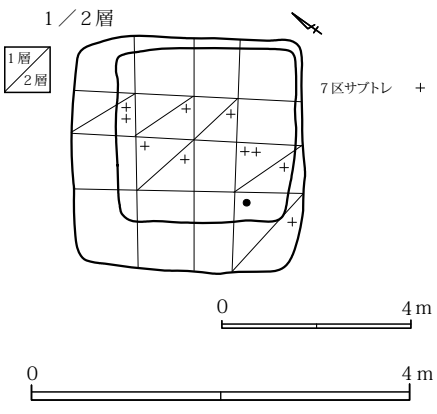
1層：15cm
2層：15cm

土師器
坏　963g
甕　3,765g
計　4,728g

土器分布

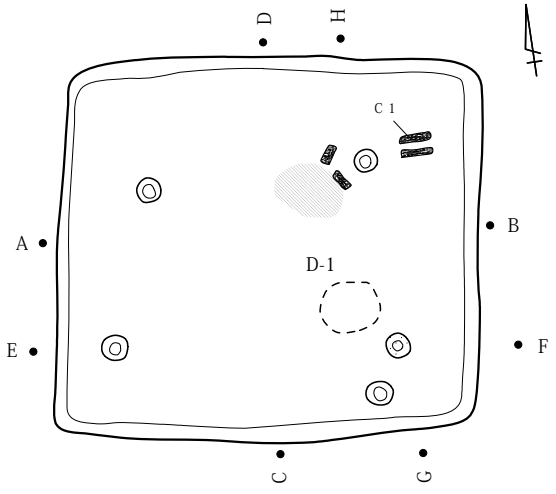


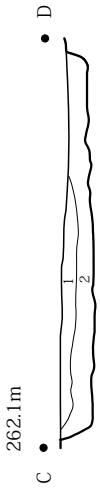
石器分布

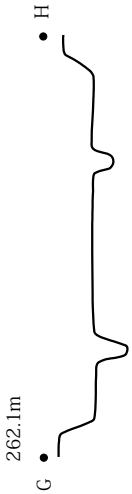


第97図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－44号住居址実測図

H－45号住

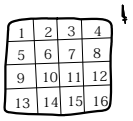






焼土

炭化材（C）

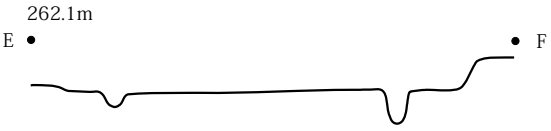


1層：20～30cm

2層：10～15cm

土師器

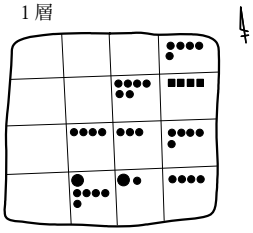
坏	51g
甕	829g
計	880g



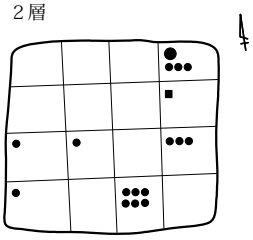
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－45号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×

土器分布

1層



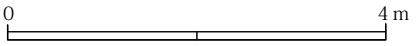
2層



D－1 ●●●●

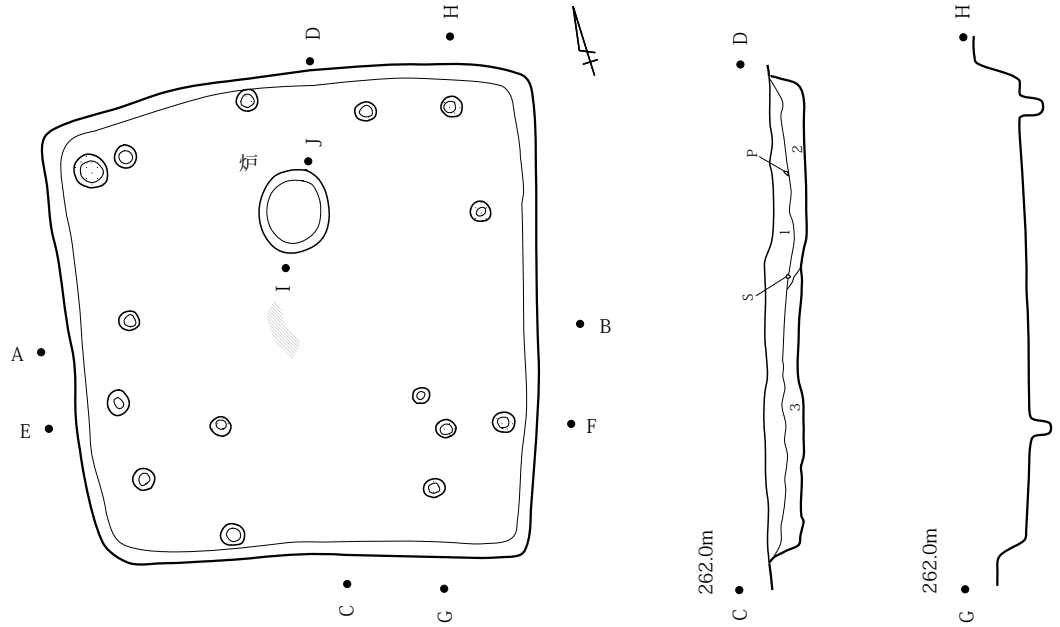
石器分布

D－1 ＋

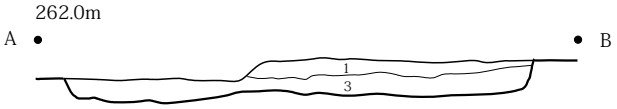


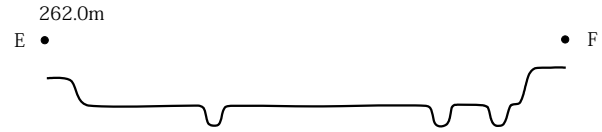
第98図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－45号住居址実測図

H－46号住

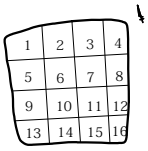


焼土





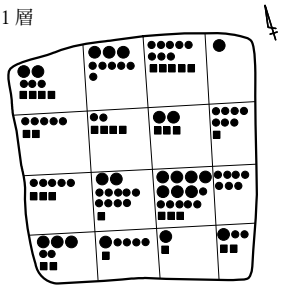
遺構名	層番	層　名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
H－46号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×



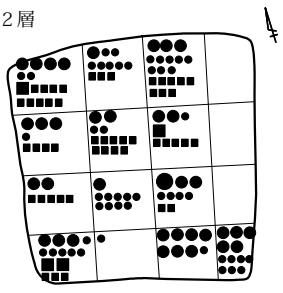
1層：20cm
2層：20cm

土師器
坏　1,185g
甕　7,839g
計　9,024g

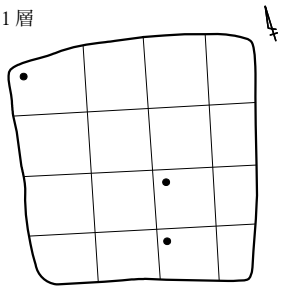
土器分布
1層

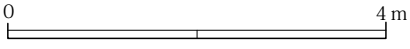


2層

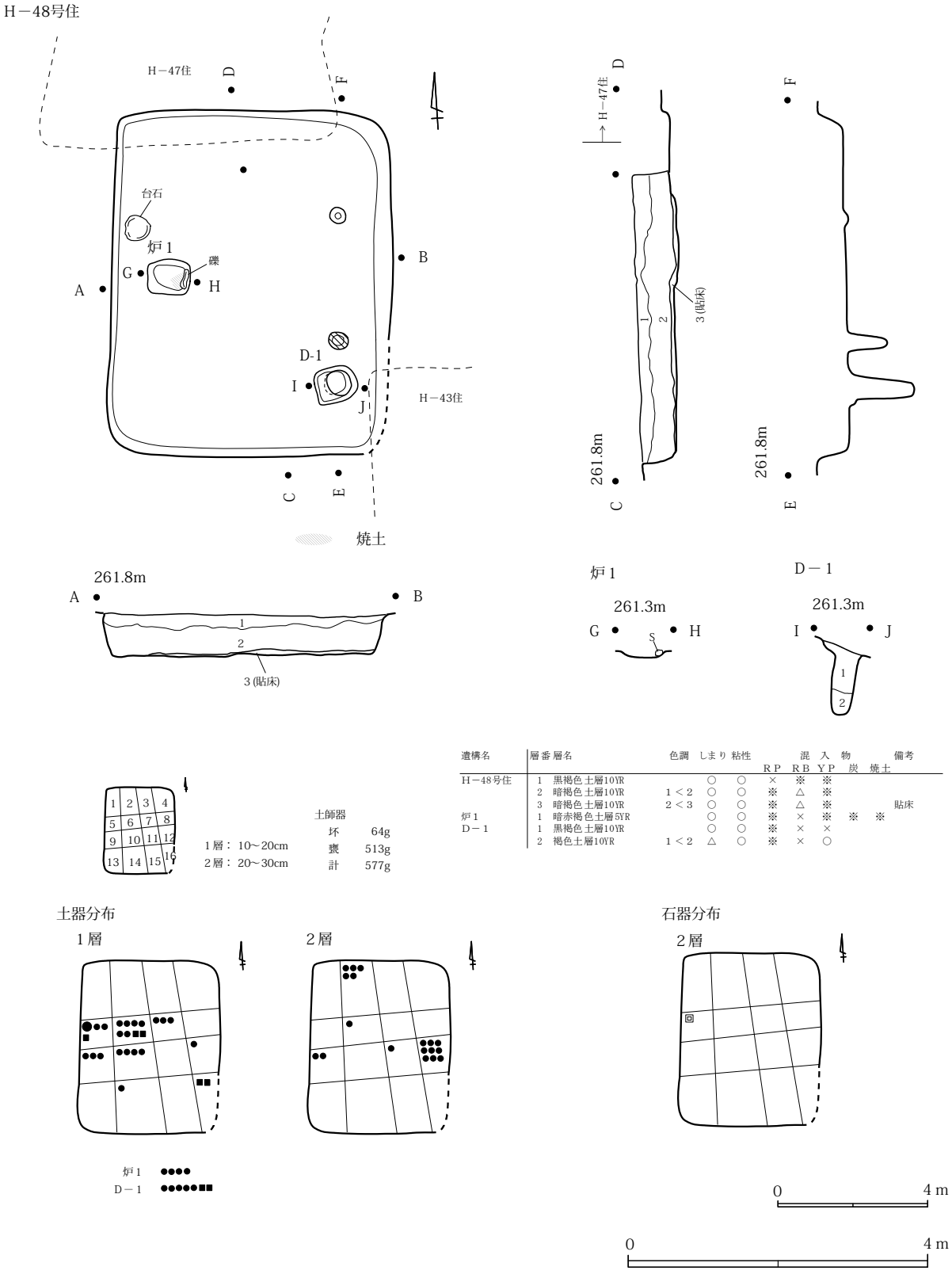


石器分布
1層



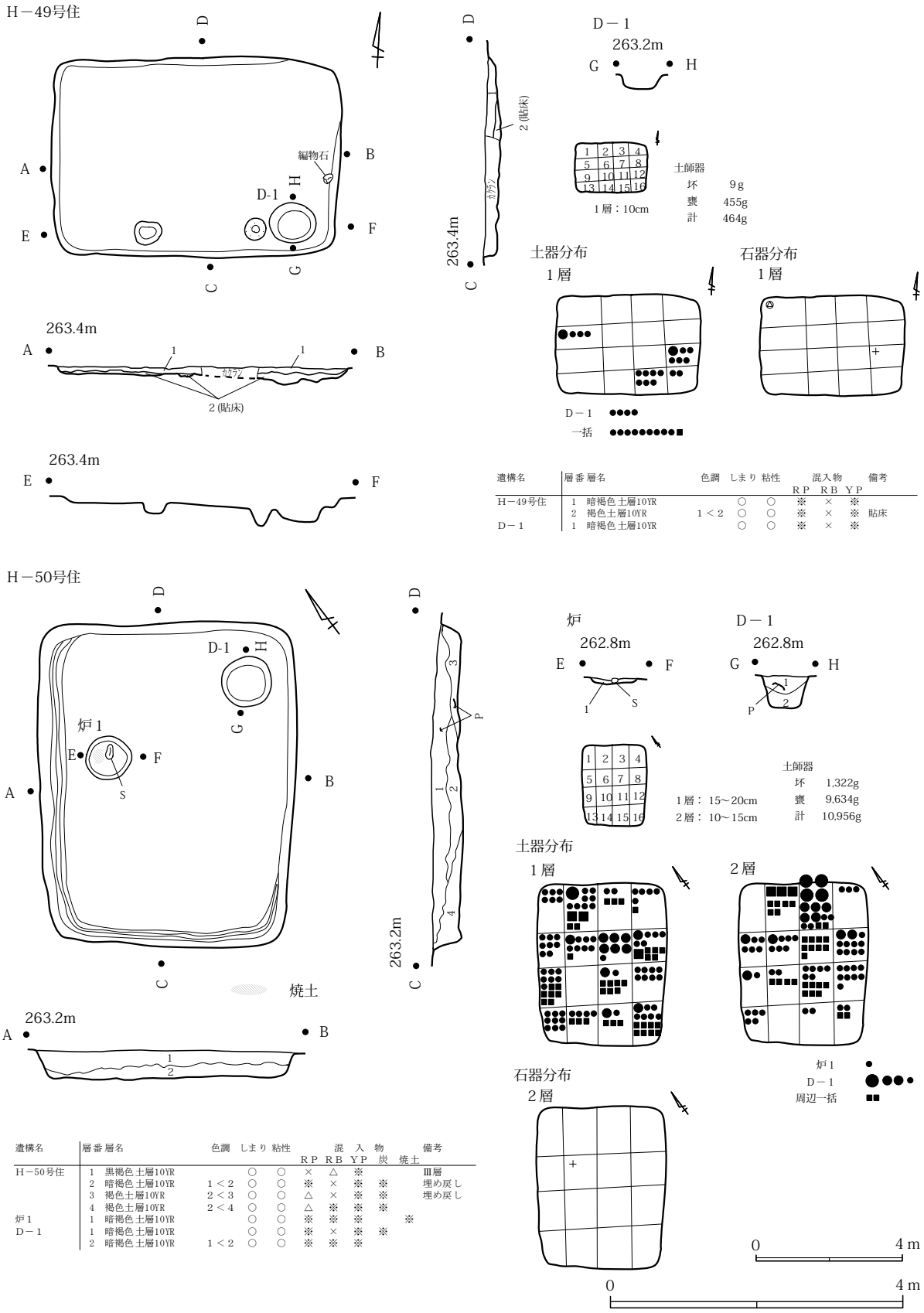


第99図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－46号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－48号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	△	※			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	△	※			貼床
炉1	1	暗赤褐色土層5YR		○	○	※	×	※	※	※	
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
	2	褐色土層10YR	1＜2	△	○	※	×	○			

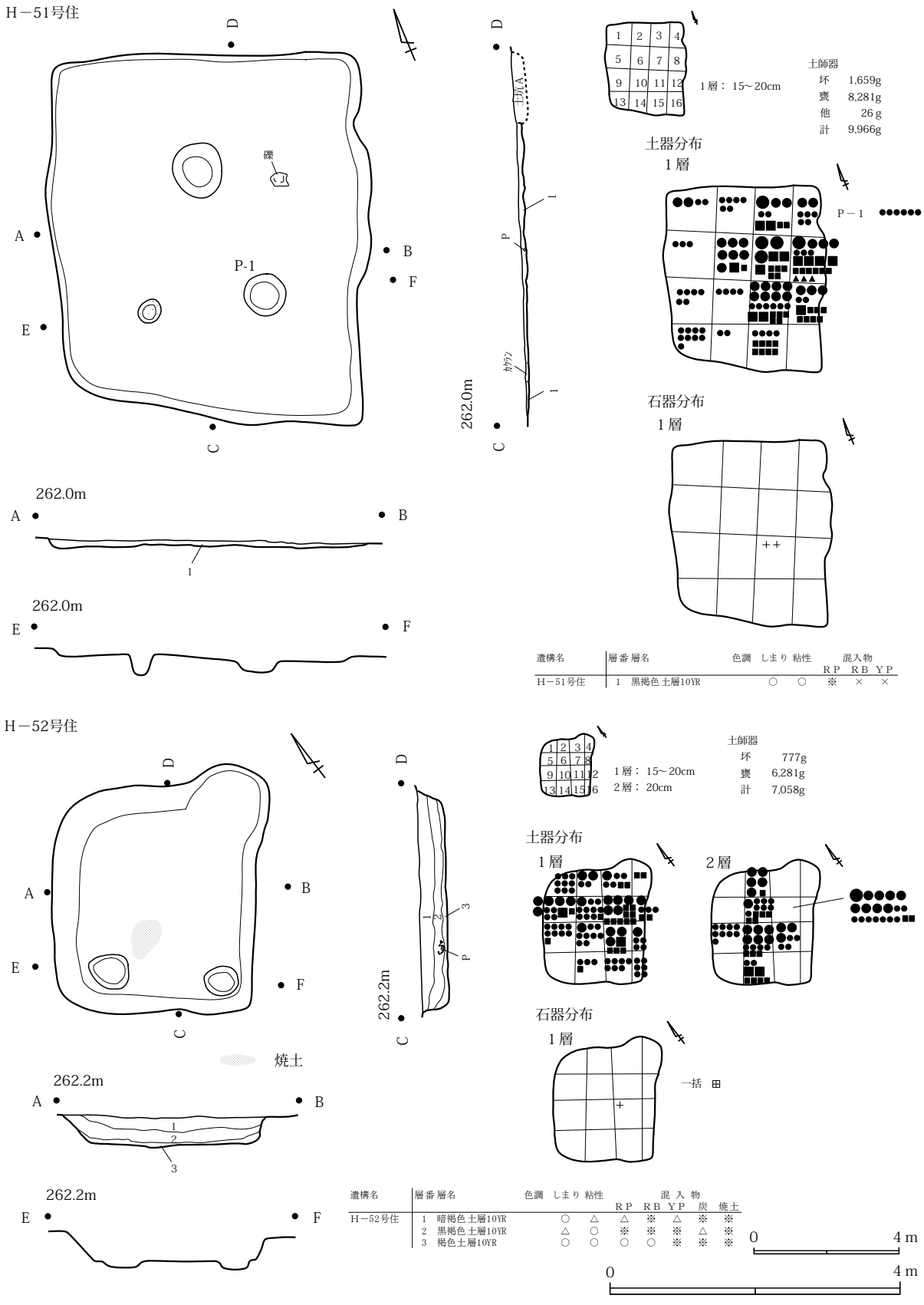
第100図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－48号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－49号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			貼床
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			

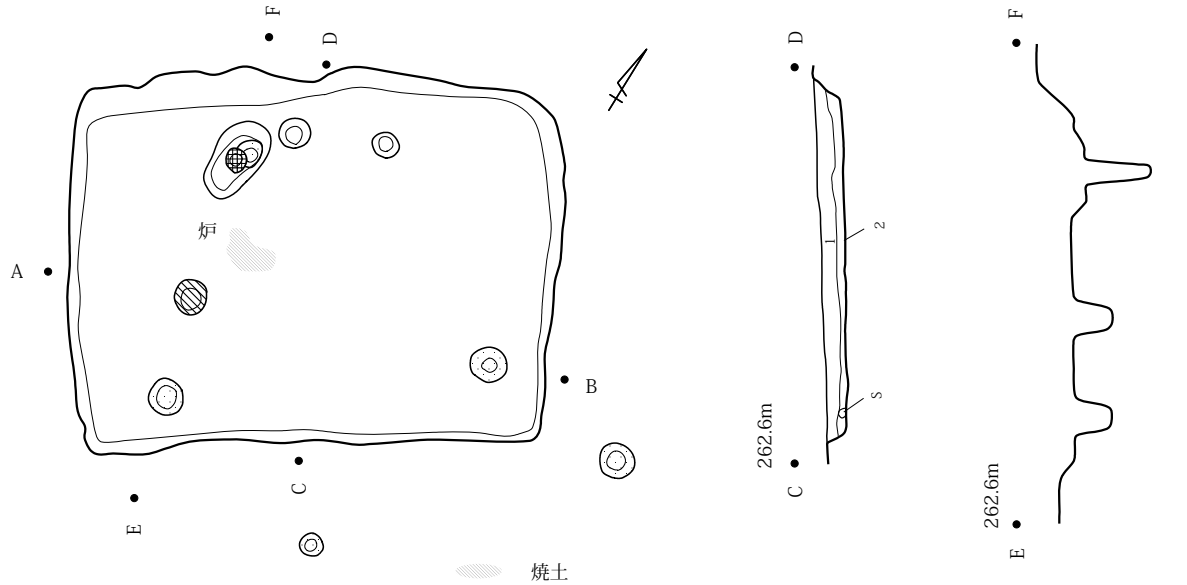
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－50号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	△	※			Ⅲ層
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※		埋め戻し
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※	※		埋め戻し
	4	褐色土層10YR	2＜4	○	○	△	※	※	※		
炉1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※		※	
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※			

第101図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－49・50号住居址実測図

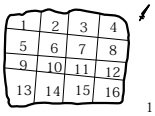


第102図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－51・52号住居址実測図

H－53号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－53号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	△	△	※
	2	褐色土層10YR		○	○	△	△	※	※	※

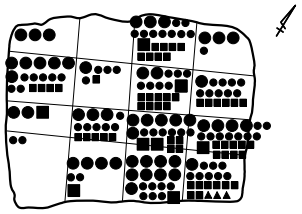


1層： 20cm

土師器

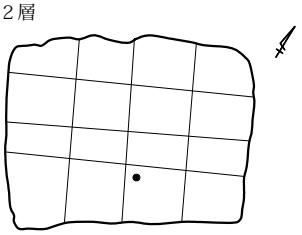
坏	1,339g
甕	5,772g
他	31g
計	7,142g

土器分布
1層



ピット
周辺一括

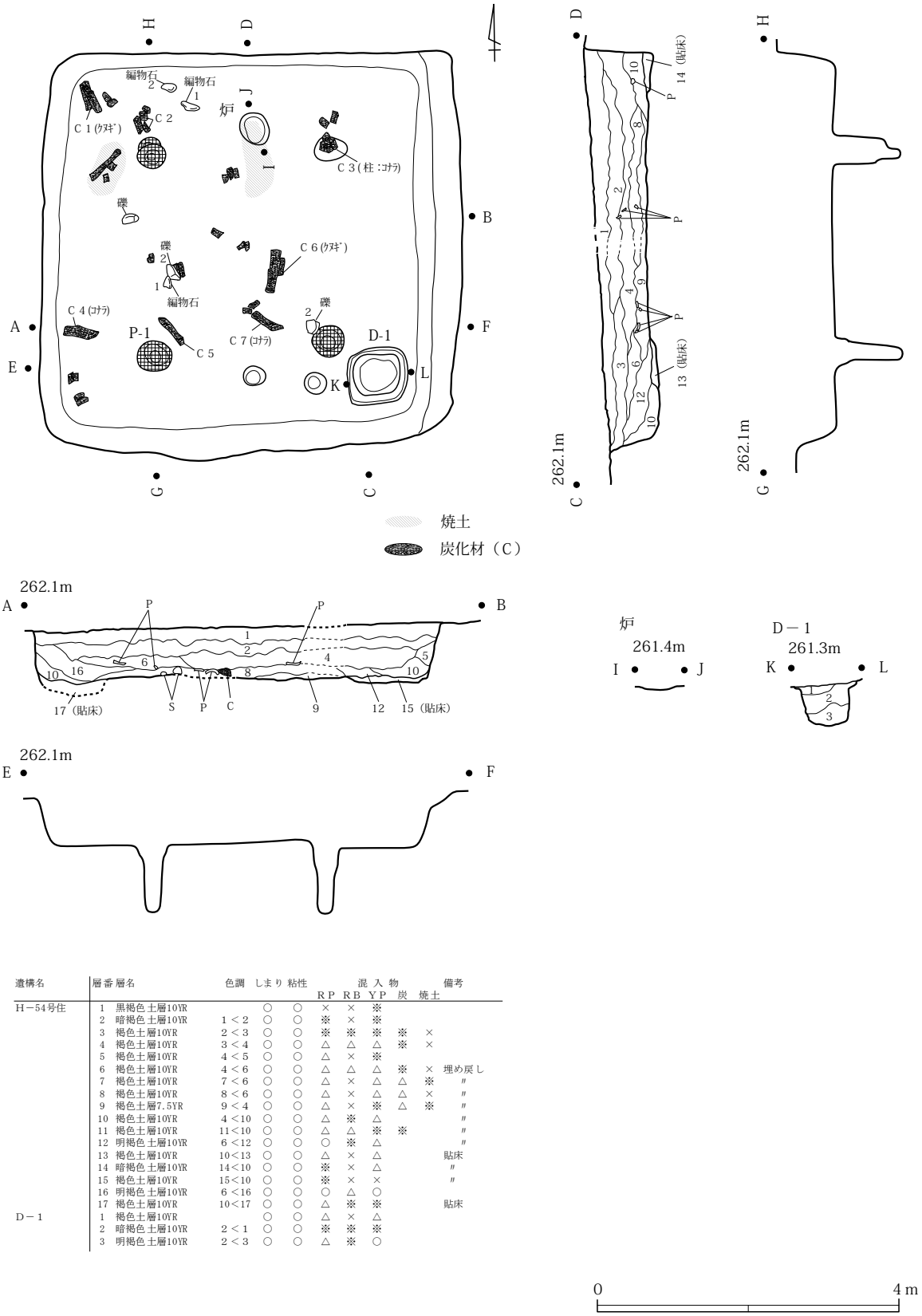
石器分布
2層



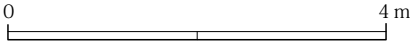
周辺 ＋

第103図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－53号住居址実測図

H－54 号住

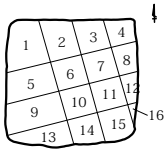


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－54号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※	※	×	
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	△	△	※	×	
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	×	※			
	6	褐色土層10YR	4＜6	○	○	△	△	△	※	×	埋め戻し
	7	褐色土層10YR	7＜6	○	○	△	×	△	△	※	〃
	8	褐色土層10YR	8＜6	○	○	△	×	△	△	×	〃
	9	褐色土層7.5YR	9＜4	○	○	△	×	※	△	※	〃
	10	褐色土層10YR	4＜10	○	○	△	※	△			〃
	11	褐色土層10YR	11＜10	○	○	△	△	※	※		〃
	12	明褐色土層10YR	6＜12	○	○	○	※	△			〃
	13	褐色土層10YR	10＜13	○	○	△	×	△			貼床
	14	暗褐色土層10YR	14＜10	○	○	※	×	△			〃
	15	褐色土層10YR	15＜10	○	○	※	×	×			〃
	16	明褐色土層10YR	6＜16	○	○	○	△	○			
	17	褐色土層10YR	10＜17	○	○	△	※	※			貼床
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	△			
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	※	※			
	3	明褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	○			



第104図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－54号住居址実測図（1）

H－54 号住

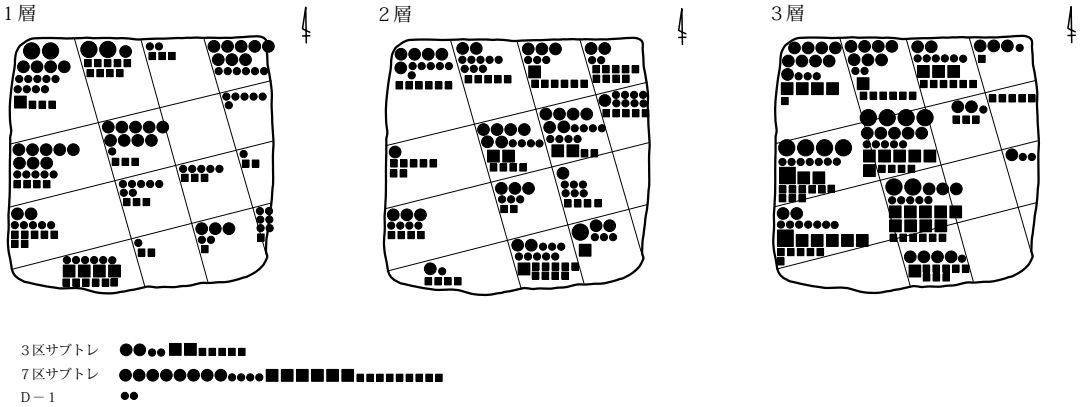


1層:15 ～ 20cm
2層:30 ～ 40cm
3層:0 ～ 20cm

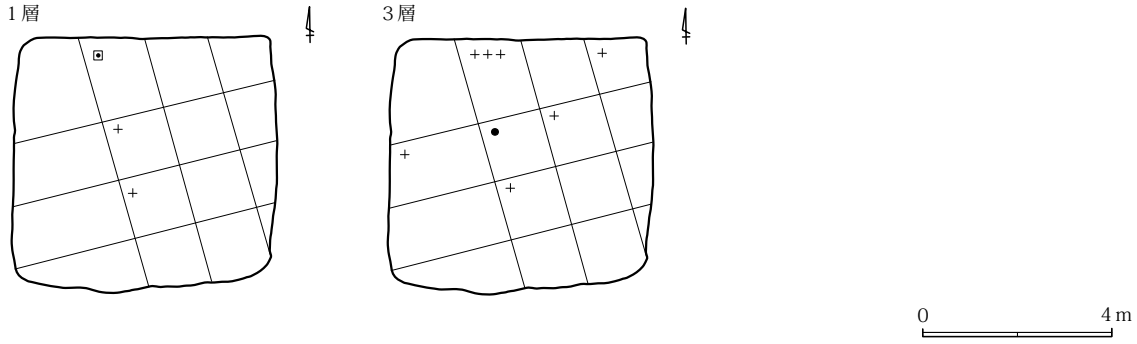
土師器

坏	8,913g
甕	28,854g
計	37,767g

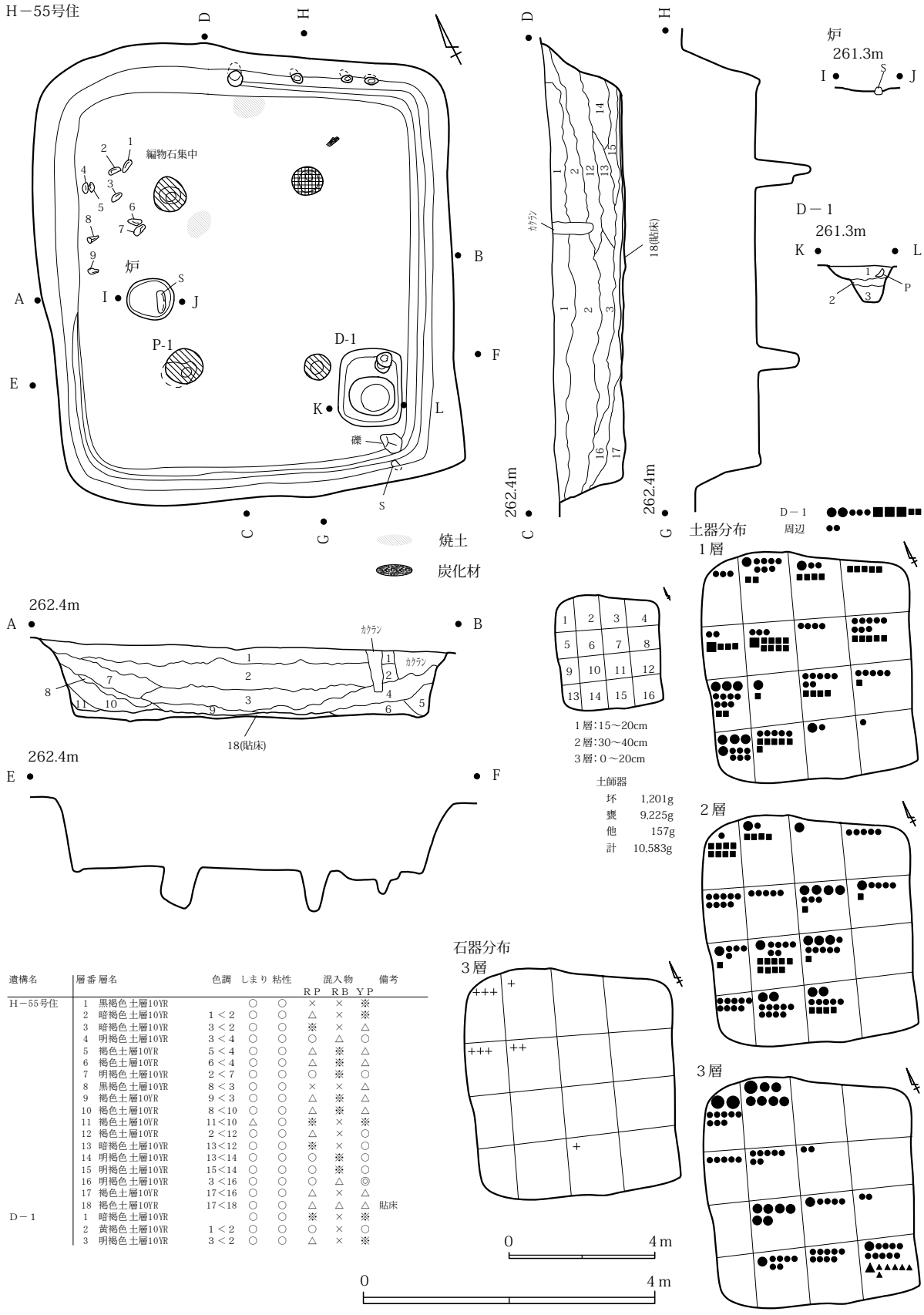
土器分布



石器分布



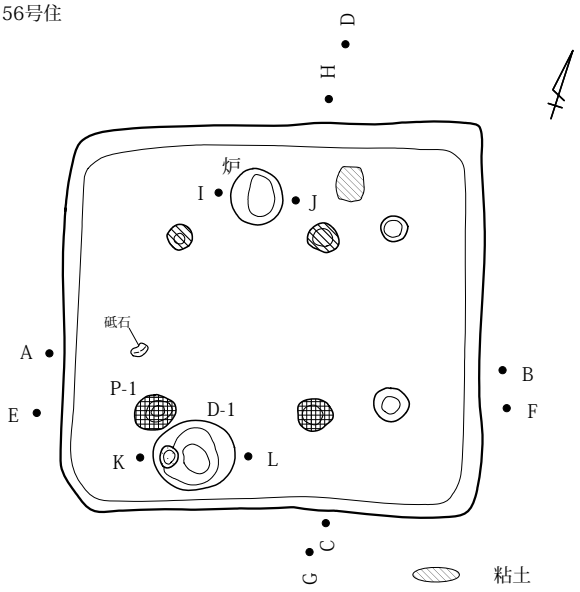
第105図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－54号住居址実測図（２）

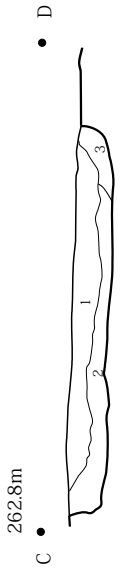


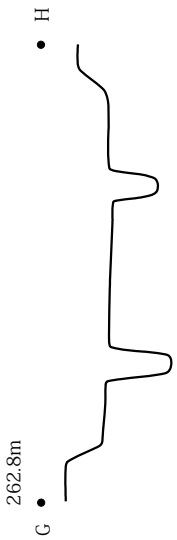
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－55号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	※	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	△	
	4	明褐色土層10YR	3＜4	○	○	○	△	○	
	5	褐色土層10YR	5＜4	○	○	△	※	△	
	6	褐色土層10YR	6＜4	○	○	△	※	△	
	7	明褐色土層10YR	2＜7	○	○	○	※	○	
	8	黒褐色土層10YR	8＜3	○	○	×	×	△	
	9	褐色土層10YR	9＜3	○	○	△	※	△	
	10	褐色土層10YR	8＜10	○	○	△	※	△	
	11	褐色土層10YR	11＜10	△	○	※	×	※	
	12	褐色土層10YR	2＜12	○	○	△	×	○	
	13	暗褐色土層10YR	13＜12	○	○	※	×	○	
	14	明褐色土層10YR	13＜14	○	○	○	※	○	
	15	明褐色土層10YR	15＜14	○	○	○	※	○	
	16	明褐色土層10YR	3＜16	○	○	○	△	◎	
	17	褐色土層10YR	17＜16	○	○	△	×	△	
	18	褐色土層10YR	17＜18	○	○	△	△	△	貼床
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	
	2	黄褐色土層10YR	1＜2	○	○	○	×	○	
	3	明褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	×	※	

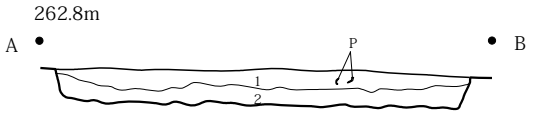
第106図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－55号住居址実測図

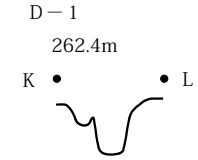
H－56号住



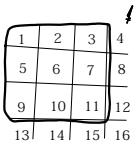








遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－56号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	※
炉	覆土	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※
D－1	覆土	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	



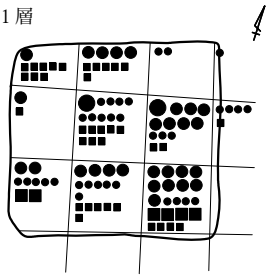
1層:15～20cm
2層:0～15cm

土師器

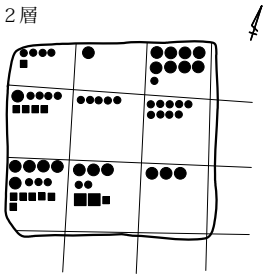
坏	1,297g
甕	9,283g
計	10,580g

土器分布

1層



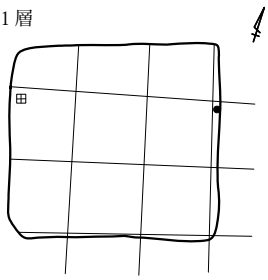
2層



炉
D－1
P－1

石器分布

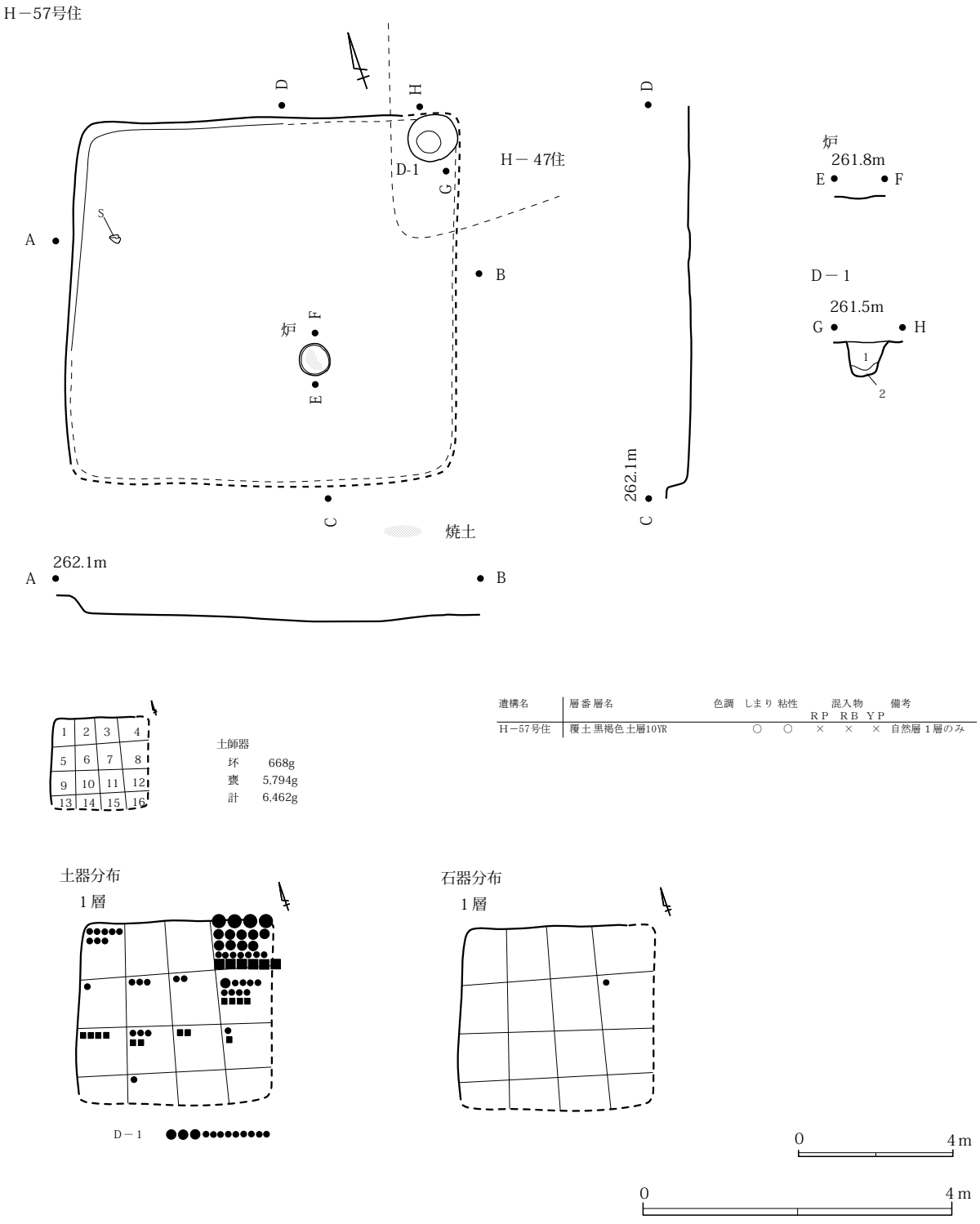
1層



0 4m

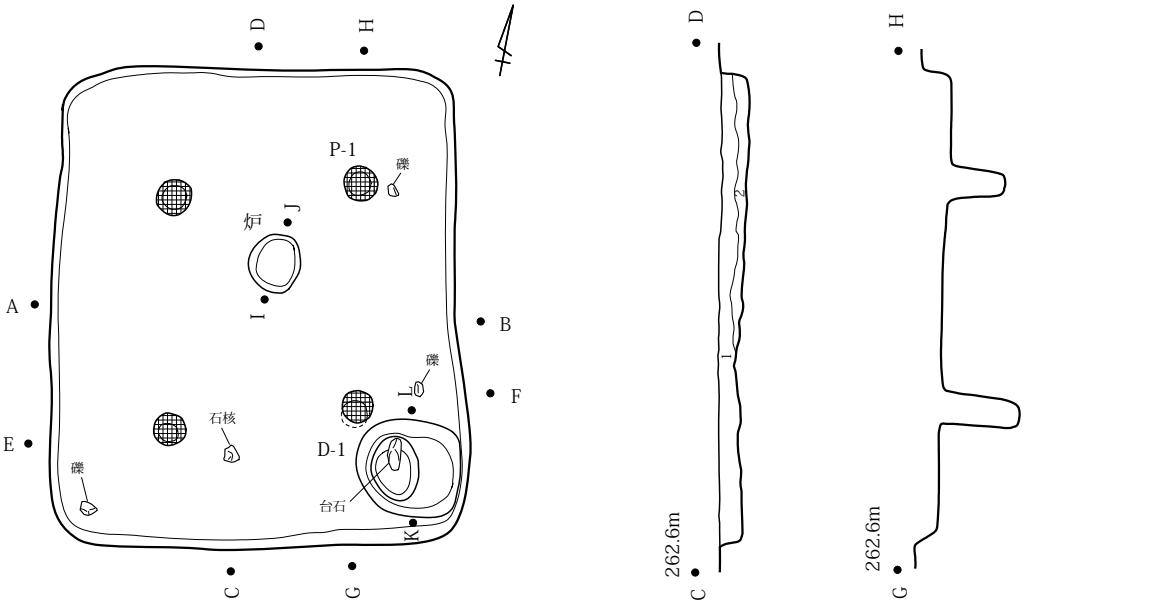
0 4m

第107図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－56号住居址実測図

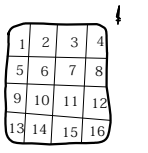


第108図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－57号住居址実測図

H－58号住

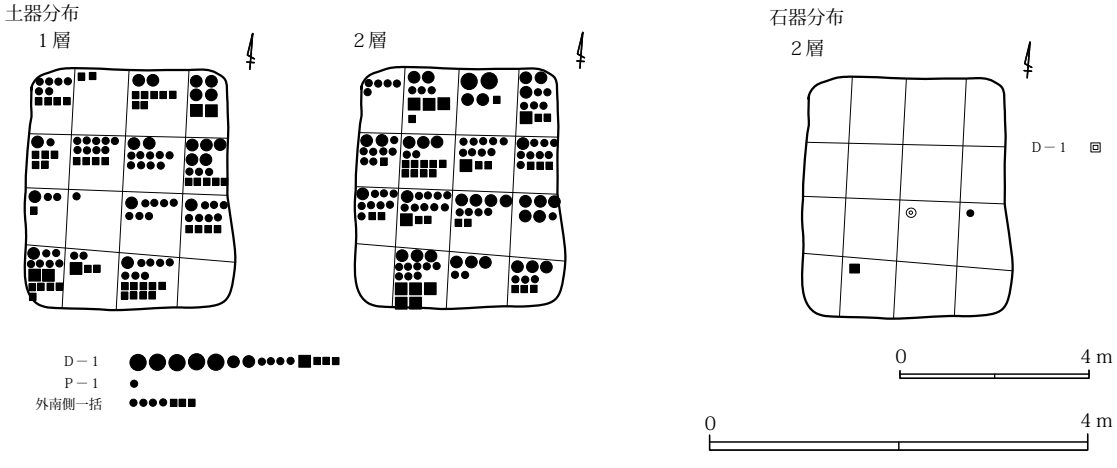


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－58号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※

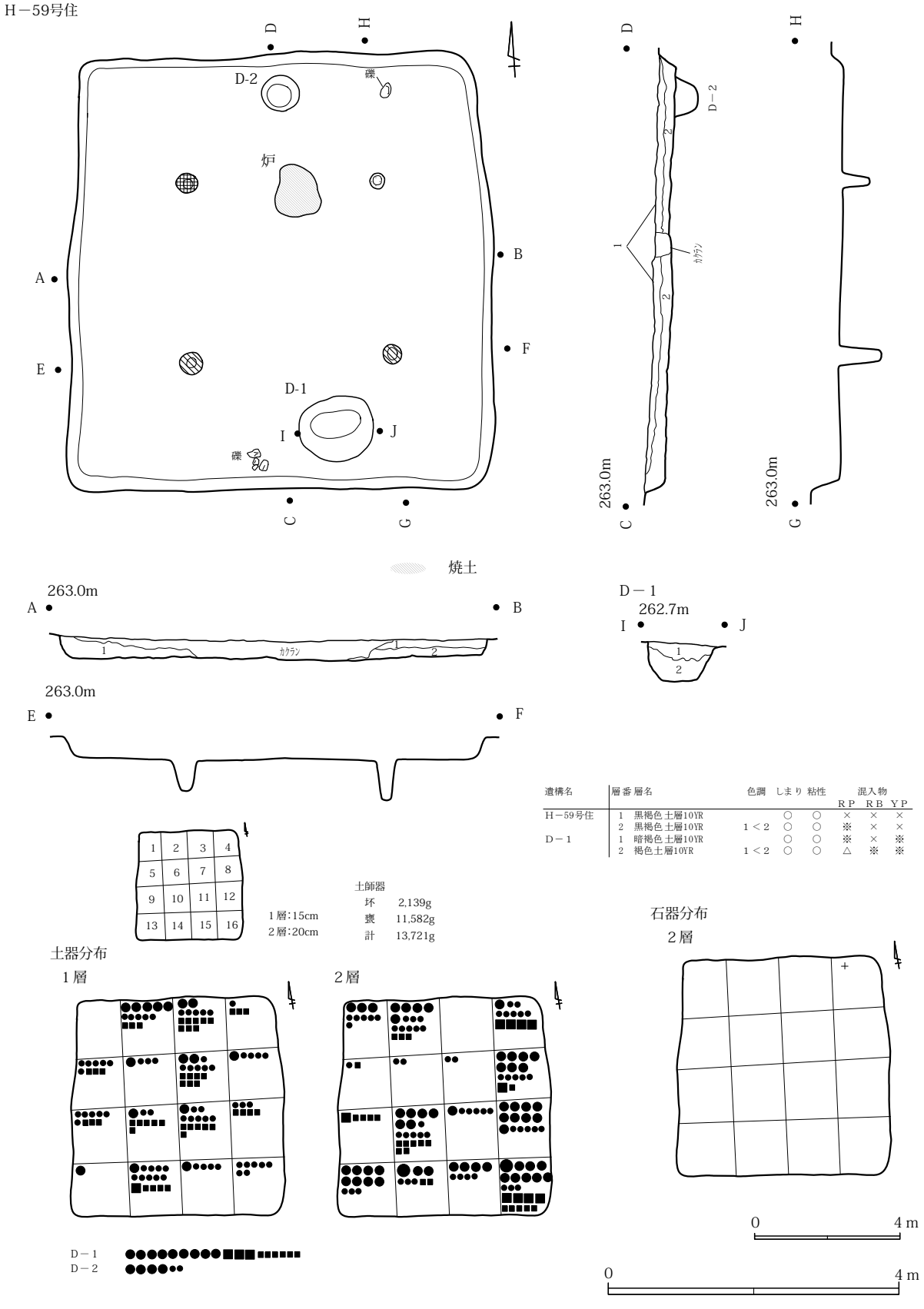


1層： 15cm
2層： 15cm

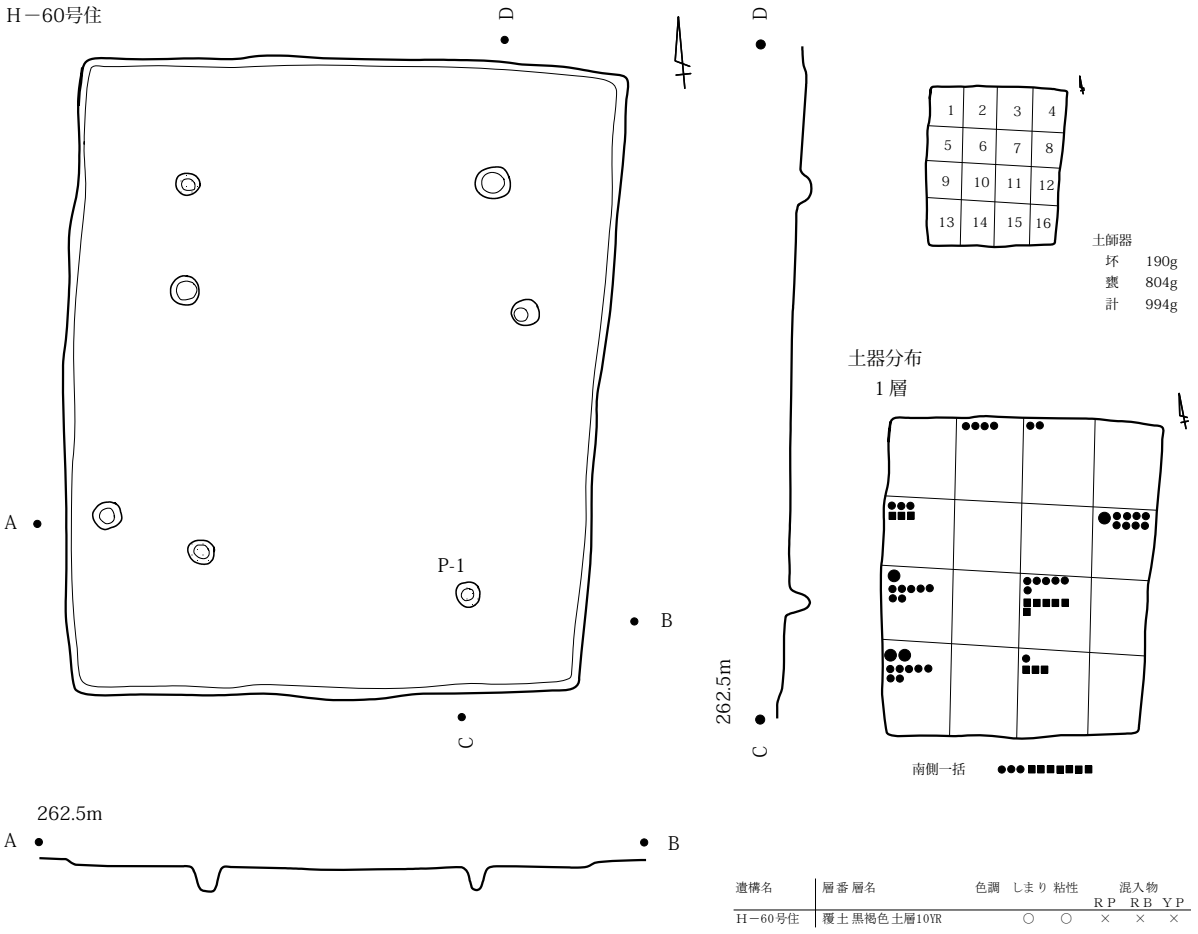
土師器
坏 2,504g
甕 13,813g
計 16,317g



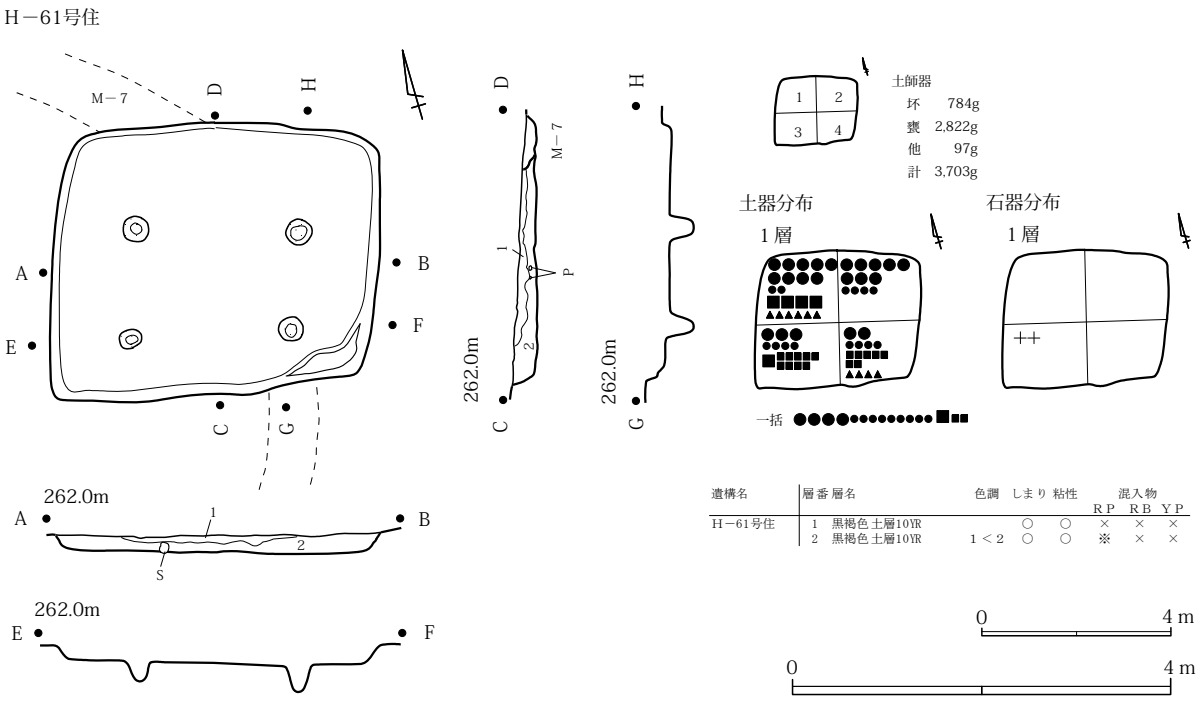
第109図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－58号住居址実測図



第110図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－59号住居址実測図



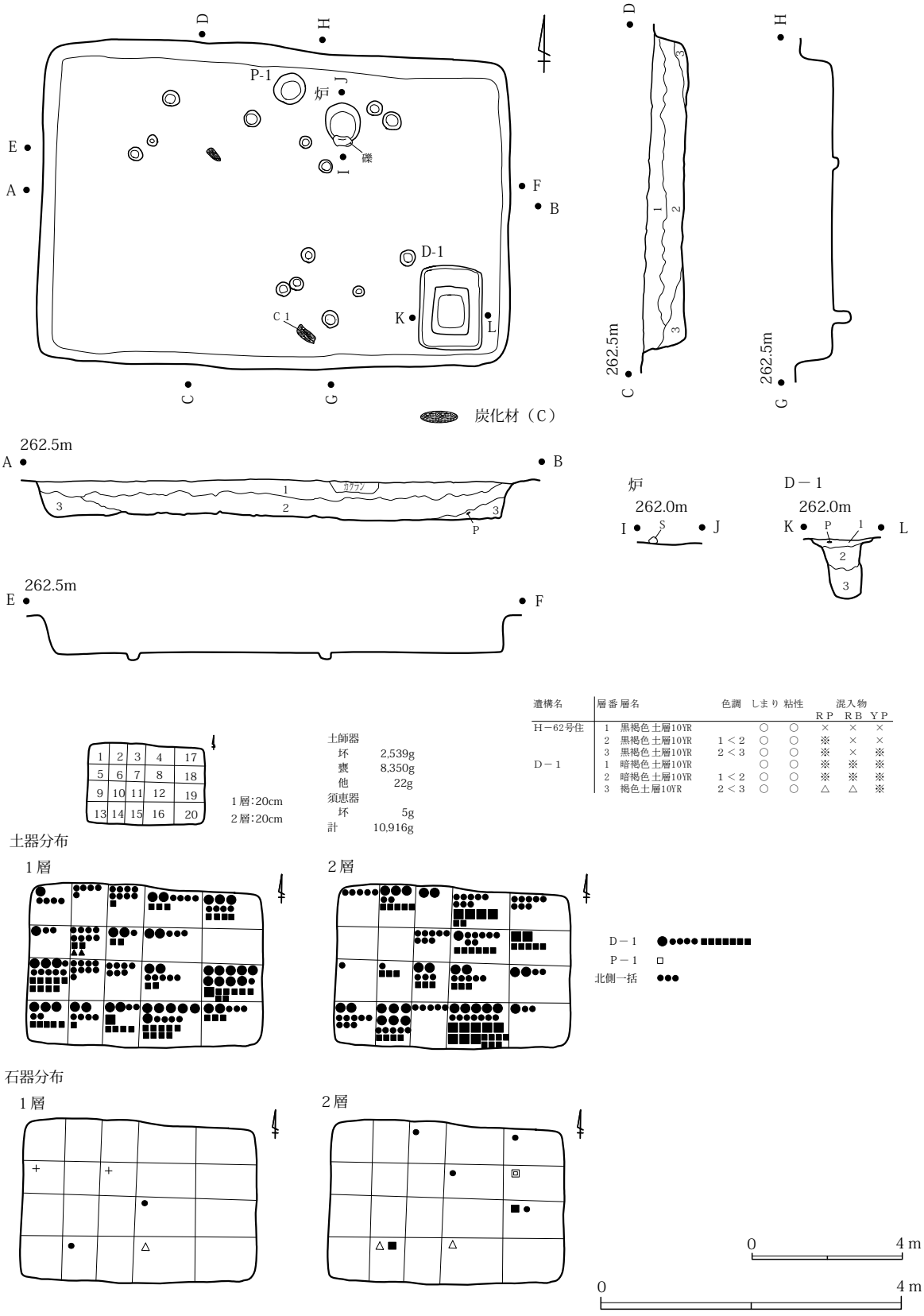
遺構名	層番 層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－60号住	覆土 黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×



遺構名	層番 層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－61号住	1 黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2 黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×

第111図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－60・61号住居址実測図

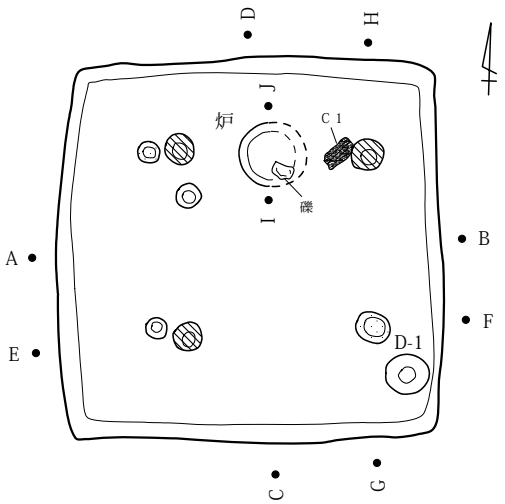
H－62号住

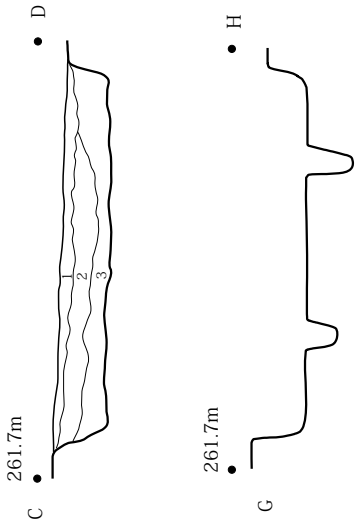


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－62号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	△	※

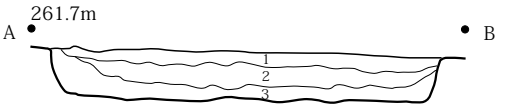
第112図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－62号住居址実測図

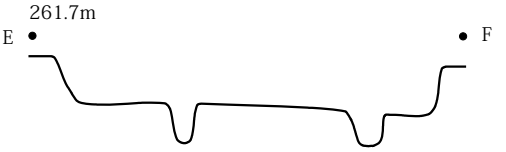
H－63号住



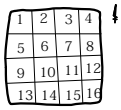


炭化材（C）





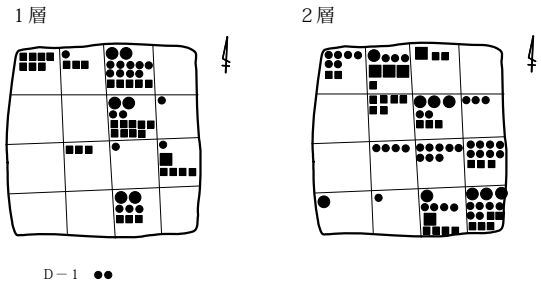
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－63号住	1	黒褐色 土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色 土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×
	3	黒褐色 土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×



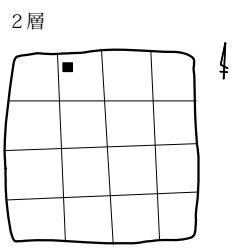
1層：20～30cm
2層：15～20cm

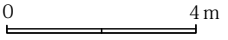
土師器
坏　1,182g
甕　2,129g
計　3,311g

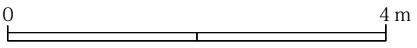
土器分布



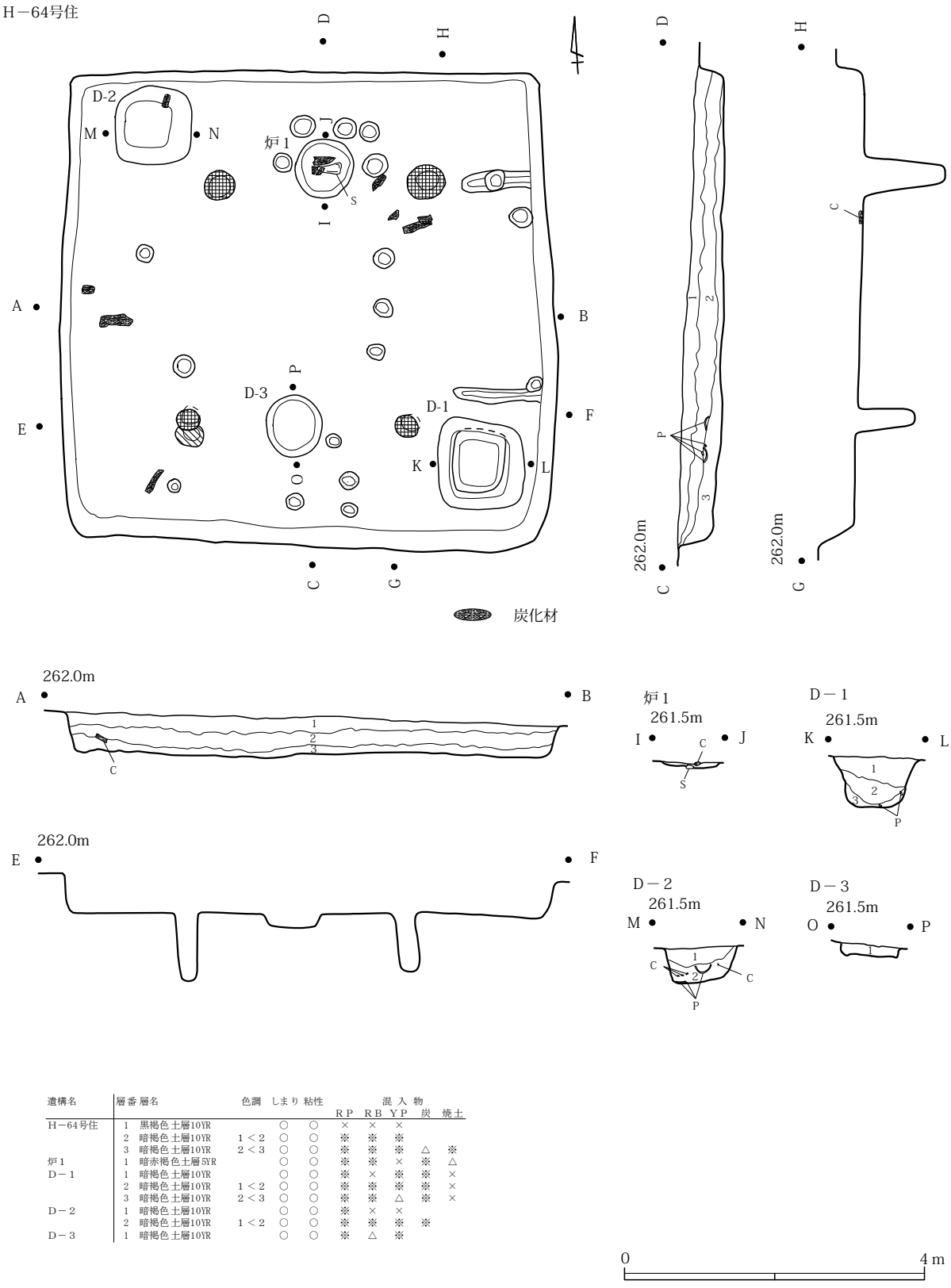
石器分布







第113図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－63号住居址実測図

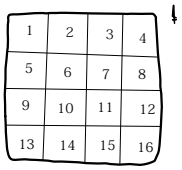


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－64号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※	△	※
炉1	1	暗赤褐色土層5YR		○	○	※	※	×	※	△
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※	※	×
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	△	※	×
D－2	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※	※	
D－3	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	△	※		

0　4m

第114図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－64号住居址実測図（1）

H－64号住



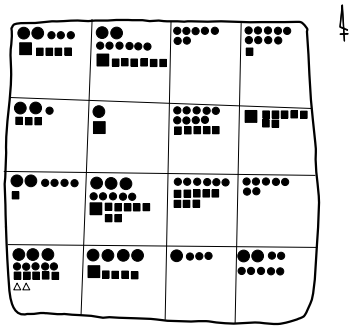
1層:20cm
2層:15～20cm

土師器

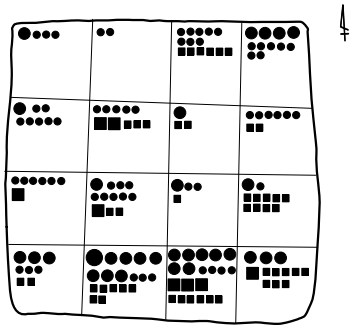
坏	2,893g
甕	12,342g
他	15g
計	15,250g

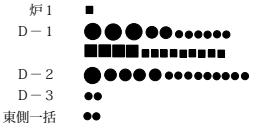
土器分布

1層



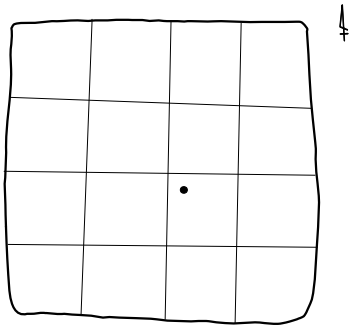
2層



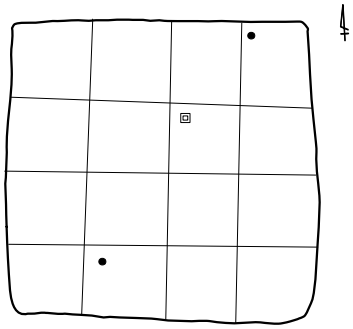


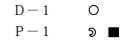
石器分布

1層

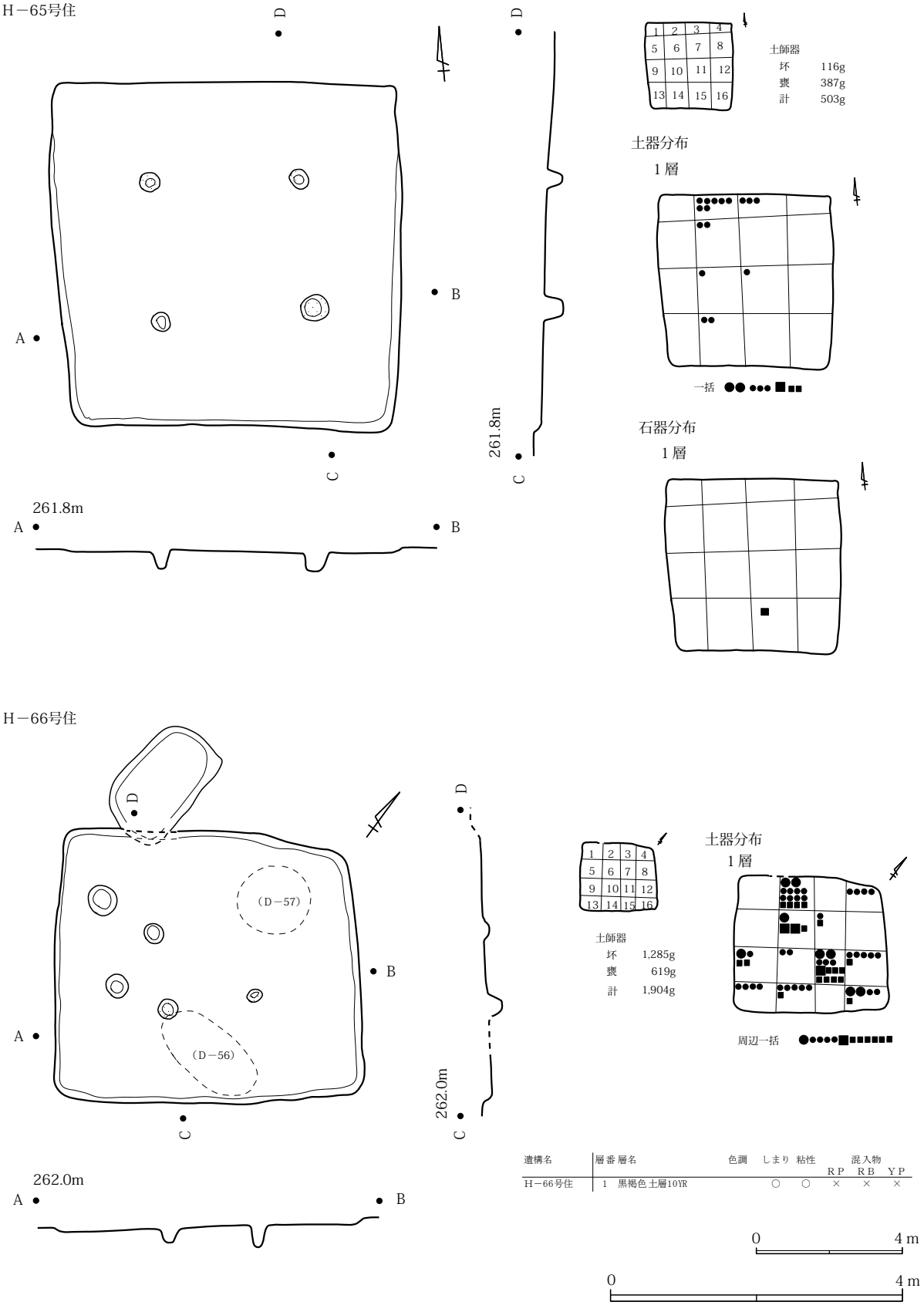


2層



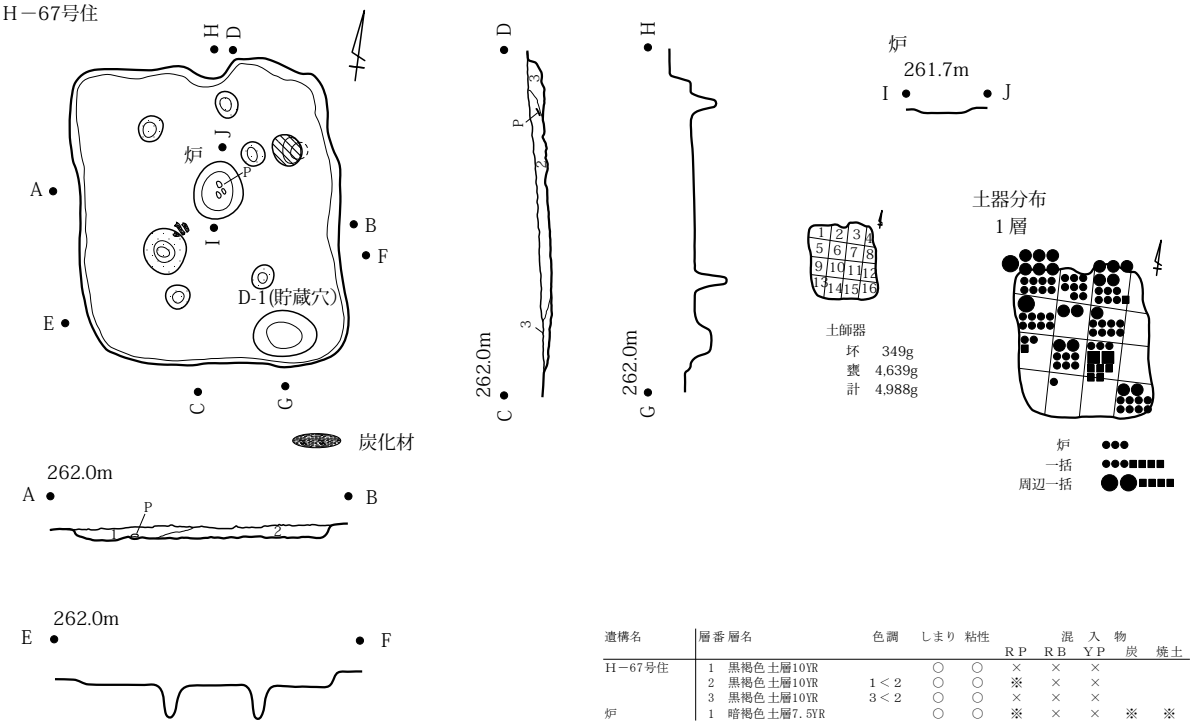


第115図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－64号住居址実測図（2）



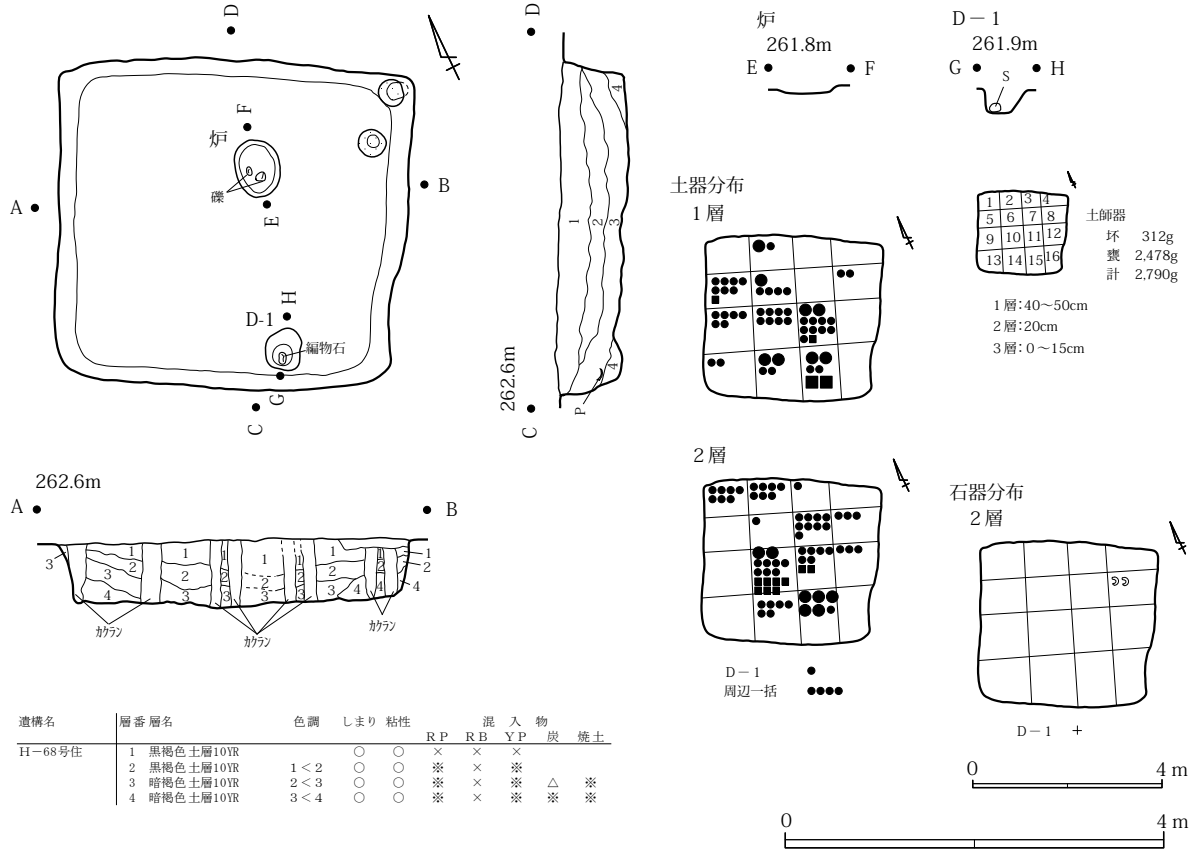
第116図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－65・66号住居址実測図

H－67号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－67号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	×	×	×		
炉	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	※	※

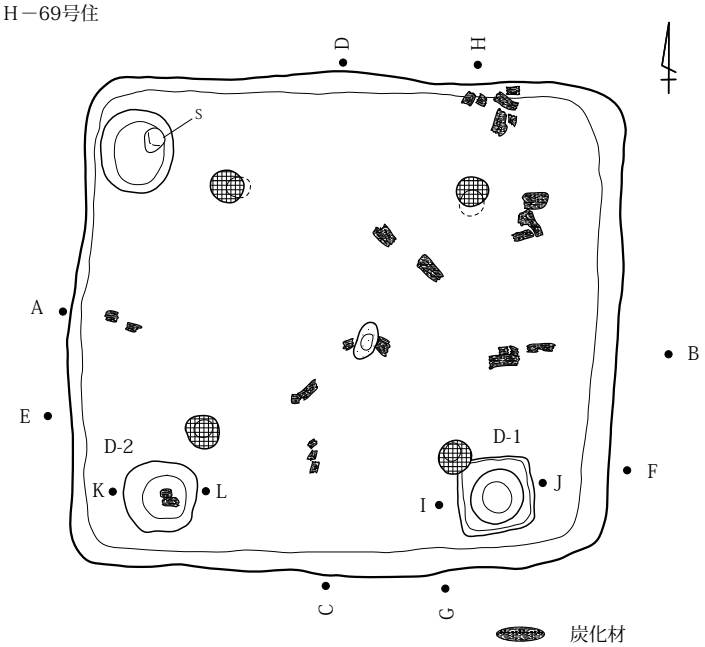
H－68号住

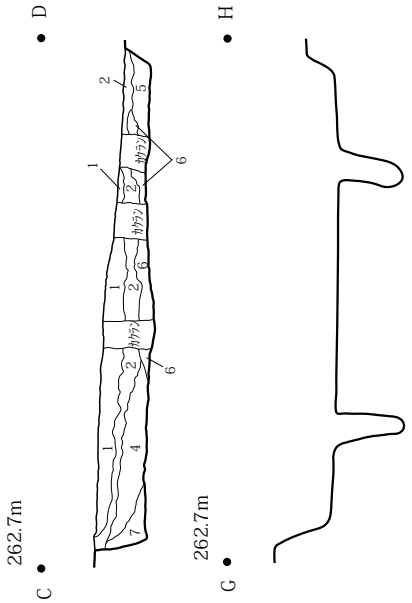


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－68号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	△	※
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※	※	※

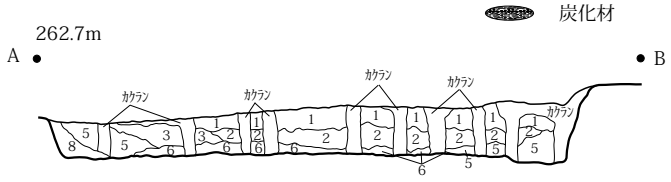
第117図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－67・68号住居址実測図

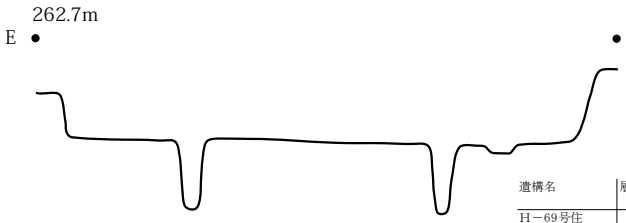
H－69号住

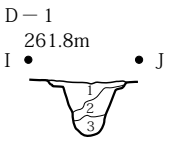


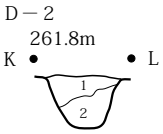


炭化材

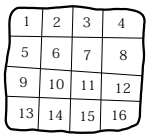








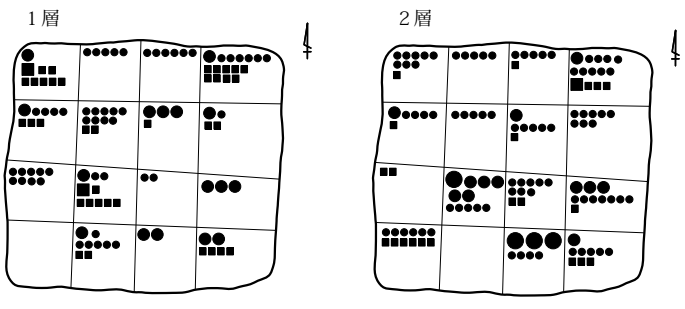
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－69号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※	※	屋根土
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	※	※	〃
	4	明褐色土層10YR	2＜4	○	○	○	※	△	△	※	屋根土 ﾛｰﾑ
	5	明褐色土層10YR	5＜4	○	○	△	※	△	△	※	〃
	6	褐色土層10YR	2＜6	○	○	△	※	※	※	※	屋根土
	7	褐色土層10YR	7＜4	○	○	△	×	※	×	×	〃
	8	暗褐色土層10YR	6＜5	○	○	※	×	×	△	※	〃
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	※	※	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	△	△	△	
	3	黄褐色土層10YR	2＜3	○	◎	◎	×	×	×	×	ﾛｰﾑ土
D－2	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	※	×	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	※	○	※	



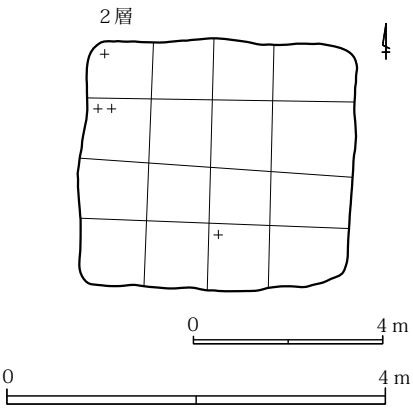
土師器
坏　850g
甕　8,158g
計　9,008g

1層：15～30cm
2層：0～20cm

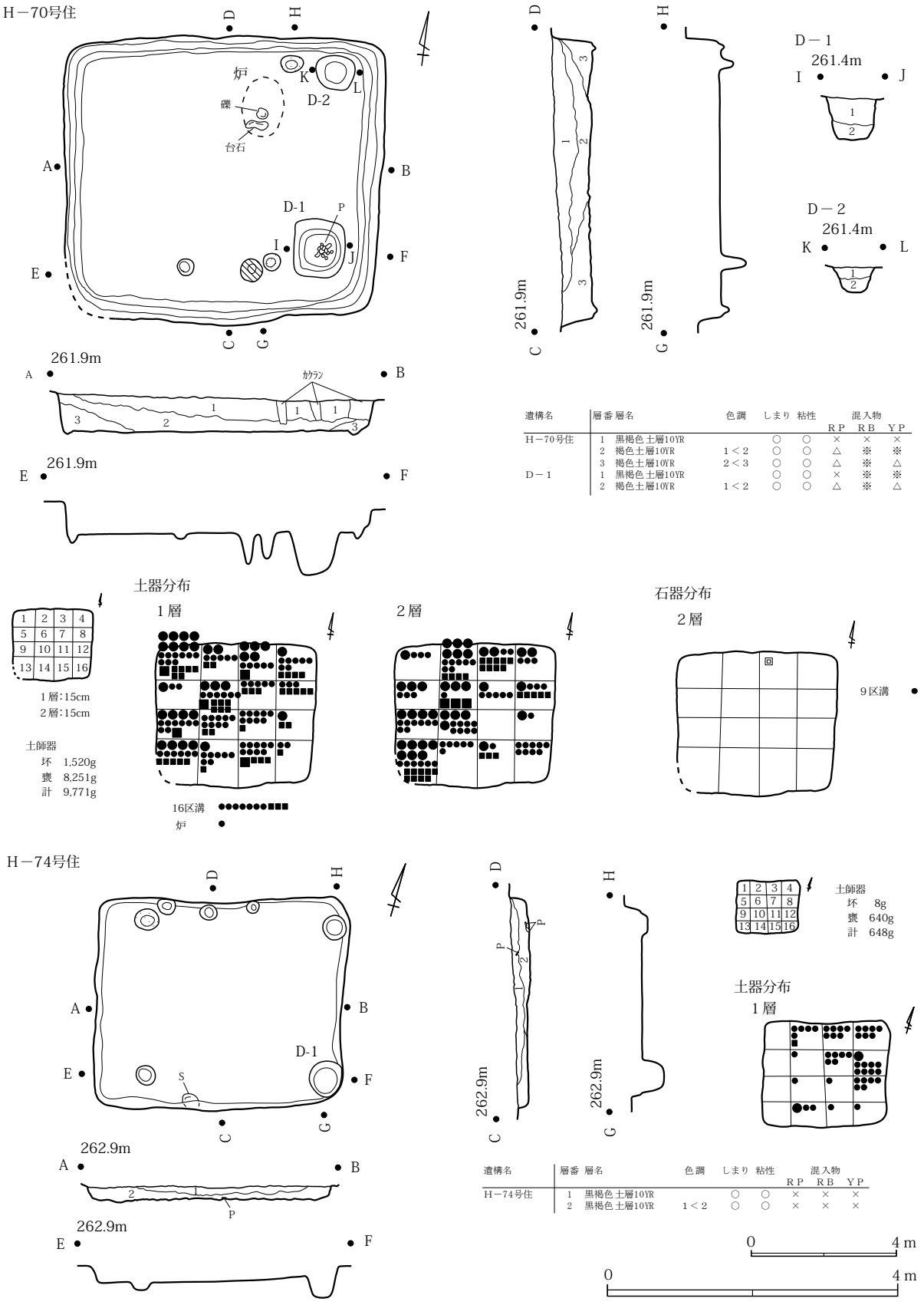
土器分布



石器分布



第118図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－69号住居址実測図

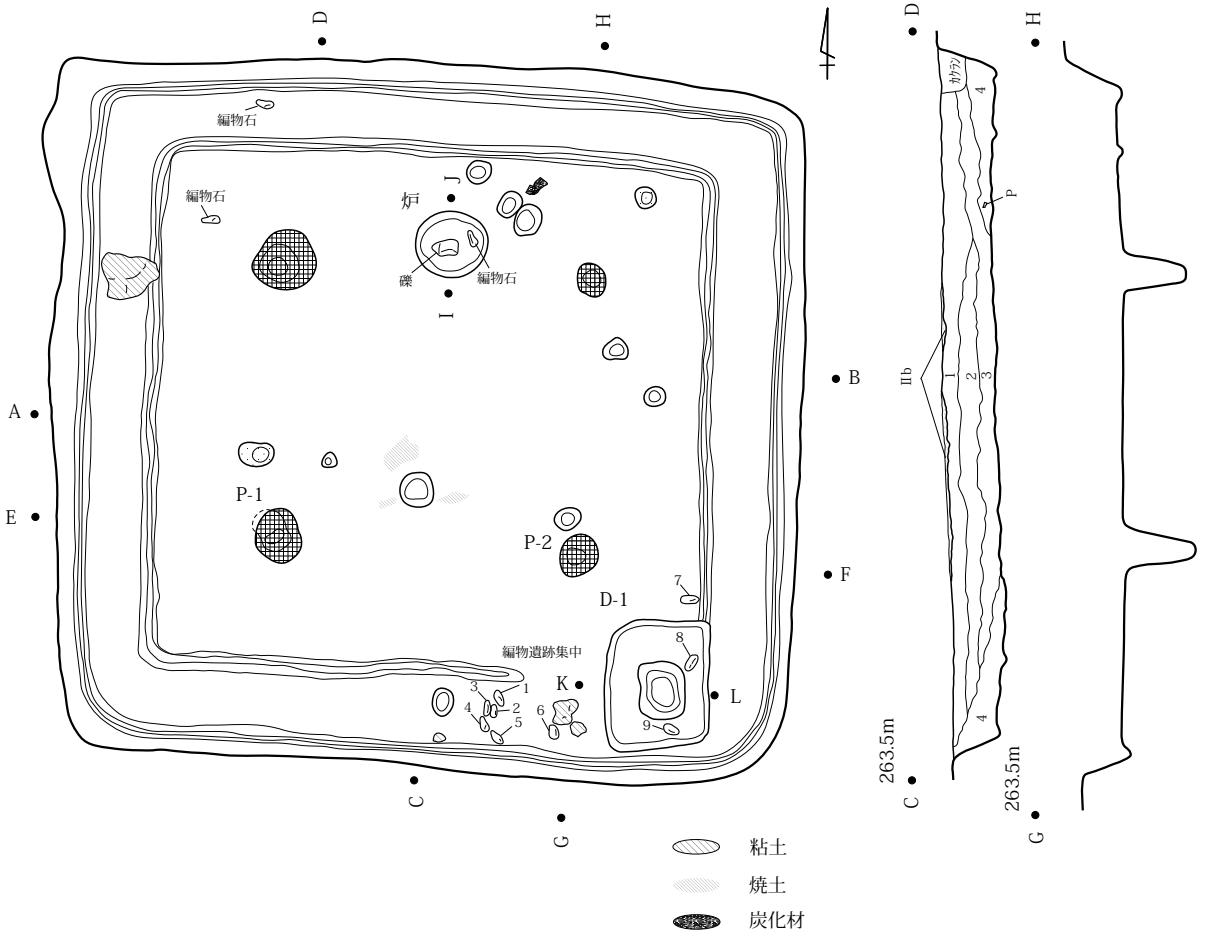


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－70号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	△
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	※
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	△

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－74号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×

第119図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－70・74号住居址実測図

H－72号住

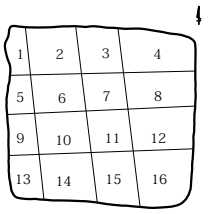


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
H－72号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	※	
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	※	×	
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	※		埋め戻し
	2	明褐色土層10YR	1＜2	○	○	○	※	△	※	〃
	3	明褐色土層10YR	3＜2	○	○	○	※	△		〃

0　4 m

第120図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－72号住居址実測図（1）

H－72号住

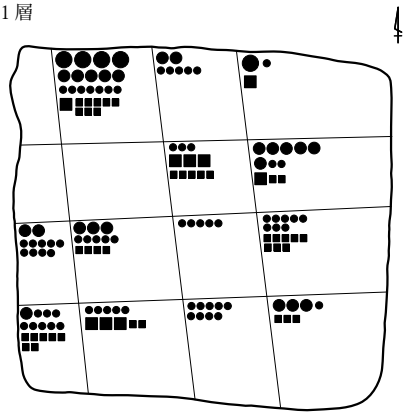


1層:20～30cm
2層:20～30cm

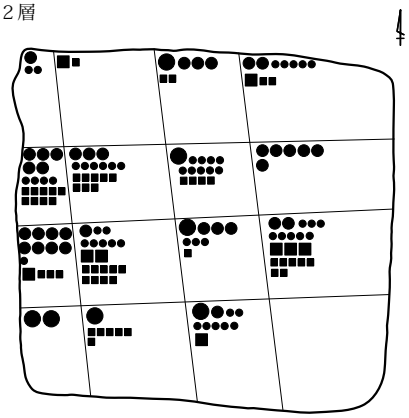
土師器
坏　2,768g
甕　20,310g
計　23,078g

土器分布

1層



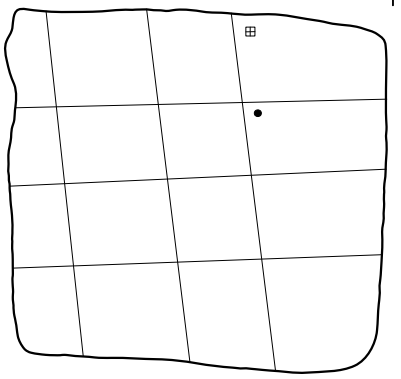
2層



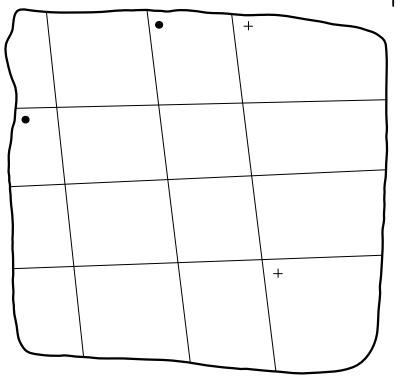
D－1
P－1
P－2

石器分布

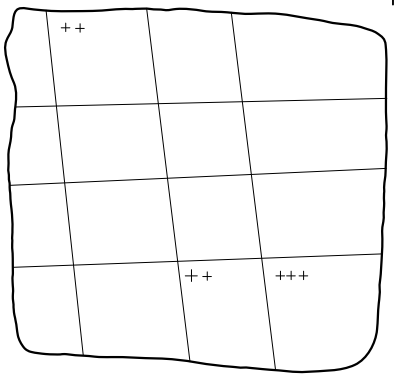
1層



2層



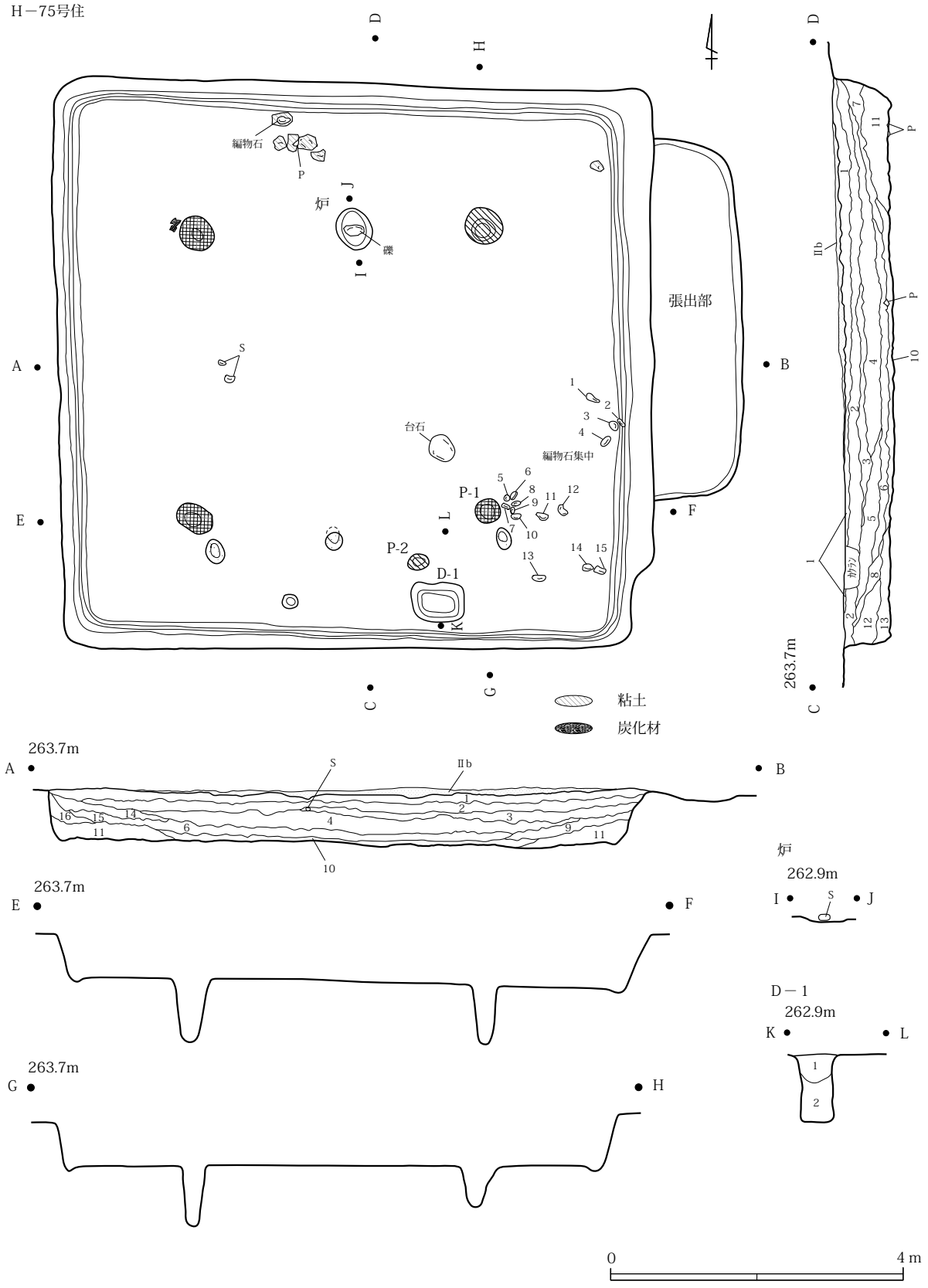
3層



炉　＋

0　4 m

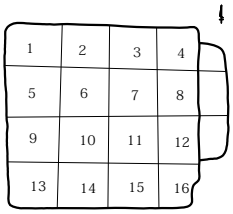
第121図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－72号住居址実測図（２）



第122図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－75号住居址実測図（1）

H－75号住

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	炭	備考
H－75号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	×	×	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	○	※	×	×	※	
	6	黒褐色土層10YR	6＜4	○	○	×	×	△	△	
	7	黒褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	※	×	
	8	黒褐色土層10YR	7＜8	○	○	※	×	※	×	
	9	褐色土層10YR	3＜9	◎	○	△	×	△		
	10	明褐色土層10YR	6＜10	○	○	○	※	◎	※	
	11	褐色土層10YR	10＜11	○	○	△	※	○	※	
	12	褐色土層10YR	8＜12	○	○	△	※	○	※	
	13	褐色土層10YR	12＜13	○	○	△	△	○	※	
	14	暗褐色土層10YR	14＜12	○	○	×	×	×		
	15	暗褐色土層10YR	14＜15	○	○	※	×	※		
	16	暗褐色土層10YR	15＜16	○	○	※	×	×		
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	△	△		埋め戻し
	2	明褐色土層10YR	1＜2	○	○	○	△	○		〃

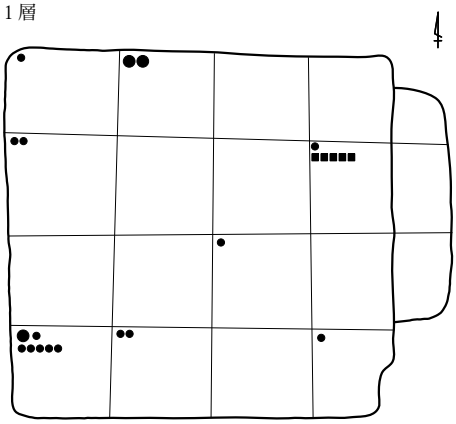


1層:20～30cm
2層:20～30cm
3層:0～15cm

土師器
坏　1,671g
甕　8,868g
計　10,539g

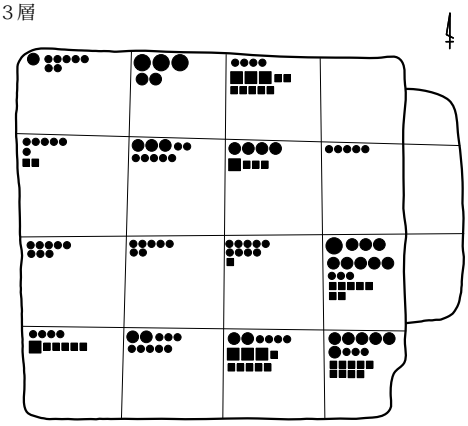
土器分布

1層



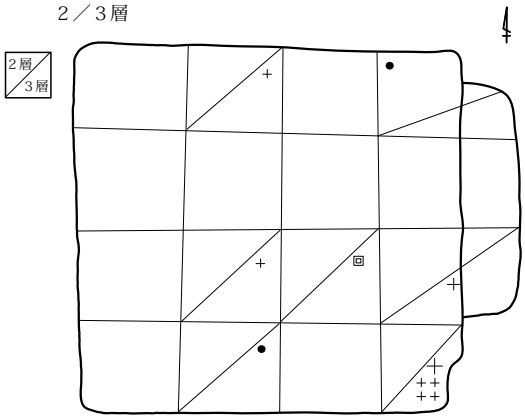
2層

3層



石器分布

2／3層



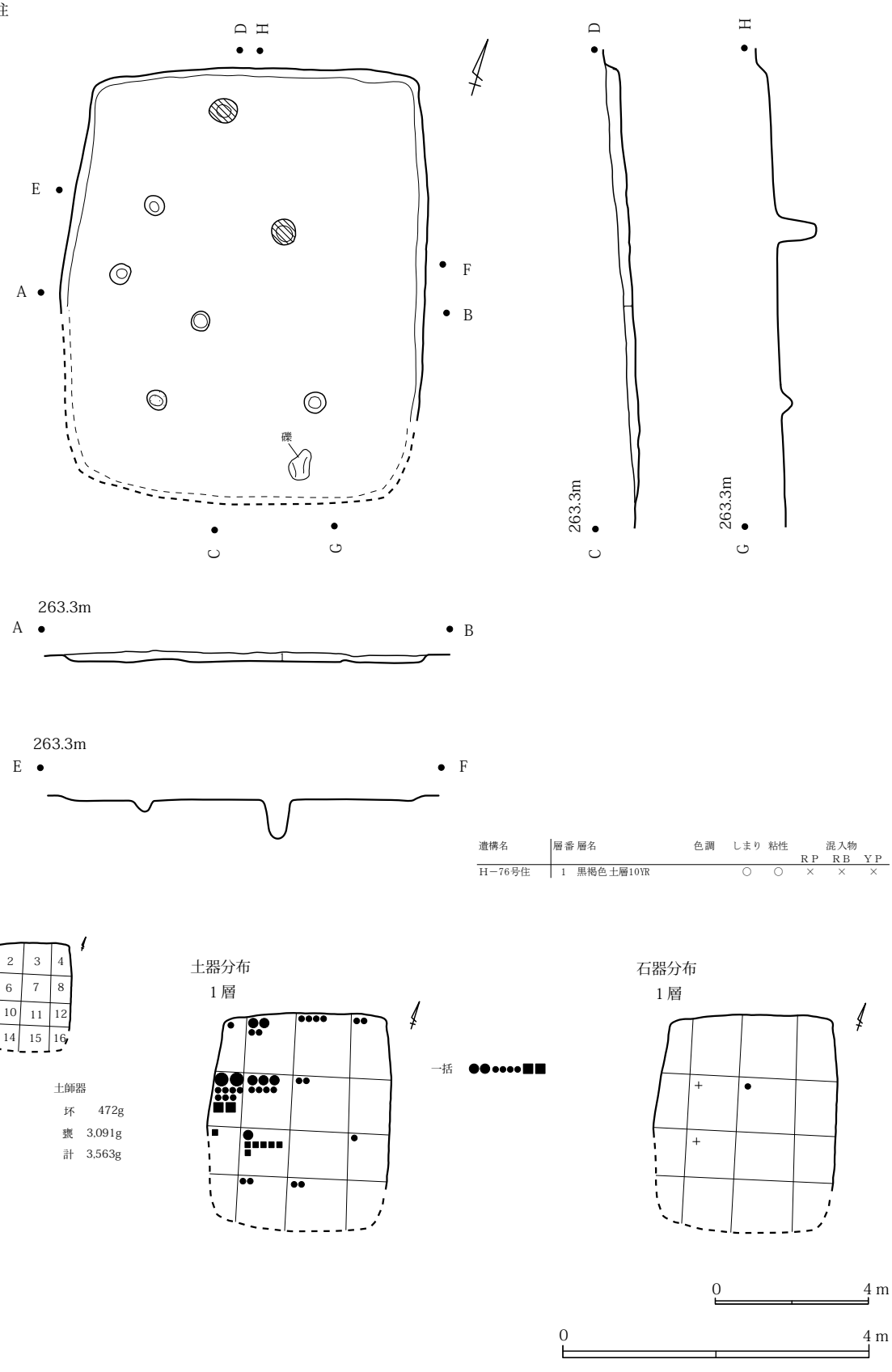
15区サブトレ一括 ■■■■■■
P－1 ●
P－2 ■■■■■■■

15区サブトレ一括 ＋

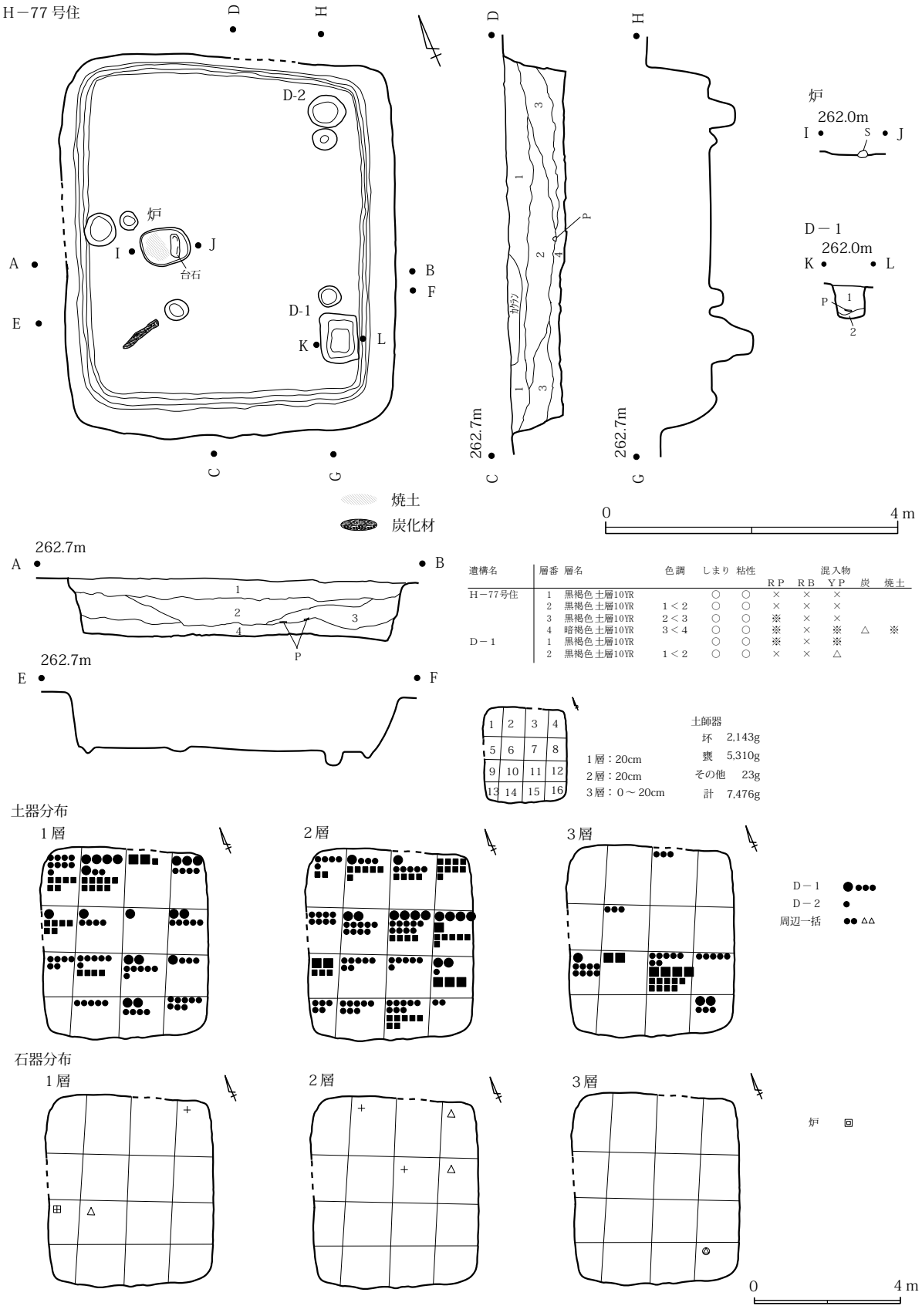
0　4 m

第123図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－75号住居址実測図（2）

H－76 号住



第124図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－76号住居址実測図

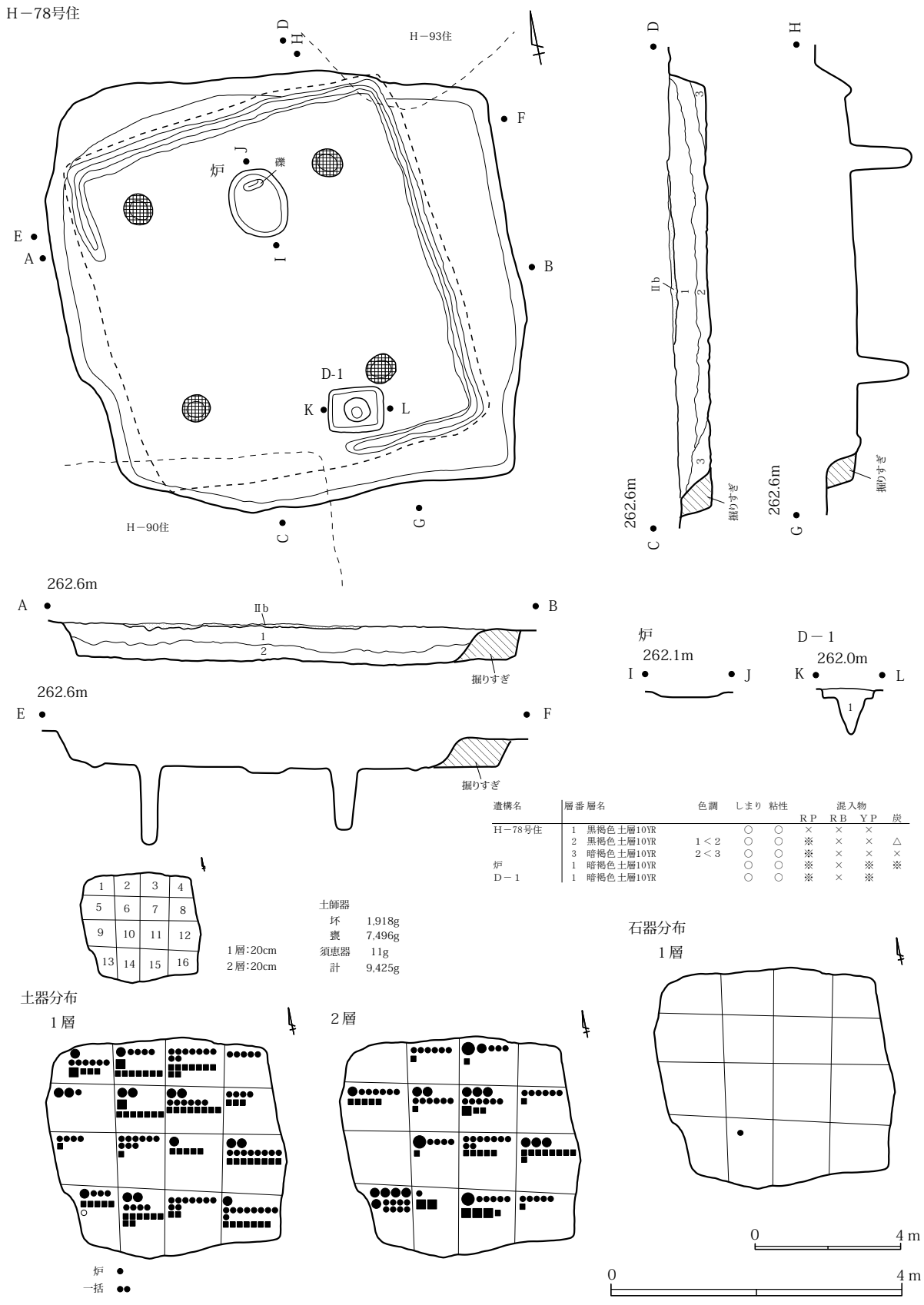


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－77号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※	△	※
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	△		

1層：20cm
2層：20cm
3層：0～20cm

土師器
坏　2,143g
甕　5,310g
その他　23g
計　7,476g

第125図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－77号住居址実測図



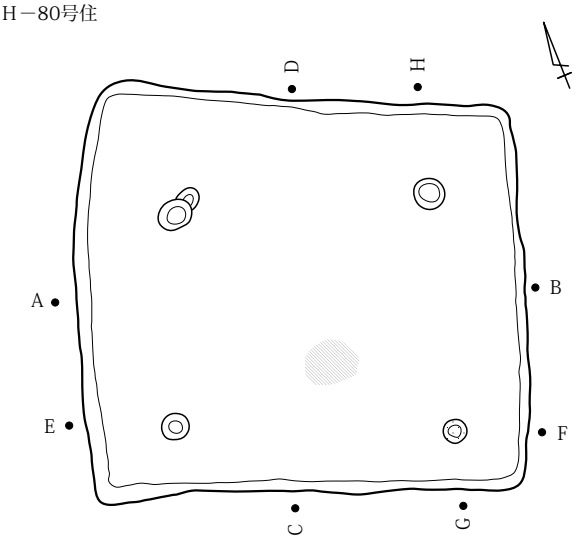
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－78号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	△
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	×
炉	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	

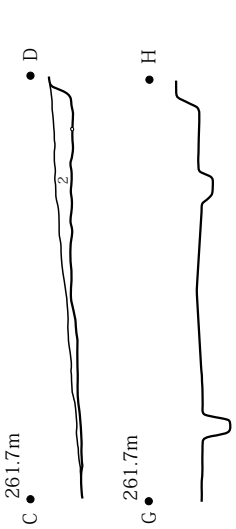
土師器	
坏	1,918g
甕	7,496g
須恵器	11g
計	9,425g

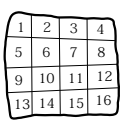
1層:20cm
2層:20cm

第126図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－78号住居址実測図

H－80号住

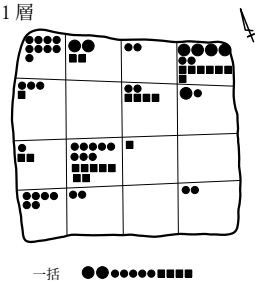


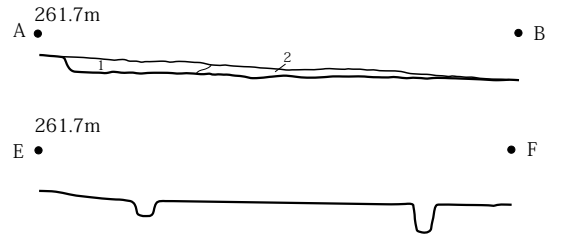




土師器
坏　258g
甕　1,313g
計　1,571g

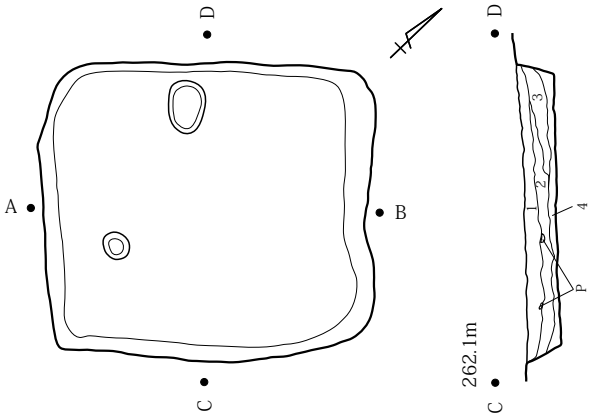
土器分布
1層

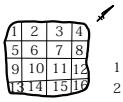




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－80号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×

H－83号住

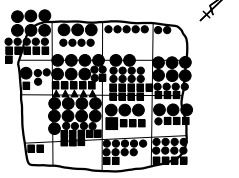




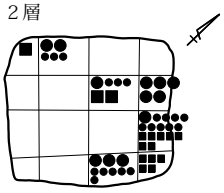
1層：20～30cm
2層：0～10cm

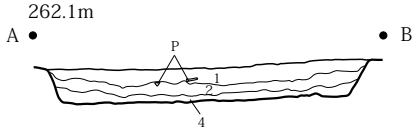
土師器
坏　987g
甕　5,951g
その他　54g
合計　6,992g

土器分布
1層



2層



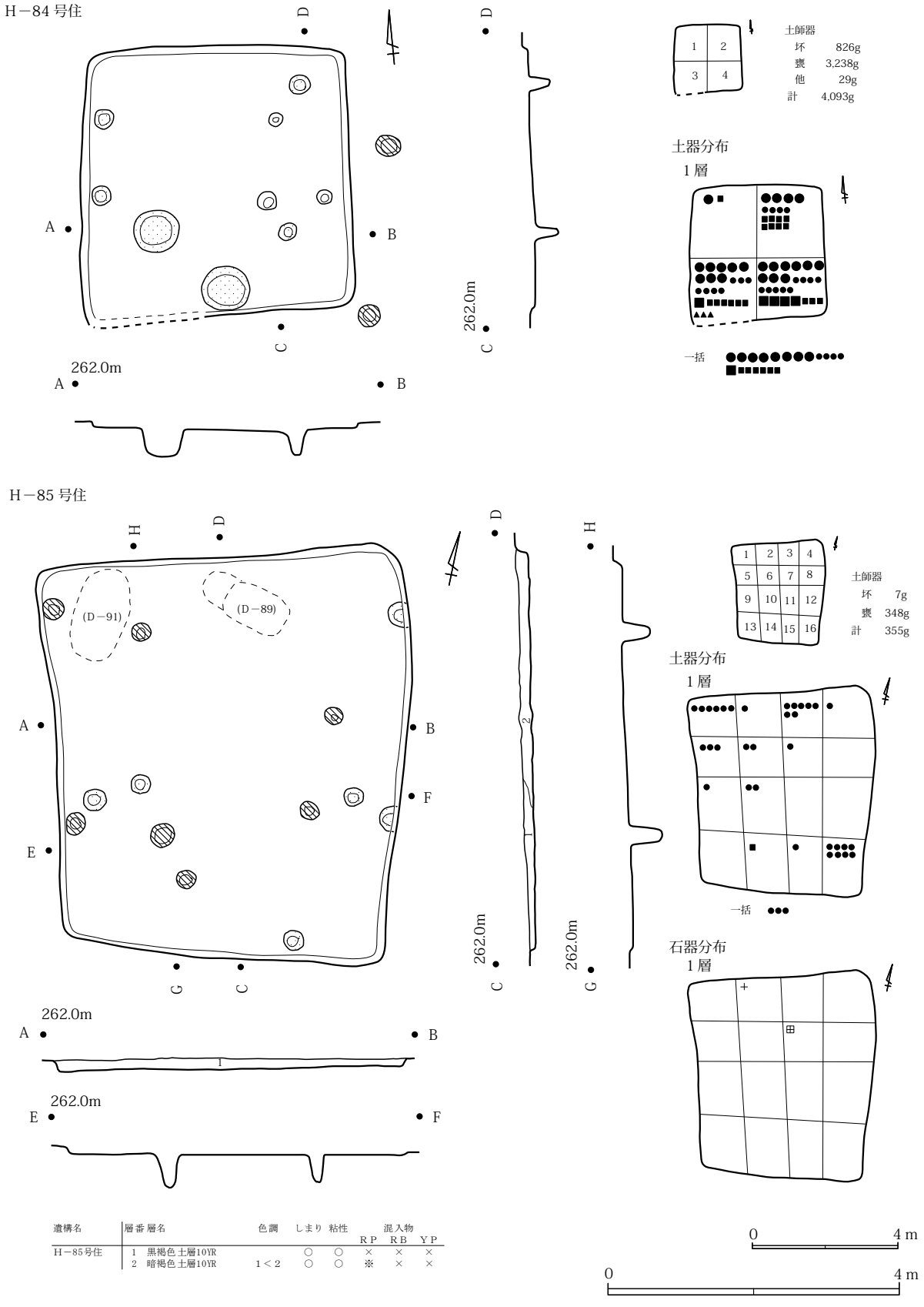


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－83号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※	×
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	※
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×	※

0　4 m

0　4 m

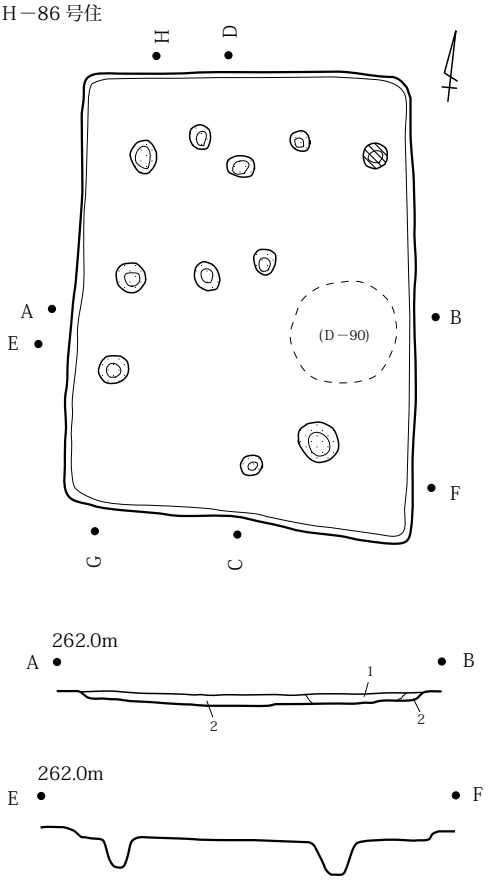
第127図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－80・83号住居址実測図

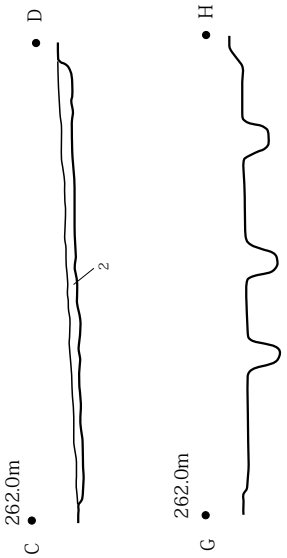


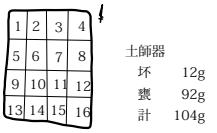
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
H－85号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×

第128図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－84・85号住居址実測図

H－86 号住

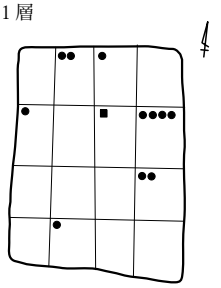




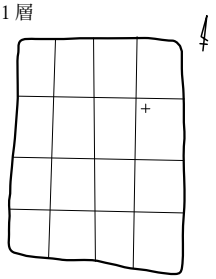


土師器
坏　12g
甕　92g
計　104g

土器分布
1 層

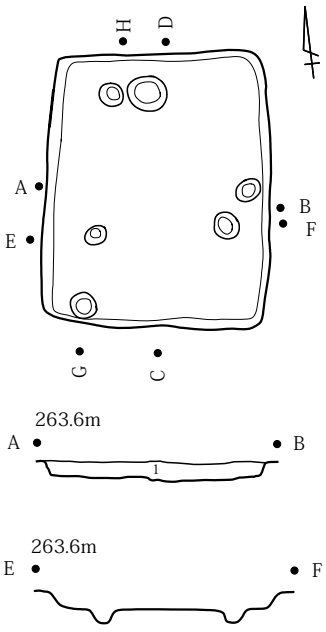


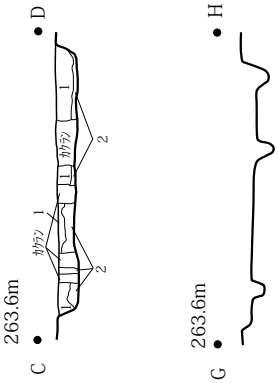
石器分布
1 層



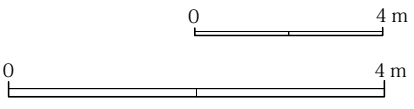
遺構名	層番 層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	備考
H－86号住	1 黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	土坑（覆土）
	2 暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	

H－87号住



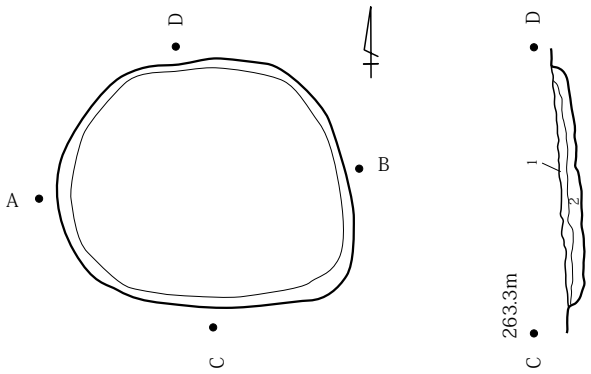


遺構名	層番 層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－87号住	1 黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2 暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×



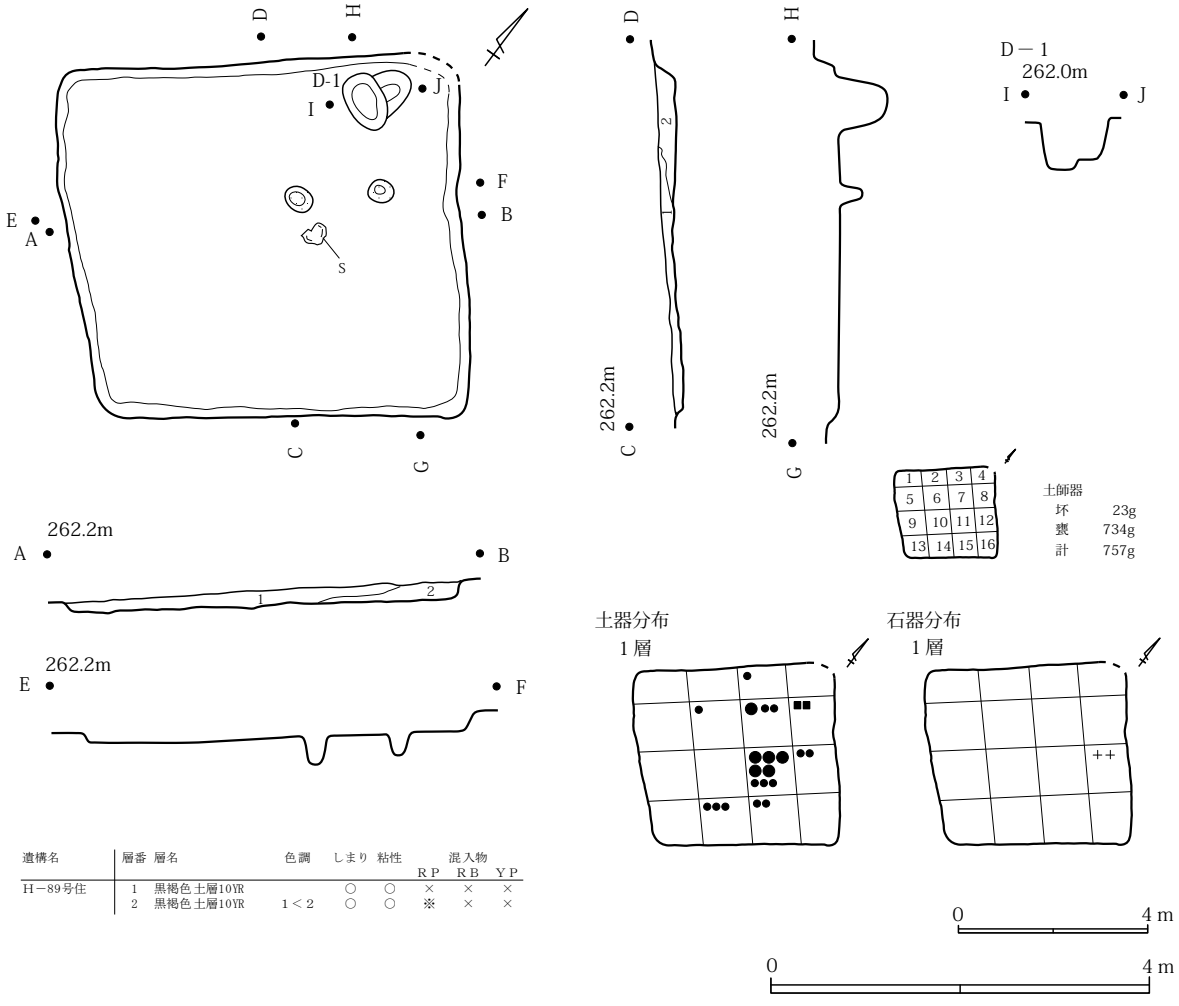
第129図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－86・87号住居址実測図

H－88号住



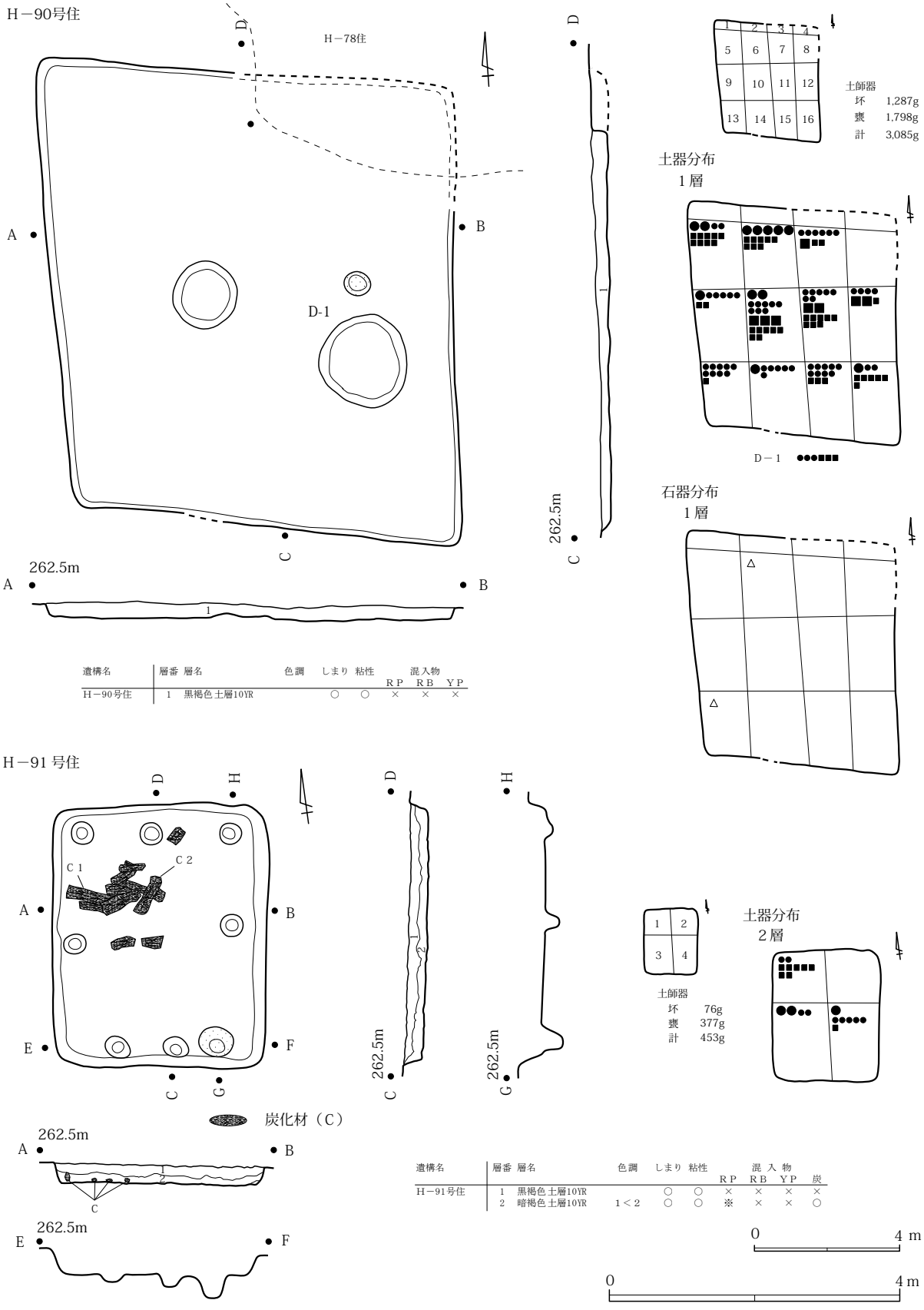
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－88号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×

H－89号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－89号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×

第130図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－88・89号住居址実測図

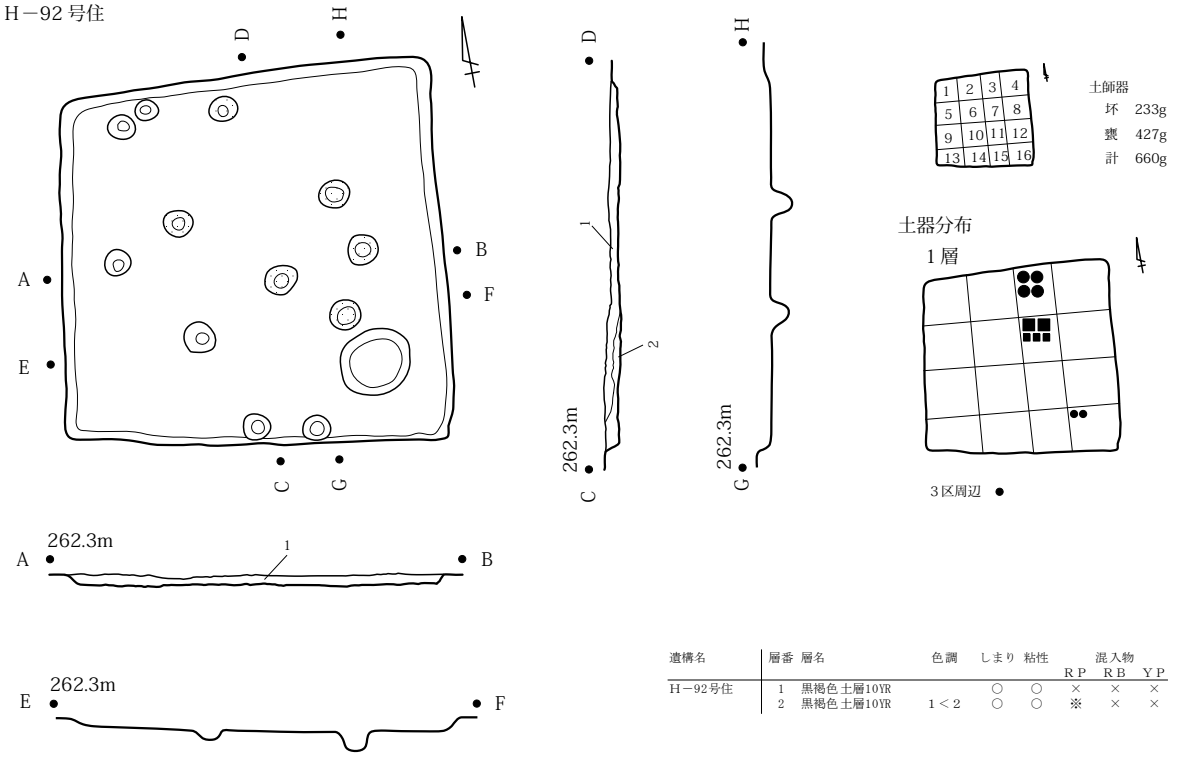


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－90号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－91号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	○

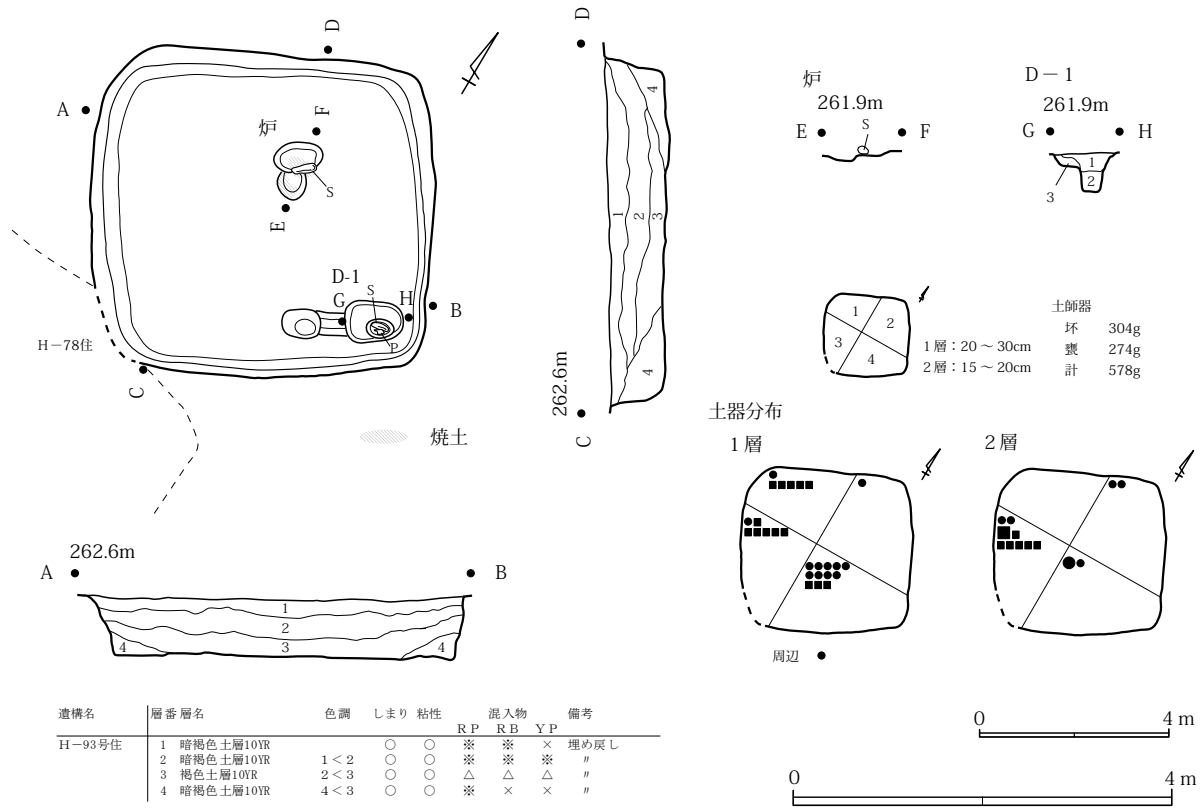
第131図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－90・91号住居址実測図

H－92 号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
H－92号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×

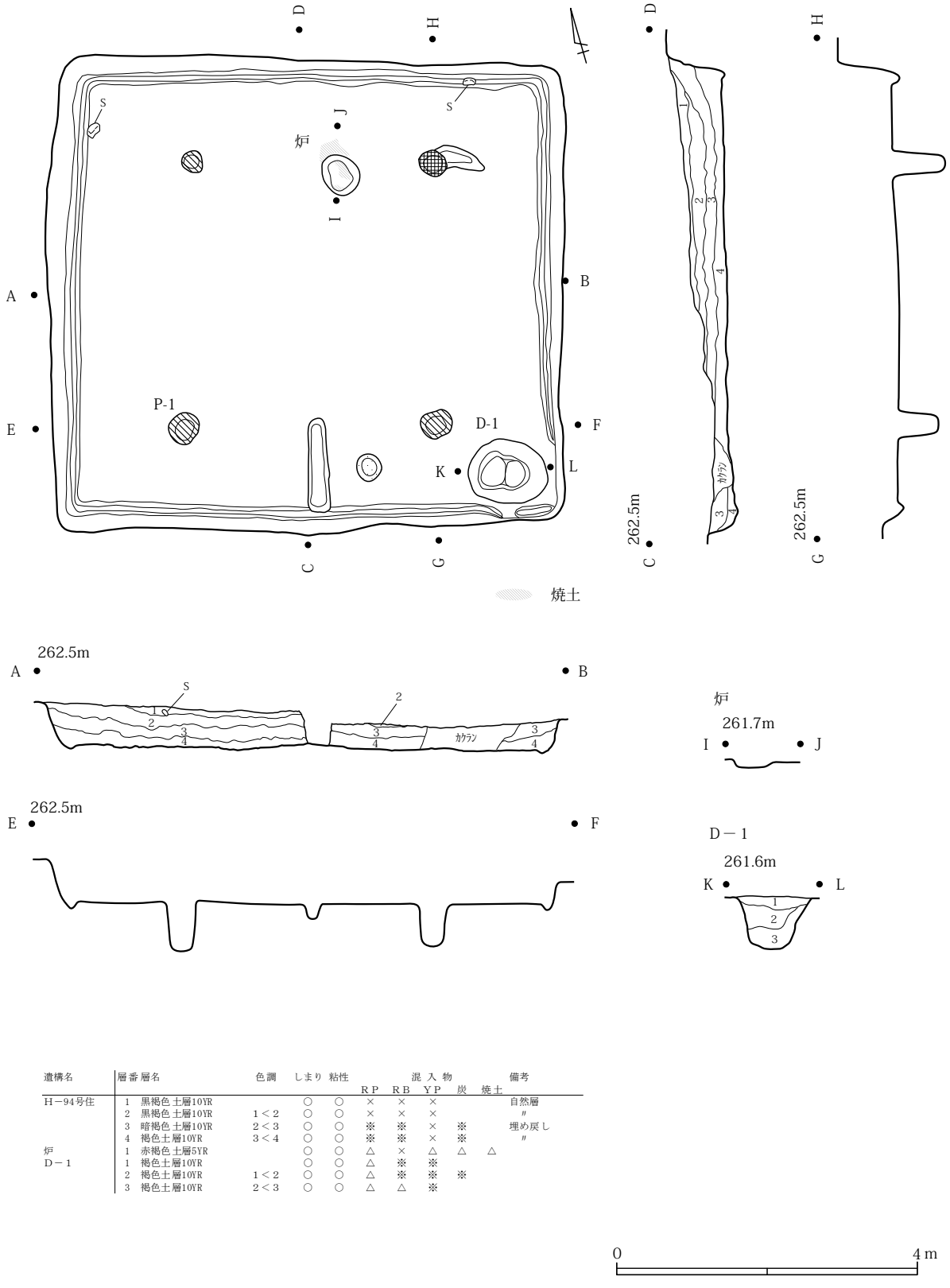
H－93号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－93号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	×	埋め戻し
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※	〃
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	△	△	〃
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	×	〃

第132図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－92・93号住居址実測図

H－94 号住

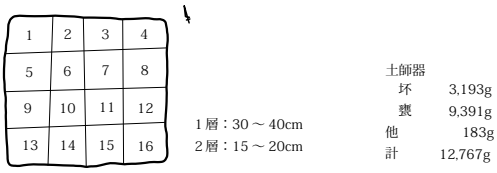


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－94号住	1	黒褐色 土層10YR		○	○	×	×	×			自然層
	2	黒褐色 土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			〃
	3	暗褐色 土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×	※		埋め戻し
	4	褐色土 層10YR	3＜4	○	○	※	※	×	※		〃
炉	1	赤褐色 土層5YR		○	○	△	×	△	△	△	
D－1	1	褐色土 層10YR		○	○	△	※	※			
	2	褐色土 層10YR	1＜2	○	○	△	※	※	※		
	3	褐色土 層10YR	2＜3	○	○	△	△	※			

0　4 m

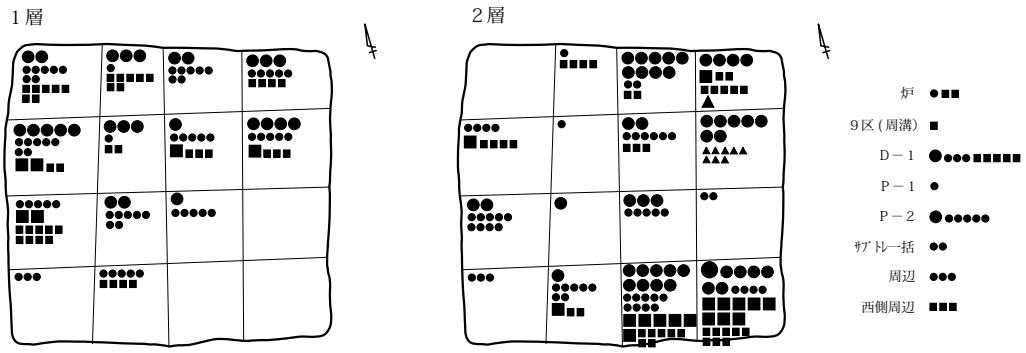
第133図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－94号住居址実測図（1）

H－94 号住

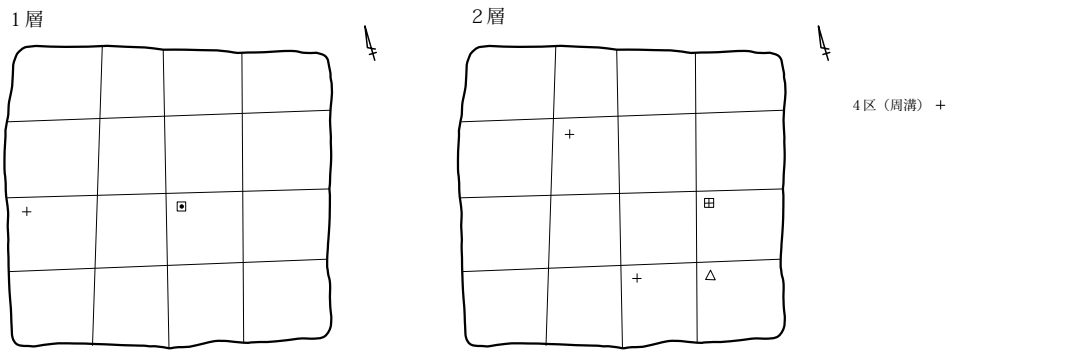


土師器
坏　3,193g
甕　9,391g
他　183g
計　12,767g

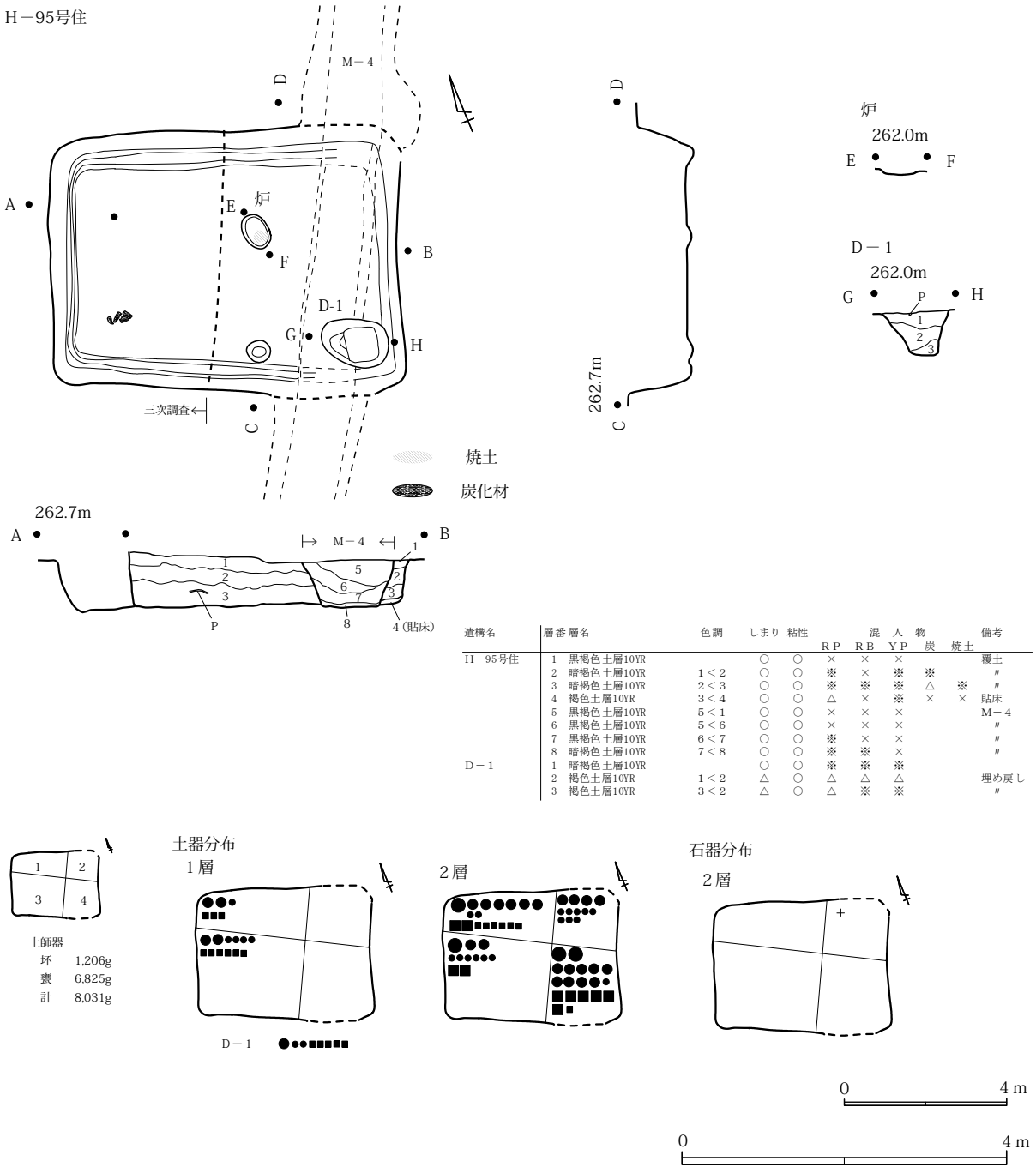
土器分布



石器分布



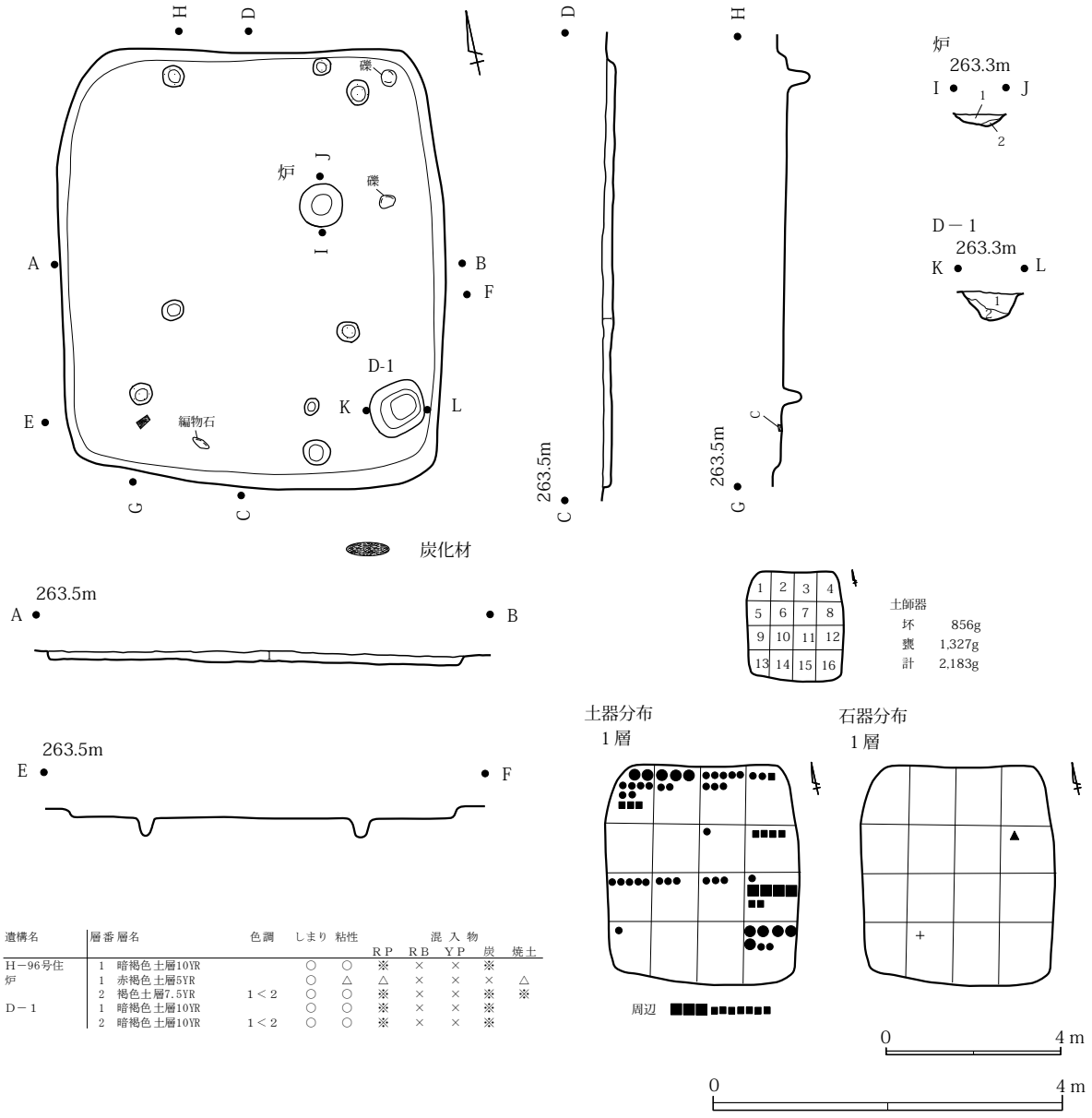
第134図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－94号住居址実測図（2）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－95号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			覆土
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※		〃
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※	△	※	〃
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	※	×	×	貼床
	5	黒褐色土層10YR	5＜1	○	○	×	×	×			M－4
	6	黒褐色土層10YR	5＜6	○	○	×	×	×			〃
	7	黒褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	×			〃
	8	暗褐色土層10YR	7＜8	○	○	※	※	×			〃
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※			
	2	褐色土層10YR	1＜2	△	○	△	△	△			埋め戻し
	3	褐色土層10YR	3＜2	△	○	△	※	※			〃

第135図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－95号住居址実測図

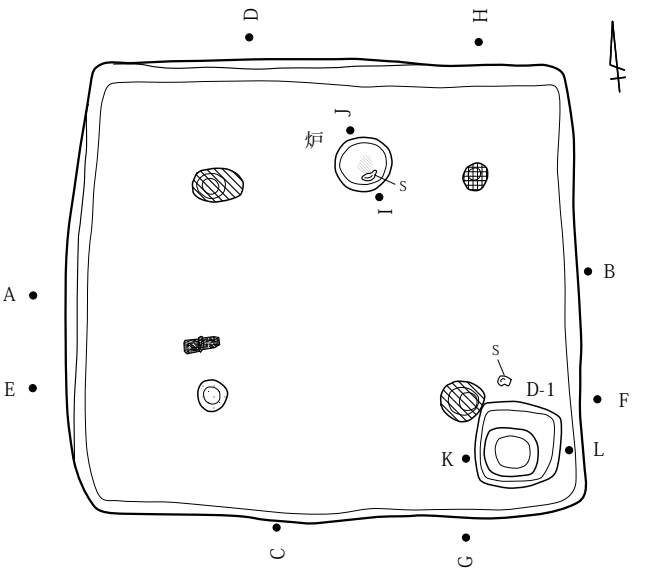
H－96 号住

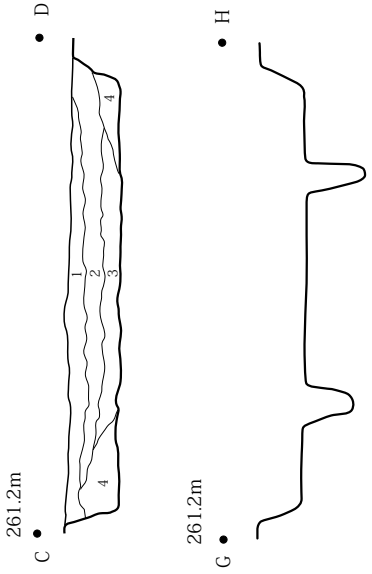


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－96号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	
炉	1	赤褐色土層5YR		○	△	△	×	×	×	△
	2	褐色土層7.5YR	1＜2	○	○	※	×	×	※	※
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	※	

第136図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－96号住居址実測図

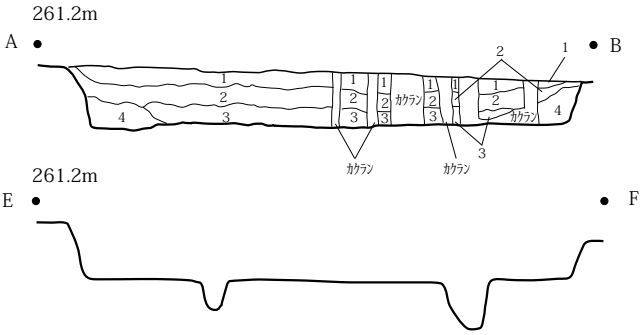
H－97 号住

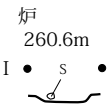


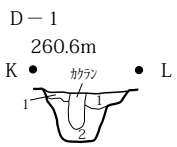


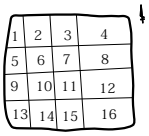
焼土

炭化材









1層：20～30cm
2層：20～30cm

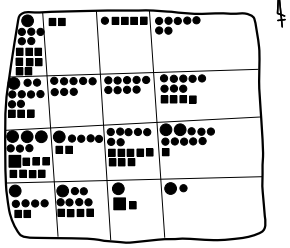
土師器

坏	2,334g
甕	10,292g
計	12,626g

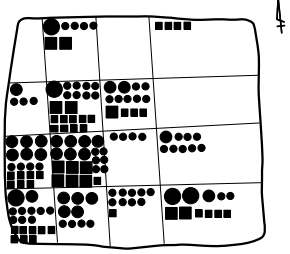
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
H－97号住	1	黒褐色 土層10YR		○	○	×	×	×	×	
	2	褐色 土層10YR	1＜2	○	○	△	×	※	×	埋め戻しがﾛｰﾑ土
	3	褐色 土層10YR	2＜3	○	○	△	△	※	△	〃
	4	明褐色 土層10YR	3＜4	○	○	○	△	△	※	〃
D－1	1	褐色 土層10YR		○	○	○	※	△	※	埋め戻し
	2	褐色 土層10YR	2＜1	○	○	△	※	△	※	〃

土器分布

1層



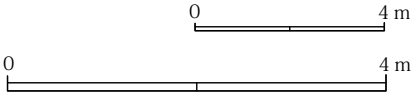
2層

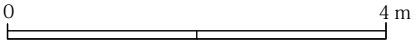


D－1

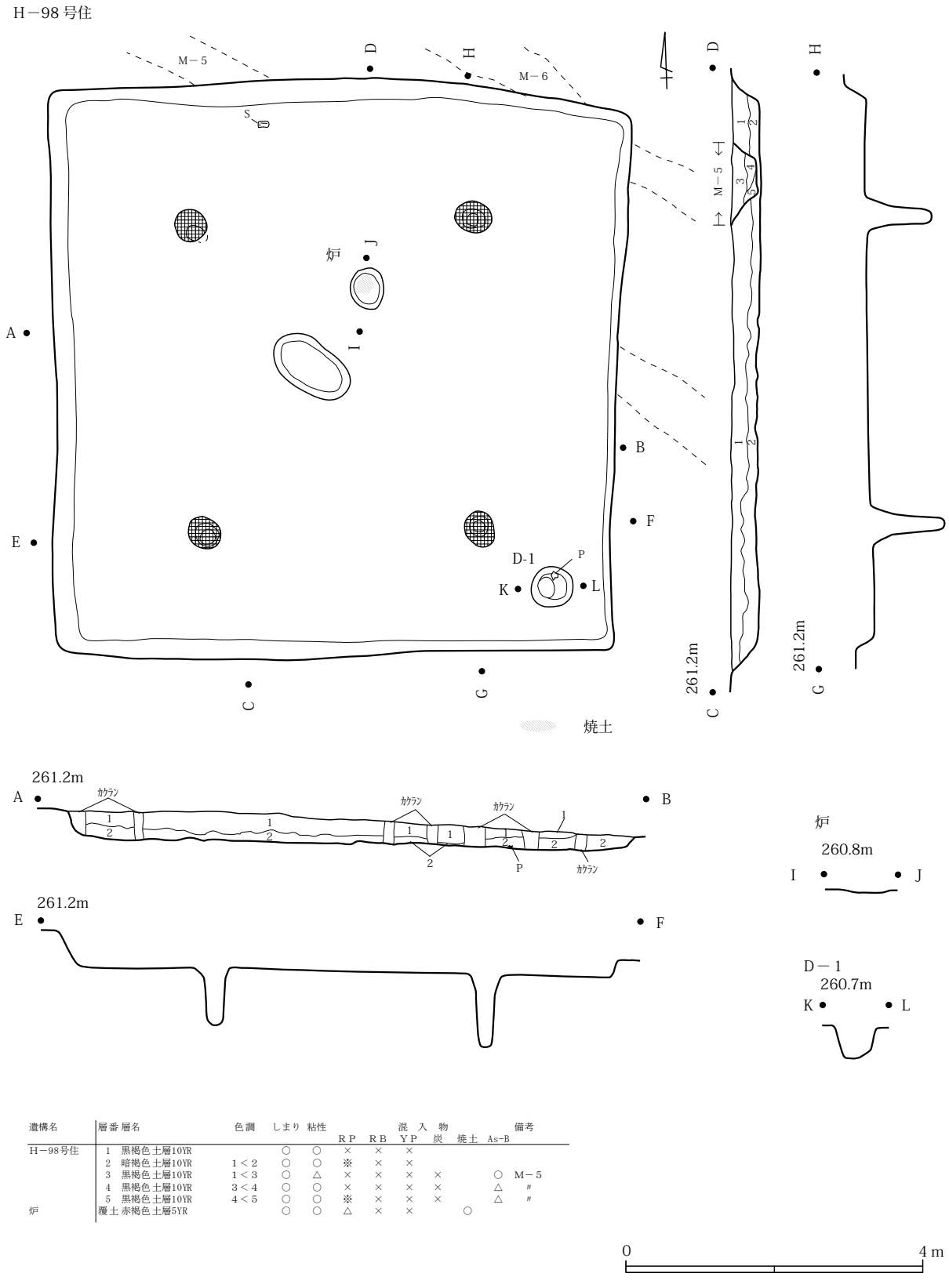
石器分布

D－1 ⊞



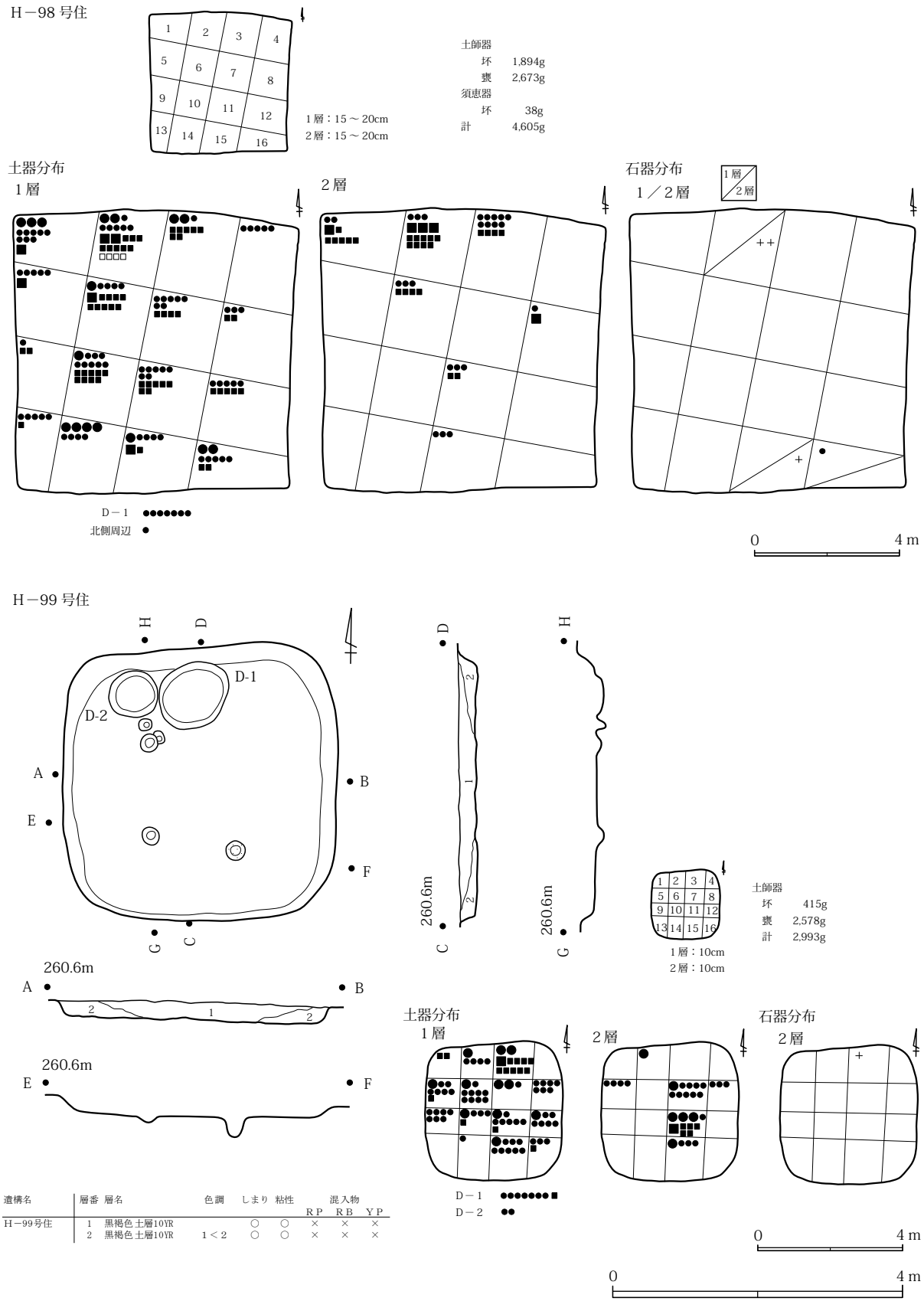


第137図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－97号住居址実測図

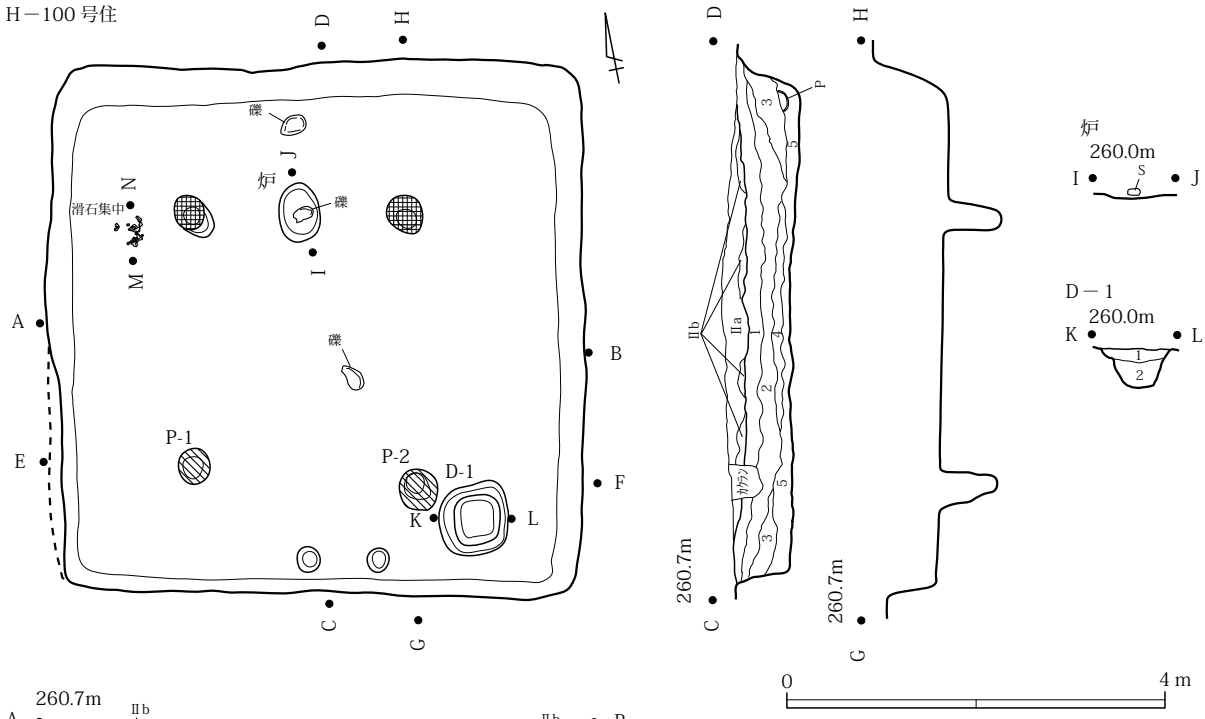


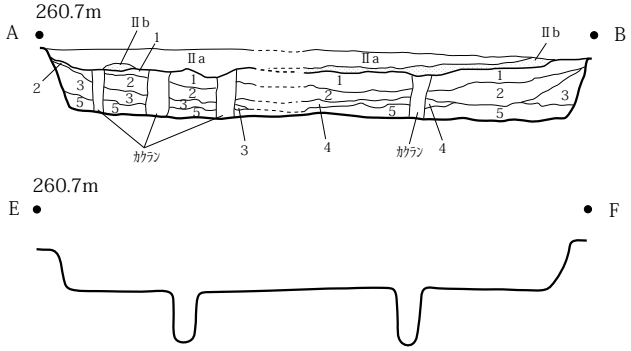
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物 炭	焼土	As-B	備考
H－98号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×				
	3	黒褐色土層10YR	1＜3	○	△	×	×	×	×		○	M－5
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	×	×	×	×		△	〃
	5	黒褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	×	×		△	〃
炉	覆土	赤褐色土層5YR		○	○	△	×	×		○		

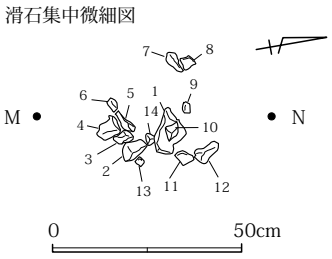
第138図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－98号住居址実測図（1）



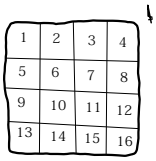
第139図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－98（2）・99号住居址実測図





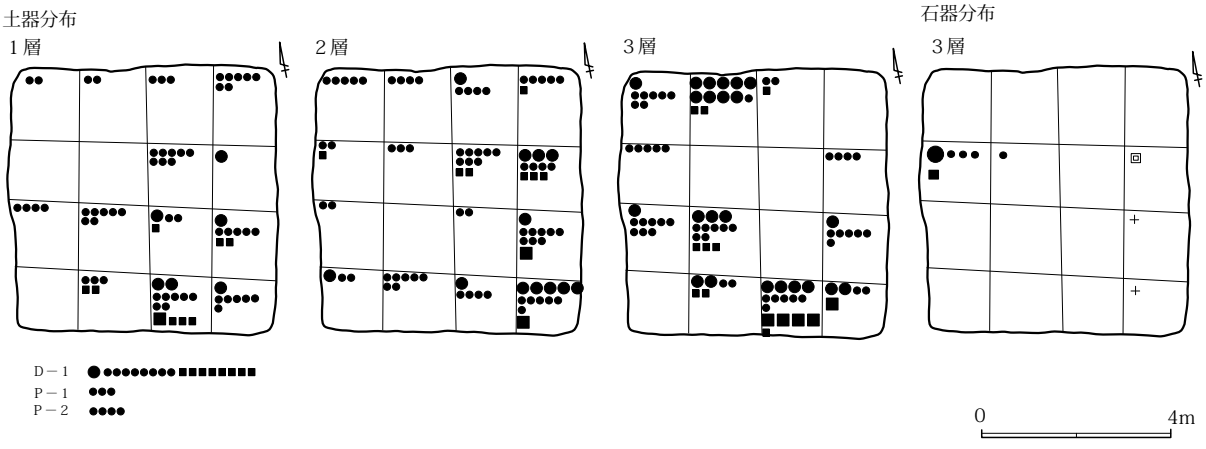


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入 RP	混入 RB	混入 YP	備考
H－100号住	1	黒褐色 土層10YR		○	○	×	×	×	自然層
	2	黒褐色 土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	
	3	暗褐色 土層10YR	2＜3	○	○	△	×	×	
	4	黒褐色 土層10YR	4＜2	○	○	×	×	※	
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	○	△	△	
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	※	
	2	褐色土層10YR		○	○	△	×	※	

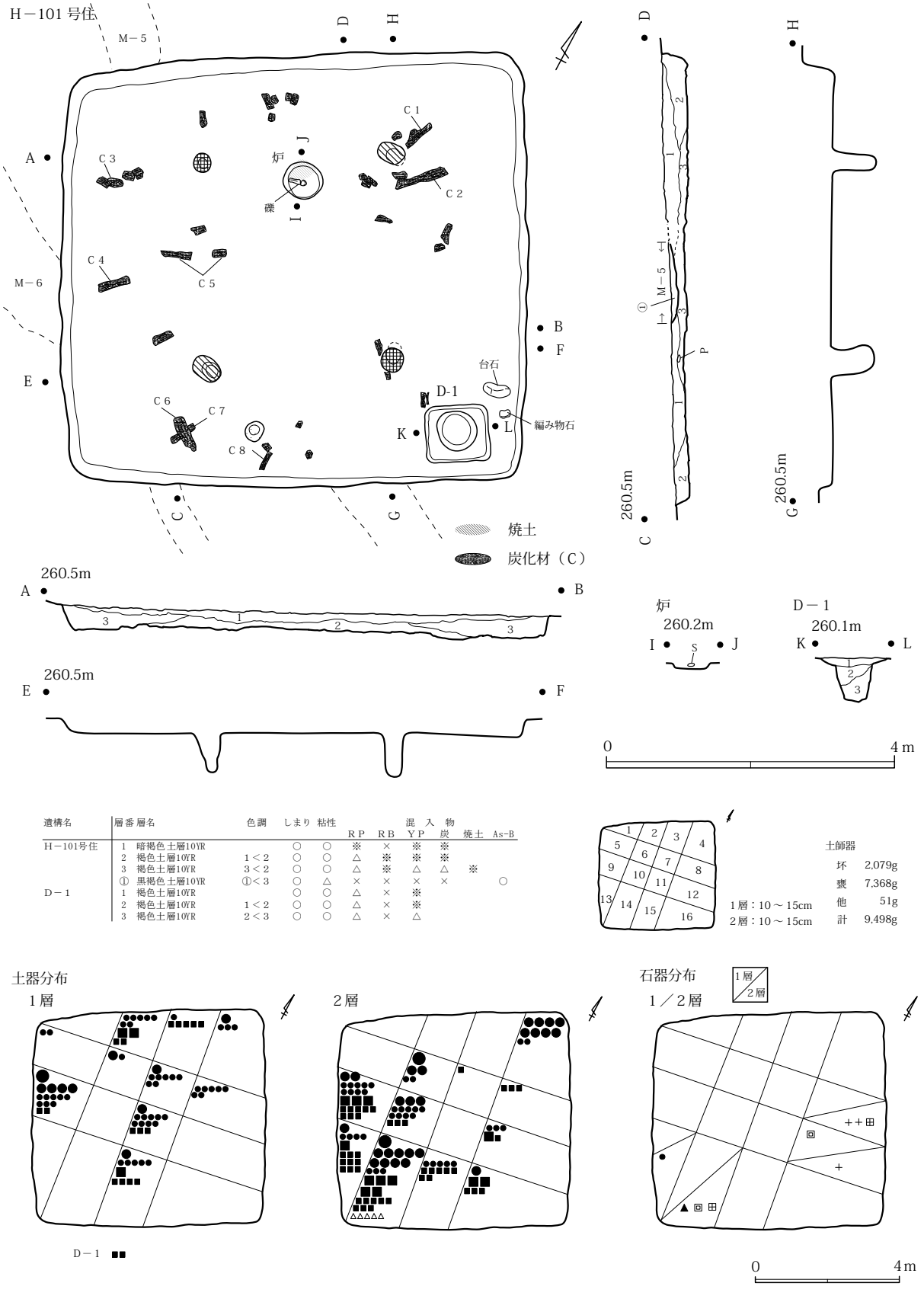


1層：20～30cm
2層：30～35cm
3層：0～15cm

土師器
坏　1,100g
甕　6,047g
計　7,147g



第140図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－100号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B
H－101号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※	※		
	3	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	※	△	△	※	
	①	黒褐色土層10YR	①＜3	○	△	×	×	×	×		○
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	※			
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	※			
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	△			

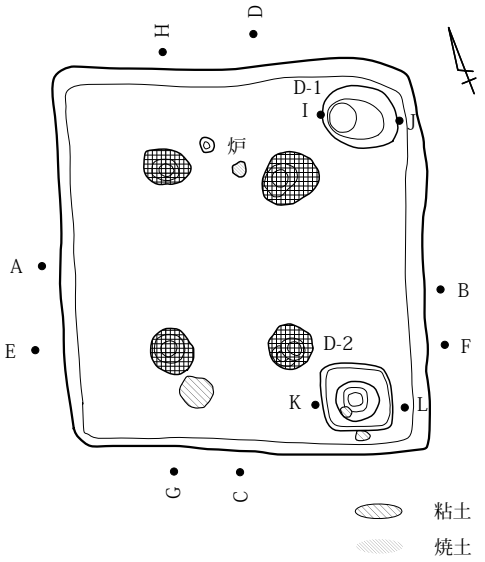
1層：10～15cm
2層：10～15cm

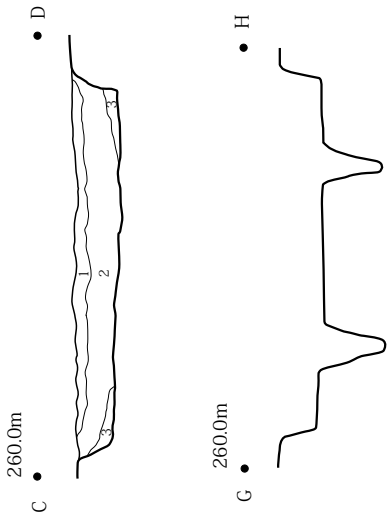
土師器

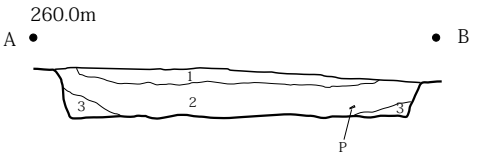
坏	2,079g
甕	7,368g
他	51g
計	9,498g

第141図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－101号住居址実測図

H－102 号住

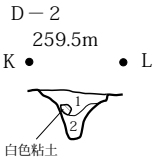


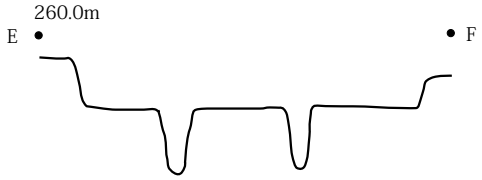




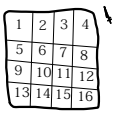
D－1

D－2





遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－102号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	
	2	明褐色土層10YR	1＜2	○	○	○	△	△	埋め戻し
	3	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	×	×	
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	
D－2	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	
	2	鈍い褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	※	



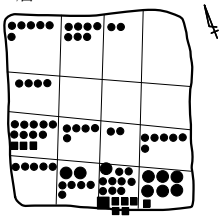
1層：15～20cm
2層：15cm

土師器

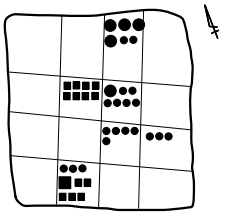
坏	418g
甕	2,162g
計	2,580g

土器分布

1層

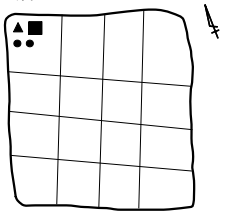


2層

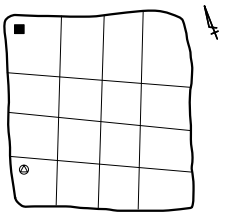


石器分布

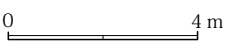
1層



2層

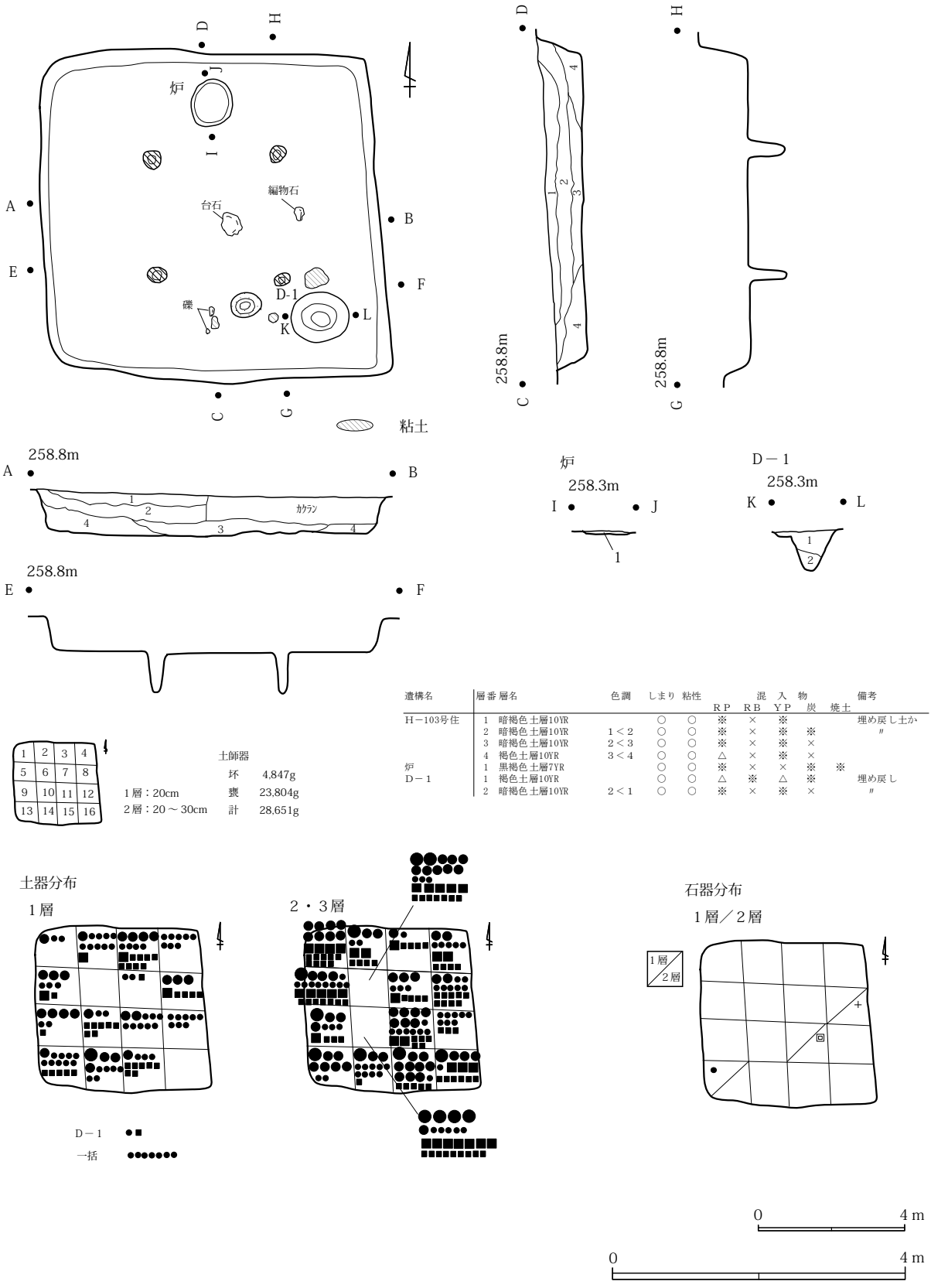


ピット



第142図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－102号住居址実測図

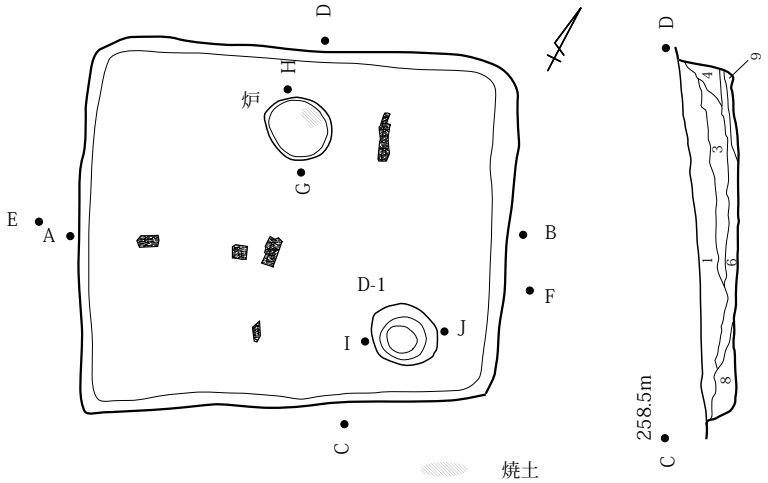
H－103 号住

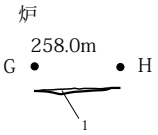


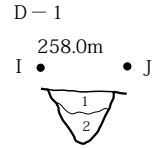
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－103号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			埋め戻し土か
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※		〃
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	×		
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	※	×		
炉	1	黒褐色土層7YR		○	○	※	×	×	※	※	
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	※		埋め戻し
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	※	×		〃

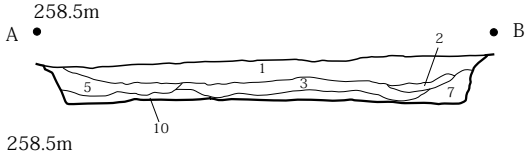
第143図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－103号住居址実測図

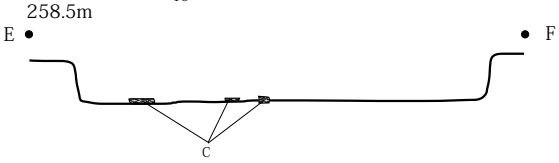
H－104 号住



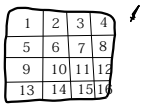








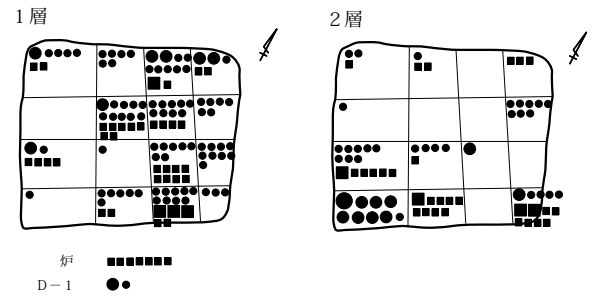
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－104号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			埋め戻し住居　火災住居
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	△	※	※	
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	×			三角堆積
	5	暗褐色土層10YR	5＜3	○	○	※	×	※	※	※	
	6	褐色土層10YR	3＜6	○	○	△	※	※	△	※	
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	△			三角堆積
	8	暗褐色土層10YR	8＜1	○	○	※	×	※			
	9	暗褐色土層10YR	9＜6	○	○	×	×	※	※	×	
	10	暗褐色土層10YR	5＜10	○	○	※	×	×	※	※	
炉	1	褐色土層7YR		○	○	△	※	△	△	※	
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△			
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	△			



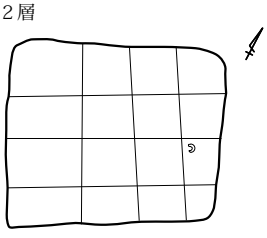
土師器
坏　1,422g
甕　3,772g
計　5,194g

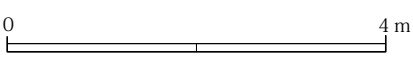
1層：20 ～ 30cm
2層：15 ～ 20cm

土器分布

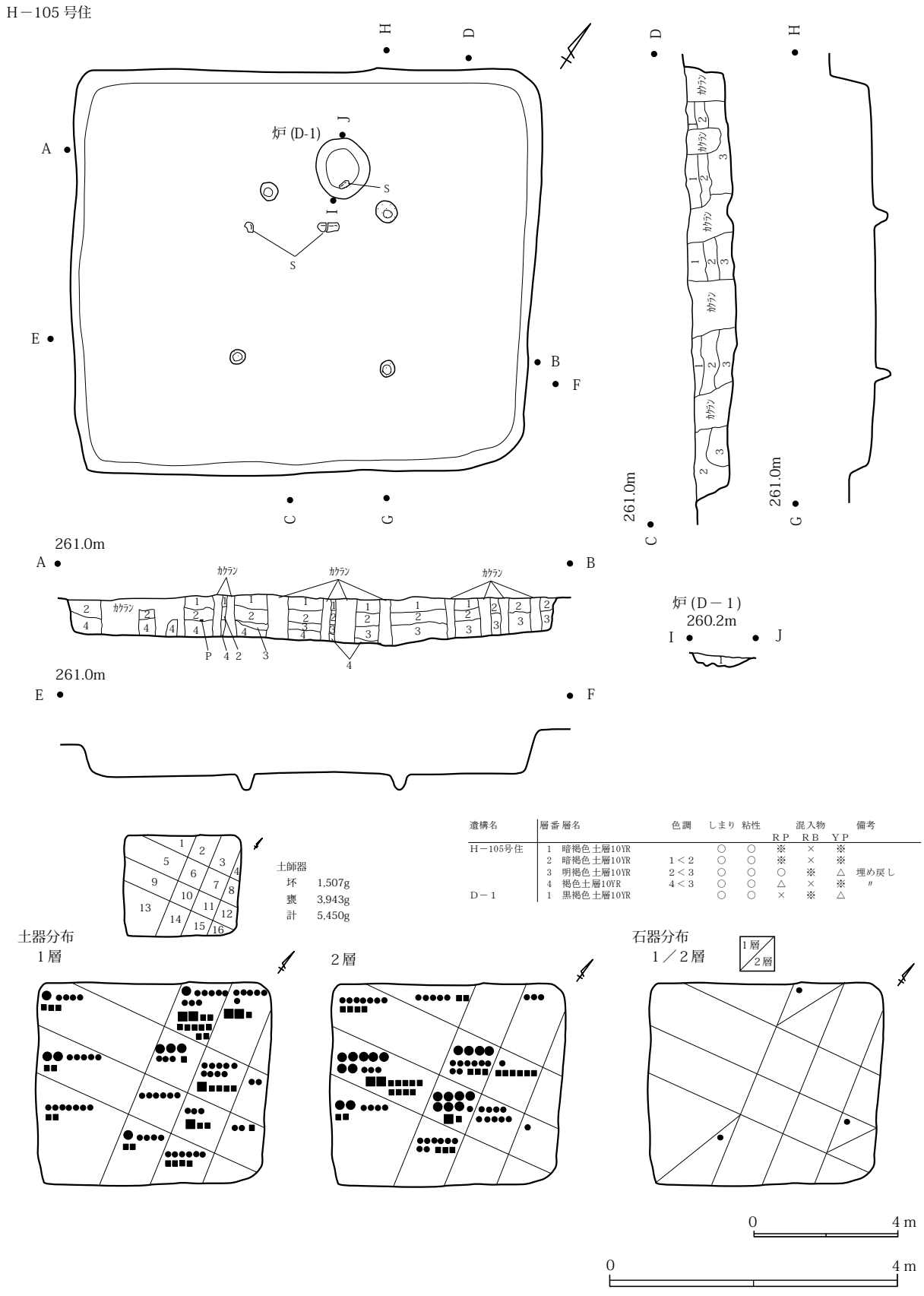


石器分布



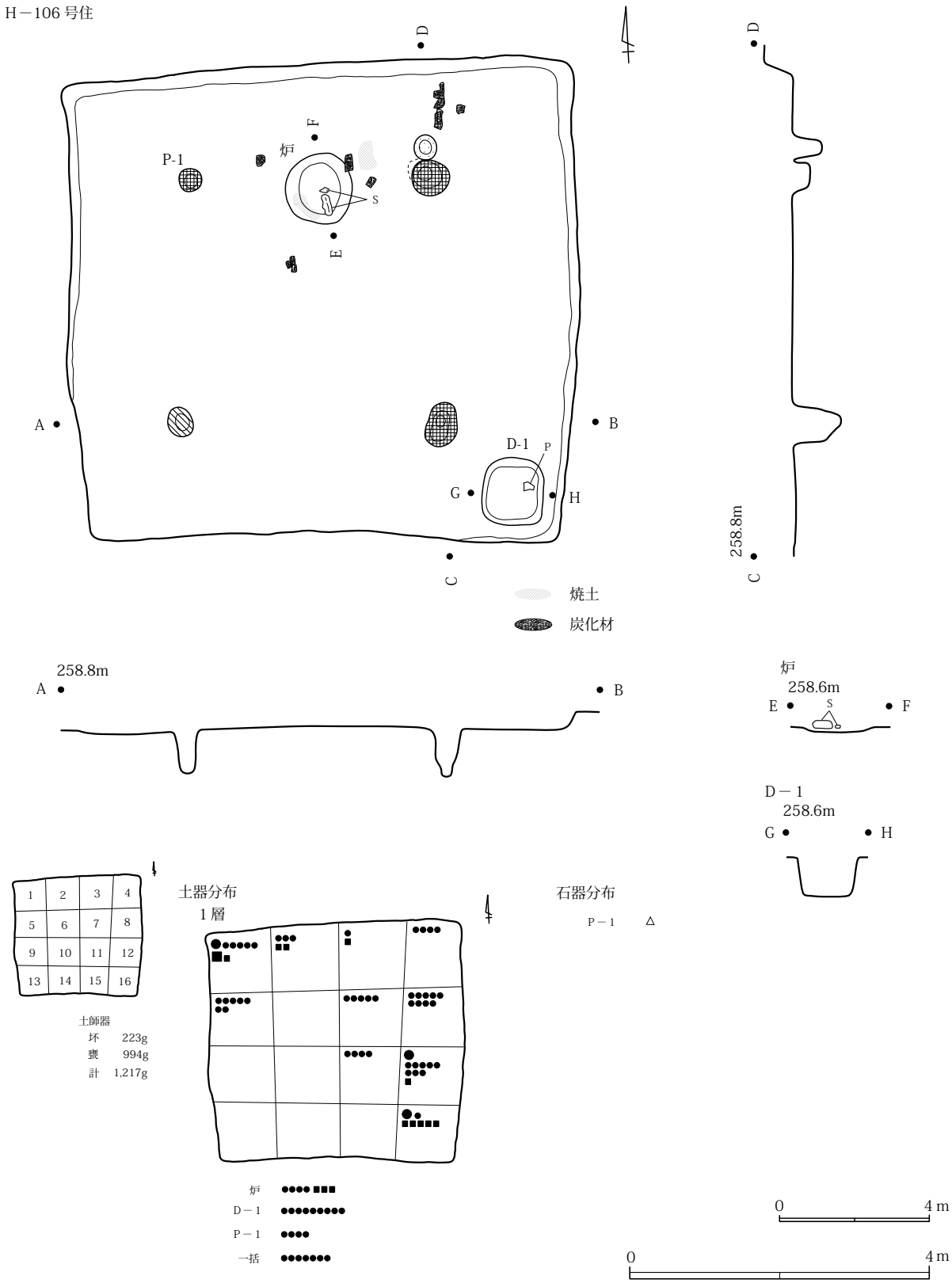


第144図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－104号住居址実測図



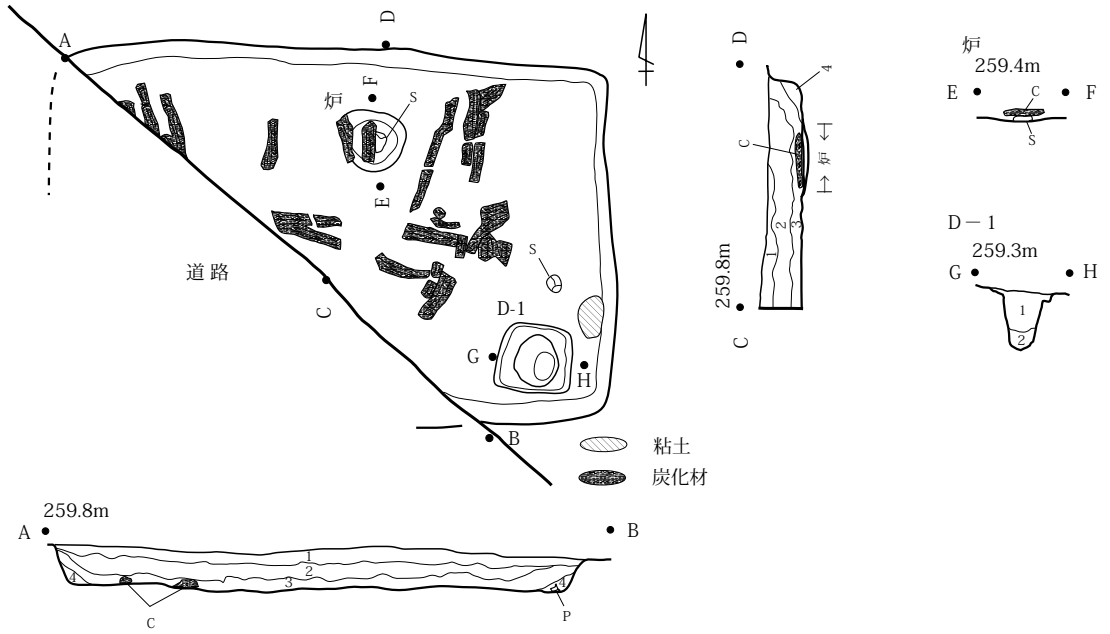
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－105号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	
	3	明褐色土層10YR	2＜3	○	○	○	※	△	埋め戻し
	4	褐色土層10YR	4＜3	○	○	△	×	※	〃
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	△	

第145図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－105号住居址実測図

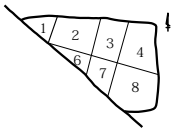


第146図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－106号住居址実測図

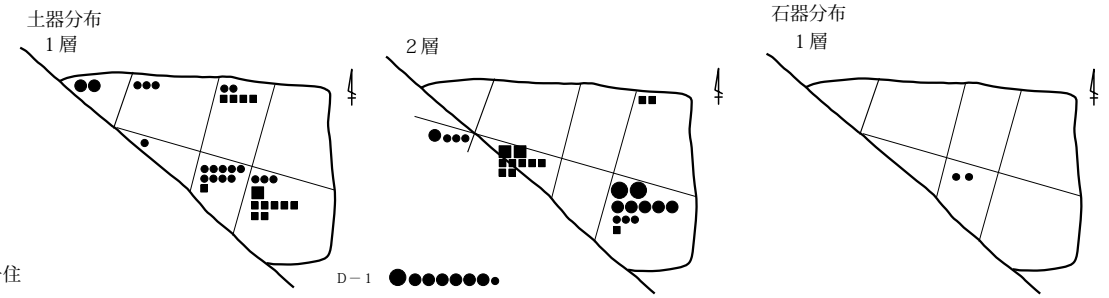
H－108 号住



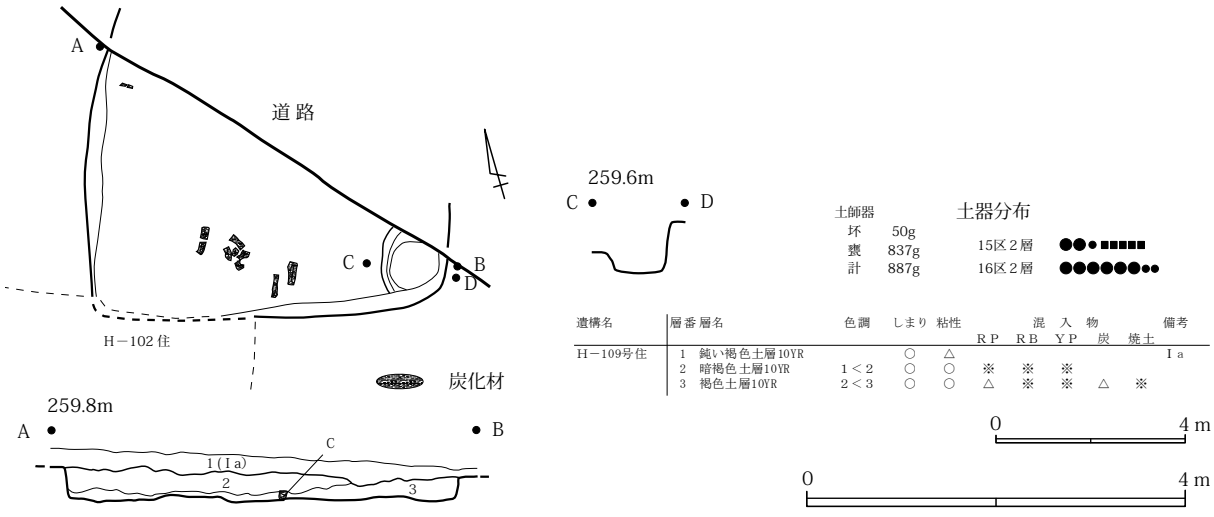
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－108号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			盛土か？
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	※	△	△	
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	×	×	×	
D－1	1	明褐色土層10YR		△	○	△	※	△			埋め戻し
	2	明褐色土層10YR	1＜2	△	○	△	×	△			〃



土師器
坏　512g
甕　4,631g
計　5,143g

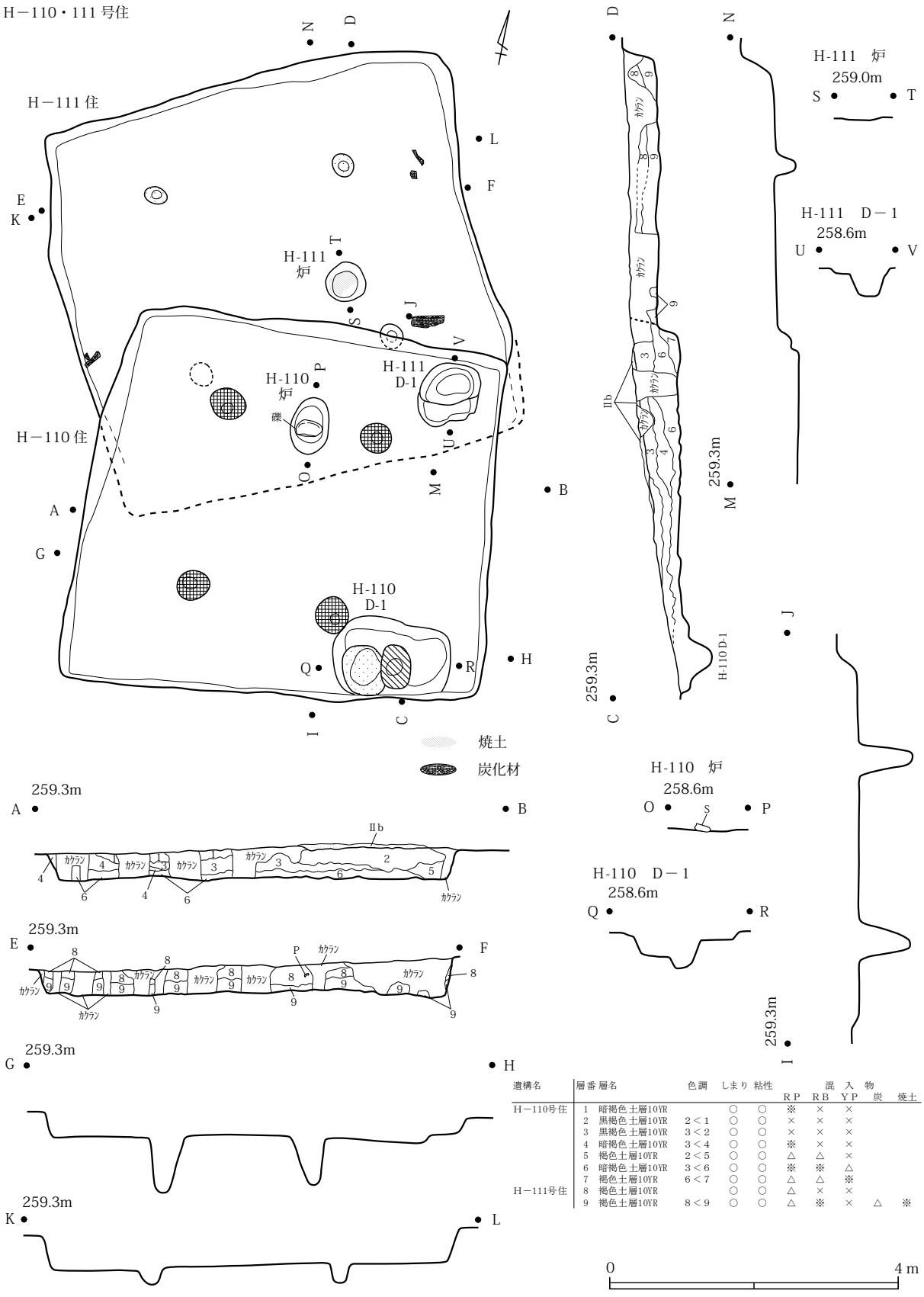


H－109 号住



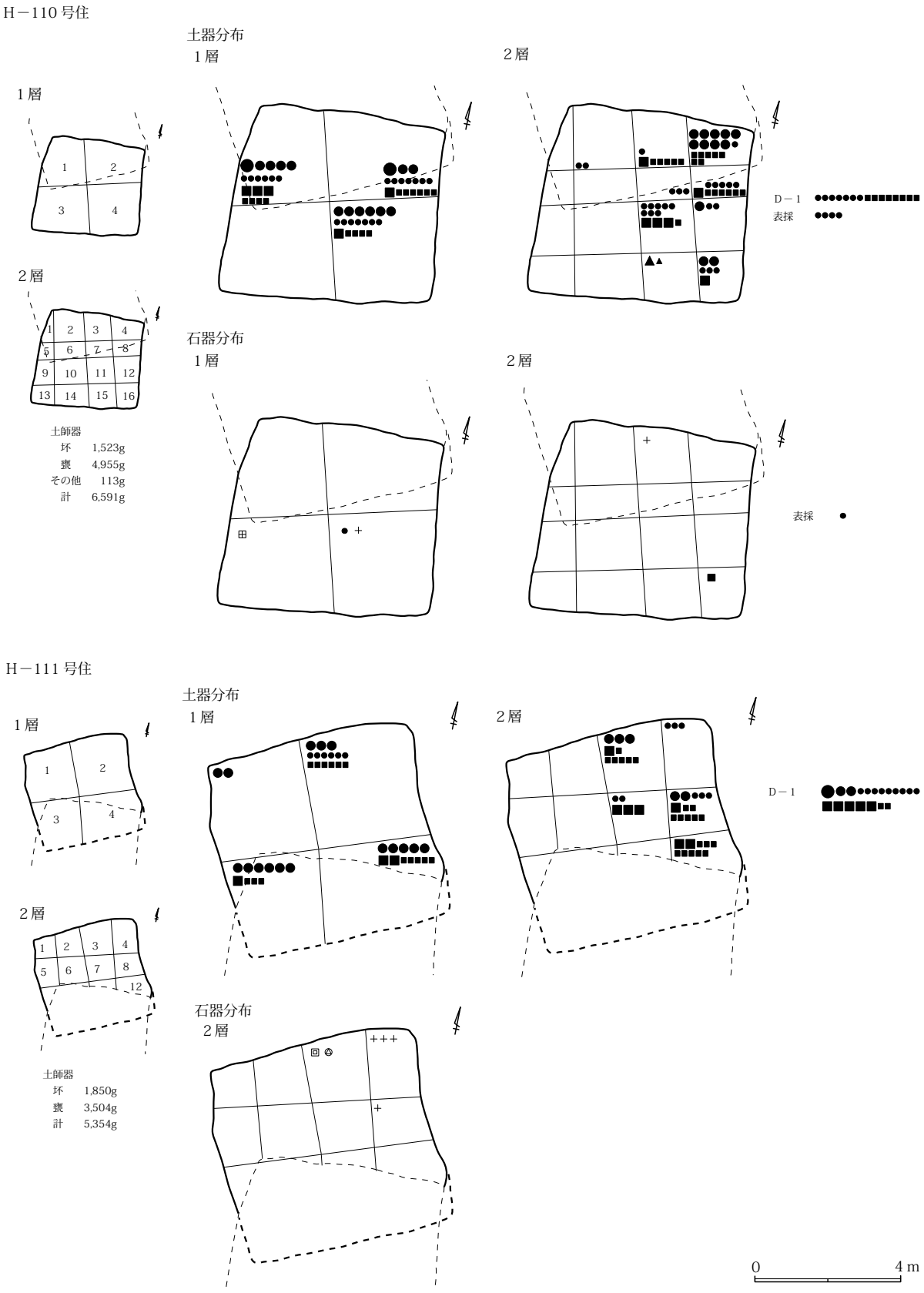
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－109号住	1	鈍い褐色土層10YR		○	△						Ⅰa
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※			
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	※	△	※	

第147図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－108・109号住居址実測図



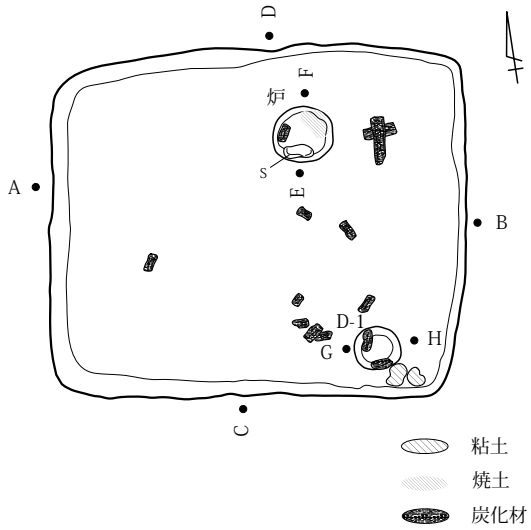
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－110号住	1	暗褐色土層	10YR		○	○	※	×	×		
	2	黒褐色土層	10YR	2＜1	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層	10YR	3＜2	○	○	×	×	×		
	4	暗褐色土層	10YR	3＜4	○	○	※	×	×		
	5	褐色土層	10YR	2＜5	○	○	△	△	×		
	6	暗褐色土層	10YR	3＜6	○	○	※	※	△		
	7	褐色土層	10YR	6＜7	○	○	△	△	※		
H－111号住	8	褐色土層	10YR		○	○	△	×	×		
	9	褐色土層	10YR	8＜9	○	○	△	※	×	△	※

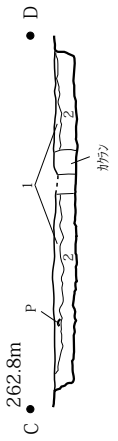
第148図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－110・111号住居址実測図（1）

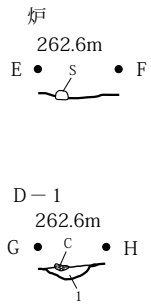


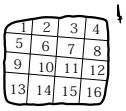
第149図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－110・111号住居址実測図（2）

H－112 号住

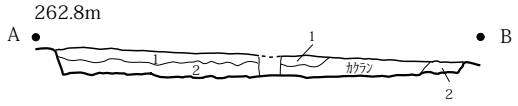






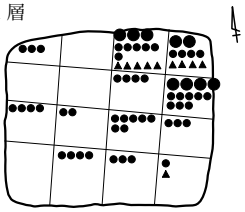


土師器
甕　1,372g
他　100g
計　1,472g

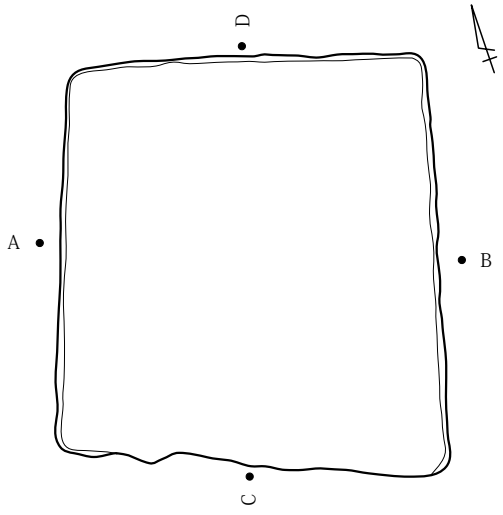


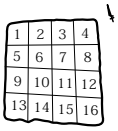
遺構名	層番 層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－112住	1 黒褐色 土層10YR		○	○	※	×	×
	2 黒褐色 土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×

土器分布
1 層



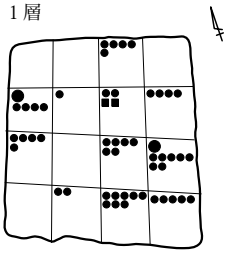
H－116 号住



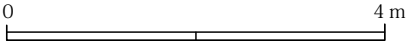


土師器
坏　16g
甕　680g
計　696g

土器分布
1 層

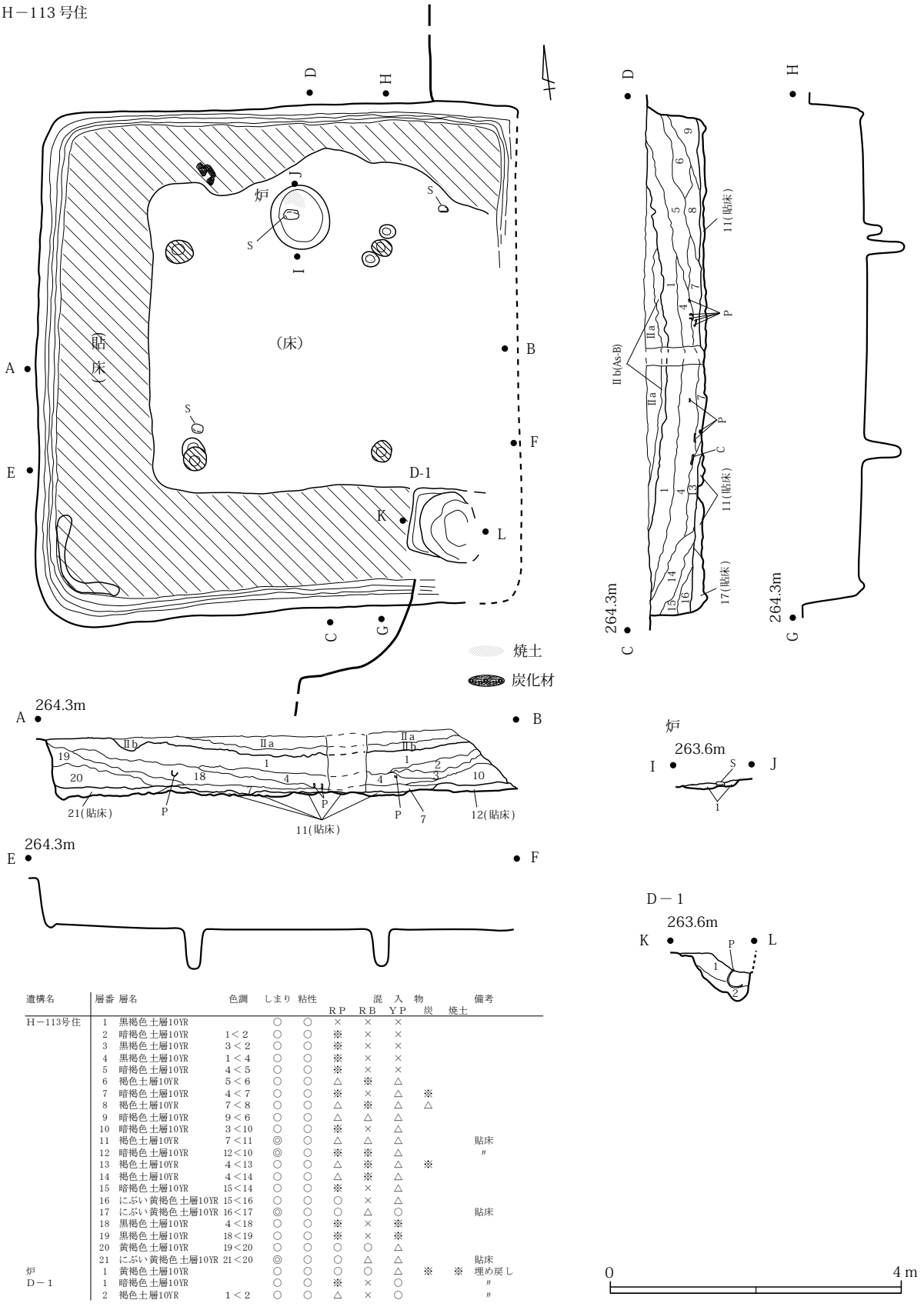


遺構名	層番 層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－116号	覆土 黒褐色 土層10YR		○	○	×	×	×



第150図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－112・116号住居址実測図

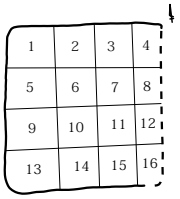
H－113 号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－113号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	×			
	4	黒褐色土層10YR	1＜4	○	○	※	×	×			
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	×			
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	※	△			
	7	暗褐色土層10YR	4＜7	○	○	※	×	△	※		
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	※	△	△		
	9	暗褐色土層10YR	9＜6	○	○	△	△	△			
	10	暗褐色土層10YR	3＜10	○	○	※	×	△			
	11	褐色土層10YR	7＜11	◎	○	△	△	△			貼床
	12	暗褐色土層10YR	12＜10	◎	○	※	※	△			〃
	13	褐色土層10YR	4＜13	○	○	△	※	△	※		
	14	褐色土層10YR	4＜14	○	○	△	※	△			
	15	暗褐色土層10YR	15＜14	○	○	※	×	△			
	16	にぶい黄褐色土層10YR	15＜16	○	○	○	×	△			
	17	にぶい黄褐色土層10YR	16＜17	◎	○	○	△	○			貼床
	18	黒褐色土層10YR	4＜18	○	○	※	×	※			
	19	黒褐色土層10YR	18＜19	○	○	※	×	※			
	20	黄褐色土層10YR	19＜20	○	○	○	○	△			
	21	にぶい黄褐色土層10YR	21＜20	◎	○	○	△	△			貼床
炉	1	黄褐色土層10YR		○	○	○	○	△	※	※	埋め戻し
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	○			〃
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	○			〃

第151図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－113号住居址実測図（1）

H－113号住

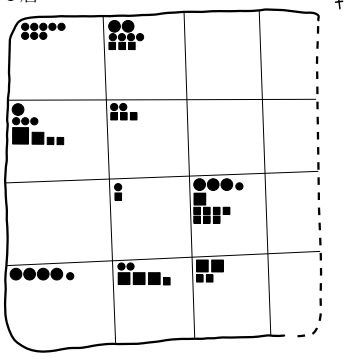


1層：20cm
2層：20cm
3層：20cm

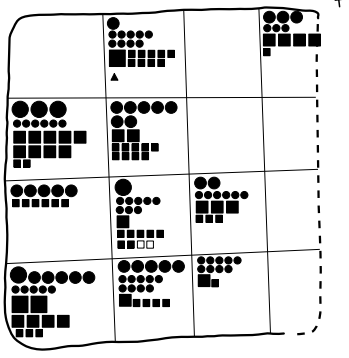
土師器
坏　29,808g
甕　53,649g
他　308g
須恵器
坏　20g
計　83,785g

土器分布

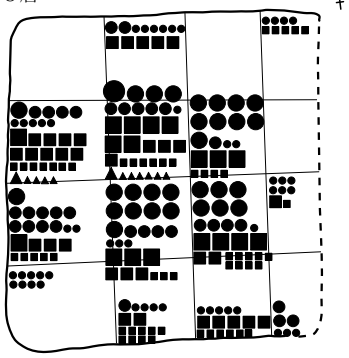
1層



2層



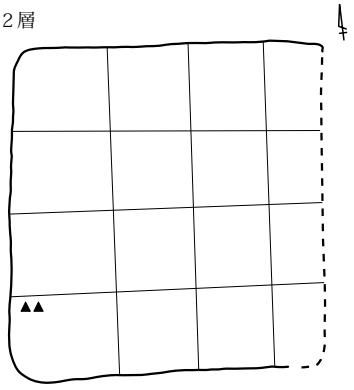
3層



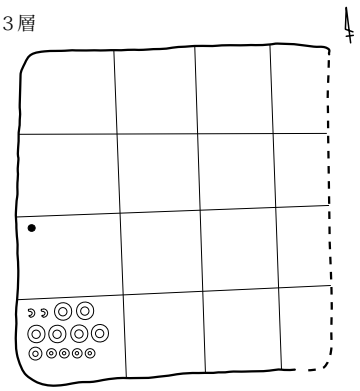
D－1

石器分布

2層

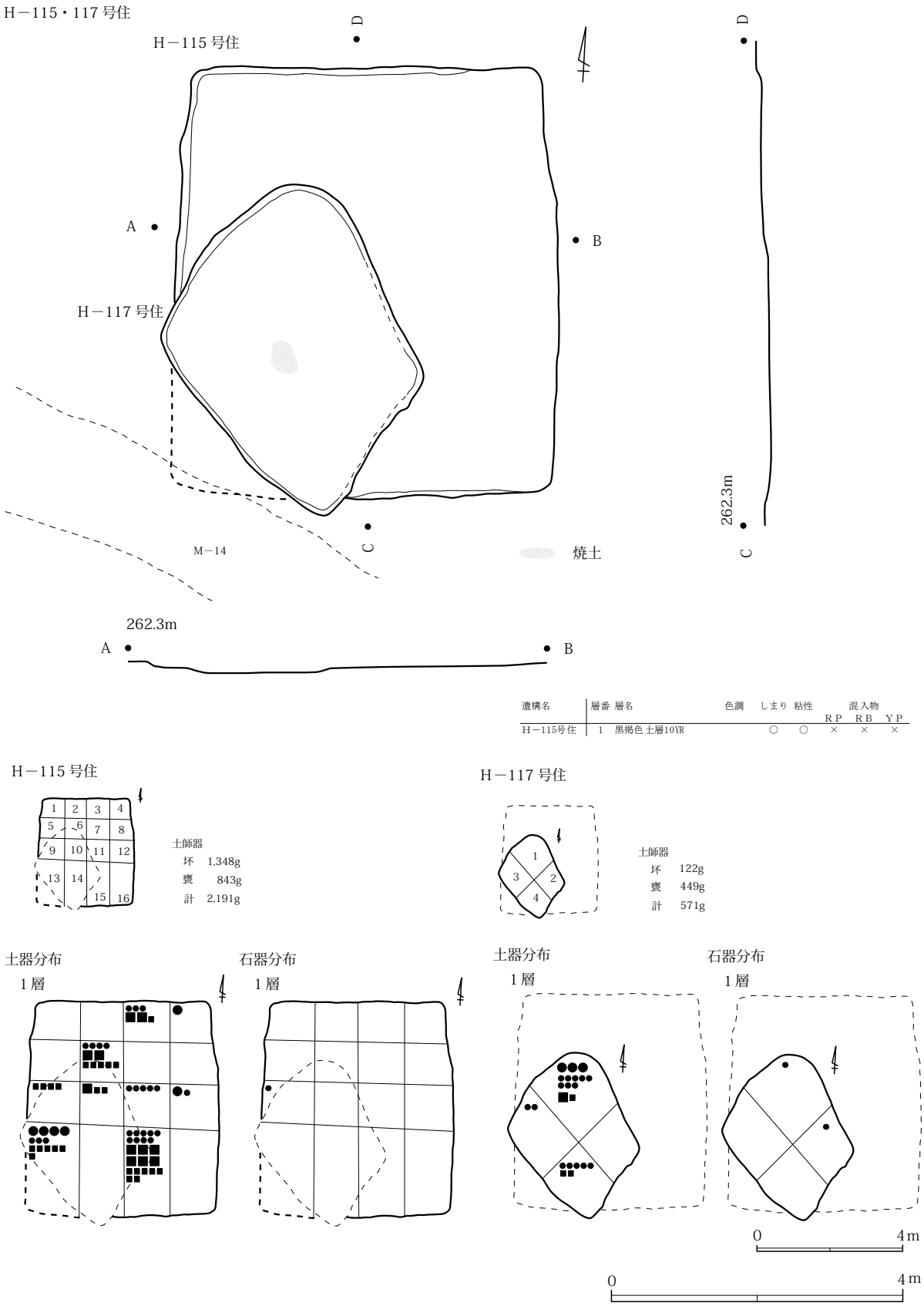


3層

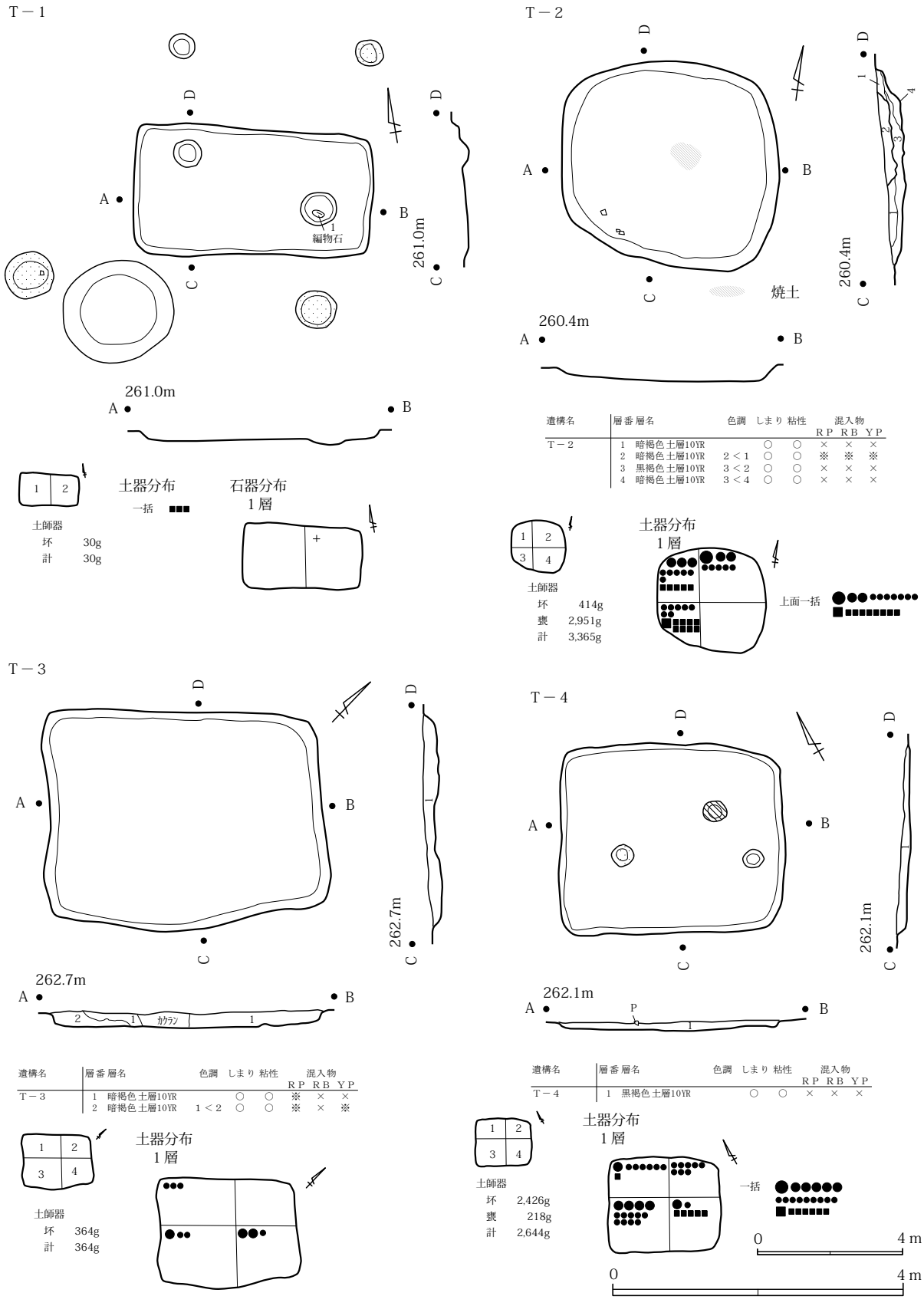


0　4 m

第152図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－113号住居址実測図（2）

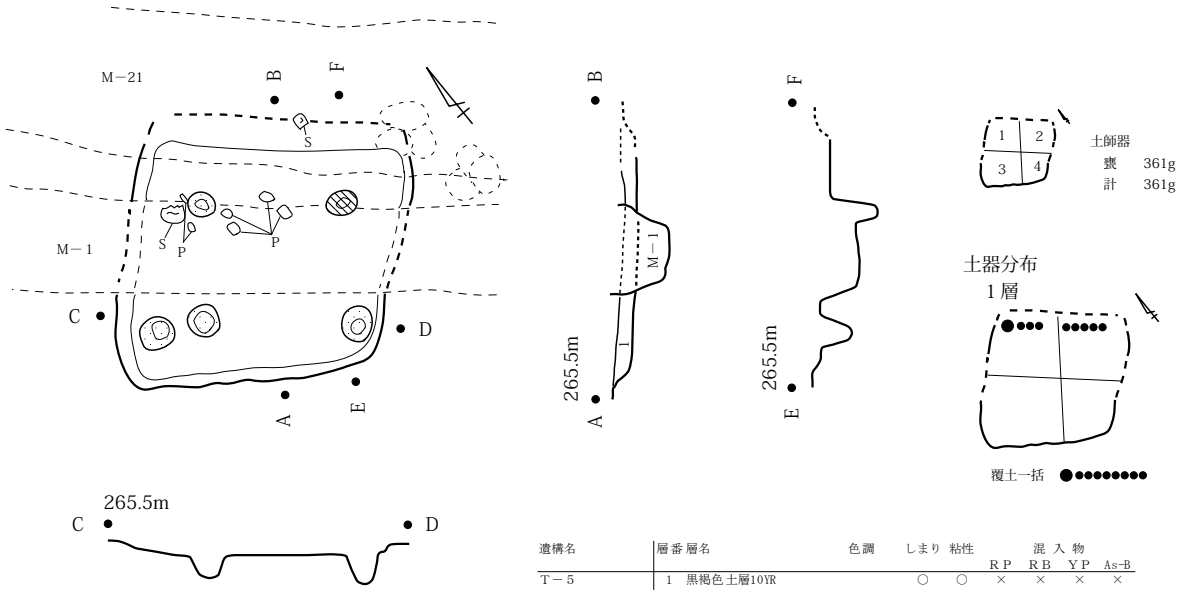


第153図　人見枝谷津遺跡（古墳）H－115・117号住居址実測図



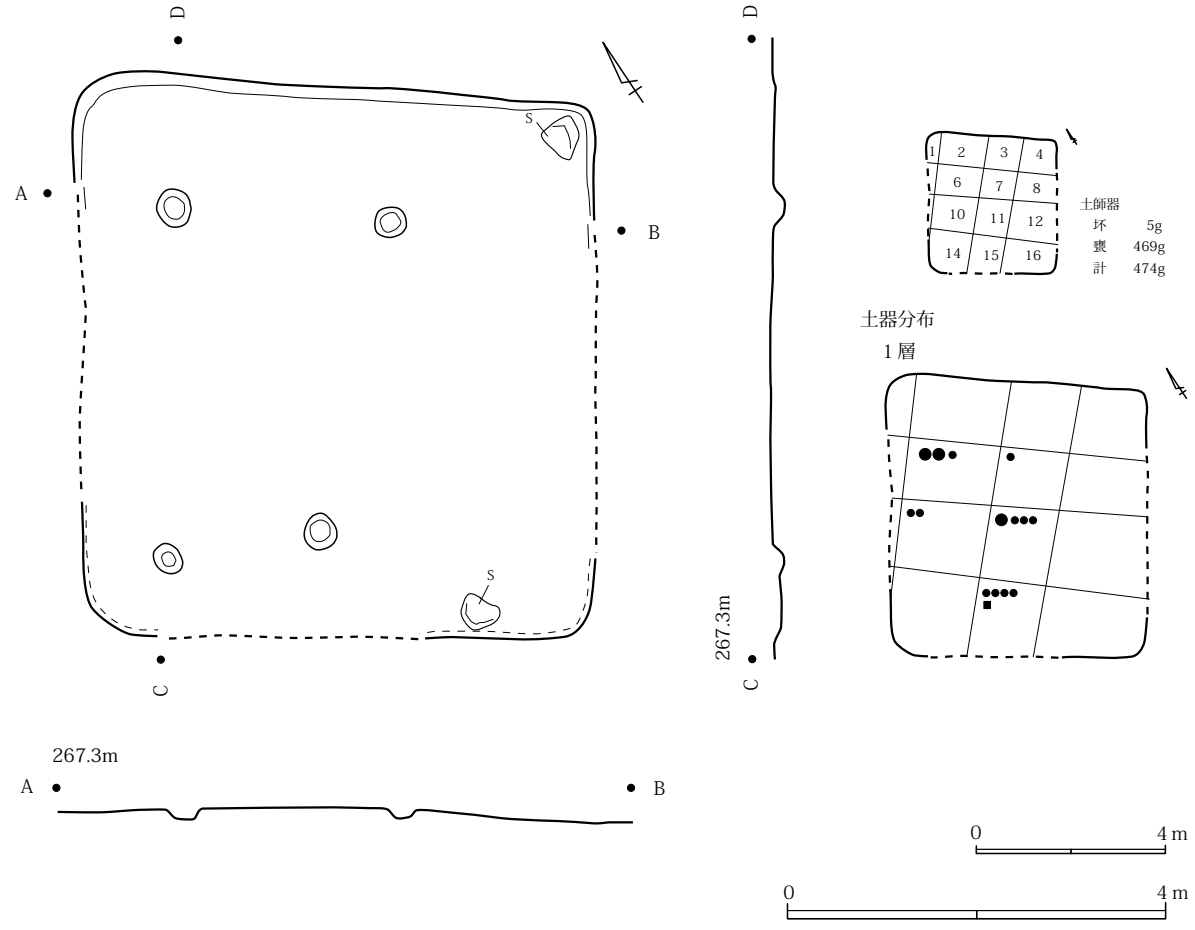
第154図　人見枝谷津遺跡（古墳）竪穴状遺構実測図（1）

T－5

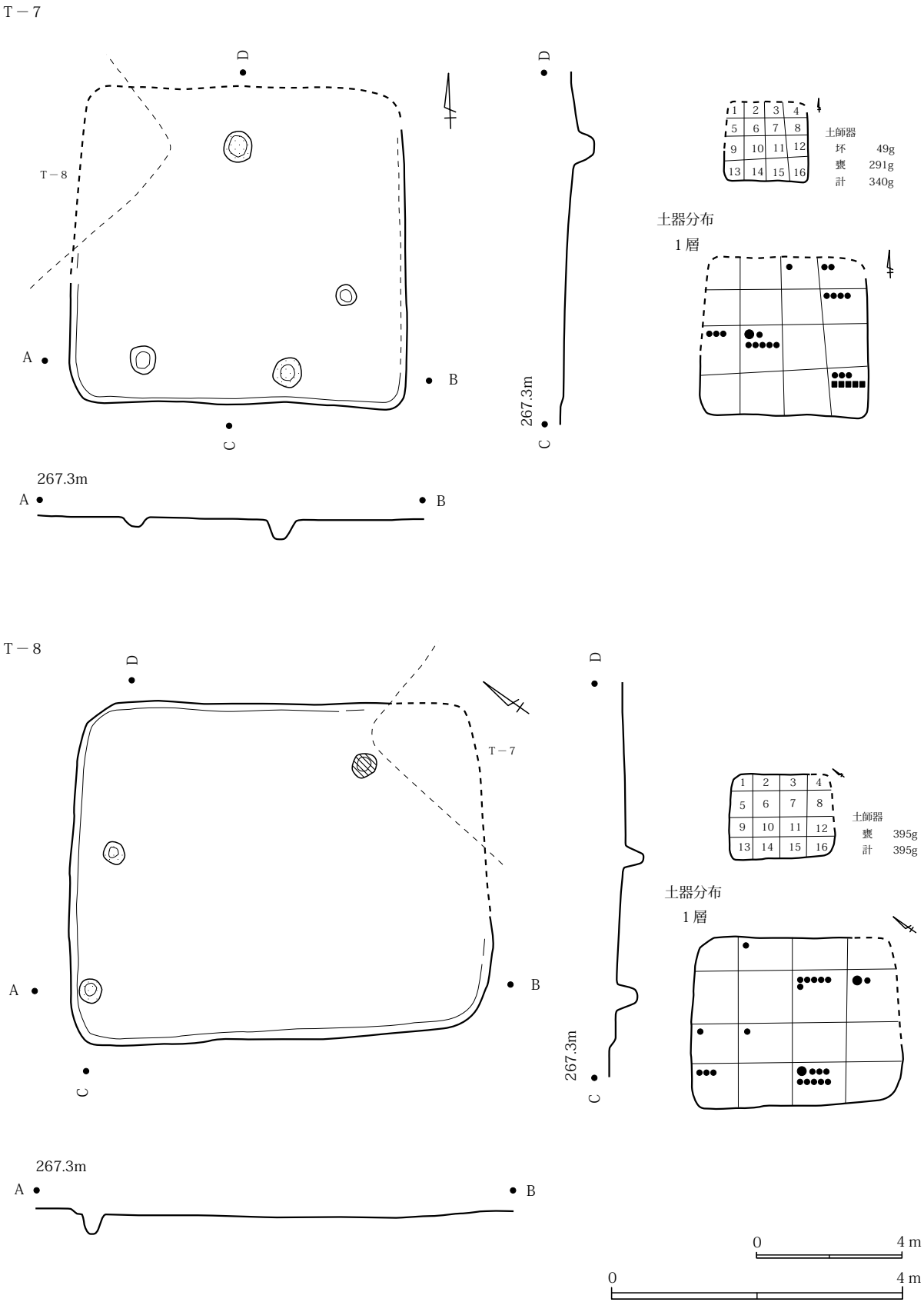


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
T－5	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×

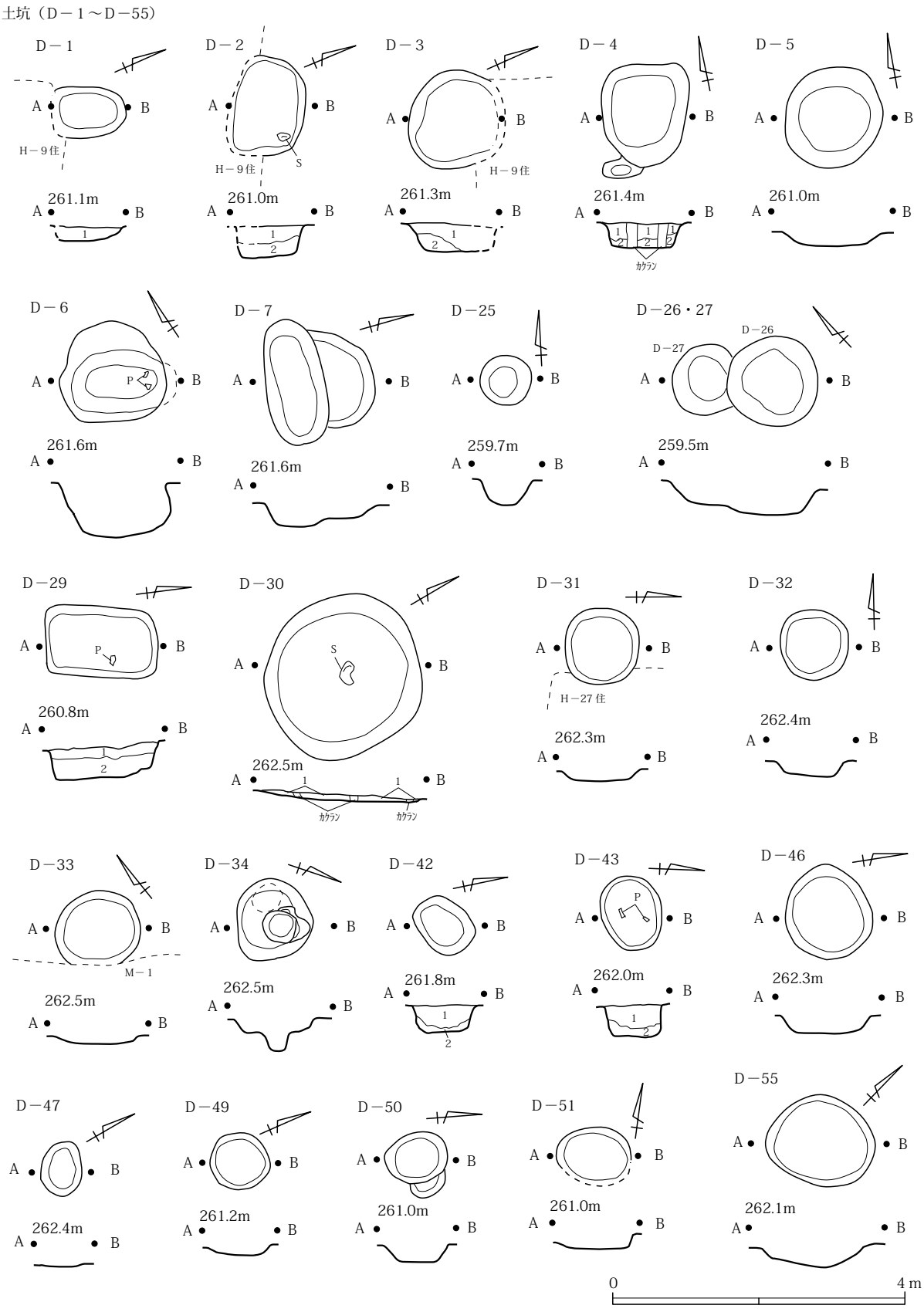
T－6



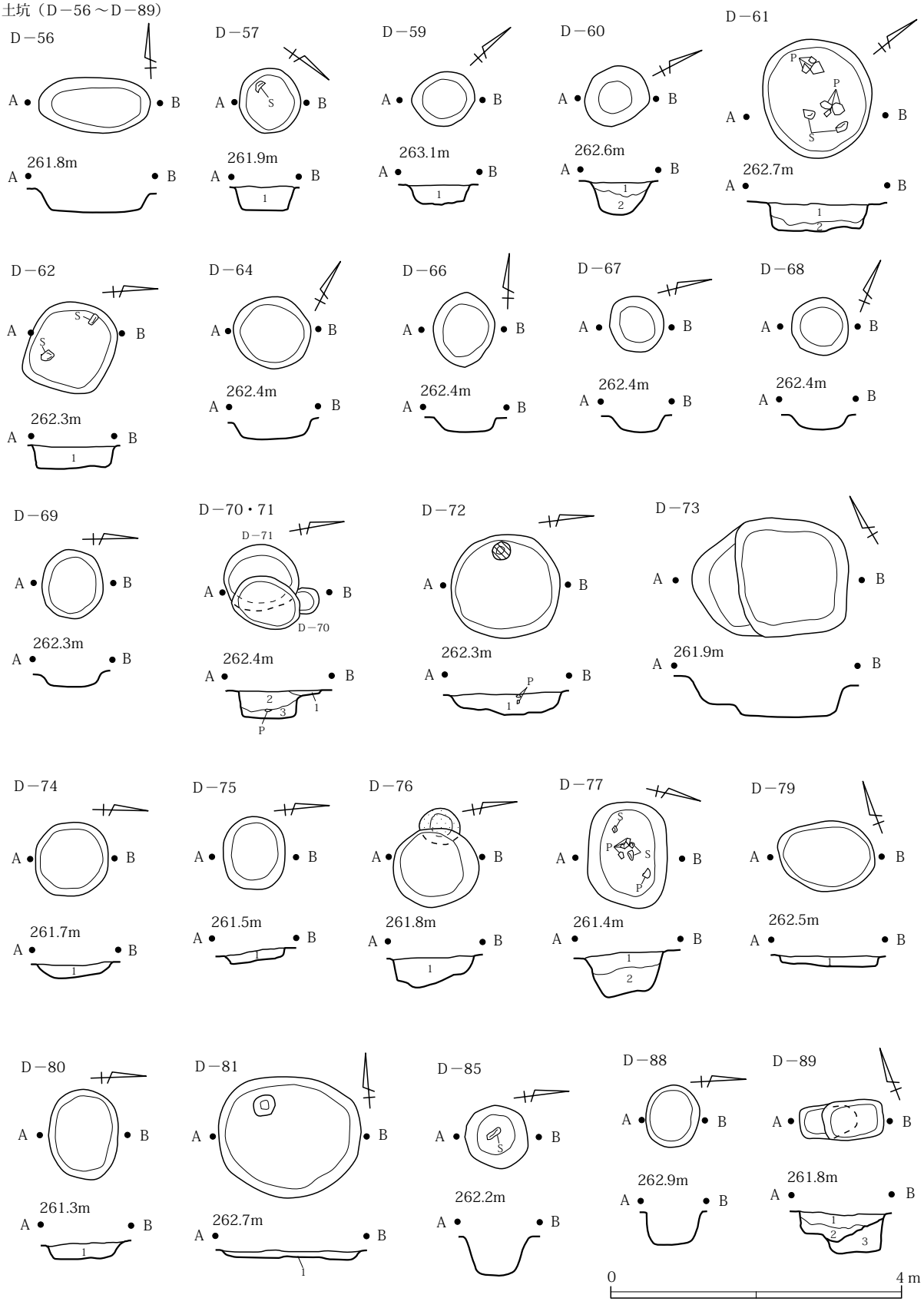
第155図　人見枝谷津遺跡（古墳）竪穴状遺構実測図（２）



第156図　人見枝谷津遺跡（古墳）竪穴状遺構実測図（3）

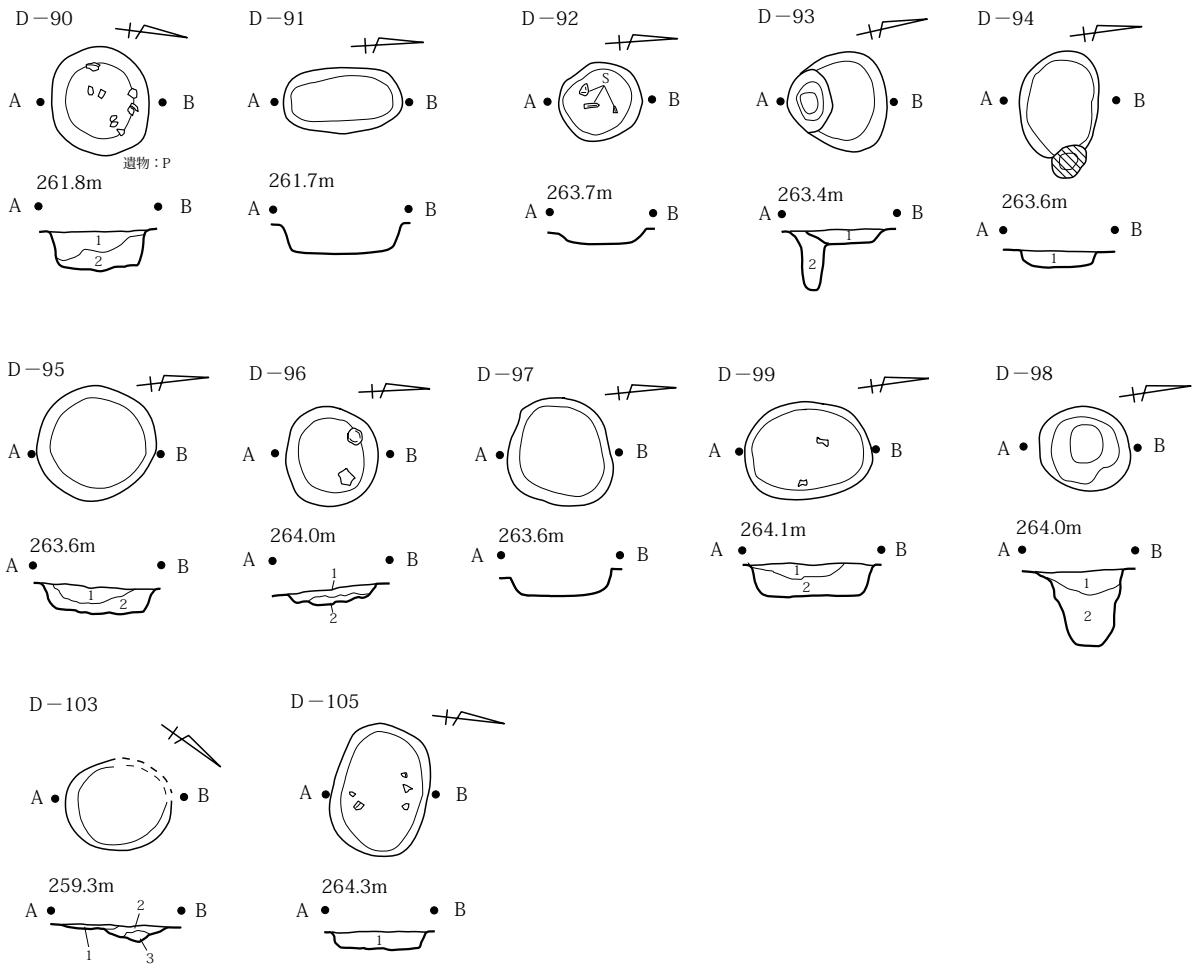


第157図　人見枝谷津遺跡（古墳）土坑実測図（1）



第158図　人見枝谷津遺跡（古墳）土坑実測図（２）

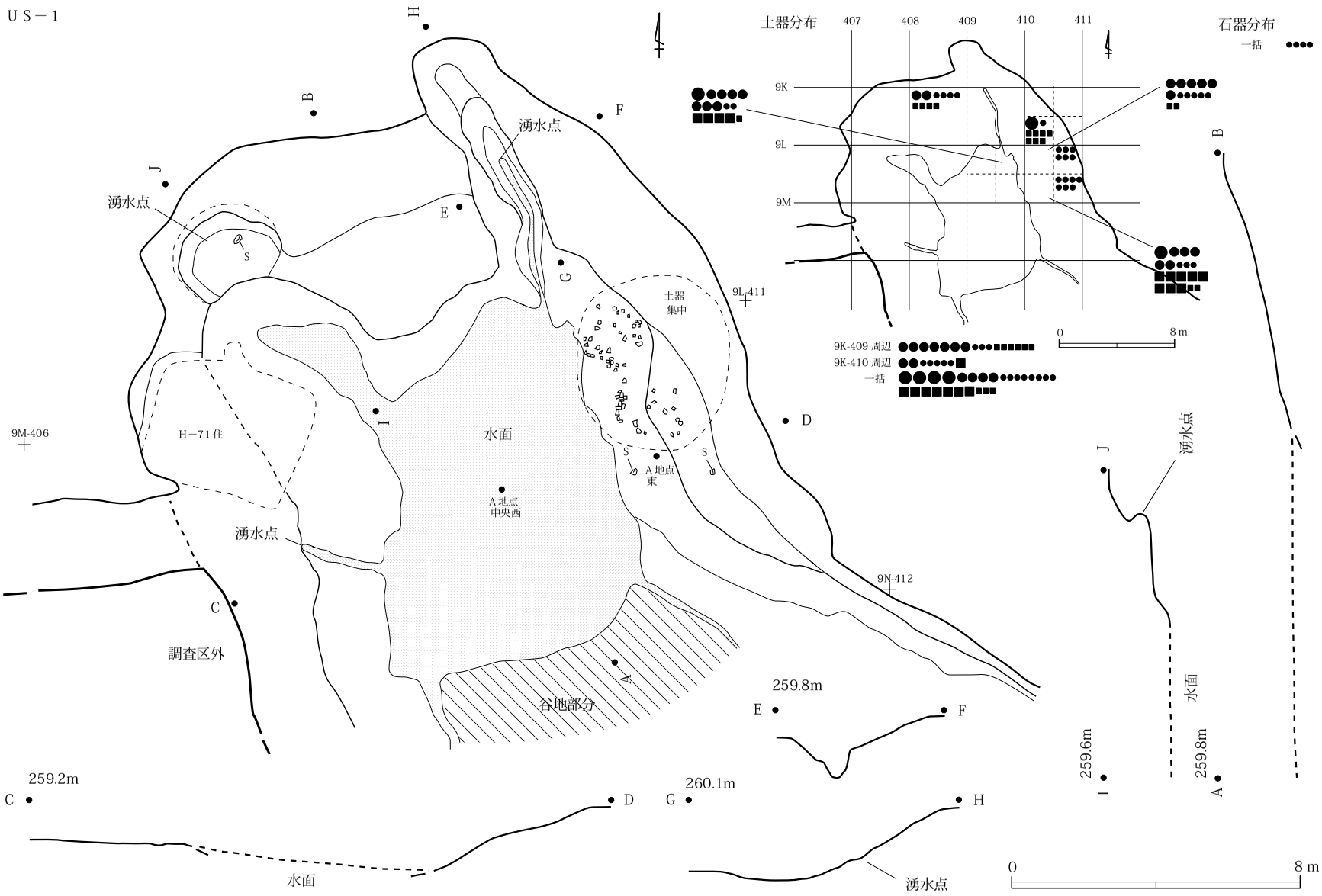
土坑（D－90～D－105）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
D－2	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	※	※			
D－3	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	※		
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	※	※		
D－4	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	×			
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×			
D－29	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			
D－30	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
D－31	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
D－32	1	黒褐色土層10YR									
D－42	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	※	×	※		
D－43	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	※		
D－57	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
D－59	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	×			
D－60	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	×			
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×			
D－61	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	※			
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×			
D－62	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	×			
D－70	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×			◎
D－71	2	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	3	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B	備考
D－72	1			○	○	×	※	×				
D－73	覆土	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	※				
D－74	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
D－75	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
D－76	1											
D－77	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	※	×	※	※		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	×	×	×		
D－79	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
D－80	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
D－81	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	※	※		
D－88	覆土	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	×				
D－89	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×				
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×				
D－90	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×				
D－93	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×				
D－94	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
D－95	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×				
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×				
D－98	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	×				埋め戻し
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	△	※				〃
D－103	1	黒褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	×	※		
	2	赤褐色土層5YR	1＜2	○	○	△	×	×	※	△		
	3	赤褐色土層5YR	2＜3	○	○	※	×	×	※	△		
D－105	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×				

第159図　人見枝谷津遺跡（古墳）土坑実測図（3）



第160図　人見枝谷津遺跡（古墳）水場（湧水地）実測図

構は、加賀塚遺跡で確認されている。

（４）古代の遺構

住居址（第161～167図、第19表）

奈良時代の住居址

住居址は、４軒確認した（Ｈ－32・33・71・107号）。３軒は谷部の水場遺構周辺において近接し、１軒は、北東台地上において単独で確認された。住居址は、平面中形長方形で長軸が主軸となる主柱穴をもたない竪穴状の構造で、短辺に竈をもつものが３軒、構造不明が１軒であった。一部の住居址では、浅い貯蔵穴が確認された。竈はローム混じりの土で袖等を構築した簡易構造の他、Ｈ－71号では、煙道部分に底部を欠いた甕を３連結させた構造も認められた。また、同住居址では、竈の下から古い竈も検出された。各住居址とも破片を主体とする土師器の坏、甕、須恵器の坏、蓋等が少数出土した。Ｈ－32号では、大形の台石が出土した。住居の埋没は、自然堆積が主体で、覆土上部には浅間Ｂ軽石の堆積が認められた。出土遺物の年代から、全て８世紀前半の住居址であると推定される。

平安時代の住居址

住居址は、Ａ区西側で７軒（Ｈ－38・47・34・73・79・81・82号）確認した。住居址は、平面中形長方形で短軸が主軸となる主柱穴をもたない竪穴状の構造で、長辺に竈があるものが７軒（推定を含む）、角に竈があるものが２軒であった。一部の住居址では、浅い貯蔵穴が認められた。竈は、ローム混じりの土で袖がない簡易構造の他、壁面に礫を並べ、礫で煙道を塞ぐものも認められた。また、竈内には竈構築材である礫及び羽釜片等の遺物も廃棄されているのが多く確認された。竈は破壊されたものがほとんどであったが、Ｈ－47号では、袖部及び煙道部分も確認できたものも存在した。竈内には土製と石製の支脚をもつ住居址も認められた。住居の埋没は自然堆積が主体で、覆土上部には、浅間Ｂ軽石の堆積が認められた。また、同住居址では、床中央で鍛冶に関連する炉址が検出された。炉址は、底面が硬く締まっており、比熱による赤化も検出された。炉址内からは鉄は出土しなかった。炉址及びその周辺からは、台石（大形礫）が出土した。各住居址とも酸化焔焼成須恵器（土師質土器）の碗、坏、皿、羽釜、土釜等、灰釉陶器（須恵器）が竈及び住居址覆土中から少数出土した。Ｈ－38号では、２点の雁又式の鉄鏃が出土した。また、鉄滓、砥石、石製品も少数出土した。遺物の年代から、全て10世紀後半から11世紀前半の住居址であると推定される。

Ｃ区では、Ａ区と同時期の住居址を２軒確認した（Ｈ－114・118号）。

Ｈ－114号は、確認段階においてプラン北東で炭化材が検出されたため、竈のある住居址として調査を行った。平面形態は、不整円形であるが、掘り込みは深い。竈は地山を掘り込んだ程度である。竈付近の床面付近では、細長い炭化材が検出された。住居角に接して土坑（Ｄ－１）が検出された。遺物は、覆土中から時期不明の土器（甕）破片が少数、礫が数点出土した。住居址の時期は、遺物では判然としないが、他の住居址との関係から、10世紀後半から11世紀初頭の所産と思われる。

Ｈ－118号は、Ｍ－18号と重複して検出された。確認段階では、住居範囲が浅間Ｂ軽石で覆われており、火山灰が堆積するまで窪んだ状態であったことが判明した。住居址は、平面長方形で南東隅に竈、北東に貯蔵穴（Ｄ－1）が存在する。竈は、焚き口付近を中心に破壊されており、構造は不明である。煙道部分の両側には、細長い礫が並んで検出された。礫は、在地の安山岩である。また、煙道奥部には、

土釜の大形破片が伏せられていた。竈内からは、羽釜３個体、土釜１個体、碗が廃棄された状態で出土した。遺物は竈前面を中心に出土し、床面14区で土師質土器（皿）の完形品が出土した。Ｍ－18号との関係では、本住居址が新しい。住居址の時期は、10世紀後半から11世紀初頭と考えられる。

平安時代の集落は、住居の分布が粗密で、広範囲に点在する傾向が認められた。

古代水田と水路（第168図、第24表）

谷部分は湧水のある湿地であり、現況でも水田あるいは沼地化している。この部分については、道路状遺構の状態を確認するための調査を実施した。調査及び土壌分析により、浅間Ｂ軽石及び浅間Ｃ軽石を含む土壌が検出され、現在の耕作土（水田）の下層では、浅間Ｃ軽石と浅間Ｂ軽石の間の土層と浅間Ｂ軽石の上層で、プラントオパールも検出された。また、谷際の谷地緩斜面では、地形に沿って水路が検出された。これは、水田に関係する遺構と考えられるが、谷地部分では水田区画は確認できず、水路と水田の関係を明らかにすることはできなかった。谷地部分での稲作開始は、土壌の分析により浅間Ｃ軽石降灰以降で、古墳時代前期以降に遡る可能性があることが判明した。また、浅間Ｂ軽石上層の土壌では、ムギ類が検出され、栽培されていた可能性も確認された。

確認された谷地部の水田と道路状遺構の延長線との関係では、浅間Ｂ軽石を含む土壌の堆積状態により、道路状遺構は、遅くとも12世紀には廃絶していた可能性が高いと判断される。

水路は、低地部に差しかかる谷際に沿って数条（少なくとも３条以上）、段々状態で確認され、所々で木杭、礫が検出された。遺物は、溝覆土から、台地古墳時代の集落からの流れ込みによる土師器小破片が少数出土したのみで、溝の時期を特定できる遺物は出土しなかった。谷際に沿う水路は、耕作面積が狭く、自然地形を生かした谷地水田に多くみられる灌漑施設で、稲作農耕が本格化する初期段階でみられることが多い。

なお、浅間Ｂ軽石及び混入した土層を挟んだ上下では、湧水による地面の冠水及び現在の用水路の影響により、畦畔等の区画遺構は面的には確認できなかった。

低地部の土壌分析の詳細については、自然科学分析編に掲載した。

Ａ区溝（第169・170図、第24表）

枝谷津地区の調査区東において平行する２条の溝を約65m確認した（Ｍ－５・６号）。溝の幅は、最大で100㎝、深さ20～30㎝である。覆土には大量の浅間Ｂ軽石が混入する黒色土で、底面と覆土中位では硬化面が認められた。２条の溝の間隔は、約1.5から2.2mで、低地に向かって狭くなり、等間隔の部分が続く。さらに、道路状遺構の方向とほぼ主軸が一致する（北－55°－東）ことから、検出された遺構は、別の道路状遺構であった可能性が考えられる。ただし、道路内とされる範囲では、硬化面及び整地が確認できなかった。遺物は古墳時代の土器が少数出土したのみである。遺物は、混入と思われる古墳時代の土師器片が少数出土した。覆土及び遺構の状況により12世紀以降の所産と推定される。

Ｍ－３号は、枝谷津地区の調査区中央でＬ字に曲がって検出された。掘り込みは深く、底面には小ピットが多数検出された。浅間Ｂ軽石が大量に混入した黒色土で埋め戻されていた。溝からは、古墳時代の土器及び礫が多数出土したが土器については遺構に伴うものではない。底部には水成堆積は検出されなかったことから、水路ではなく、区画溝の可能性が高い。遺物は混入と思われる縄文土器、古墳時代の土師器片が少数出土した。

Ｃ・Ｄ区溝（第171～176図・第24表）

古代の溝は、Ｃ区で８条とＤ区で１条確認した。Ｄ区では、谷地から延びる溝を中心にして複数の溝が検出された。全ての溝は、幅が約１ｍ、断面が箱形である同一規格で、道路状遺構の溝との類似性も認められる。覆土は、黒色土を基調としており、浅間Ｂ軽石の混入は認められない。遺物はＭ－16号を除いて、古墳時代の遺物が少量出土したのみで、溝の時期及び機能を特定できる遺物は少ない。溝の時期は特定できないが、状況証拠により同時期の所産と考えられる。Ｍ－14号は、谷地から西へ一直線となる溝で、途中、Ｍ－4、15、18号と重複する。Ｍ－4号については、前回の調査で古墳時代の所産と位置づけたが、今回の調査によって古代の遺構である変更が生じた。Ｍ－4号とＭ－14号は一対をなすもので、区画溝と推定される。Ｍ－15号は、Ｍ－14号から始まり、途中で南西方向へ曲がっている。この溝は、途切れている場所もあり、Ｍ－19号でも確認された。Ｍ－17号は、未完成の溝であり、途中で切れている。Ｍ－16号は、平成20年度の調査では、走向を確認することができなかったが、平成21年度調査で、全長約90ｍの北側中央で西に広がる長方形となることが判明した。形態から判断して区画溝と推定されるが、内外側では、溝に関係する遺構、遺物は検出されなかった。また、溝の西側で底面から約15㎝浮いた状態から、９世紀後半の高台付碗が破砕された状態で出土した。この溝以外からは、同時期の遺物の混入がほとんどみられない状況により、意図をもって廃棄されたものと判断される。切り合い関係は、Ｍ－16号と重複するＭ－17号が新しい。Ｍ－18号とＭ－26号は、途中で合流し、一本となる遺構である。Ｄ区で検出された道路状遺構に直交するＭ－20号は、確認状況からＣ区の溝群の一部であると考えられる。Ｍ－20号は、道路状遺構の溝と覆土、形態が類似しているが、切り合い関係により、Ｍ－20号が新しい。Ｃ・Ｄ区で検出された溝群は、走向性と形態から、区画溝と推定され、時期はＭ－16号出土の遺物の時期から、９世紀後半前後の所産と考えられる。

土坑（第183図、第36表）

覆土に浅間Ｂ軽石を大量に含む点で共通性が認められ土坑を27基確認した。土坑の形態は平面円形で、壁が垂直で、掘り込みの浅いものが主体であった。遺物は出土せず、帰属時期及び用途については不明である。調査区東側にやや集中する傾向が認められ、一部では重複も確認された。検出された土坑は覆土及び構造が類似していることから、同じ目的で掘削されたものと思われる。

古代の土坑は、Ｃ区で中心に分布する縄文時代の包含層周辺から検出された。平面円形、覆土は黒色土であるが、遺物の出土はない。Ｄ－105号は、覆土に浅間Ｂ軽石を含むもので、同じ遺構は、前回の調査においても検出されている。Ｄ－106～108号は、しっかりとした掘り込みで平面楕円形、断面鍋底形の規格をもった形態である。遺物は、出土しなかった。

炭焼窯（第184図、第24表）

３基確認した。平面が細長い楕円形で、覆土上部に浅間Ｂ軽石が堆積していた。炭化材が多数検出されたが、使用可能な炭は検出されなかった。１号の底部中央には、筋状の溝、奥部では突出と被熱による赤化が観察された。３基とも構造は類似することから、時期は古代（12世紀前半）以降と推定される。構造は、地面を溝状に浅く掘り込んだだけで、窯状にならない。本来は地面から露出した状態で使用されたものと推定される。

ピット群（第38図）

Ｃ区では、覆土が黒色土（Ⅲ層）のピットが多数確認された。柱穴と推定されるが、配列が不規則であるため、掘立柱建物址等を確認することはできなかった。

（５）中世の遺構

溝（第177～182図、第24表）

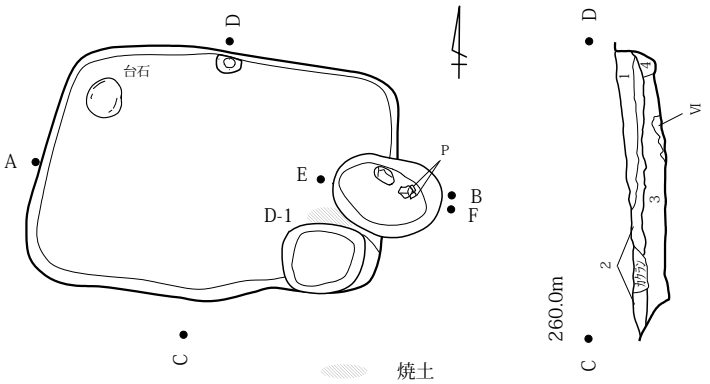
７条確認した。この時期の溝は、古代道路状遺構に一部重複する直線状で幅広な溝（Ｍ－22号）と直角に折れる区画溝（Ｍ－21・23号）等が検出された。Ｍ－22号溝は、古代道路状遺構の側溝内側道路面で重複する浅間Ｂ軽石を含む硬化面の下から約170ｍにわたって確認した。溝は、幅１～1.4ｍ、断面皿状となる浅い掘り込み状のもので、底面が硬化していた。溝覆土は、浅間Ｂ軽石大量に含む非常に硬い状態であった。溝底面と溝覆土ともに硬化したのは、長期間にわたってこの溝付近が踏み固められたためだと考えられる。古代の道路と中世の道路が遺構の姿は変化しても、その場所が道路として使用され続けた点が注目される。

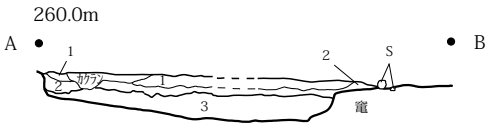
区画溝は、Ｍ－21、23、24、27号である。Ｍ－21号は、調査区中央で確認できなくなり、その先は不明である。Ｍ－23・24号は、走向性が一致することから同一の可能性がある。また、両溝との間で溝の切れ目を確認した。Ｍ－23号では、古代道路状遺構部分で、Ｍ－22号と類似する底面及び覆土に硬化面をもつ浅い溝の重複範囲を確認した。この範囲は部分的検出であったが、Ｍ－22号と平行関係にあることから関連性が認められる。Ｍ－25、27、28号については、部分的検出のため性格は、不明である。

灰掻き穴（第180図）

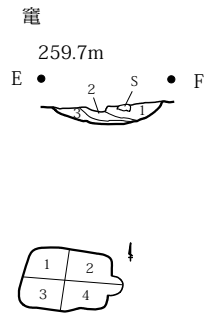
古代道路状遺構を確認したＤ区東側において、浅間Ａ軽石を大量に含む溝状土坑を多数確認した。類似した遺構は人見東原Ⅱ遺跡において確認している。この遺構は、調査区全域にわたっていたが、道路状遺構との重複の関係から、発掘調査はこの部分に限定して実施した。検出した遺構は、筋状に細長く延びる形態と平面隅丸方形となる形態に分けられる。断面は両者とも箱形で、壁はほぼ垂直である。これらの遺構は、規則性をもって並んでいることから、付近で大量に堆積した浅間Ａ軽石を埋めるための灰掻き穴であったと考えられる。類似遺構は、県南部の沖積地（高崎市、玉村町等）を中心に多数の分布が確認されている。

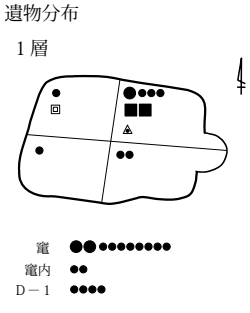
H－32号住



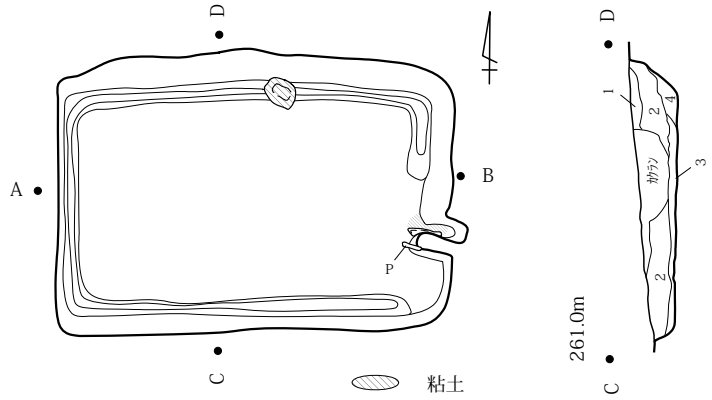


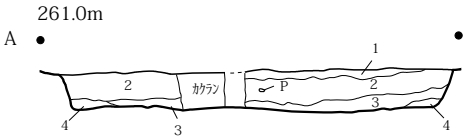
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－32号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	○	○	○	×		貼床
	4	褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	※			
竈	1	赤褐色土層５YR		△	△	△	×	※	○	※	
	2	暗赤褐色土層５YR	2＜1	○	○	※	×	※	△	※	
	3	暗赤褐色土層５YR	3＜2	○	○	※	×	※	△	※	



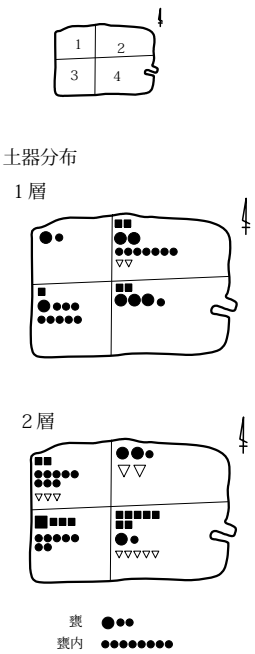


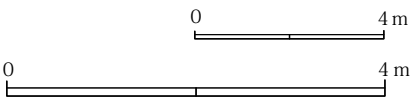
H－33号住



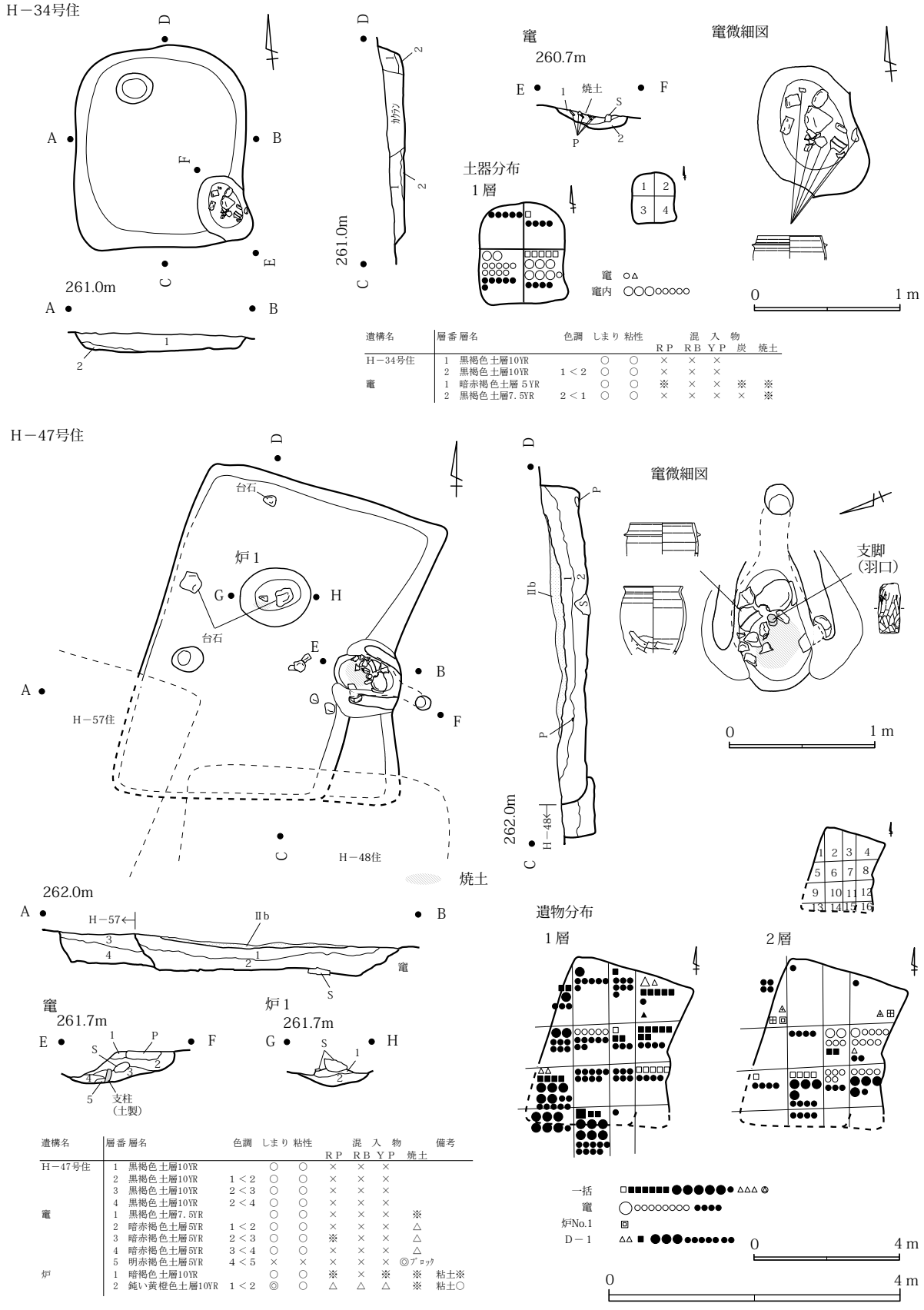


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	炭	焼土	As-B	備考
H－33号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			△	Ⅱa層
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×				
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×				
	4	暗褐色土層7.5YR	3＜4	○	○	※	※	※	※	※		





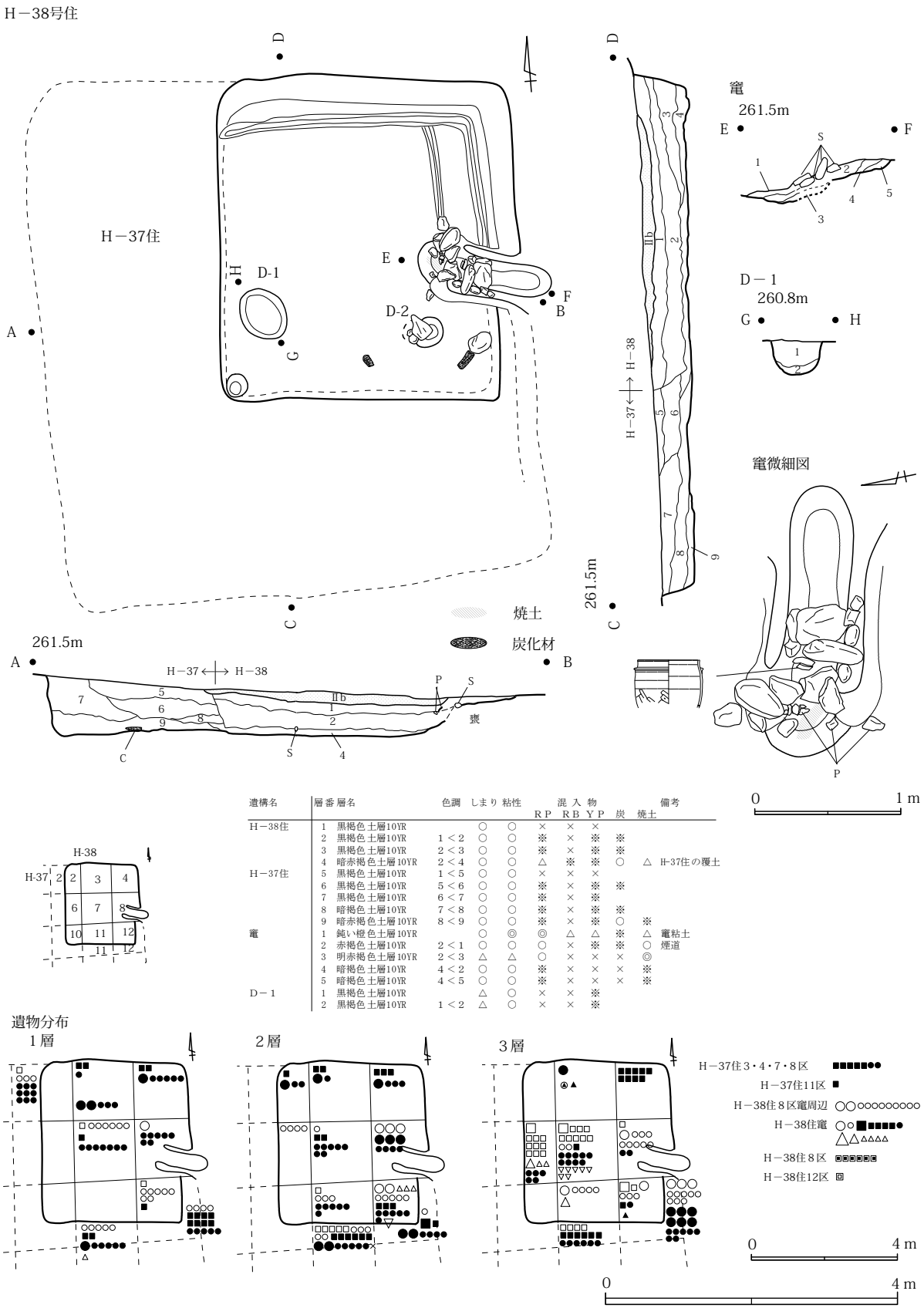
第161図　人見枝谷津遺跡（古代）H－32・33号住居址実測図



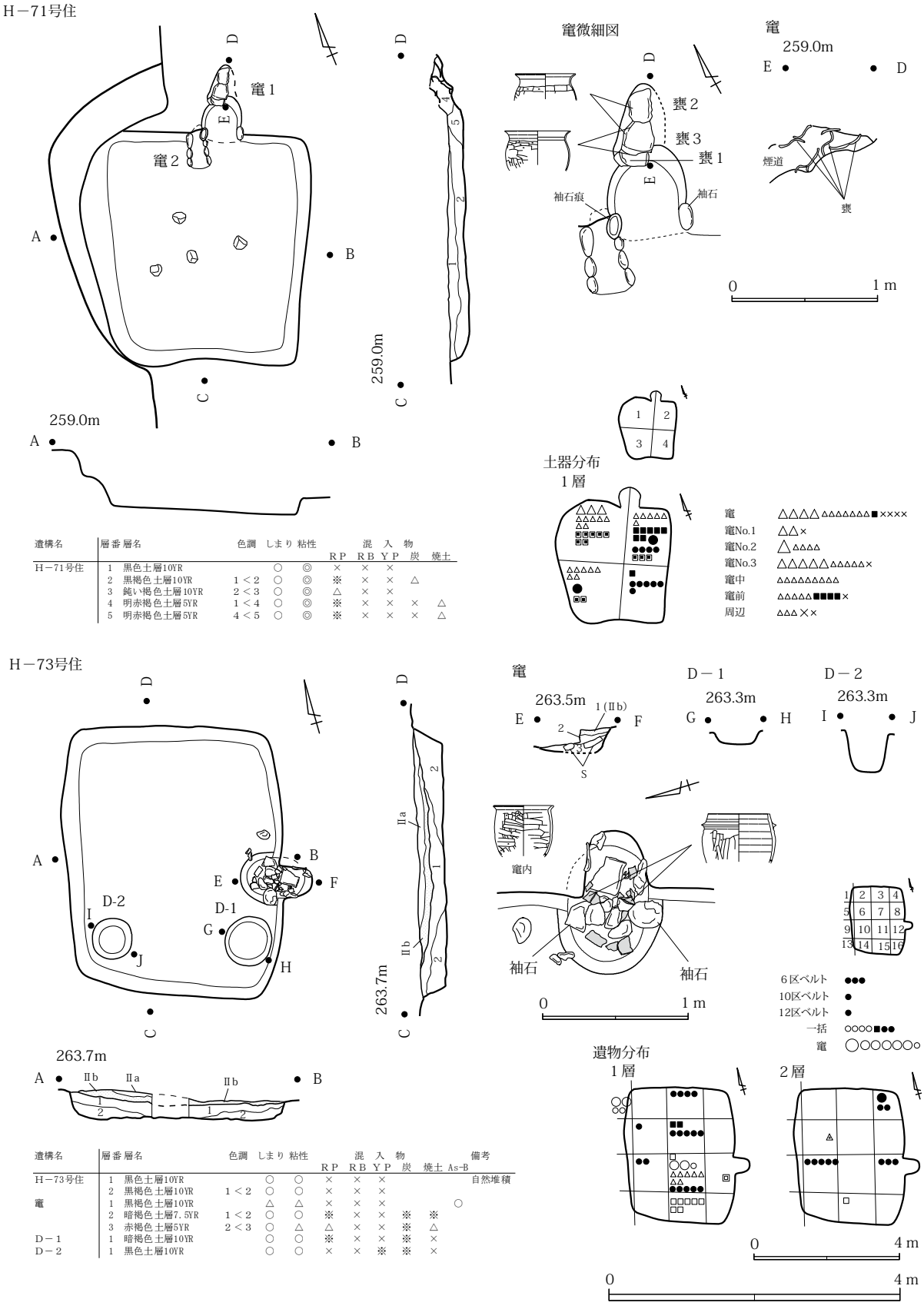
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土
H－34号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
竈	1	暗赤褐色土層 5YR		○	○	※	×	×	※	※
	2	黒褐色土層7.5YR	2＜1	○	○	×	×	×	×	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 焼土	備考
H－47号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×		
	4	黒褐色土層10YR	2＜4	○	○	×	×	×		
竈	1	黒褐色土層7.5YR		○	○	×	×	×	※	
	2	暗赤褐色土層5YR	1＜2	○	○	×	×	×	△	
	3	暗赤褐色土層5YR	2＜3	○	○	※	×	×	△	
	4	暗赤褐色土層5YR	3＜4	○	○	×	×	×	△	
	5	明赤褐色土層5YR	4＜5	×	×	×	×	×	◎ブロック	
炉	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※	粘土※
	2	鈍い黄橙色土層10YR	1＜2	◎	○	△	△	△	※	粘土○

第162図　人見枝谷津遺跡（古代）H－34・47号住居址実測図



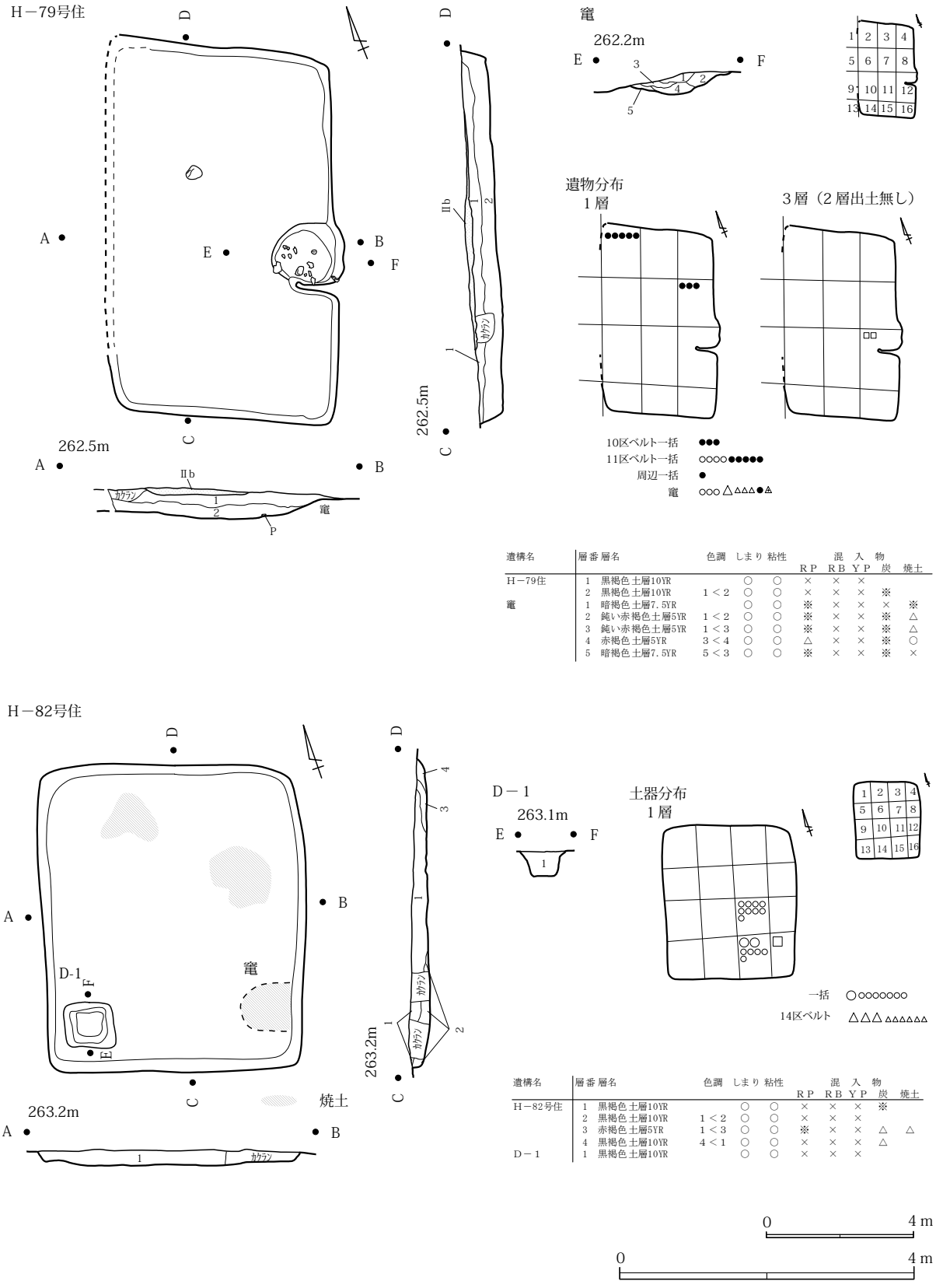
第163図　人見枝谷津遺跡（古代）H－38号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－71号住	1	黒色土層10YR		○	◎	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	◎	※	×	×	△	
	3	鈍い褐色土層10YR	2＜3	○	◎	△	×	×		
	4	明赤褐色土層5YR	1＜4	○	◎	※	×	×	×	△
	5	明赤褐色土層5YR	4＜5	○	◎	※	×	×	×	△

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B	備考
H－73号住	1	黒色土層10YR		○	○	×	×	×				自然堆積
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×				
竈	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×			○	
	2	暗褐色土層7.5YR	1＜2	○	○	※	×	×	※	※		
	3	赤褐色土層5YR	2＜3	○	△	△	×	×	※	△		
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	×		
D－2	1	黒色土層10YR		○	○	×	×	※	※	×		

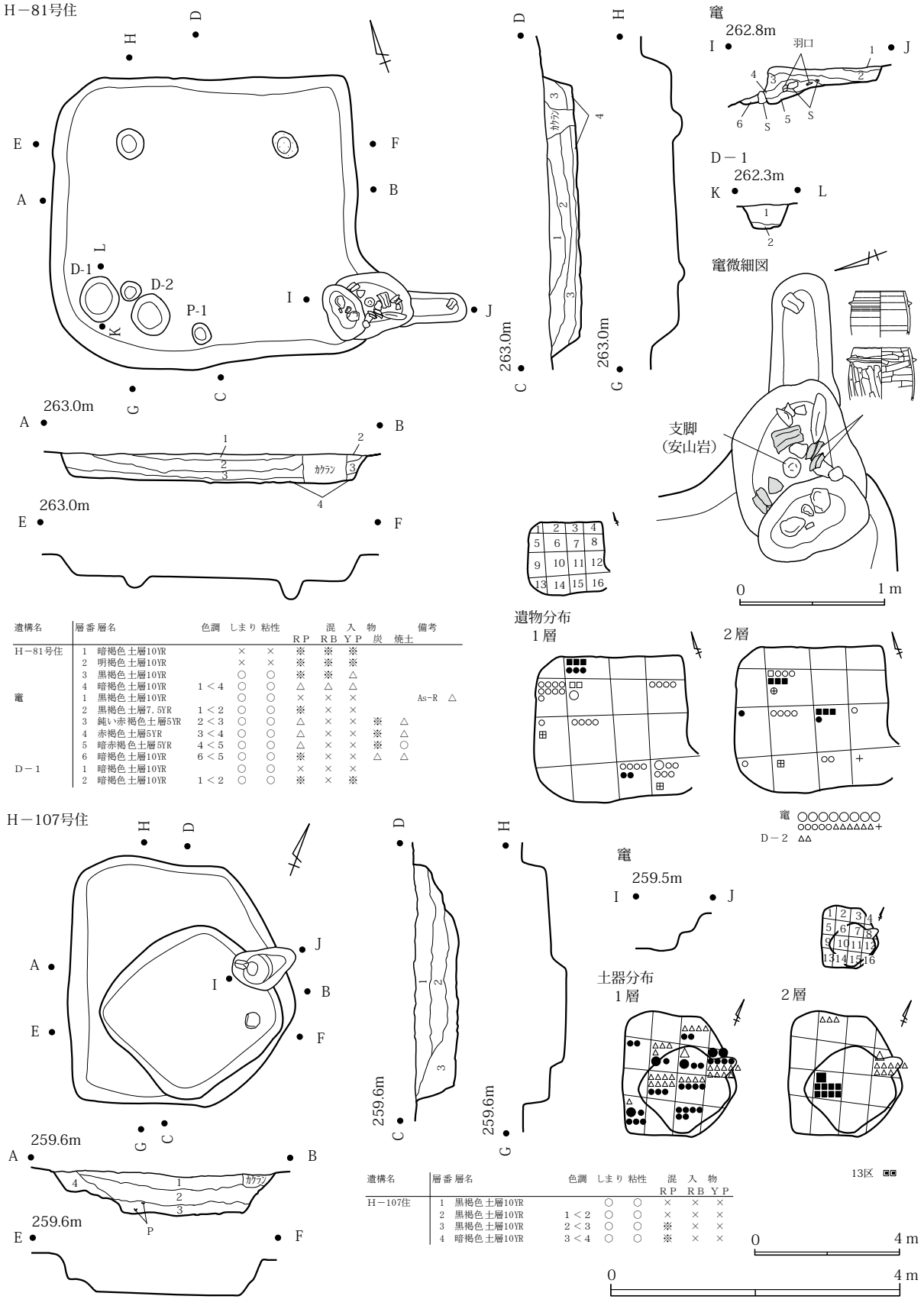
第164図　人見枝谷津遺跡（古代）H－71・73号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－79住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	※	
竈	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	×	※
	2	鈍い赤褐色土層5YR	1＜2	○	○	※	×	×	※	△
	3	鈍い赤褐色土層5YR	1＜3	○	○	※	×	×	※	△
	4	赤褐色土層5YR	3＜4	○	○	△	×	×	※	○
	5	暗褐色土層7.5YR	5＜3	○	○	※	×	×	※	×

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－82号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	赤褐色土層5YR	1＜3	○	○	※	×	×	△	△
	4	黒褐色土層10YR	4＜1	○	○	×	×	×	△	
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		

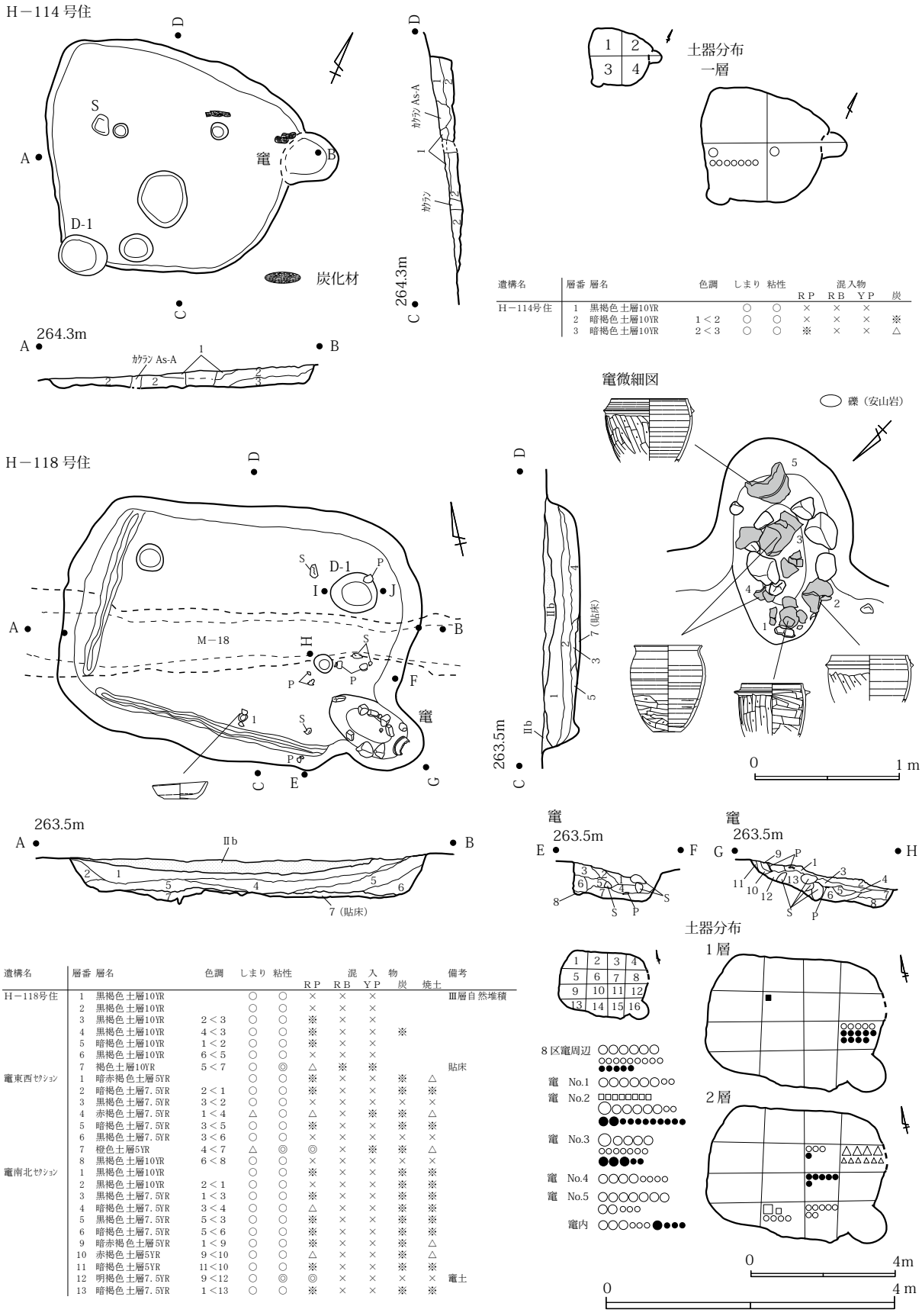
第165図　人見枝谷津遺跡（古代）H－79・82号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	炭	焼土	備考
H－81号住	1	暗褐色土層10YR		×	×	※	※	※			
	2	明褐色土層10YR		×	×	※	※	※			
	3	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	△			
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	○	○	△	△	△			
竈	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			As-R △
	2	黒褐色土層7.5YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	3	鈍い赤褐色土層5YR	2＜3	○	○	△	×	×	※	△	
	4	赤褐色土層5YR	3＜4	○	○	△	×	×	※	△	
	5	暗赤褐色土層5YR	4＜5	○	○	△	×	×	※	○	
	6	暗褐色土層10YR	6＜5	○	○	※	×	×	△	△	
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
H－107住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×

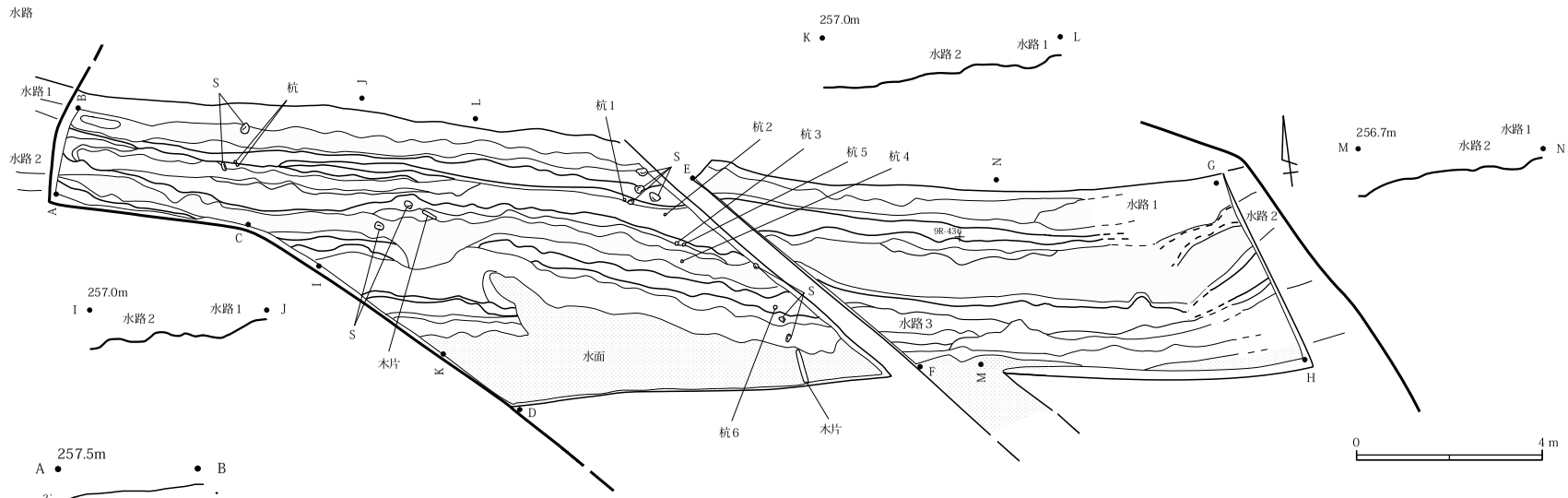
第166図　人見枝谷津遺跡（古代）H－81・107号住居址実測図

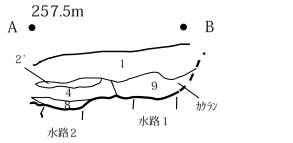


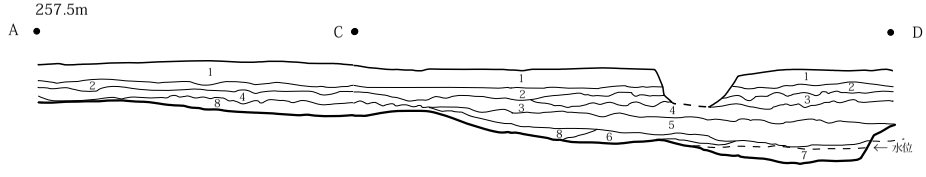
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－114号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	△

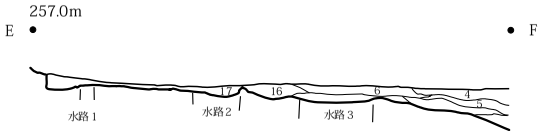
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－118号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			Ⅲ層自然堆積
	2	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×			
	4	黒褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	×	※		
	5	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	6	黒褐色土層10YR	6＜5	○	○	×	×	×			
	7	褐色土層10YR	5＜7	○	◎	△	※	※			貼床
竈東西ｾｸｼｮﾝ	1	暗赤褐色土層5YR		○	○	※	×	×	※	△	
	2	暗褐色土層7.5YR	2＜1	○	○	※	×	×	※	※	
	3	黒褐色土層7.5YR	3＜2	○	○	×	×	×	×	×	
	4	赤褐色土層7.5YR	1＜4	△	○	△	×	※	※	△	
	5	暗褐色土層7.5YR	3＜5	○	○	※	×	×	※	※	
	6	黒褐色土層7.5YR	3＜6	○	○	×	×	×	×	×	
	7	橙色土層5YR	4＜7	△	◎	◎	×	※	※	△	
	8	黒褐色土層10YR	6＜8	○	○	×	×	×	×	×	
竈南北ｾｸｼｮﾝ	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	※	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×	※	※	
	3	黒褐色土層7.5YR	1＜3	○	○	※	×	×	※	※	
	4	暗褐色土層7.5YR	3＜4	○	○	△	×	×	※	※	
	5	黒褐色土層7.5YR	5＜3	○	○	※	×	×	※	※	
	6	暗褐色土層7.5YR	5＜6	○	○	※	×	×	※	※	
	9	暗赤褐色土層5YR	1＜9	○	○	※	×	×	※	△	
	10	赤褐色土層5YR	9＜10	○	○	△	×	×	※	△	
	11	暗褐色土層5YR	11＜10	○	○	※	×	×	※	※	
	12	明褐色土層7.5YR	9＜12	○	◎	◎	×	×	×	×	竈土
	13	暗褐色土層7.5YR	1＜13	○	○	※	×	×	※	※	

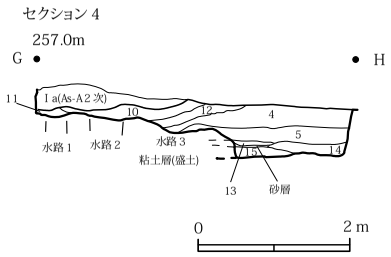
第167図　人見枝谷津遺跡（古代）H－114・118号住居址実測図





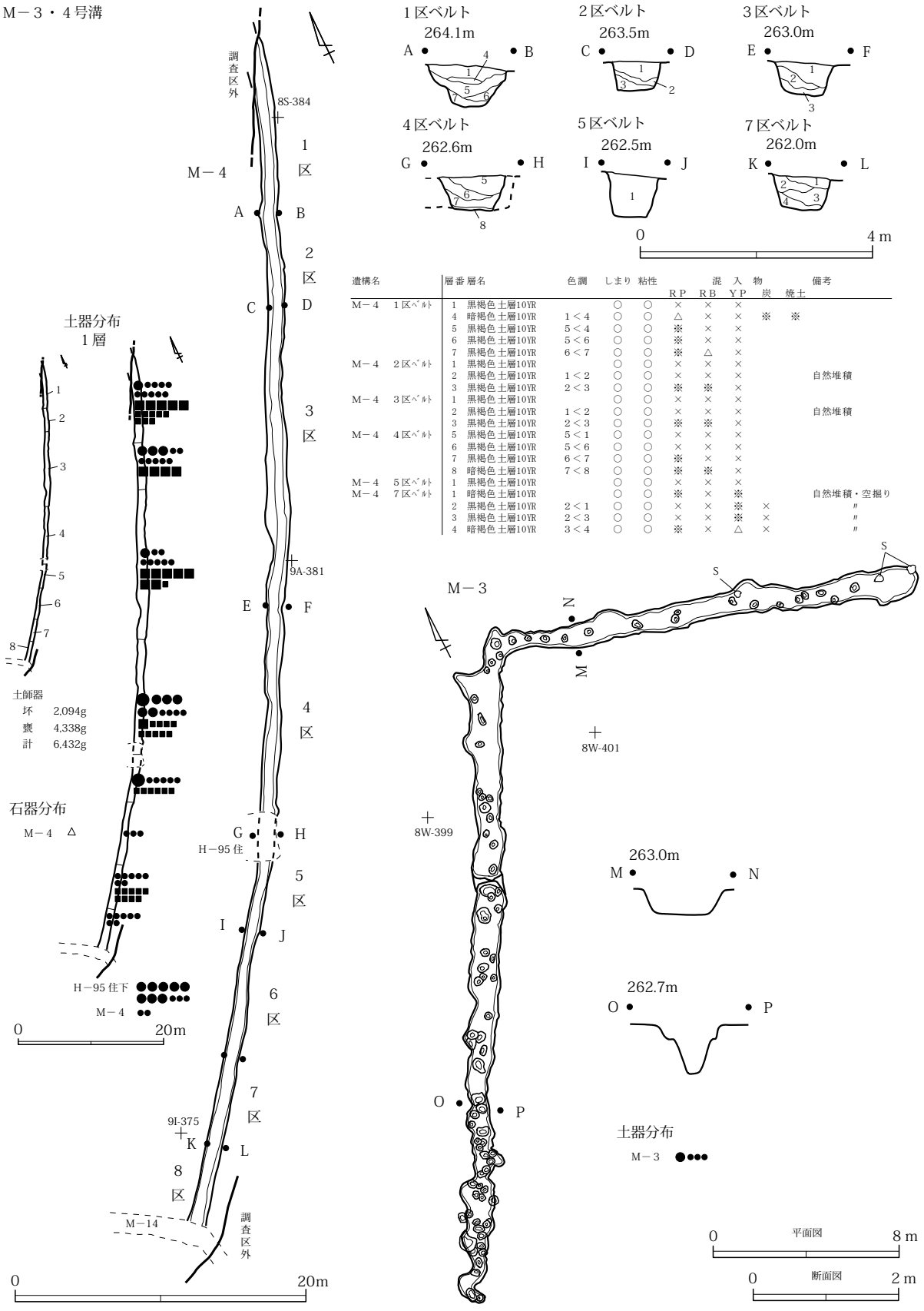






遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	砂	鉄	白色粘土	備考
谷地 ｾｸｼｮﾝ1	16	黒褐色土層10YR		○	◎	×	×	×	×	○	※	※		砂層
	17	黒褐色土層10YR	1＜2	○	◎	×	×	×	×	○	※	※		砂層
	18	暗褐色土層7.5YR	6＜18	○	○	×	×	×	×	○	◎	※		砂層
	19	黒褐色土層10YR	19＜5	○	○	×	×	×	×	○?	◎	※		砂層
	20	暗赤褐色土層7.5YR	5＜20	△	○	×	×	×	×	△?	◎	△		砂層
	21	黒褐色土層7.5YR	5＜21	△	○	×	×	×	×	○?	◎	※	※	砂層
	22	黒褐色土層10YR	5＜22	◎	◎	※	×	×	×	×	×	×	△	盛土
	23	黒褐色土層10YR	23＜5	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×		植物△
	24	黒褐色土層10YR	23＜24	◎	◎	※	×	×	×	×	×	×	△	盛土
	25	暗褐色土層10YR	23＜25	◎	◎	※	×	×	×	×	×	×	△	盛土
	26	黒褐色土層10YR		△	○	×	×	◎						水路
	27	黒褐色土層10YR	27＜26	△	○	×	×	×	○					水路
	28	黒褐色土層10YR	5＜28	○	○	×	×	×	×	○?	○	※	×	
	29	黒褐色土層10YR	5＜29	△	○	×	×	×	×	○?	◎	※		
	30	鈍い黄橙色土層10YR	5＜30	◎	◎					×	×	△	×	ﾛｰﾑ水成(YPT＝Ⅶ層)
	31	黒褐色土層10YR	5＜31	◎	◎	×	×	×	×	○?	△	※	△	
	32	黒褐色土層7.5YR		◎	◎	×	×	×		※	×	※	※	
	33	黒褐色土層7.5YR	32＜33	◎	◎	×	×	×		○	×	※	×	
	34	黒褐色土層7.5YR	33＜34	◎	◎	×	×	×		○	△	※	△	
	35	鈍い黄橙色土層10YR	5＜35	◎	◎									ﾛｰﾑ二次（Ⅶ層）
	36	暗褐色土層7.5YR	5＜36	◎	◎	※	×	×		○	×	×	※	
谷地 ｾｸｼｮﾝ2	1	褐灰色土層10YR		◎	◎	×	×	×	×	×	×	×		砂：水田土（現在）
	2	暗褐色土層7.5YR	1＜2	◎	◎	×	×	×	◎	×	×	△		砂：水田土（現在）
	3	暗褐色土層7.5YR	2＜3	◎	◎	×	×	×	×	○	×	△		砂：水田土（現在）
	4	暗褐色土層7.5YR	4＜3	◎	◎	×	×	×	×	○	×	※		砂：水田土（現在）
	5	褐灰色土層7.5YR	5＜4	◎	◎	×	×	×	×	○	×	※		
	6	黒褐色土層7.5YR	6＜5	○	○	△	×	×	×	○	◎	×		即:ﾌﾞﾛｯｸ状，砂：砂質層（泥炭層）
	7	黒褐色土層7.5YR	7＜5	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×		
	8	暗褐色土層7.5YR	5＜8	○	○	×	×	×	×	○	◎	△		砂：砂質層
	9	黒褐色土層7.5YR	9＜2	◎	◎	×	×	×	×	○		※		
谷地 ｾｸｼｮﾝ3	9	暗褐色土層10YR		△	○	×	×	×	◎					水路覆土上
谷地 ｾｸｼｮﾝ4	10	暗褐色土層7.5YR		○	◎	×	×	×	△?	×	△	△		
	11	褐色土層7.5YR	Ia＜11	○	○	×	×	×	×	△	△	○		
	12	褐灰色土層7.5YR	11＜10	◎	◎	×	×	×	×	△	×	※		
	13	黒褐色土層7.5YR	5＜13	◎	◎	×	×	×	×	※	×	※	△	
	14	黒褐色土層7.5YR	13＜14	○	◎	×	×	×	×	△	○	※	※	砂層
	15	黒褐色土層7.5YR	15＜14	◎	◎	×	×	×	×	×	×	※		泥層

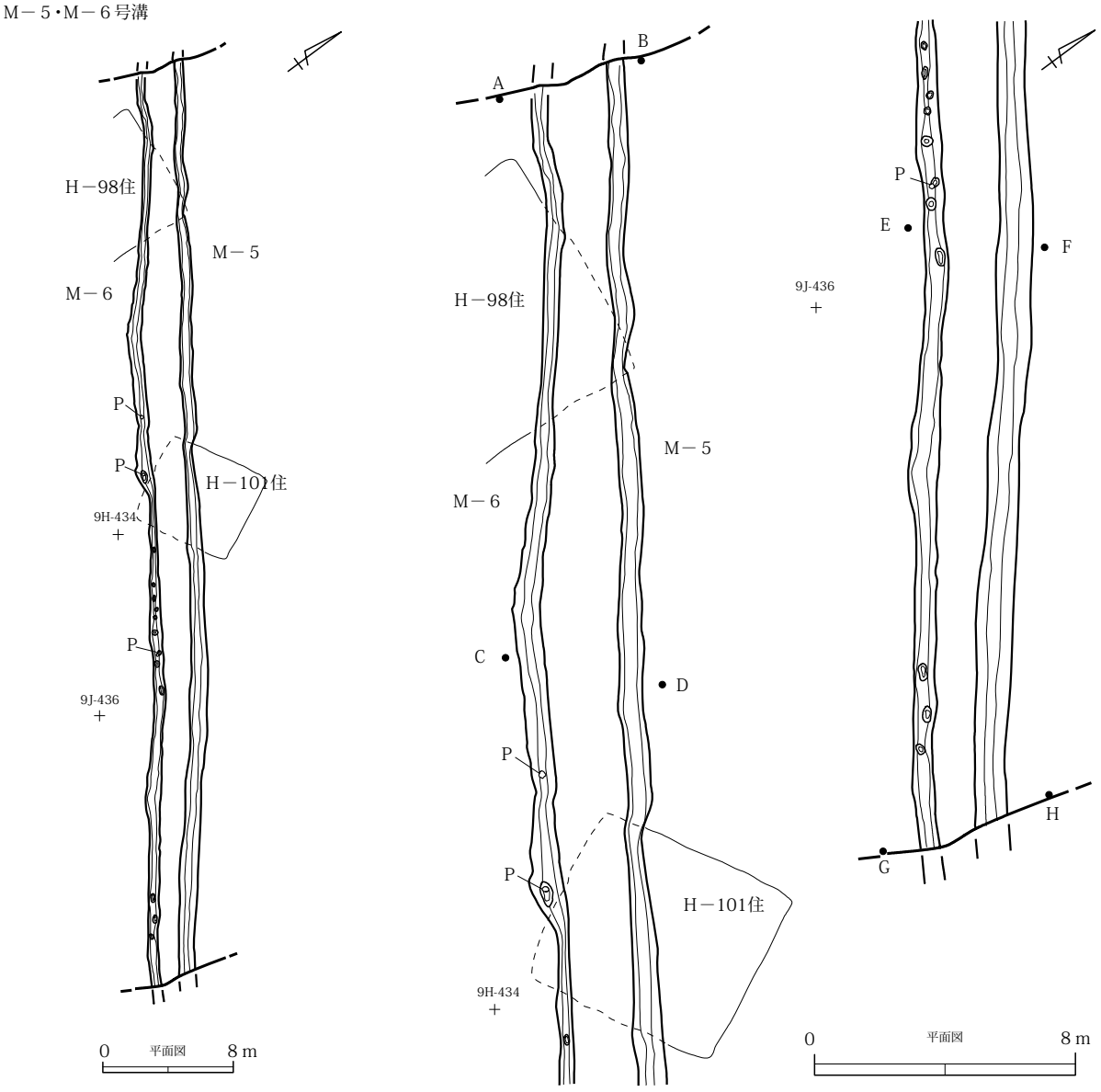
第168図　人見枝谷津遺跡（古代）水路（溝）実測図

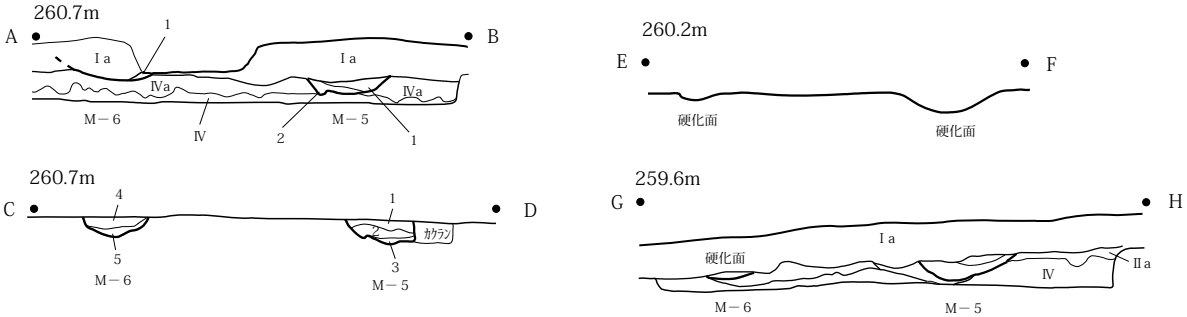


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
M－４ 1区ベルト	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	○	○	△	×	×	※	※	
	5	黒褐色土層10YR	5＜4	○	○	※	×	×			
	6	黒褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	×			
	7	黒褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	△	×			
M－４ 2区ベルト	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			自然堆積
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×			
M－４ 3区ベルト	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			自然堆積
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×			
M－４ 4区ベルト	5	黒褐色土層10YR	5＜1	○	○	×	×	×			
	6	黒褐色土層10YR	5＜6	○	○	×	×	×			
	7	黒褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	×			
	8	暗褐色土層10YR	7＜8	○	○	※	※	×			
M－４ 5区ベルト	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
M－４ 7区ベルト	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			自然堆積・空掘り
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	※	×		〃
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	※	×		〃
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	△	×		〃

第169図　人見枝谷津遺跡（古代以降）M－３・４号溝実測図

M－5・M－6号溝

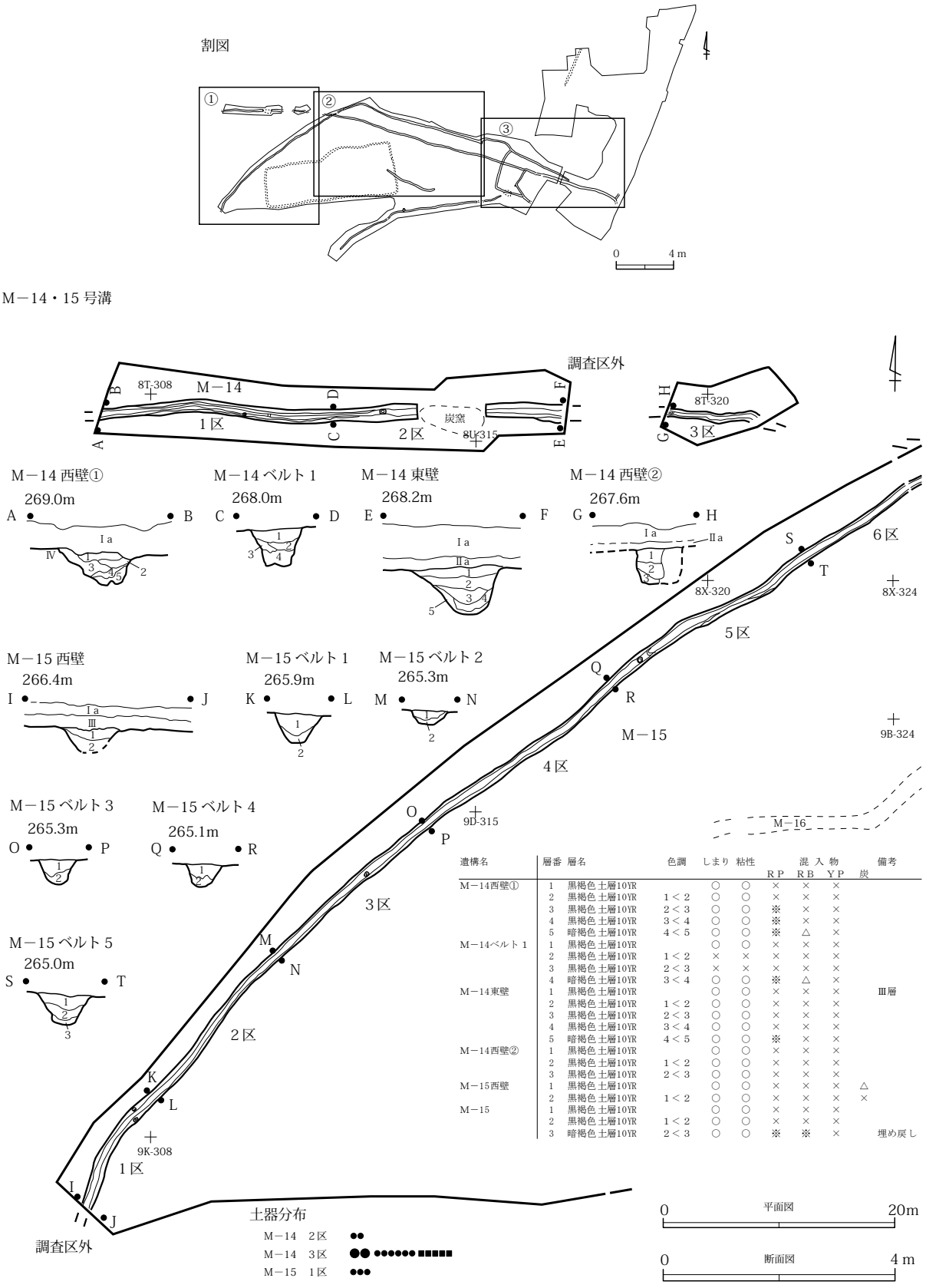




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-B	備考
N3 M－5・M－6 (A－B)	1	黒褐色土層10YR		◎	△	×	×	×	○	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	△	
	3	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	×	
M－5・M－6 (C－D)	1	褐色土層10YR		○	△	×	×	×	○	
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	△	×	×	×	○	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	△	※	×	×	×	硬化
	4	黒褐色土層10YR		○	△	×	×	×	○	
	5	黒褐色土層10YR		◎	△	×	×	×	○	

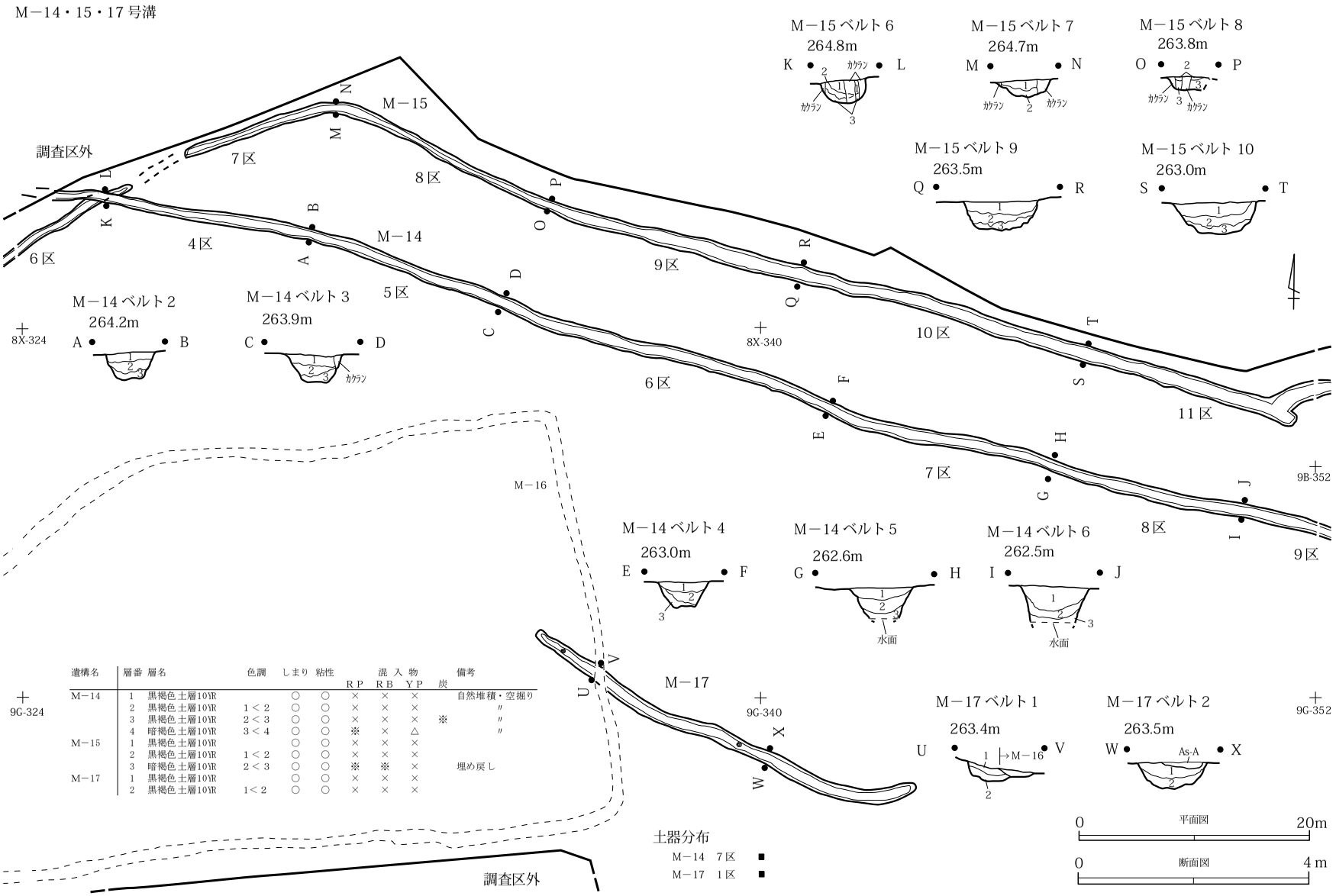
0 断面図 2m

第170図　人見枝谷津遺跡（古代以降）M－5・6号溝（道路状遺構）実測図



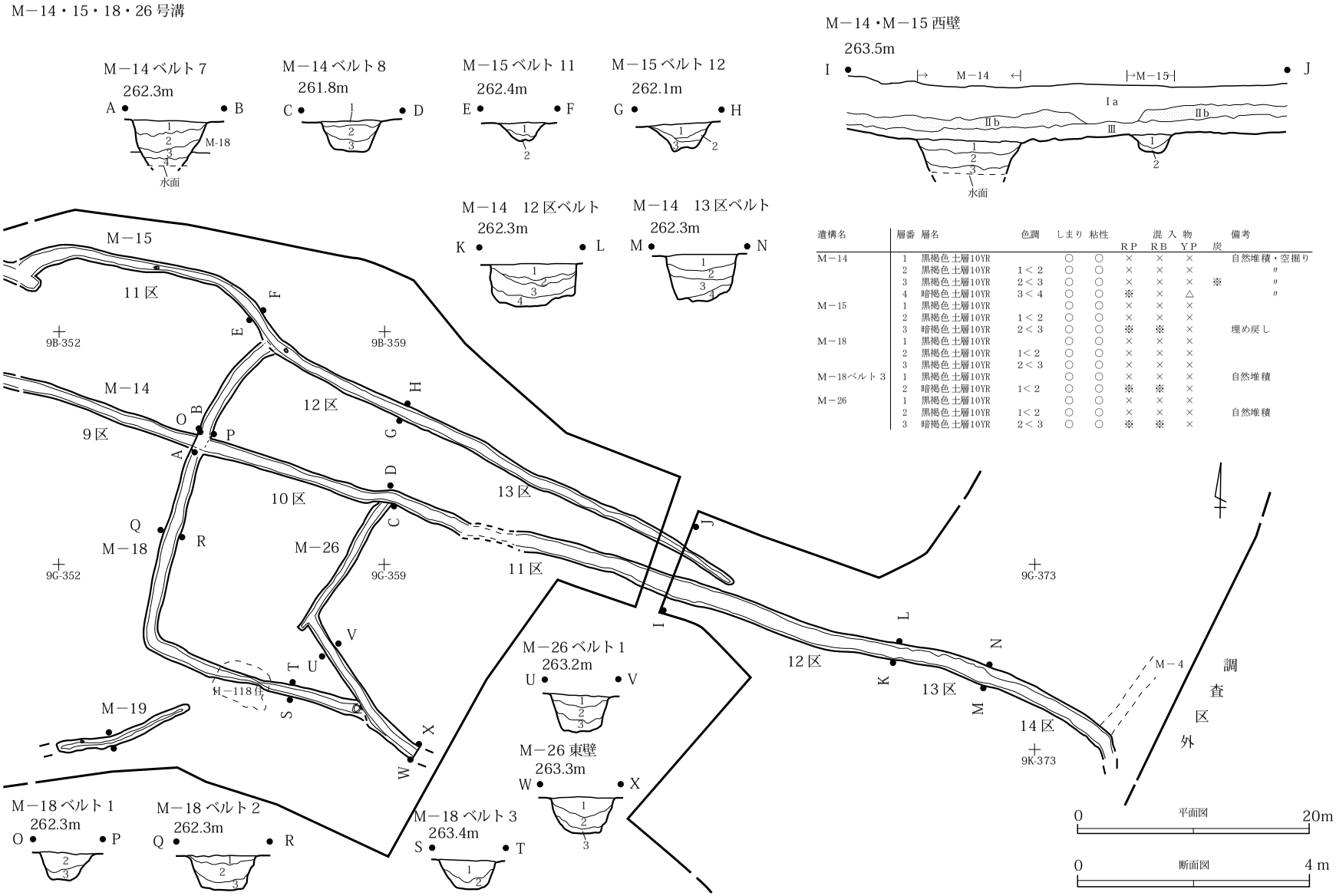
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－14西壁①	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	△	×		
M－14ベルト１	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	×	×	×	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	×	×	×	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	△	×		
M－14東壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×		
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	×	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	×	×	×		
M－14西壁②	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×		
M－15西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	△	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	×	
M－15	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×		埋め戻し

第171図　人見枝谷津遺跡（古代）M－14・15号溝実測図



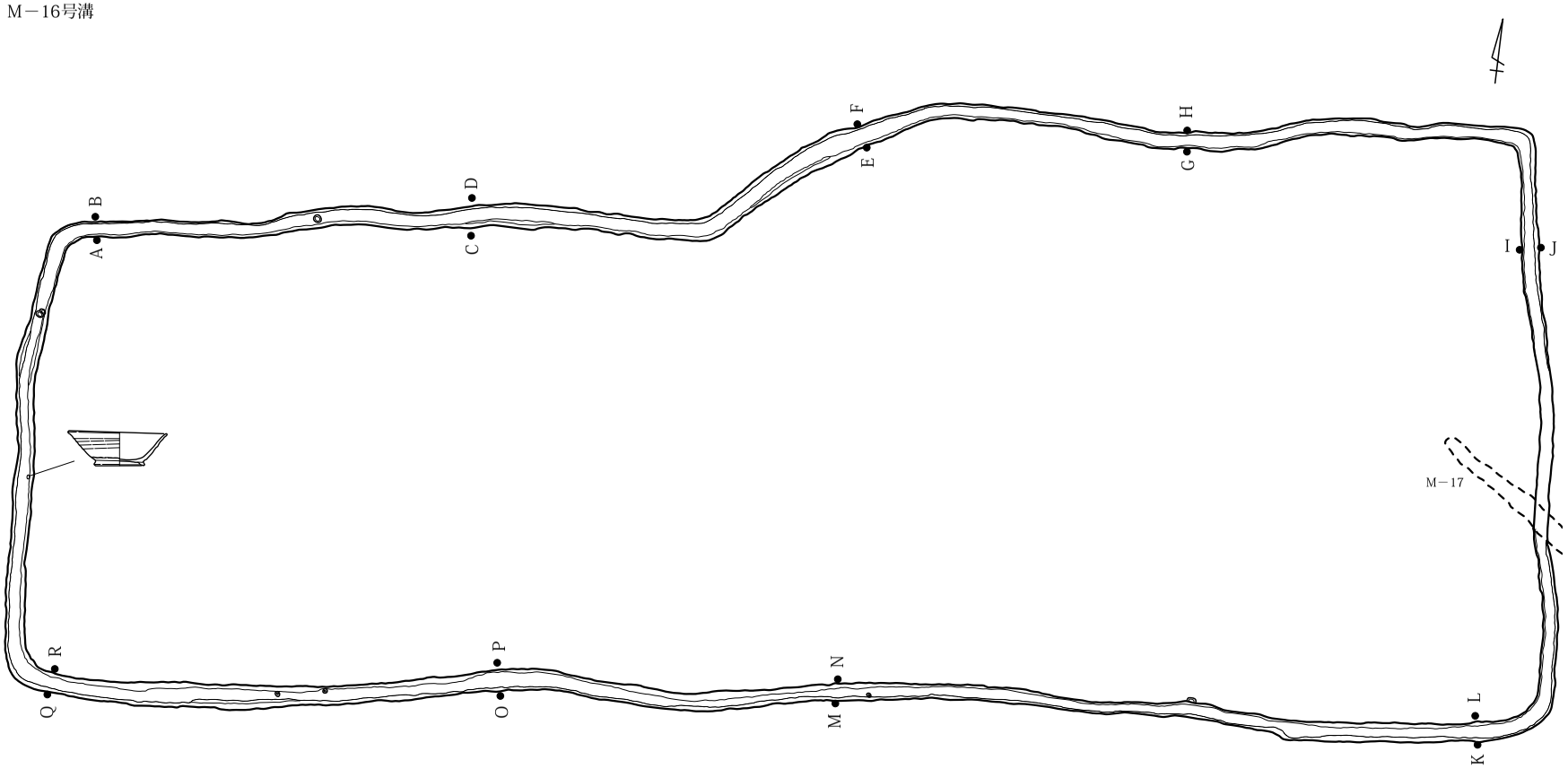
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－14	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		自然堆積・空掘り
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		〃
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×	※	〃
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	△		〃
M－15	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×		埋め戻し
M－17	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		

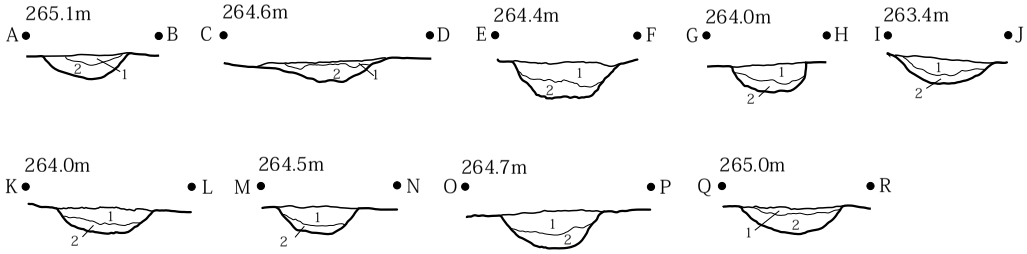
第172図　人見枝谷津遺跡（古代）M－14・15・17号溝実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－14	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		自然堆積・空掘り
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		〃
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×	※	〃
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	△		〃
M－15	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×		埋め戻し
M－18	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×		
M－18ベルト3	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		自然堆積
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	×		
M－26	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		自然堆積
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×		

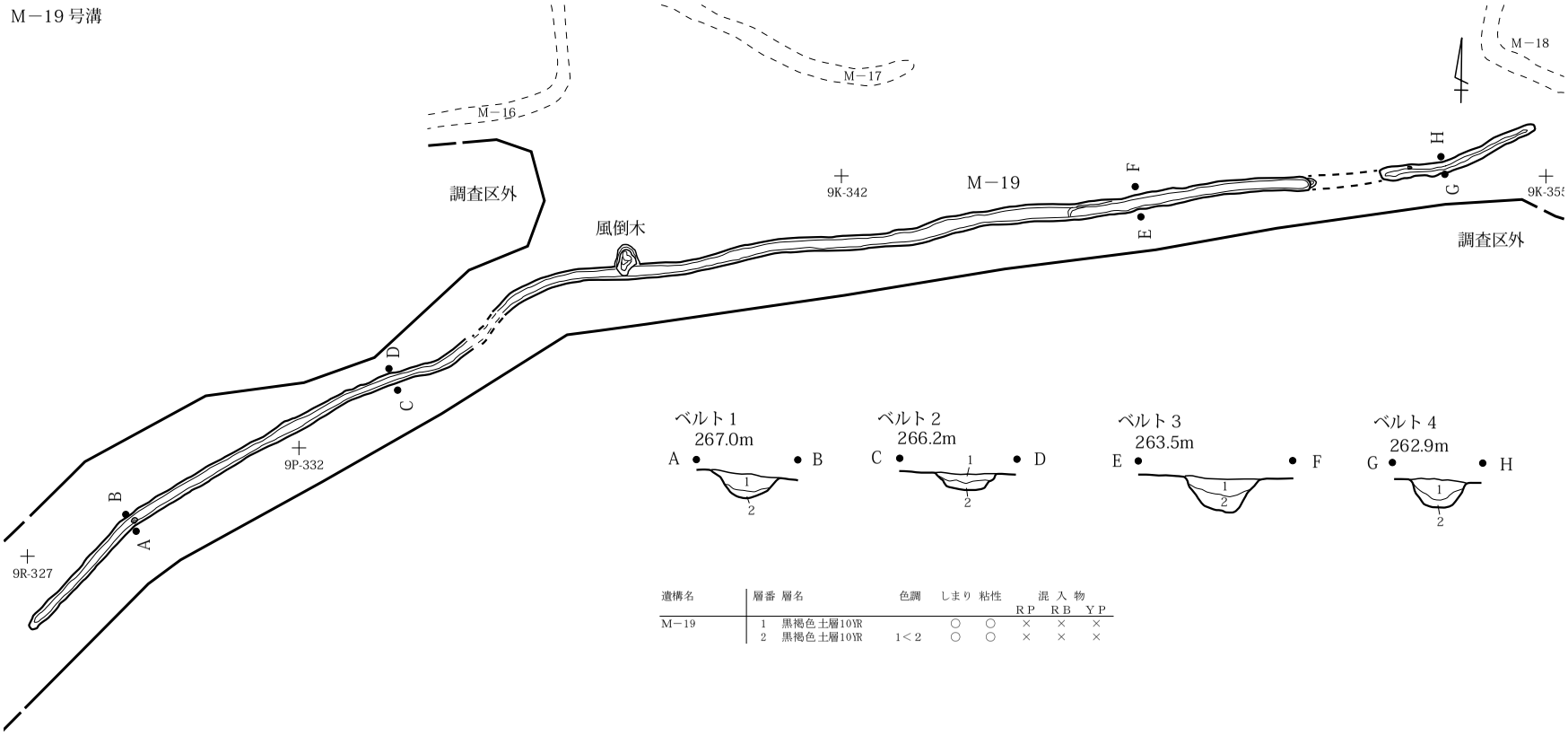
第173図　人見枝谷津遺跡（古代）M－14・15・18・26号溝実測図





遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
M－16	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×

第174図　人見枝谷津遺跡（古代）M－16号溝実測図

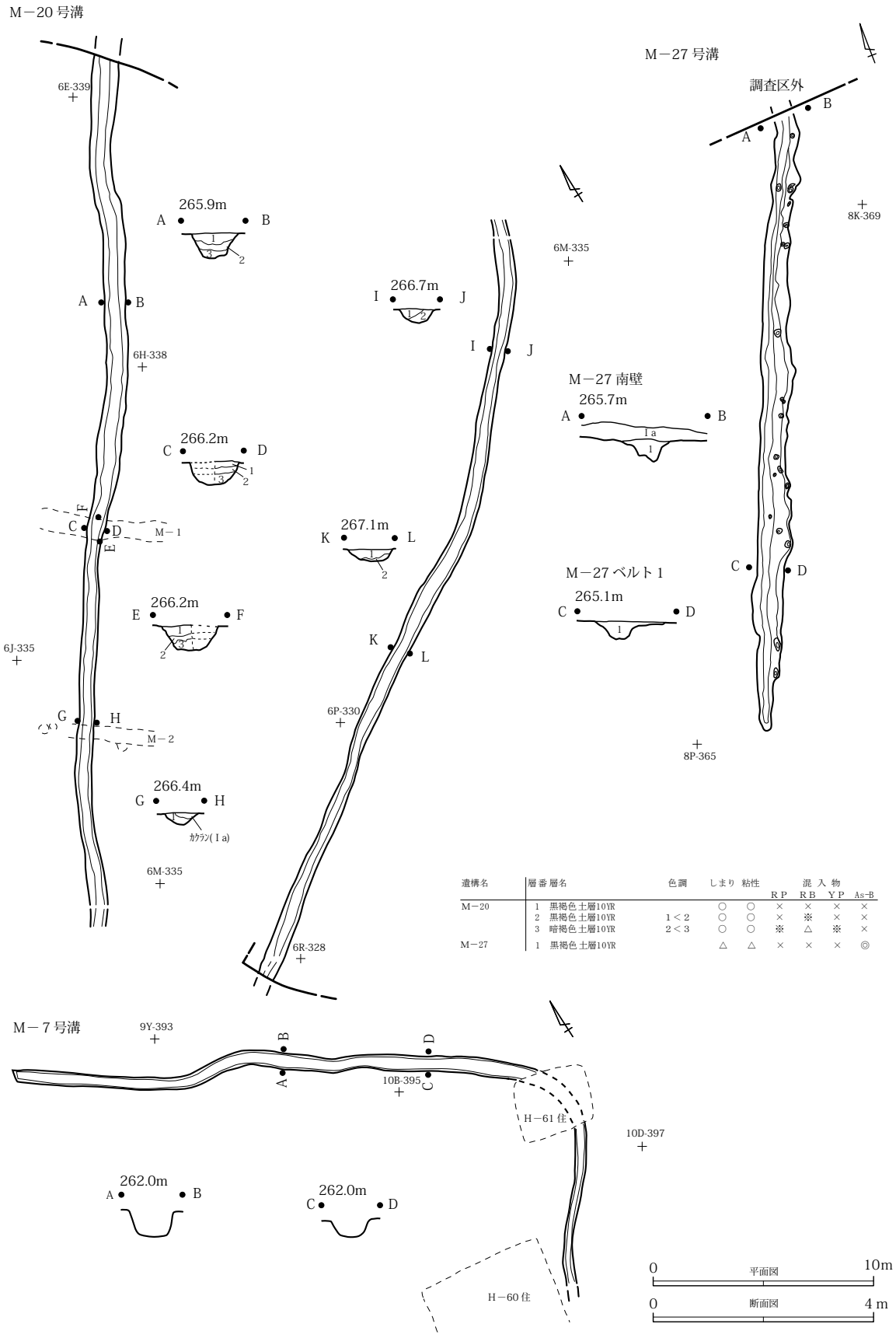


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
M－19	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×

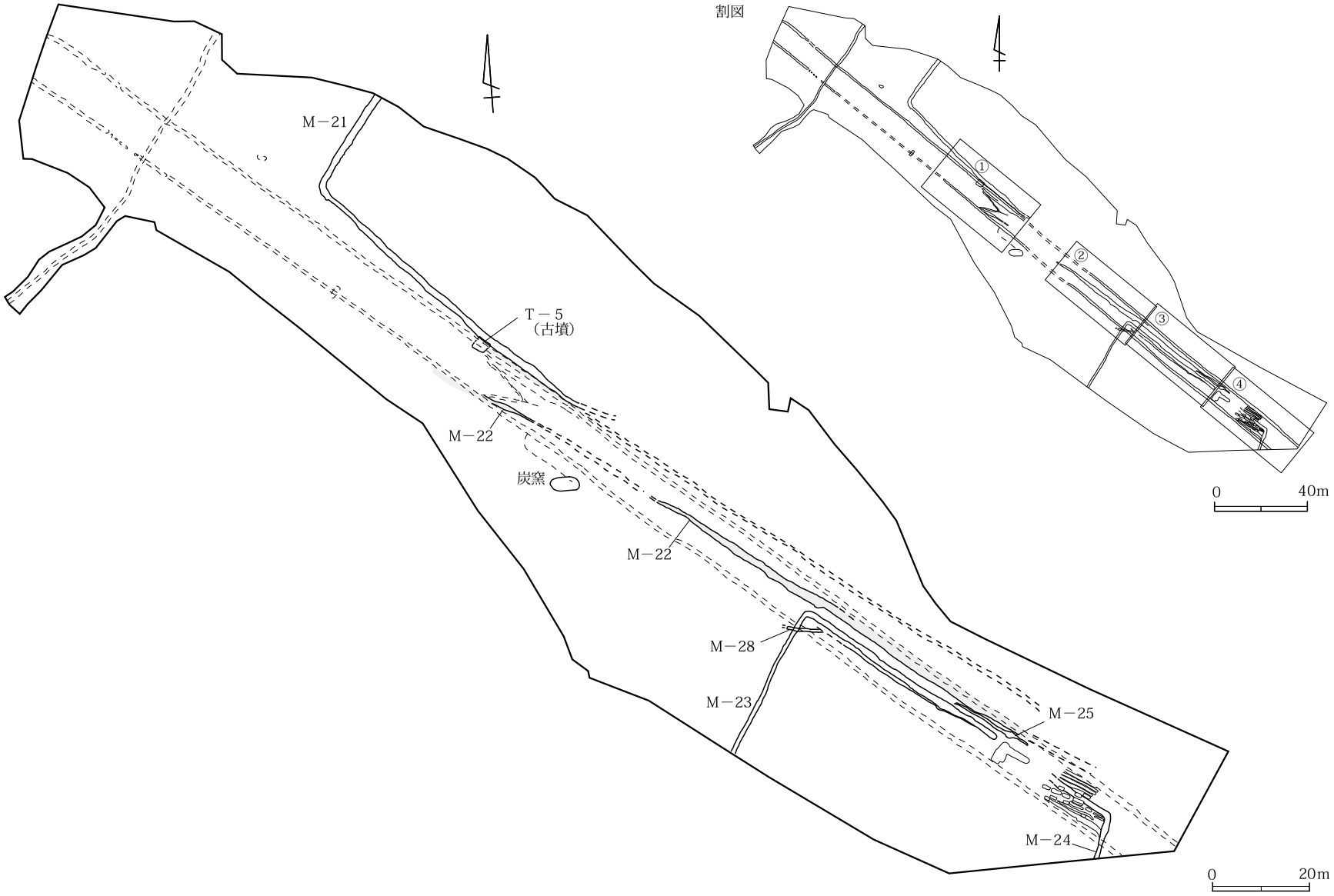
0 平面図 20m

0 断面図 4m

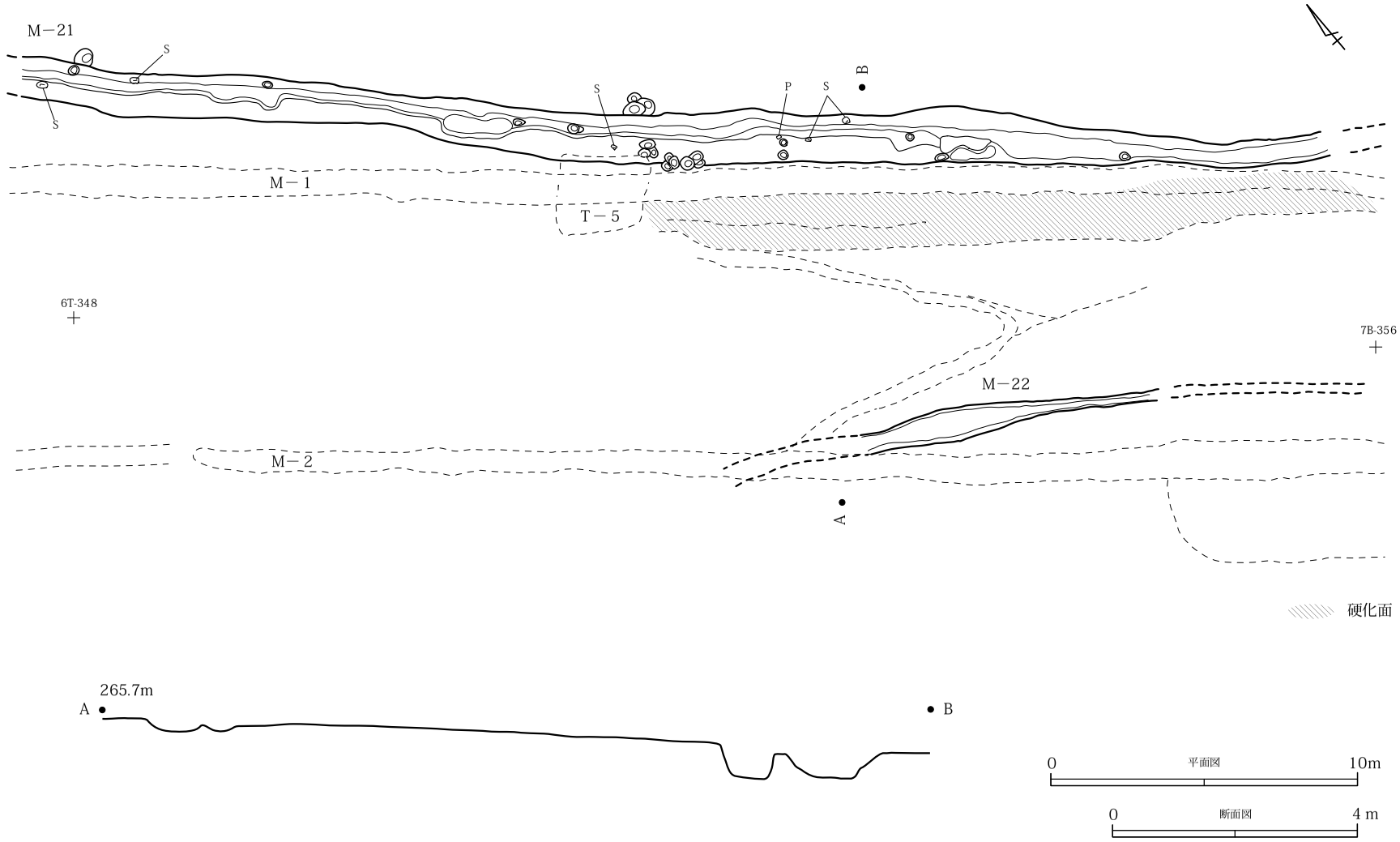
第175図　人見枝谷津遺跡（古代）M－19号溝実測図



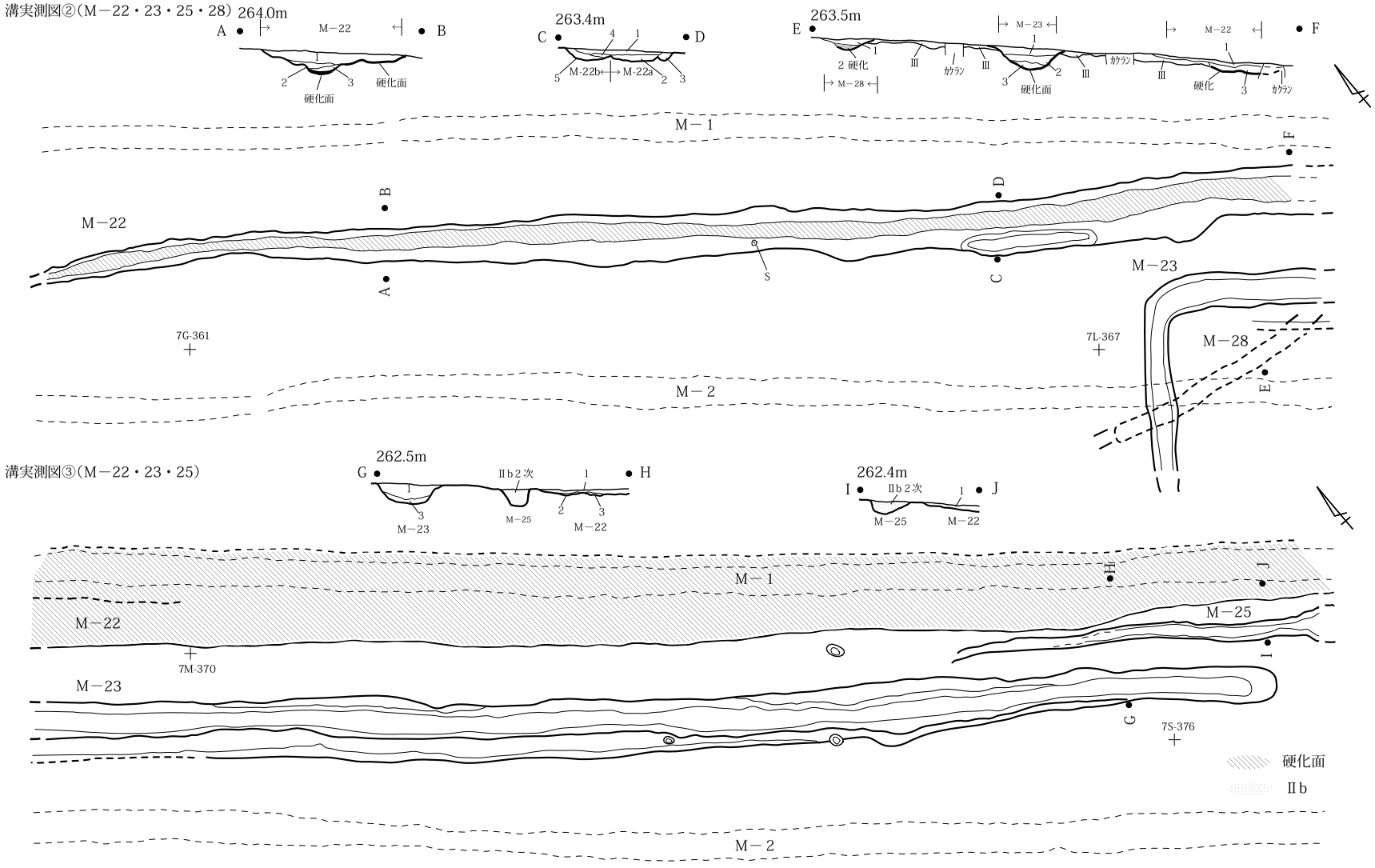
第176図　人見枝谷津遺跡（古代）M－7・20・27号溝実測図



第177図　人見枝谷津遺跡（中世）溝位置図



第178図　人見枝谷津遺跡（中世）M－21・22号溝実測図



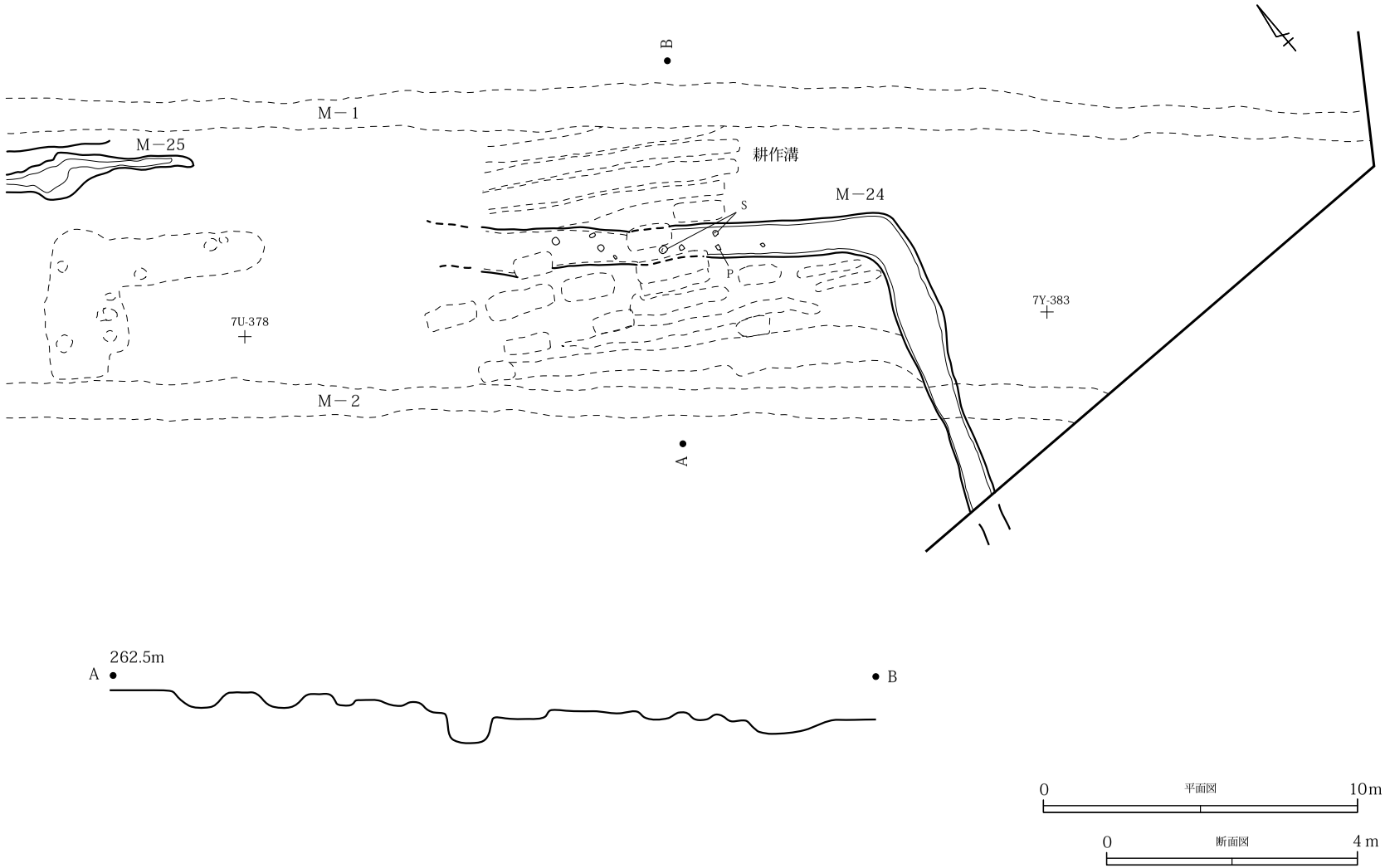
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B
M－22ベルト１	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×		◎
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	×	×		◎
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	◎	△	×	×	×		△
M－22ベルト２	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×	×	○
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	×	◎
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	△	△	×	×	※	×	◎
	4	黒褐色土層10YR	4＜1	○	△	×	×	×	×	△
	5	黒褐色土層10YR	4＜5	△	△	×	◎	×	×	×

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
M－22	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	×	×	○
	3	黒褐色土層10YR	3＜1	△	△	×	×	×	△
M－28	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	◎	△	×	×	×	△

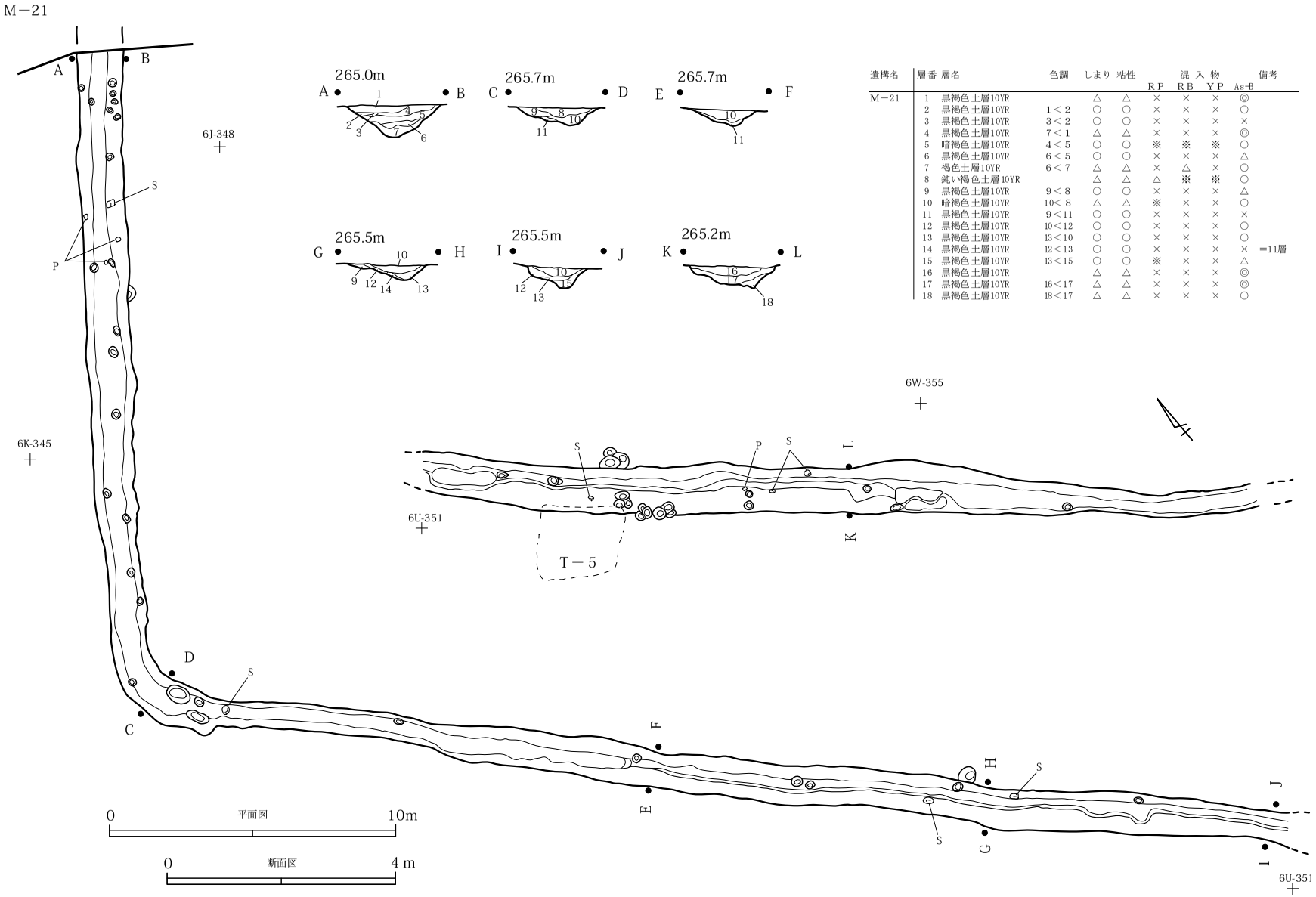
0 平面図 10m

0 断面図 4m

第179図　人見枝谷津遺跡（中世）M－22・23・25・28号溝実測図

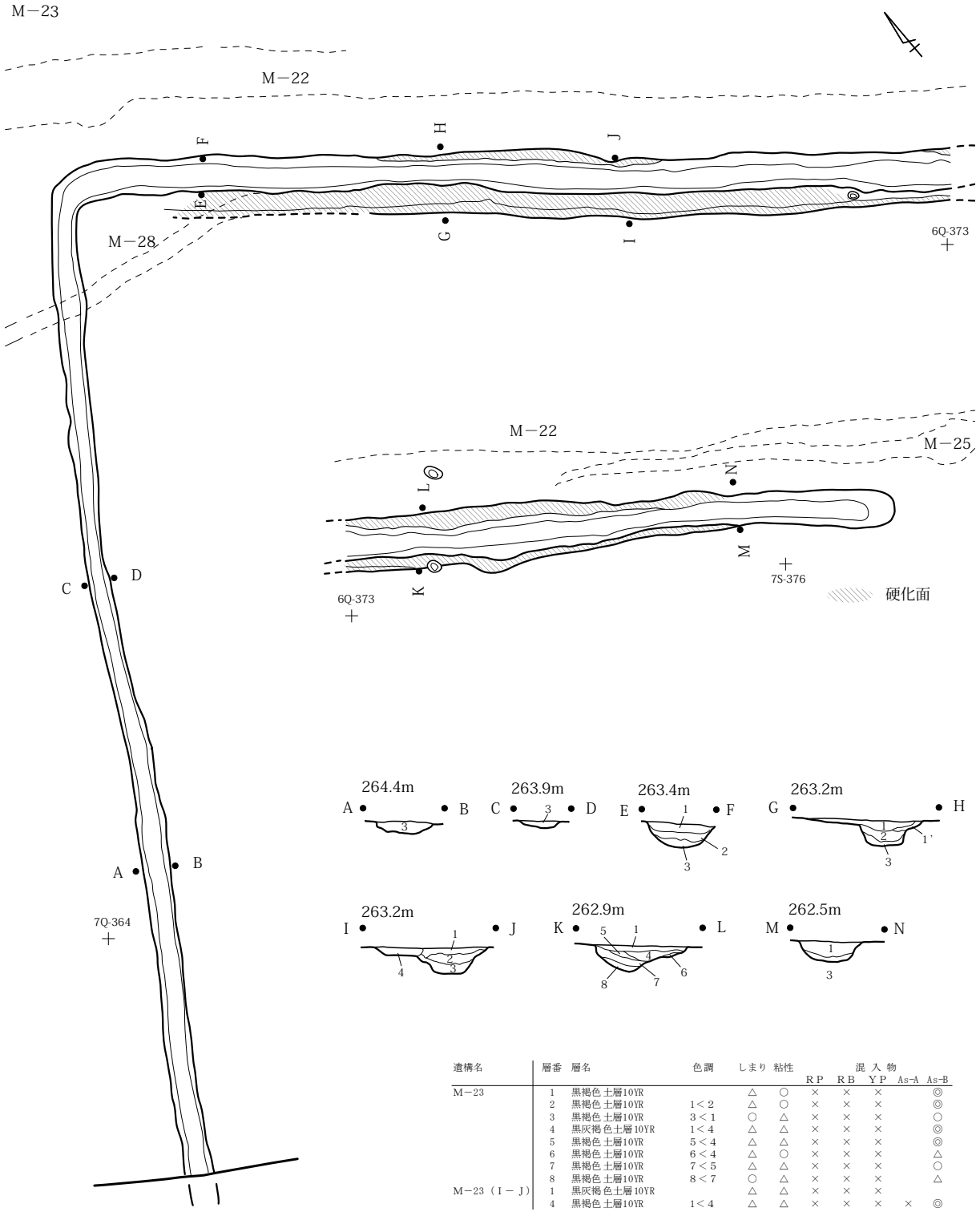


第180図　人見枝谷津遺跡（中世）M－24・25号溝実測図



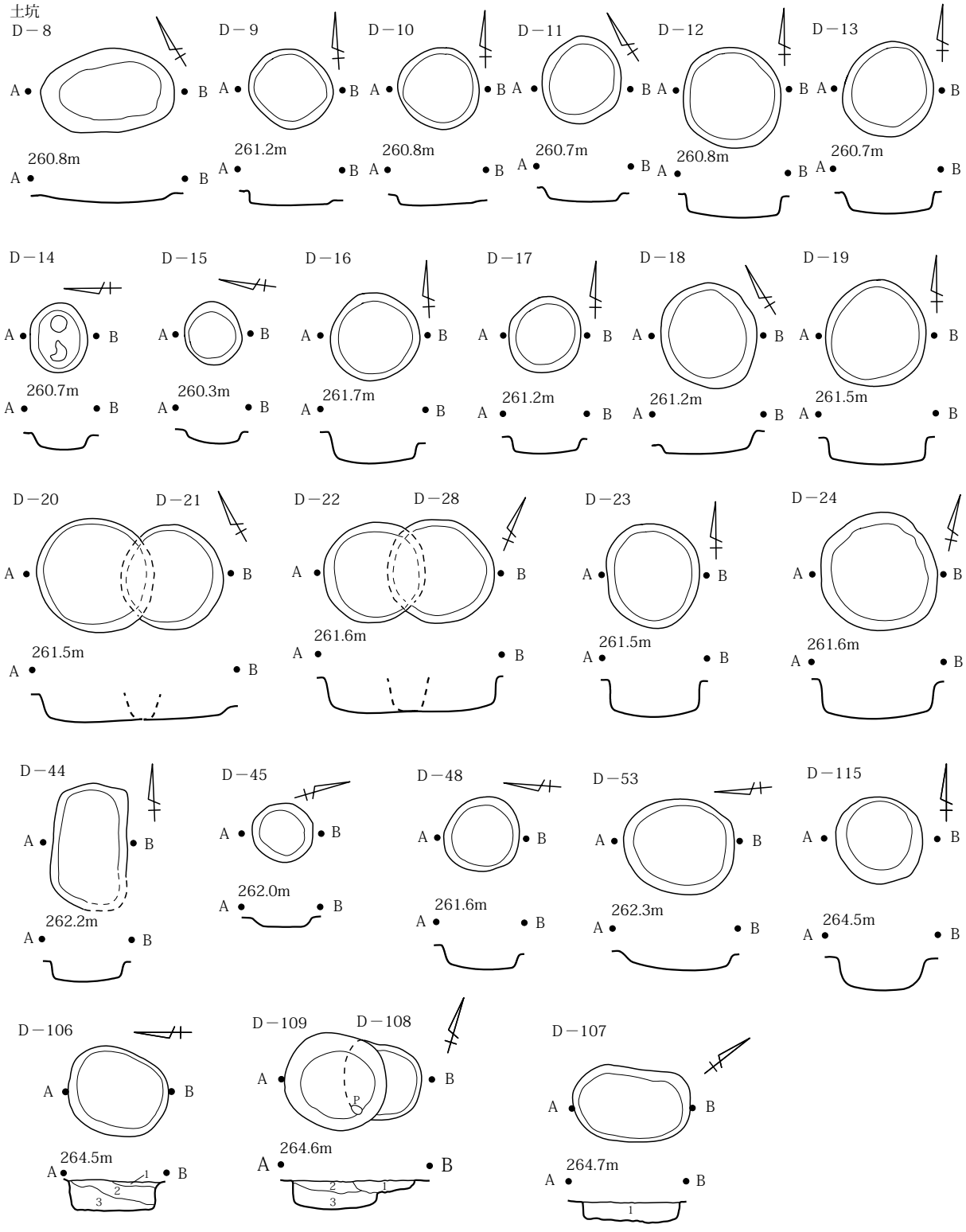
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-B	備考
M－21	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	○	
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	×	×	×	×	
	4	黒褐色土層10YR	7＜1	△	△	×	×	×	◎	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	※	※	○	
	6	黒褐色土層10YR	6＜5	○	○	×	×	×	△	
	7	褐色土層10YR	6＜7	△	△	×	△	×	○	
	8	鈍い褐色土層10YR		△	△	△	※	※	○	
	9	黒褐色土層10YR	9＜8	○	○	×	×	×	△	
	10	暗褐色土層10YR	10＜8	△	△	※	×	×	○	
	11	黒褐色土層10YR	9＜11	○	○	×	×	×	×	
	12	黒褐色土層10YR	10＜12	○	○	×	×	×	○	
	13	黒褐色土層10YR	13＜10	○	○	×	×	×	○	
	14	黒褐色土層10YR	12＜13	○	○	×	×	×	×	＝11層
	15	黒褐色土層10YR	13＜15	○	○	※	×	×	△	
	16	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	17	黒褐色土層10YR	16＜17	△	△	×	×	×	◎	
	18	黒褐色土層10YR	18＜17	△	△	×	×	×	○	

第181図　人見枝谷津遺跡（中世）M－21号溝実測図



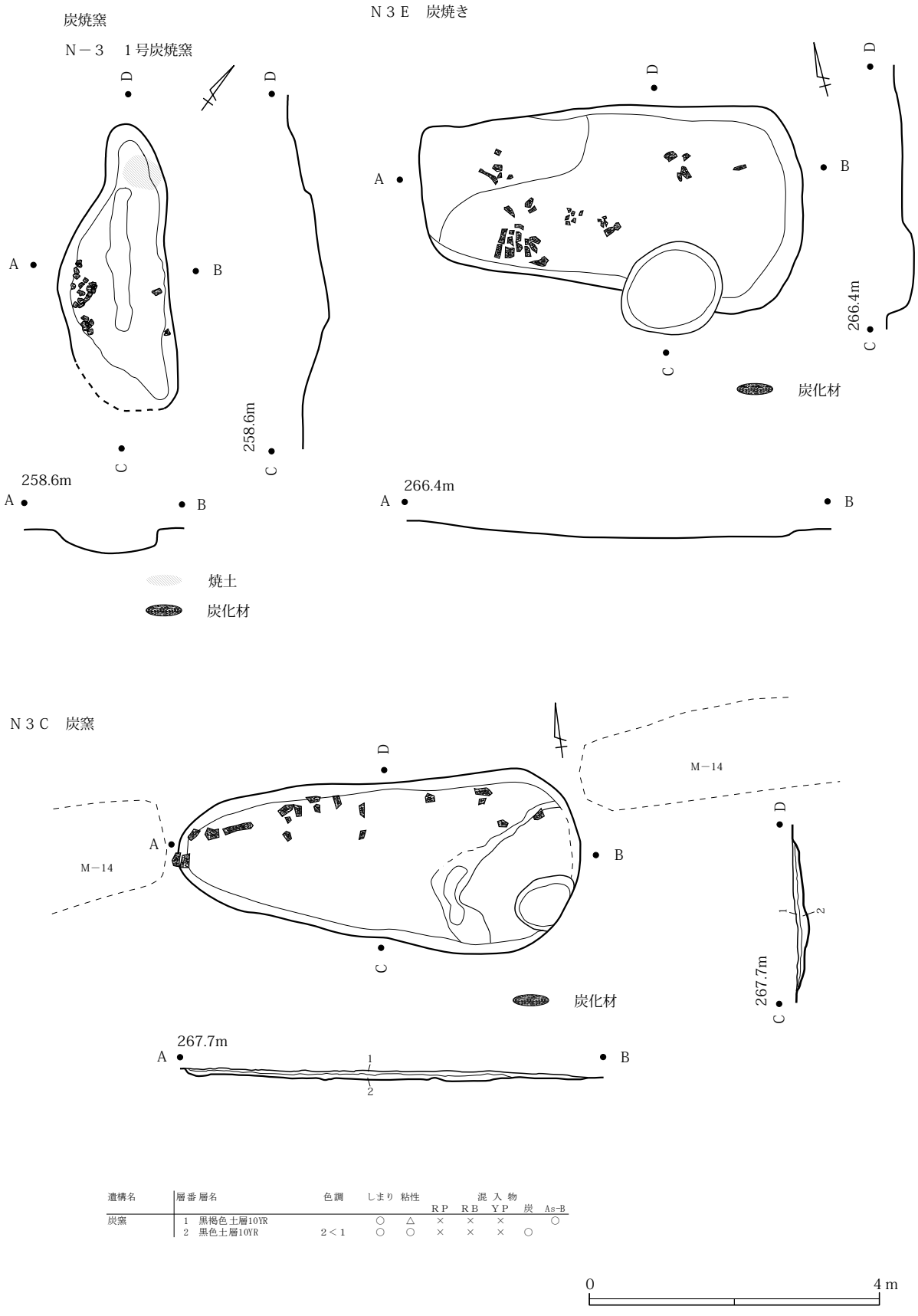
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B
M－23	1	黒褐色土層10YR		△	○	×	×	×		◎
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	○	×	×	×		◎
	3	黒褐色土層10YR	3＜1	○	△	×	×	×		○
	4	黒灰褐色土層10YR	1＜4	△	△	×	×	×		◎
	5	黒褐色土層10YR	5＜4	△	△	×	×	×		◎
	6	黒褐色土層10YR	6＜4	△	○	×	×	×		△
	7	黒褐色土層10YR	7＜5	△	△	×	×	×		○
	8	黒褐色土層10YR	8＜7	○	△	×	×	×		△
M－23（I－J）	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×		
	4	黒褐色土層10YR	1＜4	△	△	×	×	×	×	◎

第182図　人見枝谷津遺跡（中世）M－23号溝実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B
D－115		覆土 黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×			◎
D－106	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
	2	黒褐色土層	2＜1	○	○	※	×	※	※		
	3	暗褐色土層	2＜3	○	○	※	×	※			
D－107	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
D－108	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
D－109	2	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※			

第183図　人見枝谷津遺跡（中世）土坑実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-B
炭窯	1	黒褐色土層10YR		○	△	×	×	×		○
	2	黒色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×	○	

0　4m

第184図　人見枝谷津遺跡（古代以降）炭焼窯実測図

4　人見東向原遺跡（第185～226図）

（1）概要

本遺跡は、人見枝谷津遺跡と谷を挟んで立地する。この調査区をＡ区とした。人見枝谷津遺跡と同時期の遺構の分布を確認したことから、両遺跡は同一遺跡と捉えられる。主な成果は、縄文時代と古墳時代、古代の集落、古代の道路状遺構等を調査した。特筆されるのは、古墳時代の住居址から朱（ベンガラ）の塊を検出した小形甕、鉄製農具（Ｕ字、方形鋤先、鎌等）が出土した。古代では、環状の溝を確認した。道路状遺構は、谷筋に向かって切り通し状となり、低地に差し掛かることを確認した。

Ｂ区は、Ａ区から南へ約100ｍのところに位置し、低地に面した南側斜面で、古代の遺構が確認された。南側には下高田原遺跡が存在する。調査区では、古代の溝３条、ピット列２か所を確認した。谷を挟んだ南側に人見大谷津遺跡、下高田原遺跡（富岡市）で存在する。下高田原遺跡では、市境界付近に沿って大溝が確認された。大溝の南側では８世紀代の集落が確認されたため、その北側に対してトレンチ調査を実施したが、遺物散布が数カ所で認められたものの、大溝に関連する時期の遺構及びその他遺構は全く確認されなかった。したがって、東向原地区の大溝より北側では、遺跡形成に必要な人々の営みが低調であったことが明らかになった。

（2）縄文時代の遺構

住居址（第185・186図、第７表）

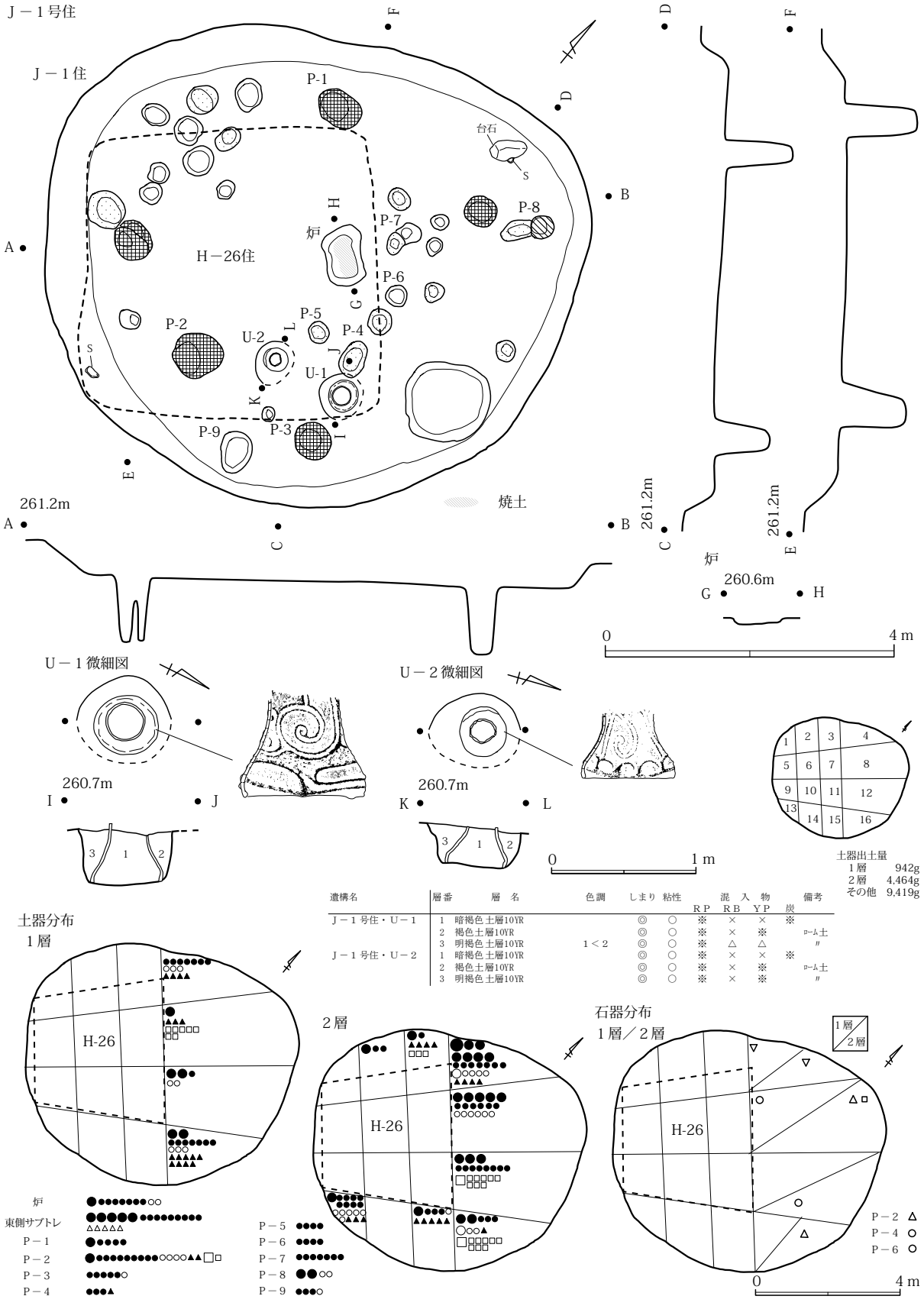
調査区東側で２軒確認した。Ｊ－１号の中央部は、Ｈ－26号（古墳）と重複する。平面不整円形であるが、５本柱、炉をもつ竪穴住居に分類される。床面には埋設土器２基が並んで確認された。Ｊ－２号は、掘り込みの浅い竪穴住居だが、埋設土器の堀方以外、ピットは検出されなかった。床面には、大小の礫が広範囲に分布し、埋設土器が３か所が検出された。Ｕ－３号は配石状の礫、石器の下からの検出である。また、南側壁面（覆土内）では、土器の上部が大礫で覆われた埋設土器（Ｕ－４号）が確認された。この住居址は掘り込みが浅く、一般的な住居とは構造が異なる遺構である。時期は２軒とも中期後半の所産である。

遺物集中

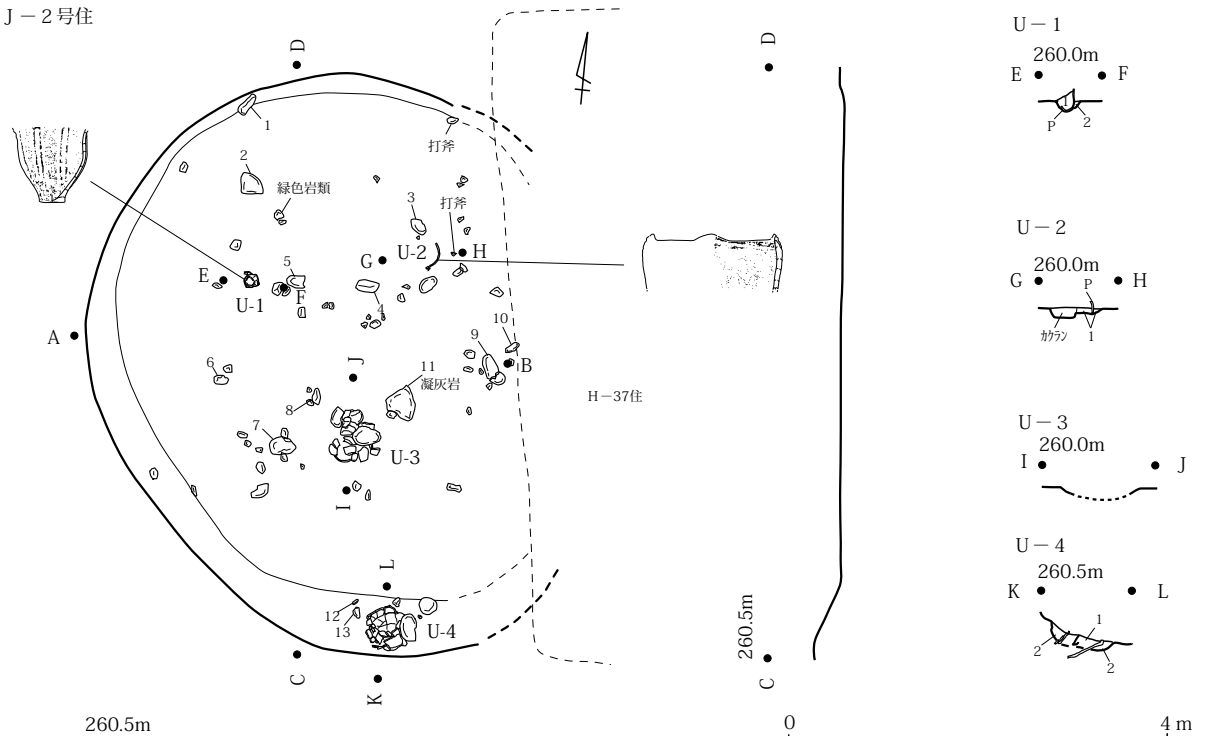
Ｊ－２号の南側でⅣ層中から、土器、石器、礫が分布する範囲（約12ｍ）を確認し、人力による掘り下げを行った。遺物集中範囲からは、視覚的な遺物ブロックが確認できたが、遺構は検出されなかった。出土土器は、中期後半の加曽利ＥⅢ式期の土器破片が多数出土した。後期前半の堀之内２式の破片土器（注口土器を含む）も少数出土した。

土坑（第223図、第37表）

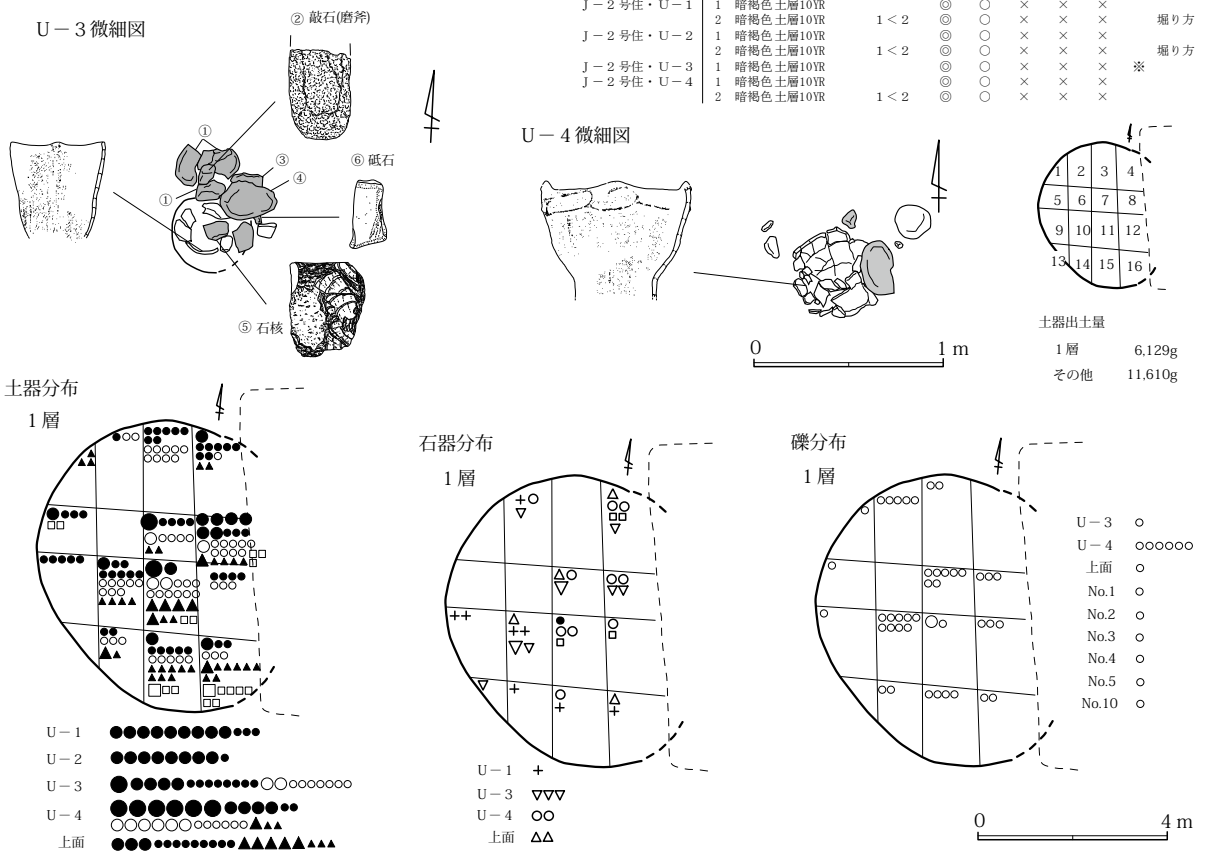
２基確認した。Ｄ－８、９号は覆土から縄文土器、礫が出土した。



第185図　人見東向原遺跡（縄文）J－1号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
Ｊ－２号住・Ｕ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		堀り方
Ｊ－２号住・Ｕ－２	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		堀り方
Ｊ－２号住・Ｕ－３	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※	
Ｊ－２号住・Ｕ－４	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×		



第186図　人見東向原遺跡（縄文）Ｊ－２号住居址実測図

（３）古墳時代の遺構

住居址（第187～220図、第13表）

人見枝谷津遺跡と同時期（中期）の住居址を33軒確認した（Ⅱ期７軒、Ⅲ期20軒、中期６軒)。前期は０軒である。

＜平面形態＞

小形正方形４軒（中期２軒、Ⅲ期２軒)、小形長方形１軒（Ⅲ期１軒､）中形正方形10軒（中期１軒、Ⅱ期１軒、Ⅲ期８軒)、中形長方形４軒（Ⅲ期４軒)、大形正方形10軒（中期１軒、Ⅱ期４軒、Ⅲ期５軒)、大形長方形３軒（中期２軒、Ⅱ期１軒)、大形方形１軒（Ⅱ期１軒）である。中～大形の正方形が主体である。

平地式は５軒（Ⅲ期２軒、中期３軒）である。

＜壁溝＞

Ⅲ期のみで１軒である。

＜主軸方向＞

ほぼ真北に向くのが12軒（Ⅱ期３軒、Ⅲ期７軒、中期２軒)、北から北東向きとなるのが８軒（中期２軒、Ⅱ期１軒、Ⅲ期５軒)、東から南東向きとなるのがⅢ期１軒、北から北西向きとなるのが８軒（中期２軒、Ⅱ期１軒、Ⅲ期５軒)、西から南西向きとなるのが２軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期１軒)、不明は２軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期１軒）である。中期の主軸は、ほぼ真北が最も多く、北東あるいは北西に向くのが続き、人見枝谷津遺跡と同様な傾向が認められた。北斜面に対して住居址は直交し、低い方へ向いているのが分かる。

＜土坑（貯蔵穴）＞

土坑は、１基が最も多く、２基確認されたのが６軒であった。床下土坑は無い。位置は住居址南東隅に多くみられ、北西隅と南西隅は少ない。形状は、平面方形ないし楕円形で、断面は箱形となる。土坑覆土の観察から、埋め戻しが行われ、遺物廃棄が行われていた。

＜柱穴＞

基本的には炉を軸として柱穴が対称的に配置される４本柱が多数を占めた。２本柱も３軒認められた。柱穴の無いものは５軒である。拡張による柱穴の差し替えは少ない。

＜炉＞

炉は、ＡはⅡ期３軒、Ⅲ期７軒、Ｂ１はⅡ期１軒、Ⅲ期２軒、中期１軒、Ｂ２はⅢ期２軒、中期２軒、不明はⅡ期３軒、Ⅲ期８軒、中期２軒である。ＡとＢ１は１軒である。炉の位置は、床中央または中央北寄りが最も多い。

＜覆土＞

Ａ１はⅢ期２軒、Ａ２はⅡ期６軒、Ⅲ期５軒、Ｂ１は中期１軒、Ⅲ期５軒、Ｂ２は中期１軒、Ⅲ期１軒、ＣはⅡ期１軒、Ⅲ期８軒、中期４軒である。

焼失住居と考えられるのⅡ期６軒、Ⅲ期７軒である。

＜遺物出土状況＞

浅い住居（１層）では、床面直上まで遺物が出土した。２層以上に分層される深さのある住居址では、上層から下層まで遺物が出土した。ただし、上層の遺物は、廃棄によるもので土器では破片がほとんど

であった。下層の遺物は、床面に遺棄されたものが中心で、土器が潰れた状態やそのままの状態で出土した。出土遺物に時期差が少ないことから、住居使用から短期間で遺物が廃棄されたと考えられる。

溝（第221・222図、第25表）

２条確認した。Ｍ－８、９号について当初、古代の遺構としたが、出土遺物と覆土を再検討した結果、本報告では古墳時代の可能性に訂正した。Ｍ－９号は長軸約37m、短軸約30mの規模である。平面楕円形、断面箱状で、覆土には、ロームが混入していた。覆土の遺物は、全て古墳時代中期の土器で、４区では覆土中に甕破片が大量に廃棄された状態を確認した。覆土中には、古代とされる遺物は皆無であった。一部未調査区があるが、西側部分に溝が切れる範囲があるが、環状となる溝である。底面には、ピットが観察される。溝の底面及び形状は一定ではなく高低差があり、掘削の癖が認められる。Ｍ－８号は、Ｍ－９号の溝が途切れたところから延び、Ｈ－14号と同じ覆土であり、両者の切り合いが難しい状況であったが、溝が新しいと判断した。溝は途中で北へ90度曲がり、徐々に浅くなり、北側斜面で確認できなくなる。出土遺物は古墳時代中期の土器であり、Ｍ－９号同様、古代のものは無い。

２条の溝は、一部住居址との切り合いが認められるが、集落内でも住居址群から単独で配置されている。特にＭ－９号は、溝の一部が切れていること（入り口施設か）、内側が無遺構地帯であることから、何らかの区画を意識した溝の可能性がある。時期は、古墳時代中期と推定される。

土坑（第223図、第37表）

７基確認した。平面円形、楕円形で、断面浅い鍋底状である。覆土はⅢ層を基本とする土層で、ローム粒子が混入する。Ｄ－２～７号では、覆土内から土師器甕片が出土した。全て同時期とは言えないが、古墳時代中期と推定される。

埋設土器（第222図、第25表）

古墳時代の土師器甕片が浅いピットに埋設されたものである。性格は不明である。

（４）古代の遺構

住居址（第224～225図、第19表）

調査区中央で２軒（Ｈ－７、10号住）を確認した。Ｈ－７号は平面がやや歪んだ正方形である。竈は痕跡のみで浅く土坑状であった。遺物は土師質土器、羽釜が出土した。Ｈ－10号は、平面長方形で南東隅に竈がある。竈は礫を並べた形態である。２軒とも覆土上部に浅間Ｂ軽石が堆積した自然埋没である。時期は10世紀後半から11世紀初頭である。

溝（第222図、第25表）

１条確認した。Ｍ－10号は、覆土に浅間Ｂ軽石を含む浅いもので、途中で途切れる。

炭焼窯（第222図、第25表）

１基確認した。覆土に炭化物の砕片が大量に混入する。西側に張出がある。

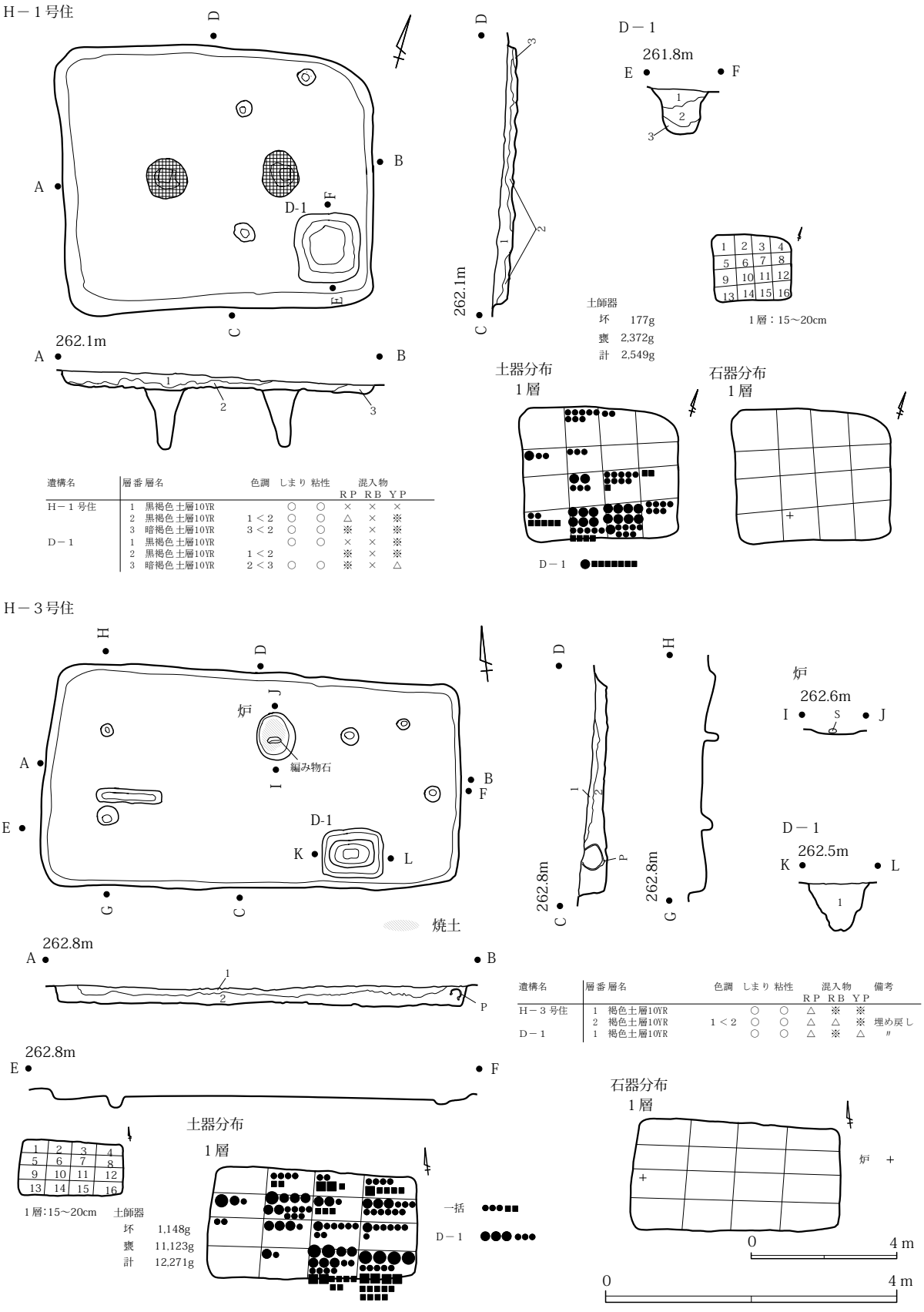
（５）Ｂ区の調査

溝（第226図、第25表）

東向原地区では、覆土に浅間Ｂ軽石を含む４条の溝を確認した。Ｍ－11号は幅約200㎝、深さ約30㎝で直線である。覆土は浅間Ｂ軽石を含む黒色土で埋め戻しによる堆積である。Ｍ－12、13号は、西側部分は確認できなかったが、Ｍ－11号を切って平行して検出された。両溝とも底面及び覆土中位に硬化面が確認された。Ｍ－11号は、低地に向かって延びるが、Ｍ－12・13号は、斜面に平行して延びる。覆土の状況から枝谷津地区のＭ－５、６号に類似する。検出した２条の溝の機能については、部分的調査であったため不明である。Ｂ区の溝からは、混入と思われる縄文土器、古墳時代土師器片が少数出土した。溝の時期は、平安時代以降の所産と推定される。

ピット群（第226図）

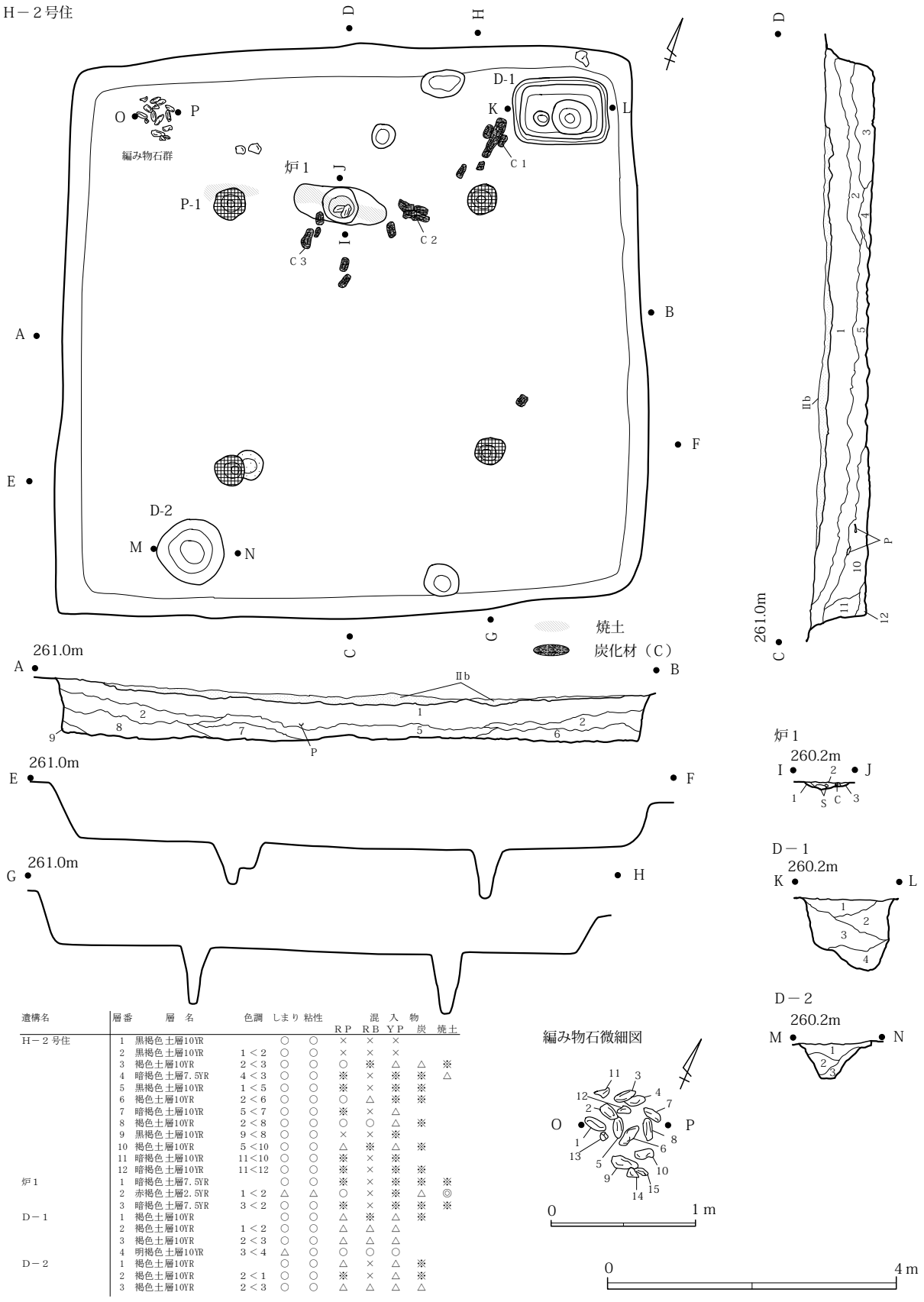
調査区では、Ｍ－11号の東側でほぼ等間隔に並ぶピット列２か所と不規則に分布するピットを確認した。ピット列は同一方向に並ぶもので、柵列等の杭穴の可能性がある。覆土は黒色土である。遺物は、混入と思われる土師器片が少数出土した。



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－1号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	※
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※
	2	黒褐色土層10YR	1＜2			※	×	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	△

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	備考
H－3号住	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	※	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	※	埋め戻し
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	〃

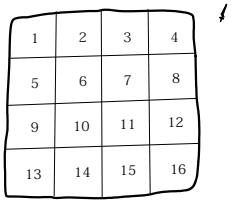
第187図　人見東向原遺跡（古墳）H－1・3号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土
H－２号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	○	※	△	△	※
	4	暗褐色土層7.5YR	4＜3	○	○	※	×	※	※	△
	5	黒褐色土層10YR	1＜5	○	○	※	×	※	※	
	6	褐色土層10YR	2＜6	○	○	○	△	※	※	
	7	暗褐色土層10YR	5＜7	○	○	※	×	△		
	8	褐色土層10YR	2＜8	○	○	○	○	△	※	
	9	黒褐色土層10YR	9＜8	○	○	×	×	※		
	10	褐色土層10YR	5＜10	○	○	△	※	△	※	
	11	暗褐色土層10YR	11＜10	○	○	※	×	※		
	12	暗褐色土層10YR	11＜12	○	○	※	×	※	※	
炉１	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	※	※	※
	2	赤褐色土層2.5YR	1＜2	△	△	○	×	※	△	◎
	3	暗褐色土層7.5YR	3＜2	○	○	※	×	※	※	※
D－１	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	※	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	△		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	△	△		
	4	明褐色土層10YR	3＜4	△	○	○	○	○		
D－２	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	△	※	
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	△	※	
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	△	△	△	

第188図　人見東向原遺跡（古墳）Ｈ－２号住居址実測図（１）

Ｈ－２号住



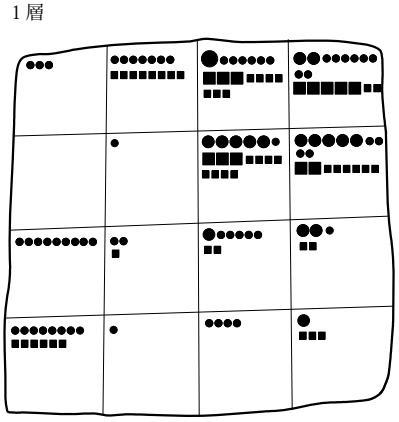
土師器

坏	10,234g
甕	25,848g
その他	19g
計	36,101g

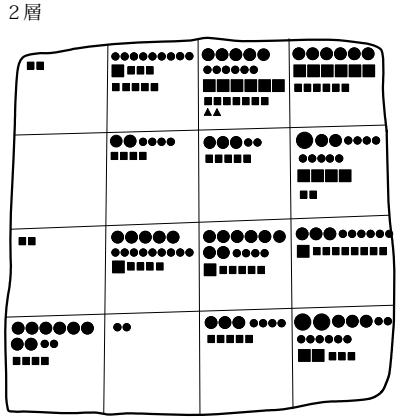
1層:20～30cm
2層:20～30cm
3層:0～20cm

土器分布

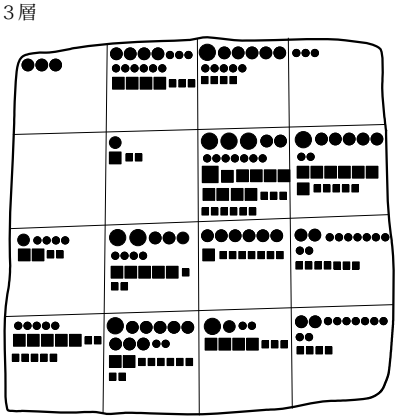
1層



2層

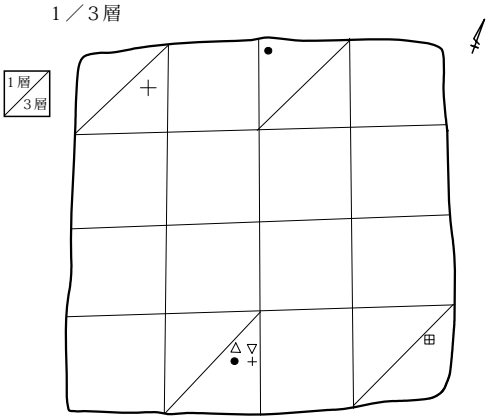


3層



石器分布

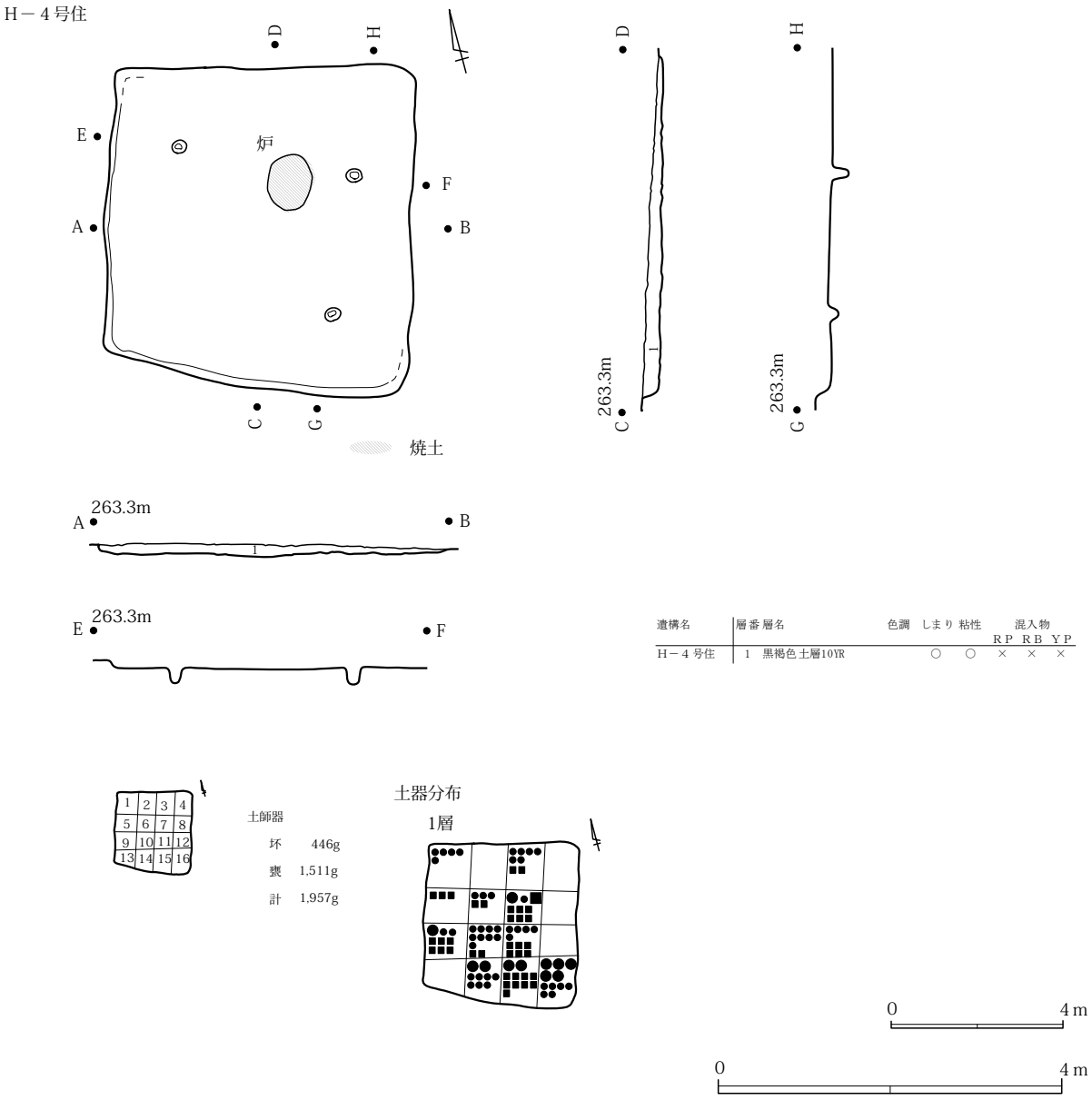
1／3層



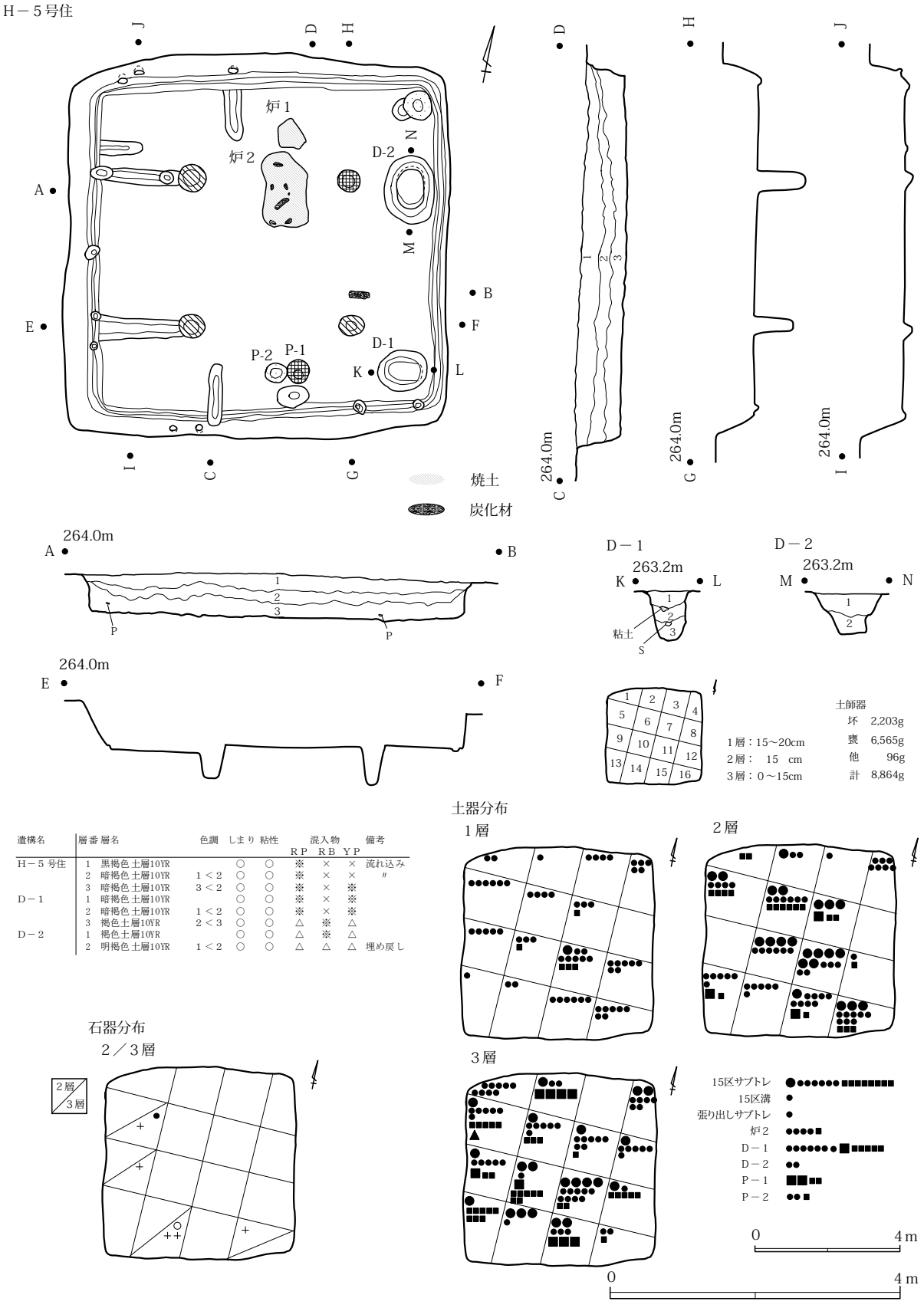
1区拡張
P－1
周辺一括
炉 ++

0 4m

第189図　人見東向原遺跡（古墳）Ｈ－２号住居址実測図（２）



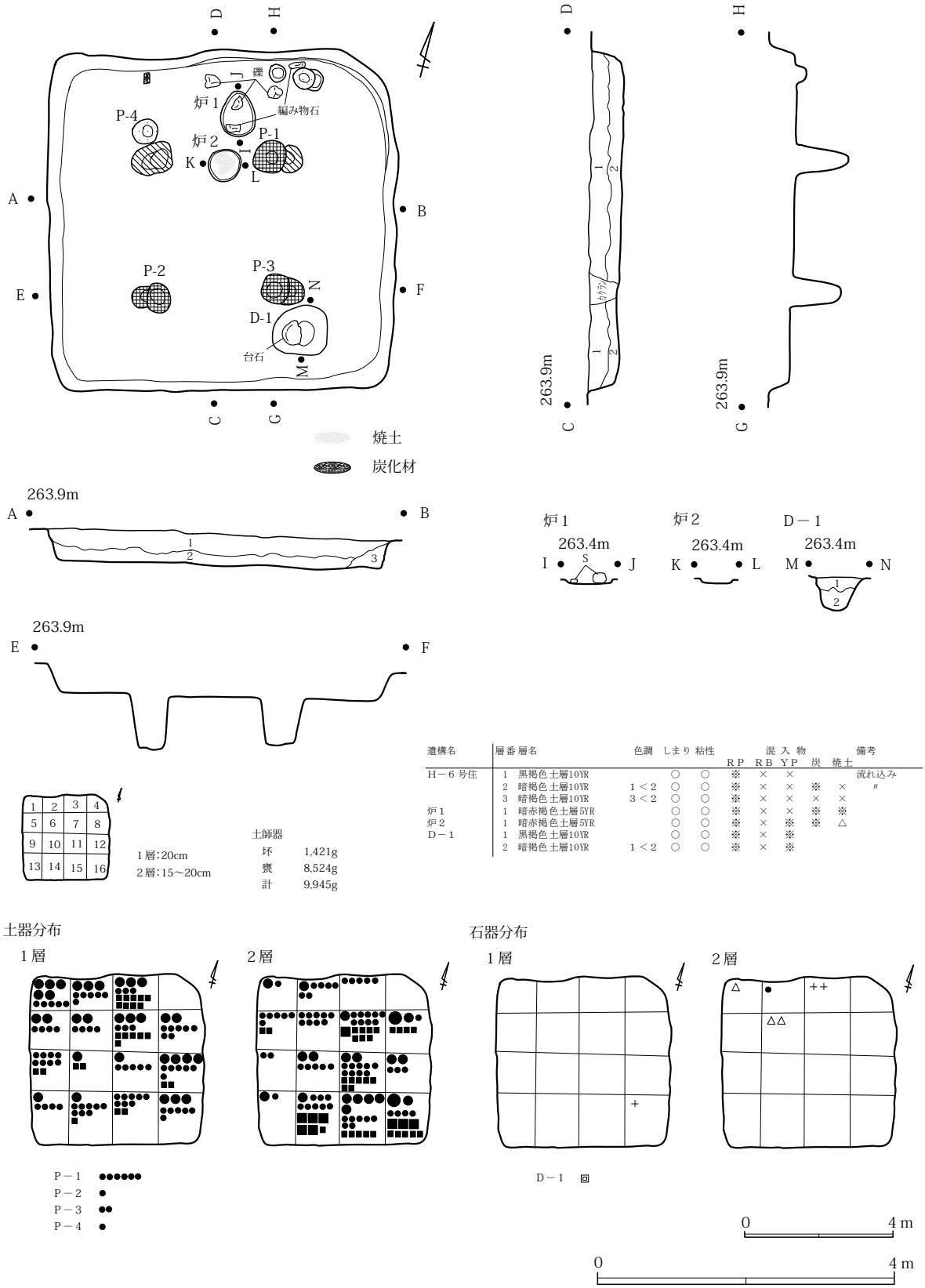
第190図　人見東向原遺跡（古墳）H－4号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－５号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	流れ込み
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	〃
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※	
D－１	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	△	
D－２	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	
	2	明褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	△	埋め戻し

第191図　人見東向原遺跡（古墳）H－５号住居址実測図

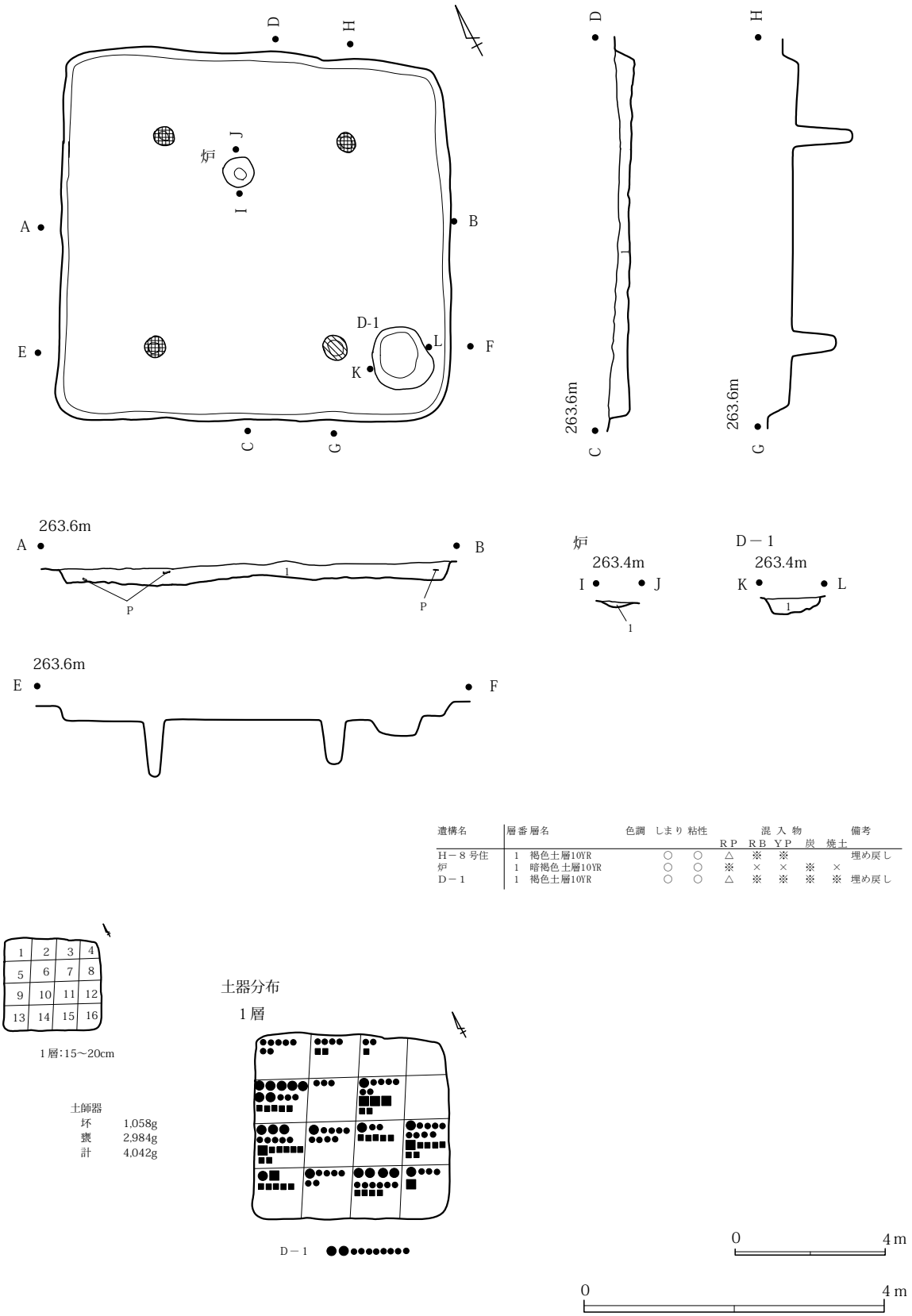
H－６号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－６号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×			流れ込み
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	※	×	〃
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	×	×	×	
炉１	1	暗赤褐色土層5YR		○	○	※	×	×	※	※	
炉２	1	暗赤褐色土層5YR		○	○	※	×	※	※	△	
D－１	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			

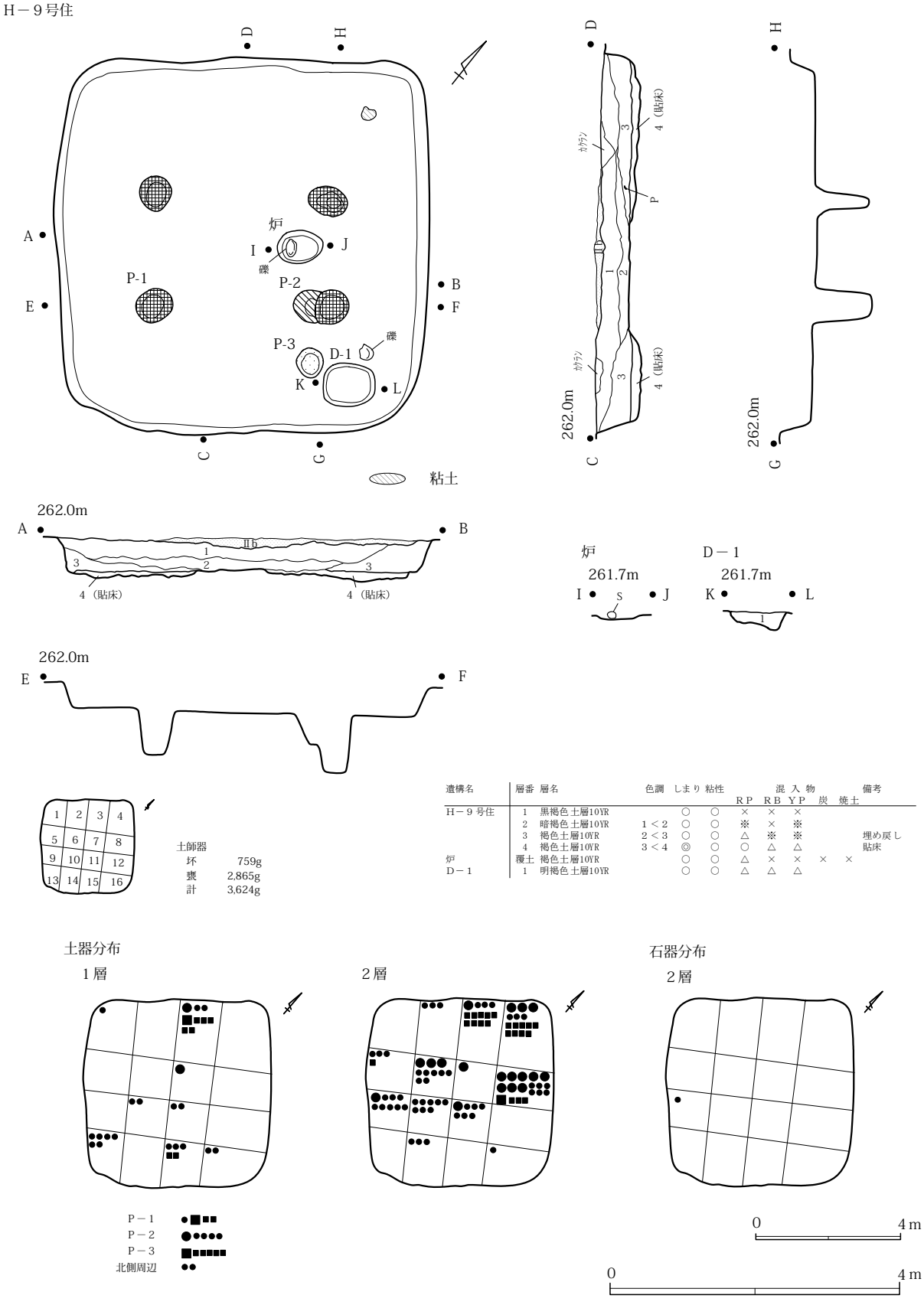
第192図　人見東向原遺跡（古墳）H－６号住居址実測図

H－８号住



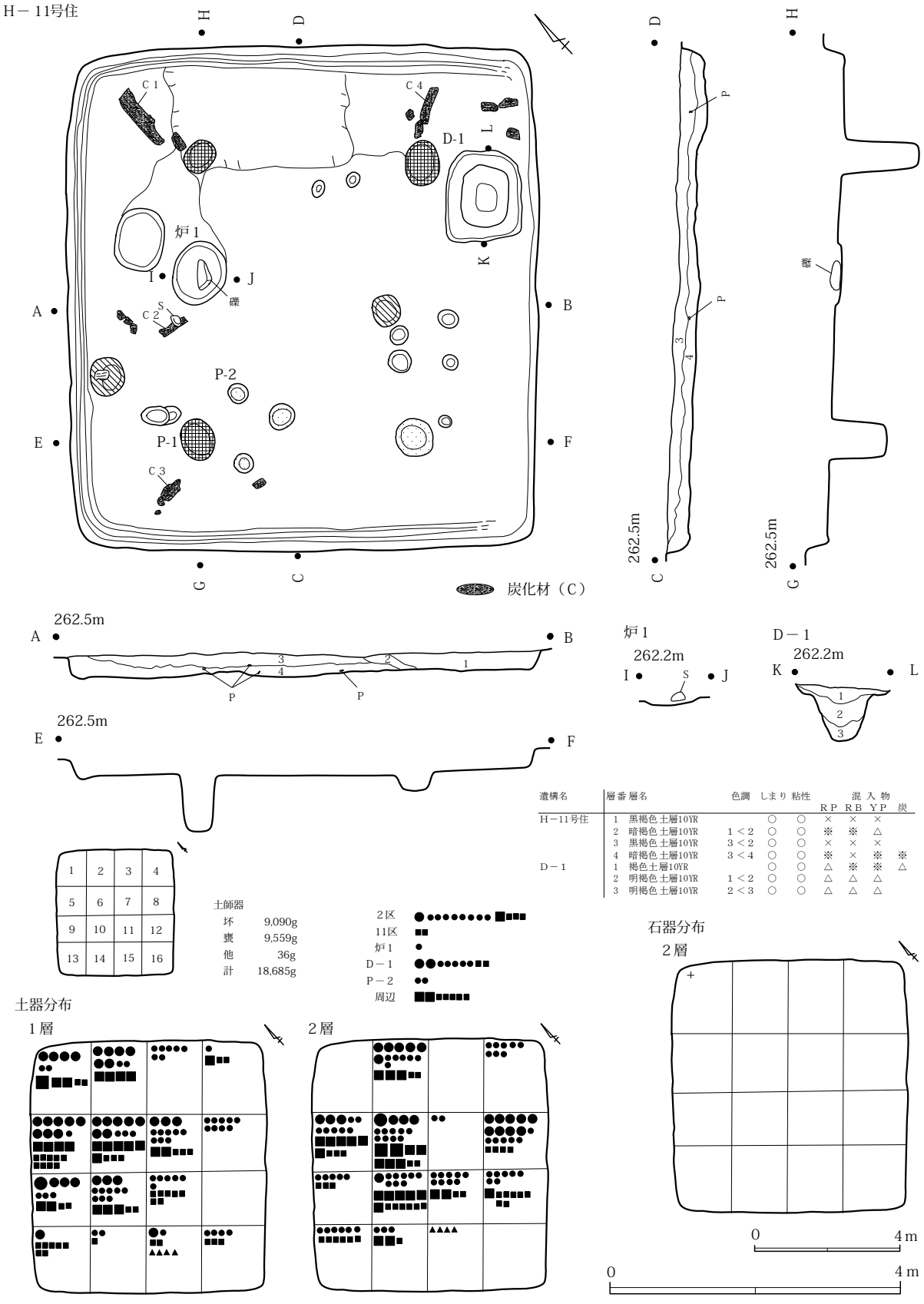
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－８号住	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	※			埋め戻し
炉	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	×	
D－１	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	※	※	※	埋め戻し

第193図　人見東向原遺跡（古墳）H－８号住居址実測図



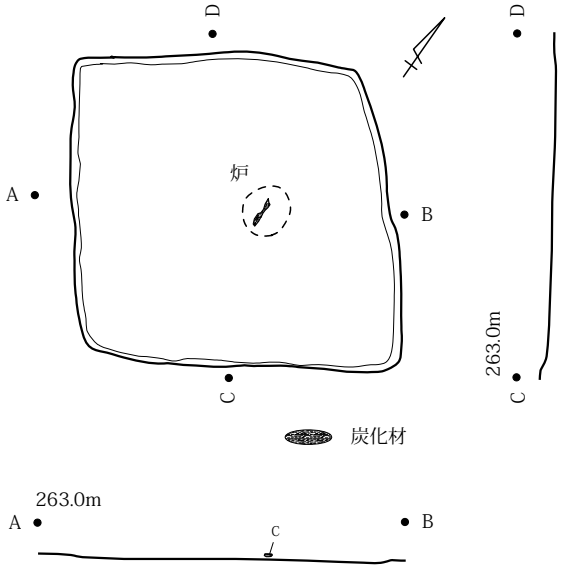
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－９号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	※			埋め戻し
	4	褐色土層10YR	3＜4	◎	○	○	△	△			貼床
炉	覆土	褐色土層10YR		○	○	△	×	×	×	×	
D－１	1	明褐色土層10YR		○	○	△	△	△			

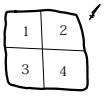
第194図　人見東向原遺跡（古墳）H－９号住居址実測図



第195図　人見東向原遺跡（古墳）H－11号住居址実測図

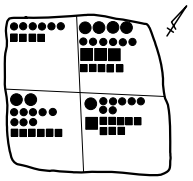
H－12号住



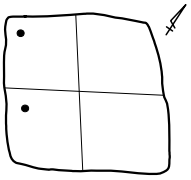


土師器
坏　630g
甕　974g
計　1,604g

土器分布
1層

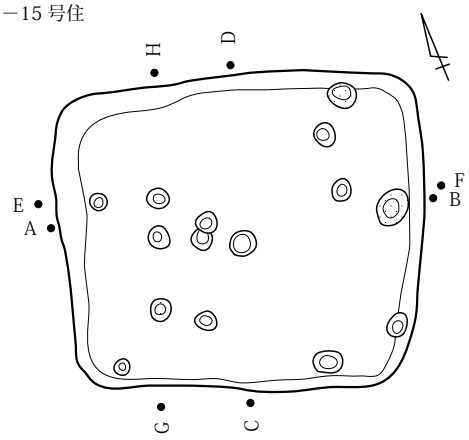


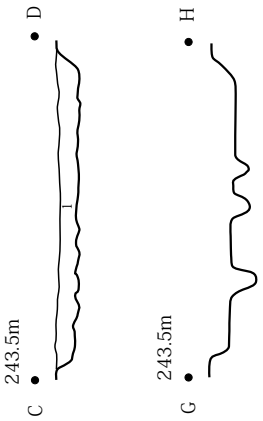
石器分布
1層

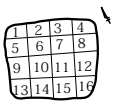


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－12号住		覆土 黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※

H－15号住

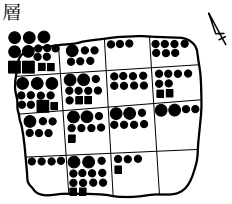






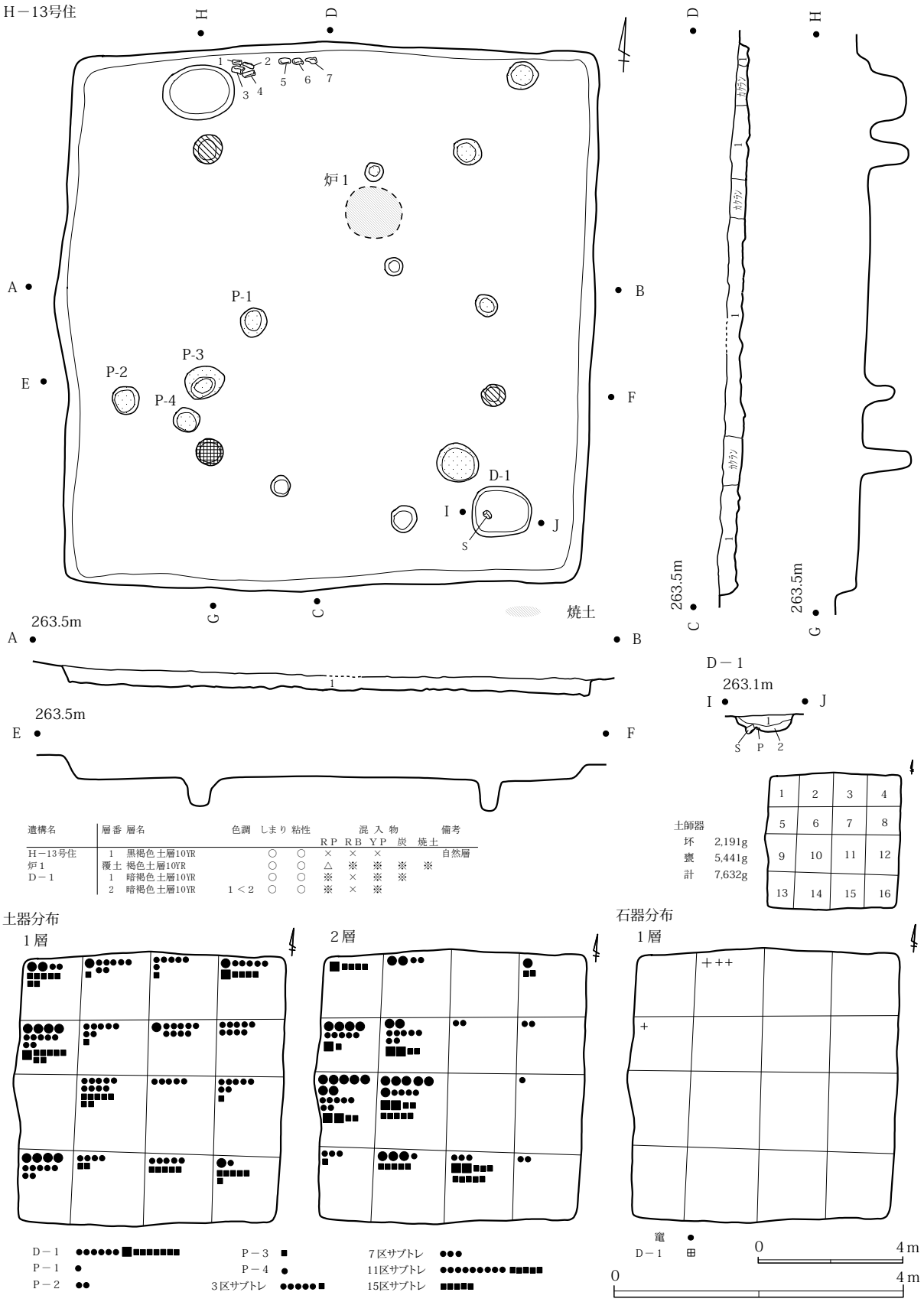
土師器
坏　400g
甕　2,760g
計　3,160g

土器分布
1層

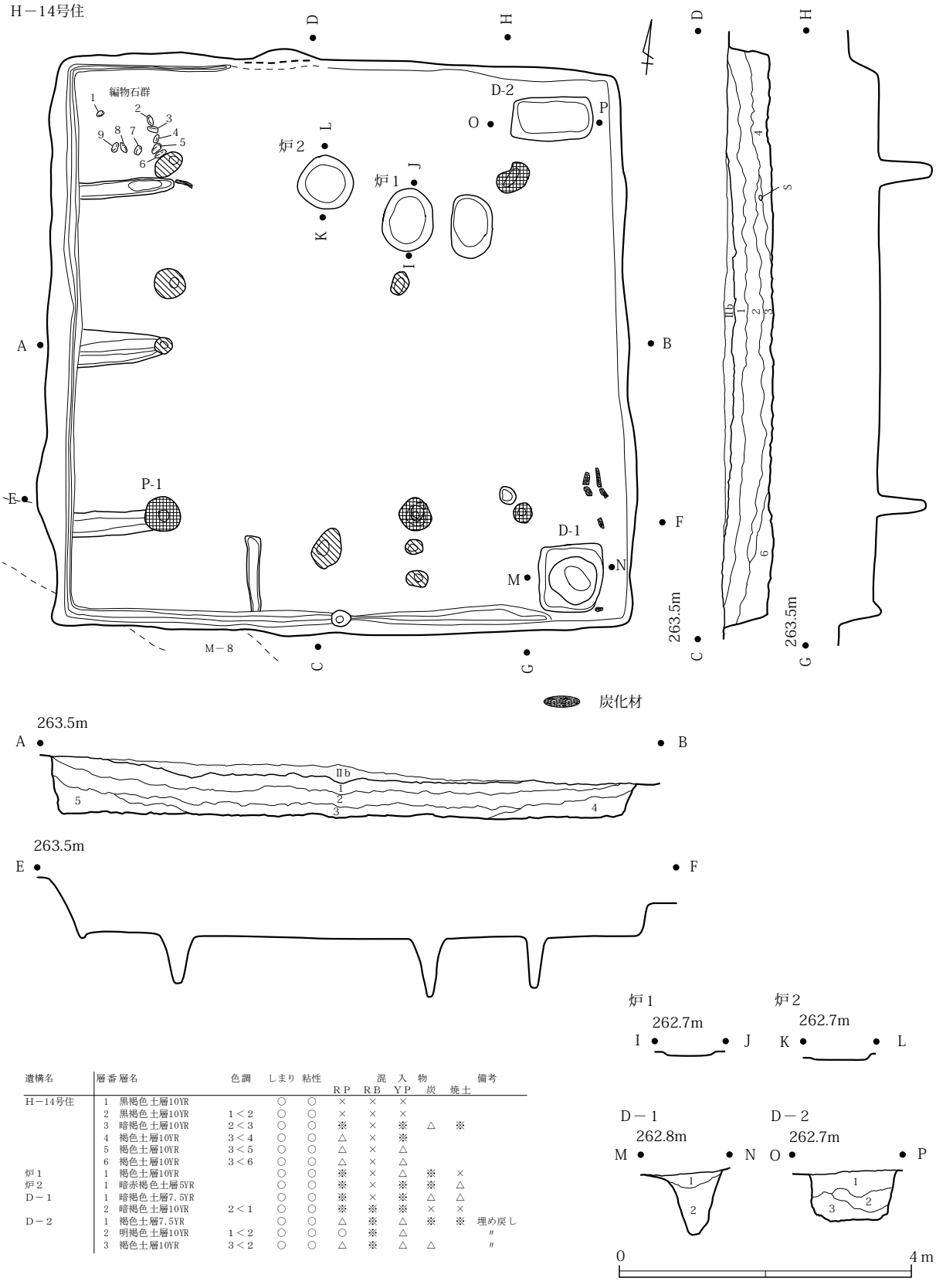


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－15号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※

第196図　人見東向原遺跡（古墳）H－12・15号住居址実測図



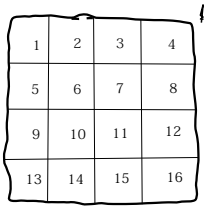
第197図　人見東向原遺跡（古墳）H－13号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－14号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	△	※	
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	※			
	5	褐色土層10YR	3＜5	○	○	△	×	△			
	6	褐色土層10YR	3＜6	○	○	△	×	△			
炉1	1	褐色土層10YR		○	○	※	×	△	※	×	
炉2	1	暗赤褐色土層5YR		○	○	※	×	※	※	△	
D－1	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	※	△	△	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	※	※	×	×	
D－2	1	褐色土層7.5YR		○	○	△	※	△	※	※	埋め戻し
	2	明褐色土層10YR	1＜2	○	○	○	※	△			〃
	3	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	※	△	△		〃

第198図　人見東向原遺跡（古墳）H－14号住居址実測図（1）

H－14号住

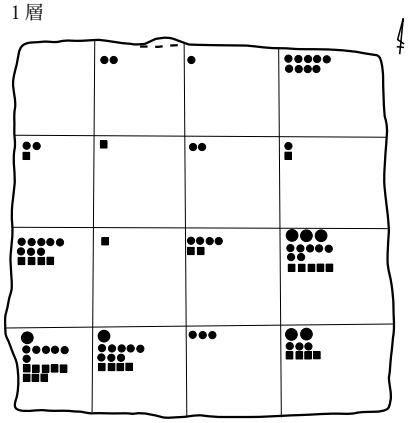


1層:20～30cm
2層:20cm
3層:0～20cm

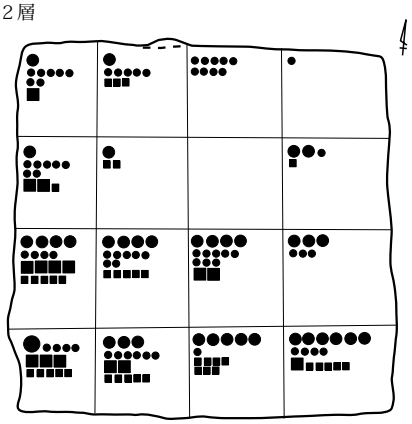
土師器
坏　3,910g
甕　14,625g
計　18,535g

土器分布

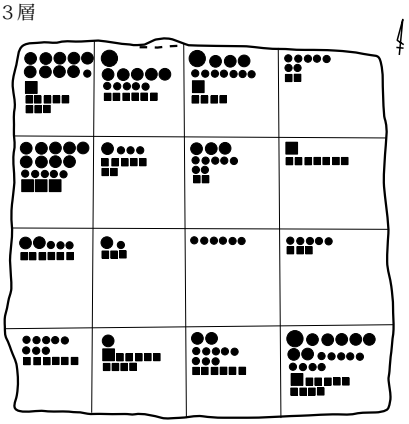
1層



2層



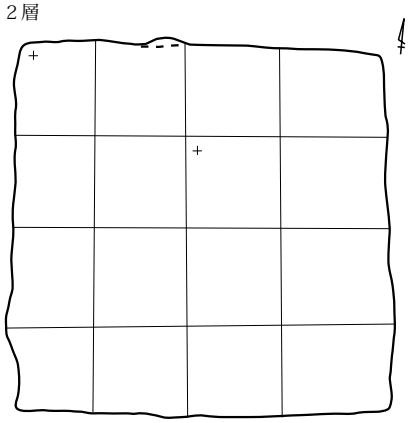
3層



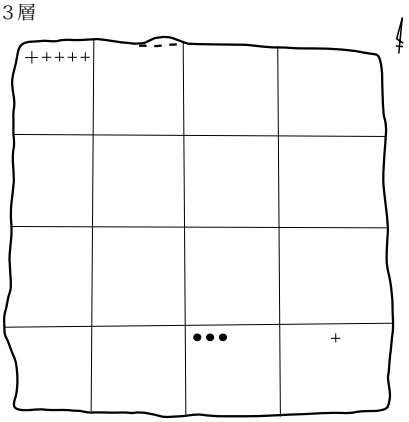
14区溝
炉1
D－1
D－2
P－1
周辺

石器分布

2層

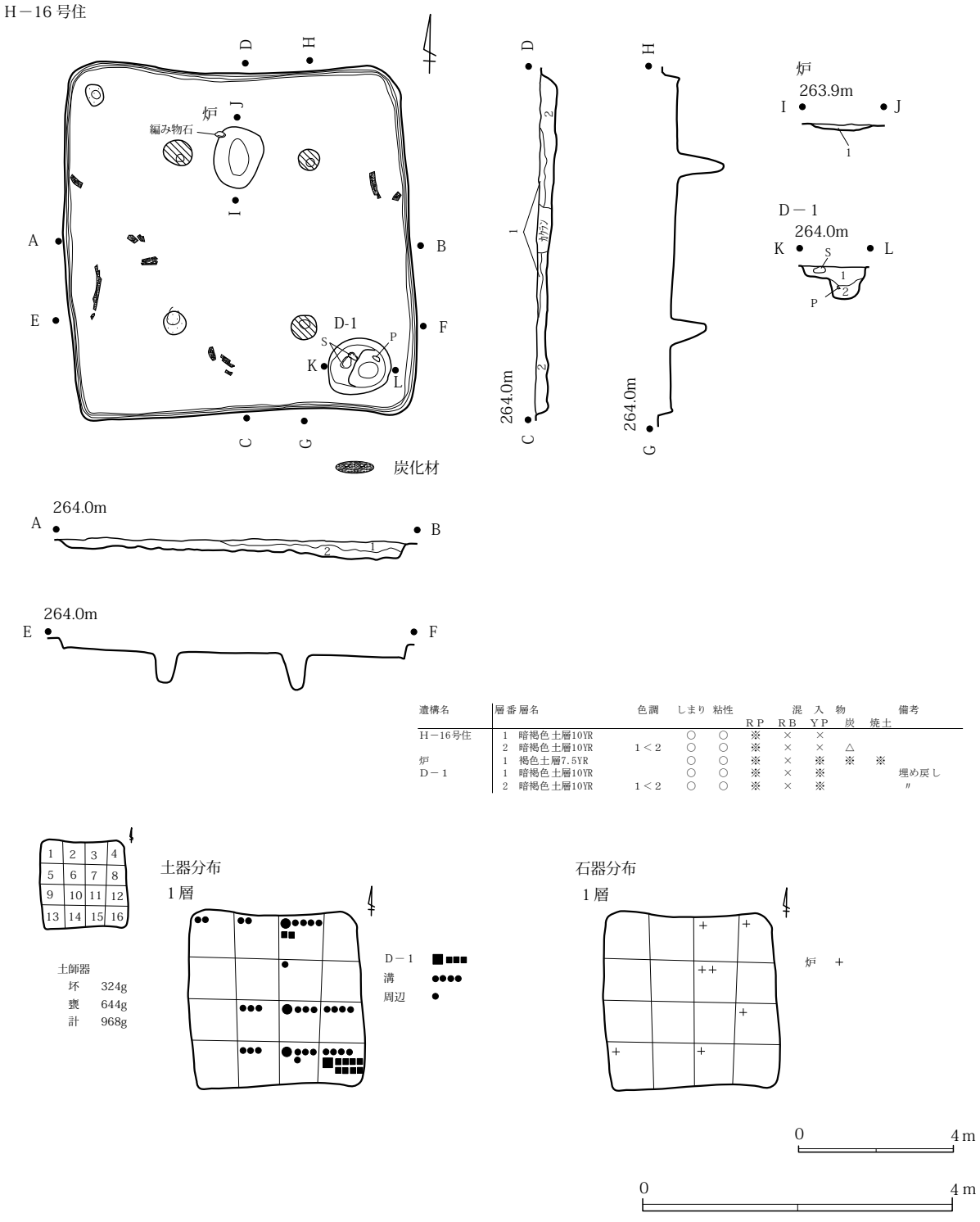


3層



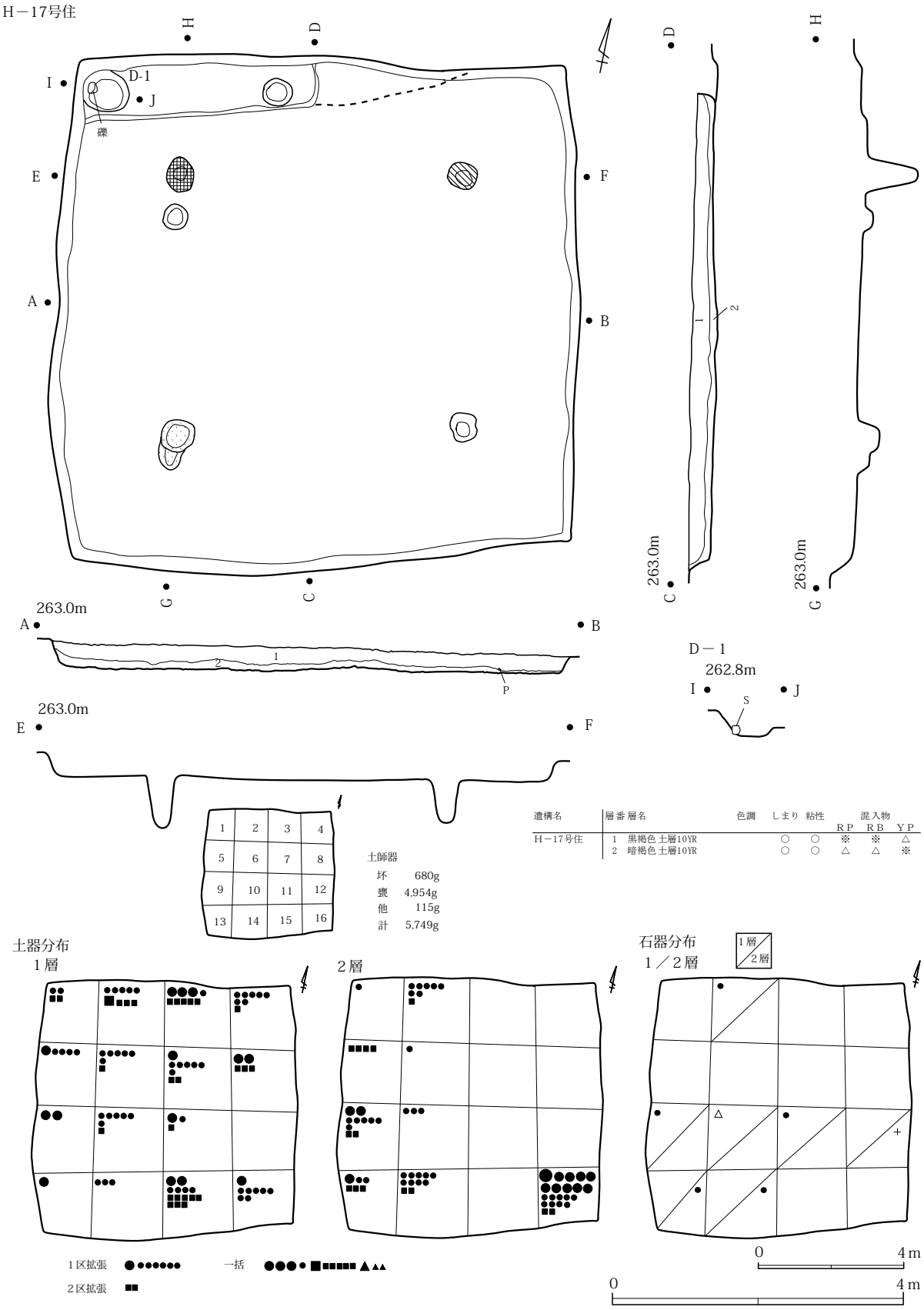
0　4m

第199図　人見東向原遺跡（古墳）H－14号住居址実測図（2）

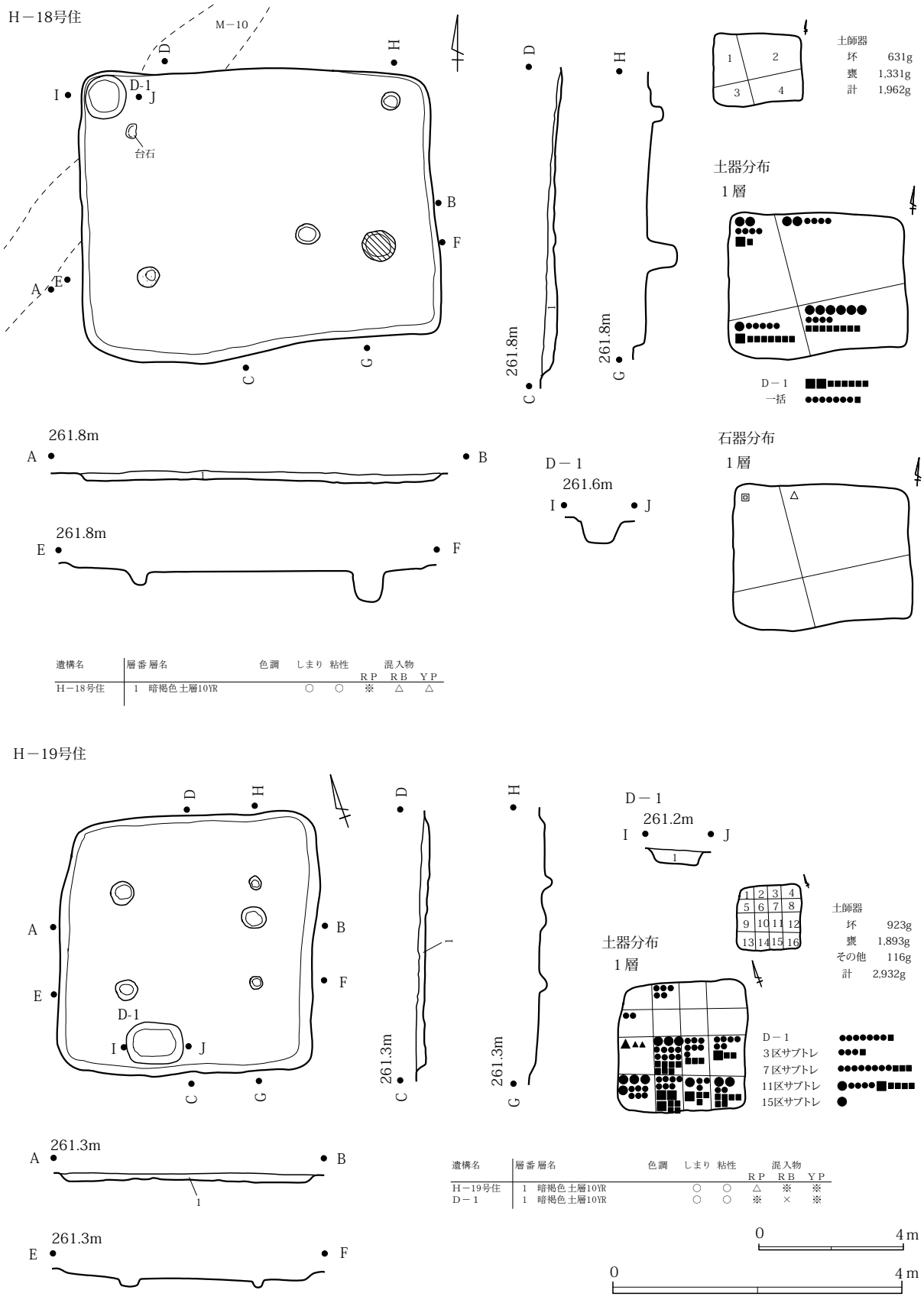


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－16号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	△		
炉	1	褐色土層7.5YR		○	○	※	×	※	※	※	
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			埋め戻し
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			〃

第200図　人見東向原遺跡（古墳）H－16号住居址実測図



第201図　人見東向原遺跡（古墳）H－17号住居址実測図

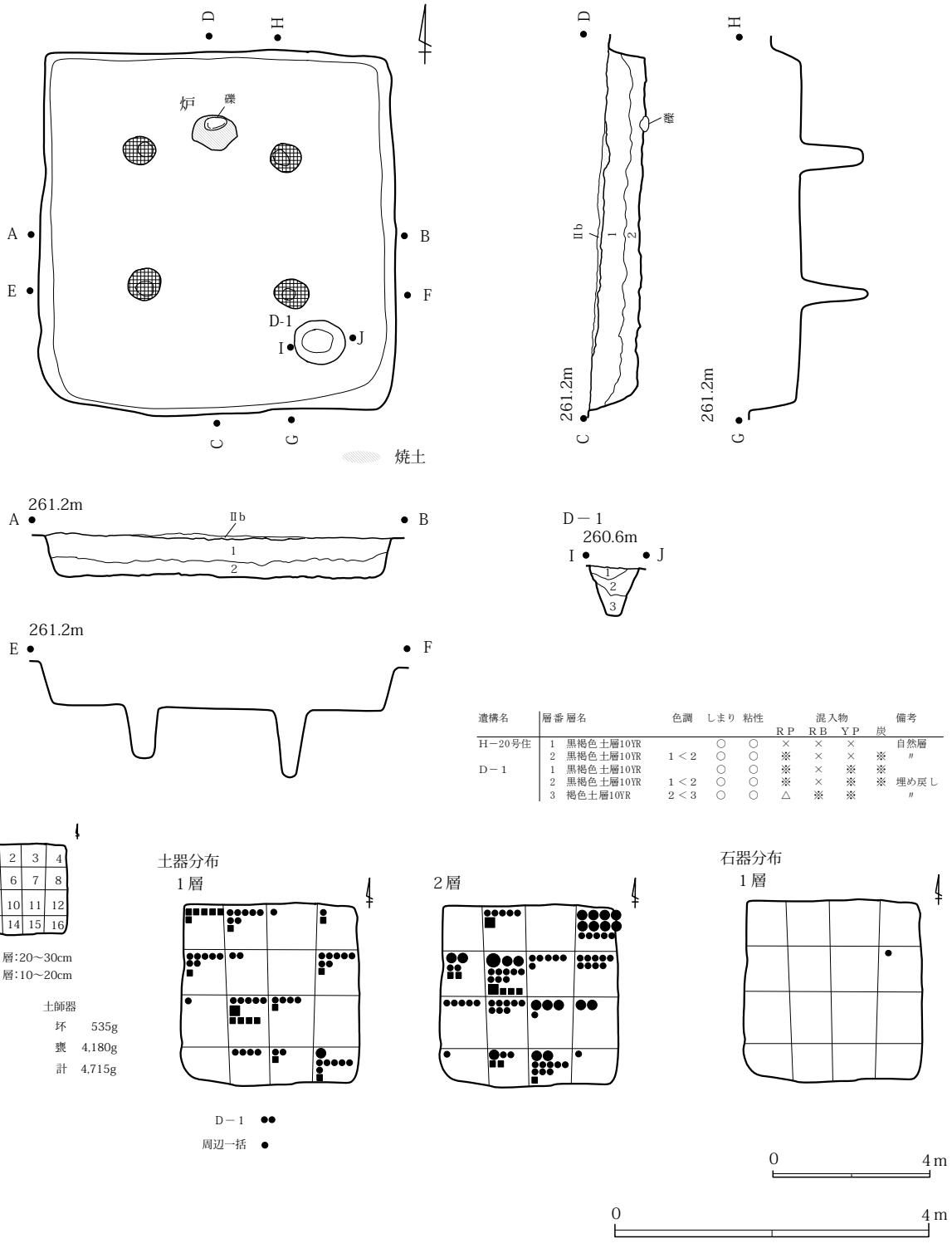


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－18号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	△	△

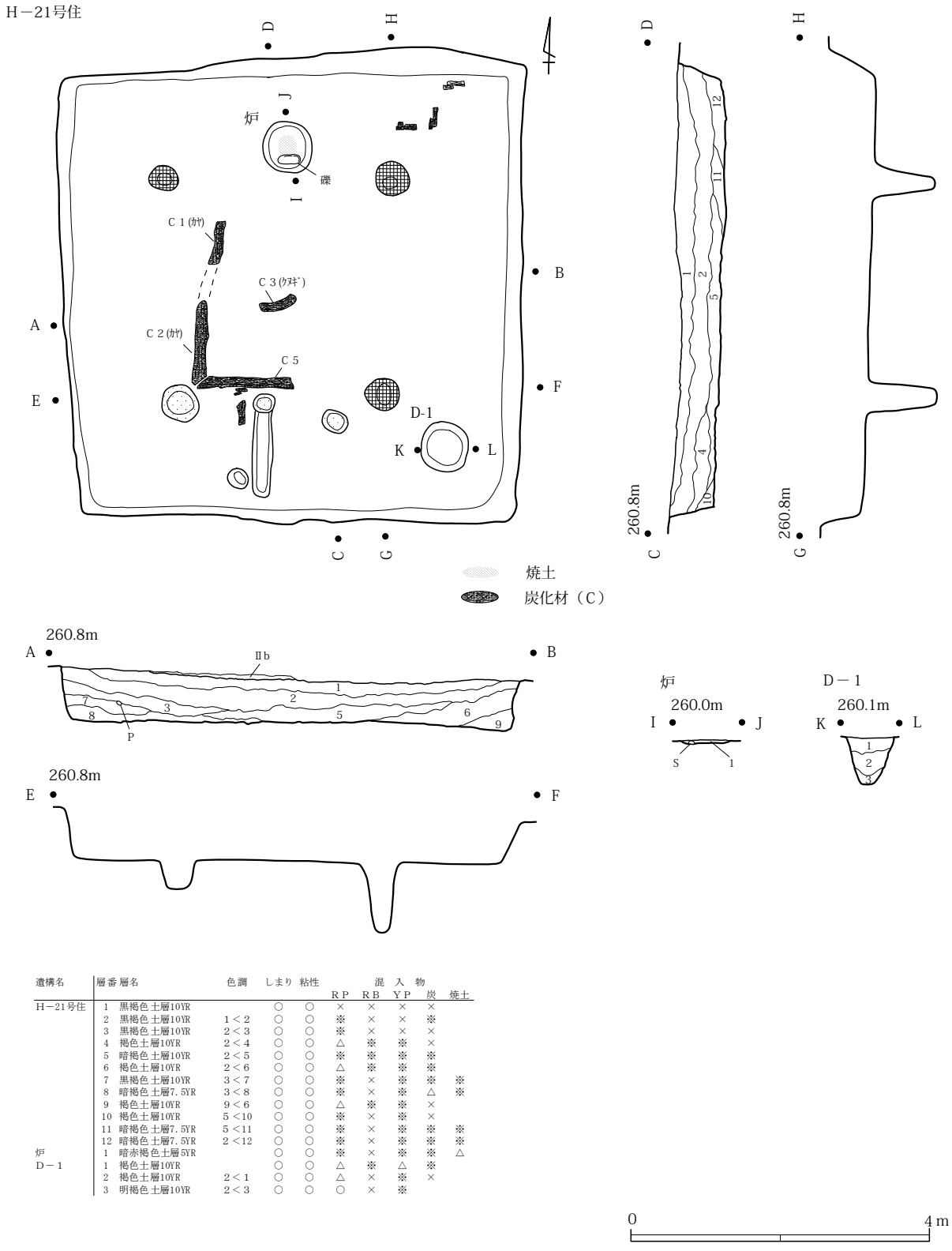
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－19号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	△	※	※
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※

第202図　人見東向原遺跡（古墳）H－18・19号住居址実測図

H－20号住



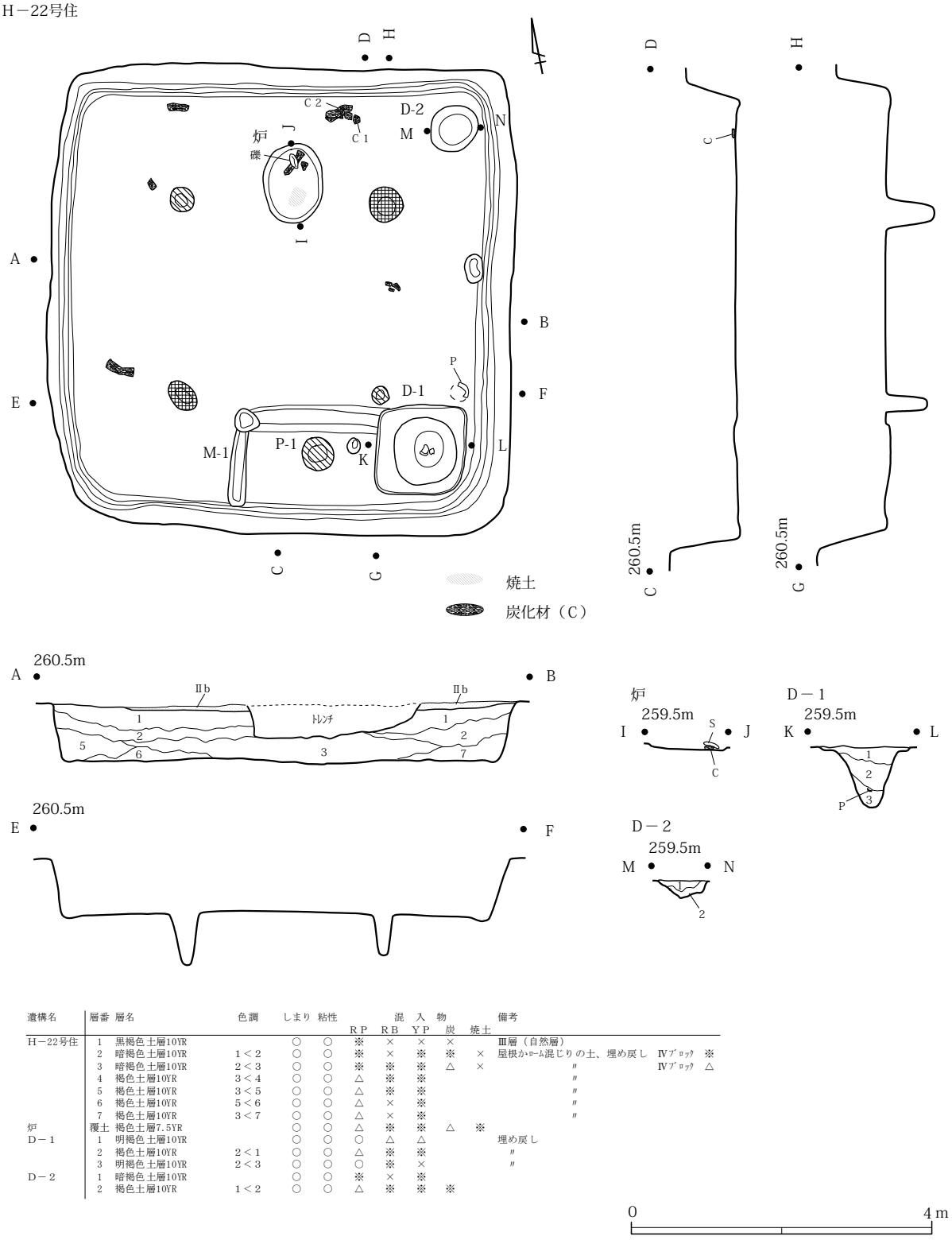
第203図　人見東向原遺跡（古墳）H－20号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－21号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	※	
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	×	
	4	褐色土層10YR	2＜4	○	○	△	※	※	×	
	5	暗褐色土層10YR	2＜5	○	○	※	※	※	※	
	6	褐色土層10YR	2＜6	○	○	△	※	※	※	
	7	黒褐色土層10YR	3＜7	○	○	※	×	※	※	※
	8	暗褐色土層7.5YR	3＜8	○	○	※	×	※	△	※
	9	褐色土層10YR	9＜6	○	○	△	※	※	×	
	10	褐色土層10YR	5＜10	○	○	※	×	※	×	
	11	暗褐色土層7.5YR	5＜11	○	○	※	×	※	※	※
	12	暗褐色土層7.5YR	2＜12	○	○	※	×	※	※	※
炉	1	暗赤褐色土層5YR		○	○	※	×	※	※	△
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	※	
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	×	※	×	
	3	明褐色土層10YR	2＜3	○	○	○	×	※		

第204図　人見東向原遺跡（古墳）H－21号住居址実測図

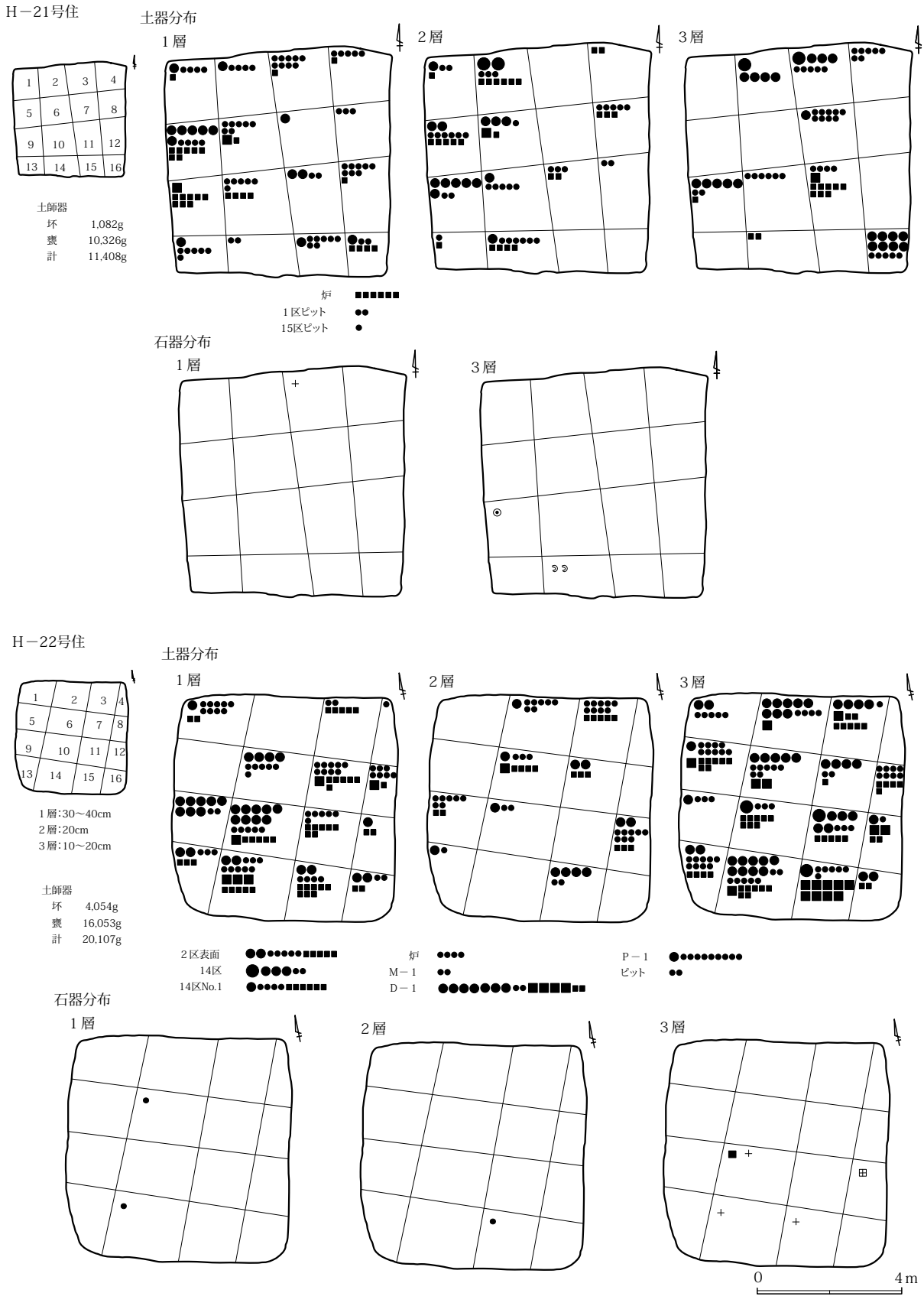
H－22号住



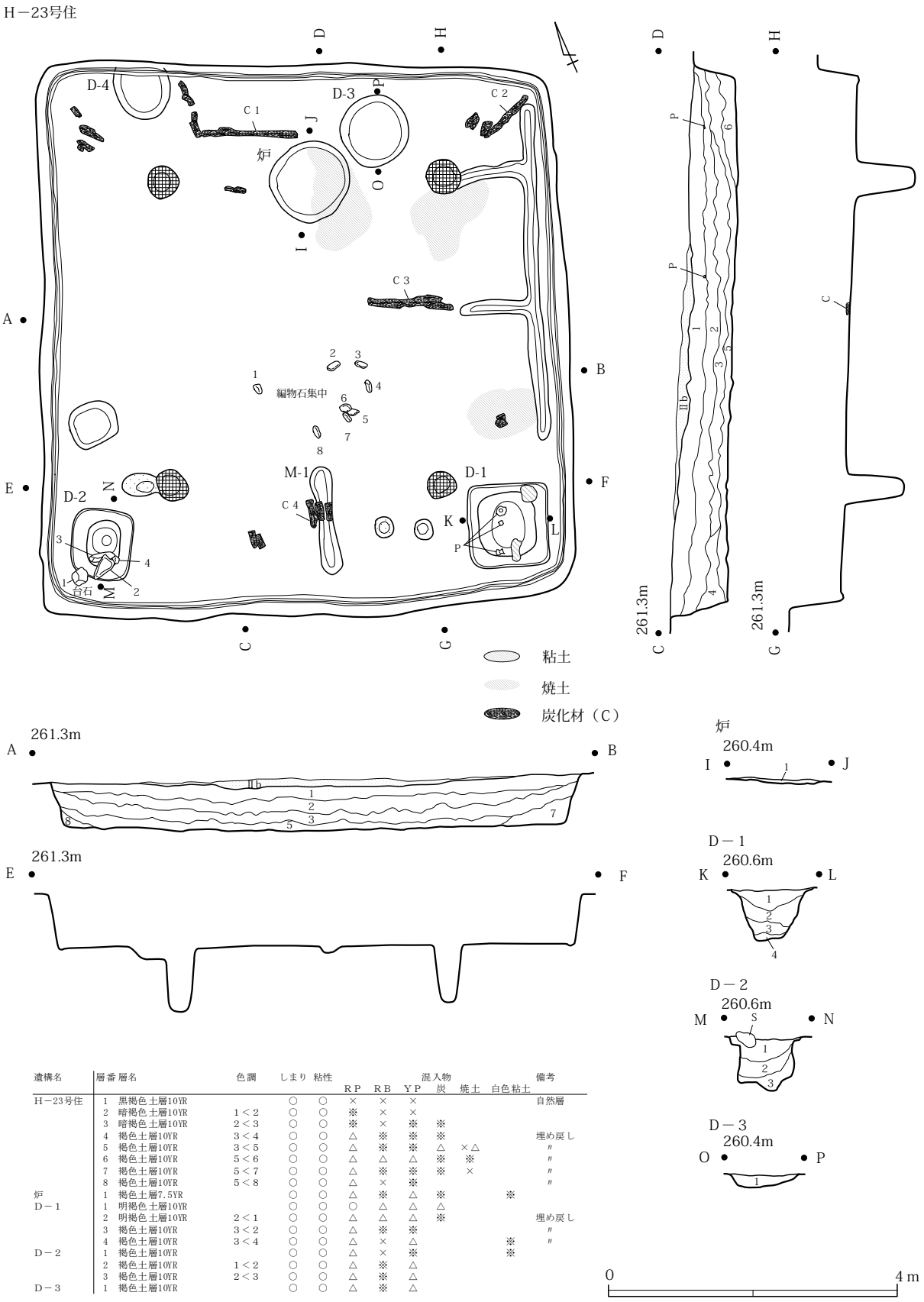
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－22号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	×		Ⅲ層（自然層）
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※	×	屋根ｶﾊﾞｰﾑ混じりの土、埋め戻し Ⅳﾌﾞﾛｯｸ ※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※	△	×	〃 Ⅳﾌﾞﾛｯｸ △
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	※	※			〃
	5	褐色土層10YR	3＜5	○	○	△	※	※			〃
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	×	※			〃
	7	褐色土層10YR	3＜7	○	○	△	×	※			〃
炉	覆土	褐色土層7.5YR		○	○	△	※	※	△	※	
D－1	1	明褐色土層10YR		○	○	○	△	△			埋め戻し
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	※	※			〃
	3	明褐色土層10YR	2＜3	○	○	○	※	×			〃
D－2	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※	※		

0　4 m

第205図　人見東向原遺跡（古墳）H－22号住居址実測図



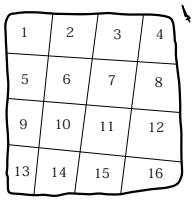
第206図　人見東向原遺跡（古墳）H－21・22号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色粘土	備考
H－23号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				自然層
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×				
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	※			
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	※	※	※			埋め戻し
	5	褐色土層10YR	3＜5	○	○	△	※	※	△	×△		〃
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	△	△	※	※		〃
	7	褐色土層10YR	5＜7	○	○	△	※	※	※	×		〃
	8	褐色土層10YR	5＜8	○	○	△	×	※				〃
炉	1	褐色土層7.5YR		○	○	△	※	△	※		※	
D－1	1	明褐色土層10YR		○	○	○	△	△	△			
	2	明褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	△	△	※			埋め戻し
	3	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	※	※				〃
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	△			※	〃
D－2	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	※			※	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	△				
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	△				
D－3	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△				

第207図　人見東向原遺跡（古墳）H－23号住居址実測図（1）

H－23号住

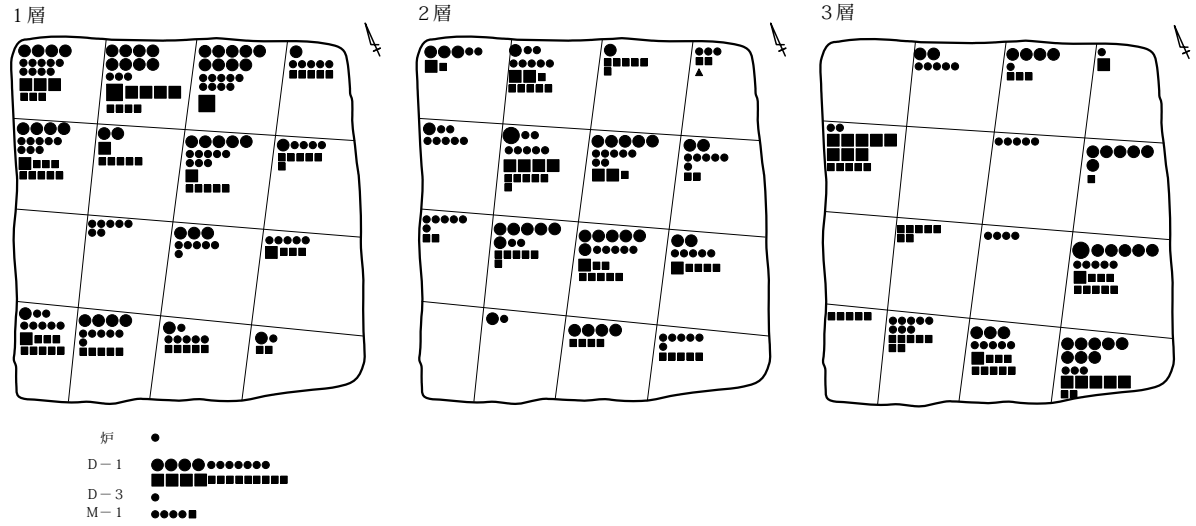


1層：20～30cm
2層：20cm
3層：0～20cm

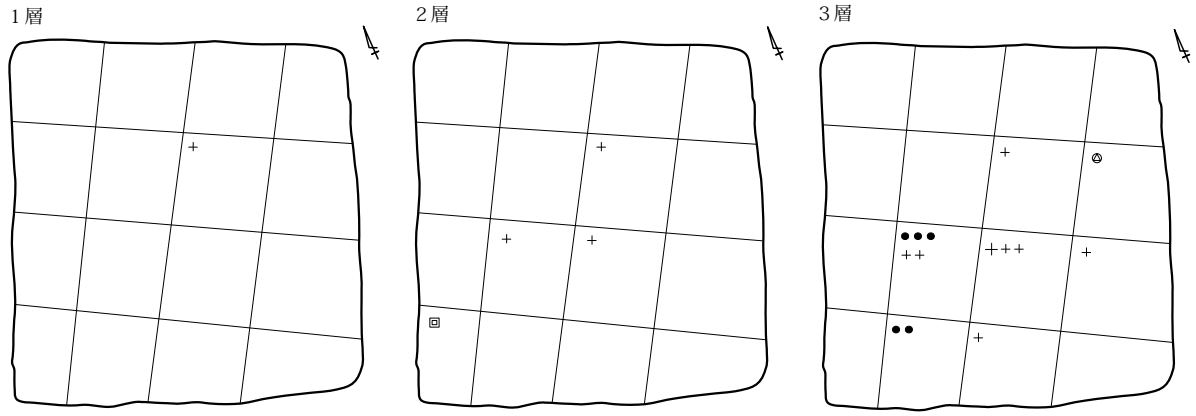
土師器

坏	7,957g
甕	14,755g
その他	9g
計	22,721g

土器分布

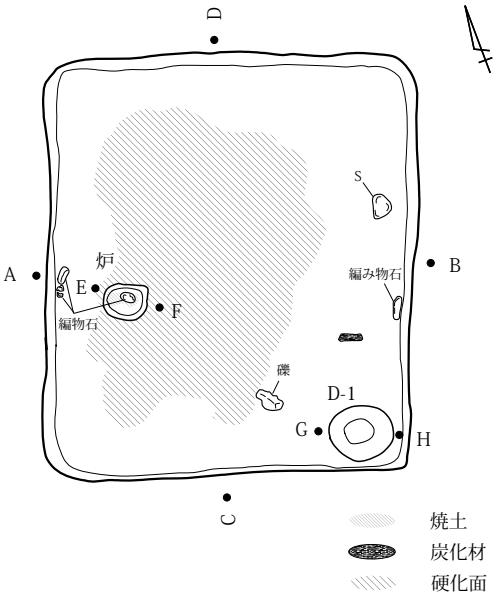


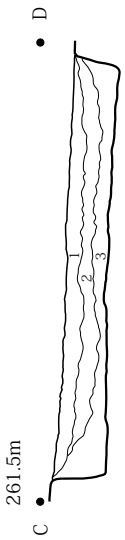
石器分布

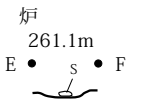


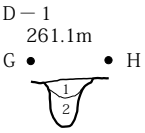
第208図　人見東向原遺跡（古墳）H－23号住居址実測図（2）

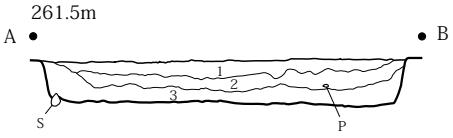
H－24号住



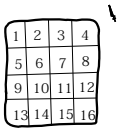








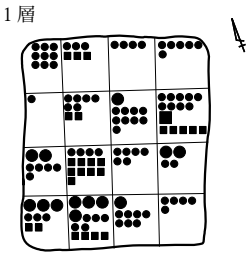
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	炭
H－24号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	※
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	×	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※	



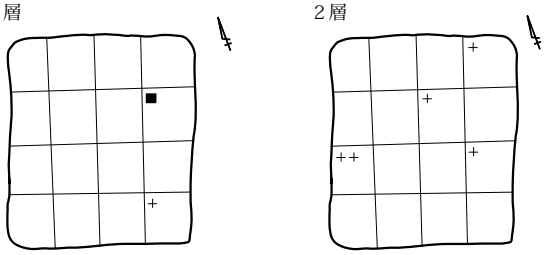
1層:20～30cm
2層:20cm

土師器
坏　643g
甕　6,026g
計　6,669g

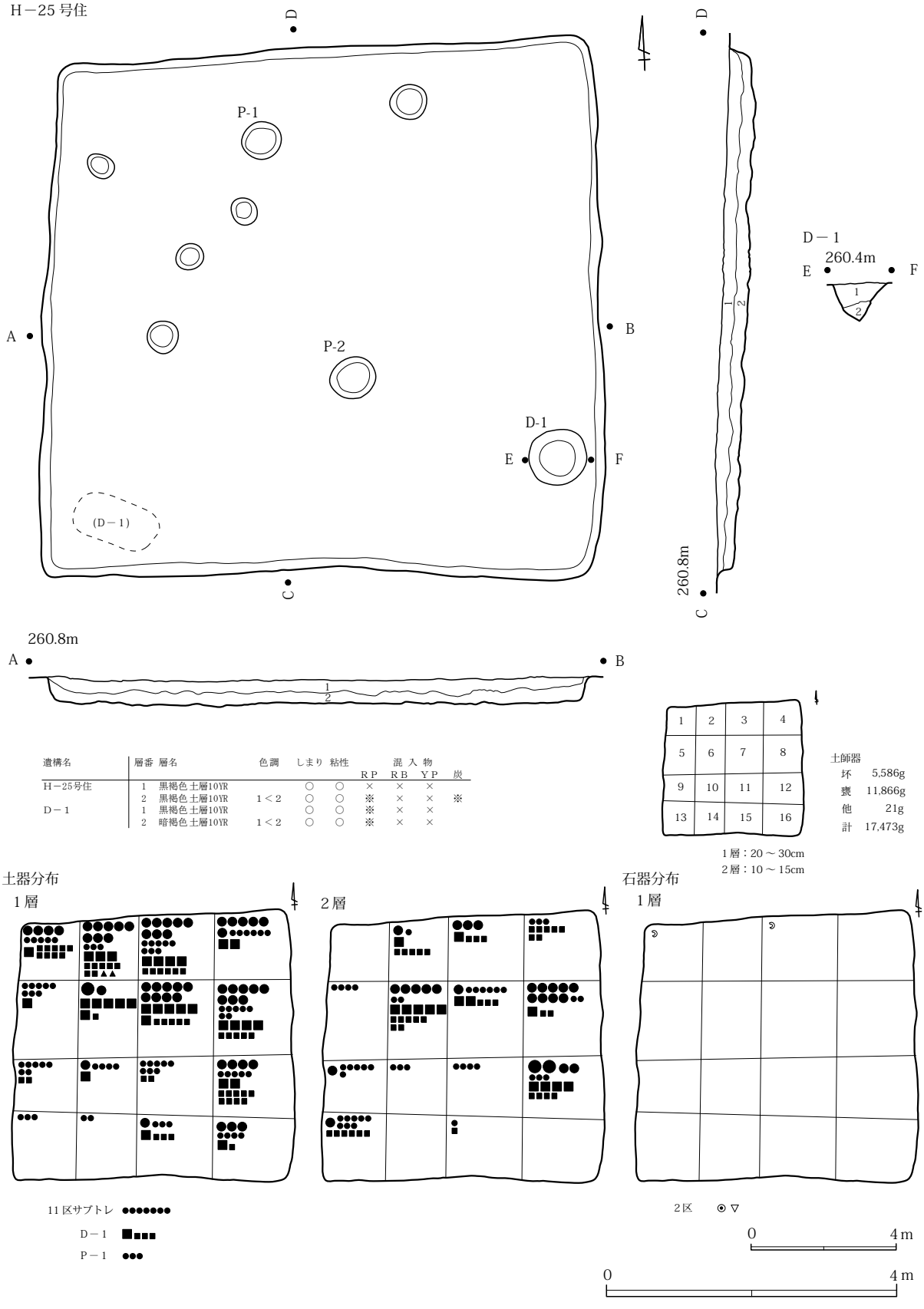
土器分布



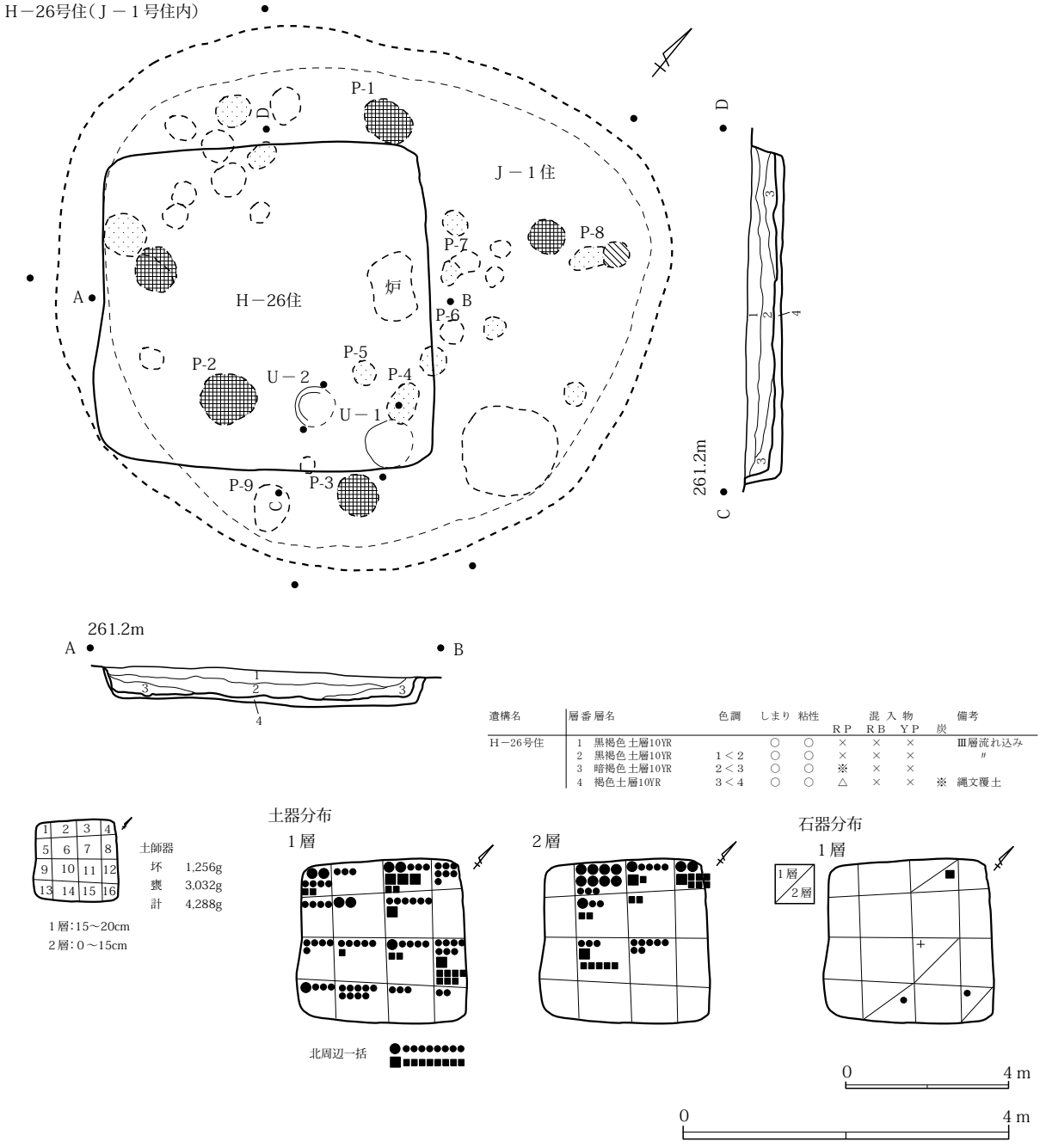
石器分布



第209図　人見東向原遺跡（古墳）H－24号住居址実測図

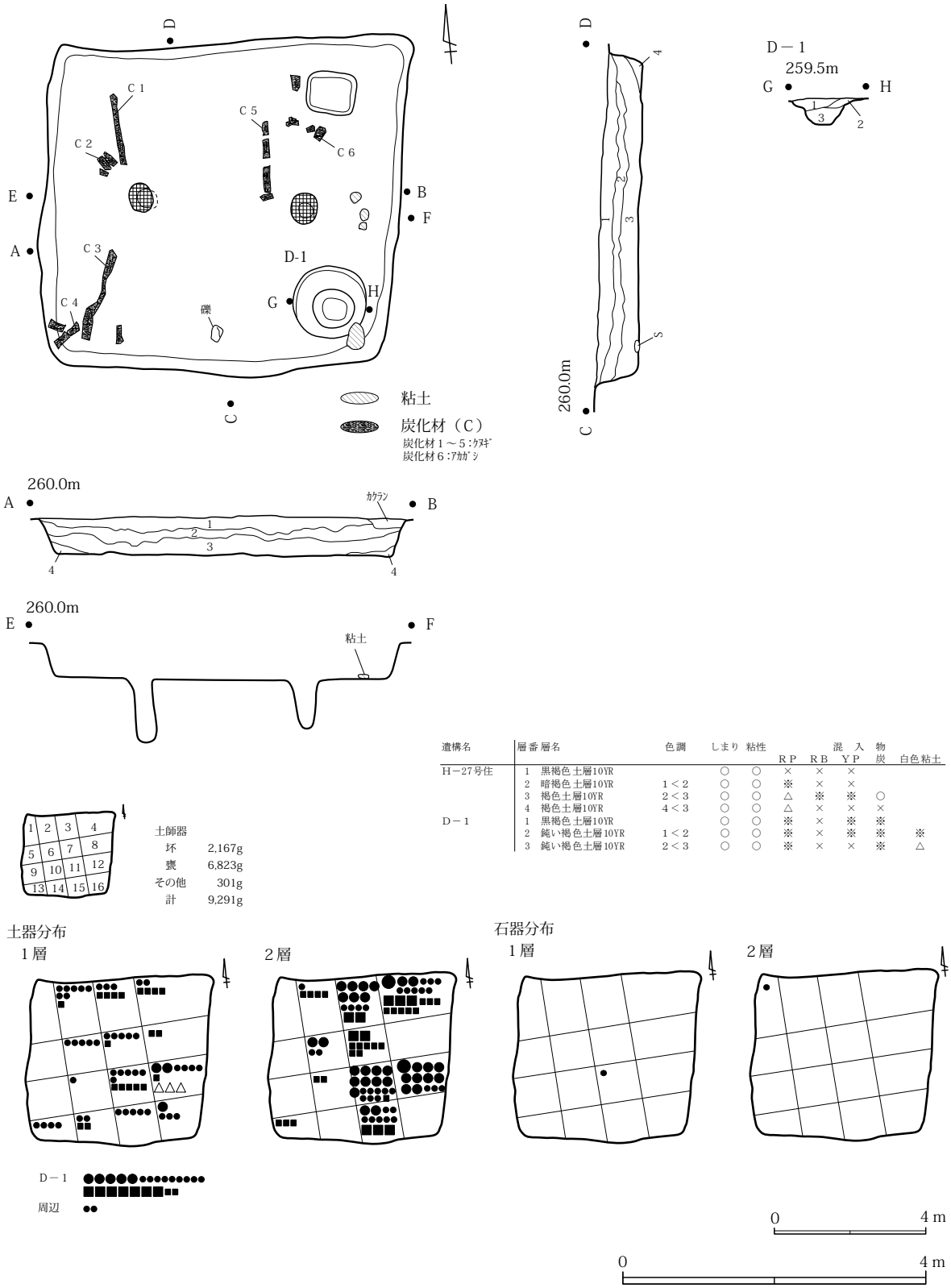


第210図　人見東向原遺跡（古墳）H－25号住居址実測図



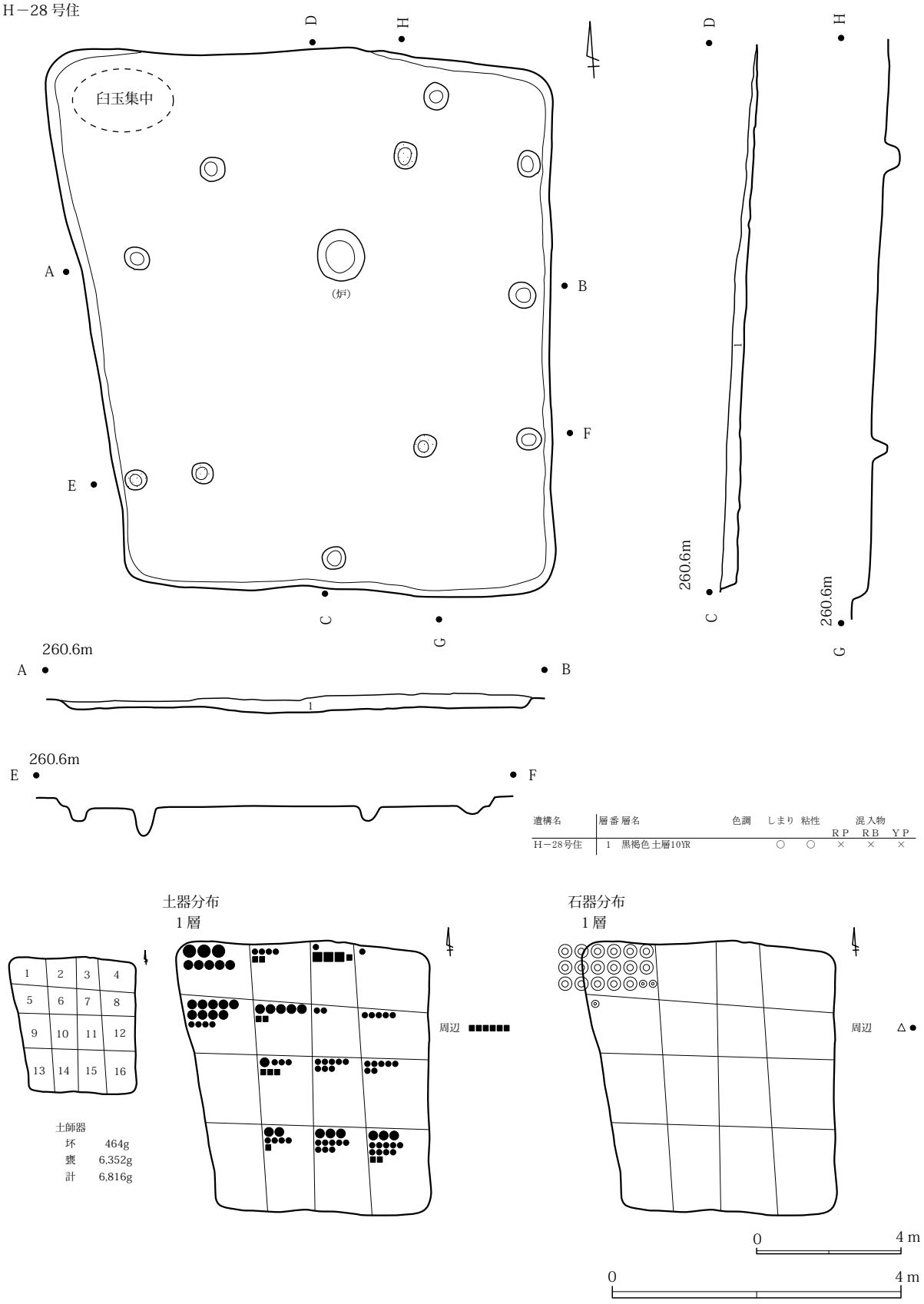
第211図　人見東向原遺跡（古墳）H－26号住居址実測図

H－27号住

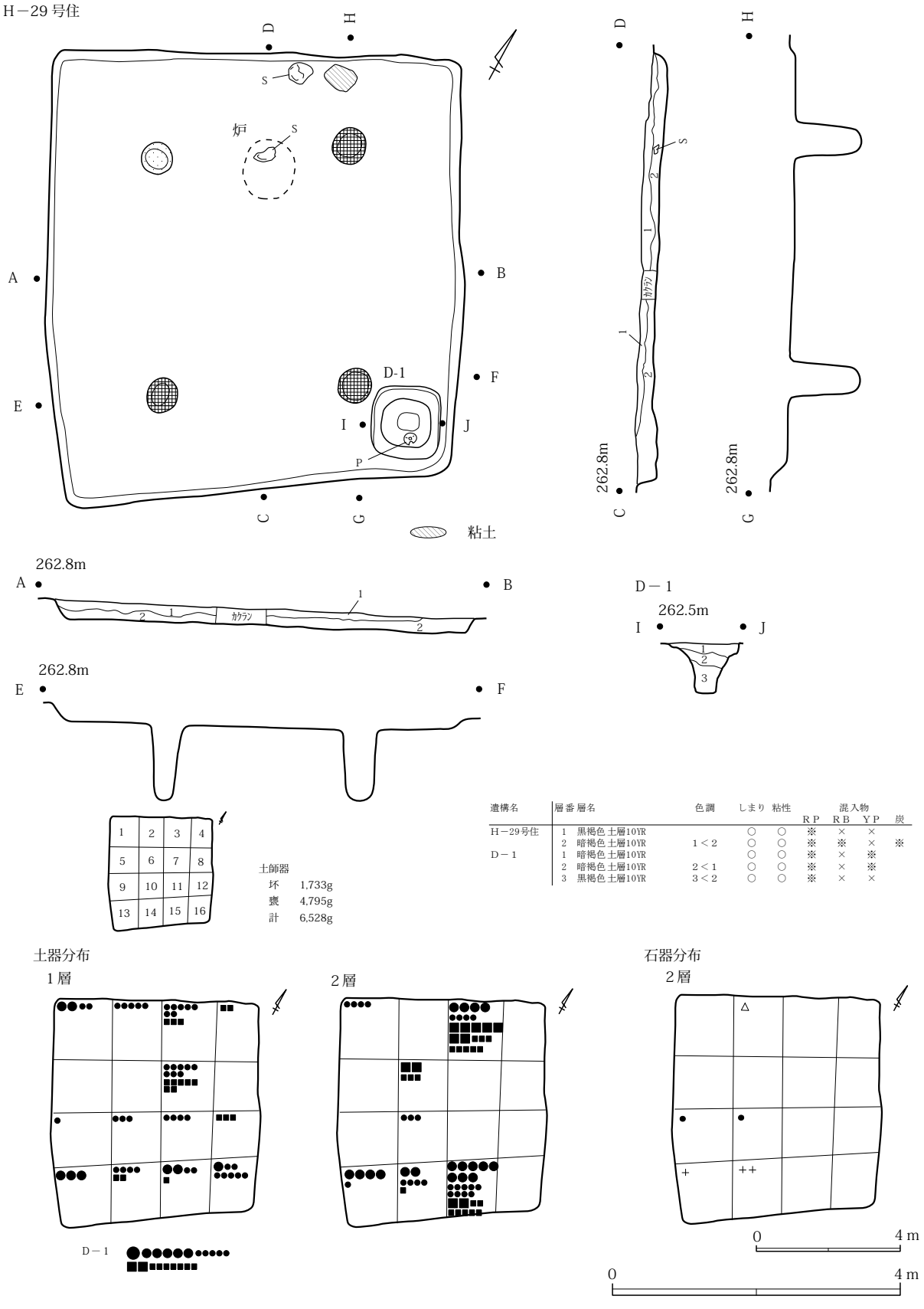


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	白色粘土
H－27号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	※	○	
	4	褐色土層10YR	4＜3	○	○	△	×	×	×	
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※	
	2	鈍い褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※	※
	3	鈍い褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	※	△

第212図　人見東向原遺跡（古墳）H－27号住居址実測図



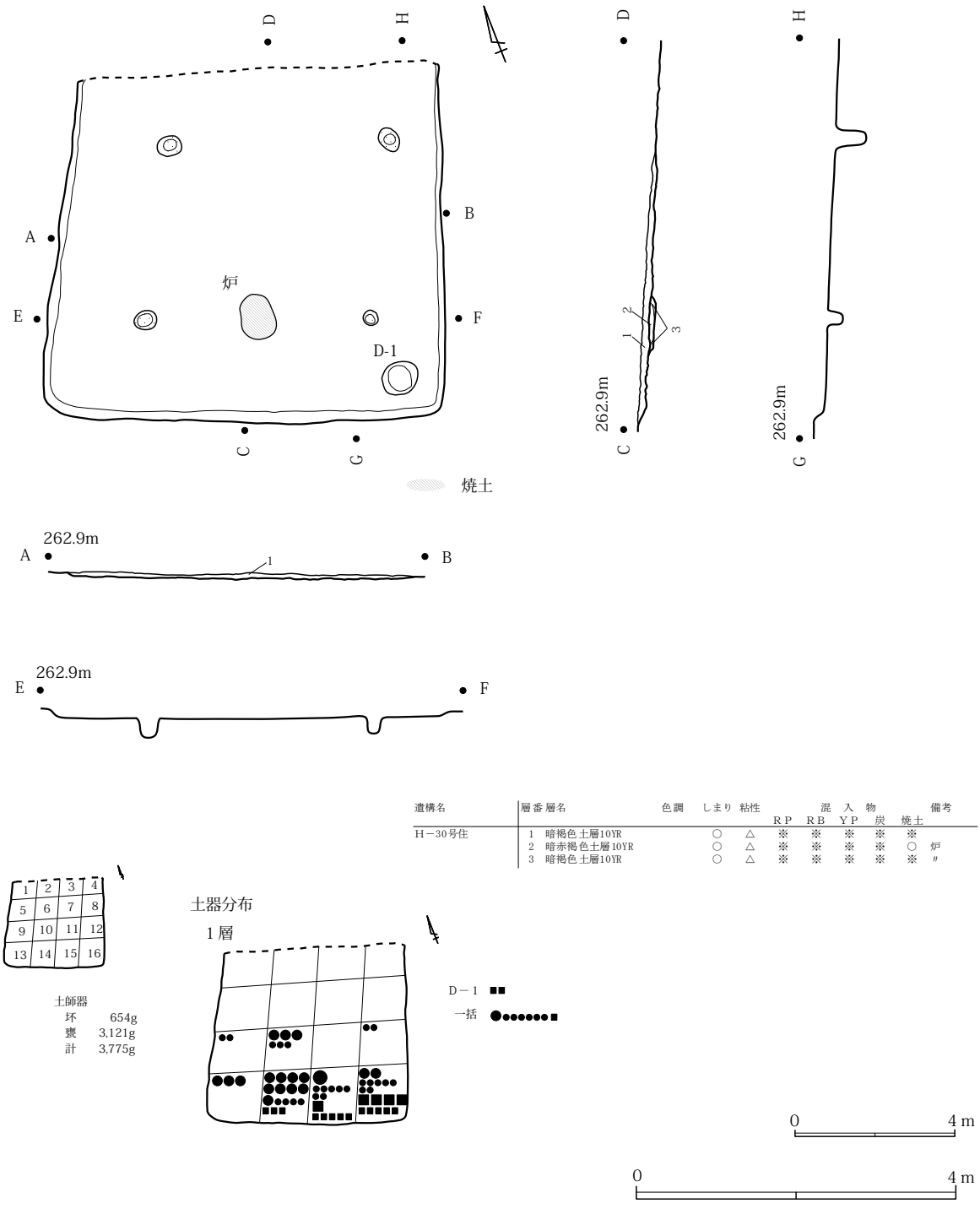
第213図　人見東向原遺跡（古墳）H－28号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－29号住	1	黒褐色 土層10YR		○	○	※	×	×	
	2	暗褐色 土層10YR	1＜2	○	○	※	※	×	※
D－1	1	暗褐色 土層10YR		○	○	※	×	※	
	2	暗褐色 土層10YR	2＜1	○	○	※	×	※	
	3	黒褐色 土層10YR	3＜2	○	○	※	×	×	

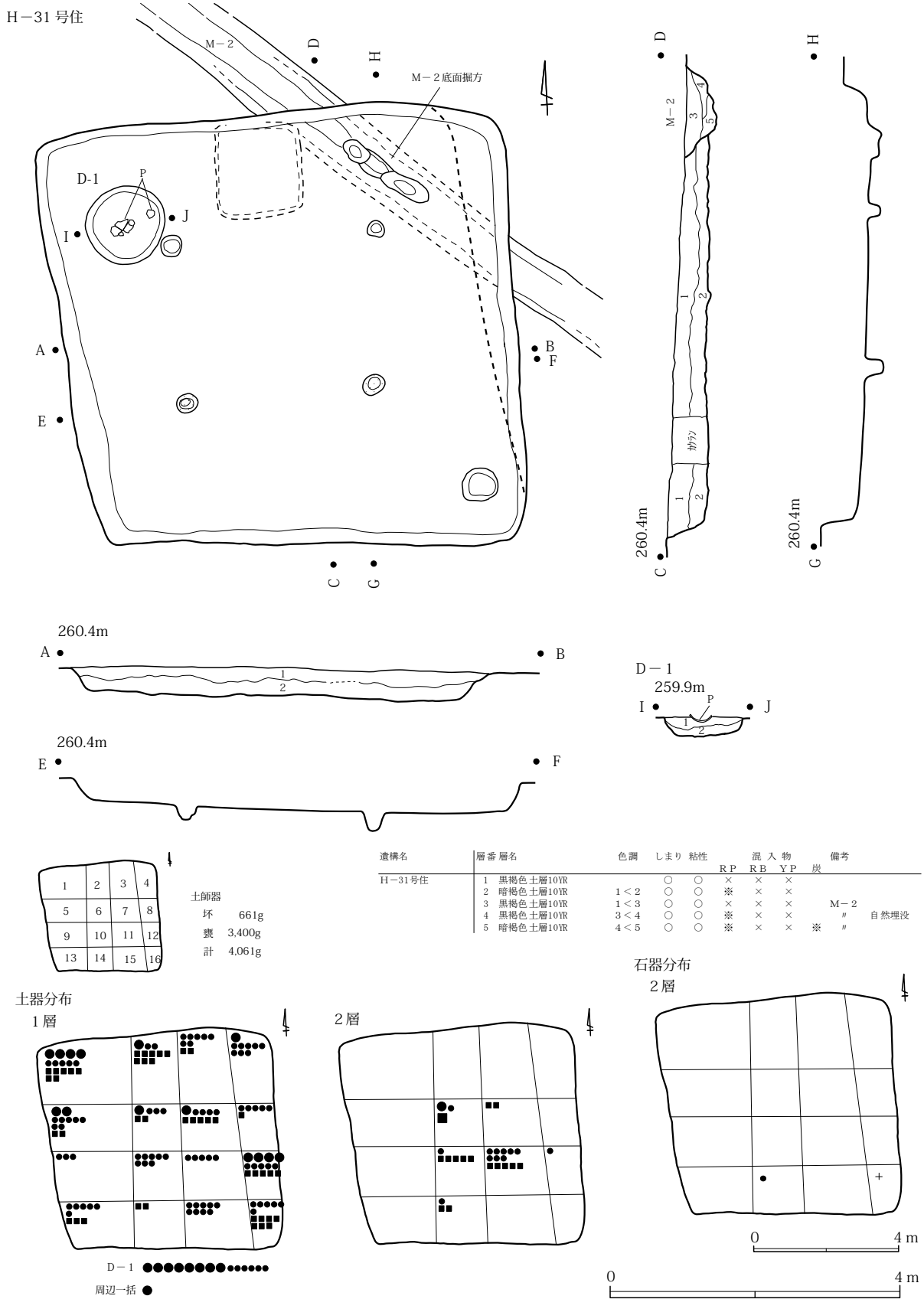
第214図　人見東向原遺跡（古墳）H－29号住居址実測図

H－30 号住

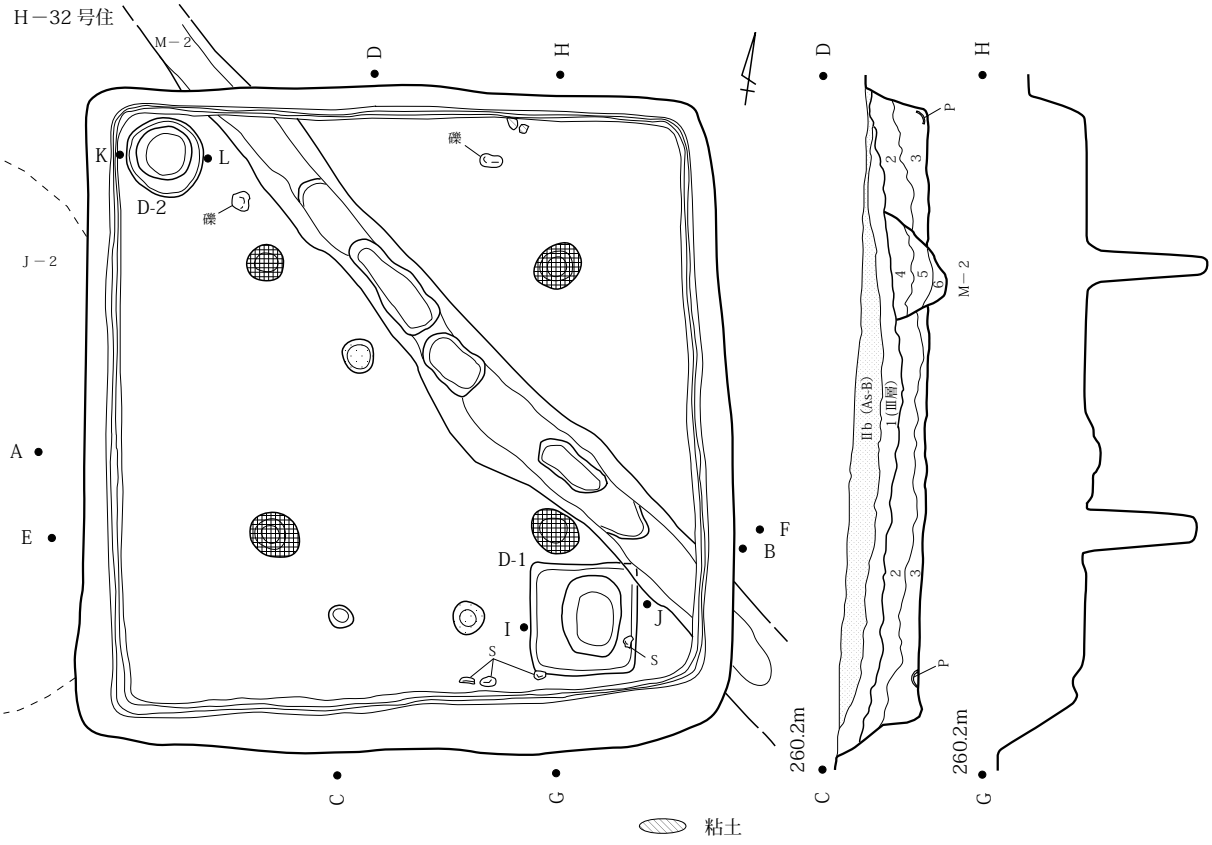


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－30号住	1	暗褐色土層10YR		○	△	※	※	※	※	※	
	2	暗赤褐色土層10YR		○	△	※	※	※	※	○	炉
	3	暗褐色土層10YR		○	△	※	※	※	※	※	〃

第215図　人見東向原遺跡（古墳）H－30号住居址実測図



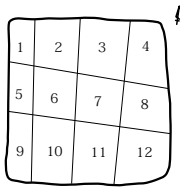
第216図　人見東向原遺跡（古墳）H－31号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－32号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			自然層
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	※	※		
	4	黒褐色土層10YR	1＜4	○	○	×	×	×			M－2
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	×	×	×			〃
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	×	※			M－2　埋め戻し
	7	暗褐色土層10YR	5＜7	○	○	※	×	×			M－2
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	※	×	×			M－2　埋め戻し
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	△	×	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	△	△	×	埋め戻し
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	△	△	×	〃
	4	明褐色土層10YR	3＜4	○	○	○	△	△	※	×	〃
D－2	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△	※	×	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	△	×	×	

第217図　人見東向原遺跡（古墳）H－32号住居址実測図（1）

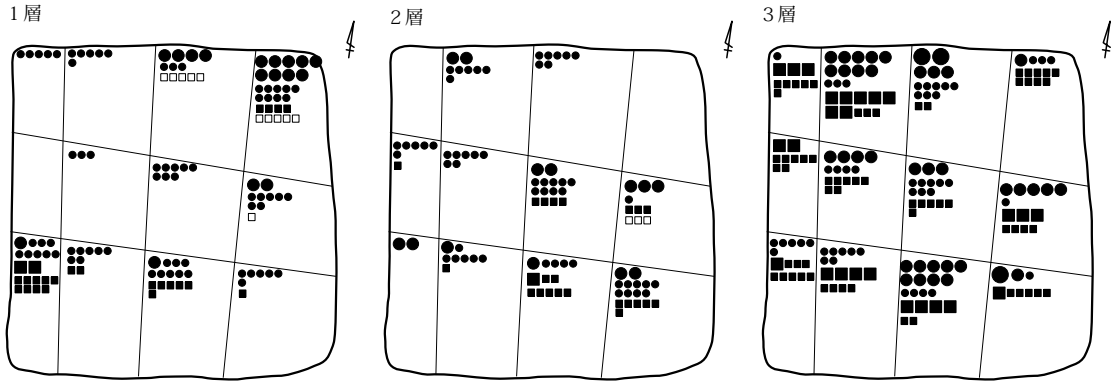
H－32 号住



1層：20 ～ 30cm
2層：20 ～ 30cm
3層：15 ～ 20cm

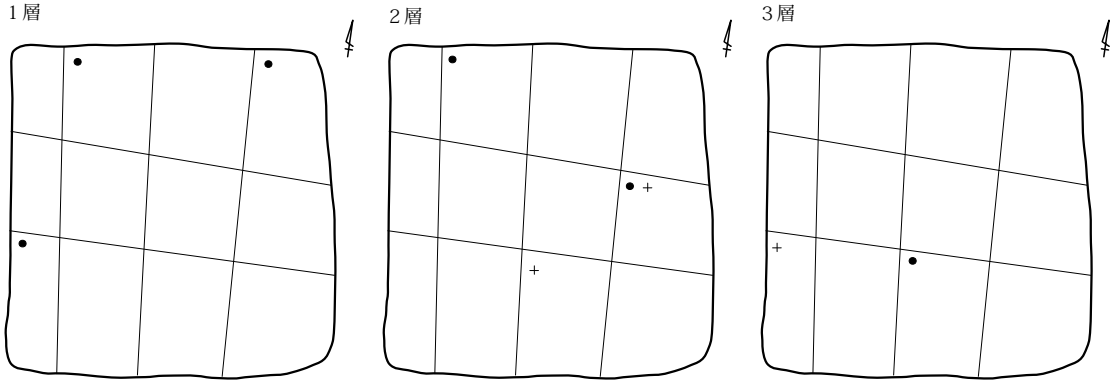
土師器	
坏	4,006g
甕	12,193g
須恵器	142g
計	16,341g

土器分布



2区床下（M－2内）
3区床下（M－2内）
7区床下（M－2内）
D－1
D－2

石器分布

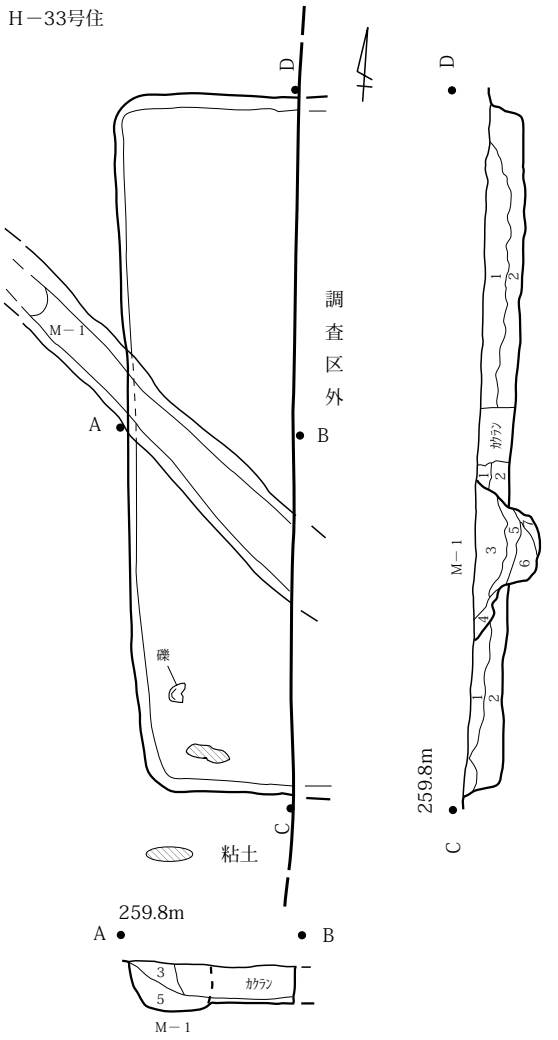


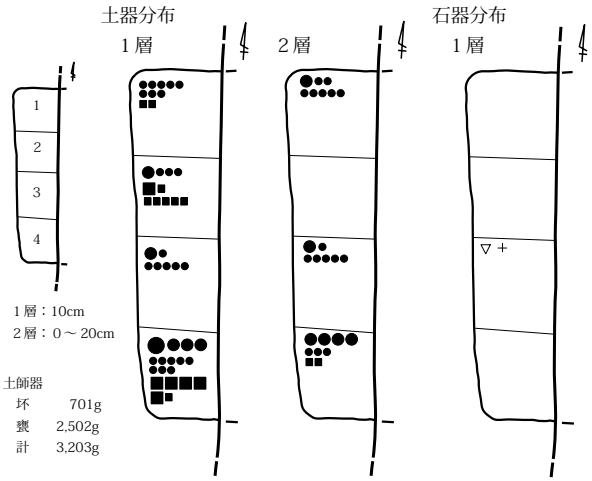
D－1

0　4 m

第218図　人見東向原遺跡（古墳）H－32号住居址実測図（2）

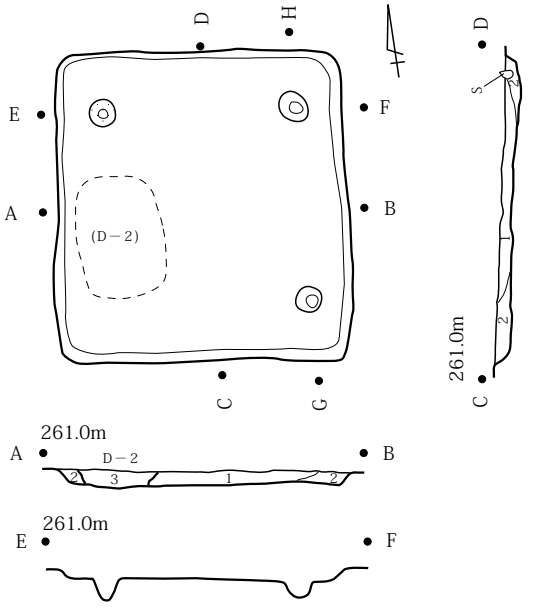
H－33号住

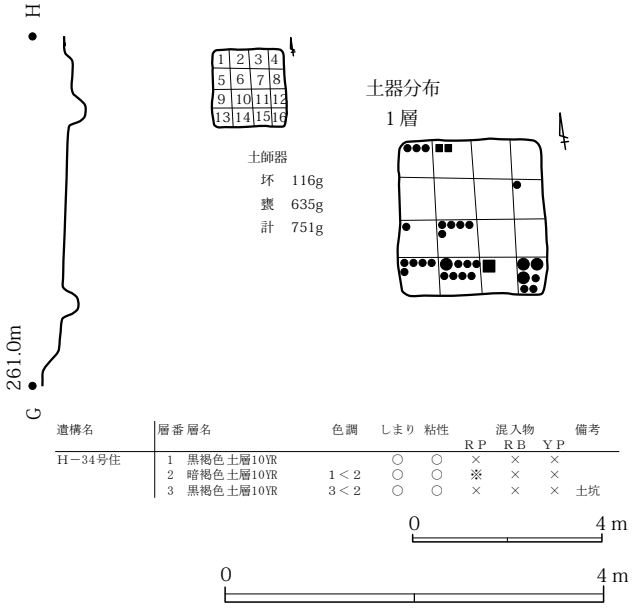




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
H－33号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		自然層
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	※	〃
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	×	×	×		M－1
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×		〃
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	○	○	×	×	×		〃
	6	暗褐色土層10YR	6＜5	○	○	×	×	×		〃
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	×		〃

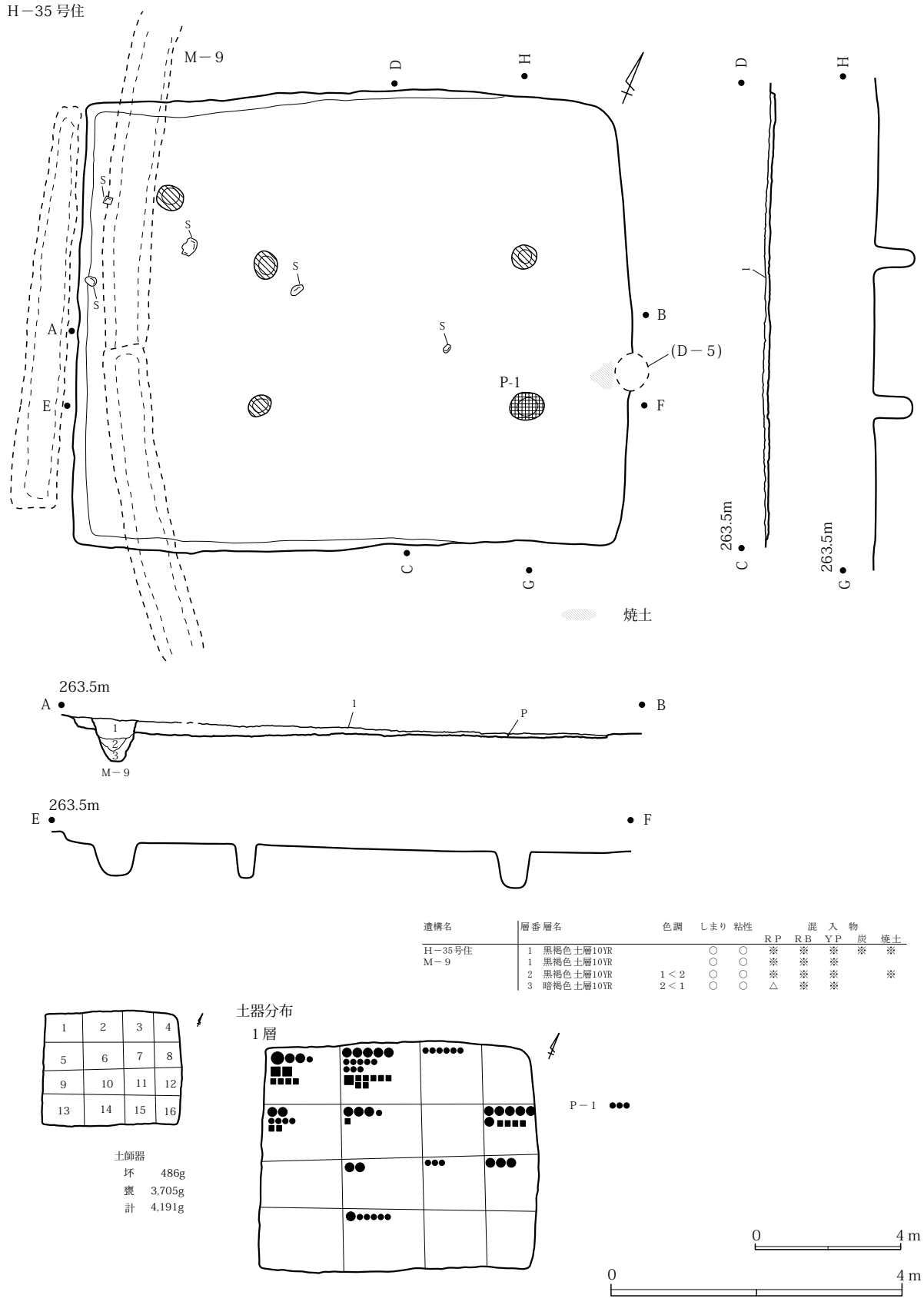
H－34 号住





遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－34号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	×	×	×	土坑

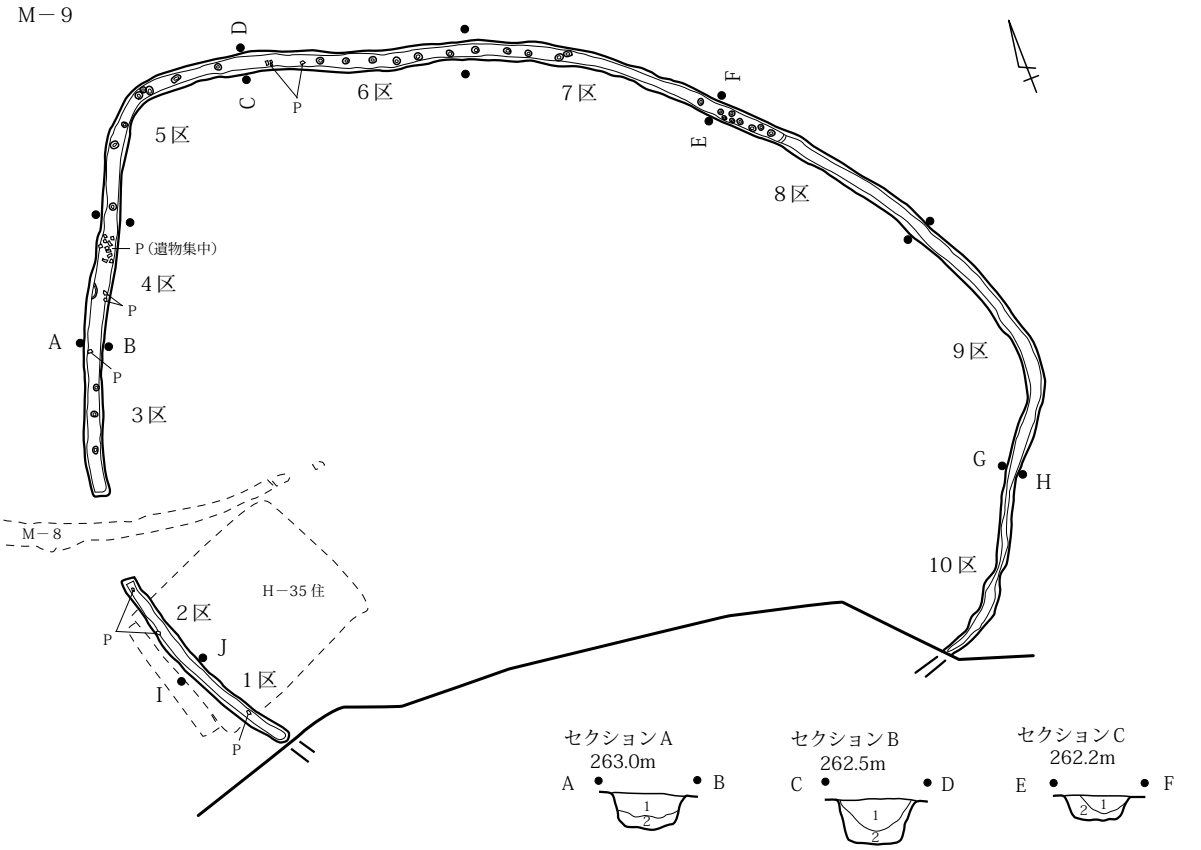
第219図　人見東向原遺跡（古墳）H－33・34号住居址実測図

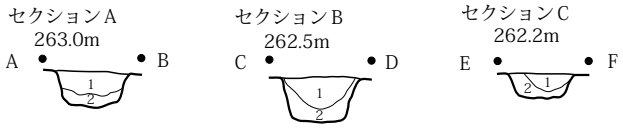


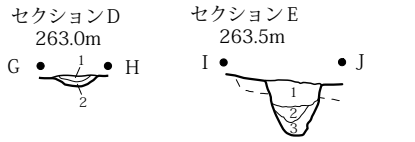
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土
H－35号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	※	※	※
M－9	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	※		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		※
	3	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	※	※		

土師器
坏　486g
甕　3,705g
計　4,191g

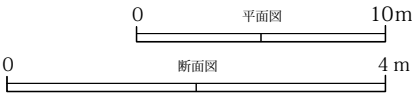
第220図　人見東向原遺跡（古墳）H－35号住居址実測図

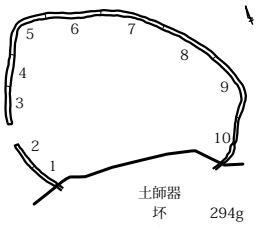




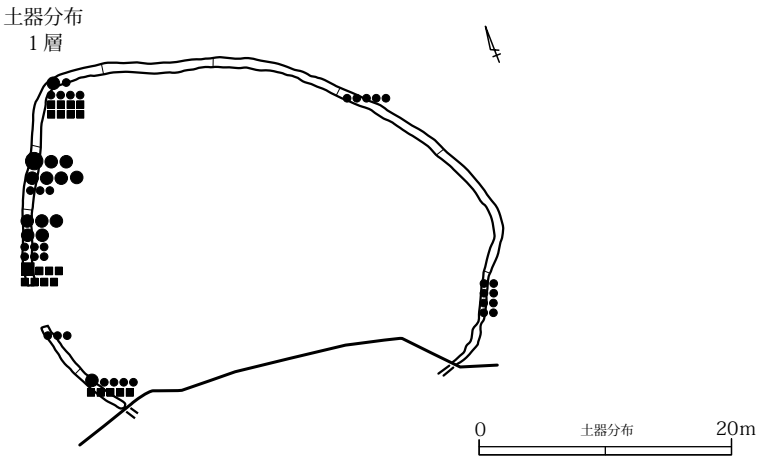


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	焼土
M－9・ｾｸｼｮﾝA	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	※	
	2	暗褐色土層10YR		○	○	△	※	△	
M－9・ｾｸｼｮﾝB	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	
	2	鈍い黄褐色土層10YR		○	○	△	※	△	
M－9・ｾｸｼｮﾝC	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	△	
	2	鈍い黄褐色土層10YR		○	○	△	※	△	
M－9・ｾｸｼｮﾝD	1	黒褐色土層10YR		△	△	※	※	※	
	2	暗褐色土層10YR		○	○	△	※	※	
M－9・ｾｸｼｮﾝE	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	※	※	

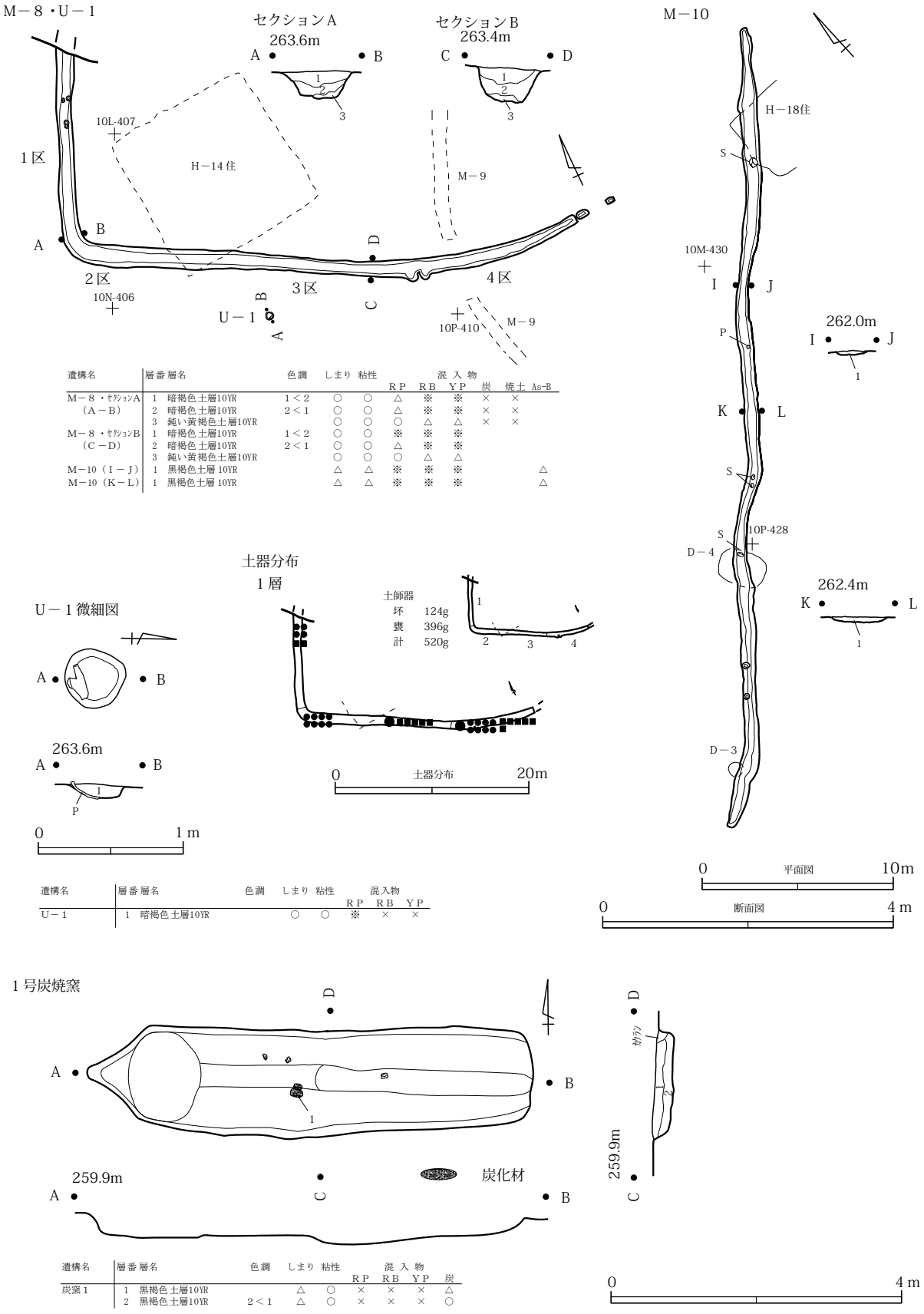




土師器
坏　294g
甕　2,642g
計　2,936g



第221図　人見東向原遺跡（古墳）M－9号溝実測図



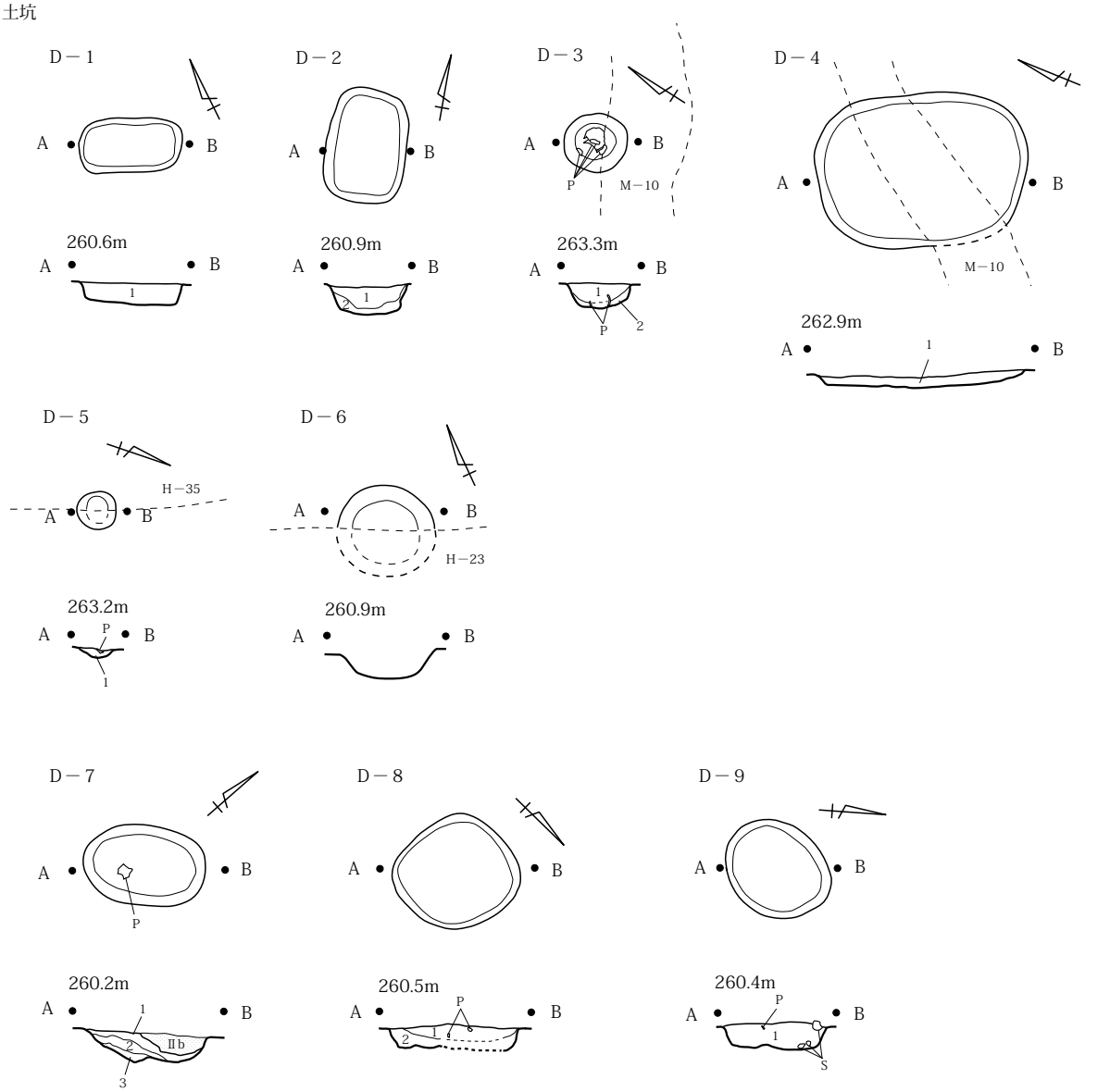
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B
M－8・ｾｸｼｮﾝA（A－B）	1	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	※	※	×	×	
	3	鈍い黄褐色土層10YR		○	○	○	△	△	×	×	
M－8・ｾｸｼｮﾝB（C－D）	1	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※			
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	※	※			
	3	鈍い黄褐色土層10YR		○	○	○	△	△			
M－10（I－J）	1	黒褐色土層 10YR		△	△	※	※	※			△
M－10（K－L）	1	黒褐色土層 10YR		△	△	※	※	※			△

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
U－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×

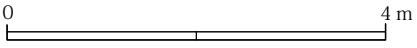
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
炭窯1	1	黒褐色土層10YR		△	○	×	×	×	△
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	△	○	×	×	×	○

第222図　人見東向原遺跡（古墳・古代）M－8・10号溝、埋設土器、炭焼窯実測図

土坑

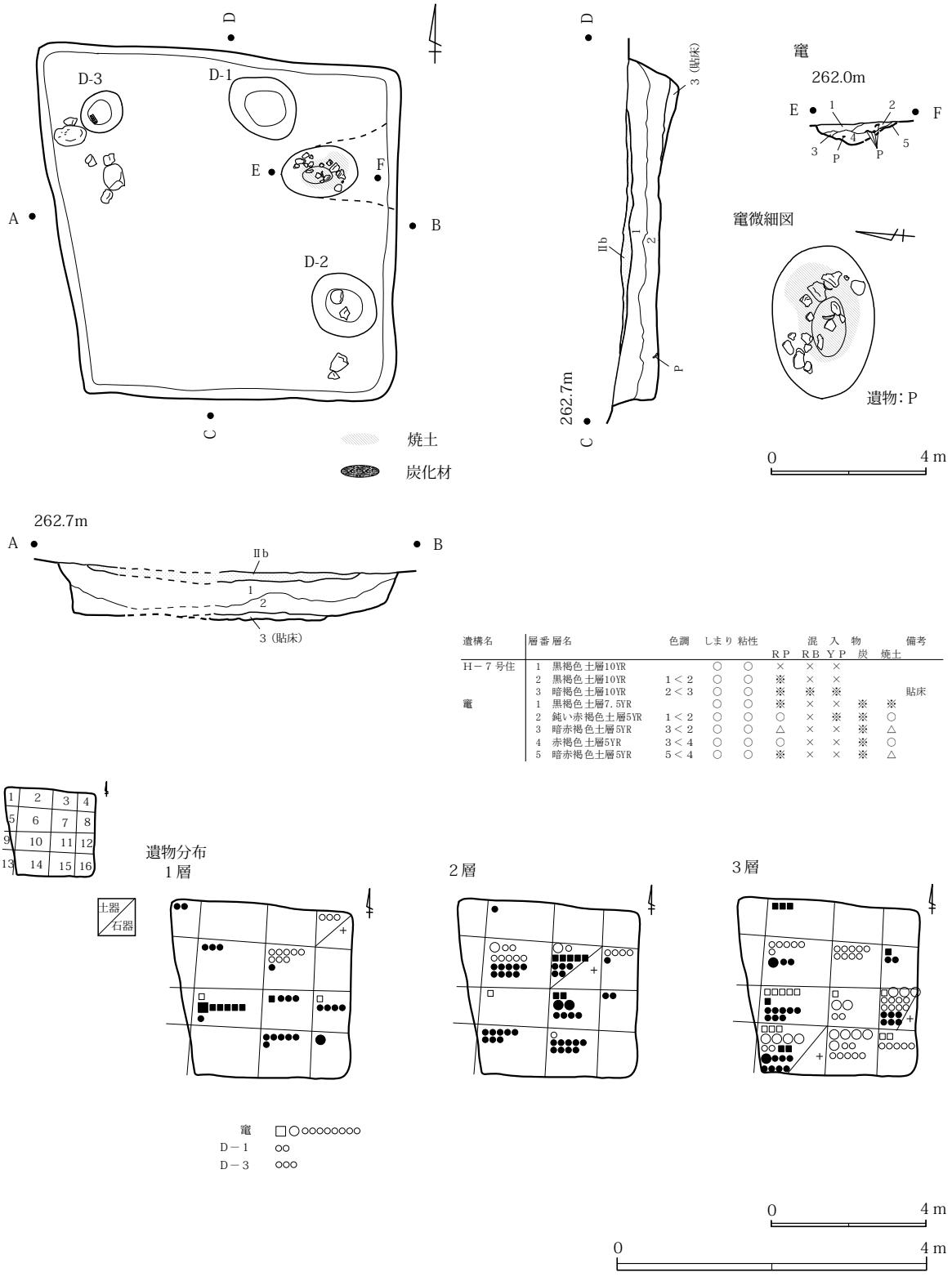


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	×		
D－2	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
D－3	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR		○	○	△	×	×	×	×
D－4	1	暗褐色土層10YR		○	△	※	×	×	×	×
D－7	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	×	×		
D－8	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	△
D－9	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	※



第223図　人見東向原遺跡（古墳）土坑実測図

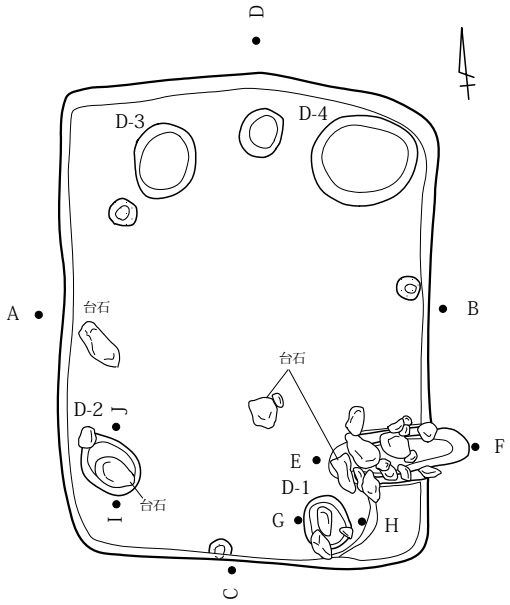
H－７号住

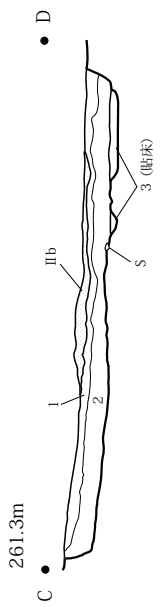


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－７号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※			貼床
竈	1	黒褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	※	※	
	2	鈍い赤褐色土層5YR	1＜2	○	○	○	×	※	※	○	
	3	暗赤褐色土層5YR	3＜2	○	○	△	×	×	※	△	
	4	赤褐色土層5YR	3＜4	○	○	○	×	×	※	○	
	5	暗赤褐色土層5YR	5＜4	○	○	※	×	×	※	△	

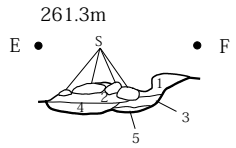
第224図　人見東向原遺跡（古代）H－７号住居址実測図

H－10号住



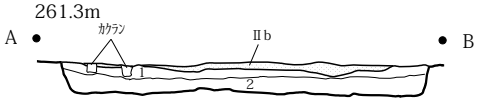


竈

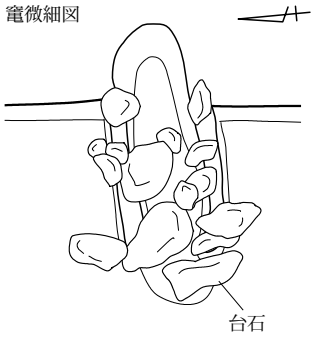


D－1

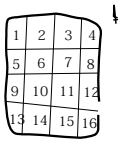
D－2



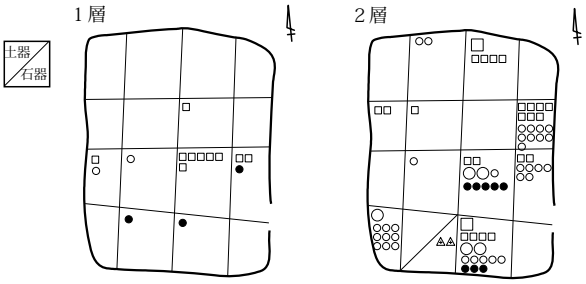
竈微細図



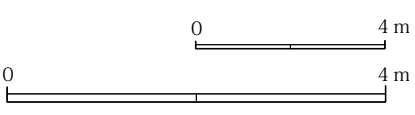
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－10号住	1	黒褐色土層5YR		○	○	×	×	×			自然層
	2	黒褐色土層5YR	1＜2	○	○	×	×	×			〃
	3	黒褐色土層5YR	2＜3	○	○	※	×	×			貼床
竈	1	赤褐色土層5YR		○	○	△	×	×	※	△	
	2	暗褐色土層7.5YR	2＜1	○	○	※	×	×	×	※	
	3	明赤褐色土層5YR	2＜3	○	○	△	×	×	※	○	
	4	暗褐色土層7.5YR	4＜3	○	○	※	×	×	×	×	埋土
	5	明赤褐色土層2.5YR		△	△	×	×	×	×	◎	
D－1	1	明褐色土層10YR		○	○	○	△	△			埋め戻し
D－2	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×			



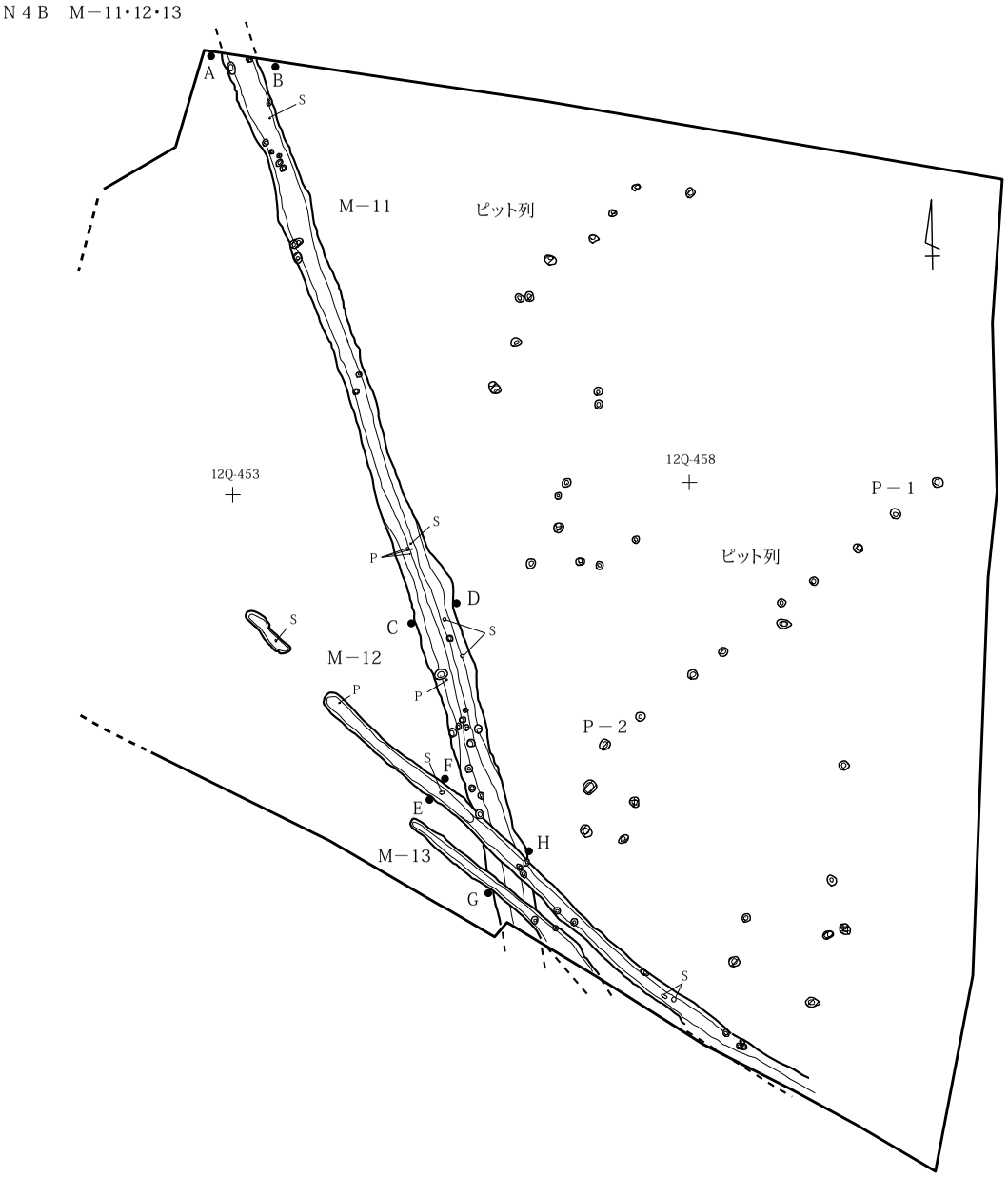
遺物分布



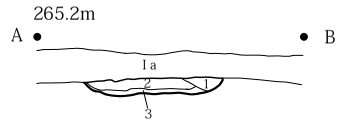
竈内 □□□○○○○○○○○○○
D－1 ○○○



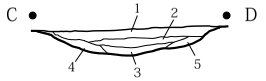
第225図　人見東向原遺跡（古代）H－10号住居址実測図



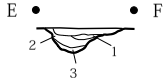
M－11　セクションA



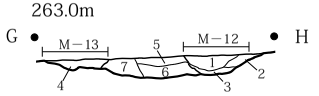
M－11　セクションB



M－12　セクションC



M－11～M－13　セクションD



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	備考
M－11	Ia	黒褐色土層10YR		△	△	※	※	※	○	※	現代の耕作土
セクションA	1	鈍い黄褐色土層10YR		○	○	○	※	※	※	※	ロームブロック
	2	黒褐色土層10YR		△	△	※	※	※	※	※	
	3	暗褐色土層10YR	3＜1	○	○	△	△	※	※	※	
M－11	1	黒褐色土層10YR		○	△	※	※	△	※	※	
セクションB	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	※	△	※	※	
	3	暗褐色土層10YR		○	○	△	※	※	※	※	
	4	鈍い黄褐色土層10YR	4＜5	○	○	○	△	※	※	※	4・5層近似する
	5	鈍い黄褐色土層10YR		○	○	○	△	※	※	※	〃
M－12	1	暗褐色土層10YR		◎	△	※	※	※	※		
セクションC	2	黒褐色土層10YR		○	△	※	※	※	※		
	3	暗褐色土層10YR		◎	○	△	※	※	※		
M－11～13	1	黒褐色土層10YR		○	△	※	※	※	※	○	M－12覆土
セクションD	2	暗褐色土層10YR		○	○	△	※	※	※	△	〃
	3	鈍い黄褐色土層10YR		◎	○	△	※	※	※	△	〃
	4	黒褐色土層10YR		○	△	※	※	※	※	○	M－13覆土
	5	黒褐色土層10YR	5＜1＜4	○	○	※	※	※	※	※	M－11覆土
	6	暗褐色土層10YR	6＜2	○	○	△	※	※	※	※	〃
	7	鈍い黄褐色土層10YR	7＜3	○	○	△	△	※	※	※	〃

第226図　人見東向原遺跡Ｂ区　遺構全体図（溝・ピット列）

5　人見向原遺跡（第227～263図）

（1）概要

本遺跡は、人見枝谷津遺跡の西側、同一台地上で低地に面した北斜面に立地する。台地縁辺部の確認調査では、A区で富岡市が調査した大溝（下高田上原遺跡1号溝）の続きと新たに古墳時代終末期古墳を確認した。北側斜面部では、B区で古墳時代中期を主体とする集落、C区で縄文時代の住居址1軒を確認した。なお、大溝の北側と人見枝谷津遺跡との間では、遺構、遺物が全く確認されない遺跡の空白地を確認した。縄文時代は、前期後葉（諸磯b式期）の住居址1軒、土坑4基を調査した。『群馬県遺跡地図』（1973）には、「上人見遺跡」（№2979）として縄文時代の遺物（中期土器）が採集された周知の包蔵地として記録されていたが、採集地点周辺のトレンチ調査及び現地踏査では、当該期の遺構、遺物は確認されなかった。B区では、住居址を主体とする遺構が東西約150m、南北約80mの範囲での分布が認められた。住居址の時期は、古墳時代を主体とし、中期前半が最も多く、後期まで継続する。平安時代の住居址も認められた。古代の溝は、台地に直交して低地へ向かって延びていた。この溝は、走向から判断して、人見東中原遺跡のM－2号溝と同一の可能性がある。集落東側のピット群は、時期、性格ともに不明である。なお、B区の西側に位置する人見西向原遺跡C区では、遺構の空白地を挟んで住居址が1軒確認された。この住居址については、本遺跡の集落の一部に含めて報告する。B区台地縁辺部で包含層から弥生時代の磨製石鏃が1点出土した。A区では、終末期古墳（K－1号古墳）と古代の大溝（M－1号溝）を調査した。K－1号古墳は、旧妙義町下高田原5号墳として周知されてきたが、発掘調査によって現在の場所には無く、安中市側の畑内に存在していたことが判明した。古墳の石室跡からは、鉄刀が1振出土した。古代では、大溝の調査を富岡市調査区（下高田原Ⅳ遺跡1号溝）と担当範囲を分けて行った。大溝は、地形に沿いながら、浅い谷で直交して直線上に延びている。なお、大溝の南側に相当する富岡市の調査区では、縄文時代中期後半（加曽利E1式期）と古墳時代、平安時代の住居址、終末期古墳、中世以降で大溝に平行する切り通し状の溝（硬化面と連続ピットをもつ道路状遺構の可能性）、近世の両側側溝をもつ道路が確認されている（富岡市教育委員会2011『松義東部地区遺跡群Ⅰ』）。

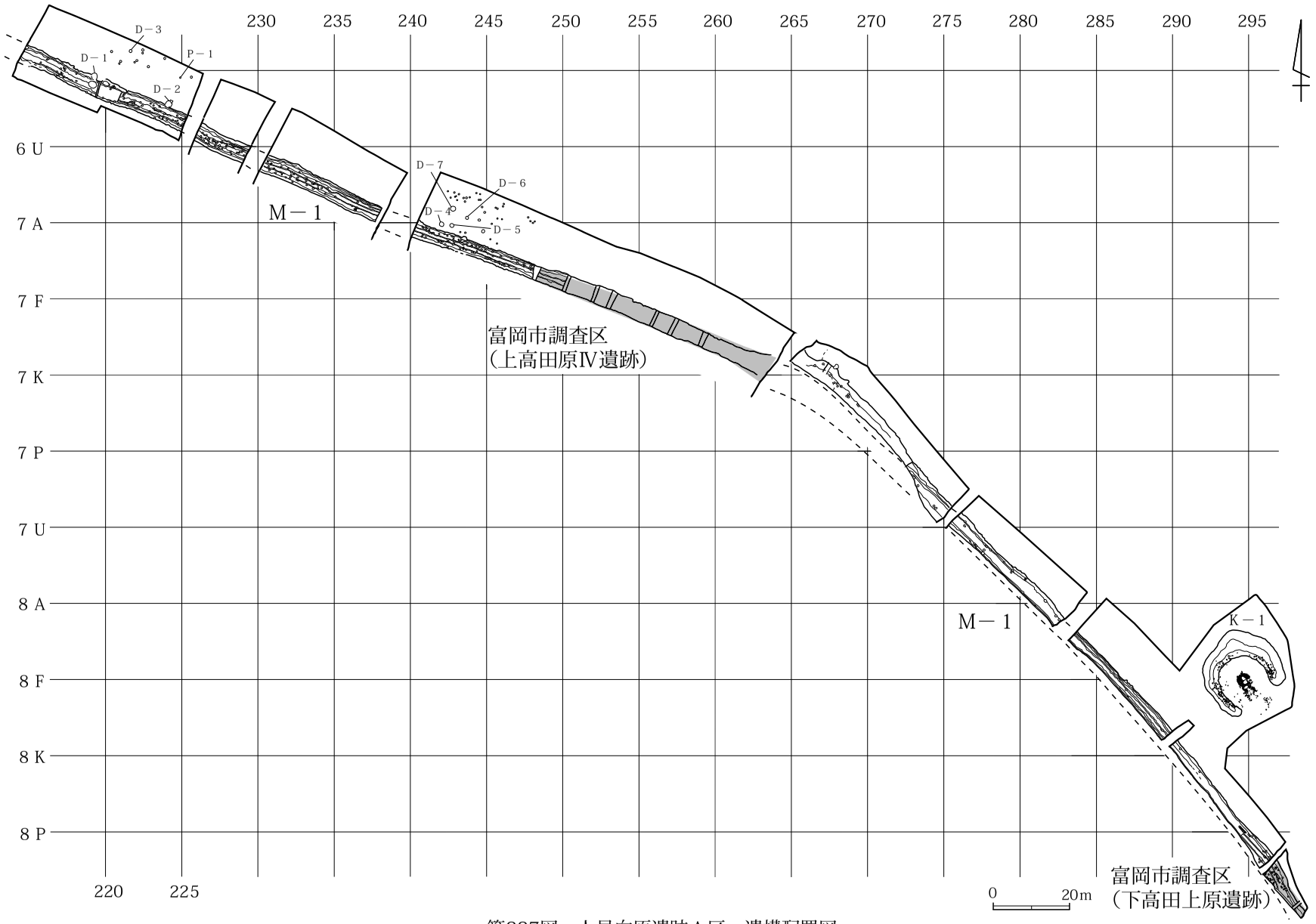
（2）縄文時代の遺構

住居址（第229図、第8表）

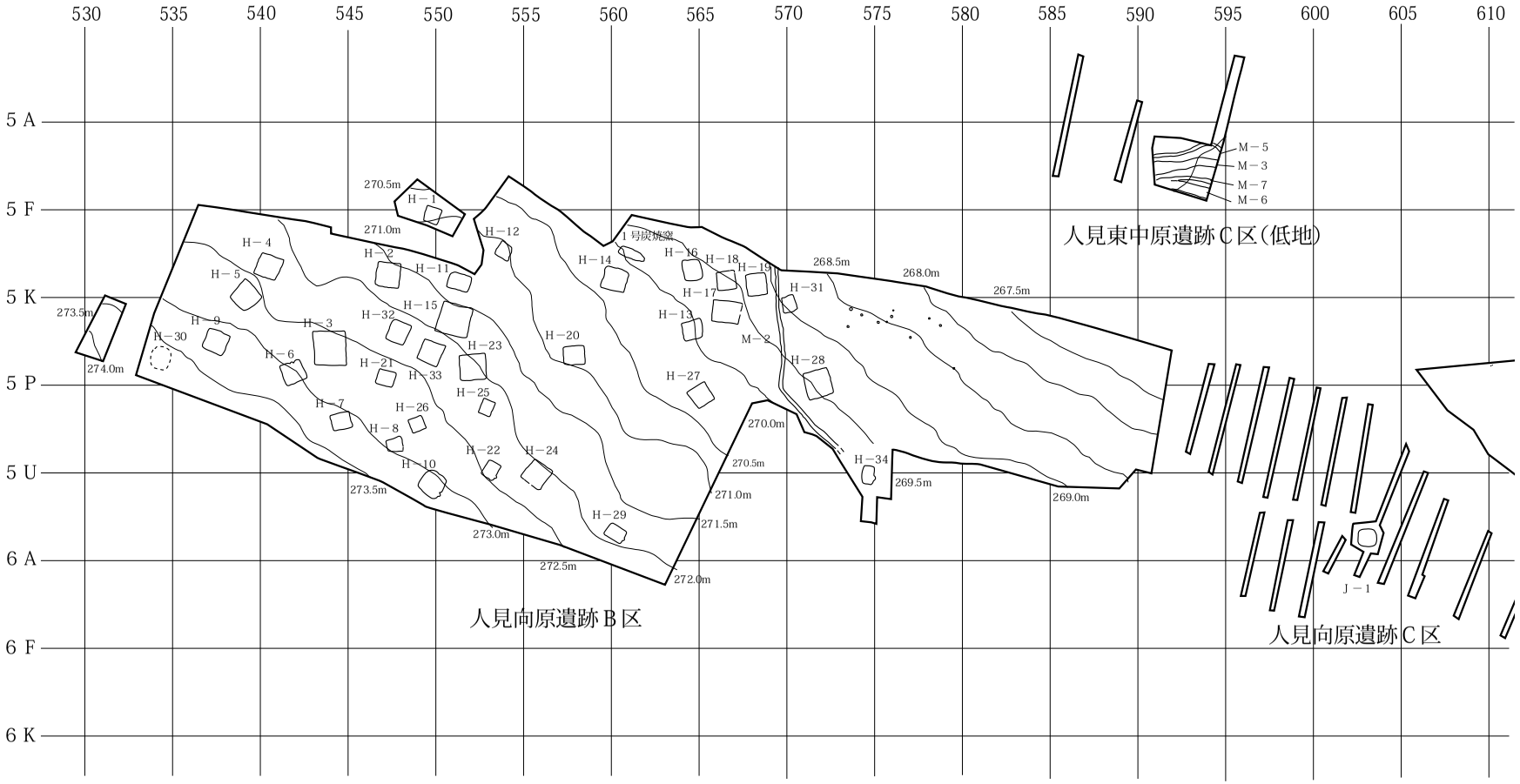
C区で1軒確認した。住居址は隅丸方形の4本柱、壁周溝がある。北側には、住居内側へ延びる地山の高まりがある。炉は地床炉である。覆土は混入物の多い自然堆積で、中央部に集中して遺物が廃棄された状態であった。炉脇にある柱穴上面では、石皿、壁際では大形礫（台石）が出土した。住居址の時期は、前期後葉（諸磯b式期）である。

土坑（第229図、第38表）

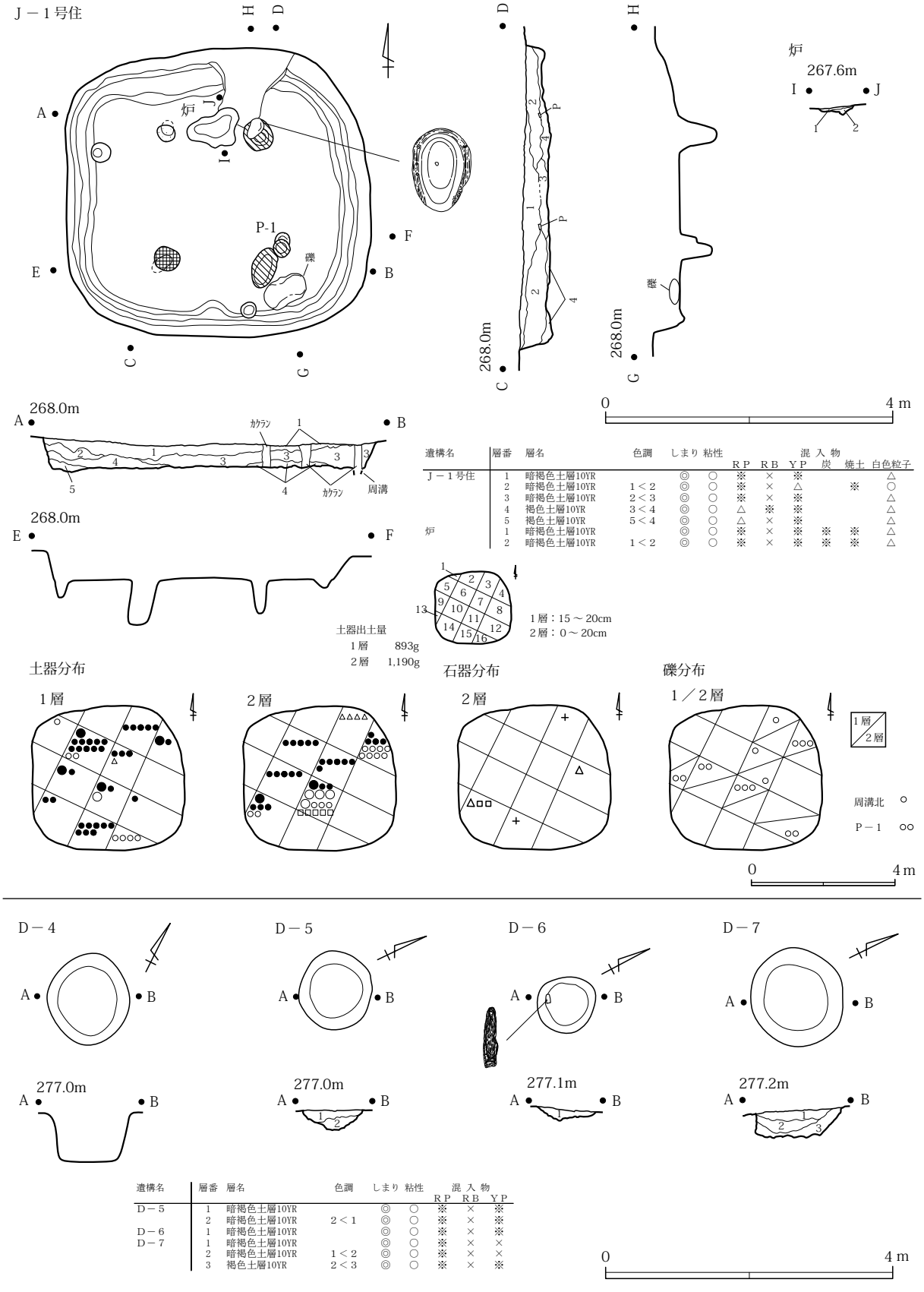
A区で4基確認した。4基の土坑からは、土器小破片等が少数出土したが、遺構の性格を把握する状態のものではなかった。D－6号では、結晶片岩製の棒状礫（尖頭器状石器）が出土した。



第227図　人見向原遺跡Ａ区　遺構配置図



第228図　人見向原遺跡Ｂ・Ｃ区　遺構配置図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色粒子
J－1号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※			△
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	△		※	○
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	※			△
	4	褐色土層10YR	3＜4	◎	○	△	※	※			△
	5	褐色土層10YR	5＜4	◎	○	△	×	※			△
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※	※	※	△
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※	※	※	△

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
D－5	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	※
D－6	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※
D－7	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	※

第229図　人見向原遺跡（縄文）Ｊ－１号住居址、土坑実測図

（3）古墳時代の遺構

住居址（第230～257図、第14表）

Ｂ区で中期前半28軒（Ⅱ期４軒、Ⅲ期16軒）、中期13軒、中期後半～後期初頭２軒（Ⅳ期）を確認した。なお、Ｂ区の東に位置する人見西向原遺跡Ｃ区のＨ－35号住居址（中期前半：Ⅲ期）も同一集落の遺構として本遺跡に含めた。

＜平面形態＞

小形正方形２軒（中期２軒）、小形長方形１軒（Ⅲ期１軒）、小形不整形１軒（Ⅲ期１軒）、中形正方形11軒（中期２軒、Ⅱ期１軒、Ⅲ期７軒、Ⅳ期１軒）、中形長方形９軒（中期２軒、Ⅲ期６軒、Ⅳ期１軒）、大形正方形４軒（中期１軒、Ⅱ期２軒、Ⅲ期１軒）、大形長方形４軒（中期２軒、Ⅱ期１軒、Ⅲ期１軒）、不明１軒（中期１軒）である。中形が主体で、正方形が長方形に比べやや多い。Ｈ－２、15号の壁際では、床が一段下がる落ち込みが確認された。

平地式は８軒（Ⅲ期２軒、中期６軒）である。

＜壁溝＞

Ⅱ、Ⅲ期で各２軒である。全体からみて少ない。間仕切り溝は、２軒で認められた。

＜主軸方向＞

ほぼ真北に向くのが10軒（Ⅱ期４軒、Ⅲ期４軒、中期２軒）、北から北東向きとなるのが11軒（中期４軒、Ⅱ期２軒、Ⅲ期５軒）、東から南東向きとなるのがⅢ期１軒、北から北西向きとなるのが10軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期８軒、中期１軒）、西から南西向きとなるのが２軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期１軒）、不明は２軒（Ⅱである。中期の主軸は、ほぼ真北が最も多く、北東あるいは北西に向くのが続き、人見枝谷津遺跡と同様な傾向が認められた。北斜面に対して住居址は直交し、低い方へ向いているのが分かる。

＜土坑（貯蔵穴）＞

土坑は、１基が最も多く、２基確認されたのが６軒であった。床下土坑は無い。位置は住居址南東隅に多くみられ、北西隅と南西隅は少ない。形状は、平面方形ないし楕円形で、断面は箱形となる。土坑覆土の観察から、埋め戻しが行われ、遺物廃棄が行われていた。

＜柱穴＞

基本的には炉を軸として柱穴が対称的に配置される４本柱が多数を占めた。２本柱も３軒認められた。柱穴の無いものは５軒である。拡張による柱穴の差し替えは少ない。

＜炉・竈＞

炉は、ＡはⅡ期３軒、Ⅲ期７軒、Ｂ１はⅡ期１軒、Ⅲ期２軒、中期１軒、Ｂ２はⅢ期２軒、中期２軒、不明はⅡ期３軒、Ⅲ期８軒、中期２軒である。ＡとＢ１は１軒である。炉の位置は、床中央または中央北寄りが最も多い。竈は、Ⅳ期２軒である。Ｈ－19号は、竈と炉が共伴した例である。

＜覆土＞

Ａ１はⅢ期２軒、Ａ２はⅡ期６軒、Ⅲ期５軒、Ｂ１は中期１軒、Ⅲ期５軒、Ｂ２は中期１軒、Ⅲ期１軒、ＣはⅡ期１軒、Ⅲ期８軒、中期４軒である。

焼失住居と考えられるのⅡ期６軒、Ⅲ期７軒である。

＜遺物出土状況＞

浅い住居（１層）では、床面直上まで遺物が出土した。２層以上に分層される深さのある住居址では、

上層から下層まで遺物が出土した。ただし、上層の遺物は、廃棄によるもので土器では破片がほとんどである。Ｈ－２号では、床面に石製模造品が集中していた。Ｈ－15号では、編物石の集中が３か所で認められた。Ｈ－28号の壁際に須恵器椀が出土した。

土坑（第257図、第38表）

Ａ区Ｍ－１号溝と重複する２基と単独の１基を確認した。Ｄ－３号からは、土師器坩が出土した。Ｄ－１と２は、覆土にロームブロックを混入し、炭化材が一部含まれることから、人為的な埋め戻しが考えられる。遺物は全く出土しなかったため、時期は不明だが、覆土状況（上部に浅間Ｂ軽石堆積）から古代の可能性がある。

古墳（第258・259図、第26表）

旧妙義町の「下高田５号墳」を確認した。当初、市境界線上付近の道路と道路に挟まれた礫が寄せてある範囲を古墳としていたが、確認調査によって本来の位置は、安中市側の畑内に存在することが判明した。発掘調査は、「Ｋ－１号古墳」として行った。古墳は、開墾による削平及び撹乱によって、周溝以外の遺存状態は悪く、主体部は、完全に破壊された状態であった。調査で判明したことは、墳丘部及び石室は、周溝の埋没（大形礫を含む土層が浅間Ｂ軽石に覆われている）状況から判断して、12世紀初頭以前には壊されていた可能性がある。古墳の周溝は、幅が一定ではなく、地山を掘り込んで東側に開口するＵ字形である。周溝が切れた部分は主体部の前庭部と推定され、この範囲では、７世紀末から８世紀初頭の須恵器片（長頸壺、甕等）が集中して出土した（須恵器坏片12点、須恵器甕片56点、土師器坏片７点、土師器甕片８点）。主体部は、横穴式石室と推定され、地山を掘削し、石室を構築した後、礫とローム混入土で裏込めが施されていた。石室内では、撹乱層中から鉄刀が１振り出土した。古墳の時期は、古墳時代終末期（７世紀代）と推定される。

溝（第263図、第26表）

Ｂ区で台地斜面を降って谷に抜ける溝を１条（Ｍ－２号）確認した。溝の南東方向の続きについてトレンチ調査を行い、調査範囲で途切れることを確認した。覆土はⅢ層を基本とした自然堆積である。溝の北側調査区壁際において覆土上部から古墳時代の土師器甕片が集中して出土した。また、溝南側の覆土から大形滑石製勾玉１点が出土した。形状、遺物出土状況が人見東向原遺跡Ｍ－８号溝と類似する。時期は古墳時代の可能性とした。

（４）古代の遺構

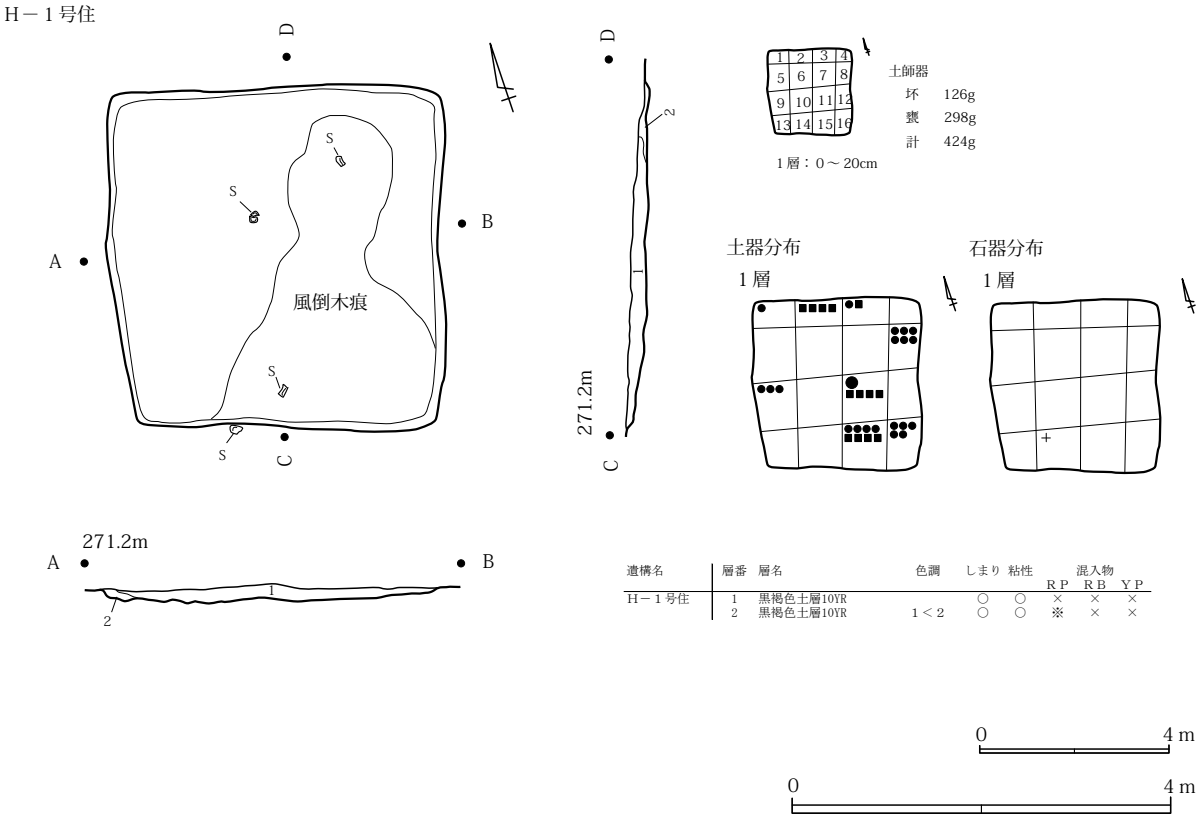
住居址　（第260～262図、第20表）

人見向原遺跡Ｂ区で４軒確認した。床面のみを確認したＨ－29号以外は、掘り込みは浅い平面方形あるいは長方形の竪穴住居である。全住居、竈は東側である。Ｈ－10号の竈には、礫（袖石、壁面）が構築材として用いられているが、他住居では、粘土のみで構築されている。竈の作りは、皿状のピット状で粗雑である。竈脇には貯蔵穴が存在する。竪穴住居は、覆土下層まで浅間Ｂ軽石が堆積し、その下部の黒褐色土からは、土器が少数出土した。４軒から出土した土器は、10世紀後半から11世紀前半

に帰属される。

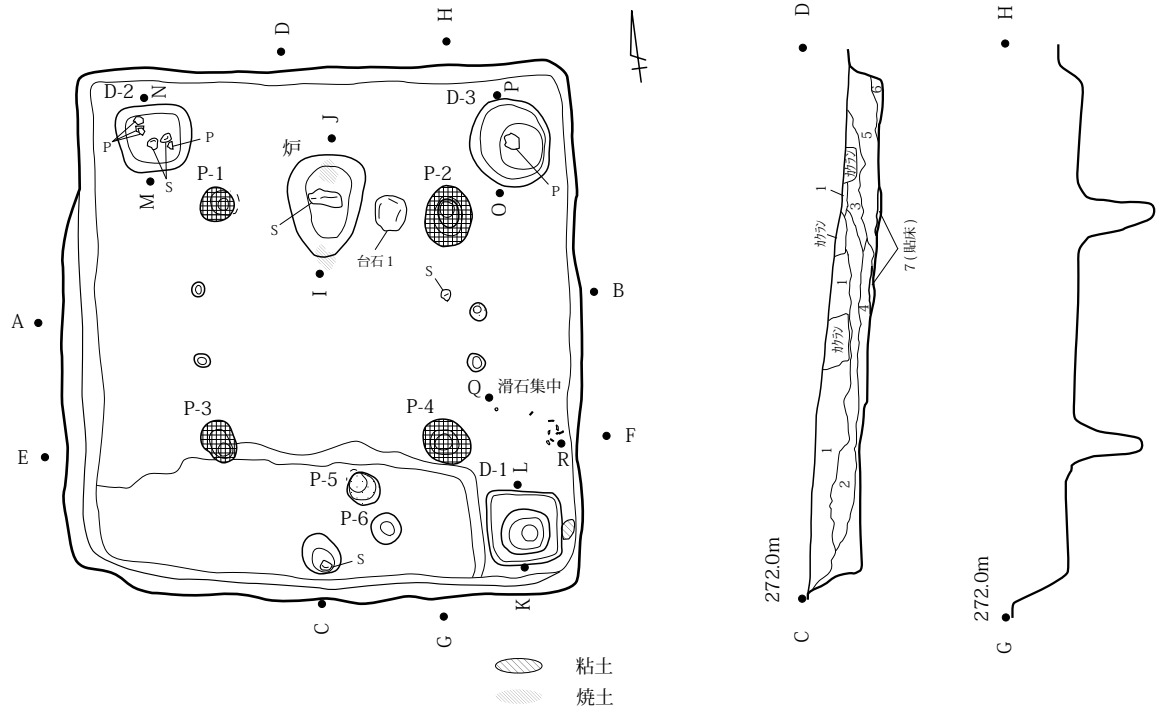
炭焼窯（第263図、第26表）

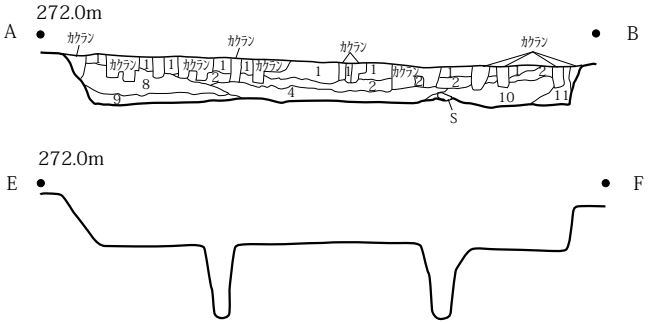
B区台地縁辺部で1基確認した。東西方向に主軸をもつ遺構で、内部から大小の炭化材片を検出した。遺物は覆土混入によるもので、土師器片が少数出土した。浅い溝状の構造である。この形状は、人見東原Ⅱ遺跡、人見枝谷津遺跡等でも確認されている。

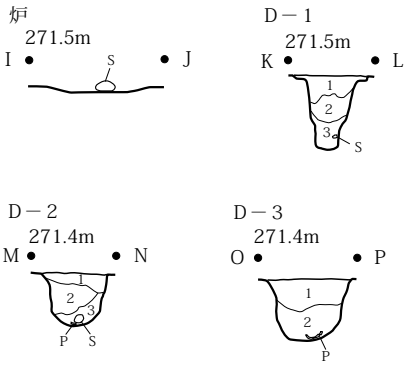


第230図　人見向原遺跡（古墳）H－1号住居址実測図

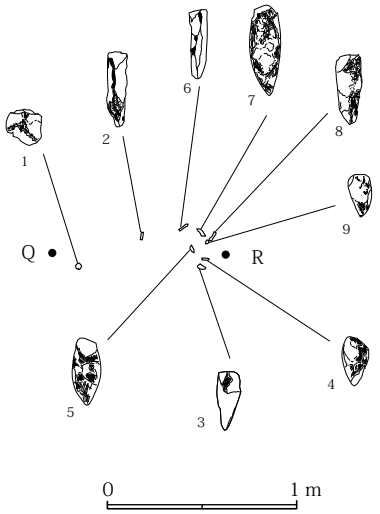
H－２号住





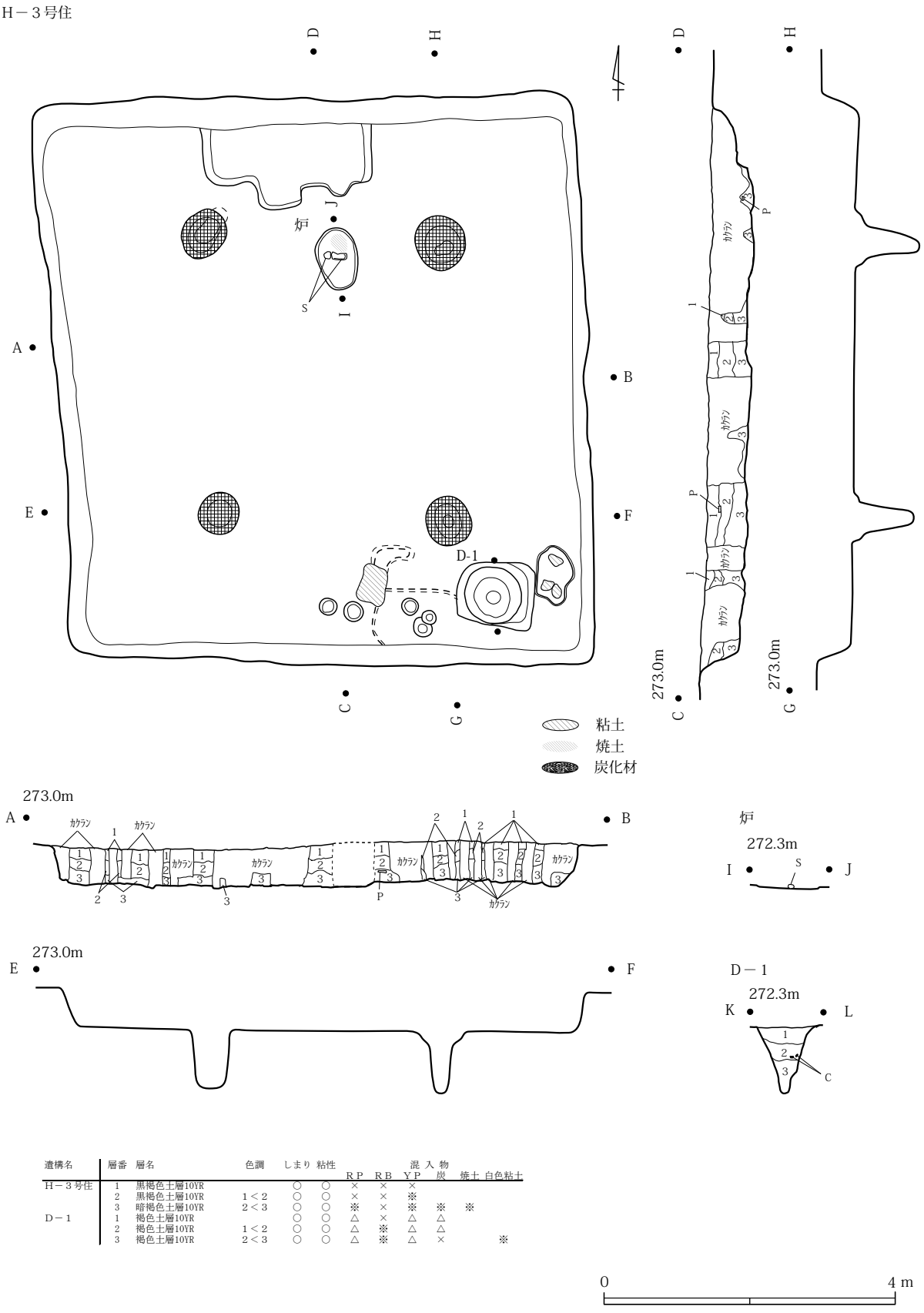


滑石集中微細図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	炭	備考
H－２号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	△		
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	※	※	※	
	5	褐色土層10YR	3＜5	○	○	△	※	○		
	6	黒褐色土層10YR	6＜	○	○	※	×	※		
	7	暗褐色土層10YR	4＜7	◎	○	※	×	※		張床
	8	暗褐色土層10YR	4＜8	○	○	※	※	△	※	
	9	暗褐色土層10YR	8＜9	○	○	※	×	△		
	10	暗褐色土層10YR	4＜10	○	○	※	※	※	※	
	11	暗褐色土層10YR	11＜10	○	○	※	×	※		
D－１	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	△		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	△		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	○		埋め戻し
D－２	1	褐色土層10YR		○	○	△	△	△		
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	×	△		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	△		
D－３	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	△		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	△		

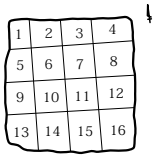
第231図　人見向原遺跡（古墳）H－２号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色粘土
H－３号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	※			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	※	※	
D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	△	△		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	△	△		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	△	×		※

第232図　人見向原遺跡（古墳）H－３号住居址実測図

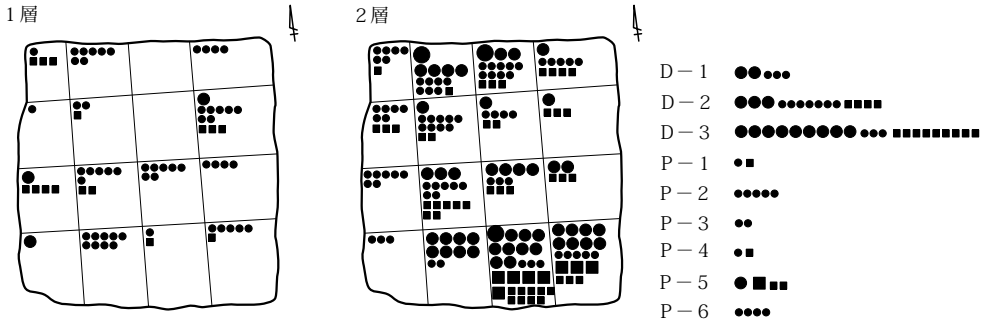
H－２号住



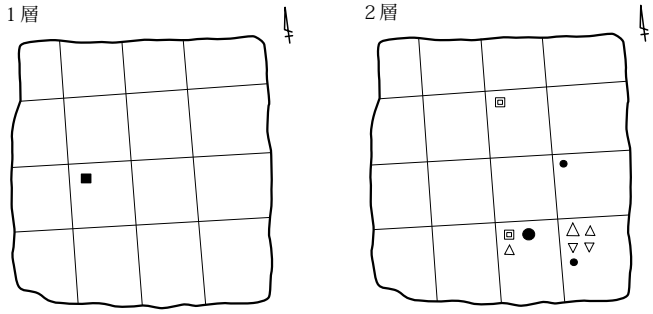
１層：15cm
２層：15 ～ 20cm

土師器
坏　1,620g
甕　10,747g
計　12,367g

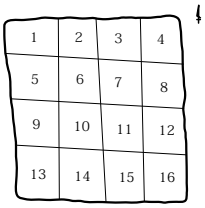
土器分布



石器分布



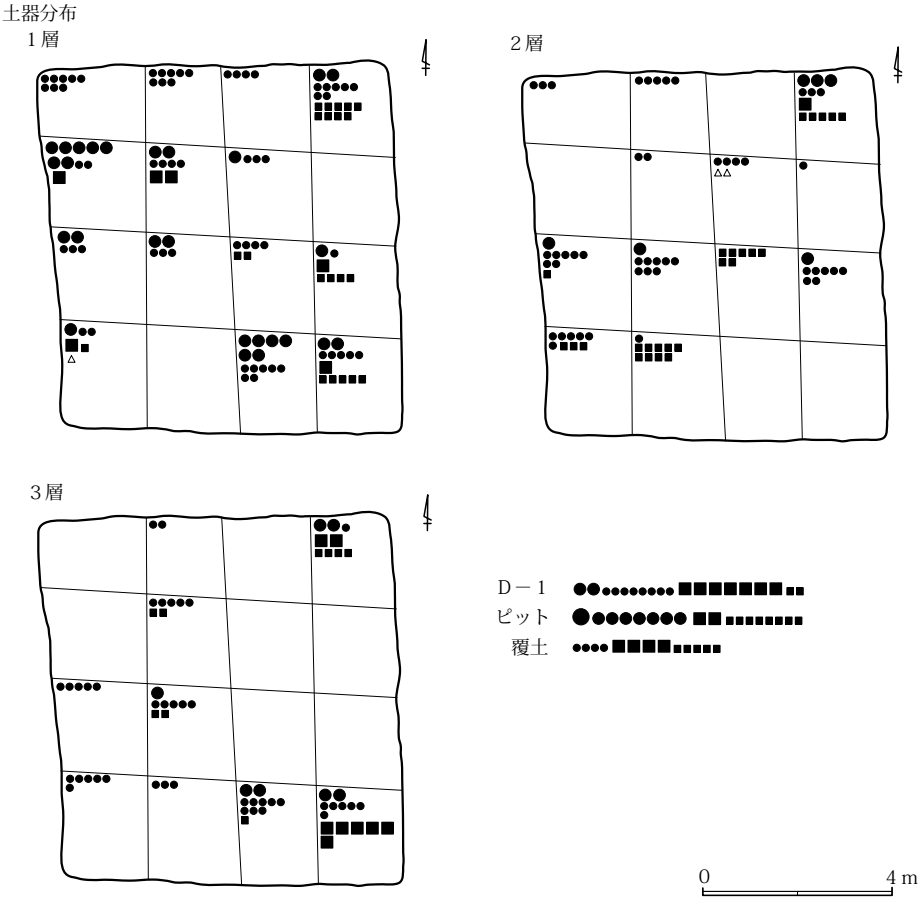
H－３号住



１層：20cm
２層：20cm
３層：10 ～ 15cm

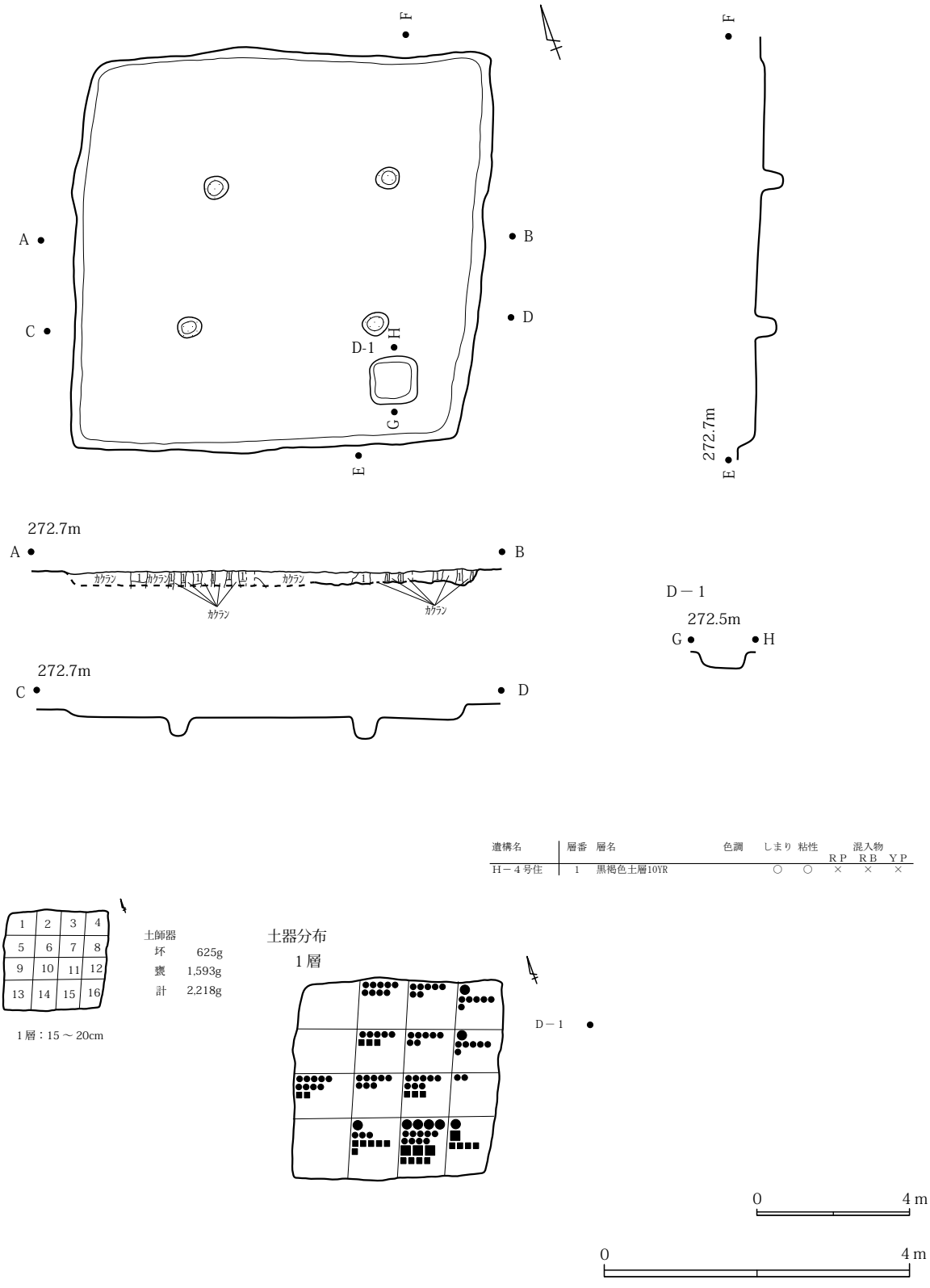
土師器
坏　3,503g
甕　7,383g
他　20g
計　10,906g

土器分布

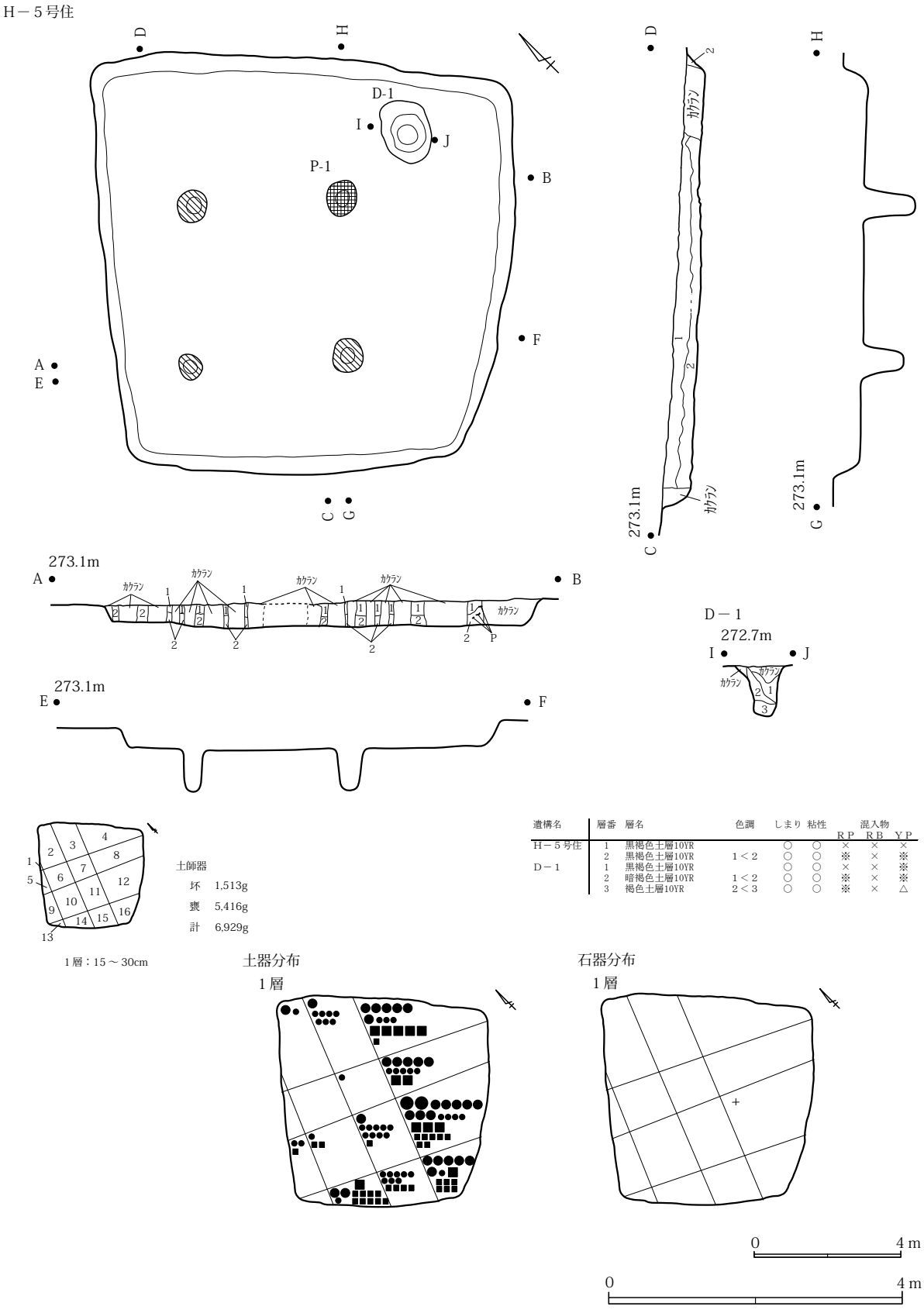


第233図　人見向原遺跡（古墳）H－２・３号住居址実測図

H－4号住



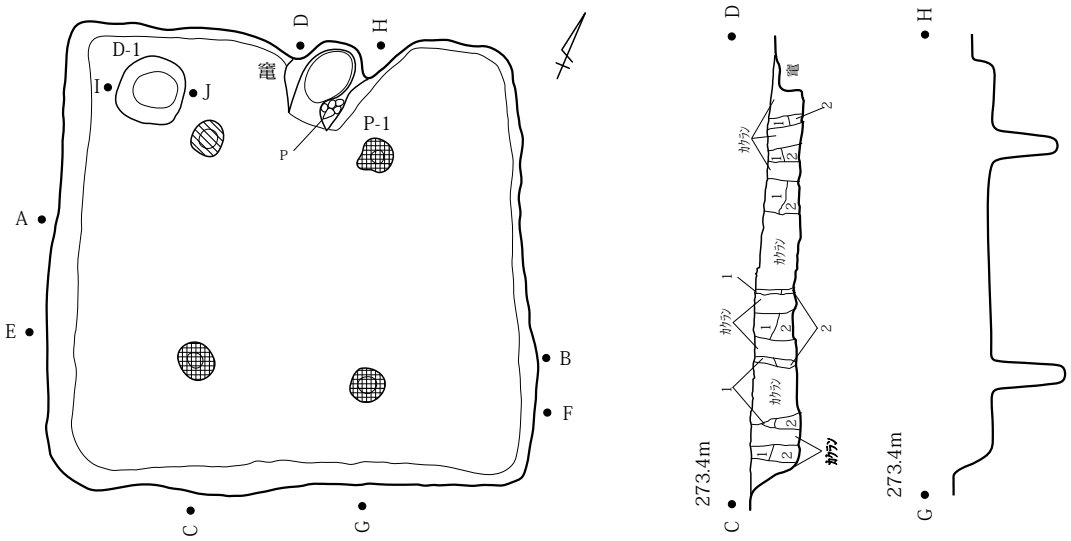
第234図　人見向原遺跡（古墳）H－4号住居址実測図

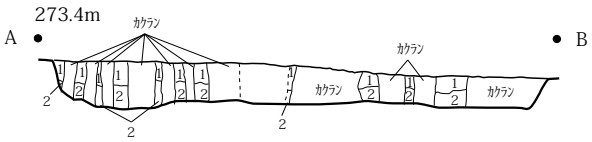


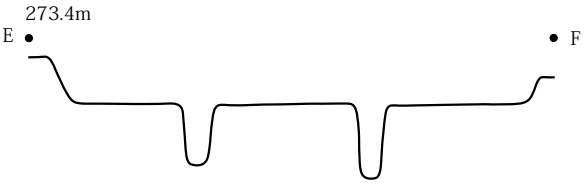
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
H－5号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	△

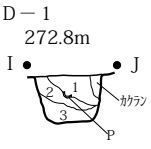
第235図　人見向原遺跡（古墳）H－5号住居址実測図

H－6号住

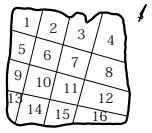








遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－6号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	※
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×	
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	



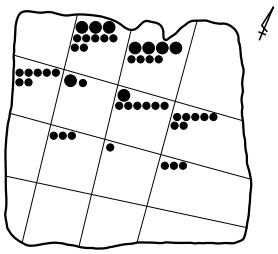
1層：20cm
2層：20cm

土師器

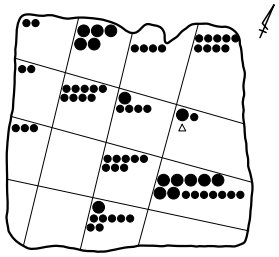
坏	858g
甕	4,098g
他	9g
計	4,965g

土器分布

1層



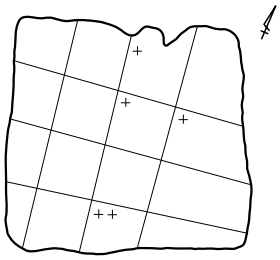
2層



竈
D－1
P－1

石器分布

1層

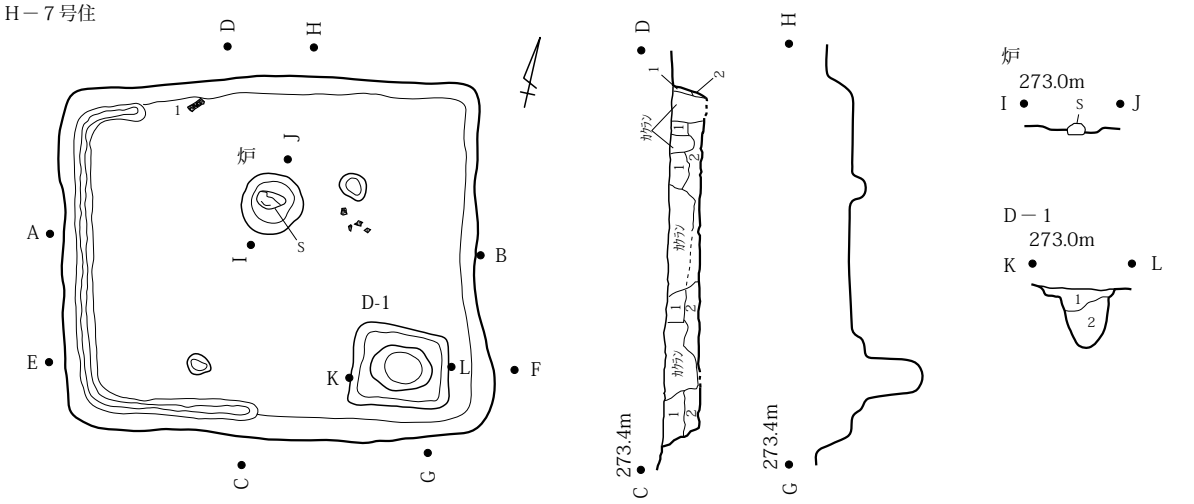


0 4 m

0 4 m

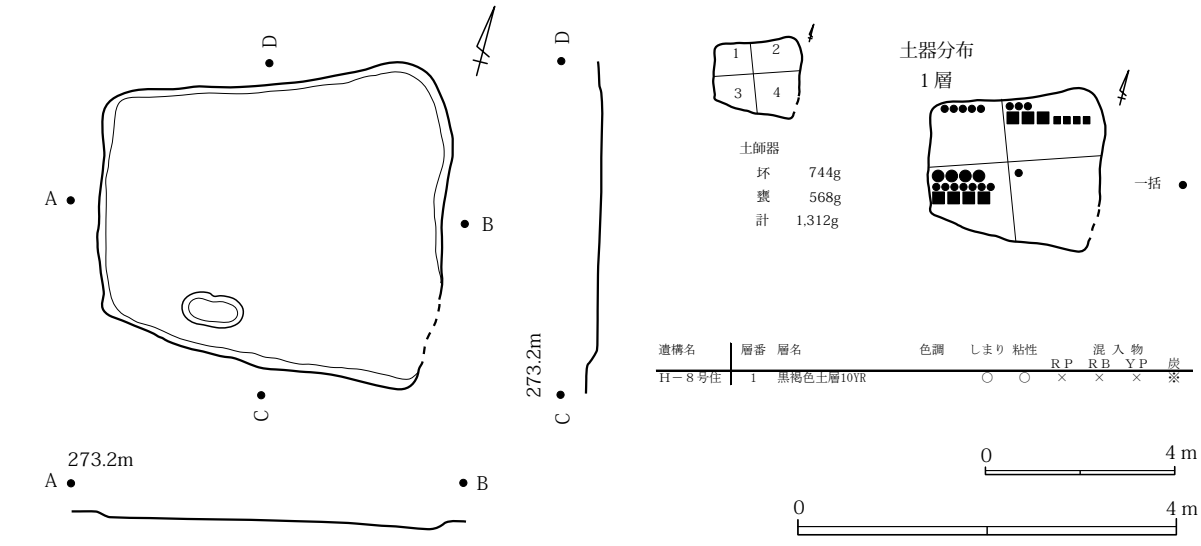
第236図　人見向原遺跡（古墳）H－6号住居址実測図

H－７号住



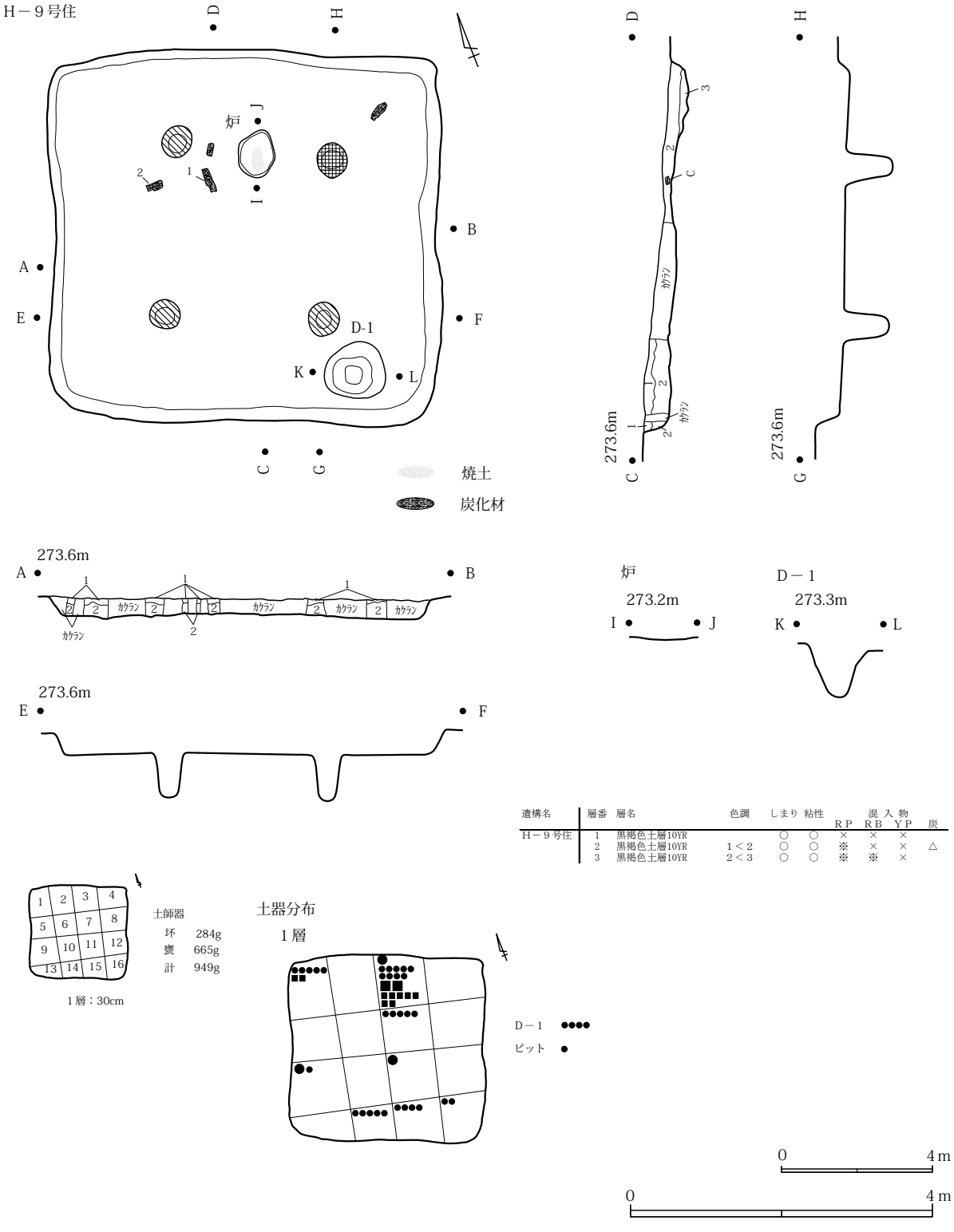
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－７号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※	
炉	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	※
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	×	

H－８号住

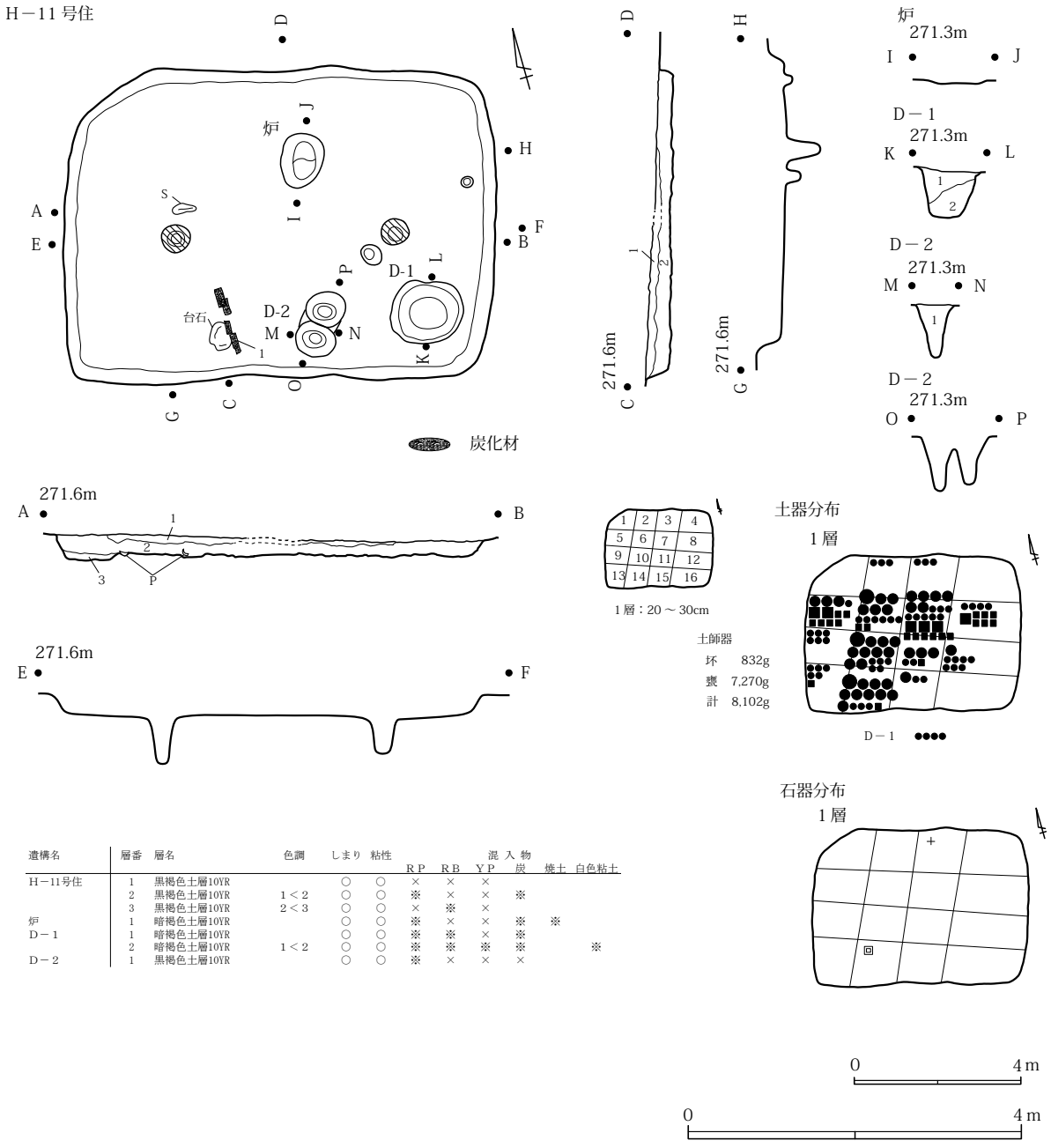


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－８号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※

第237図　人見向原遺跡（古墳）H－７・８号住居址実測図



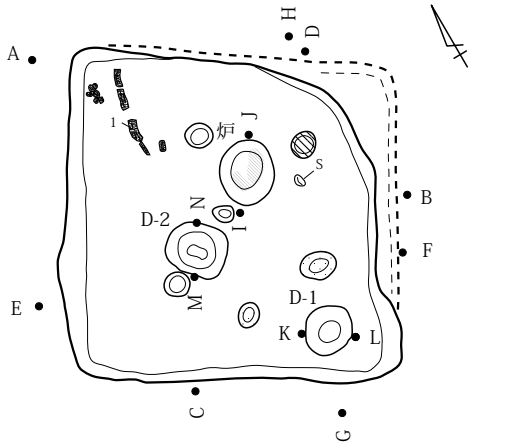
第238図　人見向原遺跡（古墳）H－９号住居址実測図

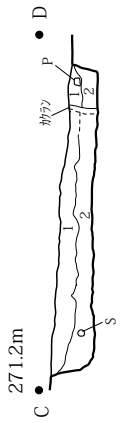


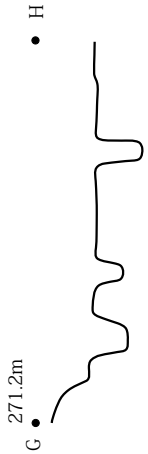
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色粘土
H－11号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	※		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	※	×			
炉	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	※	
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※	※		※
D－2	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	×		

第239図　人見向原遺跡（古墳）H－11号住居址実測図

H－12号住

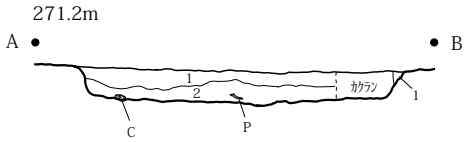


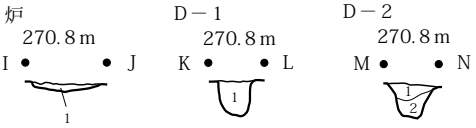




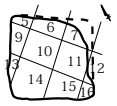
焼土

炭化材





遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－12号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	△	
炉	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	※
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	※
D－2	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		



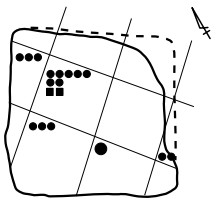
1層：20cm
2層：20cm

土師器

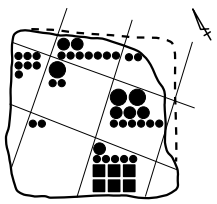
坏	4,129g
甕	622g
計	4,751g

土器分布

1層

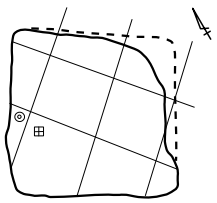


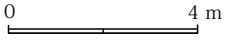
2層

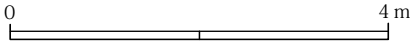


石器分布

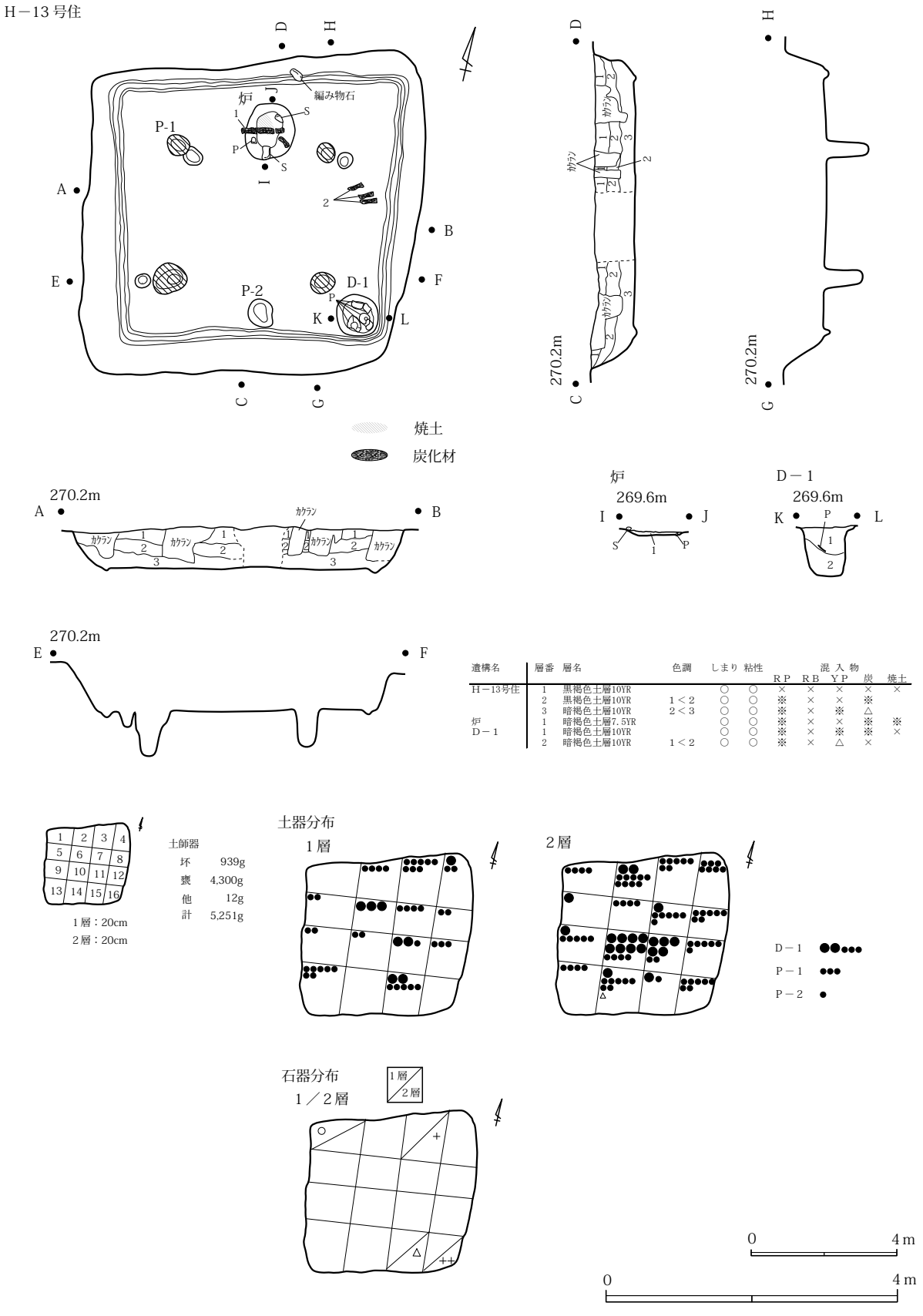
2層



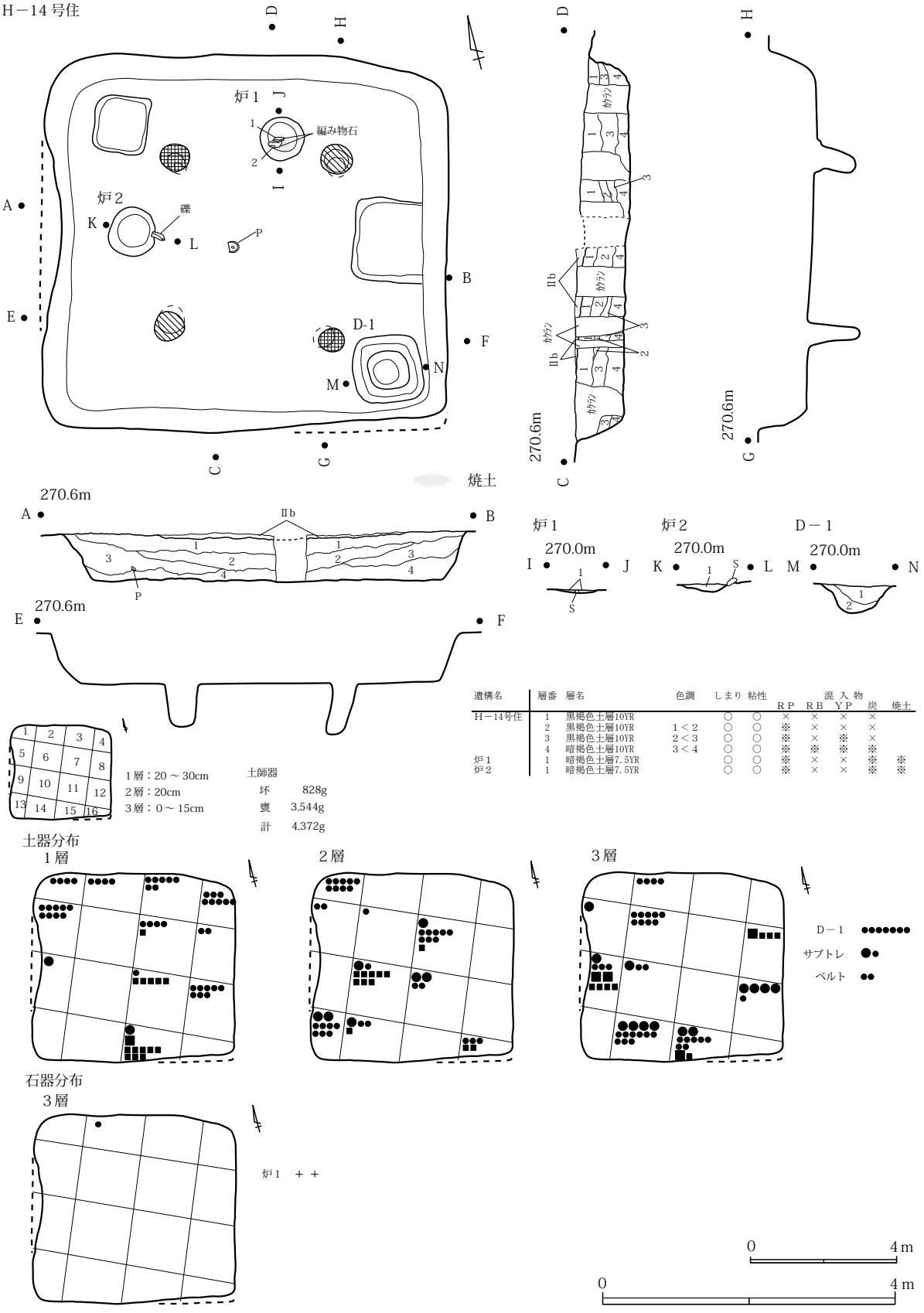




第240図　人見向原遺跡（古墳）H－12号住居址実測図

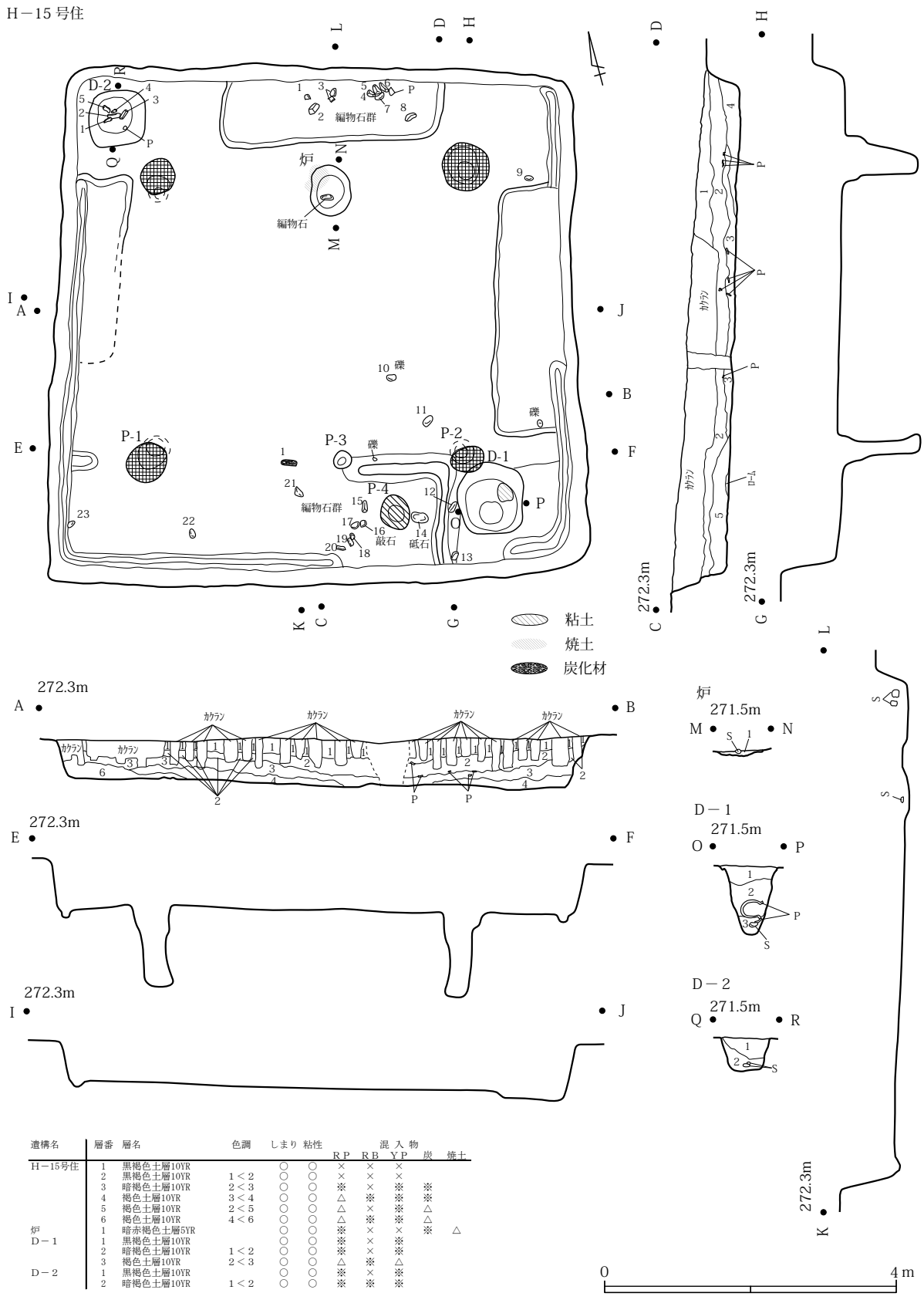


第241図　人見向原遺跡（古墳）H－13号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－14号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	×	
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	×	
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	※	※	※	
炉1	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	※	※
炉2	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	※	※

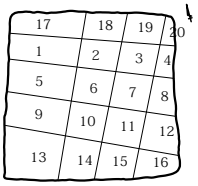
第242図　人見向原遺跡（古墳）H－14号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土
H－15号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	※	
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	※	※	※	
	5	褐色土層10YR	2＜5	○	○	△	×	※	△	
	6	褐色土層10YR	4＜6	○	○	△	※	※	△	
炉	1	暗赤褐色土層5YR		○	○	※	×	×	※	△
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	△		
D－2	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		

第243図　人見向原遺跡（古墳）H－15号住居址実測図（1）

H－15 号住

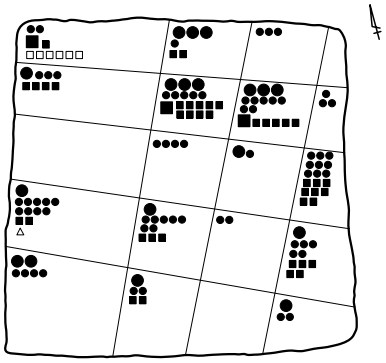


土師器	坏	7,954g
	甕	29,121g
	他	117g
須恵器	坏	58g
計		37,250g

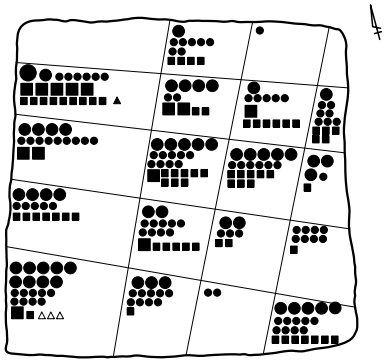
1層：20 ～ 30cm
2層：15 ～ 20cm
3層：0 ～ 15cm

土器分布

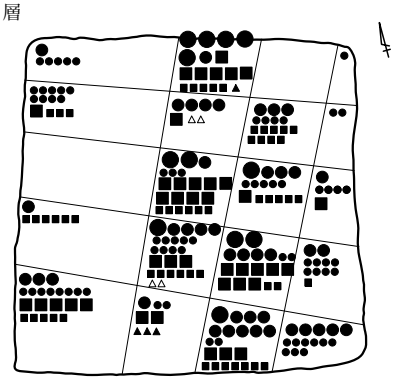
1層

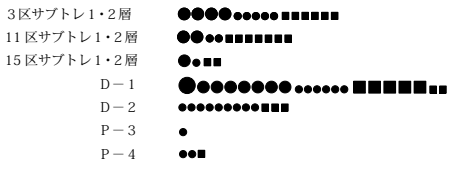


2層



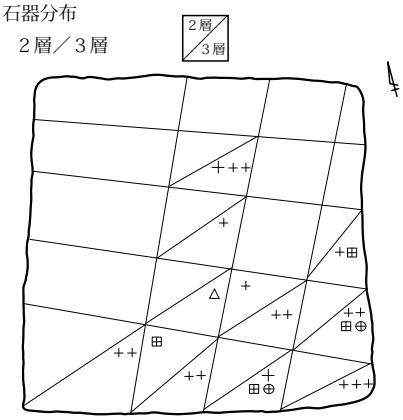
3層

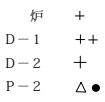




石器分布

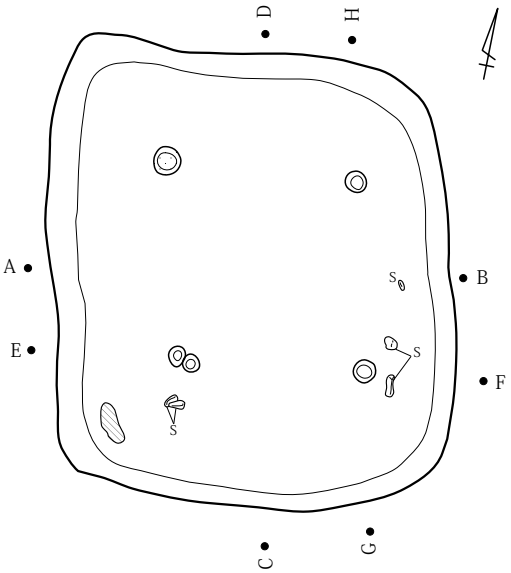
2層／3層

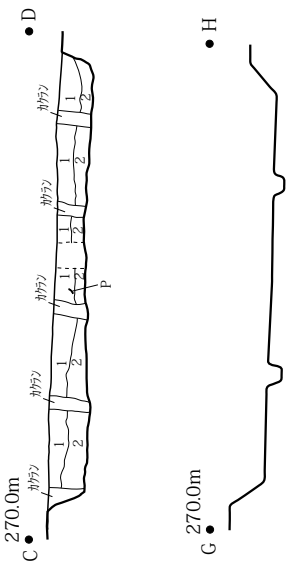


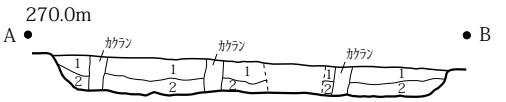


第244図　人見向原遺跡（古墳）H－15号住居址実測図（2）

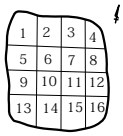
H－16号住





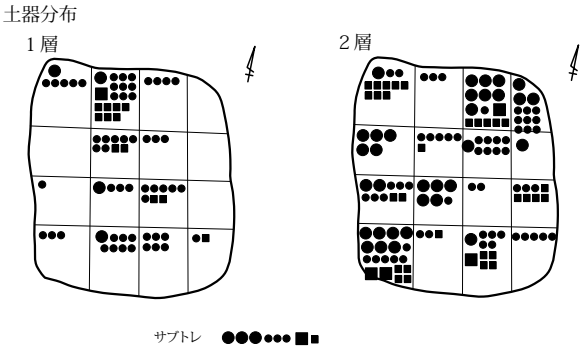


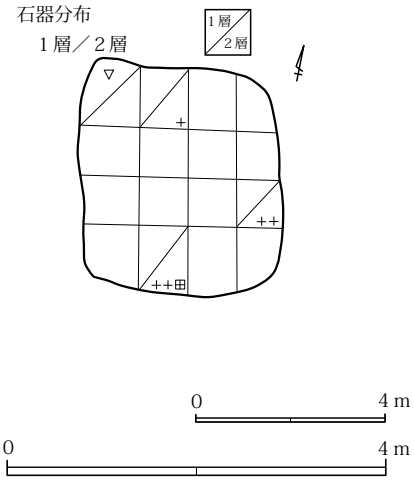
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－16号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×



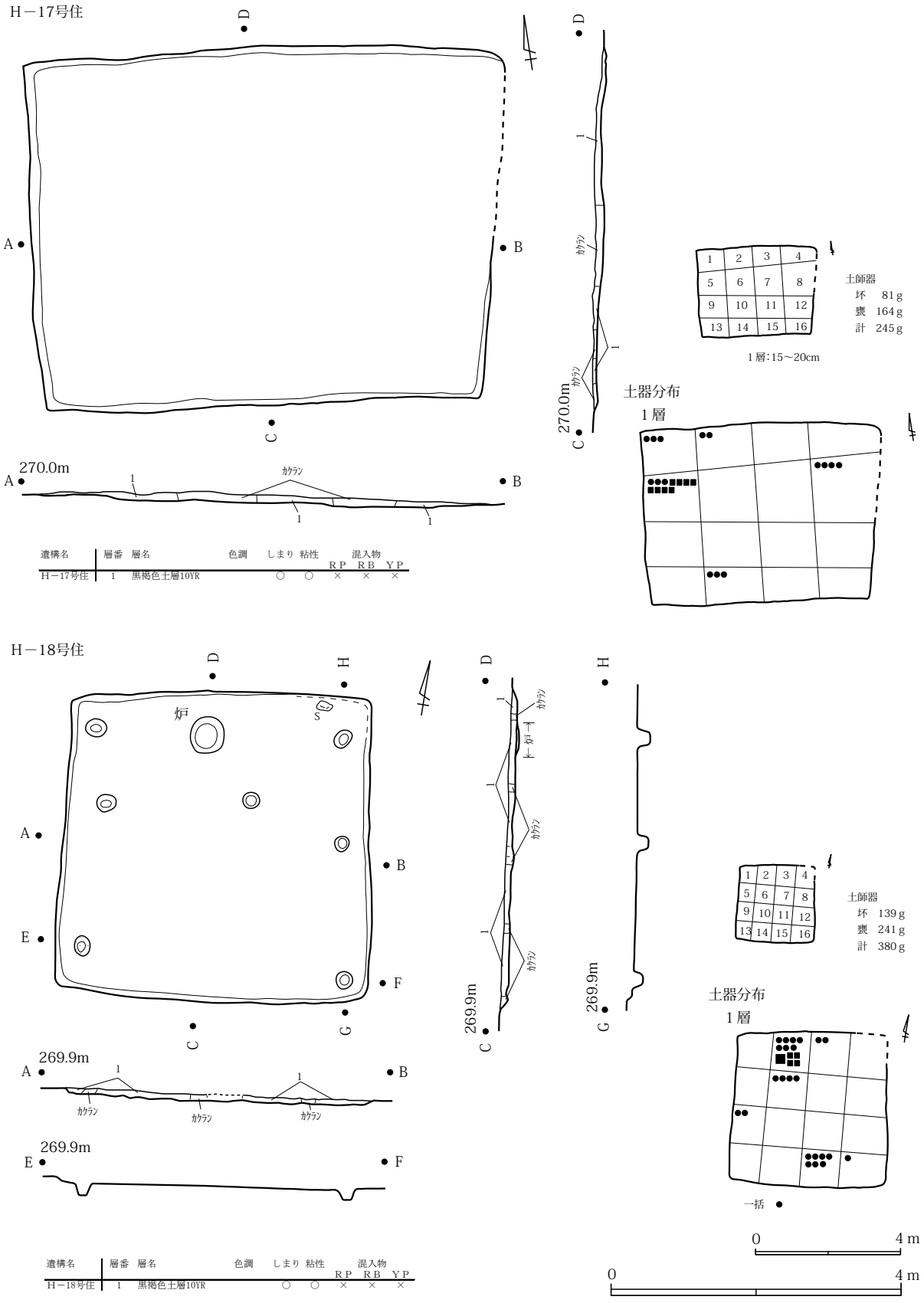
1層:20cm
2層:15～20cm

土師器
坏　1,925ｇ
甕　5,164ｇ
計　7,089ｇ

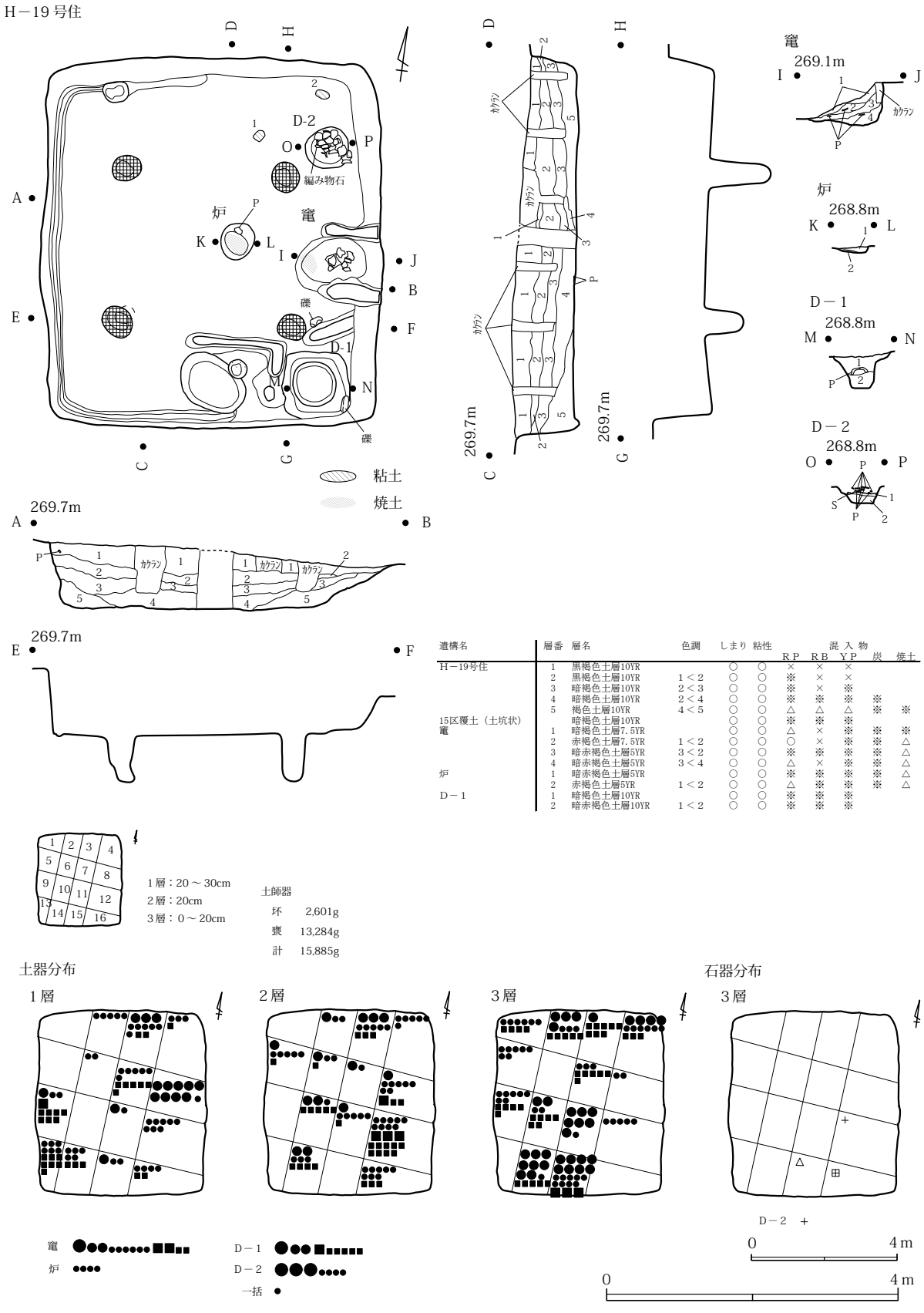




第245図　人見向原遺跡（古墳）H－16号住居址実測図

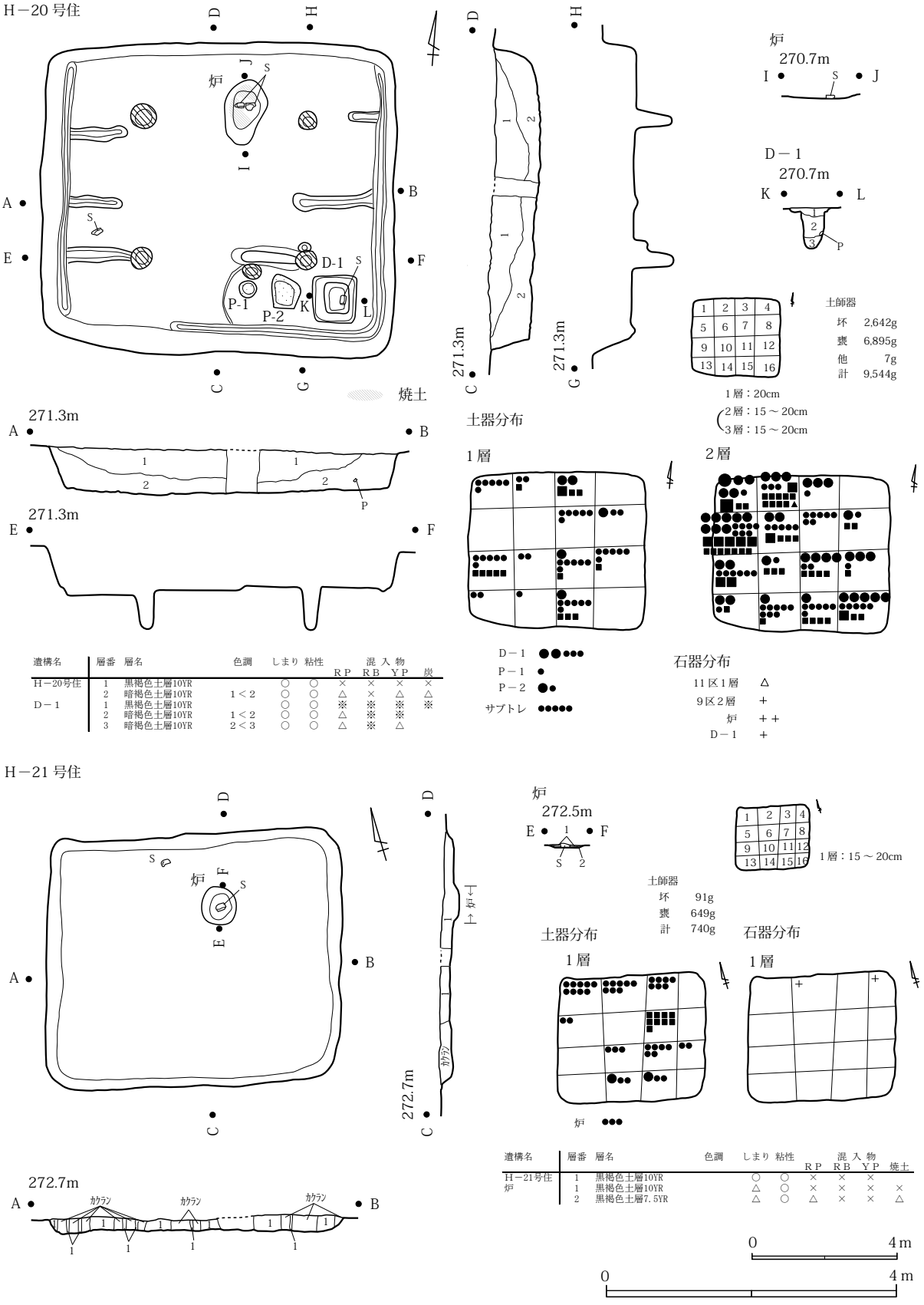


第246図　人見向原遺跡（古墳）H－17・18号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－19号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	※	※	※	
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	△	△	※	※
15区覆土（土坑状）		暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※		
竈	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	△	×	※	※	※
	2	赤褐色土層7.5YR	1＜2	○	○	○	×	※	※	△
	3	暗赤褐色土層5YR	3＜2	○	○	※	※	※	※	△
	4	暗赤褐色土層5YR	3＜4	○	○	△	×	※	※	△
炉	1	暗赤褐色土層5YR		○	○	※	※	※	※	△
	2	赤褐色土層5YR	1＜2	○	○	△	※	※	※	△
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※		
	2	暗赤褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		

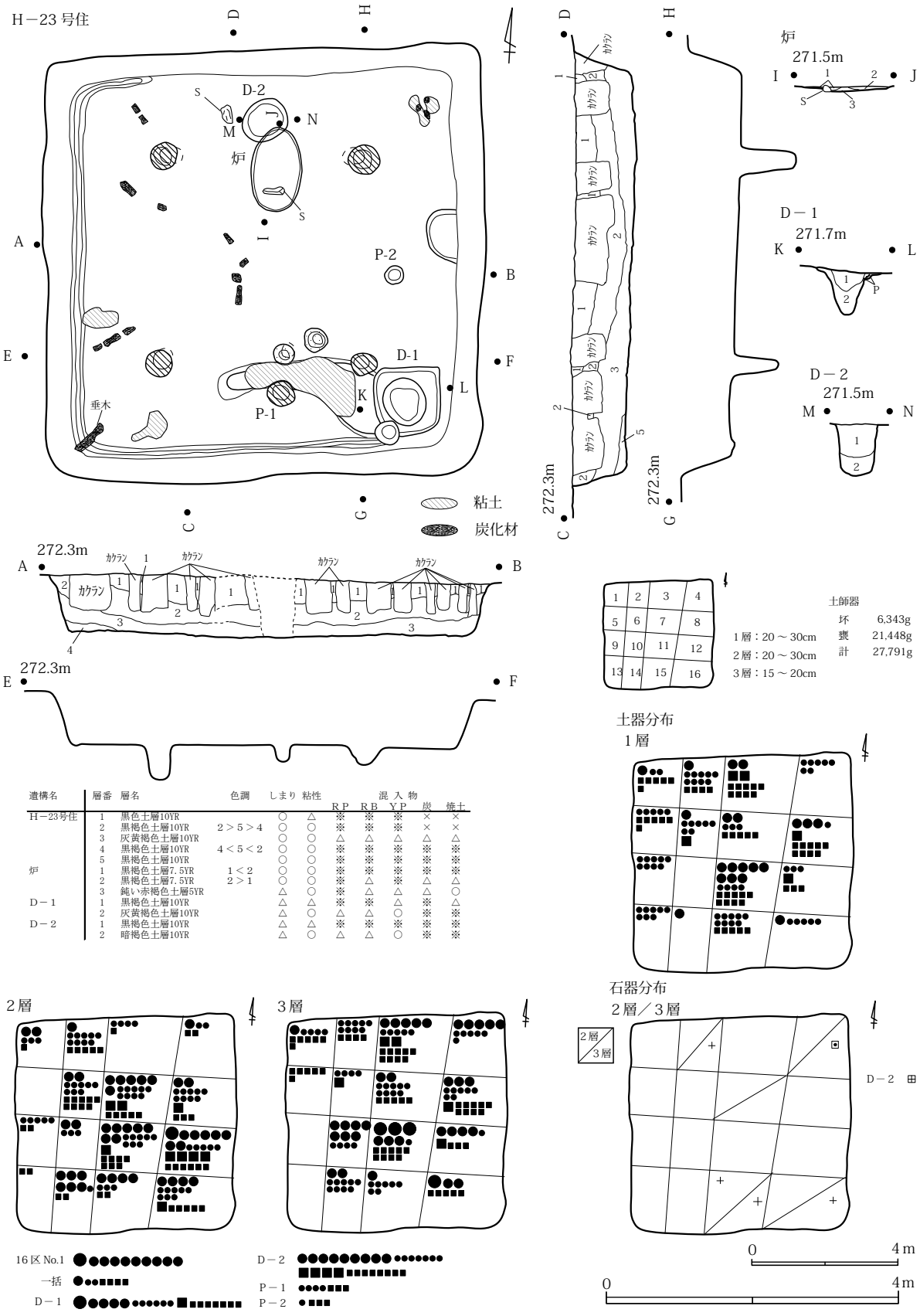
第247図　人見向原遺跡（古墳）H－19号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
H－20号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	△	△
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	△	

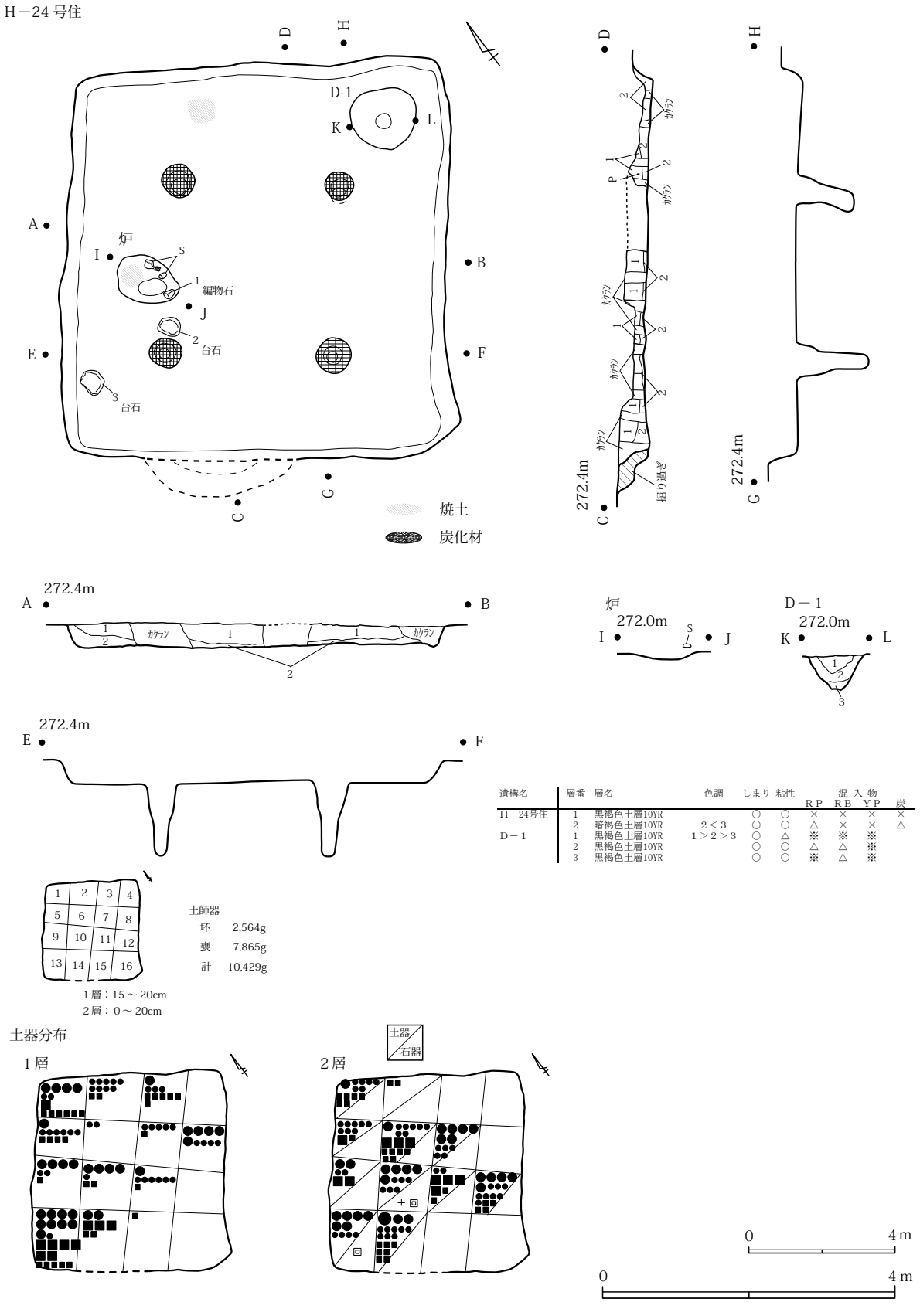
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土
H－21号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
炉	1	黒褐色土層10YR		△	○	×	×	×	×
	2	黒褐色土層7.5YR		△	○	△	×	×	△

第248図　人見向原遺跡（古墳）H－20・21号住居址実測図



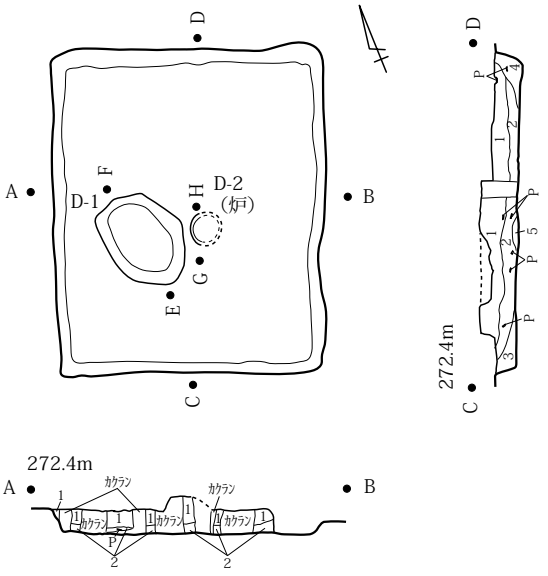
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－23号住	1	黒色土層10YR		○	△	※	※	※	×	×
	2	黒褐色土層10YR	2＞5＞4	○	○	※	※	※	×	×
	3	灰黄褐色土層10YR		○	○	△	△	△	△	△
	4	黒褐色土層10YR	4＜5＜2	○	○	※	※	※	※	※
	5	黒褐色土層10YR		○	○	※	※	※	※	※
炉	1	黒褐色土層7.5YR	1＜2	○	○	※	※	※	※	※
	2	黒褐色土層7.5YR	2＞1	○	○	※	△	※	△	△
	3	鈍い赤褐色土層5YR		△	○	※	△	△	△	○
D－1	1	黒褐色土層10YR		△	△	※	※	△	※	△
	2	灰黄褐色土層10YR		△	○	△	△	○	※	※
D－2	1	黒褐色土層10YR		△	△	※	※	※	※	※
	2	暗褐色土層10YR		△	○	△	△	○	※	※

第249図　人見向原遺跡（古墳）H－23号住居址実測図

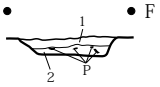


第250図　人見向原遺跡（古墳）H－24号住居址実測図

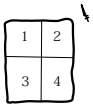
H－25号住



D－1
272.2m



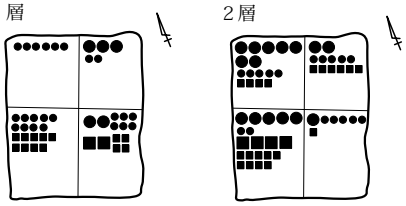
D－2 (炉)
272.2m



土師器
坏　2,137ｇ
甕　5,281ｇ
計　7,418ｇ

1層:20cm
2層:20cm

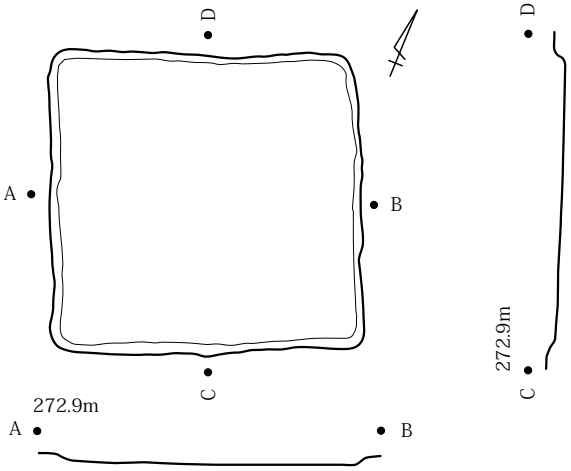
土器分布



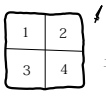
一括
D－1

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－25号住	1	黒褐色土層10YR	1＜2	○	△	※	※	※	△	※
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	△	※	△	△	※	※
	3	暗褐色土層10YR	3＞4	○	○	△	※	※	※	※
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	△	※	△	※	※
	5	鈍い赤褐色土層5YR		△	○	△	※	※	△	○
D－1	1	黒褐色土層10YR		△	△	※	※	※	※	※
	2	暗褐色土層7.5YR		△	△	△	※	※	△	△
D－2 (炉)	1	鈍い赤褐色土層5YR		△	○	※	※	※	※	○
	2	暗褐色土層7.5YR		△	△	※	※	※	※	△

H－26号住



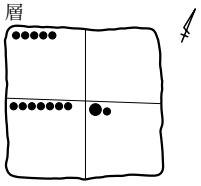
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－26号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×

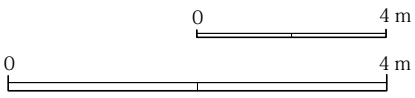


土師器
甕　224g

1層:0～5cm

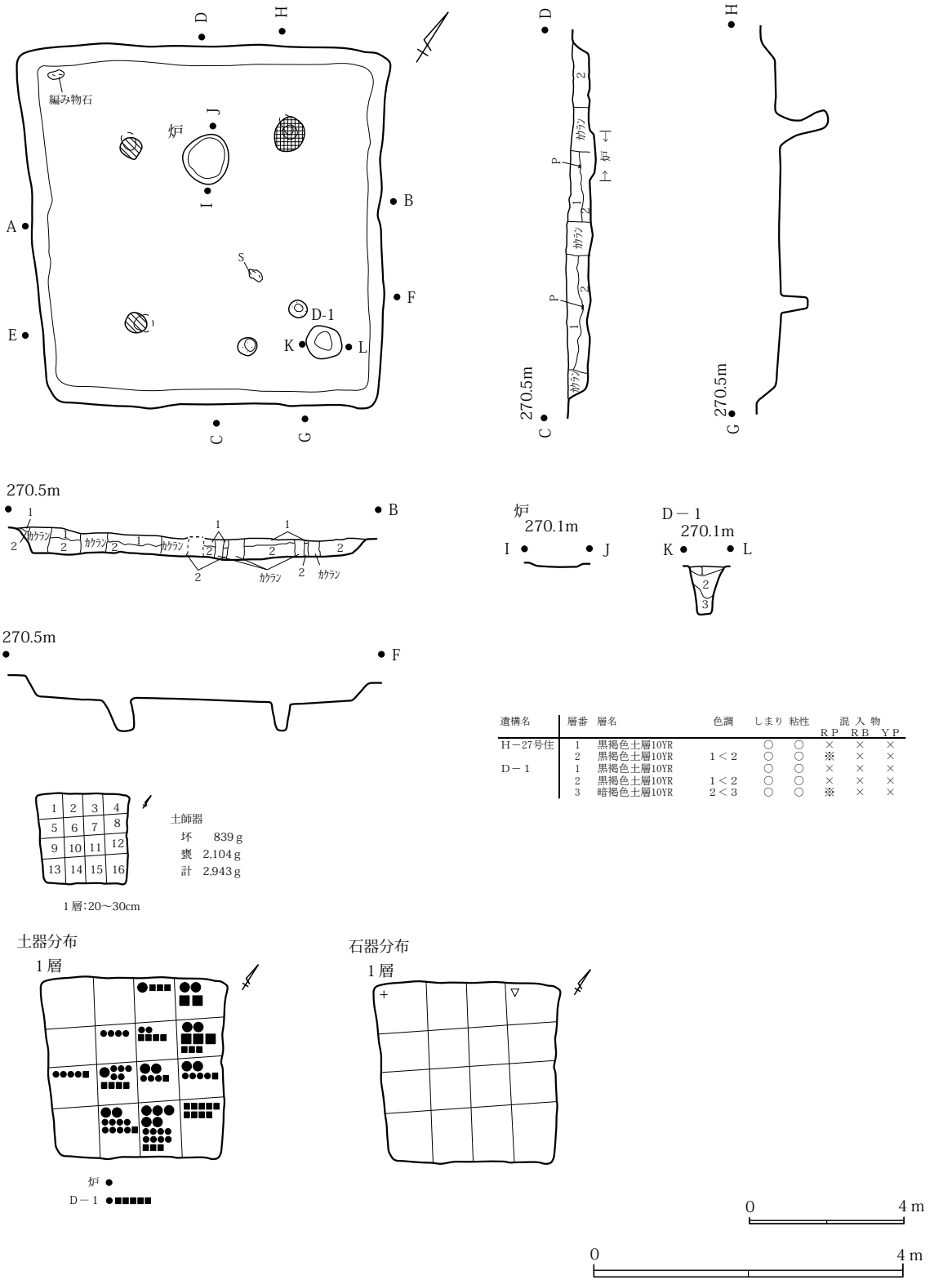
土器分布
1層





第251図　人見向原遺跡（古墳）H－25・26号住居址実測図

H－27号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
H－27号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×

土師器
坏　839ｇ
甕　2,104ｇ
計　2,943ｇ

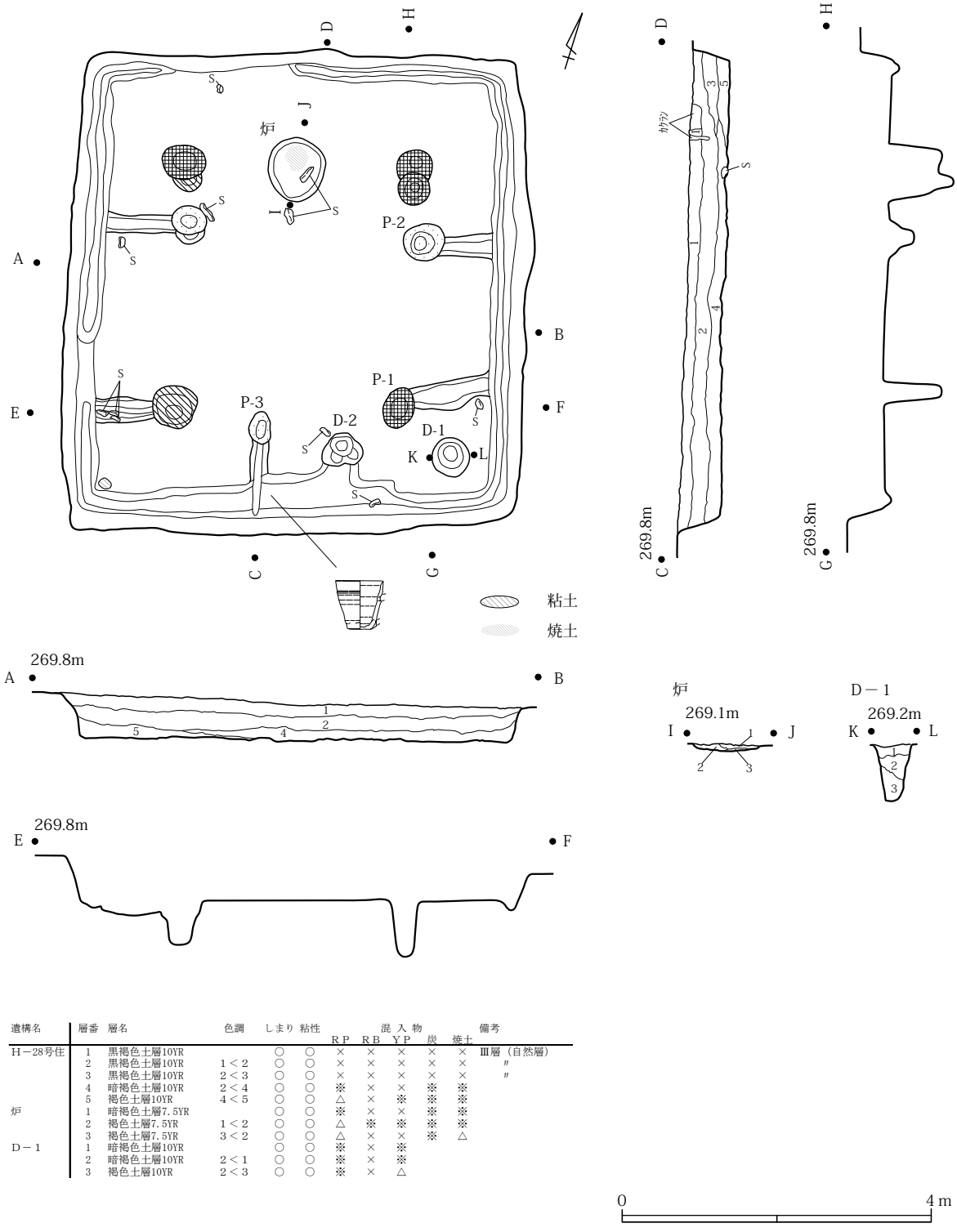
1層:20～30cm

土器分布
1層

石器分布
1層

第252図　人見向原遺跡（古墳）H－27号住居址実測図

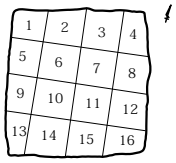
H－28 号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－28号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×	×	Ⅲ層（自然層）
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	×	×	〃
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×	×	×	〃
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	×	×	※	※	
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	×	※	※	※	
炉	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	※	※	
	2	褐色土層7.5YR	1＜2	○	○	△	※	※	※	※	
	3	褐色土層7.5YR	3＜2	○	○	△	×	×	※	△	
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	※			
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	△			

第253図　人見向原遺跡（古墳）H－28号住居址実測図

H－28 号住

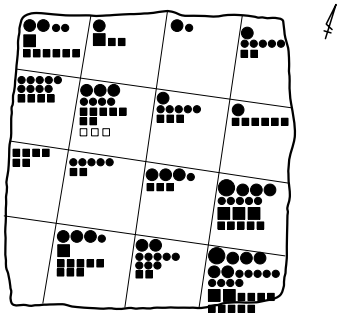


土師器
坏　6,670g
甕　21,340g
他　28g
須恵器
坏　224g
計　28,262g

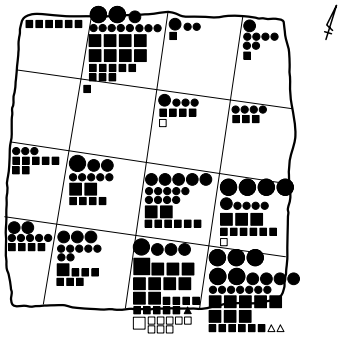
1 層：20 ～ 30cm
2 層：0 ～ 20cm

土器分布

1 層



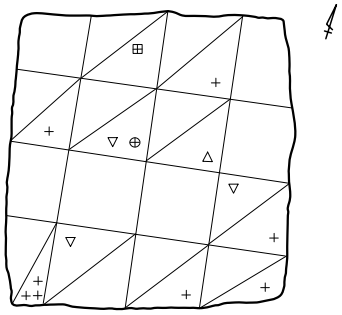
2 層



D－1
D－2
P－1
P－2
P－3
周溝

石器分布

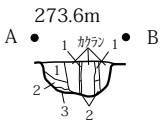
1 層／2 層



0　4 m

H－30 号住

D－1



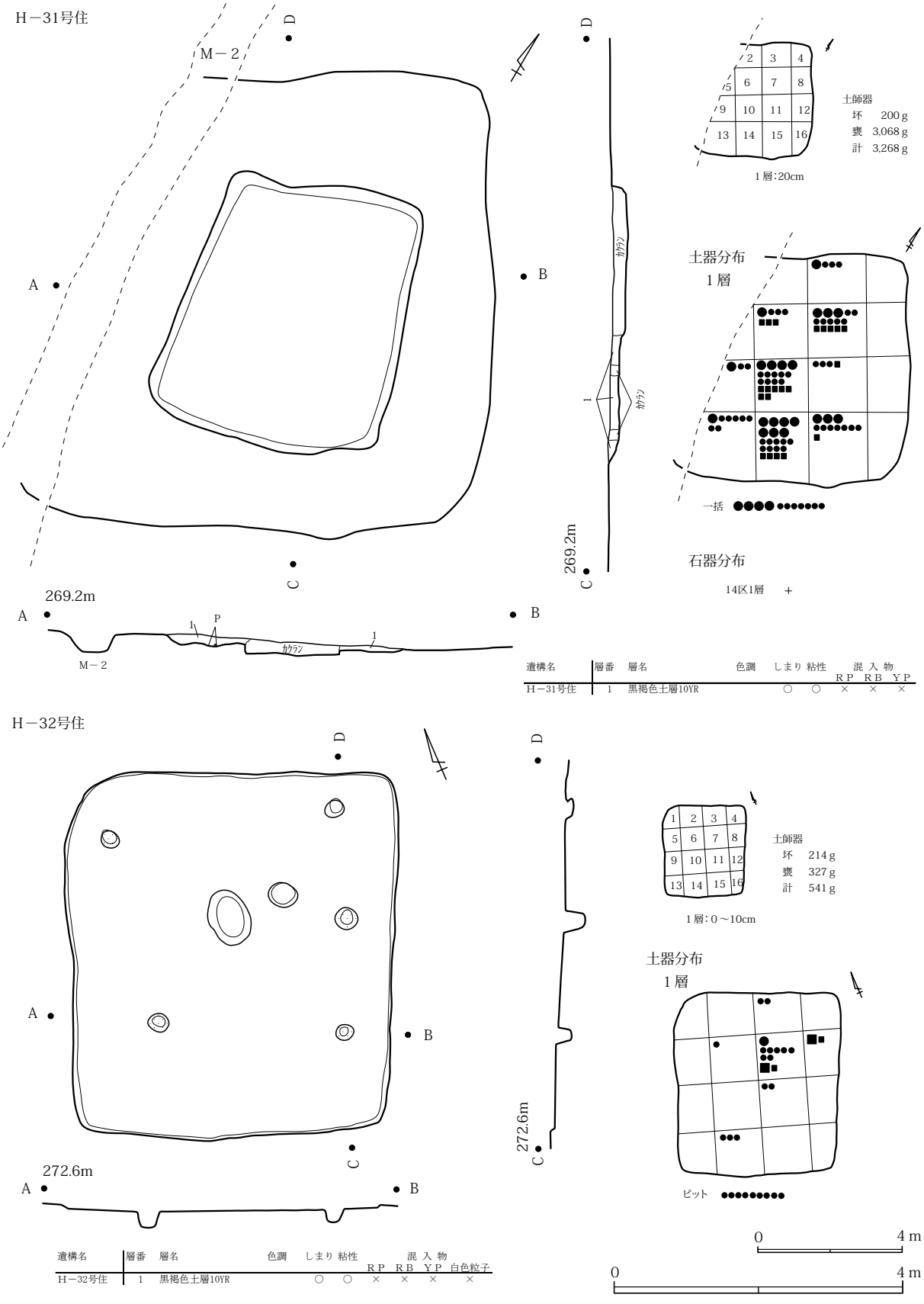
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－30号住　D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	消失家屋
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×	〃
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	〃

土器分布

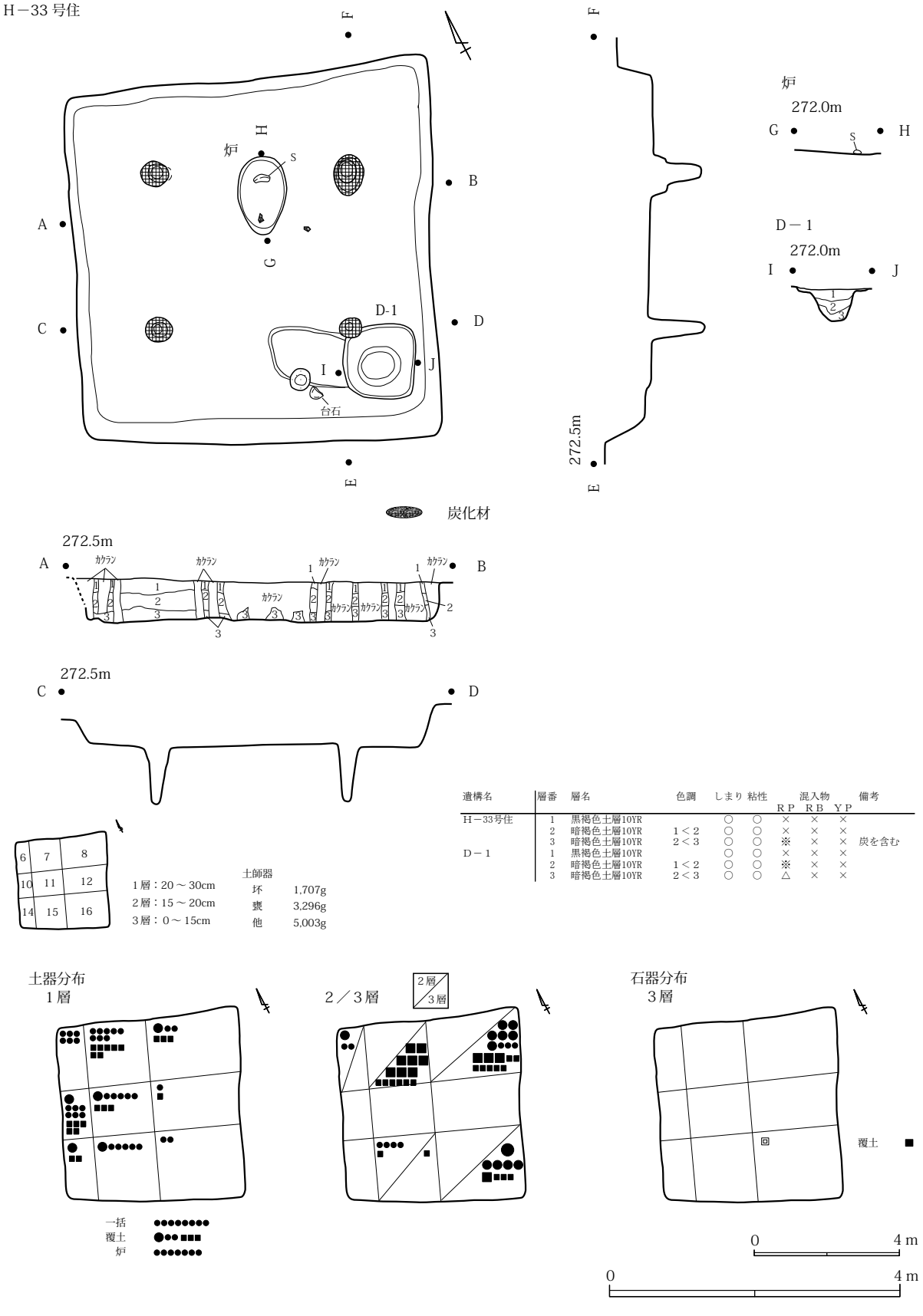
一括

0　4 m

第254図　人見向原遺跡（古墳）H－28・30号住居址実測図



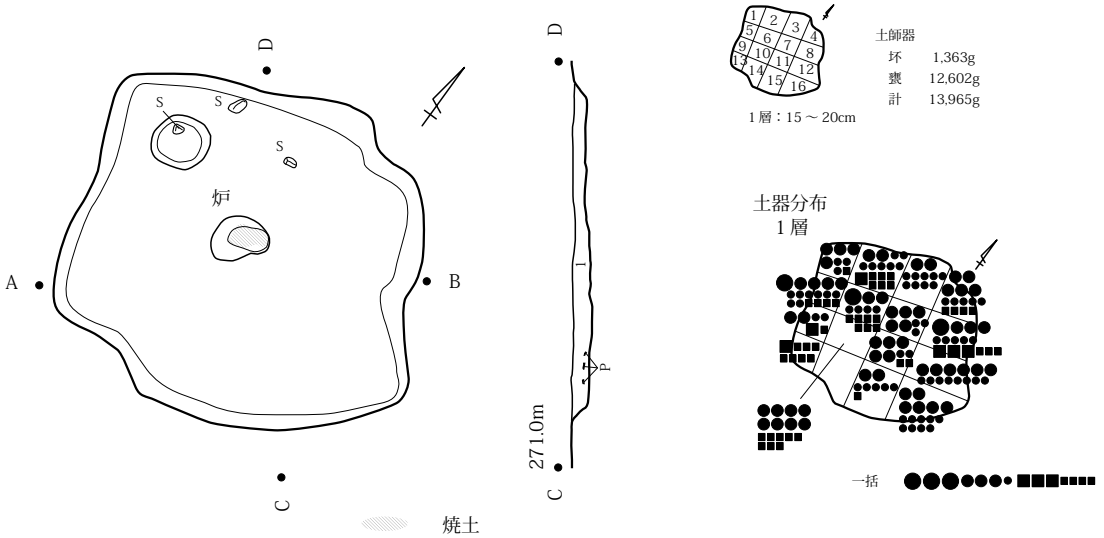
第255図　人見向原遺跡（古墳）H－31・32号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－33号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	炭を含む
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	×	

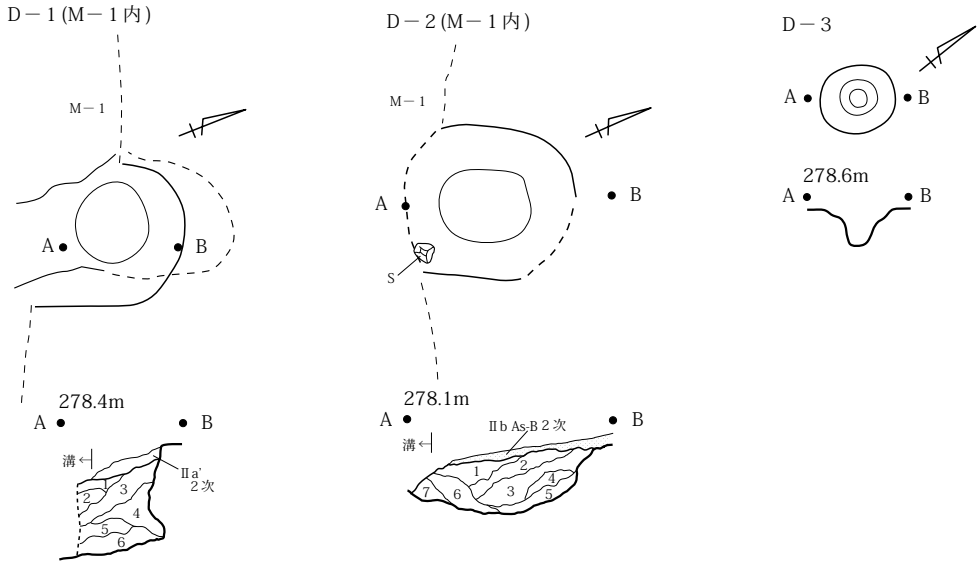
第256図　人見向原遺跡（古墳）H－33号住居址実測図

N８C　H－35 号住

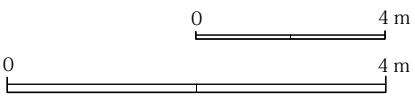


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－35号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×

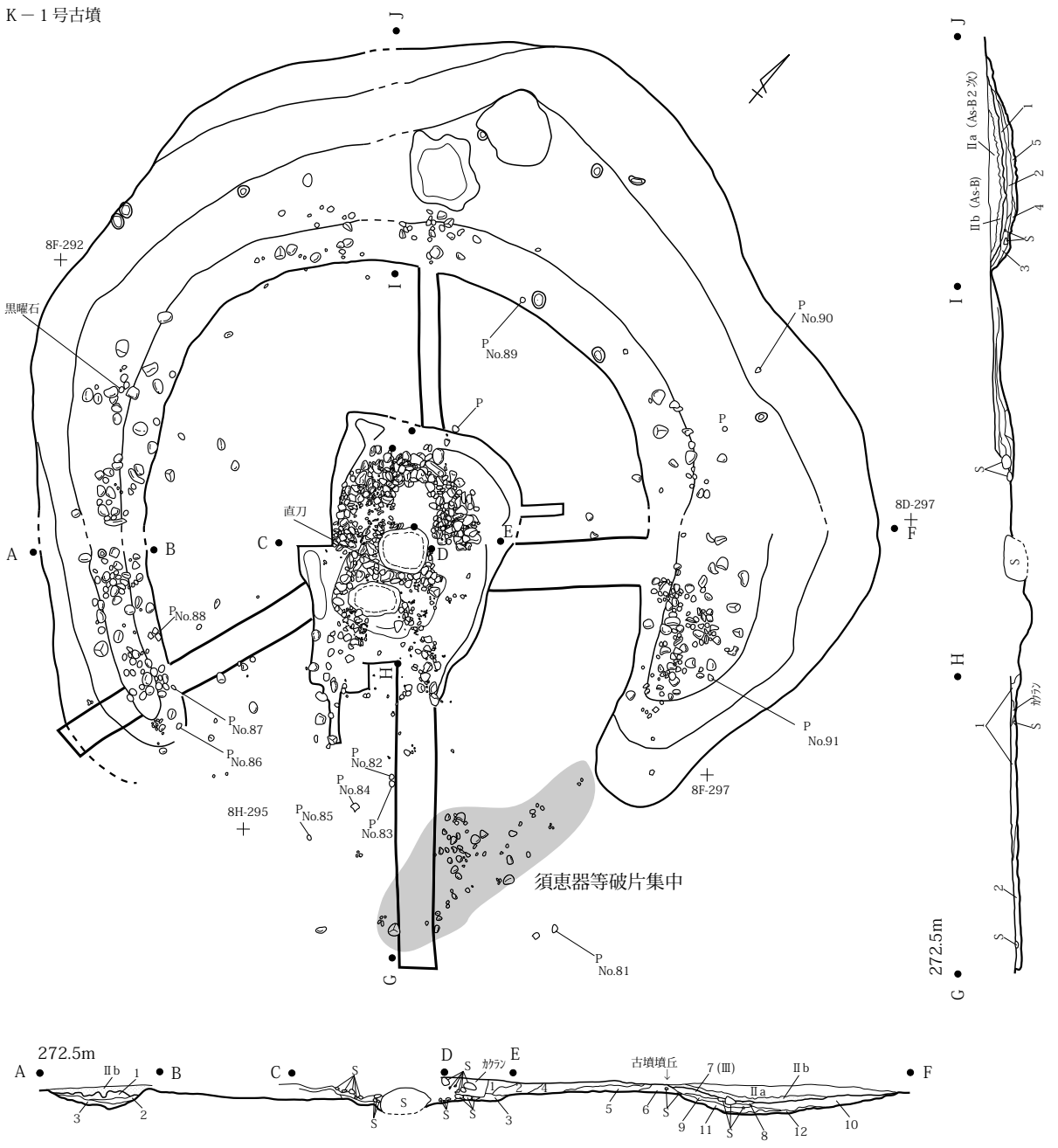
土坑



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
M－1内　D－1	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	△	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※	
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※	
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※	
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	※	※	
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	△	○	△
M－1内　D－2	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	△	
	4	黄褐色土層10YR	3＜4	○	○	○	×	△	
	5	褐色土層10YR	5＜4	○	○	△	※	※	
	6	暗褐色土層10YR	1＜6	○	○	※	×	×	
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	×	



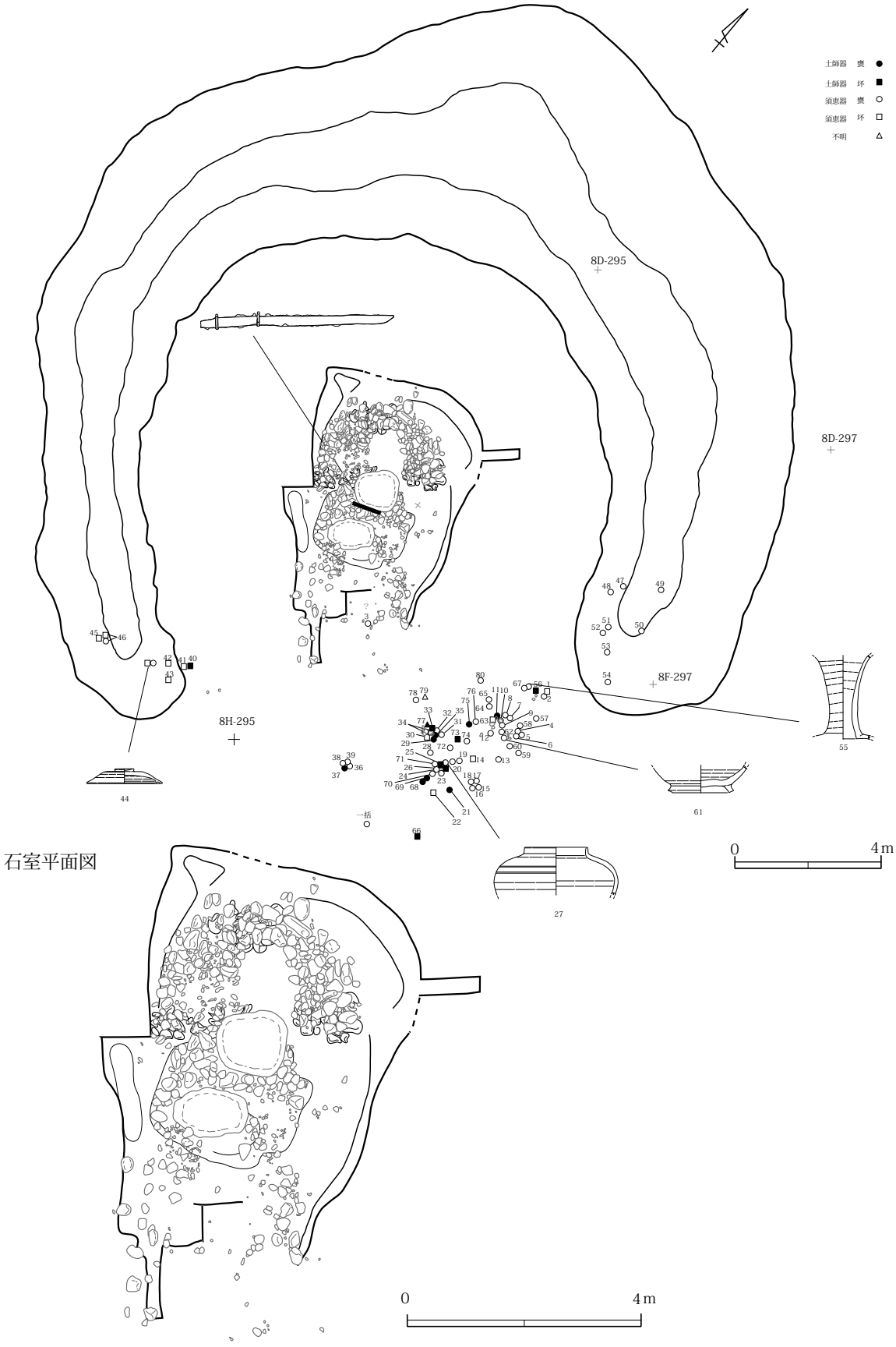
第257図　人見向原遺跡（古墳）H－35号住居址、土坑実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-B	備考
K－1 石室南ﾍﾞﾙﾄ	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
K－1 石室北 南北ﾍﾞﾙﾄ	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	4＜2	○	○	※	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	×		
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	×	×		
	7	黒褐色土層10YR	7＜6	○	○	×	×	×		
	8	褐灰色土層10YR	Ⅱb＜8	○	△	×	×	×	○	
	9	暗褐色土層10YR	7＜9	○	○	×	×	×		
	10	黒褐色土層10YR	9＜10	○	○	※	×	×		
	11	暗褐色土層10YR	9＜11	○	○	※	×	×		
	12	褐色土層10YR	10＜12	○	○	△	×	×		掘り方
K－1 東ﾍﾞﾙﾄ	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×		〃
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		〃
K－1 西ﾍﾞﾙﾄ	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	1＜3	○	○	×	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	×	×		
	5	褐色土層10YR	2＜5	○	○	△	※	※		掘り方

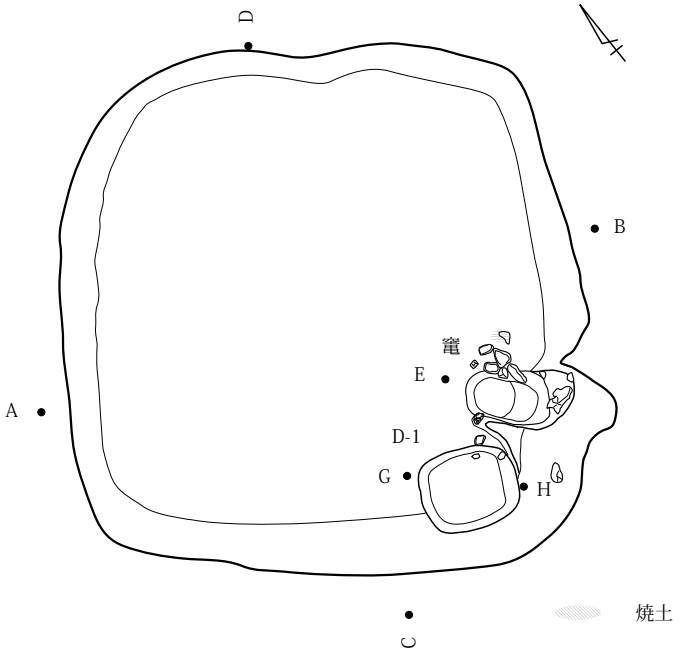
0 10m

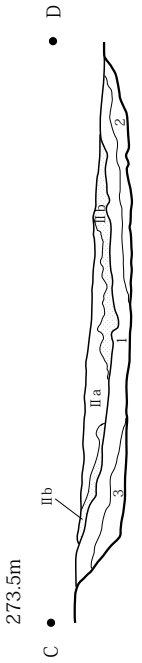
第258図　人見向原遺跡（古墳）K－1号古墳実測図

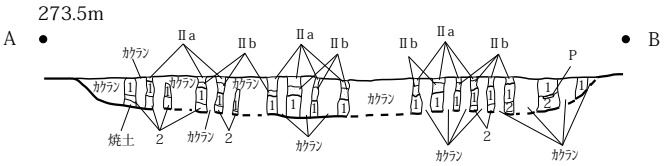


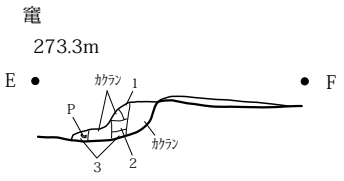
第259図　人見向原遺跡（古墳）K－1号古墳遺物分布図・石室平面図

H－10 号住

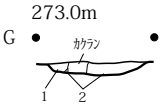




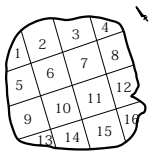




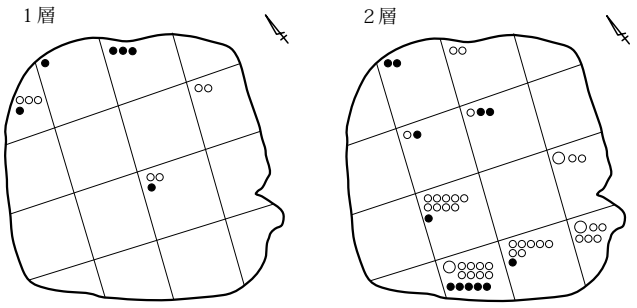
D－1



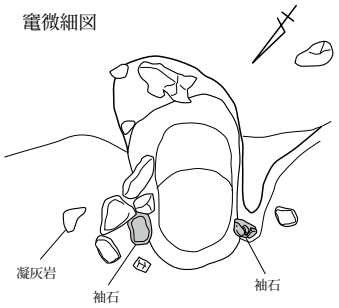
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色粘土
H－10号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	※	※	※
竈	1	黒褐色土層7.5YR		○	○	×	×	×	※	※	
	2	赤褐色土層5YR	1＜2	△	△	※	×	×	※	△	
	3	赤褐色土層5YR	2＜3	△	△	※	×	×	※	△	
	4	明赤褐色土層2.5YR	3＜4	×	×	○	×	×	×	◎	
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	※	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×	※	※	

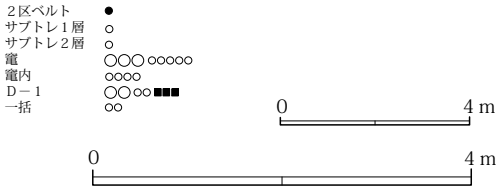


土器分布



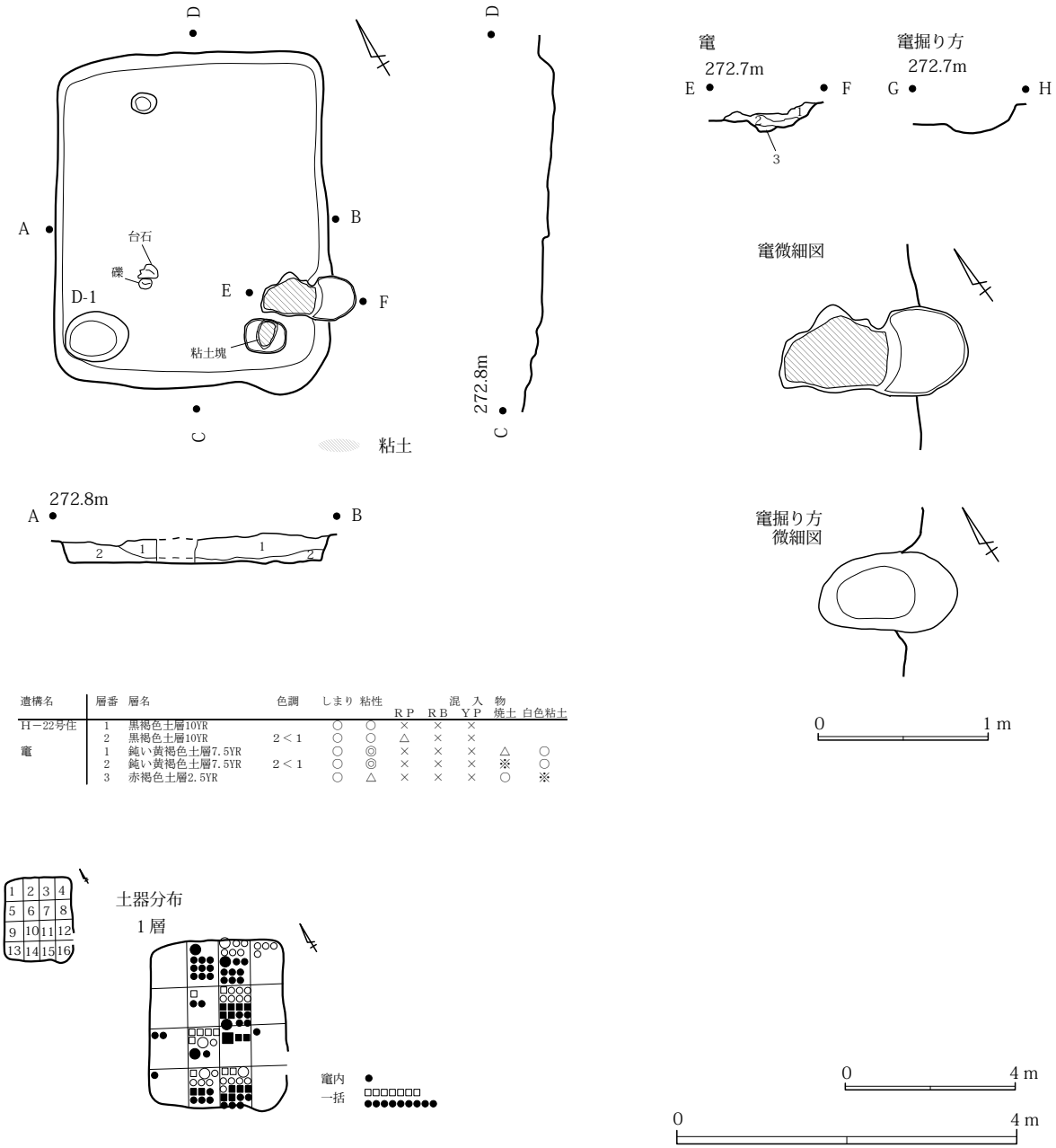
竈微細図





第260図　人見向原遺跡（古代）H－10号住居址実測図

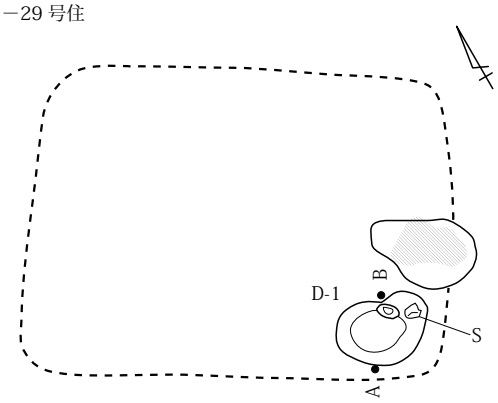
H－22 号住

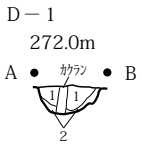


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	白色粘土
H－22号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	×	×		
竈	1	鈍い黄褐色土層7.5YR		○	◎	×	×	×	△	○
	2	鈍い黄褐色土層7.5YR	2＜1	○	◎	×	×	×	※	○
	3	赤褐色土層2.5YR		○	△	×	×	×	○	※

第261図　人見向原遺跡（古代）H－22号住居址実測図

H－29 号住





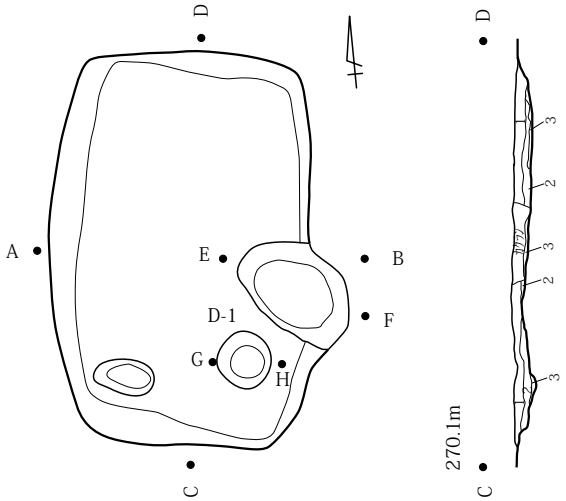
焼土

土器分布

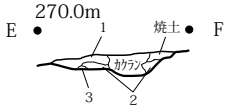
D－1　□□○○○○○○○

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
H－29号住　D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	×

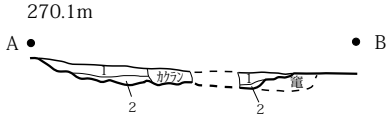
H－34 号住



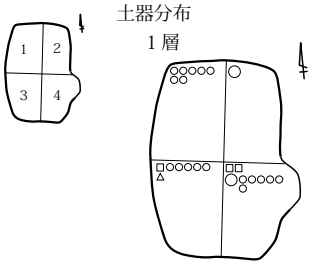
竈



D－1



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－34号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×	
D－1	1	黒褐色土層10YR		◎	◎	※	×	×	覆土
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	×	〃



土器分布

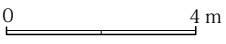
1 層

2区竈周辺　○○○○○○○○○○■

2区覆土一括　○○

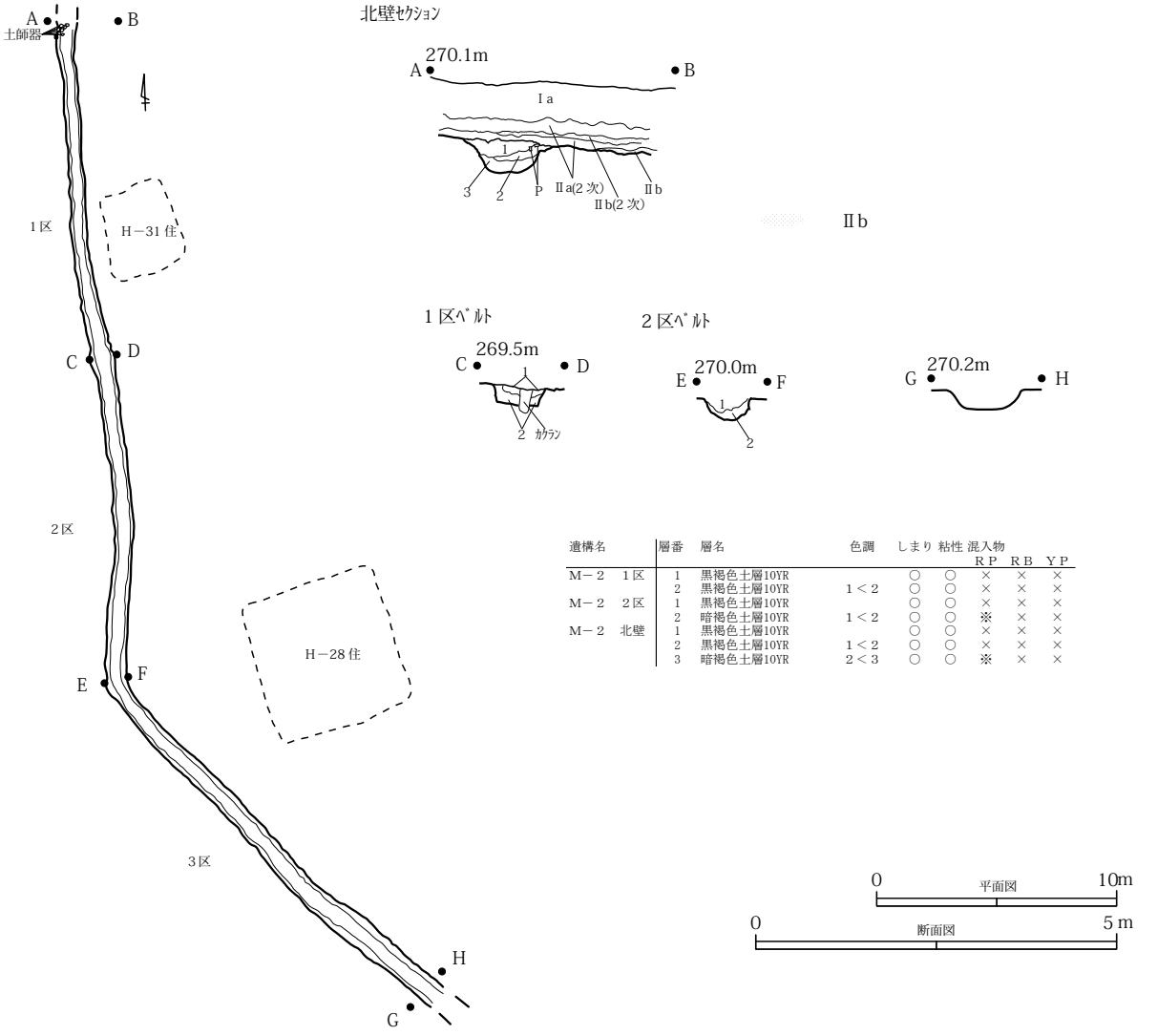
竈　○○○○○○○○○

竈周辺 No.1　□□□□□□□



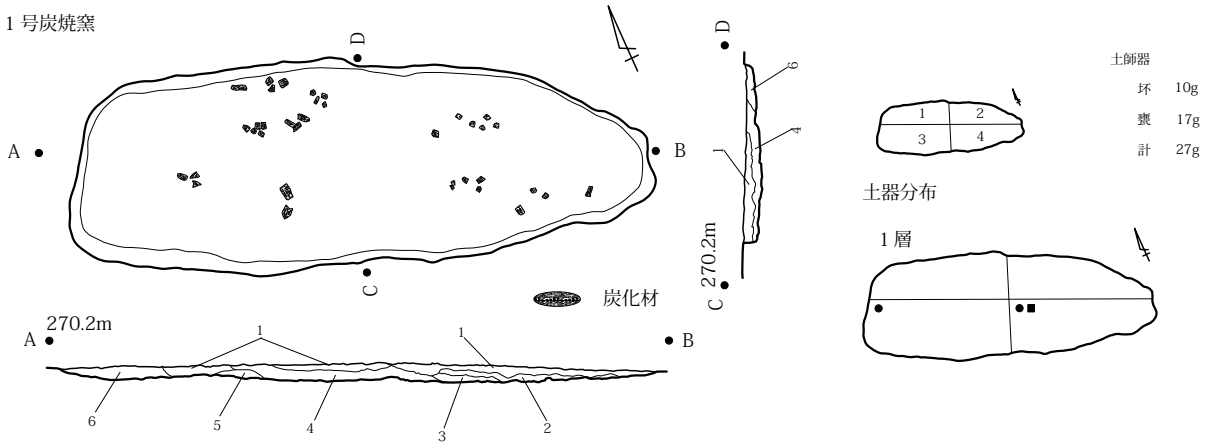
第262図　人見向原遺跡（古代）H－29・34号住居址実測図

M－２号溝

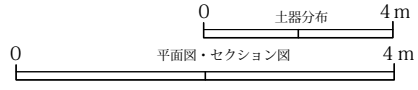


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
M－２ 1区	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×
M－２ 2区	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×
M－２ 北壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×

1 号炭焼窯



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
1 号炭焼き	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※
	2	黒色土層10YR	2＜1	△	○	×	×	×	○
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	×	×	×	△
	4	黒色土層10YR	4＜1	△	○	×	×	×	○
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	×	×	×	△
	6	黒褐色土層10YR	6＜1	○	○	×	×	×	△



第263図　人見向原遺跡（古代）M－２号溝、炭焼窯実測図

6　人見東中原遺跡（第264～298図）

（1）概要

本遺跡は、東へ緩く傾斜する低地に挟まれた舌状台地に立地する。縄文時代中期後半、古墳時代中期の集落、古代の道路状遺構、古代から中世の区画溝、溝を確認した。本遺跡の南には人見向原遺跡、北東には人見東原Ⅱ遺跡、西には、隣接して人見西中原遺跡が存在する。

A区では、縄文時代早期の土坑と遺物が出土した。土器は押型文系土器（山形文、楕円文等）が出土した。585～600グリッドラインでは、前期後半の土坑、遺物分布の集中が認められた。中期の遺構は台地頂部にある弧状列石を中心に住居址、土坑が分布する。住居址は柄鏡形敷石住居址が中心で、Ｊ－11号住居址では五角形に礫が並ぶ形態を確認した。Ｊ－1号からは、壺形土器が出土した。B区北側の斜面部では、大量の中期後半の土器片を廃棄した範囲を確認した。遺物分布域では遺構は確認されなかった。

A区とA区拡張区では、東に延び、南北方向に区画する中世溝を２条確認した。中世では、覆土に浅間B軽石を含む溝を８条確認した（M－３、４、６～11）。溝底まで浅間B軽石で覆われるもの（浅い溝）と覆土中位まで黒色土で、その上部に浅間B軽石で覆われるもの（深い溝）といった時期差のある２者が認められた。溝には、方形区画になるもの（M－３、８、９、11）が認められた。方形区画の溝は、覆土から中世以降と推定されるが、性格は不明である。M－６、７号は、２本が平行して曲線に延びるもので、南側で２本が接近する場所も認められた。当初、道路状遺構の側溝の可能性を考えたが、途中で２本が接近する場所もあることから、遺構の性格については、今後の課題である。

B区では、古代の道路状遺構の続きが約100mにわたって検出された。低地部分では、道路状遺構は確認できなかったが、浅間B軽石に覆われた水路を検出した。台地を南北に区切る溝とその西側でピット群を検出した。ピットは、円形で掘り込みが深く、柱穴であったと推定できるが、調査では建物跡を確認するまでに至らなかった。しかし、等間隔で一列に並ぶところもあり、柵のような構造物も予想される。B区西側では、人見西中原遺跡と接する部分で古墳時代の集落、区画溝を確認した。また、B区南側の谷際では、遺構、遺物は確認されなかった。低地部では、稲作の有無を確認するためのプラントオパール分析を行った。

C区（低地中央部）では、道路状遺構の延長線上を調査するためにトレンチ調査を行ったが、確認できなかった。人見枝谷津遺跡側の谷際で古代の水路と考えられる溝を４条確認した。

（2）縄文時代の遺構

住居址（第265～282図、第９表）

B区で中期後半（加曽利ＥⅢ式期）の敷石住居址５軒、竪穴住居址４軒、平地式住居址２軒を確認した。

＜敷石住居址＞

平面形態は、柄鏡形４軒（主体部円形Ｊ－１～３号、主体部方形Ｊ－８号）と円形１軒（Ｊ－11号）に分類できる。主体部円形の柄鏡形は、主体部に浅い柄部が結合するため、柄部の範囲が明確ではない。主体部の柱穴は壁際で規則的に並ぶ。主体部と柄部の間には連結ピットがある。柄部には小ピットが不

規則に並ぶ。主体部中心部に大小の礫と土器片が敷かれている。特に炉周辺では大形礫（鉄平石）による敷石が施され、壁際のピット付近では小礫が分布する。敷石には多数の石器（石皿、凹石等）が使用されているものがあった。敷石下には埋設土器が設置されていた。柄部の敷石は少なく、部分的に敷石が施されるのみである。主体部には炉と埋設土器、柄部に埋設土器があり、これらの遺構は、住居主軸上に並んでいる。Ｊ－１号の主体部にあるＤ－38号土坑は、本住居址の炉の可能性がある。主体部壁際には段があり、奥壁のＰ－１内で壺形土器が納められた状態で出土した。Ｊ－２号は、主体部床面に逆位の埋設土器が２基確認された。Ｊ－３号は炉周辺の敷石の一部は被熱しており、凝灰岩で脆く風化していた。柄部には、埋設土器の上部に敷石が確認された。多数の礫石器と磨製石斧の石材が敷石に組み込まれていた。凸字の石皿、石棒が出土した。Ｊ－８号は主体部方形で、四隅に柱穴、柄部との連結部に２基のピットがある。住居主軸上に炉と埋設土器２基が並ぶ。柄部端には、浅い土坑と掘方部分に礫が分布する。Ｊ－11号は、床面壁際に五角形に礫が一列に並ぶ構造で、礫は積み石状にとなっている。炉周辺にも敷石の一部が認められた。柱穴は五角形で、南側柱間に埋設土器と入り口施設と推定される細長い２基のピットが並ぶ。壁面にも２か所柱穴が存在する。柄部の精査を行ったが、地山（Ⅳ層）のため張出部は確認できなかった。埋設土器は底面が抜けた鉢が正位に埋め込まれ、内部に礫、土器底部が置かれていた。敷石には石器（石皿、凹石等）が組み込まれて、奥壁付近で石棒と磨製石斧未成品が出土した。敷石の特徴は、炉周辺に大形礫を並べ、床面に小礫と土器を敷き詰めたもので、柄部に敷石が少ない。礫の重量をみると、400ｇを境として大小の区別が認められ、重量のあるものは、敷石用として使用されている。遺物は土器、石器、礫が貼り床内（床面）と覆土中が混在して出土した。時期は全て中期後半と考えられる。

＜竪穴住居址＞

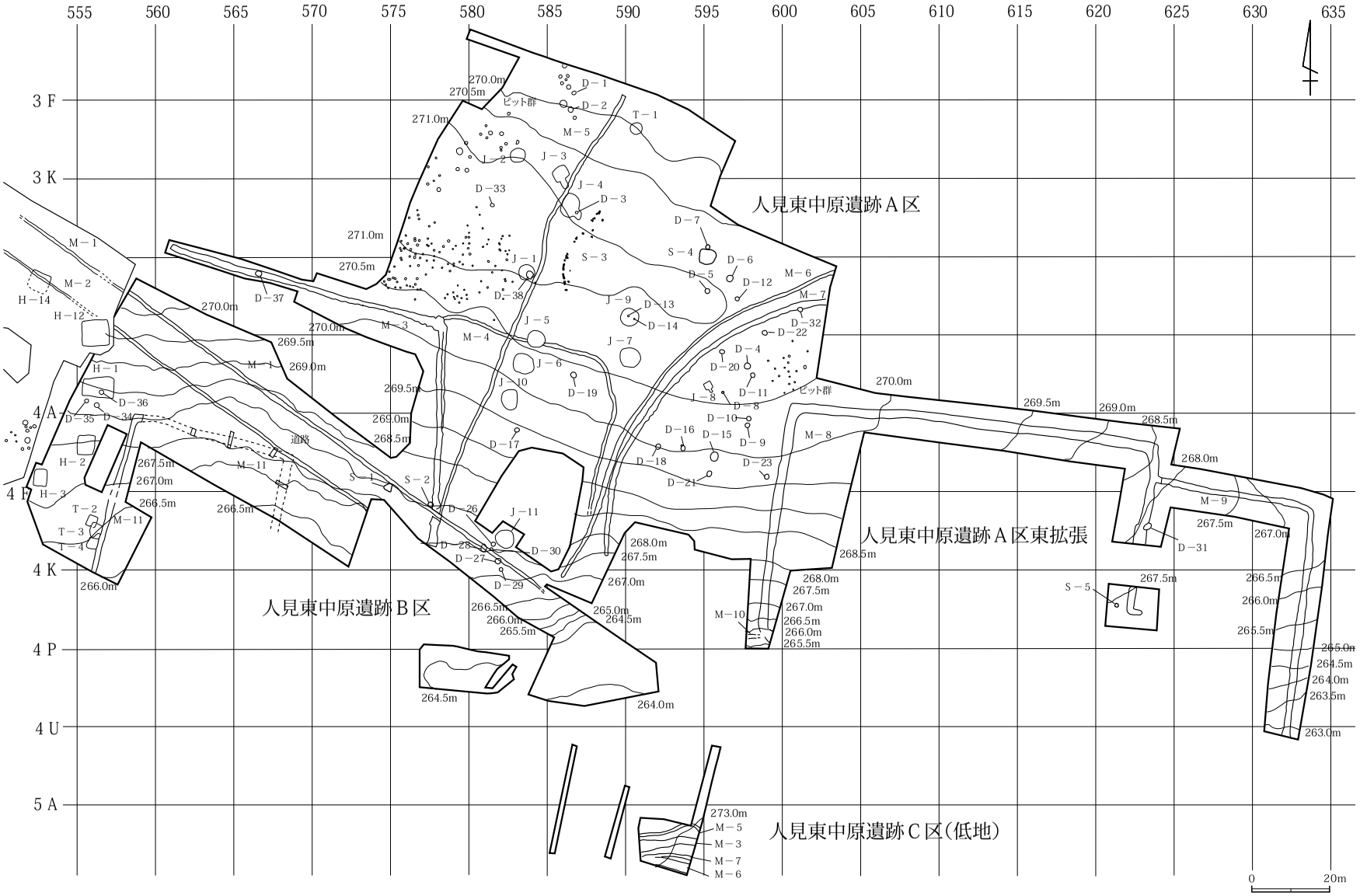
前期中葉のＪ－12号は、平面方形で遺物が少ない。前期後葉のＪ－13号は、平面楕円形の６本柱で遺物が少ない。黒曜石の原石が出土した。中期後半のＪ－５号は、平面円形の３本柱でＡ類に分類される。Ｊ－６、７、10号は、平面円形でＢ類に分類される。本遺跡でも異なる住居形態が共存することが明らかとなった。

＜平地式住居址＞

中期後半のＪ－４号は、確認面で炉、埋設土器、ピットが確認された。炉と埋設土器を結んだ方向を主軸とし、埋設土器（Ｄ－３号）がやや張り出した状態に浅いピットが分布する。主柱穴はない。後期Ｊ－９号は、確認面でピットが集中する範囲で確認された。平面形態は円形と推定される。遺物は中期後半と後期初頭の土器が出土した。炉は不明である。住居の時期は、後期初頭と推定される。

集石（第283・286図、第27表）

Ｂ区で４か所確認した。集石の礫は全て安山岩で、欠損したものは少ない。Ｓ－１、４号は掘り込みがなく、礫が平面的に分布する。Ｓ－１号は大形礫が配石状に分布する。Ｓ－４号は、小礫が土器の分布と重複する集石である。Ｓ－２、５号は土坑状の掘り込みをもつ。Ｓ－２号は上部構造が集石状、下部構造が石囲炉に類似する形状である。覆土からは早期土器片が出土し、集石の中に１点磨石が含まれていた。礫の大きさは、200～300ｇが最も多く、100～600ｇまでの間が60％以上を占める。600ｇを超えると1.2kgまでは、30％程となり、1.2kg以上になると10％程度と少なくなるが、６kgまでの大きさまで認められる。Ｓ－２号以外は中期後半と考えられる。



第264図　人見東中原遺跡　遺構配置図

弧状列石（第284・285図、第27表）

Ｂ区中央で１基確認した（Ｓ－３号）。礫の配列は、大形礫が３点で１単位となっており、間隔をもって少なくとも９単位（ブロック）に分かれることを確認した。また、各ブロックの大形礫の周辺では、結晶片岩を含む小礫（500ｇ以下）が出土した。列石は確認した範囲のみで、列石の延長線上には礫あるいは掘り込み等は認められなかった。列石礫の下部施設について精査を行ったが、礫を埋め込むために掘られた堀方以外には、土坑、埋設土器等の遺構は確認できなかった。また、掘方からの遺物出土はみられなかった。２、４、７ブロックでは、列石に磨石、多孔石等の石器が組み込まれていた。この列石は、ランドスケープとして妙義山を含む西側方向の山々を意識した遺構である可能性が考えられる。礫の石材は、500ｇ以下で結晶片岩が５点出土したが、それ以外は全て安山岩である。礫の大きさは、500ｇまでのものと10kg以上のものに分けられる。500kg以上で10kgまでは３点である。礫の最大は85kgである。列石の時期は、中期後半と考えられる。

竪穴状遺構（第286図、第27表）

Ｂ区北側で１基確認した。平面円形で、床面に２か所のピットが存在する。覆土から大量の中期後半の土器が出土した。

土坑（第287・288図、第39・40表）

35基確認した。分布は、Ａ区東で分布にまとまりが見られる以外は、散漫な状況である。土坑の形態は平面円形、断面鍋底形が主体である。貯蔵穴と考えられる袋状土坑は２基（Ｄ－37、42号）である。土坑覆土内に礫が含まれるのは11基である。Ｄ－32号は早期押型文系土器の個体が出土した。Ｄ－33号は、土坑底面に中期後半の深鉢の下半部が置かれた状態で出土した。埋設土器の可能性がある。Ｄ－39号は集石土坑である。83点全てが安山岩で欠損は63点である。礫の大きさは、100ｇ以下が最も多いが、２kgまでと大きさに幅がある。

土坑の時期は、一部を除き集落の時期と同じ、中期後半が主体と考えられる。Ａ区東に分布する土坑群は、前期後葉の遺物包含層と重複することから、同時期の遺構の可能性がある。

遺物集中

Ｔ－１号周辺及び西側、Ｊ－２、３号の北側、３Ｆ・３Ｇグリッドライン、585～593グリッドラインの台地北斜面で中期後半の遺物包含層を確認した。遺構の有無を確認するためにグリッド調査を行ったが、土坑を確認したのみで住居址は確認されなかった。遺物は、加曽利ＥⅢ式期の土器片を主体として石器類を含め廃棄された状態で出土した。特殊な遺物は出土しなかった。

（３）古代の遺構

Ａ区ピット群（第289図）

Ａ区西側のⅣ層上面で多数のピットが集中する範囲を確認した。覆土は全てⅢ層（黒色土）である。ピットの底面がロームまで達する深いものから、Ⅳ層内までの浅いものがある。ピットの配列に規則性を認識することができなかったため建物の存在は不明としたが、柵列のような区画施設等の遺構であっ

た可能性が考えられる。ピット群の時期は、西側にある古代の溝と関連して同時期と思われる。

土坑（第289図、第39表）

１基確認した。Ｄ－16号は、土師器甕片が潰れた状態の下から、骨片状の遺物を検出した。底面付近では炭が出土した。確認状況により、古代の土坑墓の可能性がある。

溝（第290～295図、第27表）

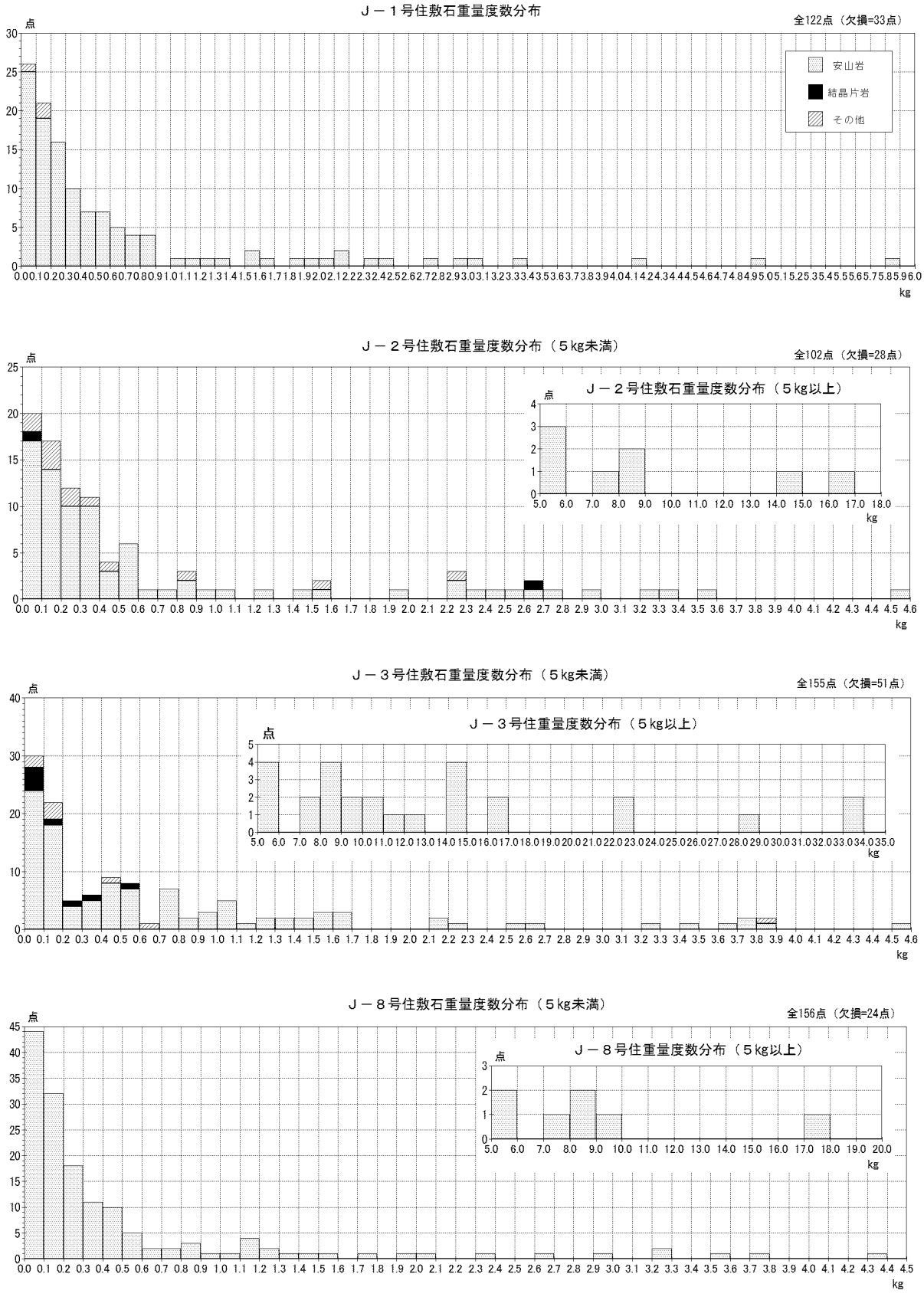
９条確認した。覆土の状況によって浅間Ｂ軽石を含まないⅢ層をベースとするものと浅間Ｂ軽石を混入するするもの分けられる。Ｍ－５号以外は全て後者である。Ｍ－５号は台地を南北に区画するための溝である。他の溝は、低地を取り込むように「コ」の字を意識した区画と２本の溝が平行してカーブするものである。直角に曲がる部分をもつ区画溝は、Ｍ－３、８、９、11号溝である。Ｍ－８号は、東西約95ｍ、南北約62ｍの規模をもつ長方形に区画するもので、東側部分の南が途中で切れている。断面は、途中で屈曲して底面が箱堀状である。覆土には、浅間Ｂ軽石を含む。北東隅部分では、掘削の仕直しが認められた。Ｍ－９号は、Ｍ－８号より古い遺構で時期差が認められる。また、Ｍ－８号と比較して、断面形状及び覆土は類似するが、掘り込みが浅い。両溝の覆土から、中世の遺物（陶磁器）が少数出土した。この区画溝の内側は、部分的なトレンチ調査を実施したのみで、全域を調査していないため、遺構の性格は不明である。低地に向かって区画される遺構は、Ｍ－３号とＭ－11号でみられたが、遺構の性格については、今後の課題である。曲線に平行する２本の溝（Ｍ－６・７号）がある。この２本の溝は、低地部分で開く。道路状遺構の可能性があるが、途中、通行に支障を来すほどの狭くなり部分もあるため、道路とするには検討が必要である。溝の時期は、古代以降に帰属し、Ｍ－５号→Ｍ－８、９号→Ｍ－３、４、６、７、10、11号の順に掘削されたと考えられる。

竪穴状遺構（第298図、第27表）

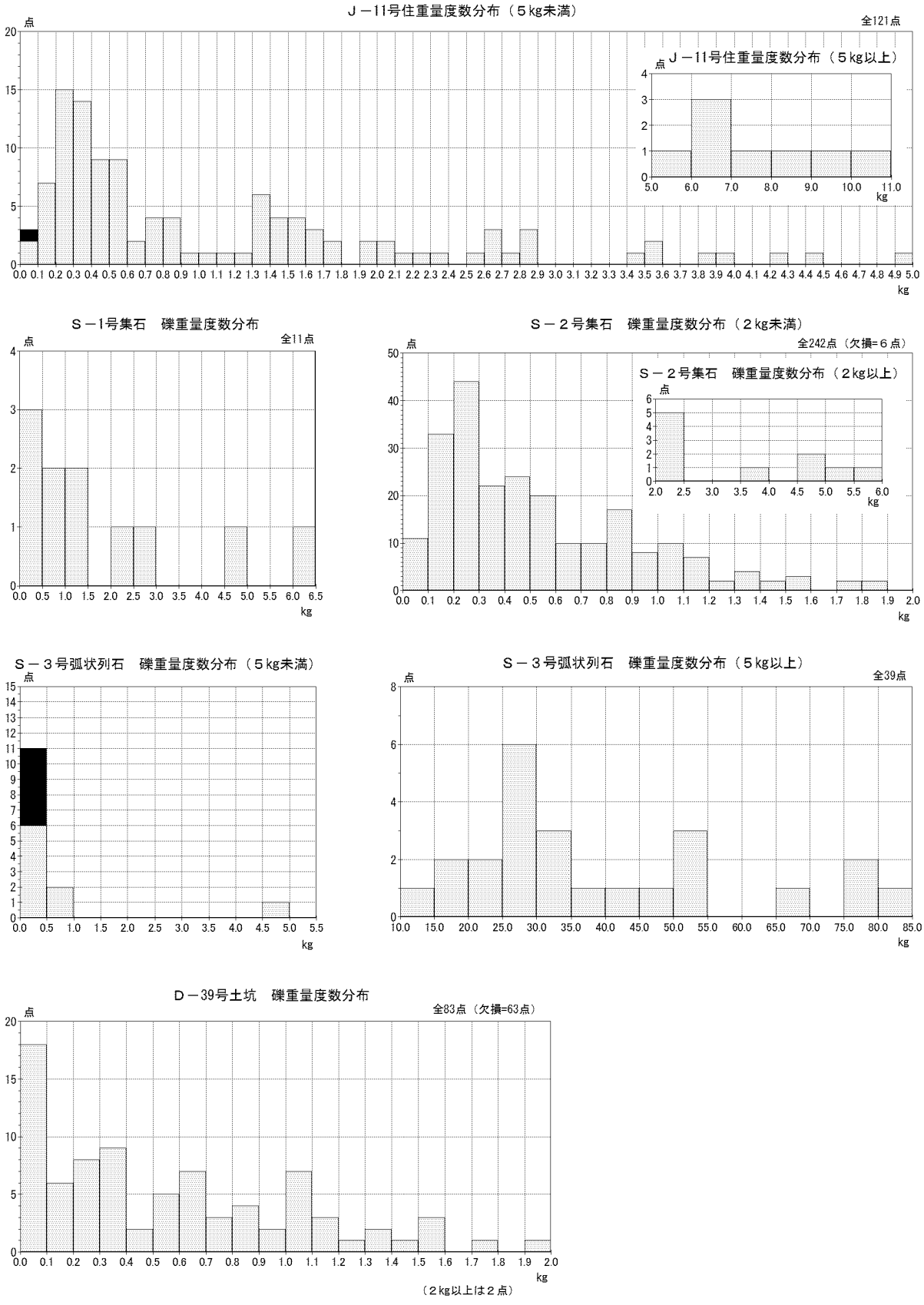
Ｂ区南西で近接する３基を確認した。Ｍ－11号との切り合い関係により、溝より古い可能性ある。遺構覆土には、浅間Ｂ軽石を含むため、遺構の時期は12世紀初頭以降である。

Ｃ区低地の溝（第296・297図、第28表）

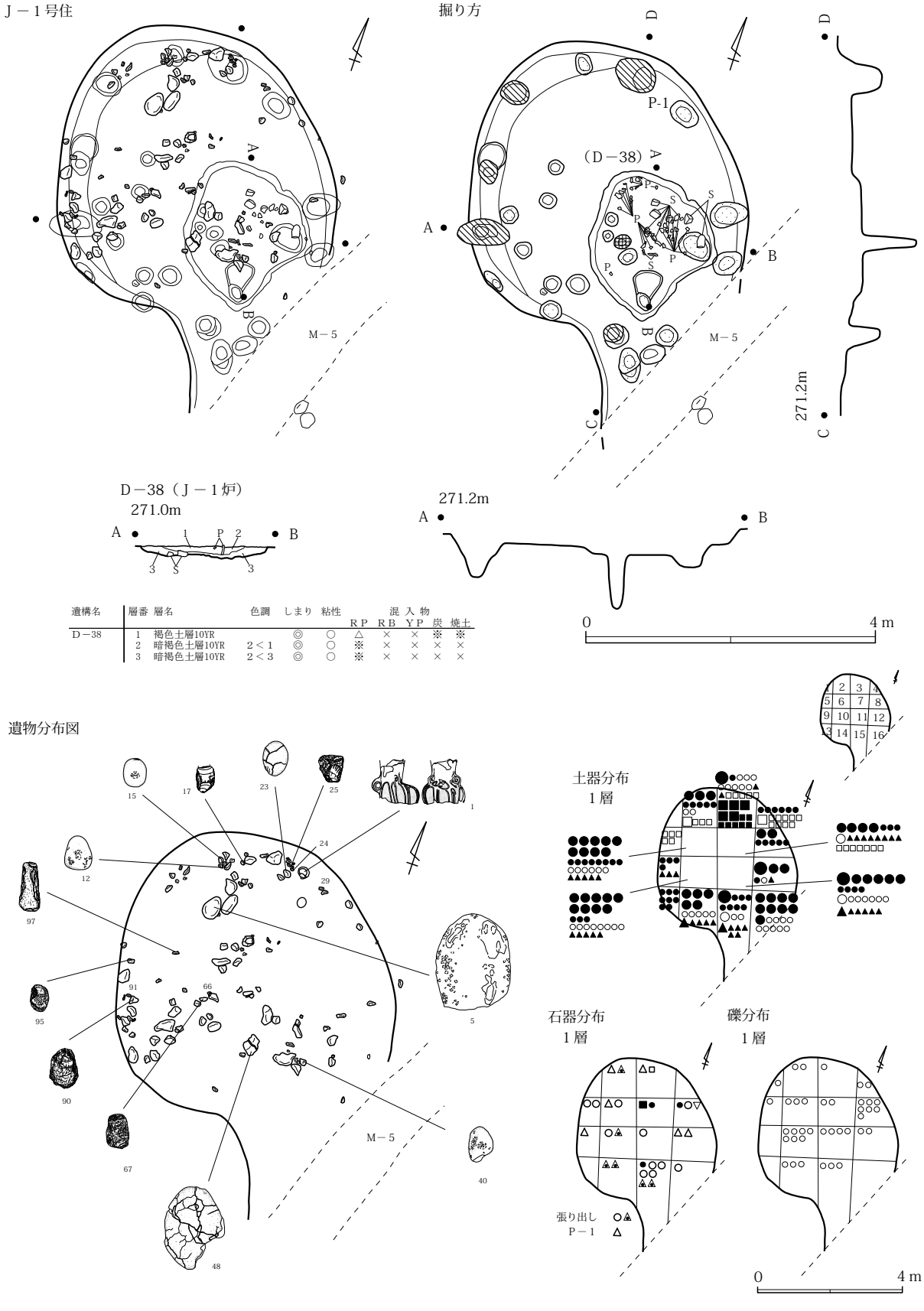
Ｃ区とした低地部分では、道路状遺構の存在を確認するための調査を実施した。低地部分は、もともと現況が水田あるいは沼地であった場所で、地表下１ｍまで土砂が堆積し、その下に浅間Ｂ軽石層が堆積していた。調査の結果、谷際のマウンド状の高まり部分で、砂質層で覆われた複数の蛇行する溝を５条確認した。溝に堆積する砂質層は浅間Ｂ軽石の二次堆積と思われる。Ｍ－５号が溝の北限で、ここから低地部となる。低地部では、遺構が瞬時に冠水するほど湧水が豊富であった。低地中央部は、浅間Ｂ軽石層が湧水面（水面）より下位まで堆積してた。遺構、土層の乱れが認められなかったため、道路延長線上の低地部には、道路に関係する遺構が存在した可能性は極めて低いことが明らかとなった。



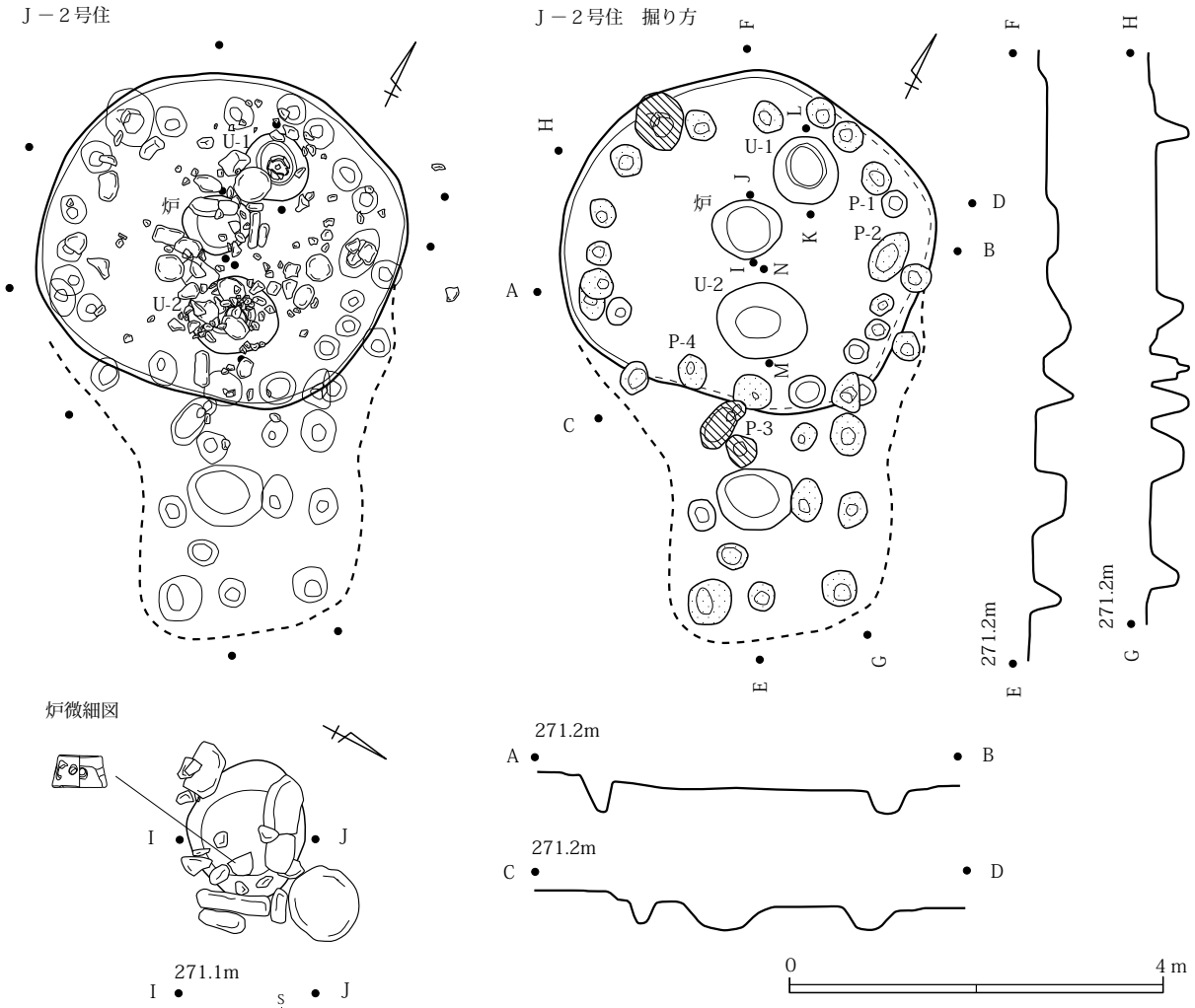
第265図　人見東中原遺跡（縄文）礫重量分布（１）



第266図　人見東中原遺跡（縄文）礫重量分布（２）

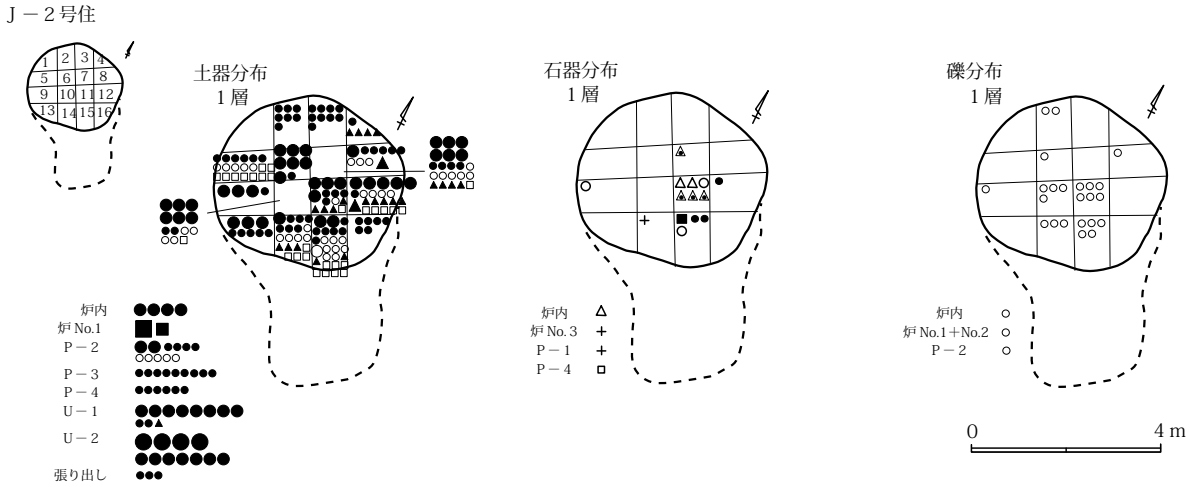


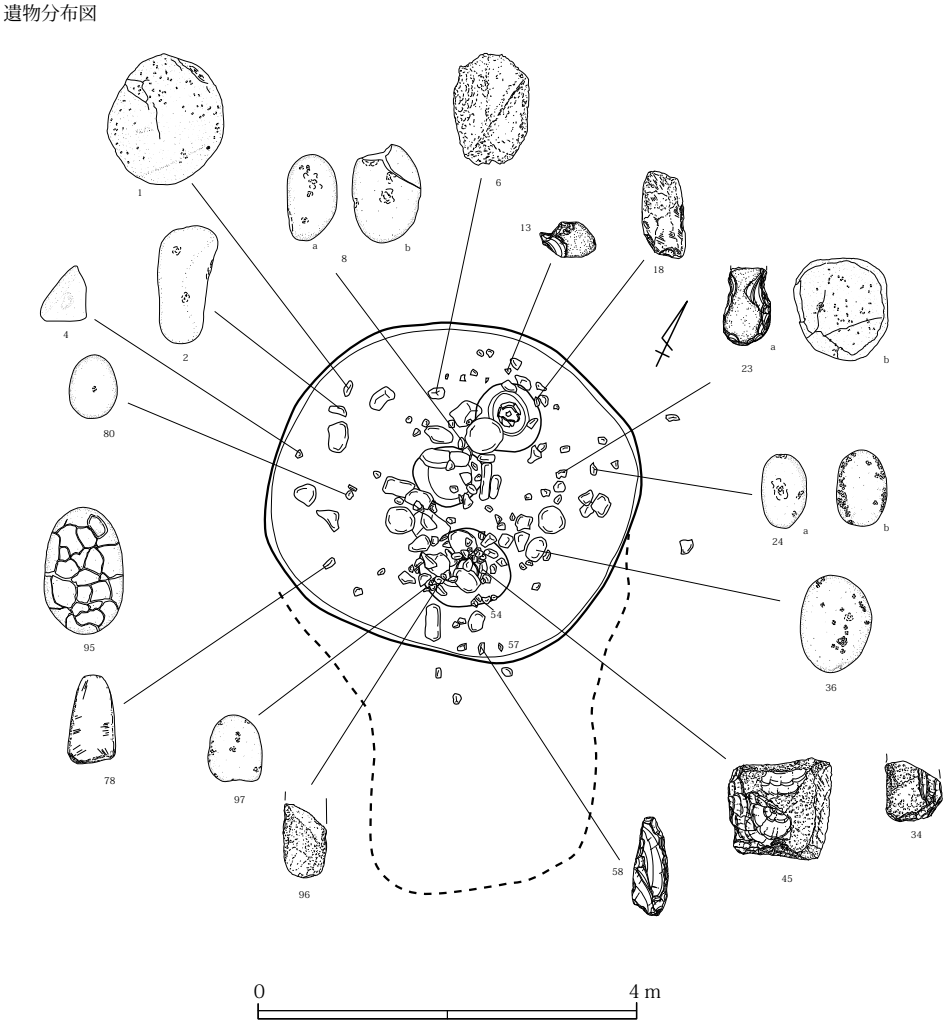
第267図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－１号住居址実測図



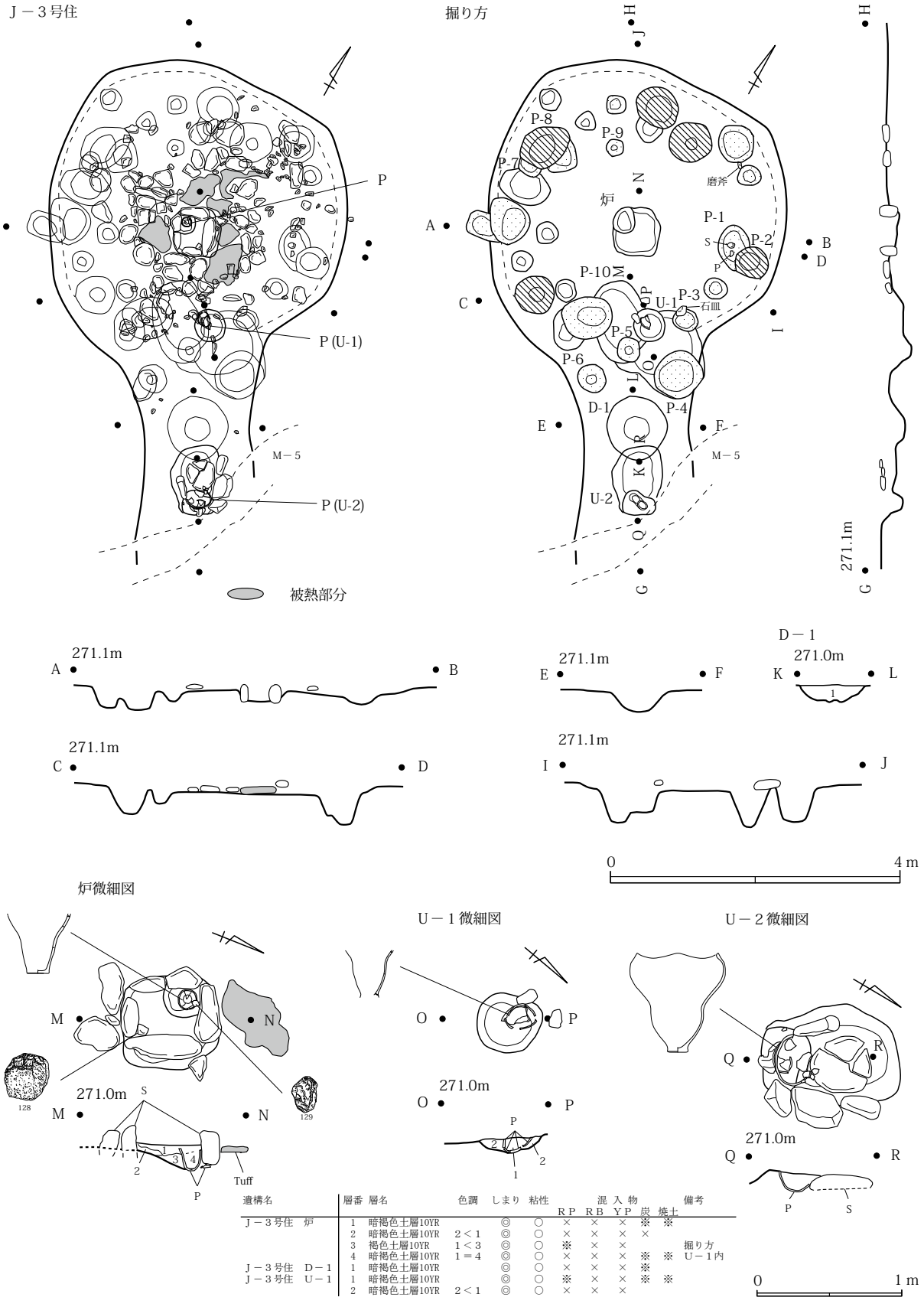
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
Ｊ－２号住　Ｕ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	※	※	※	
Ｊ－２号住　Ｕ－２	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	△	×	×	※	
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	◎	○	※	×	×	※	※
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	○	※	×	×	×	×

第268図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－２号住居址実測図（１）



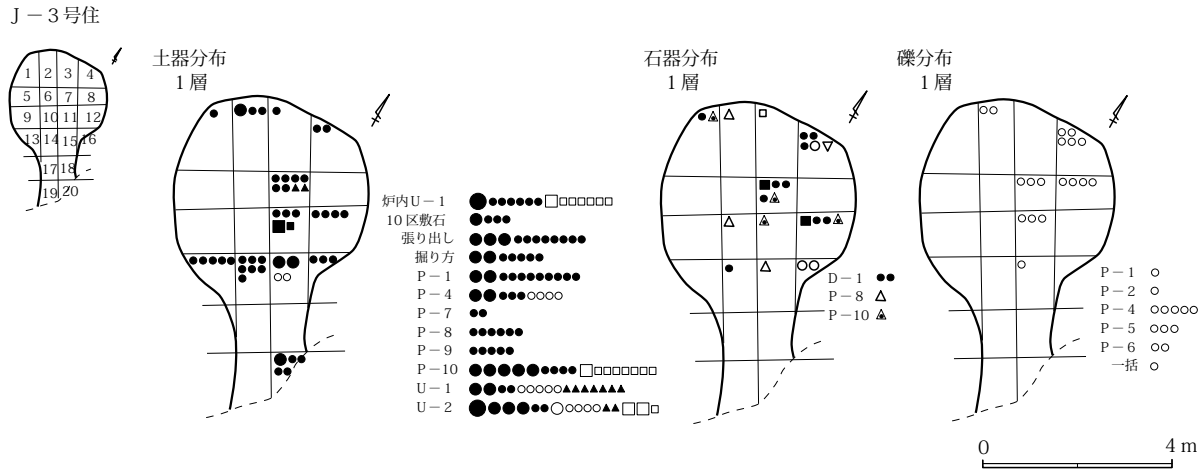


第269図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－２号住居址実測図（２）

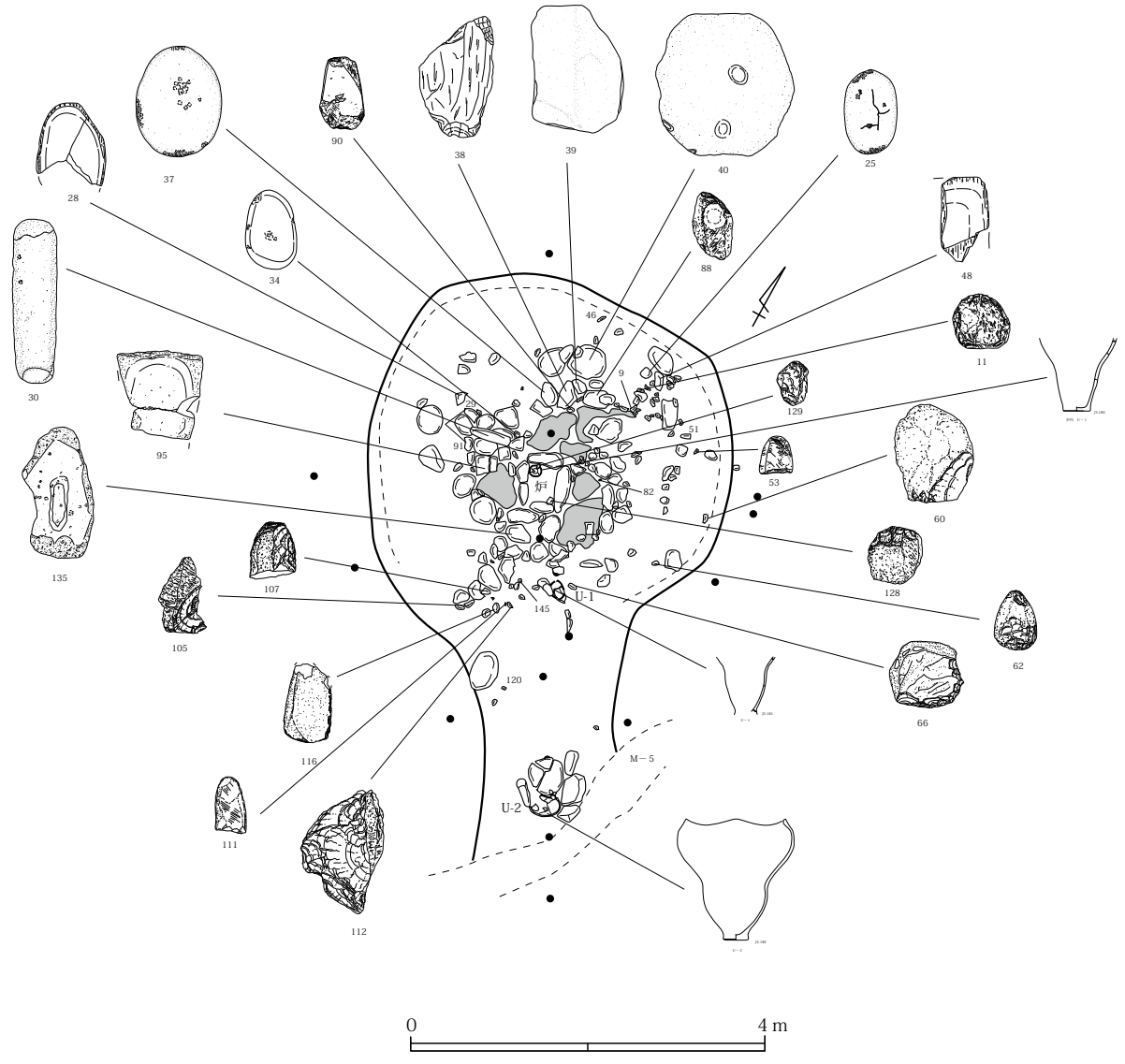


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
Ｊ－３号住　炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×	×		
	3	褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	×			掘り方
	4	暗褐色土層10YR	1＝4	◎	○	×	×	×	※	※	U－１内
Ｊ－３号住　Ｄ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	※		
Ｊ－３号住　Ｕ－１	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×			

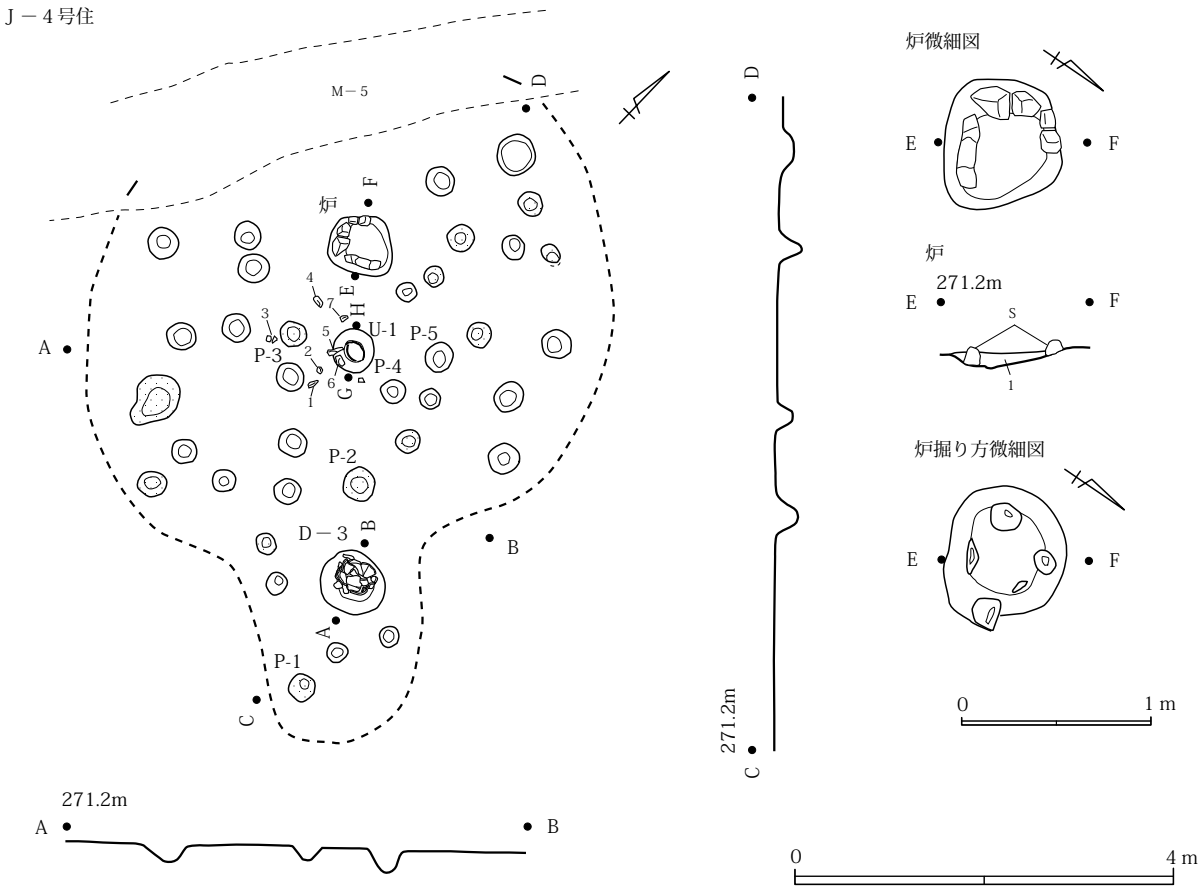
第270図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－３号住居址実測図（１）

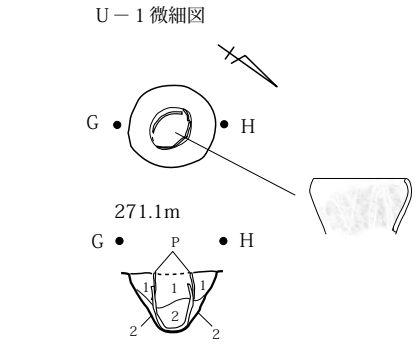


遺物分布図

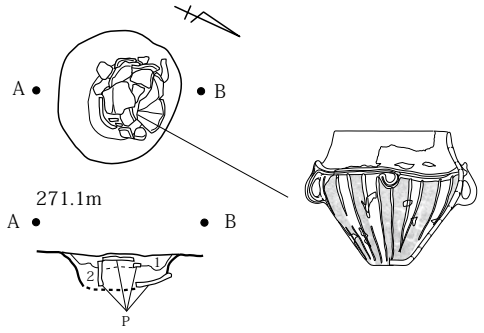


第271図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－３号住居址実測図（２）





遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
Ｊ－４号住　U－1	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
D－3	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×

土器分布

P－1	●▲▲▲▲▲
P－2	●●●●●
P－3	●●
P－4	●●●●
P－5	●●●●●
U－1	●●●●●●●

石器分布

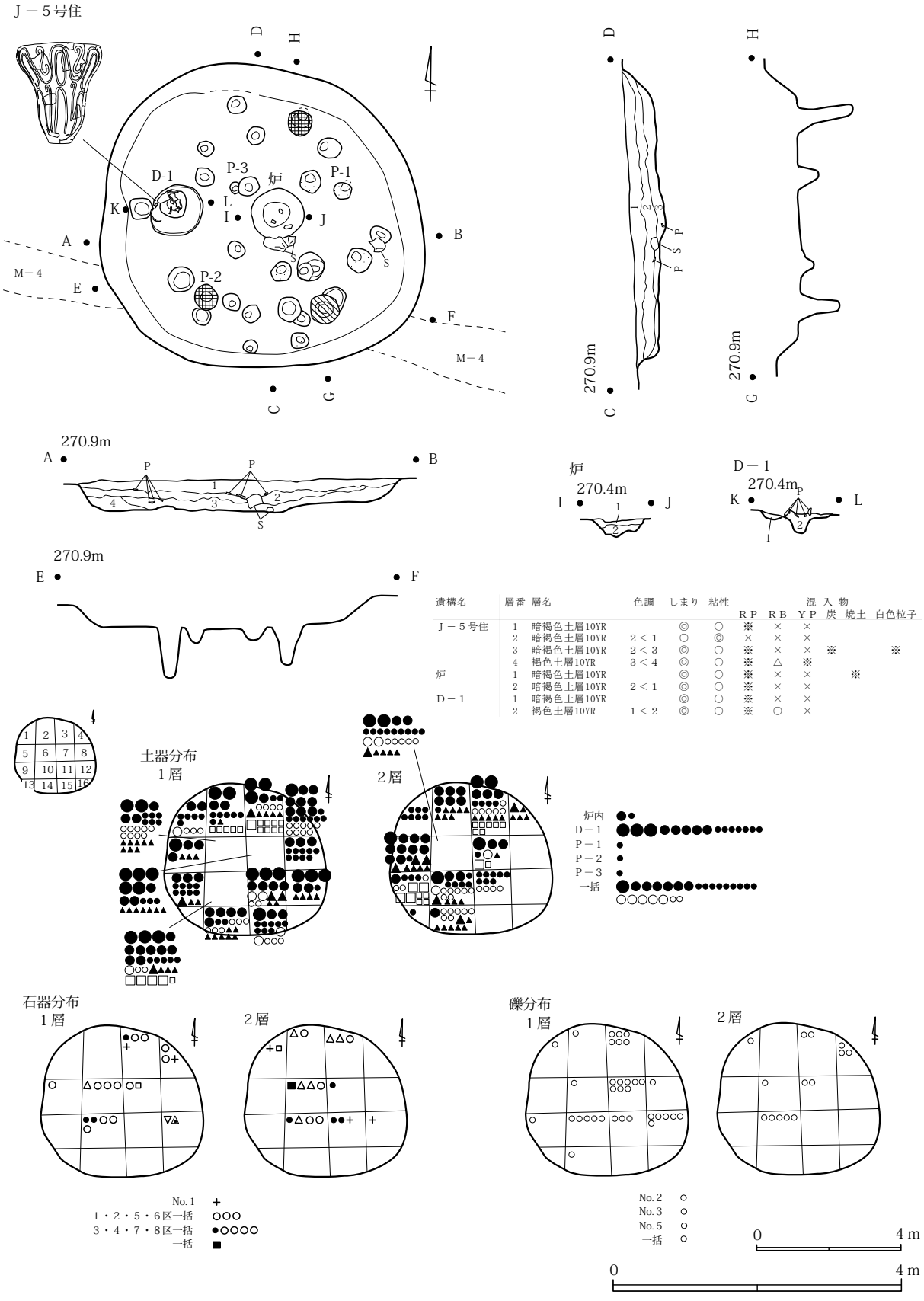
No.2	○
P－5	○
U－1	○

礫分布

No.1	○
No.4	○

0　1 m

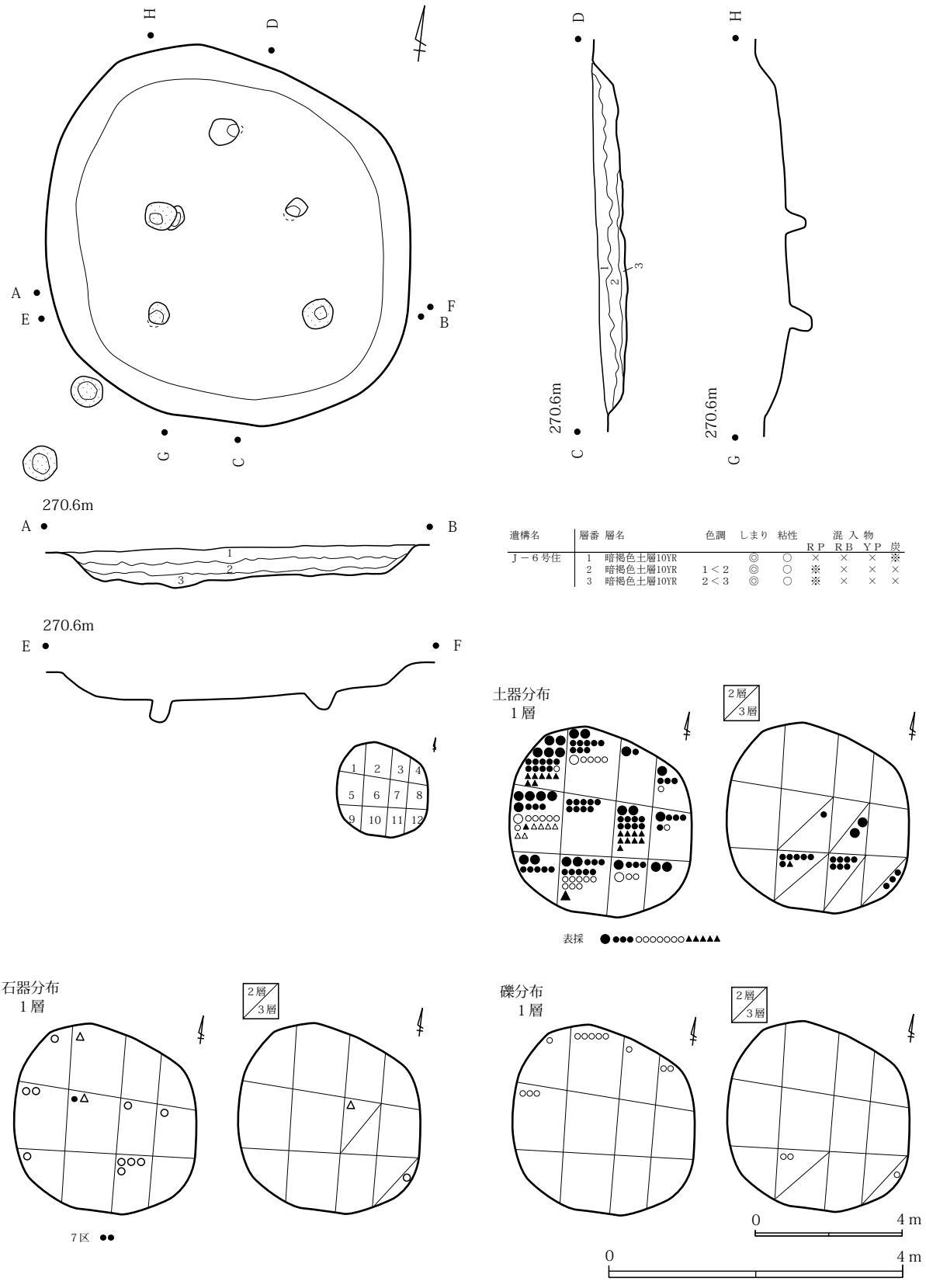
第272図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－４号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	白色粒子
J－5号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	◎	×	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	※		※
	4	褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	△	※			
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×		※	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×			
D－1	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	○	×			

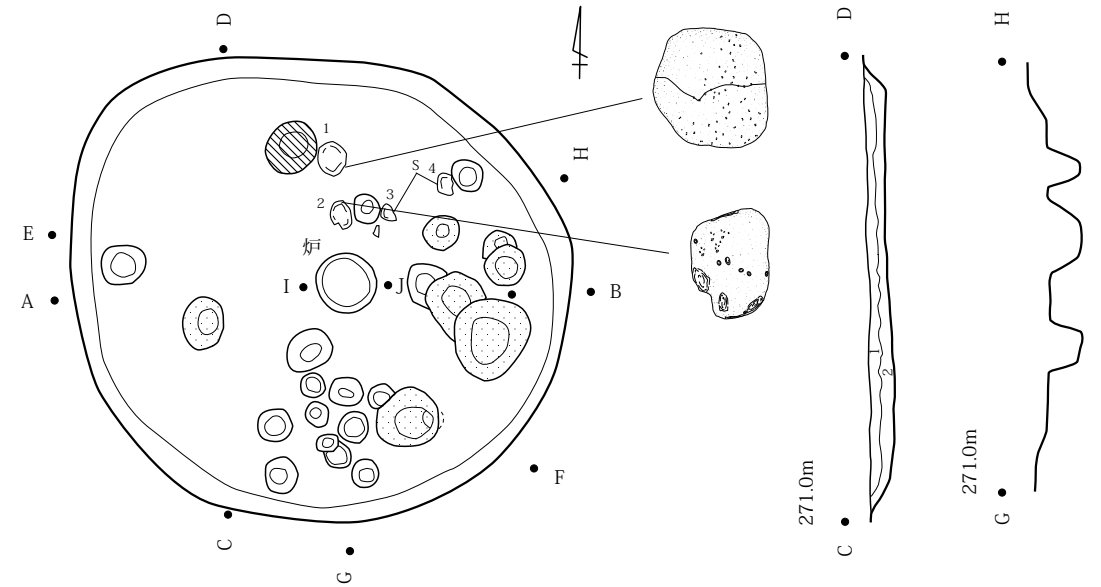
第273図　人見東中原遺跡（縄文）J－5号住居址実測図

Ｊ－６号住

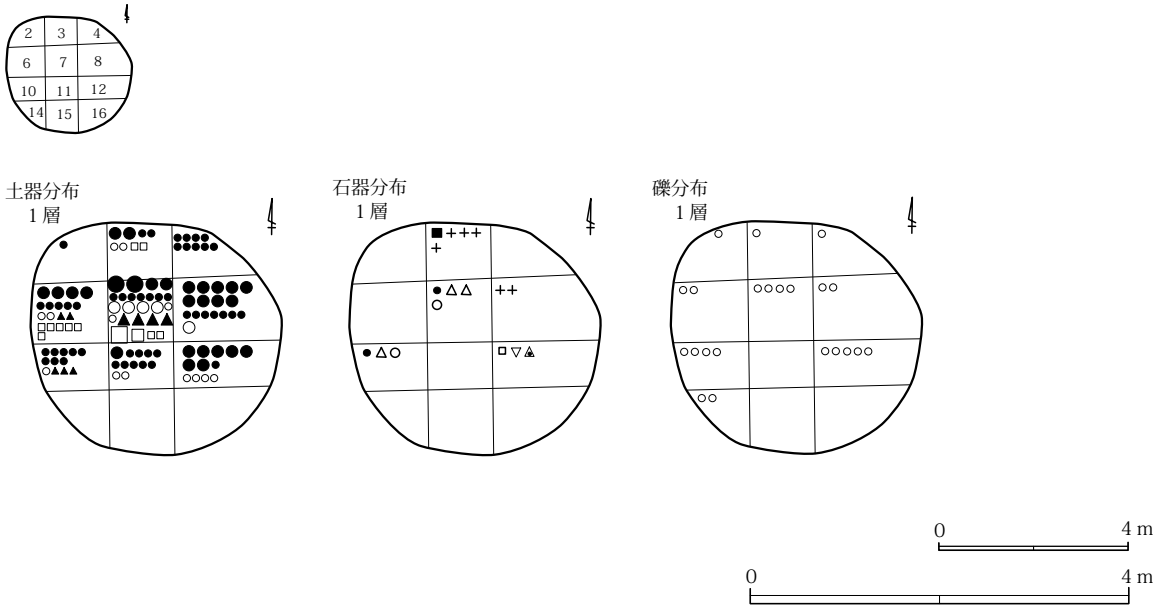


第274図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－６号住居址実測図

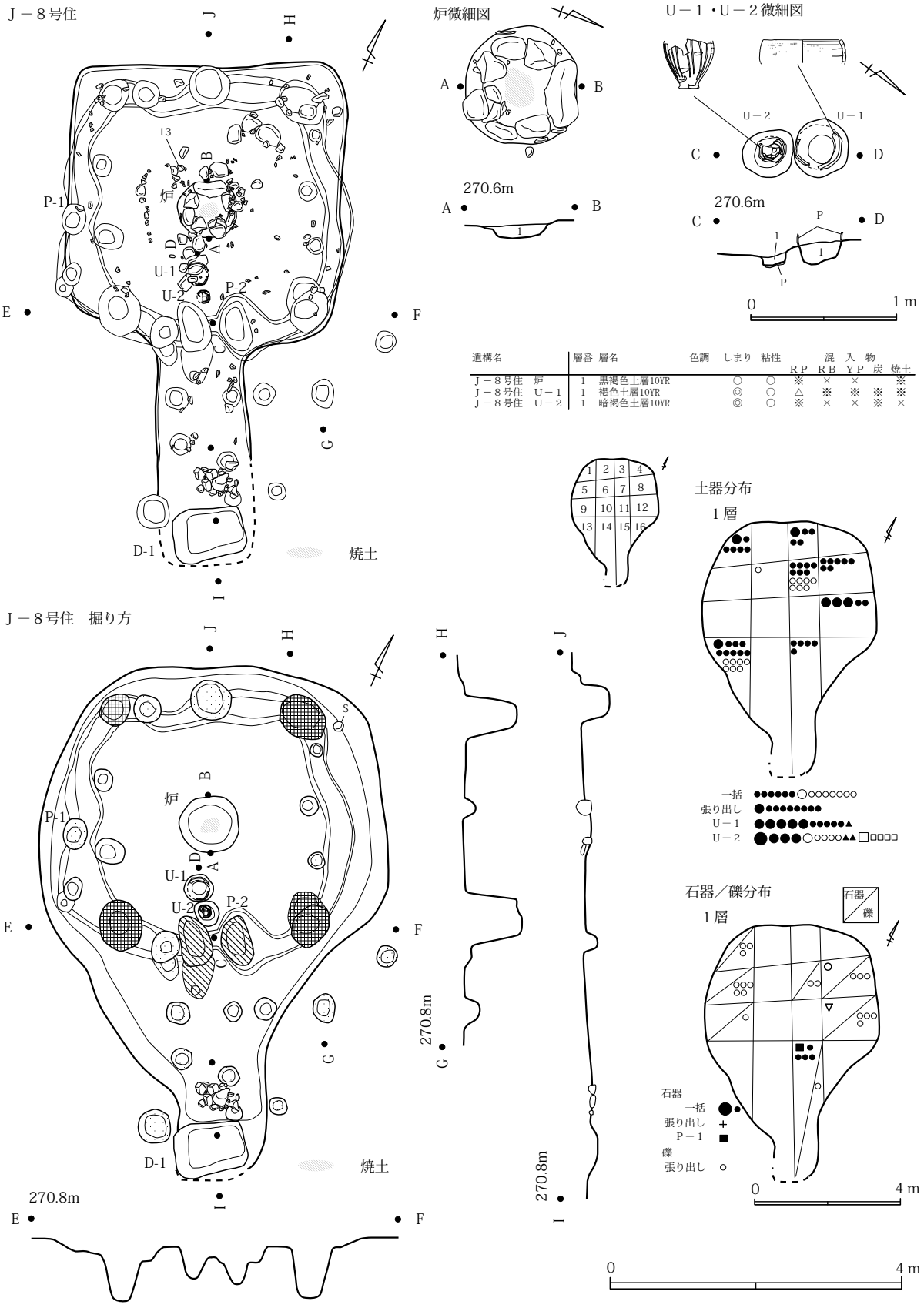
Ｊ－７号住



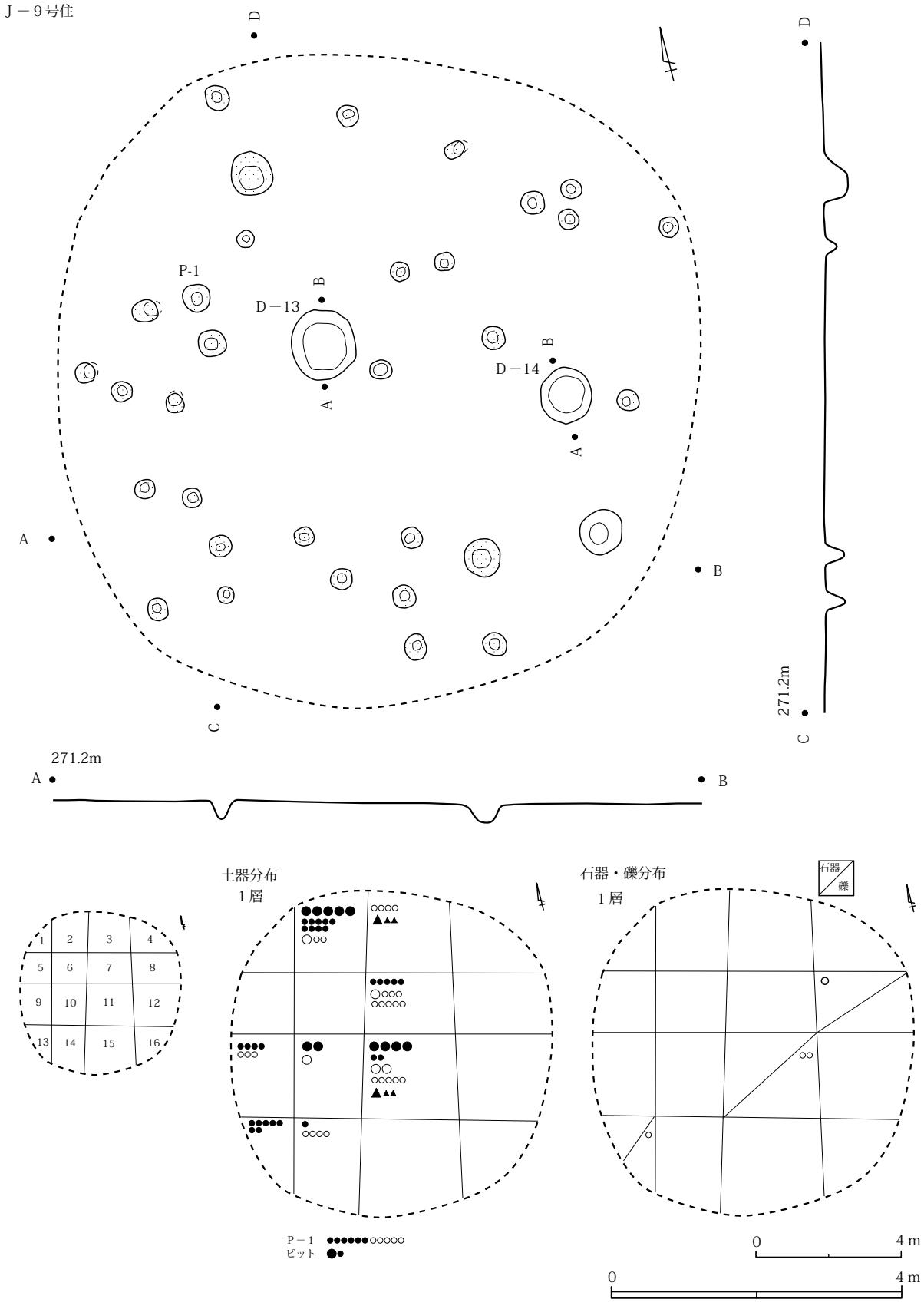
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
Ｊ－７号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×
炉	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	※	×



第275図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－７号住居址実測図

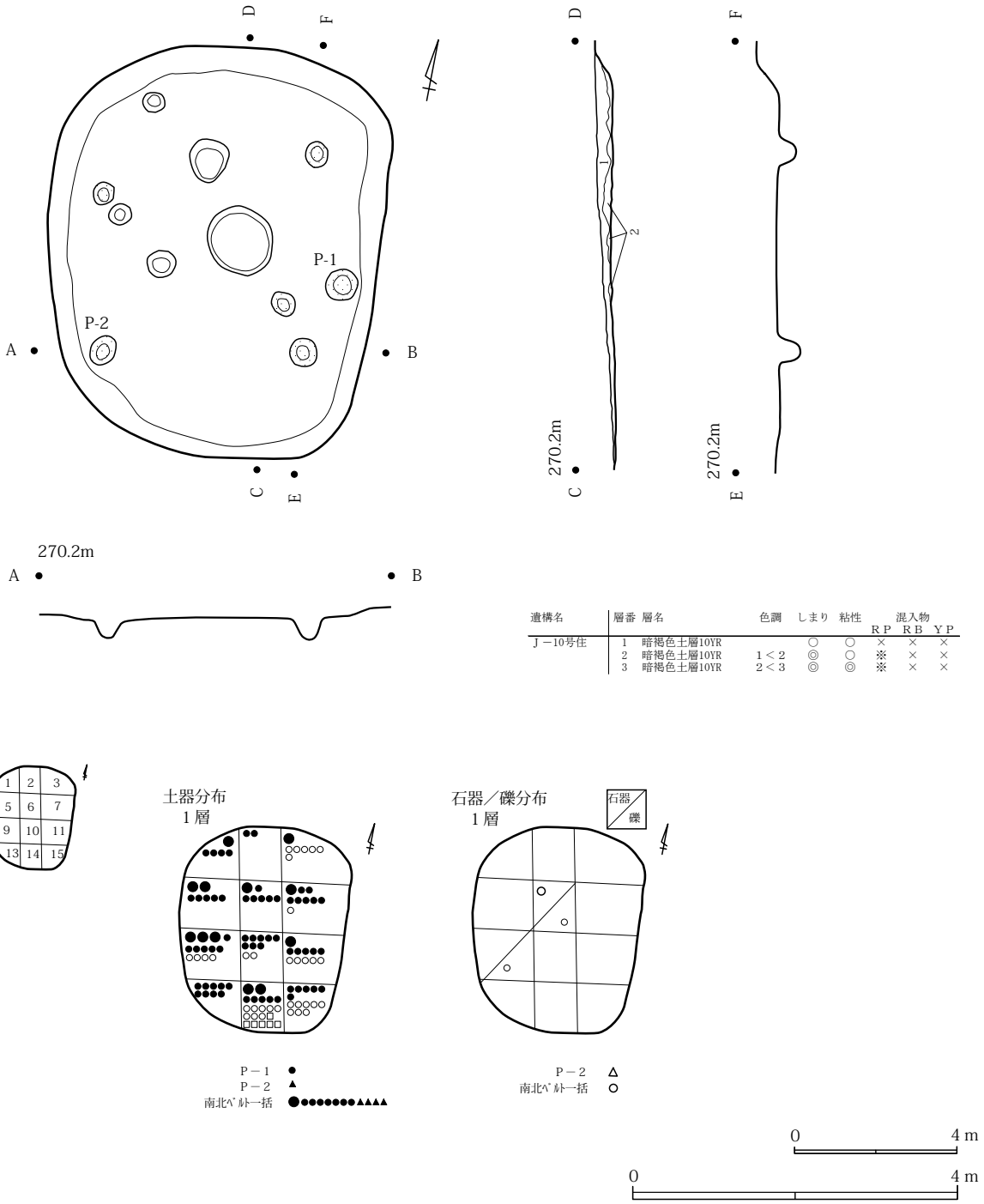


第276図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－８号住居址実測図

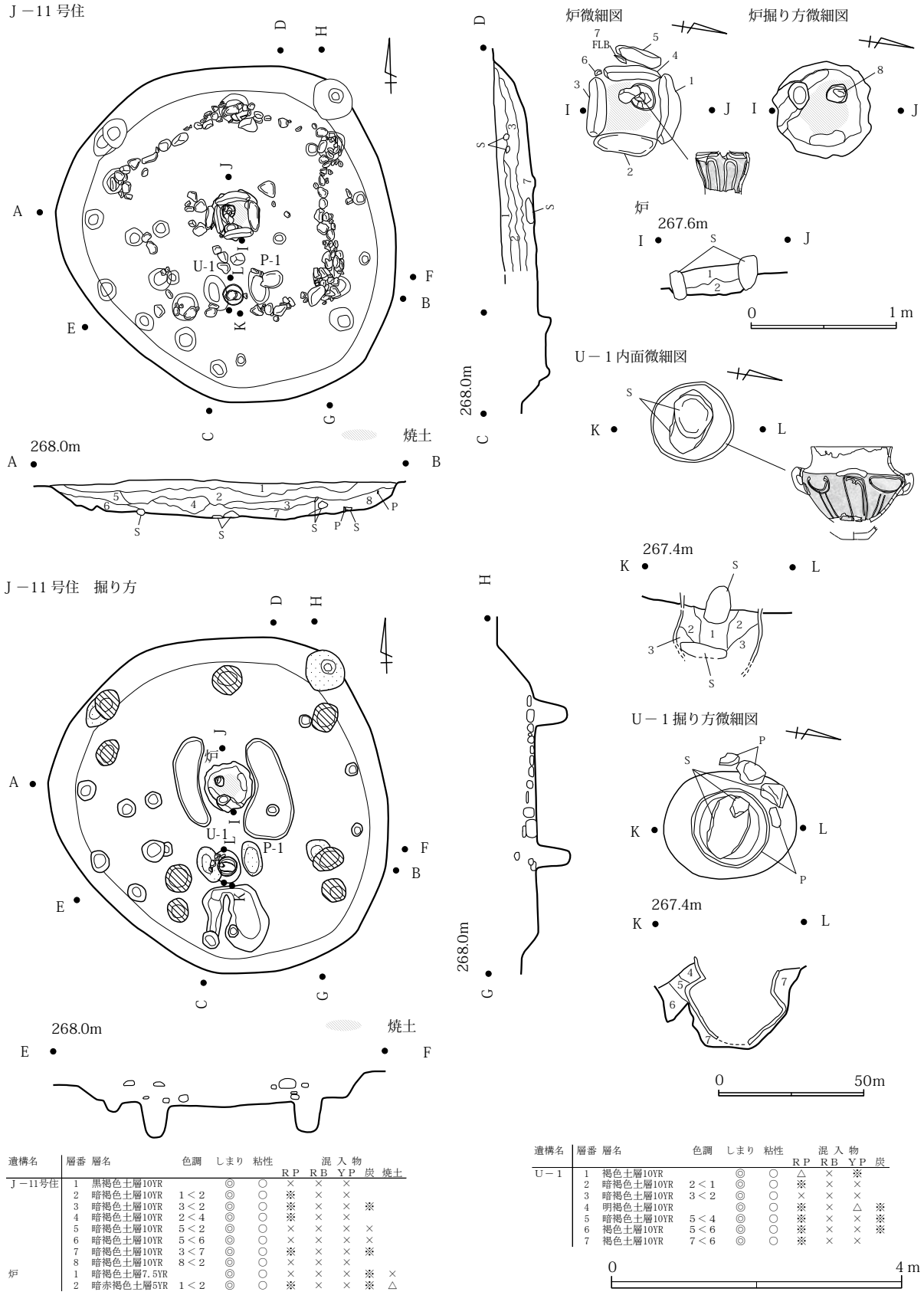


第277図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－９号住居址実測図

Ｊ－10 号住



第278図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－10号住居址実測図

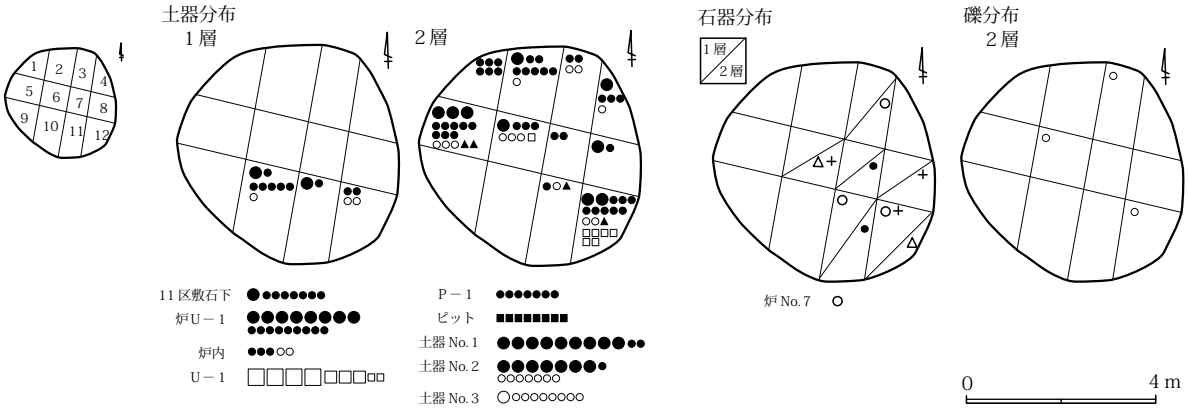


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
J－11号住	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	※	×	×	※	
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	○	※	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	5＜2	◎	○	×	×	×	×	
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	◎	○	×	×	×	×	
	7	暗褐色土層10YR	3＜7	◎	○	※	×	×	※	
	8	暗褐色土層10YR	8＜2	◎	○	×	×	×		
炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	×	×	×	※	×
	2	暗赤褐色土層5YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※	△

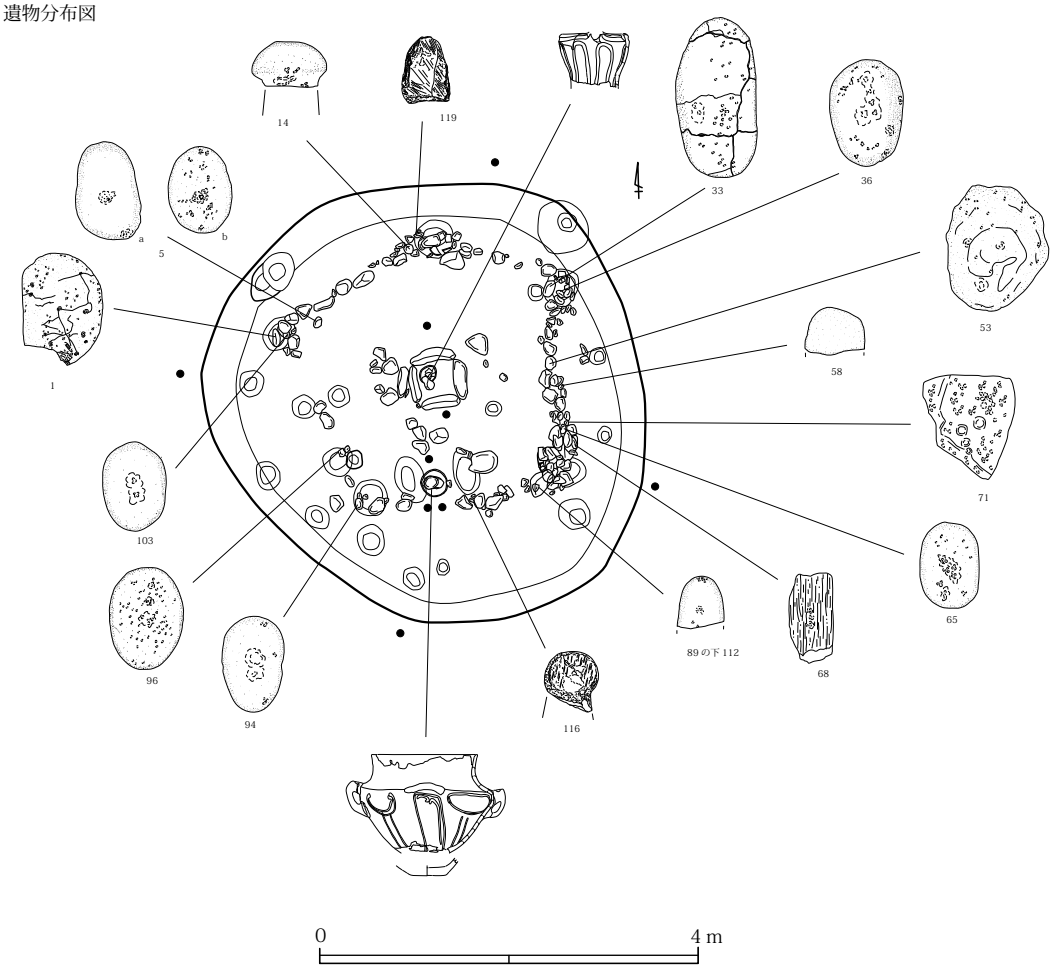
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
U－1	1	褐色土層10YR		◎	○	△	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	×	×	×	
	4	明褐色土層10YR		◎	○	※	×	△	※
	5	暗褐色土層10YR	5＜4	◎	○	※	×	×	※
	6	褐色土層10YR	5＜6	◎	○	※	×	×	※
	7	褐色土層10YR	7＜6	◎	○	※	×	×	

第279図　人見東中原遺跡（縄文）J－11号住居址実測図（1）

Ｊ－11 号住

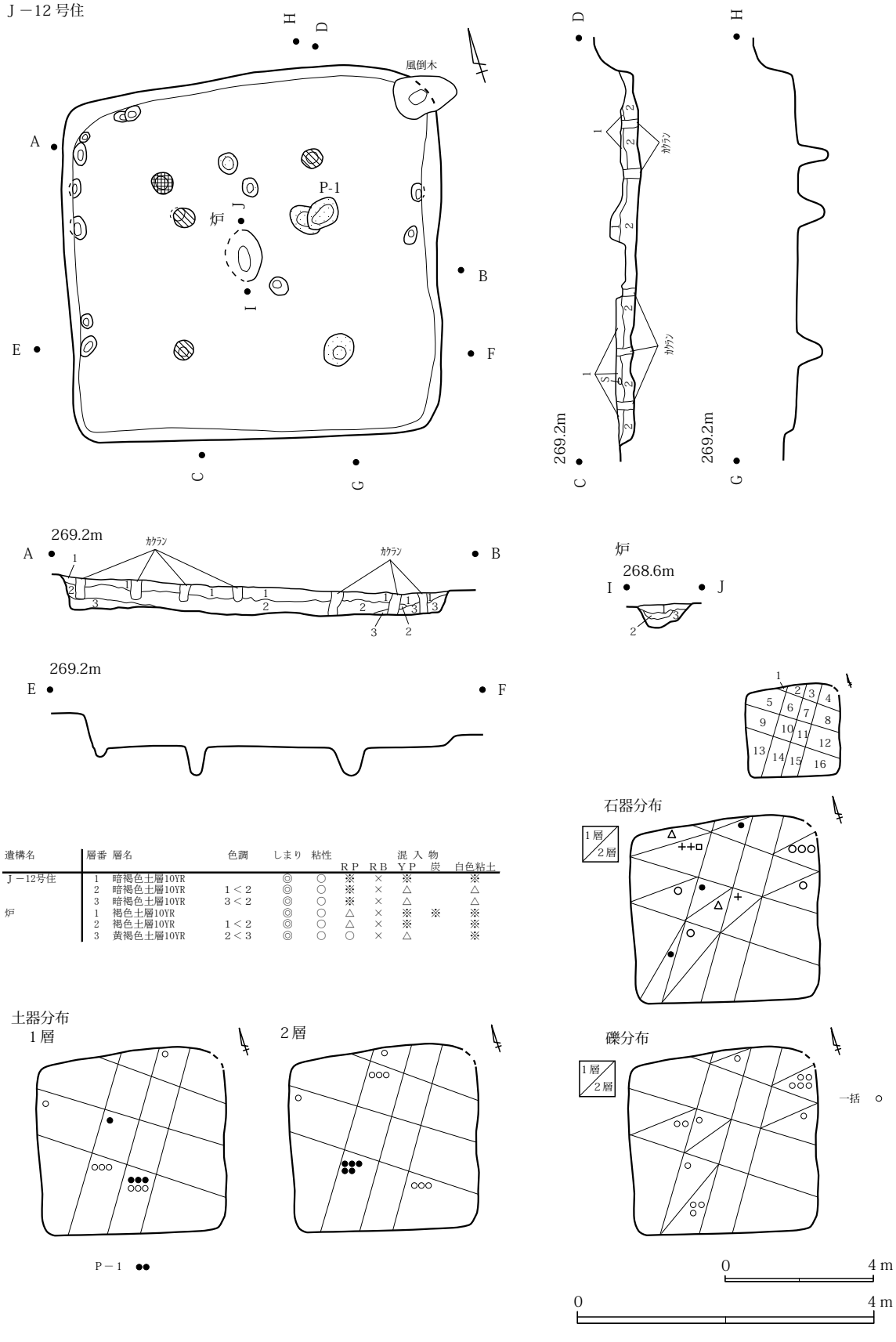


遺物分布図



第280図　人見東中原遺跡（縄文）Ｊ－11号住居址実測図（２）

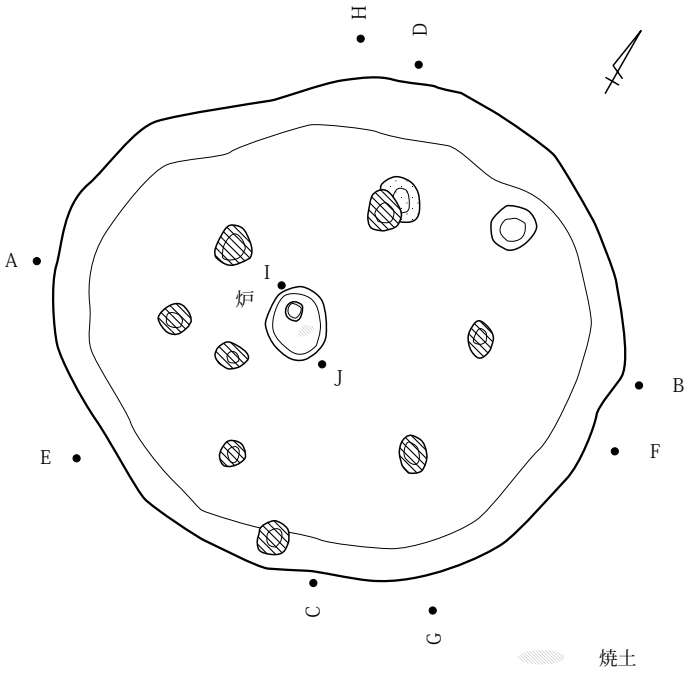
N９　Ｊ－12号住

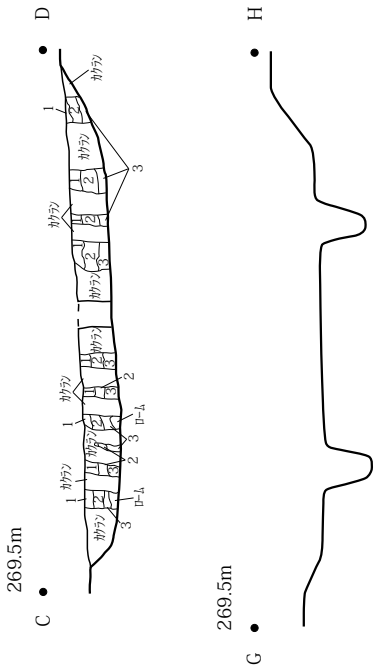


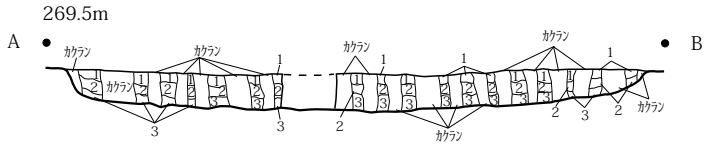
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	混入物 YP	炭	白色粘土
Ｊ－12号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※		※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	△		△
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	○	※	×	△		△
炉	1	褐色土層10YR		◎	○	△	×	※	※	※
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	※		※
	3	黄褐色土層10YR	2＜3	◎	○	○	×	△		※

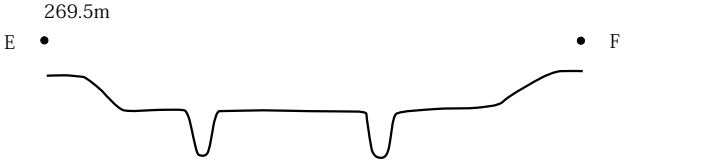
第281図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－12号住居址実測図

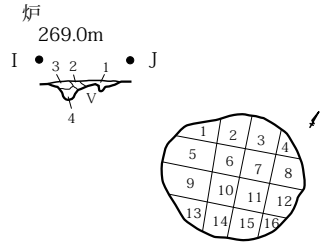
N９　Ｊ－13号住



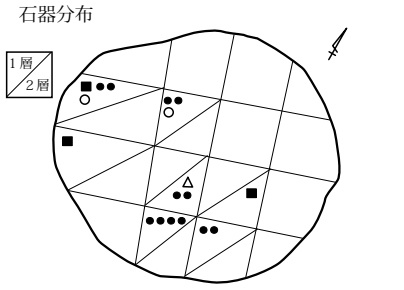


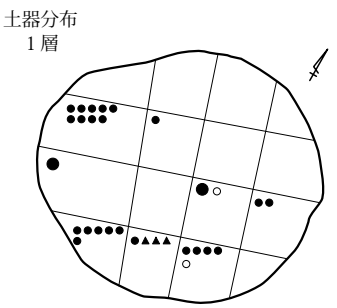


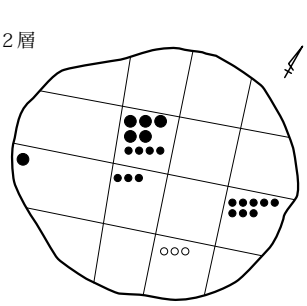


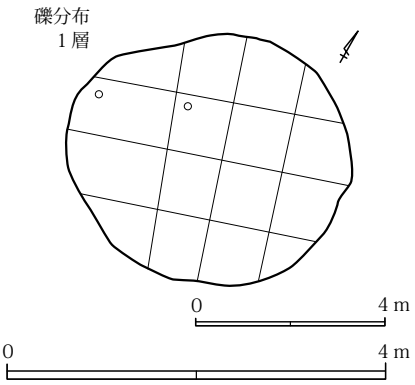


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物 炭	焼土	白色パミス
Ｊ－13号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	※			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	※	※		
炉	1	暗褐色土層7.5YR		◎	○	※	×	※	※	※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	△	※	※	△
	3	暗褐色土層7.5YR	3＜2	◎	○	※	×	※	※	※	△
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	※			

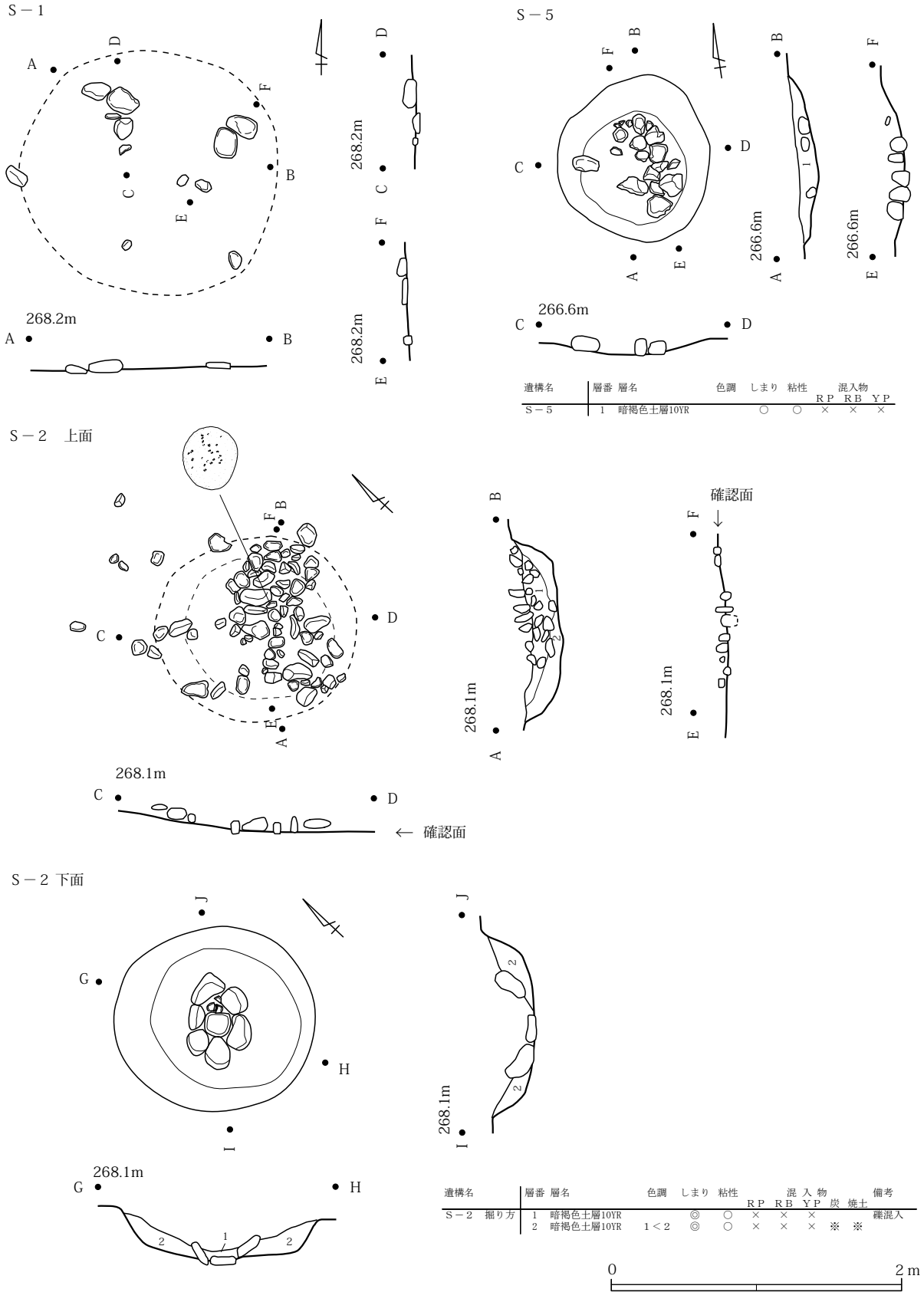






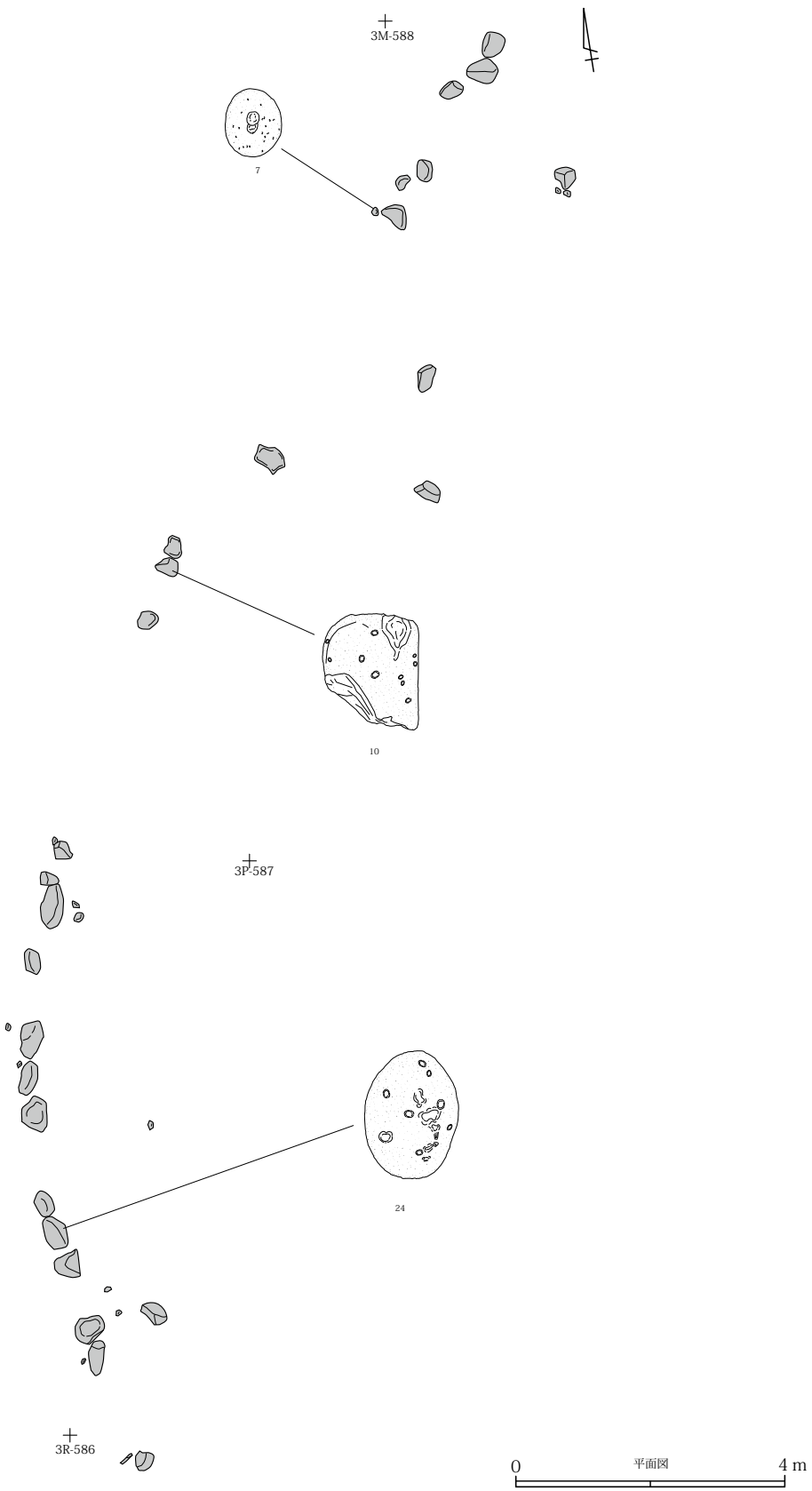


第282図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－13号住居址実測図

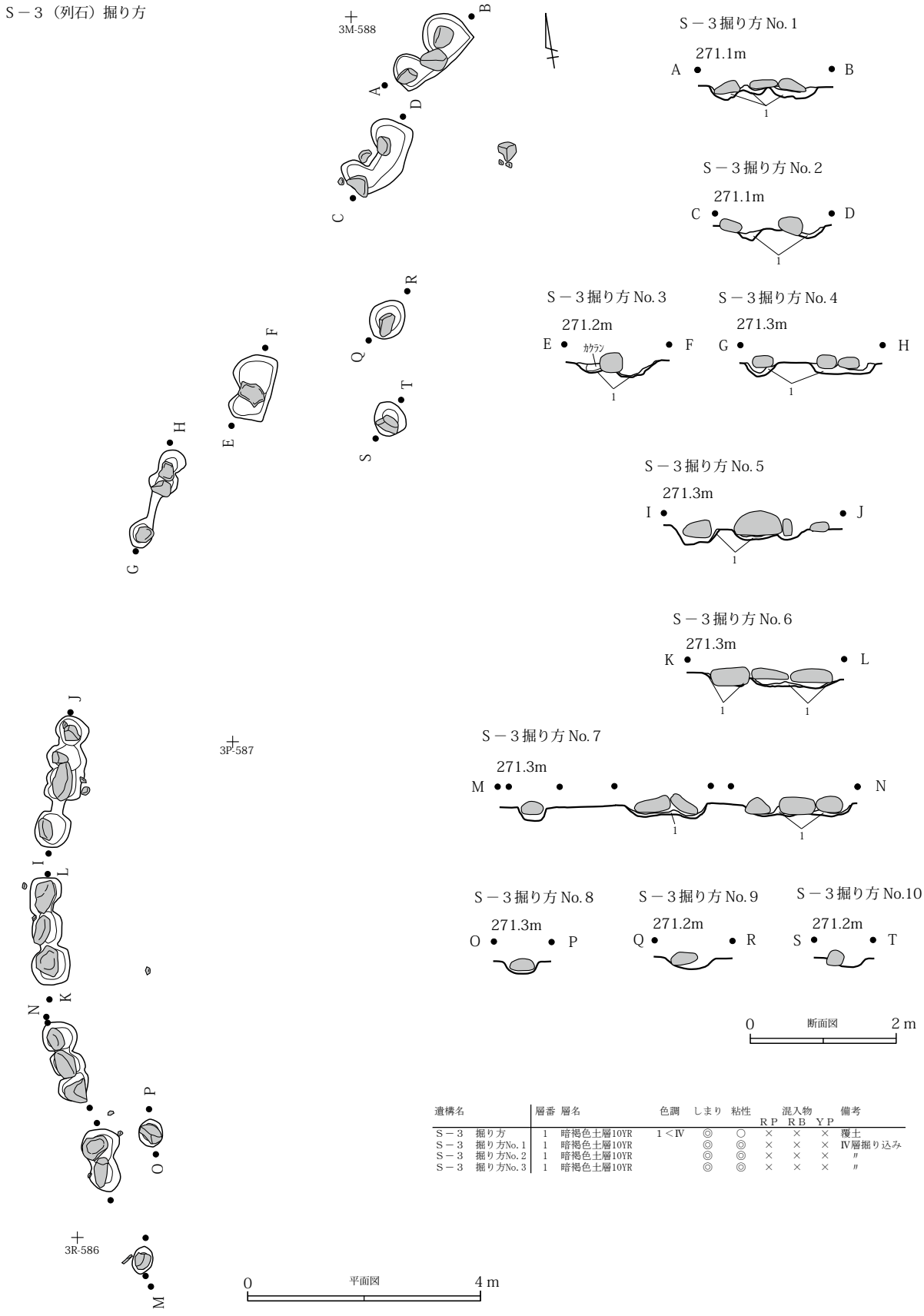


第283図　人見東中原遺跡（縄文）集石実測図

S－3（列石）

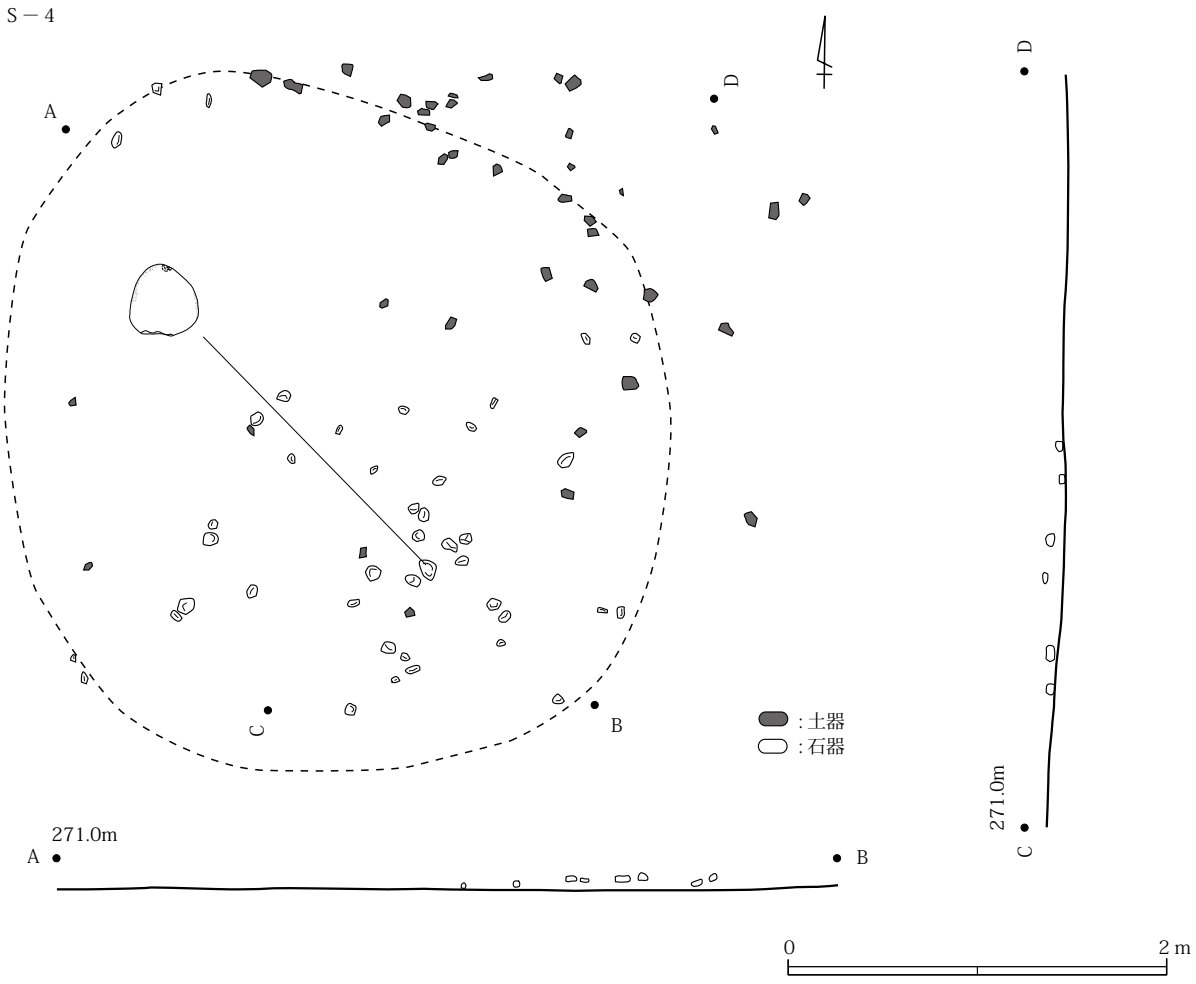


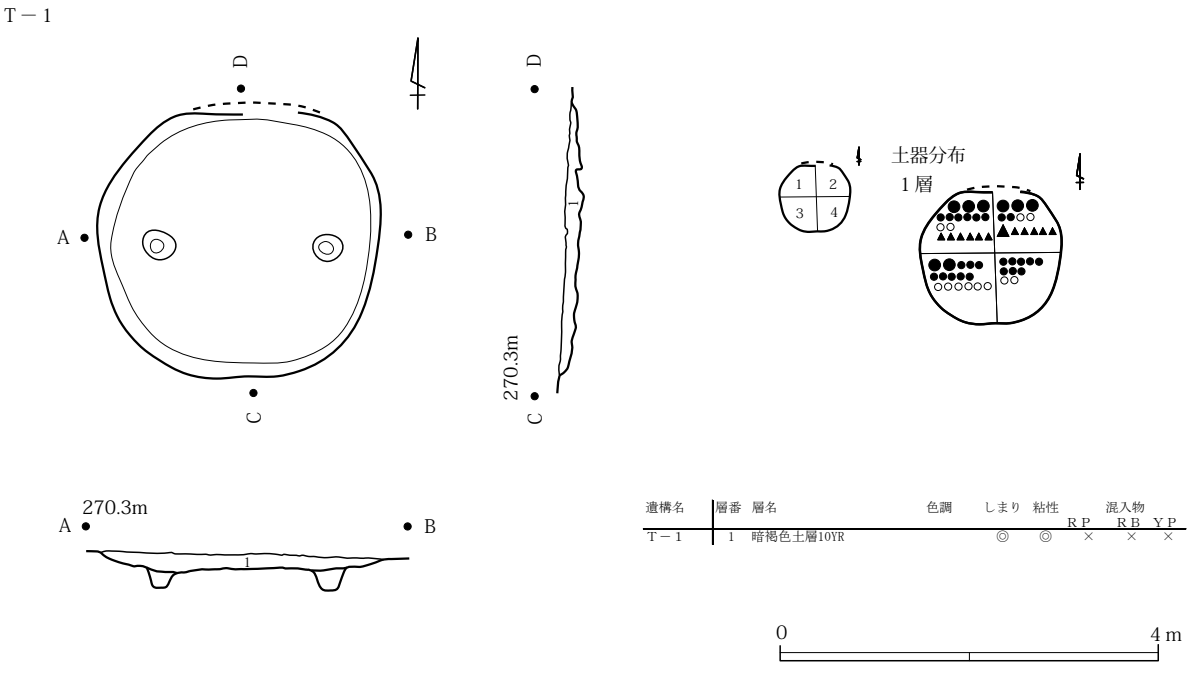
第284図　人見東中原遺跡（縄文）弧状列石実測図（1）



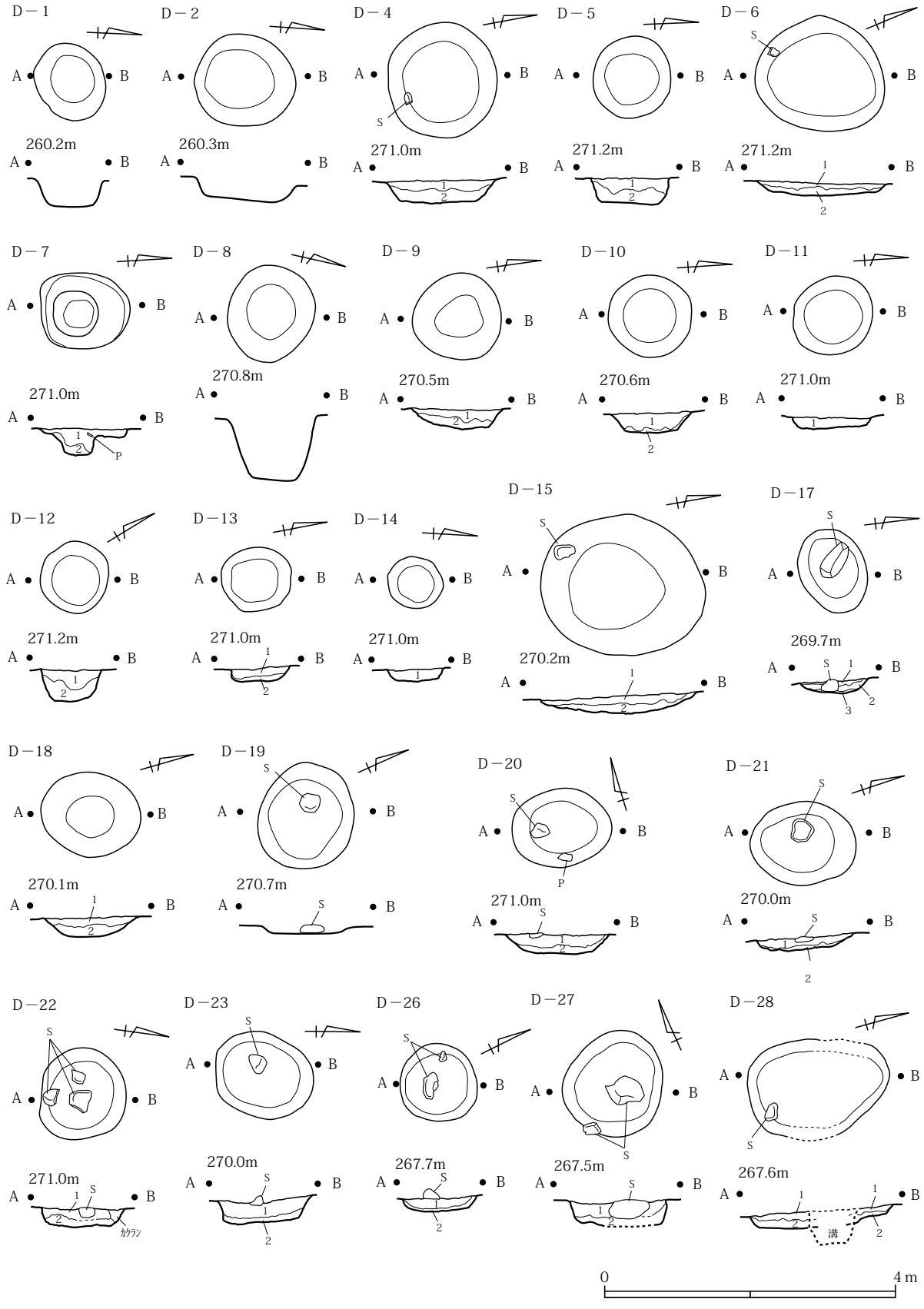
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
S－3 掘り方	1	暗褐色土層10YR	1＜Ⅳ	◎	○	×	×	×	覆土
S－3 掘り方No. 1	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×	Ⅳ層掘り込み
S－3 掘り方No. 2	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×	〃
S－3 掘り方No. 3	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×	〃

第285図　人見東中原遺跡（縄文）弧状列石実測図（2）

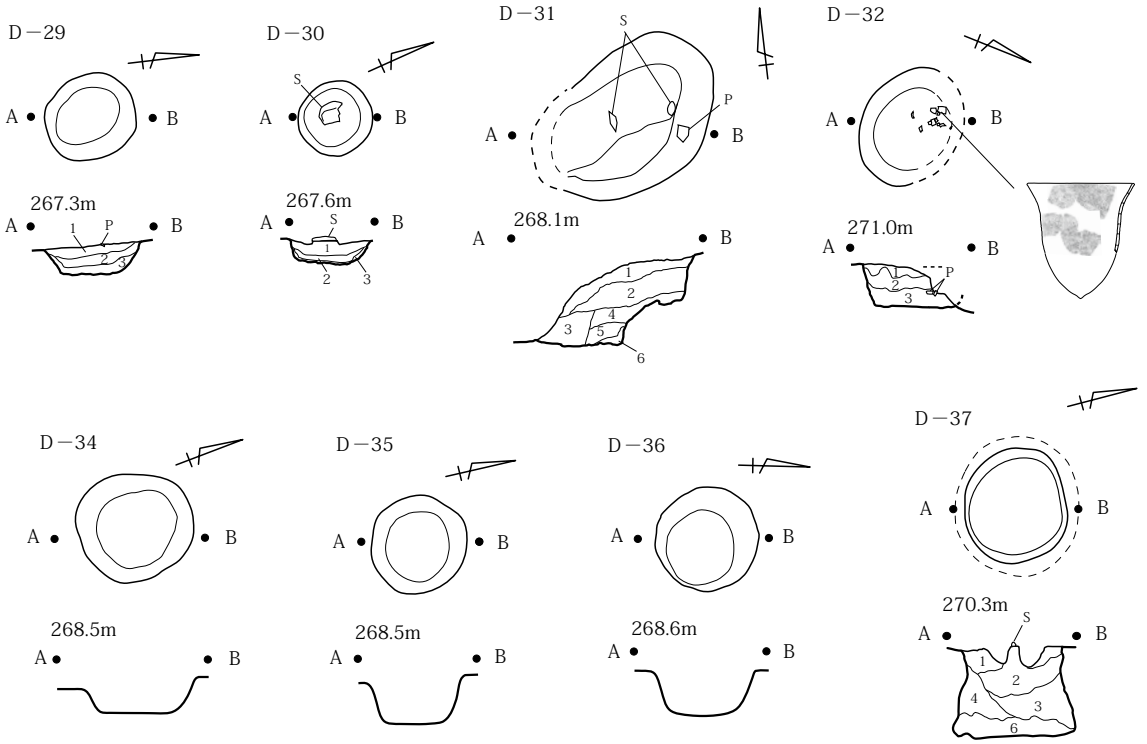




第286図　人見東中原遺跡（縄文）集石・竪穴状遺構実測図

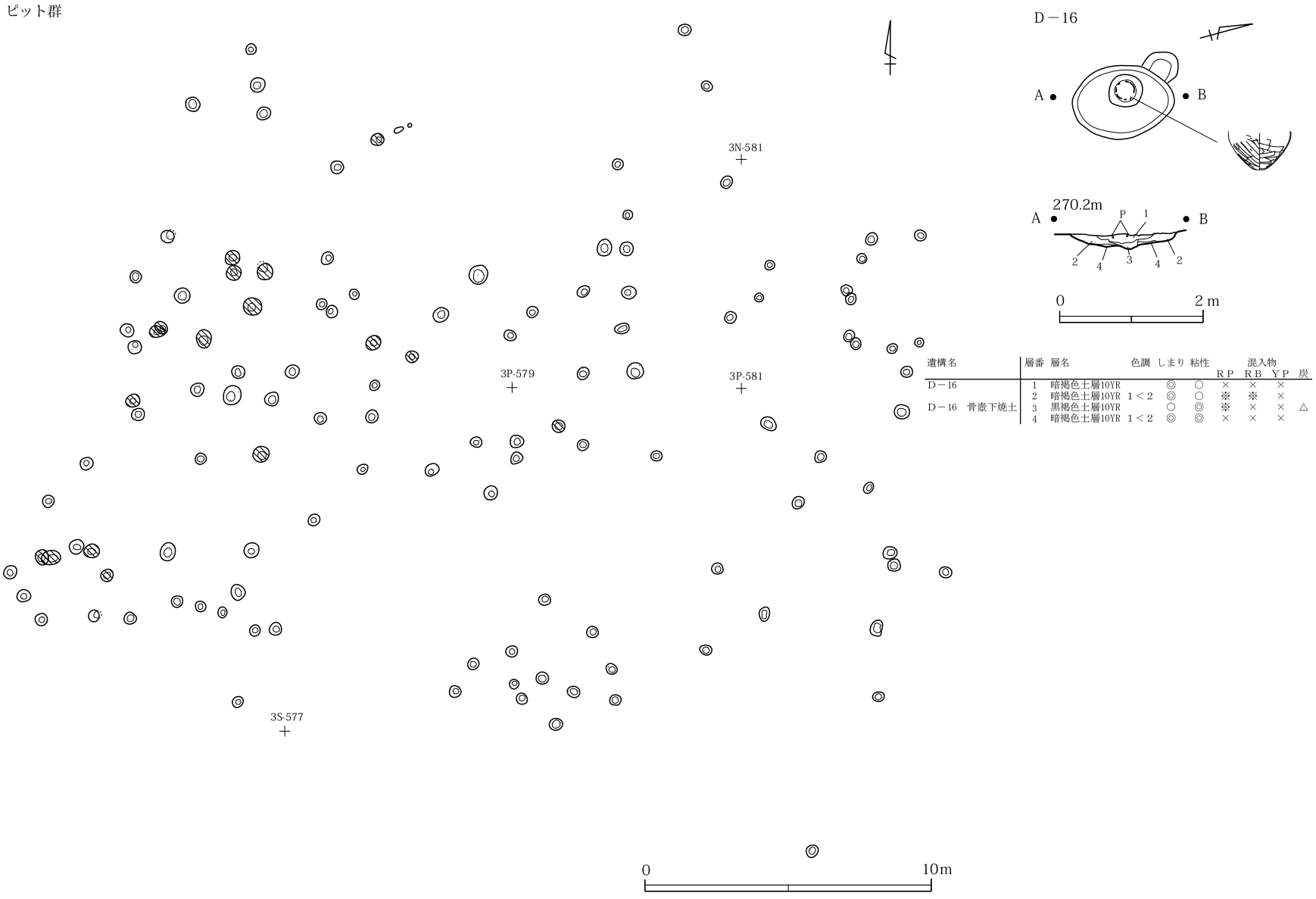


第287図　人見東中原遺跡（縄文）土坑実測図（1）



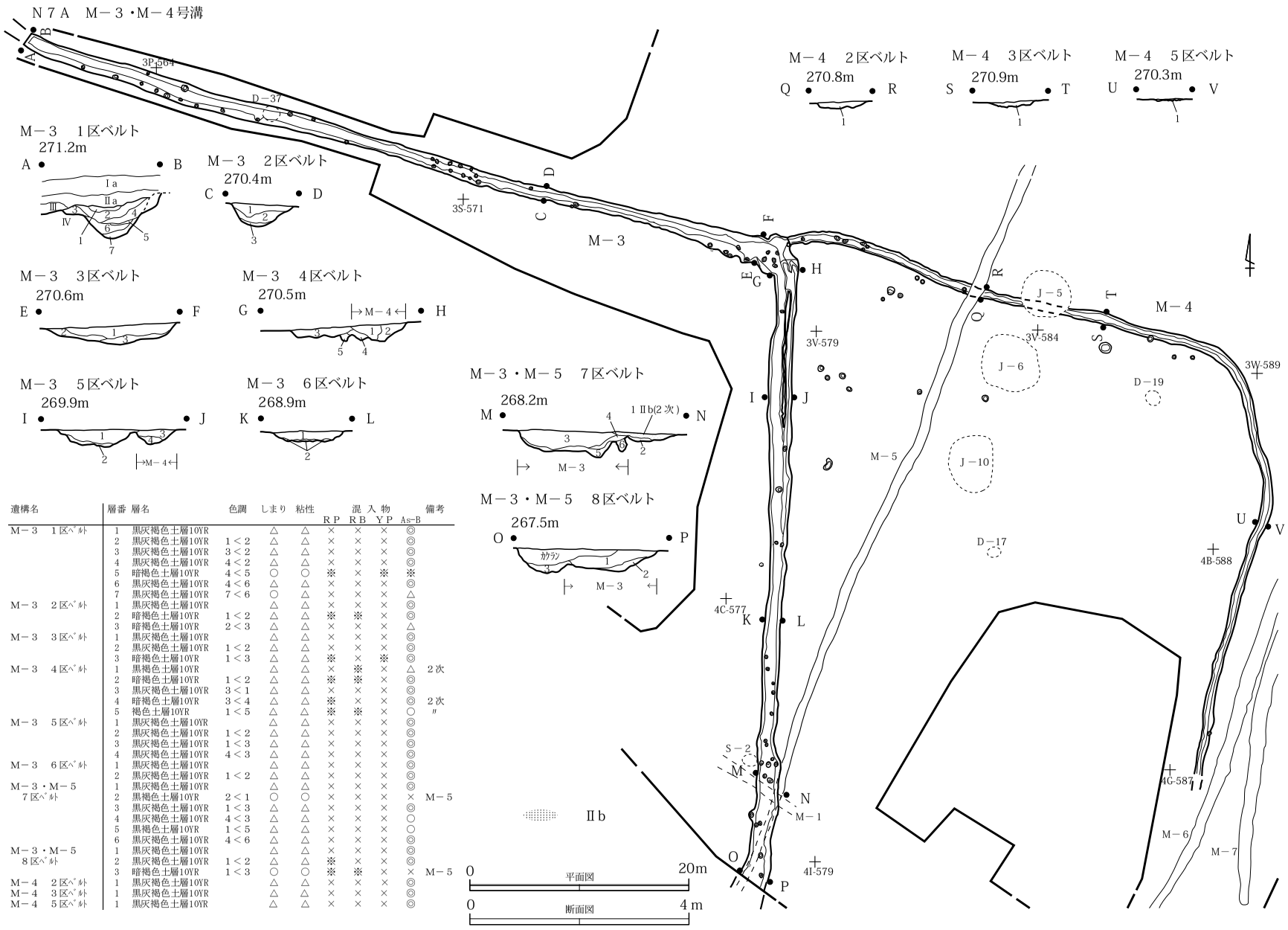
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
D－4	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
D－5	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	
D－6	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	×	×	×	
D－7	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	
D－9	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	倒木痕
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	×	〃
D－10	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	〃
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	×	〃
D－11	1	褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
D－12	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	
D－13	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×	
D－17	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	×	×	×	
D－18	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	×	×	×	
D－20	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	
D－22	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	
D－23	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	×	
D－26	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	◎	×	×	×	
D－27	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	×	
D－28	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×	
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	×	
D－29	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	◎	※	×	×	
D－30	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	◎	×	×	×	
D－31	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	×	
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	◎	×	×	×	
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	◎	※	×	×	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	◎	◎	※	※	×	
	6	黄褐色土層10YR	5＜6	◎	◎	※	○	×	
D－32	1	暗褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	◎	◎	×	×	×	
D－39	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	
D－42	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	※	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	×	×	※	
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	◎	○	※	×	※	
	5	褐色土層10YR	4＜5	◎	○	※	※	△	

第288図　人見東中原遺跡（縄文）土坑実測図（2）

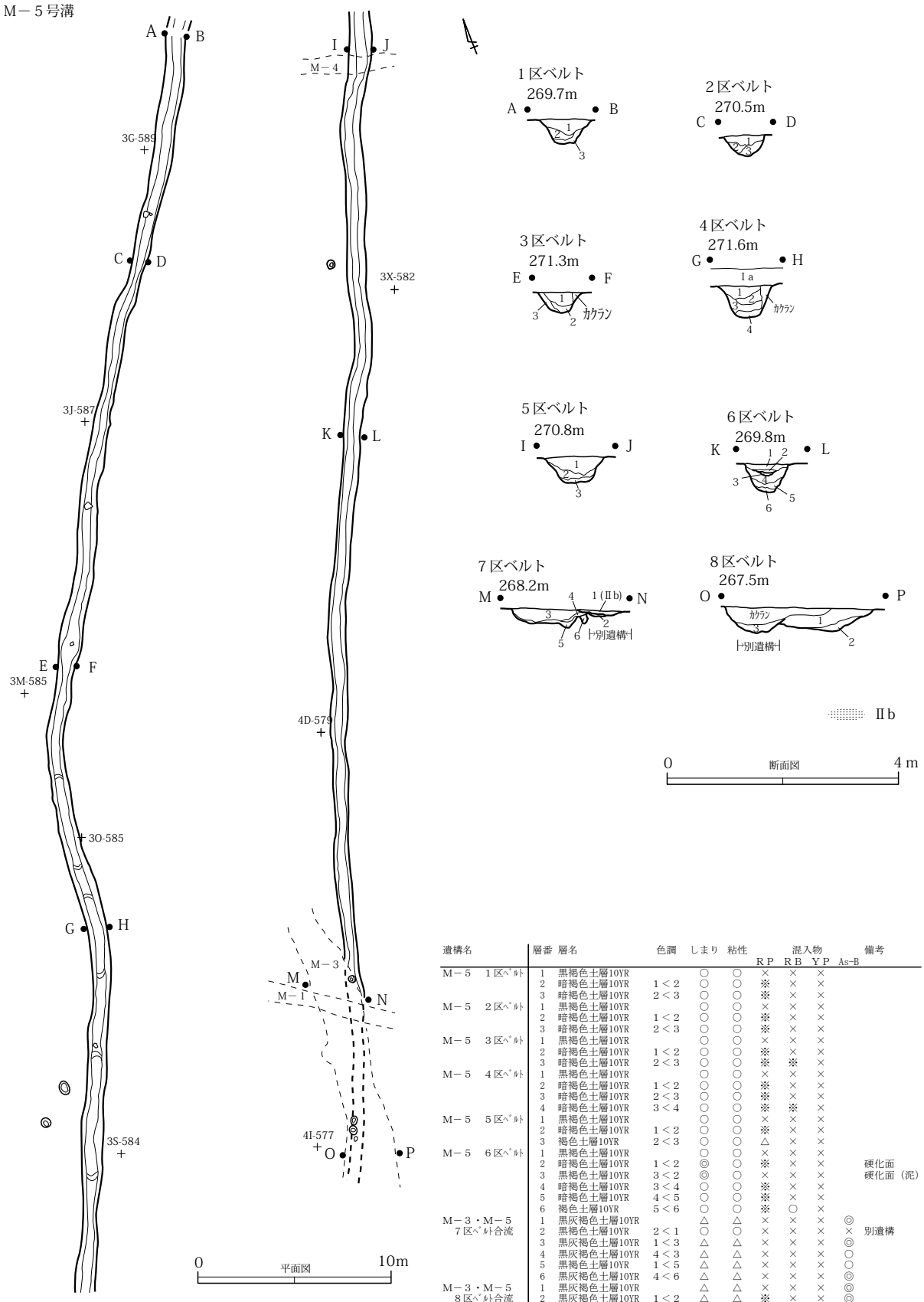


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
D－16	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	※	×	
D－16 骨壺下焼土	3	黒褐色土層10YR		○	◎	※	×	×	△
	4	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	×	×	×	

第289図　人見東中原遺跡（古代）ピット群、土坑実測図

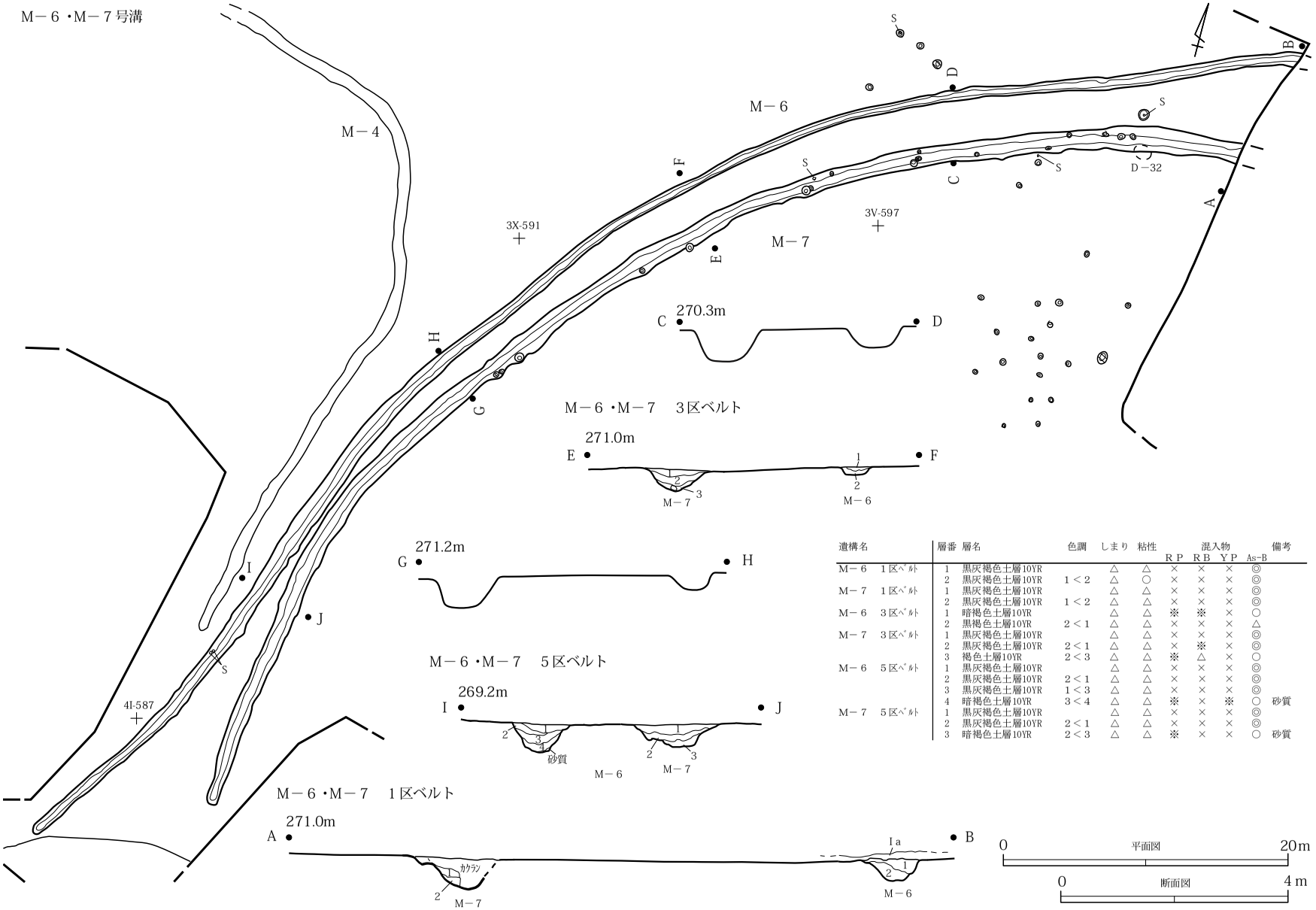


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-B	備考
M－３　１区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	◎	
	3	黒灰褐色土層10YR	3＜2	△	△	×	×	×	◎	
	4	黒灰褐色土層10YR	4＜2	△	△	×	×	×	◎	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	※	※	
	6	黒灰褐色土層10YR	4＜6	△	△	×	×	×	◎	
	7	黒灰褐色土層10YR	7＜6	○	△	×	×	×	△	
M－３　２区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	△	△	※	※	×	◎	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	△	△	×	×	×	△	
M－３　３区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	◎	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	△	△	※	×	※	◎	
M－３　４区ベルト	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	※	×	△	2次
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	△	△	※	※	×	◎	
	3	黒灰褐色土層10YR	3＜1	△	△	×	×	×	◎	
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	△	△	※	×	×	◎	2次
	5	褐色土層10YR	1＜5	△	△	※	※	×	○	〃
M－３　５区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	◎	
	3	黒灰褐色土層10YR	1＜3	△	△	×	×	×	◎	
	4	黒灰褐色土層10YR	4＜3	△	△	×	×	×	◎	
M－３　６区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	◎	
M－３・M－５ 7区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×	×	M－５
	3	黒灰褐色土層10YR	1＜3	△	△	×	×	×	◎	
	4	黒灰褐色土層10YR	4＜3	△	△	×	×	×	△	
	5	黒褐色土層10YR	1＜5	△	△	×	×	×	○	
	6	黒灰褐色土層10YR	4＜6	△	△	×	×	×	◎	
M－３・M－５ 8区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	※	×	×	◎	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	※	×	×	M－５
M－４　２区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
M－４　３区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
M－４　５区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-B	備考
M－5 1区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
M－5 2区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
M－5 3区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×		
M－5 4区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	※	×		
M－5 5区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	×		
M－5 6区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×		硬化面
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	◎	○	×	×	×		硬化面（泥）
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	×		
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	○	×		
M－3・M－5 7区ﾍﾞﾙﾄ合流	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×	×	別遺構
	3	黒灰褐色土層10YR	1＜3	△	△	×	×	×	◎	
	4	黒灰褐色土層10YR	4＜3	△	△	×	×	×	○	
	5	黒褐色土層10YR	1＜5	△	△	×	×	×	○	
	6	黒灰褐色土層10YR	4＜6	△	△	×	×	×	◎	
M－3・M－5 8区ﾍﾞﾙﾄ合流	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	※	×	×	◎	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	※	×	×	別遺構

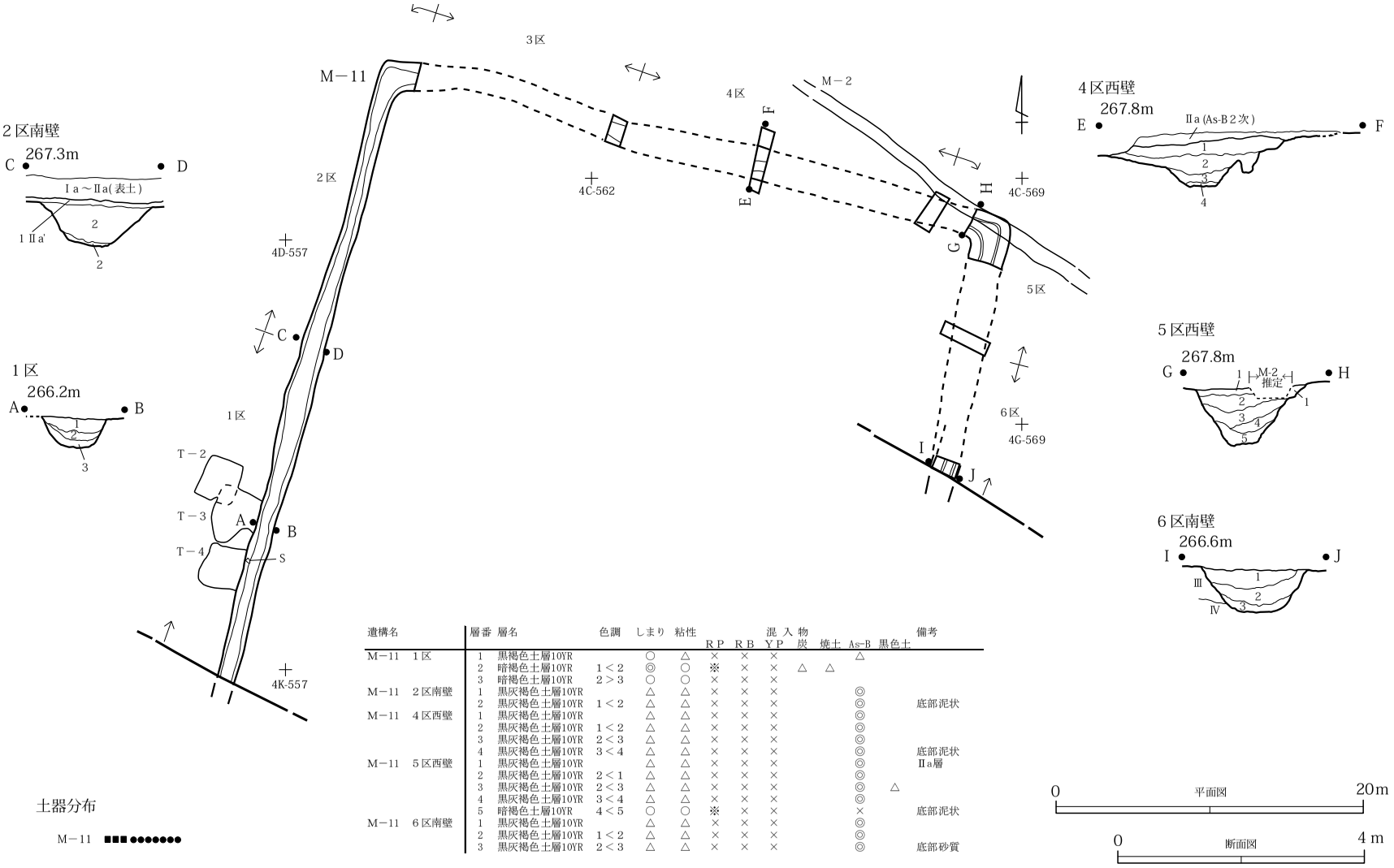
第291図　人見東中原遺跡（古代）M－5号溝実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B	備考
M－６　１区ベルト	1	黒灰褐色土層	10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層	10YR	1＜2	△	○	×	×	×	◎	
M－７　１区ベルト	1	黒灰褐色土層	10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層	10YR	1＜2	△	△	×	×	×	◎	
M－６　３区ベルト	1	暗褐色土層	10YR		△	△	※	※	×	○	
	2	黒褐色土層	10YR	2＜1	△	△	×	×	×	△	
M－７　３区ベルト	1	黒灰褐色土層	10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層	10YR	2＜1	△	△	×	※	×	◎	
	3	褐色土層	10YR	2＜3	△	△	※	△	×	○	
M－６　５区ベルト	1	黒灰褐色土層	10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層	10YR	2＜1	△	△	×	×	×	◎	
	3	黒灰褐色土層	10YR	1＜3	△	△	×	×	×	◎	
	4	暗褐色土層	10YR	3＜4	△	△	※	×	※	○	砂質
M－７　５区ベルト	1	黒灰褐色土層	10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層	10YR	2＜1	△	△	×	×	×	◎	
	3	暗褐色土層	10YR	2＜3	△	△	※	×	×	○	砂質

第292図　人見東中原遺跡（古代中世）M－６・７号溝実測図

M－11 号溝

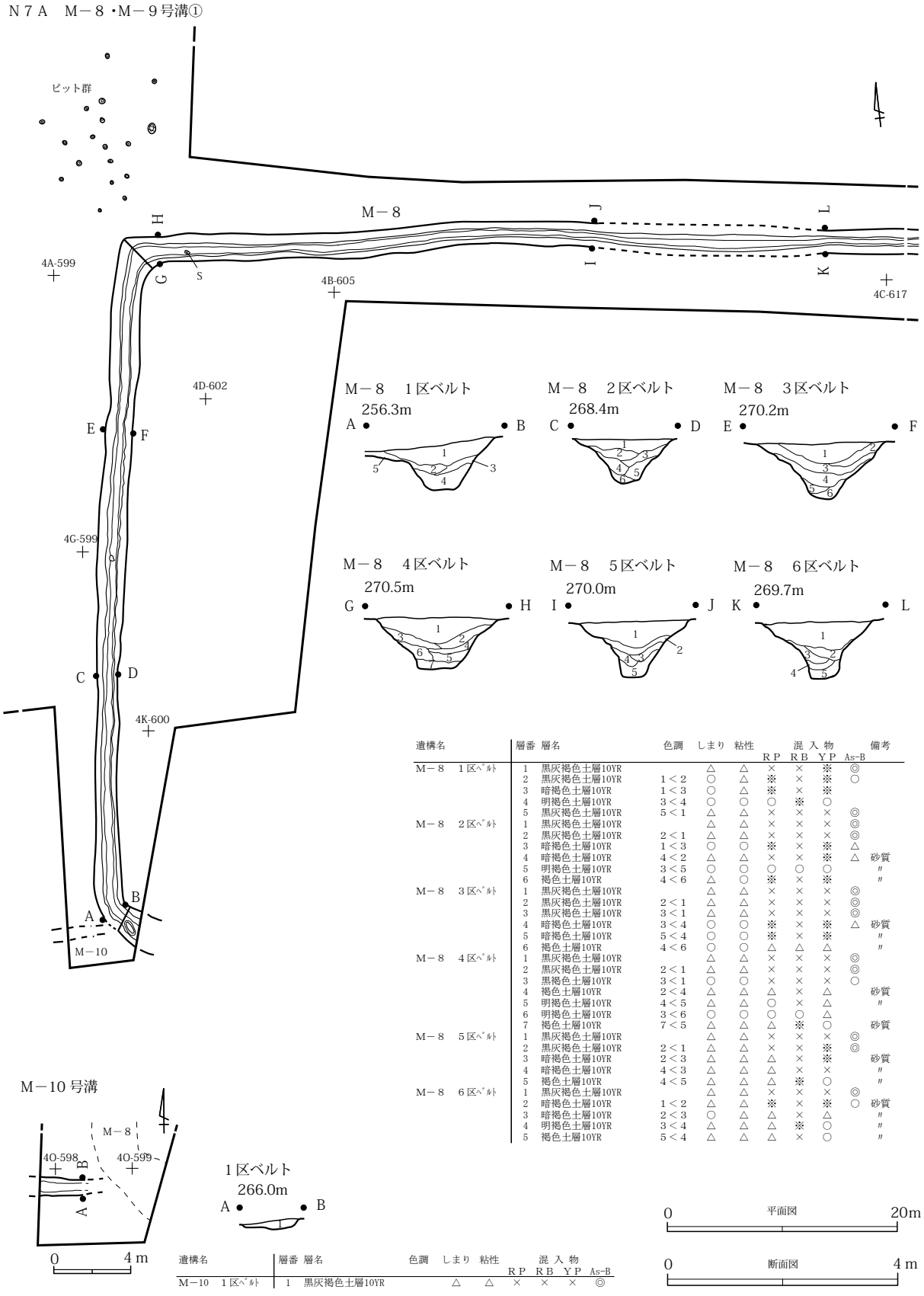


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B	黒色土	備考
M－11 1区	1	黒褐色土層10YR		○	△	×	×	×			△		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	△	△			
	3	暗褐色土層10YR	2＞3	○	○	×	×	×					
M－11 2区南壁	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×			◎		
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×			◎		底部泥状
M－11 4区西壁	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×			◎		
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×			◎		
	3	黒灰褐色土層10YR	2＜3	△	△	×	×	×			◎		
	4	黒灰褐色土層10YR	3＜4	△	△	×	×	×			◎		底部泥状
M－11 5区西壁	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×			◎		Ⅱa層
	2	黒灰褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	×	×			◎		
	3	黒灰褐色土層10YR	2＜3	△	△	×	×	×			◎	△	
	4	黒灰褐色土層10YR	3＜4	△	△	×	×	×			◎		
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	×			×		底部泥状
M－11 6区南壁	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×			◎		
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×			◎		
	3	黒灰褐色土層10YR	2＜3	△	△	×	×	×			◎		底部砂質

0 平面図 20m

0 断面図 4 m

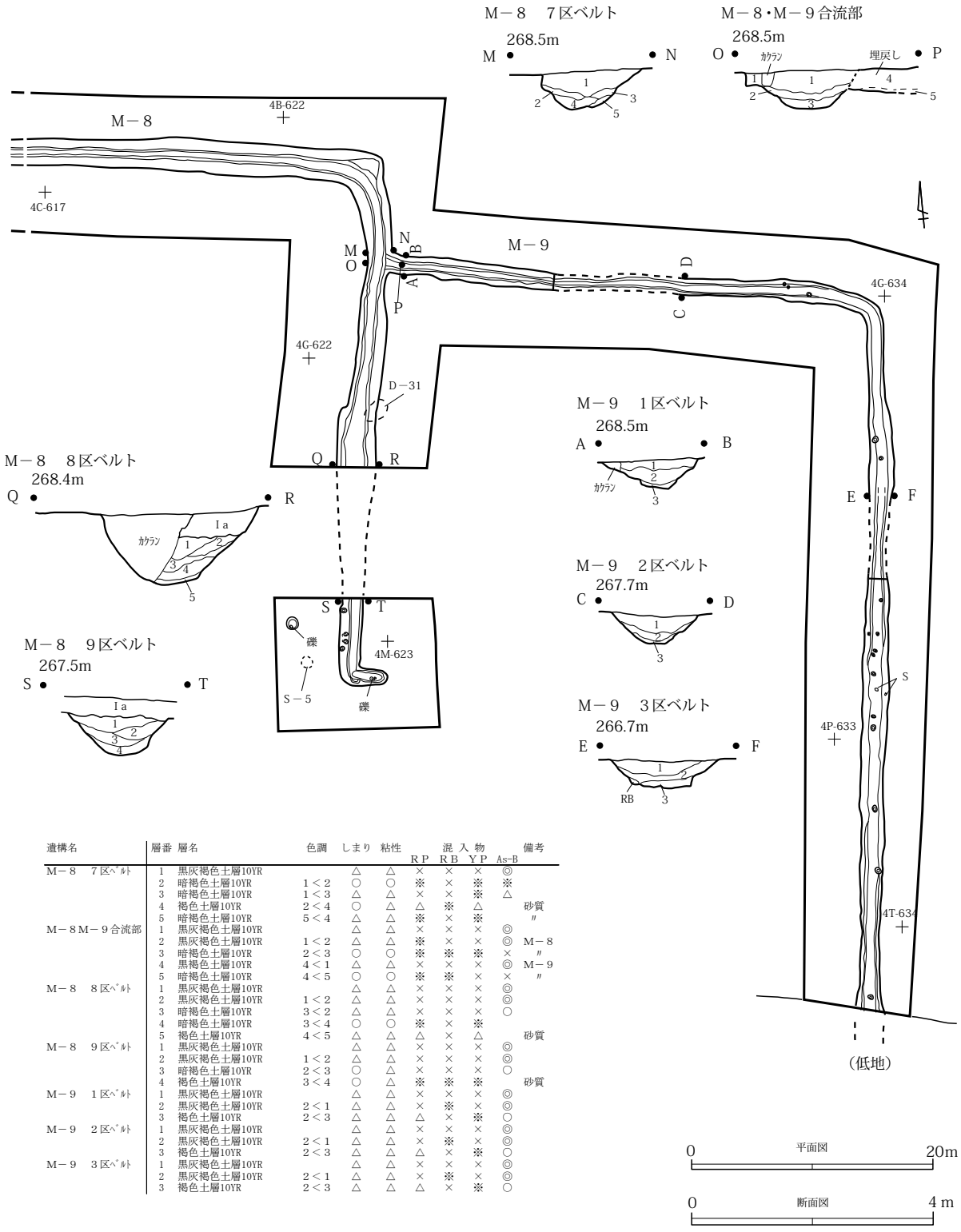
第293図　人見東中原遺跡（古代中世）M－11号溝



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-B	備考
M－８　１区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	※	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	○	△	※	×	※	○	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	△	※	×	※		
	4	明褐色土層10YR	3＜4	○	○	○	※	○		
	5	黒灰褐色土層10YR	5＜1	△	△	×	×	×	◎	
M－８　２区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	×	×	◎	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	×	※	△	
	4	暗褐色土層10YR	4＜2	△	△	×	×	※	△	砂質
	5	明褐色土層10YR	3＜5	○	○	○	○	○		〃
	6	褐色土層10YR	4＜6	△	○	※	×	※		〃
M－８　３区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	×	×	◎	
	3	黒灰褐色土層10YR	3＜1	△	△	×	×	×	◎	
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※	△	砂質
	5	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	※	×	※		〃
	6	褐色土層10YR	4＜6	○	○	△	△	△		〃
M－８　４区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	×	×	◎	
	3	黒褐色土層10YR	3＜1	○	○	×	×	×	○	
	4	褐色土層10YR	2＜4	△	△	△	×	△		砂質
	5	明褐色土層10YR	4＜5	△	△	○	×	△		〃
	6	明褐色土層10YR	3＜6	○	○	○	○	△		
	7	褐色土層10YR	7＜5	△	△	△	※	○		砂質
M－８　５区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	×	※	◎	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	△	△	△	×	※		砂質
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	△	△	△	×	×		〃
	5	褐色土層10YR	4＜5	△	△	△	※	○		〃
M－８　６区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	△	△	※	×	※	○	砂質
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	△	△	×	△		〃
	4	明褐色土層10YR	3＜4	△	△	△	※	○		〃
	5	褐色土層10YR	5＜4	△	△	△	×	○		〃

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-B
M－10　１区ベルト	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎

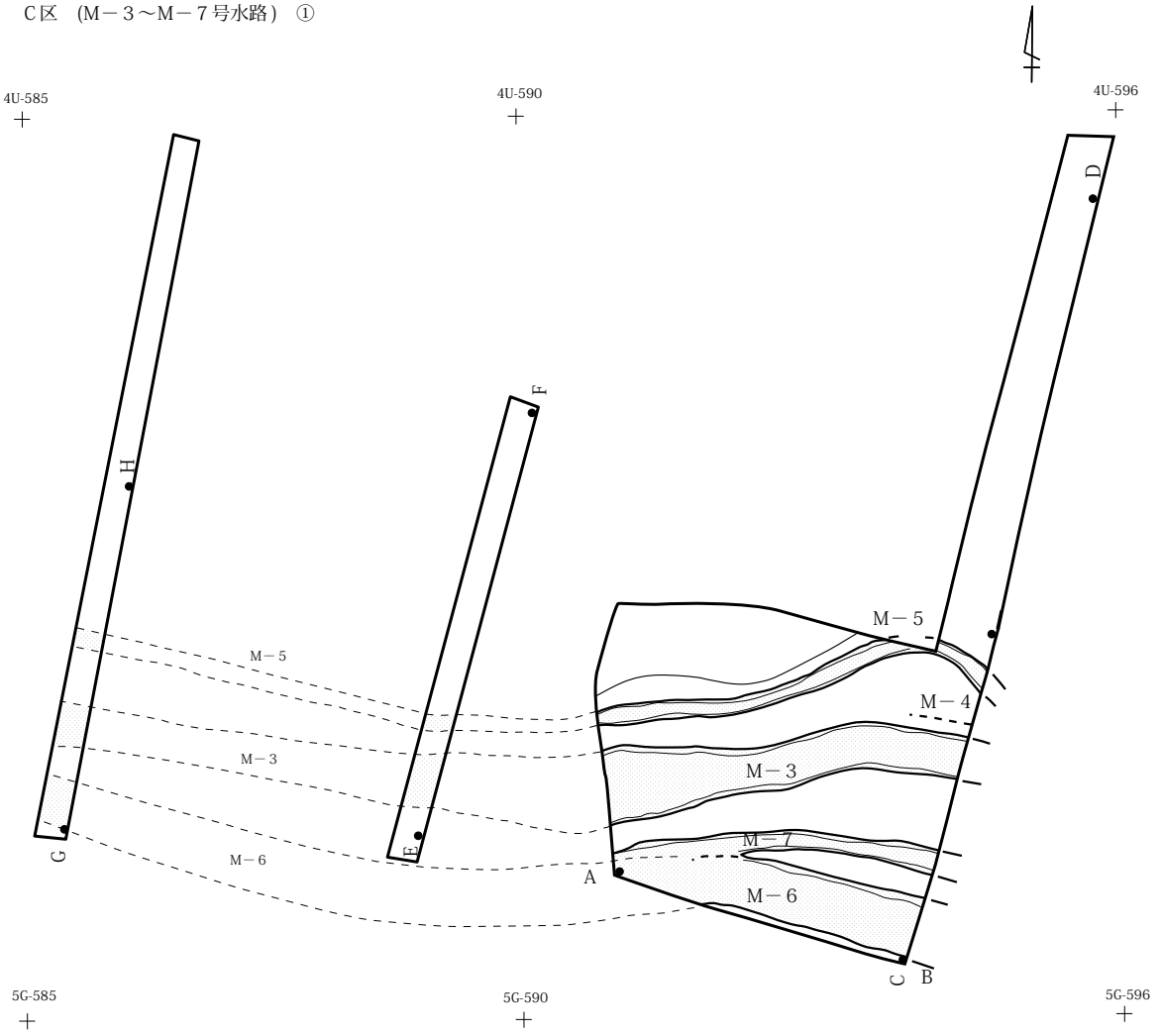
第294図　人見東中原遺跡（古代中世）M－８～10号溝実測図（１）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B	備考
M－8　7区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	△	△	×	×	※	△	
	4	褐色土層10YR	2＜4	○	△	△	※	△		砂質
	5	暗褐色土層10YR	5＜4	△	△	※	×	※		〃
M－8M－9合流部	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	※	×	×	◎	M－8
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※	×	〃
	4	黒褐色土層10YR	4＜1	△	△	×	×	×	◎	M－9
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	※	×	×	〃
M－8　8区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	◎	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	△	△	×	×	×	○	
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※		
	5	褐色土層10YR	4＜5	△	△	△	×	△		砂質
M－8　9区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	◎	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	△	×	×	×	○	
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	△	※	※	※		砂質
M－9　1区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	※	×	◎	
	3	褐色土層10YR	2＜3	△	△	△	×	※	○	
M－9　2区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	※	×	◎	
	3	褐色土層10YR	2＜3	△	△	△	×	※	○	
M－9　3区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×	◎	
	2	黒灰褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	※	×	◎	
	3	褐色土層10YR	2＜3	△	△	△	×	※	○	

第295図　人見東中原遺跡（古代中世）Ｍ－８～10号溝実測図（２）

C区 (M－3～M－7号水路) ①



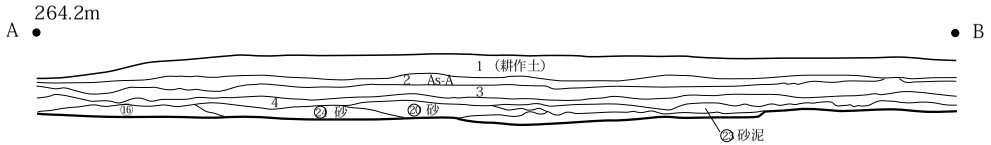
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B	As-A	備考
低地	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		△	水田
	2	にぶい黄褐色土層1	1＜2	◎	○	×	×	×		△	水田
	3	灰黄褐色土層10YR	3＜2	◎	○	×	×	×	△		洪水層
	4	灰黄褐色土層10YR	4＜3	○	○	×	×	×	○		洪水層
	5	黒褐色土層10YR	5＜4	○	○	×	×	×	※		
	6	黒褐色土層10YR	5＜4	○	○	×	×	×			泥質 Ⅲ層
	7	黒褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	×			泥質 Ⅲ層
	①	黒褐色土層10YR	①＜4	△	○	×	×	×			
	②	黒褐色土層10YR	①＜②	○	○	※	×	×			
	③	褐灰色土層10YR	①＜③	○	○	※	×	×			
	④	褐灰色土層10YR	①＜④	○	○	×	×	※			
	⑤	褐灰色土層10YR	⑤＜④	○	○	※	×	×			
	⑥	褐灰色土層10YR	①＜⑥	○	○	×	×	※			
	⑦	褐灰色土層10YR	①＜⑦	○	○	※	×	×	○		
	⑧	褐灰色土層10YR	⑥＜⑧	△	△	※	×	※	○		
M－4	⑨	褐灰色土層10YR	⑨＜4	○	○	×	×	※			
	⑩	黄灰色土層2.5Y	⑨＜⑩	△	△	※	×	※			
M－5	⑪	褐灰色土層10YR	⑪＜4	○	○	×	×	×	※		
	⑫	褐灰色土層10YR	⑪＜⑫	△	△	×	×	×	△		
	⑬	黒褐色土層10YR	⑬＜⑫	○	○	×	×	×			
	⑭	灰黄色土層10YR	⑭＜⑬	△	△	※	×	×			
	⑮	褐灰色土層10YR	⑭＜⑮	△	△	※	×	×	○		
M－6	⑯	褐灰色土層10YR	⑯＜4	○	○	※	×	×	※		
	⑰	黒色土層10YR	⑰＜⑯	○	○	※	×	×			
	⑱	にぶい黄褐色土層1	⑯＜⑱	○	○	※	×	×	△		
	⑲	にぶい黄褐色土層1	⑲＜⑯	○	○	※	△	×			
	⑳	黒灰色土層10YR	⑳＜4	○	○	×	×	×			砂質
	㉑	褐灰色土層10YR	4＜21	○	○	○	×	×			泥質
	㉒	褐灰色土層10YR	23＜4	○	○	※	×	×	△		砂質
	㉓	黒灰色土層10YR	24＜⑯	○	○	×	×	×	※		砂質
M－7	㉔	褐灰色土層10YR	4＜⑳	○	○	△	×	△			

0 10m

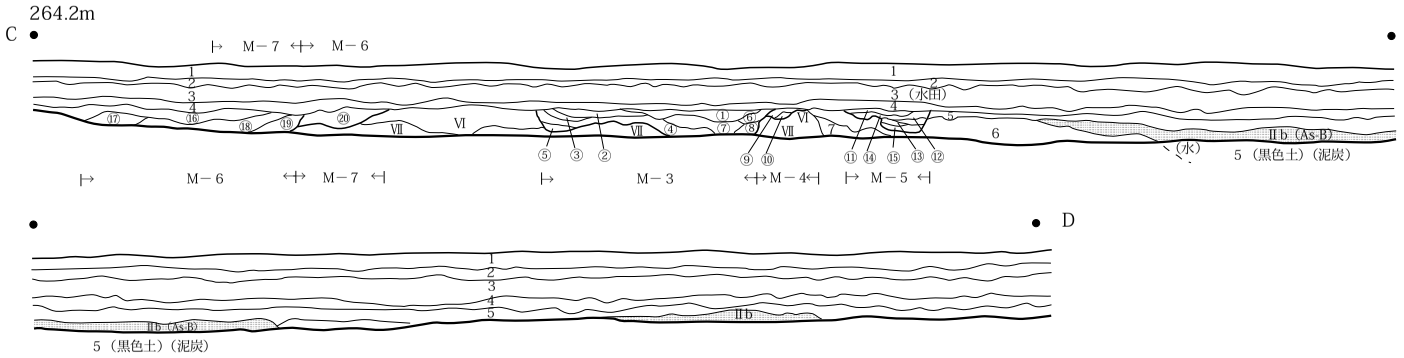
第296図　人見東中原遺跡Ｃ区（古代中世）　Ｍ－３～７号水路（溝）実測図（１）

C区 （M－３～M－７号水路） ②

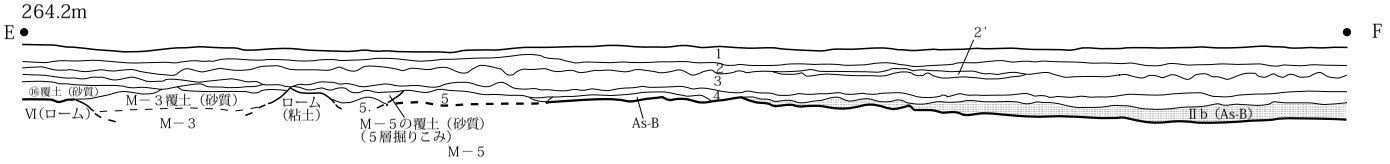
１トレンチ拡張　東西セクション



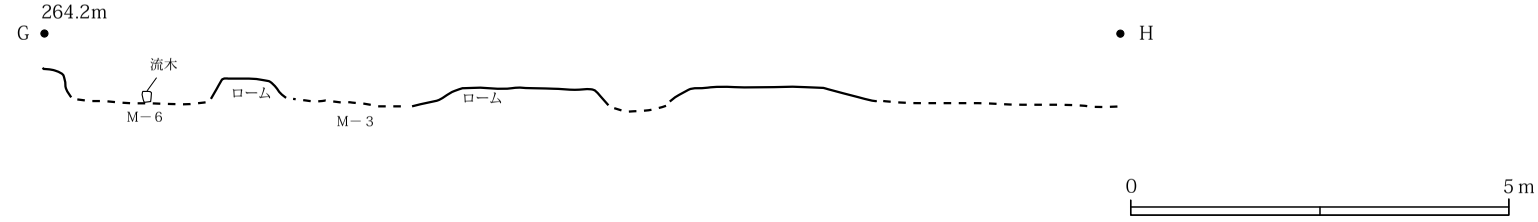
１トレンチ拡張　南北セクション



２トレンチ

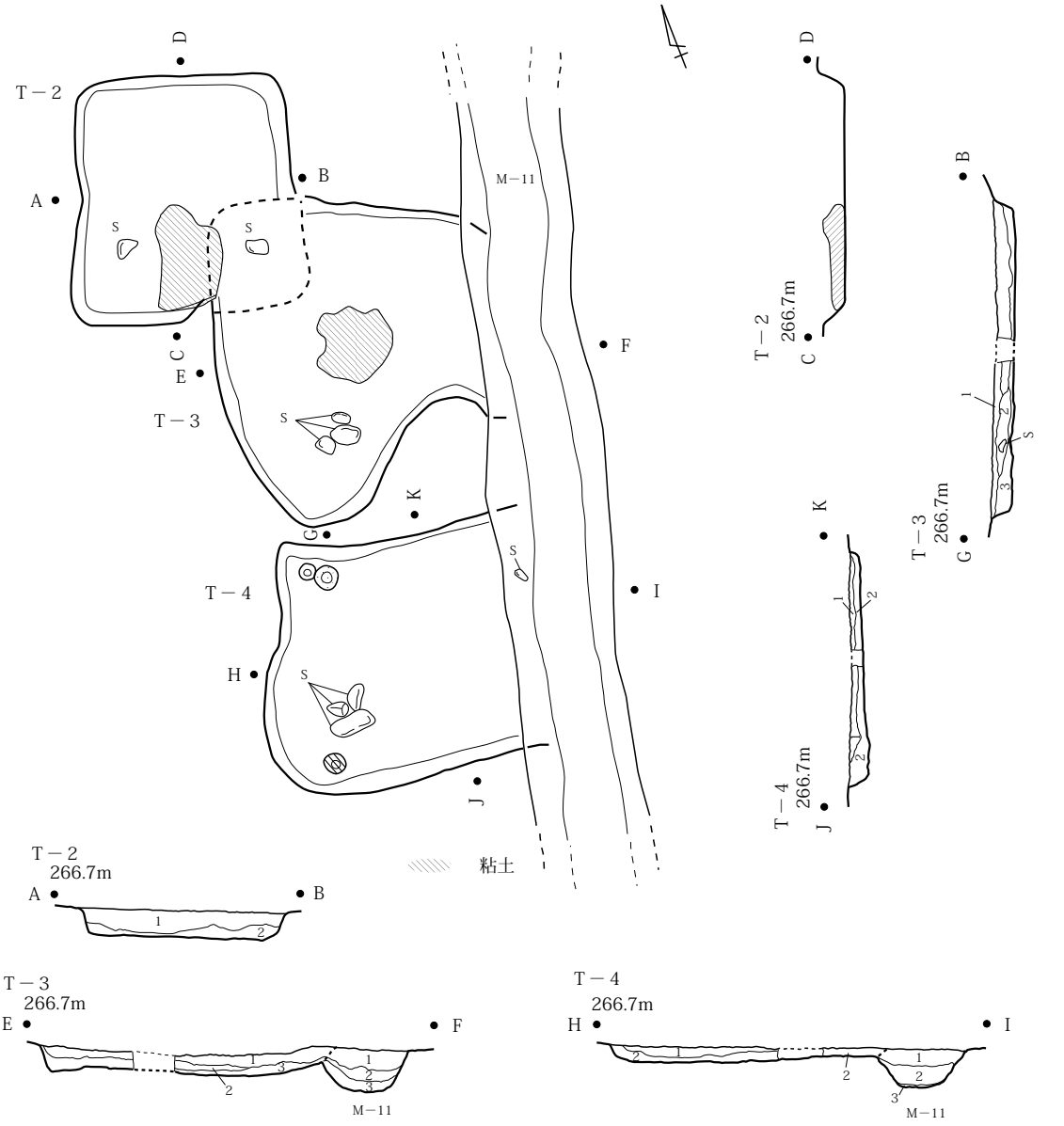


３トレンチ



第297図　人見東中原遺跡Ｃ区（古代中世）　Ｍ－３～７号水路（溝）実測図（２）

T－2・T－3・T－4



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物 炭	焼土	As-B
T－2	1	黒褐色土層10YR		○	△	×	×	×			△
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			
T－3	1	黒褐色土層10YR		○	△	×	×	×			△
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	△	△	
	3	暗褐色土層10YR	2＞3	○	○	×	×	×			
T－4	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			△
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			

土器分布

T－2 ●●●●●●● ■■■

T－3 ●●●●●●●●● ■■

T－4 ●●●

0 4m

第298図　人見東中原遺跡（古代中世）T－2～4号竪穴状遺構

7　人見西中原遺跡（第299～322図）

（1）概要

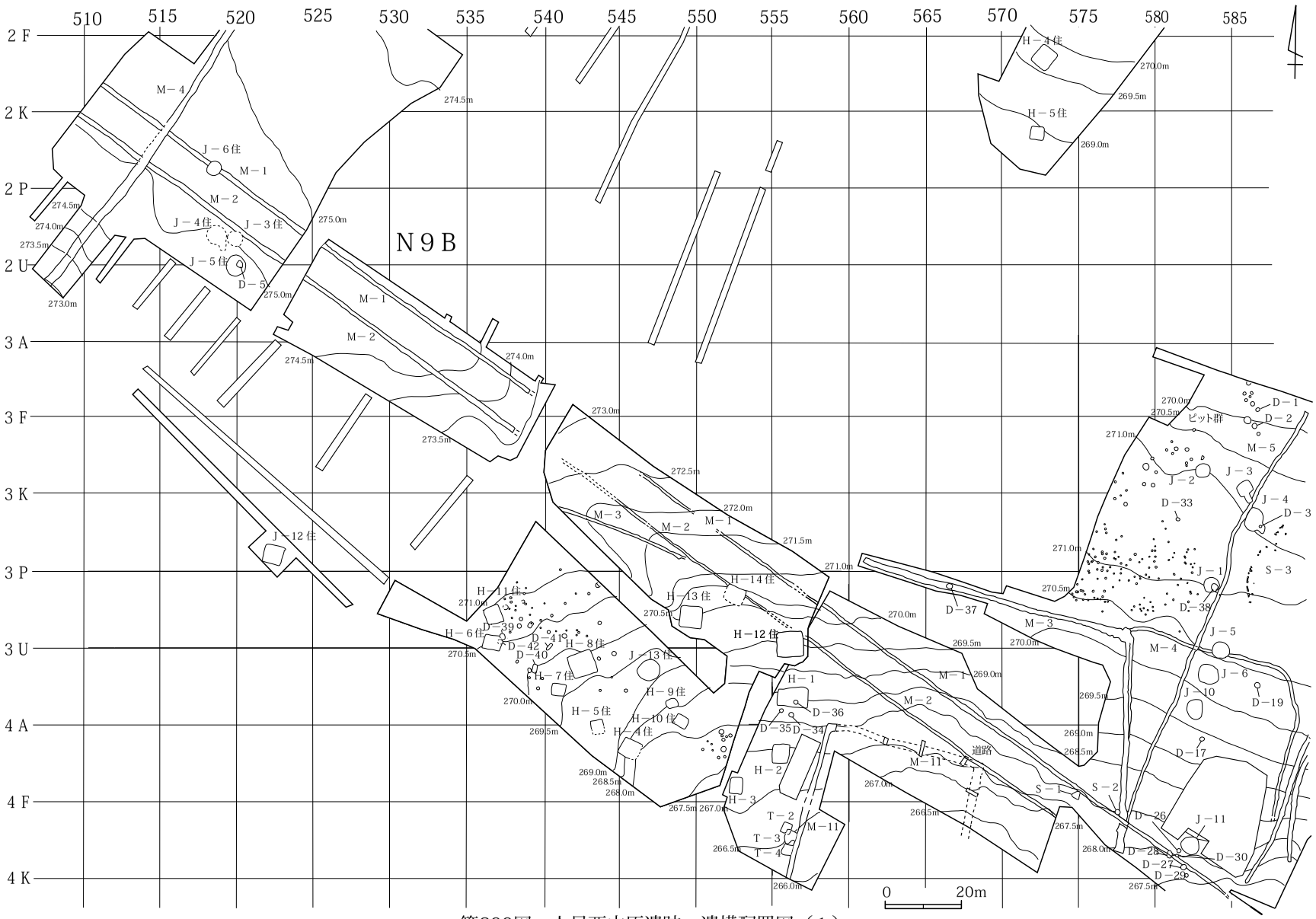
本遺跡は、人見東中原遺跡と隣接し、東西に細長く延びる２つの低地に挟まれた台地に立地する。人見東中原遺跡に確認された縄文時代と古墳時代の集落の一部と古代道路状遺構の続きを確認した。また、新たに縄文時代の集落、弥生時代の遺構等を発見した。対象地区のトレンチ調査では、遺構、遺物の分布密度はやや薄く、台地の北側を中心に遺跡の空白地を確認した。遺構、遺物が集中する範囲に対して人見東中原遺跡に隣接した東部（Ａ区）、中央部（Ｂ区）、北部（Ｃ区）として調査区を設定した。なお、Ａ区の縄文時代及び古墳時代の遺構番号については、人見東中原遺跡から続く番号を付けた。また、本遺跡の縄文時代の報告は、人見東中原遺跡に含め、人見東中原遺跡の古墳時代は、本遺跡に含めた。

縄文時代では、Ａ区（水路部分を含む）で前期前葉（有尾式期）の住居址１軒（Ｊ－11号）、前期後葉（諸磯ｃ式期）の住居址１軒（Ｊ－12号）、土坑（Ｄ－39、42号）を確認した。Ｂ区では、調査区中央３～５区及び調査区西側10区で中期後半（加曽利ＥⅢ～ＥⅣ式期）の住居址７軒（推定を含む柄鏡形敷石住居４軒、円形３軒）、竪穴状遺構１基、土坑８基、埋設土器（３基）等を確認した。また、５区では、中期後半（加曽利ＥⅢ式期）の遺物集中範囲を確認した。Ｂ区では、中期の住居址群とその西側に位置する遺物集中と土坑等の遺構群、２か所で住居址の単独分布が認められた。Ａ区では、前期集落、Ｂ区では人見東中原遺跡と同時期の中期集落といった分布域に時期差をもつことが明らかとなった。Ｊ－７号住居址は埋設土器と土坑が重複し、遺構配置状況から「墓」に関係する遺構の可能性がある。

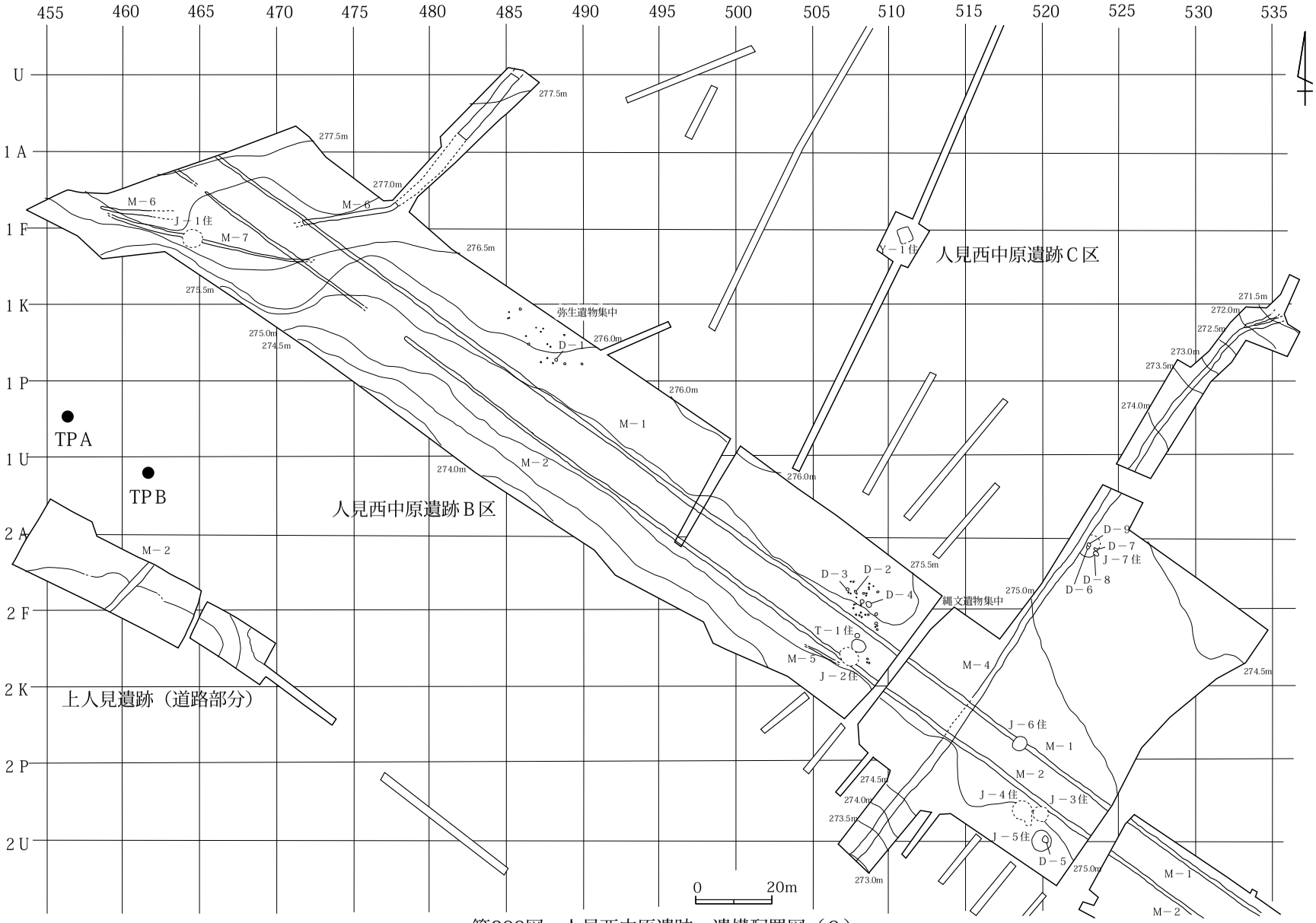
弥生時代では、Ｂ区の西側８区周辺で、前期終末～中期前半の遺物包含層、土坑１基、ピットを確認した。遺物は、条痕文系土器群、石器（石鏃、スクレイパー等）が出土した。本遺跡の低地を挟んだ南側台地には、弥生時代の再葬墓が発見された上人見遺跡が存在し、本遺跡との関連性が認められる。Ｃ区では、トレンチ調査によって後期の住居址１軒を確認した。住居址からは、樽式期の櫛描文系土器群、赤色塗彩された高坏、スクレイパー、磨石、台石が出土した。遺構外では、Ｍ－２号溝覆土より有孔磨製石鏃が１点出土した。

古墳時代では、Ａ区で中期前半を主体とした住居址14軒（人見東中原遺跡：Ｈ－１～３号、人見西中原遺跡Ｈ－４～14号）、土坑２基を確認した。前年度調査を実施した人見東中原遺跡Ｂ区で確認した遺構を含めた同一集落の遺構である。集落は、南北約60ｍ、東西約100ｍの範囲内に数軒の竪穴住居址と平地式建物、土坑が分布した中期前半の小規模集落である。

古代では、台地南斜面において人見東中原遺跡から続く道路状遺構を約460ｍにわたって確認した（Ｍ－１、２号溝）。遺構は、部分的に耕作による影響を受けていたが、側溝及び道路面が浅間Ｂ軽石に覆われ、道路構築時に近い状況を確認することができた。また、道路側溝（Ｍ－２号）の覆土上部から、意図的廃棄と思われる土師器甕（８世紀初頭）の破片が集中して出土した。道路状遺構と直交する溝（Ｍ－４号）は、台地を南北に区画するためと推定される。この溝と道路状遺構の関係は、道路に懸かる溝部分のみを一部埋め戻し、両側側溝の各外側を溝に直結して構築していることを確認した。溝覆土上部からは、土師器甕の破片が集中して出土した。道路状遺構と溝は、断面形状、埋没状況に類似性が認められることから、同時期に存在もしくは時間差があまりない状態であったことが考えられる。この溝以



第299図　人見西中原遺跡　遺構配置図（1）



第300図　人見西中原遺跡　遺構配置図（２）

外では、道路状遺構と重複した溝４条を確認した（道路以前Ｍ－３・６号、道路以降Ｍ－５・７号と推定)。これらの溝は、台地の区画に伴う遺構と推定され、本遺跡の西側に位置する人見坂ノ上遺跡（中部地区）で確認された大溝と区画溝、住居址との関連性が考えられる。人見東中原遺跡で確認された東西方向に延びる溝（Ｍ－３号）については、トレンチ調査による追跡調査を行ったが、調査区内では確認できなかった。

（２）縄文時代の遺構

住居址（第301～307図、第10表）

Ａ区で２軒（前期)、Ｂ区で７軒（中期後半）確認した。

＜敷石住居址＞

柄部分がはっきりしない柄鏡形１軒（Ｃ１形態）である。Ｊ－４号は、炉周辺部に敷石が施され、床面全体に小礫、土器片が分布する。炉の脇にある礫の上に丸石がのる。また、主軸上には、逆位の埋設土器が埋め込まれている。礫重量は、100ｇ以内が最も多く、続いて200ｇとなることから、大形礫は炉周辺の一部で、床面には小礫を使用したと考えられる。本遺跡の敷石状況は、人見東中原遺跡の住居址と同様である。

＜竪穴住居址＞

円形で部分的に礫が分布するもの２軒（Ｊ－３、６号)。この形態は、広義の敷石住居址に分類されるが、礫が敷かれた状態ではないため区別した。Ｊ－３号（Ｂ１形態）は、炉周辺に小礫と土器片が多数混在し、大形礫が床面に散在している。Ｊ－６号（Ａ２形態）の壁際床面には、大形礫、石器等が散在し、一部で小礫を埋め込んだマウンドを確認した。この部分を「敷石」とするかは、今後の課題である。覆土内では、２か所の埋設土器と集石状遺構（床面から浮いて黒曜石原石、打製石斧と礫がまとまって出土）が認められた。集石状遺構は、意図的に遺物が集積された可能性がある。Ｕ－１号の土器内部からは磨製石斧、敲石、凹石が出土した。Ｊ－５号はＢ２形態で床と土坑（Ｄ－５号）が重複する。

＜平地式住居址＞

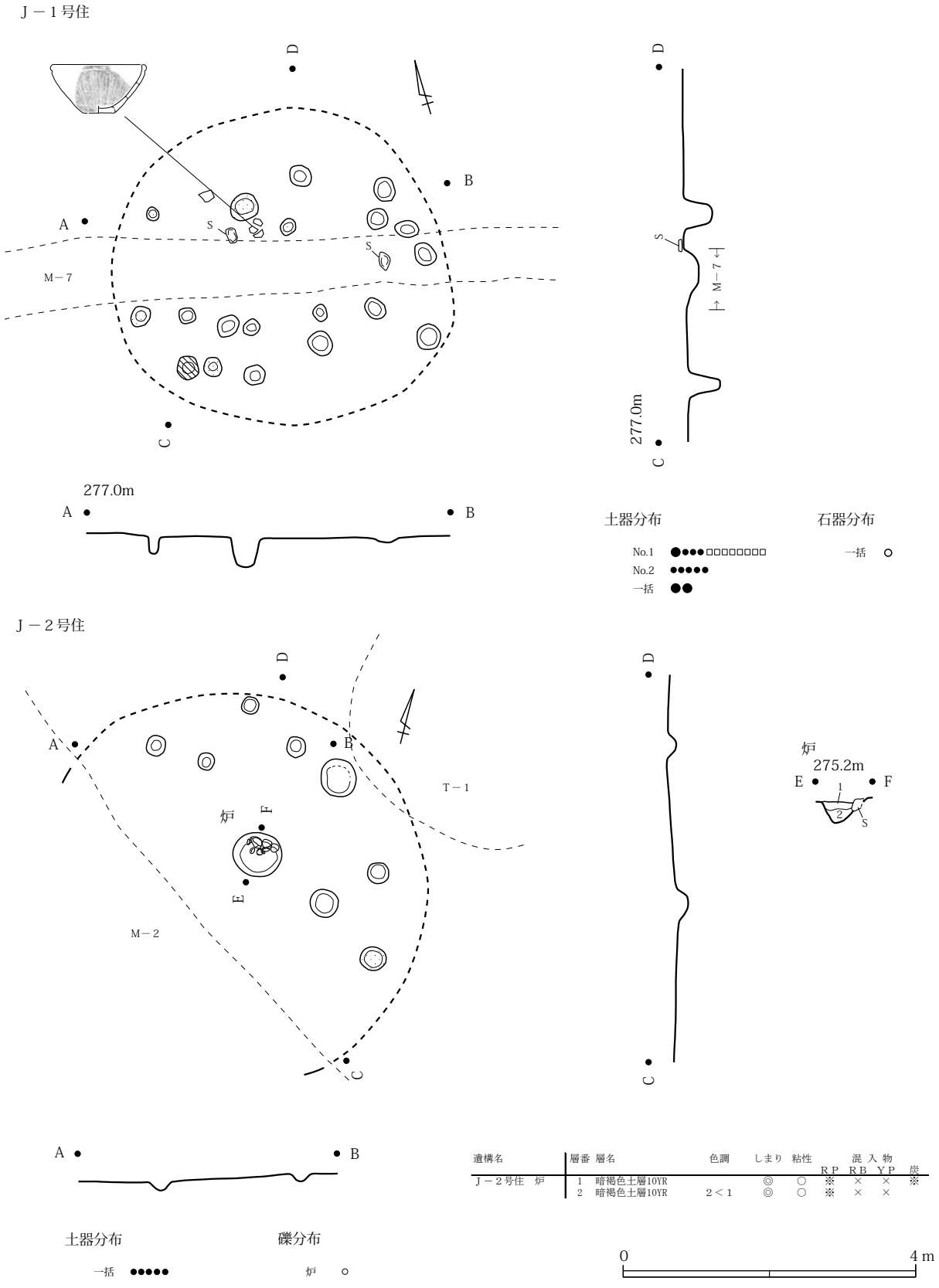
ピットが不規則に分布し、円形にまとまるもの３軒（Ｄ１形態１軒、Ｄ２形態２軒）である。
Ｊ－７号は、埋設土器と土坑が重複するもので、人見東原Ⅱ遺跡の住居址に類例がある。

竪穴状遺構（第307図、第31表）

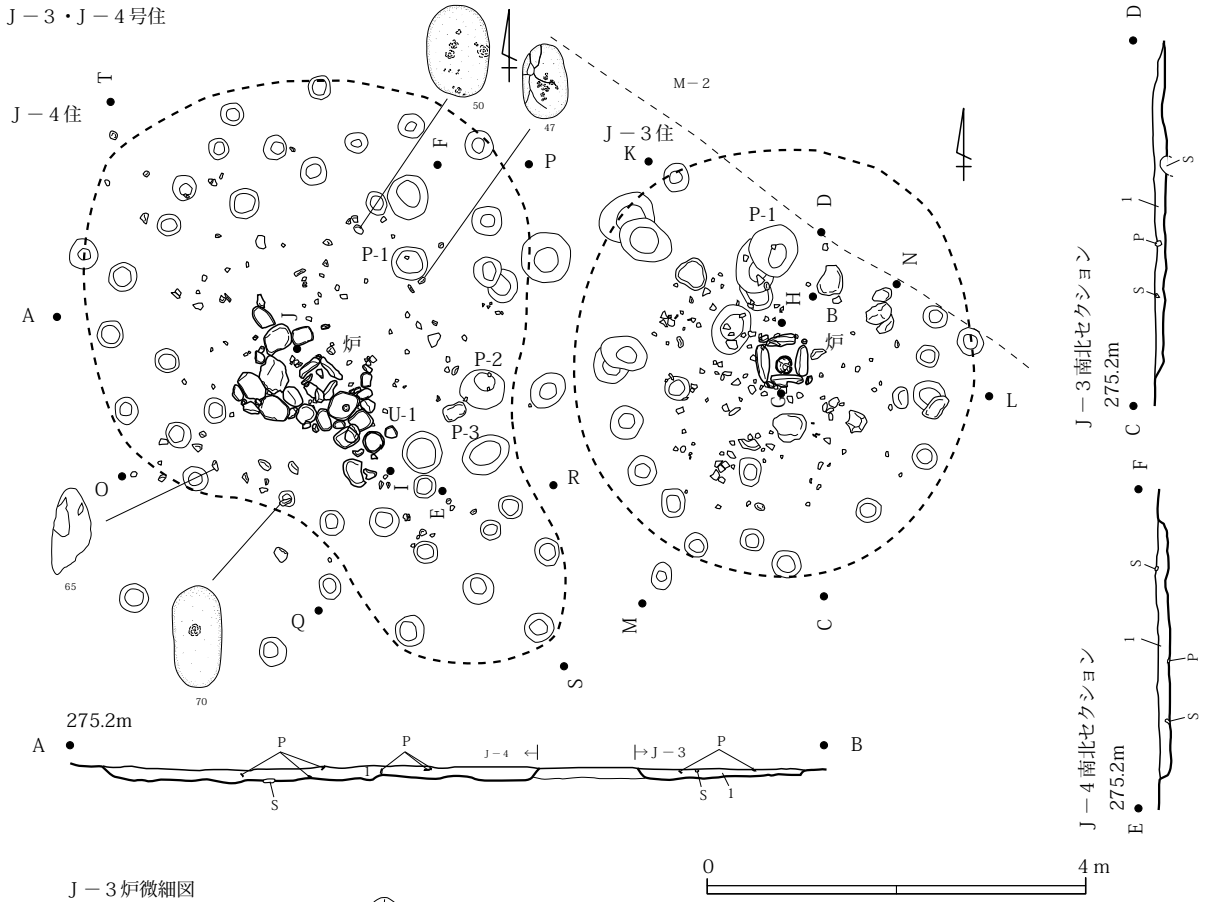
中期後半の土器が集中する浅い窪みを確認した（Ｔ－１号)。床中央で浅いピットを確認し、炭が検出された。遺物は中期後半の土器片等が出土した。

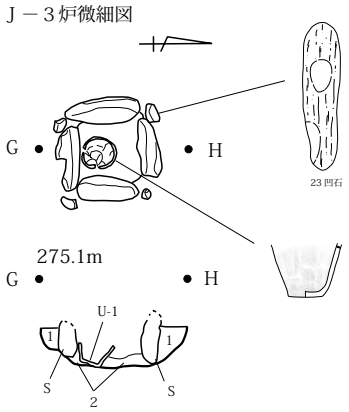
土坑（第306・307図、第41表）

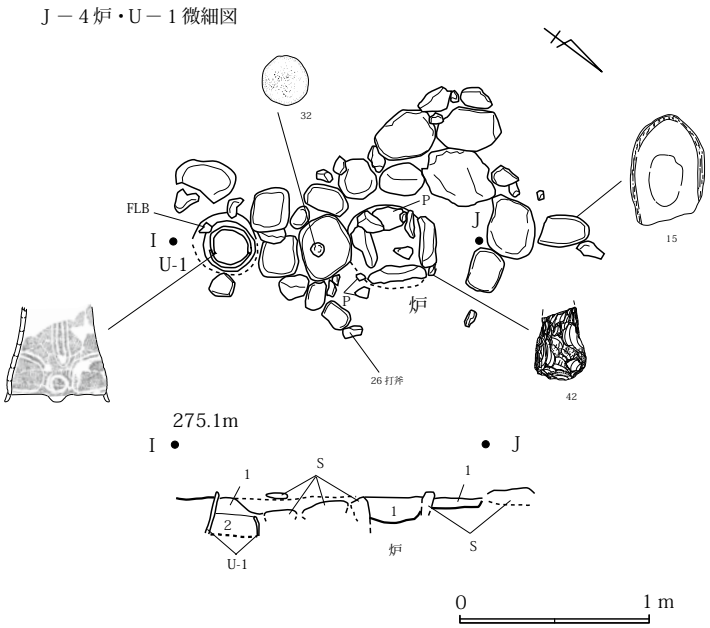
８基確認した。遺跡の規模に比べて土坑数は少ない。土坑の形状は、平面楕円形で、断面鍋底形が多い。Ｄ－７、８号では、土坑内で礫が多数出土した。特にＤ－７号は、土坑内の西側で大形礫が出土すること、土坑上面を礫が覆う状態から判断して「墓」の可能性が考えられる。Ｄ－９号についても埋設土器と大形礫の出土状況から「墓」の可能性がある。土坑の時期は、全て中期後半である。



第301図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－１・２号住居址実測図



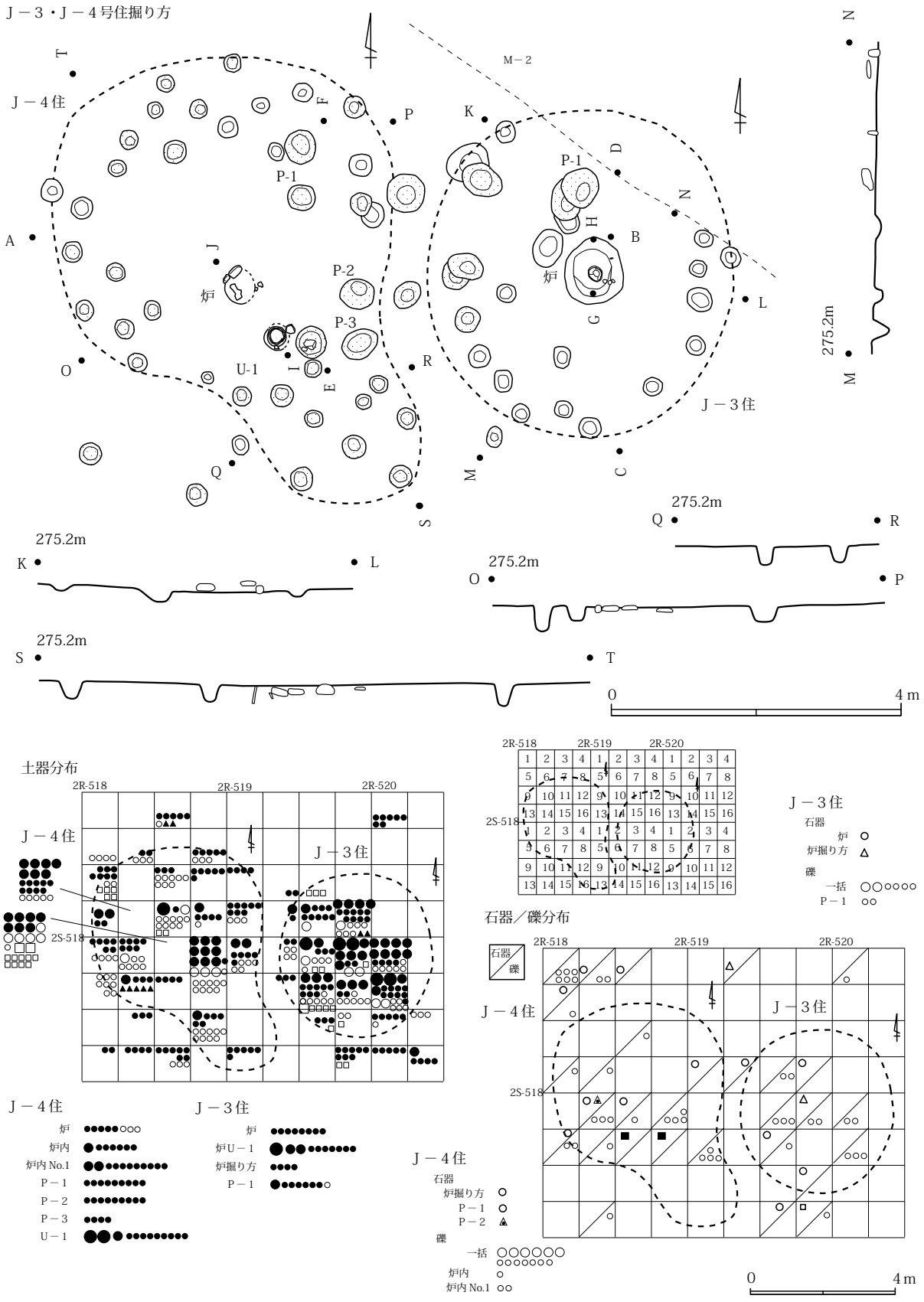




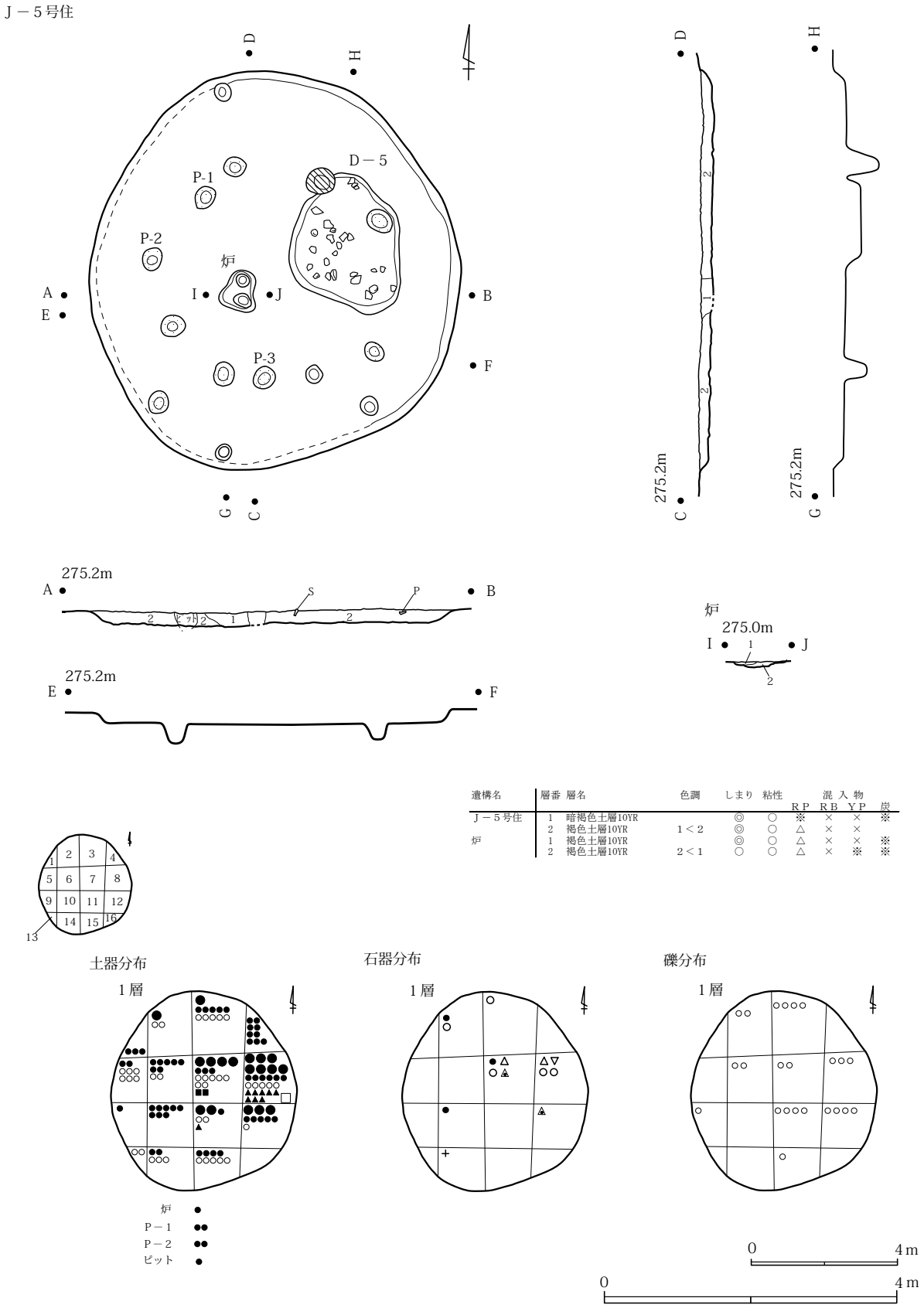
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
J－3号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
J－4号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	
炉	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※
U－1	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	◎	○	※	×	×	

第302図　人見西中原遺跡（縄文）J－3・4号住居址実測図（1）

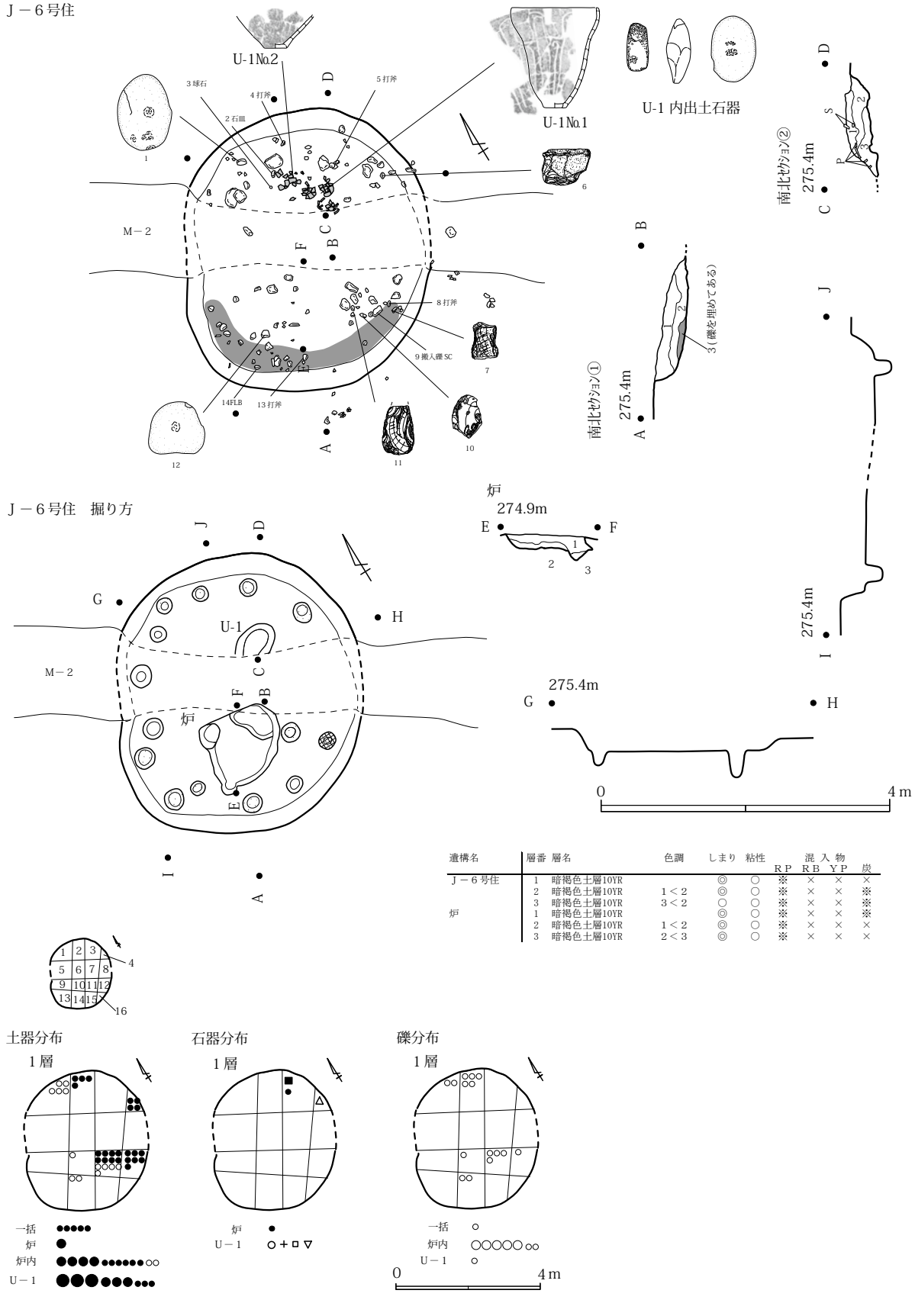


第303図　人見西中原遺跡（縄文）J－3・4号住居址実測図（2）

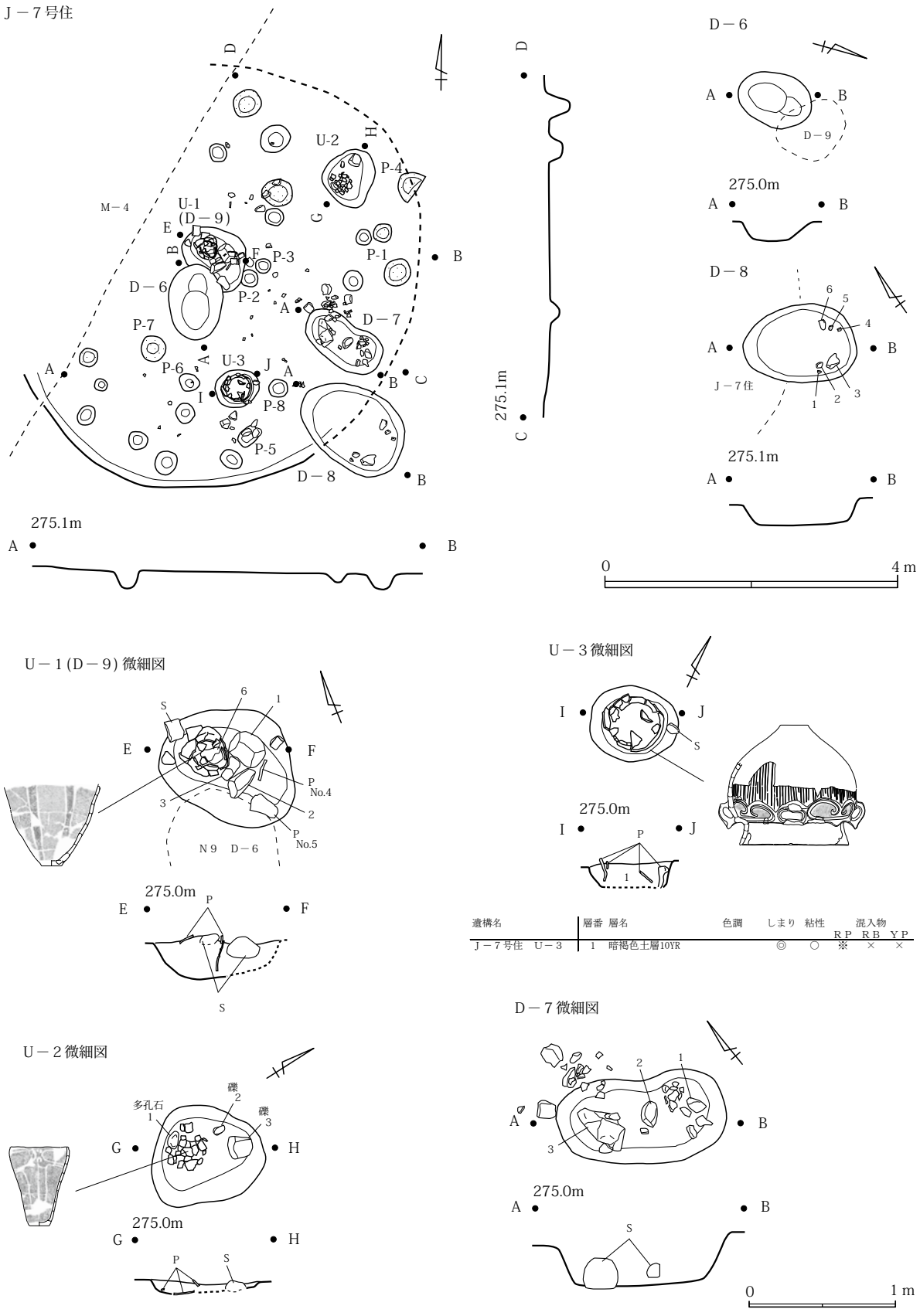


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
Ｊ－５号住	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	※
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	×	
炉	1	褐色土層10YR		◎	○	△	×	×	※
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	×	※	※

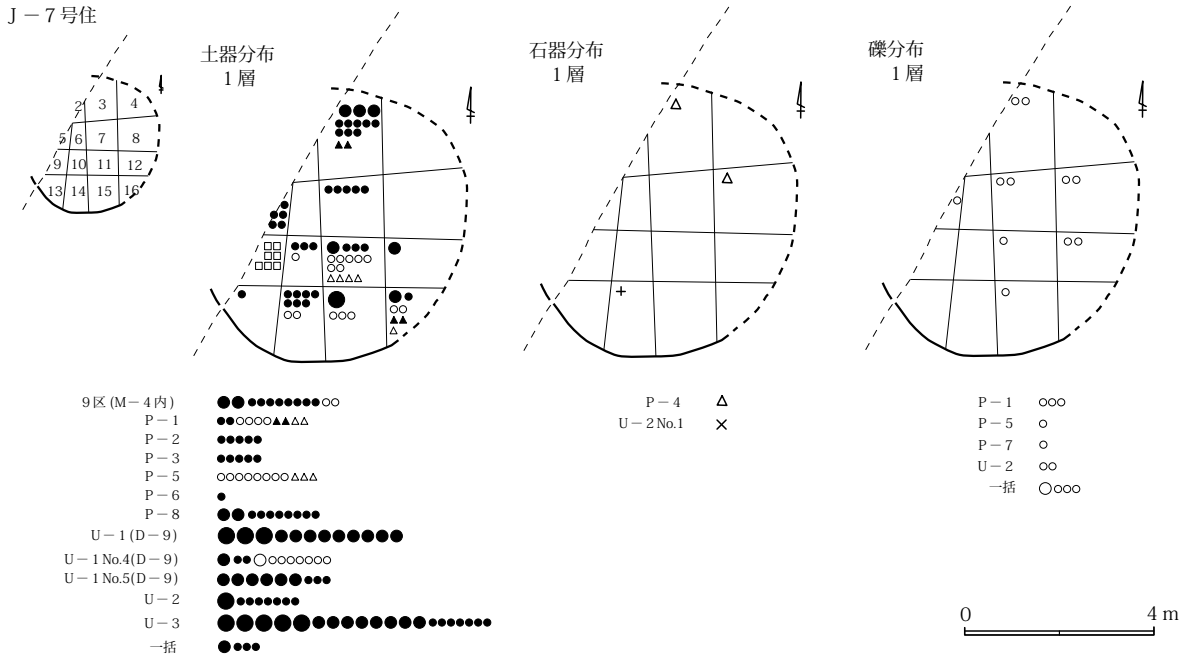
第304図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－５号住居址実測図

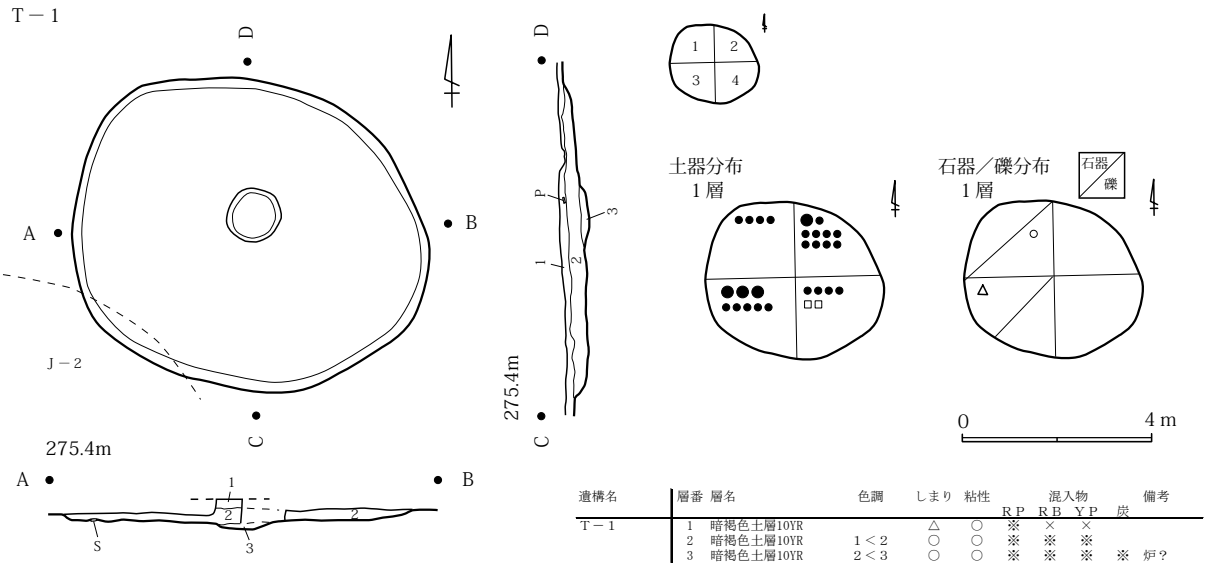


第305図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－６号住居址実測図



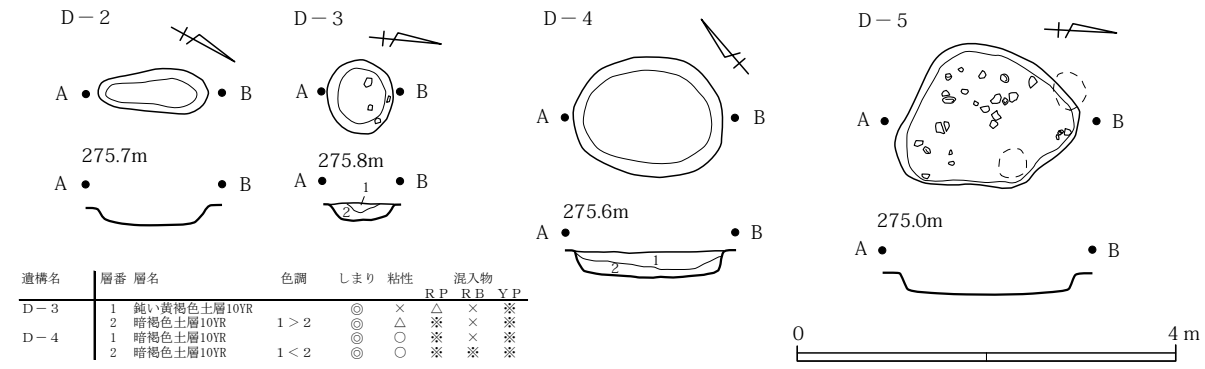
第306図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－７号住居址実測図（１）





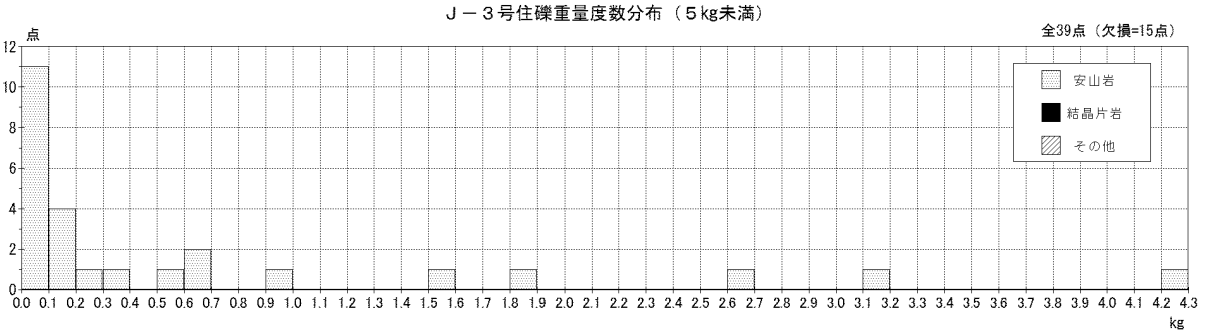
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
Ｔ－1	1	暗褐色土層10YR		△	○	※	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※	※	炉？

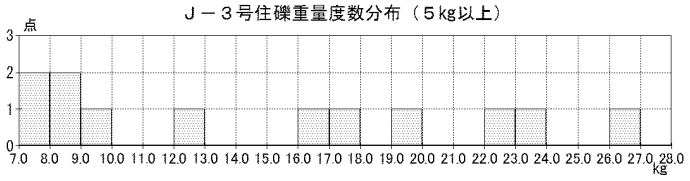
土坑

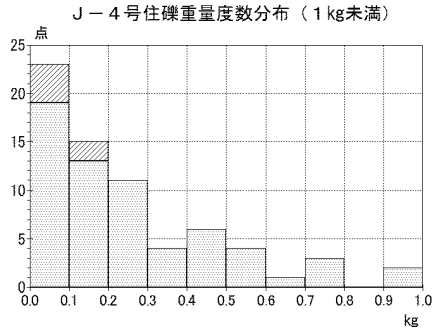


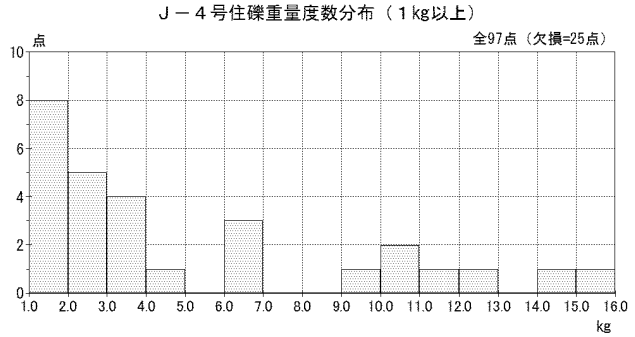
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
Ｄ－3	1	純い黄褐色土層10YR		◎	×	△	×	※
	2	暗褐色土層10YR	1＞2	◎	△	※	×	※
Ｄ－4	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	※	※

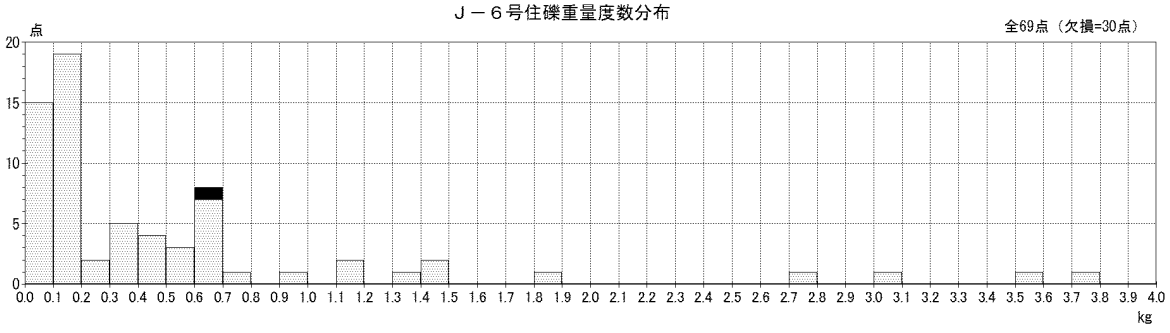
第307図　人見西中原遺跡（縄文）Ｊ－７号住居址（２）、竪穴状遺構、土坑実測図

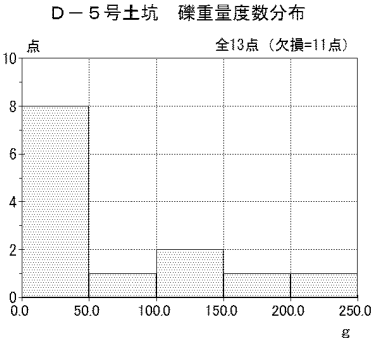












第308図　人見西中原遺跡（縄文）礫重量分布

遺物集中

２Ｄ～２Ｇグリッドライン、504～509グリッドライン付近で加曽利Ｅ３式の縄文土器片が分布する範囲を確認した。遺物は廃棄された状態で、遺構との重複が認められた。

（３）弥生時代の遺構

ピット群と遺物包含層（第309図）

１Ｋ～１Ｑグリッドライン、483～491グリッドライン付近（南北約24m、東西約27m）で前期末～中期前半のピット群と遺物集中を確認した。対象区域の表土は10㎝程度の厚さしかなく、削平によってⅣ層中部が確認面であった。遺物は表土に包含された状態のため原位置出土ではないが、他時期の混入は少ない。確認した遺構は、土坑１基とピットである。遺構の分布と遺物分布が重なることから、何らかの活動痕跡が考えられる。遺物は、土器破片約40点、石器17点が出土した。

土坑（第309図、第41表）

前期末～中期前半の土坑１基（Ｄ－１号）を確認した。削平により残存状態は悪かったが、土坑中央で土器底部が潰れた状態で検出された。単独での土器棺（壺棺）再葬墓の可能性が考えられる。

住居址（第310図、第11表）

平面長方形で柱穴のない小形住居址１軒（Ｙ－１号）を確認した。覆土中からの出土遺物は少なく、床面の１、７区で遺棄された土器３点、他の場所で磨石、台石等が出土した。炉脇では赤色顔料が集中して検出された。炭化材の存在から、焼失した可能性がある。時期は後期後半（樽式期）である。

（４）古墳時代の遺構

住居址（第311～319図、第16表）

人見東中原遺跡で３軒（Ⅲ期１軒、中期２軒）、人見西中原遺跡で11軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期５軒、中期５軒）確認した。Ｈ－８、12、13号は、住居形状が類似し、地形に沿ってほぼ一列に並ぶことから同時併存した可能性があり、３軒一単位で付属施設（平地式）で構成される事例である。

＜平面形態＞

小形長方形４軒（Ⅲ期１軒、中期３軒）、中形正方形２軒（Ⅲ期１軒、中期１軒）、中形長方形５軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期２軒、中期２軒）、大形正方形２軒（Ⅲ期）、大形長方形１軒（中期）、うち焼失住居は５軒、平地式は８軒である。Ｈ－９、10号は土坑状である。同時併存した３軒は中～大形正方形で、他住居は小形～中形の長方形が主体である。

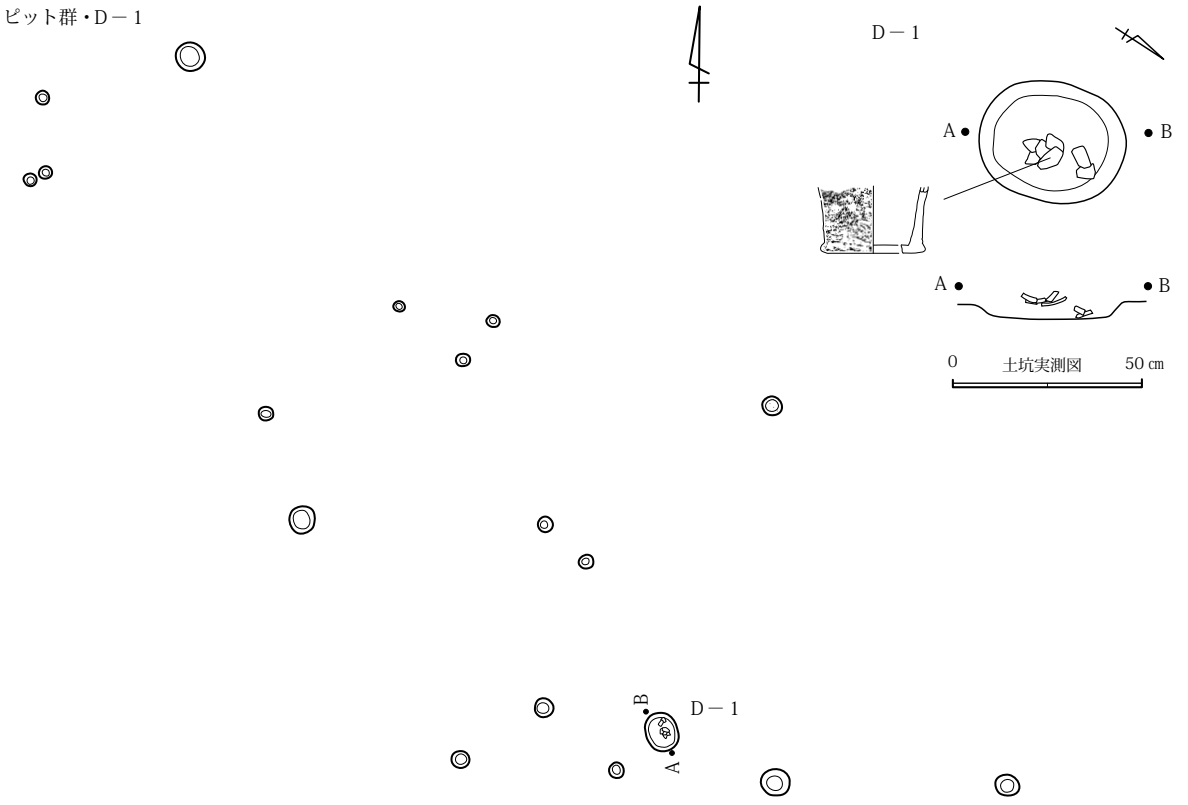
＜主軸方向＞

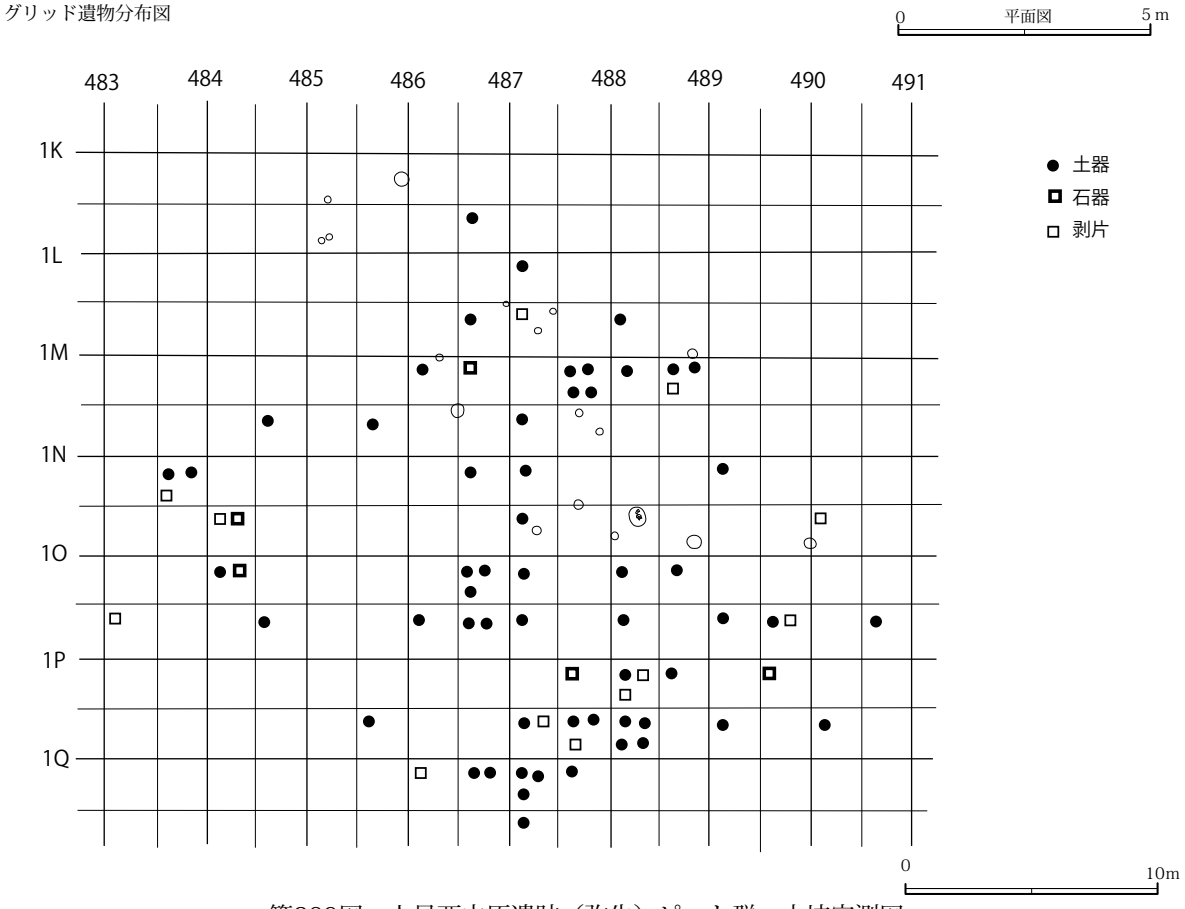
ほぼ真北が８軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期３軒、中期４軒）、北から北東に向くのが２軒（Ⅲ期１軒、中期１軒）、北から北西に向くのが４軒（Ⅲ期１軒、中期１軒）である。

＜柱穴＞

床中央に２本対称となる４本柱が３軒、ピットが不規則に並ぶのが６軒、不明１軒である。

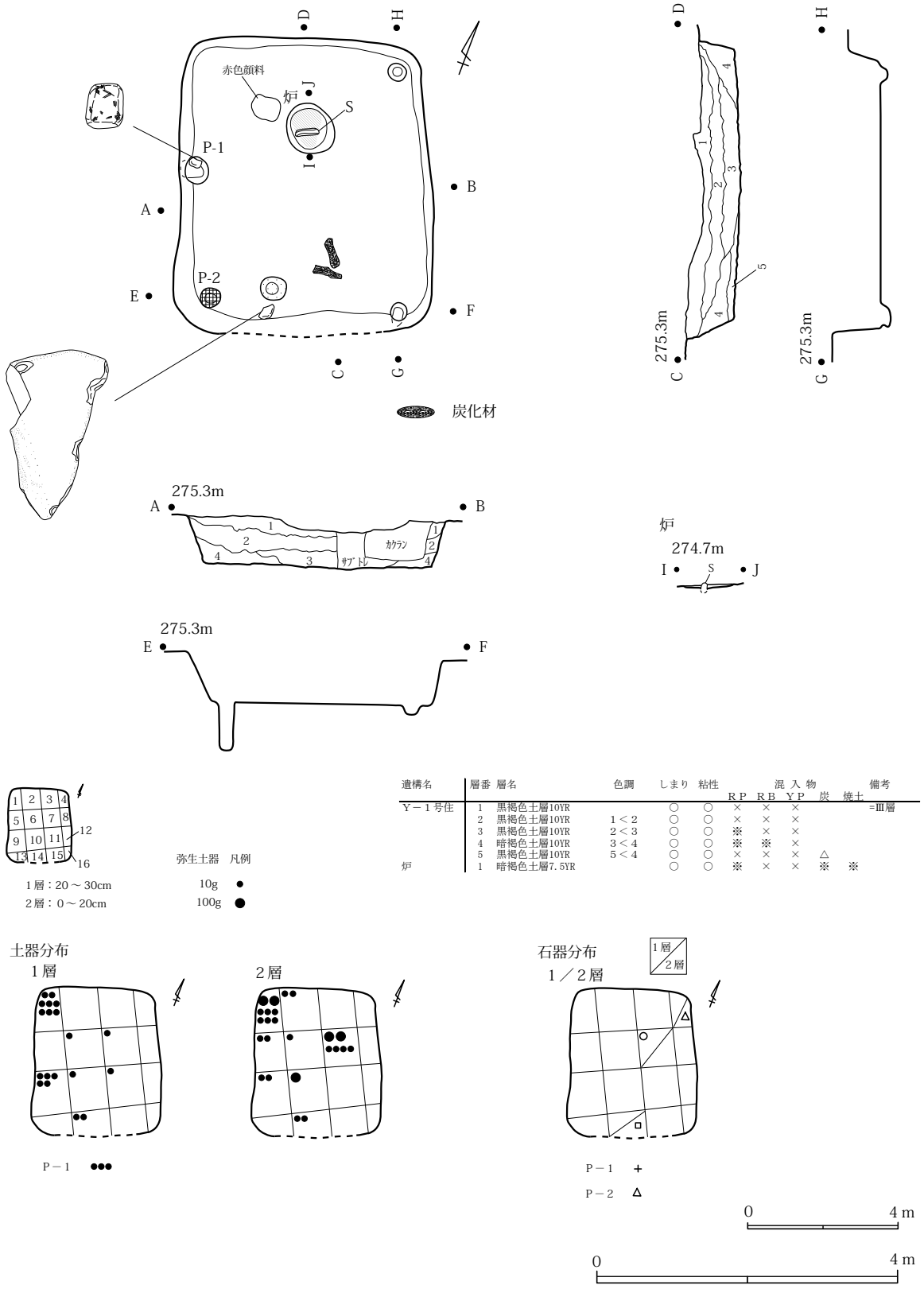
＜壁溝＞





第309図　人見西中原遺跡（弥生）ピット群、土坑実測図

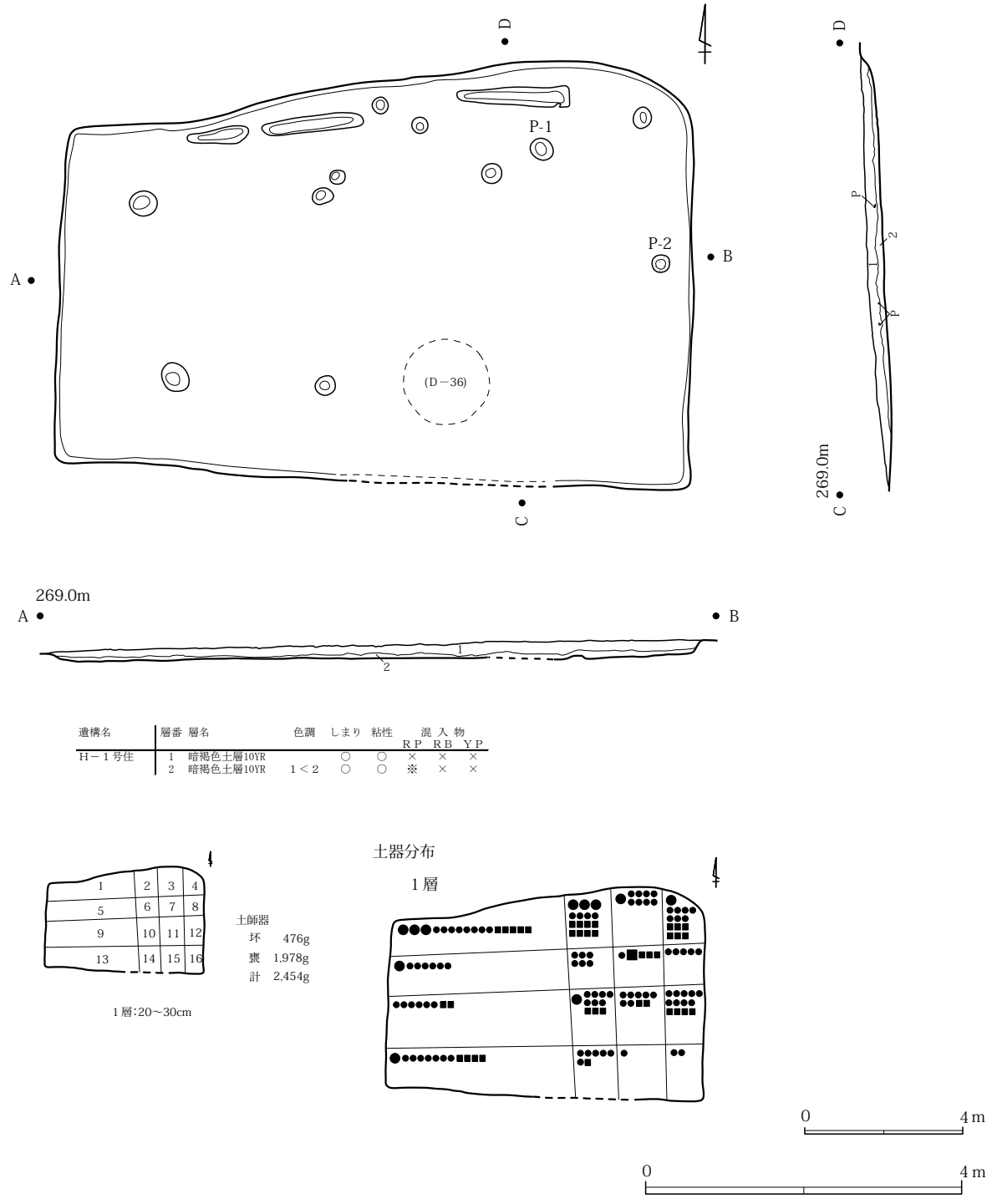
Y－1号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
Y－1号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			=Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×			
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	※	×			
	5	黒褐色土層10YR	5＜4	○	○	×	×	×	△		
炉	1	暗褐色土層7.5YR		○	○	※	×	×	※	※	

第310図　人見西中原遺跡（弥生）Y－1号住居址実測図

H－1号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
H－1号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×

1層:20～30cm

土師器
坏　476g
甕　1,978g
計　2,454g

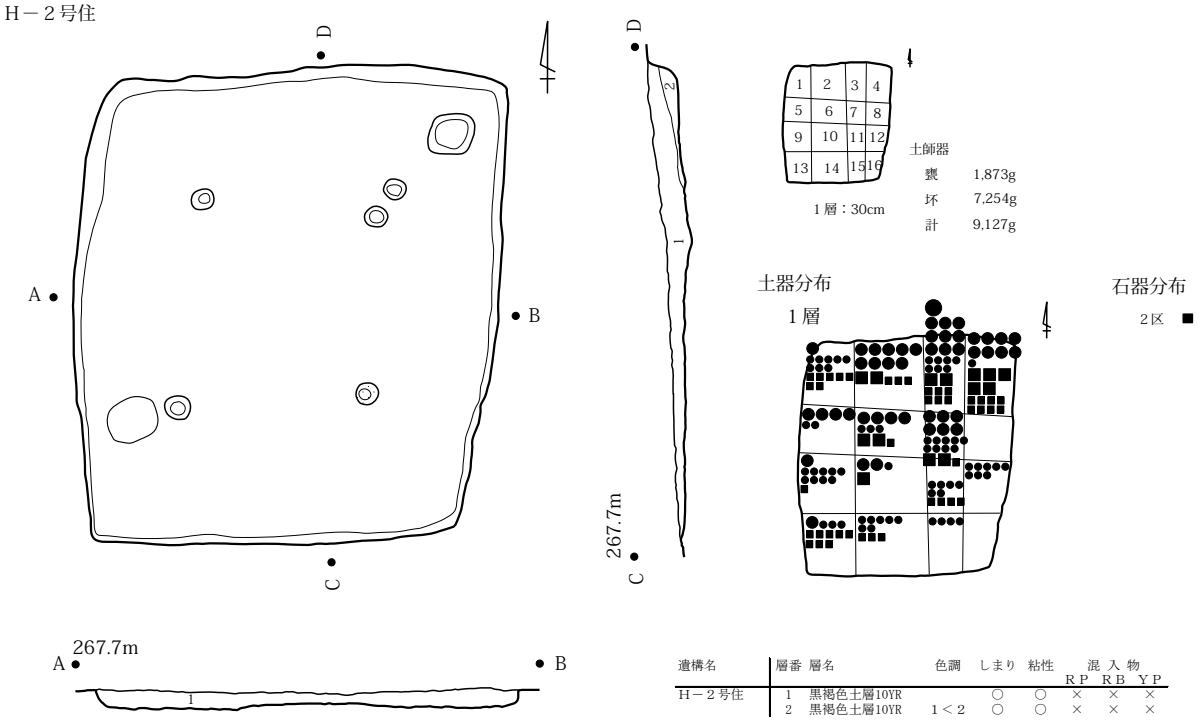
土器分布
1層

0　4m

0　4m

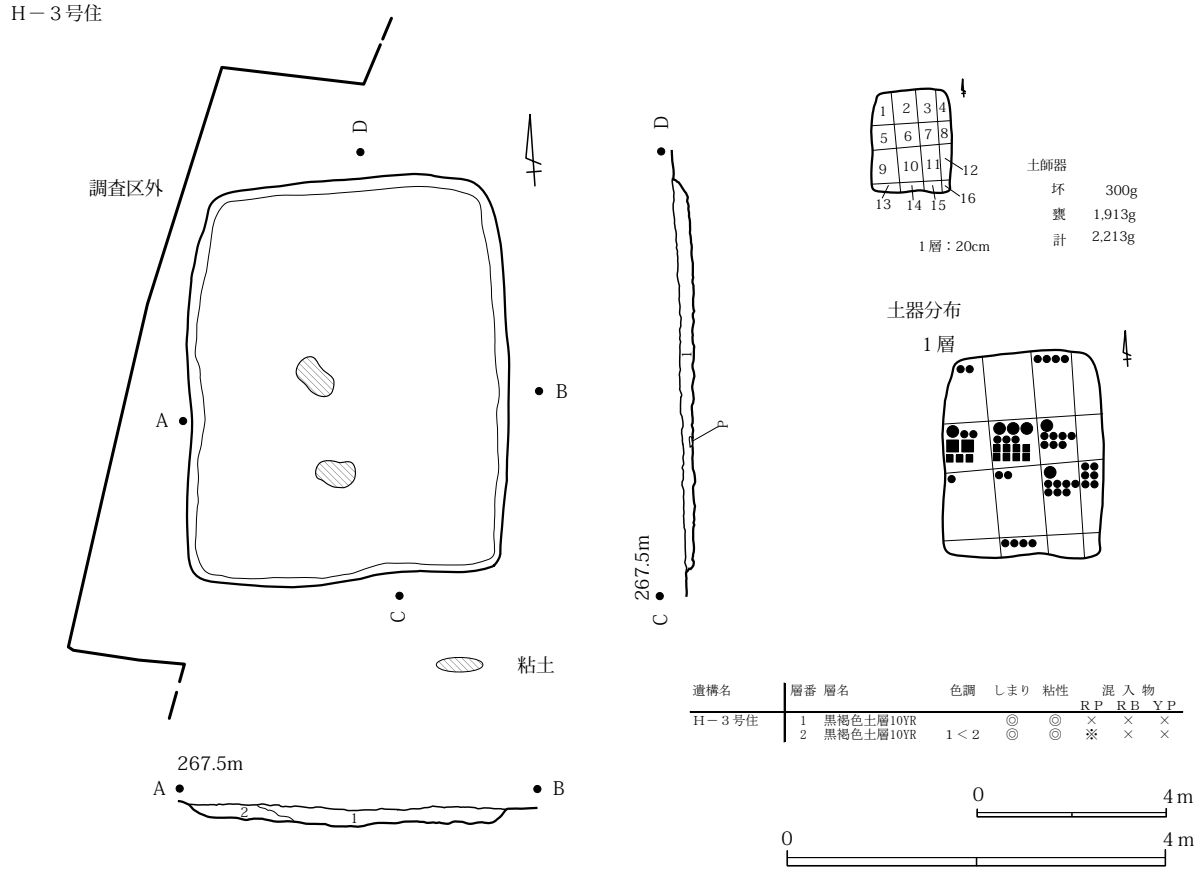
第311図　人見東中原遺跡（古墳）H－1号住居址実測図

H－２号住



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－２号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×

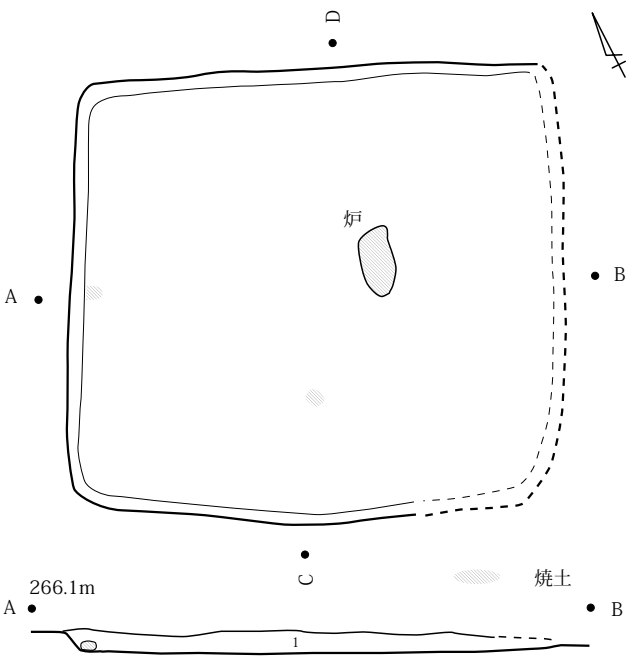
H－３号住

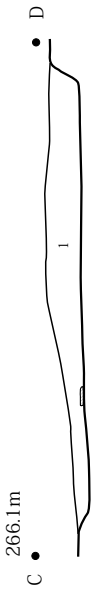


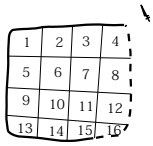
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－３号住	1	黒褐色土層10YR		◎	◎	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	◎	※	×	×

第312図　人見東中原遺跡（古墳）H－２・３号住居址実測図

H－４号住

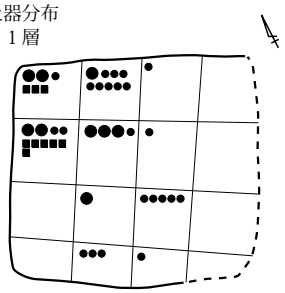






土師器
坏　97g
甕　1,137g
計　1,234g

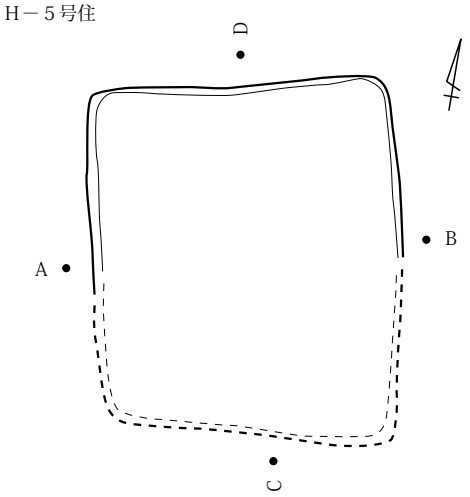
土器分布
１層

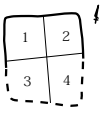


石器分布
5区

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	備考
H－４号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※	
炉	1	黄橙色土層7.5YR		△	○	○	×	×	※	ﾛｰﾑ

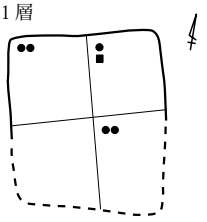
H－５号住





土師器
坏　5g
甕　51g
計　56g

土器分布
１層



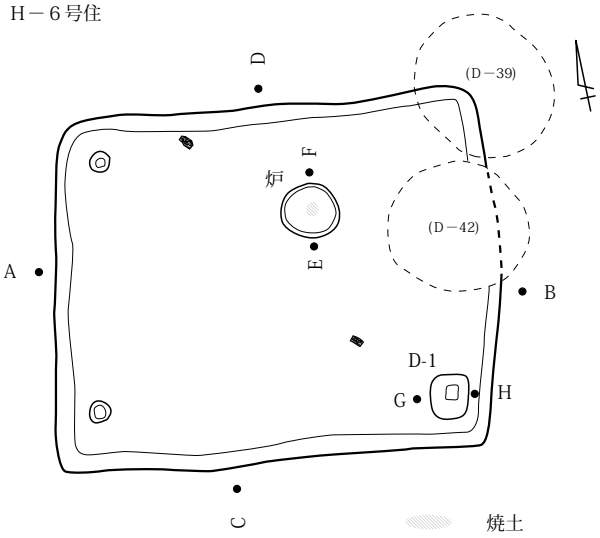
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－５号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×

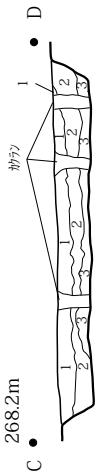
0　4m

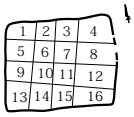
0　4m

第313図　人見西中原遺跡（古墳）H－４・５号住居址実測図

H－6号住





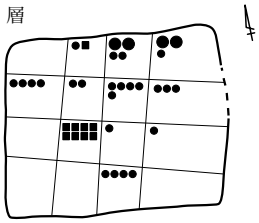


土師器

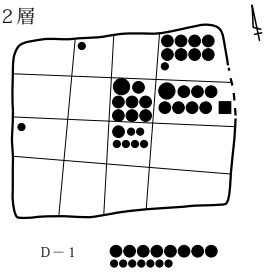
坏	186g
甕	5,868g
計	6,054g

1層：20～25cm
2層：0～20cm

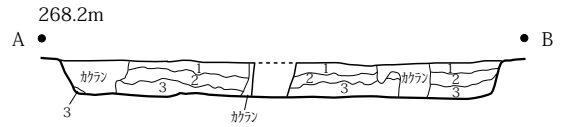
土器分布
1層

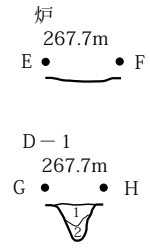


2層



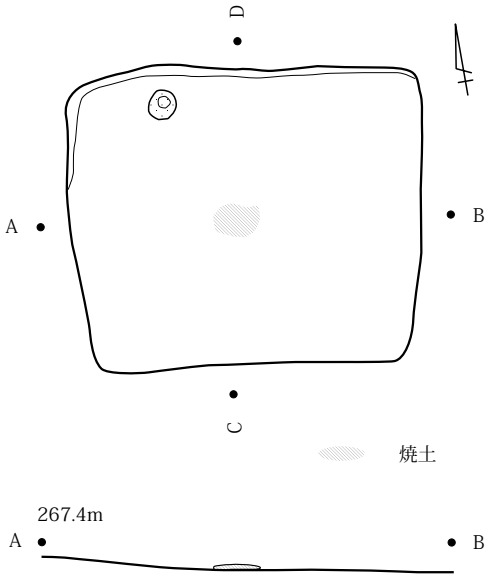
石器分布
4区 ■＋

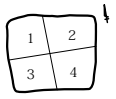




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	炭
H－6号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	※	※
D－1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	

H－7号住

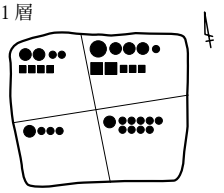




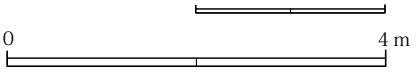
土師器

坏	264g
甕	1,849g
計	2,113g

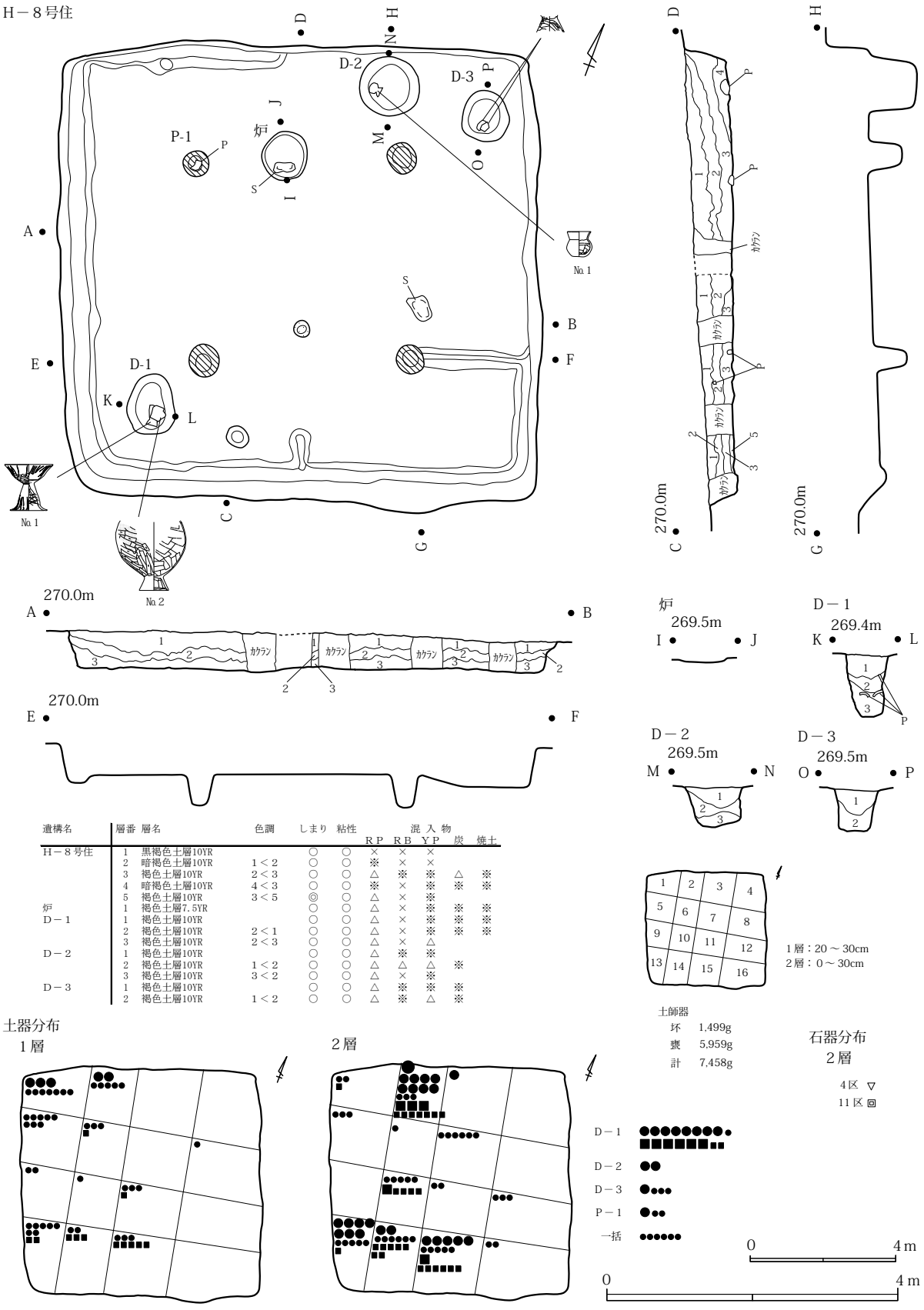
土器分布
1層



石器分布
1区 ＋

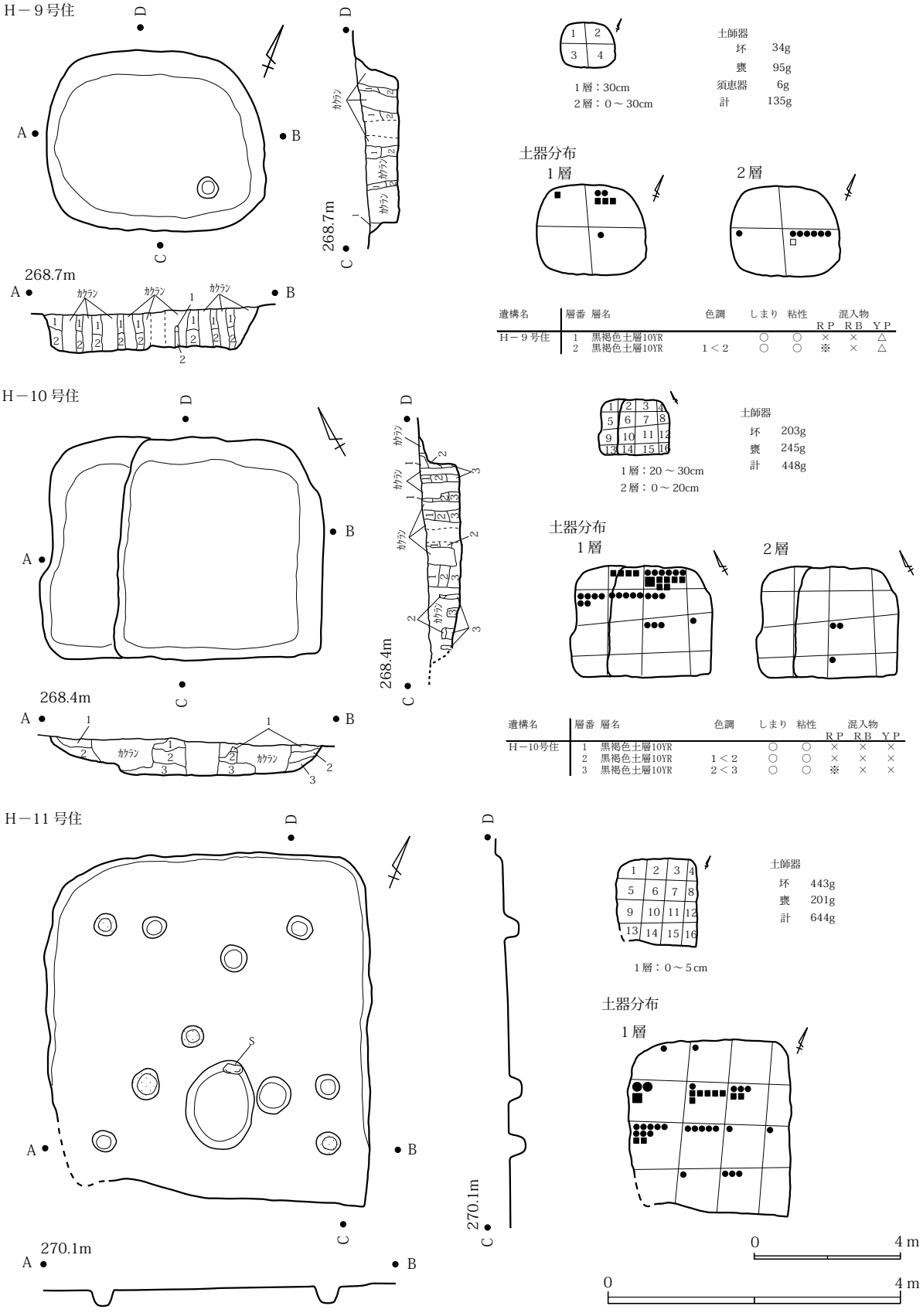


第314図　人見西中原遺跡（古墳）H－6・7号住居址実測図

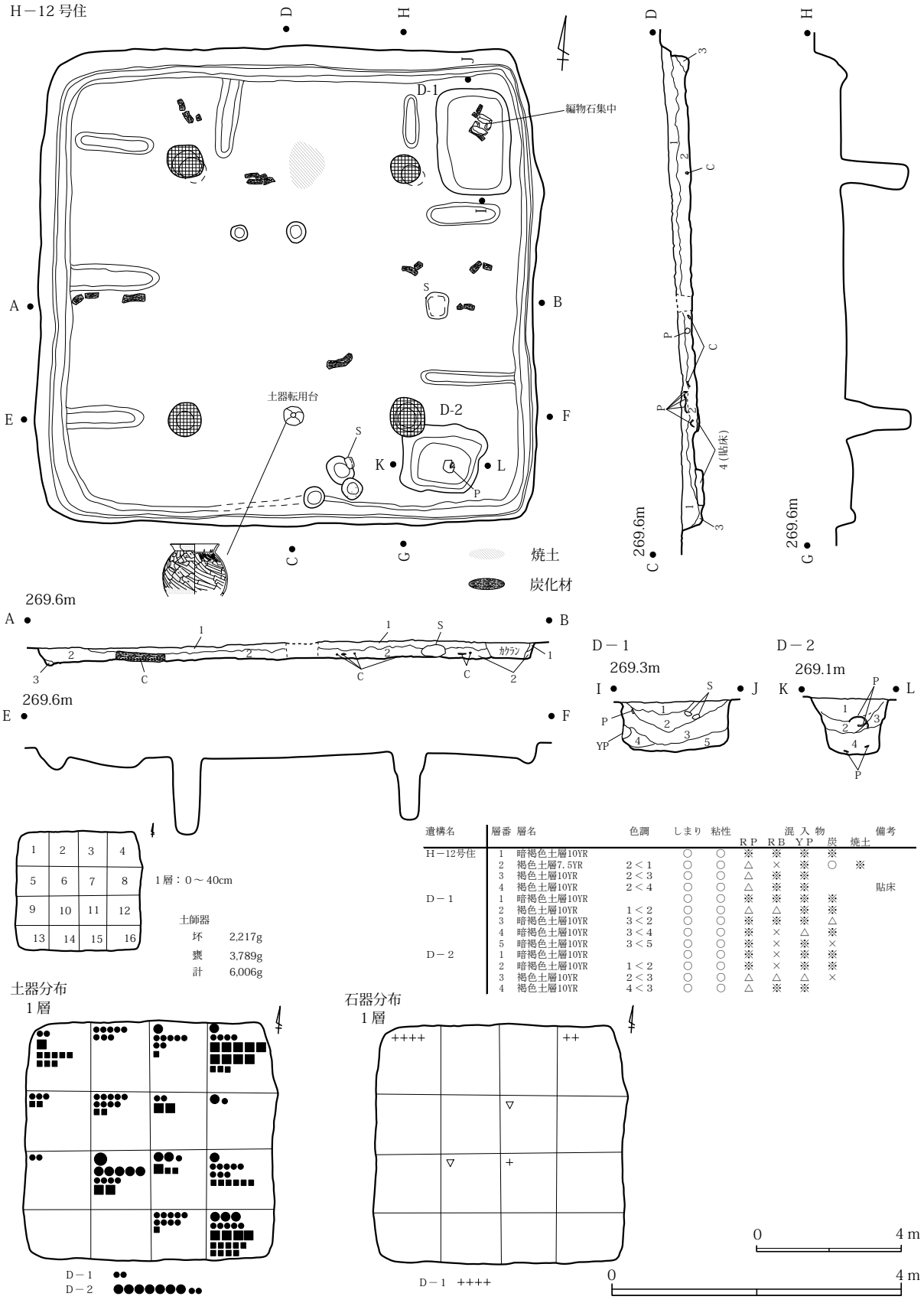


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－８号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	※	△	※
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	※	※	※
	5	褐色土層10YR	3＜5	◎	○	△	×	※		
炉	1	褐色土層7.5YR		○	○	△	×	※	※	※
D－１	1	褐色土層10YR		○	○	△	×	※	※	※
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	×	※	※	※
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	△		
D－２	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	△	※	
	3	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	×	※		
D－３	1	褐色土層10YR		○	○	△	※	※	※	
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	△	※	

第315図　人見西中原遺跡（古墳）H－８号住居址実測図

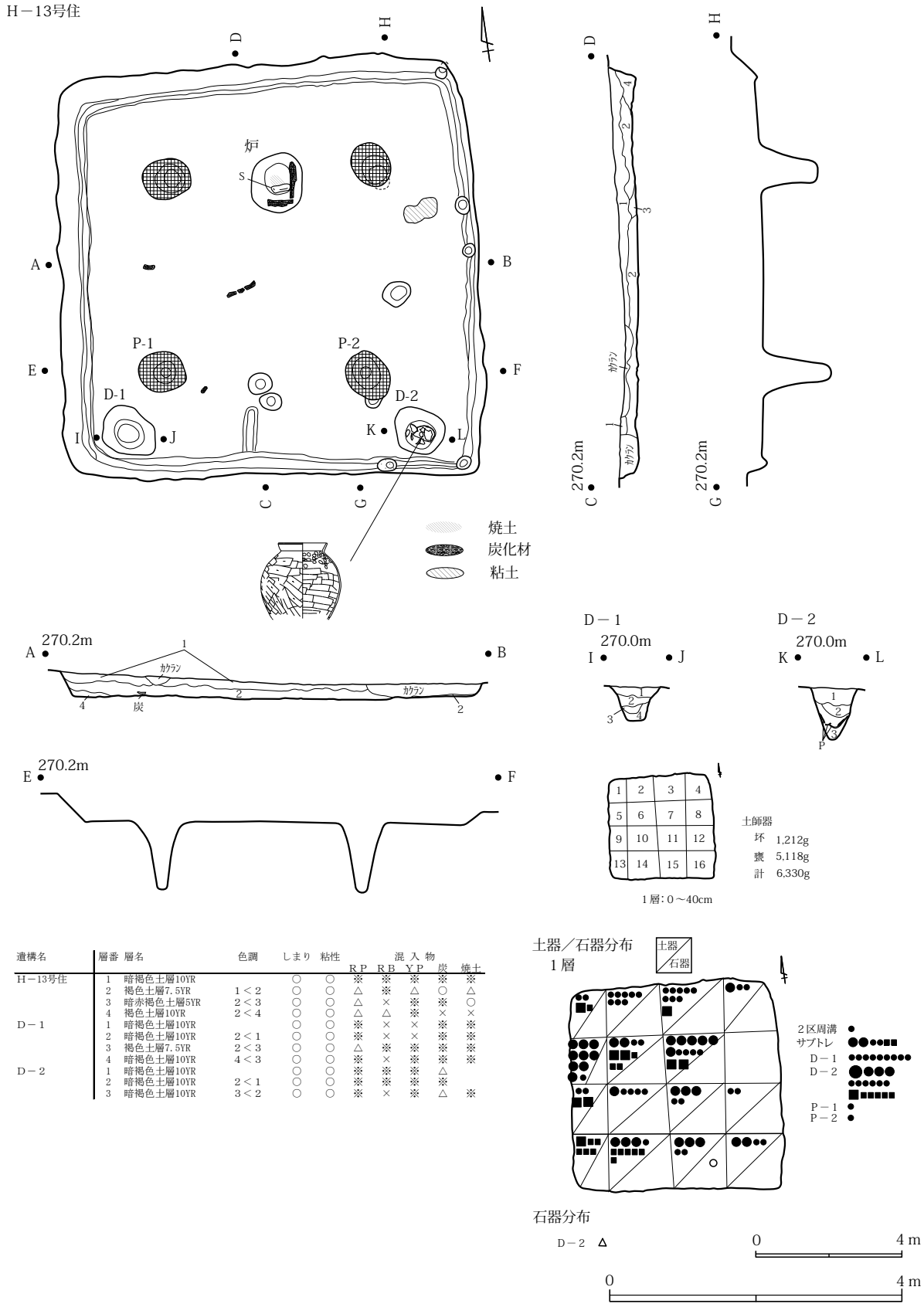


第316図　人見西中原遺跡（古墳）H－9・10・11号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－12号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	※		
	2	褐色土層7.5YR	2＜1	○	○	△	×	※	○	※	
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	※			
	4	褐色土層10YR	2＜4	○	○	△	※	※			貼床
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	※	※		
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	※	※	△		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	△	※		
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	○	○	※	×	※	×		
D－2	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	△	△	×		
	4	褐色土層10YR	4＜3	○	○	△	※	※			

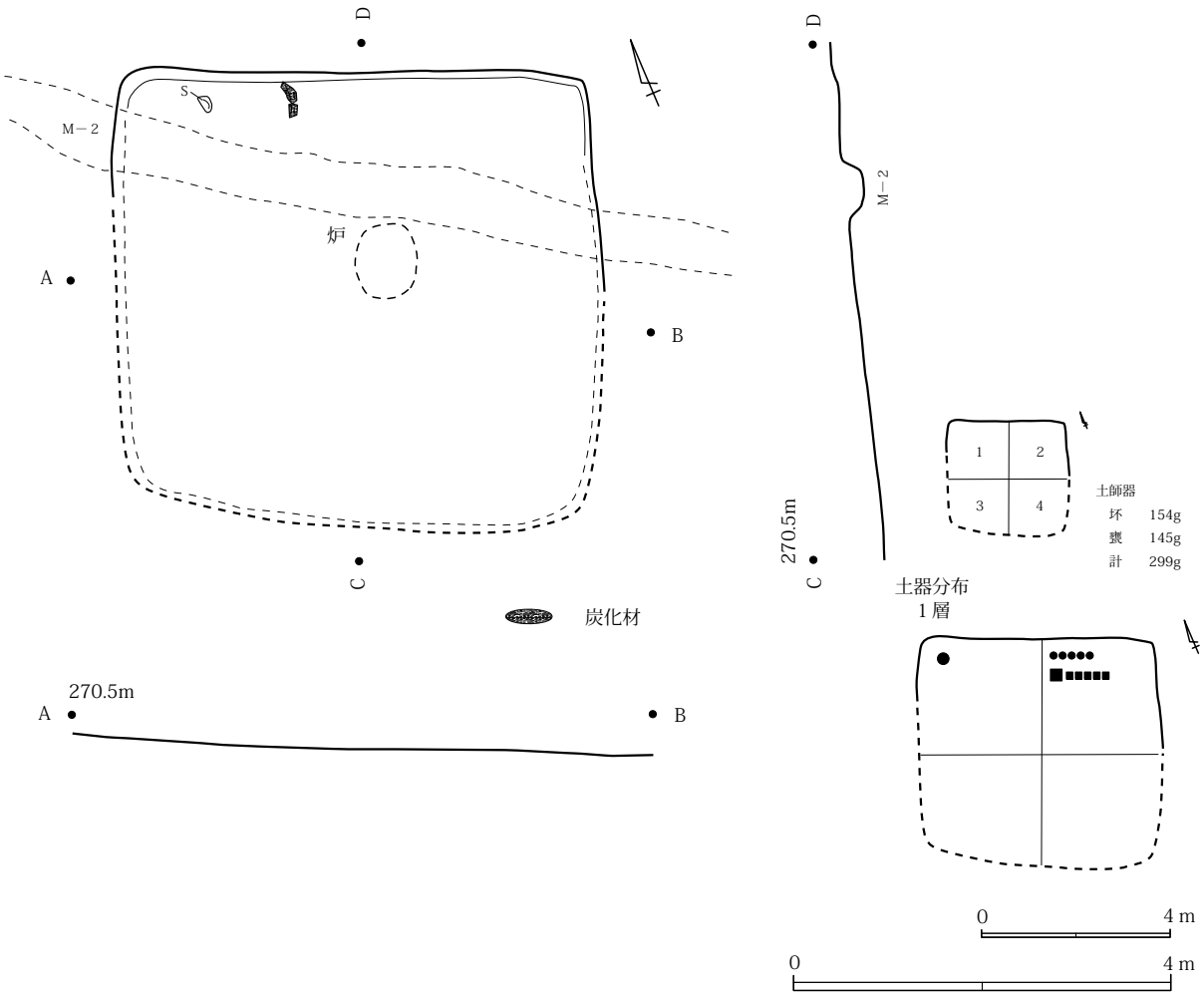
第317図　人見西中原遺跡（古墳）H－12号住居址実測図



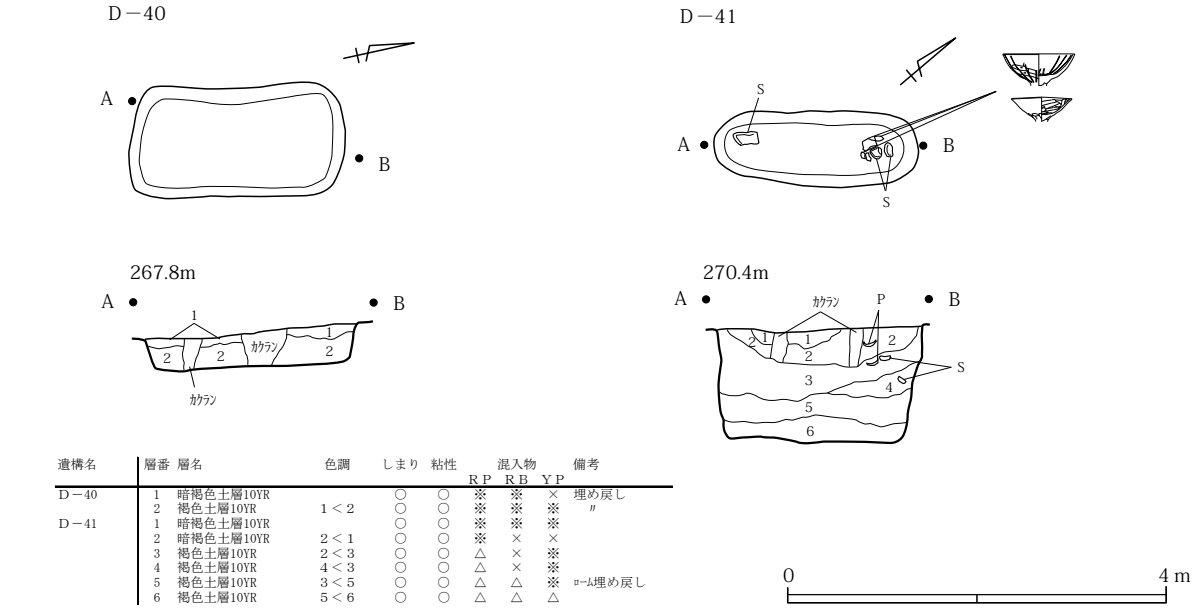
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－13号住	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	※	※
	2	褐色土層7.5YR	1＜2	○	○	△	※	△	○	△
	3	暗赤褐色土層5YR	2＜3	○	○	△	×	※	※	○
	4	褐色土層10YR	2＜4	○	○	△	△	※	×	×
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※	※
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×	※	※
	3	褐色土層7.5YR	2＜3	○	○	△	※	※	※	※
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	※	※	※
D－2	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	△	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	※	※	※	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※	△	※

第318図　人見西中原遺跡（古墳）H－13号住居址実測図

H－14 号住



土坑



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
D－40	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	×	埋め戻し
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※	〃
D－41	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※	
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×	
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※	
	4	褐色土層10YR	4＜3	○	○	△	×	※	
	5	褐色土層10YR	3＜5	○	○	△	△	※	ﾛｰﾑ埋め戻し
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	△	△	

第319図　人見西中原遺跡（古墳）H－14号住居址、土坑実測図

全周は２軒（Ⅲ期）、3/4は１軒である。全住居で認められなかった。Ｈ－８、12号住居址には間仕切り溝がある。南壁際には入り口施設と考えられるピットが確認された。

＜土坑（貯蔵穴）＞

２か所が３軒（Ⅲ期）である。南東隅が多く、北東隅、南西隅にある。無いものは６軒である。

＜炉＞

中央２軒（Ｂ２でⅢ期）、中央北４軒（ＡでⅢ期２軒、Ⅲ期１軒、Ｂ１でⅡ期１軒、Ｂ２でⅢ期１軒）、無いのが４軒、不明２軒である。

＜覆土＞

Ａ２は２軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期１軒）、Ｂ１は１軒（中期）、Ｂ２は２軒（Ⅲ期）、Ｃは９軒（Ⅲ期３軒、中期６軒）である。自然堆積が主体である。

＜遺物出土状況＞

Ｈ－12号の床面で甕転用器台、Ｄ－１号からは編物石の廃棄（２層内）が出土した。Ｈ－13号の床面で白色粘土塊が出土した。貯蔵穴からは複数個体の土師器高坏、甕類が出土した。

土坑（第319図、第40表）

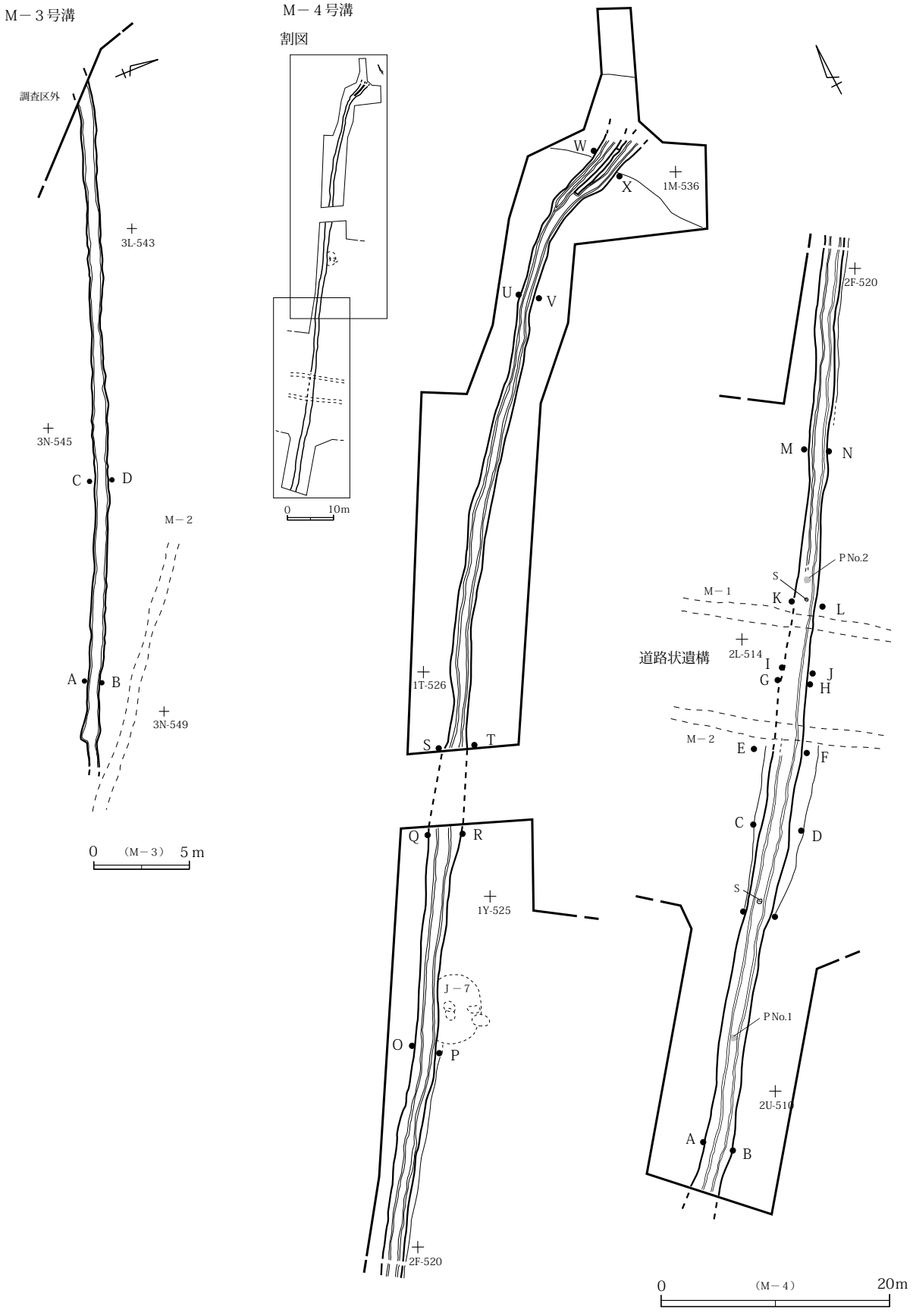
２基確認した。平面が長方形と隅丸長方形、断面が両土坑とも箱形で深いのが特徴である。２基とも埋め戻しされている。Ｄ－41号の覆土上部では土師器高坏の体部２点と礫が出土した。

（５）古代の遺構

溝（第320～322図、第31表）

中央部で３条（Ｍ－３、４、７号）確認した。Ｍ－３号は、全体の一部を確認したのみである。道路状遺構と交差するが、撹乱によって新旧関係を確認することができなかった。Ｍ－４号は、道路状遺構と交差し、台地に対して直交する。溝の断面形状は、逆台形で途中から屈曲して外側に開く。底面は、一部で埋め戻しが認められた。覆土は、道路部分を除き、Ⅲ層を基本とする自然堆積である。遺物は、１区と４区で覆土上部より土師器甕片が出土した。北側斜面部分では、この溝は２又となり、埋め戻しによる新旧時間差が認められた。Ｍ－７号は、地形に沿って道路状遺構を横切るもので、土層の状況から溝が道路より新しいことが判明した。溝の断面形状は、皿状で浅いものである。３基の溝の時期は律令期～奈良時代と推定される。

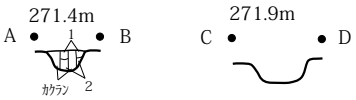
覆土中に浅間Ｂ軽石を含む中世の溝を２条（Ｍ－５、６号）確認した。Ｍ－６号は、道路状遺構付近で撹乱により、方向が不明となるが、その先で溝の続きを確認した。溝の断面形状は、底面が狭い薬研状となるのが特徴で、人見東中原遺跡で確認された溝（Ｍ－８・９号）と類似する。



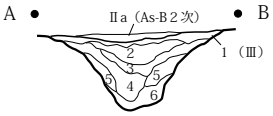
第320図　人見西中原遺跡（古代）M－３・４号溝実測図（１）

M－３・M－４号溝

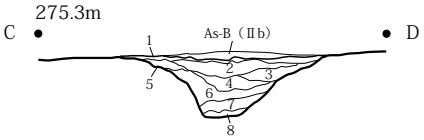
M－３ベルト１　　M－３



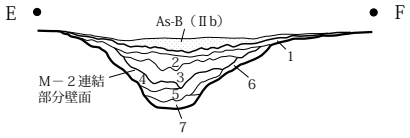
M－４　１区南壁



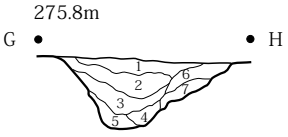
M－４　３区北壁



M－４　３区南壁

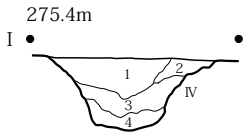


M－４　４区Ａサブトレ（南壁）

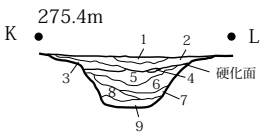


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B	備考
M－３　１区ﾍﾞﾙﾄ	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×				
M－４　１区南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×				
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※				
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※				
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	※	※				Ⅲ層
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	△	△				
M－４　３区北壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×				
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×				
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×				
	5	黒褐色土層10YR	2＜5	○	○	×	×	×				
	6	暗褐色土層10YR	4＜6	○	○	※	×	×				
	7	暗褐色土層10YR	7＜6	○	○	※	×	×				
	8	暗褐色土層10YR	7＜8	○	○	※	△	※				
M－４　３区南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×				
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	×				
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	×				
	5	黒褐色土層10YR	5＜3	○	○	×	×	×				埋め戻し
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	×				Ⅲ層
	7	暗褐色土層10YR	5＜7	○	○	※	△	※				
M－４　４区Ａｻﾌﾞﾄﾚ	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	※	※				
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	△	※				
	3	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	※	△				
	4	褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	※				
	5	褐色土層10YR	4＜5	◎	○	△	△	△				
	6	暗褐色土層10YR	1＜6	○	○	※	×	×				埋め戻し
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	※				〃
M－４　４区Ｂｻﾌﾞﾄﾚ	1	褐色土層10YR		○	○	△	△	△				〃
	2	暗褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×				〃
	3	褐色土層10YR	3＜1	○	○	△	※	※				
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	※	△				
M－４　５区南壁	1	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×				硬化面
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×				〃
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	×	×	×				
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	◎	○	※	×	×				
	5	暗褐色土層10YR	2＜5	○	○	×	×	×				
	6	黒褐色土層10YR	6＜5	○	○	×	×	×				
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	×				
	8	黒褐色土層10YR	8＜7	○	○	×	×	×				
	9	暗褐色土層10YR	8＜9	○	○	※	△	×				
M－４　６区南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×				
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×				
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	×				
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	△	※				
M－４　８区南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×				埋め戻し
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	×	×	×				
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	△	×				
M－４　８区北壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×				
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×				
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×				
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×				埋め戻し
	5	黒褐色土層10YR	5＜4	○	○	※	×	×				Ⅲ層
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	△	×				
M－４　９区南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	※	※		
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	×				埋め戻し
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※				
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	△	※				
M－４　11区南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×				埋め戻し
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×				〃
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	△	×				〃
M－４　12区西壁	1	褐色土層10YR		○	○	※	×	△				〃
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	○				〃
	3	褐色土層10YR	1＜3	○	○	△	×	※				〃
	4	黄褐色土層10YR	2＜4	○	○	○	※	○				〃
M－４Ｂ　12区西壁	5	褐色土層10YR		◎	○	△	×	※				〃
	6	褐色土層10YR	5＜6	◎	○	△	※	※				〃
	7	褐色土層10YR	7＜6	◎	○	△	×	△				
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	○	△				

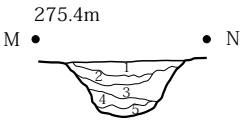
M－４　４区Ｂサブトレ（北壁）



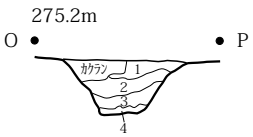
M－４　５区南壁



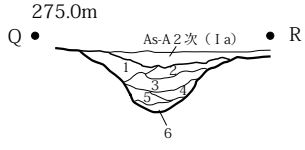
M－４　６区南壁



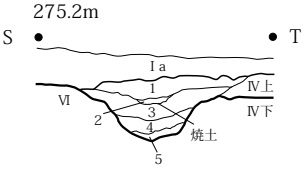
M－４　８区南壁



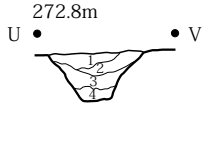
M－４　８区北壁



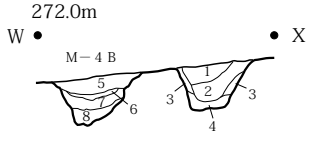
M－４　９区南壁

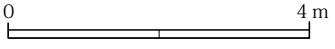


M－４　11区南壁

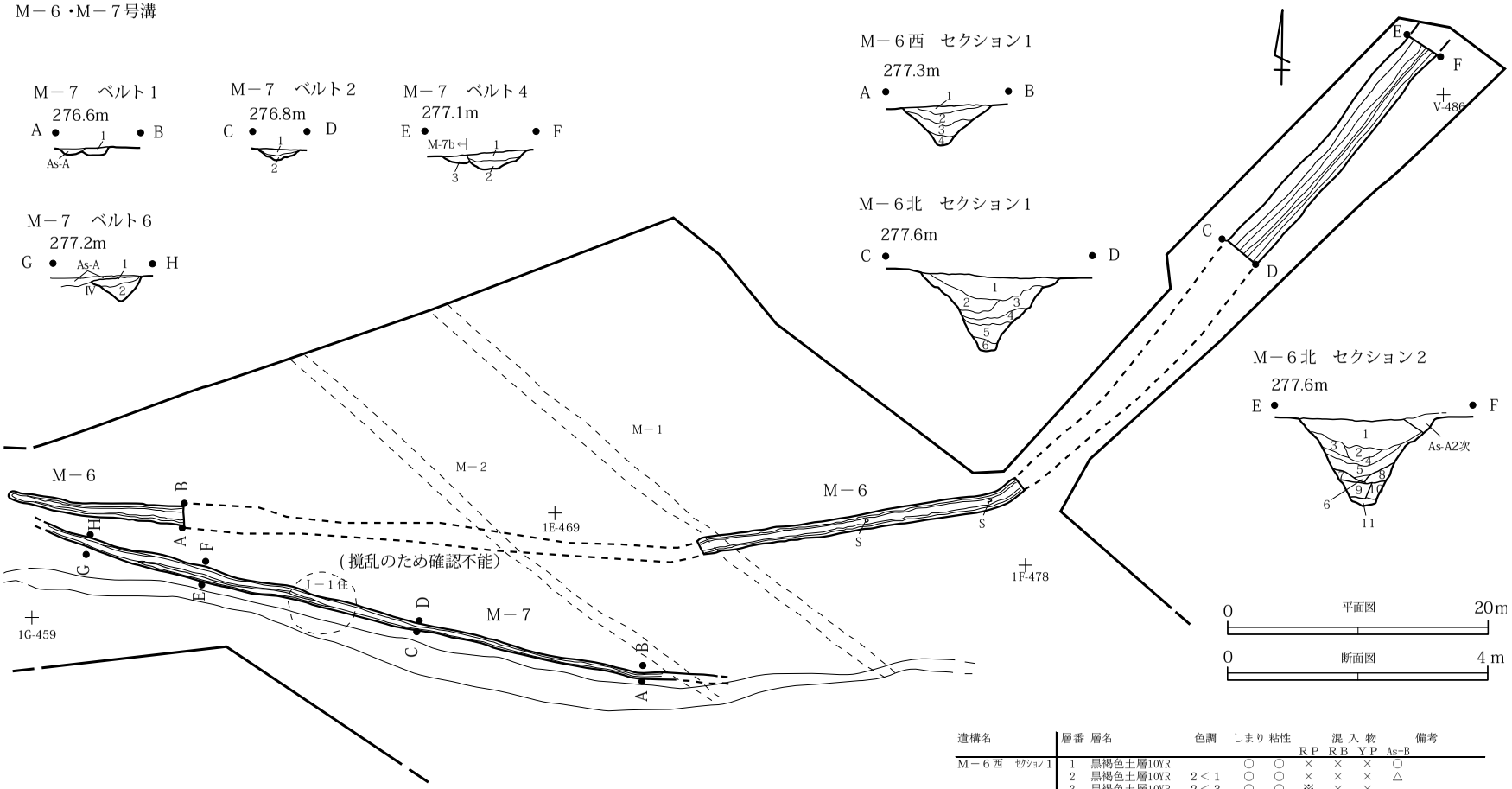


M－４　12区西壁





第321図　人見西中原遺跡（古代）M－３・４号溝実測図（２）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	備考
M－7　ベルト1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
M－7　ベルト2	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
M－7　ベルト4	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
	3	黒褐色土層10YR	3＜1	○	○	×	×	×	M-7b
M－7　ベルト6	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B	備考
M－6西　ｾｸｼｮﾝ1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	○	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×	△	
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×		下面水堆積(砂質)
M－6北　ｾｸｼｮﾝ1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	○	砂質
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	△	〃
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×	※	〃
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×	×	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	※	×	
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	※	×	
M－6北　ｾｸｼｮﾝ2	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	△	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	※	※	
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	×	×	×	△	
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×	※	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	※	※	
	6	黒褐色土層10YR	6＜5	○	○	×	×	×	※	
	7	暗褐色土層10YR	5＜7	○	○	※	×	※	×	壁面崩落土
	8	暗褐色土層10YR	5＜8	○	○	※	×	×	×	〃
	9	褐色土層10YR	7＜9	○	○	※	×	△	×	〃
	10	暗褐色土層10YR	10＜9	○	○	※	×	※	×	
	11	褐色土層10YR	9＜11	○	○	△	×	※	×	砂質土△

第322図　人見西中原遺跡（古代）M－6・7号溝実測図

8　人見西向原遺跡（第323～345図）

（1）概要

本遺跡は、台地北斜面で低地に面した人見向原遺跡の西に立地する。北側の低地を挟んで人見西中原遺跡が立地する。なお、西向原地区に存在する上人見遺跡については、遺跡の性格上、本遺跡とは区別して調査、報告とした。

旧石器時代では、Ｂ区のＭ－１号溝底面の２か所でⅦ層中から遺物が出土した。平成24年度の本調査では、Ｂ－Ⅰ区で石器ブロック４か所、礫群３か所、Ｂ－Ⅱ区で石刃１点を確認した。出土層準から群馬編年のⅣ期後半に帰属する。当該期の石器群は、横野台地では初めての調査であり、貴重な資料となった。

縄文時代では、Ｂ区で集石１基、Ｅ区で中期後半の遺物包含層と土坑３基、ピット群を確認した。西向原地区では、遺構、遺物の分布は薄くなり、住居址で構成される集落は確認されなかった。遺物は、遺構覆土及び包含層中から加曽利Ｅ３式期の土器片、打製石斧等が少数出土した。

弥生時代では、Ｂ区のＭ－１号溝覆土及びＭ－７号溝覆土内で石鏃が２点出土した。Ｅ区では、Ｍ－２号溝覆土内と複数の溝が交差する部分を中心としたところで小礫と中期後半（栗林式期）の土器（壺）片が出土した。本遺跡内の北側には、上人見遺跡が存在するため、互いの隣接地を中心に範囲確認のためのトレンチ調査を実施した。これにより、遺跡に関連する遺構、遺物は確認されなかったものの、上人見遺跡の範囲が確定した。

古墳時代では、Ｃ区で住居址１軒（Ｈ－35号）を確認した（人見向原遺跡で報告）。本住居址の周辺部を重点的にトレンチ調査を行ったが、広範囲で遺構の空白地が存在することを確認し、人見向原遺跡における集落の西限が確定した。Ｃ区の西約150ｍにあるＤ区では、中期の住居址６軒を確認した。人見向原遺跡とは距離が離れていることから、別の集落と考えられる。Ｄ区周辺において集落の範囲を確認するためのトレンチ調査を行ったが、遺構の広がりは確認できず、小規模集落であったことを明らかにした。Ｈ－１号住居址では、臼玉の製作遺物が多数出土した。

古代では、Ａ区で富岡市との境界付近で確認されている大溝の続きを約280ｍ確認し、そのうち約200ｍを調査した（富岡市との分担調査、上高田筑前上遺跡）。この大溝（Ｍ－１号）は、人見向原遺跡で確認された溝の続きで、これまでの発掘調査によって横野台地一帯を区画する古代牧に関連する遺構と推定される。溝覆土中位には、浅間Ｂ軽石が堆積し、その下位から、９世紀後半から10世紀初頭の須恵器坏が出土した。大溝内では、完全な埋め戻しによって平坦な通路を構築する土橋と窪みをそのまま通路として使用した土橋状遺構をそれぞれ確認した。また、土橋の内側では、細田遺跡（中野谷地区遺跡群）と同様、大溝と接続する溝状遺構を確認した。大溝土橋北では、古代（縄文時代の可能性あり）まで遡る陥穴状土坑３基を確認した。Ｂ区では、Ａ区で調査した大溝の続きを約600ｍ確認し、そのうち約290ｍを調査した（富岡市との分担調査、上高田筑前上遺跡の一部と上高田稲葉上遺跡）。Ｂ区の大溝は、Ａ区と同様、溝覆土中位に浅間Ｂ軽石が堆積し、その下位から、９世紀後半から10世紀初頭の須恵器坏が出土した。覆土の観察から、溝は11世紀まで窪んだ状態で、何度も自然堆積による埋没を掘り返されるが、溝の外側に掘り返した土が、人為あるいは自然に流れ込み底上げされながら溝としての機能を果たし、12世紀以降、放置されることによって埋没が進行したものと推定される。溝の一

部では、人為的埋め戻しによる底面の再構築や土橋の構築、自然堆積による埋没段階で土橋を構築する状況を確認した。Ｔ－１号竪穴状遺構は、Ｍ－１号溝によって壊された状態で切り合い関係を確認した。Ｅ区では、人見枝谷津遺跡等と同様、台地上を区画する溝を６条確認した（Ｍ－２～６、８号)。その中で、Ｍ－６号溝は、約105ｍ×約70ｍ（最大）の規模となる台形に近い区画と推定される。覆土から８世紀代の土師器坏が１点出土した。この溝の東側は耕作による撹乱が広範囲であったため、トレンチ調査による確認調査のみを行った。中世では、Ｍ－１号溝覆土内で溝と平行するＭ－７号溝を約50ｍ確認し、部分的調査を行った。覆土は浅間Ｂ軽石を含む黒色土で、覆土内から内耳土鍋片が出土した。時期が判明する唯一の遺物で、古代の溝の窪地が中世においても溝として再利用されていたことを明らかにした。

（２）旧石器時代の遺構

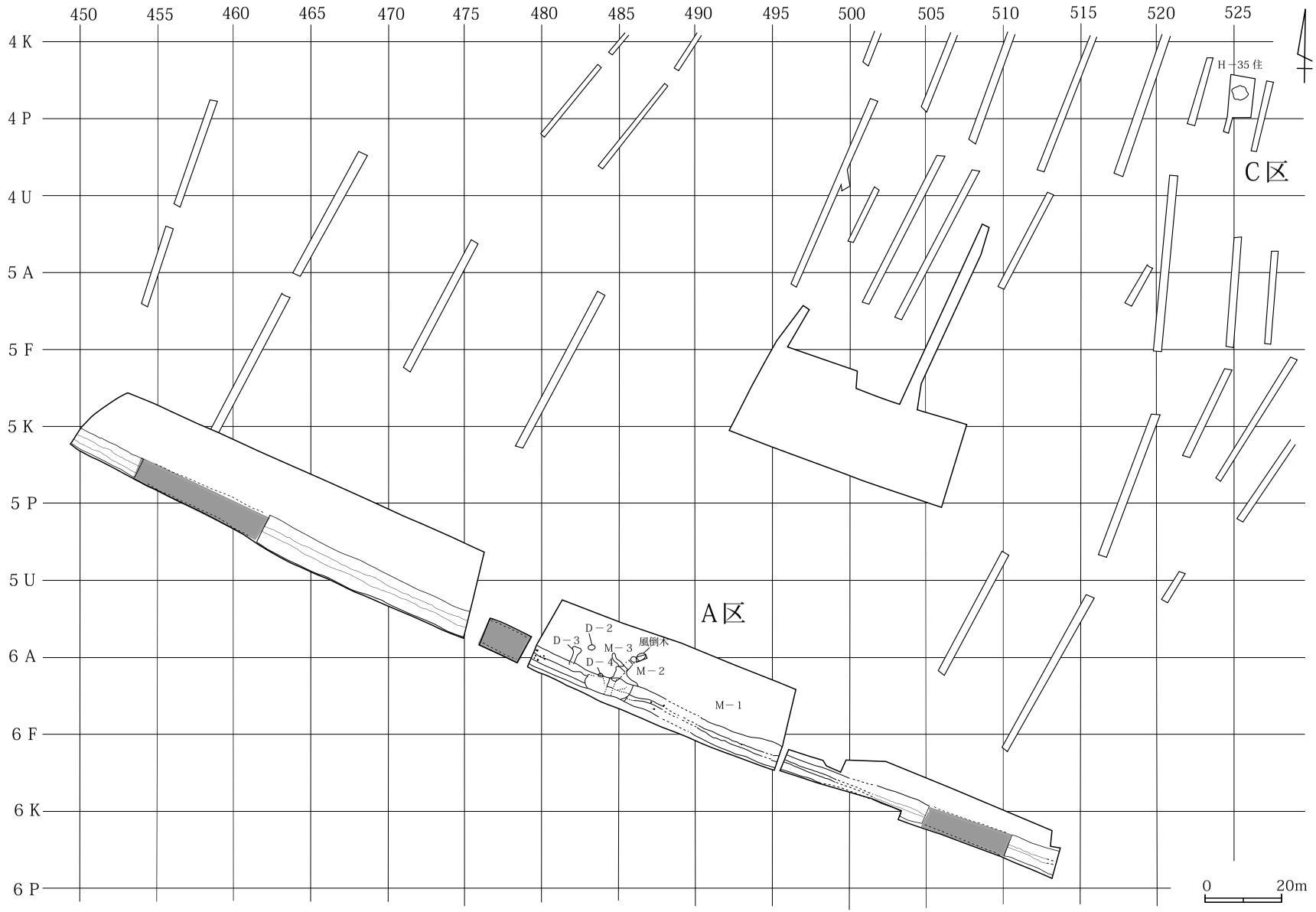
Ｂ－Ⅰ区（Ｍ－１号溝24区付近）では、槍先形尖頭器の基部１点、同調整剥片１点、使用痕ある剥片ＵＦ５点、石刃９点、二次加工ある剥片（ナイフ形）１点、円盤状石器１点、剥片25点の合計43点、礫75点が出土した。遺物の分布状況により、石器ブロック４カ所、礫群３基を確認した。Ｂ－Ⅱ区（Ｍ－１号溝45区付近）では、頁岩製の石刃が１点出土した。各調査区では、範囲の拡張、ローム層の掘り下げを行ったが、確認した範囲以外では、遺物分布は認められなかった（第328図)。確認した石器群は、出土状況により、石器石材は、肉眼観察により頁岩（凝灰岩)、黒色安山岩、チャート、安山岩の４石材12個体の母岩を識別した。石器群の特徴は、頁岩系石材の大形石刃を主体とし、チャート製の槍先形尖頭器（欠損）１点との共伴関係をもつもので、群馬編年のⅣ期後半（関口2010他）に相当する。礫群は、大形礫で構成された配石状の１号礫群と大小多数の礫で構成された集石状の２号礫群が検出された。２号礫群の礫の一部にはススの付着と被熱が認められた。また、２号礫群では、数カ所の極小炭化物の分布が認められた。礫石材は全て安山岩である。

土層堆積（第329図）

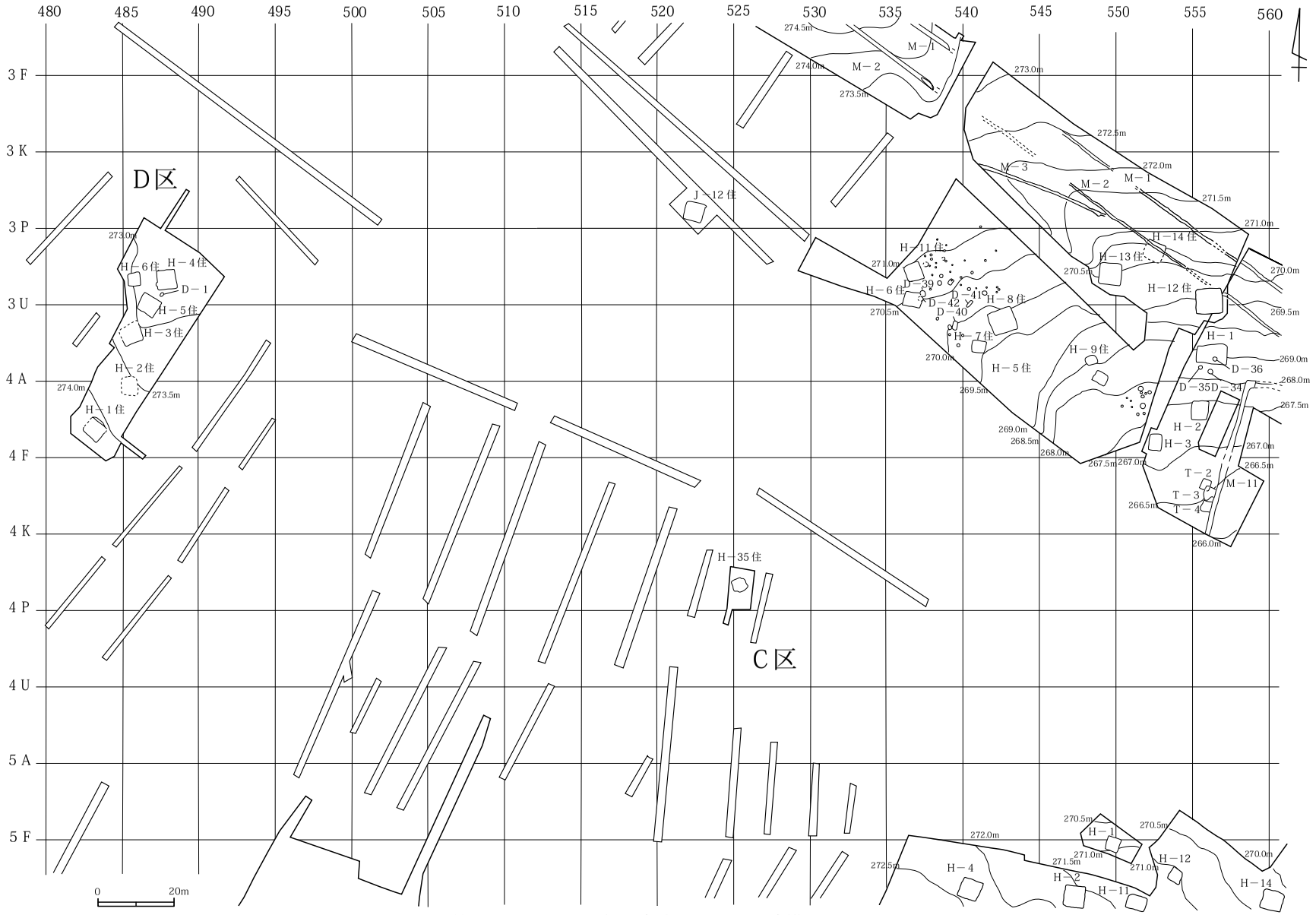
調査区は、横野台地南側縁辺部に位置する。遺物が出土したⅦ層は、分析によって３または４層（ａ～ｂ）に分層される。Ⅶａ層は、Ⅶｂ層と色調が明るく、As－Okの混入具合で肉眼でも細分可能である。遺物出土層位は、Ⅶａ層からも出土しているが、Ⅶｂ層（Ａｓ－Ｏｋ混入層）に分布のピークがみられる。Ⅶｃ層からは出土しなかった。石器群は、出土状況から同一文化層と判断される。Ｂ－Ⅱ区の遺物出土層位は、Ⅶｂ層である。

石器石材

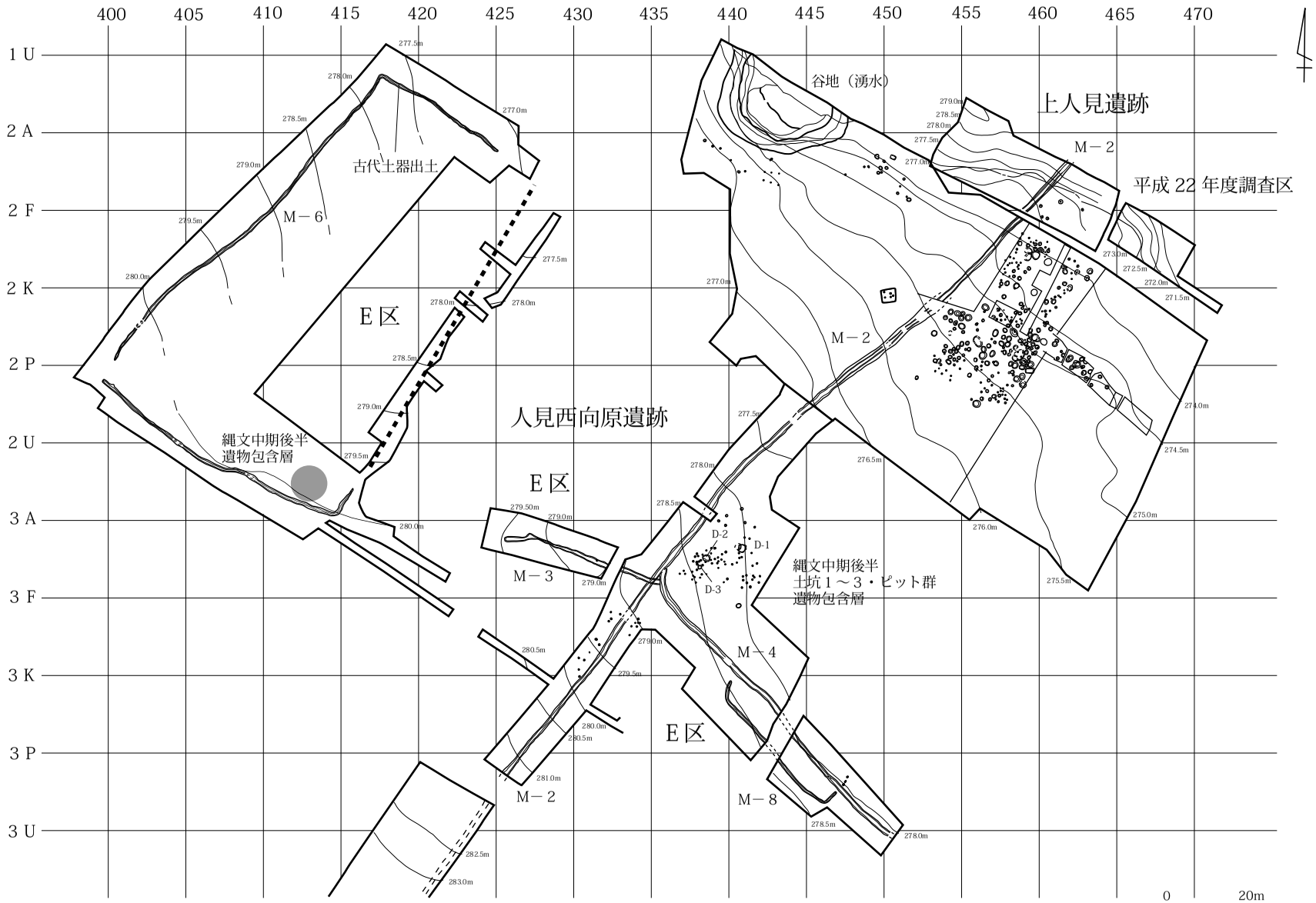
石材は４種類で、表面色調、石質、風化の度合い等で15母岩を認識した。各母岩は、頁岩は母岩（灰白色：１～３)、黒色安山岩７母岩（灰白色：４～７、褐色：９、10、13)、安山岩３母岩（灰色：８、14、15)、チャート２母岩（青灰色：11、12）を認識した。石器石材は、頁岩と黒色安山岩の２石材を主体とし、黒曜石は認められない。遺跡と石材の産出地の関係では、頁岩は縄文時代の石材とは石質は異なり緻密である。在地ではない可能性がある。また、黒色安山岩は、県西部（荒船山～八風山周辺）と県北部（武尊山周辺）に産出地が求められるが、他の時期の石材組成から判断して前者の可能性があ



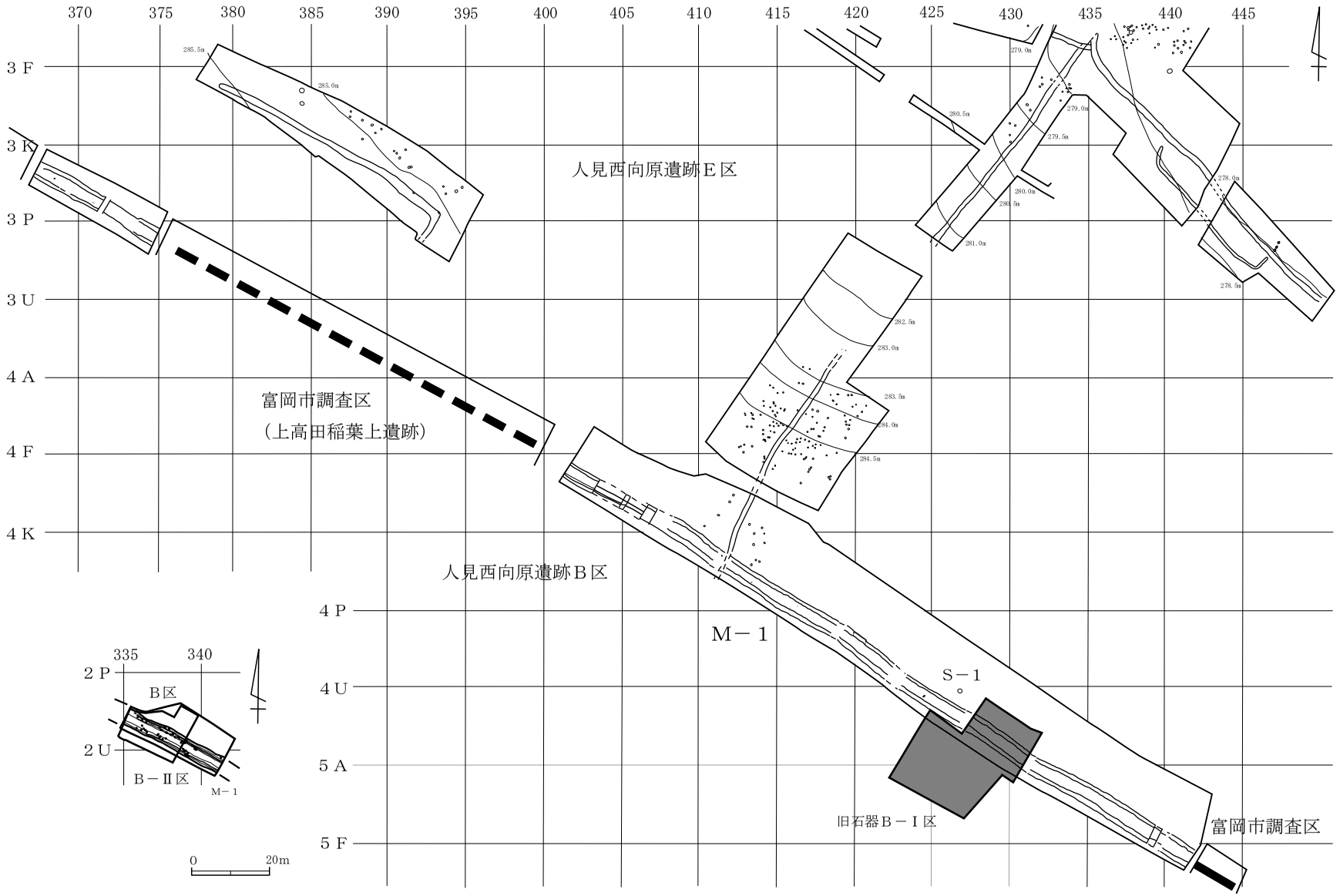
第323図　人見西向原遺跡Ａ・Ｃ区　遺構配置図



第324図　人見西向原遺跡Ｃ・Ｄ区　遺構配置図



第325図　人見西向原遺跡Ｅ区・上人見遺跡　遺構配置図



第326図　人見西向原遺跡Ｂ区　遺構配置図

る。チャートは県東部（渡良瀬川流域）で知られているが、石材ルート及び集団の移動形態から南関東からの搬入の可能性がある。石材産出地の推定については、今後の事例増加及び周辺との比較によって明らかにしていく課題が残る。安山岩は、礫群の礫に比べて良質、緻密であり、区別できる。頁岩と黒色安山岩は色調、石質では類似する石材が選択されており、頁岩では石刃、黒色安山岩では二次加工による調整剥片類が残されている。

遺物の分布（第330～332図）

＜１号ブロック＞

直径約3.4ｍの範囲で配石状の１号礫群と重複する。石器の出土は、24、25がⅦａ層、それ以外は全てⅦｂ層出土である。石器は、槍先形尖頭器１点と調整剥片１点、二次加工ある剥片１点、使用痕ある剥片２点、石刃４点、剥片４点の合計13点である。石材別では、頁岩４点、黒色安山岩４点、チャート３点、安山岩２点で、９母岩を認識した。チャートは本ブロックのみである。石器製作は低調だが、多くの石材が搬入され、大形剥片を主体とした頁岩系石刃を主体としたブロックである。使用の場であったと推定される。

＜２号ブロック＞

１号ブロックの北東、２号礫群を中心とする約4.7ｍ×約1.8ｍのブロックである。石器はⅦｂ層出土で傾斜に沿って高低差がある。石器は、石刃３点、剥片４点の合計７点である。石材別では、頁岩１点、黒色安山岩５点、安山岩２点で、５母岩を識別した。 礫群との重複であるため、石器製作は低調である。石刃を主体とした使用の場であったと推定される。

＜３号ブロック＞

２号ブロックの東に隣接し、約3.6m×約1.6ｍのブロックで、剥片15点が出土した。石器はⅦｂ層でほぼ水平に出土した。石器製作の痕跡（石器の二次加工）を残すブロックである。石材別では、頁岩４点、黒色安山岩11点で、２母岩を識別した。

＜４号ブロック＞

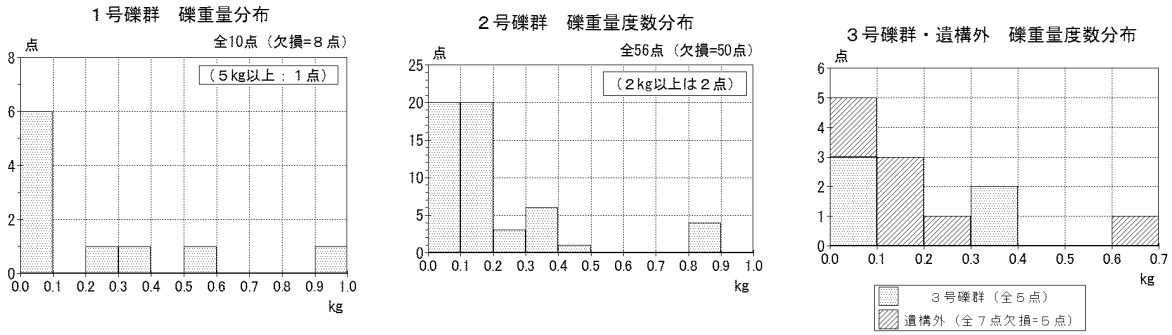
１号ブロックの西に隣接し、３号礫群と重複する。約3.2ｍ×約2.2ｍのブロックである。石器は、Ⅶｂ層でほぼ水平に出土した。石器は、使用痕ある剥片３点、石刃２点、剥片２点である。石材は、頁岩２点、黒色安山岩５点の合計７点で、４母岩を識別した。石器製作は低調で使用の場であったと推定される。

＜遺構外＞

Ｂ－Ⅰ区では、調査区を拡張したが、単独出土は認められなかった。

Ｂ－Ⅱ区44、45区では、Ｍ－１号溝の底面精査中に石器１点が出土した。出土層位はⅦｂ層である。調査区を拡張して範囲確認調査を行ったが、遺構、遺物は認められなかった。

接合関係は、１号ブロック（35）と４号ブロック（49）の母岩４で１例認められた。母岩の共有は、母岩１（頁岩）と母岩４（黒色安山岩）が全てのブロック、３号ブロック２号ブロックと４号ブロック（母岩５）、２号ブロックと４号ブロック（母岩６）で認められた。他の母岩はブロック内で完結している。



第327図　人見西向原遺跡（旧石器）礫重量分布

礫の分布（第333・334図）

＜１号礫群＞

大小の礫が単独で分布する配石状礫群である。大形礫２点は、Ⅶｃ層下部まで差し込まれており、固定してあった可能性がある。炭化物は検出されなかった。３号礫群との接合関係が認められた。

＜２号礫群＞

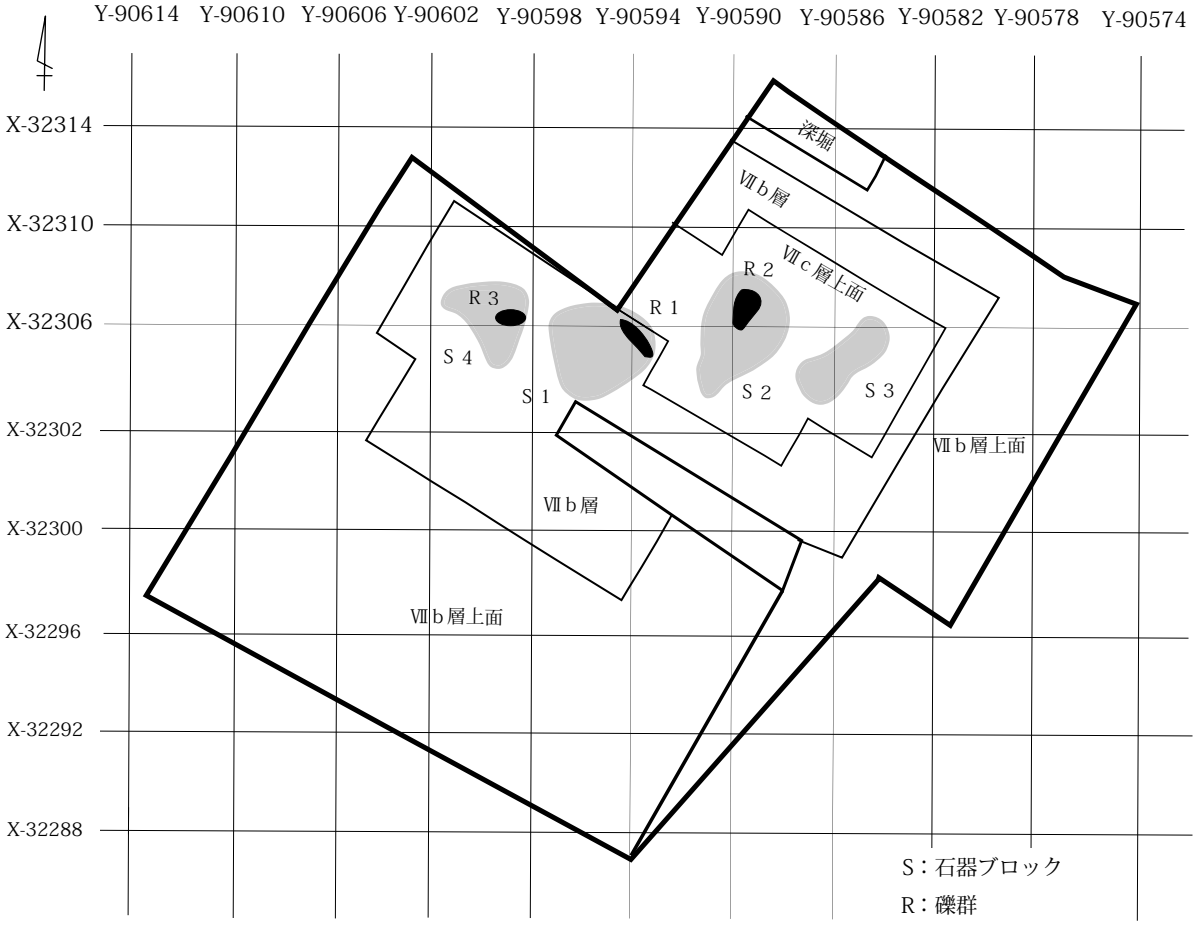
小礫、破砕礫が密集し、大形礫がその中で点在する礫群である。破砕は被熱によるものではない。礫は、Ⅶｃ層上面～Ⅶｂ層下位が出土層準で、垂直分布により浅く窪んでいた痕跡が認められた。礫群周囲では、炭化物の小片の散布が検出された。礫に被熱痕もあることから、火の使用が推定される。礫群内で、例の接合関係が認められた。

＜３号礫群＞

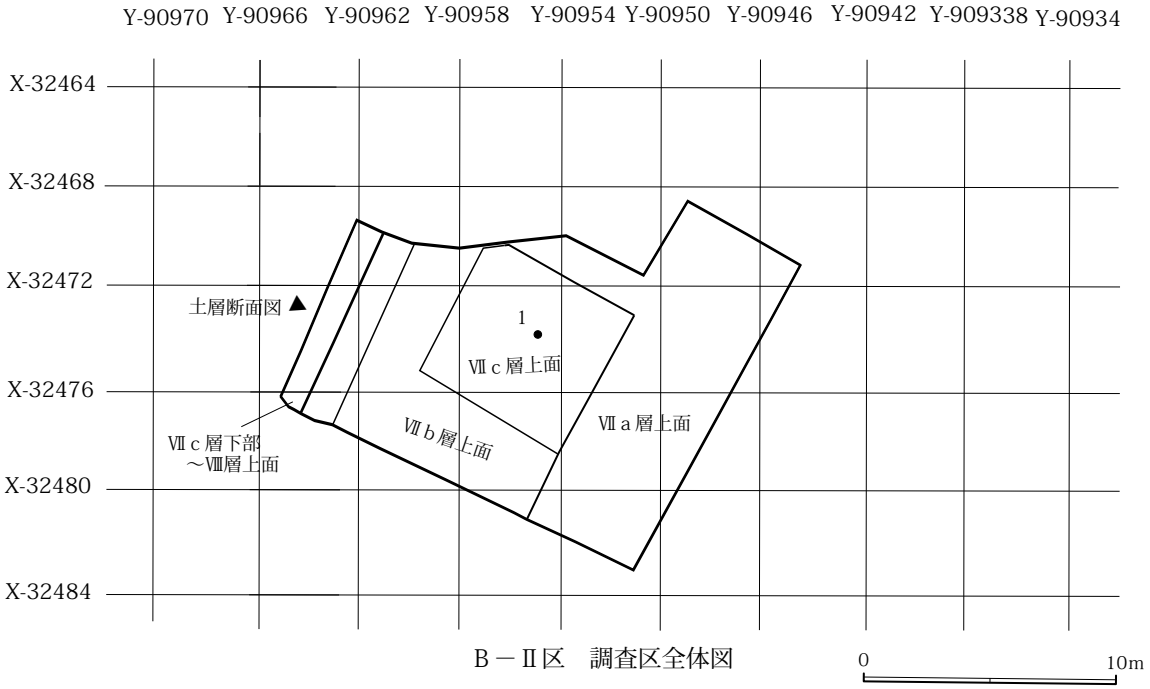
少数の礫片で構成する礫群である。炭化物は検出されなかった。１号礫群との接合関係が認められた。

礫群出土の「礫」について（第327図）

礫の重量は、全体で100ｇの大きさが主体を占める。1号礫群では５kg以上の大形礫が出土した。２号礫群では、200ｇまでの大きさが主体であるが、２kg以上の大形礫も出土した。配石状の礫群は、小形礫が多く、少数の大形礫で構成される。配石状の礫群は、200ｇまでの大きさの礫が多く、少数の大形礫で構成される。礫の状態は、接合関係が認められた。接合個体は、14個体である。関係の大形礫は５点出土した。２号礫群では、細かい破砕礫が多数認められた。礫が接合によってものと形となるものは少なく、完全には復元できない個体が存在する。大形礫には、肉眼では使用痕は観察されなかったが、扁平で大形であることから、台石であった可能性が考えられる。被熱を受けた痕跡を示す赤化は、２号礫群では、ほぼ全ての礫（破砕礫含む）で観察された。礫の形状は、亜円礫である。石材は全て安山岩である。遺跡近くでは、遺跡の時期で礫が容易に採取できる場所は、これまでのところ確認できていない。しかし、横野台地では原市層より上位に段丘礫層が存在することから、谷部あるいは崖部で露出した段丘礫を持ち込んで使用したものと推定される。

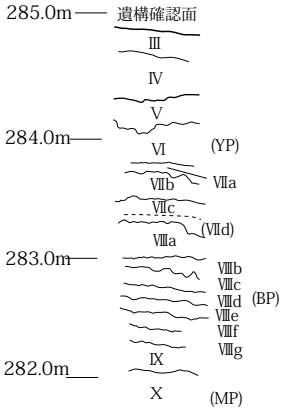


Ｂ－Ⅰ区　調査区全体図



Ｂ－Ⅱ区　調査区全体図

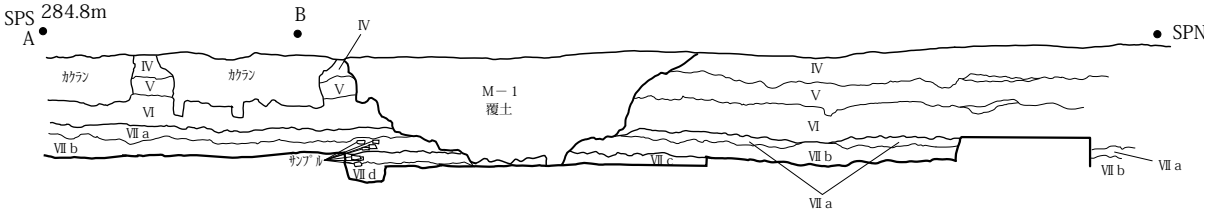
第328図　人見西向原遺跡　旧石器時代調査区全体図



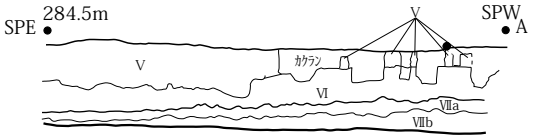
深掘土層断面図

深掘土層柱状図（テフラ分析）

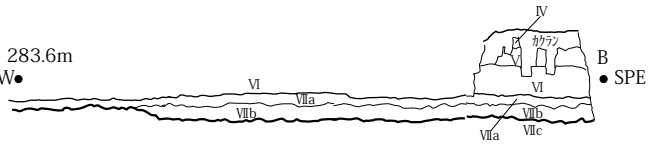
A：Ⅰ区西壁



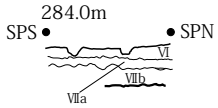
B：Ⅰ区南壁



C：Ⅰ区北壁（中央）

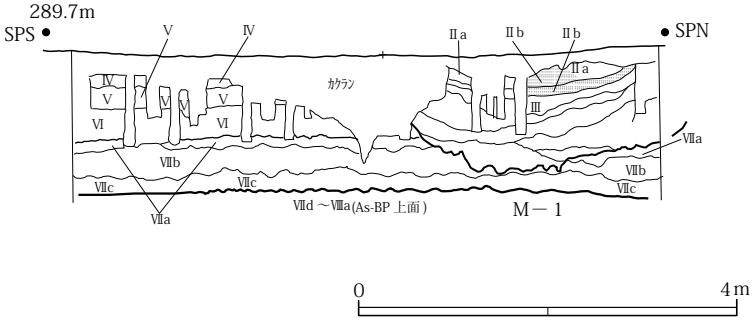


D：Ⅰ区西拡張東壁

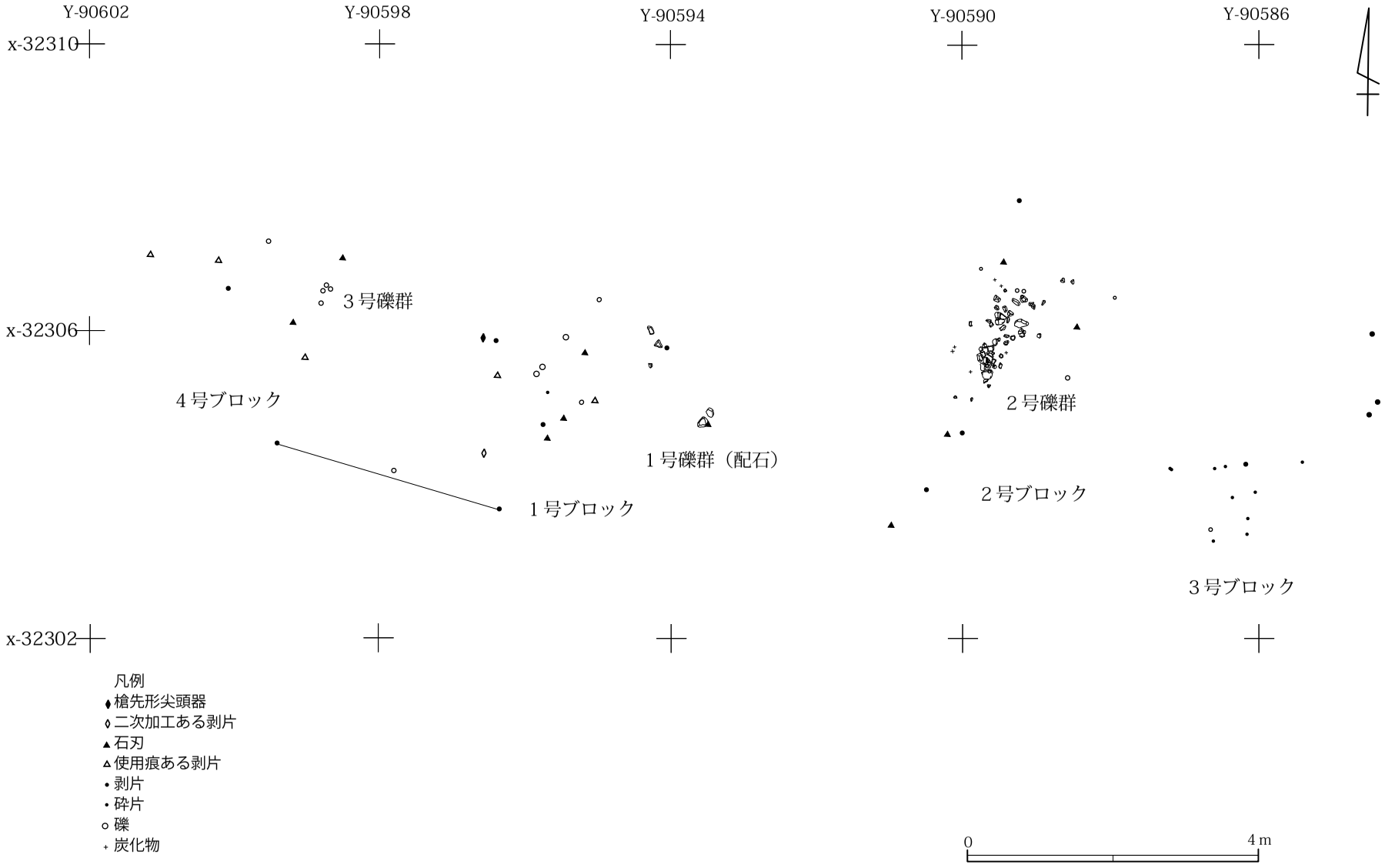


Ⅱb

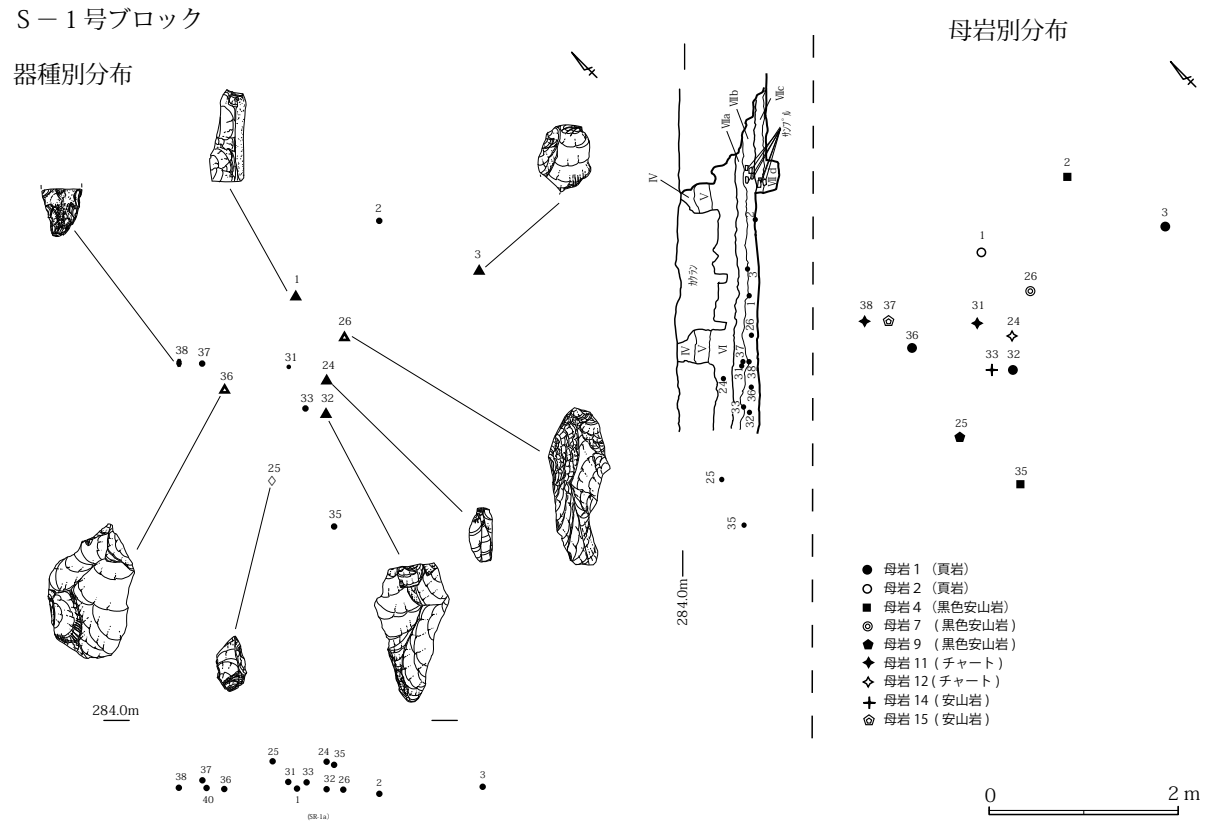
B－Ⅱ区　M－1.45区西壁

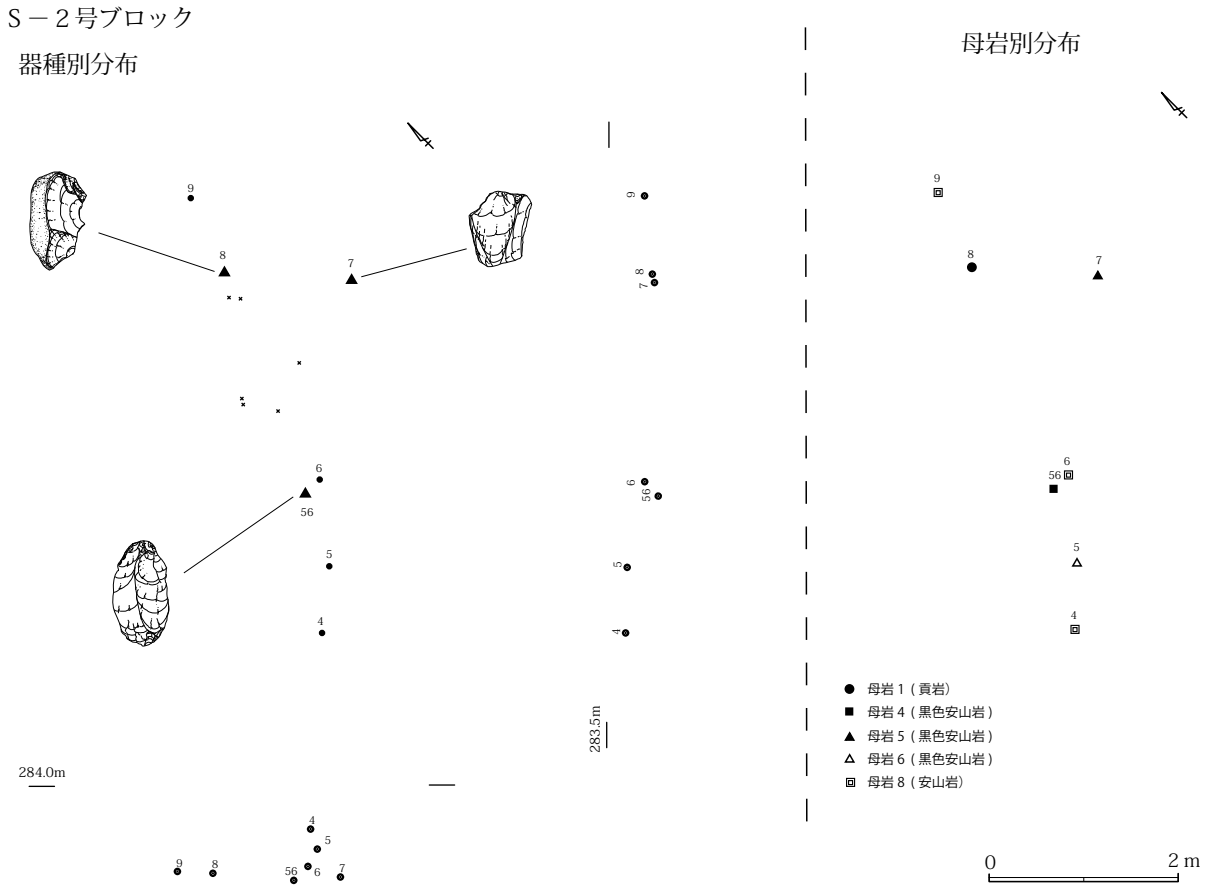


第329図　人見西向原遺跡　ローム層土層堆積状況



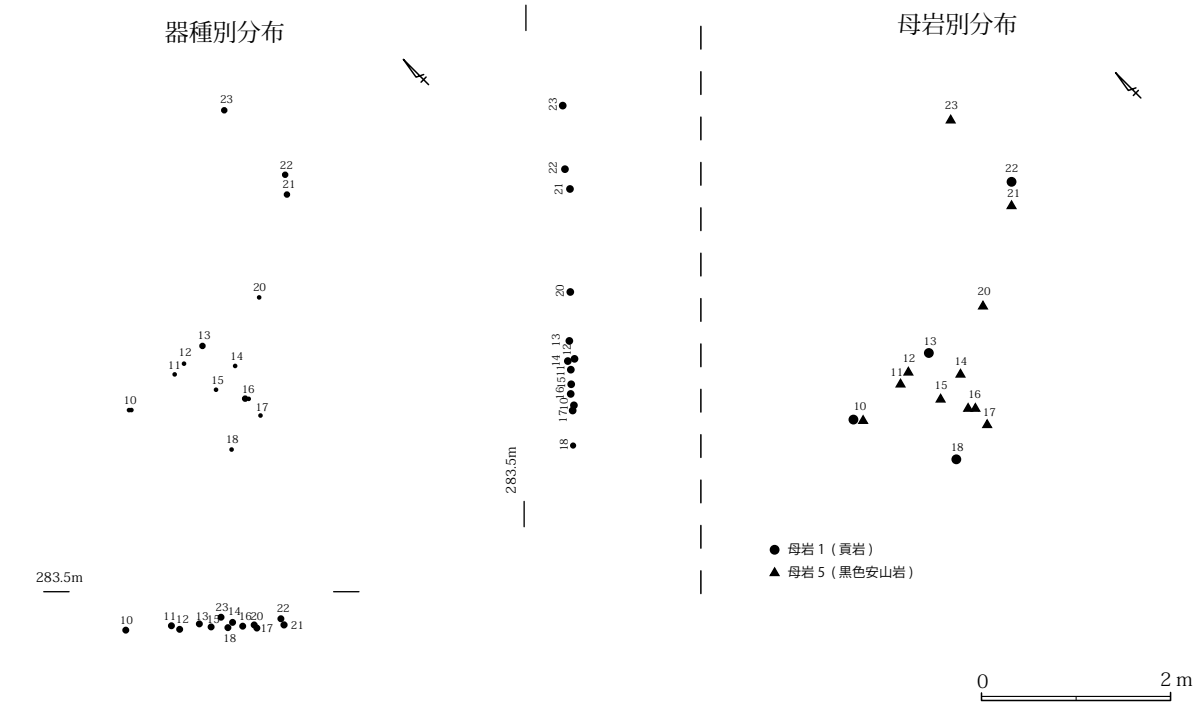
第330図　人見西向原遺跡（旧石器）遺物分布図



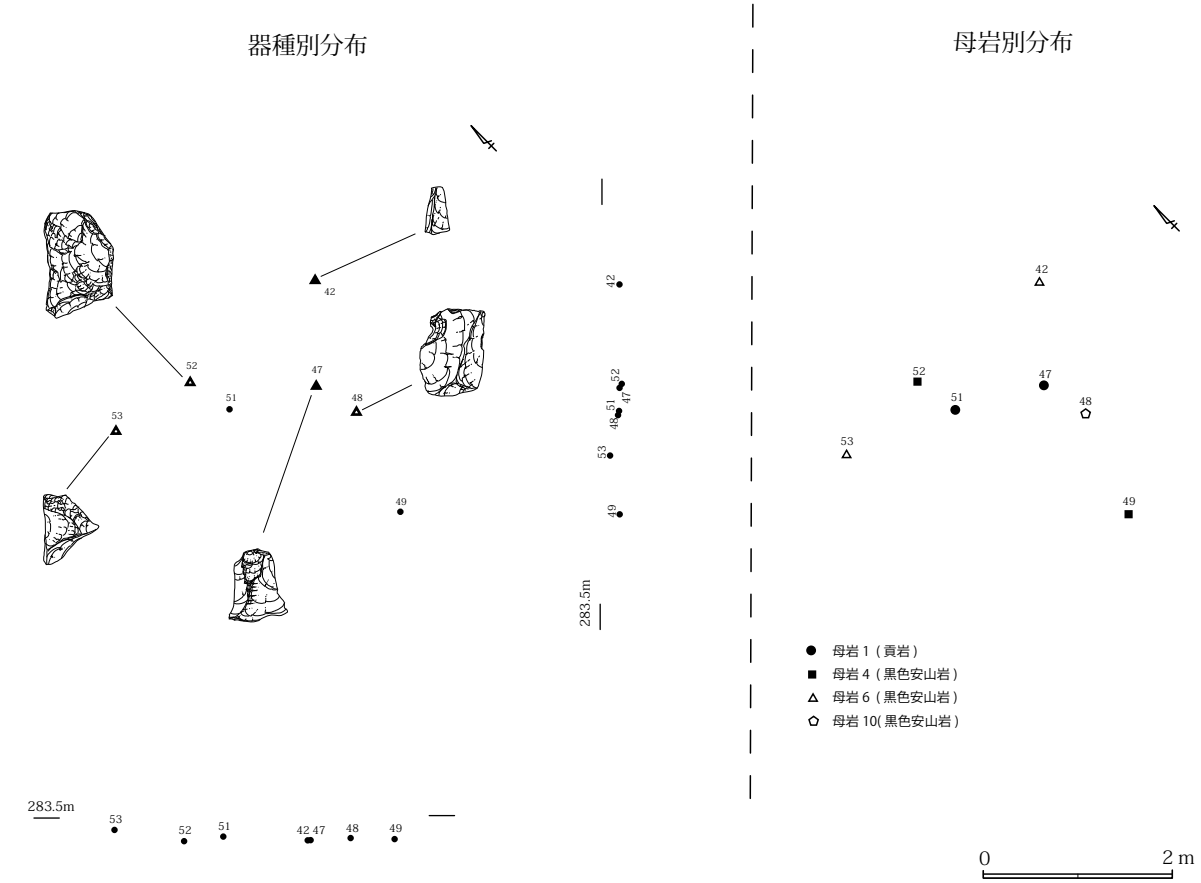


第331図　人見西向原遺跡（旧石器）１・２号石器ブロック（器種・石材別）

S－3号ブロック

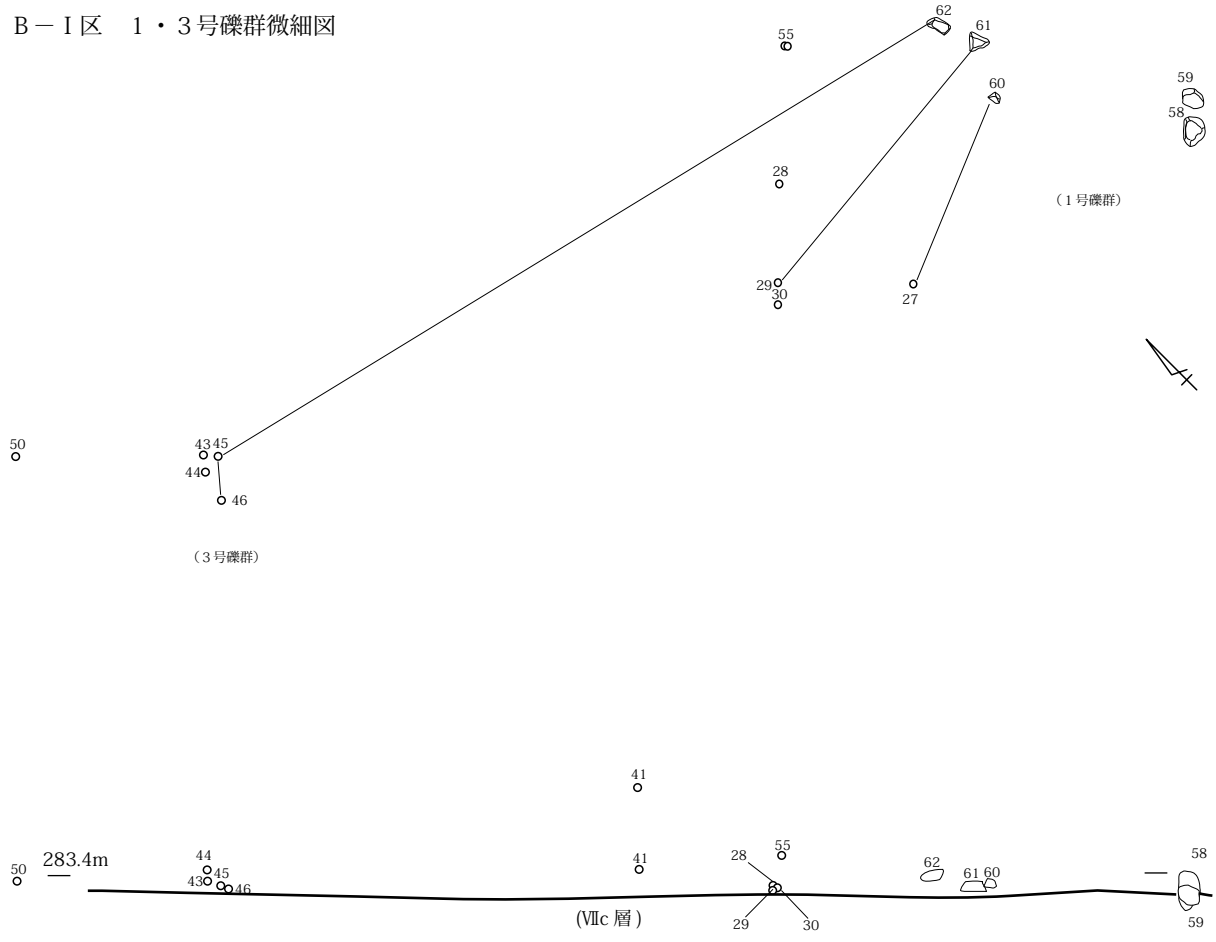


S－4号ブロック

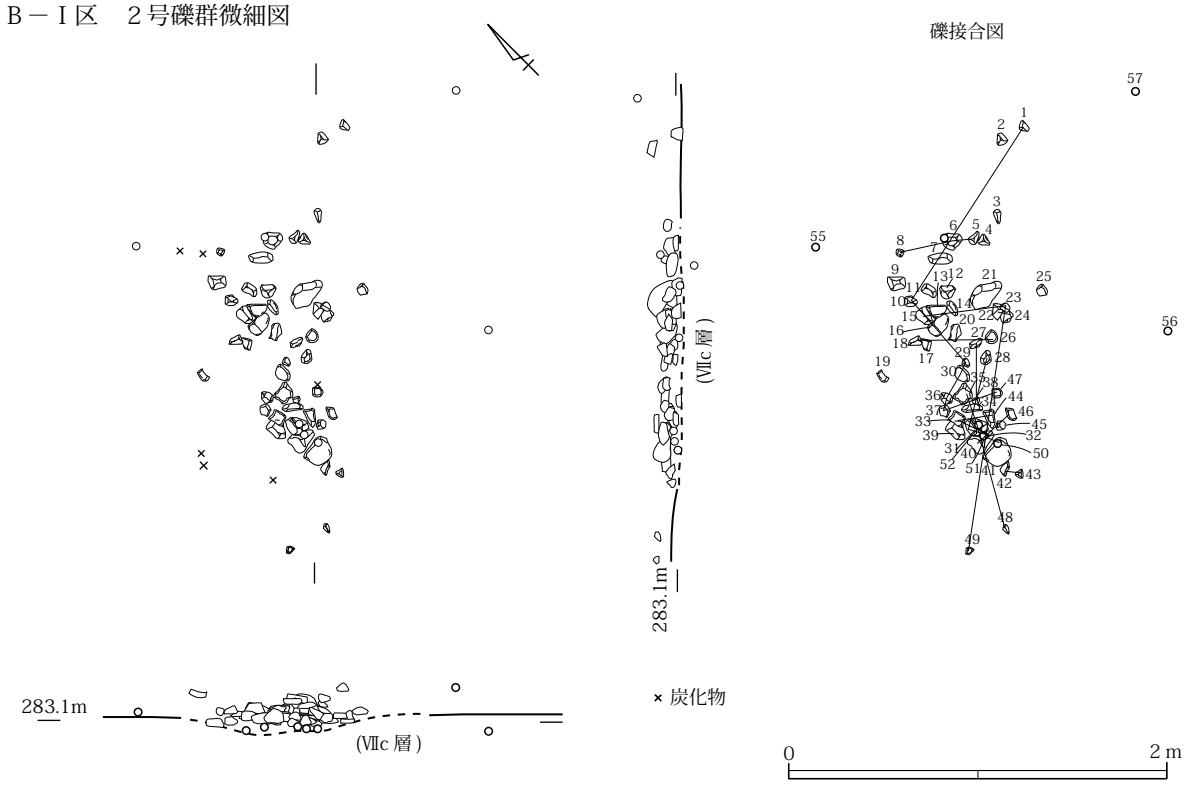


第332図　人見西向原遺跡（旧石器）３・４号石器ブロック（器種・石材別）

B－Ⅰ区　1・3号礫群微細図

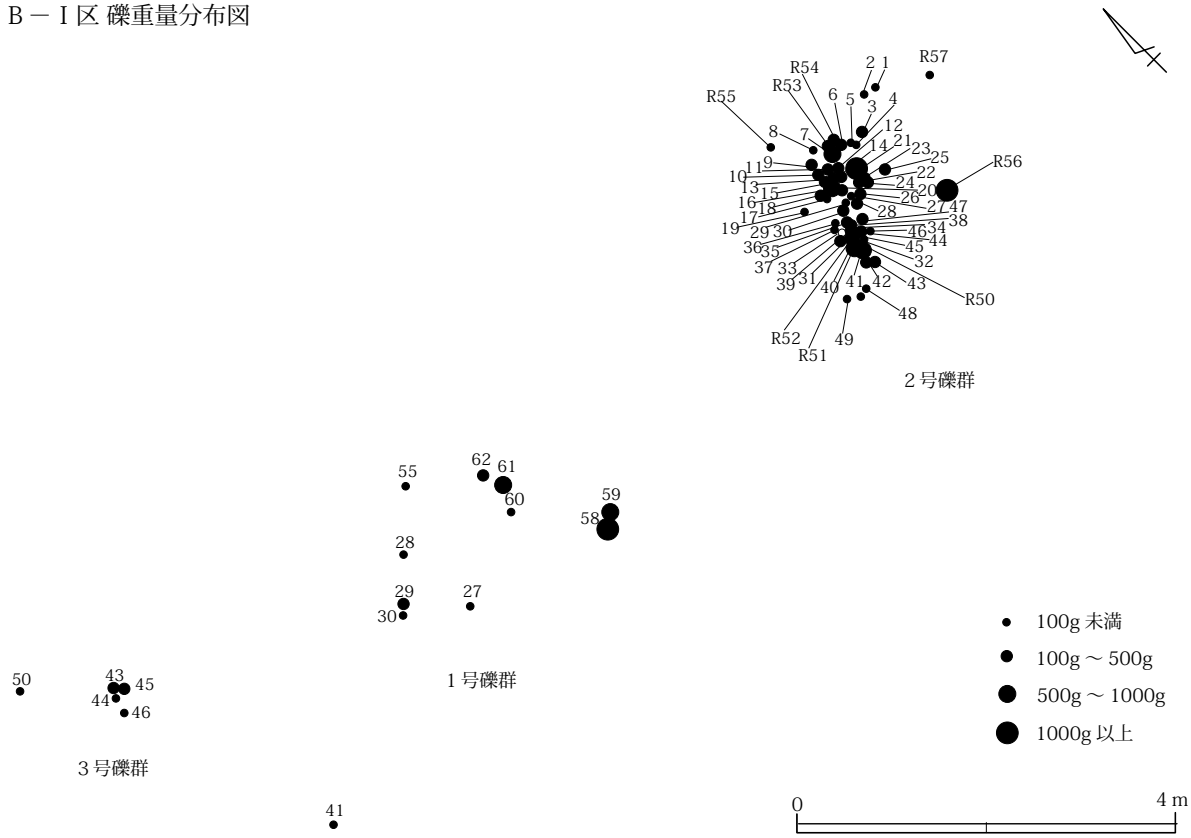


B－Ⅰ区　2号礫群微細図

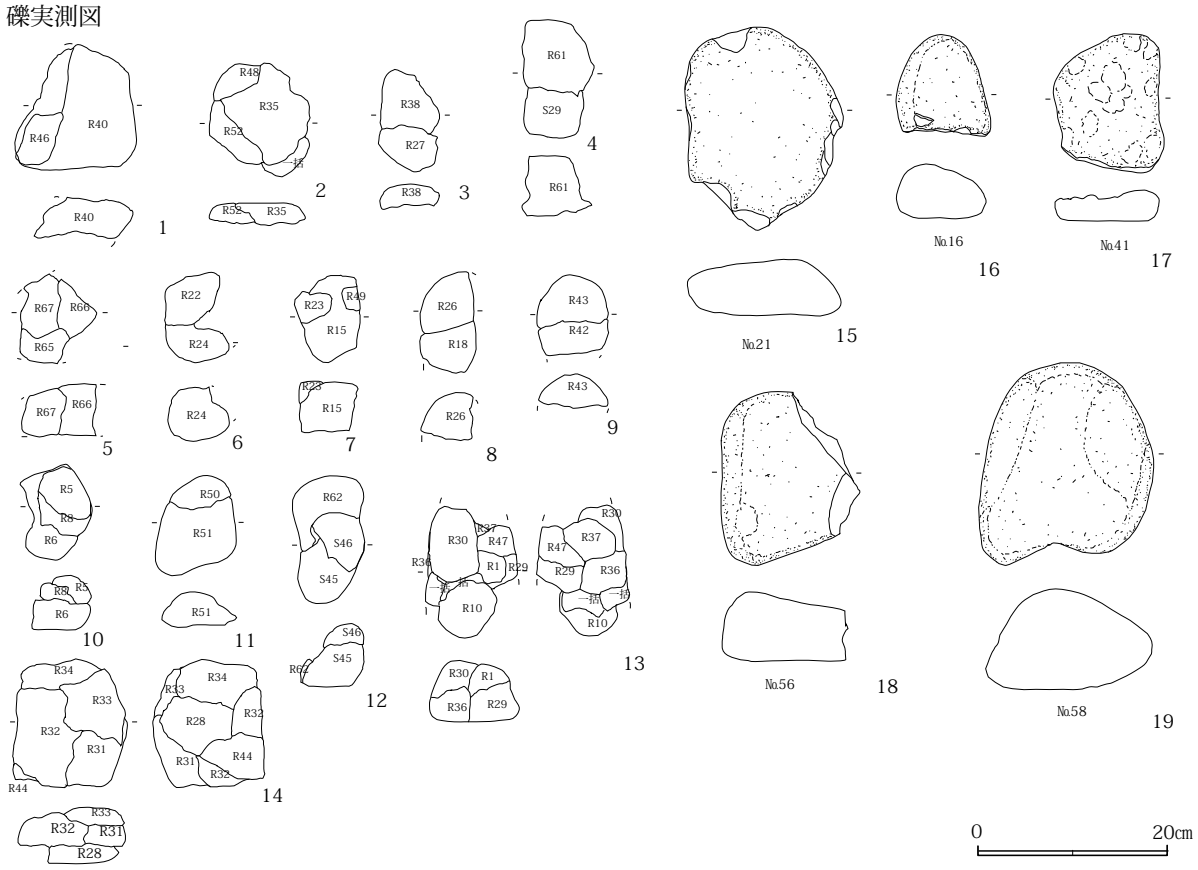


第333図　人見西向原遺跡（旧石器）1～3号礫群実測図

B－Ⅰ区 礫重量分布図



礫実測図



第334図　人見西向原遺跡（旧石器）礫重量別分布図・礫実測図

（３）縄文時代の遺構

土坑（第335図、第44表）

Ｅ区で３基確認した。Ｄ－１号では土坑中央で複数個体の土器片がまとまって出土した。Ｄ－３号は土器１個体と磨石が出土した。時期は加曽利Ｅ３式期である。

集石

Ｍ－１号の24区北側で確認した。遺物は出土しなかった。

ピット群（第335図）

Ｅ区の土坑群と重複して多数のピットが確認された。遺物は散漫な分布状況であった。柱穴に類似する深いピットも数カ所確認されたが、規則的な配列は認められなかった。しかし、焼土痕が検出されており、掘り込みの浅い建物等の遺構が存在した可能性がある。

遺物集中

Ｅ区（Ｍ－６号南東隅周辺）のⅣ層上部で、中期後半の加曽利Ｅ３式期の土器片が分布する範囲を確認した。人力による包含層調査に切り替えたが、遺構は検出されなかった。

（４）古墳時代の遺構

住居址（第336～339図、第15表）

Ｄ区で６軒確認した（Ⅱ期１軒、Ⅲ期３軒、中期２軒）。調査区外について、トレンチ調査を行ったが、遺構の広がりは確認されず、低地に面した小規模の集落の存在が明らかとなった。同時期の集落は、本調査区の南に上高田筑前上遺跡、西に人見西原遺跡がある。なお、本調査区では、Ⅲ層上部を確認面としたため、遺構の掘り込みと覆土が区別が難しく、確認と精査に時間がかかってしまった。

住居址は、竪穴式３軒、炉が不明瞭で掘り込みの浅い平地式３軒である。

＜平面形態＞

小形正方形１軒（Ⅲ期）、中形正方形１軒（中期）、中形長方形４軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期２軒、中期１軒）である。焼失住居は１軒である（Ｈ－１号）。中形が多い。平地式は方形が３軒である。

＜主軸方向＞

ほぼ真北が３軒（Ⅲ期１軒、中期２軒）、北から北東に向くのが２軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期１軒）、北から北西に向くのが１軒（Ⅲ期１軒）である。

＜壁溝＞

全て無し。

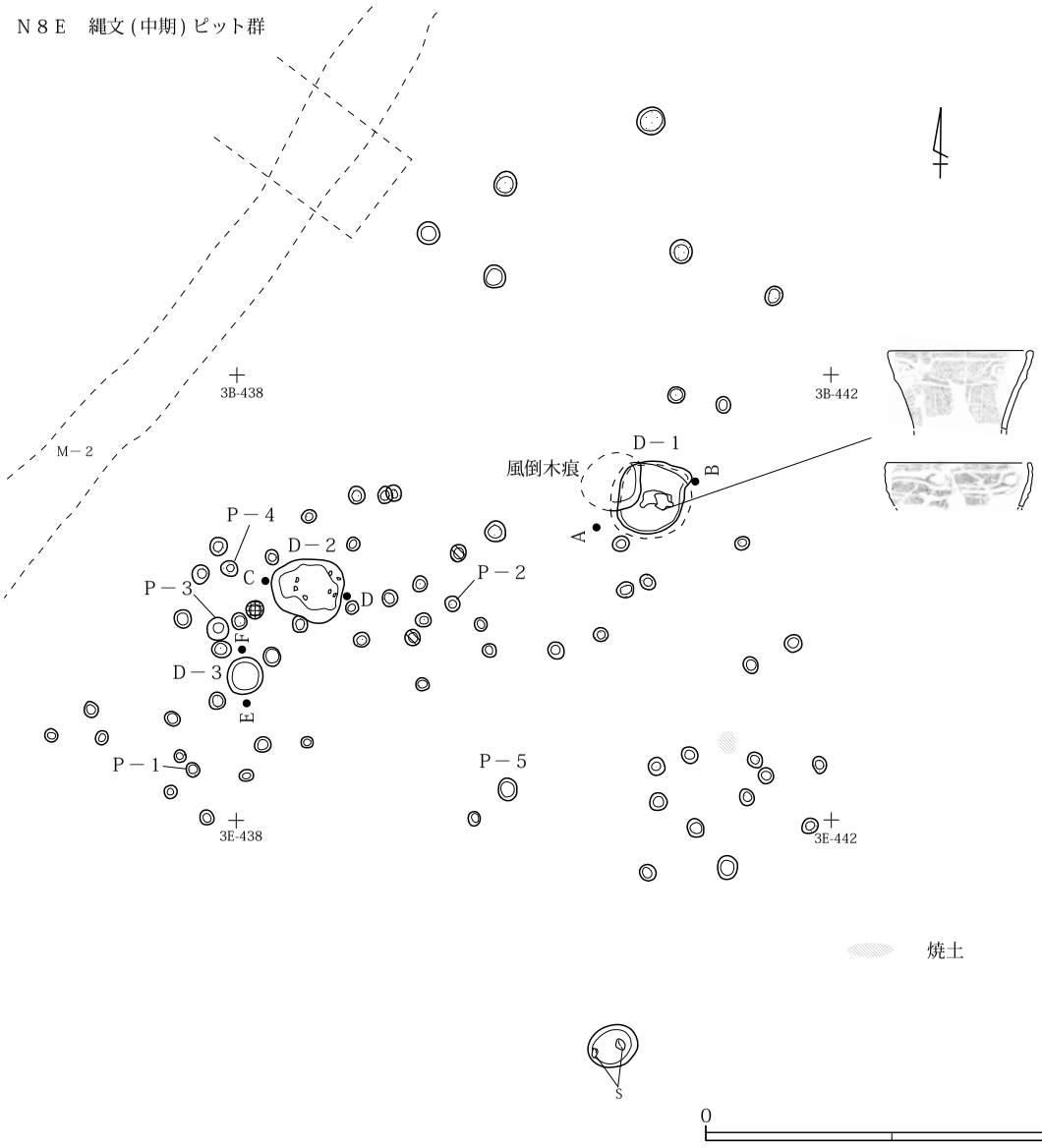
＜土坑（貯蔵穴）＞

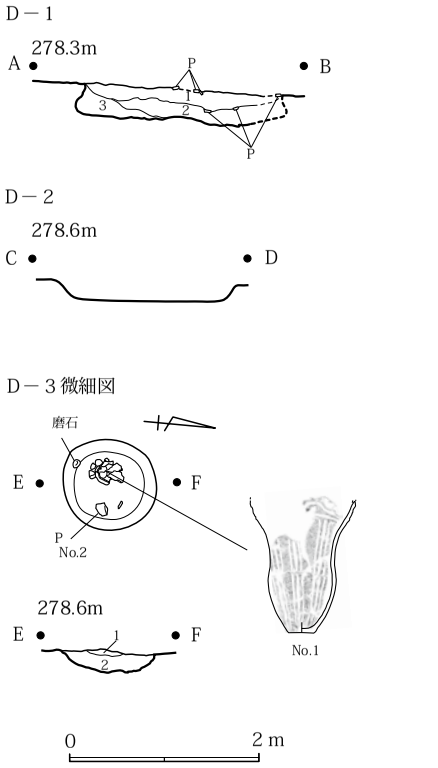
南東隅に多く、中央でも認められた。無いものは２軒である。

＜柱穴＞

床中央に２本対称となる４本柱が３軒、無いのが３軒である。

＜炉＞





	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
D－1	1	暗褐色土層10YR		◎	○	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	※	×	×	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	◎	○	※	×	×	※
D－3	1	暗褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	◎	○	×	×	×	

第335図　人見西向原遺跡（縄文）土坑・ピット群実測図

中央北にあるのが３軒（いずれもＡでⅡ期１軒、Ⅲ期２軒)、無いのが４軒である。

＜覆土＞

Ｂ１は１軒（Ⅲ期)、Ｂ２は１軒（Ⅲ期)、Ｃは４軒（Ⅱ期）である。

＜遺物出土状況＞

Ｈ－１号住居址14区２層では、滑石製臼玉と製作関連遺物が大量に出土した。Ｈ－１、６号では、大量の土器廃棄が見られた。Ｈ－５、６号の貯蔵穴からは複数個体の土師器坏、甕類が出土した。

土坑（第339図、第43表）

Ｈ－５号の北側で確認した（Ｄ－１号)。覆土中から中期前半の土師器高坏片が出土した。

（５）古代の遺構

溝（第340～345・423図、第29・30表）

溝が確認された調査区をＥ区として、合計６条を確認した（Ｍ－２～６、８号)。Ｍ－２号溝は上人見遺跡を含め南北方向に約320m確認した。南側でＭ－１号溝と交差するが、切り合い関係から大溝（Ｍ－１号）が新しい。北側は低地まで延びていることを確認した。溝の形状は、人見西中原遺跡のＭ－４号と類似することから、古代の区画との関係性が強いと考えられる。Ｍ－２号と交差し、西へ延びる未完成のＭ－３号、Ｍ－２号から分岐して東側に延びるＭ－４号がある。Ｍ－４号の東側を調査したが、撹乱のため確認できなかった。交差する３条の溝の関係は、Ｍ－２号→Ｍ－４号→Ｍ－３号の順と考えられる。Ｍ－２号８区（上人見遺跡地点）では、覆土中位で埋没途中で使用された硬化面の範囲を確認した（第342図)。Ｍ－４号の東側２区では、埋め戻しによる土橋状遺構を確認した。Ｍ－８号はＭ－４号（２、３区）と平行し、東西両側で北側へ折れ、溝の手前で途切れる。Ｍ－５号は東側部分で角を確認したが、西側では途中で止まることを確認した。また、溝の切れた部分から直角となる部分に対して、追跡調査を実施したが、確認できなかった。東側の南へ延びる部分は、耕作撹乱によって確認できなかった。Ｍ－６号は、Ｅ区西側で確認した。地形に沿った方向が主軸となり、南北軸に対して約35度東に傾いている。長軸約110m、短軸はやや歪んで50～70mの規模である。主軸の南側の２隅は溝が途切れている。主軸東側については、耕作撹乱が広範囲に及んでいたため確認調査のみで溝の走向のみを確認した（破線部分)。Ｍ－６号溝の５区覆土から８世紀代の土師器坏が出土した。

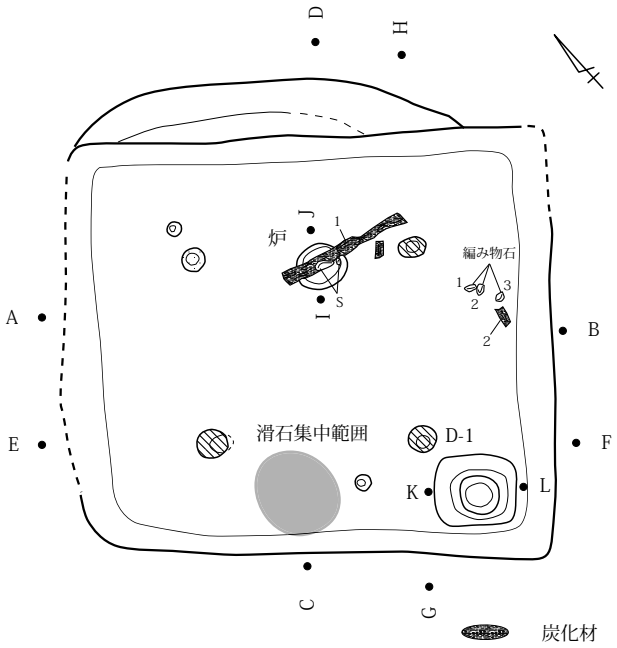
溝の覆土は、Ｍ－２号で底面付近を埋め戻し、その上部に硬化面が認められ、自然堆積によって埋没、そして、浅間Ｂ軽石が堆積する状態である。このような覆土は、道路状遺構及び同時期の古代の溝と共通する。確認された溝は、素堀の溝ではなく、底面を埋め戻しによってならしている状況が認められた。

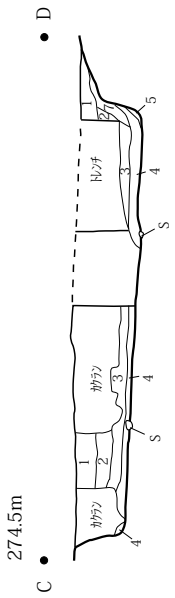
Ｍ－６号を除き、溝では、時期を判断できる遺物は出土しなかった。

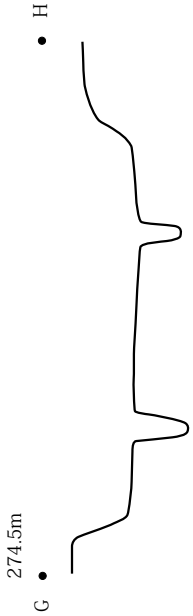
（６）中世の遺構

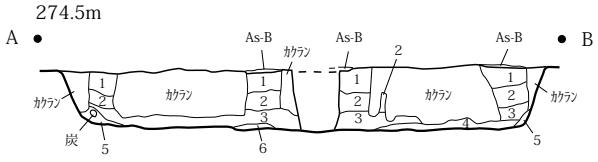
Ｍ－７号は、Ｍ－１号（20、21区）の覆土内で確認した（第427図参照)。溝の掘削年代は、浅間Ｂ軽石層を掘り抜いていることから、12世紀以降で、出土遺物から16世紀前半と推定される。

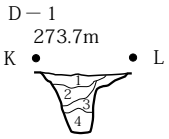
H－１号住

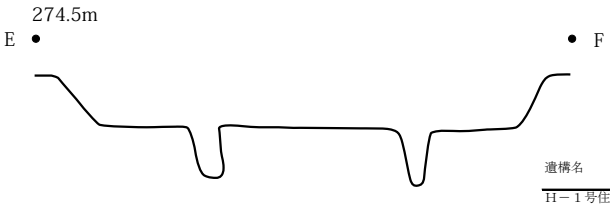




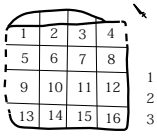








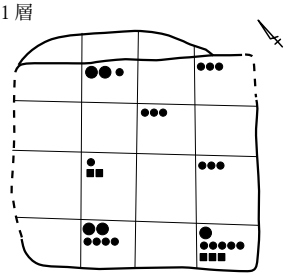
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－１号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※	※	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	△	△	※	×	※	×	
	6	黒褐色土層10YR		○	○				◎	
	7	暗褐色土層10YR	5＞7	×	△	×	×	×		
炉	覆土	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※	※
D－１	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	※		
	4	明褐色土層10YR	3＜4	○	○	○	※	△		



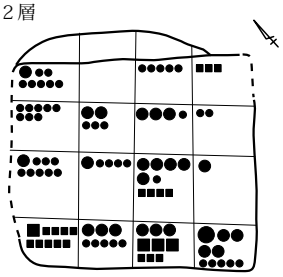
1層：30～40cm
2層：20～30cm
3層：0～10cm

土師器
坏　638g
甕　4,552g
計　5,190g

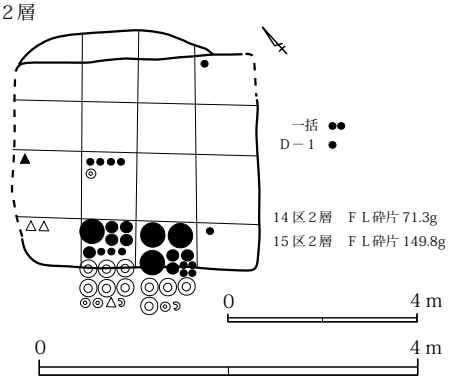
土器分布
1層



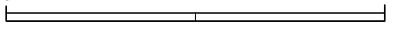
2層



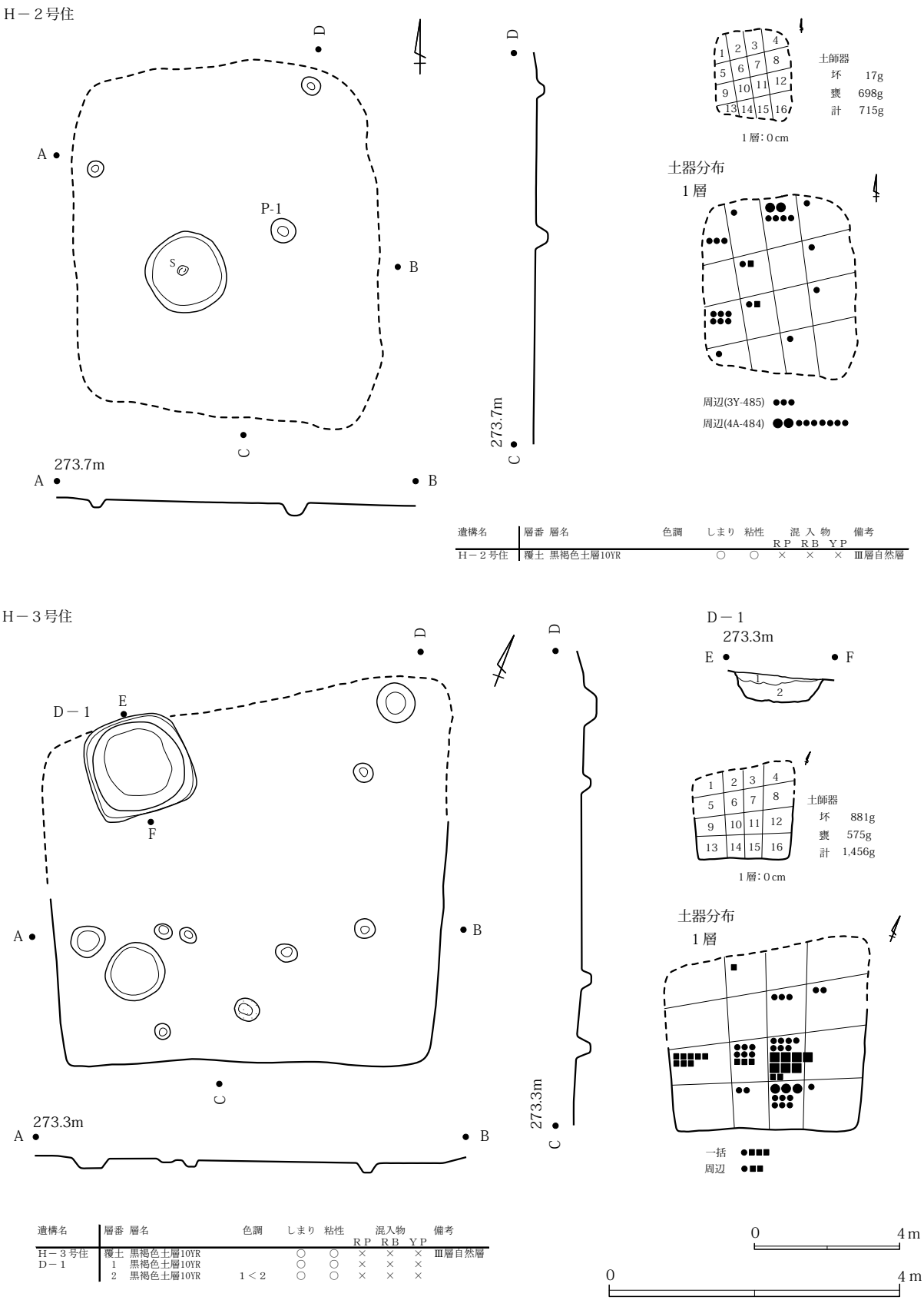
石器分布
2層



14区2層　FL砕片 71.3g
15区2層　FL砕片 149.8g

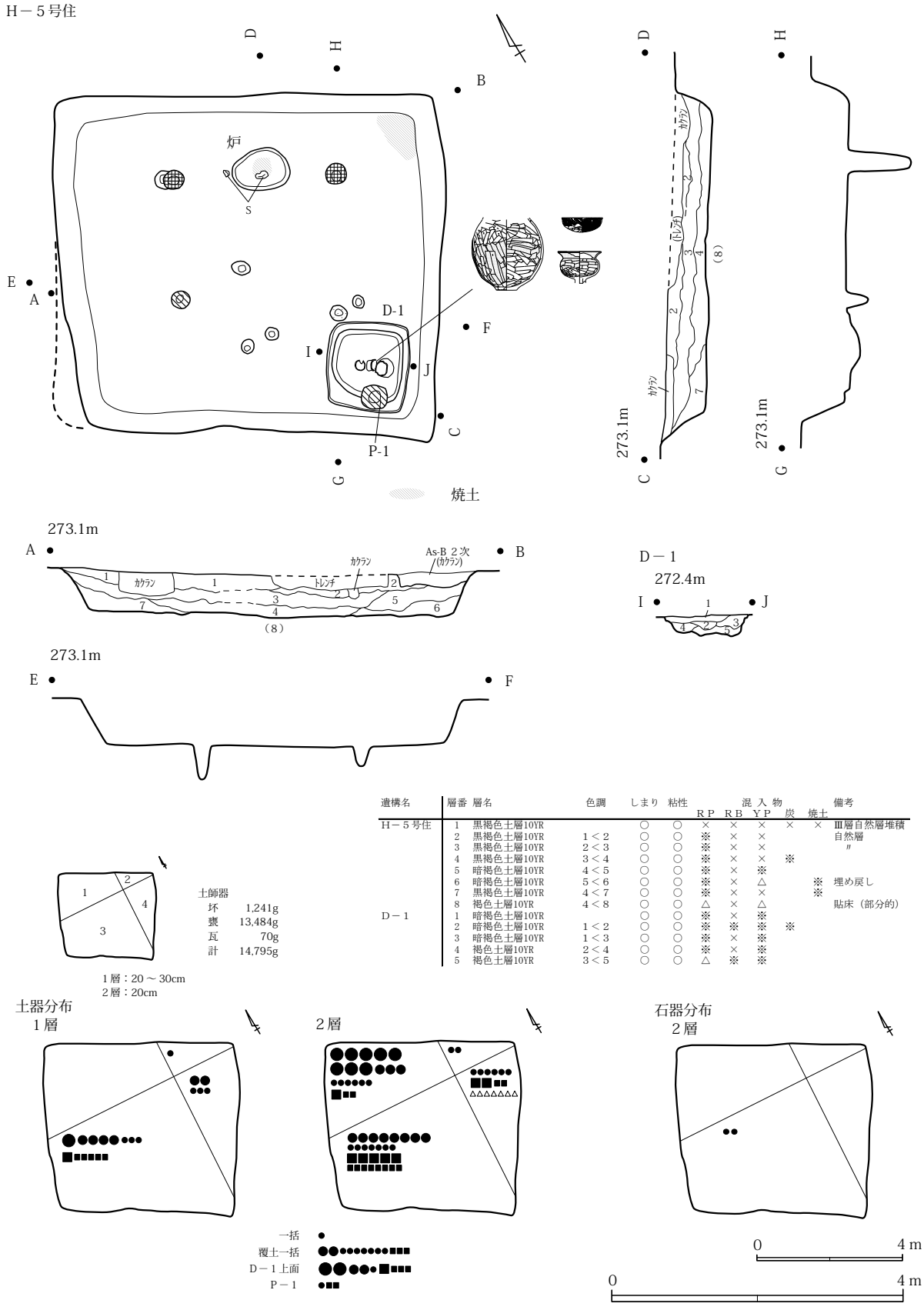


第336図　人見西向原遺跡（古墳）H－１号住居址実測図



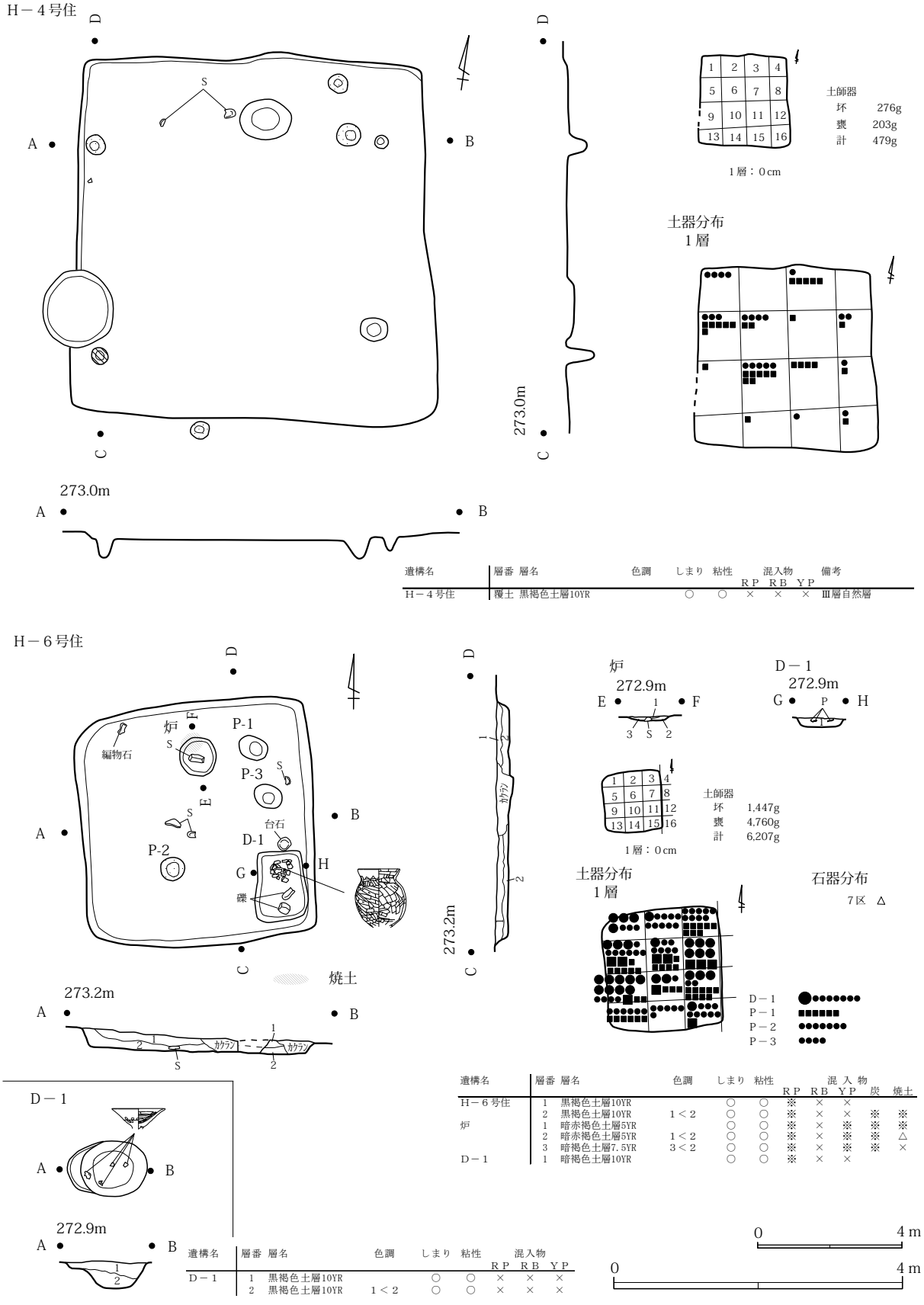
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
H－２号住		覆土 黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	Ⅲ層自然層
H－３号住		覆土 黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	Ⅲ層自然層
D－１	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	

第337図　人見西向原遺跡（古墳）H－２・３号住居址実測図

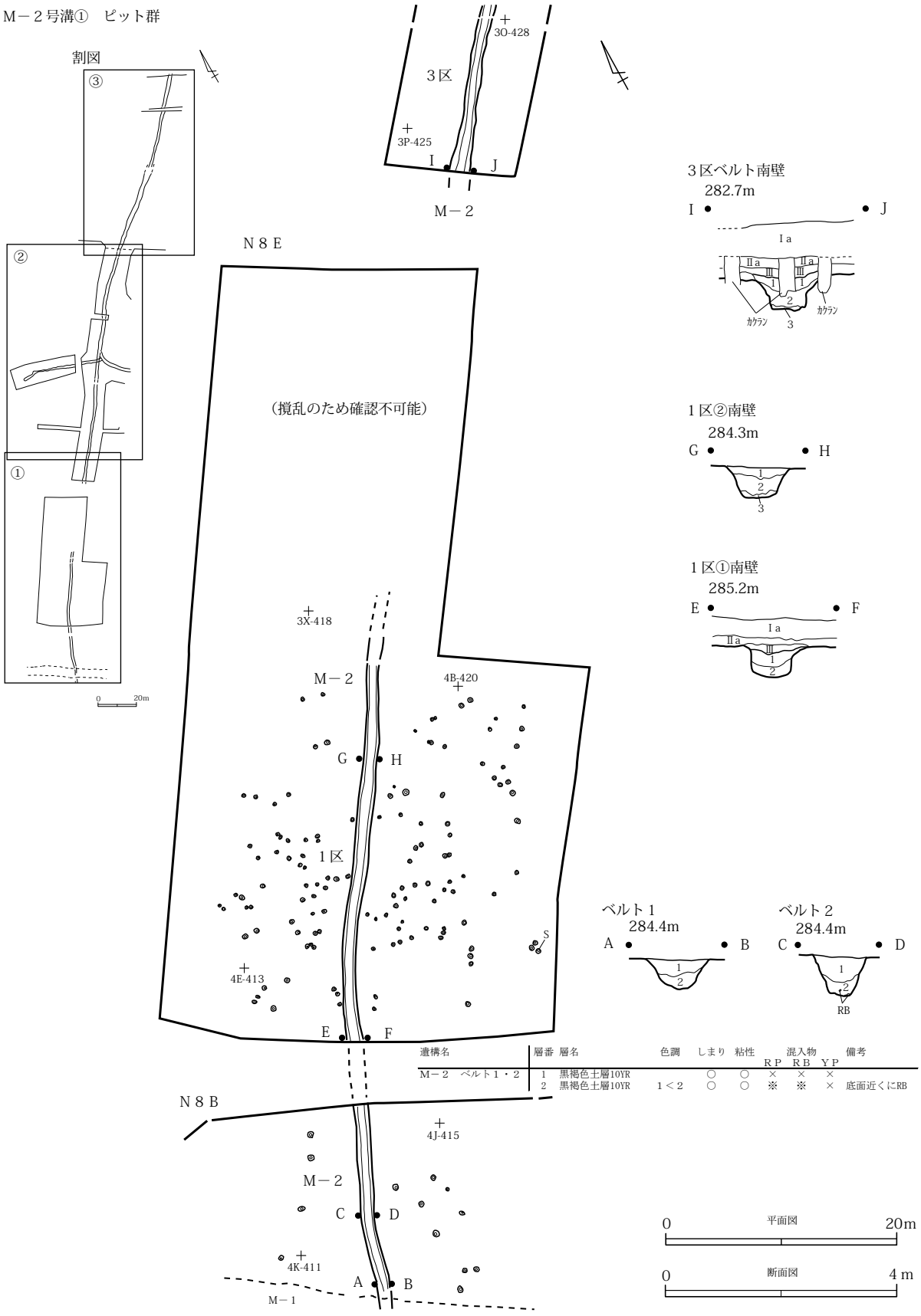


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－5号住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×	×	Ⅲ層自然層堆積
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			自然層
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×			〃
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×	※		
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	※			
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	△		※	埋め戻し
	7	黒褐色土層10YR	4＜7	○	○	※	×	×		※	
	8	褐色土層10YR	4＜8	○	○	△	×	△			貼床（部分的）
D－1	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※			
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※	※		
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	×	※			
	4	褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	×	※			
	5	褐色土層10YR	3＜5	○	○	△	※	※			

第338図　人見西向原遺跡（古墳）H－5号住居址実測図



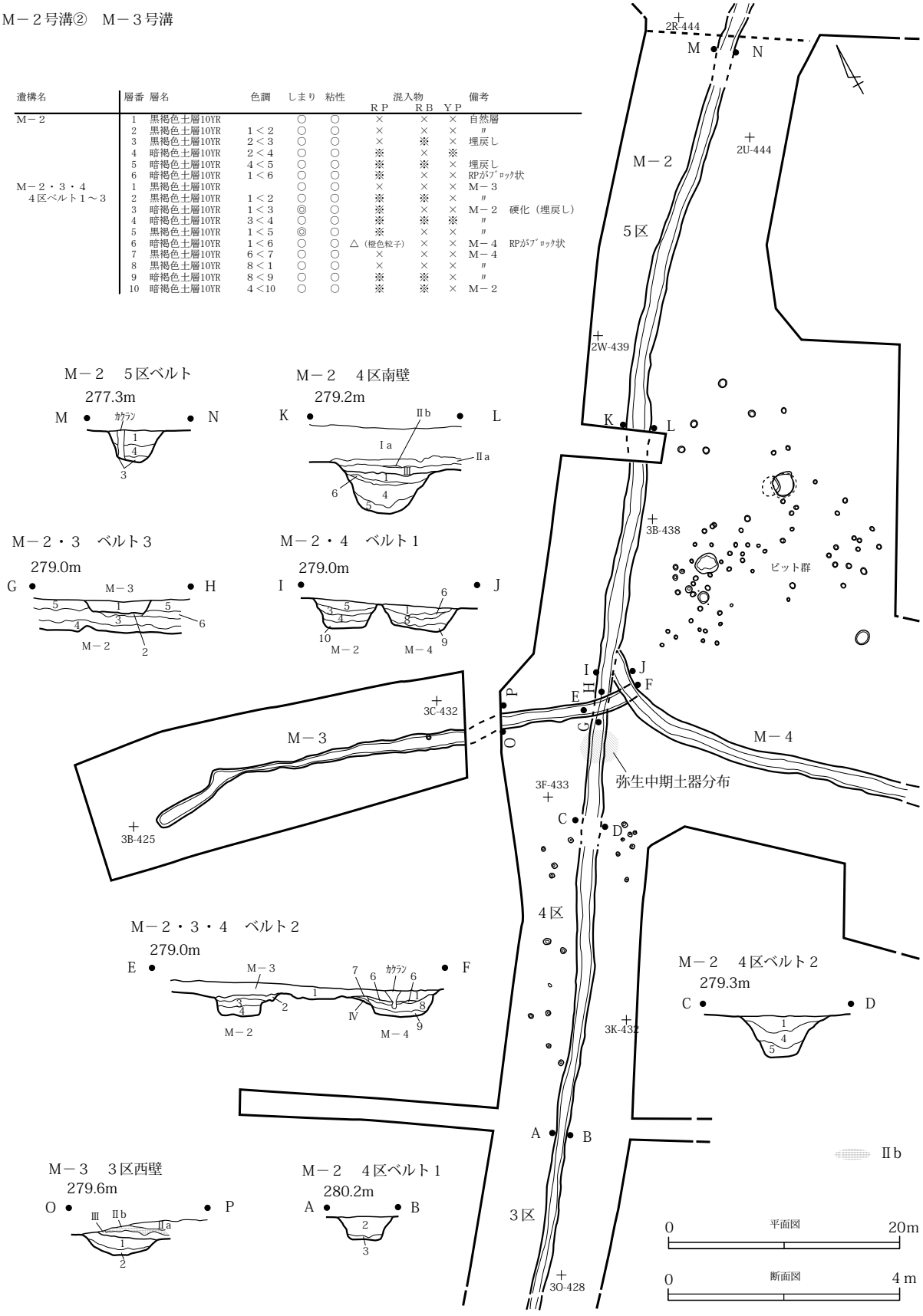
第339図　人見西向原遺跡（古墳）H－4・6号住居址、土坑実測図



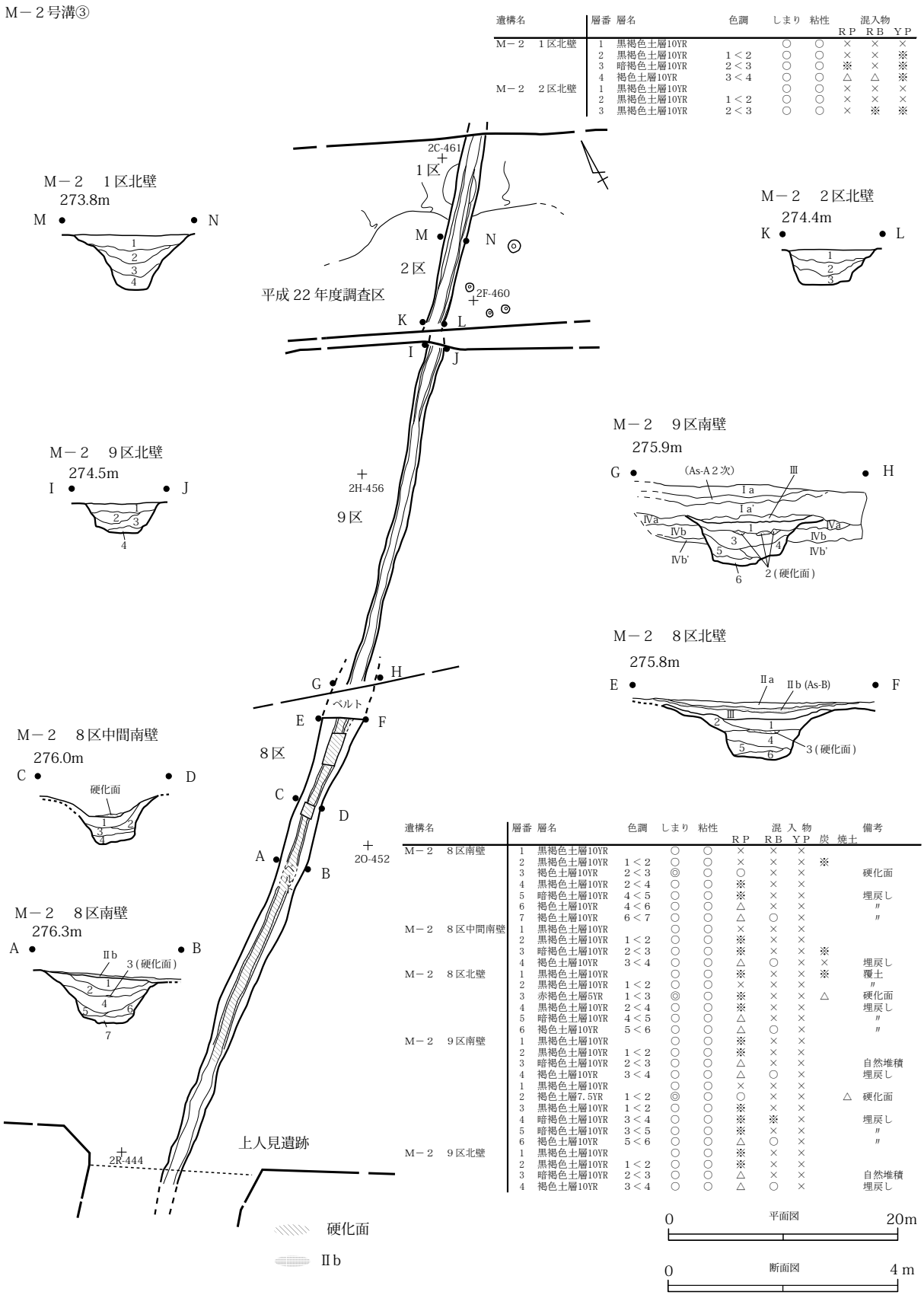
第340図　人見西向原遺跡（古代）Ｍ－２号溝実測図

M－２号溝②　M－３号溝

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
M－２	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	自然層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	〃
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	※	×	埋戻し
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	×	※	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	※	×	埋戻し
	6	暗褐色土層10YR	1＜6	○	○	※	×	×	RPがﾌﾞﾛｯｸ状
M－２・３・４ ４区ベルト１～３	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	M－３
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	×	〃
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	◎	○	※	×	×	M－２　硬化（埋戻し）
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	※	※	〃
	5	黒褐色土層10YR	1＜5	◎	○	※	×	×	〃
	6	暗褐色土層10YR	1＜6	○	○	△（橙色粒子）	×	×	M－４　RPがﾌﾞﾛｯｸ状
	7	黒褐色土層10YR	6＜7	○	○	×	×	×	M－４
	8	黒褐色土層10YR	8＜1	○	○	×	×	×	〃
	9	暗褐色土層10YR	8＜9	○	○	※	※	×	〃
	10	暗褐色土層10YR	4＜10	○	○	※	※	×	M－２



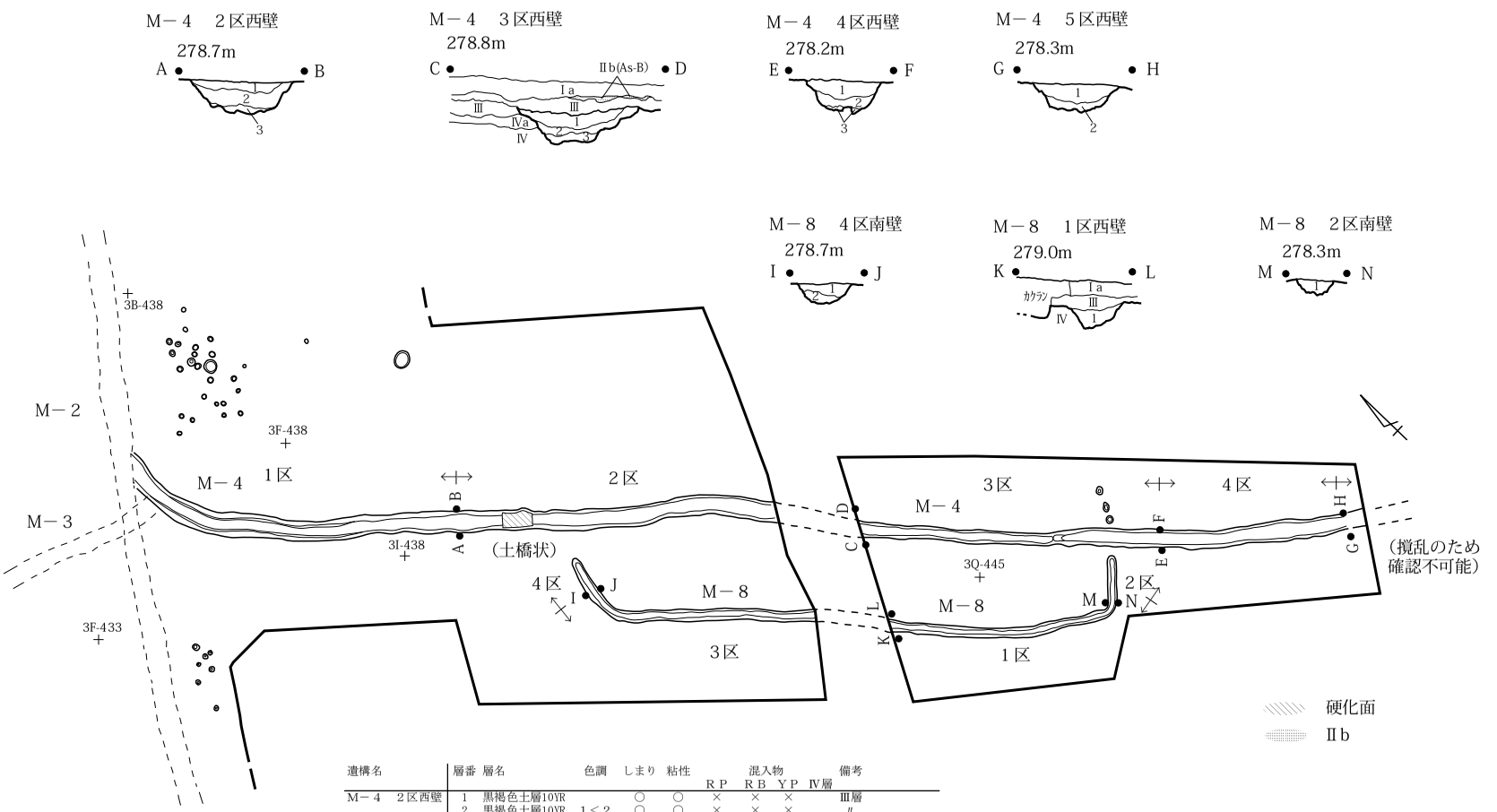
第341図　人見西向原遺跡（古代）M－２・３号溝実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
M－２　１区北壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	△	※
M－２　２区北壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	※	※

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 焼土	備考
M－２　８区南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	◎	○	○	×	×			硬化面
	4	黒褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	×	×			
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	×			埋戻し
	6	褐色土層10YR	4＜6	○	○	△	×	×			〃
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	○	×			〃
M－２　８区中間南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	※		
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	○	×	×		埋戻し
M－２　８区北壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	※		覆土
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			〃
	3	赤褐色土層5YR	1＜3	◎	○	※	×	×	△		硬化面
	4	黒褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	×	×			埋戻し
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	×	×			〃
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	○	×			〃
M－２　９区南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	×			自然堆積
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	○	×			埋戻し
M－２　９区北壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			
	2	褐色土層7.5YR	1＜2	◎	○	○	×	×		△	硬化面
	3	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	※	×			埋戻し
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	○	○	※	×	×			〃
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	○	×			〃
M－２　９区北壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×			
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	×			自然堆積
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	○	×			埋戻し

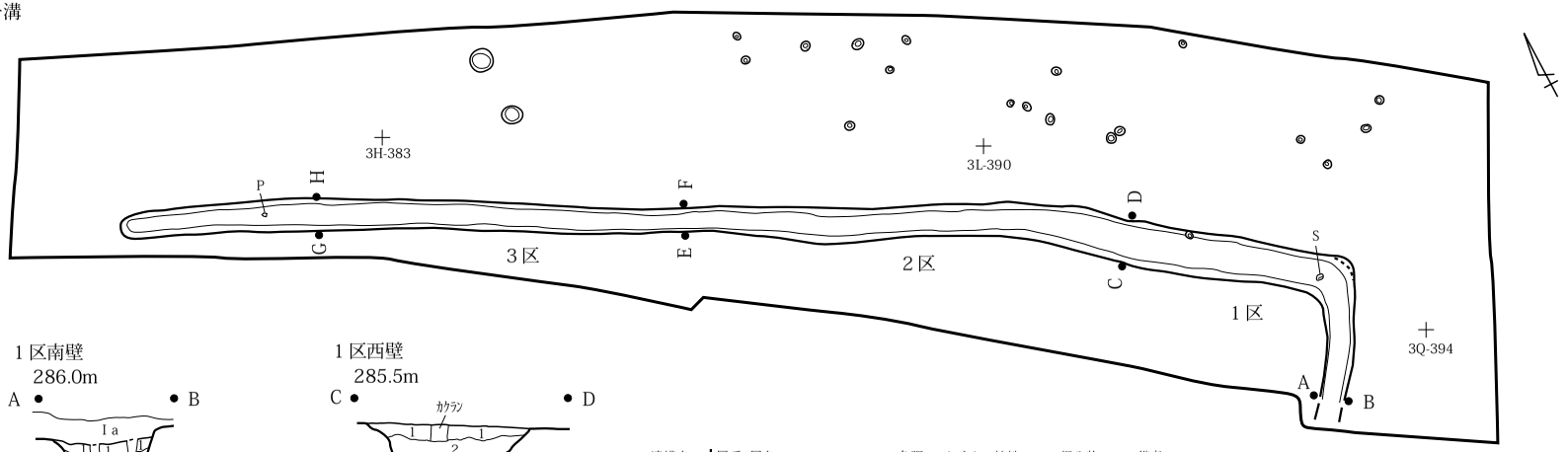
第342図　人見西向原遺跡（古代）M－２号溝実測図

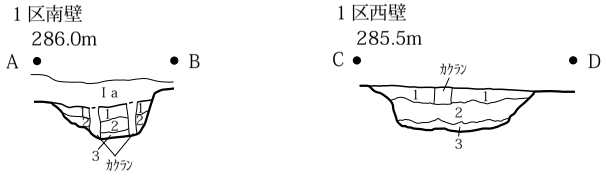


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	Ⅳ層	備考
M－4　2区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		〃
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×		埋戻し
M－4　3区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×		
M－4　4区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		〃
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×	※	Ⅳ層ﾌﾞﾛｯｸ、埋戻し
M－4　5区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		素掘り
M－8　1・2区	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		Ⅲ層（自然）
M－8　4区南壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		

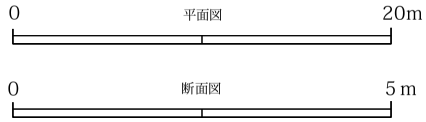
第343図　人見西向原遺跡（古代）M－4・8号溝実測図

M－５号溝

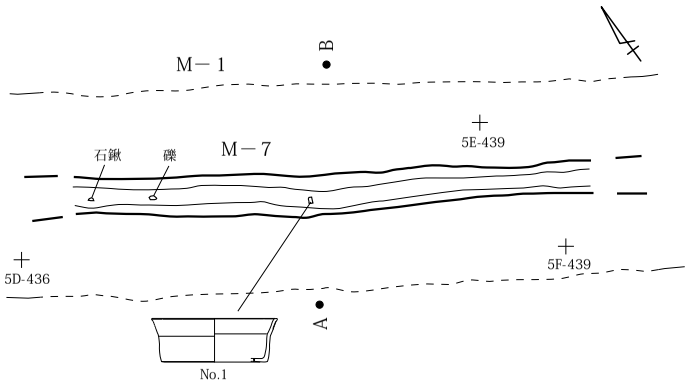


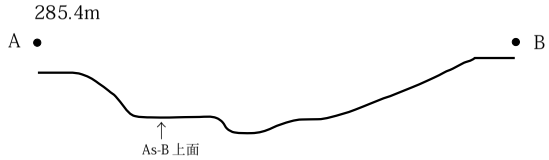


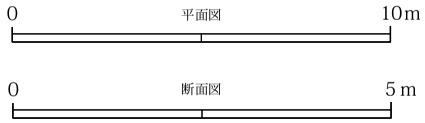
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
M－５	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×	埋戻し



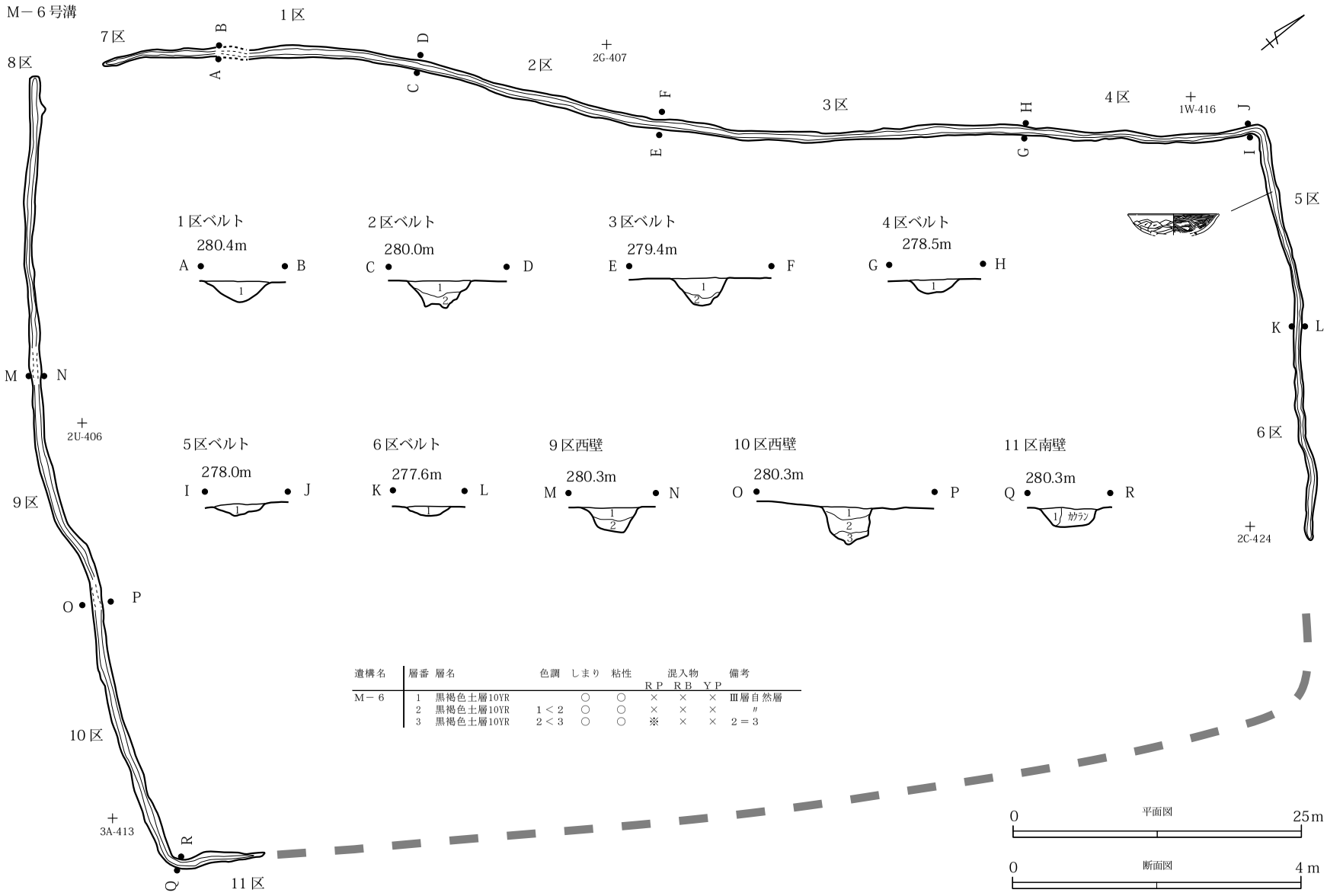
M－７号溝







第344図　人見西向原遺跡（古代）M－５号溝実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
M－６	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	Ⅲ層自然層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	〃
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	2＝3

第345図　人見西向原遺跡（古代）M－６号溝実測図

9　人見本村遺跡（第346～352図）

（1）概要

本遺跡は、人見西中原遺跡の北側、浅い谷を挟んだ南斜面に立地する。調査対象範囲が狭いため、トレンチ調査を中心に部分的調査を実施した。道路西側の低地に接する部分（A区）では、古墳中期、古代の小規模集落を確認した。低地部分では、現地形よりさらに深いところに湧水が存在することを確認した。工事境界付近では、中世の道路状遺構を確認した（B区）。

縄文・弥生時代の遺構、遺物は確認されなかった。

古墳時代では、A区で中期前半の住居址４軒（H－１、２、４、５号）を確認した。本調査区付近では、以前より遺物が採集されていたため、トレンチによる集落の範囲確認調査を行った。しかし、B区のトレンチ内から小形壺（坩）が単独出土したのみで、人見西中原遺跡の北側、工区内における遺構の広がりは確認できなかった。

奈良時代では、A区で８世紀初頭の住居址１軒（H－３号）、掘立柱建物址１棟（HT－１号）、柵列（SA－１号）を確認した。確認遺構の密度は薄いものの、これまでの調査では無かった大溝区画内における掘建柱建物、柵列を確認し、集落の規模は小さいが、道路及び牧関連遺構群に関連する同時期の遺構群と考えられる。

中世では、区で覆土に浅間B軽石を含む溝２条（M－１・２号）を確認した。両溝は並行し、規模が類似、一部地割りに沿う遺構と推定されることから、道路側溝の可能性が考えられる。

（2）古墳時代の遺構

住居址（第347～350図、第17表）

A区で４軒確認した（Ⅱ期２軒、Ⅲ期１軒、中期１軒）。

＜平面形態＞

小形正方形１軒（中期）、中形正方形１軒（Ⅱ期）、中形長方形２軒（Ⅱ期１軒、Ⅲ期１軒）である。焼失住居は１軒である（H－１号）。中形が多くやや方形気味となる。H－１、４号は掘り込みが深い。

＜主軸方向＞

ほぼ真北が１軒（Ⅱ期１軒、中期１軒）、北から北東に向くのが１軒（Ⅲ期１軒）、北から北西に向くのが１軒（Ⅱ期１軒）である。住居主軸は地形に沿って向いているが、H－１号のみ斜面に対してやや直交している。

＜壁溝＞

全て無し。

＜土坑（貯蔵穴）＞

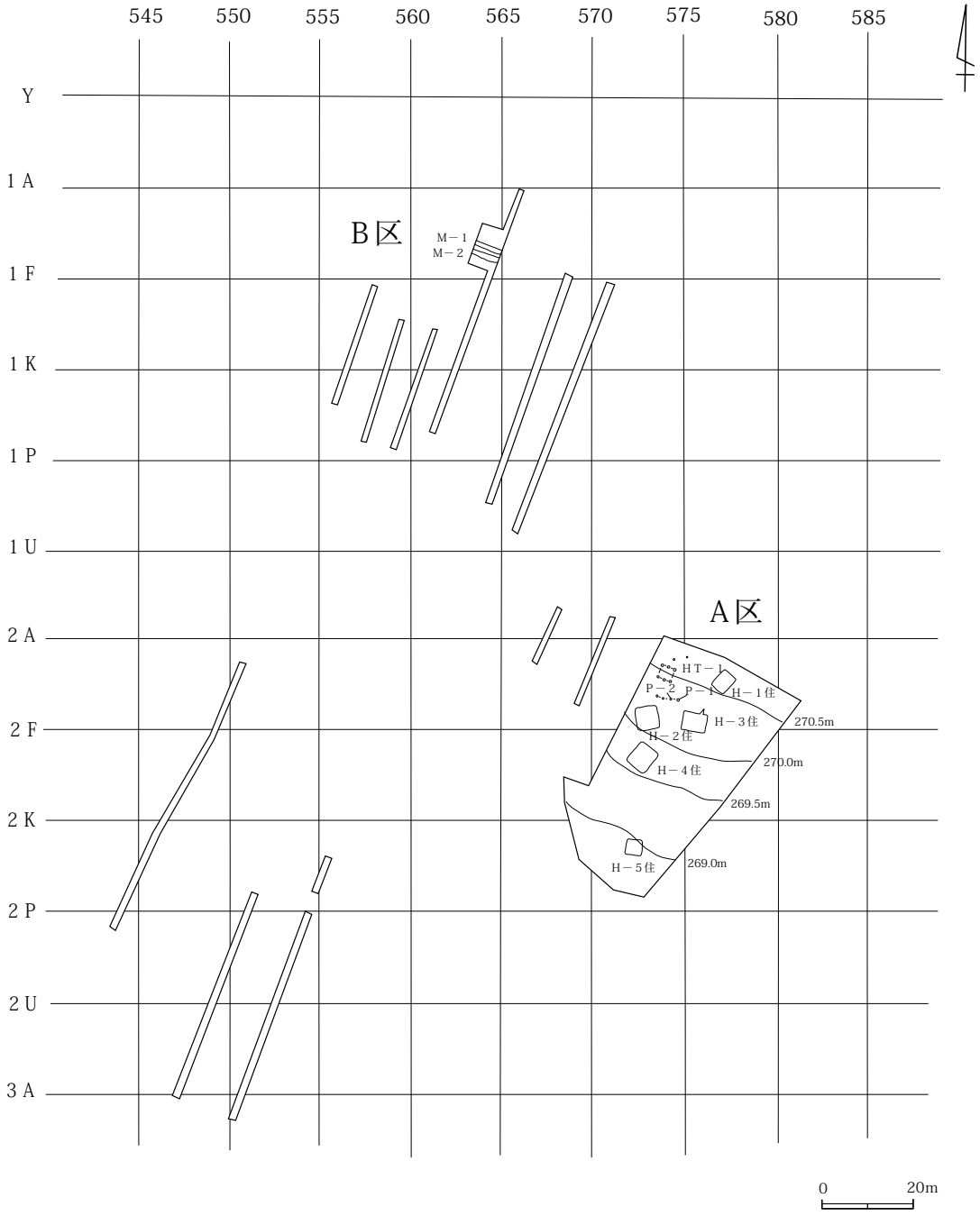
南東隅が多い。

＜柱穴＞

中央で２本対称となる４本柱が１軒、無いのが３軒である。

＜炉＞

中央北にあるのが３軒（AがⅡ期１軒、Ⅲ期１軒、B２が中期１軒）、H－１号は西に位置する（A）。



第346図　人見本村遺跡　遺構配置図

Ｈ－４号は２基存在する。

＜覆土＞

Ａ１は２軒（Ⅱ期、中期)、Ａ２は１軒（Ⅱ期)、Ｂ１は１軒（Ⅲ期）である。

＜遺物出土状況＞

Ｈ－１号は焼失住居で床面に大量の炭化材が検出された。また、覆土上部（１～２層）では、住居の窪地を利用した古代土器の廃棄が認められた。Ｈ－４号では、床面に甕転用器台が置かれていた。遺物は使用直後の廃棄による下層より、自然埋没後にの廃棄による上層で出土する傾向が認められ、遺物から住居埋没過程の時間差が確認できた。

（３）古代の遺構

住居址（第351図、第21表）

Ａ区で１軒（Ｈ－３号）確認した。平面長方形、壁溝をもつ竪穴住居址で、北辺東寄りに竈がある。柱穴はない。覆土上位には、浅間Ｂ軽石が堆積する。床面には、焼土痕が４カ所認められた。竈は地山を掘削し、粘土のみで構築された簡易構造である。主軸は、Ｎ－９°－Ｅである。大きさは、長軸4.2ｍ、短軸5.4ｍ、深さ0.6ｍである。遺物は、２層下から竈周辺の床面を中心に完形を含む多数の土器が出土した。遺物の時期は、８世紀初頭に帰属される。

掘立柱建物址（第351図、第32表）

Ａ区で２列に並ぶピット列（３基×２列）を確認した。配置、覆土の状況から掘立柱建物址（ＨＴ－１号）とした。桁行２間（心心距離3.0ｍ）×梁行１間（心心距離2.7ｍ）である。ピットからは、土師器片が出土した。

柵列（第351図、第32表）

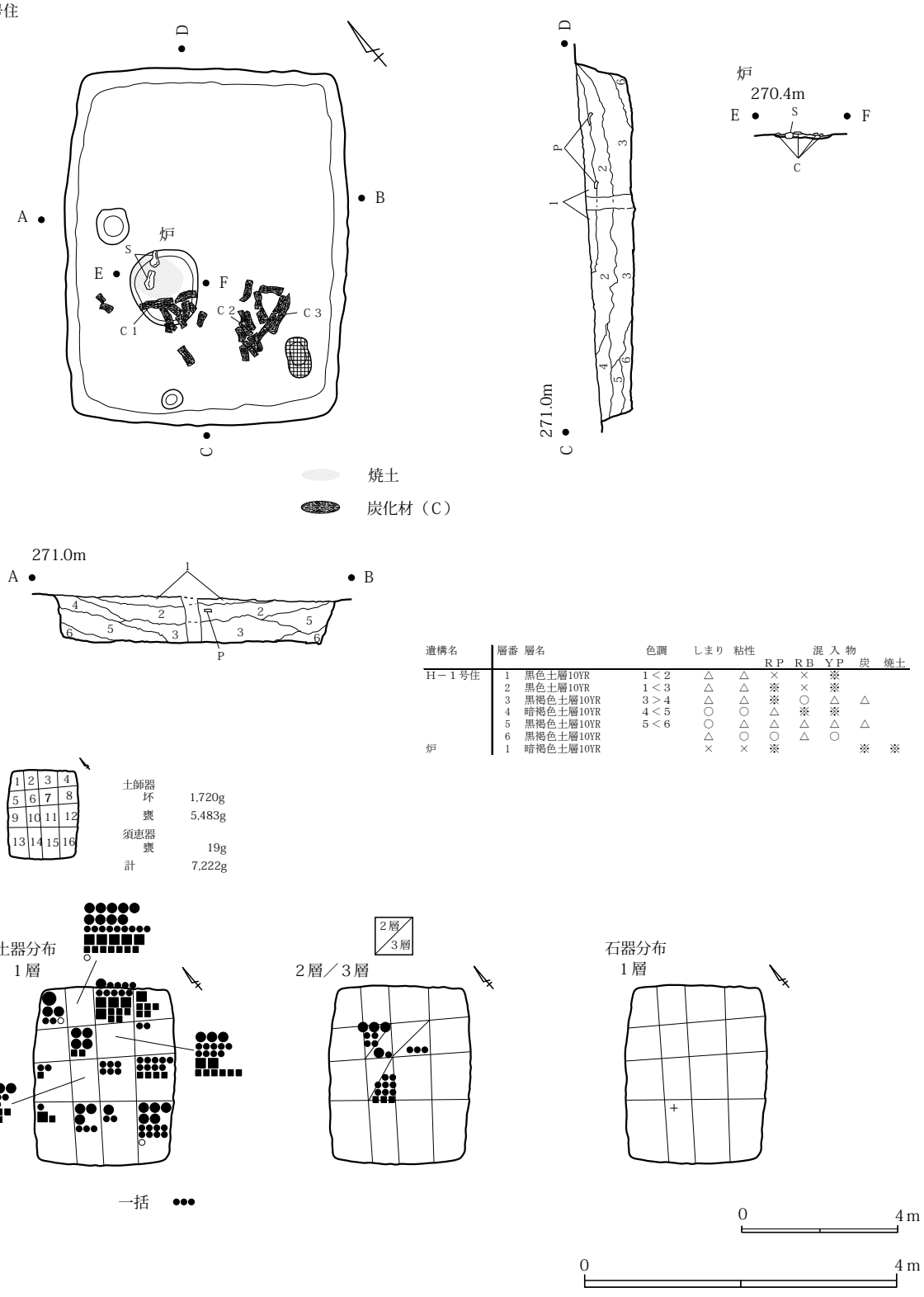
Ａ区で１列に並ぶピット４基を確認した（ＳＡ－１号)。覆土はＨＴ－１と類似する黒色土（Ⅲ層）であることから、同時期の遺構と判断した。

（４）中世の遺構

道路状遺構（第352図、第32表）

Ｂ区では、２本の平行する溝を確認した（Ｍ－１、２号)。２本の溝は形状が類似していることから、中世の道路側溝とした。遺構の北には人見城が存在し、道路の方向は地割りに沿っており、道路延長線上には幾つかのルートが推定できる。両側側溝をもつ中世以降の道路は、人見枝谷津遺跡（Ａ区)、下高田上原遺跡（近世）で確認されている。人見枝谷津遺跡の道路と本遺跡の道路は形態が類似していることから、同一遺構の可能性が考えられる。関連遺構として道路と考えられる溝底部あるいは地面に硬化面が続くのは、人見枝谷津遺跡（古代道路と並行)、横野台地南側の大溝に沿った場所（人見向原・西向原遺跡）及び並行する現在の道路部分下で確認されている。

H－１号住

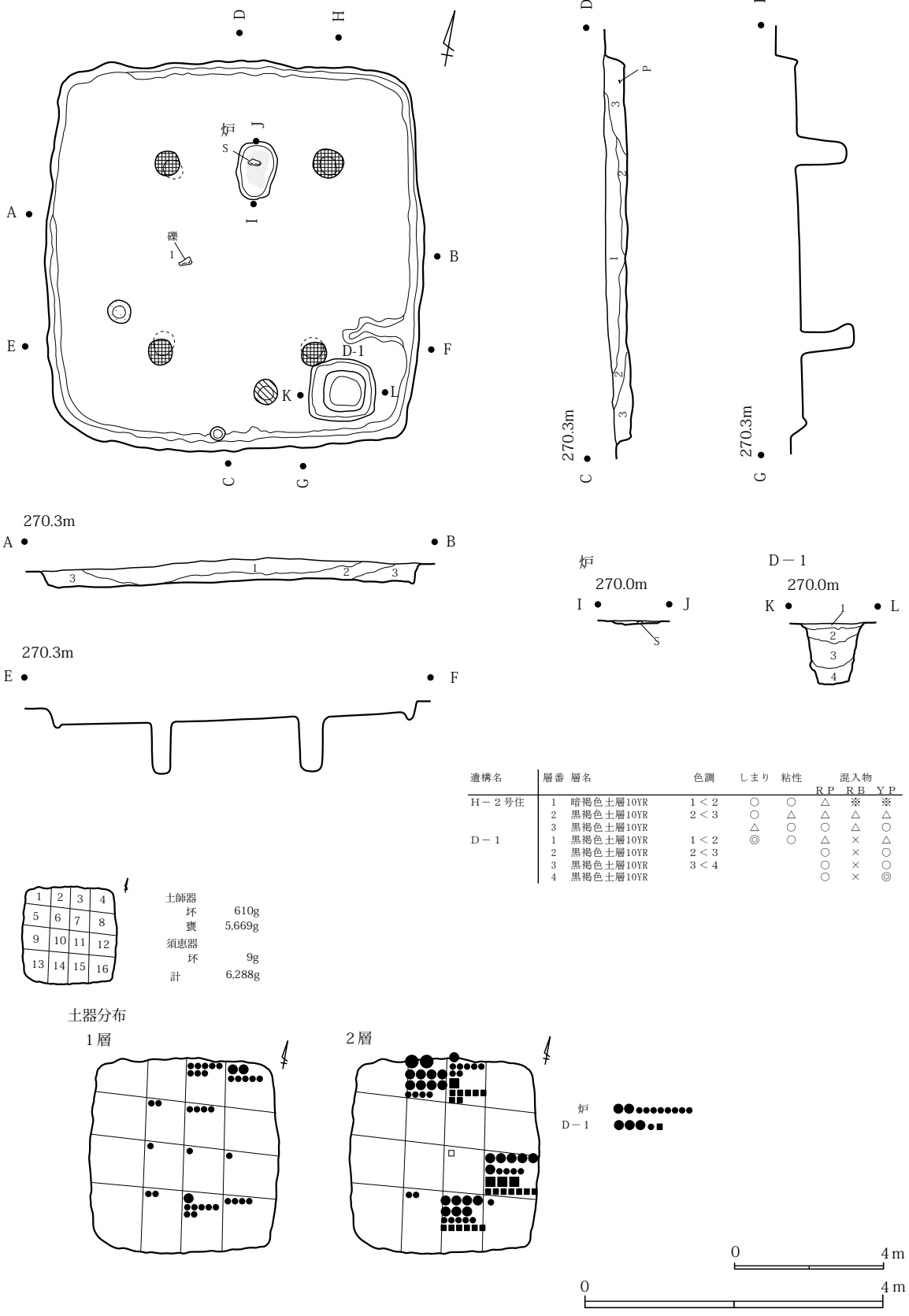


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土
H－１号住	1	黒色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	※		
	2	黒色土層10YR	1＜3	△	△	※	×	※		
	3	黒褐色土層10YR	3＞4	△	△	※	○	△	△	
	4	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	※	※		
	5	黒褐色土層10YR	5＜6	○	△	△	△	△	△	
	6	黒褐色土層10YR		△	○	○	△	○		
炉	1	暗褐色土層10YR		×	×	※			※	※

土師器	
坏	1,720g
甕	5,483g
須恵器	
甕	19g
計	7,222g

第347図　人見本村遺跡（古墳）H－１号住居址実測図

H－２号住

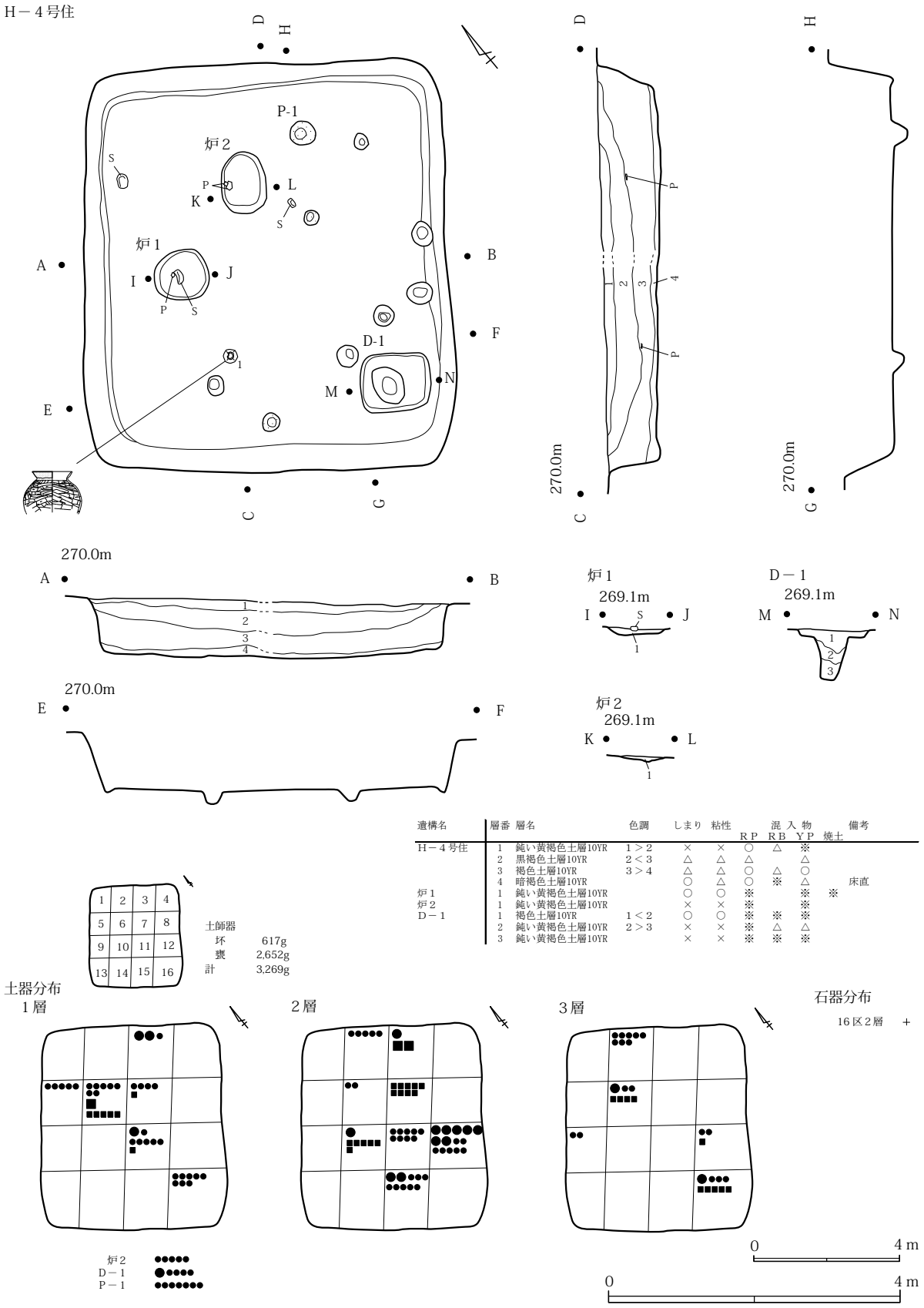


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
H－２号住	1	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※
	2	黒褐色土層10YR	2＜3	○	△	△	△	△
	3	黒褐色土層10YR		△	○	○	△	○
D－１	1	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	×	△
	2	黒褐色土層10YR	2＜3			○	×	○
	3	黒褐色土層10YR	3＜4			○	×	○
	4	黒褐色土層10YR				○	×	◎

土師器	
坏	610g
甕	5,669g
須恵器	
坏	9g
計	6,288g

土器分布

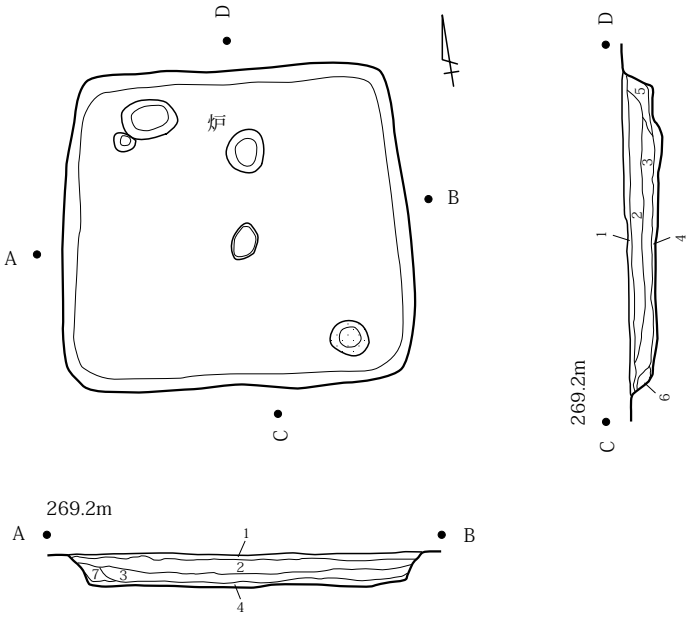
第348図　人見本村遺跡（古墳）H－２号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	焼土	備考
H－4号住	1	鈍い黄褐色土層10YR	1＞2	×	×	○	△	※		
	2	黒褐色土層10YR	2＜3	△	△	△		△		
	3	褐色土層10YR	3＞4	△	△	○	△	○		
	4	暗褐色土層10YR		○	△	○	※	△		床直
炉1	1	鈍い黄褐色土層10YR		○	○	※		※	※	
炉2	1	鈍い黄褐色土層10YR		×	×	※		※		
D－1	1	褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	※		
	2	鈍い黄褐色土層10YR	2＞3	×	×	※	△	△		
	3	鈍い黄褐色土層10YR		×	×	※	※	※		

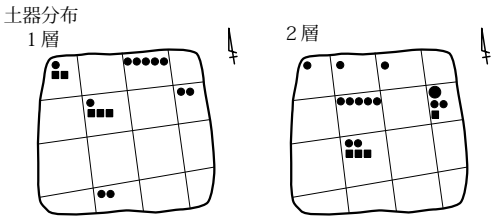
第349図　人見本村遺跡（古墳）H－4号住居址実測図

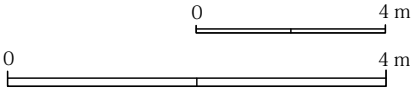
H－5号住



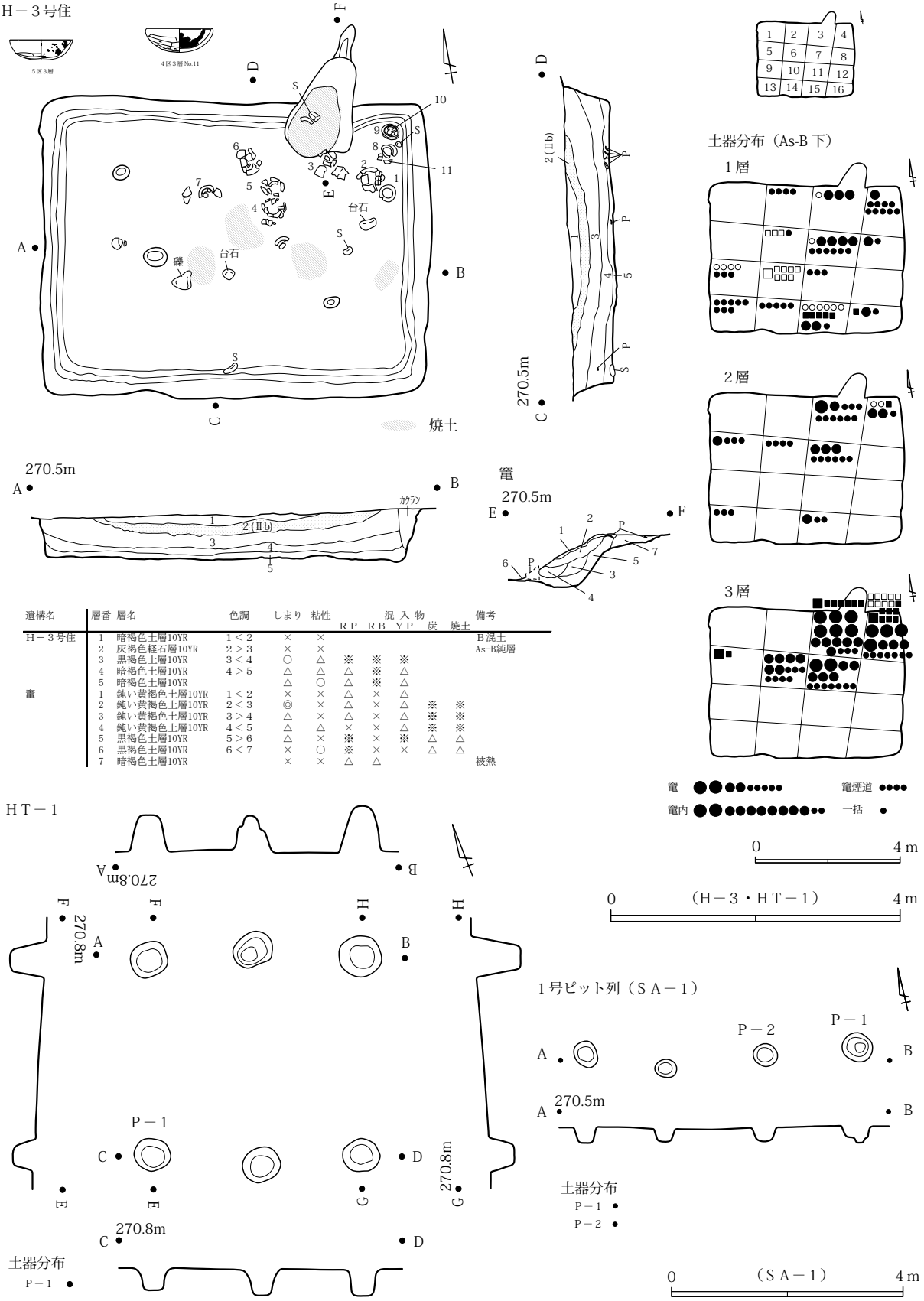
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 炭	混入物 焼土	備考
H－5号住	1	暗褐色土層10YR	1＜2	×	×	※				
	2	暗褐色土層10YR	2＜3	×	×	※			※	
	3	暗褐色土層10YR	3＞4	○	○	※	※	※	※	
	4	鈍い黄褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	△	※	※	床
	5	暗褐色土層10YR	5＝6	△	×	△	△	△	※	
	6	暗褐色土層10YR	6＞7	◎	×	△		△	B△	
	7	暗褐色土層10YR		△	△	※		△	△	

土師器
坏　89g
甕　314g
計　403g





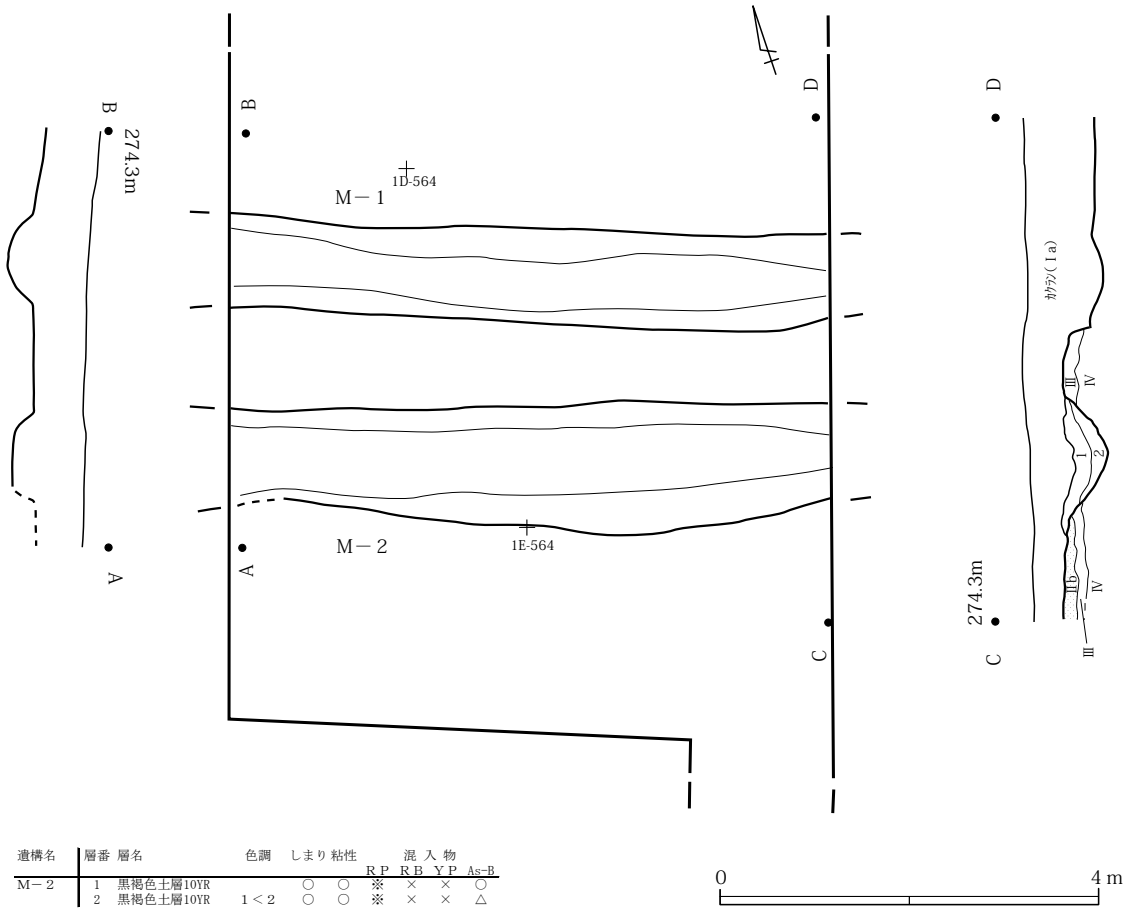
第350図　人見本村遺跡（古墳）H－5号住居址実測図



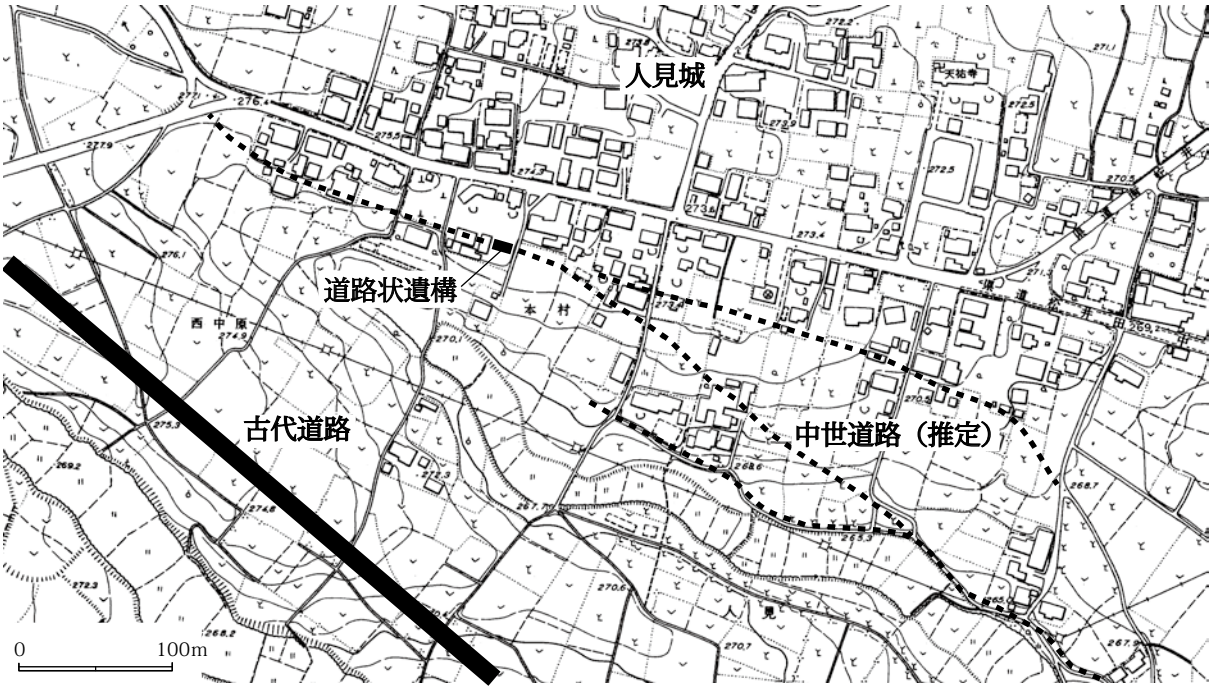
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	備考
H－３号住	1	暗褐色土層10YR	1＜2	×	×						B混土
	2	灰褐色軽石層10YR	2＞3	×	×						As-B純層
	3	黒褐色土層10YR	3＜4	○	△	※	※	※			
	4	暗褐色土層10YR	4＞5	△	△	△	※	△			
	5	暗褐色土層10YR		△	○	△	※	△			
竈	1	鈍い黄褐色土層10YR	1＜2	×	×	△	×	△			
	2	鈍い黄褐色土層10YR	2＜3	◎	×	△	×	△	※	※	
	3	鈍い黄褐色土層10YR	3＞4	△	×	△	×	△	※	※	
	4	鈍い黄褐色土層10YR	4＜5	△	△	×	×	△	※	※	
	5	黒褐色土層10YR	5＞6	△	×	※	×	※	△	△	
	6	黒褐色土層10YR	6＜7	×	○	※	×	×	△	△	
	7	暗褐色土層10YR		×	×	△	△				被熱

第351図　人見本村遺跡（古代）H－３号住居址・掘立柱建物址・ピット列実測図

M－１・M－２号溝



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
M－2	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	○
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	△



第352図　人見本村遺跡（古代中世）M－１・２号溝（道路状遺構）実測図・道路推定図

10　上人見遺跡（第353～376図）

（１）概要

本遺跡は、昭和35年に耕作中に偶然発見された遺跡で、弥生時代の再葬墓遺跡として周知されている（群馬県遺跡台帳№2985、「上人見1313遺跡」）。昭和40年に群馬県立博物館（当時）と東京大学文化人類学研究室による合同調査が、最初に発見された地点を中心に行われた（１次調査地点）。その後、当時の発掘調査は、未報告であるが、出土土器の一部については公表され、土器編年等の研究に使われている（梅澤1986他）。今回の事業では、当時の発掘調査地点を含めて遺跡のほぼ全域が調査対象となった。そこで、当時の発掘調査地点の再調査とその周辺部の調査の２つを柱とした発掘調査を行うことになった。なお、本遺跡は、「人見西向原遺跡」の一部であるが、遺跡の性格上、「上人見遺跡」として遺跡名を変えずに呼称することにした。

上人見遺跡は、碓氷川右岸上位段丘上の帯状の低湿地に面した微高地の緩斜面に立地する。遺跡の標高は272～276ｍである。低湿地には、湧水が存在する。本遺跡の西には、妙義山を中心として南西に大桁山、北西に浅間山がある。

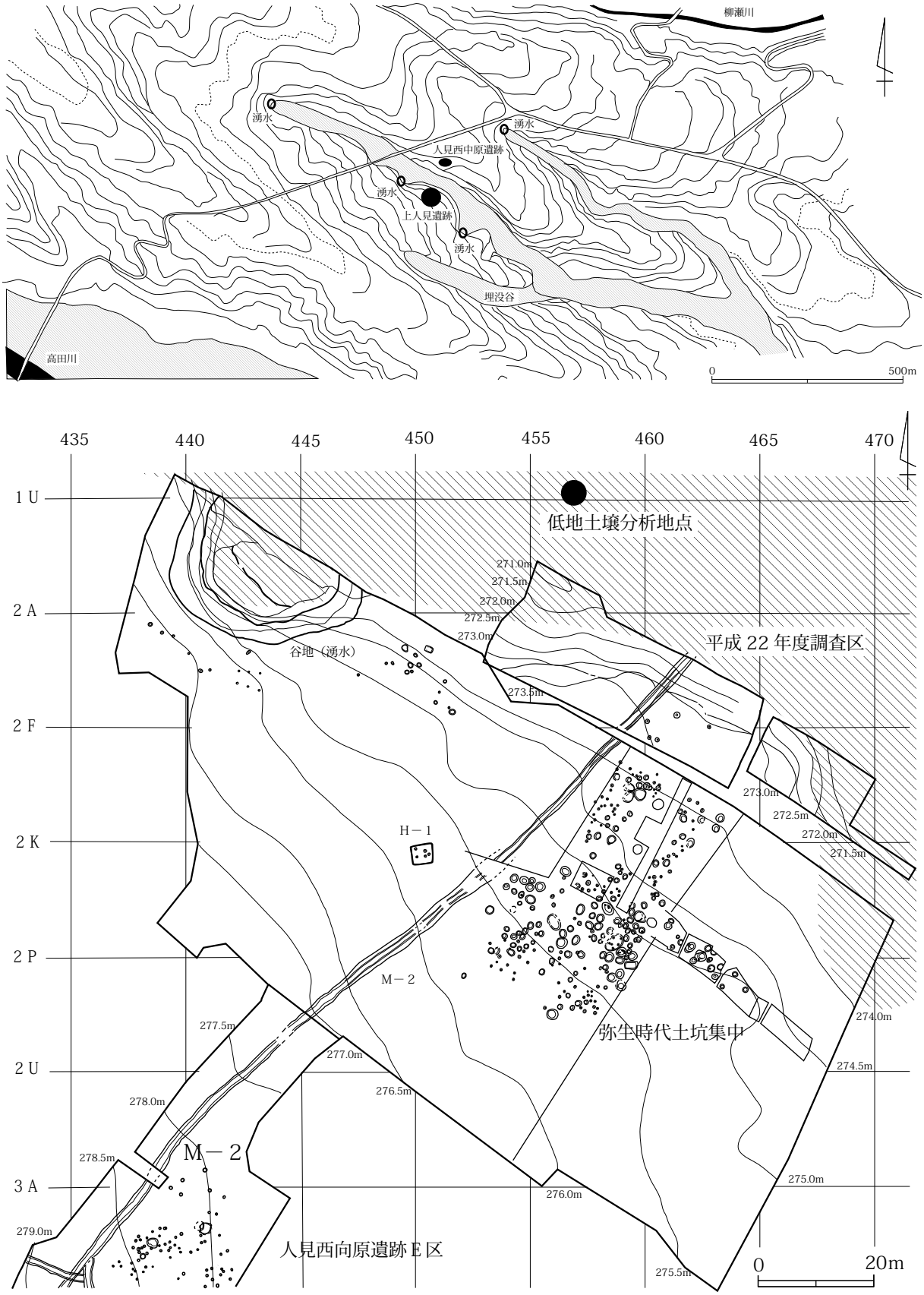
縄文時代では、前期後葉（諸磯ｂ式期）と中期後葉（加曽利ＥⅢ式期）の土坑１基、ピット少数を確認し、各時期の土器、石器が少数出土した。

弥生時代では、平成22年度後半に道路部分の調査で、低地に面する部分を対象とした予備調査を行い、遺跡が埋没谷に挟まれた台地の張出部に存在することを確認した。この部分を対象とした調査では、遺物包含層は、Ⅴ層まで削平されていたため、遺構は確認できず、表土に混入した条痕文系の土器、石器が出土したのみであった。また、低地部（西向原地区）については、稲作等の生業活動を確認するために２か所のトレンチを設定し、Ａトレンチ（ＴＰＡ）でのプラントオパール分析を行った。なお、トレンチ調査では、遺構、遺物は確認されなかった。

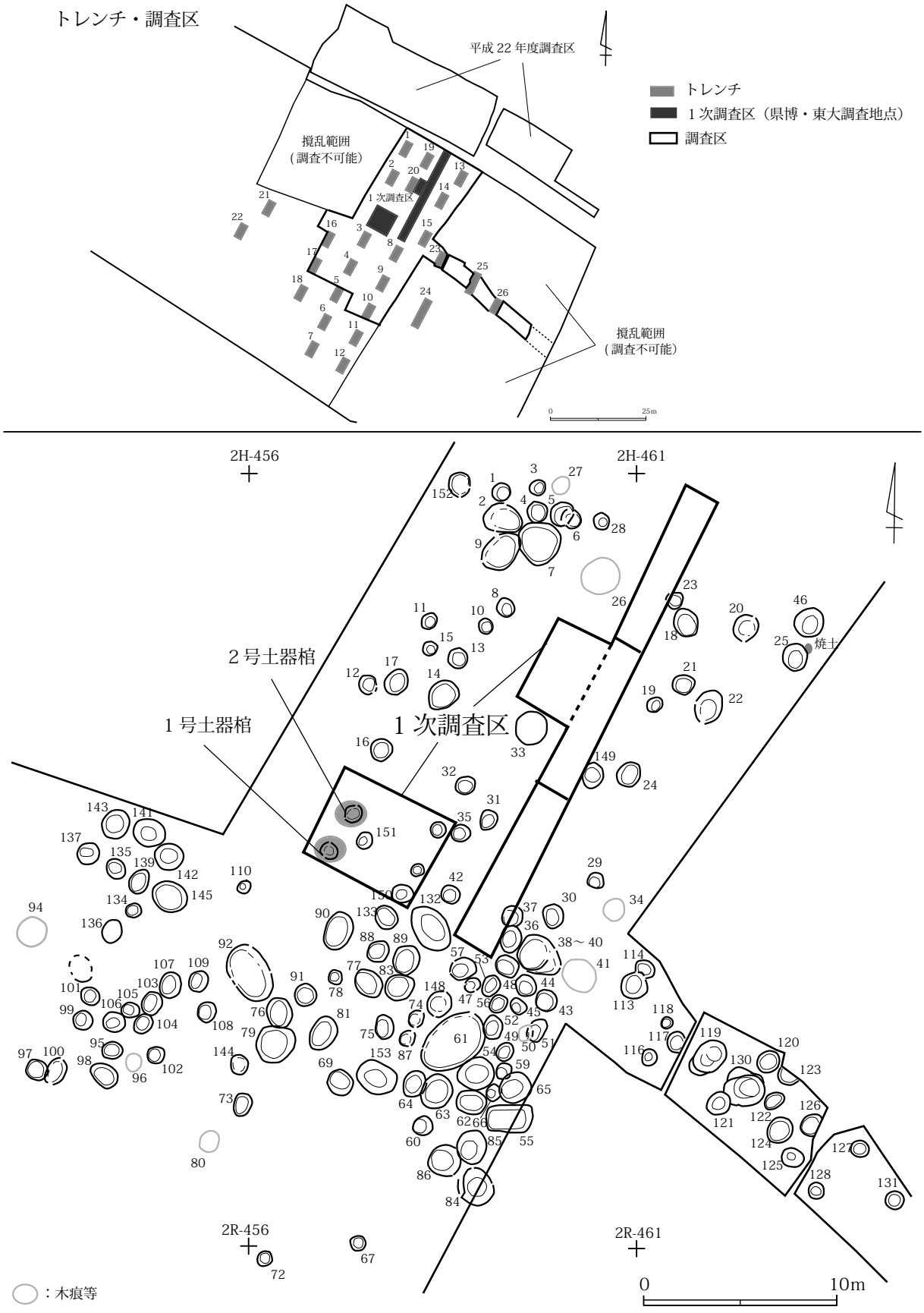
平成24年度の本調査は、遺跡地についてⅢ層上面までバックホーにより掘削した後、「１次調査」地点の調査区（仮Ⅰ～Ⅳ区）を確認し、この調査区を基準にトレンチによる遺構確認調査を行い、本調査範囲を設定した。調査区は、耕作及び土の入れ替え等により、調査範囲が限定されたが、Ⅲ層の堆積状況は良好で、軽石を含む黒色土（Ⅲ１層）の下から多数の遺物が出土した。遺物の分布状況から、遺物が集中する範囲が認められ、土坑等の遺構の存在が予想された。遺物を取り上げた後、遺構確認面をⅣ層上部まで行った結果、前中期の土坑135基（１次調査２基を除く）、後期の土坑３基、木根痕９基を確認した。

土坑は、円形あるいは楕円形で、断面が浅鉢形（皿状あるいは箱状）が主体である。掘削深度はⅣ層までと浅く、埋没土は混入物（骨片、炭化物、焼土、ローム等）を含まない黒色土（Ⅲ層あるいはⅣ層混じり）で、土層の撹乱は認められなかった。土坑からは、土器小破片、石器、礫が出土したが、副葬品的様相は低く、土器棺再葬墓と推定できる完形土器の存在は認められなかった。土坑分布域は、遺物分布域と重なっており、遺物が土坑埋没土上で検出される傾向がみられた。また、同一個体の土器破片が土坑間で接合、あるいは広範囲に分布していることを確認した。検出した土坑は、遺構の検出状態と分布状況から、１次調査で確認された２基の土器棺再葬墓に関連するものと考えられる。

石器は、土坑内あるいは包含層中から、石鏃、石鏃、スクレイパー等の定形石器、磨石、縄文系磨製



第353図　上人見遺跡　地形図（上）・調査区全体図（下）



第354図　上人見遺跡　弥生時代遺構配置図

第355図　上人見遺跡　縄文・古墳・古代以降の遺構配置図

石斧、磨製石器、安山岩の大形礫が出土した。土器は、条痕文系と縄文系の前期末～中期初頭（Ⅰ２～Ⅱ期、土器型式では沖Ⅱ式と岩櫃山式）が主体である。Ⅲ期の土器は、包含層で少数出土した。

後期では、土坑群と重複して北側の狭い範囲で、樽式期（後半）の土坑と遺物を確認した。後期の遺構、遺物は、人見西中原遺跡、人見谷津遺跡で確認されているが、台地全体をみると分布の密度は極めて薄い地域である。

古墳時代では、弥生時代の遺構群と重複して土坑３基検出した。土坑内からは、前期のＳ字口縁台付甕、中期の小坩が出土した。Ｈ－１号住居址は、炉、柱穴が無い竪穴状で、中期の甕片が多数出土した。

遺物包含層、土坑覆土からは、少数の土師器片が出土した。遺構の分布状況から、弥生時代の遺構群の外側では認められないことから、遺構群を意識して重複させた可能性が考えられる。遺物は、土坑から33点、土師器片が調査区北側を中心に31点が出土した。特に２Ｋ－460グリッド周辺と２Ｍ－460グリッド周辺で土師器破片の分布が認められた。

古代では、平成22年度後半の調査で南北方向に延びる溝１条を確認した。平成24年度の調査では、この溝（Ｍ－２号溝）の続きを確認し、人見西向原遺跡で確認された遺構と同一遺構であることが明らかとなった。溝覆土からは、遺構の性格を示す遺物は出土しなかった。調査区北側で須恵器甕の小破片が２点出土した。

（２）縄文時代の遺構

土坑（第376図、第45表）

土坑は、弥生時代の遺構との重複は少なく、弥生土坑群の外側で２基確認した。Ｄ－154号は、Ｈ－１号住居址床面で確認した。集石土坑と考えられるが、掘り込みとプランは明確ではなく、礫がⅣ層中に包含されての確認であった。出土礫は61点である。全ての礫に被熱は観察されなかった。当初、弥生時代の遺構としたが、弥生時代の確認面より下位で、Ⅳ層包含であることから、縄文時代に変更した。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

遺物分布

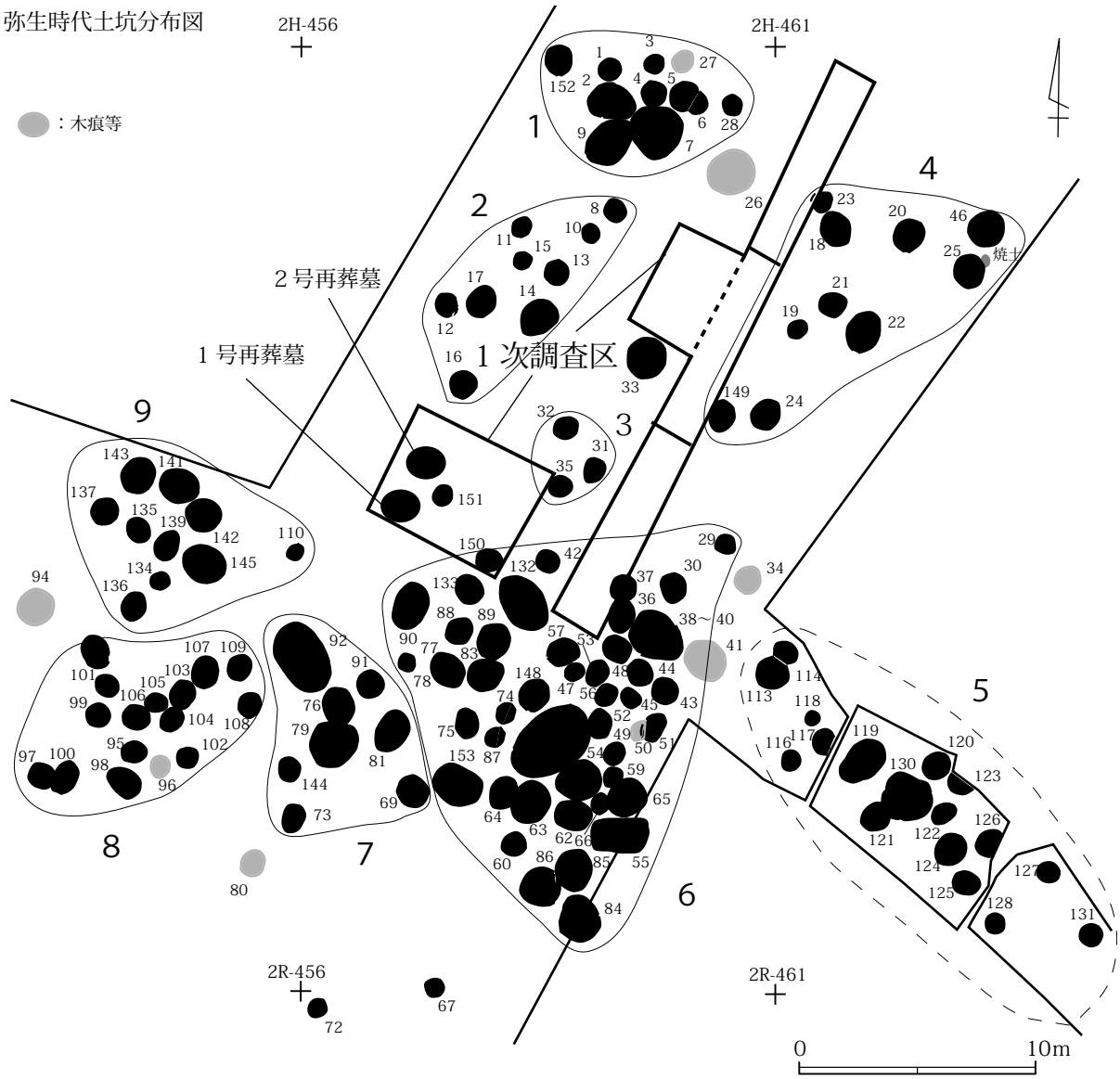
弥生時代の調査区で縄文土器が包含層34点、一括50点が出土した。弥生時代の土坑内から24点出土した。土器の分布は散漫で、遺構に伴うまとまりは認められなかった。土器は、加曽利Ｅ３式を主体とするが、前期の諸磯ｂ式も少数出土した。

（３）弥生時代の遺構

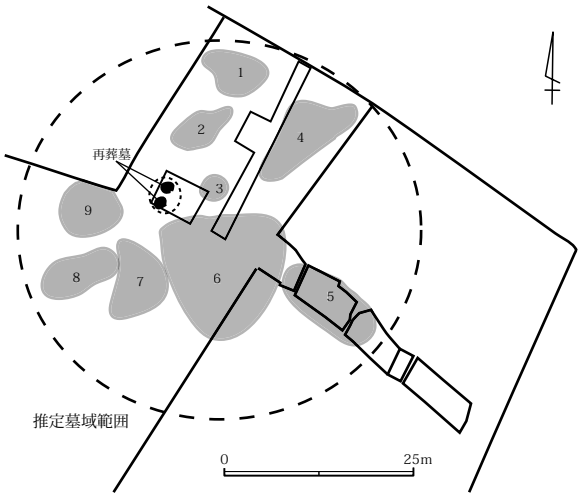
前期末～中期前半土坑（第356～374図、付図８・９、第45表）

遺物が出土した土坑116基、遺物が出土しない土坑19基（時期、性格不明）の合計135基である。出土土器による時期分類では、Ⅰ期の土器が出土した土坑19基、Ⅰ～Ⅱ期の土器が混在して出土した土坑43基、石器・礫のみ、あるいは土器砕片が出土し、Ⅰ～Ⅱ期（中期）の可能性がある土坑35基、Ⅱ期の土器が出土した土坑19基である（付図参照）。なお、１次調査で確認された土器棺（壺棺）再葬墓の２基は、土坑数には含めていない。

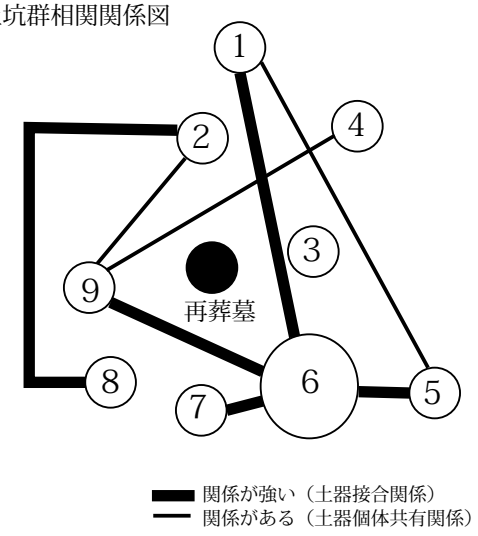
土坑の分布は、標高274～276ｍのやや舌状に張り出した部分で、低地に面した北東方向へ斜面で認



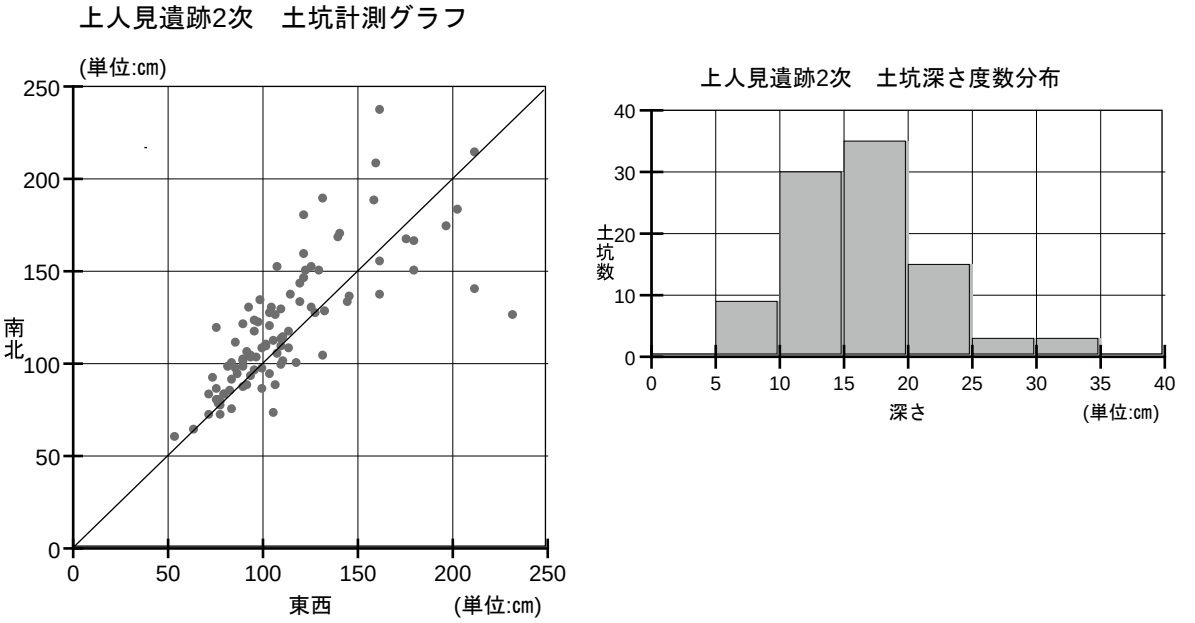
上人見遺跡　遺構概念図（数字は土坑群番号）



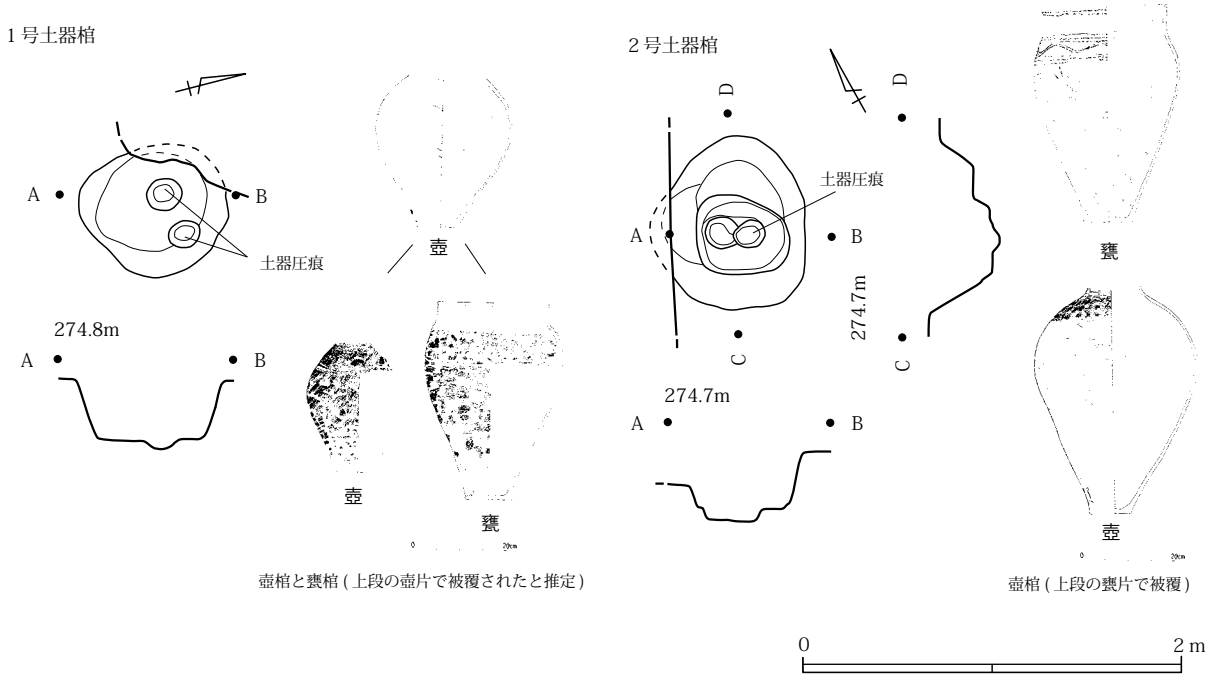
土坑群相関関係図



第356図　上人見遺跡　弥生時代土坑分布図



1 次調査（昭和 40 年）の土坑（再調査）



第357図　上人見遺跡　弥生時代土坑計測グラフ（上）・1 次調査の遺構実測図（下）

められた。耕作及び表土の入れ替えによって調査範囲は限定されたが、分布範囲は、直径約45mにおよぶものと推定される。本調査区の特徴は、１次調査で確認された土器棺再葬墓が、２次調査では全く確認できず、全て土坑のみである点である。土坑は、互いに密接して分布し、幾つかの群としてもまとまりがみられる。なお、分布範囲外では、全く土坑は確認できなかった。

土坑の調査は、バックホーにより浅間Ｂ軽石に覆われたⅢ層上面まで表土を掘削し、１次調査区の範囲を確認した後、当時の調査区及びトレンチの主軸を基準として26か所のトレンチを設定した。レンチ調査は全て移植ゴテ、三角鎌等の小道具によって、数センチ単位で掘り下げて行った。掘り下げによって約５㎝下げたところから遺物が出土し始め、遺物包含層の存在を確認した。Ⅲ層が無遺物層（Ⅲ１層）と遺構・遺物包含層（Ⅲ２層）に細分できることが明らかとなった。Ⅲ１層には、浅間Ｃ軽石（４世紀初頭）と推定される小粒の軽石が混入し、Ⅲ２層との層位的矛盾が無い。また、浅間Ｂ軽石層の堆積と遺構面を薄く覆うⅢ１層の堆積によって保護された状況が長期間続き、土層の乱れも少ないことが判明した。遺構確認面は、Ⅳ層上面を確認面とする場合が多いが、掘り下げが深いと遺構が確認できなくなる恐れがあったため、Ⅲ２層を確認面として調査を行った。

本調査区の設定は、トレンチ調査による遺物分布状況から判断した。土坑の存在は、確認面の色調より、やや黒味を帯びている範囲と遺物の分布状況にまとまりをもつ範囲によって確認することができた。土坑の精査では、覆土はⅢ層を基本とする自然層であるため、ほとんど混入物が認められず、覆土と遺構との境を認識することは困難であった。しかし、遺構覆土の色調が地山となるⅢ層下部～Ⅳ層とは明らかに異なる点、確認面より明らかに下位で遺物が出土することから、掘り込みの存在を明らかにすることができた。また、遺物の分布状況によって土坑が遺物包含層に覆われていることを確認した。

遺物が出土しない土坑については、自然遺構（木痕、落ち込み等）、遺構誤認の可能性があるが、調査では何らかの機能を持つ遺構として「土坑」に含めた。なお、調査段階で明らかに木痕と認識できたものは、他の土坑とは区別した。

＜土坑群のについて（第356図）＞

確認した土坑は、土坑分布状況、出土遺物の時期、土器接合・個体共有関係から、９か所の土坑群（ブロック）に区分した。土坑群は、互いの分布域に空白地をもって分布している。

土坑群の相関関係は、土坑群６を核として土坑群１、５、７、９との土器接合関係によって強い関係が認められる。土坑群２と８においても強い関係が認められる。土坑群１と５、土坑群９は２と４でそれぞれ関係が認められる。再葬墓と土坑群３は単独で分布する。土坑群の時期は、Ⅰ～Ⅱ期を中心とするが、Ⅰ期の土坑は、土坑群４、５、６、７で認められる。Ⅱ期の土坑は土坑群１、５、６、９で認められる。土坑群６は大小多様な形態の土坑が多数集中し、全ての時期で土坑の重複関係が認められた土坑群の中心的存在である。Ⅱ期の土坑は、各土坑群で２基一組となる傾向が認められた。時期的分布では、各土坑群でⅠ期からⅡ期にかけてと推定されるが、土坑群４、９は、Ⅰ期を主体とする可能性がある。また、土坑群１～３は、Ⅱ期を主体とする可能性がある。

なお、土坑群６では、土坑上部の遺物包含層からⅢ期の土器片が数点出土してる。

＜土坑の形態（第357図）＞

Ⅰ期の土坑：形態は、Ａ１類１基、Ａ２類13基、Ｂ１類１基、Ｂ２類４基である。土坑分類では、Ⅰｂ類１基、Ⅱａ類４基、Ⅱｂ類14基である。大きさの平均（0.1㎜未満切り上げ）は南北112.5㎝×東西102.5㎝、深さ13.7㎝である。

Ⅰ～Ⅱ期：Ａ１類３基、Ａ２類14基、Ｂ１類５基、Ｂ２類16基、Ｂ類１基、Ｃ１類１基、Ｄ１類１基、重複のため不明２基である。土坑分類では、Ⅰｂ類２基、Ⅱａ類23基、Ⅱｂ類16基、不明２基（重複土坑）である。大きさの平均は、南北138.8㎝×東西140㎝、深さ16.6㎝である。

中期：Ａ１類６基、Ａ２類16基、Ｂ１類１基、Ｂ２類12基である。土坑分類ではⅠｂ類８基、Ⅱａ類は０基、Ⅱｂ類は27基である。大きさの平均は、南北101.2㎝×東西94.6㎝、深さ15.3である。

Ⅱ期：Ａ１類３基、Ａ２類５基、Ｂ１類２基、Ｂ２類９基である。土坑分類では、Ⅰａ類１基、Ⅰｂ類１基、Ⅱａ類３基、Ⅱｂ類14基である。大きさの平均は、南北124.3㎝×東西118.7㎝、深さ17.9㎝である。

不明：Ａ１は３基、Ａ２は５基、Ｂ１は４基、Ｂ２は１基、不明１基である。土坑分類では、Ⅲ類９基、不明１基である。大きさの平均は、南北106㎝×東西94.7㎝、深さ16.9㎝である。

以上、形態別集計では、Ａ１類16基、Ａ２類53基、Ｂ１類13基、Ｂ２類41基、Ｂ類１基、Ｃ１類１基、Ｄ１類１基、Ｄ２類２基である。土坑分類では、Ⅰａ類１基、Ⅰｂ類12基、Ⅱａ類30基、Ⅱｂ類75基、Ⅲ類９基、重複２基、不明１基である。大きさの全体平均では、南北119.8㎝×東西113.8㎝、深さ16.1㎝である。土坑の主軸は、やや西よりの南北方向を向く傾向があるものの、一定の方向を意識した状況は認めにくかった。これは、土坑の形状が円形であることと主軸方向を示す遺物（礫）等が少なく方向が定まらないためである。

形態では、円～楕円形で、断面が椀・皿状となるものが主体である。土坑分類では、土器破片が主体で遺物点数が少ないⅡｂ類が多い。Ⅰ～Ⅱ期ではⅡａ類が多くなる。時期による形態、出土状況には、差がない。

覆土は、Ⅲ層を基本とした黒色土の自然層で、混入物はほとんどみられない。全て同じ状態の覆土である。土坑は浅くⅣ層を掘り抜いてロームまで達するものはない。Ⅳ層を少し掘り抜くか、Ⅳ層上面を底面とするものが主体である。このため、Ⅲ層のみの掘削であるため、遺構覆土と自然層はほぼ同一で区別が困難であった。遺物を除いた覆土への混入が想定できるのは、ローム粒子及びブロック、人骨、焼土、炭化材等があるが、肉眼ではほとんど検出されなかった。

＜形態別土坑＞

Ⅰａ類の土坑

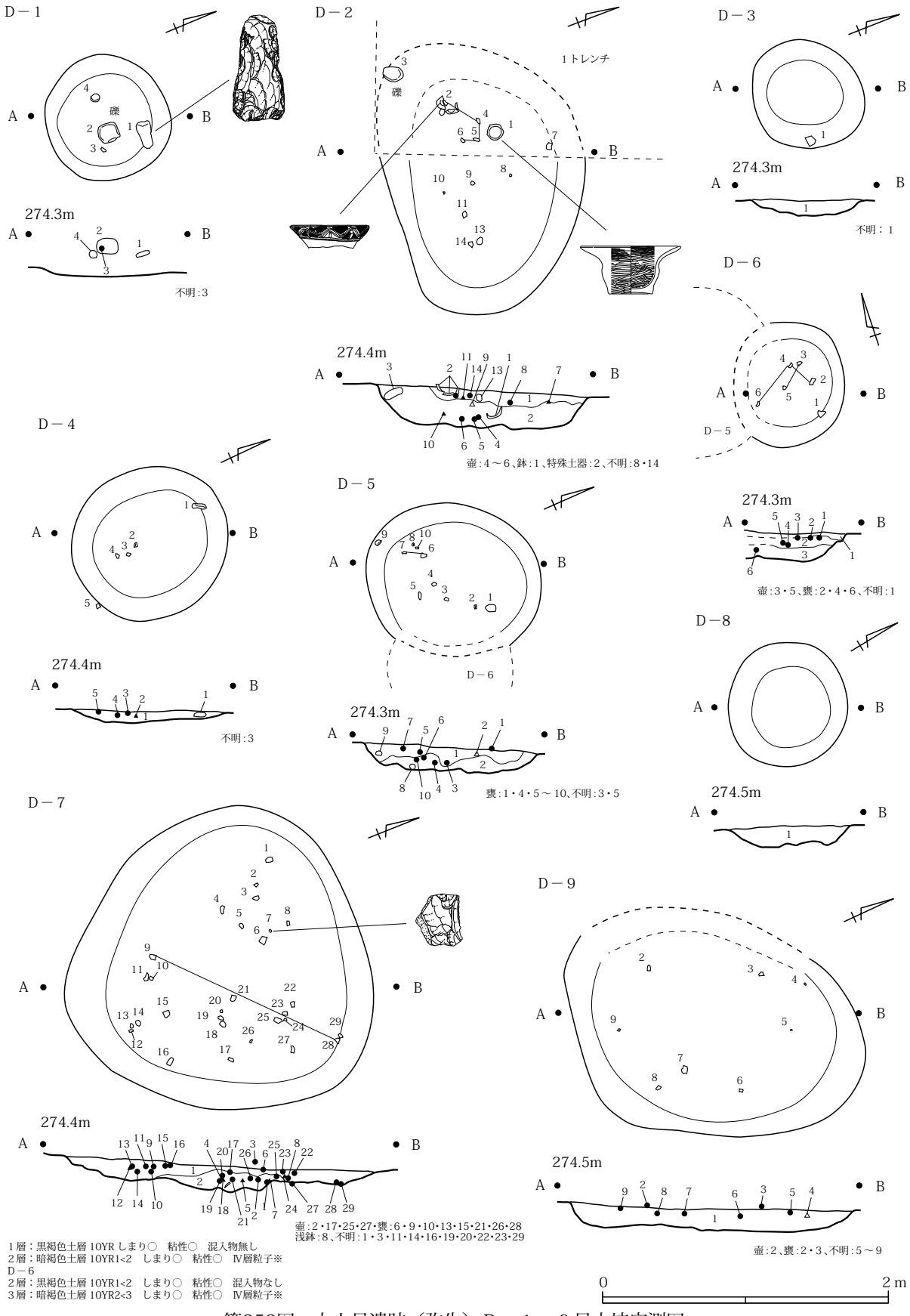
遺物出土状況から、副葬的様相をもつ遺物をもつ土坑で、墓の可能性がある。２次調査では、１基認められた。Ｄ－２号はトレンチによる包含層調査であったため、遺構の存在に気づかず、遺物のみを確認した。東西方向に主軸をもつ楕円形で、土坑中央に遺物が分布し、大形礫、口縁部が欠失した鉢と特殊土器（口縁部）は覆土上部で出土した。

Ⅰｂ類の土坑

土坑中央で覆土上位に大形礫が存在し、遺物が少数共伴する土坑である（Ｄ－１、18、20、97、100、113、148号等）。12基認められた。Ｄ－１号は、範囲のみの確認であったが、底面からやや浮いた状態で大形礫、完形の石鏃、土器片が出土した。Ｄ－148号は、磨石が底面付近で出土した。確認面から土層堆積が観察できた土坑で、Ⅲ２層から掘り込まれ、覆土がマウンド状になり、Ⅲ１層で覆われている状況を確認した。この土坑の状況を根拠として、Ⅲ層中に遺構の掘り込みの存在を確定した。

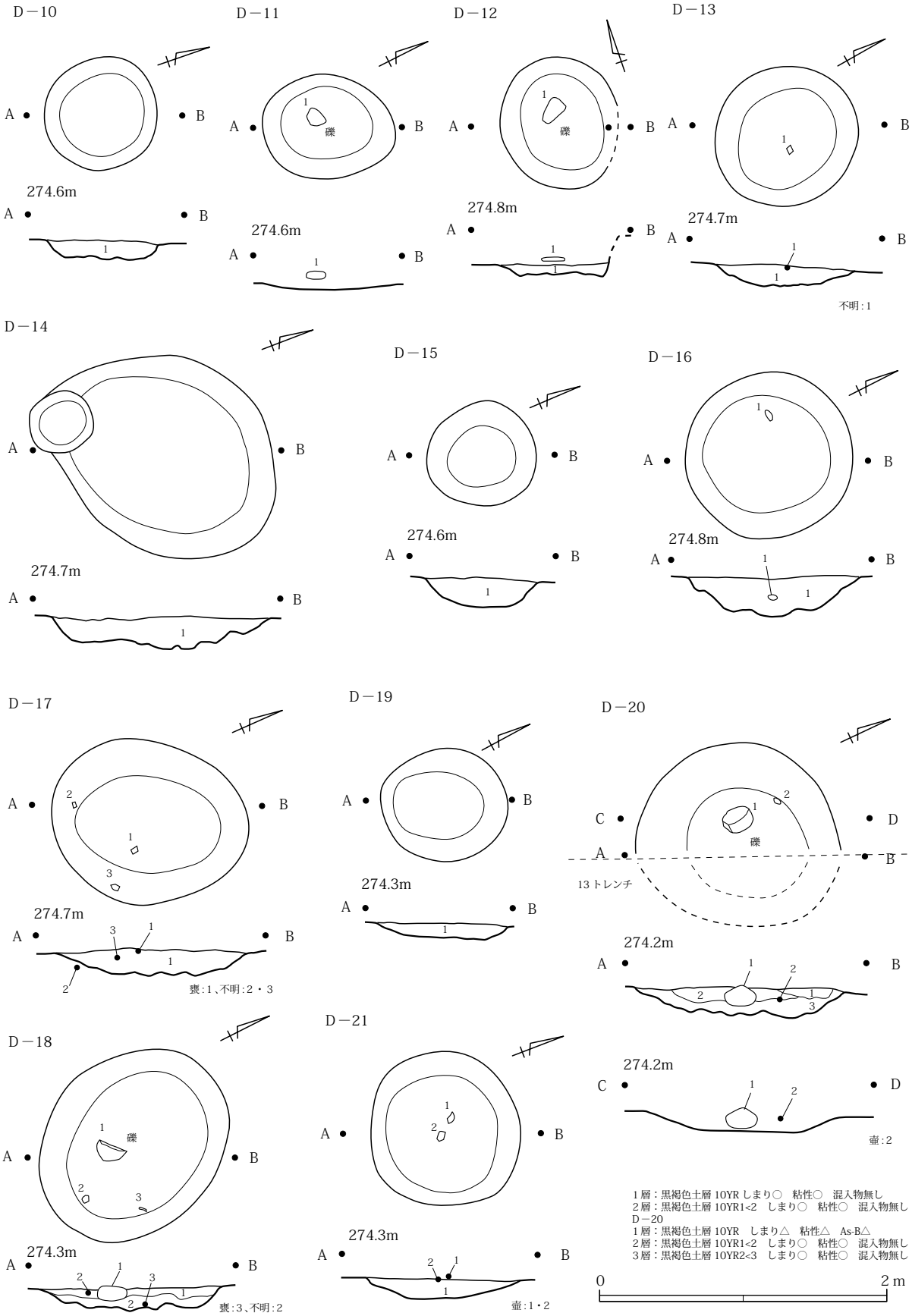
Ⅱａ類の土坑

土器片を主体とした遺物が、多数出土した土坑である。遺物は覆土上位で土坑全体に分布する。27

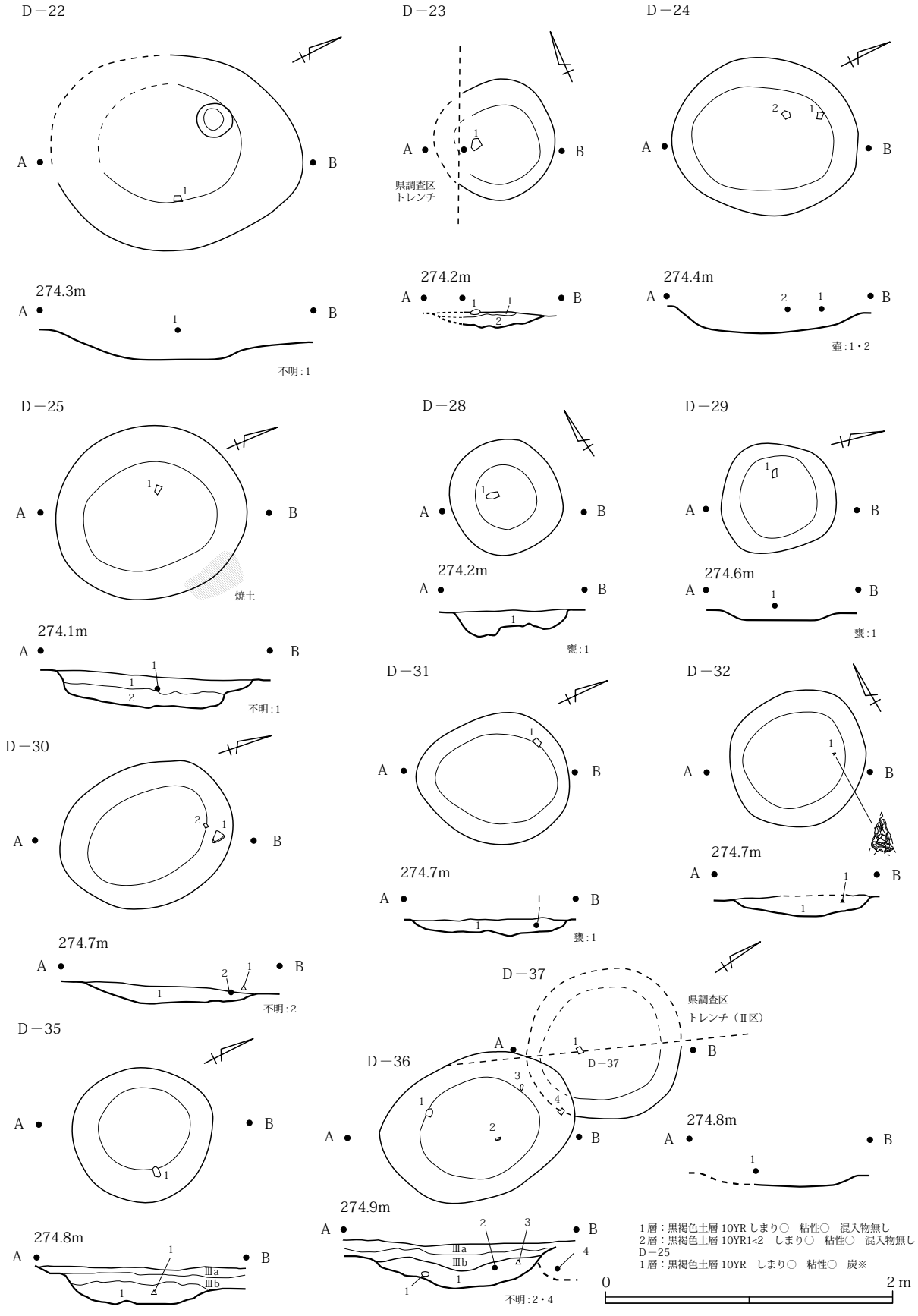


1層：黒褐色土層 10YR しまり○　粘性○　混入物無し
2層：暗褐色土層 10YR1<2　しまり○　粘性○　Ⅳ層粒子※
D－6
2層：黒褐色土層 10YR1<2　しまり○　粘性○　混入物なし
3層：暗褐色土層 10YR2<3　しまり○　粘性○　Ⅳ層粒子※

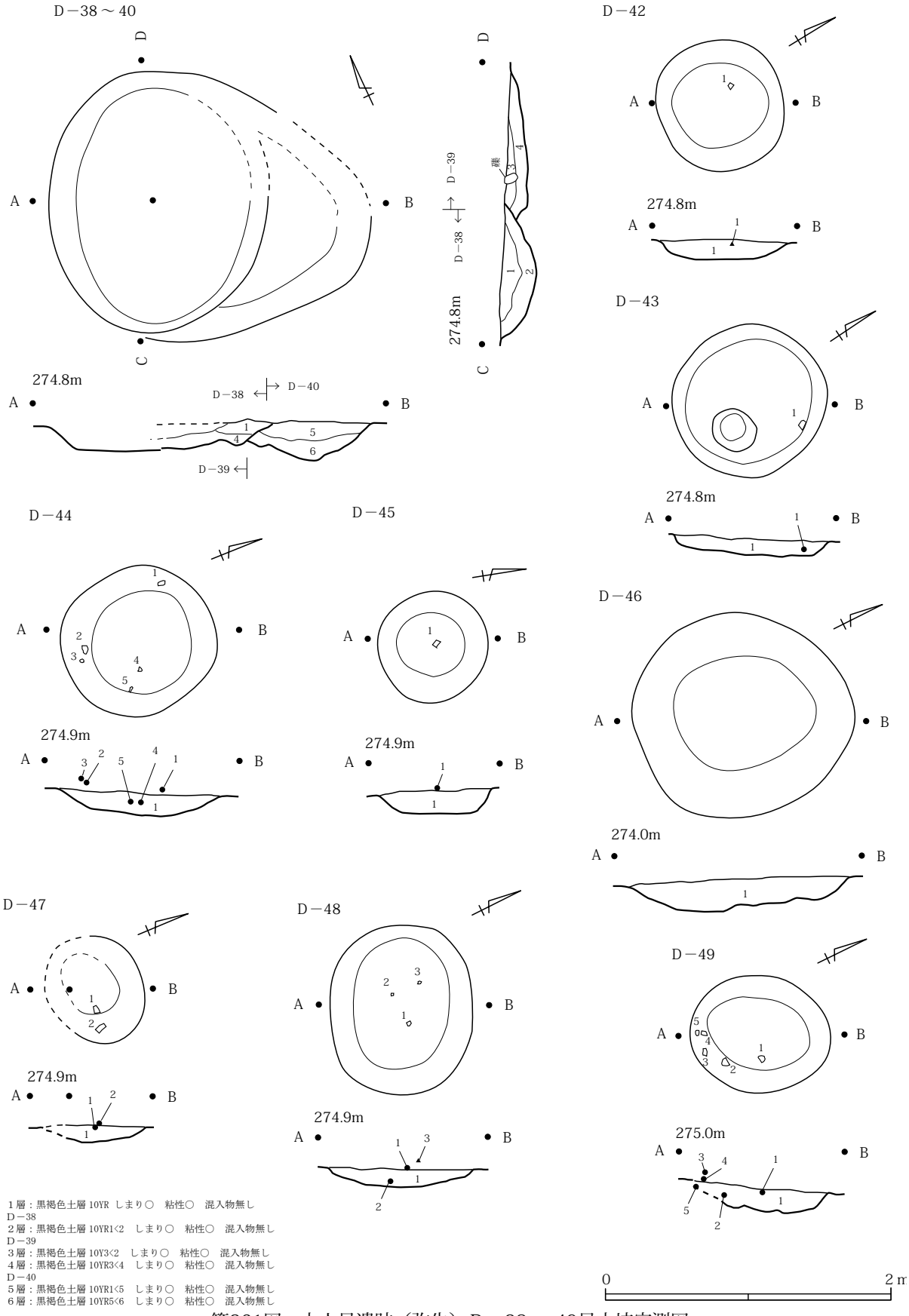
第358図　上人見遺跡（弥生）D－1～9号土坑実測図



第359図　上人見遺跡（弥生）D－10 ～ 21号土坑実測図

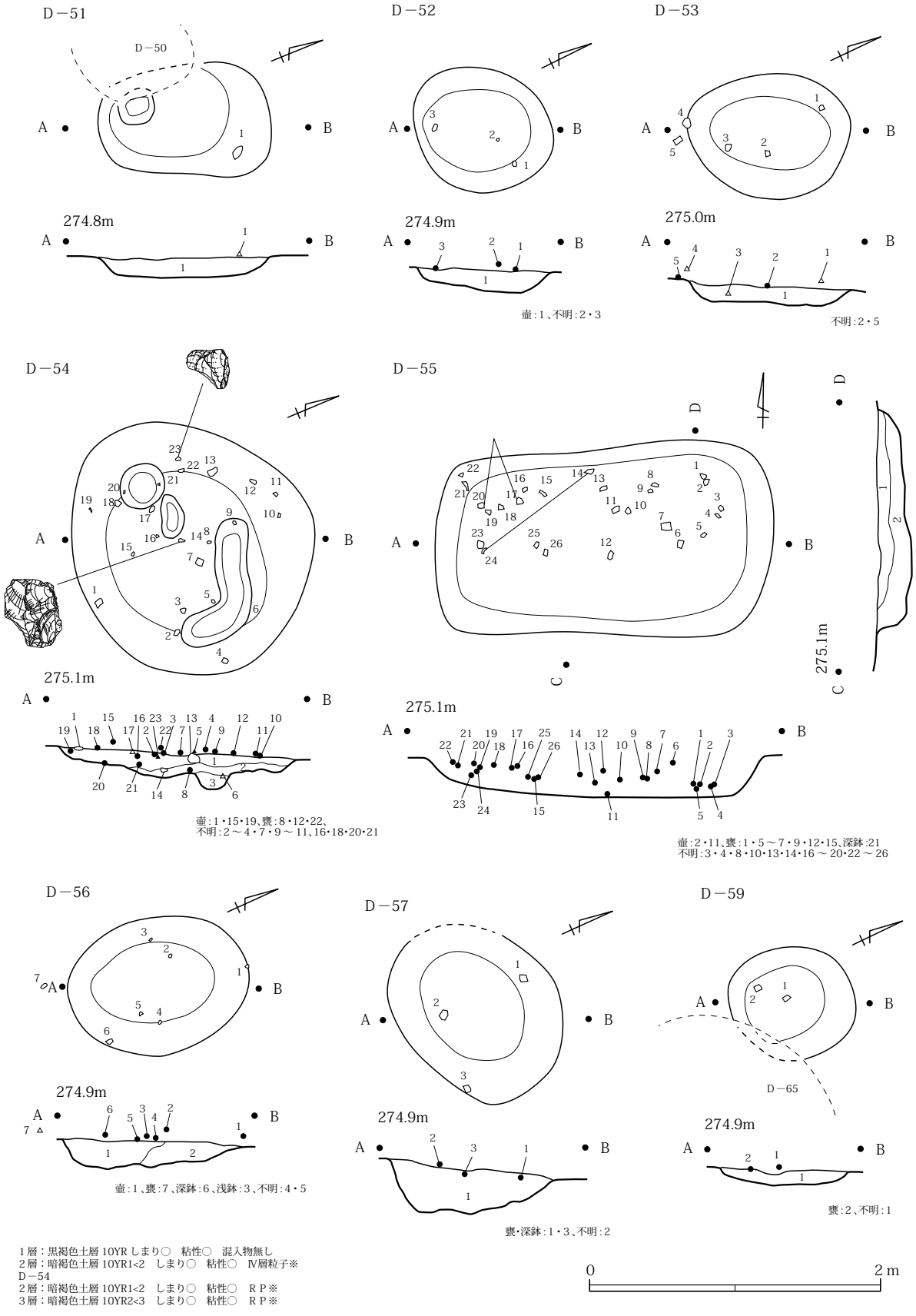


第360図　上人見遺跡（弥生）D－22 ～ 37号土坑実測図

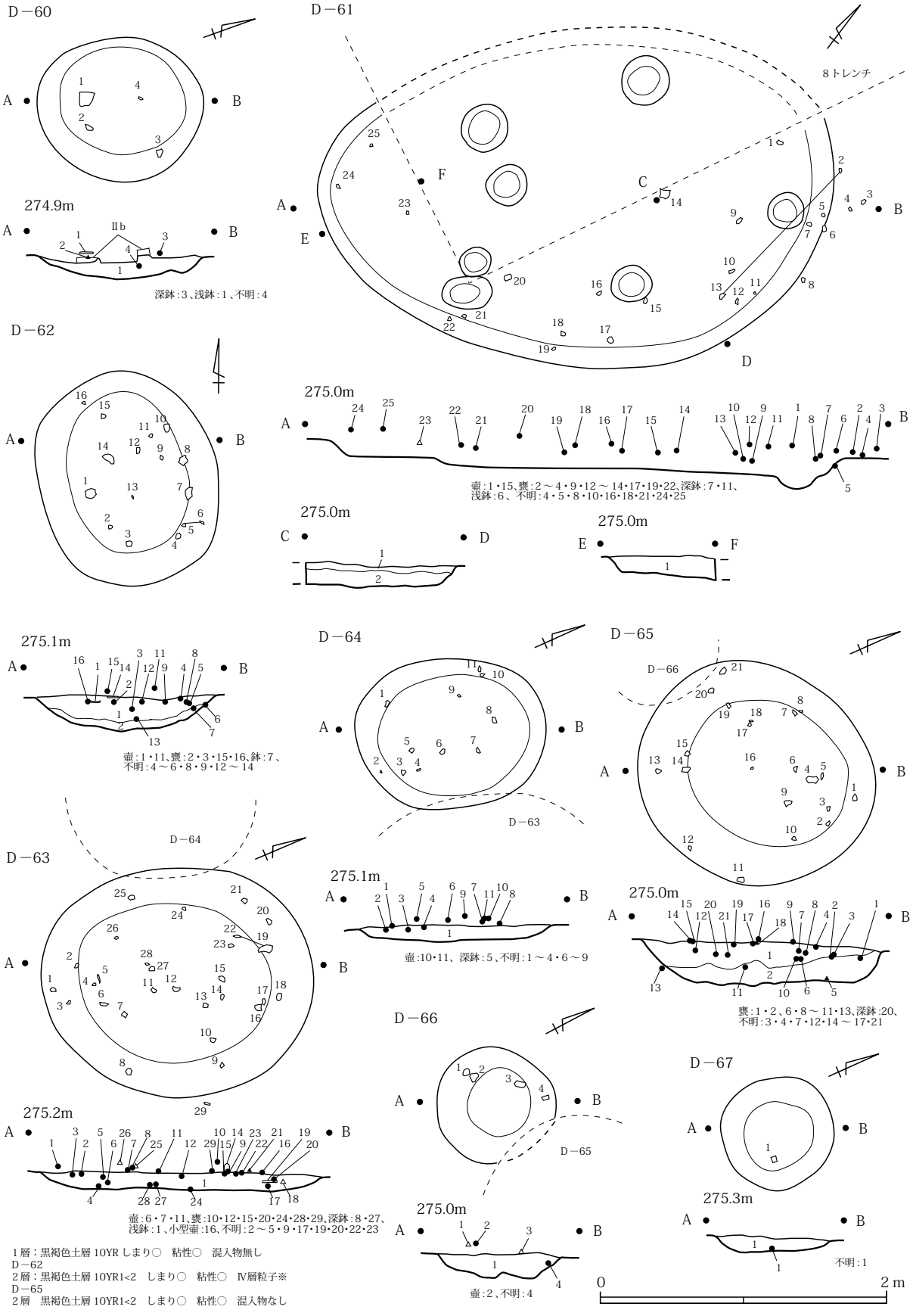


1層：黒褐色土層 10YR しまり○　粘性○　混入物無し
D－38
2層：黒褐色土層 10YR1<2　しまり○　粘性○　混入物無し
D－39
3層：黒褐色土層 10Y3<2　しまり○　粘性○　混入物無し
4層：黒褐色土層 10YR3<4　しまり○　粘性○　混入物無し
D－40
5層：黒褐色土層 10YR1<5　しまり○　粘性○　混入物無し
6層：黒褐色土層 10YR5<6　しまり○　粘性○　混入物無し

第361図　上人見遺跡（弥生）D－38 ～ 49号土坑実測図

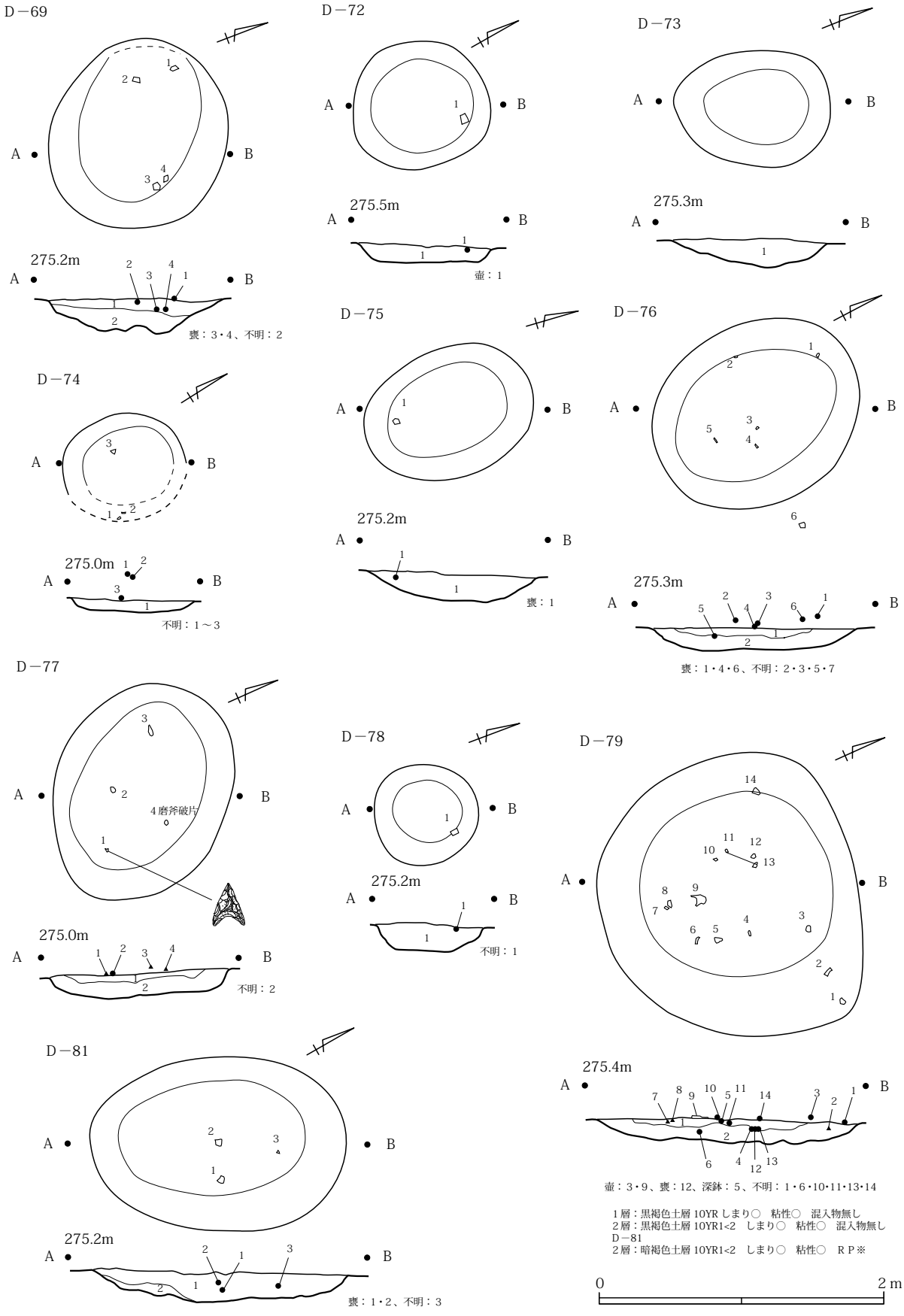


第362図　上人見遺跡（弥生）D－51 ～ 59号土坑実測図

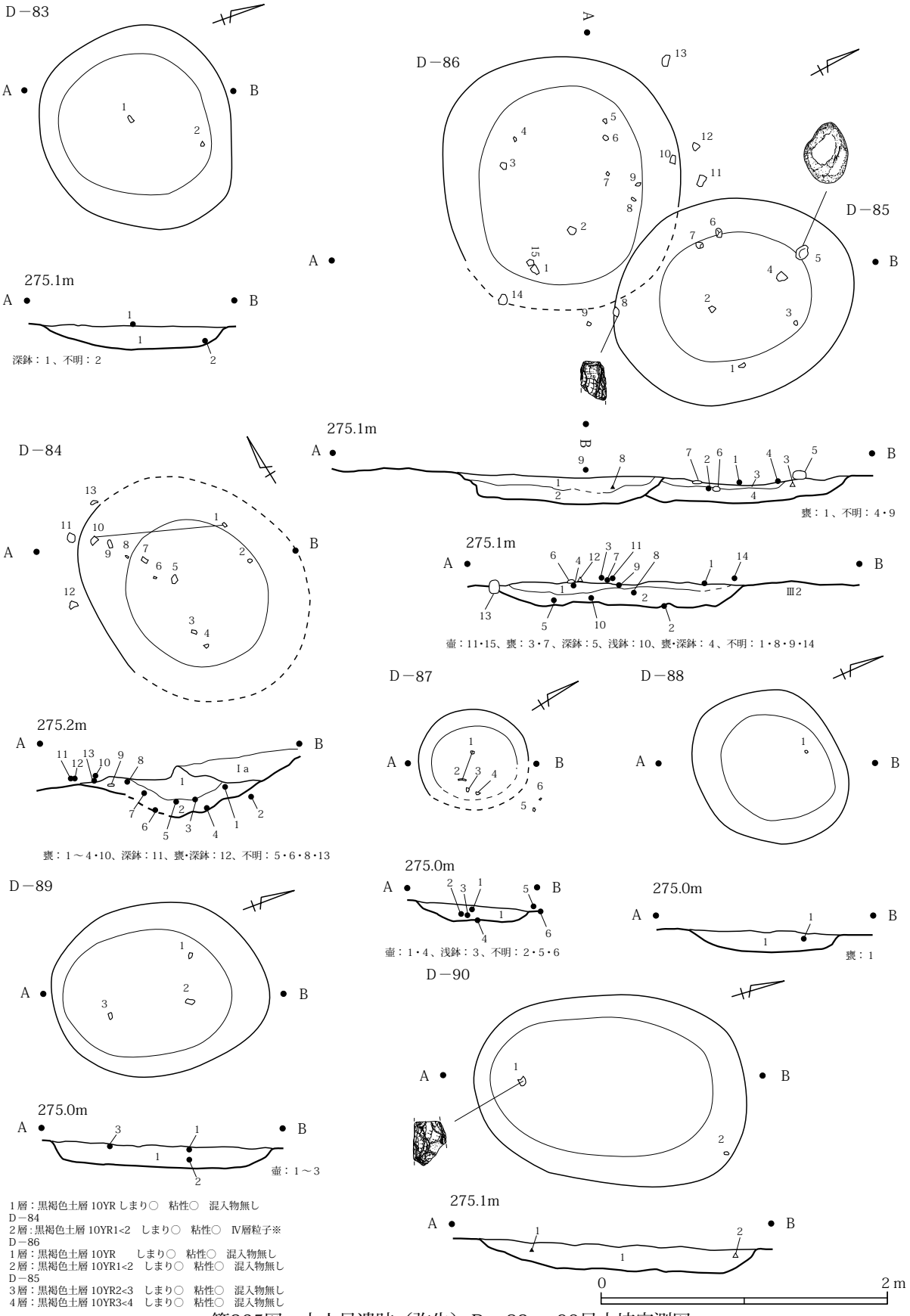


1層：黒褐色土層 10YR しまり○　粘性○　混入物無し
D－62
2層：黒褐色土層 10YR1<2　しまり○　粘性○　Ⅳ層粒子※
D－65
2層　黒褐色土層 10YR1<2　しまり○　粘性○　混入物なし

第363図　上人見遺跡（弥生）D－60～67号土坑実測図

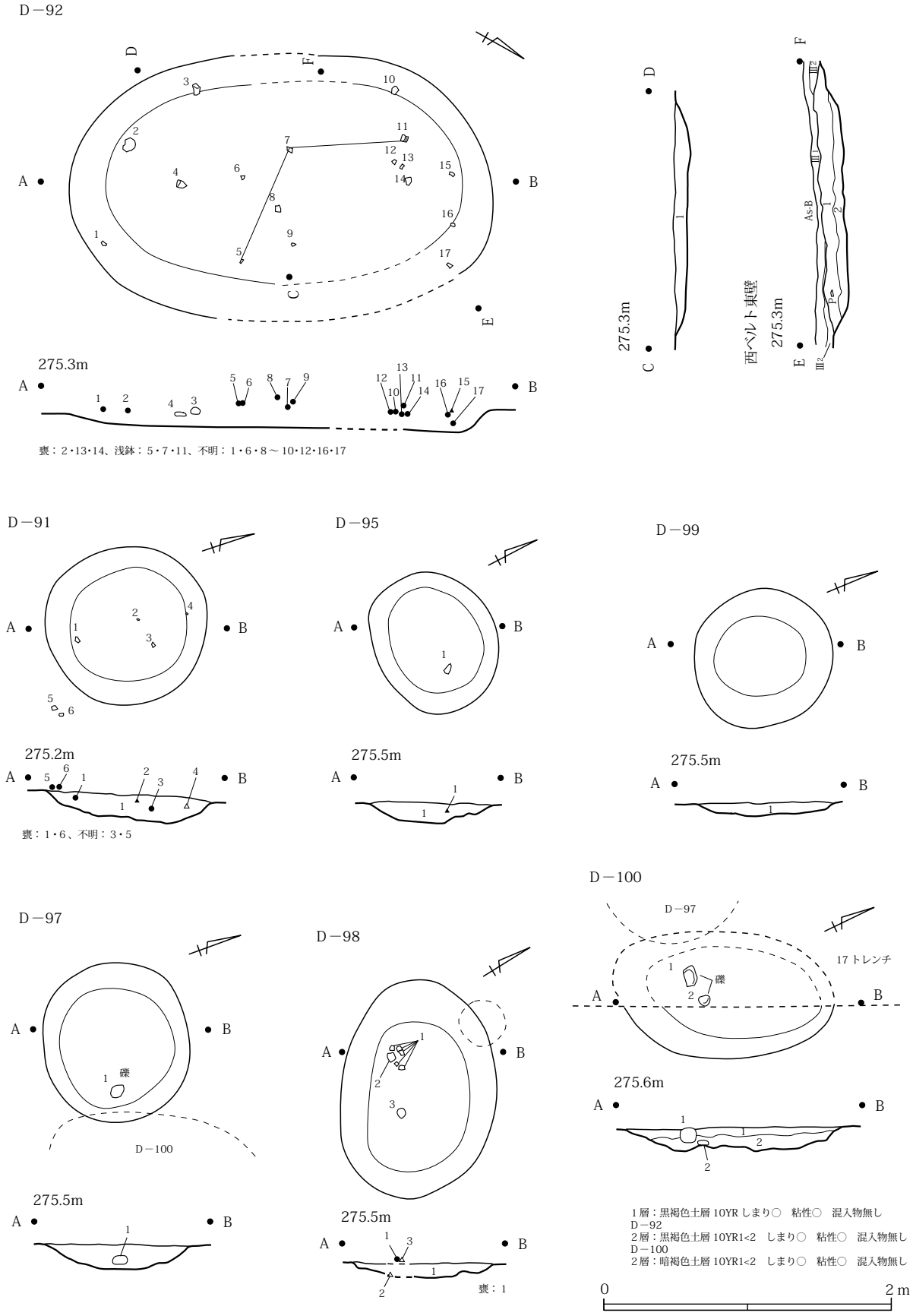


第364図　上人見遺跡（弥生）D－69 ～ 81号土坑実測図

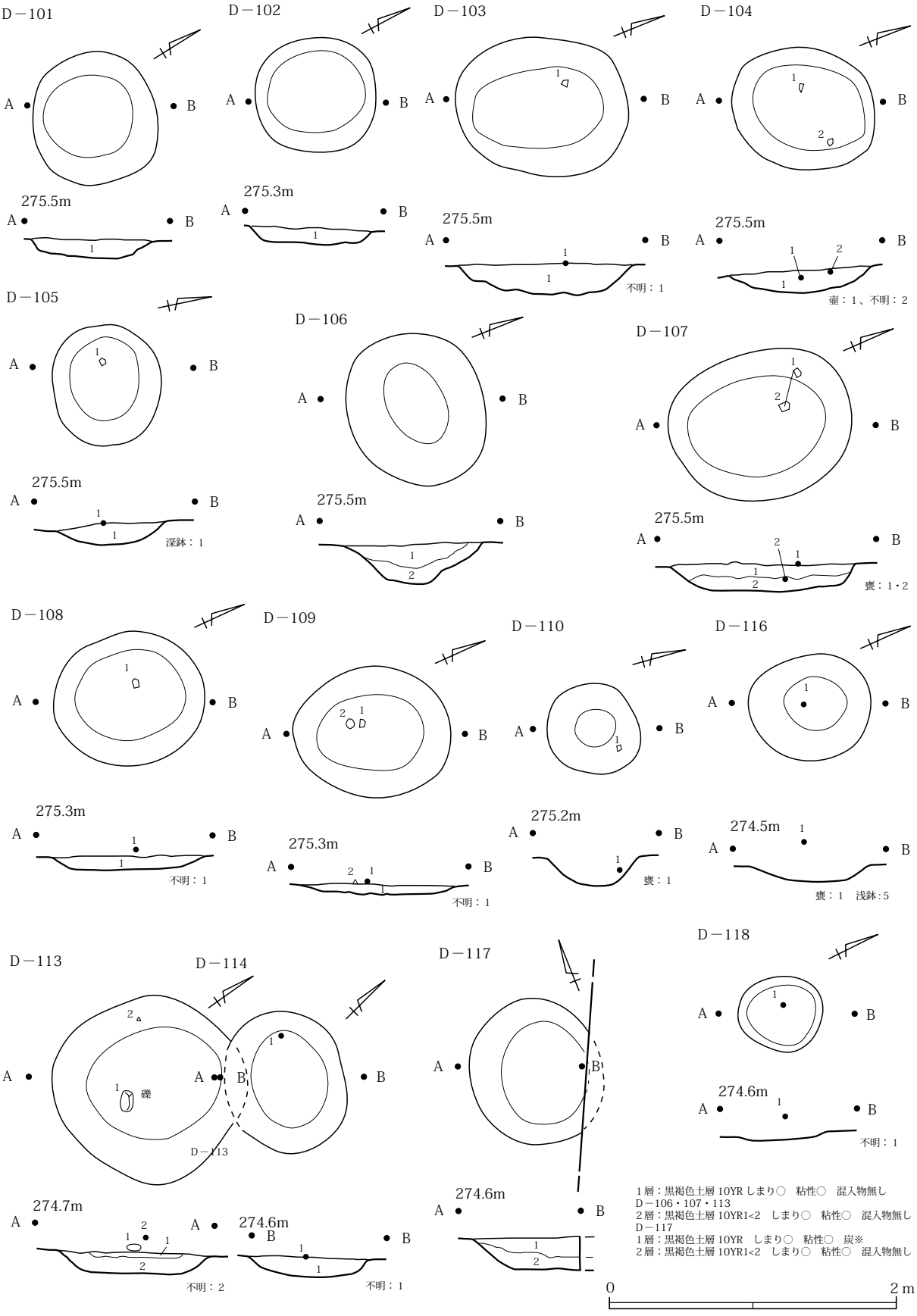


1層：黒褐色土層 10YR しまり○　粘性○　混入物無し
D－84
2層：黒褐色土層 10YR1<2　しまり○　粘性○　Ⅳ層粒子※
D－86
1層：黒褐色土層 10YR　　しまり○　粘性○　混入物無し
2層：黒褐色土層 10YR1<2　しまり○　粘性○　混入物無し
D－85
3層：黒褐色土層 10YR2<3　しまり○　粘性○　混入物無し
4層：黒褐色土層 10YR3<4　しまり○　粘性○　混入物無し

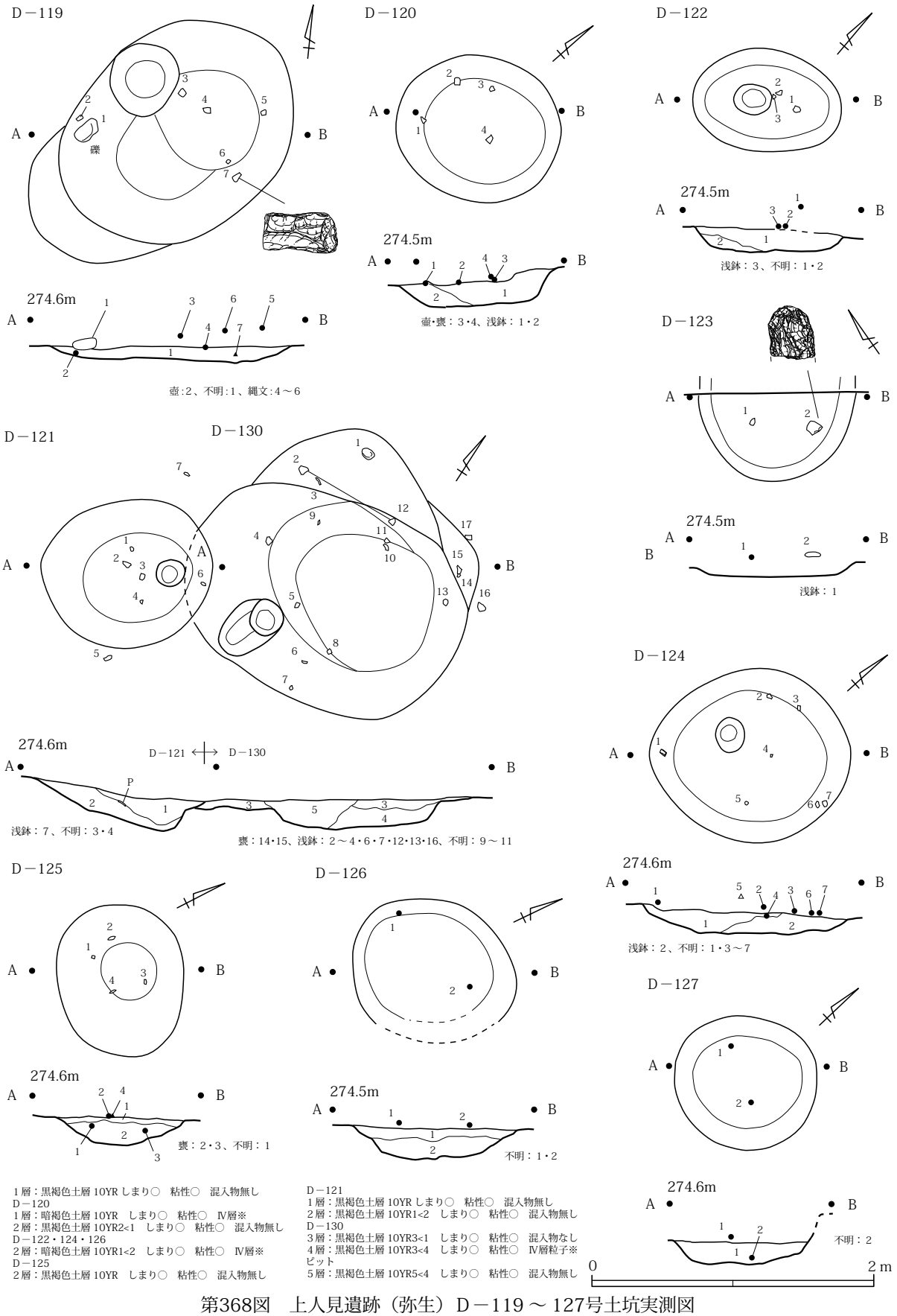
第365図　上人見遺跡（弥生）D－83 ～ 90号土坑実測図



第366図　上人見遺跡（弥生）D－92 ～ 100号土坑実測図

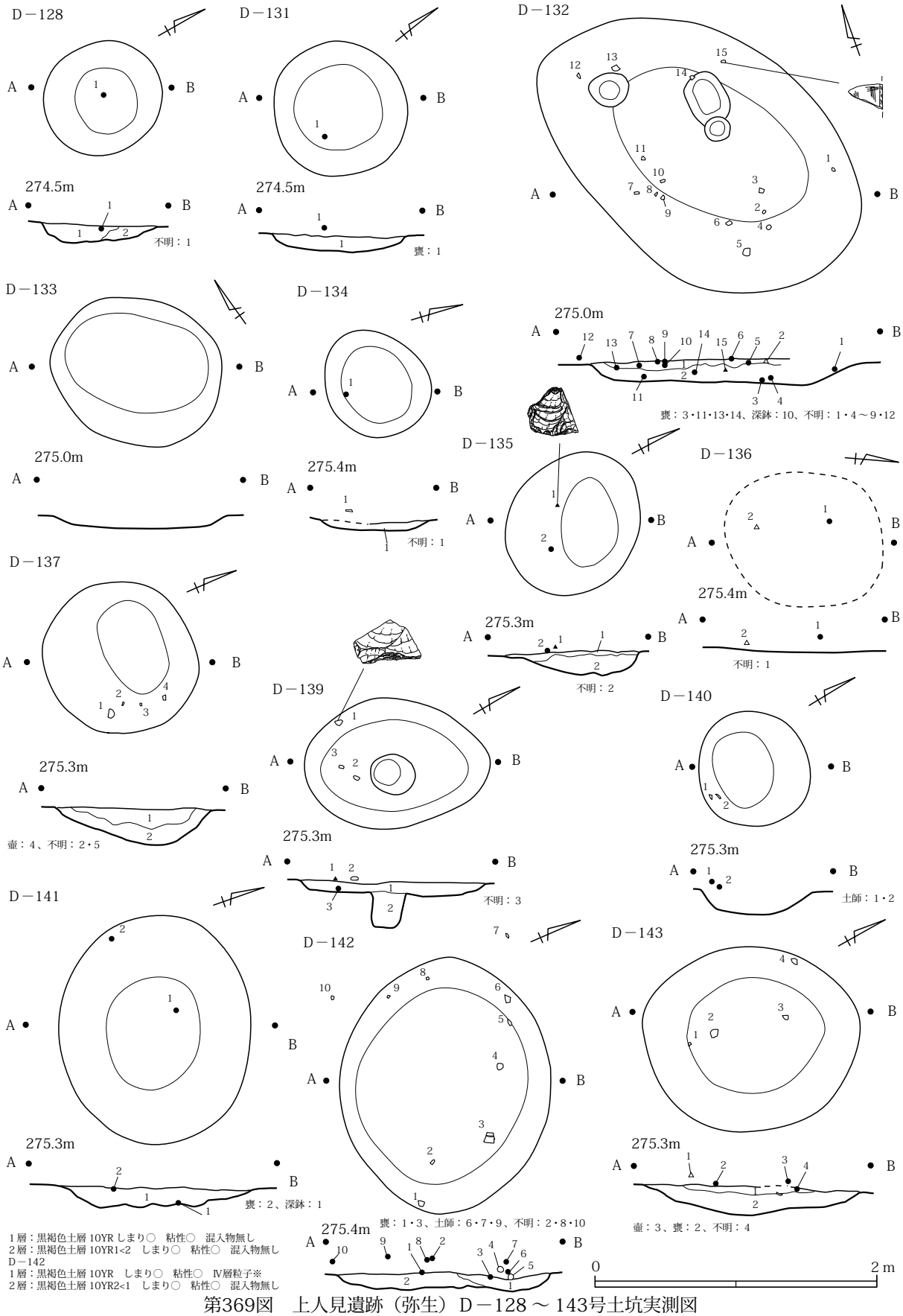


第367図　上人見遺跡（弥生）D－101 ～ 118号土坑実測図

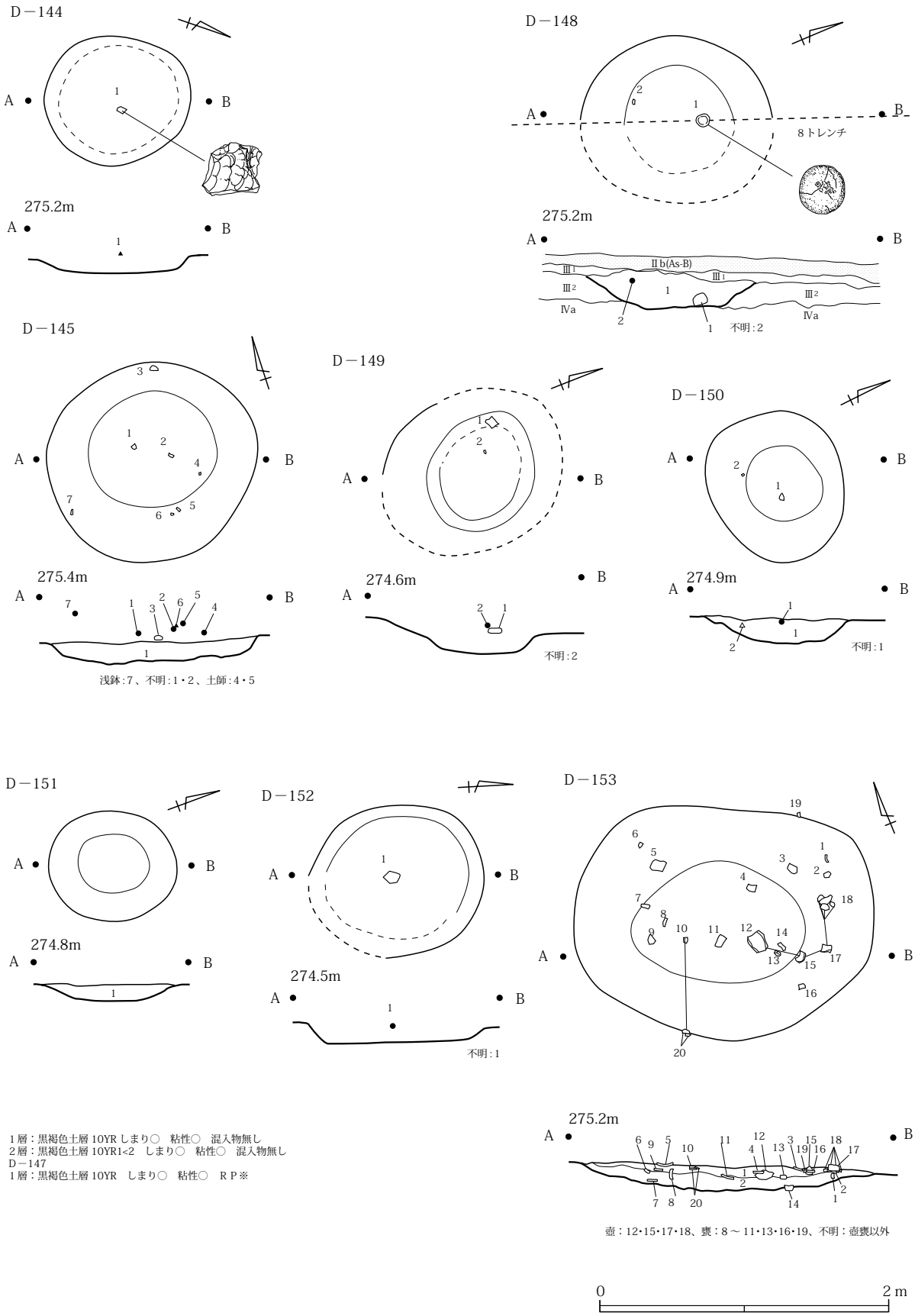


1層：黒褐色土層 10YR しまり○　粘性○　混入物無し
D－120
1層：暗褐色土層 10YR　しまり○　粘性○　Ⅳ層※
2層：黒褐色土層 10YR2<1　しまり○　粘性○　混入物無し
D－122・124・126
2層：暗褐色土層 10YR1<2　しまり○　粘性○　Ⅳ層※
D－125
2層：黒褐色土層 10YR　しまり○　粘性○　混入物無し
D－121
1層：黒褐色土層 10YR しまり○　粘性○　混入物無し
2層：黒褐色土層 10YR1<2　しまり○　粘性○　混入物無し
D－130
3層：黒褐色土層 10YR3<1　しまり○　粘性○　混入物なし
4層：黒褐色土層 10YR3<4　しまり○　粘性○　Ⅳ層粒子※
ピット
5層：黒褐色土層 10YR5<4　しまり○　粘性○　混入物無し

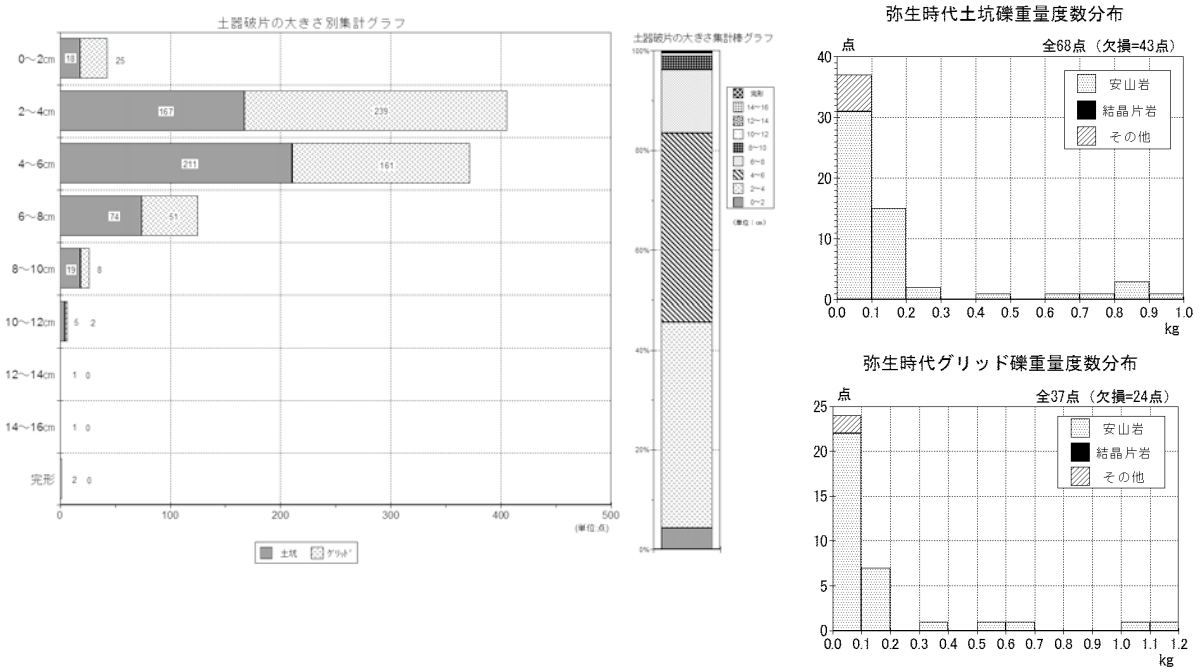
第368図　上人見遺跡（弥生）D－119 ～ 127号土坑実測図



第369図　上人見遺跡（弥生）D－128 ～ 143号土坑実測図



第370図　上人見遺跡（弥生）D－144 ～ 153号土坑実測図



第371図　上人見遺跡（弥生）土坑出土土器破片の大きさと礫重量分布

基認められた。Ｄ－５、７号は、覆土全体に遺物を含む。Ｄ－7号では土器片が24点出土したが接合は１例のみである。Ｄ－54号では、底面にピットが３か所存在する。遺物は覆土上位を中心に分布する。土器18点以外に黒曜石原石、チャート礫等が出土した。Ｄ－55号は、本遺跡で唯一、平面隅丸長方形である。遺物は覆土上位を中心に土器片31点が出土した。土器の接合は２例であり、同一個体は少ない。Ｄ－61号は、竪穴状の大形土坑である。住居の可能性も考え、床面の焼土痕（炉）、柱穴の有無を精査したが、住居とする根拠は得られず、不規則に並ぶ浅いピットを７基確認したのみである。遺物は覆土上位を中心に土器31点が出土した。Ｄ－62～65号は、覆土上位を中心として多数の遺物が出土した土坑である。Ｄ－63号の覆土からはⅢ期の土器が出土した。Ｄ－92、130、132、153号は、大形楕円形の土坑である。Ｄ－92号は、Ｄ－148号と同様、土坑覆土がマウンド状となり、Ⅲ１層に覆われていることを確認した。

Ⅱｂ類の土坑

遺物が少数出土した土坑で、本土坑群で主体的な形態である。75基認められた。土器のみ１点出土が28点、石器のみ１点出土が６基である。他の形態の土坑と同様、土器片は砕片で同一個体は少ない。

Ⅲ類の土坑

Ⅲ層からの浅い掘り込みが確認でき、遺物が出土していない土坑として扱った遺構である。９基認められた。木痕の可能性があるが、覆土が他の土坑と堆積状況が類似する点（Ⅲ層堆積）で区別できた。

＜遺物分布状況＞

土器出土状況（第371図）

土器は、土坑内から505点、包含層から476点、調査区一括で13点が出土した。

土器片の大きさを把握するために、土坑とグリッドに分けて１㎝毎の集計を行った。大きさは、２㎝～６㎝の間が全体の約80％を占める。土坑覆土内の破片とグリッド出土の器片を比較するとグリッドの破片が小さい傾向が認められる。８㎝以上の破片は極端に少なく、16㎝を超える破片は無い。これは、廃棄された土器が長い時間をかけて破片が小さくなっていく結果と考えられるが、その要因としては、最初の段階で意図的に破壊、または破砕を繰り返していく行為を考える必要がある。弥生時代の遺物包含層（Ⅲ２層）自体は、10～15㎝ほどの厚さしかなく、Ⅲ１層によって保護されていた状況を考慮すると、撹乱等による土層の乱れで破砕されていったとは考えにくい。縄文時代の場合、遺物包含層が保護された状況では、完形土器あるいは大形破片が出土することが多く、上人見遺跡の出土状況とは対称的である。

土坑内での土器出土状況は、Ｄ－２号以外は、全て小破片である。同一個体の破片は少ない。土器は覆土上部、土坑上面あるいは浮いた状態で出土した。土坑内における接合率は低く、土坑間あるいは包含層との接合率が高い。

包含層の土器については、Ⅲ１層下部～Ⅲ２層上部から出土した土器は包含層出土として扱った。土坑の遺物が包含層として取り上げられている可能性があるが、土器分布は、土坑と重複あるいは、土坑周辺に分布する。単独で遺物集中は認められず、遺構の分布の範囲に分布がまとまる。土器分布は土坑群を中心としているが、土坑群５、８、９では、包含層出土は少ない。器種別分布では、壺と甕の分類要素となる口縁部の破片あるいは文様のある破片は少なく、壺と甕を分類できない地文のみの胴部を中心とした破片（不明に分類）で占められるている。器種が判明している分布状況をみても、壺、甕の分布に特定の偏りは認められない。

土器接合関係（第373図）

出土土器について、接合作業を行ったところ、土坑間と包含層中における広域の接合関係が認められた。また、個体別分類によって接合関係と同様、土器破片が広域に分布することが明らかとなった。土坑内接合は18例、土坑間接合は、41例認められ、土坑内接合より多い。土坑間接合によって土坑群間の相関関係が存在することが明らかとなった。土坑間で10m以上も離れての接合は、土器が自然の作用により移動したとは考えにくい。破片が遠く離れた土坑群間（土坑群１と６等）で共有されている点は、同一個体の破片を意図的に廃棄あるいは投棄したものと考えられる。土坑群６では土坑間で同一個体の土器片の移動が頻繁に認められる。

石器分布状況（第374図）

石器は、土坑内54点（搬入礫含む）、包含層79点、合計133点出土した。石器の分布は、土坑内では覆土上部、包含層では、土坑周辺に石器（スクレイパー等）の分布がみられ、剥片類は、土坑群内で分布が完結するが、石器製作による集中はみられない。主な土坑での出土状況は、完形の石鏃が出土したＤ－１号、頁岩の剥片が多数出土したＤ－７号、黒曜石の原石が出土したＤ－54号その他の土坑では、石鏃、石鏃、石鏃、スクレイパー、磨石、敲石単独あるいは少数出土した。Ｄ－149号の石鏃片と20ｍ以上離れた包含層の石鏃片が接合した。また、77号の磨製石斧片と７ｍ以上離れた包含層の磨製石斧片が接合した。完形の石器（Ａ類、Ｂ類）が単独で出土する土坑については、副葬的要素があり、土坑の性格を把握する上で重要である。

礫分布状況（第371図、374図）

包含層の礫については、全て取り上げ記録をした。土坑出土の礫は、68点、包含層出土の礫は、37

点である。礫は43点が破砕している。石材は安山岩が主体である。礫の被熱はない。

土坑出土の礫は、破砕礫が覆土に混入するものが主体的だが、土坑中央部で、底面から浮いた状態での出土もみられる（D－1、20、97、100、113号他）。包含層では、土坑上面に分布するものと土坑とは重複しない単独分布が認められた。

土坑内の礫の大きさは、礫の重量は100ｇ未満が最も多く、200ｇを超えるものは少ない。200ｇを超えるものは、９点出土した。包含層では300ｇ以上の礫が５点出土している。

土坑内から出土した大形礫の用途として考えられるのは、墓に関係して添えられた「墓標」あるいは「抱石」があげられる。小形礫または破砕された礫についても墓に関連した遺物の可能性が考えられる。包含層で出土した大形礫は、土坑と関連する遺物が考えられる。

後期後半の土坑（第376図、第45表）

弥生土坑群南の外側で３基を確認した（D－68、71、82号）。D－71号は、覆土中に前期土器片が共伴している。D－82号では、覆土とその周辺から樽式期の壺、甕片が少数出土した。古墳時代の土坑の中に墓の可能性がある遺構が存在することから、その後においても墓域が後の時代まで継承されていた可能性が考えられる。

谷地（第375図）

調査区西側の低地に面する部分で、台地奥部へと広がる谷地を確認した。トレンチ調査を行ったところ、斜面部から低地に掛けて浅間Ｂ軽石の自然堆積とⅢ層の堆積を確認した。４トレンチでは、Ⅲ層中から須恵器破片（時期不明）が出土した。谷斜面の地山は深く抉られ、ローム層が削られていることから、一部が人為的に形成された地形の可能性がある。弥生時代の遺物は出土しないため、谷の時期は判然としないが、谷頭では随所に湧水が確認でき、水量が豊富であることから、「水場」としての利用は十分果たせる地形である。

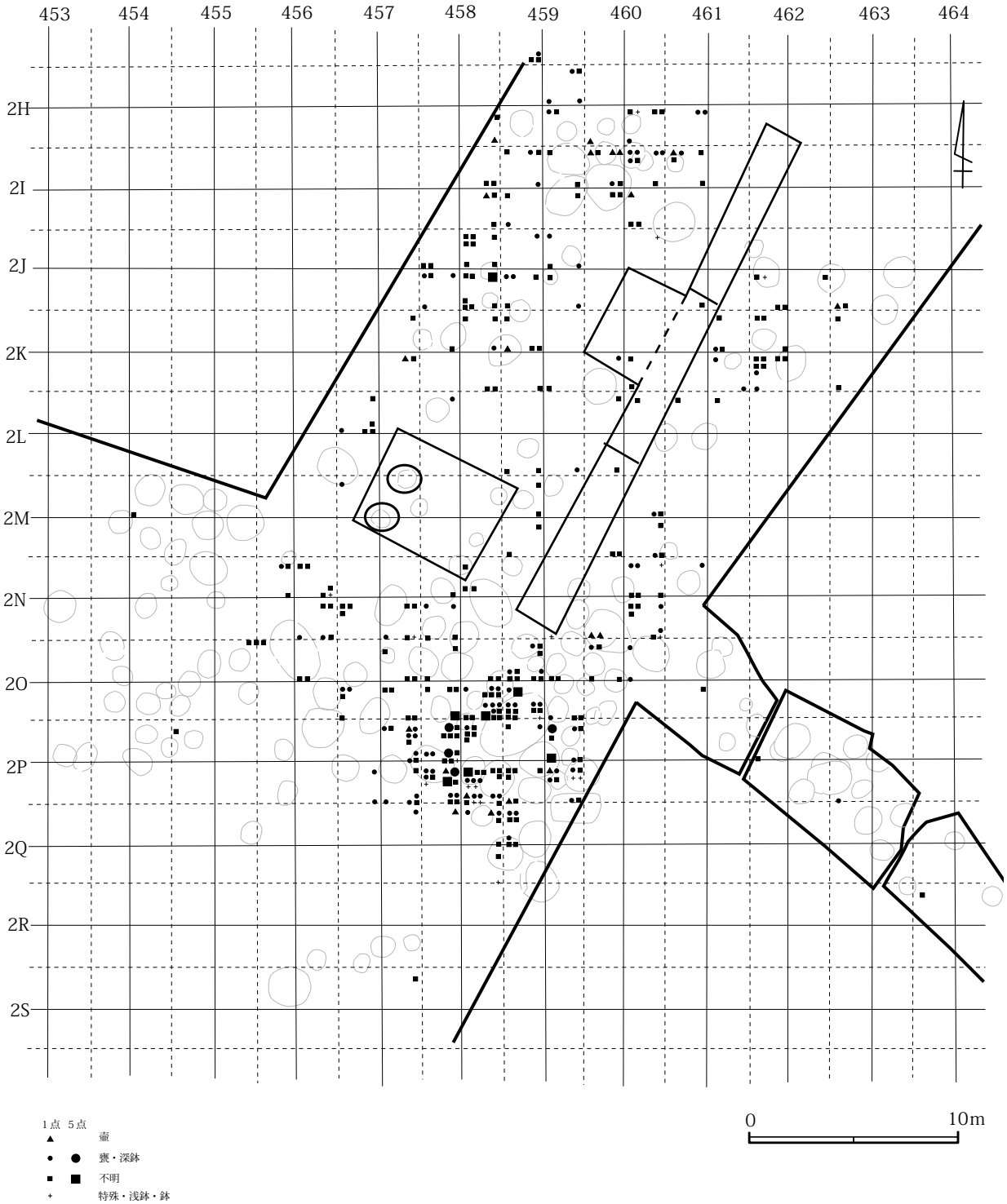
木痕（第354図）

木痕を９基確認した。覆土の状態が、確認面よりやや暗く、平面シミ状となり、倒木痕にみられる下層の巻き込みが少ない。さらに、遺構底面が凸凹するといった状況から判断して、風倒木痕とするより、木痕と認識した。木痕は、Ⅲ層中からⅣ層に根が食い込んでいることから、弥生時代以降の所産と推定できる。木痕の存在は、土坑群の時期と一致すること、土坑との重複が無いところにあることから、土坑と共存していた可能性がある。遺物が出土しないⅢ形態については、木痕の可能性がある。

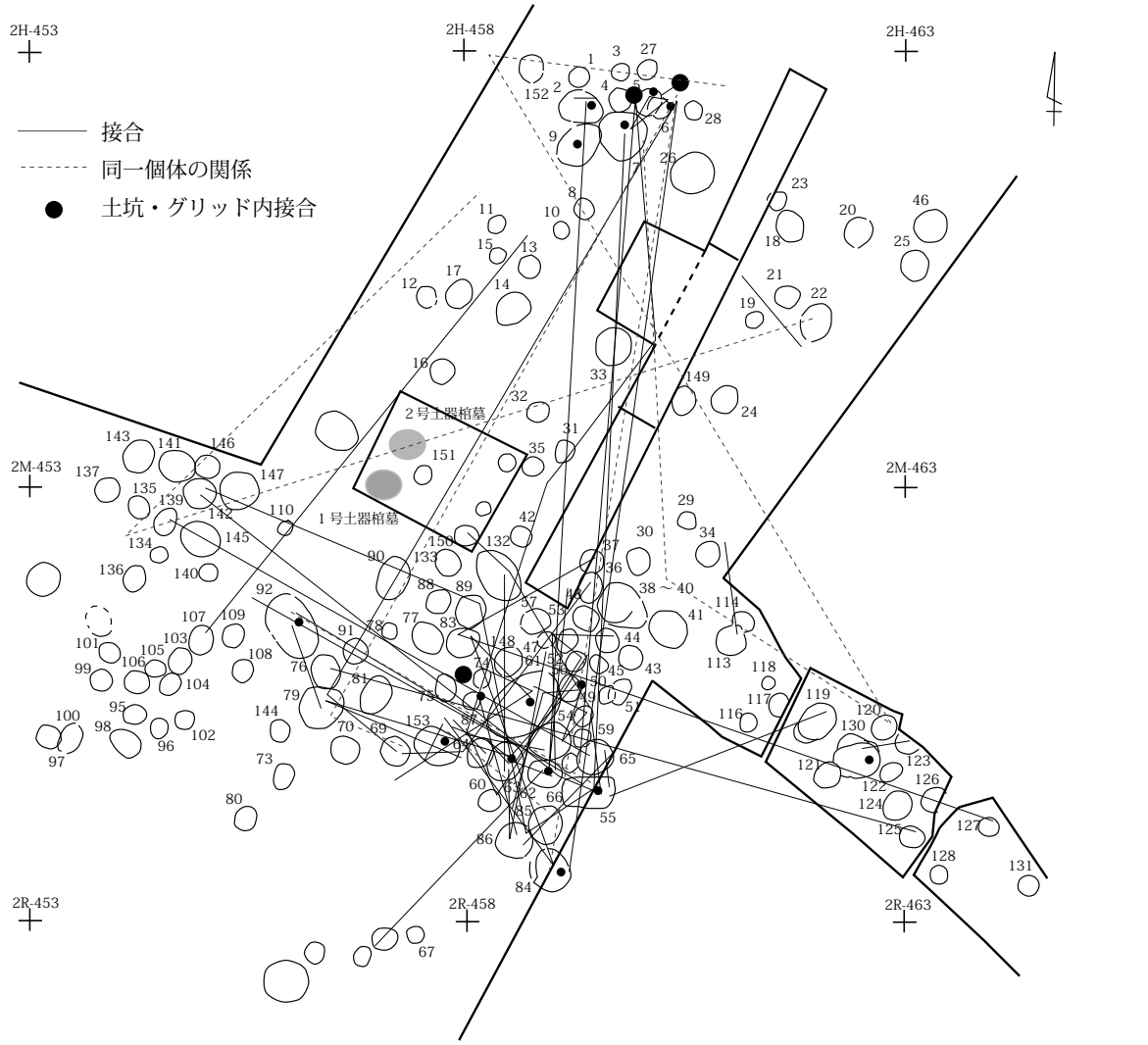
（４）古墳時代の遺構

住居址（第376図、第18表）

Ｈ－１号は、Ⅳ層面で方形プランを確認し、掘り込みが深く土師器片が出土したため、住居址として認識した。平面方形の竪穴式であるが、炉はない。床面では、D－154号土坑の集石が露出していた。集石は、Ⅳ層内に包含されたいたため、住居址とは別遺構である。覆土はⅢ層（黒色土）の自然堆積である。遺物は、中期前半の土師器甕片が出土した。



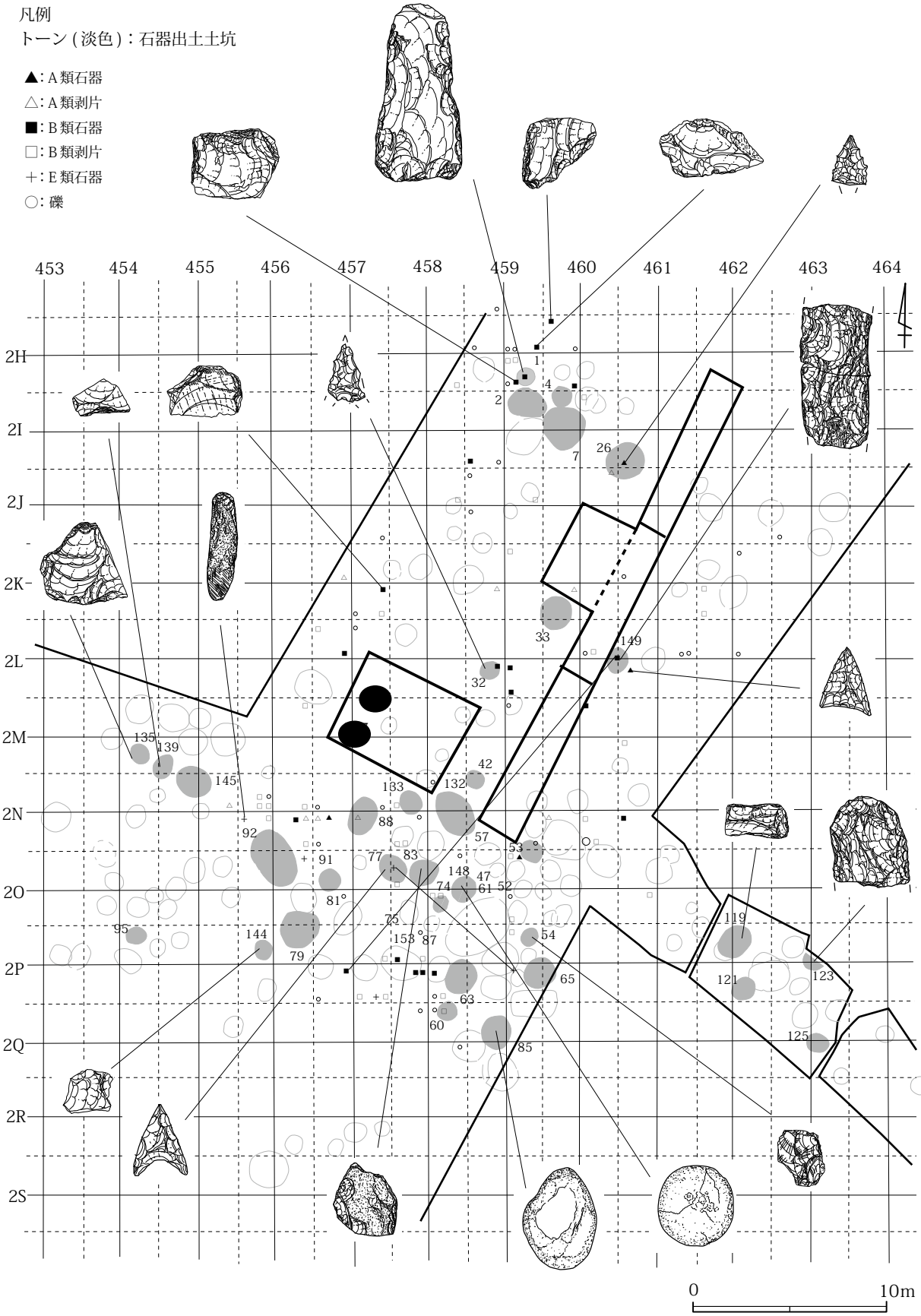
第372図　上人見遺跡（弥生）弥生土器器種別分布図（遺構外）



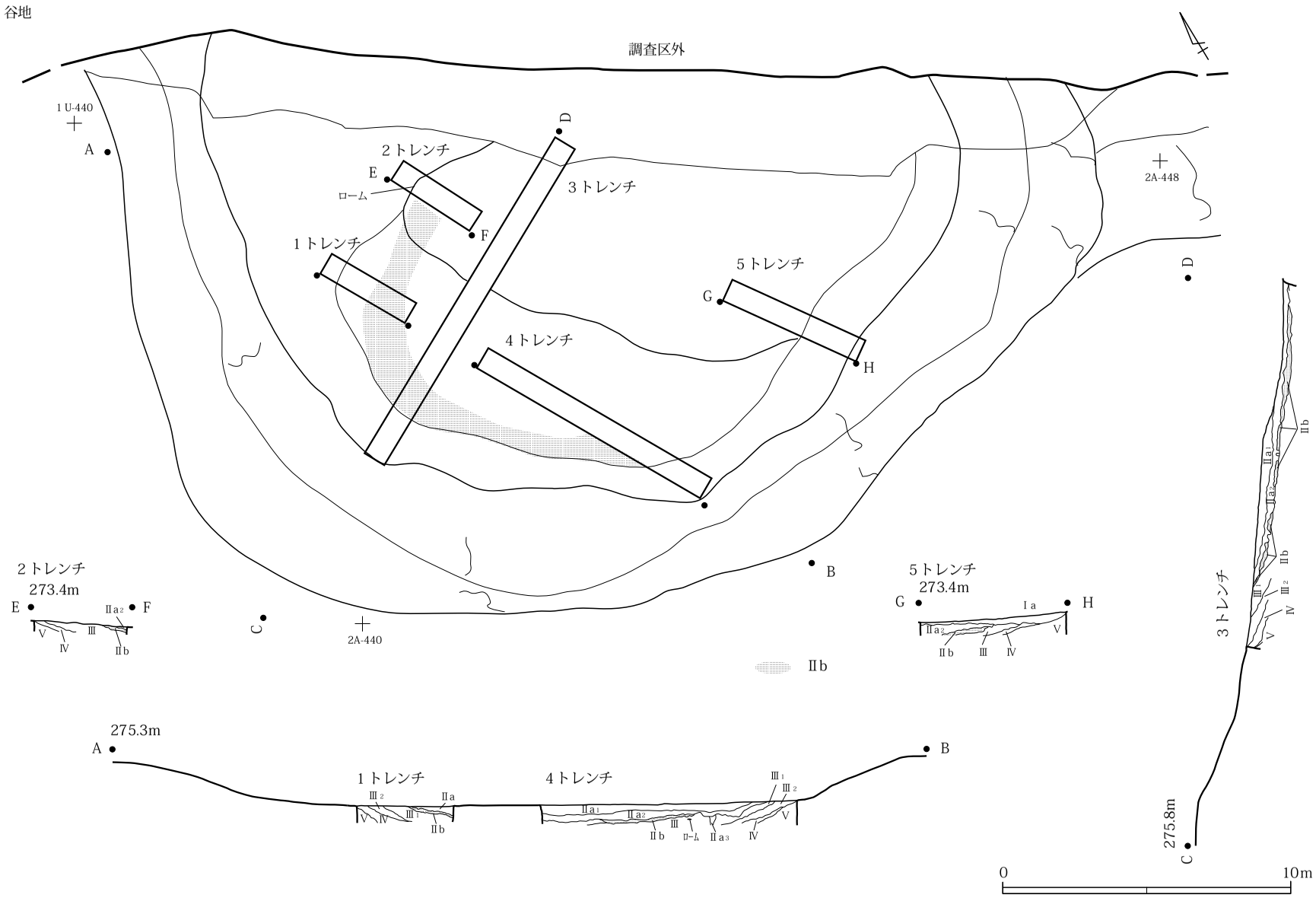
土坑間接合及び土坑グリッド間接合

個体6：D-5+D-6+D-7+2H－460+2N-460
個体110：D-9+2I-459
個体127：D-18+2K-456
個体145：D-36+2P-457
個体102：D-37+D-83+D-127
個体5：D-44+D-47+D-52+D-63+D-64+D-153+M-2+2O-457+2P-458
個体117：D-49+D-54+D-56+D-61+2O-459
個体9：D-54+D-62
個体130：D-54+D-55+D-62+D-65+D-142+2O-459
個体121：D-54+D-132+D-150+2M-458
個体37：D-55+D-65
個体25：D-55+D-86
個体152：D-55+D-119;2P-459
個体88：D-56+D-61+2P-458
個体3：D-56+D-63+D-79+2P-457
個体12：D-56+D-60+D-61+2O-457+
個体150：D-56+D-61
個体89：D-61+D-83+D-84+D-153+2O-458+2P-457
個体-：D-61+D-63
個体113：D-62+2O-459
個体14：D-62+2N-459
個体8：D-62+2P-459
個体40：D-62+D-D-82
個体42：D-63+2N-455
個体114：D-63+2O-457+2P-457-2P-458
個体149：D-63+D-86+2N-458
個体13：D-63+D-64
個体78：D-63+D-132
個体153：D-64+D-153
個体122：D-65+D-139
個体134：D-65+D-86
個体64：D-76+D-125
個体46：D-79+2O-456
個体92：D-86+D-92
個体15：D-86+D-87
個体96：D-107+2J-458
個体(93)：D-116+D-130
個体132：D-136+P-2
個体135：D-153;2O-457
個体80：D-153+2P-456
個体4：D-153+2O-457+2P-457

第373図　上人見遺跡（弥生）弥生土器遺構間接合関係図



第374図　上人見遺跡（弥生）石器分布図



第375図　上人見遺跡　谷地（湧水地）実測図

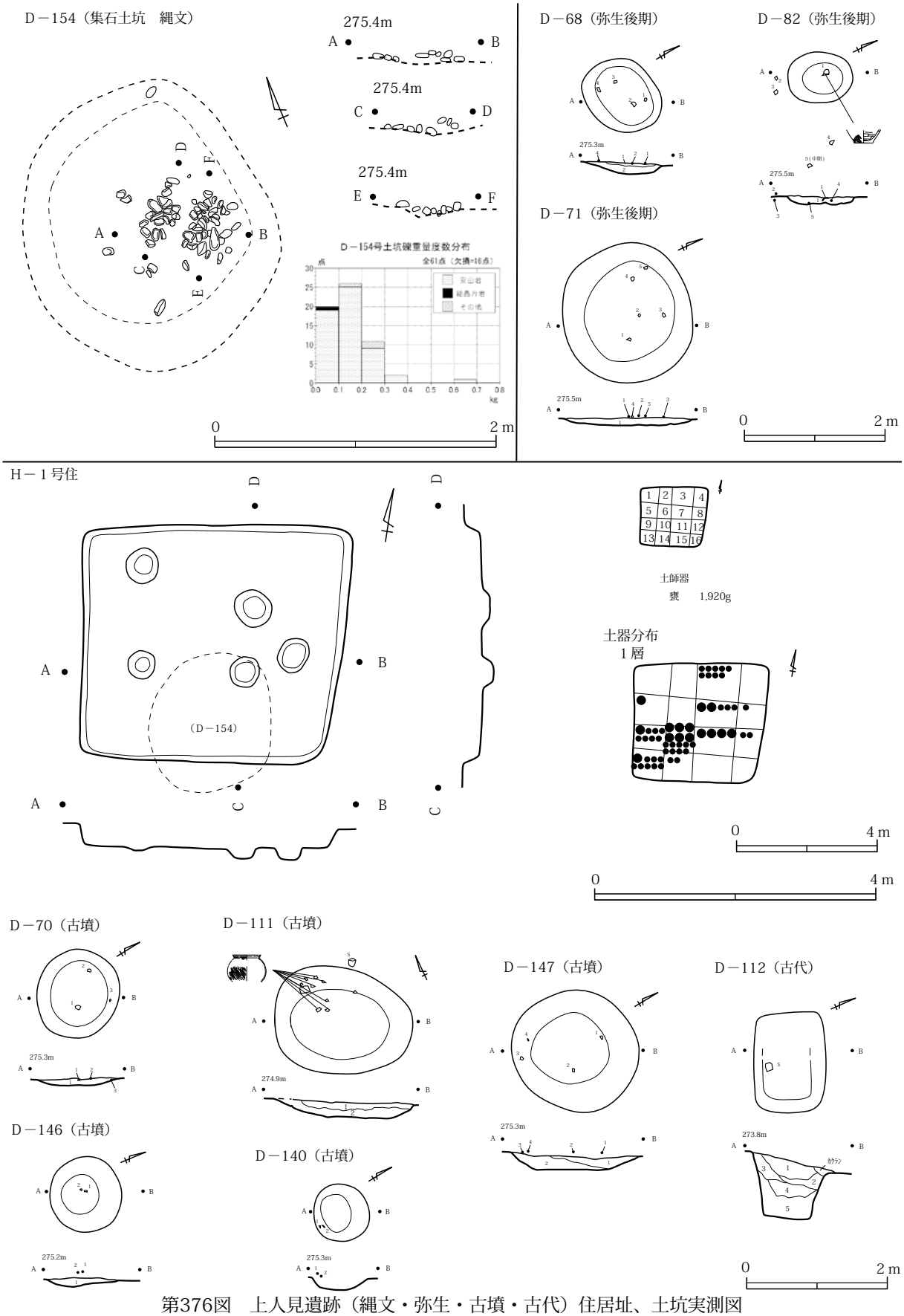
土坑（第376図、第45表）

７基確認した。弥生土坑群と重複するが、覆土に土師器を混入するもので区別した。Ｄ－111、115号（プランのみ）では、土師器坩や土師台付甕の大形破片が出土した。土坑形状は平面円形が多く、楕円形は１基のみである。断面は浅い鍋底形である。Ｈ－111号は、主軸が東西方向で西側に台付甕上半部破片、礫が分布していることから墓の可能性もある。他の土坑は、単独で散在している。これらの土坑が墓であった場合、弥生時代の墓域が何らかの要因で継承されてきた可能性が考えられる。

（５）古代の遺構

土坑（第376図、第45表）

土坑群の西側で１基確認した（Ｄ－112号）。平面方形、断面鍋底形である。覆土はロームブロックが混入した人為的埋め戻し（５層）が認められ、４層には焼土、炭化物が混入する。遺物が出土しなかったため時期は不明であり、覆土の状況から古代とした。



第376図　上人見遺跡（縄文・弥生・古墳・古代）住居址、土坑実測図

11　道路状遺構（第377～409図、付図10）

（1）平成20年度調査地点

人見東向原遺跡・人見枝谷津遺跡の調査（第378～384図）

横野台地で最初に道路状遺構が発見されたのは、平成12年度に発掘調査を行った人見大谷津遺跡である。この調査では、低地に向かって延びる両側側溝をもつ幅約10ｍの道路が約100ｍ確認された。本事業範囲に確認された道路が調査対象になる可能性があることから、道路の存在が予想されたが、平成19年度の冬季調査では遺構の存在を確認できなかった。平成20年度の調査によって平行２本の溝（Ｍ－１、２号）が確認され、道路状遺構の存在が明らかとなった。道路状遺構は、東西方向に延びる台地を斜めに横切り、途中、低地で寸断した状態でほぼ一直線に約350ｍ検出された。検出状況により、道路状遺構は調査区外へと延びていると推定される。ただし、西側部分では、撹乱及び土取りによって確認できない範囲があった。主軸方向は北－50°－東である。道路幅は側溝の心心距離で9.5～10ｍを計る。

道路部分はⅣ層中部まで削平されていたため、道路面の状態（硬化面、整地及び盛り土等）は確認できなかった。側溝である２本の溝は同規格で、幅約40㎝、深さ20～30㎝である。溝底面では性格不明の小ピットや段差（凸凹）、掘削の深さが異なる範囲を確認した。Ｍ－２号では、側溝が途中で切れる部分も確認した。覆土は黒色土を基調とした自然堆積で、底面には土砂の流れ込み及び水成堆積は認められなかった。東側の谷斜面部では、撹乱の影響によって側溝は確認できなかった。道路推定ライン内の中央では、道路に関係する遺構の一部と推定される浅く窪む硬化面が認められた。この遺構は谷に直交せず、途中で斜面を斜めに下っているものと推定される。谷部において、道路状遺構の確認を実施したところ、縁辺部において水路、低地部において古代水田址（浅間Ｂ軽石下）が確認されたため、道路状遺構に関係する遺構は確認できなかった。また、低地部の土壌分析及び堆積状況により、台地崖際及び斜面部においては、側溝はもたず、低地面での整地は行われなかった可能性が高く、道路は一旦、谷（低地）で途切れている。東向原地区では、台地端で切り通し状となって低地へと続く地形を確認した。道路状遺構からは、覆土中に古墳時代の土器が混入していたが、遺構に伴う遺物はない。

確認された道路状遺構は、側溝をもち直線であること、道路幅が10ｍに及ぶ規模をもつといった遺構の特徴と推定東山道駅路へ斜めに向かっていること、古代甘楽郡の貫前神社へと向かっていること等の地理的特徴から、東山道駅路から分かれる郡と郡とを結ぶ「伝路」であった可能性が考えられる。

確認された谷地部の水田と道路状遺構の延長線との関係では、浅間Ｂ軽石を含む土壌の堆積状態により、道路状遺構は、12世紀初頭には廃絶された可能性がある。

（2）平成21年度調査地点

人見枝谷津遺跡Ｄ区の調査（第385～392図）

道路状遺構は、第３工区で確認した続きを調査した。途中、撹乱や削平によって確認できない範囲があったが、約300ｍにわたって確認した。遺構規模については、前回の調査と同規模で、両側に側溝をもち、一直線となるもので、側溝の心心距離は約10ｍである。主軸方向は北－50°－東である。南東部分は、近世の耕作溝（芋穴）、耕作により道路面の削平が及んでいたが、中央部分の斜面では、浅間

Ｂ軽石に覆われた道路面の一部を確認した。この面では、自然層の表面が硬化した範囲と凸凹した範囲が認められた。凸凹面については、植物の痕跡の可能性もあり、道路面に関係するかは不明である。また、道路内側と外側（側溝外側の縁）では、僅かな高低差があり、側溝内側が地面よりやや低くなっていたことが判明した。

道路面は縦断が地形に沿って北傾斜しており、Ｍ－２号が高い位置にある。側溝の底面も部分的に深さが異なる。道路の側溝は、緩くジグザグ状に見え、部分的な繋ぎ目も認められる。掘削の割り当てが存在していた可能性がある。北西部分では、途中、溝が切れている部分（Ｍ－２号）もある。また、Ｍ－２号溝の溝と溝の間では、溝のライン上にのる深いピットが検出された。Ｍ－１号の北側では、Ⅲ層下部の道路面に近い位置で、地面が被熱した範囲を確認したが、道路状遺構との関連性を示す証拠は確認できなかった。

道路状遺構と重複する遺構は、古墳時代の竪穴状遺構（Ｔ－５号）、古代のＭ－20号、中世以降の溝群（道路状硬化面範囲を含む）である。

（３）平成22年度調査地点

人見枝谷津遺跡Ｅ区・人見東中原遺跡の調査（第392～398図）

遺構は、人見枝谷津遺跡Ｄ区（第４工区分）から続く西側部分で約100m、低地を挟んだ人見東中原遺跡の台地斜面部分で約150mを確認した。低地部分については、現地表から約１m下浅間Ｂ軽石層に覆われた沼地と水路を確認したが、道路延長線では、遺構は発見できなかった。地形の状況から、低地の両側の台地は、今より内側に張り出していた可能性があり、低地を渡る部分を短くするために、その最短距離まで、道路状遺構が延びていた可能性が考えられる。

道路状遺構は、今まで確認されてきたものと同規格のもので、側溝間（Ｍ－１、２号）の心心距離は、約10mである。道路面についても、構築面は確認できず、一部で浅間Ｂ軽石を含む黒色土に覆われたやや硬質部分のみを確認した。また、地形を無視して人見枝谷津遺跡部分（全範囲）では、主軸方向が北－50°－西で、低地を挟んだ人見東中原遺跡部分では、北－56°－西となり、方向がやや西へ傾くことが判明した。この傾きを維持して、平成22年度に調査を実施した人見三本松遺跡で発見された道路状遺構へとつながっている。道路状遺構に関連する遺物は、全く出土しなかった。

（４）平成22・23年度調査地点

人見西中原遺跡の調査（第398～409図）

人見西中原遺跡では、人見東中原遺跡（第５工区分）の続きから県道までの範囲で約460m確認した。遺構は、東西方向に延びる台地南斜面に沿って南へ傾いて一直線に走向する。道路縦断面では、東から西へと傾斜が上がり、調査区中央部分（３区付近）で平坦となり、徐々に西へと傾斜している。本遺跡の道路状遺構は、これまで確認されてきた遺構と同様、両側側溝は平行し、道路が幅約10mでほぼ一直線で、主軸もこれまでの遺構とほぼ一致する（Ｎ－56°－Ｗ）。３区付近では、道路側溝及び道路面が浅間Ｂ軽石に覆われた範囲を確認した。道路面の浅間Ｂ軽石を除去したところ、Ⅲ層（黒色土）の平坦面を確認したが、道路構築に伴う遺構は認められなかった。ただし、部分的に凹凸面を確認したが、自然的要因（植物痕、動物の巣穴等）もあり、今のところ性格は不明である。今回の調査では、硬化面

は確認できなかった。これらによって、道路面は地面を削平によって平坦に整えるのみであった可能性がある。

本遺跡では、以下の道路の特徴がみられた。

1．道路内側から徐々に浅く傾斜し、溝部分で屈曲して深くなる。外側も内側同様、浅く開く。

2．側溝を境にして内側が高く、外側が低くなる。内側は、中央が高く、マウンド状となる。

3．溝底面の高さ及び勾配は一定ではなく、高低差がある。また、通常の溝掘削とは異なる方法として、溝掘削後に底部をロームブロックが混入する土で埋め戻し、底面の高さを調整する方法あるいは底部を土坑状あるいは溝状に掘削して連結させる方法等が認められた。

4．横断面では、両側側溝の底面高さの状況から、道路が南に傾斜していることが認められた。

5．覆土は、ほぼ全域で人為的掘り返しは認められず、Ⅲ層（黒色土）の自然堆積を基本とする。3区M－2号溝覆土上部では、意図的に破砕された8世紀初頭の土師器甕が出土した。これにより、8世紀には、溝の大部分が埋没していたことになる。また、道路と交差するM－4号からも同時期の土器が出土した。

6．4区では、道路状遺構と溝（M－4号）の交差が認められた。溝は、道路構築によって道路部分が埋め戻され、両側側溝が溝と直結して掘削されている。両遺構とも同時期の遺構と考えられる。

7．両側の側溝形状は、非対称であることが多く、側溝自体が所々途切れている範囲が認められた。

本遺跡の調査では、以上の点が明らかとなり、これまでの人見枝谷津遺跡等調査成果に加え、道路側溝と道路面の構造を具体化させることができた。

（5）M－1・2号溝

人見東向原遺跡（第378・379図）

M－1号とM－2号との心心距離は約8.5mである。両側溝の上幅は、確認面で60～90cmと幅があるが、土層堆積が安定した範囲（1区東壁及びH－32号）では、当時の幅が120cm程度であったことを確認した。斜面部は、低地に向かいってM－1号が外側に開き、両溝との心心距離が約10mとなる。低地に面する斜面（崖）は、人為的掘削によって切り通し状となり、緩く傾斜して低地に接続する。両側溝は、斜面の落ち際で止まる。

人見枝谷津遺跡（第380～394図）

低地から台地に差しかかる部分では、低地から一直線に上がるのでは無く、斜面に直交し、低地付近で東に折れる浅い溝を確認した。Ⅳ層を掘り込んで、底面はⅢ層に覆われ硬化している。底面は凸凹している。低地部分では、直接、道路状遺構を確認することはできなかったため、この部分を確認状況から道路状遺構の一部と判断した。M－1号とM－2号溝との心心距離は確認面の深さによるが約8.5～1.0mである。台地斜面の途中（第381図）から側溝が開始し、両側溝の間隔は一定の距離で維持されているが、途中で途切れる範囲を確認した（A区M－2号9区付近等）。D区M－2号2区付近では、溝が確認されず、もともと存在しなかった可能性がある。また、D区M－2号1区付近では、途切れた溝の延長線上に等間隔に並ぶ浅いピットと極端に深いピットを確認した。これにより、両側溝が必ずしも対称とならないことを確認した。E区斜面部では、削平による地形改変のため遺構の状態は確認できなかった。D区5区の斜面部では、道路面が浅間B軽石に覆われている硬化及び凹凸面を確認した。道

路面が確認できる範囲では、凹凸面が確認できたが、道路面構築に伴う盛土等は認められなかった。これにより、道路面は地ならし程度であったと考えられる。

人見東中原遺跡（第395～397図）

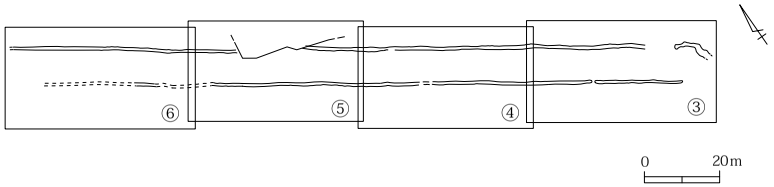
低地部については、確認調査を行ったが遺構は確認できなかった。側溝は、低地に向かって緩やかに傾斜する台地の落ち際で確認した。斜面では、浅間Ｂ軽石層下の地面（Ⅲ層）を確認したが、側溝等の道路に関係する遺構は、確認できなかった。Ｍ－１号とＭ－２号との心心距離は、9.5～10ｍである。両側溝の高低差（底面の高さ）が50㎝以上あり、南への傾斜が著しい。

人見西中原遺跡（第398～409図）

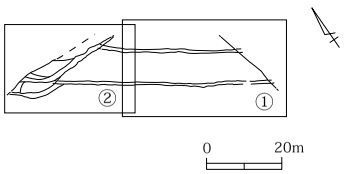
両側溝と道路面の遺存状態が最も良好で、当時の状況を確認することができた（３～７区）。Ｍ－１号とＭ－２号の心心距離は、9.5～10.5ｍであり、本遺跡が最も幅が広い。道路面中央から掘り込まれ、側溝の断面形状は、溝内外側が浅く傾斜する。側溝の上幅は、浅い部分が３～4.5m、溝部分が1.4～1.7ｍである。道路面の断面は、湾曲する。側溝の外側は道路面より低く、開いている。側溝の構造は、古代の溝に類似しており、構築方法に共通性が認められる。側溝の覆土は、Ⅲ層（黒色土）の流れ込みによる自然堆積が主体であり、底面近くでは、Ⅲ層に側溝壁面の土（Ⅳ層）が崩れて溶け込んだ状態（暗褐色）となる部分が一部で認められれた。土層の堆積は、土層区分が明確になるような堆積は認められず、均一で単純な堆積状況となっている点で、他の遺跡でみられる溝や道路側溝覆土との共通性がある。

Ｍ－２号３区の覆土上部では、土師器甕破片（№１）が集中して出土した。破片の状況から、側溝が埋没してから廃棄されたと考えられる。４区では、道路部分に係るＭ－４号に対しての埋め戻しを確認した。埋め戻し部分は、陥没を防ぐため、硬くかためられている。Ｍ－４号が完全には埋めきらない状態であるため、両側溝の外側は、埋没途中の面を上場としている。なお、両側溝の底面は、素掘のままと掘削後に底面を整えるための埋め戻しが施される（掘り方をもつ）といった２つの形態が認められた。埋め戻し土は、黒色土にロームブロックが混入する。また、底面形態は、平坦となる構造が主体であるが、Ｍ－２号の一部で溝あるいはピットが連結する構造（「土坑連結式」）を確認した（５～７区他）。道路面が、浅間Ｂ軽石で覆われた範囲を確認し、この部分大してジョレン、移植ゴテ等で人力で掘り下げて精査した結果、駅路等でみられる「波板状凹凸面」、版築、盛土等の基礎工事の痕跡は認められなかった。２本の側溝掘削後には、Ⅲ層面を部分的に削平し、平坦にならす程度の工事が施され、そのまま道路面として使用していた可能性が考えられる。また、道路面の一部では、硬化面と凹凸面が確認できいたが、人為的あるいは自然現象（地面露出、植物痕等）であるかを判断することはできなかった。側溝掘削時の排土は、道路面にならされたとはいえ、土層断面では、Ⅲ層内の堆積に乱れがないことから、道路外側または別の場所に搬出されたものと思われる。

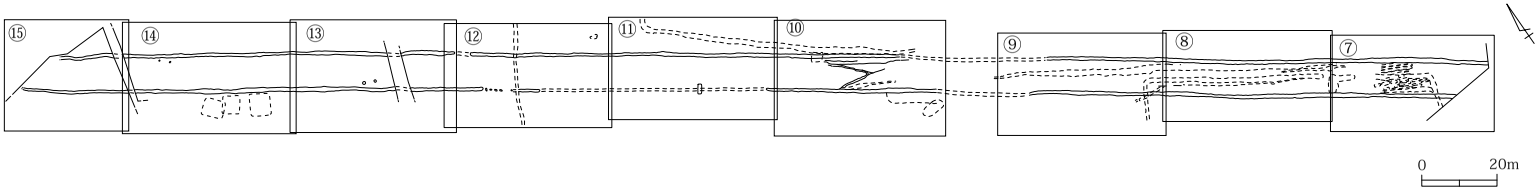
人見枝谷津遺跡Ａ区　道路状遺構　割図（③～⑥）



人見東向原遺跡　道路状遺構　割図（①・②）

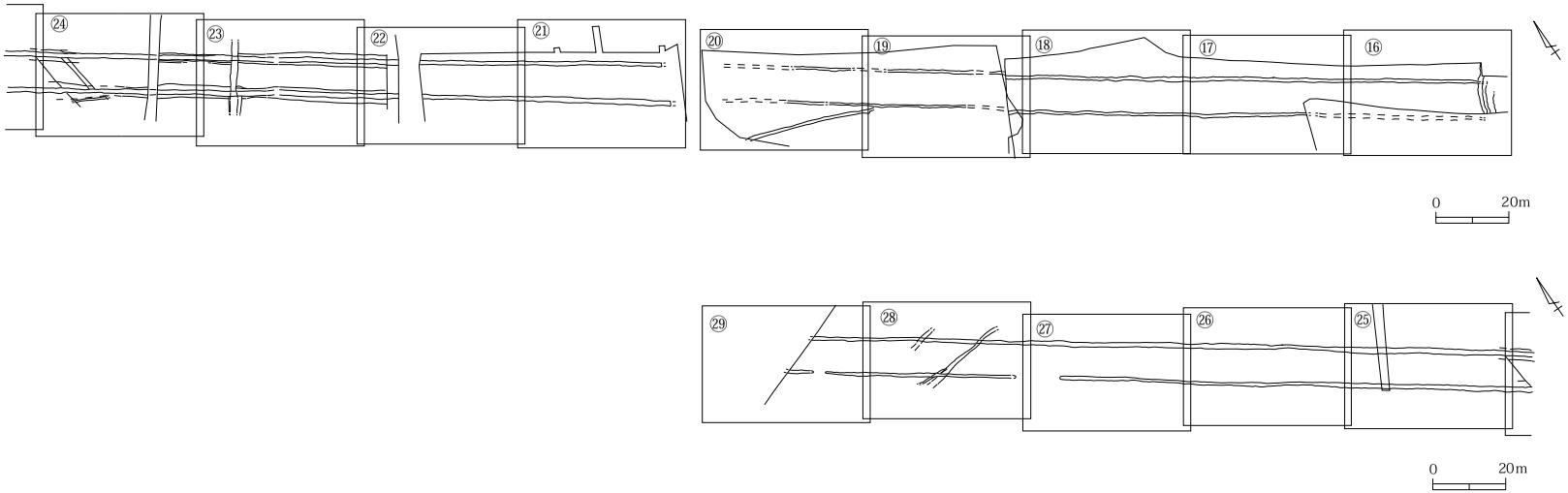


人見枝谷津遺跡Ｄ・Ｅ区　道路状遺構　割図（⑦～⑰）

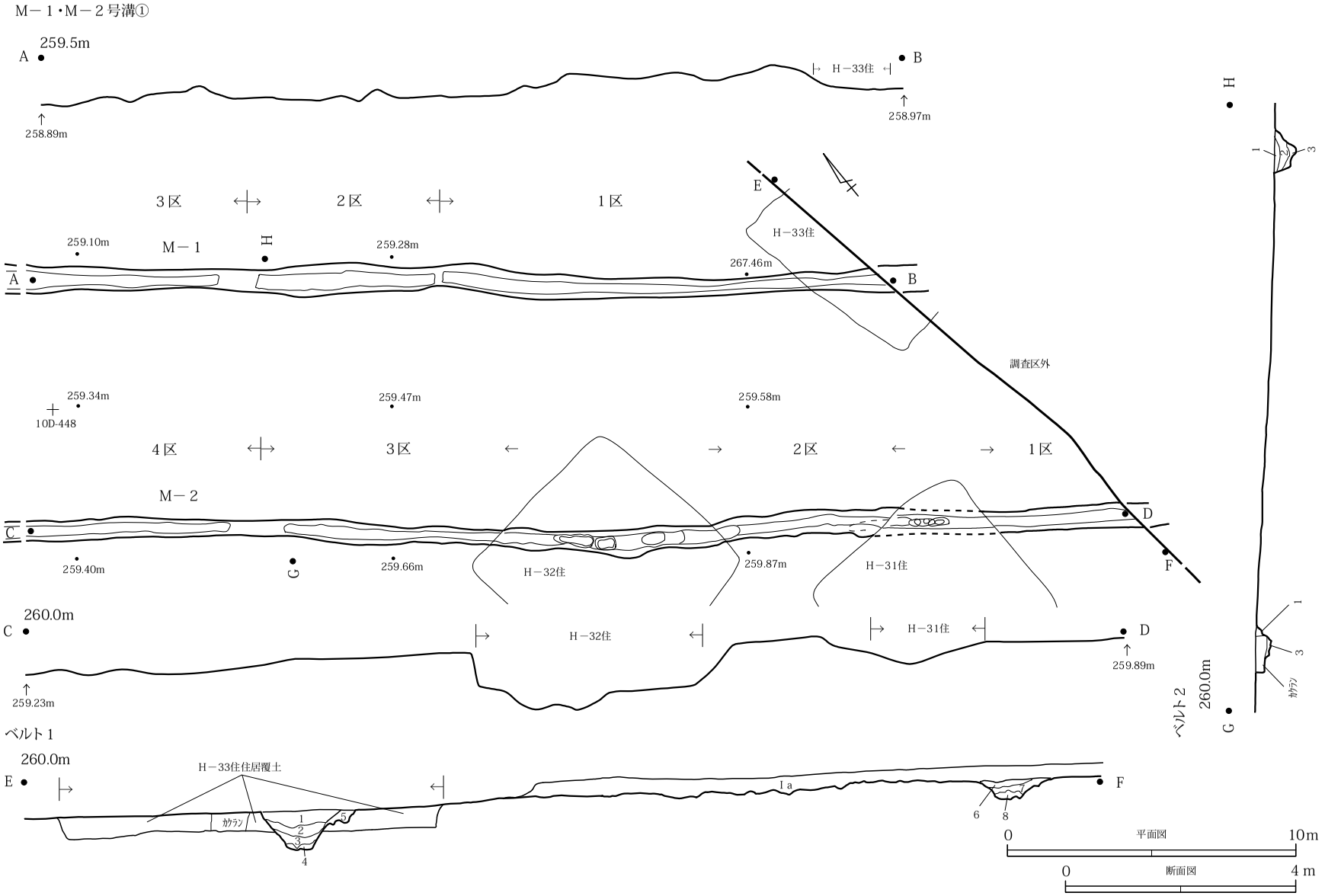


人見西中原遺跡　道路状遺構　割図（⑲～㉙）

人見東中原遺跡　道路状遺構　割図（⑯～⑱）

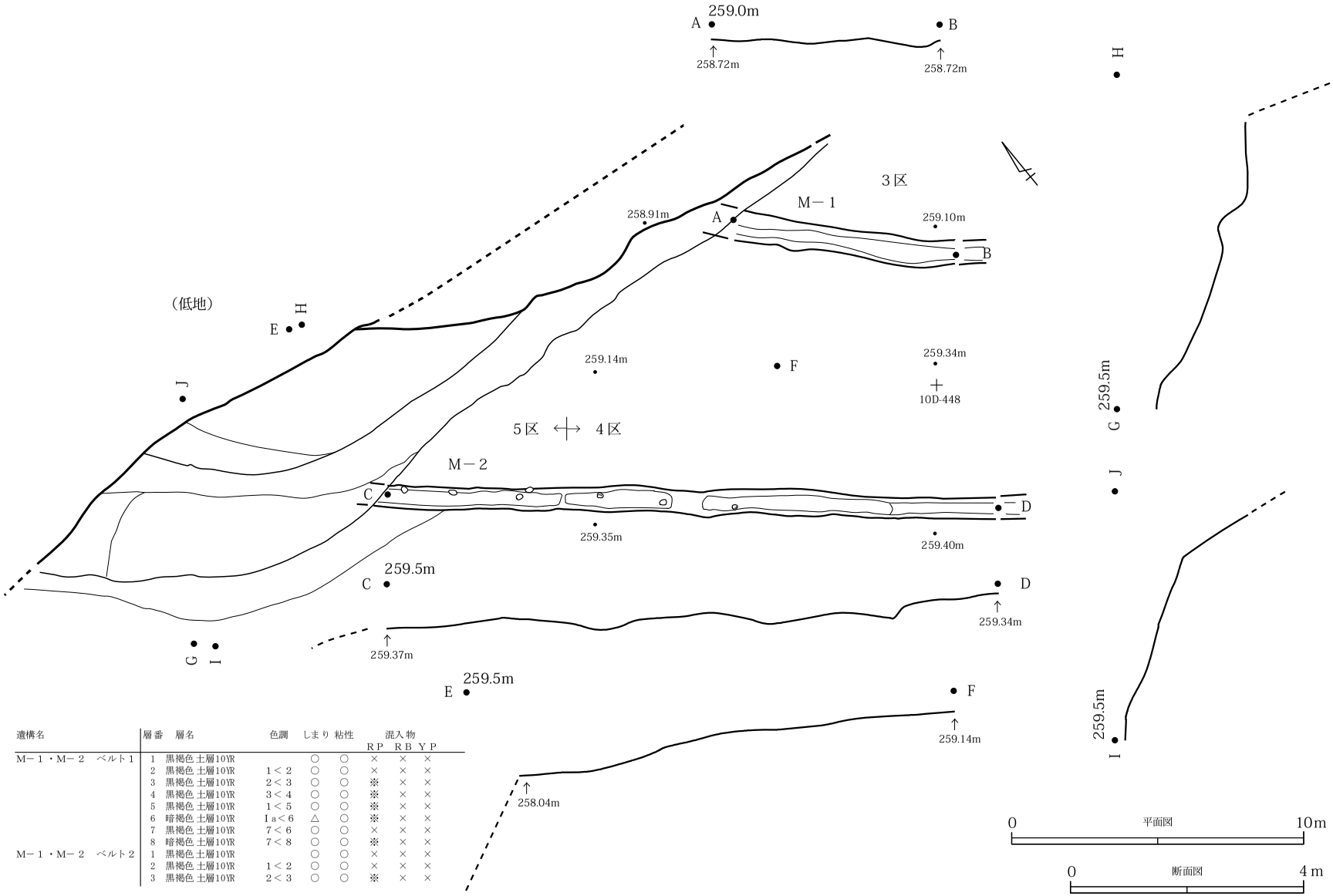


第377図　道路状遺構　割図



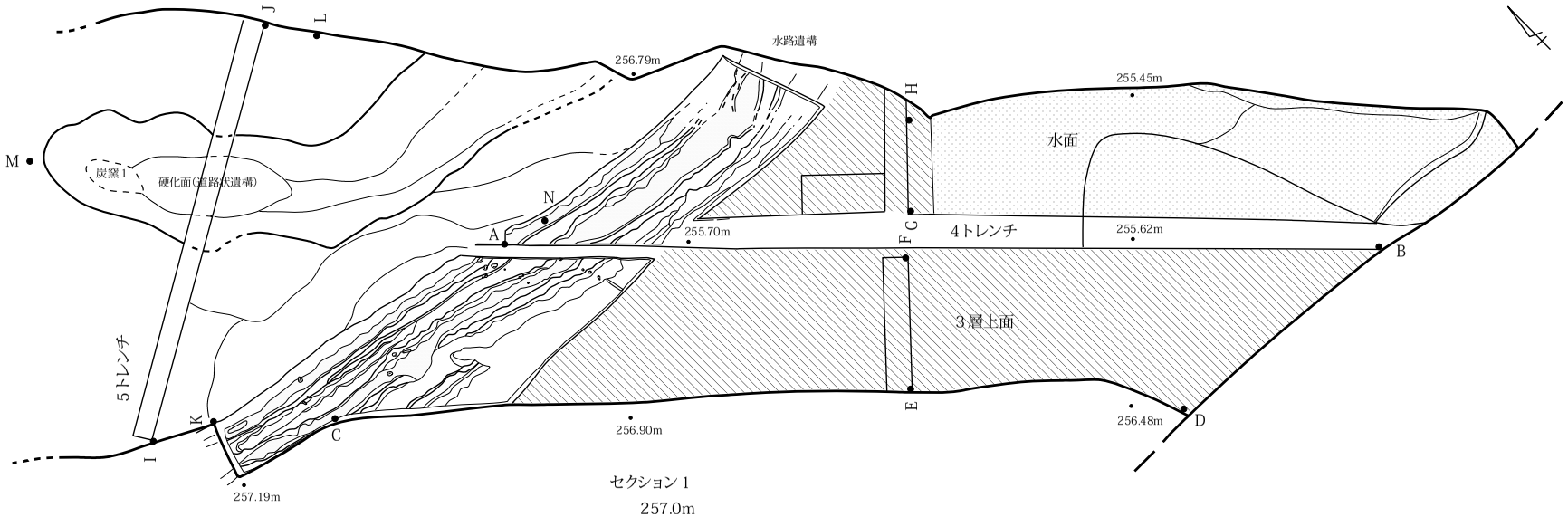
第378図　人見東向原遺跡（古代）道路状遺構実測図（1）

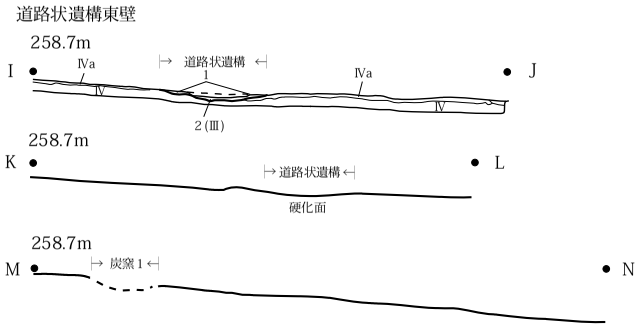
M－１・M－２号溝②

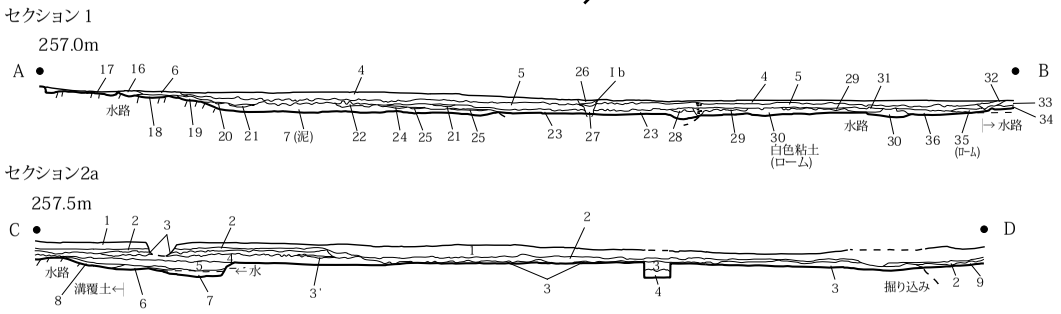


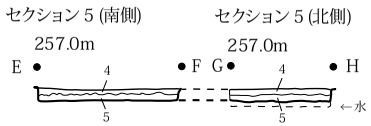
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
M－１・M－２ ベルト１	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×
	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×
	5	黒褐色土層10YR	1＜5	○	○	※	×	×
	6	暗褐色土層10YR	Ia＜6	△	○	※	×	×
	7	黒褐色土層10YR	7＜6	○	○	×	×	×
	8	暗褐色土層10YR	7＜8	○	○	※	×	×
M－１・M－２ ベルト２	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×

第379図　人見東向原遺跡（古代）道路状遺構実測図（２）

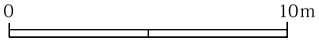




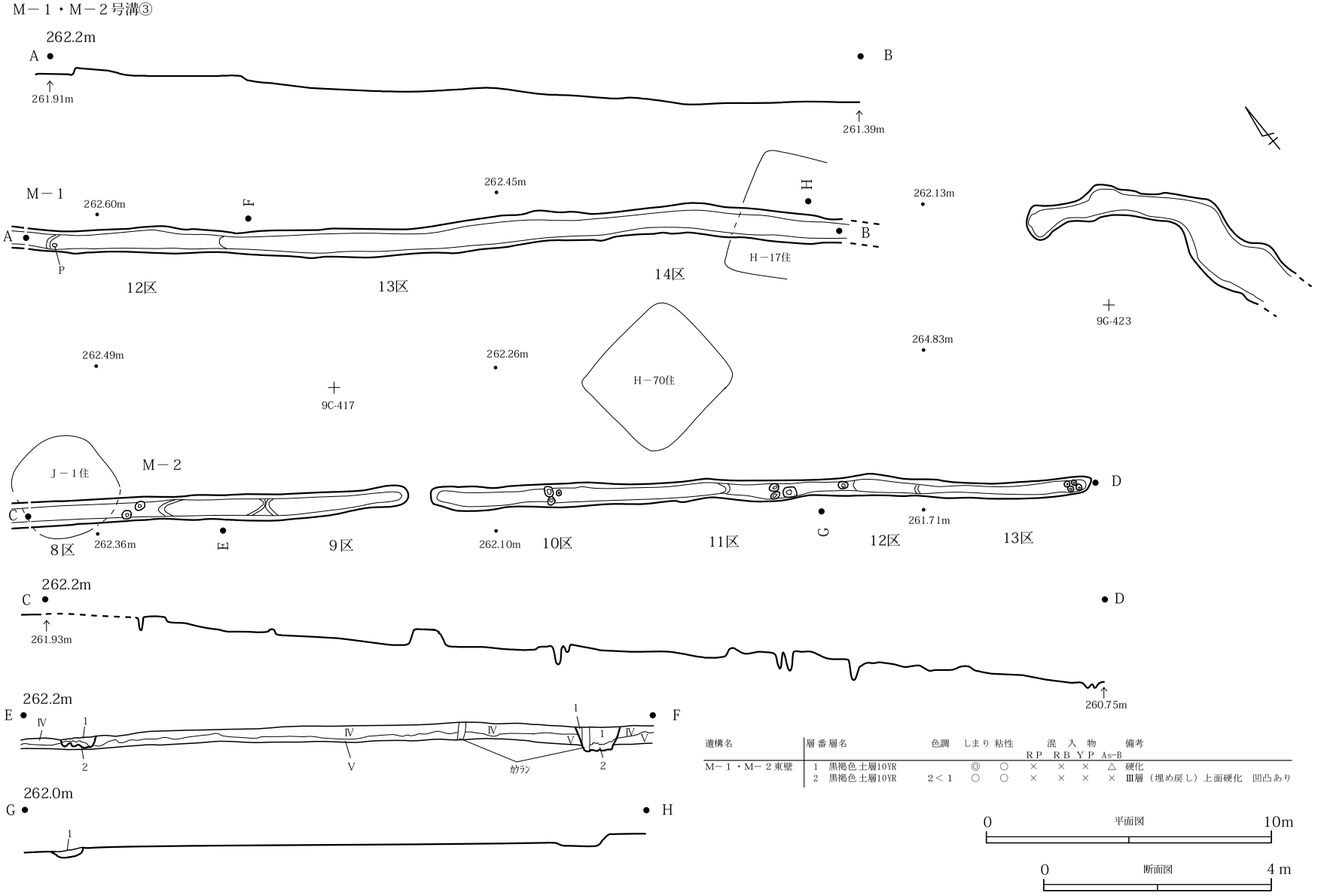




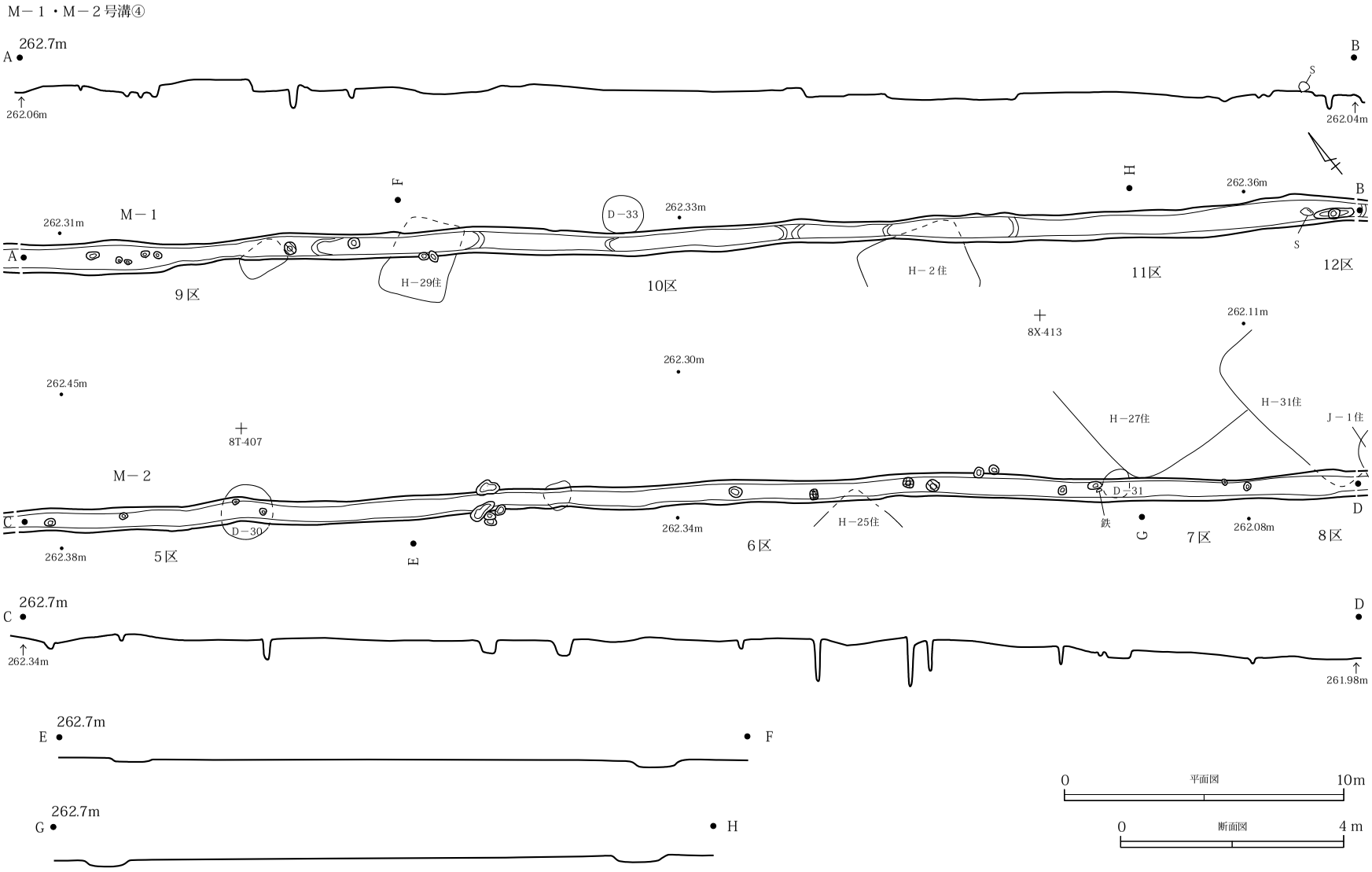
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B	備考
道路状遺構 東西セクション	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×	△	硬化
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×	×	Ⅲ層（埋め戻し）上面硬化 凹凸あり



第380図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構低地部実測図

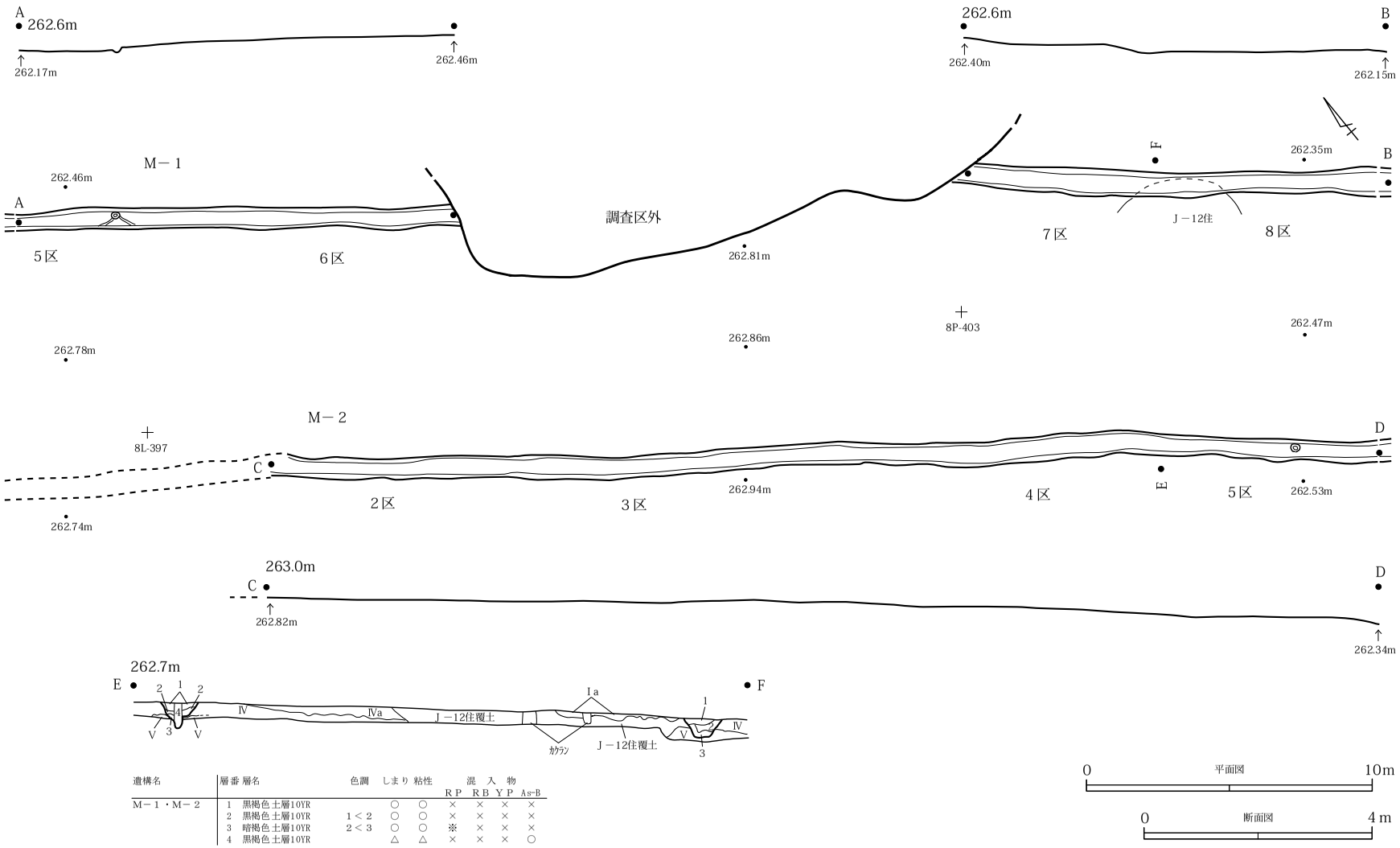


第381図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（１）



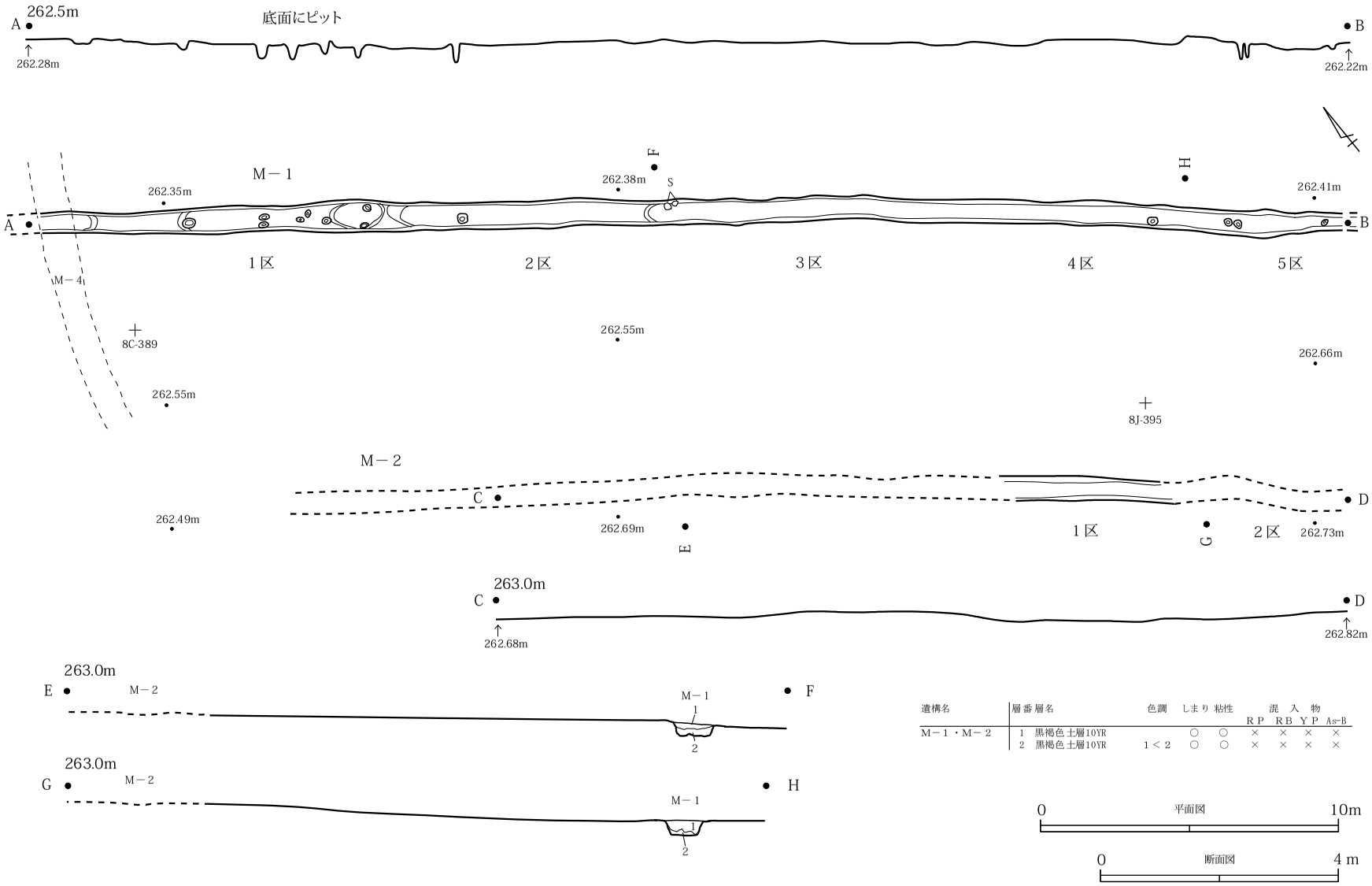
第382図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（２）

M－１・M－２号溝⑤



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
M－１・M－２	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	×
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×	×
	4	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×	○

第383図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（３）

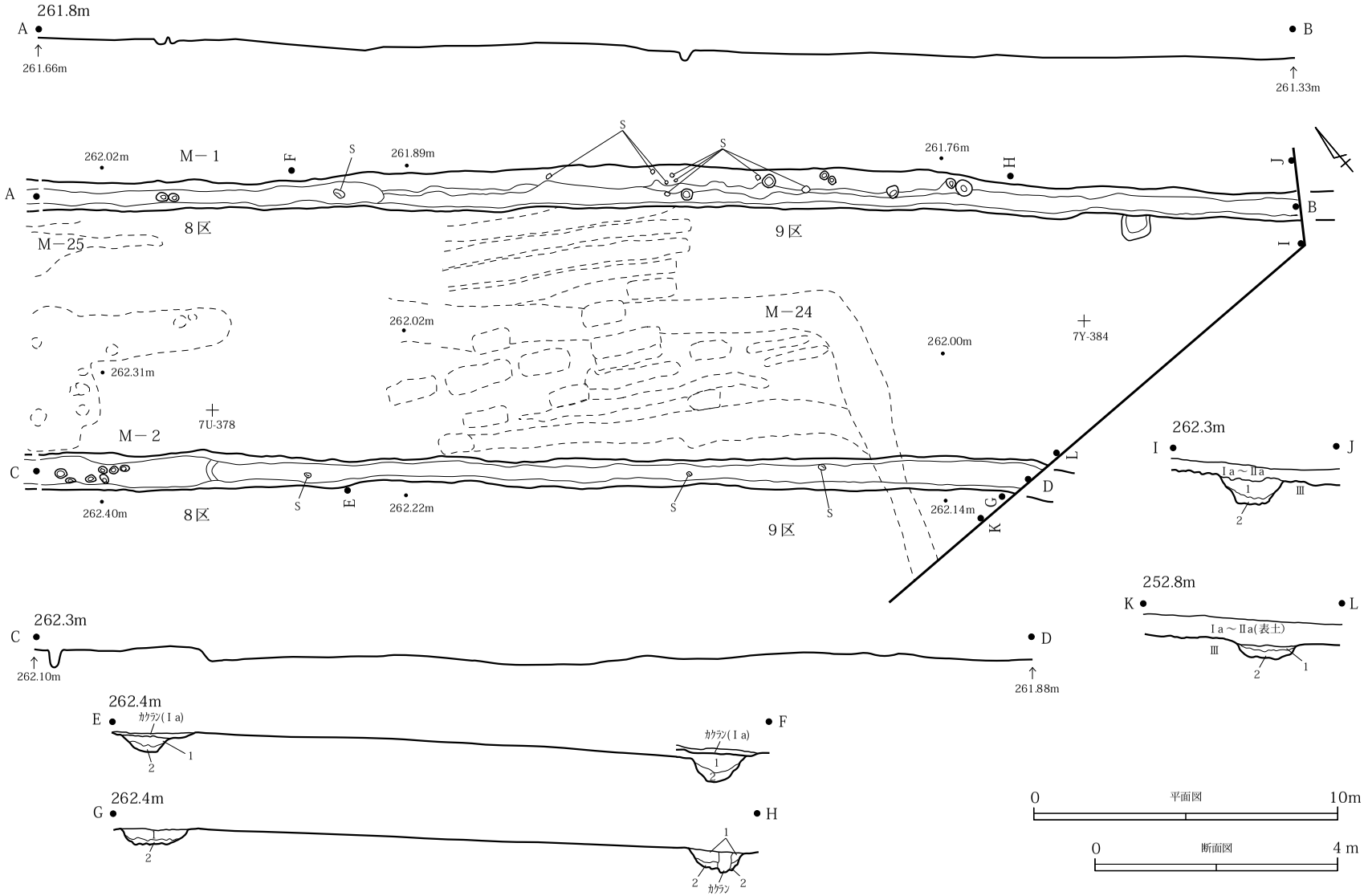


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-B
M－1・M－2	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	×

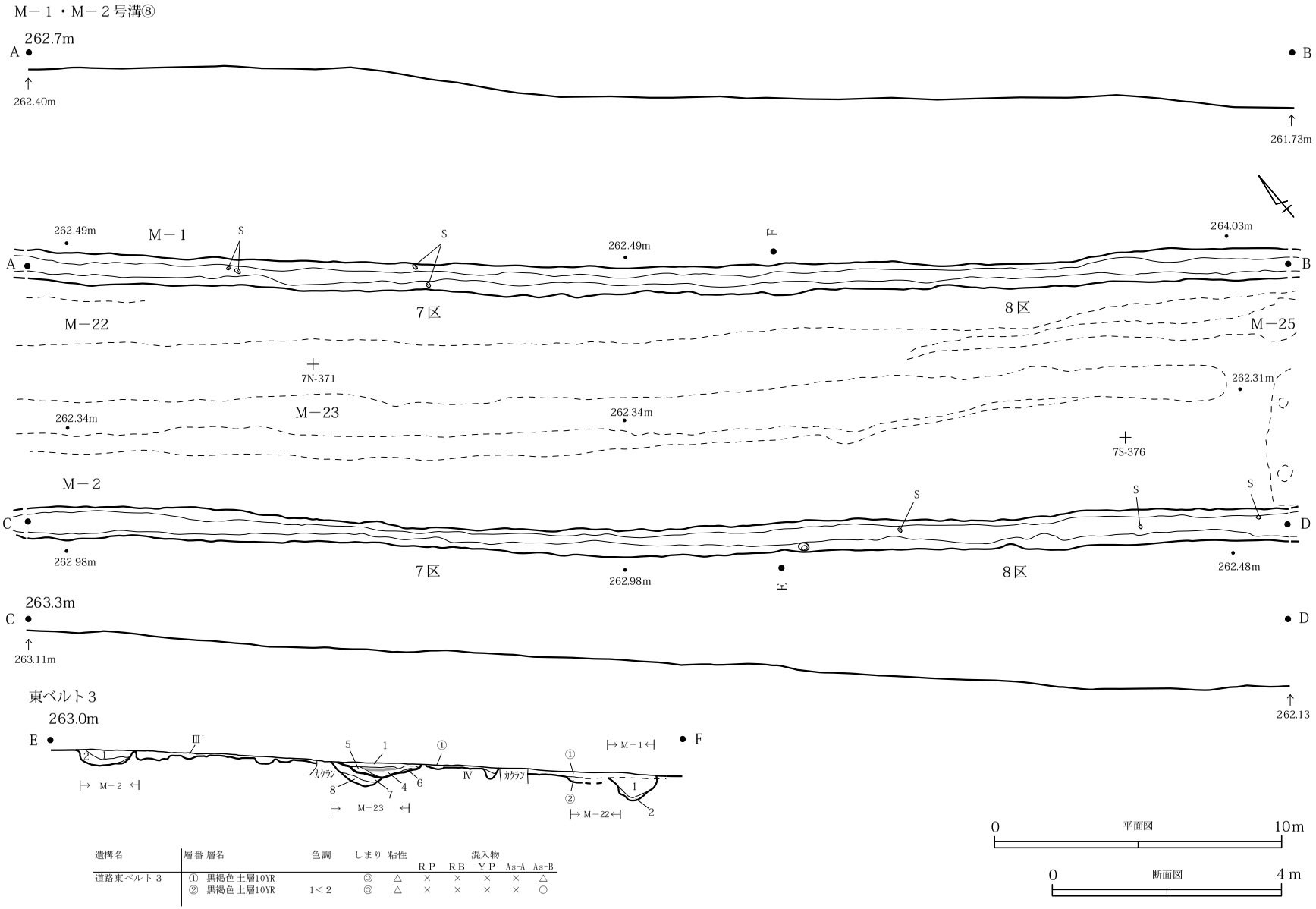
0 平面図 10m

0 断面図 4m

第384図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（４）

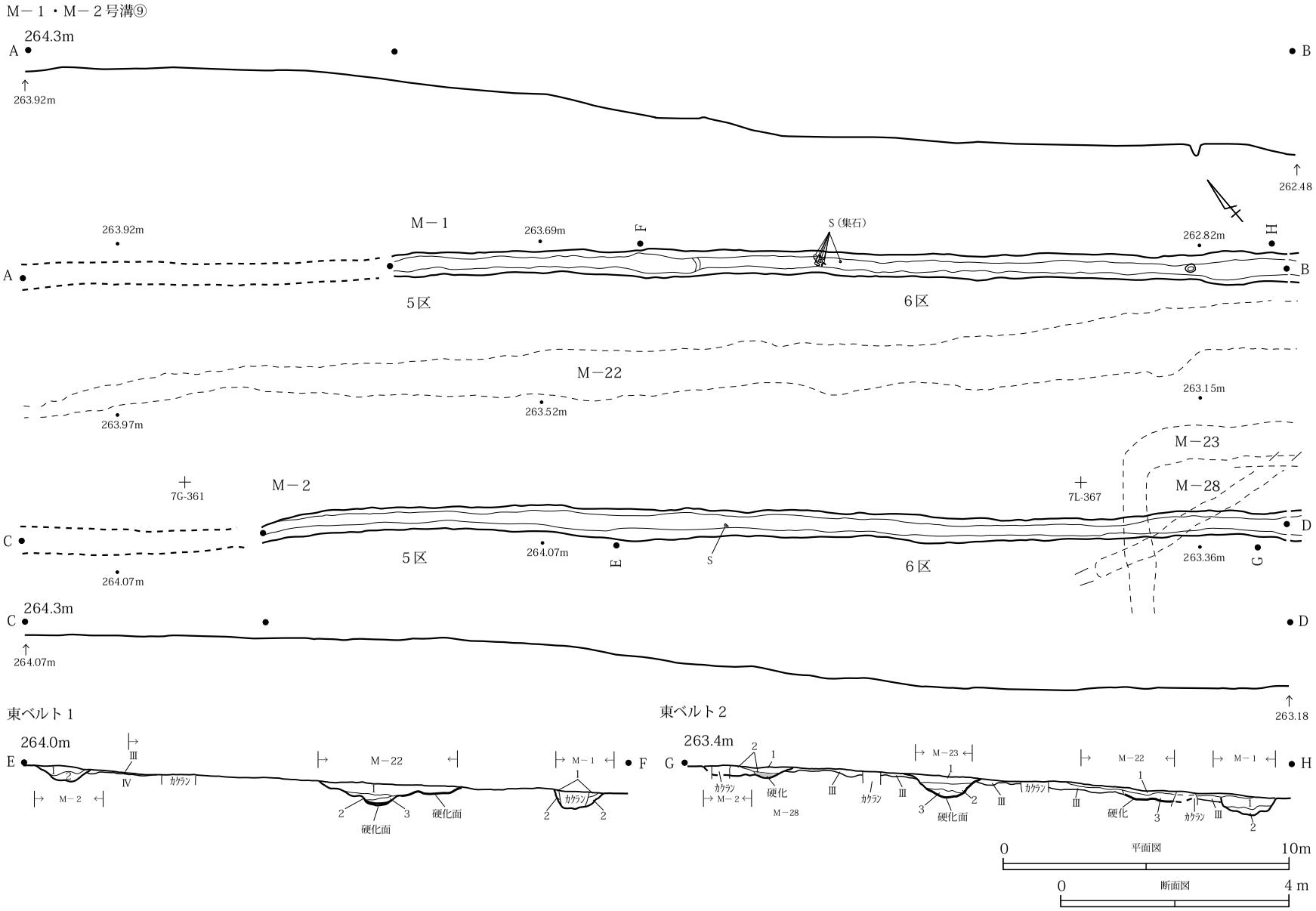


第385図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（５）

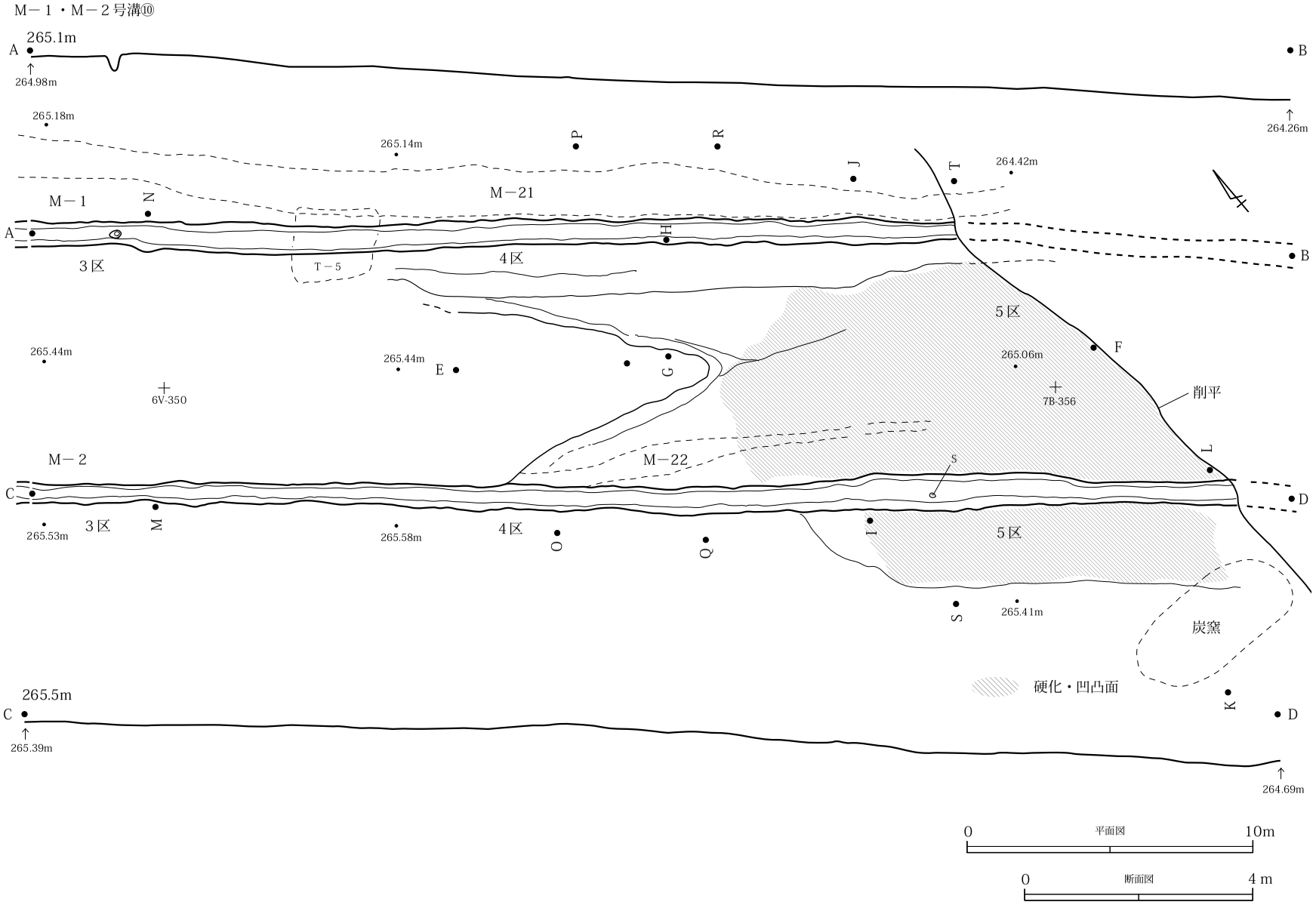


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B
道路東ベルト３	①	黒褐色土層10YR		◎	△	×	×	×	×	△
	②	黒褐色土層10YR	1＜2	◎	△	×	×	×	×	○

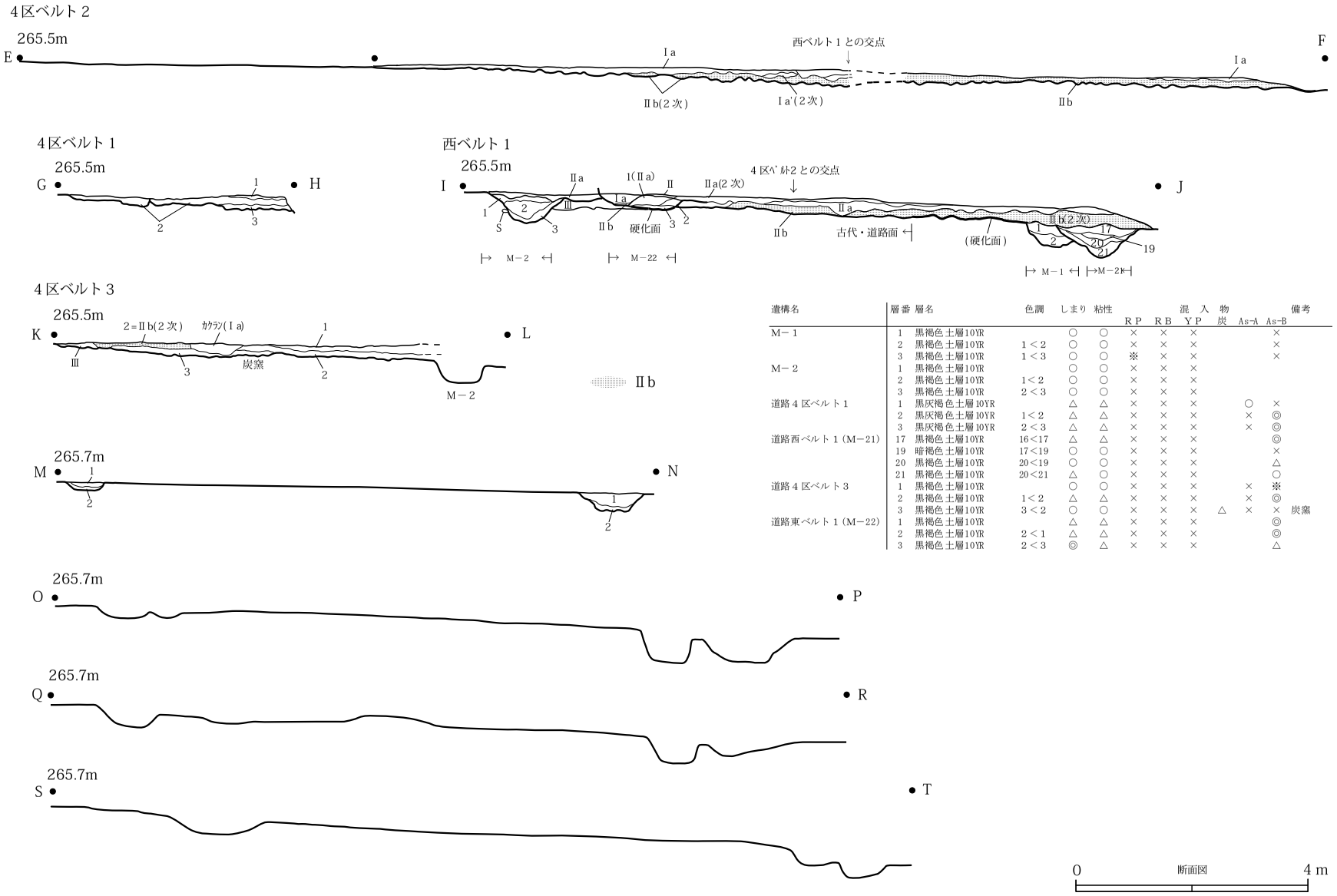
第386図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（６）



第387図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（７）

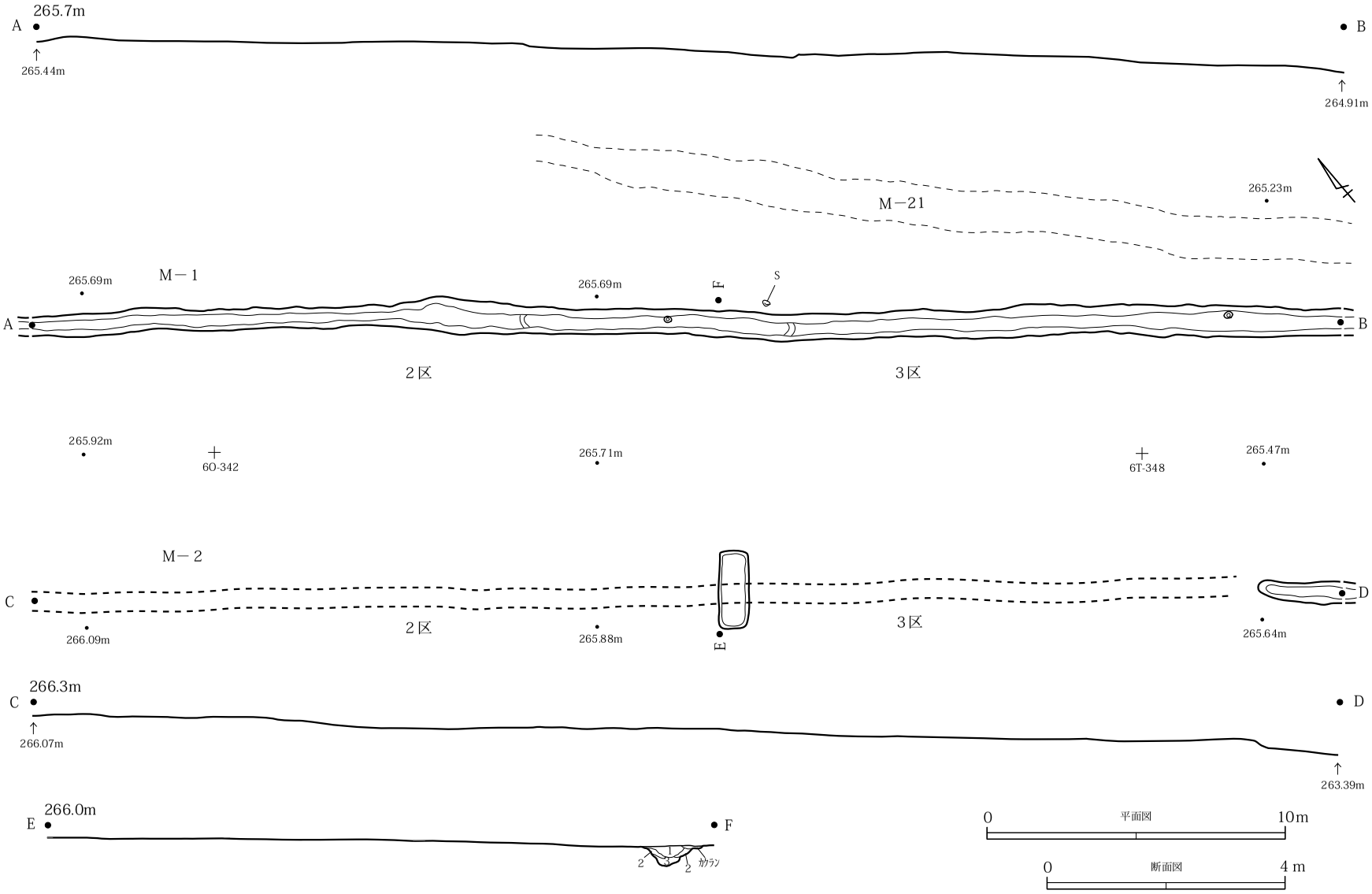


第388図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（８）

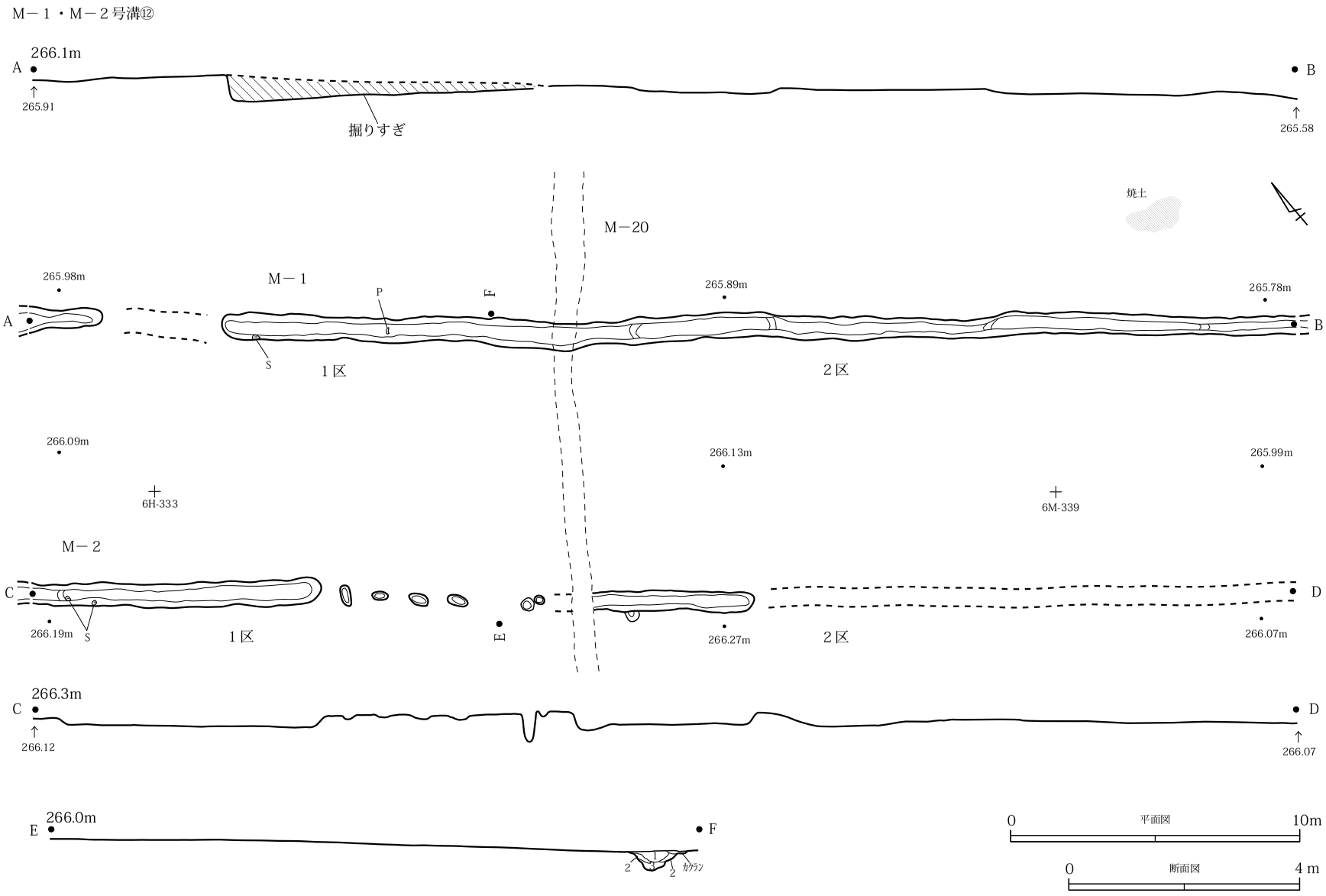


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	混入物 YP	炭	As-A	As-B	備考
M−1	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×			×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×			×	
	3	黒褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	×	×			×	
M−2	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×				
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×				
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	×	×	×				
道路4区ベルト1	1	黒灰褐色土層10YR		△	△	×	×	×		○	×	
	2	黒灰褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×		×	◎	
	3	黒灰褐色土層10YR	2＜3	△	△	×	×	×		×	◎	
道路西ベルト1(M−21)	17	黒褐色土層10YR	16＜17	△	△	×	×	×			◎	
	19	暗褐色土層10YR	17＜19	○	○	×	×	×			×	
	20	黒褐色土層10YR	20＜19	○	○	×	×	×			△	
	21	黒褐色土層10YR	20＜21	△	○	×	×	×			○	
道路4区ベルト3	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		×	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×		×	◎	
	3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	×	×	×	△	×	×	炭窯
道路東ベルト1(M−22)	1	黒褐色土層10YR		△	△	×	×	×			◎	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	△	△	×	×	×			◎	
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	◎	△	×	×	×			△	

第389図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（９）

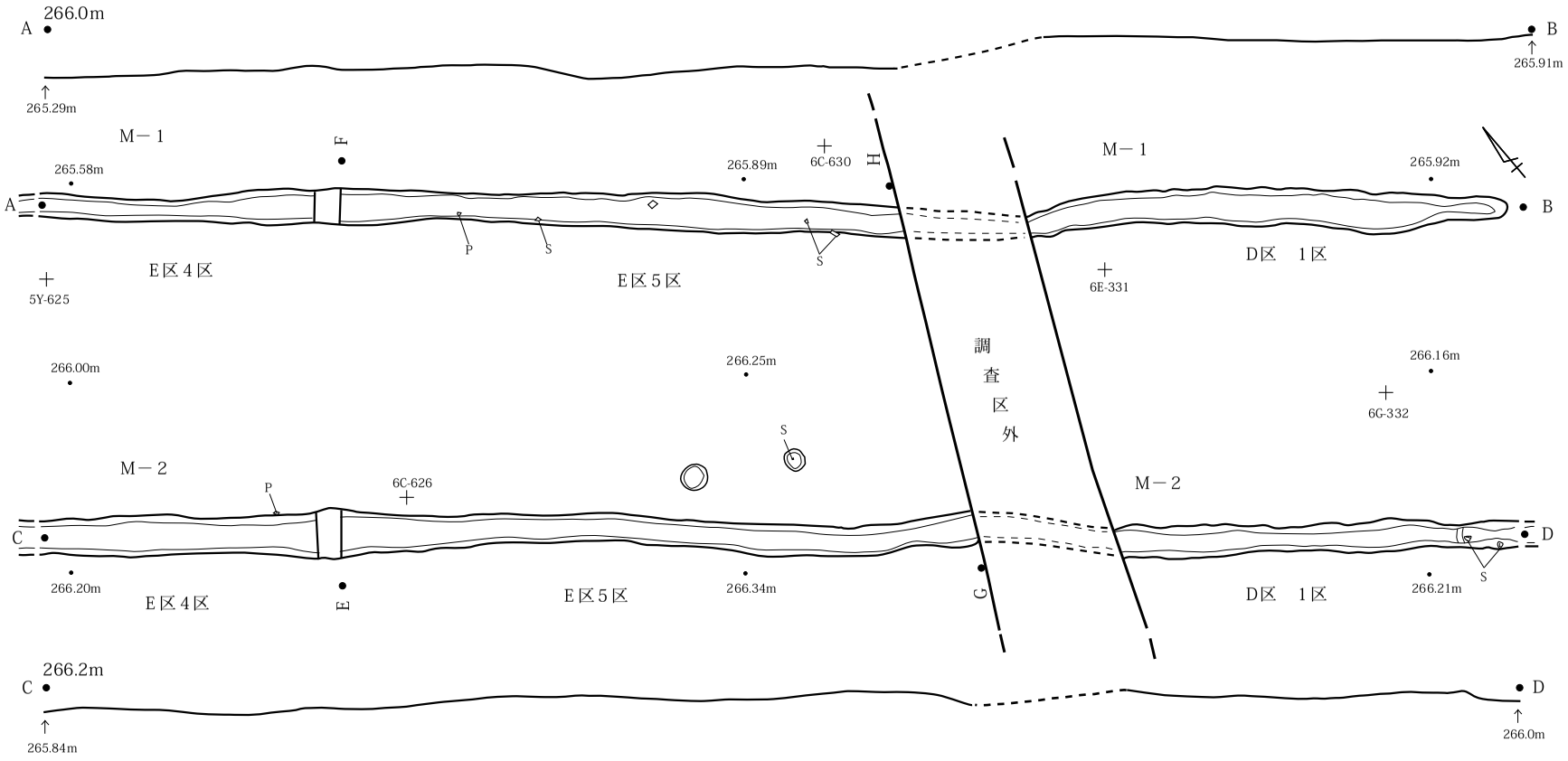


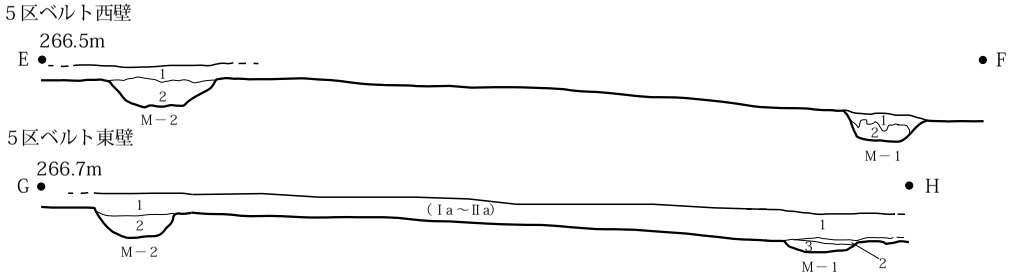
第390図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（10）



第391図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（11）

M－1・M－2号溝⑬

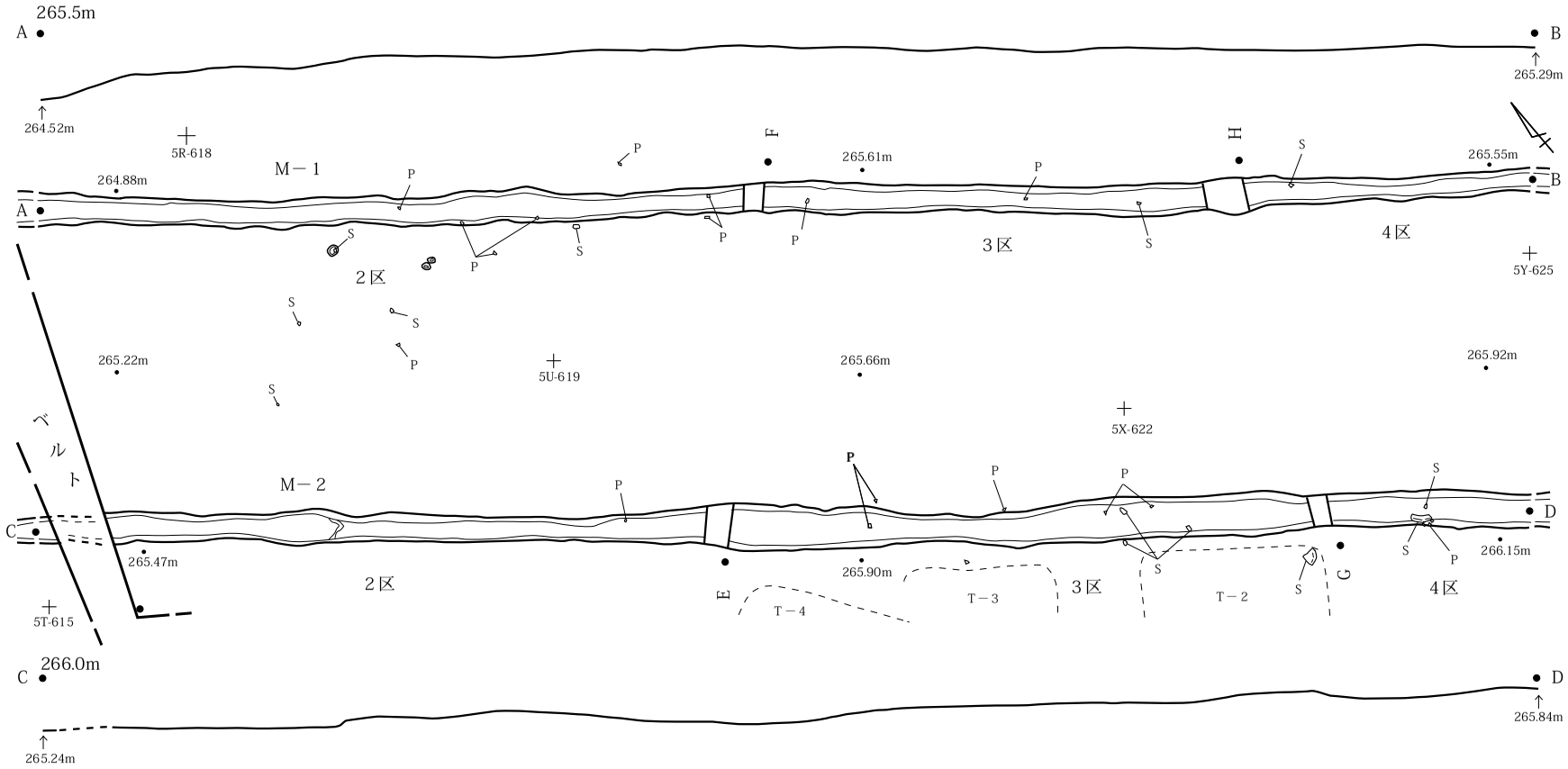




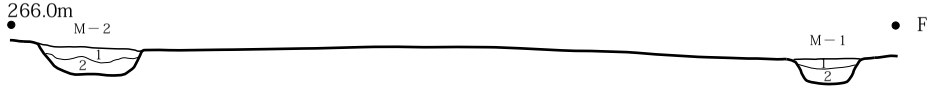
遺構名		層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B
M－1	５区ベルト西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×		
M－2	５区ベルト西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×		
M－1	５区ベルト東壁	1	黒褐色土層10YR		○	△	×	×	×	◎	
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	×		△
		3	黒褐色土層10YR	3＜2	○	○	×	×	×		
M－2	５区ベルト東壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×		

第392図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（12）

M－1・M－2号溝⑭



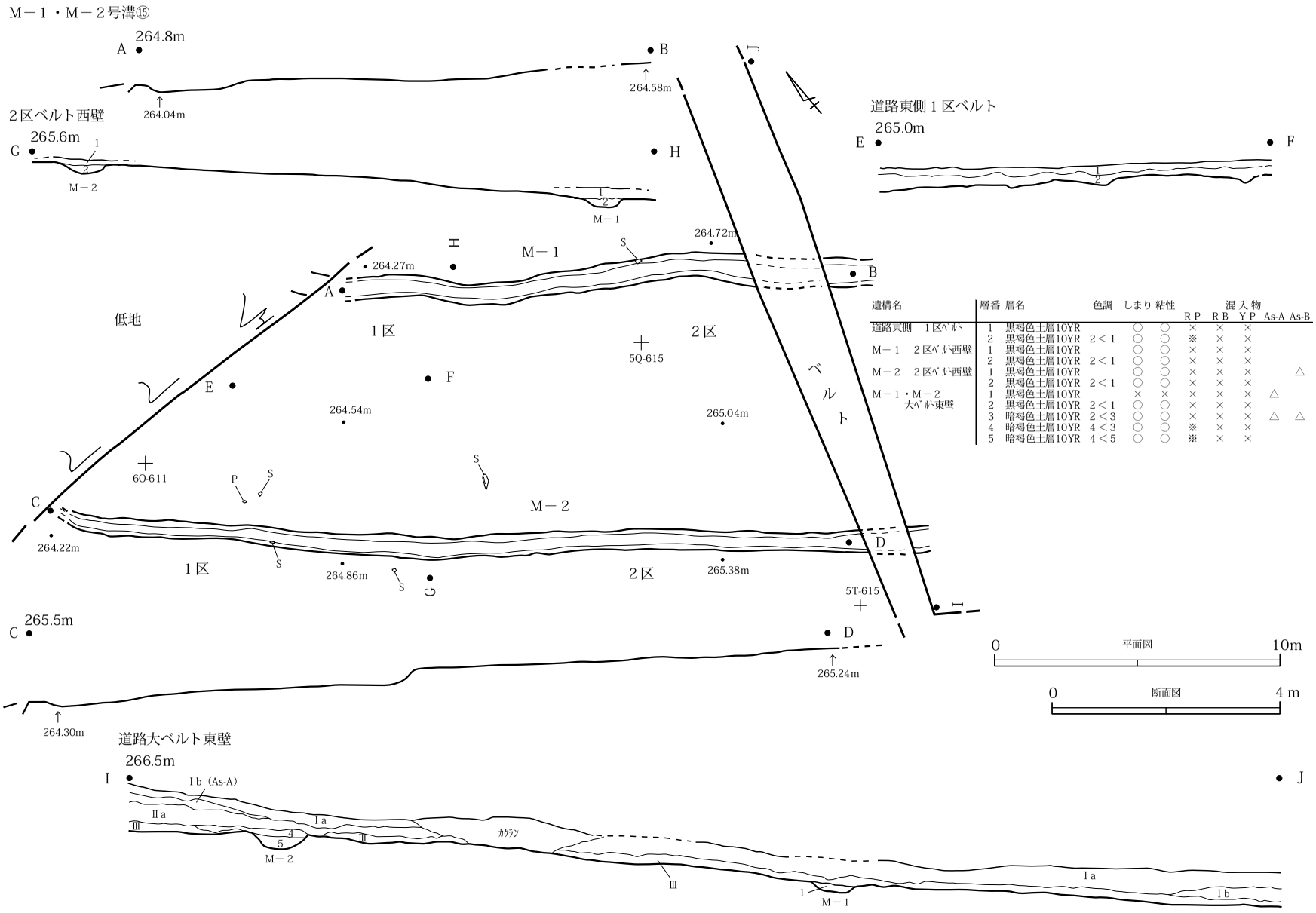
3区ベルト西壁



4区ベルト西壁

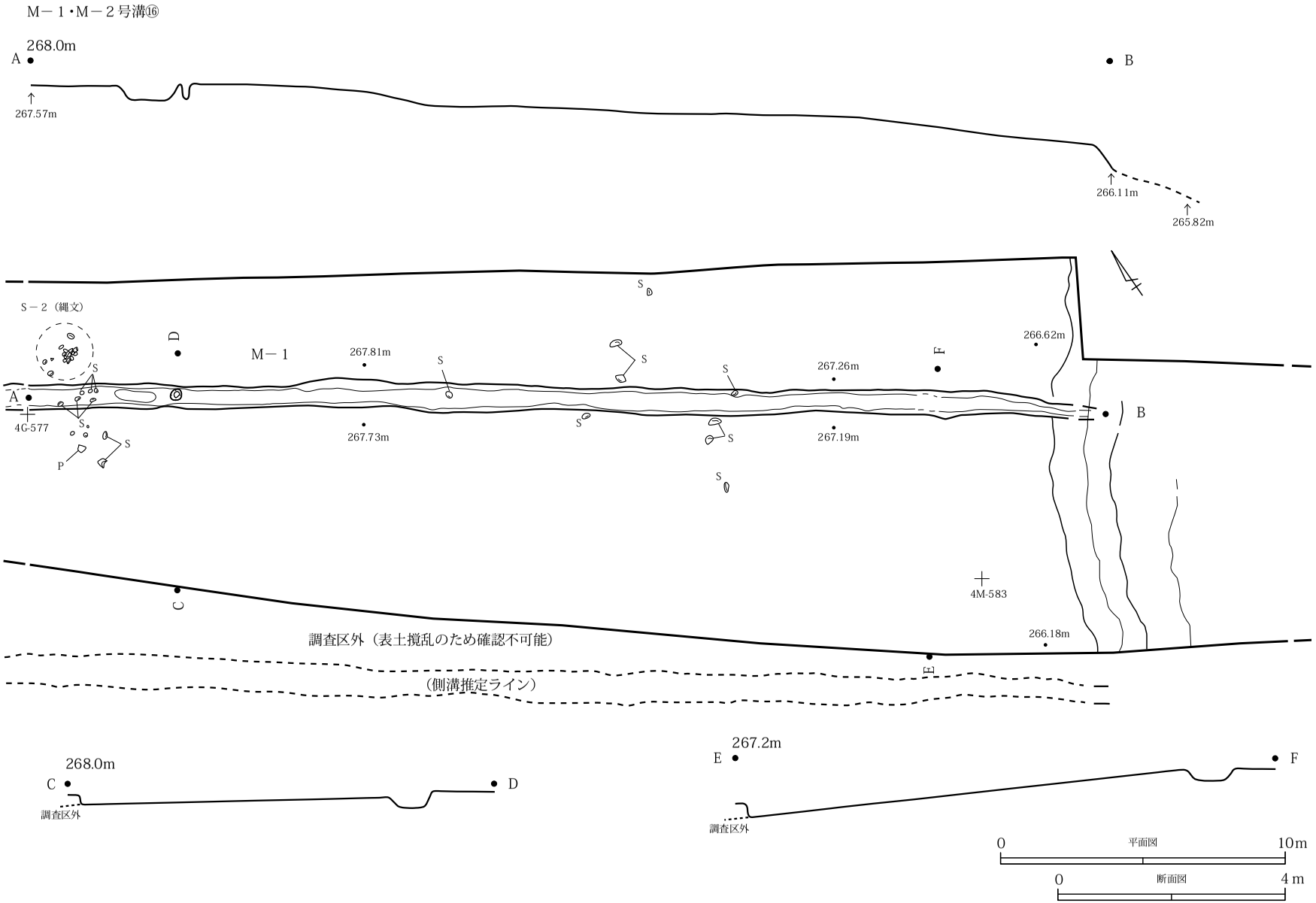
遺構名		層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
M－1	3区ﾍﾞﾙﾄ西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×
M－2	3区ﾍﾞﾙﾄ西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×
M－1	4区ﾍﾞﾙﾄ西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×
M－2	4区ﾍﾞﾙﾄ西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	※	×	×

第393図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（13）

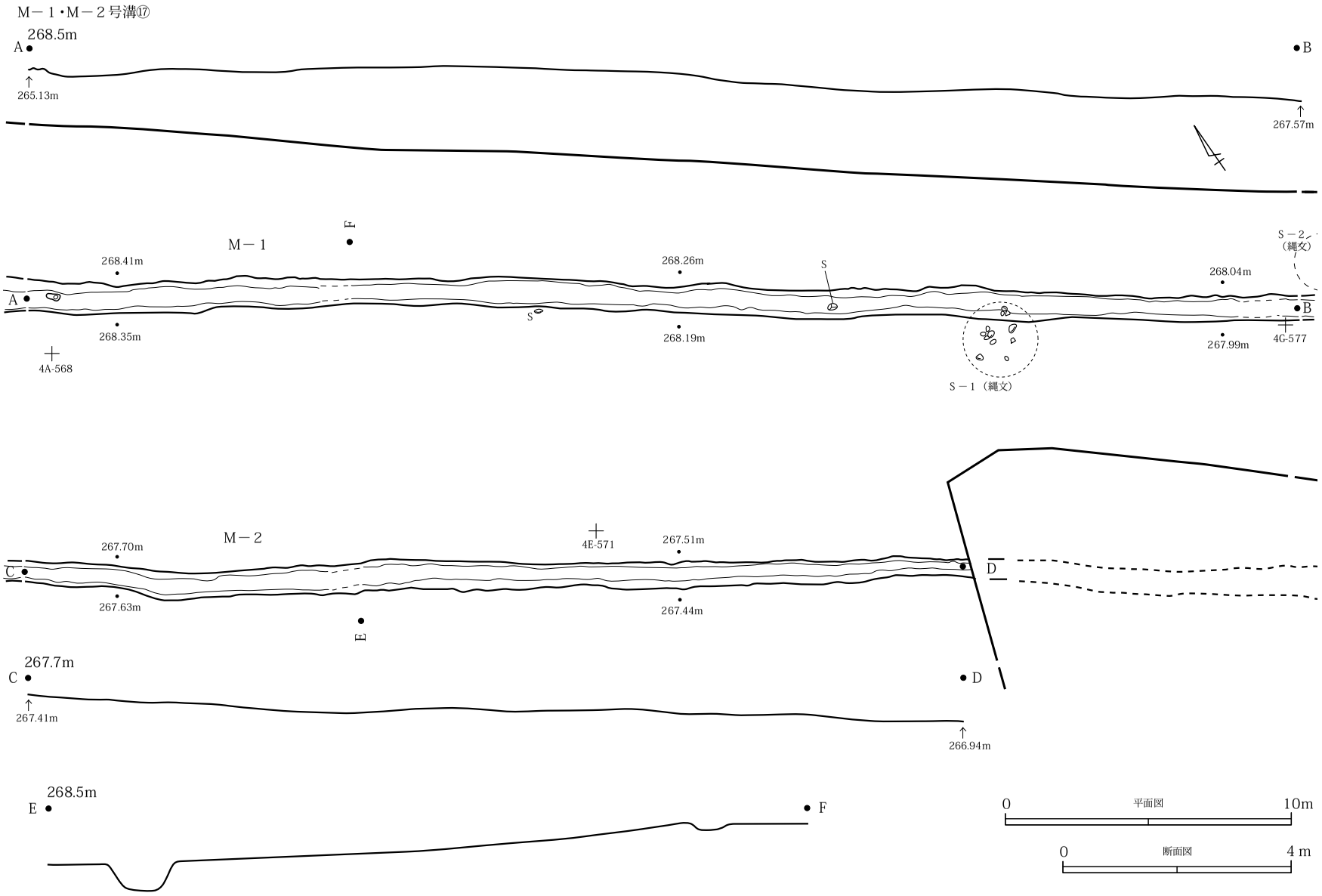


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B
道路東側 1区ベルト	1	黒褐色土層	10YR	○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層	10YR 2＜1	○	○	※	×	×		
M－1 2区ベルト西壁	1	黒褐色土層	10YR	○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層	10YR 2＜1	○	○	×	×	×		
M－2 2区ベルト西壁	1	黒褐色土層	10YR	○	○	×	×	×		△
	2	黒褐色土層	10YR 2＜1	○	○	×	×	×		
M－1・M－2 大ベルト東壁	1	黒褐色土層	10YR	×	×	×	×	×	△	
	2	黒褐色土層	10YR 2＜1	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層	10YR 2＜3	○	○	×	×	×	△	△
	4	暗褐色土層	10YR 4＜3	○	○	※	×	×		
	5	暗褐色土層	10YR 4＜5	○	○	※	×	×		

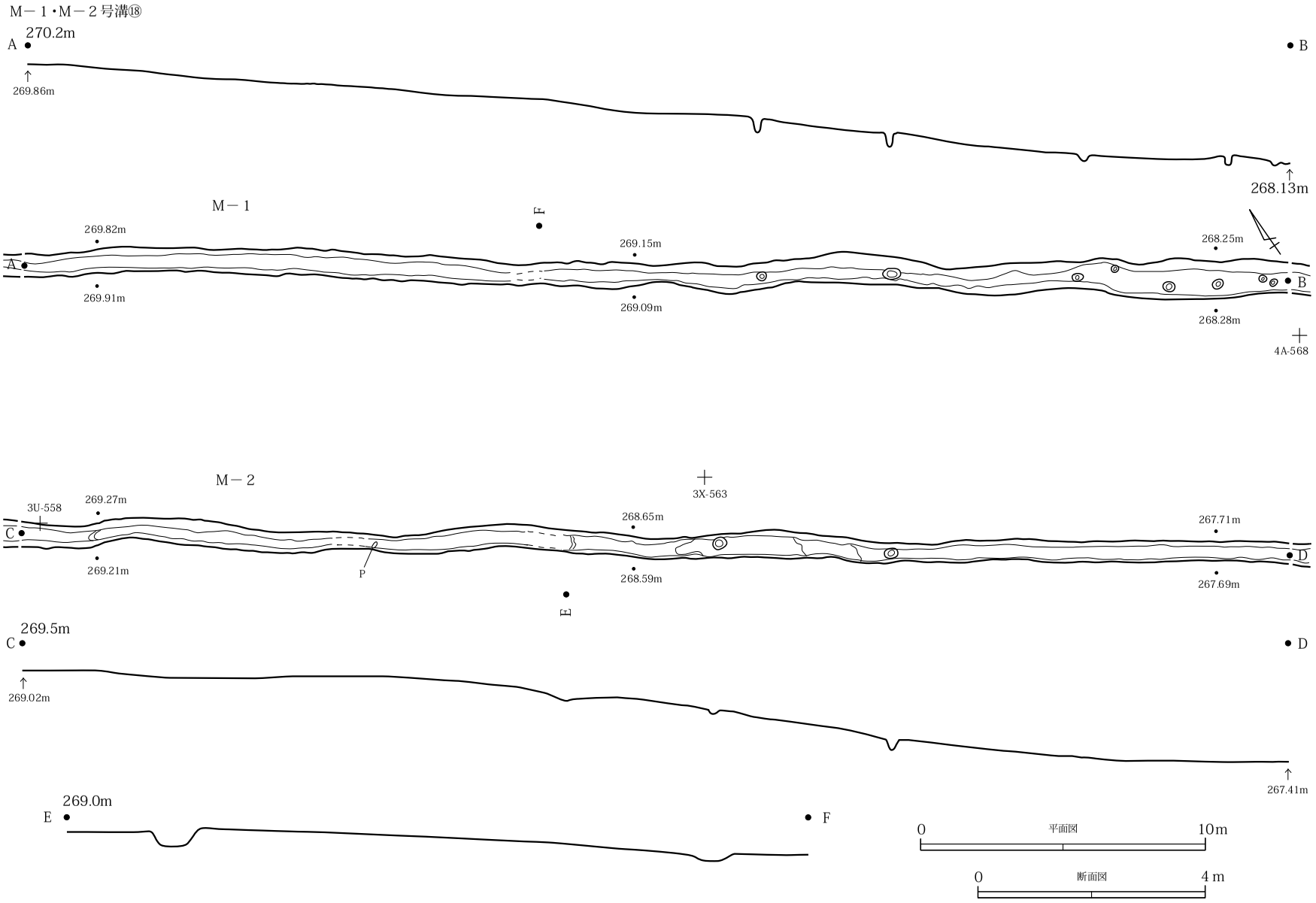
第394図　人見枝谷津遺跡（古代）道路状遺構実測図（14）



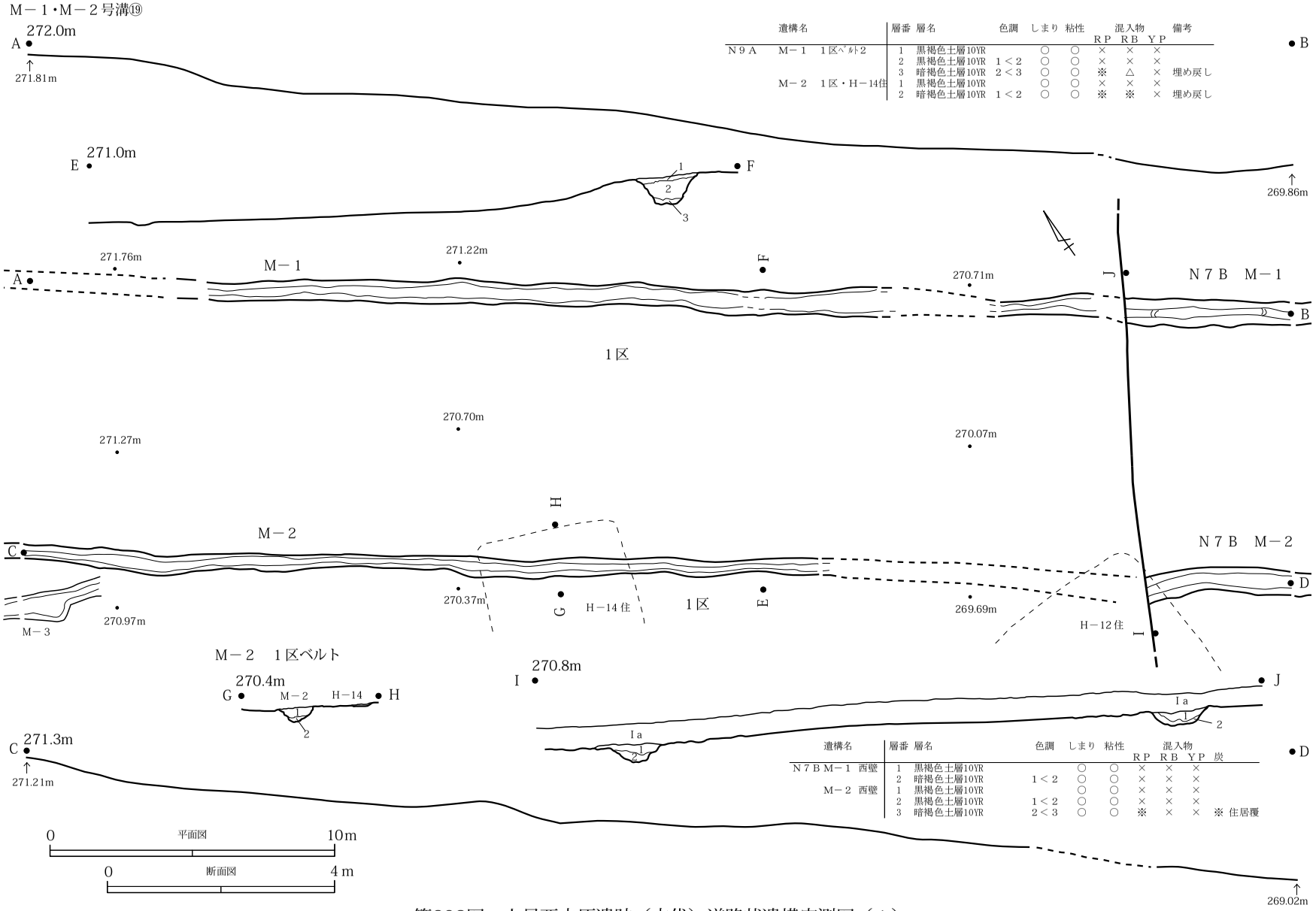
第395図　人見東中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（１）



第396図　人見東中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（２）



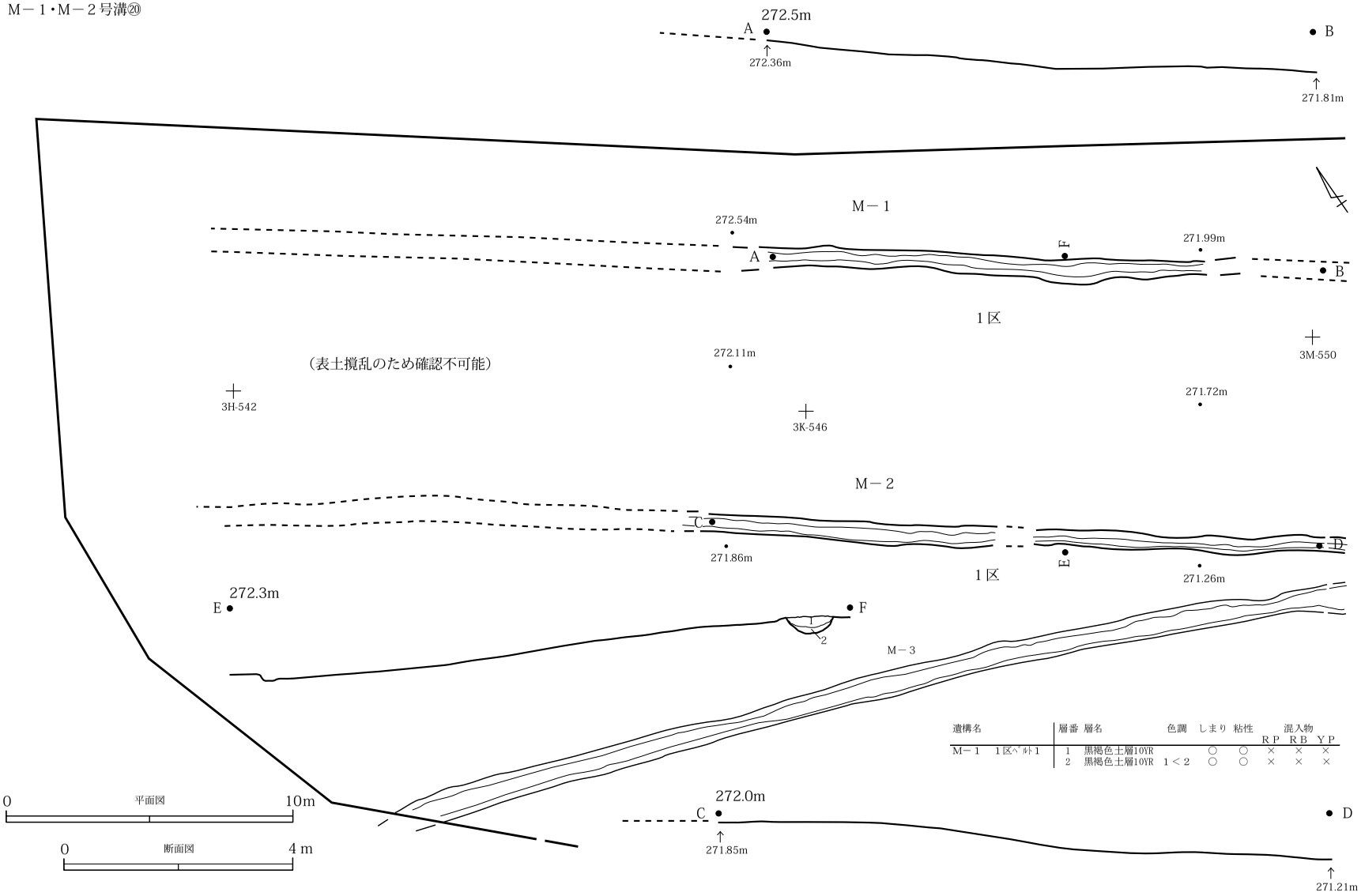
第397図　人見東中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（３）



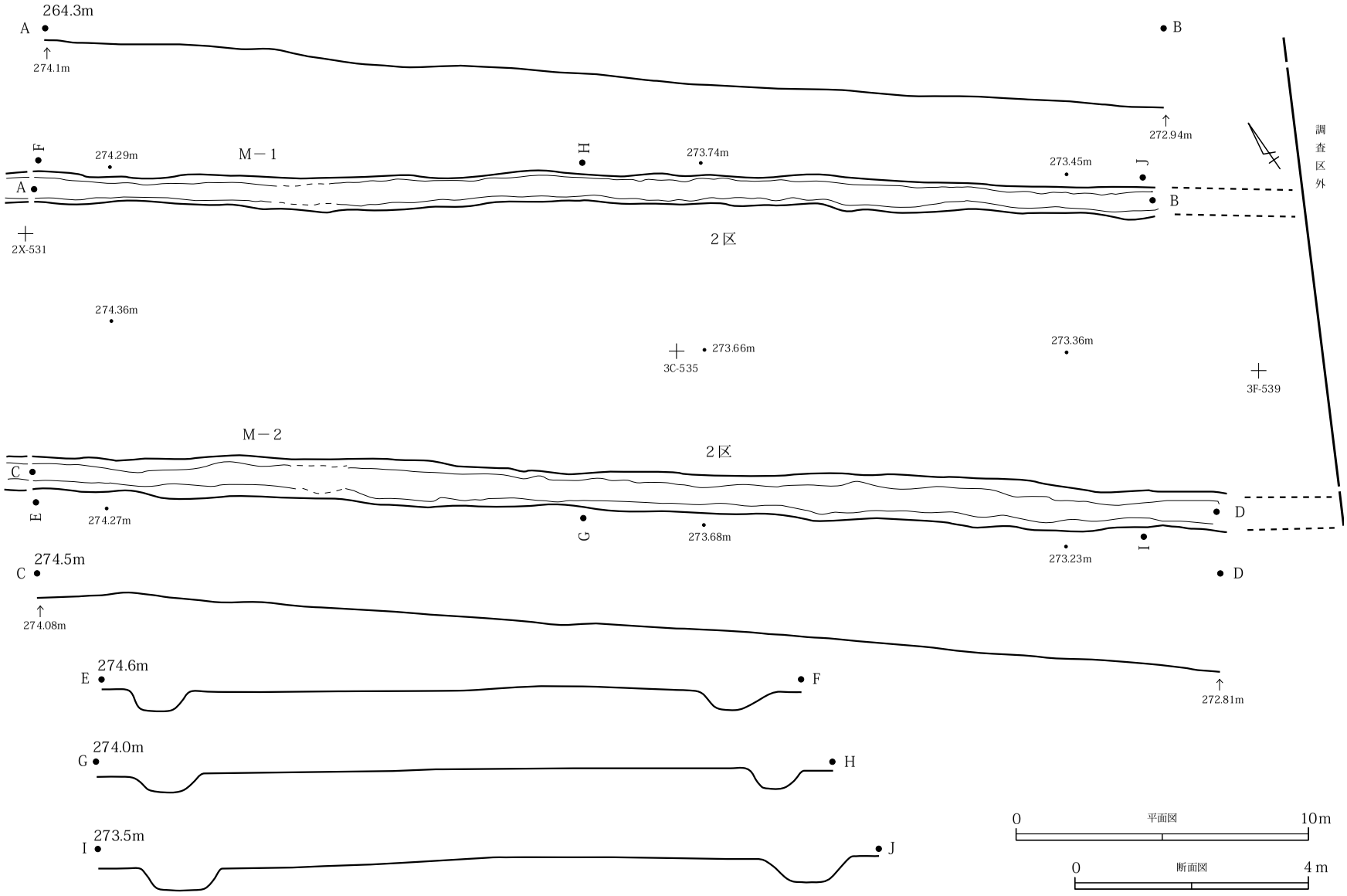
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
N９A　M－1　1区ベルト2	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	△	×	埋め戻し
M－2　1区・H－14住	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	※	×	埋め戻し

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	
N７B M－1 西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
M－2 西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		※ 住居覆

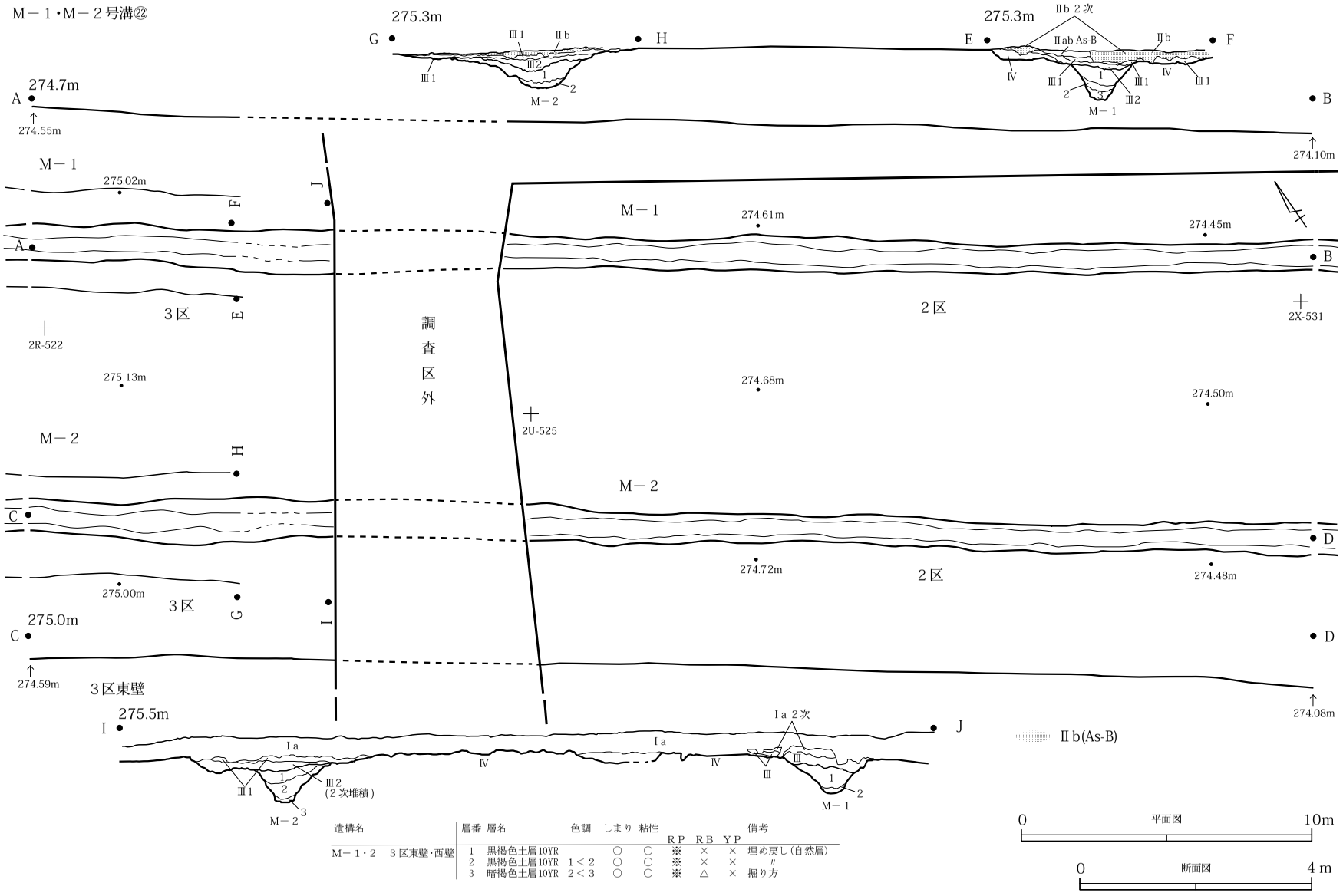
第398図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（１）



第399図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（２）

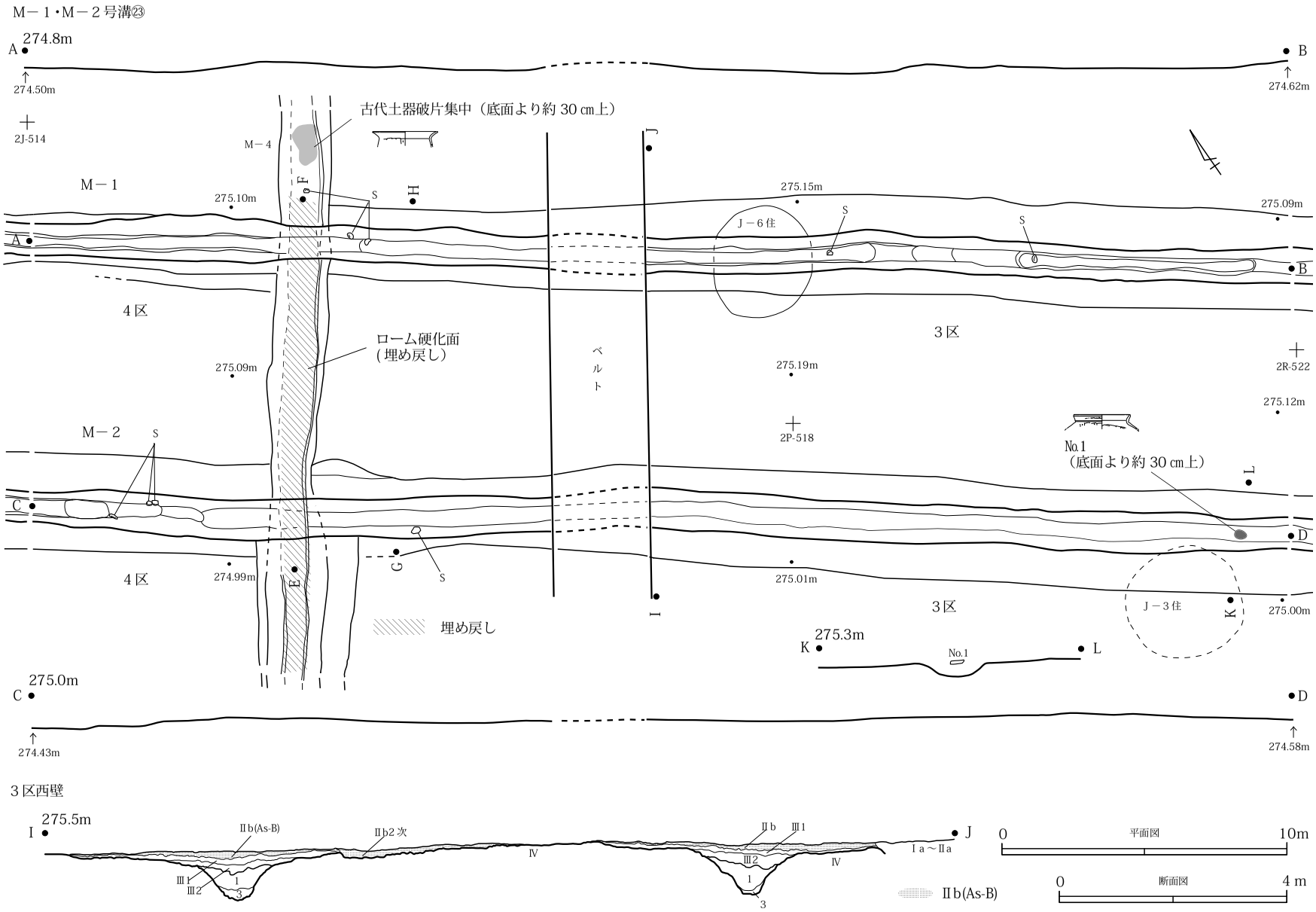


第400図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（３）

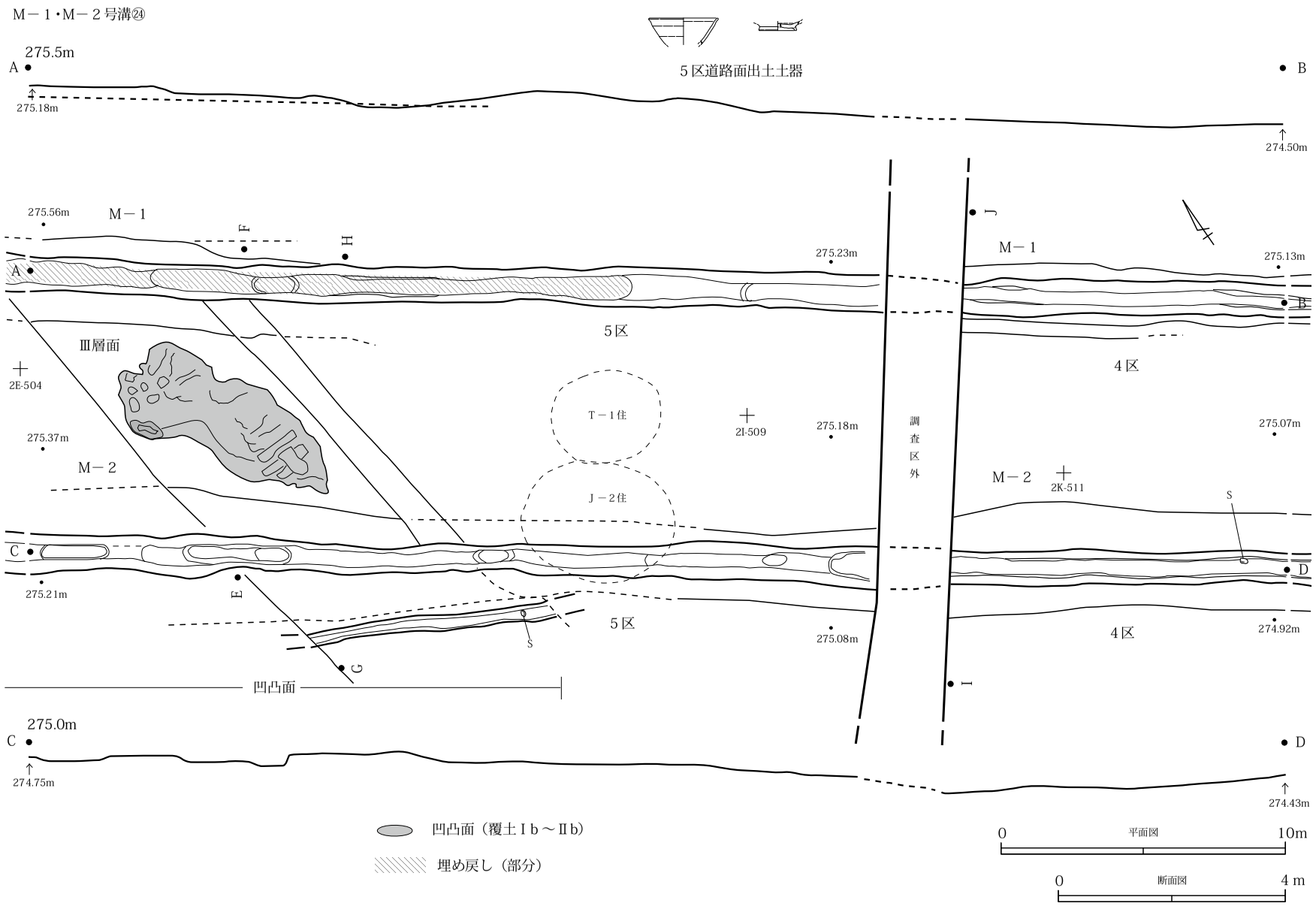


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	備考
M－1・2　3区東壁・西壁	1	黒褐色土層	10YR	○	○	※	×	×	埋め戻し(自然層)
	2	黒褐色土層	10YR　1＜2	○	○	※	×	×	〃
	3	暗褐色土層	10YR　2＜3	○	○	※	△	×	掘り方

第401図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（４）



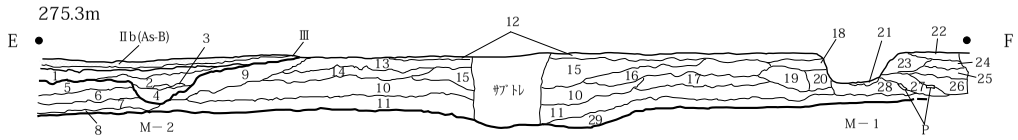
第402図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（５）



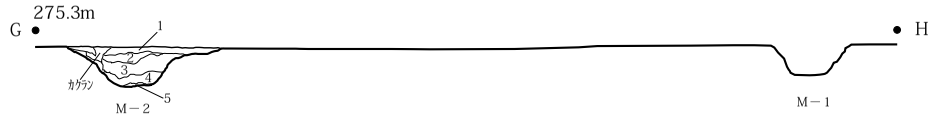
第403図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（６）

M－１・M－２号溝㉓

４区道路断面図



M－１・２　４区ベルト２

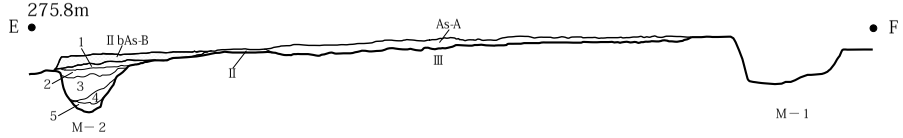


Ⅱb

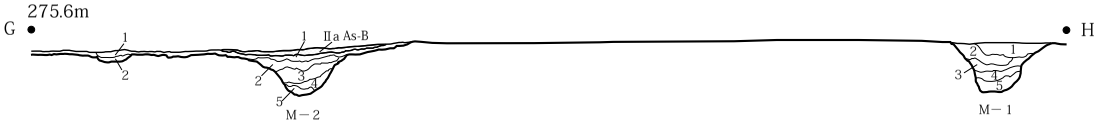
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－１・２　４区断面	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		=Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		貼床
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	×	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	1＜5	○	○	※	×	×		
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	×		
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	×		
	8	暗褐色土層10YR	7＜8	○	○	※	×	※		
	9	暗褐色土層10YR	2＜9	○	○	※	×	※		
	10	褐色土層10YR	9＜10	◎	○	○	△	△		埋め戻し
	11	暗褐色土層10YR	11＜10	○	○	※	※	※		
	12	褐色土層10YR	13＜12	◎	○	△	×	×		
	13	褐色土層10YR	10＜13	◎	○	△	※	※		
	14	褐色土層10YR	13＜14	◎	○	△	※	※		
	15	褐色土層10YR	14＜15	○	○	※	※	※		
	16	褐色土層10YR	15＜16	◎	○	△	△	※		
	17	褐色土層10YR	17＜16	○	○	※	※	※		
	18	褐色土層10YR	12＜18	◎	○	※	×	※		
	19	褐色土層10YR	19＜18	◎	○	※	×	※		
	20	褐色土層10YR	19＜20	○	○	△	※	※	※	
	21	暗褐色土層10YR	21＜28	○	○	※	×	×		
	22	暗褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	23	暗褐色土層10YR	22＜23	◎	○	※	×	×		
	24	暗褐色土層10YR	22＜24	○	○	×	×	×		
	25	暗褐色土層10YR	24＜25	○	○	×	×	×		
	26	褐色土層10YR	25＜26	◎	○	※	※	※		
	27	褐色土層10YR	23＜27	◎	○	※	※	※		
	28	暗褐色土層10YR	28＜27	○	○	※	×	×		
	29	褐色土層10YR	11＜29	○	○	※	△	※		
M－２　４区ﾍﾞﾙﾄ２	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		=Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×		
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	△	×		埋め戻し

M－１・M－２号溝㉔

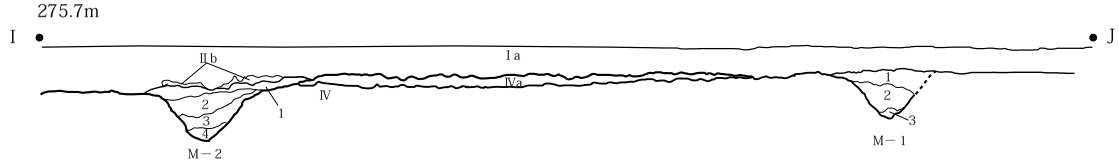
M－１・２　５区ベルト２



M－１・２　５区　ベルト１



M－１・２　４区西壁

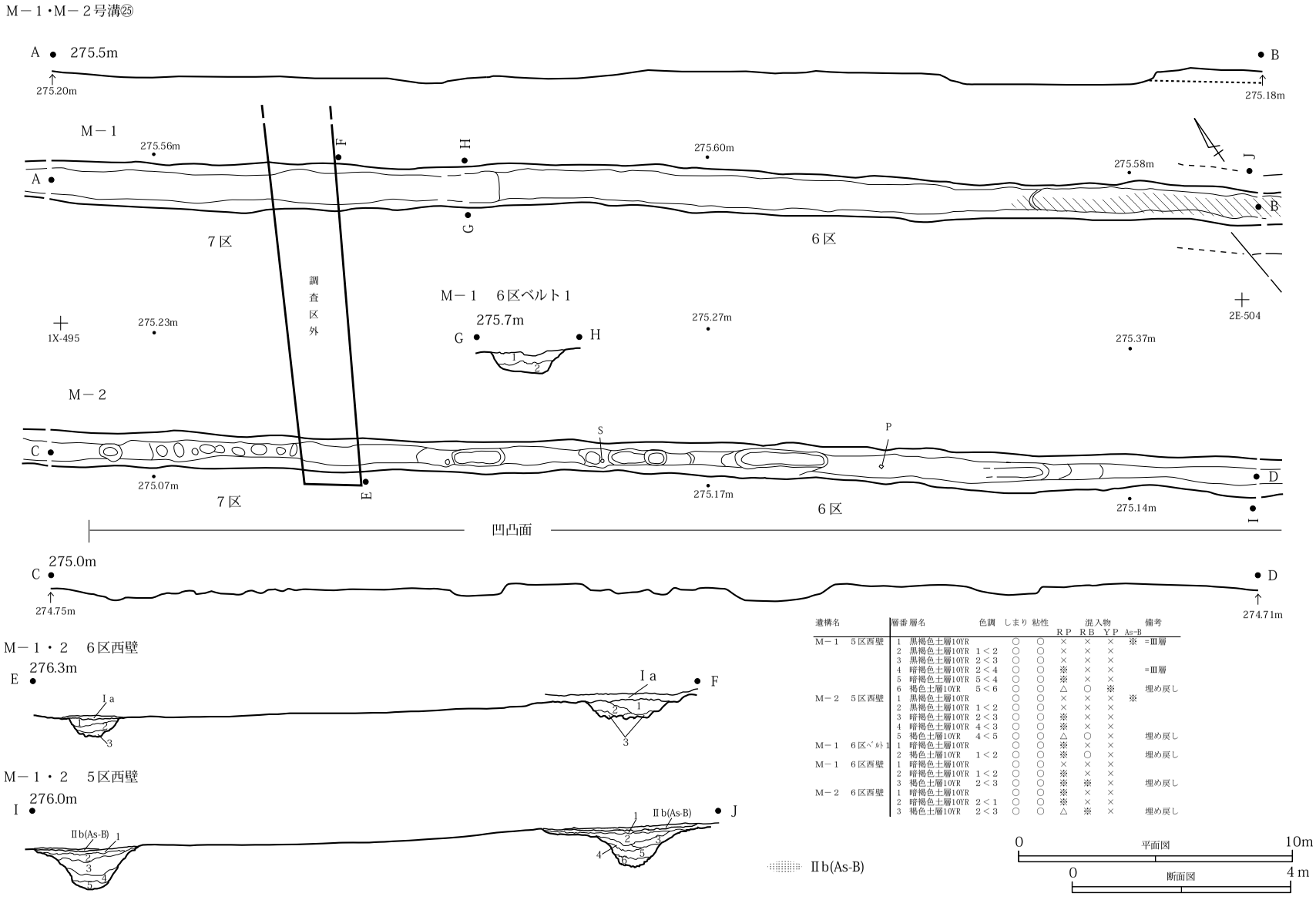


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-B	備考
M－１　４区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	△	×		埋め戻し
M－２　４区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	△	×		埋め戻し
M－１　５区ﾍﾞﾙﾄ１	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×		
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	△	×		埋め戻し
M－２　５区ﾍﾞﾙﾄ１	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	×		
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	※	×		
M－２　５区ﾍﾞﾙﾄ２	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	※	=Ⅲ層
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	×		
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	※	×		
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	△	※		埋め戻し

Ⅱb

0　4 m

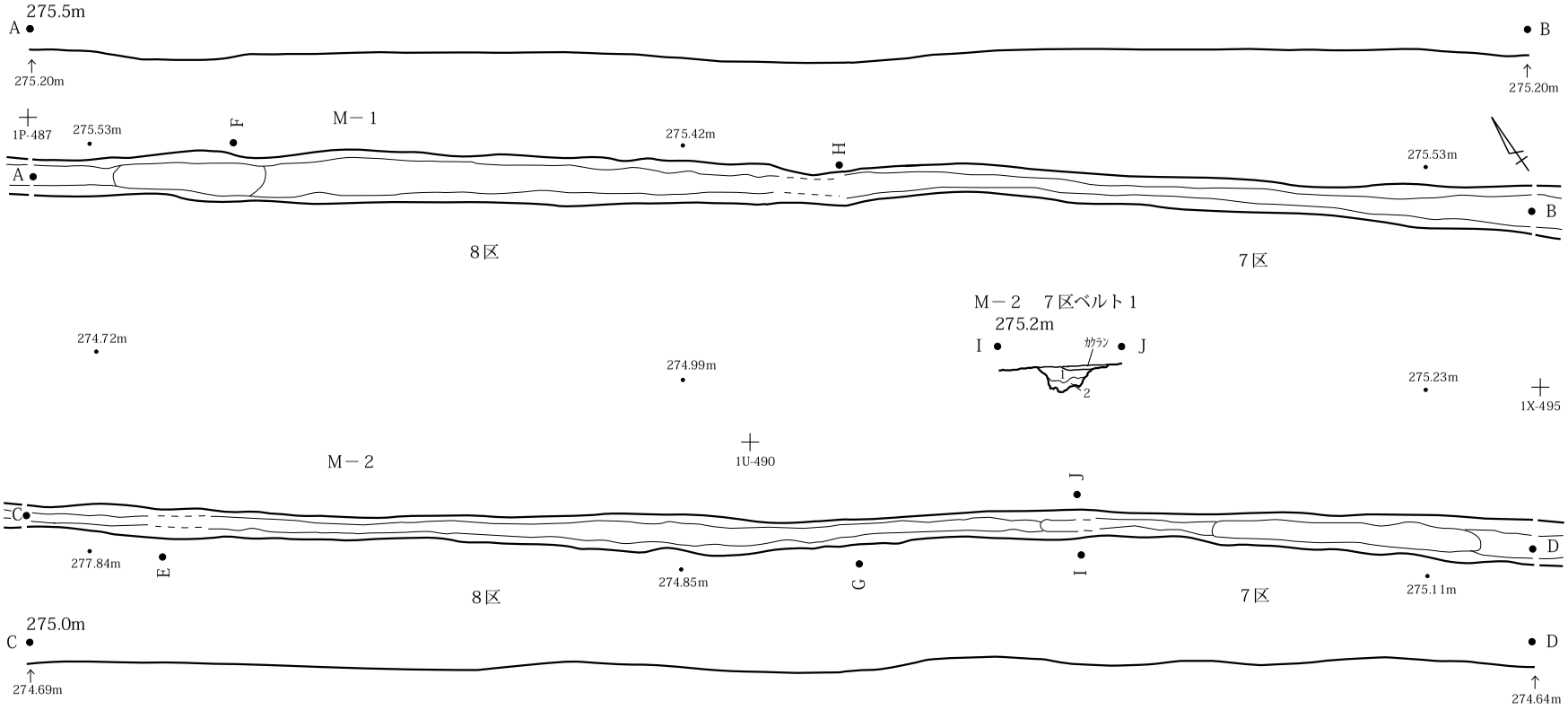
第404図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（７）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-B	備考
M－1　5区西壁	1	黒褐色土層	10YR	○	○	×	×	×	※	=Ⅲ層
	2	黒褐色土層	10YR 1＜2	○	○	×	×	×		
	3	黒褐色土層	10YR 2＜3	○	○	×	×	×		
	4	暗褐色土層	10YR 2＜4	○	○	※	×	×		=Ⅲ層
	5	暗褐色土層	10YR 3＜4	○	○	※	×	×		
	6	褐色土層	10YR 5＜6	○	○	△	○	※		埋め戻し
M－2　5区西壁	1	黒褐色土層	10YR		○	○	×	×	×	※
	2	黒褐色土層	10YR 1＜2	○	○	×	×	×		
	3	暗褐色土層	10YR 2＜3	○	○	※	×	×		
	4	暗褐色土層	10YR 4＜3	○	○	※	×	×		
	5	褐色土層	10YR 4＜5	○	○	△	○	×		埋め戻し
M－1　6区ベルト1	1	暗褐色土層	10YR	○	○	※	×	×		
	2	褐色土層	10YR 1＜2	○	○	※	○	×		埋め戻し
M－1　6区西壁	1	暗褐色土層	10YR	○	○	×	×	×		
	2	暗褐色土層	10YR 1＜2	○	○	※	×	×		
	3	褐色土層	10YR 2＜3	○	○	※	※	×		埋め戻し
M－2　6区西壁	1	暗褐色土層	10YR	○	○	※	×	×		
	2	暗褐色土層	10YR 2＜1	○	○	※	×	×		
	3	褐色土層	10YR 2＜3	○	○	△	※	×		埋め戻し

第405図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（８）

M－1・M－2号溝㉖

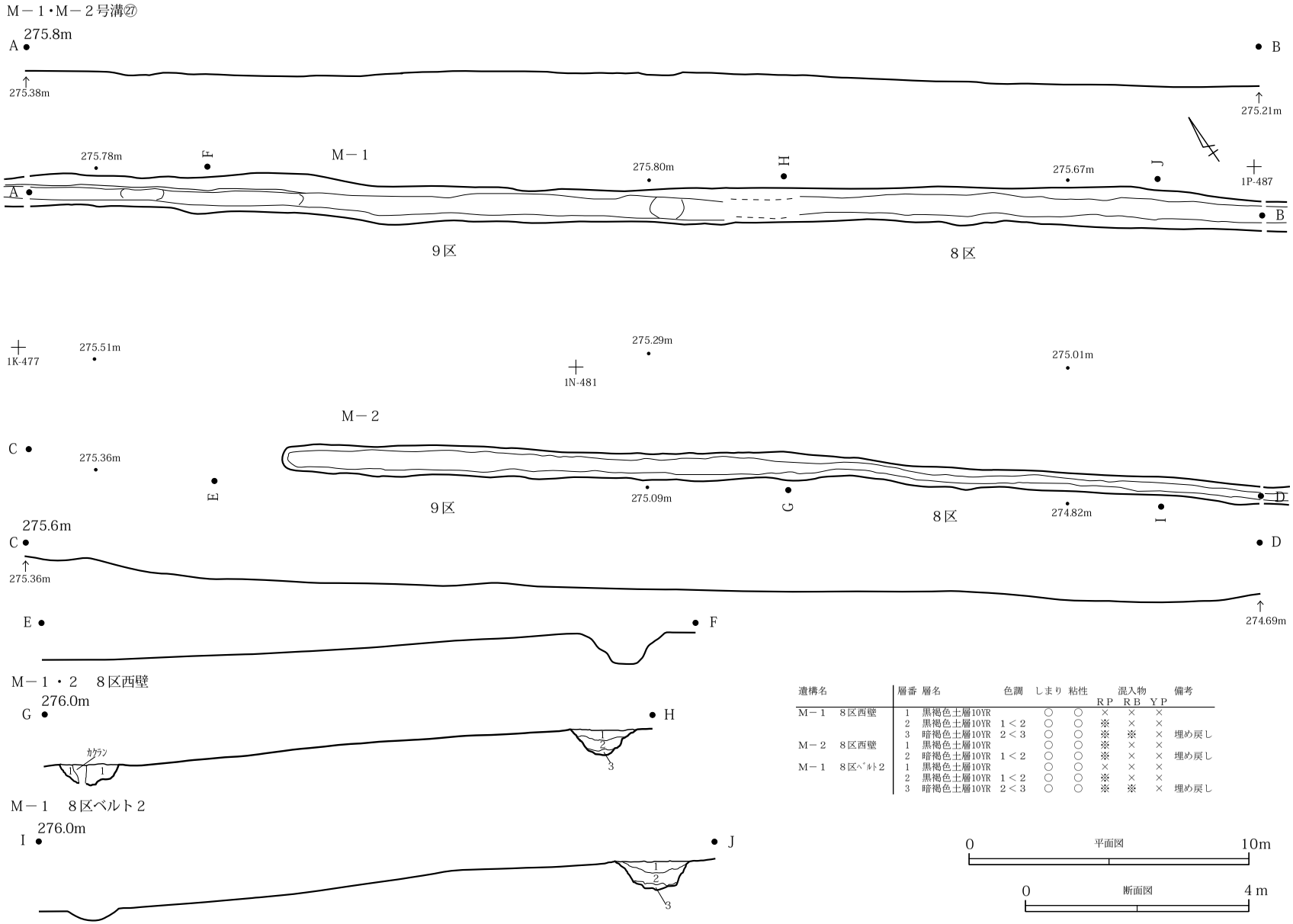


M－1・2　8区ベルト1

M－1・2　7区西壁

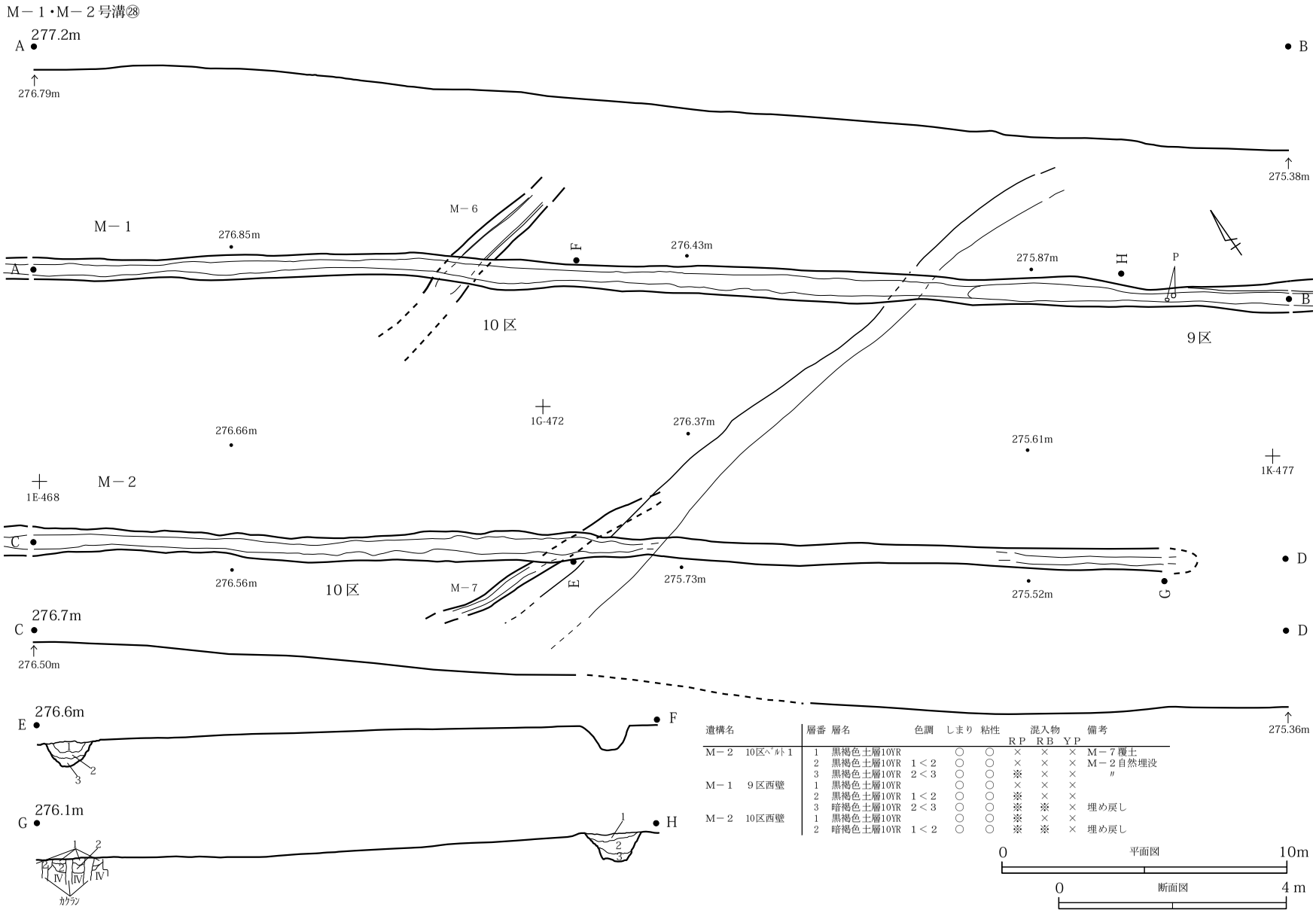
遺構名		層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
M－1	8区ベルト1	1	黒褐色土層	10YR	○	○	×	×	×	
		2	黒褐色土層	10YR 1＜2	○	○	×	×	×	
		3	暗褐色土層	10YR 2＜3	○	○	※	×	×	埋め戻し
M－2	8区ベルト1	1	黒褐色土層	10YR	○	○	×	×	×	
		2	暗褐色土層	10YR 1＜2	○	○	※	×	×	
M－1	7区西壁	1	黒褐色土層	10YR	○	○	×	×	×	
		2	暗褐色土層	10YR 1＜2	○	○	※	△	×	埋め戻し
		2	暗褐色土層	10YR 1＜2	○	○	※	△	×	埋め戻し
M－2	7区西壁	1	暗褐色土層	10YR	○	○	※	※	×	〃
M－2	7区ベルト1	1	黒褐色土層	10YR	○	○	×	×	×	
		2	暗褐色土層	10YR 1＜2	○	○	※	△	×	埋め戻し

第406図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（9）

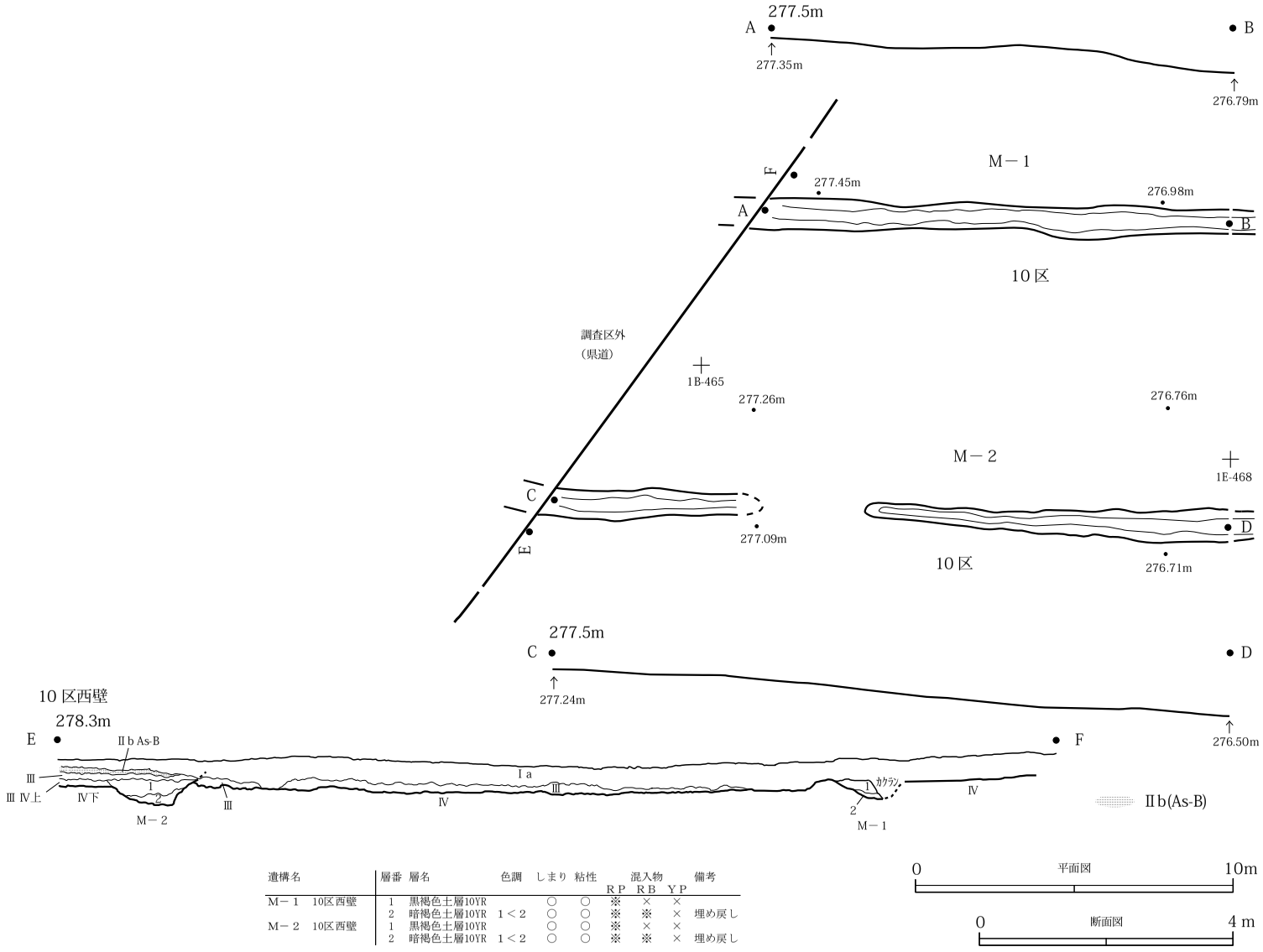


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
M－1　8区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×	埋め戻し
M－2　8区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	×	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	埋め戻し
M－1　8区ﾍﾞﾙﾄ2	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	×	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	※	×	埋め戻し

第407図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（10）



第408図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（11）



遺構名		層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
M－1	10区西壁	1	黒褐色土層	10YR		○	○	※	×	×	
		2	暗褐色土層	10YR	1＜2	○	○	※	※	×	埋め戻し
M－2	10区西壁	1	黒褐色土層	10YR		○	○	※	×	×	
		2	暗褐色土層	10YR	1＜2	○	○	※	※	×	埋め戻し

第409図　人見西中原遺跡（古代）道路状遺構実測図（12）

12　古代大溝（第410～433図、付図11）

（１）平成21年度調査地点

人見向原遺跡Ａ区（第410～418図、第33表）

人見向原遺跡では、南側台地縁辺部（Ａ区）で、富岡市との境界に沿って一直線に延びる大規模な溝が検出された（富岡市では下高田原Ⅳ遺跡）。この遺構は、中野谷地区で確認された続きで、平成19・20年度の富岡市調査地点（下高田上原遺跡）で発見された溝と同一遺構で、今回の調査では、400m以上にわたって確認した。また、この溝は、中部地区で発見された上高田熊野上遺跡（富岡市調査分）の溝につながるものと予想され、未調査分を含めると3.5㎞以上に及ぶことが判明した。谷部分の溝は、一部調査区外となってしまったが、途切れることなく、傾斜に沿って延びていると推定される。溝の規格（確認面）は、幅４～５ｍ、深さ1.6ｍで、底面が平坦となる断面箱堀状である。溝には、間隔をもって掘削の割り当て範囲が確認できる繋ぎ目も確認できた。溝覆土中位には、浅間Ｂ軽石がレンズ状に堆積し、その下位は、Ⅲ層（黒褐色土）の流れ込みが確認でき、さらにその下位では、掘削土の流れ込みによるローム混入土が部分的に認められた。遺物は、５区で須恵器坏（９世紀代）、15区で土師質土器（10世紀後半）、土師器甕片が出土した。溝の内外の溝の確認面は、Ⅱａ層またはⅡｂ層に覆われており、Ⅲ層との層理面で掘削時の排土跡あるいは盛土跡となるロームの付着等は確認できる範囲は、ほとんど認められなかった。

溝の掘削時期の下限については、今のところ特定できる証拠は得られていないが、富岡市の調査成果から、遅くとも８世紀前半には存在していた可能性が考えられる。溝の上限時期は、浅間Ｂ軽石の堆積状況と出土遺物によって、12世紀においても、完全には埋没していない状態を確認した。その後は、徐々に自然堆積によって埋没している。道路状遺構は、この溝の内側に存在していることから、時期、遺構の性格に両者の関連性が考えられる。

（２）平成22年度調査地点

人見西向原遺跡Ａ区（第482～426図、第33表）

人見向原遺跡で確認された溝の続きを確認した。富岡市との境界に沿って一直線に延びる大規模な溝を確認した（富岡市では上高田筑前上遺跡）。この遺構は、これまでに安中市及び富岡市で調査を継続しているものと同一である。今回の調査では、約280ｍを確認し、約200ｍ（富岡市と分担調査）を調査した。溝の規格（確認面を基準）は、幅４～５ｍ、深さ1.6ｍで、底面が平坦となる断面箱堀状で、部分的に中央が浅く溝状となる範囲が認められたある。溝覆土中位には、浅間Ｂ軽石がレンズ状に堆積し、その下位は、Ⅲ層（黒褐色土）の流れ込みが確認でき、さらにその下位では、掘削土の流れ込みによるローム混入土が部分的に認められた。なお、掘削時における排土痕跡は認められなかった。遺物は、12区で覆土Ⅱｂ層下より、須恵器坏（９世紀後半～10世紀初頭）が出土した。土橋は、８・９区で確認した。大溝掘削後、ローム混入土等で埋め戻して地面と同じ高さまで版築状に固め、幅１ｍの平坦な通路を構築している。縦断面は、台形状となる。通路部分は硬化している。土橋は、上面から広範囲に浅間Ｂ軽石で覆われており、掘削段階から長期間使用されていたものと推定され、溝中位付近の覆土上面に硬化面が認められることから、大溝埋没途中で使用されたものと推定される。

（３）平成23年度調査地点

人見西向原遺跡Ｂ区（第427～433図、第33表）

平成23年度は、人見西向原遺跡Ａ区の西側としたＢ区（20～45区）について発掘調査を実施した。なお、30～35区、38～43区については、富岡市の調査区（上高田筑前上遺跡、上高田稲葉上遺跡）である。

これまでの断面形状は、21区から、北側の法面は途中から外側へ屈曲、南側の法面は、そのまま傾斜し、断面非対称となる。溝の上場は北側（内側）が高く、南側（外側）が低い。底面には無数のピットが確認されたが、22区、24区では、深いピットが集中していることから、杭状の遺構が存在した可能性が考えられる。溝覆土は、覆土上部から底面までローム混入土が流れ込んでいる。土層の堆積は、溝の両側からの三角堆積で、混入物の異なる土層が細かく堆積している。浅間Ｂ軽石層下は、黒色土（Ⅲ層）の自然堆積となり、ローム混入土との時間差が存在する。土層堆積の観察のため、36・37区では土層別に調査を行った。また、44・45区では覆土の縦断図を作成した。北側法面Ｂ層中から鉄鏃が水平に出土し、Ｂ下面からピットの掘り込みが確認された。これにより、溝が中位まで埋没してからも、使用されていた可能性がある。遺物はＣ層からＤ層下部までレベル差をもって出土した。Ｄ層中位に硬化面があることから、一時的に溝の底面であったものと考えられる。同時期の遺物が層位を超えて出土していることから、短期に埋没した可能性がある。この範囲は人為的に埋め戻された可能性がある。なお、溝の外側（脇）では、掘削による盛土状の排土痕跡は認められなかった。

遺物は、10世紀後半から11世紀初頭の遺物が出土した。21区の６層から９世紀代の鉄斧が出土した。遺構と遺物の年代がほぼ一致し、９世紀以降、溝が埋没し始めた証拠が得られた。

20区では、覆土中位から炭化物が検出された。23区底面では精査中に旧石器時代の礫が出土した。

（４）富岡市調査区

人見向原遺跡・人見西向原遺跡周辺

安中市側で調査をした大溝（Ｍ－１号）は、富岡市側においても調査を実施している。富岡市調査区では、「１号溝」として、下高田上原遺跡で市境に沿って約850ｍ確認されている（平成19、20年度調査、平成22年度報告「松義東部地区遺跡群Ⅰ」）。８世紀初頭の住居址がこの溝により切られている。大溝の南側に８世紀代を主体とした集落が存在し、住居址から鉄製鎖（馬具）が出土した。なお、Ⅰ、Ｊ区は人見向原遺跡Ａ区の１区に相当する（平成21、22年度調査、平成22、23年度報告「松義東部地区遺跡群Ⅰ・Ⅱ」）。下高田原Ⅳ遺跡の調査区は、人見向原遺跡Ａ区の11～14区（約65ｍ）に相当する（平成21年度調査、平成22年度報告「松義東部地区遺跡群Ⅰ」）。ここでは、大溝（１号溝）の南側に並行して、浅間Ｂ軽石降灰以降に掘削された切り通し状の「２号溝」（道路状遺構）が確認されている。底面には、硬化面が数カ所認められ、連続状土坑（ピット）と枕木状の凹みが存在する。また、近世と推定される両側側溝をもつ道路状遺構が確認されている。大溝は、東側谷に向かって大きく開き、市側の10区に繋がるものと推定される。上高田筑前上遺跡のＢ～Ｄ区は、人見西向原遺跡Ａ区の２、３区（Ｂ区）、11区（Ｃ区）、15区（Ｄ区）に相当する（平成22年度調査、平成23年度報告「松義東部地区遺跡群Ⅱ」）。上高田稲葉上遺跡の調査区は、人見西向原遺跡Ｂ区の30～35区、38～43区が相当する（平成23、24年度調査）。なお、富岡市調査区では、土橋は確認されなかった。

（５）Ｍ－１号溝

溝の構造について

溝の確認は、Ⅲ層上面で浅間Ｂ軽石層が筋状に堆積する範囲によって可能であった。溝の形状は、設計上の規格である形態Ａが主体である。また、断面非対称となる溝内側上部が外に開く形態Ｃの範囲が認められた。底面は、中央が溝状となるＡ形態を基本とする。溝の立地がやや南傾斜だが、浅間Ｂ軽石及びその下層の堆積は一方に偏ることなく、中心が窪むレンズ状堆積である。溝覆土の堆積状況は、底面付近から壁崩落土と流れ込みによる自然堆積あるいは人為的埋め戻しによるローム混土層、Ⅲ層自然堆積、浅間Ｂ軽石層、Ⅱａ層自然堆積（部分的に硬化面確認）の順である。溝底面は、中央部が溝状となるが、埋め戻しによって底面が平坦に整地されている（人見向原遺跡23区付近等）。部分的には、ローム混土層とⅢ層自然定積層との層理面が不整合のところもあり、人為的埋め戻し、あるいは溝底面に流入した土砂の掘り返し（メンテナンス跡）が確認された（覆土状態ＡからＢへの堆積）。

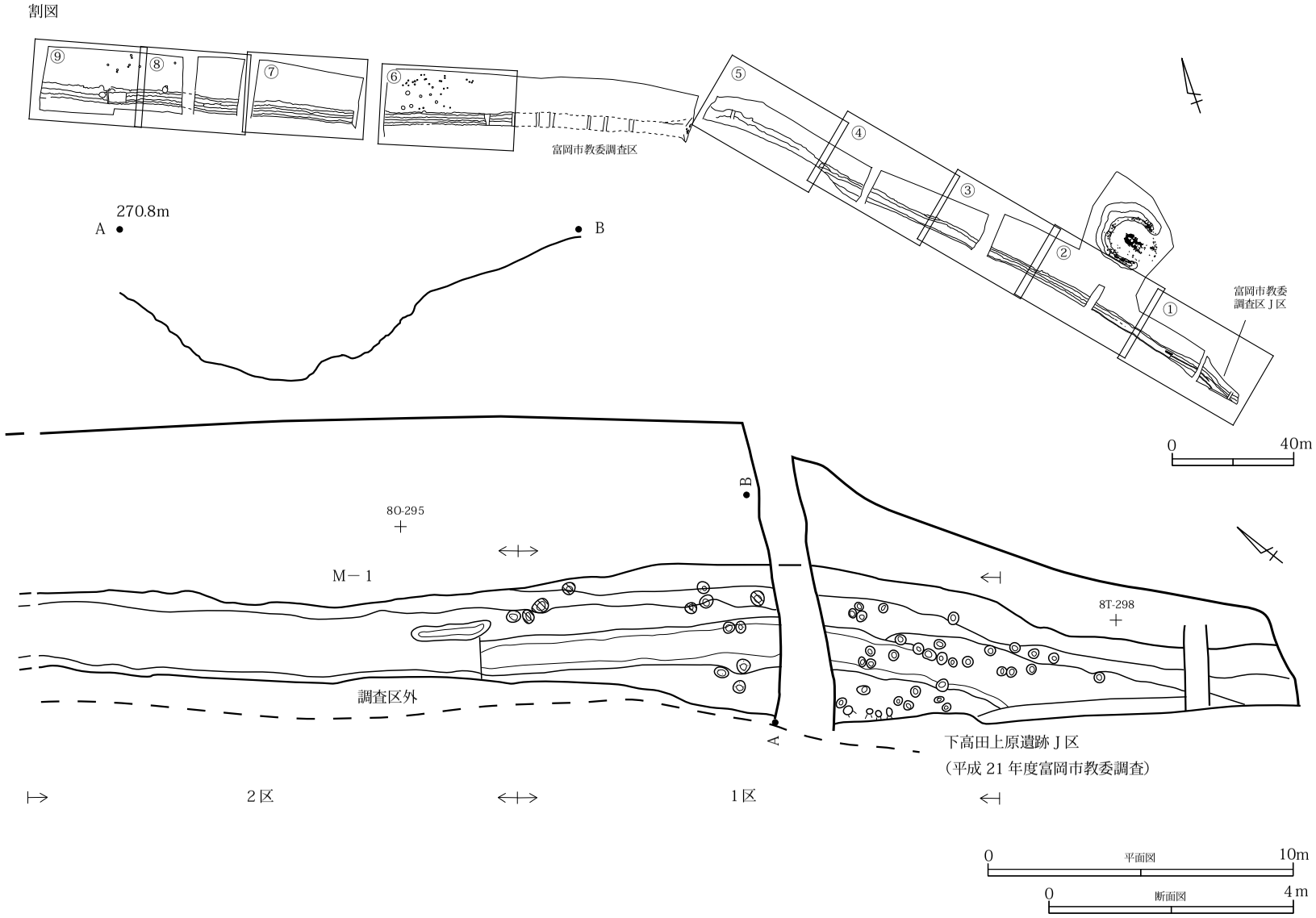
溝の内外では、Ⅲ層上部に浅間Ｂ軽石が堆積し、所々に幅50㎝程の硬化面（Ⅱａ層）が確認されたが、Ⅲ層面で掘削による排土（ローム混入土等）の堆積（盛土）は認められなかった。盛土の存在は現時点では不明である。Ⅰａ層が薄いため、Ⅲ層まで削平された可能性があるが、他の地区、遺跡で土層堆積状況が良い場合でも、はっきりとした痕跡は確認されていない。

溝の性格について

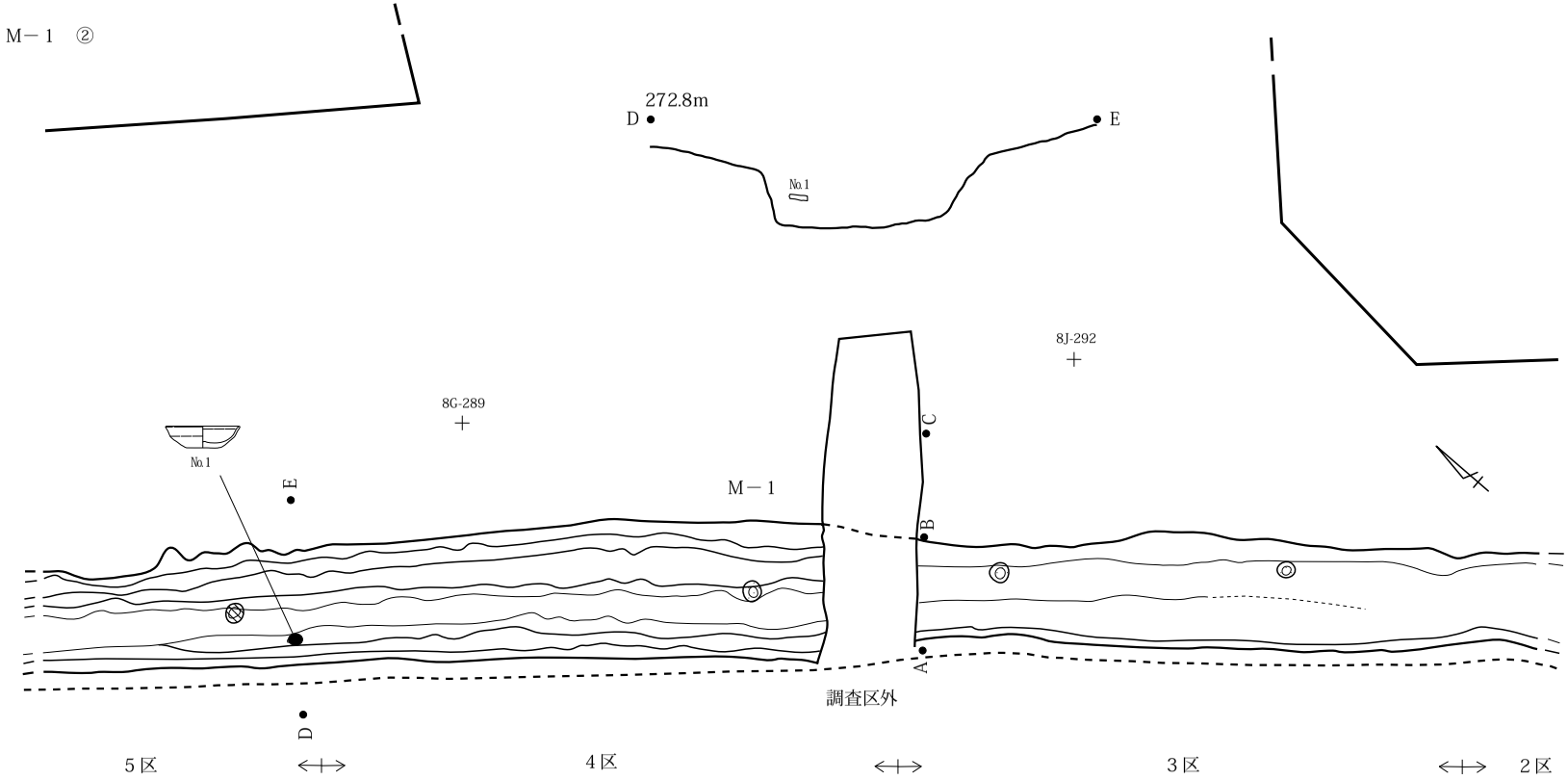
Ｍ－１号溝は、中野谷地区の向原Ⅲ遺跡付近から、真光寺原遺跡、西向原遺跡、下高田原遺跡群（旧妙義町）、下高田上原遺跡等で発見された遺構と同一のものであり、安中市と富岡市の境界に沿って、中部地区を通過してさらに妙義山裾に近い西部地区へと延びていることが確認された（平成25年度段階の確認）。これにより、東西距離が７㎞以上にわたって連続し、南北方向の区画が存在する遺構であることが判明した。南北方向の溝は、東では向原Ⅲ遺跡、上宿南遺跡、砂押遺跡（南北1.3㎞以上）、西では、上西原遺跡（南北400ｍ以上）の２か所で確認され、いずれも南側の溝（Ｍ－１号）と近接もしくは合流する。また、台地の北側縁辺に沿う溝が、中野谷地区の向山遺跡、原遺跡、西横野地区の人見坂ノ上遺跡、人見三本松遺跡まで確認されている。低地から崖へと抜ける溝は、中野野地区の上北原遺跡で確認されている。これらの溝は、規模規格が同一で、全ての地域において連続することから、「区画」を意識した遺構と推定される。東にある南北区画が中心軸となって、上宿南遺跡付近から東へ分岐する溝によって、東側にも別の区画エリアが存在する。東区画の最終点は、現在のところ注連引原Ⅱ遺跡まで確認されている。この区画内には、さらに低地を取り込んだ方形区画が存在する。

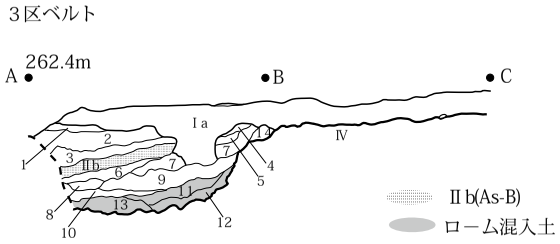
以上、Ｍ－１号を含む同規模同規格の溝は、横野台地の最も幅のある半月状の平坦地を対象とした台地全体を区画するための遺構と考えられる。これまでの調査では、この遺構を「牧」に関連する区画施設として位置づけてきた。今回調査した南側の溝は、現在の市境界に沿って意図的に一直線となるように掘削されている。また、北側の溝の一部を含め、平坦地は狭く、台地の縁辺部（崖端）に沿っており、溝を掘削せずとも自然の要害として柵などで十分区画は可能な場所にある。牧の区画以外に別の機能・用途を意図して掘削された可能性も含めて考える必要があろう。

区画溝の年代については、人見三本松遺跡において道路状遺構との切り合い関係、下高田上原遺跡における８世紀初頭の住居址との切り合い関係により、８世紀前半（第２四半期）には開始したものと推定される。



第410図　人見向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（１）



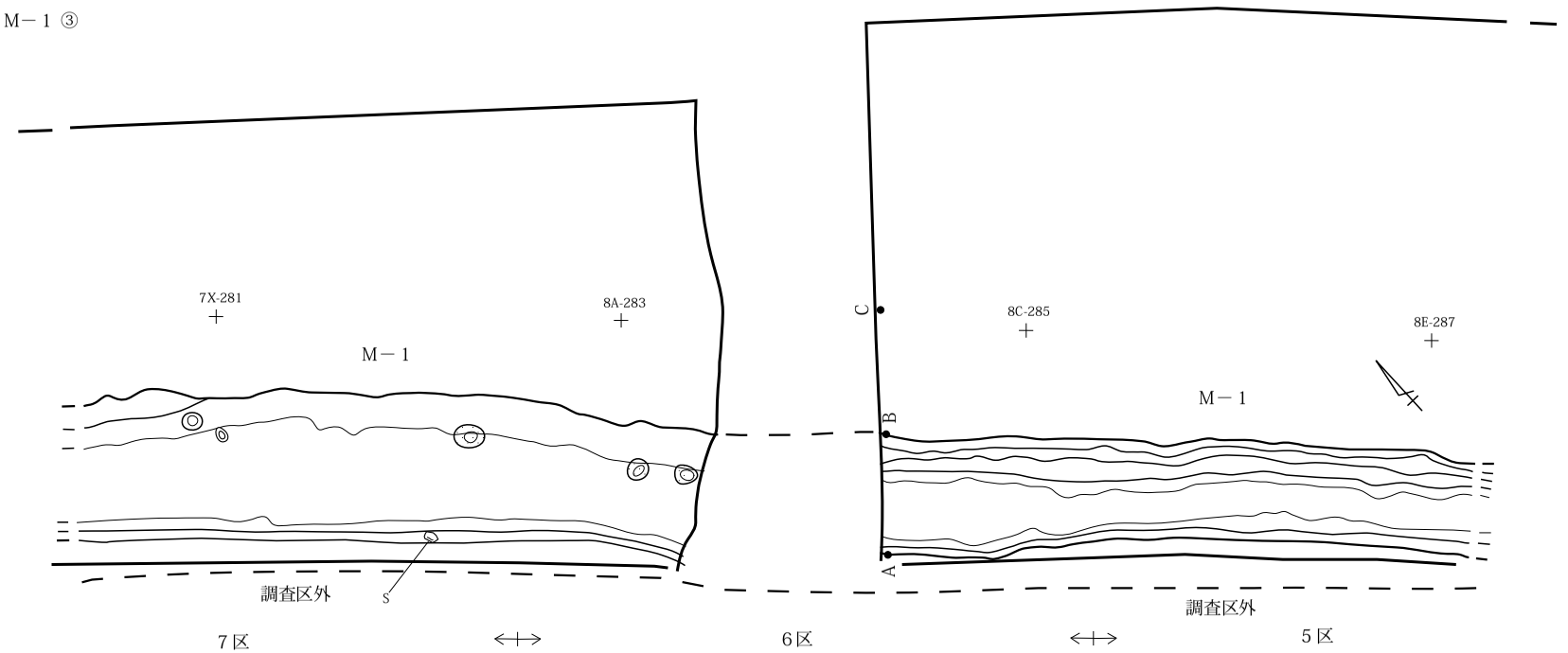


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B
M－1　3区ベルト	1	黒褐色土層10YR		◎	△	※	×	×		○
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	△	×	×	×		○
	3	褐灰色土層10YR	3＜2	△	△	×	×	×		○
	4	暗褐色土層10YR	1a＜4	○	○	※	×	×	※	
	5	褐色土層10YR	4＜5	◎	○	△	×	※		※
	6	暗褐色土層10YR	6＜Ⅱb	○	○	※	×	※		
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	△		
	8	褐色土層10YR	6＜8	○	○	△	×	※		
	9	黄褐色土層10YR	7＜9	○	○	◎	×	○		
	10	暗褐色土層10YR	10＜9	○	○	※	×	※		
	11	黄褐色土層10YR	11＜9	○	○	○	×	※		
	12	黄褐色土層10YR	11＜12	○	○	○	×	○		
	13	黄褐色土層10YR	10＜13	○	○	○	※	○		
	14	黄褐色土層10YR	7＜14	○	○	○	×	×		

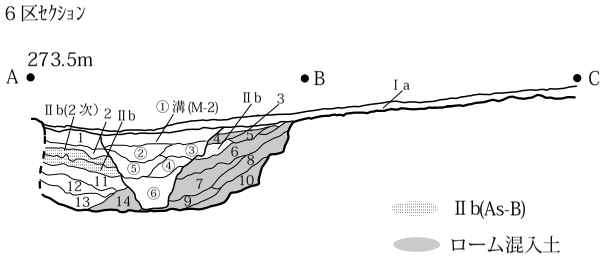
0　平面図　10m

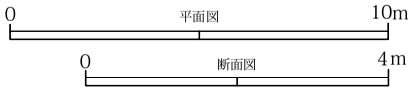
0　断面図　4m

第411図　人見向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（２）

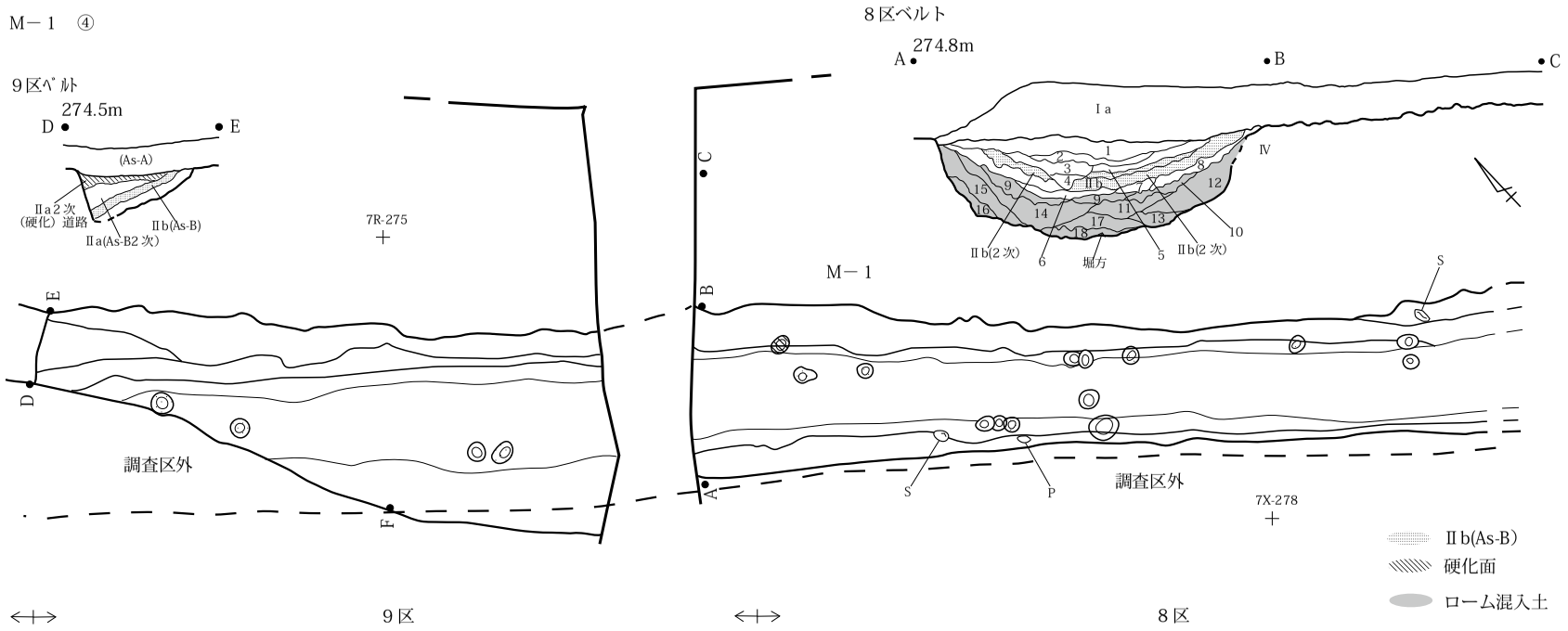


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性		混入物			備考
M－1　6区ﾍﾞﾙﾄ	1	暗褐色土層10YR	1a＜1	◎	△	※	×	×	×	○	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	△	×	×	×		○	
	3	鈍い黄褐色土層10YR	1a＜3	◎	△	※	×	×		○	硬化面道路
	4	暗褐色土層10YR	4＜3	◎	△	×	×	×		◎	〃
	5	鈍い黄褐色土層10YR	4＜5	◎	△	※	×	×		◎	
	6	黄褐色土層10YR	Ⅱb＜6	○	○	○	×	△			
	7	黄褐色土層10YR	6＜7	○	○	○	×	△			
	8	黄褐色土層10YR	7＜8	○	○	○	※	△			
	9	黄褐色土層10YR	9＜7	○	○	○	×	△			
	10	黄褐色土層10YR	10＜8	○	○	◎	×	○			
	11	黒褐色土層10YR	11＜7	○	○	※	×	※			
	12	黒褐色土層10YR	11＜12	○	○	※	※	※			
	13	黒褐色土層10YR	12＜13	○	○	※	×	△			
	14	暗褐色土層10YR	13＜14	○	○	△	×	※			
M－1　6区ﾍﾞﾙﾄ（M－2）	①	暗褐色土層10YR		◎	△	×	×	×	○		
	②	黒褐色土層10YR	①＜②	△	×	×	×	×	◎		As-A二次埋積
	③	暗褐色土層10YR	①＜③	○	△	×	×	×	○	△	
	④	暗褐色土層10YR	③＜④	○	○	×	×	×	△	※	水成埋積
	⑤	暗褐色土層10YR	④＜⑤	○	△	×	×	×	※	○	
	⑥	暗褐色土層10YR	⑤＜⑥	△	△	※	×	※	○	◎	

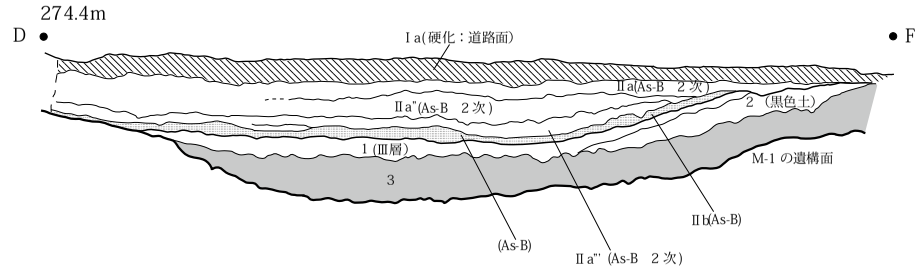




第412図　人見向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（３）

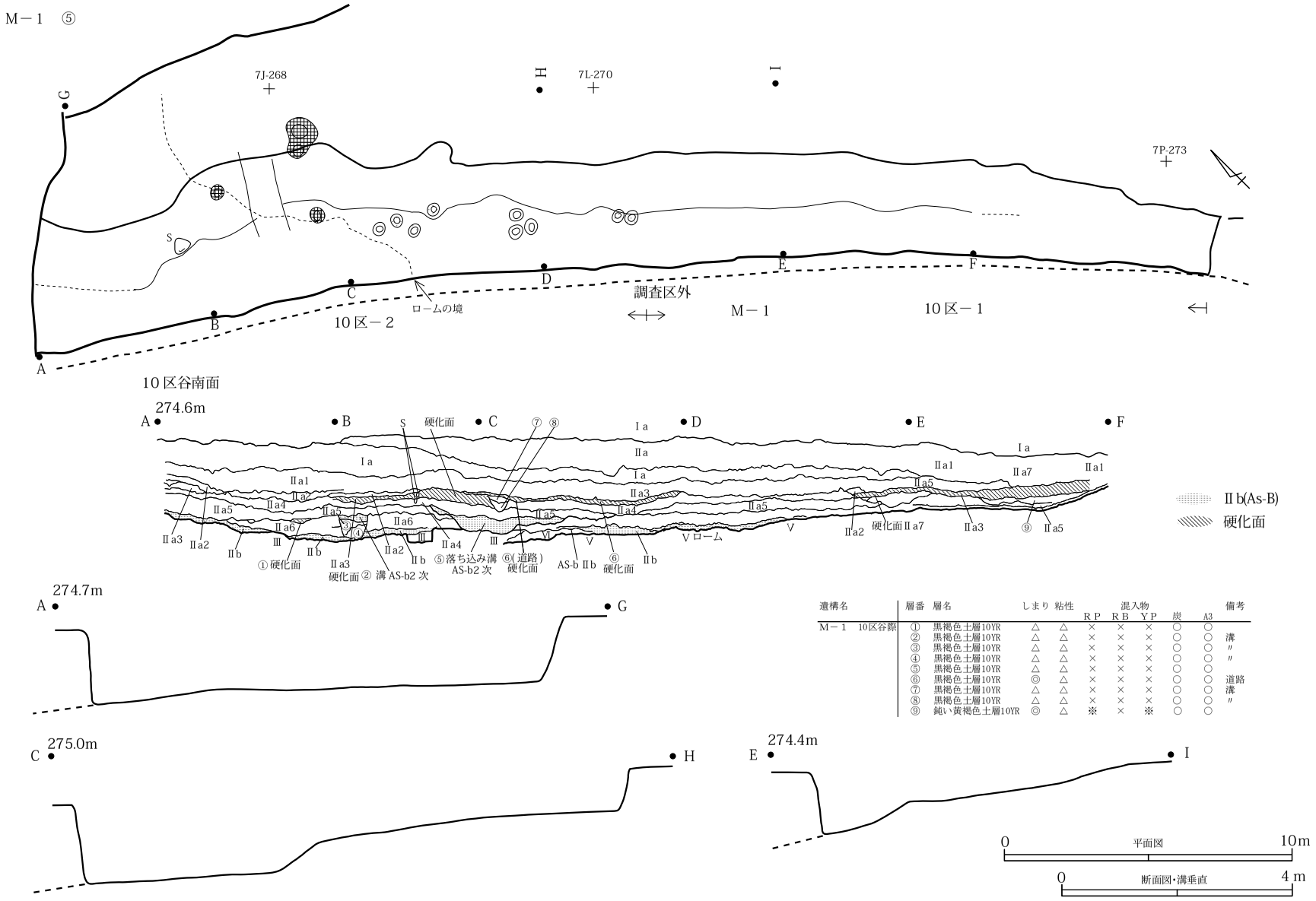


9区谷南面



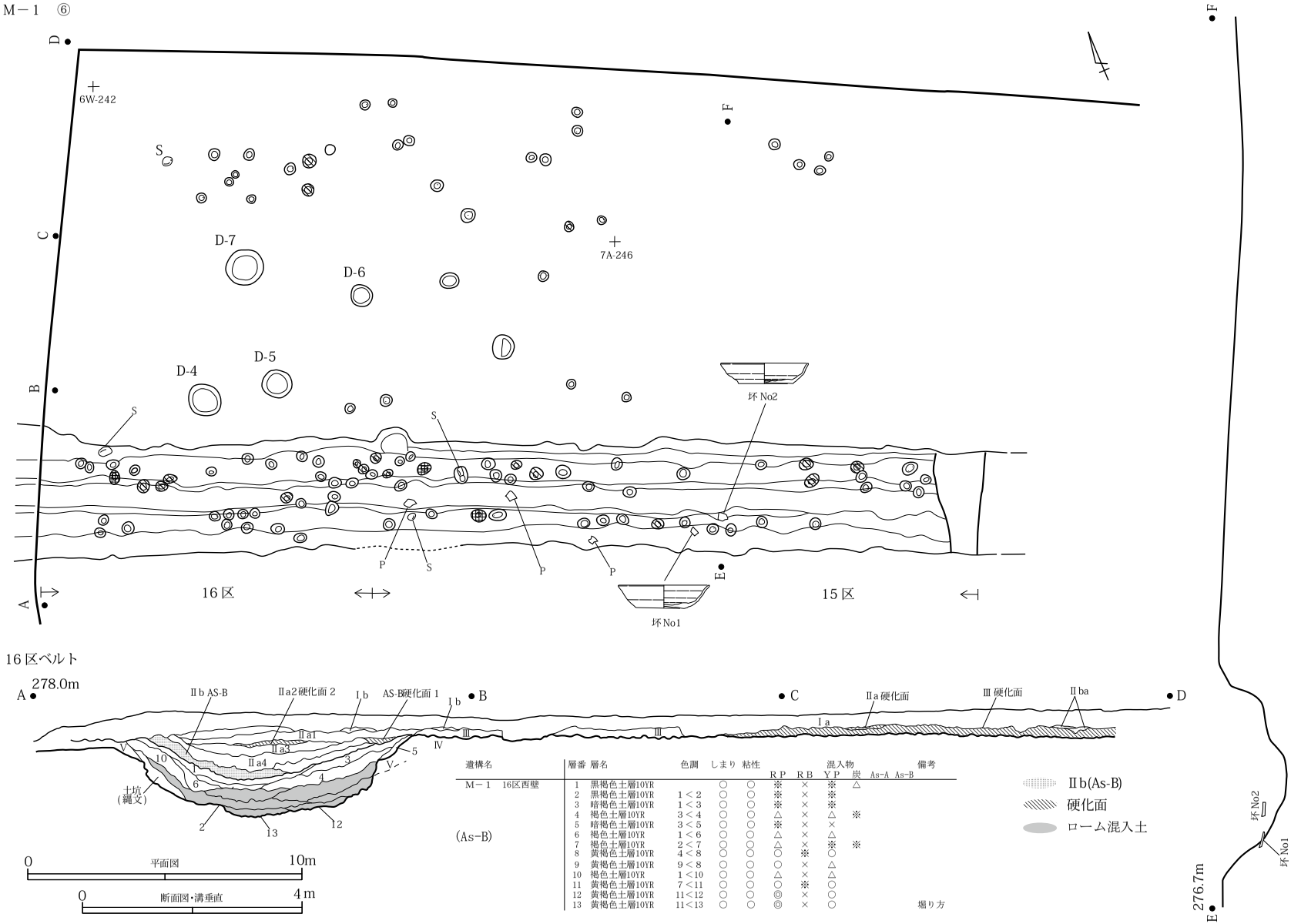
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	As-A	As-B	備考
M－1　9区ベルト	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	×			
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	△			
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	○	×	○			
	4	黄褐色土層10YR	4＜3	○	○	○	×	△			
M－1　8区ベルト	1	褐色土層10YR	1a＜1	○	△	※	×	×		○	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	◎	△	×	×	×	×	○	M－3
	3	褐灰色土層10YR	3＜2	○	△	×	×	×	×	○	〃
	4	鈍い黄褐色土層10YR	3＜4	△	△	×	×	×	×	◎	〃
	5	褐灰色土層10YR	5＜2	○	△	×	×	×	×	○	〃
	6	暗褐色土層10YR	6＜Ⅱb	○	○	※	×	※			
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	※			
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	×	※			
	9	暗褐色土層10YR	6＜9	○	○	※	×	※			
	10	黄褐色土層10YR	8＜10	○	○	○	×	△			
	11	黄褐色土層10YR	10＜11	○	○	◎	×	△			
	12	黄褐色土層10YR	11＜12	○	○	◎	×	○			
	13	黄褐色土層10YR	12＜13	○	○	◎	×	○			
	14	褐色土層10YR	9＜14	○	○	△	×	△			
	15	褐色土層10YR	14＜15	○	○	△	×	※			
	16	褐色土層10YR	16＜15	○	○	△	×	※			
	17	黄褐色土層10YR	17＜11	○	○	○	×	○			
	18	黄褐色土層10YR	17＜18	○	○	○	×	○			堀り方

第413図　人見向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（４）



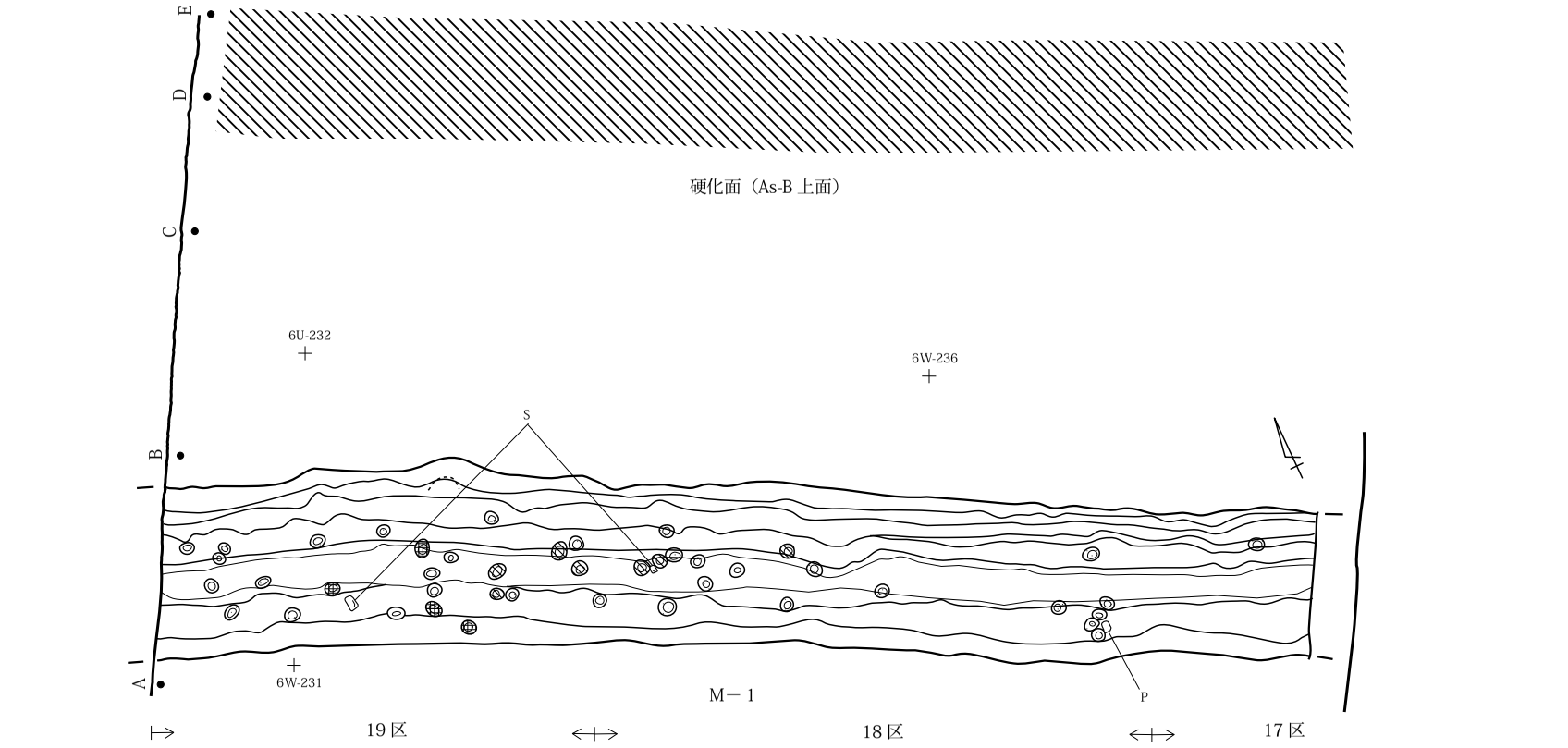
遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	炭	A3	備考
M－1　10区谷際	①	黒褐色土層10YR	△	△	×	×	×	○	○	
	②	黒褐色土層10YR	△	△	×	×	×	○	○	溝
	③	黒褐色土層10YR	△	△	×	×	×	○	○	〃
	④	黒褐色土層10YR	△	△	×	×	×	○	○	〃
	⑤	黒褐色土層10YR	△	△	×	×	×	○	○	
	⑥	黒褐色土層10YR	◎	△	×	×	×	○	○	道路
	⑦	黒褐色土層10YR	△	△	×	×	×	○	○	溝
	⑧	黒褐色土層10YR	△	△	×	×	×	○	○	〃
	⑨	鈍い黄褐色土層10YR	◎	△	※	×	※	○	○	

第414図　人見向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（５）



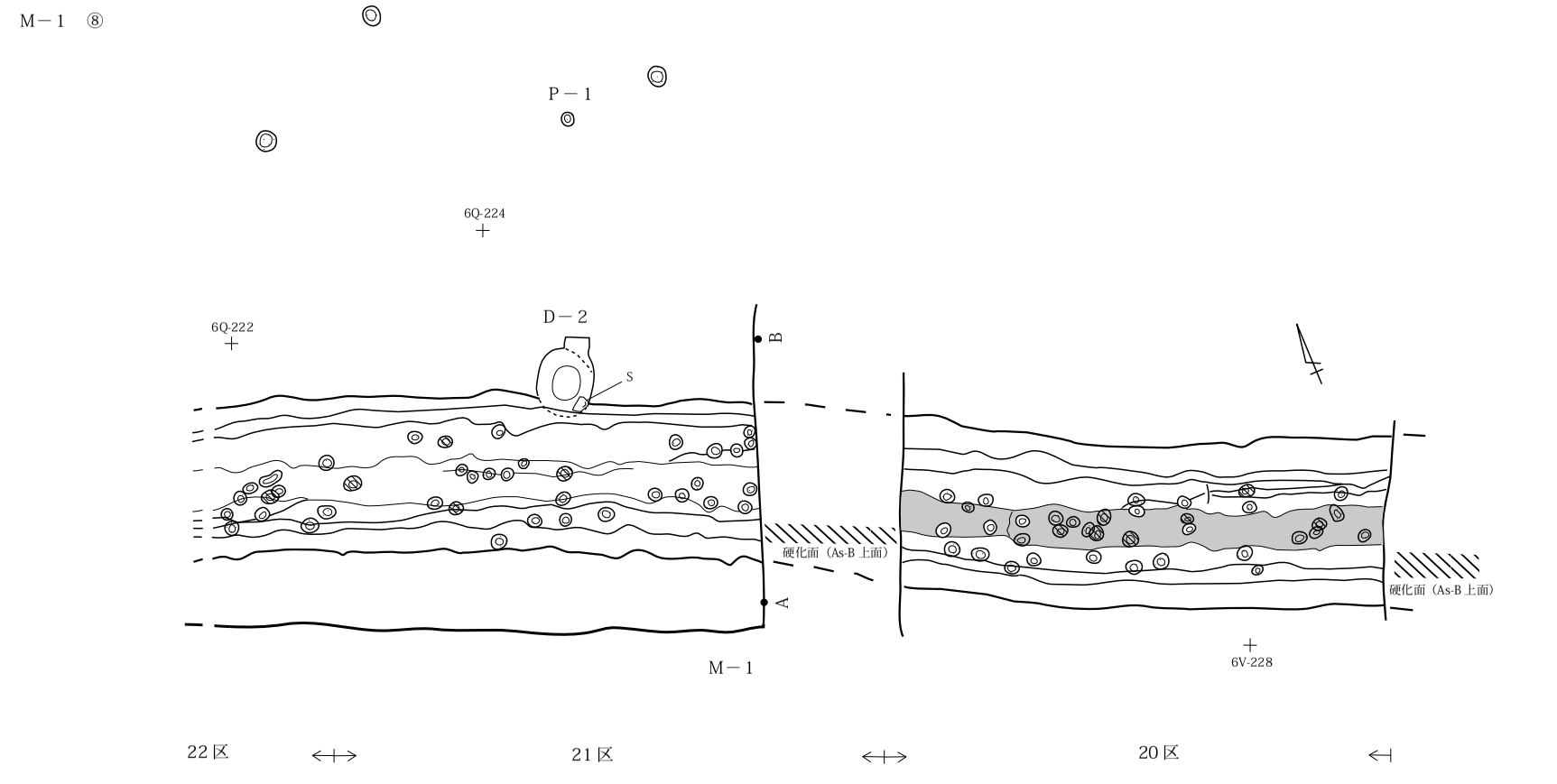
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	混入物 As-A	混入物 As-B	備考
M－1　16区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※	△			
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※				
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	×	※				
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	△	※			
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	○	○	※	×	×				
	6	褐色土層10YR	1＜6	○	○	△	×	△				
	7	褐色土層10YR	2＜7	○	○	△	×	※	※			
	8	黄褐色土層10YR	4＜8	○	○	○	※	○				
	9	黄褐色土層10YR	9＜8	○	○	○	×	△				
	10	褐色土層10YR	1＜10	○	○	△	×	△				
	11	黄褐色土層10YR	7＜11	○	○	○	※	○				
	12	黄褐色土層10YR	11＜12	○	○	◎	×	○				
	13	黄褐色土層10YR	11＜13	○	○	◎	×	○				堀り方
(As-B)												

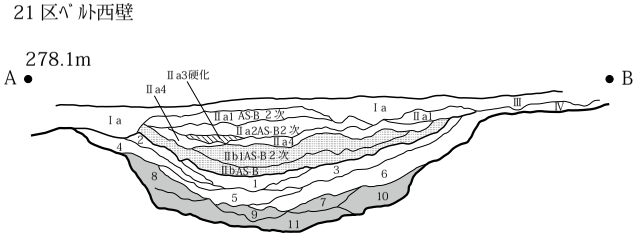
第415図　人見向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（６）



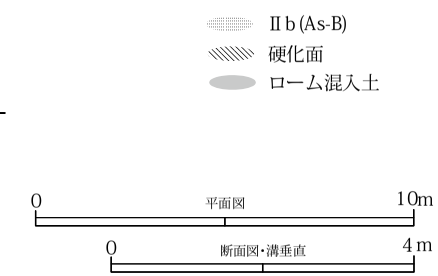
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	炭
M－1　19区ベルト	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	△	※
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	△	
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	△	
	5	黄褐色土層10YR	4＜5	○	○	○	×	○	
	6	黄褐色土層10YR	5＜6	○	○	○	※	○	
	7	褐色土層10YR	7＜6	○	○	△	×	△	
	8	黄褐色土層10YR	5＜8	○	○	◎	△	○	
	9	褐色土層10YR	4＜9	○	○	△	×	△	
	10	黄褐色土層10YR	10＜9	○	○	○	※	○	

第416図　人見向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（７）

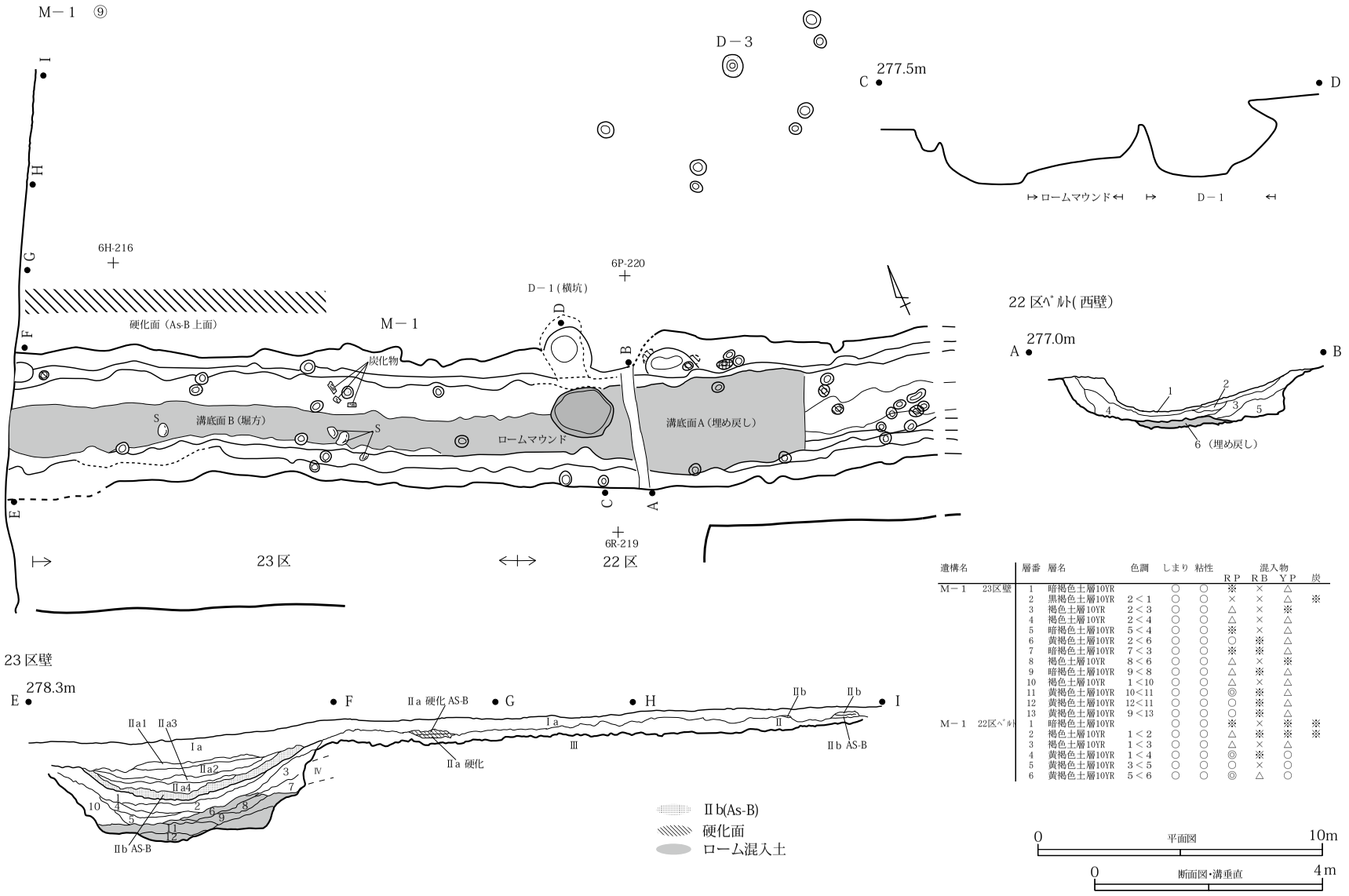




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
M－1　21区ﾍﾞﾙ西側	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※	
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	×	※	
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	○	○	△	×	※	
	5	黒褐色土層10YR	5＜1	○	○	※	×	※	※
	6	暗褐色土層10YR	3＜6	○	○	※	×	△	
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	※	
	8	褐色土層10YR	5＜8	○	○	△	×	△	
	9	黄褐色土層10YR	5＜9	○	○	○	×	※	
	10	褐色土層10YR	7＜10	○	○	△	×	△	
	11	黄褐色土層10YR	9＜11	○	○	○	※	○	

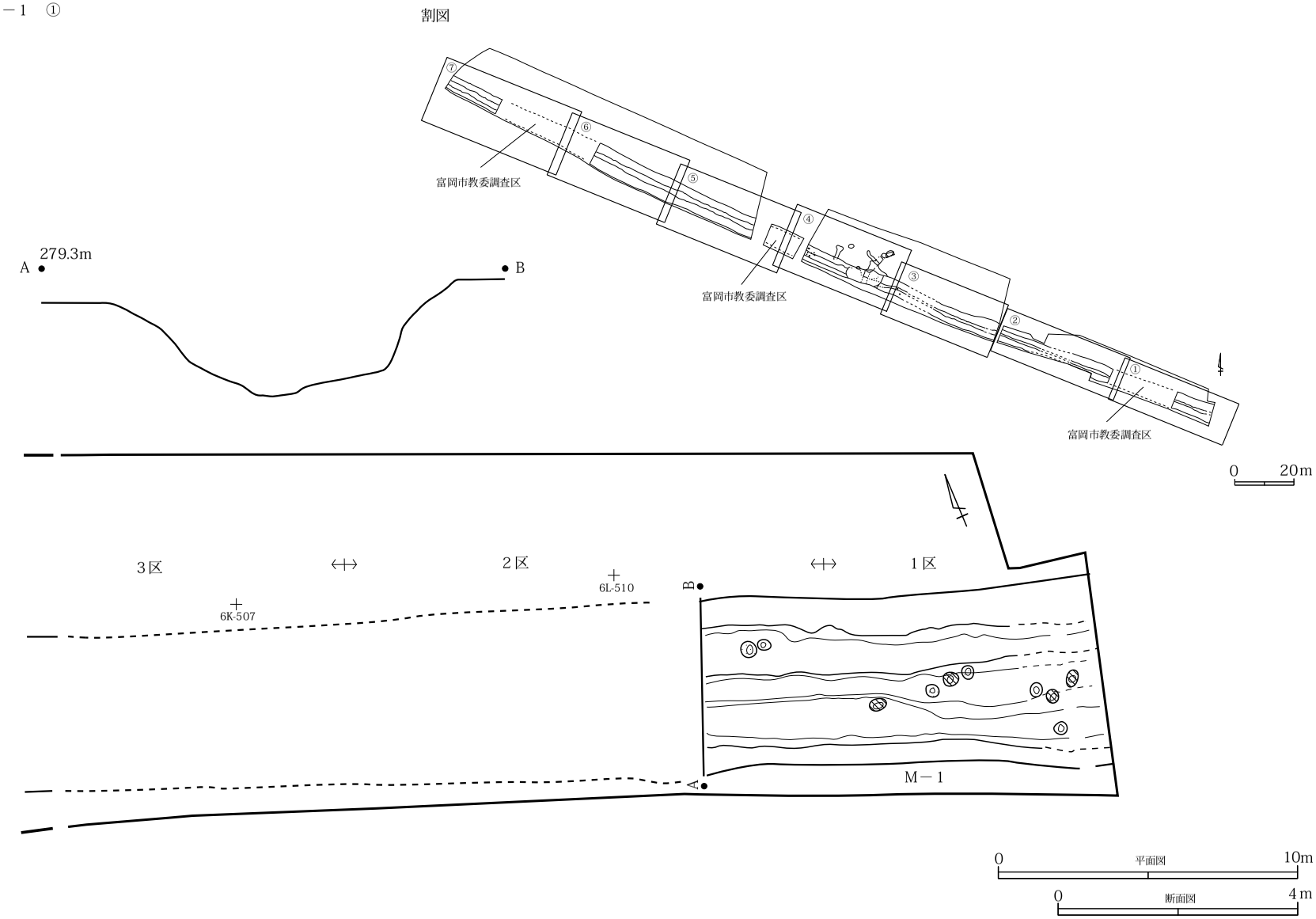


第417図　人見向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（８）



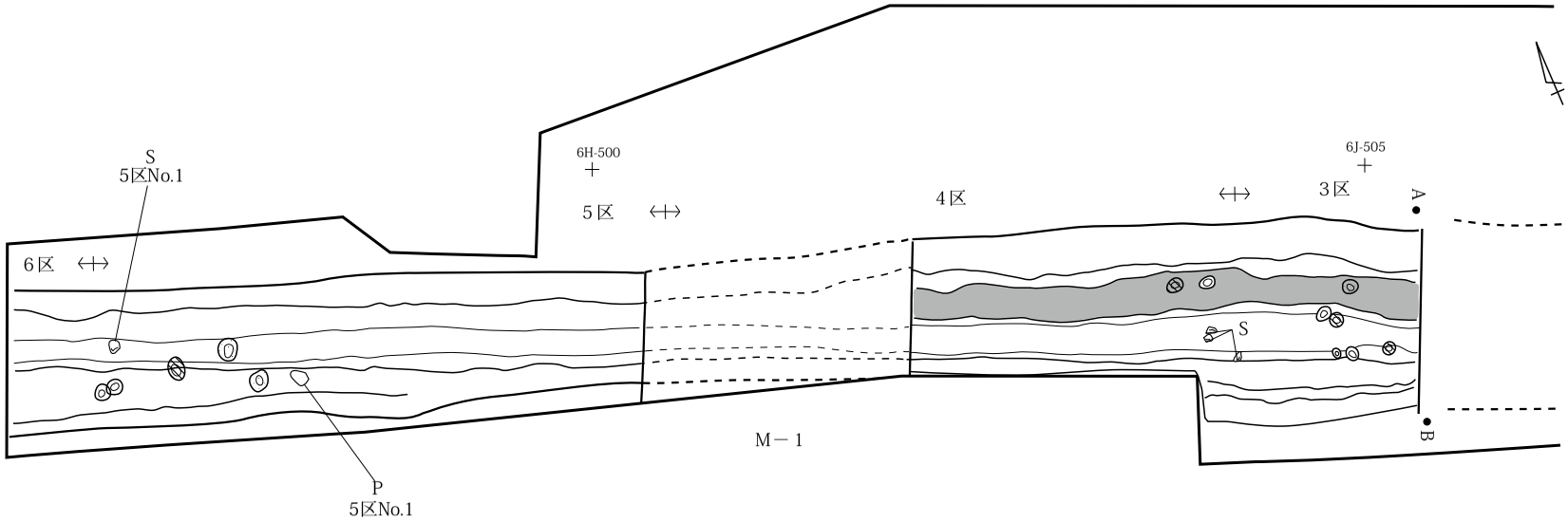
遺構名		層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
M－1	23区壁	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	△	
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	△	※
		3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※	
		4	褐色土層10YR	2＜4	○	○	△	×	△	
		5	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	※	×	△	
		6	黄褐色土層10YR	2＜6	○	○	○	※	△	
		7	暗褐色土層10YR	7＜3	○	○	※	※	△	
		8	褐色土層10YR	8＜6	○	○	△	×	※	
		9	暗褐色土層10YR	9＜8	○	○	△	※	△	
		10	褐色土層10YR	1＜10	○	○	△	×	△	
		11	黄褐色土層10YR	10＜11	○	○	◎	※	△	
		12	黄褐色土層10YR	12＜11	○	○	○	※	△	
		13	黄褐色土層10YR	9＜13	○	○	○	※	△	
M－1	22区ﾍﾞﾙﾄ	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※
		2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	※	※	※
		3	褐色土層10YR	1＜3	○	○	△	×	△	
		4	黄褐色土層10YR	1＜4	○	○	◎	※	○	
		5	黄褐色土層10YR	3＜5	○	○	○	×	○	
		6	黄褐色土層10YR	5＜6	○	○	◎	△	○	

第418図　人見向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（９）

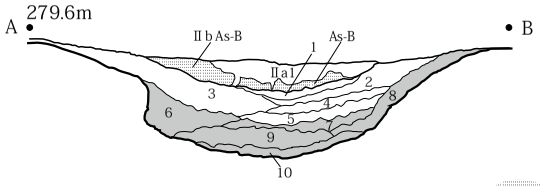


第419図　人見西向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（１）

M－1　②



3区ベルト東壁



Ⅱb(As-B)
ローム混入土

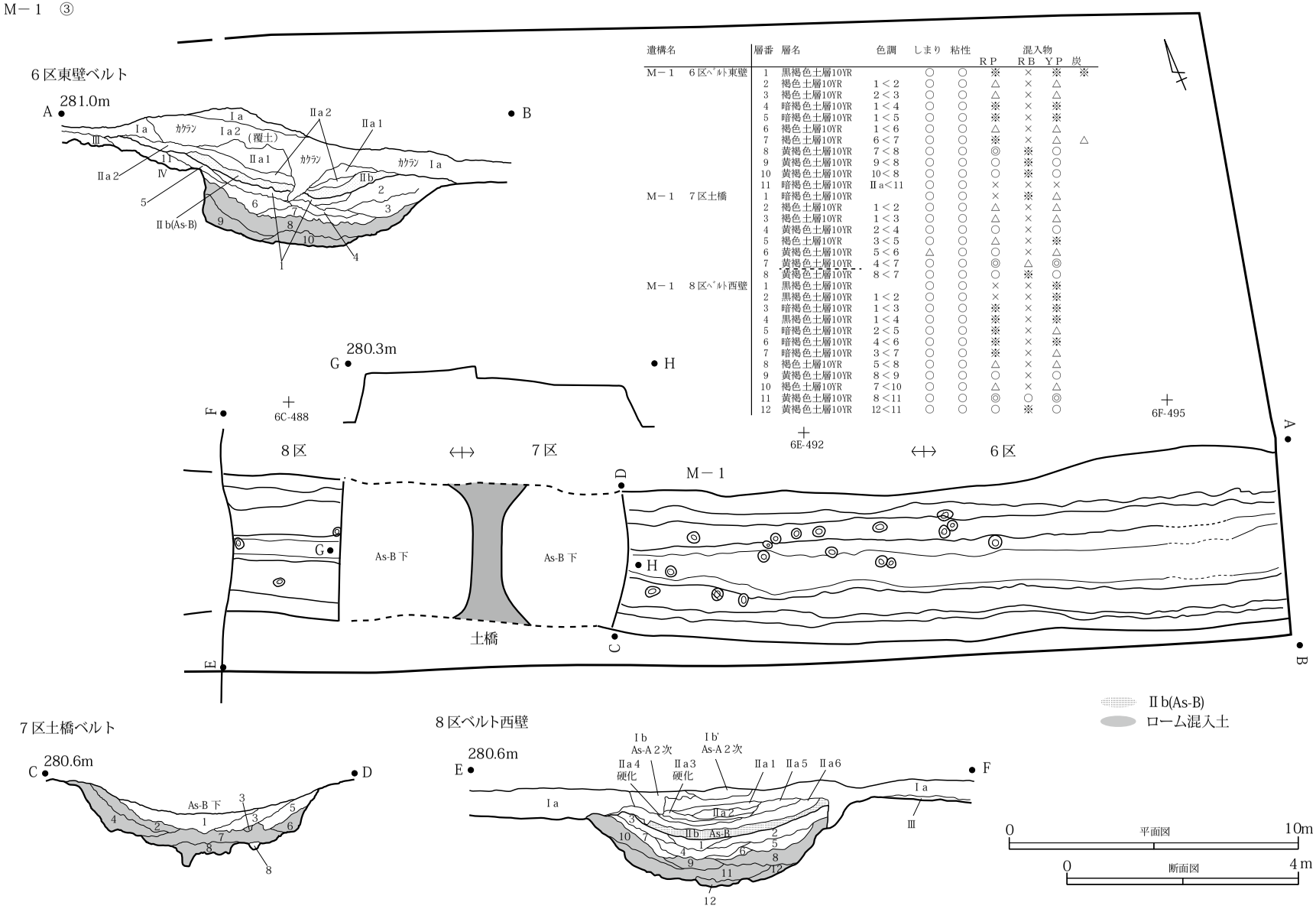
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭
M－1　3区ベルト東壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	△	
	4	暗褐色土層10YR	4＜2	○	○	※	×	※	
	5	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	※	×	※	
	6	黄褐色土層10YR	3＜6	○	○	○	△	○	
	7	褐色土層10YR	5＜7	○	○	△	×	△	
	8	黄褐色土層10YR	2＜8	○	○	○	×	△	
	9	黄褐色土層10YR	6＜9	○	○	◎	△	○	
	10	黄褐色土層10YR	10＜9	○	○	○	※	○	

0　平面図　10m

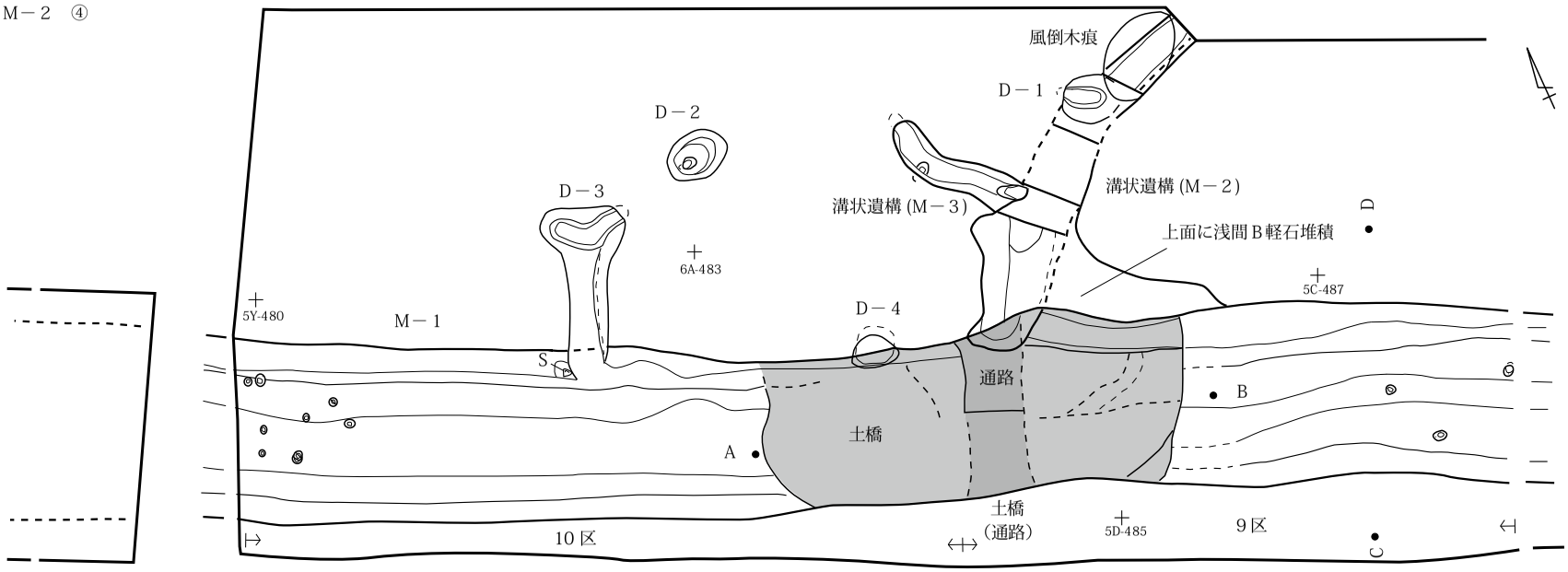
0　断面図　4m

第420図　人見西向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（２）

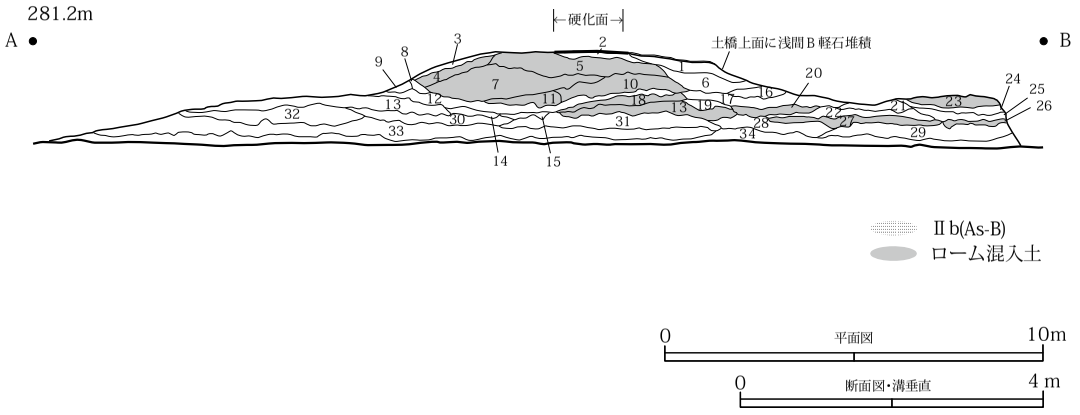
M－1　③



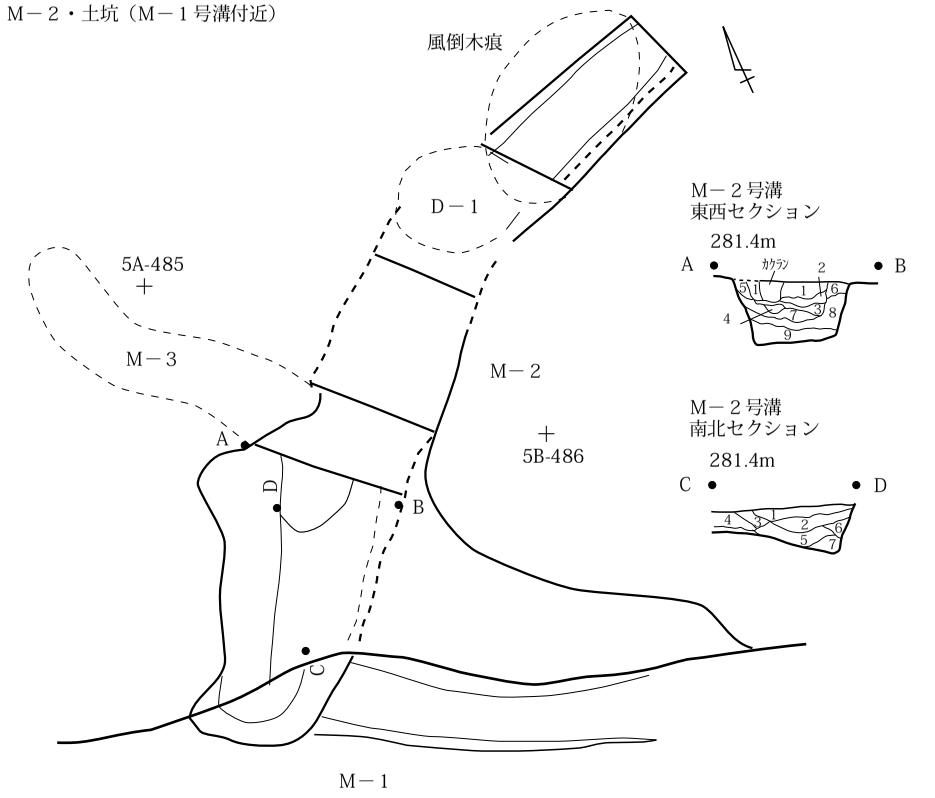
第421図　人見西向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（３）

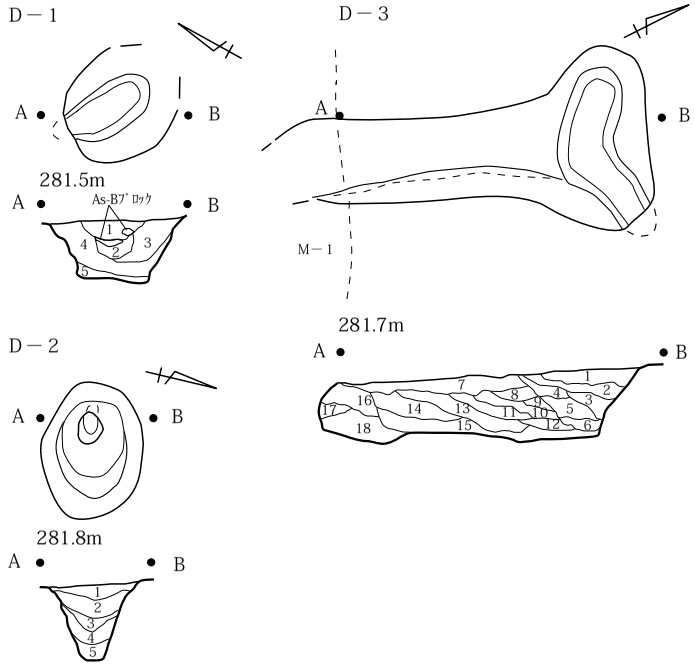


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－1　土橋	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	◎	○	△	※	※		通路面
	3	褐色土層10YR		○	○	△	※	※		
	4	黄褐色土層10YR	3＜4	○	○	○	△	※		
	5	黄褐色土層10YR	4＜5	◎	○	○	○	○		
	6	褐色土層10YR	1＜6	○	○	△	※	※	※	
	7	黄褐色土層10YR	7＜5	◎	○	○	○	○		
	8	褐色土層10YR	8＜4	○	○	△	×	※		
	9	黒褐色土層10YR	9＜8	○	○	△	×	※		
	10	黄褐色土層10YR	5＜10	○	○	○	△	○		
	11	黄褐色土層10YR	7＜11	○	○	○	△	○		
	12	黒褐色土層10YR	12＜11	○	○	※	×	※		
	13	明黄褐色土層10YR	12＜13	○	○	◎	○	◎		YP埋め戻し
	14	暗褐色土層10YR	12＜14	○	○	※	×	※		
	15	褐色土層10YR	12＜15	○	○	※	×	※		
	16	褐色土層10YR	6＜16	○	○	△	○	△		
	17	黒褐色土層10YR	17＜16	○	○	※	×	※		
	18	黄褐色土層10YR	12＜18	○	○	○	※	△		
	19	褐色土層10YR	17＜19	○	○	△	×	※		
	20	黄褐色土層10YR	17＜20	○	○	○	※	△		
	21	褐色土層10YR	17＜21	○	○	△	△	※		
	22	褐色土層10YR	22＜21	○	○	△	※	※		
	23	黄褐色土層10YR		○	○	○	△	△		
	24	褐色土層10YR	24＜23	○	○	△	×	※		
	25	褐色土層10YR	25＜24	○	○	△	×	※		
	26	黄褐色土層10YR	25＜26	○	○	◎	※	※		
	27	明黄褐色土層10YR	22＜27	○	○	◎	×	※		粘土Ⅶ層
	28	褐色土層10YR	28＜27	○	○	△	※	※		
	29	褐色土層10YR	29＜27	○	○	△	※	△		
	30	褐色土層10YR	14＜30	○	○	△	※	※		
	31	褐色土層10YR	31＜13	○	○	△	※	※		
	32	褐色土層10YR	32＜13	○	○	△	※	△		
	33	褐色土層10YR	32＜33	○	○	△	※	△		
	34	褐色土層10YR	34＜33	○	○	※	※	※		



第422図　人見西向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（４）



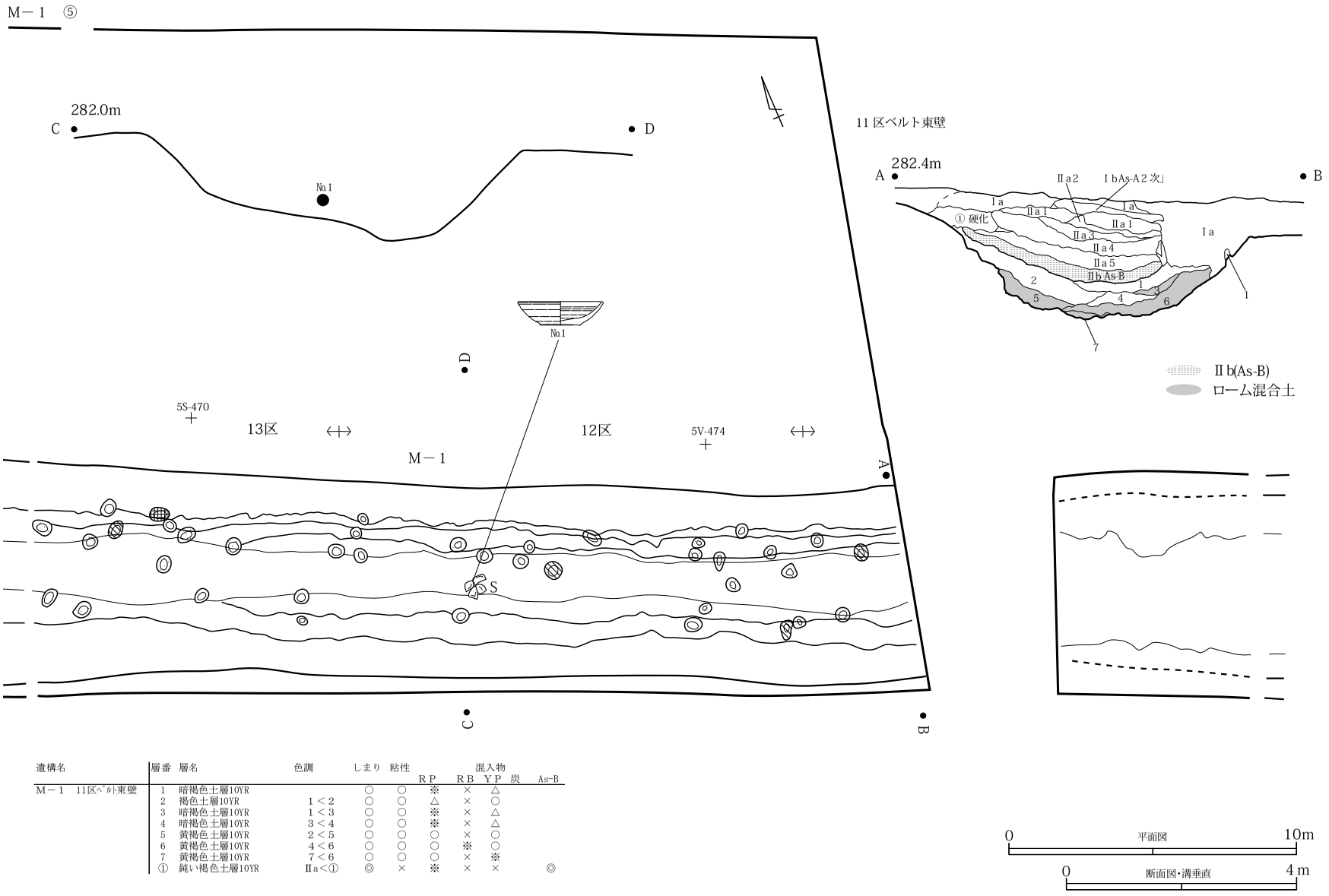


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
M－2　東西ｾｸｼｮﾝ	1	黄褐色土層10YR		◎	○	◎	△	※	別土坑
	2	褐色土層10YR	2＜1	○	○	△	※	※	〃
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	※	※	〃
	4	褐色土層10YR	4＜3	○	○	△	×	×	〃
	5	褐色土層10YR	5＜1	○	○	△	×	※	
	6	褐色土層10YR	6＜1	○	○	△	×	※	
	7	褐色土層10YR	7＜3	○	○	△	×	×	
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	×	※	
	9	褐色土層10YR	8＜9	○	○	△	×	×	
M－2　南北ｾｸｼｮﾝ	1	黄褐色土層10YR		○	○	○	※	△	
	2	黄褐色土層10YR	1＜2	○	○	○	※	△	
	3	褐色土層10YR	3＜1	○	○	※	×	※	
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	※	△	
	5	黄褐色土層10YR	d2＜5	○	○	○	※	△	
	6	褐色土層10YR	6＜2	○	○	△	×	※	
	7	黄褐色土層10YR	5＜7	○	○	○	×	※	

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 As-A	混入物 As-B	備考
D－1	1	暗褐色土層10YR		×	×		※		△	ﾌﾞﾛｯｸ	
	2	暗褐色土層10YR		△	×			※	※	△	
	3	暗褐色土層10YR		×	×				※		
	4	黒褐色土層10YR		×	×	※					
	5	暗褐色土層10YR		×	×	※		※		※	
D－2	1	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○			※		△	
	2	黒褐色土層10YR	2＞3	○	○			△		※	
	3	暗褐色土層10YR	3＞4	△	△	△		※			
	4	暗褐色土層10YR	4＜5	×	×	△		※			
	5	褐色土層10YR		×	×	※	◎				掘り方？
D－3	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※			別土坑
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※			〃
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※			〃
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※			〃
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	△			〃
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	※			〃
	7	褐色土層10YR	1＜7	○	○	△	※	△			
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	※	△			
	9	暗褐色土層10YR	9＜8	○	○	※	×	※			
	10	褐色土層10YR	9＜10	○	○	△	△	※			
	11	褐色土層10YR	11＜10	○	○	△	※	※			
	12	褐色土層10YR	12＜10	○	○	※	×	※			
	13	黄褐色土層10YR	12＜13	○	○	○	○	○			
	14	褐色土層10YR	14＜13	○	○	△	※	※			
	15	黄褐色土層10YR	14＜15	○	○	○	△	△			
	16	黄褐色土層10YR	7＜16	○	○	○	※	○			
	17	黄褐色土層10YR	16＜17	○	○	○	※	○			
	18	黄褐色土層10YR	17＜18	○	○	○	※	○			

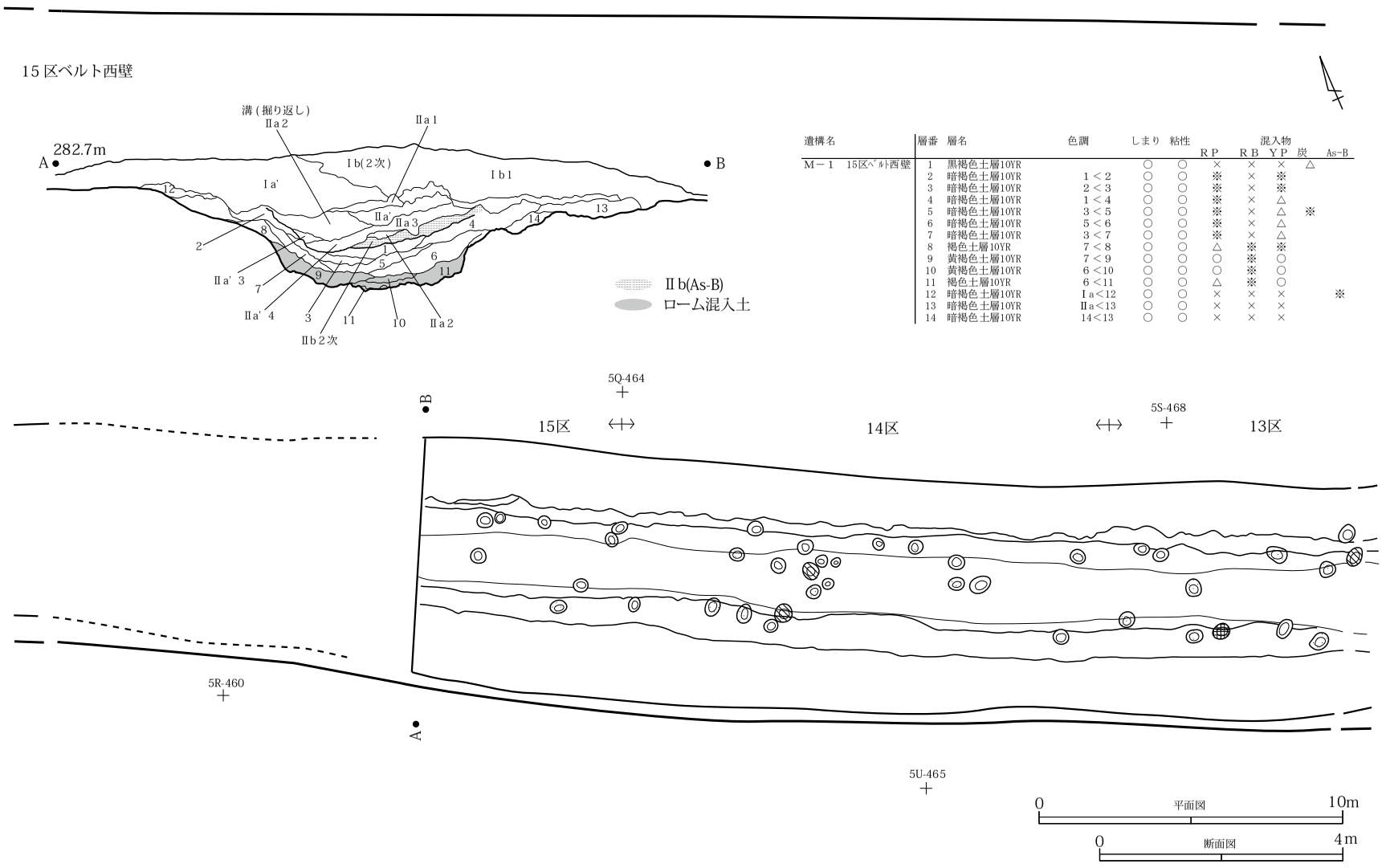
0　4 m

第423図　人見西向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（５）



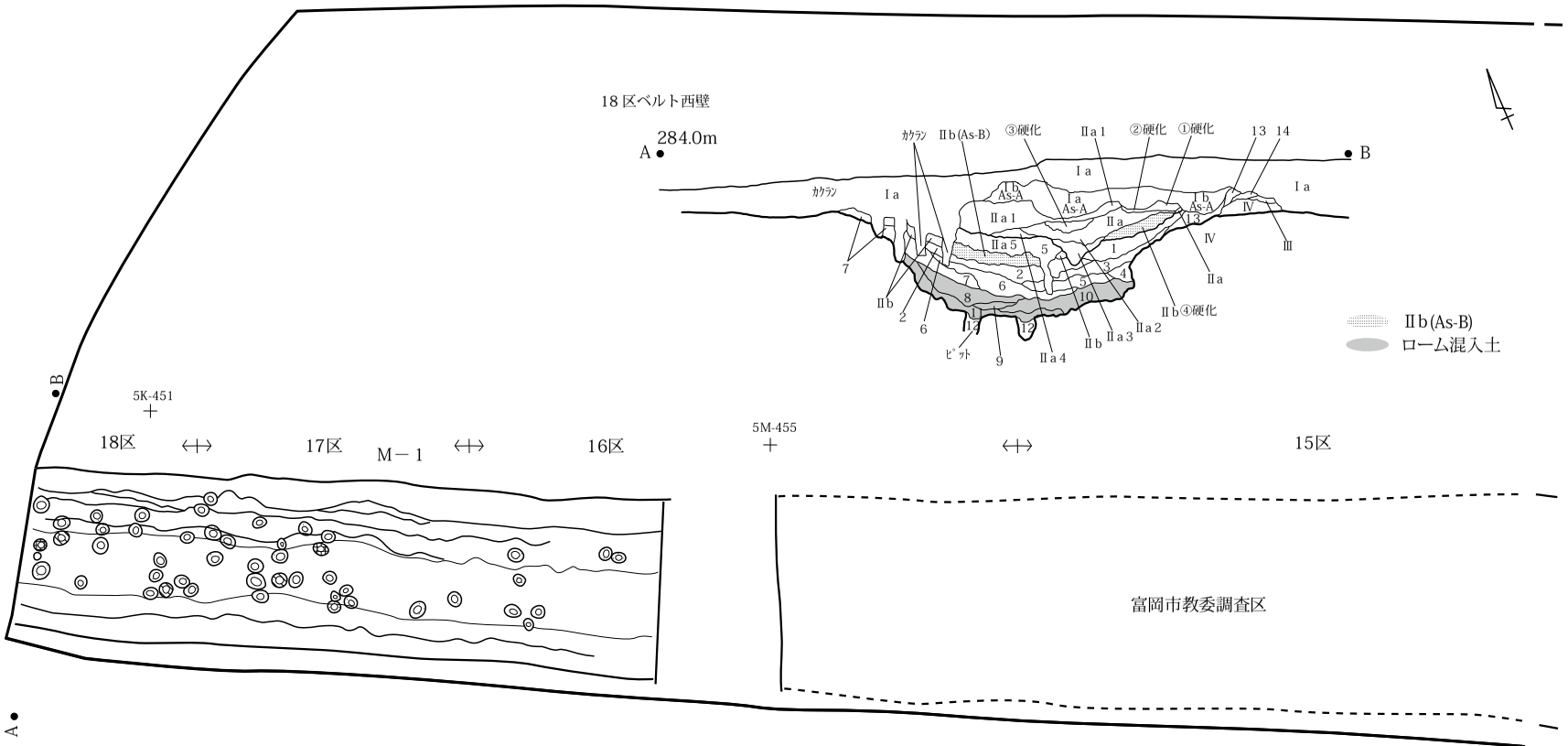
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-B
M－1　11区ベルト東壁	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	△		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	○		
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	×	△		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	△		
	5	黄褐色土層10YR	2＜5	○	○	○	×	○		
	6	黄褐色土層10YR	4＜6	○	○	○	※	○		
	7	黄褐色土層10YR	7＜6	○	○	○	×	※		
	①	鈍い褐色土層10YR	Ⅱa＜①	◎	×	※	×	×		◎

第424図　人見西向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（６）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-B
M－1　15区ベルト西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	×	△	
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		
	4	暗褐色土層10YR	1＜4	○	○	※	×	△		
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	○	○	※	×	△	※	
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	△		
	7	暗褐色土層10YR	3＜7	○	○	※	×	△		
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	※	※		
	9	黄褐色土層10YR	7＜9	○	○	○	※	○		
	10	黄褐色土層10YR	6＜10	○	○	○	※	○		
	11	褐色土層10YR	6＜11	○	○	△	※	○		
	12	暗褐色土層10YR	Ⅰa＜12	○	○	×	×	×		※
	13	暗褐色土層10YR	Ⅱa＜13	○	○	×	×	×		
	14	暗褐色土層10YR	14＜13	○	○	×	×	×		

第425図　人見西向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（７）



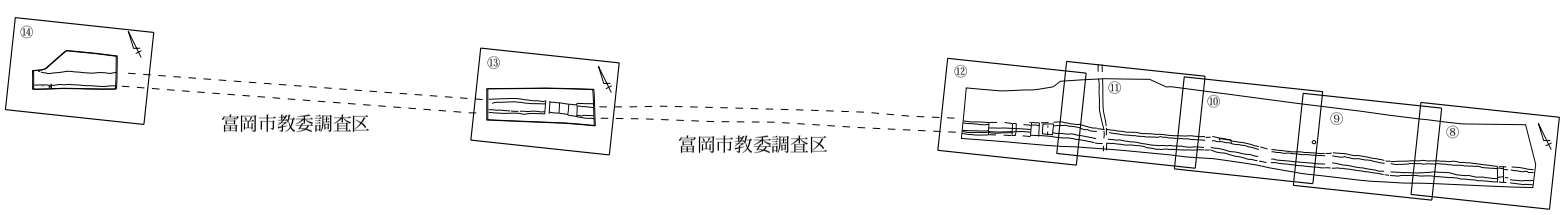
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	As-B	備考
M－1　18区西壁	①	暗褐色土層10YR		○	○	×	※	×			
	②	黒褐色土層10YR	②＜①	◎	△	×	×			○	硬化
	③	鈍い黄褐色土層10YR	Ⅱa①＜③	◎	△	×	○	※			硬化
	1	暗褐色土層10YR	Ⅱa＜１	○	○	※	×	※			
	2	黒褐色土層10YR	２＜１	○	○	※	×	※			
	3	暗褐色土層10YR	２＜３	○	○	※	×	※			
	4	褐色土層10YR	３＜４	○	○	△	×	※			
	5	黒褐色土層10YR	５＜４	○	○	※	×	※			
	6	黒褐色土層10YR	２＜６	○	○	※	×	△	△		
	7	暗褐色土層10YR	６＜７	○	○	※	×	△	※		
	8	褐色土層10YR	７＜８	○	○	△	×	△			
	9	褐色土層10YR	８＜９	○	○	△	×	※			
	10	黄褐色土層10YR	６＜10	○	○	○	※	○	△		
	11	褐色土層10YR	８＜11	○	○	△	×	△			
	12	褐色土層10YR	11＜12	○	○	△	×	※			
	13	暗褐色土層10YR	１＜13	○	○	×	×	×			
	14	暗褐色土層10YR	13＜14	○	○	×	×	×			盛土

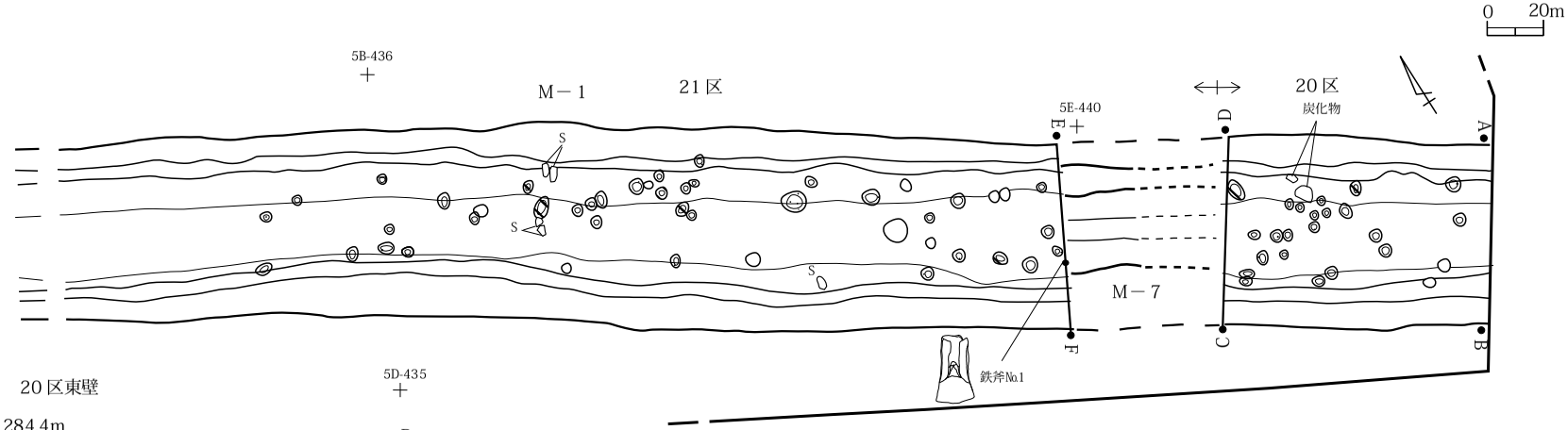
0　平面図　10m
0　断面図　4m

第426図　人見西向原遺跡Ａ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（８）

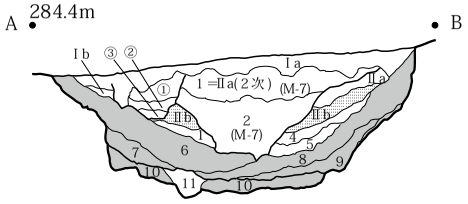
M－1　⑧

割図

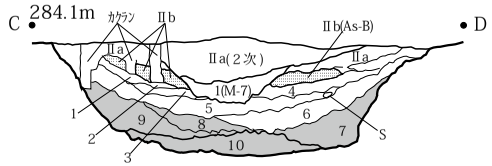




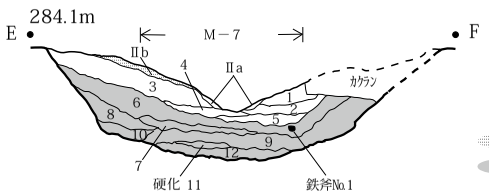
M－1　20区東壁

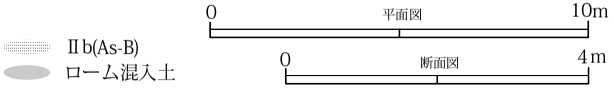


M－1　21区西壁



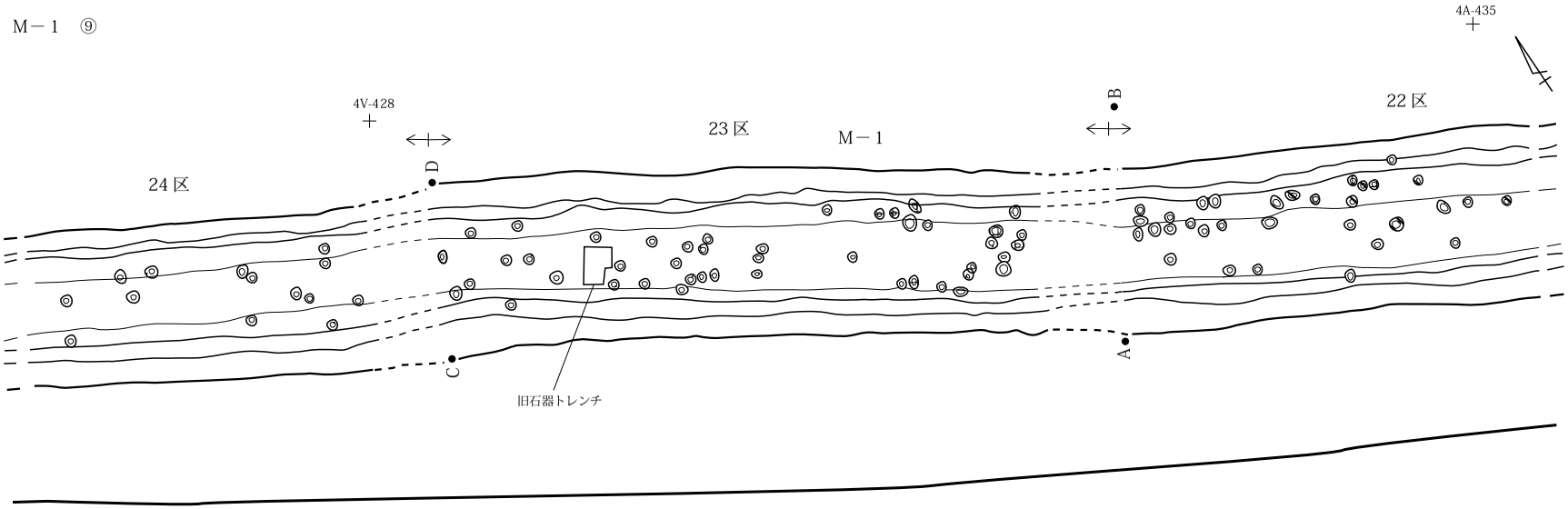
M－1　21区東壁



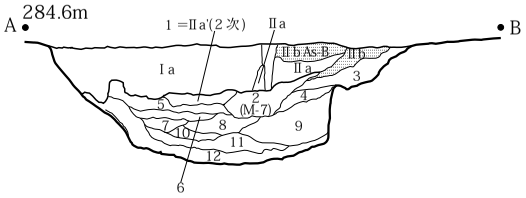


遺構名	層番	層名	色調	しま	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	備考
M－1　(M-1,20区東壁)	1	黒褐色土層10YR		○	△	×	×	×	×	
M－1　(M-1,20区東壁)	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	×	
M-1,20区東壁	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		
M－7　(M-1,20区東壁)	1	黒褐色土層10YR		○	△	×	×	×	×	
M－7　(M-1,20区東壁)	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	△	×	×	×	×	
M-1,20区東壁	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		
M-1,20区東壁	4	黒褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※	※	
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	※	※	
	6	褐色土層10YR	3＜6	○	○	△	×	△		
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	△		
	8	褐色土層10YR	8＜6	○	○	△	×	△		
	9	褐色土層10YR	8＜9	○	○	△	×	△		
	10	黄褐色土層10YR	9＜10	○	○	◎	※	○		
M-1,20区東壁（ﾋﾟｯﾄ）	11	褐色土層10YR	11＜10	○	○	△	×	△		
M-1,21区西壁	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※		
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	×	△		
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	×	○	△(部分的)	
	7	褐色土層10YR	7＜6	○	○	△	×	△		
	8	暗褐色土層10YR	8＜5	○	○	※	×	※		
	9	褐色土層10YR	5＜9	○	○	○	×	○		
	10	黄褐色土層10YR	9＜10	○	◎	◎	△	◎		埋戻し
M－1　21区東壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	△		
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	×	※		
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	△		
	5	暗褐色土層10YR	5＜2	○	○	※	×	※		
	6	褐色土層10YR	3＜6	○	○	△	×	○		鉄斧№1出土
	7	褐色土層10YR	7＜6	○	○	△	×	△	※	
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	×	△		
	9	黄褐色土層10YR	6＜9	○	◎	◎	△	◎		
	10	黄褐色土層10YR	8＜10	○	○	○	×	△		
	11	黄褐色土層10YR	11＜9	◎	◎	○	※	△		硬化（水）
	12	黄褐色土層10YR	12＜9	○	◎	○	※	○		

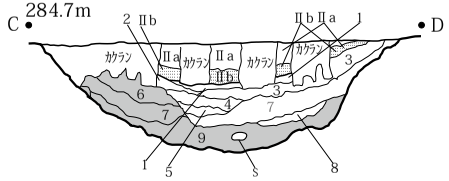
第427図　人見西向原遺跡Ｂ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（１）



M－1　23区西壁



M－1　24区西壁

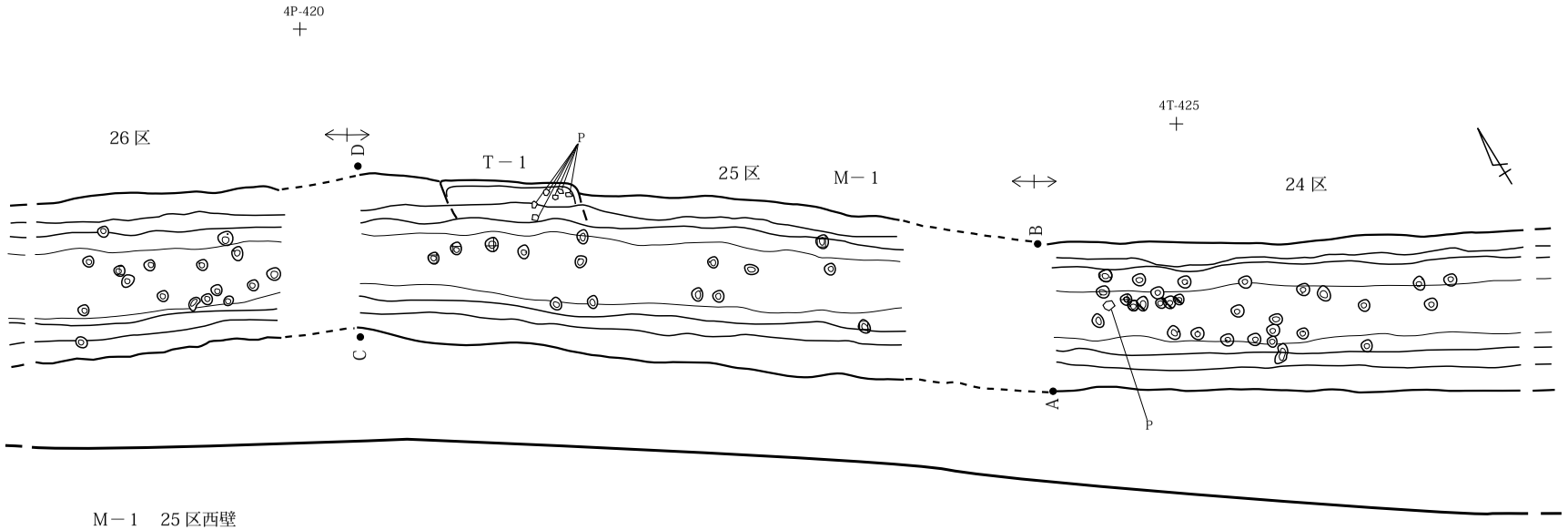


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭	焼土	As-B	備考
M－1　23区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	△	×	×	×			○	
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	△	×	×	×			○	
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※				
	4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	△				
	5	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	※	×	※				
	6	黒褐色土層10YR	6＜5	○	○	※	×	※	※			
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	※				
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	※	×	△				
	9	褐色土層10YR	4＜9	○	○	○	×	○				
	10	暗褐色土層10YR	10＜8	○	○	※	×	※				
	11	褐色土層10YR	11＜9	○	○	○	×	○	※			
	12	黄褐色土層10YR	11＜12	○	◎	◎	※	◎	※			
M－1　24区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※				
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※				
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	△				
	4	暗褐色土層7.5YR	3＜4	○	○	※	×	※	※	※		
	5	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	※	×	※	△			
	6	褐色土層10YR	2＜6	○	○	△	×	△				
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	△				
	8	黄褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	○	※				埋戻し
	9	黄褐色土層10YR	7＜9	○	◎	○	△	◎				埋戻し

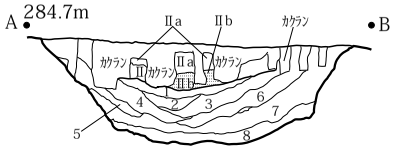
Ⅱb(As-B)
ローム混入土

0　平面図　10m
0　断面図　4m

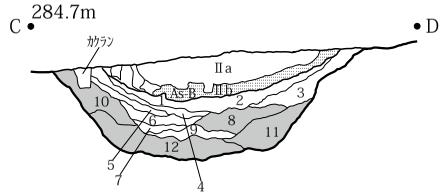
第428図　人見西向原遺跡Ｂ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（２）



M－1　25区西壁



M－1　26区西壁

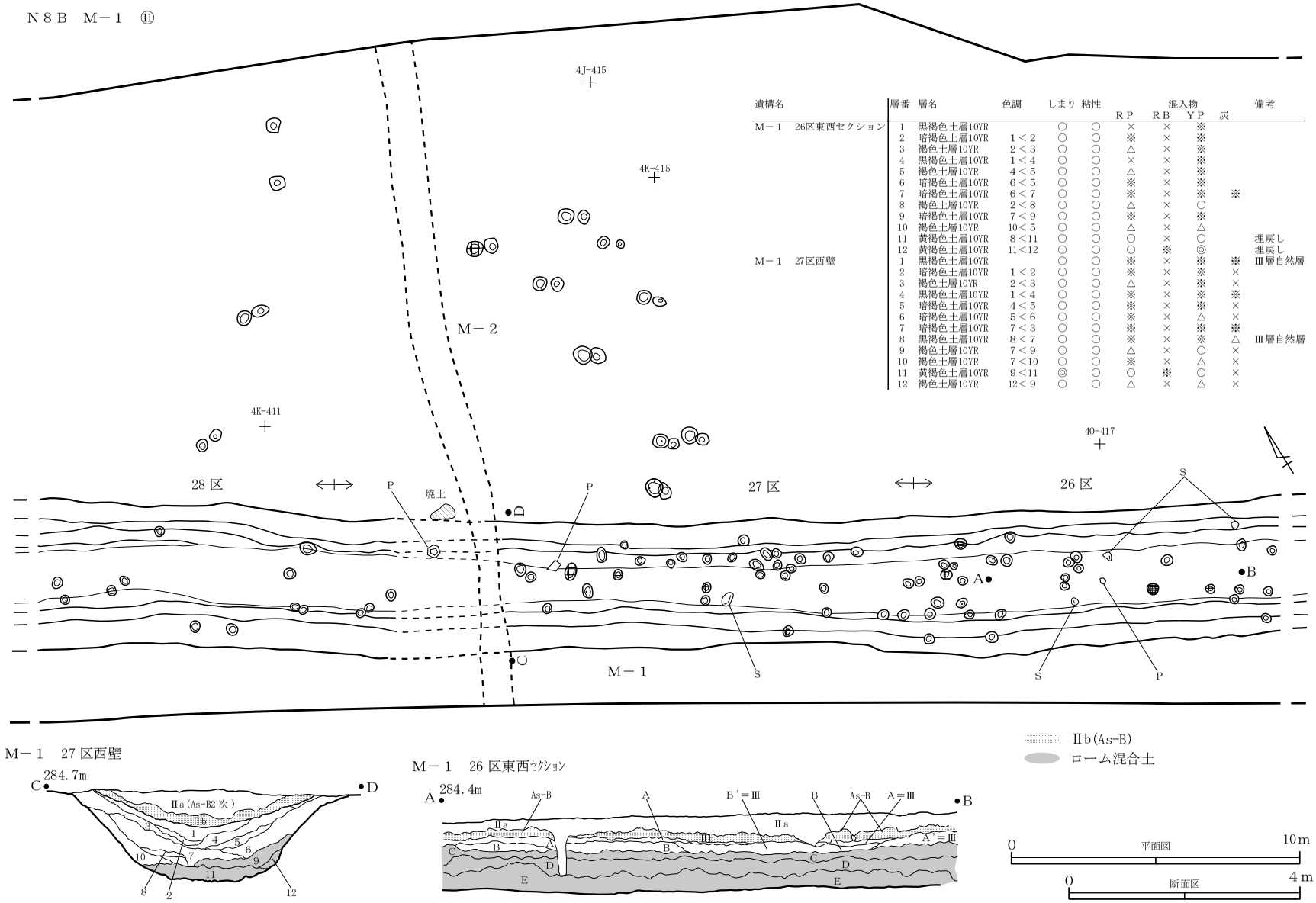


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－1　25区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	△	※	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	※		
	6	暗褐色土層10YR	3＜6	○	○	※	×	※	※	
	7	褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	△	△	
	8	黄褐色土層10YR	7＜8	○	◎	○	※	○		
M－1　26区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※		
	4	黒褐色土層10YR	1＜4	○	○	×	×	※		
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	×	※		
	6	暗褐色土層10YR	6＜5	○	○	※	×	※		
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	※	※	
	8	褐色土層10YR	2＜8	○	○	△	×	○		
	9	暗褐色土層10YR	7＜9	○	○	※	×	※		
	10	褐色土層10YR	10＜5	○	○	△	×	△		
	11	黄褐色土層10YR	8＜11	○	○	○	×	○		埋戻し
	12	黄褐色土層10YR	11＜12	○	○	○	※	◎		埋戻し

Ⅱb(As-B)
ローム混入土

0　平面図　10m
0　断面図　4m

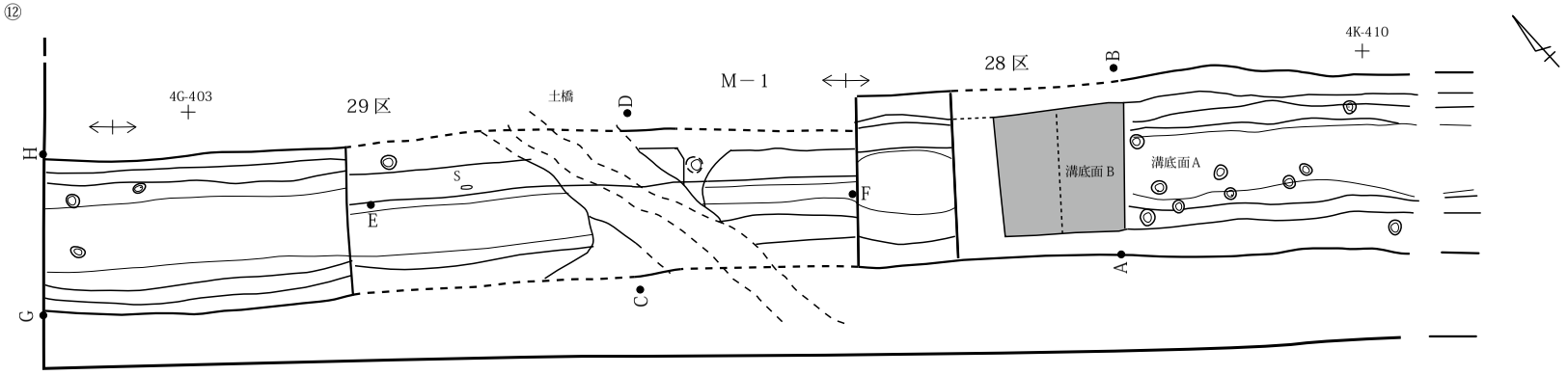
第429図　人見西向原遺跡Ｂ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（３）



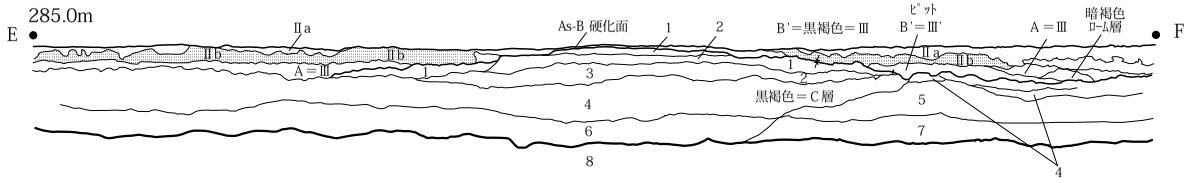
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－１　26区東西セクション	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※		
	4	黒褐色土層10YR	1＜4	○	○	×	×	※		
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	×	※		
	6	暗褐色土層10YR	6＜5	○	○	※	×	※		
	7	暗褐色土層10YR	6＜7	○	○	※	×	※	※	
	8	褐色土層10YR	2＜8	○	○	△	×	○		
	9	暗褐色土層10YR	7＜9	○	○	※	×	※		
	10	褐色土層10YR	10＜5	○	○	△	×	△		
	11	黄褐色土層10YR	8＜11	○	○	○	×	○		埋戻し
	12	黄褐色土層10YR	11＜12	○	○	○	※	◎		埋戻し
M－１　27区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	※	×	※	※	Ⅲ層自然層
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※	×	
	3	褐色土層10YR	2＜3	○	○	△	×	※	×	
	4	黒褐色土層10YR	1＜4	○	○	※	×	※	※	
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	※	×	
	6	暗褐色土層10YR	5＜6	○	○	※	×	△	×	
	7	暗褐色土層10YR	7＜3	○	○	※	×	※	※	
	8	黒褐色土層10YR	8＜7	○	○	※	×	※	△	Ⅲ層自然層
	9	褐色土層10YR	7＜9	○	○	△	×	○	×	
	10	褐色土層10YR	7＜10	○	○	※	×	△	×	
	11	黄褐色土層10YR	9＜11	◎	○	○	※	○	×	
	12	褐色土層10YR	12＜9	○	○	△	×	△	×	

第430図　人見西向原遺跡Ｂ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（４）

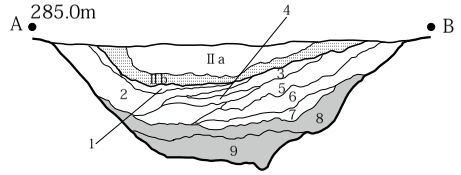
M－1　⑫



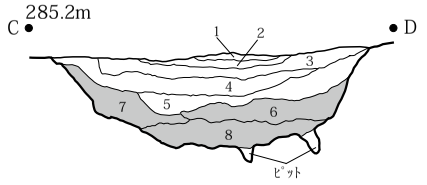
M－1　28・29区東西ｾｸｼｮﾝ土橋



M－1　28区西壁

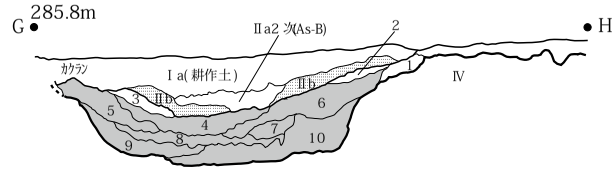


M－1　28・29区南北ｾｸｼｮﾝ



ⅡB(As-B)
ローム混合土

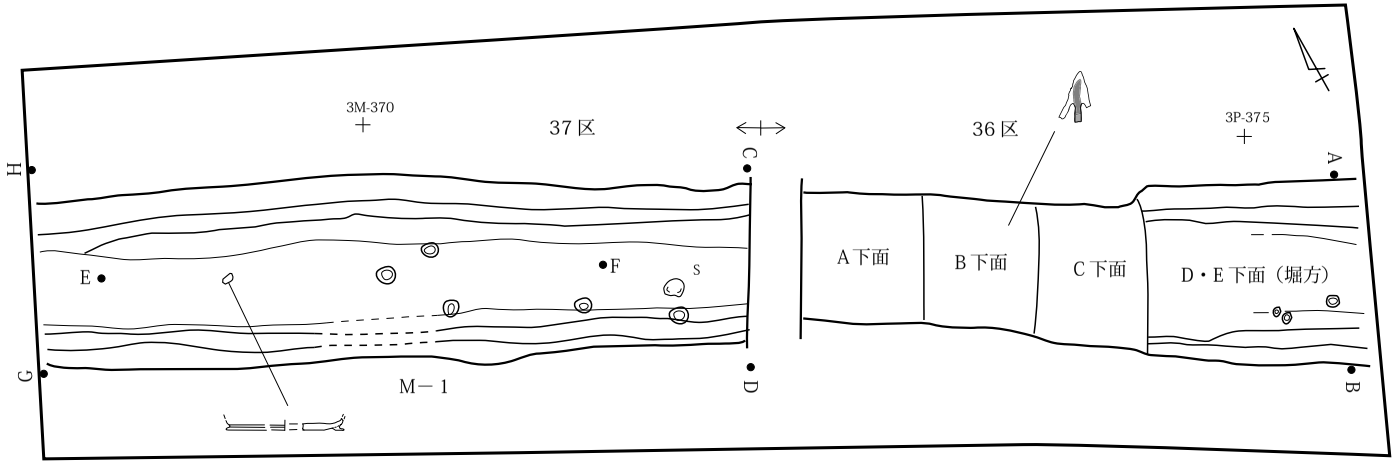
M－1　30区西壁



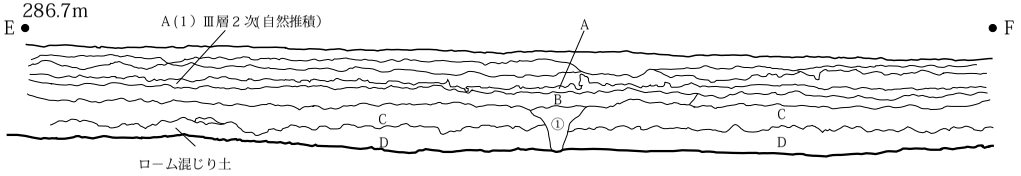
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－1　28区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		
	2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	1＜3	○	○	※	×	※		
	4	黒褐色土層10YR	4＜3	○	○	×	×	※		
	5	暗褐色土層10YR	4＜5	○	○	※	×	△		
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	×	△		
	7	暗褐色土層10YR	7＜6	○	○	※	×	※		
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	※	△		
	9	黄褐色土層10YR	8＜9	◎	◎	○	※	○		上面硬化
M－1　28区　ﾋﾟｯﾄ	10	黄褐色土層10YR	10＜9	○	◎	○	×	※		
M－1　28.29区土橋	1	黒褐色土層10YR		◎	○	×	×	×		硬化
	2	黒褐色土層10YR	2＜1	◎	○	×	×	×		硬化
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	◎	○	×	×	※		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※		
	5	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	※	×	※	※	
	6	褐色土層10YR	5＜6	○	○	△	※	△		
	7	褐色土層10YR	4＜7	○	○	△	※	△		
	8	黄褐色土層10YR	7＜8	○	◎	○	△	○		一部硬化
M－1　28.29区土橋2	①	暗茶褐色土層10YR	4＜①	◎	○	※	×	※		硬化
	②	暗褐色土層10YR	②＜①	◎	○	×	×	※		硬化
M－1　30区西壁	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	×		
	3	褐色土層10YR	3＜2	○	○	△	×	△		
	4	黒褐色土層10YR	4＜3	○	○	※	×	※		
	5	褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	×	※		
	6	褐色土層10YR	2＜6	○	○	△	×	△		
	7	褐色土層10YR	7＜6	○	○	△	×	※		
	8	暗褐色土層10YR	4＜8	○	○	※	×	※	△	
	9	褐色土層10YR	8＜9	○	○	△	※	△		
	10	黄褐色土層10YR	9＜10	○	◎	◎	※	◎		

第431図　人見西向原遺跡Ｂ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（５）

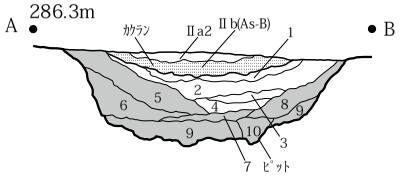
M－1　⑬



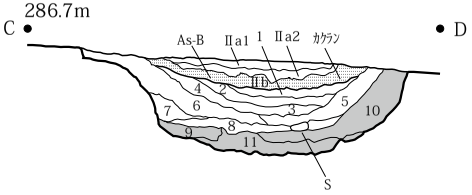
M－1　37区南壁



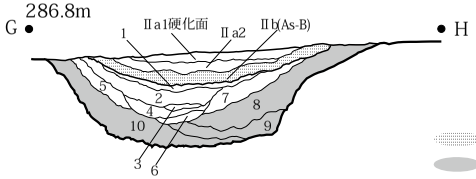
M－1　36.37区東壁



M－1　36.37区境界東壁



M－1　37区西壁



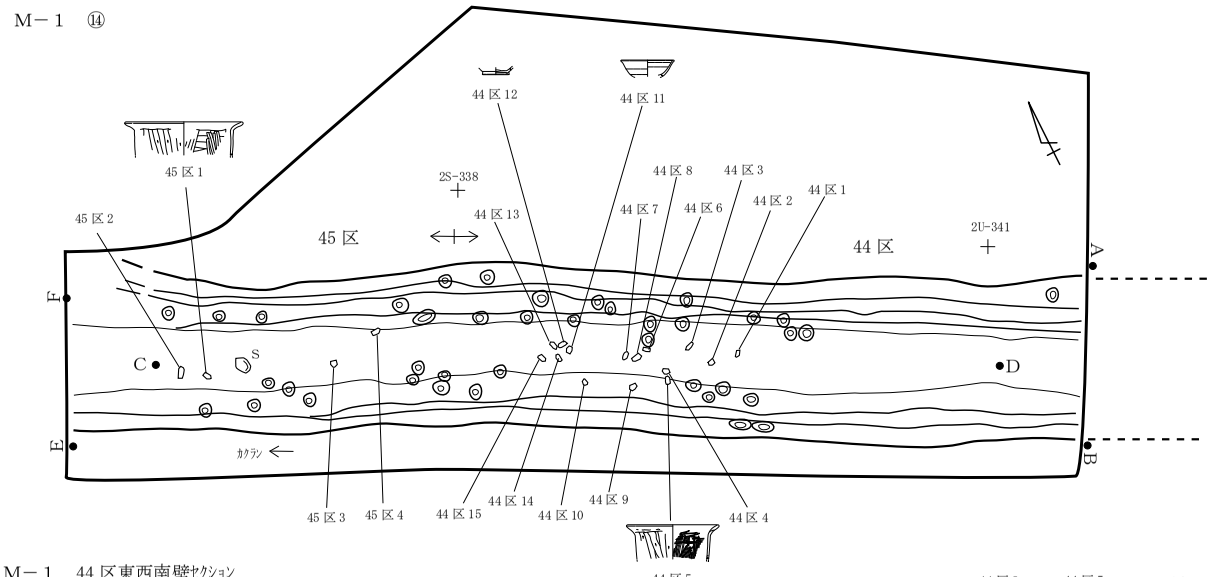
Ⅱb(As-B)
ローム混入土

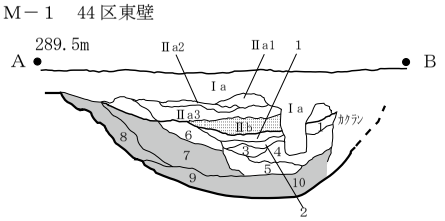
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－1　36・37区東壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		
	2	褐色土層10YR	1＜2	○	○	△	×	△	※	埋戻し
	3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	※		
	4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	※		
	5	褐色土層10YR	2＜5	○	○	△	×	○		
	6	黄褐色土層10YR	5＜6	○	◎	○	×	△		
	7	暗褐色土層10YR	4＜7	○	○	※	×	※		
	8	褐色土層10YR	2＜8	○	○	△	×	△		
	9	黄褐色土層10YR	9＜6	○	◎	◎	※	○		埋戻し
	10	黄褐色土層10YR	10＜9	○	◎	○	※	○		ピット埋戻し
M－1　36.37区境界東壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	※		
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		
	4	暗褐色土層10YR	2＜4	○	○	※	×	※		
	5	暗褐色土層10YR	3＜5	○	○	※	×	△		
	6	褐色土層10YR	4＜6	○	○	△	×	△		
	7	褐色土層10YR	7＜6	○	○	△	×	※		
	8	暗褐色土層10YR	8＜6	○	○	△	×	※	△	
	9	褐色土層10YR	8＜9	○	○	△	×	△	※	
	10	褐色土層10YR	5＜10	○	○	△	×	△	※	
	11	黄褐色土層10YR	10＜11	○	◎	○	△	○		埋土
M－1　37区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	○	○	×	×	※		
	3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		
	4	黒褐色土層10YR	4＜3	○	○	×	×	※		
	5	暗褐色土層10YR	2＜5	○	○	△	×	※	※	
	6	黒褐色土層10YR	6＜4	○	○	×	×	※	※	有機物による黒色化
	7	褐色土層10YR	2＜6	○	○	△	×	△		埋戻し的
	8	褐色土層10YR	7＜8	○	○	△	×	△		埋戻し的
	9	褐色土層10YR	8＜9	○	○	△	×	△		埋戻し的
	10	黄褐色土層10YR	9＜10	○	○	○	※	△		粘土層
M－1　37区南壁ﾀﾃ北面	A	黒褐色土層10YR		○	○			※		Ⅲ層２次
	B	暗褐色土層10YR		○	○	※		※		
	C	褐色土層10YR		○	○	△	×	※	※	
	D	黄褐色土層10YR		○	○	○	△	△	※	
	①	暗褐色土層10YR		○	○	△	×	※	※	ﾋﾟｯﾄ(C面からの掘込み)

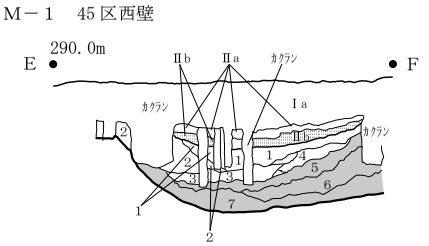
0　平面図　10m

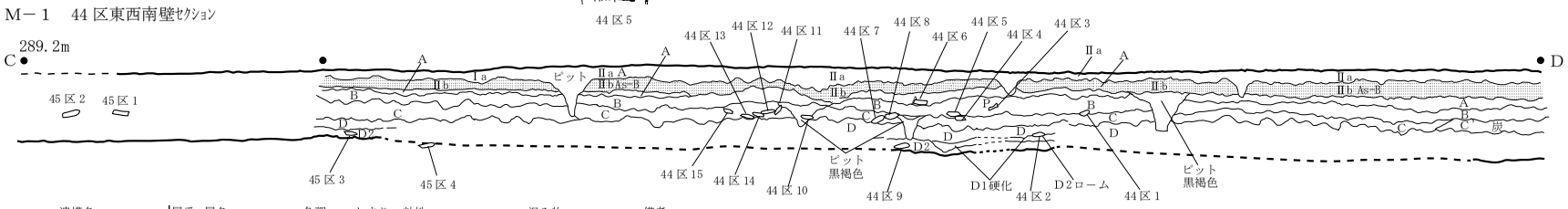
0　断面図　4 m

第432図　人見西向原遺跡Ｂ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（６）









遺構名		層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	混入物 炭	備考
M－1	44区南壁	A	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		As-B下の覆
		B	暗褐色土層10YR	A＜B	○	○	※	×	※		遺物包含層
		C	褐色土層10YR	B＜C	○	△	×	×	※		遺物包含層
		D	黄褐色土層10YR	C＜D	◎	◎	◎	※	○		埋土
M－1	44区東壁	1	暗褐色土層10YR		○	○	※	×	※		
		2	黒褐色土層10YR	2＜1	○	○	×	×	※	△	
		3	暗褐色土層10YR	2＜3	○	○	※	×	※		
		4	褐色土層10YR	3＜4	○	○	△	×	△		
		5	暗褐色土層10YR	5＜4	○	○	※	×	※		
		6	褐色土層10YR	1＜6	○	○	△	×	△		
		7	黄褐色土層10YR	6＜7	○	○	△	×	○		
		8	黄褐色土層10YR	8＜7	○	○	△	×	※		
		9	黄褐色土層10YR	7＜9	○	◎	○	※	○		
		10	黄褐色土層10YR	4＜10	○	◎	◎	※	○		
M－1	45区西壁	1	黒褐色土層10YR		○	○	×	×	※		
		2	暗褐色土層10YR	1＜2	○	○	※	×	△		
		3	暗褐色土層10YR	3＜2	○	○	※	×	×		
		4	暗褐色土層10YR	3＜4	○	○	※	×	×		
		5	褐色土層10YR	3＜5	○	○	△	×	※	※	
		6	黄褐色土層10YR	5＜6	◎	◎	○	※	△	※	
		7	黄褐色土層10YR	6＜7	◎	◎	◎	※	○		

44区出土土器

11、13a ～ 15：須恵器杯、12：須恵器椀

1 ～ 10、13b、14b：土師器甕（同一個体）

44区覆土一括：須恵器甕・羽釜各１点、土師器甕９点

45区出土土器

1 ～ 3：土師器甕（同一個体）

ⅡＢ(As-B)

ローム混入土

0　平面図　10m

0　断面図　4ｍ

第433図　人見西向原遺跡Ｂ区（古代）Ｍ－１号溝実測図（７）

第５表　人見東原Ⅱ遺跡　縄文時代住居観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	主柱穴	炉址		形態	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造			
Ｊ－１	楕円形	4.7	4.1	0.51	部分	N-12°-W	４～６	中央	埋設土器	Ａ１	加曽利EⅢ	覆土中で石皿が直立し、下から磨石が出土。床面貼床状の硬化面。拡張4回。
Ｊ－２	円形？	(6.2)	(6.2)	0	×	N-15°-W	外周	中央	石囲(石棒)	Ｄ１	加曽利EⅢ	埋設土器２（正位）。Ｄ－35は炉の堀方。
Ｊ－３	楕円形	6.5	5.1	0.08	×	N-18°-W	不明	×	×	Ｂ２	中期後半	竪穴状遺構。
Ｊ－４	円形	5.3	5.1	0.15	×	N-10°-E	不規則	北寄り	地床炉(礫抜取)	Ｂ２	加曽利EⅢ	床面に埋設土器２と覆土中に埋設土器２。
Ｊ－５	円形	4.8	4.8	0.24	×	N-8°-W	4	中央	埋設土器	Ａ２	加曽利EⅢ	埋設土器２。Ｕ－２内から石製品出土。
Ｊ－６	楕円形	(5.0)	(4.0)	0.08	×	不明	不明	東寄り	埋設土器	Ｅ	加曽利EⅢ	土坑が重複（土坑群の一部の可能性）。埋設土器２。竪穴状。
Ｊ－７	円形	(5.4)	(5.4)	0.21	×	N-62°-W	3か	西寄り	石囲(抜取)+炉堀方に土器	Ａ２	加曽利EⅢ	Ｕ－１上面から黒曜石原石出土。3本柱か。北側に多孔石と石皿。
Ｊ－８	隅丸方形	5.6	6.8(5.6)	0.4	ほぼ全周。北東で切れる	N-12°-E	4	中央	地床炉+枕石	Ａ１	加曽利EⅢ	北東側に張出部(3.0×1.4)。南側周溝内に埋設土器。壁際に礫分布。黒曜石製石鏃遺物廃棄。
Ｊ－９	円形	5.5	5.2	0.6	全周	N-16°-E N-14°-W	4(2回)	中央	地床炉+枕石(石皿)	南	加曽利EⅢ	覆土中に逆位の埋設土器（逆位）と集石。１回拡張。

第６表　人見枝谷津遺跡　縄文時代住居観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	主柱穴	炉址		形態	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造			
Ｊ－１	円形	4.0	3.7	0.2	×	N-7°-W	4	無し		Ｂ２	加曽利EⅢ	
Ｊ－２	円形	5.0	4.7	0.15	×	N-10°-W	4	中央	石囲+埋設土器	Ｂ１	加曽利EⅢ	
Ｊ－３	楕円形	3.8	3.5	0.1	一部	N-20°-E	4	中央	地床+扁平大礫	Ａ１	加曽利EⅢ	炉内に礫・土器廃棄。
Ｊ－４	円形	3.3	3.1	0.6	×	N-10°-E	4	中央北	集石土坑状	Ａ２	加曽利EⅢ	炉内の礫は被熱あり。小形住居。
Ｊ－５	円形	6.0	5.7	0.1	一部	N-97°-W	5	中央	石囲(部分)	Ｂ１	加曽利EⅢ	床面に礫分布。
Ｊ－６	楕円形	5.5	4.9	0.6	×	N-4°-E	4	中央	地床(礫抜取)	Ａ２	加曽利EⅢ	
Ｊ－７	楕円形	3.8	3.2	0.15	×	N-52°-E	不明	不明		Ｃ２	加曽利EⅢ	中央に敷石と埋設土器、外側に浅いピット分布(柱穴か)。
Ｊ－８	隅丸方形	5.7	5.6	0.5	全周	N-126°-W	4	中央	石囲(大礫)＋土器廃棄	Ａ１	加曽利EⅢ	床面と壁溝に埋設土器。14区の覆土中から土器出土。
Ｊ－９	楕円形	5.6	4.8	0.3	×	N-22°-W	4か	不明		Ｂ２	加曽利EⅢ	床中央に粘土、竪穴状遺構か。
Ｊ－10	円形	5.4	5.3	0.2	×	N-0°-W	不明	不明		Ｂ２	加曽利EⅢ	土坑群重複。竪穴状遺構か。
Ｊ－11	不明	5.6	5.6	×	×	不明	○	不明		Ｃ２	加曽利EⅢ	部分敷石で柱穴不規則。埋設土器２(U-5内下部から礫出土)。
Ｊ－12	円形	4.9	4.8	0.3	×	N-128°-W	4	中央西	地床	Ａ２	加曽利EⅢ	大礫6点が床面に分布。
Ｊ－13	楕円形	5.7	4.3	0.3	全周	N-4°-E	4	中央	石囲+礫床(小礫)	Ａ１	加曽利EⅢ	14区の住居覆土内で礫に覆われた埋設土器出土。床面に礫分布。
Ｊ－14	円形	4.8	4.6	0.2	×	N-9°-E	5	中央	埋設土器	Ｂ１	加曽利EⅢ	床面に礫分布。

第７表　人見東向原遺跡　縄文時代住居観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	主柱穴	炉址		形態	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造			
Ｊ－１	楕円形	7.4	6.4	0.5	×	N-5°-E	5	中央	地床	Ａ２	加曽利EⅢ	床面に埋設土器２(逆位)。入口は北か。Ｈ－26号住と重複。
Ｊ－２	楕円形	6.2	(5.2)	0.2	×	N-11°-W	不明	不明		Ｃ２	加曽利EⅢ	床面で３か所、壁面で１か所の埋設土器。U-3上面で磨斧関連遺物(磨斧、石核、砥石)、礫出土。

第８表　人見向原遺跡　縄文時代住居観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	主柱穴	炉址		形態	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造			
Ｊ－１	隅丸方形	4.2	4.0	0.4	全周	真北	4	中央北	地床	Ａ１	諸磯b	単独で分布。床面に大形石皿と大形礫。

第９表　人見東中原遺跡　縄文時代住居観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	主柱穴	炉址		形態	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造			
Ｊ－１	柄鏡形	4.0/(1.8)	3.8/1.4	0.2	×	N-28°-W	壁際	中央	土坑状(D-38)・地床	Ｃ１	加曽利EⅢ	主体部に敷石。壁際に小礫・柱穴分布。奥壁ピット(P-1)内で壺形土器出土。

J－2	柄鏡形	3.8/(2.4)	3.8/2.4	堀方0.1	×	N-23°W	壁際	中央	石囲(炉内に器台廃棄)	C 1	加曽利EⅢ	壁際に炉周辺に敷石。主体部に埋設土器2基(逆位)。U-2は敷石で蓋、U-1は床から一部突出する。柄部分と連結部分は掘り込み浅くピットのみ検出。
J－3	柄鏡形	4.1/(2.2)	4.1/1.5	堀方0.1	×	N-27°-W	壁際	中央	石囲+土器	C 1	加曽利EⅢ	炉周辺に敷石。主体部と柄部の軸線上に連結部のピットと埋設土器(U-1)。柄部端（入口）に部分敷石、下部に埋設土器(U-2)。炉脇に凸状石皿と石棒。敷石部にはC類石器と磨製石斧関連遺物(敲石主体)出土。
J－4	柄鏡形(小張出)	(6.2)	5.4	0		N-42°-W	不規則	中央北	石囲	C 2	加曽利EⅢ	小さな張出をもつタイプで敷石無し。主軸方向に炉、埋設土器2基(D-3内の浅鉢)が並ぶ。炉周辺に遺物分布。ピットが不規則(主柱穴不明)。
J－5	楕円形	4.2	4.1	0.5		－	3か	中央	地床+礫	A 1	加曽利EⅢ	D-1内の埋設土器は破砕。3本柱穴構造。
J－6	円形	5.0	5.0	0.4		－	5	無し		A 2	加曽利EⅢ	竪穴状。
J－7	楕円形	5.6	5.1	0.2		－	4	中央	地床	B 1	加曽利EⅢ	床面に石皿類。
J－8	柄鏡形	3.8/2.1	3.8/1.2	0.1		N-24°-W	4	中央	石囲	C 1	加曽利EIV	主体部方形。礫際に小ピットとピット間を連結する浅い溝。軸線上に埋設土器2基(正位)。炉周辺と柄端部に部分敷石。連結ピットあり。
J－9	円形	(9.0)	(9.0)	0		－	多数	不明		B 2	加曽利EⅢ	プラン不明。平地式。
J－10	楕円形	5.1	4.2	0.2		南北	5	中央か		B 1	加曽利EⅢ	ピット不規則。中央の土坑が炉か。
J－11	円形	4.6	4.6	0.5		N-4°-W	5	中央	石囲+埋設土器	D 1	加曽利EⅢ	平面円形で床は五角形(柱間に敷石)。柱穴は床面５本、外側に4本。南側に入口施設(ピット溝、埋設土器1基)。
J－12	正方形	5.0	5.0	0.5		N-16°-E	4+2	中央	地床	A 1	前期前葉	壁際に小ピット(補助柱)。床中央に2本の補助柱。
J－13	楕円形	6.1	5.7	0.4		N-93°-W	6	中央	地床+土器片	A 1	諸磯c	

第10表　人見西中原遺跡　縄文時代住居観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	主柱穴	炉址		形態	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造			
J－1	円形	(4.6)	(4.6)	0		－	不規則	不明		B 2	加曽利EⅢ	多数のピット。プラン不明。
J－2	円形	(5.5)	(5.5)	0		－	不規則	中央	地床+礫	B 2	加曽利EⅢ	多数のピット。遺物なし。
J－3	楕円形	(4.7)	(4.2)	0		－	壁際	中央	石囲+埋設土器	B 1	加曽利EⅢ	柱穴が円形配置。
J－4	柄鏡形	4.6/2.2	4.9/2.2	0		N-31°-W	壁際	中央	石囲	C 2	加曽利EⅢ	敷石無し。軸線上に埋設土器1基。
J－5	円形	5.3	5.1	0.2		N-80°-W	6	中央	地床	B 1	加曽利EⅢ	D－5と重複。
J－6	楕円形	3.9	3.6	0.4		－	壁際	南	地床	D 1	加曽利EⅢ	柱穴が円形配置。覆土内に埋設土器(U-1)。壁際に粘土貼り小礫埋め込み(敷石)。
J－7	円形	(5.8)	(5.7)	0		N-7°-W	不規則	不明		B 2	加曽利EⅢ	3か所に埋設土器(土坑)。

第11表　人見西中原遺跡　弥生時代住居観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	主柱穴	炉址		形態	時期	所見
		長軸	短軸	深さ				位置	構造			
Y－1	長方形	4.0	3.4	0.7	×	N-19°-W	×	中央北	枕石+地床炉	A 2	後期後半	壁際にピット。西ピットから石器出土。焼失。炉周辺に赤色顔料分布。

第12表　人見枝谷津遺跡　古墳時代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－1	大形正方形	7.6	6.5	0.7	全周	N-6°-E	南東隅	4	土師◎滑石※石器※	A2	中央北	A	Ⅱ	焼失(炭化材)、5区床直に太型蛤刃石斧(弥生中期)の転用敲石出土。
H－2	小形長方形	3.9	3.2	0.3	×	N-11°-E	南西隅	不規則	土師○	C	中央	B1	I	M-1号溝(道路側溝)と重複。東海系(S字口縁)台付甕。
H－3	中形正方形	4.7	4.5	0.8	×	N-6°-W	竈右脇	無し	土師△滑石※	A1	北東寄竈	A	後期後半	竈と南側に遺物集中。覆土上部に浅間Ｂ軽石堆積（窪地）。

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－4	大形正方形	6.0	6.6	0.3	北側	N-8°-W	南東隅	4	土師◎滑石△編物※石器※	B2	中央北	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。
H－5	中形正方形	5.8	4.4	0.7		N-2°-W	南東隅	4	土師◎滑石△編物※石器※	C	中央北	B1	Ⅱ	D-1内に台石投棄。
H－6	正方形	4.2	4.1	0.6		N-4°-W	竈右脇1	無し	土師※編物※石器※鉄器※	B1	東中央竈	E	Ⅳ	竈右脇はテラス状、大形礫3点分布。鉄鎌。
H－7	中形正方形	5.4	5.3	0.9		N-63°-W	北東隅	4	土師○石器※鉄器※	A1	中央東	A	Ⅰ	11区台石出土。東海系(S字口縁)台付甕、鉄製品出土。
H－8	中形正方形	4.9	4.9	0.4		N-4°-E	南東隅	4	土師○編物※	B1	不明	－	中期前半	焼失(炭化材)。鉄滓出土。
H－9	中形台形	6.0	5.8	0.4		N-24°-E	南東隅	4	土師◎土製※滑石※石器※	B2	中央東	B1	Ⅱ	焼失(炭化材分析クヌギ4点、コナラ1点)。
H－10	中形正方形	5.4	5.1	0.5		N-17°-W	南東隅	4	土師△土製※滑石※石器※鉄器※	A1	中央北	B2	Ⅲ	土製紡錘車、鉄斧出土。
H－11	大形正方形	6.2	(5.6)	0.7		N-27°-E	南東隅	4	土師○石器※鉄器※	A2	不明	－	Ⅲ	北半分未調査。焼失(炭化材)。台石、鉄滓出土。
H－12	中形正方形	5.8	5.7	0.5		N-18°-E	南東隅	4	土師○滑石※石器※	A2	不明	－	Ⅲ	焼失(炭化材)。台石出土。
H－13	中形正方形	5.8	5.8	0.5		真北	南東隅	4	土師◎石器※	A2	中央北	A	Ⅱ	焼失(炭化材)。
H－14	中形正方形	5.8	5.4	0.7		N-4°-W	南東隅	4	土師○滑石※石器※鉄器※	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失、16区床面被熱による赤化。床面2か所に台石。鉄片出土。
H－15	大形	6.5	4.6	0.5		N-8°-E	×	無し	土師△	C	中央 (浅)	B2	中期	張出をもつ。中央に焼土(炉か)。
H－16	大形長方形	6.3	6.0	0.3		真北	南東隅	無し	土師○滑石△石器※	C	中央2か所	B2	Ⅱ	北側に張出をもつ。2カ所の焼土(炉か)。
H－17	中形不整方形	4.8	4.4	0.4		N-37°-E	無し	無し	土師○滑石※編物※	C	中央	B2	中期前半	中央に焼土(炉か)。
H－18	中形正方形	4.3	3.8	0.2		N-5°-E	東側2	無し	土師△	C	中央	B2	前期	中央に焼土(炉か)。
H－19	中形正方形	4.7	4.7	0.9		N-15°-W	竈右脇	4	土師△編物◎石器※	A1	北中央東寄竈	A	中期後半	南東隅の床面に編物石集中。
H－20	中形正方形	5.5	5.4	0.6		真北	南東隅	4	土師◎滑石※編物△	A2	中央北	A	Ⅲ	炉東側に補助柱。
H－21	大形正方形	6.1	6.2	1.0		N-15°-E	南東隅	4	土師◎須恵※滑石※石器※	A2	中央北	A	Ⅱ	焼失(炭化材分析クヌギ4点、コナラ3点)。台石出土。
H－22	小形正方形	3.0	3.0	0.1		N-42°-E	不明	4+2	土師※石器※	A2	不明	－	中期	壁際に柱穴4本、その中間に補助柱2本。床面の焼土が炉の可能性。
H－23	小形長方形	3.1	2.5	0.1		N-32°-E	不明	不明	土師△石器※	A2	中央南	B2	中期	柱穴は不規則。
H－24	大形正方形	6.4	6.2	0.7		N-46°-W	南角	4	土師◎石器※	A2	中央南西	A	Ⅰ	床面付近は崩落土（屋根材及び土盛りの可能性)。壁際に編物石群。
H－25	中形正方形	5.6	5.5	0.4		真北	南東隅1・北東隅1	4	土師◎編物◎石器※	A1	中央北	A	Ⅱ	東側に補助柱3本。北東隅に編物石群。
H－26	中形正方形	5.3	5.2	0.3		N-17°-E	南東隅	4	土師△編物△石器※	B1	中央	B1	Ⅲ	南側柱穴付近にピット集中。
H－27	大形長方形	6.8	5.8	0.2		N-4°-E	南東隅	不明	土師◎土製※滑石※石器※	C	中央	B2	中期前半	柱穴は不規則。焼土3カ所(炉か)。粘土塊出土。
H－28	小形長方形	3.9	3.4	0.3		N-74°-W	無し	2	土師○石器※	C	中央西	B1	前期	周溝あり。
H－29	小形長方形	3.8	2.9	0.2		N-33°-W	南西隅	2	土師※	C	不明	－	前期	柱穴から土器出土。
H－30	中形台形	4.6	4.2	0.2		N-45°-W	南東	4	土師○	C	中央西	B1	中期前半	炉内から焼土塊出土。プランやや不整形。
H－31	中形長方形	5.5	4.7	0.4		真北	南東隅	4	土師◎石器※	A2	中央北	A	Ⅱ	覆土下部は崩落土(屋根材及び土盛り)の可能性。2層覆土中及びD-1内に白色粘土塊検出(土器材か)。
H－35	大形長方形	6.3+1.1	5.9	0.6		真北	無し	無し	土師○滑石※	C	不明	－	中期前半	北側に張出をもつ。竪穴状遺構。
H－36	小形正方形	3.6	3.3	0.3		真北	南東隅か	無し	土師△滑石※石器※	C	中央	A	中期	柱穴無し。
H－37	大形正方形	6.5+0.7	6.7	0.8		N-2°-W	南東隅	4	土師◎滑石※石器※	A2	中央北	B1	Ⅲ	H-38と重複。北側に張出をもつ。焼失(炭化材分析クヌギ3点)。2区に白色粘土塊。
H－39	中形長方形	5.7	4.4	0.4		真北	南東隅	4	土師○石器※鉄片※ガラス※	C	中央北	B1	Ⅲ	床面に台石。流動滓、ガラス小玉出土。

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－40	中形正方形	4.4	4.1	1.2		N-2°-W	不明	不明	土師◎編物△ 鉄器※	B2	中央北	A	Ⅲ	焼失(炭化材分析クヌギ7点)。覆土は屋根崩落土の可能性。貼床。柱穴無し。鉄鎌出土。
H－41	小形長方形	3.8	3.3	0.6		真北	南東隅	無し	土師△石器※	B2	中央東	A	Ⅰ	焼失か(屋根崩落土の可能性)。柱穴無し。D-1内から高坏、台石出土。
H－42	中形正方形	5.4	5.2	0.6		N-15°-E	南東隅	4	土師△滑石※ 石器※鉄器※	B1	中央北	B1	Ⅲ	屋根崩落土(粘土ローム)の堆積。主軸奥壁(北)にピットと周溝。土坑周辺に小ピットと台石。鉄鏃出土。
H－43	大形長方形 （横長）	6.4	3.6	0.7		N-6°-W	南西隅	無し	土師○滑石※ 石器※	A1	中央東	B2	Ⅲ	屋根崩落土(粘土ローム)の堆積。貼床。床面に台石埋め込み。
H－44	中形正方形	3.8+ 1.1	3.8+ 0.9	0.4		N-35°-W	東角	4	土師△滑石※ 石器※	C	中央北	B1	Ⅲ	南西方向に拡張1回。壁際周溝(全周)と柱穴に連結する間仕切り溝4カ所。炉は2か所で貯蔵穴は兼用。
H－45	中形正方形	4.5	4.1	0.4		N-11°-E	無し	4?	土師※石器※	C	中央東	B2	Ⅰ	焼失(炭化材)か。
H－46	中形正方形	5.3	5.0	0.4		N-15°-E	無し	壁際	土師○滑石※	C	中央北	B1	Ⅲ	壁際に浅いピットが不規則に並ぶ。床中央に焼土。篭状甕出土。
H－48	中形長方形	4.6	3.8	0.5		N-84°-W	南東隅	無し	土師※石器※	B1	中央西	A	中期	覆土は埋め戻し。貼床。柱穴無し。炉周辺に台石。貯蔵穴は逆側に設置。
H－49	小形長方形	3.9	2.8	0.2		真北	南東隅	無し	土師※石器※	C	不明	－	中期	貼床。
H－50	中形長方形	4.5	3.6	0.4	1/2	N-50°-W	東角	無し	土師◎石器※	B2	中央東	A	Ⅲ	覆土は屋根崩落土(粘土ローム・炭化物)の可能性。壁際1/2に周溝。柱穴無し。
H－51	中形長方形	5.1	4.4	0.1		N-20°-E	ピット1	無し	土師○土製※ 石器※	C	不明	－	Ⅲ	床中央のピットが炉か？。
H－52	小形正方形	3.1	2.8	0.4		N-40°-E	無し	無し	土師○石器※	B2	中央南	B2	前期	覆土は屋根崩落土か。
H－53	中形長方形	5.2	3.8	0.3		N-29°-W	無し	2	土師○滑石※ 石器※	B2	中央西	B2	前期	焼失(覆土内に炭化材)。南側2カ所と南1か所のピットが柱穴か。炉は床面被熱の可能性。
H－54	中形正方形	5.6	5.2	0.9		真北	南東隅	4	土師◎滑石※ 編物△	A2	中央北	B2	Ⅲ	焼失(炭化材分析ｺﾅﾗ4点、クヌギ3点。炭化材3は柱材)。柱穴に炭化した柱材検出。
H－55	大形正方形	6.1	5.8	1.1		N-63°-W	南東隅	4	土師◎編物△	A2	中央西	A	Ⅰ	4区に炭化材片。屋根崩落土(粘土ローム)の可能性。貼床。北壁面に小ピット。1･5区床面に編物石群。
H－56	中形長方形	4.4	4.1	0.4		N-15°-W	南西隅	4+2	土師◎滑石※ 石器※	C	中央北	B1	Ⅲ	東側に補助柱2本。3区床面に白色粘土塊。
H－57	中形正方形	5.0	4.8	0.2		N-21°-E	北東隅	無し	土師○滑石※	C	中央南	B1	Ⅲ	柱穴無し。
H－58	中形長方形	5.1	4.3	0.3		N-10°-W	南東隅	4	土師◎滑石※ 石器※ガラス※	C	中央	B1	Ⅱ	D-1内に台石。ガラス小玉出土。
H－59	大形正方形	6.1	5.9	0.3		N-1°-E	南東隅	4	土師◎石器※	C	中央北	B2	Ⅲ	北側奥壁に土坑(ピット)。南に礫集中。
H－60	大形長方形	6.8	5.7	0.1		N-8°-E	無し	4	土師※	C	無し	－	Ⅲ	掘り込みの浅い平地式。
H－61	小形長方形	3.5	2.9	0.3		N-18°-E	無し	4	土師△石器※	C	無し	－	中期 前半	
H－62	大形長方形	6.3	4.3	0.5		真北	南東隅	無し	土師◎滑石△ 石器※鉄器△	C	中央東	A	Ⅲ	焼失(炭化材)か。中央北壁際にピット。鉄鏃･刀子等出土。
H－63	中形正方形	4.1	3.9	0.6		真北	南東隅	4	土師△滑石※	C	中央北	A	Ⅲ	焼失か。
H－64	大形正方形	6.6	6.4	0.6		N-6°-E	南東隅1・北西隅1・中央南1	4	土師◎滑石△ 石器※	A2	中央北	A	Ⅱ	焼失(炭化材)。２カ所の貯蔵穴と床下土坑。東側に間仕切り溝。炉周辺に小ピット。D-2内に炭化材混入。
H－65	中形正方形	4.9	4.7	0.1		N-7°-E	無し	4	土師※滑石※	C	無し	－	中期	掘り込みの浅い平地式。
H－66	中形正方形	4.2	3.8	0.1		N-35°-W	無し	2	土師△	C	無し	－	中期	床中央に小ピット2カ所(柱穴か)。掘り込みの浅い平地式。
H－67	小形長方形	3.1	2.8	0.2		N-8°-W	南東隅	4+1	土師△ガラス※	C	中央	A	Ⅲ	補助柱あり。ガラス小玉出土。
H－68	小形正方形	3.7	3.5	0.8		N-27°-E	南東隅	無し	土師△滑石※ 石器※	A2	中央北	A	中期	覆土は屋根崩落土(粘土ローム・炭化物)の可能性。北東角にピット。
H－69	中形長方形	5.8	5.4	0.8		真北	南東隅1・南西隅1・北西隅1	4	土師○編物※	A2	不明	－	Ⅱ	焼失(炭化材)。屋根崩落土(粘土ローム)の可能性。床中央にピット。貯蔵穴は２カ所(D-1・2)。

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－70	中形長方形	4.4	4.0	0.5	全周	N-6°-W	南東隅・北東隅に各1	不明	土師○滑石※石器※	A1	中央北	A	中期	壁際に周溝(全周)。D-1内土器出土。
H－72	大形正方形	8.0	7.5	0.8	2重	真北	南東隅	4	土師◎滑石※編物○石器※	A1	中央北	A	Ⅲ	本遺跡で2番目の大きさ。焼失(炭化材)。5･15区床面に白色粘土。15区床面に編物石群。周溝が2重。床面中央被熱による赤化。
H－74	小形長方形	3.4	2.9	0.3		N-13°-W	南東角	無し	土師※	C	無し	―	中期	壁際に小ピット。
H－75	大形正方形	8.2+1.2	7.8	0.8		真北	南東隅	4	土師◎滑石※編物△石器※	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失か(屋根崩落土または盛土の可能性)。本遺跡で最大規模。住居東側に張出(長さ4.8m)をもつ。16区床面に編物石群。2区床面に白色粘土塊。
H－76	中形長方形	5.7	4.7	0.2		N-14°-W	無し	不明	土師△滑石※石器※	C	無し	―	中期	柱穴は不規則配置。浅い掘り込みの平地式。15区床面に台石。
H－77	中形長方形	5.2	4.6	0.9		N-66°-W	南東隅・北東隅に各1	無し	土師○滑石※編物※石器※鉄器※	A2	中央西	A	Ⅰ	焼失(炭化材)。周溝全周。貯蔵穴2カ所(D-1･2)。鉄製U字鋤先出土。
H－78	中形正方形	(5.6)	(5.4)	0.6	3/4	N-1°-W	南東隅	4	土師○滑石※	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失か。周溝3/4。
H－80	中形長方形	4.8	4.2	0.2		N-21°-E	無し	4	土師△	C	中央南	B2	中期	平地式。
H－83	小形正方形	3.4	3.2	0.4		N-44°-W	無し	無し	土師○	C	無し	―	Ⅰ	床面ピットは性格不明。
H－84	小形正方形	3.7	3.7	0.1		N-2°-E	無し	不明	土師△	C	無し	―	Ⅰ	床面に小ピット。２カ所の土坑(性格不明)。
H－85	中形長方形	5.5	4.8	0.2		N-12°-E	無し	不規則	土師※石器※	C	無し	―	中期	床面に多数のピット(柱穴か)。平地式。
H－86	中形長方形	4.7	3.6	0.2		N-4°-W	無し	不規則	土師※石器※	C	無し	―	中期	床面に多数のピット(柱穴か)。平地式。
H－87	小形長方形	2.9	2.4	0.3		N-10°-E	無し	不規則		C	無し	―	中期	竪穴状。
H－88	小形楕円形	3.1	2.7	0.3		不明	無し	無し	土師△	C	無し	―	中期	竪穴状。
H－89	中形長方形	4.2	3.8	0.2		N-37°-W	北東隅	無し	土師※石器※	C	無し	―	Ⅰ	床面中央の2カ所のピットは柱穴か。
H－90	大形長方形	6.2	5.6	0.2		真北	無し	無し	土師△滑石※	C	無し	―	中期	床面に浅い土坑。平地式。
H－91	小形長方形	3.6	3.0	0.3		N-10°-E	無し	4+2	土師※	A2	無し	―	Ⅰ	焼失(多量の炭化材)。壁際に柱穴。
H－92	小形正方形	4.0	3.9	0.2		N-8°-E	無し	不規則	土師※	C	無し	―	Ⅰ	床面に多数のピット(柱穴か)。平地式。
H－93	小形正方形	3.6	3.4	0.6		N-30°-W	南東隅	無し	土師◎	B1	中央北	A	Ⅰ	D-1はP-1と溝で連結。
H－94	大形長方形	6.9	6.3	0.8	全周	N-18°-E	南東隅	4	土師◎土製※滑石※編物※石器※鉄※	A2	中央北	B1	Ⅲ	南側に間仕切り溝と小ピット(入口施設)。周溝全周。粘土塊出土。
H－95	中形長方形	4.3	3.2	0.8	全周	N-23°-E	南東隅	無し	土師○石器※	A2	中央北	B2	Ⅱ	焼失(炭化材)。周溝全周。一部貼床。M-4号溝と重複(古)。
H－96	中形長方形	5.0	4.5	0.1		N-17°-E	南東隅	4?	土師△滑石※石器※	A2	中央東	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。掘り込みの浅い平地式。
H－97	中形長方形	5.4	4.9	0.6		N-4°-E	南東隅	4	土師◎石器※	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。覆土は屋根崩落土または土盛りの可能性。
H－98	大形正方形	7.8	7.6	0.4		真北	南東隅	4	土師△須恵※滑石※石器※	C	中央北	B2	中期	M-5(道路側溝)と重複。
H－99	小形正方形	3.8	3.8	0.3		真北	北側２	無し	土師△石器※	C	無し	―	中期	床面に多数の浅いピット。竪穴状。
H－100	中形正方形	5.8	5.6	0.8		N-14°-E	南東隅	4	土師○滑石○石器※	A1	中央北	A	Ⅲ	5区床面に滑石集中。南側に2カ所の小ピット(入口施設)。
H－101	大形長方形	6.0	6.5	0.4		N-14°-W	南東隅	4	土師○滑石※編物※石器※	B2	中央北	A	Ⅱ	焼失(炭化材)。南側に小ピット(入口施設)。道路側溝と重複。
H－102	小形正方形	4.0	3.9	0.5		N-22°-E	南東隅・北東隅に各1	4	土師△滑石△石器※	A1	中央北	B2	Ⅲ	D-2付近と14区床面に粘土。覆土は埋め戻し土（ローム土)。
H－103	中形正方形	4.6	4.5	0.6		真北	南東隅	4	土師◎滑石※石器※	B1	中央北	B2	Ⅱ	D-1周辺に粘土。小ピット(入口施設)。
H－104	中形長方形	4.6	3.8	0.6		N-14°-W	南東隅	無し	土師○滑石※	B2	中央北	B2	Ⅱ	焼失(炭化材)。埋め戻しされている。柱穴無し。

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－105	大形長方形	6.5	5.6	0.7		N-30°-W	無し	4	土師○滑石※	B1	中央北	B2	中期	炉周辺に枕石。竪穴状。
H－106	大形長方形	6.8	6.5	0.4		真北	南東隅	4	土師△滑石※	不明	中央北	B1	中期	焼失(炭化材)。
H－108	中形長方形	(5.8)	3.9	0.4		真北	南東隅	無し	土師○滑石※	A2	中央北	A	Ⅱ	焼失(多量の垂木等炭化材)。8区床面に白色粘土塊。
H－109	(方形)	(2.8)	(3.8)	0.5		N-16°-E	南東隅	無し	土師※	B2	不明	－	中期	焼失(炭化材)。現道路と撹乱で上部削平。
H－110	中形正方形	5.6	5.4	0.7		真北	南東隅	4	土師○滑石※ 石器※	A1	中央北	A	Ⅱ	H－111号住と重複(本住居が新しい)。
H－111	中形正方形	5.8	5.7	0.4		N-23°-W	南東隅	4	土師○石器※	B2	中央東	B	Ⅱ	H－110号住と重複。焼失(炭化材)。
H－112	中形長方形	4.4	3.6	0.3		N-7°-E	南東隅	無し	土師△	A2	中央北	A	Ⅰ	焼失(炭化材)。D-1周辺に粘土。
H－113	大形正方形	6.9	6.8	0.9		N-5°-E	南東隅	4	土師◎滑石◎	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。床外側に貼床(窪み)。周溝全周。9区床面に白玉集中。
H－115	中形長方形	5.9	5.3	0.1		真北	無し	無し	土師△滑石※	C	無し	－	中期	H－117号住と重複。平地式。
H－116	中形長方形	4.3	4.0	0.1		N-20°-E	無し	無し	土師※	C	無し	－	中期	平地式。
H－117	小形長方形	3.6	3.0	0.2		真北	無し	無し	土師※滑石※	C	中央	B2	中期	H－115号住と重複。平地式。

第13表　人見東向原遺跡　古墳時代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－1	中形長方形	4.3	3.6	0.2	×	N-15°-W	南東隅	2	土師△石器※	C	無し	－	Ⅲ	床中央に大形柱穴2本。
H－2	大形正方形	8.0	8.0	0.7	×	N-17°-W	北東隅・南西隅に各1	4	土師◎滑石※ 編物○石器※	A2	中央北	A	Ⅱ	本遺跡最大規模。焼失(炭化材)。1区床面に編物石群。小坩・高坏脚多数出土。
H－3	中形長方形（横長）	5.8	2.9	0.4		N-10°-E	南東隅	無し	土師◎石器※	B1	中央北	A	Ⅲ	埋め戻しされている。多数の完形土器が遺棄。
H－4	小形正方形	3.7	3.5	0.2		N-16°-E	無し	無し	土師△	C	中央	B2	中期	平地式。
H－5	中形正方形	5.4	5.3	0.6		N-10°-W	南東隅・北東隅に各1	4	土師○滑石※ 編物※鉄米	C	中央北に2カ所	B2	Ⅲ	焼失(炭化材)？　西側に柱穴と連結する間仕切り溝。南北にも間仕切り溝、南側に入口施設(ピット)。刀子出土。
H－6	中形正方形	4.7	4.6	0.4		N-13°-W	南東隅	4(拡張1)	土師○滑石※ 編物※石器※ 鉄※	C	中央北に2カ所	A1 B1	Ⅲ	焼失(炭化材)。柱穴の差し替え。U字鋤先出土。
H－8	中形正方形	5.2	4.9	0.3		N-31°-E	南東隅	4	土師△	B1	中央北	B1	中期前半	
H－9	中形正方形	5.2	5.2	0.5		N-54°-E	南東隅	4	土師△滑石※	A1	中央東	A	Ⅲ	一部貼床。4区床面に粘土。
H－11	大形長方形	7.0	6.5	0.3		N-45°-W	南東隅	4	土師◎石器※	A2	中央北	A	Ⅱ	焼失(垂木等炭化材)。北壁際と南柱穴間に補助柱。床面に小ピット。
H－12	小形正方形	3.4	3.3	－		N-35°-W	無し	無し	土師△滑石※	C	中央	B2	中期	平地式。
H－13	大形正方形	7.5	7.5	0.2		真北	北東隅	4+2	土師○滑石※ 編物△石器※ 鉄※	C	中央北	B2	Ⅲ	主柱間に2本のピット（南側柱の差し替えか）。床中央で東西方向に並ぶ2本のピット（補助柱）。2区床面に編物石群。鉄片出土。
H－14	大形正方形	8.0	7.9	0.8		N-4°-W	南東隅・北東隅に各1	4	土師◎滑石※ 編物○	A2	中央北に2カ所	B1	Ⅲ	西側に間仕切り溝3カ所。補助柱あり。南側に入口施設(ピットと溝)。1区床面に編物石群。
H－15	小形長方形	3.9	3.4	0.2		N-30°-E	無し	不規則	土師△	C	無し	－	Ⅲ	床面に多数の浅いピット(柱穴か)。
H－16	中形正方形	4.5	4.4	0.2		真北	南東隅	4	土師※編物△	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。
H－17	大形正方形	7.2	7.1	0.4		N-14°-W	北西隅	4	土師○滑石△ 石器※	B1	不明	－	Ⅲ	南西隅はテラス状で貯蔵穴あり。
H－18	中形長方形	4.9	3.9	0.2		真北	北西隅	2	土師△滑石※ 鉄※	B1	不明	－	Ⅲ	貯蔵穴の位置が他とは異なる。床面2カ所のピットが柱穴。刀子出土。
H－19	小形正方形	3.6	3.6	0.1		N-21°-E	南西隅	4	土師△	B1	不明	－	Ⅲ	柱穴は浅い。平地式。

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－20	中形正方形	4.6	4.6	0.6		真北	南東隅	4	土師△滑石※鉄※	C	中央北	A	Ⅲ	鉄鎌出土。
H－21	大形正方形	6.2	6.2	0.7		真北	南東隅	4	土師◎滑石※石器※	A2	中央北	A	Ⅱ	焼失(屋根枠炭化材分析カヤ・クヌギ)。南側に入口施設(ピットと溝)。
H－22	大形正方形	6.2	6.2	0.8		N-14°-E	南東隅・北東隅に各1	4	土師◎滑石※編物※石器※	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。屋根崩落土(粘土ローム・炭化材)または土盛りの可能性。南側に入口施設(ピット)と間仕切り溝。
H－23	大形正方形	7.7	7.4	0.8		N-26°-E	南東隅・南西隅に各1	4	土師◎滑石※編物○石器※	A2	中央北	B1	Ⅱ	焼失(垂木等炭化材)。覆土は屋根崩落土(粘土ローム・炭化材)または土盛りの可能性。東側に2カ所の間仕切り溝。南側に浅い土坑が分布。
H－24	中形長方形	4.5	3.9	0.6		N-70°-W	南東隅	無し	土師○滑石※編物△	A2	中央西	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。床面中央が硬化。
H－25	大形正方形	7.6	7.2	0.4		真北	南東隅	無し	土師◎滑石※	A2	無し	－	Ⅱ	焼失か。床面に多数の浅いピット(柱穴か)。
H－26	中形正方形	(4.1)	(4.1)	0.4		－	－	－	土師△滑石※石器※	C	不明	－	Ⅲ	プランのみ。Ｊ－１住の覆土中で確認。
H－27	中形長方形	4.8	4.4	0.6		N-5°-E	南東隅	2	土師○滑石※	A2	不明	－	Ⅱ	焼失(炭化材分析クヌギ5点、アカガシ1点)。貯蔵穴付近に粘土。小形甕内から赤色顔料。
H－28	大形長方形	7.4	6.4	0.2		N-4°-E	無し	4	土師○滑石◎	C	中央？	不明	中期	中央の土坑が炉か。平地式。1区で臼玉集中。
H－29	中形正方形	6.0	5.8	0.3		N-28°-W	南東隅	4	土師○滑石※編物※鉄※	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失か。3区床面に粘土。鉄片出土。
H－30	中形正方形	4.8	4.7	0.1		N-26°-E	南東隅	4	土師△	B2	中央南	B1	Ⅲ	焼失か。炉が南側位置にある。
H－31	大形正方形	6.1	6.2	0.6		真北	北西隅	4	土師△土製※滑石※石器※	C	不明	－	中期	貯蔵穴の位置が他とは異なる。Ｍ－2号溝と重複。土製紡錘車出土。
H－32	大形正方形	7.0	6.9	0.8	1/3	N-8°-W	南東隅・北西隅に各1	4	土師◎滑石△編物※石器※鉄△	A1	不明(Ｍ－2に壊されている)	－	Ⅲ	Ｍ－2号溝は、住居覆土(2層)から掘り込む。底面は床まで達した深さ。3区に粘土。方形・Ｕ字鋤先、鉄鎌等出土。
H－33	大形方形	7.3	<2.0>	0.4		－	不明	不明	土師△滑石※石器※	C	不明	－	Ⅱ	4区に粘土。Ｍ－1号溝と重複。
H－34	小形正方形	3.2	3.1	0.2		N-6°-E	無し	4	土師※	C	不明	－	Ⅲ	平地式。
H－35	大形長方形	7.6	6.3	0.1		N-23°-W	無し	4	土師△	B2	不明	－	前～中期	東側の壁際床面に焼土。Ｍ－9号溝と重複。

第14表　人見向原遺跡　古墳時代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－1	小形正方形	3.7	3.6	0.2		N-20°-E	無し	無し	土師※石器※	C	無し	－	中期	住居内に風倒木痕。平地式。
H－2	中形正方形	5.6	5.5	0.5		N-9°-E	3カ所	4	土師◎滑石◎石器※	A1	中央北	A	Ⅲ	南側は一段高く、入口施設(ピット)がある。貼床。12区床面に滑石(剣形等未成品)集中。D-1付近に粘土。
H－3	大形長方形	7.8	7.4	0.6		真北	南東隅	4	土師◎石器※	A2	中央北	A	Ⅲ	北側に方形の土坑。南側に入口施設(ピット)。15・16区床面に粘土。
H－4	中形正方形	5.4	5.2	0.2		N-21°-E	南東隅	4	土師△	C	不明	－	中期	平地式。
H－5	中形正方形	5.7	5.6	0.4		N-46°-E	北東隅	4	土師○石器※	A1	不明	－	Ⅲ	土製匙出土。
H－6	中形正方形	5.1	5.1	0.4		N-18°-W	竈左脇	4	土師△編物※鉄※	C	北中央竈	A	Ⅳ	鉄釘出土。
H－7	中形長方形	4.4	3.8	0.4	西半分	N-14°-W	南東隅	無し	土師○	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。西半分周溝。
H－8	小形長方形	3.6	3.1	－		N-11°-W	無し	無し	土師△	C	無し	－	Ⅲ	柱穴無し。平地式。
H－9	中形正方形	5.1	5.1	0.3		N-28°-E	南東隅	4	土師※	A2	中央北	B1	Ⅱ	焼失(炭化材)。
H－11	中形長方形	5.2	3.7	0.3		N-16°-E	南東隅に2基	2	土師○石器※	A2	中央北	B1	Ⅲ	焼失(炭化材)。2本柱構造。Ｄ－2は入口施設か。
H－12	中形正方形	3.5	3.4	0.4		N-31°-E	南東隅	4	土師△滑石※石器※	A2	中央北	B1	Ⅲ	焼失(垂木等炭化材)。
H－13	中形正方形	4.6	4.3	0.6		N-11°-W	南東隅	4	土師○滑石※編物※石器※	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。南側ピットは入口施設。

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－14	中形長方形	5.8	5.3	0.7		N-15°-E	南東隅	4	土師△滑石※ 石器※	A1	中央北と 中央西の 2カ所	A	中期 前半	主軸が異なる2カ所の炉。浅い方形土坑が壁際にある。
H－15	大形正方形	7.2	7.1	0.8	3/4	N-16°-E	南東隅・ 北西隅 に各1	4	土師◎滑石※ 編物◎石器△	A2	中央北	A	Ⅱ	焼失？。北と東西それぞれ壁際に浅い幅広の土坑が接続する。D－1西脇に区画のためのマウンド(L字)。その周辺に編物石群。
H－16	中形長方形	4.8	4.2	0.4		N-11°-W	無し	4	土師○滑石※ 編物※石器※	C	不明	－	Ⅲ	13区床面に粘土。床面に礫分布。
H－17	大形長方形	6.4	4.9	0.1		N-3°-E	無し	無し	土師※	C	無し	－	中期	平地式。
H－18	中形正方形	4.2	4.2	0.1		N-7°-W	無し	無し	土師※	C	無し	－	中期	規則的に回る壁際のピットは柱穴か。平地式。北奥のピットは炉か。
H－19	中形長方形	5.1	4.7	0.9	東半 分	N-9°-W	竈左右 脇に2カ 所。	4	土師◎滑石※ 石器※	A2	東壁中央 竈・炉は 中央	A	Ⅳ	竈と炉が共伴。竈右脇に間仕切り溝2カ所、土坑(貯蔵穴)。
H－20	中形長方形	4.9	4.3	0.6	北側 以外	真北	南東隅	4	土師○土製※ 滑石※石器※	A2	中央北	A	Ⅲ	覆土下部は屋根崩落土あるいは土盛の可能性。東西に間仕切り溝。南側に入口施設(ピットと溝)。
H－21	中形長方形	4.1	3.5	0.2		N-17°-E	無し	無し	土師※石器※ 鉄※	C	中央北	A	Ⅲ	平地式。
H－23	大形正方形	6.2	5.9	0.8	1/2	N-5°-W	南東隅	4	土師◎滑石※ 編物△石器※ 鉄※	B2	中央北に 2カ所	A	Ⅱ	焼失(垂木等炭化材)。床面3カ所に粘土。南側に入口施設(ピット)と帯状マウンド。刀子出土。
H－24	中形正方形	5.4	5.2	0.4		N-48°-W	北東隅	4	土師○石器※	A2	中央西	A	Ⅲ	焼失か。炉周辺に台石。
H－25	中形長方形	5.4	2.9	0.4		N-23°-E	炉脇	無し	土師○	B2	中央	B1	Ⅲ	
H－26	小形正方形	3.4	3.3	－		N-23°-W	無し	無し	土師※	C	無し	－	中期	平地式。
H－27	中形正方形	4.6	4.6	0.3		N-32°-W	南東隅	4	土師△滑石※ 石器※	C	中央北	B1	Ⅲ	
H－28	大形正方形	6.2	6.0	0.5		N-16°-W	南東隅	4	土師◎須恵※ 土製※滑石※ 編物△石器※	C	中央北	A	Ⅲ	間仕切り溝4カ所。南側に入口施設(ピットと溝)。北側主柱差し替え。13区床面に白色粘土、15区で把手付椀、土製品出土。
H－30	不明	－	－	－									中期	炉のみ。
H－31	大形長方形	6.1	(5.2)	0.2		N-20°-W	無し	無し	土師△石器※	C	無し	－	Ⅱ	平地式。
H－32	中形長方形	5.1	4.4	0.1		N-25°-E	無し	4か	土師※	C	無し	－	中期	平地式。柱穴は浅いピット。中央の土坑が炉か。
H－33	中形正方形	5.0	5.0	0.5		N-25°-E	南東隅	4	土師○滑石※ 石器※	A1	中央北	A	Ⅲ	
H－35 (N-8C)	小形不整形	3.6	3.6	0.2		N-30°-W	無し	無し	土師器	C	中央	B2	Ⅲ	プラン不鮮明。北西土坑が貯蔵穴か。

第15表　人見西向原遺跡　古墳時代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－1	中形長方形	5.2	4.4	0.6	×	N-48°-W	南東隅	4	土師○滑石◎ 編物※鉄※	C	不明	－	Ⅱ	14区付近3層臼玉及び関係遺物多数出土。鉄製小玉出土。
H－2	中形長方形	(4.8)	(4.2)	0		真北	中央	無し	土師※	C	不明	－	中期	
H－3	中形長方形	(5.4)	(4.9)	0		N-23°-W	無し	無し	土師△	C	不明	－	Ⅲ	
H－4	中形正方形	5.0	4.8	0.1	×	N-8°-W	無し	4か	土師※	C	不明	－	中期	
H－5	中形長方形	5.4	4.7	0.5	×	N-32°-E	南東隅	4	土師◎滑石※	B1	中央北	A	Ⅲ	北東隅に床面に焼土。D-1内から土器出土。
H－6	小形正方形	3.3	3.2	0.3	×	N-4°-W	南東隅	無し	土師○滑石※ 石器※	A2	中央北	A	Ⅲ	焼失か。

第16表　人見東中原・西中原遺跡　古墳時代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－1 (N-7)	大形長方形	8.0	4.8	0.2		真北	無し	不明	土師△	C	無し	－	中期 前半	平地式。

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－2 (N-7)	中形長方形	5.1	4.5	0.3		真北	無し	不明	土師○滑石※	C	無し	－	Ⅲ	平地式。
H－3 (N-7)	中形長方形	4.2	3.4	0.2		N-3°-E	無し	無し	土師△	C	無し	－	中期	平地式。床面中央に粘土塊。
H－4	中形長方形	(5.2)	4.9	0.3		N-27°-E	無し	無し	土師△滑石※	C	中央	B2	Ⅲ	覆土に焼土混入(焼失か)。平地式。
H－5	小形長方形	(3.6)	3.3	0.1		N-10°-W	無し	無し	土師※	C	無し	－	中期	平地式。
H－6	中形長方形	4.7	3.8	0.4		N-9°-E	南東隅	無し	土師○滑石※ 石器※	A2	中央北	B1	Ⅱ	焼失(炭化材)。
H－7	小形長方形	3.8	3.1	－		N-9°-E	無し	無し	土師△石器※	C	中央	B2	Ⅲ	平地式。
H－8	大形正方形	6.6	6.4	0.6	3/4	N-20°-W	南西隅1・北東隅2	4	土師○滑石※ 石器※	A2	中央北	A	Ⅲ	東側に間仕切り溝。南側に入口施設(ピットと溝)。貯蔵穴の位置が異なる。
H－9	小形長方形	3.1	2.5	0.6		N-20°-W	無し	無し	土師※	B1	無し	－	中期	土坑状遺構。
H－10	小形長方形	3.9	3.1	0.5		N-30°-E	無し	無し	土師※	C	無し	－	中期	東側はテラス状。
H－11	中形長方形	4.7	4.4	0.1		N-22°-W	無し	不規則	土師※	C	中央南か	A	中期	平地式。
H－12	大形正方形	6.8	6.6	0.3	全周	N-3°-W	南東隅・北東隅に各1	4	土師○滑石※ 編物△	B2	床面被熱のため不明	B2	Ⅲ	焼失(炭化材)。南・東西に間仕切り溝。南側に入口施設(ピット)。周溝全周。台石・土器転用台出土。D－1内に編物石。
H－13	中形正方形	5.8	5.7	0.4	全周	N-8°-E	南東隅・南西隅に各1	4	土師○滑石※	B2	中央北	A	Ⅲ	焼失(炭化材)。南側に入口施設(ピットと溝)。周溝全周。8区床面に粘土。
H－14	中形正方形	5.1	(1.8)	0.1		N-8°-E	無し	不明	土師※	C	中央北	B2	中期	M-2と重複。削平により床面のみ。

第17表　人見本村遺跡　古墳時代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－1	中形長方形	4.5	3.6	0.7	×	N-50°-W	無し	無し	土師○須恵※	A2	中央西	A	Ⅱ	焼失(炭化材)。覆土上部に古代土器混入。
H－2	中形正方形	5.2	5.1	0.3	全周	N-7°-W	南東隅	4	土師○須恵※	A1	中央北	A	Ⅱ	南東隅に間仕切り溝。南側に入口施設(ピット)。
H－4	中形長方形	5.6	5.0	0.8		N-38°-E	南東隅	無し	土師△	B1	中央北と中央西の2カ所	A	Ⅲ	11区付近の床面に転用甕。
H－5	小形正方形	3.6	3.4	0.4		N-5°-E	南東隅	無し	土師※	A1	中央北	B2	中期	

第18表　上人見遺跡　古墳時代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	柱穴	遺物	覆土	竈・炉址		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－1	小形長方形	3.3	3.8	0.2	×	ほぼ真北	無し	無し	土師△	C	無し	－	中期	底面下部から集石(D-153)。

第19表　人見枝谷津・東向原遺跡　古代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	主柱穴	遺物	覆土	竈		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－32	小形長方形	3.7	2.6	0.4	×	N-95°-E	竈右	×	土器△　石器※	C	東中央	堀方	Ⅲ	台石が覆土からやや浮いて出土。竈脇で坏が出土。礫は竈構築材か。
H－33	中形長方形	4.2	2.9	0.5	○	N-88°-E	×	×	土器○	C	東中央南寄	堀方	Ⅱ	白色粘土塊が壁面で床からやや浮いて出土。刻書土器破片出土。
H－34	小形正方形	2.3	2.8	0.3	×	N-95°-E	北西隅	×	土器○	C	南東角	堀方	Ⅴ	竈内から羽釜片が出土。
H－38	中形正方形	4.2	<4.4>	0.6	×	N-93°-E	竈右/南西隅	×	土器◎　鉄鏃	A2	東中央	B	Ⅴ	古墳住居(H-37)の覆土を掘削（住居角で重複)。炭化材出土（焼失住居)。床面他で鉄鏃２点出土。
H－47	中形長方形	3.4	4.4	0.5	×	N-105°-E	×	×	土器◎　鉄鏃・鉄滓・羽口石器※	C	東中央	E　支脚有	Ⅴ	鍛冶関連遺構として炉址がある。炉底面は粘土で覆われ、被熱し、硬化。ただし、鉄の出土無し。竈内から羽釜と土釜出土。

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	主柱穴	遺物	覆土	竈		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－71	小形長方形	<3.2>	<3.0>	0.3	×	N-21°-W	×	×	土器○	C	北中央	竈1:D 竈2:C	Ⅳ	谷斜面部の水場覆土中に構築。床面冠水。竈は２基(新竈１・旧竈２)。床面からやや浮いて礫４点が出土。
H－73	小形長方形	3.2	3.7	0.4	×	N-105°-E	竈右/南西隅	×	土器△	C	東中央	D	Ⅴ	竈礫は構築材(両側の大形礫は袖石)。竈内から羽釜と土釜出土。
H－79	中形長方形	3.0	5.0	0.4	×	N-111°-E	×	×	土器※	C	東中央	E	平安	覆土上部に浅間軽石が堆積。礫は竈構築材か。
H－81	中形長方形	4.3	4.0	0.4	×	N-106°-E	南西隅	×	土器△羽口石器※	A1	南東隅	D 支脚有	Ⅴ	竈内から羽釜２点、羽口片出土。礫は竈構築材。
H－82	中形長方形	3.6	4.2	0.2	×	N-107°-E	南西隅	×	土器△	A2	東中央南寄	痕跡	Ⅴ	床面に赤化範囲が認められた（焼失か)。
H－107	小形正方形	2.2	2.2	0.6	×	不明	×	×	土器△	C	南東中央	堀方	Ⅲ	住居西側重複あるいは拡張、竈は古い住居址（３層正面が床面)。新しい住居址では竈不明。
H－114	小形長方形	3.4	3.1	0.3		N-85°-E	南西隅	×	土器△石器※	C	東北寄	堀方	平安	
H－118	中形長方形	4.8	3.6	0.6		N-115°-E	竈左	×	土器○石器※	C	南東隅	D	Ⅴ	西・南側に周溝。M-18と重複。住居範囲がＢ軽石で覆われていた。竈内から複数個体の羽釜出土。
H－7 (N-4)	中形正方形	4.5	4.5	0.5	×	N-90°-E	竈右	×	土器○羽口	C	東中央北寄	堀方	Ⅴ	覆土中に大形礫が廃棄。竈内から土釜出土。 古墳中期住居と重複する。
H－10 (N-4)	中形長方形	3.8	5.2	0.3	×	N-93°-E	竈右・南西隅	×	土器○	C	東中央南寄	D	Ⅴ	台石が床面に分布。竈右側に棚状遺構。床面３カ所にやや深いピット。

第20表　人見向原遺跡　古代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	主柱穴	遺物	覆土	竈		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－10	中形正方形	5.6	5.4	0.5	×	N-128°-E	竈右	×	土器△小破片主体	C	東中央南寄	D	平安	覆土床面付近までに浅間Ｂ軽石純層堆積。
H－22	小形長方形	3.9	3.2	0.3	×	N-118°-E	竈右・南西隅	×	土器○	A1	東中央南寄	E	Ⅴ	竈の粘土が残存する。
H－29	方形	－	－	－	×	N-122°-E	竈右	×	土坑のみ出土	×	東	E	平安	竈、貯蔵穴のみ。プラン不明。
H－34	小形長方形	3.9	2.8	0.2		N-94°-E	竈右	×	土器△	C	東中央	E	Ⅴ	竈内から羽釜複数個体出土。

第21表　人見本村遺跡　古代住居址観察表

（単位：m）

住居名	平面形態	規模			壁溝	主軸方向	土坑	主柱穴	遺物	覆土	竈		時期	所見
		長軸	短軸	深さ			貯蔵				位置	構造		
H－3	中形長方形	5.4	4.1	0.7	全周	N-11°-E	無し	×	土器◎	A1	北・東寄	E	Ⅰ	竈周辺に多数の土器。覆土上部に浅間Ｂ軽石堆積。漆付着坏2点出土。

凡例　計測値の　(　)は推定値。〈　〉は残存値。柄鏡形の計測は主体部＋柄部
平面形態　小形：４m以下　中形：４～６m　大形：６m以上
竈形態　Ｂ：ローム＋黒色土＋袖芯河床礫　Ｄ：地山削りだし＋ローム＋袖芯河床礫
Ｃ：ローム＋黒色土＋河床礫　Ｅ：地山削りだし＋ローム＋袖粘土
遺物出土量　土器類　※：0～1000g　△：1000～5000g　○：5000～10000g
◎：10000g以上
石器類　※5点以下　△10点以下　○20点以下　◎21点以上

覆土状況　Ａ：人為的に埋め戻し、あるいは屋根崩落後に自然堆積
Ａ１：ローム混じりの埋め戻し
Ａ２：焼土と炭化材が混入
Ｂ：人為的埋め戻し
Ｂ１：人為的埋め戻しあるいはローム混入土
Ｂ２：焼土と炭化材が混入し、その上にローム
Ｃ：自然堆積

時期　古墳　Ⅰ期：4世紀後半　Ⅱ期：5世紀第１四半期　Ⅲ期：5世紀第２四半期
Ⅳ期：5世紀第3四半紀
古代　Ⅰ・Ⅱ期：8世紀前半　Ⅲ・Ⅳ期：9世紀前半　Ⅴ期：10世紀後半～11世紀初頭

第22表　人見東原Ⅱ遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構番号	遺構名	形態	長さ	幅	深さ	主軸	時期	遺物	所見
Ｔ－１	竪穴状	円形	2.9	2.8	0.3	真北	縄文中期後半	縄文※	外側にピット。
Ｍ－１～21	復旧溝	箱状	－	0.3	－	－	近世	縄文混入	覆土に大量の浅間Ａ軽石が入る。軽石処理の可能性。
ＫＭ－１	炭焼窯	長方形	4.9	2.2	0.2	N-45°-W	中～近世	炭破片◎	西側部分が特に焼けている。

第23表　人見西下原遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構番号	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
Ｔ－１	竪穴状	楕円形	3.2	2.2	0.3	N-12°-W	加曽利E3	土器、石器、礫	北側で有孔鍔付土器、黒曜石原石、中央で大形礫が出土。覆土上部に炭化物混入。土坑墓か。
Ｔ－２	竪穴状	円形	4.6	4.4	0.1	－	縄文中期後半	土器、石器少量	浅く皿状。
Ｓ－１	集石	楕円形	0.4	0.3	0	－	縄文中期後半	無し	破砕礫が多い。掘り込み確認されず（Ⅳ層上部で検出）。
Ｓ－２	配石	－	1.3	0.6	－	－	縄文中期後半	土器、台石、多孔石	D-17とピットで構成される配石遺構。住居址に伴う遺構の可能性。

第24表　人見枝谷津遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構番号	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
Ｕ－１	埋設	Ⅰ	0.5	－	0.1		加曽利EⅢ	無し	正位の深鉢（上半部）。
Ｕ－２	埋設	Ⅰ	0.5	－	0.15		加曽利EⅢ	無し	深鉢２点（下半部）が重なり、内側に器台が入る。
Ｕ－３	埋設	Ⅲ	－	－	0		加曽利EⅢ	内側に礫中１	倒置深鉢（上半部逆位）。地面露出（Ⅳ層面）。
Ｕ－４	埋設	Ⅰ	0.5	－	0.1		加曽利EⅢ		正位の深鉢（上半部）。
Ｕ－５	埋設	Ⅰ	0.5	－	0.3		加曽利EⅢ	礫中１	J-11内。正位の深鉢（遺存状態が悪いため、復元不可能）底部に礫。
Ｕ－６	埋設	Ⅱ	1.4	1.0	0.3	N-86°-W	加曽利EⅢ		土坑内に深鉢（底部欠）を埋設。潰れた状態で検出。
Ｕ－７	埋設	Ⅰ	0.5	－	0.2		加曽利EⅢ		逆位の深鉢（口縁部）。
Ｕ－８	埋設	Ⅰ	0.3	－	0.15		加曽利EⅢ	ＦＬＡ３	正位の深鉢（下半部）。
Ｕ－９	埋設	Ⅰ	0.3	－	0.2		加曽利EⅢ		J-11内。正位の深鉢（上半部）。
Ｕ－10	埋設	Ⅰ	(1.1)	0.7	0.15	N-53°-E	加曽利EⅢ		正位の深鉢（下半部）。土坑内に２基並列し、U-11が新しい。
Ｕ－11	埋設	Ⅰ	－	－	0.22	－	加曽利EⅢ		正位の深鉢（下半部）。
Ｔ－１	竪穴状	長方形	3.4	1.8	0.2	N-78°-W	古墳中期	坏△　編石１	床面に２基の浅いピット。
Ｔ－２	竪穴状	隅丸方形	2.8	3.0	0.4	N-7°-W	古墳中期	坏△甕◎縄文石器３	床中央に焼土痕。ピット無し。
Ｔ－３	竪穴状	長方形	3.8	3.0	0.2	N-45°-W	古墳中期	甕◎	床面遺構なし。
Ｔ－４	竪穴状	方形	3.1	2.6	0.1	N-28°-E	古墳中期	坏△甕◎礫小５中３縄文石器４	掘り込み浅いが遺物大量廃棄。
Ｔ－５	竪穴状	方形	2.9	(2.7)	0.2	N-37°-E	古墳	甕△縄文※	道路側溝と重複。ピット４か所は柱穴の可能性。M-1内に遺物混入。
Ｔ－６	竪穴状	方形	5.8	5.4	0.03	N-36°-E	古墳中期	坏※甕○縄文△	床面に浅いピット(柱穴) ４か所。台石２点出土。
Ｔ－７	竪穴状	方形	(4.6)	(4.5)	0	真北か	古墳中期	坏※甕△縄文※	T-8と重複(新旧不明)。床面にピット４か所(不規則)。
Ｔ－８	竪穴状	長方形	5.8	4.6	0.05	N-34°-W	古墳中期	甕○縄文△	T-7と重複。床面にピット３か所(不規則)。
Ｓ－１	集石	－	0.7	0.5	0	－	縄文	礫：小５　中15	100～500ｇの礫20点（欠損11点）。被熱は全て無し。
Ｍ－３	区画溝	箱状	27.0+18.0	1.1	0.14～0.28	－	近世	甕△縄文◎縄文石器１（混入）	覆土にＡ軽石混入。底面に多数の小ピット。「Ｌ」字状区画。
Ｍ－４	区画溝	箱状	85.0以上	0.8～1.3	0.5～0.7	N-28°-E	古代	坏◎甕◎縄文◎石製剣１　礫小２縄文石器４（混入）	M-14に接続。覆土はⅢ層を基本とした黒色土で自然埋没。他時期の遺物が多数混入。溝方向はやや湾曲して直線状に延び、台地の南北を区切る。断面は箱状（鍋底形）。1区覆土中位に炭化物・焼土。
Ｍ－５	道路側溝	皿状	53.0	0.6～1.0	0.2	N-55°-W	中世	甕※	覆土に浅間Ｂ軽石多数混入。溝底面硬化・浅いピットが並ぶ。谷筋へ延びる直線道路。遺構の東側先は、現在の道路地割りに一致。
Ｍ－６	道路側溝	皿状	53.0	0.6	0.1～0.2	－	中世	坏※甕△礫小１	
Ｍ－７	区画溝	箱状	25.0+9.0	0.8	0.3～0.4	－	古代		覆土黒色土（Ⅲ層）。重複するH-61が古い。「L」字状区画。
Ｍ－11									欠番。
Ｍ－12									欠番。
Ｍ－13									欠番。
Ｍ－14	区画溝	箱状	(277.0)	0.9～1.5	0.6～0.8	N-75→85°-W	古代	坏※甕△縄文△礫小１中４縄文石器３	低地から北西方向へ一直線に延び、途中でM-15と交差しやや西側へ屈曲する。西側調査区外では、確認されず。覆土は黒色土（Ⅲ層）。部分的にM-15と並行する。

遺構番号	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
M－15	区画溝	箱状	146.0+(123.0)	0.6～0.9	0.4～0.5	N-70→126°-W	古代	甕△縄文○礫小１中２大１縄文石器１	低地M-14の北側から溝が始まり、途中で約53°南へ屈曲する。溝が断続し、M-14と交差しながら谷筋方向へ延びていく。掘削中断及び湾曲部分を確認。覆土は黒色土（Ⅲ層）。
M－16	方形区画溝	鍋底・皿状	91.0	29.0～37.0	0.2～0.4	N-78°-W	古代（９世紀後半）	SE坏△　甕△縄文△礫小２中５縄文石器６（混入）	覆土中位から須恵器碗が破砕状態で出土。南側中央で西側部分区画が拡張する。覆土は黒色土（Ⅲ層）。
M－17	溝	鍋底	35.0	1.2	0.5	N-64°-W	古代	坏※縄文△縄文石器１	M-16が新しい。溝は未完状態（掘削途中）。覆土黒色土（Ⅲ層）。
M－18	区画溝	箱状	28.0+20.0	0.9～1.1	0.5～0.6	－	古代	縄文○礫小２中２	M-15から分岐し、M-14と交差、M-26に接続する。M-14より古く、H-118より新しい。「L」状となるが、M-26との接続関係は不明。覆土は黒色土（Ⅲ層）。
M－19	溝	鍋底	120.0	0.8～1.1	0.2～0.5	N-78→125°-W	古代	縄文△礫小３中１縄文石器１（混入）	途中で北方向に蛇行する。未完状態（掘削途中）。
M－20	溝	鍋底・皿状	(70.0)	－	－	N-42°-E	古代	SE甕※	覆土は道路と類似した黒褐色土（Ⅲ層）。本溝が道路を壊す。
M－21	溝	鍋底・尖底	(70.0)+(23.0)	1.2～1.7	0.2～0.6	N-36°・134°-E	中世	SE甕※甕※縄文△縄文石器１	「L」状に検出。道路と並行するが東側撹乱のため先の区画不明。底面に小ピット。覆土に浅間Ｂ軽石混入(分析参照)。
M－22	区画溝	皿状	(130.0)	0.4～1.0	0.1～0.2	N-54°-W	中世	甕※縄文△	溝底面硬化する（道路状）。覆土に浅間Ｂ軽石混入。古代道路のM－１溝と重複し、斜めに横切る（先は不明）。M－25とも重複。
M－23	区画溝	鍋底	46.0+(31.0)	0.7～1.3	0.1～0.5	N-55°・227°-W	中世	縄文※	M-24と同一遺構で方形区画と推定。溝の東側は途切れるが、M-24と主軸が一致。覆土に浅間Ｂ軽石が大量混入。
M－24	区画溝	－	(15.0)+(10.0)	1.2	0～0.1	N-21°E・N-52°-W	中世		区画M－23と同一遺構。耕作による撹乱が大きく痕跡のみ。
M－25	溝	鍋底	(19.0)	0.4～0.7	0.4	N-56°-W	中世		区画M－22と重複。耕作溝により先は不明。覆土に浅間Ａ軽石混入。
M－26	区画溝	箱状	11.0+15.0	1.0	0.5～0.6	－	古代		M-14から分岐し、M-18に接続する。南北方向の掘削中断を確認。覆土黒色土（Ⅲ層）。
M－27	溝	箱状	－	－	－	N-22°-E	近世		覆土に浅間Ａ軽石混入。
M－28	溝	浅い皿状	8.0	(0.6)	(0.1)	N-80°-W	中世		古代道路・M-23を斜めに横切る。
水路１	溝	皿状	(27.0)	0.3～0.5	0～0.1	N-79°-W	中世	土師、礫	水路１～３はほぼ同時期と推定される。谷に並行する溝で、土砂が堆積により、流路が判明。細い木杭を検出。道路状遺構と直交する（水路が新しい）。
水路２	溝	皿状	(27.0)	0.3～0.6	0～0.1	N-79°-W	中世		
水路３	溝	皿状	(16.0)	0.3～0.9	0～0.1	N-79°-W	中世		
ＵＳ－１	水場（湧水地）	谷状	東西約16.0	南北約13.0	比高差2.0	N-24°-W	古墳中期	坏◎甕◎　石製FL 4　礫小22中４大１縄文石器７（混入）	谷地斜面を内側へ掘削し、湧水点を溝（２か所以上）で直結させ、水場を確保。東側斜面には土器破片が集中する（廃棄あるいは祭祀か）。覆土は黒色土（Ⅲ層）基本とする自然堆積。水面下では、勾玉１点出土した。遺物は東側斜面で土器片が多数出土したが、祭祀様相を示す土器集積あるいは遺物大量廃棄は認められなかった。
１号炭焼窯	炭焼窯	不整楕円形・皿状	1.9	0.8	0.2	N-37°-W	中世	炭化材○	N3A　台地斜面方向を主軸、道路状遺構と重複して検出。煙道部分張出。底面中央に溝。覆土上面に浅間Ｂ軽石。
２号炭焼窯	炭焼窯	長方形・皿状	2.8	0.8～1.2	0.1	N-82°-W	中世	炭化材○	N3C　M-14と重複。東西主軸。覆土上部に浅間Ｂ軽石混入。東側底面は高く、ピットあり。
３号炭焼窯	炭焼窯	－	－	－	－			炭化材○	N3D　確認のみ。
４号炭焼窯	炭焼窯	楕円形・皿状	2.7	1.0～1.4	0.1	N-85°-W	中世	炭化材○	N3E　東西主軸。覆土上面に浅間Ｂ軽石。南に接する土坑は別遺構。

第25表　人見東向原遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構名	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
Ｕ－１	埋設土器	－	0.4	0.4	0.1	－	古墳中期	甕片△	土器破片を土坑内の片側に置いた状態。
M－８	区画溝	鍋底	(10.0)	28.0	0.3～0.4	N-27°→123°-W	古代	坏△甕△	北側部分は撹乱のため不明。東側は途中で切れる。H-14号溝より新しい。覆土には古墳土器が混入。
M－９	区画溝	不整円形	38.0	31.0	0.1～0.6	N-87°-W	古墳～古代	坏△甕◎	2区と3区の間が溝が途切れる部分(入口)。底面にピット。8区～10区は底面浅い。溝覆土はローム混入土の埋め戻し。覆土中から古墳中期土器が混入。4区では土師器破片集中を確認。
M－10	溝	皿状	39.0	0.4～0.8	0.1	N-42°-E	近世	坏※甕△縄文△縄文石器１礫特大１	覆土に浅間Ａ軽石混入。底面凹凸。
M－11	溝	皿状	40.0	2	0.3	N-16°-W	近世	坏※甕△	谷に向かって直線に延びる。底面に小ピット。覆土に浅間Ａ・Ｂ軽石混入。
M－12	溝	鍋底	30.0	0.9	0.3	N-47°-W	近世		覆土上面と下面が硬化。覆土に浅間Ａ軽石。M-11と重複(新しい)し、M-13と並行。
M－13	溝	皿状	10.0	0.7	0.1	N-50°-W	近世		覆土に浅間Ａ・Ｂ軽石。M-11と重複(新しい)し、M-12と並行。
１号炭焼窯	炭焼窯	長方形・箱形	3.1	0.7	0.2	N-90°-W	中世	炭○	上面に浅間Ｂ軽石。西側に張出(煙道)あり。底部中央に浅い溝。

第26表　人見向原遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構名	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
M－2	溝	鍋底	28.0+20.0	0.7～1.1	0.4	N-5°-W・N-135°-E	古代	石製勾玉１（混入か）	北側低地に向け延びる。南側部分は次第に浅くなり、その先は不明。覆土は黒色土(Ⅲ層)の自然堆積。覆土上部に土師器甕片集中する。
１号炭焼窯	炭焼窯	楕円形	3.1	1.1	0.1	N-68°-W	中世	炭化材○　坏※甕※縄文※	東西方向が主軸。覆土に浅間Ｂ軽石含まず。
K－1	古墳	円墳	25.0	25.0	－	N-148°-E	古墳終末期	坏※甕△SE坏△◎鉄刀１(土器は7世紀後半～8世紀初頭)	主軸が南東方向に向く横穴式石室。周溝内には、浅間Ｂ軽石層下から礫出土。古墳石室の構築礫と推定。これにより、1108年以前に石室が壊されたことが判明。石室撹乱層から鉄刀出土。前庭部には周溝が無い（「Ｃ」字状）。前庭部付近から須恵器破片が多数出土。

第27表　人見東中原遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構名	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
T－1	竪穴状	円形	3.0	3.0	0.2	－	縄文中期後半	縄文◎	中央に２か所のピット（補助柱）。
T－2	竪穴状	方形	2.6	2.4	0.3	N-10°-W	中世	坏※甕※	T-3と重複（古い）。覆土に浅間Ｂ軽石混入。
T－3	土坑状	不整形	(3.0)	2.0～3.8	0.2	－	中世	坏△甕△縄文※礫中２	中央に粘土と礫。覆土中位に焼土・炭化物、硬化する。性格不明。
T－4	竪穴状	方形	(2.6)	2.6	0.1～0.2	N-5°-W	中世	甕※	覆土に浅間Ｂ軽石、大形礫混入。M-11と重複（古い）。
S－1	集石	－	1.8	1.4	－	－	縄文中期後半		掘り込みがなく、配石状。礫被熱、炭化物・焼土分布なし。
S－2	集石土坑	円形	1.4	1.3	0.4	－	縄文早期	縄文(押型文)△ＦＬＡ１　磨１	土坑上面及び覆土中に集石。堀方を埋め（３層）、礫１点を中心に６点の礫が弧状に並ぶ（配石状）。下部に焼土と炭化物が混入することにより炉の可能性。土器片１点図示。
S－3	列石	弧状	22.0	0.5～1.0	－	N-62°-W	縄文中期後半	ＳｃＢ１　凹１　多孔２礫小２　中４	西側に向けて弧状となる（末端の先では礫は確認されず）。礫３点が１単位（１・２・４～８）となって間隔を開け西側に膨らみ並ぶ。３・９は礫抜き取りあるいは、単独で構成。各構成礫の下には、掘方が存在する（浅く埋め込まれている）。土器の出土は無い。
S－4	集石	－	3.5	3.5	－	－	縄文中期	磨１	掘り込みなく、広範囲に小礫が散在。礫は被熱無し。土器の分布と重複（中期後半）。
S－5	集石土坑	円形	1.1	1.1	0.15	－	縄文か	敲１	確認状況（覆土のしまり）から古代の可能性もある。
M－3	区画溝	皿状・鍋底	(70.0)+(58.0)	1.3～2.3	0.2～0.5	N-2°-E・N-73°-W	中近世	甕△SE甕△縄文○礫小３中３縄文石器４	M-4と重複（古い）。「Ｌ」字状に確認。道路状遺構、M-5を壊す。覆土に浅間Ｂ軽石混入。東西方向の溝断面は鍋底で深く、南北方向の溝断面は皿状で浅い。
M－4	区画溝	皿状	(42.0)+40.0	0.9～1.0	0.1	N-7°-E・N-75°-W	中近世	礫小１中２縄文石器６	「コ」の字状で谷に抜ける。M-4と重複。斜面部は断面が薄くなり、先は不明。
M－5	溝	鍋底	125.0	0.7～0.9	0.4～0.5	N-23°-E	古代	甕※縄文◎　礫小12中４縄文石器18	台地を横断する直線溝。6区で覆土中位に硬化面。覆土下部で掘方の埋め戻しを確認。溝形状、覆土が道路側溝と類似する。M-3との重複で新旧関係は不明。
M－6	溝	鍋底	(110.0)	0.5～1.0	0.1～0.5	N-43°-E	中世	縄文◎　礫小５中13縄文石器20	M-7と並行する。覆土に浅間Ｂ軽石混入、底面には砂質土が堆積する。斜面部で外に開く。
M－7	溝	皿状・鍋底	(110.0)	0.9～1.4	0.4～0.6	N-43°-E	中世	縄文◎　礫小５中９縄文石器11	M-6と並行する。覆土に浅間Ｂ軽石混入、底面には砂質土が堆積する。
M－8	区画溝	箱堀状	90.0+60.0	1.7～2.2	0.9～1.2	N-83°-W	古代中世	SE甕△中世△縄文△　礫小３中10縄文石器21	西側部分は谷筋で東へ屈曲する。東側は、途中で東へ直角に曲がり止まる。区画が途切れる。覆土には浅間Ｂ軽石を混入するが、底部付近では、砂質土が堆積する。
M－9	区画溝	鍋底	57.0+40.0	1.4～1.8	0.4～0.5	N-5°-E・N-82°-W	中世	SE坏※縄文△　礫小11中５大１縄文石器21	M-8との接続部分のみを埋め戻し、M-8を掘削。M-9の西側は確認されず。東側は谷に抜けている。M-8より深さは浅いが形状はM-9に類似する。同時期の遺構の可能性。
M－10	溝	皿状	(2.0)	1.9	0.2	N-91°-W	中世		部分的検出。M-8と重複（新しい）。
M－11	区画溝	箱状	43.0+(41.0)	1.0～1.8	0.5～0.9	N-10°→98°-W	中世	坏※甕△縄文○	覆土下部まで浅間Ｂ軽石混入。T-3と重複する（新しい）。覆土に中世陶磁器混入（図示無し）。

第28表　人見東中原遺跡（低地）　他遺構観察表

（単位：m）

遺構名	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
M－3	溝(水路)	皿状	(14.0)	2.0～2.8	0.3	N-90°-E	古代以前	無し	台地北側の低地で谷地に沿って確認。谷地部分の斜面を掘削して構築（地形を改変する）。全溝とも同時期と推定。Ⅱa層及びⅥ層を掘り込み、土砂による埋没及び浅間Ｂ軽石混入土の洪水層（４・５層）に覆われる。水路の可能性。時期を特定できる遺物なし。低地北側部分は、現地表より下部に浅間Ｂ軽石が堆積し、埋没谷の存在を確認。浅間Ｃ軽石の堆積を確認する。土壌分析によって水田稲作の可能性あり。この部分の土壌分析の結果、水田とする。
M－4	溝(水路)	皿状	(16.0)	(0.3)	0.15	－	古代以前	無し	
M－5	溝(水路)	皿状	－	2.0～2.8	0.3～0.4	N-78°-E	古代以前	無し	
M－6	溝(水路)	皿状	(16.0)	2.4	0.2～0.3	N-97°-E	古代以前	無し	

遺構番号	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
M－7	溝(水路)	皿状	(13.0)	1.0	0.2	N-97°-E	古代以前	無し	

第29表　人見西向原遺跡Ａ区　他遺構観察表

（単位：m）

遺構名	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
M－2	溝	箱形	(11.0)	1.5	0.8	N-55°-E	古代か	無し	M－1に接続。土橋構築土で覆われる（古い）。上面に浅間Ｂ軽石堆積。
M－3	溝	箱形	4.0	0.9	－	N-37°-W	古代か	無し	M－1に接続。性格不明。

第30表　人見西向原遺跡Ｅ区　他遺構観察表

（単位：m）

遺構名	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
M－2	区画	箱形	315.0	0.8～2.5	0.4～1.0	N-37°→47°-E	古代	(縄文△)	ほぼ直線上で途中で東に方向を変え、低地に抜ける。断面形態及び覆土（黒褐色土:Ⅲ層が道路側溝と類似する。なお、N9のM-4とも類似する（同時期）。覆土中位に硬化面（溝底面）が続く範囲がある。埋没後掘り返しての使用か。
M－3	区画	皿状	42.0	1.1～1.3	0.2～0.4	N-78°-W	古代	（3区弥生△）	M-2とM-4と重複し、溝端が完結。西側の先は確認されず（途切れる）。掘削途中段階の遺構か。弥生土器は栗林式期。
M－4	区画	箱状	(90.0)	1.1～1.5	0.4	N-43°-W	古代	甕※（縄文△）	M-2から東方向へ分岐。底面はM-2より高く、覆土の状況・溝形態から判断して同時期で、M-2に接続させた区画の可能性。埋め戻しによる土橋あり。東側の先は撹乱のため不明。
M－5	区画	皿状・鍋底	65.0+(8.0)	1.4～2.2	0.3～0.6	N-61°→149°-W	古代	無し	ほぼ直線状、西側部分は途切れ、東側は南へ折れるが先は撹乱のため不明。
M－6	方形区画		110.0+55.0～70.0	0.6～0.9	0.2～0.5	N-35°-E	古代	5区坏△（縄文◎）	長軸の一辺が歪む長方形。3か所で溝が切れる。東側(破線)は、撹乱のため範囲（痕跡）のみを確認。5区で破砕された坏（8世紀代、底部欠）が出土。
M－7	溝	尖底	(14.0)	2.8	0.5	N-54°-W	中世	内耳土鍋○	21区のM-1覆土内で掘削された直線の溝。覆土Ⅱb層を掘り込む。上幅が大きく開く。土鍋片、礫が出土。
M－8	区画	皿状	40.0	0.5～0.8	0.2～0.3	N-43°-W	古代	無し	M-4に並行し、「コ」字状となるが、区画が完結しない。一部、M-4の先に底部痕跡（ピット）あり。

第31表　人見西中原遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構名	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
T－1	竪穴状	円形	3.9	3.3	0.3	－	縄文中期後半	縄文○　ＳｃＢ1 礫中1	遺物は覆土上部から出土。中央に浅いピット。
M－3	溝	鍋底	35.0	0.6～0.8	0.3	N-70°-W	古代	無し	道路状遺構を斜めに横切るが、新旧関係は不明。
M－4	区画	鍋底	185.0	1.2～3.1	－	－	古代	坏※甕○(縄文○弥生※縄文石器4)	台地に直交する。北側低地部に差しかかるところで分岐する（Ｂが古い）。本溝を埋め戻して道路が構築されている（覆土にロームブロック混入）。道路側溝と連結する。
M－5	溝	皿状	8.5	0.6	0.1	－	中近世	縄文※	底面硬化。覆土に浅間Ｂ軽石堆積。M－1号溝に並行する。
M－6	区画	薬研	75.0→(50.0)	1.3～2.1	0.6～1.4	N-90°-W・N-40°-E	古代～中世	無し	覆土上部には浅間Ｂ軽石が混入。掘り返しによる底面の上昇が認められる。西側斜面部では溝が途切れ、その先は不明。底面には砂質土が堆積する（水成堆積の痕跡）。
M－7	溝	皿状	50.0	0.6～0.9	0.1～0.3	N-78°-W	古代	無し	道路側溝を壊す（新しい）。2回の拡張。溝の先は撹乱のため不明。

第32表　人見本村遺跡　他遺構観察表

（単位：m）

遺構名	遺構名	形態	長軸(長さ)	短軸(幅)	深さ	主軸	時期	遺物	所見
M－1	道路側溝	皿状	6.4	1.0	0.2	N-72°-W	中世	無し	幅0.8～1.0mの道路面に対し、両側に側溝。覆土には浅間Ｂ軽石が混入。浅間Ｂ軽石層を切って掘削。道路面及び側溝ともに硬化面は無し。本遺構の延長線上には、道路痕跡と推定される地割りが認められる。本道路北方には、人見城が存在する。
M－2	道路側溝	皿状	6.4	1.2	0.4		中世	無し	
ＨＴ－1	掘立柱	1間×2間	3.4	3.2	0.3～0.6	N-68°-W	古代	古墳※（混入）	覆土黒褐色土（Ⅲ層）。
ＳＡ－1	柵列	直列	5.2	－	0.3	N-77°-W	古代	古墳※（混入）	HT-1の南、直列。覆土黒褐色土（Ⅲ層）。

凡例　　埋設土器　Ⅰ：堀方のみ　Ⅱ：土坑内　Ⅲ：堀方無し。　　建物の（　）は混入遺物。　　計測値の（　）は推定値。

第33表　M－1号溝（大溝）観察表

（単位：m）

遺構名	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
人見向原遺跡	1～3	A	60.0	(3.0～4.5)	1.0	N-44° -W	1区褒※	A→B	B
A区M－1号溝		所見	富岡市下高田上原遺跡J区(H21)、底面部分的平坦。南側調査区外。崖線の緑を通過。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	4～6	A	50.0	(4.0)	1.0	N-44° -W	5区坏△	A→B	B
		所見	内側からの埋め戻し。その後自然堆積→浅間B軽石堆積。道路硬化面（4･5層)と中世の溝が重複。Ⅱb層下土層中から須恵器坏出土。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	7～9	A	50.0	(3.5～5.5)	1.4	N-50° -W	8区坏※褒※	A→B	A
		所見	埋没土（ローム）上面を底面として溝再利用（掘りざらい→自然堆積→浅間B軽石堆積)。谷際を通過。ロム混入土の埋没と浅間B軽石の堆積に時間差（自然堆積層)。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	10	－	42.0	(4.0)	－	－	－	－	－
		所見	M-1本体は調査区外。溝北側の落ち際を確認（ローム面まで削平)。複数の硬化面（道路)。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	11～14	－	65.0	－	－	N-67° -W	－	－	－
		所見	下高田原Ⅳ遺跡　谷を挟んで主軸が南西方向にずれる。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	15～19	－	85.0	4.0～5.0	外1.2内1.6	N-67° -W	15区SE坏△、16区SE坏△	B	A
		所見	20～21区付近で北に曲がる。上幅の長さが均一ではない。覆土下部は、自然埋没土。道路と推定される複数の硬化面。溝内側Ⅲ層上面に帯状の硬化面を確認。溝壁面に多数のピット。15・16区覆土下部で坏出土。内側が高く、外側が低い。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	20～23	－	65.0	4.5～5.0	外1.3内1.7	N-67° -W	－	B	A
		所見	22区で底面掘方埋め戻し確認。溝内側で道路状の硬化面を確認。底面の溝状落ち込みを埋め戻す。						
遺構名	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
人見西向原遺跡	1～5	－	75.0	5.5	1.3	N-70° -W	－		
A区M－1号溝		所見	うち2･3区の一部は富岡市調査（上高田筑前上遺跡)。4･5区の溝南側は、樹木のため未調査。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	6～11	C	80.0	5.0～6.0	外1.1内1.8	N-67° -W	－	B	A
		所見	11区は富岡市調査（上高田筑前上遺跡)。7･8区付近に埋め戻しによる土橋を確認。浅間B軽石下の窪みで溝に直交する帯状の硬化面。9区で溝を完全に埋め戻した土橋を確認。帯状の硬化面。土橋は縦断面が台形状となる。土橋は浅間B軽石に覆われている。この土橋に接続する溝状遺構周辺に浅間B軽石が薄く堆積する。6区、土橋付近で曲線となる。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	12～18	A	115.0	5.0～7.0	外1.2内1.7	N-67° -W	12区SE坏△	B	A
		所見	底面中央に溝状遺構。						
遺構名	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
人見西向原遺跡	20～23	A+C	70.0	4.7～5.2	外1.3内1.9	N-57° -W	21区鉄斧・坏※	A+B	A
B区M－1号溝		所見	底面溝状遺構を埋め戻す。底面一部硬化。M-7(中世)と重複。底面に多数のピット。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	24～26	C	60.0	4.1～4.8	外1.2内1.4	N-57° -W	－	A+B	A
		所見	25･26区付近の覆土下部（ローム埋没土上層）に炭化物混入。底面に多数のピット。一定の間隔で南北に蛇行して延びる。25区では、T-1（古代）と重複する（新しい)。						
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	27～29	C	60.0	4.2～4.8	外1.1内1.2	N-52° -W	－	A+B	A
		所見	底面埋め戻しにより硬化(27･28区付近)。30区付近では、ローム埋没土上層に炭化物混入土層確認。29区で浅間B軽石に覆われた土橋を確認。土橋は断面台形で、上面は幅約1mの硬化面。M-1自然埋没後、埋め戻して土橋を構築。道路方向はほぼ真北へ延びる。M-2と重複（新しい)。						
	区間	形態	長さ	所見					
	30～35	－	120.0	富岡市調査（上高田稲葉上遺跡)					
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	36･37	C	35.0	4.5～5.0	外1.1内1.2	N-62° -W	36区坏※褒△ 37区SE褒※褒※	B	A
		所見	底面埋め戻し。覆土を掘り返して、南寄りの新たな底面(使用面)を確認。覆土B層北側法面で鉄鏃が出土(水平に刺さった状態)。						
	区間	形態	長さ	所見					
	38～43	－	120.0	富岡市調査（上高田稲葉上遺跡)。覆土中位から同一個体の須恵器褒片多数出土。					
	区間	形態	長さ	幅	深さ	主軸	遺物	覆土	底面
	44･45	B	28.0	4.5～4.8	外1.1内1.1	N-64° -W	44区SE坏※SE褒○ 45区褒△	B	A
		所見	底面埋め戻し硬化面確認。覆土を掘り返して、南寄りの新たな底面（使用面）を確認。覆土B面下からピット検出。覆土B・C層で古代（平安）土器多数出土。						

第34表　人見東原Ⅱ遺跡　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－１	138	151	62	73	25	A	2	I	縄文※		小３	縄文中期後半	
Ｄ－２	114	123	66	68	28	A	2	I	※	FLA 1	小１	縄文中期後半	
Ｄ－３	119	156	90	111	29	A	2	I	△	錐１　磨斧１　FLB 1		加曽利EⅢ	
Ｄ－４	97	111	81	89	19	A	2	I	※		小１	縄文中期後半	
Ｄ－５	86	107	57	76	23	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－６	72	79	39	43	17	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－７	74	89	52	54	22	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－８	66	79	39	44	25	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－９	81	89	50	53	21	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－10	86	83	66	62	31	A	2	I	※個体			加曽利EⅢ	
Ｄ－11	100	113	89	84	11	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－12	99	107	69	68	14	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－13	130	306	111	290	10	B	2	I	△	FLB 1	小３	中近世	炭焼土坑、炭化材出土。
Ｄ－14	風倒木痕と重複しているため不明								◎	FLA 1　FLB 1　FLE 1	小４　大１	縄文中期後半	風倒木痕。
Ｄ－15	100	109	73	76	14	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－16	99	93	72	73	15	A	2	I			小１	縄文中期後半	
Ｄ－17	96	87	64	65	19	A	2	I		棒礫		縄文中期後半	
Ｄ－18	128	136	106	101	23	A	2	I	※		小３　中１	縄文中期後半	
Ｄ－19	166	164	140	144	24	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－20	222	<130>	62	<20>	188	B	2	I	○		小３	加曽利EⅢ	陥穴状。
Ｄ－21	154	115	126	94	37	B	1	I	△			加曽利EⅢ	
Ｄ－22	70	76	57	54	44	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－23	152	143	121	115	35	A	1	I	△			加曽利EⅢ	
Ｄ－24	108	99	68	66	28	A	1	I	△			縄文中期後半	
Ｄ－25	196	189	160	144	45	B	1	I	△	FLA 1	小４　中１	加曽利EⅢ	
Ｄ－26	124	111	109	85	33	A	1	I	△		大１	加曽利EⅢ	
Ｄ－27	127	109	93	79	40	A	1	I	※		小1	縄文中期後半	
Ｄ－28	253	163	207	127	40	B	2	I	○	ScB 1		縄文中期後半	
Ｄ－29	238	190	201	149	38	B	2	I	◎	FLA 1	小１　中２	加曽利EⅢ	遺物廃棄。
Ｄ－30	146	(141)	37	29	171	A	2	I	○			加曽利EⅢ	大形柱穴か。
Ｄ－31	152	115	97	90	58	B	2	I	○	打斧1　ScB 2　FLA 2　FLB 1	小4　中1　大1	加曽利EⅢ	
Ｄ－32	135	132	113	114	40	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－33	122	155	76	123	35	B	1	I	△	鏃１　ScB 1	小2　中1　特大2	加曽利EⅢ	底面に礫２点。
Ｄ－34	124	103	98	73	32	B	1	I	◎	打斧１　磨３　砥２　FLB 1	小３　中１　大１	加曽利EⅢ	覆土に埋設土器。
Ｄ－35（炉）	125	122	111	111	40	A	1	－	◎	ScB 1　磨1　凹Ⅰ皿5　台2　磨斧1　FLB 1　石棒1	小２　中10	加曽利EⅢ	Ｊ－２住炉の掘方。
Ｄ－36	158	146	122	102	32	B	1	I	△	凹１　FLB 2	小2　中1　特大2	加曽利EⅢ	
Ｄ－37	237	213	213	175	28	A	1	I	△		小２　中３	加曽利EⅢ	
Ｄ－38	69	63	42	48	25	A	2	I	※		小１	中期後半	
Ｄ－39	76	71	55	52	31	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－40	53	64	27	39	不明	A	不明	I	△	FLB 1		不明	
Ｄ－41	52	52	30	33	31	A	2	I	△			縄文中期後半	
Ｄ－42	144	134	113	114	9	A	2	I	△			縄文中期後半	
Ｄ－43	66	70	47	53	15	A	2	I	※		小１	縄文中期後半	
Ｄ－44	59	56	35	27	30	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－45	60	59	48	51	32	A	2	I			大１	縄文中期後半	
Ｄ－46	90	83	54	57	44	A	2	I	△			縄文中期後半	
Ｄ－47	58	61	46	46	31	A	2	I			中１	縄文中期後半	
Ｄ－48	89	63	56	33	40	B	2	I	◎	FLB 1		加曽利EⅢ	
Ｄ－49	85	75	56	50	38	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－50	115	110	85	89	30	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－51	69	55	35	39	29	A	2	I	※		小２	縄文中期後半	
Ｄ－52	64	61	37	44	39	A	2	I				縄文中期後半	
Ｄ－53	78	74	38	48	35	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－54	51	58	19	20	40	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－55	61	58	46	45	28	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－56	74	80	44	54	43	A	2	I	△			縄文中期後半	
Ｄ－57	88	87	64	65	25	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－58	47	48	35	27	34	A	2	I			小１	縄文中期後半	
Ｄ－59	67	66	47	37	40	A	2	I	※		小２	縄文中期後半	
Ｄ－60	63	67	40	50	47	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－61	78	88	52	59	21	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－62	67	72	41	50	30	A	2	I	※		小２	縄文中期後半	
Ｄ－63	60	59	44	43	19	A	2	I				縄文中期後半	
Ｄ－64	52	58	33	49	31	A	2	I	※		小１	縄文中期後半	
Ｄ－65	59	59	41	38	31	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－66	67	65	47	47	46	A	2	I	※	FLA 1　FLB 1	小１	縄文中期後半	
Ｄ－67	94	85	69	64	30	A	2	I				縄文中期後半	

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－68	50	54	37	37	4	A	2	I	△		中１	不明	
Ｄ－69	54	57	41	44	33	A	2	I	△		小１	縄文中期後半	
Ｄ－70	71	61	50	38	37	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－71	111	106	62	60	34	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－72	80	106	67	73	32	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－73	88	88	60	60	33	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－74	93	93	40	41	15	A	2	I			中２　大１	縄文中期後半	
Ｄ－75	73	76	34	46	33	A	2	I	※	FLB 1		縄文中期後半	
Ｄ－76	85	90	42	45	15	A	2	I	△			縄文中期後半	
Ｄ－77	91	87	35	33	60	A	2	I				縄文中期後半	
Ｄ－78	114	122	89	93	40	B	2	I	※			加曽利EⅢ	
Ｄ－79	71	78	51	53	40	A	2	I	△		小１	加曽利EⅢ	
Ｄ－80	103	107	67	61	29	A	2	I	△			縄文中期後半	
Ｄ－81	86	84	47	55	37	A	2	I			小１　中２	縄文中期後半	
Ｄ－82	119	123	79	88	27	A	2	I				縄文中期後半	
Ｄ－83	112	116	57	68	40	A	2	I				縄文中期後半	
Ｄ－84	101	104	45	51	31	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－85	140	99	111	62	22	B	1	Ⅱ	○	打斧２	中１	加曽利EⅢ	Ｊ－６住内、遺物廃棄。
Ｄ－86	107	96	85	69	20	A	2	Ⅱ			中１	加曽利EⅢ	Ｊ－６住内。
Ｄ－87	76	72	52	52	23	A	1	Ⅱ	※	FLA 1		加曽利EⅢ	Ｊ－６住内。
Ｄ－88	155	157	132	127	97	A	1	I	△			加曽利EⅢ	風倒木痕より新しい。
Ｄ－89													風倒木痕。
Ｄ－90	84	83	20	24	42	A	2	Ⅱ	◎	FLA 2　FLB 2	小10　大１	加曽利EⅢ	
Ｄ－91	(135)	118	81	81	60	A	1	I	※			加曽利EⅢ	
Ｄ－92													風倒木痕。
Ｄ－93	117	121	90	97	96	A	3	Ⅱ				加曽利EⅢ	遺物なし。
Ｄ－94	95	97	49	49	67	A	3	Ⅱ	△	FLB 1	小１	加曽利EⅢ	
Ｄ－95	91	80	69	60	23	C	1	I	※			古代	
Ｄ－96	112	109	87	87	13	A	2	I	△			縄文中期後半	
Ｄ－97	77	90	46	60	37	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－98	77	82	41	42	36	A	2	I	※	FLA 2　FLB 2	中１	加曽利EⅢ	
Ｄ－99	67	123	22	28	30	D	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－100	97	91	67	63	40	A	2	I	○			加曽利EⅢ	
Ｄ－101	81	89	41	42	32	A	2	I			大１	縄文中期後半	
Ｄ－102	84	86	32	38	15	A	2	I			大１	縄文中期後半	

第35表　人見西下原遺跡　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－１	200	217	170	191	32	A	1	I	○		小１	加曽利EⅢ	遺物廃棄。
Ｄ－２	91	84	62	55	34	A	1	I	※	FLA 1		縄文中期後半	
Ｄ－３	91	96	73	67	29	A	1	I	※		小１　中１	縄文中期後半	
Ｄ－４	95	108	68	91	26	B	1	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－５	133	96	79	55	31	B	1	I		磨斧１　FLA 1		縄文中期後半	
Ｄ－６	90	99	42	44	34	A	2	I		FLB 1		縄文中期後半	
Ｄ－７	130	110	87	84	32	D	2	I	△	FLB 1		縄文中期後半	
Ｄ－８	118	120	81	87	29	A	1	I	※	磨斧１　FLA 1	小１	縄文中期後半	
Ｄ－９	89	84	61	58	27	A	1	I		凹１		縄文中期後半	
Ｄ－10	142	157	90	110	46	B	1	I	※	FLB 1		縄文中期後半	
Ｄ－11	108	105	58	59	35	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－12	111	106	52	55	40	A	2	I	※		小１	縄文中期後半	
Ｄ－13	132	111	107	82	44	A	1	I	△	凹１　FLA 1	小３	縄文中期後半	
Ｄ－14	93	98	57	56	37	A	1	I	※	FLB 1	小２	縄文中期後半	
Ｄ－15	99	104	75	85	43	A	1	I	※		大１	縄文中期後半	
Ｄ－16	100	101	46	44	24	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－17	136	155	84	108	26	A	1	Ⅱ	△		大１	縄文中期後半	配石状遺構。
Ｄ－18	103	91	74	66	27	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－19	74	75	39	40	32	A	2	I	※		小１	縄文中期後半	
Ｄ－20	81	75	50	46	27	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－21	78	73	38	35	20	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－22	103	102	82	79	23	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－23	109	103	83	74	26	A	2	I				縄文中期後半	
Ｄ－24	94	85	63	61	19	A	2	I			小１	縄文中期後半	
Ｄ－25	125	128	91	110	28	A	2	I	※	打斧１		縄文中期後半	
Ｄ－26	101	102	72	70	33	A	2	I	※			縄文中期後半	
Ｄ－27	92	98	61	74	28	A	2	I			中１	縄文中期後半	

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－28	104	111	87	83	23	A	2	Ⅰ	※			縄文中期後半	
Ｄ－29	83	80	51	55	28	A	2	Ⅰ		皿１	中１	縄文中期後半	
Ｄ－30	91	90	68	64	29	A	2	Ⅰ			中１	縄文中期後半	
Ｄ－31	107	110	56	67	23	A	2	Ⅰ				縄文中期後半	
Ｄ－32	79	84	48	53	30	A	2	Ⅰ		打斧１	中１	縄文中期後半	
Ｄ－33	75	84	41	45	31	A	2	Ⅰ			中１	縄文中期後半	
Ｄ－34	149	139	109	98	37	A	2	Ⅰ	※			縄文中期後半	
Ｄ－35	106	96	78	69	46	A	2	Ⅰ			大１	縄文中期後半	
Ｄ－36	81	78	39	44	23	A	2	Ⅰ	※			縄文中期後半	
Ｄ－37	131	139	77	85	31	A	2	Ⅰ	△			縄文中期後半	
Ｄ－38	97	93	49	48	34	A	2	Ⅰ	※			縄文中期後半	
Ｄ－39	169	189	136	157	32	A	2	Ⅰ	※	FLA １	小２	縄文中期後半	
Ｄ－40	94	99	53	53	26	A	2	Ⅰ			中１	縄文中期後半	
Ｄ－41	85	84	57	52	30	A	2	Ⅰ	※			縄文中期後半	
Ｄ－42	90	95	57	65	22	A	2	Ⅰ		FLA １		縄文中期後半	
Ｄ－43	124	84	61	31	29	B	2	Ⅰ	※			縄文中期後半	
Ｄ－44	102	93	73	67	39	A	2	Ⅰ	※	FLA １		縄文中期後半	
Ｄ－45	99	87	62	57	32	A	2	Ⅰ	※		大１	縄文中期後半	
Ｄ－46	82	84	34	40	31	A	2	Ⅰ	※		小１	縄文中期後半	
Ｄ－47	93	93	75	73	24	A	2	Ⅰ		FLA １		縄文中期後半	
Ｄ－48	111	115	74	73	38	A	1	Ⅱ				縄文中期後半	

第36表　人見枝谷津遺跡　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－１	103	61	78	47	15	B	2	Ⅰ	褄※			古墳中期	
Ｄ－２	(107)	(139)	86	120	45	B	1	Ⅱ	褄※	FLA １		古墳中期	
Ｄ－３	(134)	135	(103)	111	41	A	1	Ⅱ	褄△	錐１　磨斧１　FLB １		古墳中期	
Ｄ－４	140	120	97	85	38	A	1	Ⅱ	褄※			古墳中期	
Ｄ－５	147	132	91	91	21	A	2	Ⅰ	褄△			古墳中期	
Ｄ－６	139	147	42	99	78	B	1	Ⅱ	褄※			古墳中期	
Ｄ－７	150	174	115	137	45	B	1	－				古墳中期	
Ｄ－８	112	179	73	133	15	B	2	Ⅲ				平安～中世	
Ｄ－９	110	99	88	87	21	A	2	Ⅲ	褄※(混入)			平安～中世	
Ｄ－10	118	106	89	93	17	A	2	Ⅲ				平安～中世	
Ｄ－11	109	115	81	98	21	A	2	Ⅲ	褄※(混入)			平安～中世	
Ｄ－12	134	129	115	111	31	A	1	Ⅲ				平安～中世	
Ｄ－13	128	117	107	96	29	A	1	Ⅲ		FLB １		平安～中世	
Ｄ－14	78	94	55	87	23	A	1		坏△褄※(混入)	FLA １　FLA ２　FLE １		時期検討	
Ｄ－15	77	84	61	62	19	A	2	Ⅲ	褄※(混入)			平安～中世	
Ｄ－16	117	115	95	94	43	A	1	Ⅲ	褄△(混入)			平安～中世	
Ｄ－17	103	99	94	75	24	A	1	Ⅲ	坏※(混入)	棒礫		平安～中世	
Ｄ－18	143	131	115	101	30	A	1	Ⅲ	坏※褄※(混入)			平安～中世	
Ｄ－19	142	132	123	113	39	A	1	Ⅲ				平安～中世	
Ｄ－20	161	152	138	135	39	A	1	Ⅲ	褄※(混入)		小１	平安～中世	D-21と重複。
Ｄ－21	140	(137)	121	(114)	32	A	1	Ⅲ	褄※(混入)			平安～中世	D-20と重複。
Ｄ－22	134	(135)	113	(111)	39	A	1	Ⅲ				平安～中世	D-28と重複。
Ｄ－23	131	129	120	107	50	A	1	Ⅲ				平安～中世	
Ｄ－24	157	115	126	132	53	A	1	Ⅲ	褄※(混入)			平安～中世	
Ｄ－25	71	69	42	40	39	A	1	－		FLA １		古墳中期	
Ｄ－26	127	128	88	71	49	A	1	－				古墳中期	
Ｄ－27	98	99	63	52	35	A	1	－				古墳中期	
Ｄ－28	139	(145)	118	(123)	39	A	1	Ⅲ		ScB １		平安～中世	D-20と重複。
Ｄ－29	155	99	138	75	67	C	1	Ⅱ	坏△褄※	FLB １		古墳中期	
Ｄ－30	223	211	181	165	15	A	2	－	褄△		中１	古墳中期	
Ｄ－31	101	106	91	85	17	A	2	－	褄△	打斧１　ScB ２　FLA ２　FLB１		古墳中期	
Ｄ－32	96	92	75	73	24	A	2	－	坏※褄△			古墳中期	
Ｄ－33	118	117	95	96	14	A	2	－	褄※	鏃１　打斧１		古墳中期	
Ｄ－34	107	109	74	76	25	A	1	－	褄△	打斧１　FLB １　磨３　砥２		古墳中期	
Ｄ－35（炉）	222	177	200	151	35	B	1	Ⅱ	縄文△	ScB １　FLB １　磨１　凹１ 皿５　台２　磨斧１　石棒１	中１	縄文中期後半	覆土上部に土器・礫(炉か) (混入遺物：坏※褄※)。
Ｄ－36	203	225	170	201	32	A	1	－	縄文◎	FLA ２　凹１	小3　中2　大2	縄文中期後半	集石土坑。
Ｄ－37	271	243	239	218	19	A	2	－	縄文○		小１　大１	不明（古墳）	古墳勾玉混入。
Ｄ－38	74	73	59	60	12	A	2	－				縄文	
Ｄ－39	169	161	141	138	43	A	1	－				縄文	
Ｄ－40	92	78	75	61	29	A	1	－		FLB １		縄文中期後半	
Ｄ－41	108	109	89	89	15	A	2	－				縄文	

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－42	68	87	45	64	41	B	1	Ⅱ	甕※			古墳中期	炭化物混入。
Ｄ－43	85	105	68	89	46	A	1	Ⅱ	甕※			古墳中期	炭化物混入。
Ｄ－44	169	101	146	80	28	B	1	Ⅲ				平安～中世	
Ｄ－45	82	80	59	60	15	B	2	Ⅲ				平安～中世	
Ｄ－46	119	122	91	102	25	A	1	－				古墳中期	
Ｄ－47	56	75	37	54	6	A	2	－				古墳中期	
Ｄ－48	99	103	79	80	34	A	1	Ⅲ		FLB 1		平安～中世	
Ｄ－49	82	76	65	63	14	A	2	－				古墳中期	
Ｄ－50	85	68	59	13	27	A	1	－				古墳中期	
Ｄ－51	(84)	102	63	83	13	B	2	－	坏※甕※			古墳中期	
Ｄ－52									縄文◎		小5 中39 大7	縄文中期後半	集石土坑。
Ｄ－53	147	126	123	103	25	A	2	Ⅰ	坏※甕※(混入)			古代	
Ｄ－54	102	119	90	95	15	A	2	－	縄文△			縄文中期後半	
Ｄ－55	119	143	106	124	33	A	2	－				古墳中期	
Ｄ－56	75	153	54	120	34	B	1	－	甕△		小1	古墳中期	
Ｄ－57	84	91	75	74	35	A	1	Ⅱ			小1大2	古墳中期	
Ｄ－58	131	140	123	121	41	A	1	Ⅱ			小8　中5	縄文中期後半	覆土上部に集石。
Ｄ－59	82	72	57	53	29	A	1	Ⅱ	甕※			古墳中期	
Ｄ－60	92	76	49	41	49	A	1	Ⅱ	坏※甕※		小1 中1 大2	古墳中期	
Ｄ－61	152	163	129	145	43	A	1	Ⅱ	甕○	滑石核1	中1　図にあり	古墳中期	遺物廃棄。
Ｄ－62	118	126	97	105	34	A	1	Ⅱ			小1 中1 大2	古墳中期	礫のみ出土。
Ｄ－63													欠番。
Ｄ－64	101	106	75	84	31	A	1	－	甕※			古墳中期	
Ｄ－65													欠番。
Ｄ－66	104	84	70	61	22	A	1	－		FLA 1　FLB 1		古墳中期	
Ｄ－67	75	78	49	47	25	A	1	－				古墳中期	
Ｄ－68	80	79	53	57	21	A	1	－				古墳中期	
Ｄ－69	85	98	64	77	24	A	1	－				古墳中期	
Ｄ－70	94	72	77	55	41	A	1	Ⅰ				古墳中期	
Ｄ－71	105	(96)	82	(67)	41	B	1	Ⅰ	甕※			古墳中期	D-70より新しい。
Ｄ－72	152	143	130	121	34	A	1	Ⅱ	土器あり			古墳中期	
Ｄ－73	154	214	131	173	56	C	1	Ⅱ	坏○甕◎		小4	古墳中期	複数個体の甕出土。
Ｄ－74	100	101	85	81	24	－	－	－	縄文※			縄文	
Ｄ－75	85	100	64	77	23	A	1	Ⅰ		FLB 1		古墳中期	
Ｄ－76	117	109	84	88	45	A	1	－				古墳中期	
Ｄ－77	108	144	75	113	64	B	1	Ⅱ	甕△		中3	古墳中期	覆土上部に焼土･炭化物。
Ｄ－78	84	71	63	50	27	A	1	－	縄文※		中3	縄文	土坑内にピット。
Ｄ－79	98	134	81	118	21	B	2	Ⅰ			小1	古墳中期	
Ｄ－80	95	125	76	102	27	B	1	Ⅰ	甕※			古墳中期	
Ｄ－81	119	195	91	170	16	A	2	Ⅱ				古墳中期	覆土に焼土・炭化物。
Ｄ－82	120	167	85	110	17	B	2	－	縄文○		小2　中1	縄文中期後半	
Ｄ－83	139	123	117	91	19	A	2	－	縄文△			縄文中期後半	覆土中に土器破片。
Ｄ－84	168	(117)	121	86	46	B	1	－	縄文◎			縄文中期後半	覆土中に土器破片。
Ｄ－85	85	87	51	56	55	A	1	－	坏※甕△	打斧1	中1	古墳中期	ピット状。
Ｄ－86	〈63〉	121	〈48〉	85	82	A	1	Ⅱ	坏※甕※(混入)		大2	縄文	H-40住壁面で確認。底面に礫。
Ｄ－87	179	〈123〉	138	〈105〉	37	B	2	－	縄文△	FLA 1	小3　中1	縄文中期後半	H-35住と重複。
Ｄ－88	74	78	56	70	47	A	1	－				古墳中期	
Ｄ－89	53	116	41	98	58	C	1	Ⅱ	甕△			古墳中期	２基重複。
Ｄ－90	101	116	71	80	43	A	1	Ⅱ	坏※甕△	FLA 1　FLB 2		古墳中期	覆土に土器破片。
Ｄ－91	125	70	106	47	34	B	1	－	坏※甕※			古墳中期	
Ｄ－92	88	81	71	61	16	A	2	－			小1　中2	古墳中期	
Ｄ－93	104	108	81	81	17	A	1	Ⅰ	甕※			古墳中期	ピットが重複。
Ｄ－94	85	115	66	102	21	B	2	Ⅰ	甕※	FLB 1		古墳中期	
Ｄ－95	124	119	95	97	35	A	1	Ⅱ				古墳中期	
Ｄ－96	99	106	78	91	26	－	－	－	縄文△			縄文	
Ｄ－97	112	117	89	93	28	－	－	－	坏※			不明	実測平面図無し。
Ｄ－98	101	88	39	43	83	A	1	Ⅱ		FLA 2　凹1		古墳中期	
Ｄ－99	134	104	117	83	37	－	－	－	甕※			不明	
Ｄ－100	171	169	150	145	11	A	2	－	縄文△			縄文中期	
Ｄ－101	129	111	104	83	28	B	1	－	縄文○			縄文中期	
Ｄ－102													欠番。
Ｄ－103	112	99	94	82	10	A	2	Ⅱ				古墳中期	床面赤化。
Ｄ－104													
Ｄ－105	106	141	87	125	19	B	2	Ⅰ	縄文△(混入)			古墳中期	縄文→古墳。

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－106	137	107	116	96	43	A	1	－				平安～中世	
Ｄ－107	158	99	135	80	31	B	1	－				平安～中世	
Ｄ－108	101	(103)	84	(88)	17	A	1	－				平安～中世	D-109と重複。
Ｄ－109	126	136	85	97	41	A	1	－				平安～中世	D-108と重複。
Ｄ－110	78	69	59	51	12	A	2	Ⅰ	縄文○			縄文中期後半	
Ｄ－111	130	169	100	133	41	B	1	Ⅰ	縄文△		大１	縄文中期後半	上部に礫。
Ｄ－112	82	203	46	88	79	C	1	Ⅱ	縄文※			縄文中期後半	
Ｄ－113	108	130	85	98	23	A	1	Ⅰ			大１	縄文中期後半	上部に礫。
Ｄ－114	135	(118)	102	(84)	32	A	2	Ⅰ	縄文△		中５	縄文中期後半	上部に礫。
Ｄ－115	116	115	99	85	46	A	1	Ⅲ				平安～中世	
Ｄ－116	121	115	105	77	38	A	2	Ⅱ	縄文△		多数	縄文中期後半	覆土上部に集石(集石土坑)。

第37表　人見東向原遺跡　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－１	63	120	47	103	29	B	1	Ⅱ				古墳中期	
Ｄ－２	131	143	121	74	37	B	1	Ⅱ	甕○			古墳中期	
Ｄ－３	72	76	45	43	31	A	1	Ⅱ	甕◎			古墳中期	底面に土器。
Ｄ－４	244	176	221	155	21	B	2	Ⅱ	坏※甕※		小１　中１	古墳中期	
Ｄ－５	44	35	(32)	24	23	A	2	Ⅰ	甕△			古墳中期	
Ｄ－６	(107)	(115)	(80)	(69)	33	A	1	－	甕※			古墳中期	
Ｄ－７	92	140	67	117	41	B	2	Ⅱ	甕※			古墳中期	
Ｄ－８	125	134	109	115	33	A	1	－	縄文◎			縄文中期後半	
Ｄ－９	127	106	117	84	32	A	1	Ⅱ	縄文△		大１	縄文中期後半	

第38表　人見向原遺跡　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－１	〈188〉	171	81	88	133	A	3	Ⅱ	甕△			古墳～古代	M-1が新しい。
Ｄ－２	(194)	166	91	81	87	B	1	Ⅱ				古墳～古代	M-1が新しい。
Ｄ－３	81	74	18	17	41	A	1	Ⅰ	甕△			古墳中期	ピット状。覆土中位で坩出土。
Ｄ－４	125	115	94	84	68	A	1	－				縄文	
Ｄ－５	101	109	72	75	30	A	2	－				縄文	
Ｄ－６	84	80	57	58	21	A	2	－		槍状石器		縄文	
Ｄ－７	127	138	86	93	44	A	1	－				縄文	

第39表　人見東中原遺跡　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－１	93	111	59	67	40	A	1	－				時期不明	
Ｄ－２	125	124	95	81	37	A	2	－				縄文	
Ｄ－３	128	93	68	82	43	A	2	Ⅱ	縄文◎		小１　中１	縄文中期後半	J-4柄部。両耳壺埋設。
Ｄ－４	150	159	101	109	36	A	1	－		磨１		縄文	
Ｄ－５	107	115	72	73	38	A	1	Ⅰ				縄文	
Ｄ－６	156	177	117	141	31	A	2	Ⅰ	縄文※		礫１	縄文中期	
Ｄ－７	129	106	32	39	39	A	1	Ⅰ	縄文△		中１	縄文中期	
Ｄ－８	128	135	69	76	91	A	1	－		錐１　FLA ３		縄文	
Ｄ－９	121	120	60	62	33	A	2	Ⅰ				縄文	風倒木痕。
Ｄ－10	116	115	74	72	31	A	2	Ⅰ			小１	縄文	風倒木痕。
Ｄ－11	115	106	96	73	21	A	2	Ⅰ				時期不明	
Ｄ－12	94	99	63	68	48	A	1	Ⅰ				縄文	
Ｄ－13	96	87	63	58	21	A	2	Ⅰ	縄文○			縄文	J-9内。
Ｄ－14	78	70	49	48	27	A	2	Ⅰ				時期不明	J-9内。
Ｄ－15	226	195	131	112	27	A	2	－			中１	縄文	
Ｄ－16	144	103	29	45	36	A	1	Ⅱ	甕△			古代	平安甕1個体出土。炭化物検出。
Ｄ－17	91	120	64	85	22	B	2	Ⅰ		棒礫１		縄文	
Ｄ－18	137	114	64	57	29	A	2	Ⅰ	縄文△			縄文	
Ｄ－19	133	143	101	106	13	A	2	－	縄文△	鏃１	小１	縄文	
Ｄ－20	107	135	69	92	27	A	1	Ⅱ	縄文※		中１	縄文	遺物量検討。
Ｄ－21	145	116	98	81	22	A	2	－	縄文※	Ⅲ１		縄文	覆土上部石皿。土坑墓か。

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－22	122	130	87	97	29	A	1	Ⅰ		Ⅲ1		縄文	石皿破片接合。
Ｄ－23	141	114	106	87	40	A	1	Ⅱ	縄文※	多孔1	小1	縄文	土坑墓か。
Ｄ－24									縄文△				Ｊ－11住に変更。
Ｄ－25									縄文△				Ｊ－11住に変更。
Ｄ－26	107	109	88	83	23	A	1	Ⅱ	縄文△		中1　大1	縄文	土坑墓か。
Ｄ－27	146	130	115	95	39	A	1	Ⅱ	縄文△	Ⅲ1	中1	縄文	土坑墓か。
Ｄ－28	194	(143)	170	(109)	31	B	2	－			中1	縄文	
Ｄ－29	99	88	24	55	39	A	1	－	縄文△			縄文	
Ｄ－30	79	75	58	64	27	A	1	Ⅱ			中1	縄文	土坑墓か。
Ｄ－31	140	(215)	131	(161)	97	B	1	－	縄文※		中2	縄文	
Ｄ－32	(103)	131	(78)	139	44	A	1	－	縄文△	Ⅲ1		縄文早期	押型文土器１個体出土。
Ｄ－33	87	101	69	90	31	A	2	－	縄文◎			加曽利EⅢ	埋設土器１。
Ｄ－34	120	116	85	77	39	A	1	－				時期不明	
Ｄ－35	100	106	67	73	51	A	1	－				時期不明	
Ｄ－36	107	111	73	78	49	A	1	－	縄文△			縄文	
Ｄ－37	114	123	95	114	98	A	3	Ⅱ			中1	縄文	袋状土坑。
Ｄ－38	211	176	190	157	21				縄文◎	鏃1　FLE 3	小1　中3		J-1住と重複。

第40表　人見西中原遺跡Ａ区　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－39	156	(131)	118	(110)	69	A	2	Ⅰ	縄文※	FLB 1		縄文	H-6と重複。集石土坑。
Ｄ－40	127	119	202	97	54	B	1	Ⅱ	坏△甕※	FLA 1　磨石1		古墳中期	埋め戻し。
Ｄ－41	215	81	188	55	126	B	1	－	坏△甕※	FLB 2	中2	古墳中期	細長く深い。覆土上層から高坏片２点、礫出土。
Ｄ－42	(150)	(136)	113	101	108	A	3	Ⅱ	縄文※	FLB 2		縄文中期	

第41表　人見西中原遺跡Ｂ区　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－1	157	126	120	99	28	A	2	Ⅰ	弥生△			弥生前期	土器底部１個体出土。
Ｄ－2	116	48	95	31	25	B	2	－				時期不明	
Ｄ－3	70	79	51	67	21	A	1	Ⅱ	遺物			時期不明	
Ｄ－4	128	160	95	145	32	B	1	Ⅱ				時期不明	
Ｄ－5	196	155	175	147	25	D	2	Ⅰ	縄文◎	磨2　凹1	小9　中4	縄文	J-5内。覆土上部に集石。
Ｄ－6	104	75	87	25	29	B	2	－	縄文△			縄文中期	Ｊ－7内。
Ｄ－7	128	233	93	186	76	B	2	Ⅱ	縄文○		大2　特大1	縄文中期	Ｊ－7内。
Ｄ－8	107	156	88	127	37	B	2	－	縄文◎	磨斧素材1　磨1	小2　中4　大1	縄文中期	Ｊ－7内。覆土上位で遺物出土。
Ｄ－9	195	155	163	74	56				縄文◎		大3　特大1	縄文中期	Ｊ－7内U-1埋設土器の上に礫。

第42表　人見西向原遺跡Ａ区　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－1	113	(135)	26	84	71	B	1	－				古代	巣穴状。
Ｄ－2	107	144	66	81	86	B	2	－				古代	陥穴か。
Ｄ－3	〈328〉	192	37	117	83	D	1	－				古代	溝状。M-1が新しい。
Ｄ－4						A	1	－				古代	巣穴状。

第43表　人見西向原遺跡Ｄ区　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－1	113	78	57	49	39	B	2	－	坏△甕△			古墳中期	高坏破片出土。

第44表　人見西向原遺跡Ｅ区　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－1	203	178	175	157	46	A	3	Ⅱ	縄文◎			加曽利E3	風倒木痕と重複。覆土上位の中央部に土器破片集中。

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器重量	石器	礫	時期	備考
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	覆土					
Ｄ－２	170	197	105	163	26	A	2	Ⅰ	縄文△			縄文中期	
Ｄ－３	101	95	74	70	25	A	2	Ⅰ	縄文◎	磨１		加曽利ＥⅢ	深鉢１個体。脇に磨石。

第45表　上人見遺跡　土坑観察表

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器点数	石器	礫	時期	備考／土坑分類
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	分類					
Ｄ－１	87	90	64	61	6	A	2	Ⅰb	Ｐ１	鏃１	中１　大１	中期	遺物は中央に集まり、底面から浮いて出土。
Ｄ－２	143	(185)	104	141	26	B	1	Ⅰa	Ｐ８縄文１	FLA １　FLB ２	小１ 中１ 大１	Ⅱ	遺物は中央に集まり、底面から浮いて出土。土器個体№10。
Ｄ－３	78	77	52	44	10	A	2	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－４	112	106	83	70	8	A	2	Ⅱb	Ｐ３	FLB １	中１	Ⅱ	
Ｄ－５	126	107	100	89	18	A	2	Ⅱa	Ｐ９		小２　中１	Ⅰ・Ⅱ	土器個体6。
Ｄ－６	89	(80)	88	(59)	19	A	2	Ⅱa	Ｐ６			Ⅱ	土器個体6・58。
Ｄ－７	214	212	166	178	18	D	2	Ⅱa	Ｐ24	ScB １　FLB ６		Ⅱ	土器個体6。
Ｄ－８													欠番。
Ｄ－９	204	(154)	171	(128)	16	B	2	Ⅱa	Ｐ10縄文９		小１	Ⅰ～Ⅱ	土器個体110。
Ｄ－10	80	76	60	58	11	A	1	Ⅲ				不明	
Ｄ－11	92	74	64		5	B	2	Ⅰb			中１	中期	
Ｄ－12	91	84	65	57	9	B	1	Ⅰb			大１	中期	
Ｄ－13	103	97	74	64	16	A	2	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－14	168	140	161	103	22	B	2	Ⅱb	Ｐ１縄文１			不明	
Ｄ－15	76	70	47	42	19	A	2	Ⅲ				不明	
Ｄ－16	117	114	84	83	25	A	2	Ⅱb			小１	不明	
Ｄ－17	137	115	100	68	17	B	2	Ⅱb	Ｐ３			Ⅰ・Ⅱ	
Ｄ－18	143	120	110	85	14	B	2	Ⅰb	Ｐ２		大１	Ⅱ	中央に礫。
Ｄ－19	88	76	61	42	8	B	1	Ⅲ				不明	
Ｄ－20	140	<130>	132	<48>	21	A	2	Ⅰb	Ｐ１		大１	Ⅰ	中央に礫。
Ｄ－21	105	108	77	81	13	A	2	Ⅱb	Ｐ２			Ⅰ	
Ｄ－22	(173)	137	(95)	82	20	B	2	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－23	85	83	55	57	11	A	2	Ⅰb			中１	中期	
Ｄ－24	129	110	96	73	18	B	2	Ⅱb	Ｐ２			中期	
Ｄ－25	133	120	92	73	21	A	1	Ⅱb	Ｐ１			中期	土坑縁に焼土痕。土坑群唯一被熱痕跡。
Ｄ－26												弥生以降	木痕。
Ｄ－27												弥生以降	木痕。
Ｄ－28	80	77	44	42	18	A	2	Ⅱb	Ｐ２			Ⅱ	
Ｄ－29	80	76	52	56	8	A	2	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ	
Ｄ－30	122	98	90	60	12	B	2	Ⅰb	Ｐ１		中１	中期	
Ｄ－31	101	90	78	64	11	A	2	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－32	93	94	64	71	14	A	2	Ⅱb		鏃１		中期	
Ｄ－33										FLA １		弥生以降	木痕。
Ｄ－34												弥生以降	木痕。
Ｄ－35	99	94	62	58	25	A	2	Ⅱb	縄文１		小１	不明	縄文遺物混入の可能性。
Ｄ－36	134	99	83	69	30	B	2	Ⅱb	Ｐ２		小２	Ⅱ	木痕。
Ｄ－37	(111)	(108)	(88)	(79)	9	A	2	Ⅱb	Ｐ１			Ⅱ	
Ｄ－38								Ⅱa	Ｐ７			Ⅰ～Ⅱ	Ｄ－39・40と重複。
Ｄ－39	186	226	112	183	14～23	B	1					Ⅰ～Ⅱ	Ｄ－38・40と重複。
Ｄ－40												Ⅰ～Ⅱ	Ｄ－38・39と重複。
Ｄ－41												弥生以降	木痕。
Ｄ－42	88	92	65	59	13	A	1	Ⅱb		FLB １		中期	
Ｄ－43	109	102	91	83	11	A	1	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ	
Ｄ－44	108	100	72	70	15	A	2	Ⅱa	Ｐ７			Ⅰ・Ⅲ	神保富士塚式出土。
Ｄ－45	77	78	46	44	16	A	1	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－46	152	143		78	21	A	1	Ⅲ				不明	
Ｄ－47	(66)	(80)	(34)	(44)	12	B	2	Ⅱb	Ｐ２			Ⅰ	
Ｄ－48	100	118	68	91	12	B	2	Ⅱa	Ｐ５	FLB １		Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－49	98	82	68	50	16	B	2	Ⅱb	Ｐ５			Ⅰ	土器個体117。
Ｄ－50												弥生以降	木痕。
Ｄ－51	119	76	79	(62)	13	B	1	Ⅱb			小１	不明	
Ｄ－52	94	87	73	56	15	A	2	Ⅱa	Ｐ６			Ⅰ	
Ｄ－53	111	86	82	49	12	B	2	Ⅱa	Ｐ２	FLD １	小２	Ⅱ	
Ｄ－54	166	180	102	124	18	A	2	Ⅱa	Ｐ18	ScB １　原Ａ１　Ch礫１	小１　中１	Ⅰ・Ⅱ	底面にピット３か所。

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器点数	石器	礫	時期	備考／土坑分類
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	分類					
Ｄ－55	126	232	106	198	28	C	1	Ⅱa	Ｐ31			Ⅰ・Ⅱ	土器個体151・152。
Ｄ－56	123	96	80	56	18	B	2	Ⅱa	Ｐ７		小１	Ⅰ・Ⅱ	
Ｄ－57	104	132	62	80	33	B	2	Ⅱb	Ｐ３			Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－58												不明	欠番。
Ｄ－59	83	80	56	46	10	A	2	Ⅱb	Ｐ２			Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－60	110	102	82	76	20	A	2	Ⅱb	Ｐ３	打斧１		Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－61	(238)	360	(210)	335	16	B	1	Ⅱa	Ｐ30		小１	Ⅰ・Ⅱ	竪穴状。底面にピット６か所。土器個体117。
Ｄ－62	150	123	111	80	24	B	2	Ⅱa	Ｐ17縄文１			Ⅰ・Ⅱ	土器個体113。
Ｄ－63	188	159	131	111	12	B	2	Ⅱa	Ｐ23縄文１	FLB １	小３　中１	Ⅰ～Ⅱ・Ⅲ	Ｄ－64と接する。土器個体114。
Ｄ－64	130	105	104	84	11	B	2	Ⅱa	Ｐ11			Ⅰ～Ⅱ	Ｄ－63と接する。
Ｄ－65	155	162	101	108	30	A	1	Ⅱa	Ｐ20縄文１	ScB １　FLB １		Ⅰ・Ⅱ	
Ｄ－66	83	80	46	44	18	A	2	Ⅱb	Ｐ２		小2	中期	
Ｄ－67	79	78	50	46	12	A	2	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－68	96	111	66	91	16	B	2		後期４			弥生後期	
Ｄ－69	128	133	84	(110)	23	A	2	Ⅱb	Ｐ３縄文１			Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－70	117	126	80	92	10	A	2		縄文２土師１		中１	古墳	木痕か。
Ｄ－71	184	195	130	130	12	A	2		後期５		小１	弥生後期	前期土器が混入。
Ｄ－72	98	90	70	64	12	A	1	Ⅱb	Ｐ１			Ⅱ	
Ｄ－73	111	82	73	52	20	B	1	Ⅲ				不明	
Ｄ－74	(86)	(76)	(64)	(54)	8	A	2	Ⅱb	Ｐ３	FLB １		Ⅰ	
Ｄ－75	121	90	88	59	19	B	2	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ	
Ｄ－76	152	126	121	84	16	B	2	Ⅱa	Ｐ７			Ⅰ・Ⅱ	
Ｄ－77	159	122	118	86	16	B	2	Ⅱb	Ｐ１	鏃１　磨斧欠１　FLB １		中期	
Ｄ－78	72	72	47	43	19	A	1	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－79	183	203	134	130	16	B	2	Ⅱa	Ｐ11縄文１	FLB ３		Ⅰ～Ⅱ	土器個体46。
Ｄ－80												弥生以降	木痕。
Ｄ－81	180	122	130	130	20	B	2	Ⅱb	Ｐ４			Ⅱ	
Ｄ－82	92	72	57	43	11	B	2		後期１			弥生後期	土坑周辺に遺物分布。個体土器90。５は中期土器。
Ｄ－83	133	145	101	102	16	A	2	Ⅱb	Ｐ２	敲１	中１	Ⅱ	
Ｄ－84	(174)	(138)	(108)	(93)	36	B	2	Ⅱa	Ｐ11縄文１		小１	Ⅰ・Ⅱ	土器個体49。
Ｄ－85	170	141	106	88	17	B	2	Ⅱa	Ｐ３縄文１	打斧１　磨１	小２　中１	Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－86	167	176	113	136	17	A	2	Ⅱa	Ｐ11縄文１		小２　中１	Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－87	77	(72)	59	(52)	12	A	2	Ⅱa	Ｐ８			Ⅰ～Ⅱ	土器個体144。
Ｄ－88	99	110	70	77	14	A	2	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ	
Ｄ－89	146	122	110	90	15	B	1	Ⅱb	Ｐ３			Ⅱ	
Ｄ－90	189	132	153	96	17	B	2	Ⅱb		鍬１　FLB １		中期	
Ｄ－91	113	110	82	76	18	A	2	Ⅱa	Ｐ４	鏃未１	小１	Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－92	294	(185)	247	(142)	15	B	1	Ⅱa	Ｐ15	FLB ２	中２	Ⅰ・Ⅱ	土器個体92。
Ｄ－93											小５	縄文	集石状(範囲のみ確認)。
Ｄ－94												弥生以降	木痕。
Ｄ－95	86	100	60	75	14	B	2	Ⅱb		FLA １		中期	
Ｄ－96												弥生以降	木痕。
Ｄ－97	101	111	78	82	18	A	2	Ⅰb			中１	中期	
Ｄ－98	152	108	104	70	10	B	2	Ⅱb	Ｐ１		小１　中１	Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－99	98	96	63	54	8	A	1	Ⅲ				不明	
Ｄ－100	(155)	(90)	(121)	(61)	17	B	2	Ⅰb			小１　大１	中期	
Ｄ－101	84	94	62	56	12	A	2	Ⅱb			中１	中期	
Ｄ－102	83	78	68	54	11	A	2	Ⅲ				不明	
Ｄ－103	117	96	90	54	23	B	2	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－104	97	86	74	60	16	A	2	Ⅱb	Ｐ２			中期	
Ｄ－105	75	84	47	58	16	A	2	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－106	98	110	58	48	26	A	2	Ⅲ				不明	
Ｄ－107	127	104	94	69	19	B	1	Ⅱb	Ｐ２			Ⅰ	土器個体96。
Ｄ－108	104	94	71	62	10	A	1	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－109	103	94	70	58	7	A	2	Ⅱb	Ｐ１		小１	Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－110	64	64	26	26	12	A	2	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ	
Ｄ－111	152	196	100	139	22	B	2		土師11		小１	古墳前期	S字口縁台付甕１個体出土。
Ｄ－112	102	143	69	(104)	90	C	1		縄文１		小１	古代か	土器は混入。
Ｄ－113	127	128	88	76	15	A	1	Ⅰb	Ｐ１		中１	Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－114	100	84	68	52	13	B	2	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－115	－	－	－	－	－	－	－		土師３			古墳中期	プランのみ確認。小坩出土。
Ｄ－116	83	72	40	36	11	A	2	Ⅱb	Ｐ２			Ⅰ	

（単位：cm）

番号	規模（上）		規模(下)		形態				土器点数	石器	礫	時期	備考／土坑分類
	ＮＳ	ＷＥ	ＮＳ	ＷＥ	深さ	平面	断面	分類					
Ｄ－117	102	90	69	58	23	A	1	Ⅱb			小1	中期	
Ｄ－118	60	54	46	42	7	A	2	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－119	140	212	102	139	12	B	2	Ⅰa	Ｐ２縄文３	ScB 1	大1	Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－120	108	114	74	79	21	A	1	Ⅱb	Ｐ４			Ⅱ	
Ｄ－121	114	111	68	68	23	A	2	Ⅱb	Ｐ３縄文２	FLB 2		Ⅰ～Ⅱ	底面に浅いピット。
Ｄ－122	73	106	52	86	18	B	2	Ⅱb	Ｐ３			Ⅱ	底面に浅いピット。
Ｄ－123	<62>	111	<52>	90	10	A	2	Ⅱb	Ｐ１	鍬1		Ⅰ	
Ｄ－124	130	126	96	96	16	A	2	Ⅱb	Ｐ９			Ⅰ	
Ｄ－125	88	107	34	36	20	B	2	Ⅱb	Ｐ３	打斧FL 1		Ⅱ	
Ｄ－126	109	110	83	85	22	A	2	Ⅱb	Ｐ２			中期	
Ｄ－127	97	100	68	71	27	A	1	Ⅱb	Ｐ１縄文１			Ⅱ	出土状況により弥生。
Ｄ－128	86	76	43	44	13	A	2	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－129													欠番。
Ｄ－130	174	197	80	102	22	D	1	Ⅱa	Ｐ17		中1	Ⅰ～Ⅱ	底面にピット。土器個体93。
Ｄ－131	96	96	61	60	10	A	2	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－132	237	162	140	91	20	B	1	Ⅱa	Ｐ12	磨製石器１	小1	Ⅰ・Ⅱ	底面に浅いピット２か所。
Ｄ－133	120	104	91	71	9	B	2	Ⅱb		FLB 1		中期	
Ｄ－134	72	78	48	55	6	A	2	Ⅱb	Ｐ１			中期	
Ｄ－135	106	92	49	44	18	B	2	Ⅱb	Ｐ１	ScB 1		中期	
Ｄ－136	(110)	(90)	－	－	0	B	－	Ⅱb	Ｐ１		中1	Ⅰ～Ⅱ	底面痕跡。
Ｄ－137	104	110	44	64	24	A	2	Ⅱb	Ｐ３縄文１		小1	Ⅰ	
Ｄ－138	－	－	－	－	－	－	－		Ｐ４土師４			古墳	プランのみ確認。
Ｄ－139	130	93	102	64	10	B	2	Ⅱb	Ｐ１	ScB 1	中1	Ⅰ～Ⅱ	底面にピット(覆土下)。
Ｄ－140	80	80	42	52	18	A	2					古墳	
Ｄ－141	137	162	67	79	16	B	2	Ⅱb	Ｐ２			Ⅱ	
Ｄ－142	150	180	120	140	12	B	2	Ⅱa	Ｐ６土師３		中2	Ⅰ・Ⅱ	上面土師器は包含層混入。
Ｄ－143	150	130	93	78	20	B	2	Ⅱb	Ｐ３縄文１		小1	Ⅱ	
Ｄ－144	100	91	(80)	(76)	11	A	2	Ⅱb		核B 1		中期	風倒木痕の可能性。
Ｄ－145	136	146	78	89	13	A	2	Ⅱa	Ｐ４土師２	FLB 1	小1	Ⅰ	上面土師器は包含層混入。
Ｄ－146	102	106	52	53	13	A	2		土師３			古墳	
Ｄ－147	170	177	140	100	19	A	1		土師４			古墳	
Ｄ－148	(130)	(120)	(71)	(73)	37	A	1	Ⅰb	Ｐ１	磨1		中期	Ⅲ層掘り込み。底面に磨石。
Ｄ－149	(132)	(110)	(60)	(54)	18	A	2	Ⅱb	Ｐ１	鍬1		中期	中央上部に石鍬片。
Ｄ－150	94	104	48	52	18	A	2	Ⅱb	Ｐ１		小1	Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－151	88	76	48	41	10	B	1	Ⅲ				不明	
Ｄ－152	(121)	(105)	(98)	(96)	16	B	1	Ⅱb	Ｐ１			Ⅰ～Ⅱ	
Ｄ－153	208	160	119	82	18	B	2	Ⅱa	Ｐ23			Ⅰ・Ⅲ	土器個体4・5。
Ｄ－154	195	176	140	137	－	－	－	－			小24　中45	縄文か	H-1床面で確認(Ⅳ層内包含)。掘り込みは浅くプランのみ確認。集石状。
1号土器棺	(76)	70	61	51	33	A	1	Ⅰa	壺２甕１Ｐ３	甕内からScB検出		Ⅰ	２基の土器棺再葬墓。昭和36年出土。
2号土器棺	92	(80)	60	50	33	A	1	Ⅰa	壺１甕１Ｐ１			Ⅰ	１基の土器棺再葬墓。昭和40年発掘調査。

計測値の（ ）は推定値。＜ ＞は残存値。

凡例　土器重量　※ 100ｇ以下　△ 100ｇ以上　○ 500ｇ以上　◎ 1kg以上
礫　小 100ｇ以下　中 100ｇ以上　大 1kg以上　特大 10kg以上
平面形態　A 円形　B 楕円形　C 方形　D 不整形
断面形態　1 逆台形　2 碗・皿状（弥生除く）　3 袋状
覆土　Ⅰ：自然層ベース　Ⅱ：人為的　Ⅲ：浅間B軽石混入土
土器＝Ｐ（上人見）

西横野東部地区遺跡群

（人見東原Ⅱ遺跡・人見西下原遺跡・人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡・人見向原遺跡・人見西向原遺跡・人見東中原遺跡・人見西中原遺跡・人見本村遺跡・上人見遺跡）

－ 県営農地整備事業松義東部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 －

＜第１分冊＞

発　行　日　平成 26 年３月 20 日
編集・発行　安中市教育委員会
群馬県安中市松井田町新堀 245
印　　刷　上毎印刷工業株式会社
群馬県前橋市天川大島町 305 － 1